

- 史(し/ふひと・藤原) → 不比等(ふひと・藤原、政権の基礎/詩) 3 8 1 2
 史(し・松本) → 史(ふひと・松本まつもと、神職/歌人) I 3 8 7 2
 止(し・野中) → 兼山(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者) 1 8 1 4
 止(し・紀) → 鹿衝(ろくがん・紀き/石、篆刻家) 5 2 7 9
 止(し・別府/権藤) → 百々丸(ももまる・権藤ごんどう/別府、医者/歌) I 4 4 9 2
 至(し・源) → 至(いたる・源みなもと、廷臣) D 1 1 5 1
 司(し・高倉) → 嗣良(つぐよし・高倉/藪/藤原、廷臣/連歌) 2 9 8 9
 司(し/つかさ・黒川) → 盛隆(もりたか・黒川、藩士/国学/歌人) F 4 4 5 9
 司(し・永友) → 司(つかさ・永友ながとも、神職/国学) G 2 9 1 0
 孜(し/つとむ・内海) → 釣経(ちようけい・内海つとみ、藩儒者) H 2 8 9 9
 諛(し/まこと・三井) → 丹丘(たんきゅう・三井みつひ、医者/絵師) T 2 6 2 8
 始(し・万年) → 櫟山(れきざん・万年まんねん、医者) 5 1 7 7
 茲(し・岡) → 了允(りょういん・岡おか、医官) G 4 9 2 6
 施(し・川口/橋本) → 竹下(ちくか・橋本/川口、儒者/詩人) C 2 8 7 4
 資(し・細貝) → 栗園(りつえん・細貝ほそがい、国学者) B 4 9 6 1
 嗣(し・源) → 嗣(つぐ・源みなもと、副、廷臣) D 2 9 4 7
 賜(し・丹治) → 重治(しげはる・丹治たじひ、和算家) S 2 1 3 2
 錫(し/しゃく・西坂) → 成庵(せいあん・西坂にしざか、藩儒/詩文) 2 4 5 6
 侍(じ) → 救済(くさい; 法諱、天台僧/連歌師) 1 7 0 2
- 2100 師阿(しあ) ? - ? 室町期戦国期連歌師、歌人、
 1457武家歌合参加(正徹・心敬らと); 3首入、72「美濃千句」参加、
 [人もなき刈田の原にたつ嶋やおのがあはれをねにもなくらん](武家歌合; 一番右2)
- 02166 至阿(しあ; 法諱、上人) ? - 1864 筑前遠賀郡の時宗の金台寺26世住職、
 金台寺は山鹿城主麻生氏の菩提寺、国学・歌; 伊藤常足つねたる門
- B2100 爾阿(じあ) ? - ? 連歌師、1564石山千句に参加
- 持阿(じあ) → 法爾(ほうに・他阿彌、時宗僧) C 3 9 4 3
 持阿(じあ、持阿弥陀仏) → 良心(りょうしん; 法諱、浄土藤田派僧) I 4 9 2 1
 士愛(しあい→ことちか・唐崎) → 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1
 資愛(しあい・日野) → 資愛(すけなる・日野/藤原、准大臣/詩歌) C 2 3 7 0
 資愛(しあい・太田) → 資愛(すけよし・太田おた/源、藩主/老中) D 2 3 7 2
 資愛(しあい・古久保) → 資愛(すけちか・古久保ふるくぼ、国学者) J 2 3 2 0
 四愛亭(しあいてい) → 若雄(わかお・後藤ごとう、歌人) 5 3 0 8
- B2103 慈悪(じあく・窓梅斎そうばいさい) ? - ? 俳人、1692「七瀬川」共編?: 我黒判
- 持阿上人(じあしょうにん) → 切臨(せつりん・一華堂、時宗僧/和学) E 2 4 6 9
 子闇(しあん・蒲生) → 精庵(せいあん・蒲生がもう、医/儒者) H 2 4 3 1
 子安(しあん・河合) → 東江(とうこう・河合、儒者/詩) D 3 1 7 9
 子安(しあん・徳川) → 治保(はるもり・徳川、藩主/修史事業) H 3 6 0 2
 子安(しあん・壺井) → 義知(よしちか・壺井つばい、故実家) 4 7 1 9
 子安(士安しあん・人見) → 蕉雨(しょうう/蕉雨斎・人見、藩士/詩文) G 2 2 9 3
 子安(しあん・渡辺) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3
 子安(しあん・富山) → 定静(さだきよ・富山とみやま/辻、商家/国学) O 2 0 9 1
 子安(しあん・土屋/山室) → 箕陽(きやう・山室やまむろ、藩士/儒者) N 1 6 1 3
 子安(しあん・福田) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3
 士安(しあん・柏淵) → 静夫(しずお・柏淵かしぶち、里正/儒・国学) N 2 1 9 9
 視庵(しあん・河野) → 小石(しょうせき・河野かわの、藩儒) T 2 2 8 5
 氏安(しあん・秦) → 氏安(うじやす・秦、平安期猿楽演奏) C 1 2 7 8

- 師安(しあん・中原) → 師安(師康もろやす・中原、明経博士/記録) I 4 4 0 8
 芝菴(しあん;号) → 聞中(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6
 紫庵(しあん・樋口) → 道立(どうりゅう・樋口/江村、儒者/俳人) I 3 1 2 5
 思庵(しあん・石井) → 雅穎(まさかひ・石井/清原、和算家) B 4 0 6 5
- B2105 慈庵(じあん・黒岩くろいわ、名;恒・寿) 1627-1705 79 土佐安芸浦の儒者;野中兼山・山崎闇齋門、河内藩主山内忠義の侍読/兼山没後は南学者不遇となり出国/福岡藩主黒田家に招聘;藩の江戸学問所教授;禄3百石、桂井素庵・貝原益軒と交流、「歴代君臣要覧」「鳴無紀行」、「除忠録」「慈庵文集」「閑居艸」「人鬼論」「歴代君臣要略」著、[慈庵(;号)の字/別号]字;震翁、別号;東峰/幽峰/幽山/碧山/寿翁
- B2106 自安(じあん・河浪かわなみ、本姓;菅原、名;道忠、河浪安純男) 1635-1719 85 肥前佐賀郡八戸村の医者、幼時期;慶聞寺輪安和尚門/1657父の命で医者;松永宗雲門/江戸で吉田法印門、医術とともに儒学を修学、帰郷;佐賀藩家老多久茂矩に出仕、1699家老多久茂文の郷校東原庠舎創立に当たり初代教授、「自安遺稿」[自安(;号)の字/通称]字;信甫、通称;忠兵衛
- B2101 自庵(じあん・吉田よしだ/旧姓;坂田、名;昌全/法名;日輝) 1644-1713 70 筑後医者;長崎の吉田自休門、南蛮流外科医/自休の養嗣子、1685清国使節が長崎滞在中に肺腫発病;その治療に奏効、1691江戸の幕府番医に招聘/奥医に転ず、1709寄合/10致仕、「外科真伝」「吉田氏家伝方」著
- B2102 慈庵(じあん・長塩ながしお、名;正任) 1727-1812 86 肥後熊本の奇書珍本収集家;藩校に献納、京・長崎に遊学、「朴翁随筆」著、[慈庵(;号)の通称/別号]通称;源太夫、別号;朴翁
- Z2132 自安(じあん;号・竹内たけうち、) 1799-1878 80 伊予松山藩士;藩家老の分家、歌人、[自安(;号)の名]名;信竜/信均(;藩家老竹内久六家10代の信均のぶひらは別人)
- 自菴(じあん、書家) → 隆達(りゅうたつ・高三たかさぶ、隆達節祖) 4 9 1 0
 自庵(じあん・熊本/熊ゆう) → 華山(かざん・熊本くまもと、儒者/詩) L 1 5 7 0
 自安(じあん・森脇) → 正仍(まさより・森脇もりわき/香川、藩士/国学) T 4 0 2 8
 自安(じあん・竹内) → 岑延(みねのぶ・竹内たけうち、商家/歌人) F 4 1 5 1
 自安(じあん・南部) → 宗寿(そうじゅ・南部なんぶ、医者/儒者) H 2 5 7 2
 自安(えんじ・三浦) → 道意(どうい・三浦みづら/小林、藩医/歌) 3 1 9 7
 辞安(じあん・伊沢) → 蘭軒(らんせん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3
 慈庵(じあん・岡) → 澹斎(たんさい・岡、医/儒/詩人/本草) T 2 6 4 8
 慈庵(じあん) → 海荘(かいそう・海叟かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5
 時安(じあん・横山) → 玄周(げんしゅう・横山よこやま、鍼医) J 1 8 6 3
 時安斎(じあんさい・竹内) → 岑延(みねのぶ・竹内、歌人) F 4 1 5 1
 自安散人(じあんさんじん) → 岑延(みねのぶ・竹内、自安/商家/歌人) F 4 1 5 1
 士威(しゐ・甲田/河野) → 通桓(みちたけ・河野/越智、医者/勤王) B 4 1 7 5
 志井(しゐ・尾藤) → 二洲(にしゅう・尾藤びと、商家/儒者/詩) 2 1 2 1
 子以(しゐ・茨木) → 素因(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F 2 5 8 3
 子圀(しゐ・福沢) → 諭吉(ゆきち・福沢、藩士/幕臣/思想家) E 4 6 8 1
 子威(しゐ・檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0
 子威(しゐ・中村) → 滄浪亭(そうろうてい・中村、藩士/儒者/武芸) D 2 5 2 8
 子彝(しゐ・平賀) → 源内(げんない・平賀ひらが、儒/本草/戯作) 1 8 2 8
 子彝(しゐ・勝田) → 雲鵬(うんぼう・勝田かつた、儒/詩人) B 1 2 8 8
 子彝(しゐ・小野) → 君山(くんざん・小野おの、書/篆刻) D 1 7 6 5
 子彝(しゐ・沼田) → 月斎(げっさい・沼田ぬまた、藩士/絵師) H 1 8 0 5
 子緯(しゐ・三島) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6
 死矣(しゐ・宮北) → 直方(なおかた・宮北みやきた、藩士/漢学) P 3 2 0 0
 資為(しゐ・安部) → 資為(すけため・安部あべ、廷臣/官人) G 2 3 4 4
- B2107 慈威(じゐ、慈威上人) ? - ? 僧/歌人;1364成立「新拾遺集」1510、[夢ながら六十の老も過ぎにけりさめぬ眠ぞ久しかりけり](新拾遺;釈教歌1510)
- 02142 慈意(じゐ・小富士こぶじ、) 1810-1878 69 近江犬上郡の僧、歌人;[鳩のうみ]入、

多賀神社奥院胡の宮別当の福寿院の僧都、

[慈意(；法諱)の名/号]名；中立、号；竜溪

持為(じい・冷泉)	→ 持為(もちため・冷泉[下冷泉祖]、歌人)	4 4 0 8
時倚(じい・畑はた)	→ 銀鷄(ぎんけい・平亭、藩医/狂歌/戯作)	D 1 6 9 5
時倚(じい・岩橋)	→ 時倚(ときより・岩橋いわし/大江、神職/国学)	U 3 1 3 1
慈威和尚(じいおしょう)	→ 恵鎮(えちん、天台歌僧/太平記原型)	1 3 7 6
椎垣内(しいかいち)	→ 猛彦(たけひこ・市岡、藩士/国学・歌)	E 2 6 4 9
椎本(しいがもと)	→ 守部(もりべ・橋、国学/歌)	4 4 2 8
椎本(しいがもと)	→ 冬照(ふゆてる・橋、守部男、国学)	E 3 8 3 1
椎が本(しいがもと)	→ 貞永(さだなが・岡本おかもと、藩士/国学)	O 2 0 2 0
子郁(しいく・脇山)	→ 退斎(たいさい・脇山、藩儒/文教政策)	B 2 6 4 3
子郁(しいく・田辺)	→ 晋斎(しんさい・田辺/上毛野、藩儒/記録)	E 2 2 1 6
子育(しいく・飯田)	→ 有倫(ありとも・飯田いいだ、儒医)	F 1 0 5 2
士郁(しいく・藤井)	→ 良文(好文よしふみ・藤井ふじ松林、藩絵師)	O 4 7 8 6
思貽斎(しいさい)	→ 広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家)	1 9 1 4
自怡斎(じいさい)	→ 柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ、家老)	F 4 9 3 0
時為斎(じいさい)	→ 南峰(なんぼう・竹中たけなか、医者)	J 3 2 4 5
四維山長(しいさんちやう)	→ 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖；幕政)	4 8 0 2
四時庵(しいじあん)	→ 紀逸(初世きいつ・慶、俳人)	1 6 0 1
四時庵(しいじあん・英窓)	→ 紀逸(2世きいつ、井上、俳人)	1 6 7 2
四時庵(しいじあん)	→ 指月(しげつ・山田やまだ、藩士/文筆家)	R 2 1 4 6
四時庵(しいじあん)	→ 信夫(しんぶ；号・一竿翁、俳人)	P 2 2 6 8
四時庵(しいじあん・広田)	→ 精知(せいち・広田ひろた、商家/俳人)	J 2 4 2 0
四時園(しいじえん)	→ 其沢(きたく・大原、俳人)	F 1 6 7 0
四時園(2世しいじえん)	→ 其戎(きじゅう・大原おほら、船頭/俳人/其沢男)	K 1 6 8 0
四時観(しいじかん)	→ 四時観(しじかん)	4 人
四時翠観(しいじすいかん)	→ 松陰(しょういん・四宮しのみや、国学/神官)	U 2 2 8 8
四時堂(初世しいじどう)	→ 其諺(きげん・四時堂、時宗僧/俳人)	B 1 6 0 8
四時堂(2世しいじどう)	→ 米史(べいし・隠岐、俳人)	2 7 4 7
鴟夷皮子(しいひし；范蠡変名)	→ 正運(消雲しょううん；法諱、真宗学林派学僧)	H 2 2 0 3
四時楼(しいろう・英窓)	→ 紀逸(2世きいつ、井上、俳人)	1 6 7 2
椎園(しいぞの、歌人)	→ 胤平(たねひら・海上うんじょう/うながみ)	T 2 6 7 3
椎園(しいぞの)	→ 千春(ちはる・三浦みづら、藩士/国学/歌)	F 2 8 2 1
椎園(しいぞの→すいえん)	→ 茂橋(もきつ・蜂屋はちや/源、幕臣/随筆)	4 4 6 2
椎園(しいぞの)	→ 元徳(もとりのり・毛利/大江、藩主/歌人)	D 4 4 8 6

P2158 此一(いち・加賀美/加々美ががみ/於曾おそ)?-1878(70余歳) 甲斐甲府の生/盛岡藩士；江戸丸之内住、
俳人；甲州の嵐外門、諸国遊歴/維新後は俳三昧、
1867「六庵集」・「花のちり」編、「盛岡人連句」著、
[此一(；号)の字/通称/別号]字；遠方、通称；啓之丞/敬之丞、

別号；頓和/徳庵/六庵2世、法号；宗貫此一居士

史一(しいち/ふみかぎ?・江森)	→ 月居(げつきよ・江森えもり、俳人)	1 8 0 7
祗一(しいち・野口)	→ 道直(みちなお・野口のぐち、商家/国学者)	C 4 1 0 7
士逸(しいつ・谷川)	→ 士逸(ことはや・谷川、医/国学)	N 1 9 3 3
子一(子乙しいつ・山井)	→ 景貫(かげつら・山井やまのい、楽人)	L 1 5 0 5
子一(しいつ・長山)	→ 樗園(ちよえん・長山ながやま、幕臣/海防論)	K 2 8 1 9
子一(しいつ・玉虫)	→ 尚茂(ひさしげ・玉虫たまむし、藩士/兵学)	B 3 7 1 2
子一(しいつ・仁上)	→ 如蘭(じょらん・仁上にかみ、儒者)	M 2 2 8 9
子逸(しいつ・高野)	→ 高全(こうぜん・高野たかの、医者；小児科)	K 1 9 2 6
自怡堂(じいどう)	→ 担庵(担菴たんあん・伊藤、医/儒/詩歌)	2 6 8 6
紙衣道人(しいどうじん)	→ 宗巖(そうごん；法諱・華屋かおく、臨濟僧)	H 2 5 3 1

志斐姫(しいのおみな)	→	しひのおみな(志斐姫)	2 1 3 1
椎木庵(しいのきあん)	→	雨銘(うめい・岩瀬いせ、藩医/俳人)	1 2 9 1
椎本(3世しいのもと)	→	矩州(くしゅう・那須/伊東、俳人)	1 7 4 8
椎本(4世しいのもと)	→	下物(かぶつ・山川やまかわ、俳人)	F 1 5 7 9
椎本(5世しいのもと)	→	鶴十(かくじゅう; 下物門)	E 1 5 7 0
椎本庵(しいのもとあん)	→	相孚(そうふ・葉山はやま、俳人)	I 2 5 8 1
椎の本宗匠(しいのもとそうしょう)	→	江三(こうさん・村井むらい、俳人)	J 1 9 1 1
椎の下宗匠(しいもとのそうしょう)	→	礪山(れいざん・寺田てらだ、観月/俳人)	5 1 3 1
椎廼舎(椎屋しいのや)	→	三岳(さんがく・鈴木すずき、俳人)	L 2 0 9 3
椎廼舎(しいのや)	→	里路(さとみち・加藤かとう、藩士/神職/歌)	O 2 0 2 4
椎の屋(しいのや)	→	宣甫(のぶとし・大谷おおたに、町人/国学/歌)	H 3 5 7 1
椎舎(しいのや・安東)	→	貞敏(さだとし・安東あんど、藩士/国学/詩)	N 2 0 7 4
而已舎(じいのや)	→	范孚(はんぷ・而已舎、俳人)	I 3 6 4 6
椎の屋学匠(しいのやがくしょう)	→	武陵(ぶりよう・西尾にしお、酒造業/俳人)	E 3 8 6 1

P2159 シーボルト(Philipp Franz von Siebold, ドイツ) 1796-1866 71 医学・博物学者、1823和蘭商館医、日本の動植物/地理/歴史/言語の調査研究/、鳴滝塾で門弟育成;長英らに医術指導、1828帰国時国禁地図で事件、遊女其扇(楠本滝)との間に女いね(稲:1827-90、医者)誕生、1859-62再来日;幕府外事顧問、「日本」「日本動物誌」「日本植物誌」著

B2108 市隠(しいん・高畑たかはた、通称;治左衛門)?-1722 伊賀上野藩士、俳人・貞門季吟系、1662頃から芭蕉と旧知、藤堂新七郎家の良忠を困む俳人の1、のち美濃垂井に移住、1667湖春「続山の井」74「桜川」91「猿蓑」入、[目の下や手洗ふ程に海涼し](猿蓑;六/手を伸ばせば洗えそうな湖水の広がり)

B2109 士胤(しいん・蹟) ? - ? 詩人;細井平洲門、1763平洲著「嚶鳴館詩集」共編(泉子容と共編/平洲自序/江戸須原屋茂兵衛板1764刊)

L2101 子尹(しいん・飯田いだ、通称;和兵衛、篤老とくろう[1778-1826]男)?-? 安藝広島 of 俳人;父門、1820峯梅「無東西むとうざい」入、[猫の子も家内のうちよ生身魂](無東西入)

P2160 紫陰(しいん・岡おか、名;弘道) 1817-? 筑後柳川の儒者;帆足万里門、大阪で子弟教育、1855「橘山遺事」校訂、[紫陰(;号)の字/通称]字;子毅、通称;直次郎/直輔

市隠(しいん、楓川ふうせん)	→	可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、画家)	1 5 1 3
市隠(しいん、陽末)	→	其楽(きらく・南里亭、読本)	H 1 6 6 3
市隠(しいん・関)	→	竹泉(ちくせん・関せき、商家/茶人)	D 2 8 2 9
氏胤(しいん・東)	→	氏胤(うじたね・東とう、武将、歌)	1 2 3 5
氏胤(しいん・荒木田/藤波)	→	氏胤(うじたね・藤波ふじなみ、神職)	C 1 2 4 3
氏寅(しいん・西山)	→	退溟(たいめい・西山、藩士/儒/詩人)	L 2 6 0 9
氏筠(しいん/うじたけ・福島/林/荒木田)	→	斎震(さいしん・荒木田/福島、神職/詩)	G 2 0 7 8
士寅(しいん・高木)	→	東陽(とうよう・高木、儒者/詩文)	H 3 1 7 9
子允(しいん・畠中)	→	胴脈先生(どうみやくせんせい、畠中観斎、狂詩)	3 1 2 2
子允(しいん・本多/賀川)	→	南竜(なんりゅう・賀川かがわ、医者)	J 3 2 6 4
子允(しいん・鷹見)	→	星阜(せいこう・鷹見、藩士/儒/詩)	B 2 4 4 5
子允(しいん・小寺)	→	顕之(あきゆき・小寺こでら、国学者)	H 1 0 4 8
子隠(しいん・長岡/米田)	→	是著(これあき・米田こめだ、藩士/儒/詩)	O 1 9 0 5
子隠(しいん・高野)	→	陸沈亭(りくちんてい・高野たかの、医者/藩士)	4 9 8 0
子寅(しいん・岡田)	→	糠人(ぬかんど・岡田、酒造家/俳人)	3 4 0 5
子寅(しいん・若槻)	→	幾斎(きさい・若槻わかき/源、儒者)	I 1 6 5 3
子員(しいん・高宮/最上)	→	徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行)	L 3 1 2 5
子賛(しいん・岡田)	→	阜谷(ふこく・岡田おかだ、漢学者)	B 3 8 9 0
之允(しいん・中田)	→	平山(へいざん・中田、藩士/儒者/詩)	2 7 4 3
師尹(しいん・藤原)	→	師尹(もろまさ/もろただ・藤原、左大臣/歌)	H 4 4 9 2
師員(しいん・中原)	→	師員(もろかず・中原、廷臣;明経博士/歌)	H 4 4 1 1

師贇(しん・押小路) → 師贇(もろよし・押小路/中原、廷臣/記録) I 4 4 1 3
 柿陰(しん・会田) → 素山(そざん・会田、藩士/御風門俳人) J 2 5 7 8
 紫隠(しん・前田) → 青峨(せいゑが・前田、春來、俳人) 2 4 8 3
 紫隠(しん・古松) → 淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ/清水、医/歌) D 3 8 2 0
 資胤(しん・中御門) → 資胤(すけたね・中御門なかみかど、廷臣/記録) G 2 3 4 2
 資胤(しん・山本) → 資胤(すけたね・山本やまもと、庄屋/国学) J 2 3 3 7
 資蔭(しん・田向) → 資蔭(すけかげ・田向たむけ/源/庭田資熙、歌人) B 2 3 9 7
 志尹(しん・勝村) → 嬖斎(かくさい・勝村かつむら、儒者) J 1 5 8 3
 時胤(じん) すべて → 時胤(ときたね)
 滋蔭(しん・小野) → 滋蔭(しげかげ・小野おの、廷臣/歌人) B 2 1 9 9
 四寅居士(しんこじ) → 三良(さぶろう・尾崎おさき/若林、勤王家) L 2 0 5 1
 市隠詩社(しんししゃ) → 清河(せいが・安達あだち、修験/儒者/詩文) 2 4 8 0
 市陰舎(しんしや) → 紫狐(しこ、市陰舎、俳人) T 2 1 2 8

B2110 慈胤親王(じいんしんのう、名;幸勝、後陽成天皇皇子) 1617-9983 母;大中臣時広女の土佐局、
 1629親王宣下/30入室得度;梶井門跡/35二品/42天台座主;50再任;66三度任、
 茶道;古田織部・金森宗和門、公家茶の湯を起こす;堯恕親王・近衛家熙の師、
 「禁裏月次御会歌集」「護摩三昧流」「七仏薬師日記」「修法儀式見修抄」/1653「不動法表白」著、
 [慈胤(;法諱)の幼名/諡号]幼名;清宮、諡号;常修院宮

市隠生(しんせい) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
 市隠堂(しんどう) → 清河(せいが・安達あだち、修験/儒者/詩文) 2 4 8 0
 紫隠里(しんり) → 也存(やゆう・横井、俳人/詩歌) 4 5 1 7

B2123 芝塙(しや・村山むらやま、名;緯、止説男) 1758-182063 筑前福岡藩儒の家/儒;1780林家入門、
 井上蘭台・林鳳潭・平沢旭山門、1784福岡藩儒/江戸詰;藩邸岳門所教授、
 儒官以外に奥頭取・槍奉行・使番を勤む、「霞関文集」「皇朝編年要録」「清朝名士彙伝」、
 1787「名義備考」1817「西官小遊」20「四明先生墓表」(井上四明は蘭台養嗣子)著、外多数、
 [芝塙(;号)の字/通称/別号]字;伯経、通称;大次/新左衛門/一介、別号;退斎、
 法号;良心院

子羽(しや・秋山) → 玉山(ぎよくざん・秋山/中山定政、儒者) 1 6 4 1
 子羽(しや・十時) → 梅厓(ばいがい・十時とき、儒者/書画) 3 6 8 2
 子羽(しや・岡田) → 半江(はんこう・岡田おかだ、文人画家) H 3 6 5 8
 子羽(しや・山県) → 守雌斎(しゅしさい・山県/吉田、藩士/儒者) Y 2 1 8 6
 子羽(しや・中島) → 石浦(せきほ・中島なかじま/中浦、医/儒者) D 2 4 8 3
 子羽(しや・肥田) → 景肅(かげたか・肥田ひだ、国学/歌人) V 1 5 4 5
 子雨(しや・岩井) → 玉洲(ぎよくしゅう・岩井/祝、商家/儒者) P 1 6 0 6
 思羽(しや) → 思羽(おもは、歌人) D 1 4 7 6
 時雨(じや・藤原) → 時雨(ときふる・藤原、平安期歌人) K 3 1 0 1
 似鳥斎(じやさい・伊丹) → 宗朝(そうちやう・伊丹いたみ、茶人) I 2 5 4 8
 子蔚(しやう・神河) → 渭南(いなん・神河かみかわ、医者/弓術) I 1 1 1 2

Z2152 時雨郎(じやうろう・鳥海とりうみ、家号;南泉坊、知恕男) 1844-9350 出羽飽海郡蔵岡上寺村の生、
 漢学;東之院入門/皇学・神道;常世とよ長胤門、出羽一宮の大物忌神社禰宜、
 維新後;少講義/政治家;森藤右衛門・松本清治らと尽性社結成;[両羽新報]創刊、
 自由民権運動に関与/山形県会議員;議長/1890衆議院議員

B2111 士雲(しうん;法諱・南山なんざん;道号、俗姓;藤原) 1254-133582 遠州の臨濟僧;東福寺の円爾門;法嗣、
 1297筑前承天寺住持/東福寺11世/鎌倉寿福寺8世/円覚寺11世/建長寺19世、
 1321鎌倉崇寿寺開創/東福寺普門院に没、「南山和尚語録」

K2159 泗雲(しうん) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第五芥子脇句入、
 [千に割たし郭公の声](芥子脇句/諺;芥子を千に割るが如し;微小の譬え/幽かな声、
 発句;盛光;芥子壺の内より花の世界哉)

P2162 硯雲(しうん) ? - ? 備前八浜俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

- B2112 子雲(しうん・勝かつ、通称;菱屋茂兵衛)?-? 京の豪商、1768清田儋叟「孔雀楼筆記」刊行を支援、
紫雲(しうん・廓忍) → 廓忍(かくにん;法諱、真宗本願寺派僧) S 1 5 0 4
紫雲(しうん・下郷) → 銅盛(かせい・下郷しもさと、商家/俳人) M 1 5 6 2
紫雲(しうん;号) → 僧敏(そうびん;法諱・密成;字、天台僧) C 2 5 8 2
士雲(しうん・植木) → 環山(かんざん・植木うえき、儒者) Q 1 5 8 2
士雲(しうん・荏戸) → 太華(たいか・荏戸のぞき、藩士/藩再建) B 2 6 0 7
士雲(しうん・津野) → 文卿(ぶんけい・津野まつの、商家/儒者/詩) I 3 8 4 9
士雲(しうん・丹羽/浅野) → 文彦(ぶんりゅう・浅野あさの、医者) G 3 8 6 8
氏雲(しうん・出羽守) → 自笑(じしゅう・岡島、刀鍛冶/俳人) E 2 1 0 8
子雲(しうん;字) → 曇彦(どんりゅう;法諱、真宗本願寺派僧) S 3 1 4 9
子雲(しうん・犬塚) → 印南(いんなん・犬塚いぬづか、儒者) D 1 1 2 8
子雲(しうん・鈴木) → 蘭園(らんえん・鈴木すずき/源、医者/音律) B 4 8 5 7
子雲(しうん・西尾) → 公龍(きみたち・西尾にしお、医者/歌人) K 1 6 4 6
子雲(史雲しうん・宮田) → 五溪(ごけい・宮田みやた、藩儒/詩人) G 1 9 6 5
子曇(しうん・西媼) → 子曇(しどん・西媼) F 2 1 3 5
子韞(しうん・前田) → 葉庵(ようあん・前田/玉野、藩儒/医者) 4 7 5 5
- P2163 慈雲(じうん、俗姓;長尾)759- 807or806?48-49 山城の華嚴僧;宝亀元770得度、華嚴に精通、
東大寺講師;無性訳の撰論を講ず、のち近江普光寺の伝法講師、
「五教章復古記」「五教章見聞」「五教章指事」著
- B2113 慈運(じうん;法諱、初め良嚴、伏見宮貞常親王男)1466-153772 母;庭田重有女の盈子、
土御門天皇の猶子/良鎮の資となり曼殊院入室/大僧正公助より伝法灌頂を受、
曼殊院門跡;1495曼殊院26世門主、北野社別当職、1530二品/33法成寺座主;天台大僧正、
歌人/連歌;1503「曼殊院慈運月次和歌懷紙」著/22「大永二年万葉集詞百韻」参加、
1523「大永四年青何百韻」参加/「文殊八字行抄」著、「慈運僧正千首」、新菟玖波3句入、
[慈運(;法諱)の号/通称]号;松牧院、通称;二品僧正にほんのそうじょう、諡号;長寿院
- J2142 尔云(じうん) ? - ? 江前期俳人、
1673西鶴「生玉万句」(第五子規千句脇句)入、
[硯の蓋も明け易き月](生玉万句;子規千句脇、発句初知;名乗聞かん懷紙の雲に子規、
続千載;閑白家新少将;明けやすき夏の夜なれど郭公待つに幾度いくたび寝覚しつらむ)
- 2101 似雲(じうん;法諱、初め如雲、河村彦右衛門男)1673-175381 安藝広島の人、
1709(37歳)両親没後に出家、真宗本願寺派僧;撰津須磨浦の風月庵源光寺住職、
歌;京の武者小路実陰門/古今伝授を受、諸国行脚;詠歌と求道の流浪生活、
河内弘川寺で西行塚を発見;西行堂建立、晩年和泉躰尾村の北村六右衛門宅に寓し没、
「武者小路実陰公口伝」「思出草」「葛城百首」、1730「窓の曙」39「詞林拾葉」、
1745「西行上人旧跡記」/48自撰家集「としなみ草」、「続年並草」「三十日草」、
「和歌詠方秘伝」「蟹轉」「磯の浪」「似雲和歌集類題」「似雲集続篇」外著多数、
[似雲の通称/号]通称;金屋吉右衛門、号;春雨亭/風月庵/虚空庵、今西行と称される
- 2102 慈雲(茲雲じうん;字、飲光おんこう;法諱、上月[森川]安範男)1718-180487 大阪の真言僧;
貞紀いき[忍綱]門、儒;東涯門、撰津法楽寺住職/1776高貴寺を正法律総本山とする、
神道研究;雲伝神道を唱導、
「梵学津梁」千卷/「神儒偶談」「十善法語」「人となる道」「人となる道随行記」、
「南海寄帰伝解纜鈔」「当麻寺古曼陀羅記」「双竜尊者和歌集」「曼荼羅随聞記」外著多数
[飲光慈雲の幼名/号/通称]幼名;上月満次郎/平次郎、号;葛城山人/百不知童子/双竜叟、
通称;慈雲尊者/葛城尊者
- P2164 慈運(じうん;法諱) ? - ? 1785存 信濃天台宗善光寺の僧;叡山で修行、
善光寺野邑房に住、1785「善光寺縁起集註」著(;詳細な逐語注/合本)
- R2189 慈雲(じうん・水野みずの) ? - ? 江後期;歌人、僧?
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夕ひばりあがるを見れば天地の行くかよひちは絶えずぞ有りける]、
(大江戸倭歌;春217/雲雀)

- 慈雲(じゆん・廓忍) → 廓忍(かくにん・紫雲・真宗本願寺派僧) S 1 5 0 4
慈雲(じゆん・松井) → 晟時(あきとき・松井まつい、藩士/剣術) D 1 0 6 1
慈雲(じゆん;字) → 日啓(にちけい;法諱・久本院、日蓮僧) B 3 3 4 9
慈雲(じゆん;道号・了徹) → 治重(はるしげ・山梨やまなし、商家/紀行) G 3 6 3 9
慈雲(じゆん;諡号) → 恵舶(えはく;法諱、真宗本願寺派学僧) E 1 3 2 1
自雲(じゆん;号) → 玄方(げんぼう;法諱・規伯、臨濟僧/国書改竄事件) M 1 8 3 2
四云庵(しゆんあん) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4
紫雲院(しゆんいん) → 日逢(にっぼう;法諱・英勝、日蓮僧) F 3 3 5 8
慈雲院(じゆんいん) → 日新(にっしん;法諱・純慧、日蓮僧) E 3 3 4 3
慈雲院(じゆんいん) → 家忠(いえただ・松平、藩主/日記/連歌) 1 1 3 9
慈雲院(じゆんいん) → 正賢(まさかた・増山ましやま、藩主/書画) B 4 0 9 0
紫雲光院(しゆんこういん) → 常子女王(つねこじょう、歌人) C 2 9 0 9
紫雲齋(しゆんさい) → 延寿太夫(2世えんじゆだゆう・清元、清元節) B 1 3 0 6
而慍齋(じゆんさい) → 元隣(げんりん・山岡、俳人/仮名草子) D 1 8 2 7
慈雲室(じゆんしつ;号) → 祖芳(そほう;道号・聯山;法諱、曹洞僧) K 2 5 6 3
慈雲尊者(じゆんそんじゃ) → 慈雲(じゆん;字・飲光おんこう、真言僧) 2 1 0 2
似雲亭(じゆんてい) → 周斎(しゅうさい・内田うちだ、儒者) H 2 1 4 3
慈雲房(じゆんぼう) → 明雲(めいゆん・みょうゆん;法諱、天台座主) 4 3 0 6
慈雲房(じゆんぼう) → 隆誉(りゅうよ;法諱・慈雲房、真言学僧) F 4 9 8 4
慈雲了徹居士(じゆんりょうてつこじ) → 治重(はるしげ・山梨やまなし、商家/紀行) G 3 6 3 9
慈恵(じえ、大師/僧正) → 良源(りょうげん;法諱、天台中興、歌人) E 9 4 5 6
B2115 子英(しえい・岩本いわもと、通称;忠兵衛)?-1715 伊勢松坂の俳人;加友or初世立志門、江戸浅草住、本所に移住、貞享元禄1684-1704頃俳諧点者として活動、1683調和「俳諧題林一句」21句入、1684「花時鳥」1700「秋かぜ」編、1707剃髪;記念の百韻「つげのまくら」;(不角[風雲子]編)、[ほととぎす黄楊つげの枕に痺しびれけり](つげのまくら;百韻発句)
B2116 子曳(しえい、別号;固有庵/圭実郎)?-? 京の俳人;蕪村・几圭門、1771蕪村「明和辛卯春」入、1772几董「其雪影」23句入/77蕪村「夜半楽」入、[ゆくゆくのははづかしや柿の花](其雪影;卷首/几董との両吟歌仙発句/柿花は可憐)
B2117 紫英(しえい) ? - ? 近江の俳人;紫残門、1784紫残遺稿「陽炎集かげろうしゅう」編
子英(しえい・菅沼) → 斐雄(あやお・菅沼すがぬま、歌人) B 1 0 5 8
子英(しえい・山田) → 惟雲(いゆん・山田、商人/儒者) E 1 1 7 6
子英(しえい・葛西) → 清俊(きよとし・葛西、藩士/儒者/詩文) I 1 6 9 1
子英(しえい・平賀) → 蕉斎(しゅうさい・平賀ひらが、詩人) S 2 2 3 3
子英(しえい・高橋) → 種芳(たねよし・高橋たかはし、藩士/兵学) S 2 6 1 5
子英(しえい・巨/巨勢/中井) → 卓軒(たくけん・巨勢こせ/中井/巨、儒者) E 2 6 2 0
子英(しえい・三宅) → 松庵(しょうあん・三宅みやげ、儒者/教育) G 2 2 5 9
子英(しえい・足立) → 秋英(あきひで・足立あだち、藩士/絵師) G 1 0 8 2
子永(しえい・和田) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
子永(しえい・村松) → 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/松、農家/藩儒) B 5 2 3 0
子栄(しえい・桜井) → 元茂(もとしげ・桜井さくらい、藩士/国学者) C 4 4 6 2
子栄(子永しえい・斎藤) → 尚善(しょうぜん・斎藤さいとう、和算家) K 2 2 4 5
子栄(しえい・春木) → 胥山(しよざん・春木はるき/秦、篆刻家) M 2 2 3 5
子瑩(しえい・桜田) → 古秀(こしゅう・八田はった、絵師) M 1 9 7 5
子纓(しえい・江坂/中山) → 南街(なんがい・中山/江坂、藩士/詩文) I 3 2 6 4
子纓(しえい・藤原/川辺) → 橘亭(きつてい・川辺かわべ、藩士/漢学者) L 1 6 5 0
子纓(しえい・高島/宇留野/山野辺/田中) → 江南(こうなん・田中/田でん、儒/医/投壺) G 1 9 4 3
子衛(しえい・岡崎) → 槐陰(かいいん・岡崎おかざき、儒者) I 1 5 3 7
子裔(しえい・中島) → 這季(これすえ/このすえ・中島、藩士/和算) O 1 9 4 0
士英(しえい・山内) → 琴台(きんだい・山内やまのうち、藩士/儒者) R 1 6 3 4
士衛(しえい・市岡) → 殷政(しげまさ・市岡いちおか/源/北原、本陣/勤王) N 2 1 3 9

- 之英(しえい・久保) → 之英(ゆきひで・久保くぼ、歌人/文筆) F 4 6 4 0
 氏英(しえい・古川) → 氏英(うじひで・古川ふるかわ/源、幕臣/歌) E 1 2 3 1
 氏英(しえい・村田) → 氏英(うじひで・村田むらた、藩士/文筆家) C 1 2 6 7
 氏英(しえい・中村) → 氏英(うじひで・中村なかむら、歌人) E 1 2 4 2
 氏栄(しえい・戸田) → 氏栄(うじよし・戸田、幕臣奉行) C 1 2 8 5
 氏栄(しえい・河島) → 春翠(しゅんすい・河島かわしま、漢学者) L 2 1 1 9
 氏栄(しえい・石野) → 氏恒(うじつね・石野いしの、藩士/国学) E 1 2 5 2
 氏盈(しえい・山本) → 氏侍(うじとも・山本/賀茂、神職/日記) C 1 2 5 3
 師栄(しえい・中原) → 師栄(もろひで・中原なかはら、廷臣/日記) H 4 4 7 7
 師英(しえい・押小路) → 師英(もろひで・押小路/中原/栗原、廷臣/記録) H 4 4 7 8
 資栄(しえい・源) → 資栄(すけひで・源みなもと、廷臣/歌人) C 2 3 8 4
- B2118 慈永(じえい;法諱・青山せいざん;道号、俗姓:紀) 1302-136968 紀伊玉津島臨濟僧;東福寺南山士雲門、諸師に参禅/夢窓疎石門;嗣法、京の等持寺・鎌倉の浄智寺歴住、1363建仁寺43世住持、1364建長寺39世、「仏観禅師語録」著、
 [青山慈永の初号諱]初道号;無際/南明、初法諱;士水、諡号;仏観禅師
- B2119 慈英(じえい;法諱・天章てんしょう;道号、号;杞憂庵/天風脈脈老禅) 1815-7157 京の僧;はじめ浄土僧、臨濟僧;建仁寺の全室慈保門;1841全室に随従し対馬以酹庵に輪番、建仁寺357世、詩文;摩島松南・仁科白谷門、幕末勤王派と往来/鳴滝妙光寺で没、「竺堂詠草」「竺堂詩鈔」、「杞憂菴詩稿」「杞憂菴叢書」「杞憂余草」「竹隱詩稿」、「日本高僧文選」「日本高僧詩選」編、「皇朝緇苑英華」「僧天章詩」「叢林風月六六仙」「天章和尚賦贈朝鮮主簿百三十韻」外著多数、
- P2165 慈栄(じえい;法諱) ? - ? 江後期天台僧;豪栄門、1848「戸津説法諷誦文集」編、「悉曇要義集録」「浄菴雑録」「尋声雑録」著
- 時英(じえい・渋川) → 時英(ときひで・渋川しぶかわ、武道家;柔術) J 3 1 9 0
 時英(じえい・土屋) → 義休(よしやす・土屋つちや、勸農家) H 4 7 7 4
 時英(じえい・横井) → 時英(ときひで・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 8 8
 時影(じえい・遠藤) → 時影(ときかげ・遠藤えんどう、射芸指南) I 3 1 9 9
 自影庵(じえいあん) → 正継(まさつぐ、自影庵、狂歌) L 4 0 0 3
 自衛斎(じえいさい) → 丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師) T 2 6 2 8
 思永堂(しえいどう) → 逸人(いつじん・加藤、俳人) B 1 1 5 1
 思永堂(しえいどう) → 綏(やすし・志賀しが、藩士/国学者) B 4 5 6 2
 士益(しえき・増田) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2
 子益(しえき・滝川) → 友直(ともなお・滝川、藩士/和算家) Q 3 1 0 3
 子益(しえき・原田) → 筭斎(じゅんさい・原田/小森、藩士/儒者) J 2 1 7 2
 子益(しえき・山崎) → 勝謙(かつかた・山崎やまさき、藩士/国学) W 1 5 1 0
 至易(しえき・鈴木) → 至易(よしやす・鈴木すずき、藩士/和漢学) H 4 7 8 3
 氏益(しえき・小原) → 氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師) C 1 2 7 2
 資益(しえき・白川) → 資益(すけます・白川/源、資益王、神祇伯) H 2 3 0 1
 治易(じえき・山口) → 治易(はるやす・山口、藩士/儒者) H 3 6 0 3
 持易(じえき・小笠原) → 持易(もちやす・小笠原おがさわら、幕臣/故実) B 4 4 7 5
 慈恵大師(じえたいし) → 良源(りょうげん;法諱、天台中興、歌人) E 9 4 5 6
 子越(しえつ・南嶺;道号) → 南嶺(なんれい・子越、臨濟僧) J 3 2 7 0
 子悦(しえつ・井沢) → 強斎(きょうさい・井沢いざわ、儒者) N 1 6 8 0
 子悦(しえつ・吉田) → 東洋(とうよう・吉田よしだ、藩士/藩政改革) H 3 1 8 8
 子悦(しえつ・前野) → 良沢(りょうたく・前野まえの/谷口、蘭学/医) I 4 9 8 1
- P2166 自悦(じえつ;道号・守懌しゅえき/しゅたく;法諱) 1444-152077 臨濟僧;東福寺不二庵の春江守潮門、1492頃京の聖寿寺の住持/1499東福寺184世、南禅寺259世;入院住山しなかつたか?、内外典の研究;三条西実隆と親交;実隆男の鳳崗桂陽の剃髮得度を行う、「碧巖抄」著
- B2120 自悦(じえつ、濱川はまかわ、名;行中、初号;宗宣) ?-?1702前没 京の俳人;季吟門;季吟の執筆、1674自悦と改号/77宗因風に転向/京高倉通押小路上ル住;談林俳人として活動、参禅;鎌倉円覚寺大顛梵千(;其角門俳人)門、その縁で其角と親交、

1677「釈教百韻」80「洛陽集」「花洛六百韻」83「空林風葉」編、1676西鶴「誹諧師手鑑」入、
1682風黒「高名集」85風瀑「一楼賦」89「あら野」/1702轍士「花見車」入、
[をみなへし死出の里人それたのむ](あら野;七/妻の追善句/謡曲女郎花の前シテに頼む)、
(謡曲;女郎花;小野頼風の妻が夫の誠意を疑い自殺し夫もその後を追う;

前シテは頼風の霊が里の老人となり妻の墓に生えた女郎花の花守となり供養する)

B2121 治右衛門(じえもん・田中たなか、号;定方(ていほう)?-? 江前期歌舞伎役者、俳人;

1679西鶴「句箱」入(木村一水主催で九吟六歌仙参加)、1680壬生寺西鶴矢数誹諧の執筆、
1680和気遠舟(西鶴の門人)編「太夫桜たゆうざくら」入、
花見車入集の定方と同一? → 定方(ていほう);号/京の俳人) B 3 0 6 8

P2167 次右衛門(じえもん・西村にしむら、名;為周、西村孫次右衛門為徳男)?-1874 三河吉田藩家老の家、
吉田藩士;1850家督嗣/51中老/54年寄/55家老;父を継嗣、

1862-64藩主松平信古の大坂城代赴任に同行、1868維新後大参事、古今の学・武芸に長ず、
1857・60・61・62・63・64「公私日記」著、

[次右衛門(;通称)の幼名/号]幼名;恭次郎/転、号;峯庵

P2168 治右衛門(じえもん;通称・勝村かつむら、号;文徳堂/攀桂はんけい堂)?-? 京の書肆;寺町通松原下ルに開店、
のち寺町万寿寺上ル西側に移転、江戸前期より明治まで営業、「文徳堂蔵版略書目録」著

P2169 治右衛門(じえもん・三河屋/三河舎みかわや)?-? 江後期江戸神田永富町一丁目の書肆、

1838-54「相撲起頭」著、

[三河屋治右衛門(;通称)の号]三河屋翁

治右衛門(じえもん・寺西)→ 秀澄(ひでずみ・寺西てらにし、藩士/書翰) D 3 7 1 0

治右衛門(じえもん・仁木)→ 白図(白兎はくと・仁木[二木]、俳人) D 3 6 6 4

治右衛門(じえもん・大文字屋)→ 維舟(いしゅう・松江まつえ重頼、俳人) 1 1 9 2

治右衛門(じえもん・内山)→ 逸峰(はやみね・内山うちやま、歌人/紀行) F 3 6 7 5

治右衛門(じえもん・梶取屋)→ 春政(はるまさ・山瀬、商人/本草家) G 3 6 8 4

治右衛門(じえもん・橋本)→ 伴鷗(ばんおう・橋本、商家/詩歌/俳) H 3 6 3 1

治右衛門(じえもん・浅野屋)→ 以之(いし・丹波たんば、医者/俳人) 1 1 8 6

治右衛門(じえもん・綿屋)→ 永輔(えいすけ・並木/千種、歌舞伎浄瑠璃作者) 1 3 0 4

治右衛門(じえもん・榎本)→ 搔安(かきやす・土師はじの、狂歌) B 1 5 2 7

治右衛門(じえもん・岡田)→ 鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、神職/儒者) H 1 5 3 9

治右衛門(じえもん・井桁屋)→ 沙鷗(さおう・森本/平、酒造業/俳人) B 2 0 2 3

治右衛門(じえもん・馬屋原)→ 重帯(しげよ・馬屋原うまやはら、郷土史家) D 2 1 3 4

治右衛門(じえもん・岡本)→ 苔蘇(たいそ・岡本おかもと、藩士/俳人) B 2 6 7 9

治右衛門(じえもん・渡辺)→ 一(かず・渡辺、藩士/和算家) C 1 5 1 4

治右衛門(じえもん・三宅)→ 賢隆(かたたか・三宅、藩士/和算家) M 1 5 9 7

治右衛門(じえもん・毛利)→ 正直(まさなお・毛利もうり、藩士/戯作者) F 4 0 0 3

治右衛門(じえもん・久世)→ 順矣(じゅんい・久世くぜ、心学者) Z 2 1 3 4

治右衛門(じえもん・山柴)→ 玉芝(ぎょくし・山柴やましば、農/医/戯作) P 1 6 0 2

治右衛門(じえもん・堀田)→ 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8

治右衛門(じえもん・堀田/大黒屋)→ 知之(ともゆき・堀田、酒造業/歌・俳人) Q 3 1 8 1

治右衛門(じえもん・里井)→ 孝幹(たかもと・里井、廻船問屋/国学) N 2 6 4 2

治右衛門(じえもん・小野)→ 弘度(ひろり・小野おの、商人/心学者) G 3 7 9 0

治右衛門(じえもん・菊池)→ 武保(たけやす・菊池、荒物商/文筆家) B 2 6 1 3

治右衛門(じえもん・桂)→ 周水(しゅうすい・桂かつら、藩士/儒者) H 2 1 7 6

治右衛門(じえもん・山脇)→ 正準(まさのり・山脇やまわき、藩士/兵学者) G 4 0 2 2

治右衛門(じえもん・本多)→ 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) G 2 9 3 4

治右衛門(じえもん・湯浅)→ 経邦(つねくに・湯浅ゆあさ、国学者) C 2 9 0 4

治右衛門(じえもん・勝村)→ 粹白(すいはく・勝村/勝郎かつむら、書肆) E 2 3 9 2

治右衛門(じえもん・本間)→ 楽山(らくざん・本間ほんま/土門、儒者) B 4 8 2 0

治右衛門(じえもん・坂田)→ 茂富(しげとみ・坂田さかた、国学者/歌人) O 2 1 6 1

治右衛門(じえもん・早川)→ 直温(なおほる・早川はやかわ、州吏/歌人) O 3 2 4 1

- 治右衛門(じえもん・太田)→ 弘通(ひろみち・太田おた、国学者/歌人) I 3 7 9 2
 治右衛門(じえもん・平瀬)→ 一鷗(いちおう・平瀬ひらせ、藩士/茶人) K 1 1 5 9
 治右衛門(じえもん・中島)→ 一考(かずたか・中島なかじま、国学者) V 1 5 1 7
 治右衛門(じえもん・児島屋)→ 政高(まさたか・青江あおえ/山和、歌人) M 4 0 9 9
 次右衛門(じえもん・松平)→ 忠隆(ただたか・松平、幕臣/歌人) P 2 6 7 0
 次右衛門(じえもん・多賀たが)→ 一蝶(初世いちろう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
 次右衛門(じえもん・青木)→ 鷺水(ろすい・青木あおき、俳人/浮与草子) 5 2 0 4
 次右衛門(じえもん・西村)→ 重俊(じゅうしゅん・西村にしむら、俳人) H 2 1 6 2
 次右衛門(じえもん・山本)→ 築艾(らくがい・山本やまもと、儒者;韻鏡学) B 4 8 0 8
 次右衛門(じえもん・屋代)→ 師道(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家) V 2 1 2 6
 次右衛門(じえもん・小林)→ 鶴林(かくりん・五松いつまつ、書家) B 1 5 7 8
 次右衛門(じえもん・百野/青木)→ 興勝(おきかつ・青木、藩士/儒/蘭学者) C 1 4 8 7
 次右衛門(じえもん・小栗)→ 旨原(しげん・小栗おぐり、俳人) D 2 1 4 9
 次右衛門(じえもん・米屋)→ 如本(じょほん・大越/館屋、俳人/希因弟) C 2 2 9 8
 次右衛門(じえもん・杉野)→ 翠兄(すいけい・杉野すぎの、俳人) 2 3 4 4
 次右衛門(じえもん・有賀)→ 友広(ともひろ・有賀ありが/遠山/藤原、郷土史家) Q 3 1 4 2
 次右衛門(じえもん・若松)→ 則文(のりふみ・若松わかまつ、絵師/歌人) K 3 5 3 8
 次右衛門(じえもん・米原)→ 豊秋(とよあき・米原よねはら、藩士/国学者) V 3 1 3 7
 次右衛門(じえもん・八田屋)→ 空翠(くうすい・野村、商家/詩歌/勤王) C 1 7 2 5
 次右衛門(じえもん・大沼)→ 竹溪(ちくけい・大沼/鷺津、幕臣/詩人) C 2 8 8 5
 治右衛門尉(じえもんのじょう・富永)→ 燕石(えんせき・富永高康、俳人) B 1 3 1 7
- P2170 資円(しえん・伝不詳) ? - ? 鎌倉期歌人、私撰「松風集しょうふうしゅう」撰(散佚)
- B2122 紫淵(しえん・菊田) ? - ? 奥州岩城の俳人;
 1669風虎催「百番俳諧発句合」左方参加;玖也判
- P2171 祇円(しえん;法諱・禅溪;道号)1636-1713?78? 曹洞僧;19歳で出家;信府円覚山主列山老人門、
 儒/老荘を修学;博識、35歳;竜宝蔵に入、1677「楞嚴ろうごん伝来記」/1714「禅溪老人漁樵録」刊
- P2172 子淵(しえん;号) ? - ? 越中生地の俳人、1776標良「誹諧 月の夜」入、
 [行く秋や月さへなくてなほ悲し](月の夜;73/九月末の夜)
- 思円(しえん・上人) → 叡尊(睿尊えいそん;法諱、真言律僧) 1 3 3 9
 柿園(しえん→かきぞの) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
 柿園(しえん・松永) → 貞徳(ていとく・松永、歌学者/俳人) 3 0 0 8
 柿園(2世しえん) → 松堅(しょうけん・宮川、貞徳門/歌・俳人) S 2 2 0 6
 柿園(3世しえん) → 和海(わかい・梅原うめばら、紅風軒、俳人) 5 3 0 3
 柿園(しえん・加納) → 東阿(とうあ・加納、医/詩/俳人) 3 1 7 4
 柿園(しえん・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学/歌人) 4 4 3 5
 柿園(しえん、柿園主人) → 長年(ながとし・山形やまがた、藩士/文筆) E 3 2 8 6
 柿園(しえん/かきぞの・大橋) → 長広(ながひろ・大橋、国学/歌人) F 3 2 5 7
 柿園(しえん・長谷川) → 猷(ゆう・長谷川はせがわ、藩士/窮理学) 4 6 4 8
 柿園(しえん・岡田) → 糠人(ぬかんど・岡田、酒造家/俳人) 3 4 0 5
 柿園(しえん・上河) → 淇水(きすい・上河うえかわ/河、心学者) B 1 6 3 0
 柿園(しえん・吉川) → 楽平(よしひら・吉川よしかわ、国学者) K 4 7 2 1
 柿園(しえん・萩原) → 広道(ひろみち・萩原/藤原、藩士/国学/歌) 3 7 2 8
 柿園(しえん・伊藤) → 嵐牛(らんぎゅう・伊藤、国学/俳人) B 4 8 7 2
 柿園(しえん) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5
 柿園(しえん・中島) → 勝称(かつな・中島なかじま、陪臣/歌人) V 1 5 1 8
 柿園(しえん・森田) → 良見(良美よしみ・森田、藩士/国学者) H 4 7 2 9
 柿園(しえん・志田) → 義貫(よしつら・志田しだ/柿崎、藩士/歌人) L 4 7 3 1
 梔園(しえん) → 粲(つばら・小出/松田、藩士/歌人) E 2 9 3 1
 梔園(しえん) → 高雅(たかまさ・尾高/堀口/小山、歌人) D 2 6 7 5
 梔園(しえん) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

梶園(しえん)	→	亮(あきら・上月こうづき、地役人/歌人)	H 1 0 5 3
扈園(しえん・恩田)	→	蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者)	1 8 9 7
資延(しえん・白川)	→	資延(すけのぶ・白川、資延王、神祇伯)	G 2 3 8 4
氏延(しえん)	→	氏延(うじのぶ、神職/連歌)	B 1 2 3 4
示縁(しえん;法名)	→	俊通(としみち・富小路/源・藤原、諸大夫/古典/歌)	N 3 1 8 0
子淵(しえん・西河)	→	白水(はくすい・西河にしかわ、儒者)	D 3 6 4 4
子淵(しえん・小林)	→	風徳(ふうとく・小林こぼやし、俳人)	3 8 9 7
子淵(しえん・矢橋)	→	赤水(せきすい・矢橋やばし、詩人)	K 2 4 3 0
子淵(しえん・鈴木)	→	其一(きいつ・鈴木すずき、絵師)	E 1 6 9 5
子淵(しえん・佐々木)	→	愚山(ぐざん・佐々木ささき、儒者/書)	D 1 7 6 8
子淵(士淵しえん・宮原)	→	筋庵(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩)	E 2 4 0 3
子淵(しえん・宇田)	→	健斎(けんさい・宇田、医者/討幕活動)	J 1 8 0 2
子遠(しえん・山本)	→	基庸(もとつね・山本やまと、藩士/書家)	D 4 4 1 7
子遠(しえん・河口)	→	信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医)	B 3 5 8 4
子遠(しえん・宮坂)	→	信近(のぶちか・宮坂、藩士/文筆)	C 3 5 0 1
子遠(しえん・永井)	→	昌玄(しょうげん・永井ながい、篆刻家)	I 2 2 5 8
子遠(しえん・高久)	→	靄崖(あいがい・高久たかく、絵師)	D 1 0 1 7
子遠(しえん・阿部)	→	正識(まさつね・阿部あべ、藩主/詩人)	E 4 0 1 1
子遠(しえん・立原)	→	杏所(きょうしょ・立原たちばら、藩士/絵師)	C 1 6 5 8
子遠(しえん・米津/隠岐)	→	栞軒(しゅけん・隠岐おき、与力/詩人)	I 2 1 6 5
子遠(しえん・青地)	→	林宗(りんそう・青地あおち、医者/翻訳)	K 4 9 6 2
子遠(しえん・恒遠)	→	醒窓(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩)	C 2 4 5 0
子遠(しえん・孫福)	→	公好(きみよし・孫福ごぶく/足代、神職/国学)	V 1 6 2 1
子遠(しえん・入江)	→	杉蔵(すぎぞう・入江、尊攘活動)	F 2 3 9 1
子延(しえん・百瀬)	→	耕元(こうげん・百瀬ももせ、書家)	I 1 9 6 7
子琰(しえん・鉅鹿/魏)	→	琰(ほう・魏ぎ・鉅鹿おおが、明楽)	F 3 9 8 8)
子園(しえん・江田)	→	霞村(霞村かそん・江田えだ、儒者/詩)	M 1 5 8 5
子園(しえん・奥倉)	→	辰行(たつゆき・奥倉/甲賀屋、商家/絵師)	R 2 6 6 8
子円(しえん・佐藤)	→	麟趾(りんし・佐藤/松本、儒者)	K 4 9 3 9
子偃(しえん・薮)	→	関牛(かんぎゅう・薮しとみ、絵師)	G 1 5 2 0
子燕(しえん・牧野)	→	貞喜(さだはる・牧野/源、藩主/諸芸)	J 2 0 3 7
子燕(しえん・川上)	→	静庵(せいあん・川上かわかみ、国学者)	H 2 4 2 2
子燕(しえん・合田/三宅)	→	鞏革斎(きょうかくさい・三宅みやけ、儒者)	G 1 6 6 3
士淵(しえん・林)	→	秋月(しゅうげつ;号・林はやし、医者/詩文)	H 2 1 0 1
士遠(しえん・山田)	→	大円(だいえん・山田やまだ、蘭医者)	J 2 6 2 8
士遠(しえん・小山)	→	春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者)	J 2 1 7 8
士遠(しえん・木村)	→	松陵(しょうりょう・木村、儒者/藩政)	L 2 2 9 5
士遠(しえん・清水)	→	櫟洲(れきしゅう・清水、儒/武術/故実)	5 1 7 8
師遠(しえん・中原)	→	師遠(もろとお・中原なかはら、明経博士)	H 4 4 4 7
師援(しえん・祇園)	→	尚濂(しょうれん・祇園ぎおん、藩儒/詩)	M 2 2 0 3
紫園(しえん・馬場)	→	逸斎(いつさい・馬場ばば、儒者/武術)	H 1 1 2 0
紫園(しえん・勝川)	→	春潮(しゅんちゅう・勝川かつかわ、絵師)	K 2 1 2 5
紫園(しえん・遠藤)	→	千胤(ちたね・遠藤えんどう/平、歌人)	M 2 8 1 7
紫苑(しえん、建部)	→	紫苑(しおん、建部たけべ伎都きつ、歌/画)	B 2 1 2 8
紫腕(しえん・宮庄)	→	親輔(ちかすけ・宮庄みやしょう、藩家老/歌)	B 2 8 0 3
紫燕(しえん・河村、紫燕老)	→	左舟(さしゅう・河村/川村、俳人)	B 2 0 6 4
志円(しえん、志山)	→	日専(にっせん;法諱・守眞院、日蓮僧)	E 3 3 7 8
芝垣(しえん・片桐)	→	春一(はるいち・片桐、藩士/軍学/国学)	F 3 6 9 8
芝園(しえん・邨田)	→	眉山(2世びざん・邨田/村田、俳人)	C 3 7 2 6
芝園(しえん・三井)	→	丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師)	T 2 6 2 8

芝腕(しえん・今田) → 信好(のぶよし・今田いまだ、藩士/歌人) H 3 5 4 3
 詞園(しえん・糊沢) → 花成(はななり・糊沢くるみざわ/源、国学者) K 3 6 1 2
 詞筵(しえん・伊東) → 燕晋(えんしん・伊東、講釈師) B 1 3 1 3
 著淵(しえん・芦屋) → 道海(どうかい・芦屋あしや、陰陽家) C 3 1 0 4

2104 慈円(じえん;法諱、関白藤原忠通男)1155-1225⁷¹ 平安鎌倉期天台僧/母;藤原仲光女の加賀、幼少時;両親と死別(母;2歳/父;10歳)、1165青蓮院入/叡山の覚快親王門/67出家;道快名、1170一身阿闍梨/法眼/78法性寺座主/入京、1181法印;慈円と改名、1182無動寺検校;全玄に随い灌頂・三昧流を受、1192天台座主・権僧正;後鳥羽院の護持僧、1196建久の政変で辞任;以後天台座主3度、親幕派九条家の立場変化で辞職・還補を繰り返す、後鳥羽院の庇護により1201和歌所寄人;院讓位後の新古今歌壇の育成、1203大僧正、1219実朝没後は九条家より摂家将軍を送る;公武並立を願う立場(愚管抄)、1225東坂本大和荘に没、1209「夢想記」20「愚管抄」(日本最初の史論書)著、歌人;6千余首詠;自歌合催/1192六百番歌合・1200正治初度後度百首(後度;神主康業名)、1203千五百番歌合参加、家集「拾玉集」「無名和歌集」、「慈円百首」「慈円百首日吉法楽」「慈鎮和尚自歌合」外著多数、勅撰265首;千載(9首210/263/319以下)新古(西行に次ぐ91首33/95/177/242以下)、新勅(27首)続後撰(22首)続古今(11首)続拾(12首)新後撰(9首)玉(27首)続千(6首)以下、[おほけなく憂き世の民におほふかなわが立つ袖に墨染の袖](千載1137)、(本歌;最澄の根本中堂建立時の詠;[新古今釈教]1920)、[過おまれるを改むる善のこれより大きな無し](愚管抄)、[慈円(;法諱)の名/初法諱/通称/諡号]初法諱;道快、通称;無動寺法印/吉水よしみずの僧正(一時東山の吉水に隠棲)、桑門時貞/学生がくしょう安成、北山樵客、諡号:慈鎮(13回忌賜号)、同母兄;九条兼実・道円・兼房、異母兄;基実・覚忠

P2173 慈瑗(じえん;法諱・円議院;号)?-1755 天台僧;法印/大僧都/鷄足院住持、1740良諶りょうしんに「悉曇字記」講ず、1739「息災護摩私記」、「桜町院尊儀聖忌経供養表白」著

B2125 慈延(じえん;法諱) ? - ? 江中期叡山東谷の天台宗白毫院住僧、1733「春宮御元服御祈記」78「別請堅義日記」著

2105 慈延(じえん;法諱・大愚;字、善光寺に儒医冢田つがだ行宜[旭嶺]男)1748-1805⁵⁸ 信濃長野の生、天台僧;若年出家、叡山円教院住持/洛東岡崎に隠棲、歌人;冷泉為村・為恭門、和学者、平安和歌四天王の1、母;松代藩矢島家の千賀子、1784「春樹頭秘私増抄」85「過雲亭宴会記」91「還幸をおがみたる記」著、1802契沖批判書「隣女晤言」著、02「享和二年三十番歌合」判、「慈延和歌聞書」「探探雑記」「阿止里之須佐美」著、「二十一代集概覧」編、[慈延の号] 吐屑庵/度雪庵、法号;真玄院、冢田子常(医者)・冢田大峯(儒者)の弟

自円(じえん;字) → 信応(しんおう;法諱・自円、真言僧) N 2 2 5 0

自延(じえん・遠田) → 自延(よりのぶ・遠田とおだ、藩士/書簡) J 4 7 4 2

時遠(じえん・北条) → 時遠(ときとお・北条/平、武将/歌人) J 3 1 4 2

事円院(じえんいん) → 日述(にちじゆつ;法諱・生知院、日蓮僧) C 3 3 2 2

市燕閣(しえんかく) → 曲浦(きよくほ・近藤、俳人) P 1 6 3 3

紫苑齋(しえんさい/しおんさい) → 蛸洲(れいしゅう・寺崎/三木/木、儒/詩) 5 1 3 7

思円上人(しえんしょうにん) → 叡尊(えいそん、真言/律僧) 1 3 3 9

紙鳶堂(しえんどう) → 源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作) 1 8 2 8

紫燕老(しえんろう) → 左舟(さしゅう・河村/川村、俳人) B 2 0 6 4

芝塙(しお・村山) → 芝塙(しゅう・村山むらやま、藩士/儒者) B 2 1 2 3

氏応(しおう・岩堀) → 氏応(うじまさ・岩堀いわぼり、藩士/国学) E 1 2 5 5

矢翁(しおう・伊佐庭) → 如矢(ゆきや・伊佐庭いさにわ/成川/阿部、教育/町長) G 4 6 5 1

至翁(しおう;道号・善方) → 世阿彌(ぜあみ、能楽) 2 4 0 1

芝翁(しおう・藺田) → 守宣(もりのぶ・藺田/荒木田、神職/国学) G 4 4 2 1

資央(しおう・福原) → 資央(もとなか・福原/梅津、藩士/兵法) D 4 4 4 5

- 砥泓(しおう・唐坊) → 長秋(ながあき・唐坊とうぼう、藩士/儒者) D 3 2 1 5
 髭翁(しおう;山王のお髭)→ 信富(のぶよし・安井、神職/詩/狂歌) D 3 5 9 4
 芝翁(しおう・青木) → 徳峯(とくほう・青木あおき、商家/詩歌) L 3 1 3 9
 柴翁(しおう・小俣) → 螻庵(かかあん・小俣こまた/おまた、商人/篆刻家) J 1 5 4 3
 士黄(しおう・岡村) → 簗斎(きさい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
- B2124 慈応(じおう、贈法印) ? - ? 平安中期の僧/歌人、
 新拾遺1800(;藤原道綱家小弓会に不参加の贈歌/答歌は道命法師)、
 [梓弓いてもかひなき身にしあればけふのまとみにはづれぬるかな](新拾遺;十九1800)
 谷流の皇慶と同一?→ 皇慶(こうげい;法諱、天台僧) I 1 9 4 3
- 02169 慈応(じおう;法諱、安藤藤重郎長男)?-1867 信濃伊那郡山吹村の生/7歳;山吹村隣政寺の徒弟、
 天台宗大島山瑠璃寺で修学/座光寺村如来寺住職/のち大島山瑠璃寺60世、
 歌人;福住清風門、北原因信・北原稲雄・佐々木吉雄・吉晴・池田重安・今村真幸と交流、
 [慈応の法名]権大僧都法印歆応
- 慈応(じおう;諡号) → 皇慶(こうげい;法諱、天台僧) I 1 9 4 3
 而翁(しおう・友松) → 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道) 1 2 2 3
 四王院(しおういん) → 尊雅(そんが;法諱、天台僧/歌・連歌) E 2 5 6 6
 地黄坊樽次(じおうぼうたるつぐ)→ 春朔(しゅんさく・茨木/伊原城いばらき、医者/仮名草子) J 2 1 7 5
 塩辛小僧(しおからこぞう) → 物外(ものがい;道号・不遷ふせん;法諱、曹洞僧/武術) F 4 4 5 3
 塩辛坊(しおからぼう、雑俳)→ 紫蘭(しらん・南陀伽・窪俊満、絵師/狂歌/戯作) 2 2 1 5
 子屋(しおく・松崎) → 柳浪(りゅうろう・松崎まつさき、儒者/外交) F 4 9 8 9
 紫屋(しおく) → 歌麿(うたまろ・喜多川、絵師) 1 2 7 0
 紫屋(しおく・山田) → 昌之(まさゆき・山田やまだ、藩士/歌人) I 4 0 3 6
 芝屋(しおく・橋) → 泰(とある・橋たちばな、書肆/国学/篆刻) I 3 1 7 8
- N2113 汐子(しおこ・飯田いだ/旧姓;白岩)1794-1872?9 美作吉野郡の生、
 因幡気多郡加知弥神社神主飯田秀雄の妻;秀臣・年平・竜臣・俊子・輝子の母、
 夫と共に国学・歌人;本居大平門、歌;「鮎玉集」入
- 塩田入道(しおたのにゅうどう)→ 義政(よしまさ・北条/平、武将/連署/歌) G 4 7 9 4
 汐留亭丸々(しおどめていまるまる)→ 安董(やすただ・脇坂、藩主/老中/狂歌) B 4 5 9 1
 塩麿(しおまる・堀田) → 喜之(よしゆき・堀田ほった、国学者) O 4 7 9 9
 塩道(しおみち・定村) → 直孝(なおたか・定村さだむら/渡辺、神職/歌) K 3 2 9 1
 塩屋主人(しおやしゅじん) → 艶二(えんじ・塩屋しおや、洒落本/狂歌) 1 3 9 8
 陀々羅大尽だだらいじん/驍々閣
- 塩屋色主(しおやのいろぬし) → 艶二(えんじ・塩屋しおや、洒落本/狂歌) 1 3 9 8
 塩屋辛人(しおやのからんど、狂歌後万載入)→ 艶二(えんじ・塩屋) 1 3 9 8
 塩の舎(しおのや・磯部) → 正親(まさちか・磯部いそべ、神職/歌人) N 4 0 6 4
 潮廻舎(しおのや・内海) → 昭応(てるのり・内海うつみ、神職/国学) F 3 0 0 4
 塩屋勘兵衛(しおのやかんべえ)→ 勘兵衛(かんべえ・高島たかばたけ/高畑、考証家) R 1 5 6 2
- B2126 紫居(しおり) ? - ? 俳人・白雄門、1832「あさよもぎ」
 枝折(しおり・山道) → 山道枝折(やまみちのしおり、狂歌) E 4 5 2 5
 枝折子(しおりこ・佐久間)→ 立枝(たつえ・佐久間、女流歌人) R 2 6 5 5
- B2127 志遠(しおん;法諱、通称;円俊/速証上人、藤原光氏男)1241-1310?70 天台宗園城寺僧;阿闍梨、入宋、
 歌;人家和歌集に入集、新後撰集605(帰朝後に月を見て唐土を思い出しての詠)、
 [ふる郷さとの面影そひし夜半の月又もろこしのかたみなりけり](新後撰;羈旅605)
- B2128 紫苑(しおん、建部たけ、名;伎都きつ、涼袋[綾足]妻)?-?1785頃没 江戸深川の歌妓、養母;花木、
 1757建部綾足(1719-74)と結婚、夫の薦めで賀茂真淵門/飛鳥井家で修学、
 歌・歌学・俳諧・片歌・画に通ず、眼疾の夫に仕えながら自分の才を発揮、
 「あやにしき」画、「みちゆきふり」著、
 [紫苑(;通称)の名/号]名;伎都きつ、通称;橘女/沖津おきつ
- P2174 子温(しおん・石川いしかわ、名;維徳/惟徳、医者堀内栄清5男)1776-1856?81 信濃上伊那郡宮所村の生、
 信濃高遠藩士竹内栄重の養子、1795家督を継嗣;高遠藩士/代官職など歴任、

歌・書;星野葛山門/和算・音韻学;矢島敏彦門、高遠藩で和算を教授、
1804長崎でロシア使節より世界地図入手;模写、のち高遠領内の地図作成、1837致仕、
「究源算法」「算学階梯」「宗真算法」著、

[子温(;字)の幼名/通称/号]幼名;音五郎、通称;重左衛門、号;松斎

P2175 子温(しおん・西沢にしざわ、名;良)1788-1843⁵⁶ 信濃水内郡三輪村の書家:1804善光寺の馬島獅石門、
大字を得意;神社仏閣の幟を制作、「遵庵詩草」著、

[子温(;号)の通称/別号]通称;伝兵衛、別号;遵庵(じゅんあん)

子温(しおん・柳原/蔀) → 関月(かんげつ・蔀しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8
子温(しおん・喜多村) → 槐園(かいえん・喜多村きたむら、幕府医官) I 1 5 4 1
子温(しおん・内藤) → 政陽(まさあき・内藤、藩主/詩人) 4 0 9 6
子温(しおん・和田) → 省斎(せいさい・和田わた、藩儒/暦学/詩) B 2 4 5 3
子温(しおん・北畠、須原屋4世) → 恪斎(かくさい・北畠きたばたけ/北畠、書肆) J 1 5 8 2
子温(しおん・伊能/楫取) → 魚彦(なひこ・楫取/伊能、名主/歌人) 3 2 2 4
子温(しおん・柴田) → 元泰(げんたい・柴田しばた、幕府医官) K 1 8 8 9
子温(しおん・楊井) → 盛良(もりよし・楊井やない、藩士/儒者) G 4 4 8 9
子温(しおん・玉井/遠藤) → 高環((たか)り・遠藤/玉井、藩士/測量) M 2 6 8 0
子温(しおん・篠本) → 竹堂(ちくどう・篠本ささと/佐治、幕臣/儒) D 2 8 5 8
子温(しおん・猪瀬) → 豊城(ほうじょう・猪瀬いのせ、庄屋/儒者/詩) B 3 9 7 8
子温(しおん・塩川) → 文麟(ぶんりん・塩川、絵師) G 3 8 7 9
子温(しおん・富山) → 方亭(ほうてい・富山とみやま、医者/詩人) C 3 9 3 5
子温(しおん・寺門) → 静軒(せいけん・寺門てらかど、儒者、文筆家) 2 4 0 9
子温(しおん・松木) → 偉彦(ゑひこ・松木まつき、神職/書画) E 1 7 5 1
子温(しおん・山本) → 直寛(なおひろ・山本やまと、医者/歌人) P 3 2 2 3
子音(しおん・稲次) → 眞年(まとし・稲次いねづく、国学/歌) K 4 0 8 6
子音(しおん・本間) → 長玄(ちようげん・本間ほんま、医者) I 2 8 1 3
士温(しおん・白土) → 恵堂(けいどう・白土しらと、藩士/儒者) G 1 8 4 7
士温(しおん・井口) → 榴荘(りゅうそう・井口いぐち、大庄屋/教育) F 4 9 0 4
思温(しおん・高濃たかの) → 東洲(とうしゅう・高濃、藩士/文学/音楽) F 3 1 0 0
思温(しおん・小野) → 思温(もとはる・小野おの/佐伯、藩士/歌) J 4 4 4 6
至遠(しおん・法諱) → 孤山(こざん・道号・至遠:法諱、臨濟僧) M 1 9 5 6

Z2190 慈音(じおんに:法諱、名;宣徳、俗姓;水原)1835-1908⁷⁴ 京生;真宗本願寺派僧、
近江犬上郡円照寺住職、国学;高崎親義ちかよし(正風)門・宗学;慈空(宏遠)・超然の兄弟門、
超然・慈空の甥、叔父超然と共に勤王僧、維新後;1869彦根藩議事院議員、
1872本山の要務;執行しゅぎょう顧問、

[慈音の号] 虚谷/大悲院/幽香草堂/学貧斎

自音(慈音しおん:法諱) → 湖月(こげつ・道号・自音/慈音:法諱、曹洞僧) M 1 9 3 2
紫苑斎(しおんさい) → 蛸洲(れいしゅう・寺崎/三木/木、儒/詩) 5 1 3 7
慈恩寺律師(じおんじりっし) → 禅念(ぜんねん;法諱、真言僧/入唐) N 2 4 0 5
四恩亭(しおんてい) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
思恩堂非得(しおんどうひとく) → 非得(ひとく・思恩堂しおんどう、心学者) E 3 7 1 4

B2129 慈音尼(じおんに:法諱、号;兼葭けんか、俗姓;白井)1716-78⁶³ 近江吉田村の生/8歳で母没、
1731仏門を志す;京の薬師山の自秀尼の門;尼僧、近江正法寺村の桃谷尼門、
京六角堂前で病氣療養中に石田梅岩の講説に感動;梅岩門/心学を修学、
寛延元1748頃江戸で心学を布教、1756「兼葭反古けんかほうご集」/74「道德問答」著

子華(しか) → 興風(おきかぜ・源) 1 4 1 1
子華(しか・細川/源) → 興文(おきり・細川、藩主/詩歌人) 1 4 7 6
子華(しか・岩室) → 楽々(らくらく・岩室、醸造家/俳人) D 4 8 3 7
子華(しか・伊達) → 蕙園(けいえん・伊達だて、儒者/詩人) F 1 8 3 1
子華(しか・山中) → 秀之(ひでゆき・山中/秦、医者/救民活動) E 3 7 0 6
子華(しか・柴田/芝田) → 汶嶺(ぶんれい・柴田/芝田/柴、書家/漢学) G 3 8 8 1

子華(しか・関屋)	→ 高英(たかひで・関屋せきや、藩士/軍学/国学) X 2 6 7 9
子華(しか・植木/杉)	→ 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
子夏(しか・植田)	→ 孟縉(もうしん・植田うねだ、幕臣/史家) 4 4 5 8
子果(しか・二宮)	→ 桃亭(とうてい・二宮にのみや、医者/工芸) G 3 1 5 9
子嘉(しか・井上)	→ 玄会(はるかぜ・井上いのうえ、国学者) J 3 6 6 2
子霞(しか・島)	→ 霞卜(かぼく、島しま、商家/俳人) P 1 5 4 0
子暲(しか・島津)	→ 天錫(てんしゃく・島津、領主/詩人) D 3 0 7 0
士河(しか・前田)	→ 雲洞(うんどう・前田まへだ、藩士/儒者) E 1 2 0 2
士可(しか・舟木)	→ 嘉助(かすけ・須原屋/舟木、書肆/詩) F 1 5 9 1
士華(しか・斎田)	→ 茂先(しげゆき・斎田さいだ、藩士/地誌家) T 2 1 0 5
氏華(しか・北条)	→ 氏曄(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7
師夏(しか・中原)	→ 師夏(もろなつ・中原なかはら、廷臣/記録) H 4 4 6 3
師家(しか・藤原)	→ 師家(もろいえ・藤原ふじわら、廷臣/詩人) H 4 4 0 3
師軻(しか・勝村)	→ 獲齋(かくさい・勝村かつむら、儒者) J 1 5 8 3
此花(しか;号)	→ 孝明天皇(こうめいてんのう、歌人) B 1 9 9 4
士雅(しが・林)	→ 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭) F 3 9 2 5
士雅(しが・本庄)	→ 普一(ふいち・本庄/本荘ほんじょう、医者) 3 8 3 2
子雅(しが・山田)	→ 青門(せいもん・山田やまだ、藩士/儒者/詩) J 2 4 6 5
子雅(士雅しが・西山)	→ 拙齋(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0
子牙(しが・丹羽)	→ 嘯堂(しょうどう・丹羽にわ/源、漢学/医者) R 2 2 6 0
資雅(しが・源)	→ 資雅(すけまさ・源みなもと/白川、廷臣/歌) D 2 3 0 1
時夏(じか・名越/平)	→ 時夏(ときなつ・名越なごえ/北条、武家/歌) J 3 1 6 2
時夏(じか・岩橋)	→ 時夏(ときなつ・岩橋いわはし/大江、神職/国学) U 3 1 3 2
次賀(じが・早井)	→ 次賀(つぎよし・早井はやい、和算家) E 2 9 8 2
此花庵(しかあん)	→ 鶯宿(おうしゆく・八木、俳人) 1 4 4 9
柿下庵(しかあん)	→ 不言(ふげん・省、俳人) B 3 8 7 6
子介(しかい・石屏)	→ 石屏(しっぺい:道号・子介:法諱、臨濟僧) V 2 1 0 7
子海(しかい・壺井)	→ 義知(よしちか・壺井つばい、故実家) 4 7 1 9
子戒(しかい・岡本)	→ 況齋(きやうさい・岡本、儒/国学者) I 1 6 7 9
子晦(しかい・頼)	→ 采真(さいしん・頼らい、藩士/儒者) G 2 0 2 2
子晦(しかい・中村)	→ 蘭林(らんりん・中村/藤原、幕医/儒者) D 4 8 2 9
士介(しかい・武田)	→ 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2
士皆(しかい・岡部)	→ 謚(まこと・岡部おかべ/平山、国史/博学) O 4 0 5 8
士開(しかい・藤井)	→ 竹外(ちくがい・藤井、藩士/鉄砲/詩人) C 2 8 7 8
士晦(しかい・山脇)	→ 道円(どうえん・山脇やまわき、医者/儒者) B 3 1 5 7
士晦(しかい・藤井)	→ 暮庵(ぼあん・藤井ふじい、大庄屋/詩人) 3 9 0 7
士懐(しかい・山崎)	→ 義故(よしもと・山崎やまざき、藩士/書家) H 4 7 6 9
四海(しかい・大沢)	→ 赤城(せきじょう・大沢おおさわ、藩儒) D 2 4 5 9
紫海(しかい)	→ 文晔(ぶんぎょう・藁井、俳人) F 3 8 0 4
紫海(しかい)	→ 文晔(ぶんぎょう;法諱・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
紫海(しかい・池尻)	→ 始(はじめ・池尻いけじり、儒者/勤王) E 3 6 4 2
紫海(しかい・小野/竹原)	→ 玄路(はるみち・竹原/小野、歌人) G 3 6 9 4
紫海(しかい・秋吉)	→ 錦水(きんすい・秋吉あきよし、医者) R 1 6 2 5
子艾(しがい・能美)	→ 洞庵(とうあん・能美のうみ、医者) 3 1 8 3

B2130 **慈快**(じかい;法諱、西園寺公衡男) 1305-4440 天台宗曼殊院門跡、東南院僧正、1328法印、歌人、勅撰3首;風雅(1987)新千載(2070)新拾遺(1809)、
[聞くたびによそのあはれと思ふこそなき人よりもはかなかりけり]
(風雅;雑1987/無常の心を)

P2176 **慈海**(じかい;法諱・宗順;字、俗姓;須田) 1624-9370 江戸目黒の天台僧;川越喜多院で修学、

- のち寛永寺凌雲院6世、訓点諸経・諸陀羅尼を刻す;慈海本と称される、贈大僧正、亮弁の師、1659「宗光寺生順僧正行業記」著/62「天台三大部序勘文」「止観釈籤序勘文」編、1675・80「天台四教集解標指鈔」、「五辛辨」「宋科私」「玄義釈籤引抛」「法華文句序勘文」著
- P2177 **慈海**(じかい;法諱;字;性謙/慧琳) 1681-1746⁶⁶ 近江犬神郡高宮の真宗本願寺派円照寺の住職、宗学;若霖門/余乗;光謙・義瑞・鳳潭、1721本山の学校の安居の附講/44安居代講、大般若経6百巻を書写、「無量寿経両願成就文略」釈、
[慈海(;法諱)の諡号] 開善院
- 慈海(じかい;初法諱) → 宝巖(ほうがん;道号・興隆;法諱、曹洞僧/古典) 3 9 3 3
 自晦(自悔じかい・並河) → 魯山(ろざん・並河なみかわ/なびかわ/並、藩儒) B 5 2 5 7
 志解喜(しかいき→しげき・城) → 志解喜(しげき・城じょう、馬術家) Q 2 1 8 6
 詞海斎(しかいさい・山本) → 輪田丸(わだまる・山本、醸造業/狂歌) 5 3 4 2
 四海仙(しかいせん) → 變化(らんか・高木たかぎ、春秋庵、俳人) B 4 8 6 3
 此花園(しかえん) → 春菘(はるみの・葉山はやま、故実家/藩士) K 3 6 5 9
 紫花園(しかえん) → 樺柯(さいか・松本まつもと、医/本草/俳人) 2 0 6 6
 紫霞園(しかえん) → 治憲(はるのり・上杉、藩主/財政改革) G 3 6 7 1
 梓化園(しかえん) → 重時(しげとき・蔵田くらた/藤原、役人/歌) O 2 1 3 1
- P2178 **思鶴**(しかく・ヨシヤ) 1650 - 1668^{夭逝}19 遊女/琉歌人、「琉歌全集」23首入、
[恨む比謝橋やわぬ渡さともて/情ないぬ人のかけておきやら]
- B2187 **子角**(しかく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(370)
 M2127 **只角**(しかく) ? - ? 江前期俳人;1694不角「へらず口」入、
[奥様に値をまけて売る下女が夢](へらず口/前句;いざ此の春の笑ひ初ぞせん)
- M2129 **私角**(しかく) ? - ? 上総木更津の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、
[請取うけとりし杓子は嫁の後ろ楯だて](広原海/杓子渡しは台所の支配権の譲渡;妻の座安定)
- P2179 **紙隔**(しかく・板羽、別号;葩象房はしょうぼう) 1717-67⁵¹ 京の俳人:風状門、1755「行脚寄句帖」編、1556「ゆきあかり」67「丁亥除元集」編
- B2131 **士角**(しかく) ? - ? 雑俳:松鱸門、1831松鱸「狂句むめ柳」入
 子恪(しかく・松平) → 頼慎(よりよし・松平、藩主/文筆家) K 4 7 0 3
 子格(しかく・富樫) → 盛正(もりまさ・富樫とし、藩医/国学) K 4 4 6 8
 子鶴(しかく・井部) → 香山(こうざん・井部いべ、儒者/詩人) G 1 9 3 7
 子赫(しかく・板倉) → 勝明(かつあき・板倉いたくら、藩主/儒者) C 1 5 3 9
- B2132 **士譚**(しがく;号・荒木あらし、名;謗けん)?-? 伊勢津藩儒/江戸住、藩主藤堂高潔の侍読、1840「文語碎錦」編
- O2137 **紫岳**(しがく・小島こじま、通称;伝七) 1818-87⁷⁰ 近江甲賀郡の歌人;[鴉のうみ]入
 士岳(芝岳しがく・佐藤) → 忠泰(ただやす・佐藤さとう、藩校総裁/国学) X 2 6 2 5
 士萼(士萼/士鄂しがく・塩田) → 随斎(ずいさい・塩田、藩士/儒者/詩) 2 3 5 9
 子学(しがく・竹村) → 好博(よしひろ・竹村/武村、藩士/和算家) G 4 7 6 8
 子鄂(しがく・小原/中川) → 漁村(ぎよそん・中川なかがわ、藩士/儒者) P 1 6 7 8
 士岳(しがく・原) → 花祭(かさい・原、儒者/教育) H 1 5 4 3
 子萼(しがく・和智わち) → 東郊(とうこう・和智、儒者/詩) D 3 1 7 5
 子岳(しがく・佐々木) → 魯庵(ろあん・佐々木;/左、儒者/医者) 5 2 1 2
 子岳(しがく・藤尾) → 東鳳(とうほう・藤尾、書家) H 3 1 1 6
 芝岳(しがく・松平) → 頼覚(よりさと・松平まつだいら、藩主名代) P 4 7 2 2
 獅岳(しがく・大岡) → 篤雄(あつお・大岡おおおか、真言僧/狂歌) H 1 0 2 1
 自覚(じかく、号) → 景雄(かげお・三島、歌人) 1 5 6 6
 字角(じかく;字・青木) → 徳峯(とくほう・青木、詩文/歌) L 3 1 3 9
- P2180 **慈岳**(じがく・三上みかみ、別号;凍青堂)?-? 室町期摂津住吉郡平野郷の医者、1484(文明16)「和方(和方凍青堂家言)」編
- P2181 **慈岳**(じがく;道号・道琛どうちん;法諱、俗姓;張) 1632-89⁵⁸ 明福建;泉州府永春県の黄檗僧;木庵もくあん門、1655師に従い渡来;72長崎福濟寺2世、摂津普門寺で隠元に面謁;

山城万福寺で嗣法/永聖院創設; 退休所とす、飢饉の時施粥を実施; 多くの人命を救済、
「永聖禅居草」著、

[慈岳道琛の初号/初法諱] 初号; 無瑕明智、初法諱; 定琛

- B2133 **仕学斎**(しがくさい・安東あんどう、名; 守経もりつね、洞庵とうあん男)?-1760 筑後柳川藩士/儒: 伊東東涯門、
1713帰郷後藩儒、「遊洛稿」「立花近代実録」「文法私考」「経語楓冷」、「仕学斎文集」息守官編、
[仕学斎の字/別号] 字; 士勤/斯文、通称; 助之進/多記、別号; 続醒斎

滋岳川人(しがくせんじん) → 川人(せんじん・滋岳、陰陽家) G 2 4 0 4

慈覚大師(じかくだいし) → 円仁(えんにん、天台宗山門派の祖) B 1 3 2 8

四角亭丸麿(しかくていまるまろ) → 丸麿(まるまろ・四角亭、大橋氏直、戯作) K 4 0 2 1

鹿子(しかこ・正宗) → 鹿子(かし・しかこ・正宗まさむね、歌人) V 1 5 6 9

- B2134 **志賀子**(しがこ・山梨やまなし、初名; 奈加、山梨平四郎治重女) 1738-1814 77 駿河庵原郡西方村の生、
飯塚維亮(婿養子)の妻、歌人: 芝山持豊門、1792息子稲川とうせんらと近畿・安藝厳島の旅、
1792歌日記「春埜道久佐」、「山梨志賀子詠草」著、法号; 慈海智航大姉

慈花庵(じかさい) → 明融(めいゆう、俗姓; 冷泉/時宗僧/歌) 4 3 4 4

紫霞山人(しかさんじん) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/詩人) 4 4 4 1

四課処(しかしよ・宮) → 筠圃(いんぼ・宮崎みやざき、儒者/書画) E 1 1 7 0

鹿次郎(しかじろう・安井) → 克文(かつふみ・安井やすい、酒豪業/国学) W 1 5 0 5

- P2182 **牡鹿輔**(しかすけ・松岡まつおか、名; 利長)?-? 1836存: 70余歳 尾張藩士/国学者: 1792本居宣長門、
1836致仕、1800「本朝軍器考図後篇玉箒」著、
[牡鹿輔(; 通称)の別通称] 鹿助

此花仙(しかせん・小笠原) → 祇尹(ぎいん・小笠原おがさわら、幕臣/俳人) 1 6 7 8

地形方丸(じかたかたまる) → 堅丸(かたまる・地形堂じぎょうどう、山崎春方、幕臣/狂歌) N 1 5 0 9

鹿杖山人(しかつえさんじん) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1

志我津采女(しがつのうねめ) → 吉備津采女(きびつのうねめ) 6 2 7 2

鹿都部真顔(しかつべのまがお) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1

四月坊(しがつぼう) → 布門(ふもん・桑原、医/俳人) E 3 8 1 7

- M2113 **志賀寺上人**(しがでらしょうにん、志賀寺の聖、朝観[長寛])?-? 平安前期大津志賀寺の修業僧、
90歳のころ70年間修行しながら京極御息所と目を合わせた途端恋に陥った伝説の人、
上人が御簾から出した御息所の手を取り 家持の歌、
「初春の初子はつねの今日の玉箒たまはき手に取るからに揺らぐ玉の緒」(万葉4493)と詠むと、
御息所が「よしさらばまことの道のしるべして我をいざなへゆらぐ玉の緒」、
(のちに上歌「極楽の玉のうてなの蓮葉はちすばに」)を返し老僧の心がおさまったという逸話;
俊頼髓脳・和漢童蒙抄・古来風体抄・宝物集・源平盛衰記・三国伝記・太平記(巻36)等々に入
参考 → 京極御息所(きょうごくのみやすどころ、褒子よしこ/ほうし) C 1 6 4 7

詞花堂(しかどう) → 貞雄(さだお・細井、商家/国学/故実) 2 0 1 7

止戈堂(しかどう) → 共昌(ともまさ・山国やまくに、藩士/攘夷派) Q 3 1 5 7

志賀白水郎(しかのあま、万葉歌群) → 荒雄(あらお、志賀島海人) B 1 0 6 2

→ 津麻呂(つまる・宗形部) E 2 9 3 4

→ 志賀白水郎妻子(しかのあまのめこ) B 2 1 3 5

- B2135 **志賀白水郎妻子**(しかのあまのめこ)?-? 万葉十六3860-69: 志賀白水郎歌群;

夫荒雄の死を慷慨する詠歌(; 山上憶良が代作)、

[荒雄らを来こむか来こじかと飯い盛りて門かどに出で立ち待てど来きまさず](万葉; 3861)

- P2183 **鹿之助**(しかのすけ・山中やまなか、名; 幸盛ゆきもり、山中満幸男) 1547?-1578 母: なみ(立原綱重女)、
戦国武将/出自不明; 宇多源氏佐々木氏流or橘姓近江山中氏庶流、通説; 出雲富田庄の生、
幸高/幸盛の兄弟、正室: 亀井秀綱女/幸元・幸範・吉和義兼室の父、
出雲月山富田城の尼子氏の家臣; 尼子勝久を擁し尼子家再興を図るが失敗、
幼少より弓馬や軍法を習得/16歳で尼子義久の伯耆尾高城攻めに随行; 軍功、
一時亀井秀綱の養子、のち兄幸高に替り山中家を継嗣、1562(永禄5)毛利軍の出雲侵攻、
尼子義久(晴久は前年1561没)は月山富田城に布陣;

幸盛は重要拠点白鹿城を尼子倫久に随い従軍するが敗戦し富田城に撤退；
 幸盛は軍の後陣を務め吉川・小早川軍を7度撃退するが遂に落城、
 1565毛利軍が月山富田城総攻撃、幸盛の奮戦などで尼子軍勝利、1566毛利が三度総攻撃、
 1567兵糧欠乏し尼子義久は降伏；義久ら3兄弟は円明寺に幽閉；幸盛は随従を許されず、
 幸盛は浪人となるが尼子再興運動に尽力；1569(永禄12)船で出雲に上陸し旧臣を集める、
 毛利元就の九州攻めの隙に出雲を支配；末次城基点に伯耆・因幡・備後・備中・美作に拡大、
 しかし九州から引返した毛利軍に尼子再興軍は敗走；布部の敗戦で2城のみ守る、
 元就重病のため毛利軍は安藝に帰還；その隙に幸盛は尼子再興軍を再編；毛利軍に攻勢、
 島根半島を制圧するが毛利軍に援軍が来て劣勢/1571(元亀2)最後の新山城落城、
 尼子勝久は落城前に脱出し隠岐へ逃亡/末吉城で幸盛も捕縛；尾高城幽閉/脱出し隠岐へ、
 1572幸盛は但馬に潜伏/因幡桐山城を攻略し拠点とする、鳥取城を落し東因幡一円を支配、
 吉川元春と小早川隆景の毛利軍の攻撃を受け尼子再興軍は1576(天正4)若桜鬼ヶ城撤退、
 1578播磨上月城で毛利氏に捕縛/斬殺；三度の再興運動が終わる、
 のち尼子十勇士とし陰徳太平記など軍記読本に脚色される、

[鹿之助(；通称)の別名/別通称]別名；山中甚次郎/亀井甚次郎/山中鹿介幸盛、
 別通称；鹿之介/鹿介/鹿助、山陰の麒麟児、法号；幸盛寺殿/幸盛院殿

- 鹿之助(しかのすけ・安部) → 信孝(のぶたか・安部/安倍あべ、幕臣、歌) G 3 5 9 4
 鹿之助(しかのすけ・稲葉) → 豊厚(とよあつ・稲葉いなば、藩士/歌人) U 3 1 2 6
 鹿之助(しかのすけ・春日かすが；変名) → 春邨(はるむら・宇陀うだ、国学/勤王) J 3 6 7 5
 鹿之助(しかのすけ・木村) → 信風(のぶかぜ・木村きむら、商家/国学/歌) I 3 5 1 3
 鹿之介(しかのすけ・桜井) → 春樹(はるき・桜井さくらい、歌人) K 3 6 0 4
 鹿之祐(しかのすけ・河村) → 竹溪(ちくけい・河村かわむら、儒者) C 2 8 9 1
 志賀之助(しがのすけ・木下) → 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
 志賀僧正(しがのそうじょう) → 明尊(みょうそん；法諱、天台園城寺僧/歌) G 4 1 5 5
 鹿野武左衛門(しかのぶざえもん) → 武左衛門(ぶざえもん・鹿野しかの、嘶家祖) 3 8 0 5

B2137 鹿野山住(しかのやまづみ、関岡せきおか、通称；栄次郎、別号；松亭) ?-? 江中期江戸下谷御徒町の狂歌作者、
 1787才蔵集1首：453、

[通ひくる足もだるまの年ふれば腰をぬかすと君悟とれかし](才蔵集：恋453/寄達磨恋)、
 (足もだるいと達磨を掛る/腰は達磨の縁語)

鹿廼家真菰(しかのやまはぎずみ) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、商家/戯作) C 1 5 9 3

P2184 鹿古(しかふる・浅野あさの、名；方玄) ?-? 1807存 加賀金沢藩老の本多家家臣/俳人；關更門、
 1795「はなのつと」著、

[鹿古(；号)の別号]号；不卜/園亭、諡号；劍先生

- 糸瓜坊(しかぼう) → 立砂(りゅうさ・今日庵、俳人) D 4 9 9 7
 紫華坊(しかぼう) → 竹郎(ちくろう・紫華坊、俳人) D 2 8 9 8

B2138 志加麻呂(しかまろ・刑部おさかべ) ?-? 755防人/下総猿島郡さしまのこり、万葉廿4390、
 [群玉むらたまのくるにくぎ刺し固めとし妹が心は動あよくなめかし](万葉集；廿4390)、
 (なめかしは反語表現)

似我老人(じがろうじん) → 逸淵(いつえん・児玉/久米、俳人) B 1 1 3 4

P2185 士幹(しかん・甲斐かい、名；重秋) 1785-1837 53 日向北方村曾木の儒・医者、漢学；武石道生門、
 医学；延岡藩医新妻文冲門/1811上京し儒；頼山陽門、1812帰郷/13長崎で医学・蘭語修学、
 1817頃延岡藩士；5人扶持、「幾理乃乎加能きりのおかの歌集」；編、「霧岡翁(武石道生)行状記」著、
 [士幹(；号)の字]字；文貞

P2186 之幹(しかん・高洲たかす、名；貞) ?-? 江後期摂津の儒者；鴨田白翁[1741-1811]門、
 1819「白翁先生遺稿」校訂

B2139 子幹(しかん・三宅みやけ) ?-? 摂津大坂の伝記作者、
 1845伝記「浪華名流記」著(浪華諸家の名寄/初版；播磨屋五郎兵衛刊/2版1856聯珠堂刊)

P2187 子幹(しかん・上田うへだ、名；貞固さだかた/章、直吉男) 1833-81 49 紀伊の儒者；松崎慊堂・安井息軒門、
 さらに塩谷宕陰門、昌平黌で修学、和歌山藩に出仕/1862江戸の藩校明教館寮長、
 維新後；和歌山公用局副知事、「南紀名臣伝略」「南竜公年譜」著、

[子幹(;字)の通称] 専太郎

之幹(しかん・三木)	→	之幹(ゆきもと・三木みき/源、藩士/漢学)	F 4 6 8 2
之幹(しかん・最里)	→	公濟(こうさい・最里さいり、医者)	I 1 9 9 0
之幹(しかん・鈴木)	→	遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者)	F 2 3 1 6
之幹(しかん・中島)	→	通軒(つうけん・中島なかじま、儒者)	2 9 2 6
之翰(しかん・ゆきふみ・丹波)	→	修治(しゅうじ・丹波/木村、博物学/歌)	B 2 1 4 0
之翰(しかん・松井)	→	之翰(これふみ・松井まつい、藩医/歌人)	R 1 9 3 2
之寛(しかん・藤堂/西島)	→	百歳(ひやくさい・西島/藤堂、藩士/俳人)	E 3 7 4 8
子干(しかん・菅)	→	政友(まさとも・まさすけ・菅かん、儒/国学者)	E 4 0 7 8
子串(しかん/しせん・植木)	→	椒園(しょうえん・植木うえき、詩人)	H 2 2 3 2
子奂(しかん・伊達)	→	氏伴(うじとも・伊達だて、国学者)	E 1 2 7 4
子漢(しかん・八田)	→	竜溪(りゅうけい・八田はつた、藩儒者/兵学)	D 4 9 4 8
子漢(しかん)	→	蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師)	3 8 1 1
子漢(しかん・甲斐)	→	広永(ひろなが・甲斐かい、和算家/教育)	G 3 7 6 2
子幹(しかん・中島)	→	通軒(つうけん・中島、儒者)	2 9 2 6
子幹(しかん・藤川)	→	冬斎(とうさい・藤川、儒者)	E 3 1 3 0
子幹(しかん・福島)	→	松江(しょうこう・福島/福、儒者/詩文)	S 2 2 1 4
子幹(しかん・木村)	→	直条(なおえだ・木村、藩士/詩人)	3 2 7 8
子幹(しかん・中原)	→	蕉斎(しょうさい・中原/藤井、儒者)	S 2 2 3 4
子幹(しかん・松平/中川)	→	久貞(ひささだ・中川なかがわ/松平、藩主)	B 3 7 0 5
子幹(しかん・岡田)	→	文誰(ぶんすい・岡田おかだ、俳人)	F 3 8 8 4
子幹(しかん・真野)	→	守貞(もりさだ・真野まの、商家/詩歌人)	L 4 4 2 8
子幹(しかん・野阪)	→	元貞(もとさだ・野阪のさか、神職/和学)	K 4 4 9 1
子幹(しかん・堤/恵美)	→	三白(さんぱく・恵美えみ/堤、医者)	M 2 0 6 9
子幹(しかん・三井)	→	丹丘(たんきゅう・三井みつい、医者/絵師)	T 2 6 2 8
子幹(しかん・曲直瀬)	→	正貞(しょうてい・曲直瀬まなせ/越智、医者/本草)	K 2 2 9 9
子環(しかん・志村)	→	五城(ごじょう・志村、儒者)	G 1 9 4 6
子寛(士寛しかん;字・谷口)	→	陶溪(とうけい・谷口たにぐち、藩士/歌人)	D 3 1 1 9
子寛(しかん・小山田)	→	宗碩(そうせき・小山田おやまだ、藩医者)	I 2 5 2 0
子寛(しかん・今枝)	→	直温(なおほる・今枝、藩士/儒者)	C 3 2 1 1
子寛(しかん・足利)	→	義根(よしね・足利/源/平嶋、詩人)	F 4 7 4 9
子寛(しかん;字)	→	信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書)	2 2 1 8
子寛(しかん;字・常見)	→	浩斎(こうさい・常見つねみ、藩士/儒者)	I 1 9 8 9
子寛(士寛しかん・沢村)	→	西陂(西坡せいは/せいひ・沢村、藩士/儒)	C 2 4 7 6
子寛(しかん・萩原)	→	西疇(せいちゅう・萩原はぎわら、漢学者)	C 2 4 6 0
子観(しかん・高橋)	→	東臯(とうこう・高橋、商家/書家/俳人)	D 3 1 8 3
子鑑(しかん;字・清水)	→	長年(ながとし・清水、藩士/紀行)	E 3 2 8 4
子鑑(しかん・寺崎)	→	梅坡(ばいは・寺崎てらさき、儒者)	B 3 6 9 5
子簡(しかん・千葉)	→	逸斎(いつさい・千葉ちば、藩士/儒者)	E 1 1 1 9
子簡(しかん・村田)	→	氏章(うじあき・村田、藩士/文筆家)	C 1 2 3 0
子簡(しかん・早川)	→	直温(なおほる・早川はやかわ、州吏/歌人)	O 3 2 4 1
子貫(しかん・山井)	→	景貫(かげつら・山井やまのい、楽人)	L 1 5 0 5
子貫(しかん・会田)	→	安明(やすあき・会田あいだ、和算家)	4 5 8 0
子貫(しかん・神戸)	→	由道(よしみち・神戸かんべ、詩人)	H 4 7 3 9
子貫(しかん・岩田)	→	夫山(ふざん・岩田いわた、書家)	C 3 8 3 2
子貫(しかん・神谷)	→	道一(みちかず・神谷かみや、国学/史家)	I 4 1 7 0
子堪(しかん・志賀)	→	理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌)	B 4 9 0 8
子煥(しかん・大槻)	→	玄沢(げんたく・大槻おおつき、蘭医/洋学者)	1 8 2 4
子煥(しかん・鈴木)	→	澶洲(せんしゅう・鈴木/木、儒者)	F 2 4 8 9

- 子儻(しかん・石川/石) → 公瑟(こうしつ・石川/修姓;石、詩人) J 1 9 4 5
- 士簡(しかん・岡田) → 鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、神職/儒者) H 1 5 3 9
- 士諫(しかん・華岡) → 南洋(なんよう・華岡/奥おく、医者) 3 2 4 9
- 士觀(しかん/さちまろ・村田) → 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6
- 士煥(士乾・日柳) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
- 士乾(しかん・羽倉) → 簡堂(かんどう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3
- 士寛(しかん・桂) → 金溪(きんけい・桂かつら、藩士/儒者) I 1 6 9 8
- 士寛(しかん・谷口) → 陶溪(とうけい・谷口たにくち、藩士/歌人) D 3 1 1 9
- 士幹(しかん・桑そう/桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2
- 士幹(しかん・石作) → 駒石(くせき・石作いしづり、漢学/詩人) 1 7 5 1
- 士幹(しかん・竹内) → 玄洞(げんどう・竹内たけのうち、蘭方医) L 1 8 9 5
- 士幹(しかん・関) → 兔毛(とも・関せき、藩士/詩/狂歌) P 3 1 0 3
- 士幹(しかん・上田) → 陸舟(りくしゅう・上田うえだ、藩士/儒者) 4 9 7 5
- 士閑(しかん・中井) → 醉亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6
- 矢幹(しかん・小森/西野) → 常菴(じょうりゅう・西野/小森、儒者) L 2 2 9 3
- 芝翫(2世しかん/しがん・中村) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5
- 氏貫(しかん・松江) → 氏貫(うじつら・松江、杉垣、藩士/書家) C 1 2 5 0
- 氏貫(しかん・藤波) → 氏貫(うじつら・藤波/荒木田、神職) C 1 2 4 8
- 示勸(しかん;字) → 日寿(にちじゅ;法諱・遠成院、日蓮僧) C 3 3 1 3
- 示觀(しかん;字) → 凝然(ぎょうねん;法諱・示觀、華嚴僧) C 1 6 8 1
- 至觀(しかん・中村) → 仏庵(ぶつあん・中村、書家) D 3 8 2 4
- 思寛(しかん・東久世) → 通積(みちつむ・東久世ひがしぐせ、廷臣/神道) K 4 1 2 3
- 資寛(しかん→すけひろ・太田) → 資寧(すけやす・太田おた、旗本/幕臣/歌) H 2 3 8 9
- P2188 **獅岩**(獅嶺しがん;道号・如吼によく;法諱、弘岳了誓男)?-1682 黄檗僧;相模小田原紹太寺鉄牛道機門、師に随従し江戸白金瑞聖寺に移住/1677嗣法、師に随い武蔵葛郡那須田村の弘福寺に移住、「獅岩和尚問答記録」著
- B2141 **只丸**(しがん、法諱;覚印) 1640-1712 73 真宗高田派の僧;京の本誓寺福昌庵住職、大阪欣浄寺住職/俳人;才麿門、雑俳点者、浄瑠璃作者;作品不詳、1691「小松原」編、1692「誹諧足揃あしぞろへ永代記非言」著、94「丹後鯉」編、「白鷺集」「参河白」「只折集下」編、[只丸(;号)の別号]別号;竺丸/弄松閣/弄樟閣/鴨水子、諡号;樹心房
- P2189 **紫巖**(しがん・本城ほんじょう/一時;山県、名;桓/寛、本城光恒男) 1737-1803 67 周防の儒者;国富鳳山門、1758萩明倫館の山根華陽門/1765江戸の滝鶴台門/1769帰藩;周防徳山藩儒、1785藩校鳴鳳館初代学頭、「徳府故執法青木君行状」著、「紫巖遺稿」、青木葵園・坂仲礼の師、[紫巖(;号)の字/通称]字;子猛、通称;秀吉/寛治、太華の養父
- 子巖(しがん・佐久間) → 洞巖(とうがん・佐久間、儒者/詩文) C 3 1 3 1
- 子巖(しがん・小野) → 栄重(よしげ・小野おの/須藤、和算家) D 4 7 6 1
- 芝翫(しがん、俳名) → 歌右衛門(うたえもん三世・中村、初世金沢龍玉) 1 2 6 4
- 芝翫(2世しがん、俳名) → 歌右衛門(うたえもん四世・中村、金沢龍玉;脚本) 1 2 6 5
- 芝岩(しがん・山科) → 道庵(どうあん・山科やましな、医者) 3 1 9 2
- 芝巖(しがん;道号・昭皓;法諱) → 利貞(としさだ・高志たかし、惣年寄/儒/禅僧) M 3 1 4 6
- P2190 **慈観**(じかん;法諱・良厳りょうごん;字、号;慈観坊)?-? 1325存 浄土僧/名越流;尊観門、下総古河正定寺2世、鎌倉や近江報恩寺などに住、1290「浄土問答集」1325「十六条事」、「十六ヶ条義決宗要」「浄土宗要論」著
- B2142 **慈寛**(じかん;法諱、俗名;藤原忠幸)?-? 鎌倉期1303-24頃の僧;法師、関東に関係ある武士か?歌人、続現葉入、拾遺和歌集の講説を行う、続千載2068、[おどろかぬ心ぞつらき目の前にさだめなき世の夢はみれども](続千載;哀傷歌2068)、[慈寛(;法諱)の通称]磐木/西山磐木
- P2192 **自閑**(じかん・篠崎しのぎ、名;高義、通称;藤右衛門) 1620-81 62 常陸水戸藩士;慶安1648-52頃進仕、文筆家、「篠崎筆記」「篠崎藤右衛門漫記」著
- a2170 **自閑**(じかん;号) ? - ? 江前期;歌人、

1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[しばし今訪とはでよそめを忍ぶずり衣の関に心へだつな]、
(若むらさき;161/寄関恋/忍ぶに信夫摺を掛る)

☆自閑?;塩村自閑(正木の葛・文翰雑編入)・牛込自閑(近代一人一首入)・篠崎自閑など

2106 似閑(自閑じかん・今井いまい) 1657-172367 京の商家大字屋の3男/富商;父没後20年間家業専念、
国学;木瀬三之・下河辺長流門/隠居後に学問に専念;1695契沖門/万葉研究、古典校訂、
収集した書籍を上賀茂社に奉納(三手文庫)、「万葉緯」20巻編、「神楽歌催馬楽註解」著、
「むろの早わせ」「今井似閑覚書」「今井似閑消息」著/「諸説録」「風土記逸文」編、
歌人;宮川松堅(1632-1726)門、1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[梅が香をさそへる風に身をなしてつれなき人の袖にいらばや]、
(倭譚五十人一首;17/寄梅恋/風になって袖に入りたい)

[似閑(;名)の通称/号]通称;小四郎/円雄/大字屋市兵衛、号;見牛/偃鼠亭えんそてい

B2143 慈観(じかん;法諱・玄道;字、号;照空房)?-? 江前期1682-1704頃肥前の新義真言宗の学僧;
青龍寺慈門門/智積院運敵門、名古屋長久寺住職/江戸円福寺住職、詩、1682「退隠唱和集」、
1684「百法問答鈔玄談」著/92運敵「瑞林集」編/跋、94「泊如和尚伝」、「退隠唱和集続」著、
「住心品疏略解助講」「瑞応僧正泊如和尚年譜」著/「青竜慈門和尚行録」(1722刊)、

P2193 慈観(じかん;法諱、俗姓;青柳)?-? 江中期下総滑河の天台僧、鎌倉宝戒寺50世、
1716「指要鈔詳解考」、「観音玄記補忘記」「観音玄記補忘記艸稿」著、
[慈観(;法諱)の別法諱/字/通称]別法諱;随範、字;石頭、通称;大順、慈孝の師
観中門の随範と同一? → 随範(ずいはん;法諱、天台僧) E 2 3 9 4

P2194 慈観(じかん;法諱、号;淵静/松泉沙彌)?-? 1777存 江戸中期天台僧:
安永五-六1776-7頃「仏心印記千鳴録」著

P2195 慈観(じかん;法諱、俗姓;木塚) 1794-186673 下野佐野楨野村の天台僧;1805日光山入山、
華嚴院慈傍門;得度/1822同院に住す/1848修学院を管し学頭、大僧正、著多数;焼失、
「開山勝道上人和讃」著、歌人;「下野歌枕」編、
[慈観(;法諱)の通称/号]通称;無為道人、号;功德林院ぐとくりんいん/大痴

茲監(じかん・亀井) → 茲監(これみ、これかみ・亀井、藩主/詩) E 1 9 5 1
自完(じかん・日下) → 房元(ふさもと・日下くさか/小栗、幕臣/歌) I 3 8 1 6
自寛(じかん;号) → 定誠(さだのぶ・花山院/藤原、廷臣/記録) J 2 0 1 4
自寛(じかん;法号・三島) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6
自寛(じかん・八木) → 質(ただす・八木、和算家) P 2 6 6 3
自閑(じかん・白石) → 又衛門(またえもん・白石、藩士/啓蒙書) J 4 0 3 5
自閑(じかん・浅野) → 保武(やすたけ・浅野あさの、歌人/華/茶人) F 4 5 1 4
自観(じかん;法号) → 有文(ありぶみ・千種ちぐさ/源、廷臣/歌) F 1 0 7 8
時寛(じかん・河地) → 時寛(ときひろ・河地かわち、国学者) U 3 1 8 6
滋幹(じかん・藤原) → 滋幹(しげもと・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 1 1 7
慈観(じかん;初諱) → 浄阿(29代じょうあ;慈観、時宗僧/歌) V 2 2 5 3
慈観(じかん;号) → 綱巖(こうごん;法諱・慈観、真宗僧/錦織寺中興) I 1 9 8 0
慈観(じかん;字) → 日静(にちじょう;法諱、日蓮僧) C 3 3 4 2
慈観(じかん;法名) → 教家(のりえ・九条、和漢学/詩歌) 3 5 1 8

P2196 慈願(じがん;法諱) ? - ? 鎌倉南北期僧;法師・歌人/連歌、
1345刊[藤葉とうよう集]入/1356刊[菟玖波集]1句入、
[うらむとや人はみるらんみのうさにあまりておつる袖の涙を](藤葉:恋612)、
[岸のひたひをあらふ白浪](菟玖波;十四雑1359/前句;みどりなる柳の眉ハみだれけり)
[資祐(;名)の通称/法名]通称;/要人、法名;日桂

滋丸(じがん/しげまる?・長沢) → 資祐(すけやす・長沢、資親男幕臣/高家) H 2 3 1 7
止観院(じかんいん) → 保光(やすみつ・柳沢、藩主/諸芸) D 4 5 1 6
慈眼院(じがんいん → じげんいん) → 日恵(にちえ;法諱、日蓮僧) 3 3 5 4
慈眼院(じがんいん → じげんいん) → 日晴(にっせい;法諱、日蓮僧) E 3 3 6 4
慈眼院(じがんいん → じげんいん) → 普門(ふもん;法諱・潮誉、真宗高田派僧) E 3 8 1 5

慈眼院(じがんいん→じげんいん)→	慈眼院(じげんいん・勅使河原、歌人)	Z 2 1 4 6
詞翫苑(じかんえん)	→ 厚和(あつかず・周防すおう、歌人)	E 1 0 5 3
示観国師(しかんこくし;諡号)→	凝然(ぎょうねん;法諱・示観、華嚴僧)	C 1 6 8 1
自喚居士(じかんこじ)	→ 西馬(さいば・富処ふどころ、俳人)	B 2 0 0 5
自観居士(じかんこじ)	→ 黙翁(もくおう・土肥どひ、儒者/講説業)	4 4 7 1
思艱斎(しかんさい)	→ 頼永(よりとお・有馬、藩主、詩文)	J 4 7 1 3
柿丸舎(しがんしゃ・上田)	→ 馬来(ばらい・上田うえだ、医者/俳人)	F 3 6 8 0
慈眼大師(じがんだいし)	→ 天海(てんかい;法諱、天台僧)	D 3 0 2 2
四感亭(しかんてい)	→ 貫千(かんせん・守盈斎、俳人)	C 1 5 1 3
之翰亭(しかんてい)	→ 之翰(これふみ・松井まつい、藩医/歌人)	R 1 9 3 2
糸漢堂(しかんどう)	→ 宗吉(曹吉そうきち・橋本、蘭学/蘭医)	2 5 9 8
慈観坊(じかんぼう;号)	→ 慈観(じかん;法諱・良嚴;字、浄土僧)	P 2 1 9 0
示観房範空(しかんぼうはんくう)→	範空(はんくう・示観房、浄土僧/歌人)	H 3 6 4 5

B2144 只販(しき;法諱、山本公守男?)?-? 南北期僧;法師/歌人、1363近江石山寺で「類題抄」書写、
勅撰4首;風雅(1533)新千載(852)新拾遺(1327/1819)、

[しられずも夕べの露の置きやそふ庭の小萩の末ぞかたぶく](風雅;十五雑1533)

P2197 子規(しき・太田おた、名;嘉方?)?-? 江前期寛文1661-73頃京の儒者、韻学研究、
「伊呂波字抄」「梅花心易鈔」「韻鏡字引」「韻鏡翻切鈔」「韻鏡切韻指南」「字彙四声韻」、
1660「韻鏡遮中鈔」63「韻鏡字子」71「韻鏡指南鈔序例」外著書多数、

[子規(;字)の通称] 半左衛門

色(しき;一字名、連歌)	→ 智仁親王(としひとしんのう・八条宮、歌人)	N 3 1 5 5
式(しき・小川)	→ 含章(がんしょう・小川おがわ、儒者)	R 1 5 0 8
之基(しき・小鴨)	→ 之基(ゆきもと・小鴨おがも、連歌作者)	F 4 6 8 1
之徽(しき・山路)	→ 之徽(ゆきよし・山路/平、幕臣/天文)	F 4 6 9 4
之紀(しき・巻)	→ 鷗洲(おうしゅう・巻まき、書家/歌人)	C 1 4 4 8
之紀(しき・中根)	→ 鳳河(ほうか・中根なかね、藩儒者)	3 9 2 5
之基(しき・奥)	→ 劣斎(れつさい・奥おく/源、医者;産科)	5 1 8 3
之熙(しき・村瀬)	→ 栲亭(こうてい・村瀬むらせ、儒者)	1 9 1 5
之熙(しき・中尾)	→ 竹厓(ちくがい・中尾なかお、役吏/儒者)	C 2 8 8 0
嗣徽(しき・前田)	→ 東溪(とうけい・前田/一色、儒/医)	D 3 1 0 4
子希(しき・原)	→ 斗南(となん・原はら、儒者)	O 3 1 6 2
子岐(しき・関)	→ 重巖(しげたか・関せき、藩家老/地歴)	R 2 1 2 0
子帰(しき;字)	→ 柔遠(にゅうおん;法諱、真宗僧)	F 3 3 7 7
子基(しき・藤堂)	→ 梅花(ばいか・藤堂とうどう、儒者/詩文)	3 6 7 8
子基(しき・広瀬)	→ 淡窓(たんそう・広瀬、儒/詩人)	2 6 9 3
子基(しき・瀬山)	→ 命助(めいすけ・瀬山せやま、藩士)	4 3 2 2
子基(しき・紀)	→ 鹿衝(ろくがん・紀き/石、篆刻家)	5 2 7 9
子淇(しき・矢島/坂)	→ 時存(ときもり・坂さか、藩士/儒/藩改革)	K 3 1 2 1
子祺(しき・山県)	→ 洙川(しゅせん・山県/県、藩士/儒者)	Y 2 1 9 4
子毅(しき・長井)	→ 在寛(ありひろ・長井/馬淵、藩士/儒者)	F 1 0 7 1
子毅(しき・東条)	→ 一堂(いっどう・東条とうじょう、儒者)	B 1 1 2 5
子毅(しき・鈴木)	→ 文台(ぶんたい・鈴木すずき、漢学者/教育)	G 3 8 1 2
子毅(しき・岡)	→ 紫陰(しいん・岡おか、儒者)	P 2 1 6 0
子毅(しき・室谷)	→ 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者)	E 4 7 6 9
子毅(しき・摩島)	→ 松南(しょうなん・摩島まじま/源、儒者/詩)	B 2 2 0 4
子毅(しき・中村)	→ 良顕(よしあき・中村なかむら、国学/歌人)	C 4 7 0 2
子起(しき・木村)	→ 幾三郎(いくさぶろう・木村、藩士/記録)	F 1 1 3 1
子起(しき・大塩)	→ 中斎(ちゅうさい・大塩平八郎、儒者/義挙)	G 2 8 0 7
子輝(しき・渋谷)	→ 棕逸(そういつ・渋谷しぶや、医者/詩文)	F 2 5 9 9
子徽(しき・賀藤)	→ 月篷(げっぽう・賀藤かとう、藩士/文筆家)	H 1 8 3 8

子徽(しき・芳賀)	→	細道(ほそみち・浅竜庵、医者/狂歌)	E 3 9 4 3
子軌(しき・野坂)	→	完山(かんざん・野坂、医者/俳人)	Q 1 5 8 0
子軌(しき・長良)	→	顧斎(こさい・長良ながら、医者/儒者)	G 1 9 5 0
子紀(しき・青木)	→	弘安(こうあん・青木あおき、儒者)	H 1 9 2 5
子奇(しき・荒木田)	→	麗女(れいじょ・荒木田、歌/物語作者)	5 1 0 2
子喜(しき・高原)	→	東郊(とうこう・高原たかはら、儒者/詩人)	D 3 1 8 8
子喜(しき・浅岡/浅井)	→	芳所(ほうしょ・浅岡/浅井、藩儒)	B 3 9 6 6
子季(しき・大内)	→	余庵(よあん・大内/多々良、医者/地誌)	4 7 5 0
士騏(しき・平/片岡)	→	維良(これよし・片岡かたおか/平尾、藩儒)	Q 1 9 6 2
士騏(しき・成田)	→	行明(ゆきあき・成田なりた、藩士/国学者)	H 4 6 1 0
士輝(しき・堀)	→	貞恒(さだつね・堀ほり/菅原、医者)	I 2 0 6 4
士僖(しき・林)	→	榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官)	D 4 9 7 8
士毅(しき・結城)	→	香崖(香厓こうがい・結城ゆうき、藩儒/詩)	G 1 9 2 1
士毅(しき・小田村)	→	素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士)	D 4 4 9 5
士毅(しき・大塚)	→	昌伯(しょうはく・大塚おつか、医者/詩人)	L 2 2 3 7
士毅(しき・小寺)	→	翠雨(すいう・小寺こでら、藩士/蘭/兵学)	E 2 3 0 6
士毅(しき・間崎)	→	滄浪(そうろう・間崎まさき、儒者/尊攘派)	D 2 5 2 7
士虧(しき・島倉/司馬)	→	凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学)	G 4 9 8 2
氏紀(しき・速水)	→	氏紀(うじのり・速水はやみ、酒造業、歌人)	E 1 2 8 4
氏輝(しき・今川)	→	氏輝(うじてる・今川、武将/歌/連歌)	1 2 4 1
氏喜(しき・日下)	→	氏喜(うじよし・日下くさか、商家/教育)	C 1 2 8 3
氏喜(しき・平野)	→	氏喜(うじよし・平野ひらの、歌人)	E 1 2 4 4
氏祺(しき・大館)	→	氏義(うじよし・大館おおだち、藩士/歌人)	E 1 2 5 8
志季(しき・奥田)	→	尚斎(松斎しょうさい・奥田、儒者)	S 2 2 3 1
師季(しき・平)	→	師季(もろすえ・平たいら、廷臣/歌人)	H 4 4 3 0
師季(しき・中原)	→	師季(もろすえ・中原なかはら、廷臣/歌人)	H 4 4 3 1
師季(しき・阿野)	→	実惟(さねただ・阿野あ、権中納言/日記)	K 2 0 9 2
師基(しき・藤原)	→	師基(もろもと・藤原ふじわら、廷臣/詩歌人)	I 4 4 0 2
師基(しき・二条)	→	師基(もろもと・二条/藤原、南朝関白/歌)	I 4 4 0 4
師熙(しき;名)	→	静覚法親王(じょうかくほつしんのう、真言仁和寺僧)	H 2 2 7 8
資季(しき・二条)	→	資季(すけすえ・二条/平松/藤原、廷臣/歌)	C 2 3 2 5
資規(しき・伴/高橋)	→	資規(すけのり・伴ばん/高橋、国学者/歌)	C 2 3 8 0
資熙(しき・中御門)	→	資熙(すけひろ・中御門/藤原/平、廷臣)	C 2 3 3 8
資熙(しき・庭田/源)	→	資蔭(すけかげ・田向たむけ/源/庭田、歌人)	B 2 3 9 7
四鬼(しき・巢内)	→	式部(しきぶ・巢内/須内すのうち、勤王家/歌)	Q 2 1 0 9
四季(しき・横山)	→	義彦(よしひこ・横山よこやま、歌人/教育)	G 4 7 2 2
子義(しぎ・吉田)	→	松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育)	2 1 6 7
子義(しぎ・阪本)	→	弦山(げんざん・阪本、医者/経史/文学)	J 1 8 2 8
子義(しぎ・志賀/谷城)	→	重信(2世しげのぶ・柳川やながわ、絵師)	C 2 1 7 5
子義(しぎ・原田)	→	筈斎(じゅんさい・原田/小森、藩士/儒者)	J 2 1 7 2
子儀(しぎ・大塚)	→	稼圃(かほ・大塚おつか、儒者)	P 1 5 3 2
子儀(しぎ・藤堂)	→	高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人)	L 2 6 7 1
子儀(しぎ・佐竹)	→	重威(しげのり・佐竹さたけ/中原、書博士/歌)	O 2 1 5 3
子儀(しぎ・古田)	→	含章(がんしょう・古田ふるた、藩士/儒者)	F 1 5 7 2
子儀(しぎ・滝)	→	高渠(こうきよ・滝たき/河野、藩士/儒者)	I 1 9 2 9
子誼(しぎ・石金)	→	瀬浜(らいひん・石金いしがね/石、農業/漢学)	4 8 9 2
士義(しぎ・宇夫方)	→	広明(ひろあき・宇夫方うぶかた、儒者/神職)	F 3 7 4 9
士義(しぎ・森川)	→	宗円(そうえん・森川もりかわ/島本、医者)	2 5 7 3
士儀(しぎ・長谷川)	→	師鴻(しこう・長谷川はせがわ/源、儒者)	T 2 1 3 6

- 士義(しぎ・藤堂) → 高克(たかかつ・藤堂とうどう、藩家老/教育) Y 2 6 3 9
 氏義(しぎ・大館) → 氏義(うじよし・大館おおだち、藩士/歌人) E 1 2 5 8
 思義(しぎ・西山) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0
 師義(しぎ・佐竹) → 師義(もろよし・佐竹/源、武将/連歌) I 4 4 1 1
 治紀(じき・徳川) → 治紀(はるとし・徳川、藩主/歌) G 3 6 5 8
 時熙(じき・山名/源) → 時熙(ときひろ・山名やまな/源、武将/歌人) J 3 1 9 3
 時熙(じき・岸崎) → 時熙(ときひろ・岸崎、藩士/税制) J 3 1 4 1
 持季(じき・正親町おおぎまち) → 持季(もちすえ・正親町/藤原、大納言/歌) B 4 4 4 2
 持基(じき・二条) → 持基(もちもと・二条/藤原、撰関/歌/連歌) 4 4 1 0
 時宜(じぎ・細田) → 時宜(ときよし・細田ほそだ/藤原、歌人) T 3 1 7 4
 時宜(じぎ・小谷) → 時宜(ときよし・小谷おたに、歌人) U 3 1 4 1
 時義(じぎ・松岡) → 時義(ときよし・松岡まつおか、藩奉行/国学) W 3 1 4 7
 次義(じぎ・滝本) → 次義(つぐよし・滝本たきもと、歌人) F 2 9 1 4
 次義(じぎ・杉野) → 次義(つぐよし・杉野すぎの、藩士/儒/国学) F 2 9 8 5
 四季庵(しきあん) → 宗吾(そうご・坂尾/日向、藩士/武術家) H 2 5 2 8
 四弁庵(しきあん) → 孚石(ふせき・四弁庵、俳人) C 3 8 9 4
 糸岐庵(しきあん) → 見道(けんどう・糸岐庵、俳人) L 1 8 6 9
 式胤(しきいん・蜷川) → 式胤(のりたね・蜷川にながわ、和算/考古学) F 3 5 0 2
- a2150 識淵(しきえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 歌人;1237刊[檜葉集]入、
 [やそぢあまりて後述懐の心を
 はかなしなけふもむなしくくれたけのひとよの末を知らぬわが身は](檜葉;雑925)
- 四季園(しきえん) → 筋翁(せつおう・佐橋さばせ、幕臣/博物家) K 2 4 7 5
 式燕堂(しきえんどう) → 法竹(ほうちく・式燕堂、俳人) C 3 9 2 7
- P2198 敷雄(しきお・のぶ・福田ふくだ/初姓;瀬木、)1769-1837 69 飛騨高山の福田家の養子、
 国学者・歌人;1807田中大秀門、妻;飛騨宇津江の杉下房子(ふさこ/同門歌人/1770-1831)、
 歌文;「あづま紀行」「時雨の露」「ときは草」著、
 [敷雄(;名)の通称/号]通称;吉郎兵衛、号;冬青園
- P2199 直翁(じきおう;道号・梅指ばい;法諱)?-? 1861存 近江曹洞僧;千外泰嶠門;法嗣、近江法光寺31世、
 1861「授戒会式」著
 直翁(じきおう/ちよくおう・智侃) → 智侃(ちかん;法諱・直翁、臨濟僧) C 2 8 3 4
 直翁(じきおう→ちよくおう) → 直翁(ちよくおう;道号・宗謙、臨濟僧) K 2 8 2 5
- Q2100 直海(じきかい;法諱) ? - ? 1382存 南北期叡山横川の天台僧;正行房住;法印、
 相生恵心流を相承、1367「八帖抄聞書」82「直雜」、「宗要伝授見聞」著
 色花軒(しきかけん) → 松屋(しょうせい・小林こばやし、藩士/俳人) T 2 2 8 0
- Q2101 式賢(しきかた・大神おおみわ) ? - ? 鎌倉期廷臣;右近将監/
 歌;1232石清水若宮歌合参加;左方、
 [故郷はさもくれがたき春の日の花にすくなきみよしのの山](石清水若宮歌合;67)
- M2141 食行身録(じきぎょうみろく;号、俗名;伊藤伊兵衛)1671-1733 63 伊勢一志郡清水村の農家の生、
 伊勢神道家/江戸に奉公;油商として産をなす/1688富士講開祖の角行門、
 加持祈祷中心の富士講批判;実践道徳を説く;行商しつつ布教活動、1717富士講六世行者、
 1733入定;富士山烏帽子岩で31日間断食;絶命/富士講中興の祖、「三光之巻」「御伝貫書」、
 「一字不説之巻」、1733「烏帽子岩三十一日之巻」、「不二行者食行録(じきぎょうじやじきぎょうろく)、
 三女の花(一行花いちぎょうはな)とその弟子伊藤参行らが富士講を布教
- B2145 紫菊(しぎく・浅見川) ? - ? 奥州岩代の俳人、
 1669風虎「百番俳諧発句合」左方参加;玖也判
 識月(しきげつ・豊島) → 露月(ろげつ・豊島とよしま、謡曲/俳人) B 5 2 3 3
- Q2102 直兼(じきけん;法諱・号;不動院)?-? 南北期叡山横川の楞嚴院住天台僧;法印、
 恵心流を相承、「明燈抄」/1364-5「宗要集聞書直兼」、「義科得略集三十三ヶ条」著
- Q2103 式乾門院(しきけんもんいん、利子内親王、守貞親王女)1197-1251 55 四条天皇准母/慶政「閑居友」受?

慶政「閑居友」受?、女房に右京[左京]大夫・御匣など

式乾門院右京大夫(しきけんもんいんのうきょうのだいふ)→ 右京大夫(うきょうのだいふ・式乾門院) 1 2 1 5

式乾門院左京大夫(しきけんもんいんのさきょうのだいふ)→ 右京大夫(うきょうのだいふ・式乾門院) 1 2 1 5

式乾門院御匣(しきけんもんいんのみくしげ)→ 御匣(みくしげ・式乾門院、歌人) 4 1 7 6

識行(しきこう・志村)→ 識行(のりゆき・志村むら、藩士/文筆家) G 3 5 1 2

- B2146 **式佐**(初世しきさ・岸澤きざわ、本名;佐々木市蔵) 1730-8354 常盤津節の三味線方;右和左古式部門、初代常盤津文字太夫の相三味線で活躍、2代目岸澤古式部を襲名;岸澤家の祖、1769立三味線に昇進、「善知鳥うとう」作曲
- K2164 **式佐**(2世しきさ・岸澤、通称;市治) 1759-182365 常盤津節の三味線方;初世式左門、1783式左襲名、立三味線に昇進、のち3代目古式部を襲名/一時岸澤右和左を名乗る、「積恋雪関扉」(鳥羽屋里長と合作)、「夕霧」「忠信」作曲
- H2154 **式佐**(3世しきさ・岸澤、通称;岸澤九蔵) 1774-182956 常盤津節の三味線方;1800式左3世襲名;同年破門、富本節の数寄屋藤八を名乗る;詫びを入れ常盤津に復帰、1820岸澤右和左2代目を襲名、のち一門の家元争いで1829憤死
- D2142 **式佐**(4世しきさ・岸澤、通称;文蔵) 1772-183261 常盤津節の三味線方;鳥羽屋里長門、1807式左4世を襲名、上方巡業後に名古屋で客死、「源太」「梶原夕霧」作曲、「時翫雛しきのひな浅草八景」作曲(2世杵屋勝五郎と共作/作詞;3世桜田治助;1847初演)
- B2147 **式佐**(5世しきさ・岸澤、通称;忠助、4世式左男) 1806-6762 常盤津節の三味線方;1825中村座で襲名、1833名古屋で盛大な襲名披露/44名古屋で四世式左13回忌追善催/53古式部4代目襲名、4代目常盤津文字太夫の相三味線を勤める、実子が6世式左を襲名、1864初代岸澤竹遊斎を名乗る、作曲多数、1836「忍夜恋曲者しのびよるこいはくせもの(将門)」作曲、1841「心中浮名の鮫鞘さめざや(お妻)」作曲
- S2111 **式佐**(6世しきさ・岸澤きざわ、通称;巳佐吉、5世式左男) 1833-9866 常盤津節の三味線方;1859式佐を襲名、1892古式部5代目襲名、実弟が岸澤竹遊斎2代目を名乗る、父5世式佐に次ぎ作曲多数、7代目常盤津小文字太夫の相三味線を勤める、「紅葉狩」「戻橋」作曲、養子が7世式佐を襲名
- Q2104 **自嬉斎**(じきさい・倉成くらなり/くらし、名;貢/字;柏卿、竜渚男) 1786-82338 豊前中津の儒者;父門、幼時に父と江戸に赴く/家督嗣;中津藩の儒官;父子共に世子の侍読、20歳ころ奥羽・筑前・筑後の山野を跋涉/詩文を能くす;山水を描く、「竜渚先生遺稿」編
式山(しきざん・柳川)→ 調興(しげおき・柳川、藩士/歌) Q 2 1 7 0
四季山人(しきざんじん)→ 三馬(さんば・式亭、戯作者) 2 0 5 5
- Q2105 **式之**(しきし) ? - ? 大阪の俳人;1667湖春「続山の井」89「あら野」入、[はげ山や朧おぼろの月のすみ所どころ](あら野;巻二)
- B2148 **式之**(しきし・浜は、通称;市右衛門) 1671-173161 伊賀上野藩藤堂新七郎家の家臣/俳人;芭蕉門、1689・90芭蕉俳席に参加、1691「猿蓑」/94其角「枯尾花」/96史邦「芭蕉庵小文庫」入、1698「続猿蓑」入、法名;頓空乗円居士、[鶯うその声さゝそめてより山路かな](猿蓑;巻四)
- B2149 **職子**(しきし・源、通称;甲斐掌侍かいしょうじ、源雅亮まさすけ女) ?-? 平安後期;装束故実家、1184?雅亮「雅亮装束抄3巻女房編」改訂
識此(しきし・浅田)→ 宗伯(そうはく・浅田あさだ、儒医/幕医) I 2 5 7 1
式治(初世しきじ・峯沢)→ 新七(しんしち・玉沢屋、書肆/常盤津) O 2 2 7 0
- Q2106 **直指**(じきし;道号・玄端げんたん;法諱) ?-1776 江中期摂津曹洞宗陽松庵の天桂伝尊門;嗣法、1727讃岐見性寺18世/1748山城宇治興聖寺16世、1751道元五百回忌を修す/53退院、摂津報恩寺に隠棲、1767「天桂和尚年譜」編
直指見性禅師(じきしけんしょうぜんじ)→ 石室(せきしつ;道号・善玖;法諱、臨濟僧) F 2 4 1 1
直指心源禅師(じきししんげんぜんじ)→ 宗珀(そうはく;法諱・玉室、臨濟僧) I 2 5 7 0
- 2107 **式子内親王**(しきしなないんのう・しよくし、後白河天皇皇女) 1149-120153 母;藤原季成女の高倉三位成子、守覚法親王・以仁王・殷富門院の同母姉妹、1159-69賀茂斎院/病氣退下/97?出家、准三后、歌人;藤原俊成門;師より古来風躰抄を献上、高倉天皇皇子惟明親王と親交、定家と恋愛?、源家長日記に入、家集「式子内親王集」、1200正治初度百首参加、前斎院百首入、

勅撰155首;千載(9首124/147/335以下)新古(49首3/52/83/101以下)新勅(14首)、
続後撰(15首)続古(9首)続拾(5首)新後撰(5首)玉(16首)続千(2首)続後拾以下、
[玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする](新古;恋1034/忍恋)
雲葉集11首入、
[式子内親王(;名)の通称/法名]通称;四条齋院/萱齋院/大炊御門おおいのみかどの齋院、
法名:承如法

式子内親王家中将(しきしないしのうけのちゅうじょう)→中将(ちゅうじょう、歌人)G 2 8 3 8

M2122 色車(しきしゃ) ? - ? 江前期上州小幡の俳人;1692不角「千代見草」入
[片仮名は能書もしれず流もなし](千代見草/前句;結構づくに世を渡る也/片仮名の信条)

色樹(しきじゆ・秋山) → 色樹(いろき・秋山あきやま、官人/国学) J 1 1 8 1

識趣齋(しきしゆさい) → 友琴(ゆうきん・神戸かんべ、商家/俳人) B 4 6 2 5

子熙主人(しきじゆじん) → 霞城(かじょう・牧江まきえ、儒者) L 1 5 9 8

式如(しきじよ・田中) → 式如(のぶゆき・田中/松浦、藩士/神道) D 3 5 6 3

識人(しきじん・巨瀬) → 識人(しきひと・巨瀬、平安期詩人) B 2 1 5 0

直心野衲(しきしんやのう) → 義休(よしやす・土屋つちや、勸農家) H 4 7 7 4

識正(しきせい・武田) → 識正(としまさ・武田ただけ/白玉、国学/歌) V 3 1 2 3

鳴生(しきせい?・巢内) → 式部(しきぶ・巢内/須内すのうち、勤王家/歌) Q 2 1 0 9

式膳(しきぜん・梅) → 智波也(ちはや・梅とが、神職/国学者) N 2 8 0 6

思帰叟(しきそう:号) → 梵僊(ぼんせん:法諱・竺仙;道号、臨濟僧) F 3 9 5 3

式太(しきたい・藤原) → 惟成(これしげ・これなり・藤原、廷臣/詩歌) 1 9 4 4

鳴立庵(しきたつあん・相州大磯にあり) → 鳥酔(ちようすい・白井、俳人) 2 8 2 4

鳴立庵(しきたつあん) → 白雄(しらお・加舎かや、俳人) 2 2 1 4

鳴立庵四世(しきたつあん) → 百明(ひやくめい・杉坂、俳人) 3 7 1 3

鳴立庵五世(しきたつあん) → 葛三(かつさん・倉田、白雄門/俳人) C 1 5 4 4

鳴立庵六世(しきたつあん) → 雉啄(ちたく・遠藤、葛三門/俳人) E 2 8 6 9

鳴立庵七世(しきたつあん) → 柴居(さいきよ・三浦、俳人) G 2 0 6 3

鳴立庵十世(しきたつあん) → 立字(りゅうじ・島田、俳人) C 4 9 7 8

之吉(しきち・松岡) → 文竜(ぶんりゅう・松岡まつおか、蘭医) G 3 8 7 3

Q2107 此橋(しきつ) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入

[足伸べて姫百合艸ひめゆりをらす昼寝哉](あら野;卷三)

子規亭(しきてい) → 吐月(とげつ・飯島、俳人) L 3 1 6 3

式亭小三馬(しきていこさんば) → 小三馬(こさんば・式亭、三馬男/合卷) C 1 9 7 2

識丁子(しきていし) → 三柳(さんりゅう・中山なかやま、医者/俳人) E 2 0 8 1

直伝(しきでん;法諱・東谷) → 東谷(とうこく;道号・直伝、曹洞僧) E 3 1 1 1

D2123 色道軒莊司叟(しきどうけんしょうじそう)?-? 浮世草子作者、1756「北州列女伝」

色道太祖(しきどうたいそ;自称) → 箕山(きざん・藤本、鑑定/評判記) 1 6 1 3

識名園(しきなえん) → 俊道(しゅんどう・百々どど、医者/本草家) L 2 1 5 9

識名親方(しきなうえ-かた) → 盛命(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官) D 2 4 0 0

識仁(しきにん→さとひと;名) → 靈元天皇(れいげんてんのう、歌人) 5 1 0 3

直然(しきねん;法名) → 良信(りょうしん;法諱・直然、浄土僧) I 4 9 2 6

式之助(しきのすけ・横山) → 義彦(よしひこ・横山よこやま、歌人/教育) G 4 7 2 2

2108 志貴皇子(しきのみこ、天智天皇皇子)?-716(715?;万葉集) 母;越道君伊羅都売、光仁・湯原の父、
679吉野の六皇子盟に参加/703造御竈長官/715二品、[770第6子白壁王が即位(光仁天皇)]、
万葉二期代表歌人;6首(51/64/267/513/1418/1466)、勅撰5首;新古32新勅145/498以下、
[采女の袖吹き返す明日香風京みやこを遠みいたづらに吹く](万葉;一51)
[石走る垂水の上の早蕨の萌え出づる春になりけるかも](万葉;八1418)
[志貴皇子の別文字/追尊号]別文字;施基皇子/志紀皇子/芝基皇子、
追尊号;春日宮天皇/田原天皇たはらのすめらみこと(;墓地田原西陵より)

B2150 識人(志貴人しきひと・巨瀬こせ) 795?-? 平安前期の弘仁期詩壇の中心、凌雲・文華・経国に25首、
823嵯峨天皇が有智子内親王の春日山莊行幸の時に扈從;從五上を受、巨瀬野足の孫?

- 式夫(しきぶ・野呂) → 松廬(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人) C 2 2 1 2
- Q2108 式部(しきぶ、女房) ? - ? 平安中期歌人、拾遺集; 多久図書館本巻九521の次/1356、藤原伊衡の問・凡河内躬恒・壬生忠岑の答; 一連の問答に参加(但躬恒集・忠岑集は忠岑)、[日暮るればまつ人もきぬからいともよるをばあふといふばかりなり](拾遺集;1356) [伊衡の問;影見れば光なきをも衣ころもぬふ糸をもなどかよるといふらん]
- B2151 式部(しきぶ、祢子内親王[1039-96]家女房) ?-? 歌:1046-78六条齋院祢子内親王家歌合17回参:うち1055六条齋院物語合;「なにぞ心にと嘆く男君」作(;右16)、[昔にもあらずさびしき山里にもろともにすむ秋の夜の月](六条齋院物語合;16)、[いたづらにかへりやせまし山桜このひと枝ものこらざりせば](1058齋院歌合;右2)
- B2152 式部(しきぶ・二条太皇太后宮/皇后宮、白河皇女令子内親王家女房) ?-? 平安後期歌人、1124奈良花林院歌合参加、勅撰3首;金葉123/398・千載1142、[郭公ほととぎす雲のたえまにもる月の影ほのかにも鳴きわたるかな](金葉;夏123/月前郭公)
- F1200 式部(しきぶ・三条大宮/二条大宮の誤か?) ?-? 平安期;女房歌人、二条大宮式部なら二条太皇太后宮令子内親王家女房(→B 2 1 5 2)、歌人;1165清輔撰[続詞花集]2首入、[尼になりてすゑの世に思ひかけぬところにて人に対面して昔の物語などしけるほど、ことを弾きならしけるをききていひいだしける、ききなれし昔のことをひきかけてしらぶるからにねこそなかるれ](続詞花;雑822)
- B2153 式部(しきぶ、広瀬ひろせ) ? - ? 江前期末1684-1704頃江戸の浄瑠璃太夫:橘正勝(土佐節の祖)門、式部節の祖、市村座で座敷浄瑠璃を語る
- B2154 式部(しきぶ、竹内たけのうち、宗詮男) 1712-67 56 越後新潟で代々[正庵]を称する町医、1728上京;徳大寺家に出仕/儒・神道学;松岡雄淵・玉木葦齋門/垂加神道修学、故実精通、桃園天皇や近習らに垂加神道進講;受講の徳大寺公城きんむら・久我敏通・正親町三条公積・烏丸光胤・坊城俊逸らが皇権回復を強く主張/朝幕安定派関白一条道香の所司代提訴;1758(宝暦8)宝暦事件(公城ら8名の処罰免官)の中心人物とされ重追放、さらに1767(明和4)山県大弼・藤井右門らの謀反の容疑逮捕(明和事件)に連座;八丈島遠島流罪の途中湿病に罹患;三宅島で没、「諸伝二重」「諸伝三重」「近思録講義」、「近思録十四目講義」「垂加霊の祝詞」「日本書紀卷一講義」「中臣祓講義」外著多数、[式部(;通称)の名/別通称/号]名;敬持たかもち、別通称;一学/正庵、号;羞齋/秋齋/羞庵
- B2155 式部(しきぶ、高島たかばたけ、名;刀美/登美/とみ/富子、医者石井道元女) 1785-1881 97 伊勢松坂歌人、矢部平八郎と結婚/死別、京の鍼医高島清音きよねと再婚;大阪住、歌人;1831桂園門/千種有功門、太田垣蓮月と併称される、1841夫清音と死別、書画・彫刻・雅楽にも長ず、養子;千畝ちうね、1861「続々法のえ」/62自選歌集「麦の舎集」、高島式部墨書画並短冊「詠草」「養生記」著、[式部(;号)の別号]別号;志貴婦、屋号;麦の舎
夫 → 清音(きよね・高島たかばたけ、鍼医/歌人) U 1 6 6 7
養子 → 千畝(ちうね・高島たかばたけ、歌人) M 2 8 7 9
- Q2109 式部(しきぶ、巢内/須内すのうち、名;信善のぶよし、松井信近3男) 1818-72 55 伊予大洲染色業の家の生、須内宇兵衛の養嗣;書籍・薬種商(屋号丸屋)、神・国・儒学;常盤井巖才いかしほ門;勤王思想、1860上京;[巢内]を称、高松保実の雑掌/勤王派公卿との連絡係/新撰組に捕縛され投獄、釈放後奥州征討軍参加、1869大村益次郎暗殺に連座の疑惑を受け禁固;幽閉中に没、歌人;1867「慷慨歌集」著、[式部(;通称)の別通称] 民三郎/辰五郎/久兵衛/四鬼/鳴生、法号;釈正不退位
- 式部(しきぶ、絵式部) → 絵式部(えのしきぶ、平安歌人) C 1 3 2 5
- 式部(しきぶ、紀) → 紀式部(きのしきぶ) B 1 6 6 7
- 式部(しきぶ、紀) → 三冬(みふゆ・紀き、国学者/神職) F 4 1 7 7
- 式部(しきぶ、藤塚) → 知直(ともなお・藤塚ふじつか、神道家) Q 3 1 0 0
- 式部(しきぶ、藤塚) → 知明(ともあき・藤塚、知直の養子/神道) P 3 1 1 0
- 式部(しきぶ、藤塚) → 知雄(ともお・藤塚、知明孫/神職/国学) W 3 1 2 6

式部(しきぶ・帆足)	→	長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学)	D 3 2 1 0
式部(しきぶ・小早川)	→	能久(よしひさ・小早川こばわか、兵法家)	G 4 7 2 8
式部(しきぶ・藤田)	→	貞幹(さだもと・藤田ふじた、藩士/歌人)	P 2 0 8 6
式部(しきぶ・稲葉)	→	正親(まさちか・稲葉/大田原、藩主)	D 4 0 7 3
式部(しきぶ・伊達)	→	村良(むらかた・むらよし・伊達だて、領主)	D 4 2 1 1
式部(しきぶ・伊達)	→	村幸(むらゆき・伊達、村良男/領主/歌)	D 4 2 2 4
式部(しきぶ・伊達)	→	宗充(むねみつ・伊達、村良男/領主/民政)	D 4 2 9 2
式部(しきぶ・田村)	→	村隆(むらたか・田村/伊達、藩主)	4 2 1 8
式部(しきぶ・横瀬)	→	貞隆(さだたか・横瀬よこせ/源、幕臣/歌人)	N 2 0 2 1
式部(しきぶ・桑山)	→	元稠(もとしげ・桑山、幕臣/日記)	C 4 4 6 1
式部(しきぶ・中川)	→	長定(ながさだ・中川、藩士/記録)	D 3 2 6 8
式部(しきぶ・畠山)	→	義里(よしさと・畠山はたけやま/源、奥高家)	O 4 7 5 2
式部(しきぶ・横瀬)	→	貞臣(さだおみ・横瀬/源、幕臣/歌人)	B 2 0 7 4
式部(しきぶ・林)	→	信亮(のぶすけ・林はやし、幕府儒官)	B 3 5 6 8
式部(しきぶ・林)	→	復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者)	B 3 8 5 4
式部(しきぶ・林)	→	直孝(なおたか・林はやし/伊丹、幕臣/国学)	O 3 2 4 3
式部(しきぶ・岡)	→	俊直(としなお・岡おか/藤原、神職/歌人)	U 3 1 5 7
式部(しきぶ・水野)	→	忠鼎((ただかね・水野みずの/源/浅野、藩主/歌)	U 2 6 0 8
式部(しきぶ・中川)	→	典義(のりよし・中川、家老/日記・記録)	G 3 5 2 8
式部(しきぶ・前田)	→	矩正(のりまさ・前田、藩士/記録)	F 3 5 7 7
式部(しきぶ・前田)	→	国規(くにのり・前田まえだ、藩士/系図)	D 1 7 0 8
式部(しきぶ・前田)	→	孝始(たかもと・前田まえだ、藩士/記録)	N 2 6 4 0
式部(しきぶ・兵頭)	→	守敬(もりよし/もりたか・兵頭/常磐井、神職)	G 4 4 8 5
式部(しきぶ・長谷川)	→	延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家)	B 1 3 3 1
式部(しきぶ・狩野/岡田)	→	為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌)	H 2 6 0 0
式部(しきぶ・荒井/奥村)	→	景樹(かげき・香川、歌人)	1 5 1 2
式部(しきぶ・香川)	→	景恒(かげつね・香川、景樹男/歌人)	1 5 6 8
式部(しきぶ・松室)	→	松峽(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説)	S 2 2 1 1
式部(しきぶ・松浦)	→	大麓(だいろく・松浦まつうら、医者/詩)	C 2 6 4 2
式部(しきぶ・小堀)	→	政方(まさみち・小堀こぼり/滝田、幕臣)	H 4 0 4 1
式部(しきぶ・上杉)	→	勝延(かつのぶ・上杉うえずぎ、歌・俳人)	N 1 5 7 0
式部(しきぶ・安東/富田)	→	正鉄(まさかね・井上/富田、神道家)	C 4 0 1 7
式部(しきぶ・岡田)	→	寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官)	E 1 5 0 6
式部(しきぶ・矢野)	→	公紀(きみのり・矢野やの、神職)	M 1 6 0 5
式部(しきぶ・矢崎)	→	好貫(よしつら・矢崎やざき、神職/国学)	P 4 7 7 0
式部(しきぶ・荻野)	→	光陶(みつすえ・荻野/紀/藤原、神職)	D 4 1 6 1
式部(しきぶ・横井/佐分)	→	清円((きよのぶ・佐分さぶり/眞清田ますみだ、神職/国学)	Q 1 6 1 0
式部(しきぶ・曾我部)	→	容所(ようしょ・曾我部そがべ/源、儒/律令)	B 4 7 2 2
式部(しきぶ・津軽)	→	儼淵(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者)	E 1 8 8 2
式部(しきぶ・岡田)	→	忠広(ただひろ・岡田おかだ、兵法家)	Q 2 6 7 4
式部(しきぶ・梅田)	→	高起(たかおき・梅田/平、神職/国学者)	L 2 6 6 5
式部(しきぶ・野口)	→	比礼雄(ひれお・野口のぐち、歌人)	F 3 7 4 5
式部(しきぶ・山村)	→	良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人)	M 2 6 3 4
式部(しきぶ・山村)	→	良祺(たかのり・山村、良喬男/藩代官/儒/教育)	M 2 6 7 8
式部(しきぶ・佐倉)	→	豊麿(とよまる・佐倉さくら/桜/水野、神職)	T 3 1 2 8
式部(しきぶ・小松)	→	鈍斎(どんさい・小松こまつ、和算家/天文)	S 3 1 1 9
式部(しきぶ・足代)	→	弘早(ひろとし・足代/度会、神職/歌)	G 3 7 5 2
式部(しきぶ・足代)	→	弘訓(ひろのり・足代/度会、弘早男/神職/国学者)	3 7 2 6
式部(しきぶ・足代)	→	弘敷(ひろのぶ・足代/度会、弘訓男/神職/儒者)	G 3 7 8 4
式部(しきぶ・木俣)	→	守易(もりやす・木俣きまた/橋、藩老/楽焼)	J 4 4 7 9

- 式部(しきぶ・服部) → 保紹(やすつぐ・服部はつとり、幕臣) C 4 5 0 6
- 式部(しきぶ・牧野) → 竹所(ちくしょ・牧野まきの、幕臣/詩人) D 2 8 1 8
- 式部(しきぶ・板倉) → 重寛(しげひろ・板倉いたくら、藩主/国学) N 2 1 3 7
- 式部(しきぶ・並河) → 基広(もとひろ・並河/並川/平、歌人) E 4 4 1 4
- 式部(しきぶ・石田) → 秀堅(ひでかた・石田いしだ、神職/茶人) L 3 7 1 9
- 式部(しきぶ・太田) → 資良(すけよし・太田おた、幕臣/歌人) I 2 3 2 2
- 式部(しきぶ・小倉) → 正房(まさふさ・小倉おぐら/源、旗本幕臣) M 4 0 0 6
- 式部(しきぶ・桑原) → 眞清(ますが・桑原くわばら、神職/勤王) I 4 0 9 6
- 式部(しきぶ・中川) → 住郷(すみさと・中川ながわ、神職) I 2 3 8 9
- 式部(しきぶ・香川) → 景敏(かげとし・香川かがわ、歌人) U 1 5 1 2
- 式部(しきぶ・垣本) → 眞胤(まさたね・垣本かimoto/菅原/坂井、国学) O 4 0 7 7
- 式部(しきぶ・春日) → 紀重(のりしげ・春日かすが、神職/国学者) H 3 5 9 1
- 式部(しきぶ・佐倉) → 眞邦(まくに・佐倉さくら/水野、神職/歌) P 4 0 8 0
- 式部(しきぶ・常磐井) → 守貫(もりつら・常磐井ときわい、神職/歌人) K 4 4 5 0
- 式部(しきぶ・堀家) → 広政(ひろまさ・堀家ほりけ、神職/国学) K 3 7 9 6
- 式部(しきぶ・堀家) → 徳政(のりまさ・堀家/中田、広政の養嗣/神職) J 3 5 3 8
- 式部(しきぶ・堀家) → 是経(これつね・堀家ほりけ、神職/国学) R 1 9 2 8
- 式部(しきぶ・平山) → 道訓(みちのり・平山ひらやま、神職/国学) K 4 1 2 6
- 式部(しきぶ・三輪田) → 米山(べいざん・三輪田みわた、神職/書家) 2 7 4 5
- 式部(しきぶ・矢田部) → 盛治(もりはる・矢田部やたべ/橋爪、神職/用水路建設) L 4 4 7 4
- 式部(しきぶ・山田) → 盛実(もりざね・山田やまだ、神職/歌人) L 4 4 8 1
- 志貴婦(しきぶ・高島) → 式部(しきぶ・高島たかばたけ/石井/矢部、歌人) B 2 1 5 5
- 式部大入道(しきぶおおにゅうどう) → 光西(こうさい; 武将/僧/歌人) B 1 9 1 2
- 式部卿(しきぶきょう) → 明専(みょうせん; 法諱、真宗本願寺派僧) G 4 1 5 0
- 式部卿(しきぶきょう) → 呪願(じゅがん; 法諱、本願寺派僧/歌) P 2 1 2 7
- 式部卿邦省親王家少将(しきぶきょうくにみしんのうけのしょうしょう)
- 少将(しょうしょう・邦省親王家女房/歌人) N 2 1 6 6
- 式部公(しきぶこう) → 祐盛(ゆうしょう; 法諱、源俊頼男/天台僧/歌人) C 4 6 4 4
- 式部卿公慶(しきぶきょうのこうけい) → 公慶(こうけい; 法諱、三論僧/大仏修復) I 1 9 4 0
- 式部卿親王(しきぶきょうのみこ) → 敦慶親王(あつよしんのう、歌人) B 1 0 4 7
- 式部卿親王(しきぶきょうのみこ) → 久明親王(ひさあきらしんのう、鎌倉将軍/歌) 3 7 0 4
- 式部卿親王(しきぶきょうのみこ) → 邦高親王(くにたかしのう、伏見宮5代/歌/連歌) 1 7 7 2
- 式部卿親王家一条(しきぶきょうのみこけのいちじょう) → 一条(いちじょう・久明親王家/歌) K 1 1 8 8
- 式部卿親王家藤大納言(しきぶきょうのみこけのとうだいなごん) → 藤大納言(とうだいなごん・久明親王家) X 3 1 2 3
- 式部卿宮(しきぶきょうのみや) → 重明親王(しげあきらしんのう、醍醐天皇皇子) 2 1 0 9
- 式部卿法印(しきぶきょうほういん) → 玄慶(げんけい; 法諱、真言僧) I 1 8 5 0
- 式部卿法印(しきぶきょうほういん) → 昭乗(しょうじょう・松花堂、社僧/書家) T 2 2 3 4
- 式部卿法印(しきぶきょうほういん) → 重保(しげやす・大橋、書家/右筆/歌) S 2 1 9 5
- 式部公(しきぶこう) → 祐盛(ゆうしょう、比叡山僧/歌人) C 4 6 4 4
- 式部史生秋篠月清(しきぶしのしせいあきしのげつせい) → 良経(よしつね・九条/藤原、摂政/歌人) 4 7 1 6
- 式部大輔(しきぶだいすけ) → 忠次(ただつぐ・神原/松平、藩主/歌人) F 2 6 3 0
- 式部大夫(しきぶたゆう) → 禪竹(ぜんちく・金春、能作者) 2 4 3 4
- 式部太夫(しきぶたゆう)・内海 → 昭応(てるのり・内海うつみ、神職/国学) F 3 0 0 4
- Q2110 及淵(しきぶち・上田うえだ、平井恭輔男) 1819-7961 肥後天草の生、漢学; 仁科白谷門、
医学; 眼科医上田公鼎こうてい門/公鼎の養嗣子となる、養父の命で国学を修学、岡山に移住、
1864岡山藩儒医、1868藩命で和気清麿・児島高德の事蹟調査、75権大講義に補される、
「南宮十体歌抄」「南宮十二体文抄」「たちすて絹」「古歌大義」「古経」「日本補史」外著多数、
[及淵(;号)の名/通称/別号]名; 定沌/忠/多陀志/定統さだむね、通称; 周七/忠矣/定麿、
別号; 南宮/嬰翁/其台/真靈舎/佐久也園
- 式部ノ堅者(しきぶのけんじや) → 祐海(ゆうかい; 法諱、天台僧) 4 6 9 5

式部少輔(しきぶのしょう) → 素丹(そたん;法名・加悦/桜井、武家/連歌) D 2 5 9 6
 式部少輔(しきぶのしょう/-せふ) → 清円(きよのぶ・佐分さぶり/眞清田ますみだ、神職/国学) Q 1 6 1 0
 式部少輔(しきぶのしょう・幡垣) → 正張(まさはる・幡垣はたがき/平、神職/歌) R 4 0 7 7
 式部少輔(しきぶのしょう・水野) → 忠光(ただあきら・水野みずの、藩主/和学) Z 2 6 7 4
 式部少輔(しきぶのしょう・松平) → 近韶(ちかつぐ・松平まつだいら、幕臣/歌) L 2 8 6 6
 式部丞(しきぶのじょう・清水) → 忠勝(ただかつ・清水、戦国武士/連歌) P 2 6 3 6
 式部丞(しきぶのじょう・河崎) → 秀憲(ひでのり・河崎かわさき、神職/俳諧) D 3 7 6 1
 式部丞(しきぶのじょう・三島) → 玉昭(たまあき・三島みしま/越智、神職) Z 2 6 6 8
 式部之助(しきぶのすけ・垣本) → 眞胤(まさたね・垣本かimoto/菅原/坂井、国学) O 4 0 7 7
 式部大輔(しきぶのたいふ・大坪) → 道禪(どうぜん・大坪おおつば、馬術家) G 3 1 2 3
 式部大輔(しきぶのたいふ・川上) → 久国(ひさくに・川上かわかみ、藩家老/儒者) B 3 7 0 0
 式部大輔(しきぶのたいふ・松平/大須賀) → 忠次(ただつぐ・榊原、藩主/歌人) F 2 6 3 0
 式部大輔(しきぶのたいふ・清岡) → 長親(ながちか・清岡きよおか/五条、廷臣/学者) E 3 2 2 8
 式部大夫(しきぶのたいふ) → 禪竹(ぜんちく・金春) 2 4 3 4
 式部大輔入道(しきぶのたいふにゆうどう) → 実重(さねしげ・平たいら、廷臣/歌人) D 2 0 0 4

B2157 **式部命婦**(しきぶのみょうぶ、小式部命婦、藤原信尹女) ?-? 母;敦貞親王家の女房歌人、
 後冷泉天皇の女房;後冷泉院式部命婦(ごれいぜいゐんのしきぶのみょうぶ)と称される、
 源師賢の妻;大僧正寛助の母、のち源頭房の室;師子(関白藤原忠実の室)の母(栄花物語)、
 後朱雀天皇の乳母、1056四条宮春秋歌合参加(;小式部命婦名)、栄華物語入(・布引滝)、
 四条宮下野集に屢々名登場、勅撰3首;後拾遺(561/966)玉葉(1991)、続詞花集入、
 [ゆくすゑを流れてななに頼みけん絶えけるものを中川の水](後拾遺;雑966)、
 (長く絶えていた師賢がよこした文への返歌/中川は山城の歌枕)

式部命婦(しきぶのみょうぶ、後一条院) → 式部(しきぶ、裸子内親王家) B 2 1 5 1
 式部大倭(しきぶのやまと、万葉歌人) → 小東人(おあずまと・大倭宿禰やまとのすくね/長岡) C 1 4 2 6
 式部律師(しきぶりっし) → 光室(こうぼう;法諱、真言醍醐寺僧) L 1 9 2 0

Q2111 **式麿**(しきまろ・喜多川きたがわ、本名;東海林しょうじ澄) ?-? 江後期文化1804-18頃江戸の絵師/狂歌、
 画;喜多川月麿門、小石川牛天神下に住、挿絵/錦絵/肉筆美人画、1809「業平塚由来」画、
 1810「桜ヶ池」「蝦蟇妙薬」「高野楓」「復讎高野紅葉」、13「増補忠臣蔵」14「梅薫筑紫神垣」、
 [喜多川式麿(;号)の字/通称/別号]字;足水、通称;平次右衛門/平右衛門、別号;牛欄舎

識名園(しきめいえん) → 俊道(しゅんどう・百々どど、医者/本草家) L 2 1 5 9
 子客(しきやく・津野) → 芳州(ほうしゅう・津野つ、商家/儒者) G 3 9 2 8
 子諧(しきやく・淡輪) → 元潜(げんせん・淡輪たんなわ/たんのわ、医者) K 1 8 6 5

B2158 **止邱**(止丘しきゅう・田中たなか、修姓;田) 1637-8246 京の儒者/1642(6歳)で父没、
 1647(11歳)若狭小浜藩主酒井忠勝に兄と共に仕出/1652藩主命で江戸の林羅山・鷲峰門、
 小浜藩の儒官、1661致仕;帰京、68水戸彰考館入;光圀に代り「開彰考館記」執筆、
 国史編纂参画、朱舜水と親交、「止邱子」「経伝字訓」「避塵斎文集」「儒釈筆陣」「晷字訓解」著、
 [止邱(;号)の名/字/通称/別号]名;好文/犀/麟、字;一角、通称;伝斎/理助/理介、
 別号;避塵斎、法号;白雲/白雲居士

Q2112 **子休**(しきゅう・井上いのうえ、名;復、藩医経行男/本姓;源) 1719-5537 岡山藩士;1734(15歳)父没;家督、
 江戸勤務の時に儒;河口静斎・伊藤澹斎門、「大学衍義」(万波世美・和田伯高と共編)、
 「利鈍夜話」「大学衍義考義」著、
 [子休(;字)の通称/号]通称;権蔵、号;為山/朴庵(父と同号)

之休(しきゅう・齋藤) → 鶴磯(かくき・齋藤さいとう、儒者) H 1 5 2 4
 士久(しきゅう・石田) → 忠恒(ただつね・石田いしだ、和漢学者) T 2 6 0 2
 士久(しきゅう・中島) → 石浦(せきほ・中島なかじま/中浦、医/儒者) D 2 4 8 3
 子久(しきゅう・横溝) → 藪里(かくり・横溝よこみぞ、儒者) K 1 5 5 7
 子久(しきゅう・川上) → 文和(ぶんわ・川上かわかみ、医者/俳人) G 3 8 8 8
 子久(しきゅう・富田) → 定徴(さだあきら・富田とみた/小寺、役人/国学) O 2 0 8 8
 子休(しきゅう・鷲見) → 休明(保明やすあきら・鷲見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8

- 子旧(しきゅう・萱生) → 由章(よりふみ・萱生かよう/紀、国学者/歌) J 4 7 7 2
子玖(しきゅう・介川) → 通景(みちかげ・介川すけがわ、藩士/詩文) B 4 1 3 1
子究(しきゅう・岡) → 研介(けんかい・岡おか、蘭医) E 1 8 2 3
子求(しきゅう・長沢/松平) → 敏(びん・松平/長沢、家老/詩人) H 3 7 7 5
子虬(しきゅう・木幡) → 蘇門(そもん・木幡こばた、儒者) K 2 5 4 6
子翁(しきゅう・鶴殿) → 平七(へいしち・鶴殿うどの、藩士) 2 7 5 1
氏久(しきゅう・賀茂) → 氏久(うじひさ・賀茂・松下、神職/歌人) 1 2 4 8
氏久(しきゅう・島津) → 氏久(うじひさ・島津、武将/馬術) C 1 2 6 3
師久(しきゅう・賀茂) → 師久(もろひさ・賀茂かも、神職/歌人) H 4 4 7 4
弛休(しきゅう・原) → 元寅(もとのお・原はら、藩士/詩人) D 4 4 7 1
紫丘(しきゅう・宍道) → 貞(ただし・宍道しんじ/楊井やない、藩士/歌) X 2 6 6 2
嗣久(しきゅう/つぐひさ・湯口) → 竜淵(りゅうえん・湯口ゆくち、儒者/教育) D 4 9 0 0
- Q2113 詩牛(しぎゅう・牧まき、名;驥、石潭[匡直]長男) 1788-1833 46 讃岐詩人:菅茶山門/江戸の菊池五山門、
讃岐に帰郷;琴平胡麻谷に閑居;門弟教育、1816「棲碧山人百絶」著/18「近人小詩」編、
1818「如亭山人稿初集」改刻刊、1822「詩牛鳴草」、
「痴眠斎随筆」「胡麻溪居詩話」「詩童易学」「棲碧山人詩集」「若木聯珠詩格」「明清千家詩」著、
[詩牛(;号)の字/通称/別号]字;徳称、通称;松蔵/熊太郎/久五郎/藤兵衛、
別号;麻溪/棲碧せいへき/棲碧楼/棲碧山人/独樹軒/痴眠斎/畏儀/景周
- Q2114 自休(じきゅう;号・松原まつばら、通称;十右衛門) 1587-? 1669 存 藤堂高虎の家臣/大坂夏陣の軍功、
浪人;京住、古今の軍記を読破し見聞を交え著作;
「大坂両乱記」編/「大坂軍記」「信長譜」「続慶長記」「松原氏自休居士手録」著
- B2159 自休(じきゅう・小見山こみやま、別号;道休) ?-1639? 江前期尾張藩医、
仮名草子「魚太平記」著(延宝九1681刊;岩津喜兵衛板/異類軍記;河魚と海魚の合戦記)
- Q2115 自休(じきゅう・吉田よしだ、名;鉦豊/別号;安斎) ?-1694 長崎の医者;半田順庵門(沢野忠庵の門弟)、
1596-1624頃マカオ留学:外科医術修得、吉田流外科を興す(南蛮・和蘭・漢三方を按配)、
「三国流外科伝」「三一一致集」「カスパル伝」著、自庵の養父
- B2161 二休(じきゅう・荒木田あらきだ/松尾) ?-? 江前期伊勢宇治山田の俳人、
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」82風黒「高名集こうみょうしゅう」入、1680代・雷枝「伊勢斐杉あやすぎ」入、
[草双昏くさざうし読み上げ読み下さげ飛ぶ螢](高名集/草双昏;草双紙、
晋の車胤の故事;動く螢の光にあわせて読書)
- I2126 自休(じきゅう) ? - ? 江前期俳人;1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[荷はずの葉に吹きかへされつ水の亀](丁卯集/四賀;亀)
- B2160 自休(じきゅう・中川なかがわ、本姓;藤原、進藤長興4男) 1778-1841 64 京の近衛家諸大夫進藤家の生、
有栖川家諸大夫中川家の養子/廷臣;従四下/陸奥守・出羽守/東宮陣頭/刑部少輔を歴任、
1817官位辞退、歌;香川景樹門、(長男の長経の女のふみ;景樹男景恒の妻)、桂門十哲の1、
1834「大幣おぬさ」、「望南亭随筆」「望南亭筆記」、
[自休(;名)の初名/号]初名;長員、号;望南亭/応然、法号;証得院
- Q2116 示弓(しきゅう) ? - ? 俳人、1715乃露だいろ「八ゆふぐれ」歌仙入
二丘(じきゅう→にきゅう) → 二丘(にきゅう・半沢はんざわ、豪農/俳人) G 3 8 8
時久(じきゅう)すべて → 時久(ときひさ)
自休(じきゅう;号) → 聞号(もんごう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 2 1
自休(じきゅう・篠田/土岐) → 霞亭(かてい・土岐とき/武、医者/詩文) H 1 5 5 0
自休(じきゅう・三木) → 次郎兵衛(じろべえ・三木みつぎ/みつぎ/みき、日記) N 2 2 1 6
自休(じきゅう;法名) → 宗円(そうえん・山田やまだ、幕府医官) G 2 5 3 2
治久(じきゅう/はるひさ・古賀) → 遊五(ゆうご・古賀こが、庄屋/俳人) B 4 6 5 6
慈久(じきゅう・石井) → 了派(りょうは・石井いし、連歌作者) J 4 9 0 7
四休庵(しきゅうあん) → 貞極(ていごく;法諱、浄土僧/道場開設) 3 0 7 5
止丘軒(しきゅうけん) → 夙夜(ふくや・竹村鶴叟、俳人) I 2 1 6 2
鳩鳴斎(しきゅうさい) → 永理(えいり・武川・礫川亭、絵師) C 1 3 0 7
- Q2117 自休斎(じきゅうさい・竹内たけのうち、名;正信) ?-? 江前期寛文1661-73頃加賀金沢藩士;

武家故実家(弓術);上杉普斎(清之)門、小笠原流・吉田流を相伝、又一郎(息子?)に伝授、
1668「流鏑馬之次第」69「躰拜之書」、「軍陣弓矢要法注解」著

- 似休斎(じきゅうさい・千) → 宗守(初世そうしゆ・千せん、武者小路流茶人) B 2 5 7 7
似旧斎(じきゅうさい・伊丹) → 宗朝(宗長そうちょう・伊丹いたみ、茶人) I 2 5 4 8
四窮陳人(しきゅうちんじん) → 梅顛(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文) B 3 6 8 6
耆求堂(しきゅうどう) → 道建(どうけん・芦屋あしや、陰陽家/歌人) D 3 1 5 5
自求堂(じきゅうどう) → 正利(まさとし・古市ふるいち、和算家) L 4 0 1 5
四九坊(しきゅうぼう) → 千円(せんえん・大高おおたか、俳人) L 2 4 7 9
Q2118 紫居(しきよ) ? - ? 江後期俳人;白雄門、1783?「あさよもき」編
子虚(しきよ・飛田) → 逸民(いつみん・飛田とびた、儒者) H 1 1 9 6
子虚(しきよ・大竹) → 雲夢(うんむ・大竹おおたけ、儒者) E 1 2 0 7
子虚(しきよ・林) → 良斎(りょうさい・林はやし、藩家老/陽明学) H 4 9 6 6
子虚(しきよ・木村) → 礼斎(れいさい・木村きむら、医者/探検) 5 1 2 9
子虚(しきよ・越村) → 凶南(となん・越村こしむら、蘭方外科医) O 3 1 6 4
子居(しきよ・穴沢) → 杳斎(ようさい・穴沢あなざわ、藩士/暦学) 4 7 9 1
Q2119 紫魚(しぎよ、別号;柴魚さいぎよ・岡庭おかにわ)?-? 江戸末期上州の神職・1862「上野国三碑考略」著
子魚(しぎよ・人見) → 璣邑(きゆう・人見ひとみ、藩士/隨筆/歌) G 1 6 3 0
子魚(しぎよ・春木) → 南湖(なんこ・春木はるき、絵師/狂歌) I 3 2 9 3
士魚(しぎよ・安部) → 竜平(りゅうへい・安部あべ/安、藩士/蘭学) F 4 9 5 2
Q2120 此橋(しきょう) ? - ? 俳人;1689「あら野」入、
[みじかくて垣にのがるゝ柳哉](あら野;卷二/柳がまだ短くて手に触ると垣内に入る)
B2162 思恭(しきょう・関せき、伊藤祐宗[道祐]男)1697-1765 江戸の生、曾祖父・祖父は共に常陸土浦藩士、
父は仕官せず、故あり関に改姓、1712(16歳)江戸で書・天文;細井広沢門;門下生中第一、
経史学;太宰春台門、詩・射術に長ず、小石川に書道塾開設、1723(27歳)土浦藩士;右筆、
草書に秀づ;輪王寺宮・桜町天皇に書を奉る、門弟役5千人、篆刻は初期江戸派、
40歳で妻帯・3女を設く、60歳頃神経痛;歩行困難ながらも活動、「鳳皇帖」「和文章」著、
「鳳岡詩稿」「鳳岡印譜」「三体銀燭帖」「知君帖」「薊丘帖」著/1758「太申自新箴」書、
娘婿の其寧が跡継嗣、娘婿の其宋の「漢隸字源」を開板、孫の克明・曾孫の思亮しりょうも書家、
[思恭(;名)の字/通称/号]字;子肅、通称;源内、号;鳳岡・恭黙斎・墨指堂・墨指生
Q2121 斯経(しきょう;道号・恵梁えりょう;法諱、俗姓;管)?-? 江中期姫路の臨濟僧;白隠慧鶴門;四天王の1、
京の海福寺住持、山城八幡円福寺を再興、片岡達磨の古像得て達磨堂建造;江湖道場とす、
「願心道場旨趣」「略茶事訣」著、「斯経和尚遺稿」
Q2122 芝嶠(しきょう・川田かわだ、名;資哲、雄琴ゆうきん男)1720-9374 江戸の生、
1732(13歳)伊予大洲藩儒就任の父に随い大洲に移住、儒(陽明学);父門、朱子学にも精通、
1751家督継嗣;大洲藩校止善書院明倫堂の教授;29年間藩士子弟教育に邁進;1779辞任、
「瓊矛自從抄」著、資初・資敬(ともに大洲藩儒)の父、
[芝嶠(;号)の字/別号]字;子明、別号;為谿いけい
Q2123 士喬(しきょう;号・松岡まつおか、通称;又左衛門)?-? 摂津灘大石俳人;几董門、士川の弟/士巧の兄、
1776几董「続明鳥」4句/76樗良「月の夜」1句/82蕪村「花鳥篇」1句/83維駒「五車反古」1句/入、
[此比このごろや梅むめ咲くほどの日の力](続明鳥;甲30)
兄 → 士川(しせん・松岡まつおか、俳人) E 2 1 3 7
Q2124 士恭(しきょう) ? - ? 俳人;1777蕪村「夜半楽」1句入、
[貢みぎの使つかひ白雲はくうんに入る](夜半楽;安永丁酉1777春の歌仙14)、
(前句;着つゝなれて犬もとがめぬ裘はごろも/漢詩の異民族連想;使者が地平彼方に消ゆ)
只狂(しきょう、曉花園) → 只狂(じきょう、土屋、俳人) B 2 1 6 5
士恭(子恭しきょう・林) → 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭) F 3 9 2 5
士恭(しきょう・曾) → 愿(げん・曾そう、藩士/医者) H 1 8 5 5
士恭(子喬しきょう・土井) → 聾牙(ごうが・土井どい、藩儒) E 1 9 9 0
士恭(しきょう・山本) → 東街(とうがい・山本、儒者/詩文) C 3 1 0 3
士恭(しきょう・古賀/大石) → 久敬(ひさたか・大石/古賀、藩士/農政) B 3 7 2 3

士恭(しきょう・橋爪)	→	盛道(もりみち・橋爪はしづめ、藩士/儒者)	G 4 4 6 0
士亨(しきょう・奥田)	→	三角(さんかく、奥田おくだ、藩士/儒者)	E 2 0 1 9
士享(しきょう・土佐)	→	光貞(みつさだ・土佐/藤原、宮廷絵師)	D 4 1 4 6
士享(しきょう・山路)	→	重恒(しげつね・山路やまぢ、国学)	V 2 1 4 1
士享(しきょう・伊吹)	→	正邦(まさくに・伊吹いぶき/源、藩士/歌人)	N 4 0 4 3
士郷(しきょう・上野)	→	尚志(たかもと・上野うえの、藩士/兵学者)	N 2 6 4 5
士郷(士卿しきょう・中村)	→	新斎(しんさい・中村なかむら、儒者)	O 2 2 5 1
士強(しきょう・権藤)	→	松門(しょうもん・権藤ごんどう、藩医者)	B 2 2 6 9
士疆(しきょう・的場)	→	健(たけし・的場まとは、医者/歌人)	Z 2 6 6 5
子拱(しきょう・塩谷しおのや)	→	綱誠(つなのぶ・塩谷、武芸者)	B 2 9 1 9
子共(しきょう・寺井)	→	養拙(ようせつ・寺井てらい、書家)	B 4 7 3 0
子共(しきょう・栗栖くるす)	→	天山(てんざん・栗栖、陽明学/勤王派)	D 3 0 6 1
子恭(しきょう・後藤)	→	柏園(はくえん・後藤、儒者/詩文)	C 3 6 6 7
子恭(しきょう・皆川)	→	梅翁(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者)	3 6 7 0
子恭(しきょう・関口)	→	東嶺(とうれい・関口せきぐち、藩士/歌人)	I 3 1 4 5
子恭(しきょう・田/竹中)	→	瀨山(はざん・田阪たさか/竹中、儒者)	E 3 6 3 1
子恭(しきょう・眞山)	→	迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理)	D 1 2 2 0
子恭(しきょう・賀屋)	→	澹園(たんえん・賀屋かや、藩士/医者)	T 2 6 1 9
子恭(しきょう・浜田)	→	康次(やすつぐ・浜田はまだ、藩士/文武)	G 4 5 4 4
子恭(しきょう・大内/鶴沼)	→	国靖(くにやす・鶴沼うねま、藩家老/詩人)	D 1 7 3 0
子恭(しきょう・小沢)	→	正容(まさやす・小沢、和算・暦算家)	I 4 0 0 7
子恭(しきょう・安川)	→	柳溪(りゅうけい・安川やすかわ、儒/詩人)	D 4 9 5 9
子恭(しきょう・玉置)	→	讓斎(じょうさい・玉置たまき、藩士/兵学)	S 2 2 3 8
子恭(しきょう・梅内/阿部)	→	千秋(ちあき・阿部あべ/梅内、代官/俳人)	L 2 8 7 5
子亨(しきょう/しこう・伊藤)	→	万年(まんねん・伊藤/藤原、儒者/講説)	K 4 0 7 8
子亨(しきょう/しこう・吉田)	→	竹窓(ちくそう・吉田、藩士/儒者)	D 2 8 3 6
子亨(しきょう/しこう・石)	→	永貞(えいてい・石せき; 修姓?、儒者/紀行)	D 1 3 1 8
子亨(子享しきょう・寺地)	→	強平(きょうへい・寺地てらち、蘭学/医)	O 1 6 4 8
子亨(子享しきょう・勃海)	→	保(たもつ・渤海ふかみ、商家/能楽)	S 2 6 9 2
子享(しきょう・雲林院)	→	玄仲(げんちゅう・雲林院うい、医者)	O 1 8 3 9
子享(しきょう・鈴藤)	→	致孝(むねたか・鈴藤すずむじ/鈴木/藤枝、幕臣/造船)	B 4 2 5 1
子教(しきょう・田中)	→	政徳(まさのり・田中、名主/文学/暦算)	G 4 0 0 9
子教(しきょう・広沢)	→	晋一(しんいち; 名・広沢、幕臣/砲術家)	N 2 2 3 3
子教(しきょう・佐竹)	→	義脩(よしなお・佐竹さたけ、軍人/系図)	K 4 7 3 5
子驕(しきょう・鳥山)	→	時驕(ときなが・鳥山とりやま、藩士/詩文)	J 3 1 5 9
子僑(しきょう・松宮)	→	俊英(としひで・松宮、兵学/儒)	N 3 1 4 9
子強(しきょう・横山)	→	鶴水(かくすい・横山よこやま、儒者)	K 1 5 1 4
子強(しきょう・岡田)	→	寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官)	E 1 5 0 6
子強(しきょう・古市)	→	南軒(なんけん・古市、藩士/儒/医者)	J 3 2 9 1
子興(しきょう・小島/滕)	→	橋洲(きつしゅう・唐衣からごろも、幕臣/狂歌)	1 6 2 2
子興(しきょう・百川)	→	栄松斎(えいしょうさい・長喜ちようき、絵師)	B 1 3 4 9
子響(しきょう・吉田)	→	蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師)	L 2 5 1 4
之供(しきょう・穂積)	→	惟正(これまさ・穂積ほづみ、医者/解剖)	O 1 9 8 3
之恭(しきょう・金井)	→	之恭(ゆきやす・金井かない、勤王家/書家)	F 4 6 9 0
子匡(しきょう・楊井)	→	盛之(もりゆき・楊井やない、藩士/歌人)	K 4 4 1 1
氏教(しきょう・戸田)	→	氏教(うじのり・戸田とだ、藩主)	C 1 2 5 7
氏興(しきょう・藤波)	→	氏興(うじおき・藤波、神職/記録)	C 1 2 3 3
氏郷(しきょう・宗像)	→	氏郷(うじさと・宗像むなかた、神職)	C 1 2 3 8
氏郷(しきょう・蒲生)	→	氏郷(うじさと・蒲生がもう、武将/連歌)	1 2 3 0
思恭(しきょう・福田)	→	渭水(いすい・福田ふくだ/ふた、儒/砲術)	E 1 1 3 7

- 思恭(しきょう;字) → 円識(えんしき;法諱、本願寺派僧) E 1 3 8 2
 思郷(しきょう・井上) → 素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学) J 4 4 1 4
 司郷(しきょう・西尾) → 武陵(ぶりょう・西尾にしお、酒造業/俳人) E 3 8 6 1
 泗橋(しきょう・土屋) → 知虎(ともとら・土屋、家老/詩文) P 3 1 9 6
 師教(しきょう→もろり・源) → 親教(ちかおり・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 8 5 9
 師教(しきょう・源) → 師教(もろり・源みなもと、廷臣/歌人) H 4 4 6 9
 師教(しきょう・九条) → 師教(もろり・九条/藤原、関白/歌人) H 4 4 7 0
 師郷(しきょう・中原) → 師郷(もろさと・中原なかはら、廷臣/歌人) H 4 4 2 2
 師董(しきょう・松居) → 汶邨(汶村ぶんそん・松居、藩士/俳人・絵師) G 3 8 0 8
 資教(しきょう・日野) → 資教(すけり・日野/藤原、廷臣/歌人) C 2 3 7 7
 資郷(しきょう・上野) → 資郷(すけさと・上野うえの/伴、幕臣/歌人) H 2 3 8 2
- Q2125 至暁(しぎょう) ? - ? 江戸の俳人;1698「続猿蓑」2句入、
 [鶏頭の散る事知らぬ日数ひかげ哉](続猿蓑;卷下/花の命の長い鶏頭)
- B2163 紫暁(しぎょう・宮みや) 1745 - 1805⁶¹ 山城伏見の俳人;几董門、のち京に移住、
 京縄手通りの茶屋を経営、1776紫暁に改号、几董門の筆頭、1801几董没後春夜楼を継承、
 几董・蕪村・芭蕉の追善集編撰/歳旦集を刊行、春坡・月溪と親交、
 1787「松のそなた」90「鐘筑波」「花さくら集」91「春興」「この時雨」92「またら日記」編、
 1795「雪の光」編、96「うき草日記」/99「常盤の香」1801「夢の猪名埜」04「真蹟発句帖」編外多、
 [旅人や鐘に石打つ遅桜](松のそなた/石を投げた旅人のいたずら;暮春の静寂)、
 [水くらく菜の花白く日暮れたり](この時雨/陰画の景)、
 [紫暁(;号)の別号]初号;車螻(しゃしゅう/車螻(しゃぼう)、聴亀庵/松林居/春宵楼/春夜楼2世
- 子業(しぎょう・鷺見/二宮) → 東郭(とうかく・二宮、藩士/経学/兵学) C 3 1 1 5
 子業(しぎょう・立野) → 寛(ひろし・立野たての、藩士/儒者) F 3 7 9 2
 子業(しぎょう・疋田) → 進修(しんしゅう・疋田ひきだ/松平、藩士/儒者) V 2 2 4 4
 子業(しぎょう・近藤) → 西涯(せいがい・近藤こんどう、藩儒者) 2 4 8 7
 子業(しぎょう・麻野) → 林曹(りんそう・麻野あさの/笠原、儒者) K 4 9 6 3
 子業(しぎょう・服部) → 常職(つねより・服部はつとり、幕臣/国学) G 2 9 1 8
 士業(しぎょう・前田) → 梅洞(ばいどう・前田まえだ、藩士/儒者) B 3 6 9 1
 士業(しぎょう・建部/杉田) → 伯元(はくげん・杉田、蘭医者) D 3 6 0 2
 士業(しぎょう・大塚) → 水石(すいせき・大塚おおか、藩士/儒者) E 2 3 7 4
 士業(しぎょう・田中) → 照(しょう・田中たなか、藩士/参政) V 2 2 1 1
 資業(しぎょう・藤原) → 資業(すけなり・藤原・日野、廷臣/詩歌) C 2 3 6 7
 資堯(しぎょう・柳原) → 資堯(すけたか・柳原やなぎわら、廷臣/歌人) C 2 3 3 0
- B2164 慈慶(じきょう/じけい;法諱、初法諱;慈仙、内大臣一条内実男) 1296-1340⁴⁵ 比叡山天台宗妙高院僧、
 叔父の慈深大僧正門、1339大僧正、歌人:1339春日社頭公武和歌に参加、一条内経の弟、
 勅撰5首;続千載(1434)続後拾(1176)新千載(879/1867)新拾遺(1519)、
 [ぬれてほすひまこそなけれ恋ごろも身をしる雨の晴れぬ思ひに](続千載;恋1434)
- Q2126 慈鏡(じきょう;法諱、通称;慶順眼鏡房) 1368-? 阿波の真言僧/声明:一心院観深門、
 1396声明「声決書」、「幻夢教道集」「観行集」著
- Q2127 持教(持孝しきょう) ? - ? 室町期園城寺の僧/歌人:
 1478住吉社法楽詠「持教百首」
- B2165 只狂(じきょう/しきょう・土屋つちや) ?- ? 江中期羽前大石田の俳人、1766五竹坊を迎える、
 芭蕉の最上川歌仙真蹟を入手;1769撰集「もがみ川集」編、
 [只狂(;号)の別号] 暁花園/市馬窓主人
- B2166 自恐(じきょう・十文字舎じゅうもんじや)?-? 1802洒落本評判記「花折紙」共著(;蔵伎・新作と)
- Q2128 治郷(じきょう・接待せつたい) ? - 1890 陸奥八戸藩士/故実家;故事・史実に通ず、
 1838「御領内絵図」46「甲子古城之図」49「新井田館古城之図」、「奥州三戸古城之図」著、
 「奥南温古集」「十王院由緒」「八戸祠さがし」著、 [治郷(;名)の通称] 栄
- 治郷(じきょう・松平) → 治郷(はるさと・松平、不昧、藩主/茶道) G 3 6 3 8
 時恭(しきょう・志村) → 東嶼(とうしよ・志村、儒者/詩文) F 3 1 2 0

- 時恭(じきょう・石橋庵) → 眞醉(ますい・石橋庵いしばしあん、国学/戯作) I 4 0 9 2
時恭(じきょう・横井) → 千足(ちたり・横井よこい、国学者) N 2 8 7 6
時驕(じきょう・鳥山) → 時驕(ときなが・鳥山とりやま、藩士/詩文) J 3 1 5 9
時喬(じきょう・加藤) → 眞菅(ますげ・加藤かとう、絵師/国学) O 4 0 6 6
慈教(じきょう; 初法諱) → 慈賢(じけん; 法諱、天台学僧/座主) T 2 1 2 6
慈教(じきょう・石園) → 滋教(しげのり・石園、歌人) S 2 1 1 7
慈郷(じきょう・間部) → 詮勝(あきかつ・間部まなべ、藩主/詩人) D 1 0 3 2
自疆(じきょう; 号) → 等連(とうれん; 法諱・竺運; 道号、臨濟/五山文学) 3 1 3 1
自強(じきょう・鈴木) → 春山(しゅんざん・鈴木すずき、藩医/兵学) J 2 1 7 7
事行院(じぎょういん) → 日忍(にちにん; 法諱、日蓮僧) D 3 3 0 9
時狂斎(じきょうさい) → 敬安(けいあん・岡おか、医者) F 1 8 2 2
慈行三千(じきょうさんぜん) → 千代(ちよ・松下まつした/亀割、商家/宗教) N 2 8 5 3
自凝舎(じぎょうしゃ・おのころのや) → 真柱(みはしら・後醍院ごたいいん/大河平、国学者) F 4 1 7 1
持経上人(じきょうしやうにん) → 定誉(じやうよ; 法諱、真言僧/高野復興) B 2 2 9 7
- Q2129 四橋先生(しきやうせんせい・姓名不詳) ?-? 儒者?; 1768「三ヶ津学者評判記」; 三都儒詩書家の評判記
慈教大師(じきやうだいし) → 源空(げんくう; 法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
地形堂方丸(-堅丸じきやうどうかたまる) → 堅丸(かたまる・地形堂じきやうどう、幕臣/狂歌) N 1 5 0 9
圀橋老人(しきやうろうじん) → 誉純(なすみ・有馬、藩主/文筆) G 3 2 6 3
子昂(しきやう; 字) → 深励(じんれい・子昂; 字、大谷派学僧) Q 2 2 1 7
- Q2130 志玉(しぎよく; 法諱) ? - ?1379存 南北期比叡山天台学僧; 明導上人照源門、
実導上人仁空の講に侍す、1358「二乗智断十二因縁義」、「円頓戒儀秘聞書」「義釈搜決抄」著
- Q2131 志玉(しぎよく; 法諱・総円そうえん; 字) 1383-146280 武州金沢の称名寺華嚴僧/のち戒壇院の融存門、
1417入明; 成祖に招聘され華嚴経進講/普一国師を賜号、1421帰国; 東大寺戒壇院長老、
足利義教に授戒/鎌倉極楽寺・称名寺・山城高山寺で進講/讃岐屋島寺の再興、高山寺で没、
「華嚴五経章見聞」「五経章聴抄」1444「六輪釈」著、
[志玉の通称/号]通称; 普一潤山志玉、号; 渡西/談宗、諡号; 普一国師
- 志玉(しぎよく; 字) → 明空(みやうくう; 法諱、天台/浄土僧) G 4 1 3 2
士玉(しぎよく・下司) → 芝亭(してい・下司しもつかさ/げじ/源、篆刻家) V 2 1 1 9
子玉(しぎよく・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8
子玉(しぎよく・中島) → 米華(べいか・中島、藩士/儒/詩人) 2 7 1 5
子玉(しぎよく・大橋) → 知伸(ともぶ・大橋、絵師/篆刻/俳) Q 3 1 2 3
子玉(しぎよく; 字) → 恵琳(えりん; 法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 3 6
子玉(しぎよく; 字) → 懐(かい・豊浦とよら、漢学/老子研究) I 1 5 3 1
子玉(しぎよく・武内) → 確斎(かくさい・武内、儒詩/狂歌/読本) E 1 5 6 8
子玉(しぎよく・長久保) → 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3
子玉(しぎよく・友野) → 霞舟(かじゅう・友野とも、幕臣/詩人) C 1 5 1 1
子玉(しぎよく・鼎) → 金城(きんじやう・鼎かなえ、絵師) R 1 6 1 9
子玉(しぎよく・立松/稲毛屋) → 東作(とうさく・平秩へうつ/平原屋、商家/狂歌) 3 1 1 3
子玉(しぎよく・高橋) → 豊珪(とよあき・高橋たかはし、劍術/書家) V 3 1 6 5
子玉(士玉しぎよく・前川) → 五嶺(ごれい・前川まえかわ、絵師/国事) O 1 9 1 4
子旭(しぎよく・菅) → 甘谷(かんこく・菅かん/府川/堀、儒者) D 1 5 6 5
子旭(しぎよく・大岡) → 春卜(しゅんぼく・大岡/藤原/狩野、絵師) K 2 1 4 9
- P2134 自曲(じきよく) ? - ? 時宗; 善通寺僧/俳人、1666吉竹「遠近集」、
1672「俳諧発句名所集」入、狂歌; 1666行風「古今夷曲集」2首入
- 紙魚室(しぎよしつ→しみのや) → 千楯(ちたて・城戸、国学者) 2 8 1 3
直蓮社(じきれんしゃ・心誉本阿) → 祐察(ゆうさつ; 法諱、浄土僧) B 4 6 8 3
識廬(しきろ) → 永瑾(えいきん; 法諱・雪嶺、臨濟僧/詩) 1 3 2 1
- I2135 糸巾(しきん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[月を汲みて塩からき身や麻衣](丁卯集; 塩焼)
- L2140 志近(しきん) ? - ? 江前期下野宇都宮の俳人; 1691不角「二葉之松」入(181)

- B2167 **此筋**(しきん・宮崎みやざき、荊口けいこうの長男) 1673-1735⁶³ 美濃大垣藩士;父継嗣、俳人・芭蕉門、千川せんせん・文鳥の兄、1691路通「勸進牒」入(初出)/93巴水「薦獅子集」入/98「続猿蓑」4句入、1700杉風「冬かつら」・子珊「続別座敷」入、
[若草や松につけたき蟻の道](続猿蓑;卷下/若草への思いやり)、
[此筋(;号)の通称/別号]通称;太左衛門、別号;応休(;致仕後)
- B2168 **志琴**(しきん) ? - ? 江戸雑俳点者、1702「冠独歩行かんわりひとりあるき」入
- B2169 **子琴**(しきん・葛かつ:修姓、橋本、本姓:葛城、医者橋本貞淳男) 1739-84⁴⁶ 大阪の医者;京で修学、大阪淀河畔玉江橋北詰で医業、儒;兄えの楽郊・菅甘谷門、詩・書、片山北海の混沌社に属す、詩才を發揮し混沌社の中心、篆刻・笙・箏も堪能、頼春水・岡公翼と交流、
「葛子琴詩抄」「葛氏遺香集」「御風楼詩稿」、「葛氏漫草」「詠物詩」「小園詩話」「小園摘稿」著、
[子琴(;字)の名/通称/号]名;張/湛/耽、通称;貞元、橋本蝨庵/勝飾蝨庵、
号;蝨庵とあん/小園/小園叟/御風楼/宝石斎、諡号;檜園詩老
- D2144 **子琴**(しきん・上田うえだ、名;静)?- ? 江中期1751-72頃;信州木曾福島の詩人、1771「詩韻児解」編、
[子琴(;字)の通称] 武助
- B2114 **子錦**(しきん・船曳ふなびき、名;尚綱/尚綱/尚綱)?-? 江後期医者;水原三折門/1837探領術を伝受、京御幸押小路で開業(;漢蘭折衷の産科・女医科)、山崎玄東と親交、
「遠西麻弗利伽宇産科書」校訂、卓堂の父、
[子錦(;字)の通称/号]通称;紋吉、号;白旗/蠮屈舎かくくつしゃ
- 之欽(しきん・中村) → 傷斎(てきさい・中村/仲邨なかむら、儒者) B 3 0 8 8
子欽(しきん・鶴飼) → 鍊斎(れんさい・鶴飼うかい、儒;彰考館総裁) B 5 1 0 6
子琴(しきん・村井) → 琴山(きんざん・村井/邨井、医者/詩文) J 1 6 0 1
子琴(しきん・梅辻) → 春樵(しゅんしょう・梅辻/琴/祝部、神職/詩) J 2 1 9 6
子琴(しきん・伊達) → 峰宗(みねむね・伊達だて、藩士/詩文) F 4 1 5 6
子瑾(しきん・和田) → 則孝(のりたか・和田、医者) E 3 5 8 8
子謹(しきん・平井) → 庸慎(ようしん・平井ひらい、医者) B 4 7 2 6
子勤(しきん・木下) → 韓村(いそん・木下、儒者/詩人) E 1 1 1 2
子勤(しきん・守屋) → 中洲(ちゅうしゅう・守屋もりや、藩士/詩文) G 2 8 2 2
子勤(しきん・三宅) → 英斎(えいさい・三宅みやけ、絵師) C 1 3 7 8
子勤(しきん・山田) → 椿庭(ちんてい・山田、医者/詩) K 2 8 9 2
子勤(しきん・神原) → 業広(なりひろ・神原かんばら、商家/国学) L 3 2 8 0
子錦(しきん・森山) → 多吉郎(たきちろう・森山もりやま、通詞) N 2 6 8 7
士勤(しきん・安東) → 仕学斎(しがくさい・安東あんどう、儒者) B 2 1 3 3
士勤(しきん・樋口) → 三生(さんせい・樋口ひぐち/日野、医者) N 2 0 4 8
士錦(しきん・村瀬) → 藤城(とうじょう・村瀬むらせ、大庄屋/儒者) F 3 1 3 3
士欽(しきん・栗崎) → 履斎(りさい・栗崎くりさき、儒者) B 4 9 0 6
士欽(しきん・今井) → 道安(みちやす・今井いまい、医者/歌人) I 4 1 1 2
芝金(しきん→しばきん・初世哥沢) → 金吉(きんきち・柴田、哥沢節) H 1 6 5 4
- B2170 **慈均**(じきん;法諱・平田へいでん;道号)?-1364 相模鎌倉の臨濟僧;道山玄晟門/27歳入元、古林清茂・清拙正澄門、帰国後:豊後崇禅寺住持、道山玄晟の法嗣、1350東福寺24世、1357南禅寺25世、後崇禅寺退院後に南禅寺内に雲興庵を結庵/長門下関永福寺を開山、
「平田和尚語録」著
- 慈訓(じきん) → 慈訓(じくん、法相僧/興福寺初代別当) Q 2 1 4 3
似琴[舎](じきん[しゃ]) → 知之(ともゆき・堀田、歌/俳人) Q 3 1 8 1
四琴斎(しきんさい・村上) → 松男(まつお・村上むらかみ/源、国学/歌) T 4 0 1 0
紫金台寺御室(しきんだいじのおむろ) → 覚性法親王(かくしょうほつしんのう、歌人) 1 5 6 2
志勤堂(しきんどう) → 竜晔(りゅうぎやう;法諱、真宗僧) D 4 9 3 8
資矩(しく/すけのり・伴) → 香竹(こうちく・伴はん、国学者;歌/書) B 1 9 6 9
資矩(しく・日野) → 資矩(すけつね・日野/藤原、大納言/歌) G 2 3 5 3
治具(じぐ・茂木) → 治具(はるとも・茂木もてぎ、藩士/検地) F 3 6 3 2

- Q2132 **竺庵**(じくあん;道号・浄印じょういん;法諱、号;梅隱、俗姓;陳)1696-1756⁶¹ 清の浙江の黄檗僧:
靈隱寺の諦暉門;出家受戒、1723杲堂元昶の招聘で長崎に渡来;長崎興福寺7世、
1734宇治万福寺13世、39隱居/海宝寺住持/51海宝寺末庵慶雲庵に退隱;没
「竺庵禪師語録」「竺庵禪師雜稿」著、「竺庵禪師遺稿」
- Q2133 **竺印**(じくいん;道号・祖門そもん;法諱、俗姓;多田)1610-77⁶⁸ 長門深川の臨濟僧:幼時萩で出家;出奔、
京の妙心寺の千山玄松門;嗣法、諸国行脚/長崎禪林寺で隱元と出合;日本滞留に尽力、
1671(62歳)紫衣を賜る;妙心寺住/周防毛利氏の招聘で徳山の大成寺住職;その地で没、
「竺印和尚再住妙心寺語録」著
- Q2134 **竺隱**(じくいん;道号・崇五すうご;法諱、諡号;慈明広恵禪師)?-1697 臨濟僧;最岳元良門;法嗣、
1657南禅寺金地院住持/58南禅寺278世、58-73南禅寺金地院僧録職、60南禅寺住持は辞任、
「竺隱和尚語録」「南禅旧記」「南禅入寺記録」、1672「長福寺重書抄」編
- B2171 **示空**(じくう;法諱) ? - ? 鎌倉末期浄土宗西山派僧;上人、歌、新後拾遺1247、
[ことのはの枯れにし後は真葛原まげはうらむるほどの慰めもなし](新後拾:恋1247)
- Q2135 **慈空**(じくう;法諱、俗姓;水原みづもと、円照寺の大濤[慈潮]3男)1808-90⁸³ 近江犬上郡高宮円照寺生、
真宗本願寺派僧:1822本山で得度/円照寺住職/48得業/助教に昇進、
広如法王の命で兄超然と共に[真宗法要典拠]を校補/1868司教/72勸学、「辨邪能破論」著、
1866「行卷一念章」「行信一念義」著、「諫議書」「諫議書略述」「再諫書」「艸雙紙随評」外著多、
[慈空(;法諱)の別法諱/号/諡号]別法諱;**宏遠**、号;鏡華きやうげ、諡号;遊心院
- 慈空(じくう;字) → 性憲(しょうけん;法諱・慈空、浄土西山派僧) I 2 2 4 3
慈空(じくう;法号) → 顕慧(けんえ;法諱・慈空、浄土宗学僧) H 1 8 8 2
慈空(じくう;法号) → 長玄(ちやうげん・本間ほんま、医者) I 2 8 1 3
示空(じくう;字) → 円智(えんち;法諱、江戸前期浄土宗西山派僧) F 1 3 1 9
而空(じくう) → 竹心(ちくしん・藪内やぶのうち、茶人) D 2 8 2 3
似空(じくう) → 安靜(あんせい・荻田/荻野、俳/歌人) C 1 0 1 5
- B2172 **自偶**(じくう;号) ? - ? 江前期音曲家;平曲の一方いしかた流師堂派;高山誕一門、
江戸の前田流の立場から京の師堂派波多野流を批判、前田流に属していたか?、
長柄ながえ検校能一の父、小寺温一or前田九一と同一?、
1632頃平曲楽書「西海余滴集」著(;芸道論)
- 似空軒(じくうけん) → 安靜(あんせい・荻田、俳/歌人) C 1 0 1 5
似空軒(2世じくうけん) → 似船(じせん・富尾、俳人) E 2 1 4 0
- G2122 **竺雲**(じくうん;道号・顕騰けんとう;法諱、号;愈好道人)?-? 戦国期1501-21頃臨濟僧:中叟顕正門;嗣法、
鎌倉建長寺162世住持;同寺竜華院の塔主、文筆家;玉隠英瓊いよと唱和、「繫雲集」著
- 竺雲(じくうん;道号) → 慧心(えしん;法諱、臨濟僧/五山文学) 1 3 6 6
竺運(じくうん;道号) → 等連(とうれん;法諱、臨濟僧/五山文学) 3 1 3 1
竺運(じくうん;初道号) → 曇仲(どんちゆう;道号・道芳;法諱、臨濟僧) S 3 1 4 3
- Q2136 **竺華**(じくか;道号・梵尊ぼんぐく;法諱)?-1465 阿波の臨濟僧:大椿周亨門;法嗣、阿波補陀寺住持、
1453頃南禅寺上生院塔主/58南禅寺188世;60再任、「五家録私抄」著
- Q2137 **竺関**(じくかん;道号・瑞要ずいよう;法諱)?-? 臨濟僧:大器中璉(or大基中建)門;法嗣、
山城の真如寺住持/1497頃南禅寺249世、1493「明応二年太閤竺関等和漢聯句」参加
- Q2138 **竺巖**(じくがん;道号・梅仙ばいせん;法諱/初法諱;陽谷)1649-1715⁶⁷ 江戸の僧:武蔵妙巖寺称外門;
出家;陽谷と命名/曹洞僧;江戸湖雲寺の獅巖梅腑門;梅仙に改名、丹崖喜雲門;印可を受、
永平寺・下総重俊寺・江戸全勝寺・青松寺に歴住、1707下野の大中寺住職、「無門関註」著
- 竺丸(じくがん;号) → 只丸(じがん;号、真宗高田派僧/俳人) B 2 1 4 1
- Q2139 **竺源**(じくげん;道号・玄獅げんし;法諱、号;勃窣子ぼつそつし、俗姓;高桑)1752-94⁴³ 父は加賀藩医、
加賀の僧;1769(17歳)文溪門;出家、臨濟僧:月船禅慧門;印可受、讃岐実相寺住/諸国遍歴、
晩年;熊野那智山麓西福寺に閑居;没、「竺源詩集」「竺源禪師偈頌」著
- Q2140 **竺源**(じくげん;道号・徳厚とくこう;法諱/初諱;徳敬、号;無礙室)1799-1875⁷⁷ 甲斐の臨濟僧:
東光寺清穩門/嗣法、信州極楽寺住持;1868頃甲斐向嶽寺に僧堂を開く、「竺源和尚語録」著
- 竺源(じくげん;道号・慧梵;法諱) → 慧梵(えほん、師成親王/臨濟僧/歌) 1 3 8 5
竺斎(じくさい・田辺) → 百堂(2世ひゃくどう・田辺、商家/俳人) E 3 7 7 0

- Q2141 **竺山**(じくさん;道号・得僊[得仙]とくせん;法諱、俗姓;平)1344-141370 近江清滝の曹洞僧:
建仁寺大弁正訥門;得度/寂室元光・平心処斎・大拙祖能に参禅、美濃妙応寺の大徹宗令門、
その嗣法、摂津護国寺・桂林寺を創建、越中立川寺住持/1398能登総持寺14世、
能登永光寺・妙心寺歴住/桂林寺に帰る;没、「竺山得仙和尚語録」「埋真集」著
- 竺洲(じくしゅう;法諱) → 梵丁(ぼんちよう;道号・竺洲・曹洞僧) F 3 9 5 4
 竺重(じくしゅう;法諱) → 九鼎(きゅうてい;道号・竺重、臨濟僧) M 1 6 8 1
 竺常(じくじょう;号) → 大典(だいてん;号・梅莊頭常、臨濟僧) B 2 6 9 0
- B2173 **竺信**(じくしん;法諱・梅峰ばいほう;道号、号;夢窩、舟橋頼重男)1633-170775 大坂の曹洞僧;
1643(11歳)播磨安養寺の長屋養門;出家/1657(25歳)山城宇治興聖寺の竜蟠松雲門/嗣法、
1672宇治興聖寺8世、安養寺・常陸耕山寺住持/卍山道白・田翁らと宗弊刷新に尽力、
諸寺開創・中興、興善寺に没、1683「永平録雋原」92「四天王護国禅寺記」93「梅峰禅師語録」、
1698「土葬神塔銘」1700「洞門劇譚」06「林丘客話」、「梅峰禅師贅録」著、「梅峰禅師遺録」
- 竺真応(じくしんおう) → 真応(しんおう;法諱、僧/和算家) N 2 2 5 2
- 02174 **竺瑞**(じくずい;法諱、号;蘆雪)1827-190781 筑前福岡の法伝寺僧(真宗本願寺派)、歌人
- 竺仙(じくせん;道号) → 梵僊(ぼんせん;法諱・竺仙;道号、臨濟僧/五山文学) F 3 9 5 3
 竺遷(じくせん・関) → 竹泉(ちくせん・関せき、商家/茶人) D 2 8 2 9
 竺仙大法禅師(じくせんたいほうぜんじ) → 竜嶽(りゅうがく;道号・宗劉;法諱/臨濟僧) D 4 9 2 3
 地口有武(じぐちのありたけ) → 地口有武(ぢぐちのありたけ・星野文竿、狂歌) D 2 8 4 4
 子屈(しくつ・熊谷) → 道伸(みちのぶ・熊谷、庄屋/儒者・教育) C 4 1 2 2
 竺曇(じくどん;初道号) → 曇仲(どんちゆう;道号・道芳、臨濟僧) S 3 1 4 3
- Q2142 **竺芳**(じくほう;道号・正旃しょうせん;法諱)?-? 1399存 臨濟宗聖一派:東福寺10世直翁智侃の法孫、
不肯正受門;法嗣、直翁の分骨を塔した東福寺盛光院住;塔銘を建て直翁の語録収集;
「仏印禅師直翁和尚語録」編
- 竺峰(じくほう;号) → 大溪(だいかい;道号・浄高;法諱、黄檗僧) J 2 6 7 8
 四熊(しくま・小原;変名) → 簣斎(きさい・岡村おかわら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
- B2174 **竺万**(じくまん;号) ? - ? 江後期江戸の雑俳点者、
1797「筆力士」編、1834丹頂斎一声撰「歌羅衣からごろも」入
- 舳羅山人(じくらさんじん) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
 時雨(しぐれ→ときふる) → 時雨(ときふる・藤原、平安期歌人) K 3 1 0 1
 時雨菴(しぐれあん) → 蘿来(ららい・時雨菴、俳人) B 4 8 5 2
 時雨庵(しぐれあん) → 萱根(かやね・中里東吾、狂歌) P 1 5 4 9
 時雨庵(しぐれあん) → 政辰(まさとき・浅井、藩士/俳人) E 4 0 3 7
 時雨庵(しぐれあん) → 可大(かだい・栗本くりのもと、俳人) C 1 5 2 9
 時雨庵(しぐれあん) → 卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人) O 2 6 0 6
 時雨庵(しぐれあん) → 祐阿(ゆうあ・時雨庵、商家/俳人) 4 6 5 0
 時雨庵(しぐれあん) → 浄月(じょうげつ;法諱、僧/歌人) G 2 2 3 7
 時雨庵(しぐれあん) → 尋香(じんこう;号・小川おがわ、俳人) O 2 2 3 3
 時雨庵絵師空言(しぐれあんえしのそらごと) → 額輔(初世がくすけ・絵馬屋えまや、絵師/狂歌) E 1 5 7 4
 時雨庵主人(しぐれあんしゅじん) → 文祇(ぶんぎ・雞田、戯作者/俳人) E 3 8 9 6
 時雨園(しぐれえん) → 鰲岐(ごうき・吉田よしだ/吉、儒者/歌) I 1 9 2 3
 時雨岡逸民(しぐれおかいみん) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 時雨窓(初世しぐれそう) → 蓼太(りょうた・大島、俳人) 4 9 2 0
 時雨窓(2世しぐれそう) → 月巢(げっそう・山村、俳人) B 1 8 1 2
 時雨窓(3世しぐれそう) → 文母(ぶんぼ・小林、俳人) G 3 8 4 2
 時雨亭(しぐれてい) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
 時雨坊(しぐれぼう) → 一草(いっそう・子日庵3世、俳人) B 1 1 5 8
 四九郎(しくろう・鈴木) → 広川(こうせん・鈴木/廬、儒/詩文) K 1 9 2 0
 資訓(しくん・白川) → 資訓(すけのり・白川、最期の神祇伯) G 2 3 9 7
 資訓(しくん・神崎) → 資訓(すけのり・神崎かなぎき/莊野、藩士/国学) I 2 3 3 2
 士訓(しくん・中村) → 確堂(かくどう・中村なかむら、藩士/儒者) H 1 5 3 6

- 士訓(しくん・永井) → 青崖(青厓せいがい・永井、藩士/蘭学者) H 2 4 7 6
子訓(しくん・梶) → 苙嶽(そうがく・梶かじ、儒者) G 2 5 6 2
子訓(しくん・那古屋) → 良富(よしとみ・那古屋なごや、藩士/詩人) E 4 7 9 8
子勲(しくん・松平/徳川) → 宗堯(むねたか・徳川/松平、藩主/文筆) B 4 2 4 7
子群(しぐん・真野) → 頼恭(よしたか・真野まの、藩士/儒/狂歌) I 4 7 9 1
- Q2143 慈訓(じくん・じきん:法諱、俗姓;船) 691-777 87 奈良期河内の法相僧;興福寺玄昉・元興寺良敏門、華嚴;新羅僧審祥門、756聖武太上天皇の病氣平癒祈禱;功により少僧都、757(天平宝字元)興福寺初代別当、763道鏡と対立し職位停止;770復位、「梵網經上卷妙記」著、門弟の永叡・仁秀は法相宗を伝承/正義・明哲は華嚴宗を伝承
- 此君庵(しくんあん) → 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人) K 4 0 6 0
此君園(しくんえん) → 清厚(きよあつ・河崎/度会、神職/国学) G 1 6 5 1
此君園(しくんえん) → 尉之介(じょうのすけ・高島/高嶋、医者/俳) L 2 2 3 5
此君園主人(しくんえんしゅじん) → 茂道(もちみち・武嶋/菅原/丸橋、幕臣) B 4 4 7 2
此君観(しくんかん) → 文房(ぶんぼう・坂上さかがみ、俳人) G 3 8 4 4
此君斎(しくんさい) → 長昭(ながあきら・市橋、藩主/儒者) D 3 2 1 7
此君斎(しくんさい) → 義茂(よししげ・佐竹さたけ、藩士/詩文) D 4 7 6 3
此君亭(しくんてい・津軽) → 朝喬(ともたか・津軽、藩士/俳人) P 3 1 6 4
此君亭(しくんてい・金森) → 世竹(せいちく・金森かなもり、俳人) J 2 4 2 1
此君亭(しくんてい・齋藤) → 元室(もととみ・齋藤さいとう、藩士/国学者) K 4 4 0 5
此君亭(しくんてい・山口) → 友之(ともゆき・山口やまぐち/源、国学/歌) W 3 1 8 3
此君堂(しくんどう) → 翠軒(すいけん・立原たちばら、儒者/藩士) 2 3 0 1
此君堂(しくんどう) → 正卿(まさつぐ・近藤こんどう/加藤、神職/歌) P 4 0 7 5
四君堂(しくんどう) → 月海(げつかい:法諱、真宗僧/奇物蒐集) G 1 8 9 1
- a2127 重(しげ・) ? - ? 江前期;京の女流歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]恋2首入、河瀬家の娘?、[まちわびてぬる夜はゆるせ夢によもうき名はたたじ人にづげずは](麓の塵;恋428)
- 02157 茂(しげ・佐分利/佐分さぶり、茂女、清因きよより女) 1842-1922 81 尾張一宮里正の家の生、国学;父門しげ(・石川) → さち(幸さち・石川/飯田、石川雅望女/文筆家) K 2 0 4 1
しげ(・山下) → しげ女(しげよ・山下やました、歌人) Z 2 1 9 8
- B2175 重頭(しげあき・上杉うえすぎ/本姓;藤原、頼重男) ?-? 1310存 鎌倉期武将、五位/伏見院蔵人/左近将監、修理亮、歌人;勅撰4首;1312成立「玉葉集」(2129)続千(808/1044)風雅(500)入/柳風抄入、頼成よりしげの兄/清子せい(足利尊氏の母)の弟、[古郷は露もわすれず草枕結ぶ仮寝の夜半をかさねて](続千載;八羈旅808)[寂蓮法師歌合の時;木間月、吹きわけて木のまをみする秋風のよわるかたにはもらぬ月影](柳風抄;秋77)
- K2135 重明(しげあき) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮の神職、連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、[寒さえ暮れし野里のざとの風のまた吹きて](熱田法楽;賦山何;初裏7/木枯らしの景、前句;政保;籬に残る草の朝露)
- B2176 繁秋(しげあき・豊原とよはら、縁秋男) 1445-1501 57 室町戦国期の楽人;笙、近江守/1487従四下、笙を後柏原天皇に伝授、1890「豊原繁秋鳳笙譜」
- B2177 重明(しげあき・勝浦かつうら/桂、森本与右衛門男) ?-1738 (70余歳) 外祖父桂夢覚の養嗣子/勝浦を名乗、土佐高知藩士;1680家督嗣/弓;曾我平太夫門/剣道;真心蔭流の小林養仲門、槍術;多賀宗之門/杉山流槍術家として印可を受、門弟多数、「切合思当録」著[重明(;名)の通称/法号]通称;小伝次/八助、法号;高巖院
- B2178 重章(しげあき/しげあきら・朝日あさひ、重村しげむら男) 1674-1718 45 尾張藩士;1694父の跡継嗣、1700御豊奉行/1706足軽頭、儒;尾張藩儒小出侗斎門、吉見幸和・天野信景と交流、「塵点録」「鸚鵡籠日記」「筆海」著、[重章(;名)の幼名/通称/号]幼名;甚之丞/亀之助、通称;文左衛門/定右衛門、

号;壺春堂/晴暁子/梅担/白焔はくいてい/流霞亭

- 02109 **重章**(しげあき・萱場かやば、通称;惣助)?-? 陸奥(陸前)仙台藩士、国学者、
菱沼氏章うじあき(傍斎;1717-1805)を養嗣子→ 傍斎(ぼうさい・萱場かやば/菱沼、詩歌) 3 9 9 0
- Q2146 **成章**(しげあき・武谷たけや、雲庵の長男)?-? 江中期大阪の医者/詩・画を嗜む、1786「青山集」著、
1742林東溟「名月篇」入、
[成章(;)名)の字/通称/号]字;豹卿、通称;与二兵衛、号;錦汀
- Q2147 **重明**(しげあき・小泉こいずみ、別名;重見しげみ) 1755-1827 73 撰津住吉の人/住吉神社京館留守居役、
京の上岡崎の香川景樹の隣に住、歌;景樹門、画に長ず、木下幸文・桃沢夢宅と交流、
1807「臨時五十首」著、
[重明(;)名)の通称/号]通称;靱負ゆげい、号;東岡、法号;東岡意幽齋居士
- Q2148 **成章**(しげあき・荒尾あらお、初名;成孝、成徳男) 1763-1821 59 母;伊藤修省女、幕臣;1778御小姓組、
1781従五下/石見守/但馬守、松前奉行/普請奉行/大坂町奉行/江戸町奉行を歴任、
1808「蝦夷地取計之上申書」著、
[成章(;)名)の通称/法号]通称;平次郎/平八郎、法号;紹興院
- N2142 **成章**(しげあき・稲次いなづみ/旧姓;端山) 1780-1836 57 筑後久留米藩士;重臣、国学者、
[成章(;)名)の通称/号]通称;半兵衛、号;五杵ごし
- B2179 **成章**(しげあき・石川いしかわ) ? - ? 江後期旗本5百石/幕臣;1834小納戸方、
西丸裏門番頭/先手鉄砲頭/1865將軍に随い大坂赴任/勤士寄合、1863「御上洛諸事留」、
「石川成章用所留」「石川成章用所日記」「石川成章日記」「石川成章手記」著、
[成章(;)名)の通称]通称;栄吉/左内/左衛門
- N2156 **繁彰**(しげあき・小川おがわ/源、繁胤男) 1804-62 59 駿河府中の商家;日野屋、国学者;松本直秀門、
[繁彰(;)名)の通称] 久右衛門
- a2102 **重秋**(しげあき・山田やまだ、重弘[静里]男) 1809-66 58 越後柏崎の商家[山甚]8代目;薬種・回船業等、
漢学;原松洲門/歌人;千種有功門(父と同門)、柏崎大肝煎、重興しげおき・鏡古きよこの父、
[重秋(;)名)の初名/字/通称/号]初名;弼、字;宋臣、通称;弥助/禎助/為四郎、号;沙園
- Q2149 **重明**(しげあき・牛丸うしまる、重英男) 1813-60 48 秋田藩士;小姓/評定奉行兼国学詰役支配、
儒詩;小川鷗亭門、「蕪辞草稿」著、
[重明(;)名)の字/通称/号]字;正麗/麗正、通称;兵左衛門、号;温斎/養拙軒/致和堂
- Q2150 **重明**(しげあき・竹中たけなか/本姓;源、主税助男?) 1820-63 44 武将竹中重治しげはるの末裔、江戸生/幕臣、
知行所のある美濃岩手に住/1840家督嗣/60重固を養子とす/61隠居、
1846「美濃国岩手竹中氏系譜」著
- Q2151 **重明**(しげあき・水野みずの、通称;采女うねめ)?-1852 幕臣;目付/先手弓頭/火付盗賊改を歴任、
1846京都町奉行;在任中に没、下総守;2千8百石、1850「刑経」補訂
- Q2152 **重暉**(しげあき・薬袋みない、重庸男)?-1860 近江彦根藩士;1802家督嗣、藩校稽古館教授方、
1815中筋代官/北筋代官/筋奉行添役/1844筋奉行加役;民政尽力、52致仕、「茂松園詩集」著、
[重暉(;)名)の字/通称/号]字;伯光、通称;主計かづえ、号;茂松園/松斎
- Z2149 **重榮**(しげあき・鴫田ときた、) 1822-1907 86 上総市原郡の国学者
- Z2148 **重明**(しげあき・時枝ときえだ、名;繁樹/号;寄藻舎、旧姓藤波) 1837-1912 76 豊前宇佐郡宇佐村の国学者、
宇佐弥勒寺寺務の時枝氏を継嗣;兄の奥並継なみつぐに随い勤王倒幕運動;兄と日田に投獄、
赦免;宇佐神宮権禰宜/初代宇佐町長
- 重明(しげあき・儘田) → 柳軒(りゅうけん・儘田、梅柳軒、歌人) D 4 9 6 3
重明(しげあき・菱田) → 毅斎(きさい・菱田ひだ、藩士/儒者) I 1 6 6 3
重明(重晶しげあき・遠田) → 自省(よしみ・遠田とおだ、藩士/日記) J 4 7 7 8
重明(しげあき・儘田) → 柳軒(りゅうけん・儘田まただ/藤原、歌人) D 4 9 6 3
重明(しげあき・秋元) → 芳樹(よしき・大橋おおはし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9
重明(しげあき・春木) → 近安(ちかやす・春木はるき、神職/国学者) N 2 8 3 4
重明(しげあき・古庄) → 白翁(はくおう・古庄ふるじょう、里正/国学) K 3 6 7 7
重昭(しげあき・大金) → 重貞(しげさだ・大金おおがね、郷土史家) R 2 1 0 1
重昭(重明しげあき・山口) → 菅山(かんだん・山口やまぐち、藩士/儒者) G 1 5 3 0
重顕(しげあき・山脇) → 道円(どうえん・山脇、医/儒者) B 3 1 5 7

- 重秋(しげあき・豊原) → 治秋(はるあき・豊原とよはら、楽人) F 3 6 9 5
 重秋(しげあき・甲斐) → 士幹(しかん・甲斐かい、漢学/医者) P 2 1 8 5
 重晁(しげあき・佐々木) → 了斎(りょうさい・佐々木/西村、藩士/詩歌) H 4 9 6 3
 成詮(しげあき・祝部) → 成詮(なりあき/なりあきら・祝部、神職/歌) G 3 2 9 4
 茂明(しげあき・青柳) → 文蔵(ぶんぞう・青柳あおやぎ、医者/貿易) G 3 8 0 5
 茂昭(しげあき・長沢) → 赤城(せきじょう・長沢ながさわ、藩士/馬術) K 2 4 2 1
- N2187 **繁諷**(しげあきら・岡谷おかや/本姓;源、) 1713-9987 上野館林藩士;秋本家公用人、岡谷信繁の孫、
 歌人;詠草あり
 [繁諷(;名)の通称/号]通称;三太夫、号;三濟
- Q2153 **成著**(しげあきら・牧野まきの/田口、牧野成如男)?-1849 幕臣;1776家督相続/寄合/小姓/新番頭
 小普請組支配/小姓組番頭/書院番頭/大番頭/1825世子徳川家慶の側衆/本丸出仕、
 1848御役免除/従五下若狭守・伊予守、1814「紀旅路」23「雲井の秋」42「謾筆」、
 1843「日光之記」「戸山御山荘の記」、「紅葉の秋」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [置く露の恵みもひろき武蔵野の尾花が袖にあまる月影](大江戸倭歌;秋870/野月)、
 [成著(;名)の別名/通称]別名;成、通称;豊之助/伝蔵/伊予守
- 成章(しげあきら・石川) → 成章(しげあき・石川、幕臣/日記) B 2 1 7 9
 成章(しげあきら・富士谷) → 成章(なりあきら・富士谷、国学) 3 2 2 7
 重章(しげあきら・蒲生) → 精庵(せいあん・蒲生がもう、医/儒者) H 2 4 3 1
 重章(しげあきら・木村) → 松陵(しょうりょう・木村、儒者/藩政) L 2 2 9 5
 重謨(しげあきら・三井) → 丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師) T 2 6 2 8
 茂明(しげあきら・藤原) → 茂明(もちあきら・藤原、文章博士/詩人) B 4 4 2 9
- 2109 **重明親王**(しげあきらしんのう、醍醐天皇皇子)906-95449 母;源昇女の貞子、兼明親王の兄/斎宮女の父、
 908親王宣下/911重明と改名、928上野太守、弾正尹・大宰帥・中務卿歴任/二品式部卿、
 漢文日録「李部りほり王記」(李部は式部省の唐名)著、
 [重明親王(;名)の幼名/通称]幼名;将保、通称;桂親王/式部卿宮
- B2180 **重明親王女**(しげあきらしんのうのむすめ、藤原則光の妻)?-? 母;藤原師輔女の登子、
 斎宮女御徽子女王きしよの異母妹、藤原朝経・花山天皇の女御姫子の母、
 歌人;徽子女王との贈答歌(斎宮女御集)、玉葉集1958、
 [近き野の野分のきは音もせざりきや荻吹く風をたれか聞きけん](玉葉;雑1958)、
 (詞書;野分したるつとめて斎宮女御に)
- Q2154 **茂敦**(しげあつ・武嶋たけしま、茂次男/本姓;菅原) 1654-171461 母;山岡景信女、幕臣;1672大番/90家督、
 新番/1698鉄炮玉葉奉行/1709致仕、1706「大箆筥玉葉組御用由緒書上」、
 [茂敦(;名)の通称/法号]通称;左伝次/七郎兵衛、法号;了胆
- Q2155 **茂篤**(しげあつ・岸田きしだ、由良養的男) 1777-185377 岸田勘八の養子、讃岐香川郡の医者、
 儒;菊池高洲門、歌人、晩年失明、「百首桜歌」著、
 [茂篤(;名)の字/通称/号]字;竹潭、通称;亮仲、号;黙翁、諡号;一玄
- Z2105 **重厚**(しげあつ・鈴木すずき、) 1836-190469 武蔵岡部藩主安倍信発のぶおきの世臣、
 1868(慶応4)藩主が三河八名やな郡半原藩に移転;随従、国学;佐々木弘綱門、
 維新後;権大参事、
 [重厚(;名)の通称/号]通称;伝、号;竹香園
- 茂敦(しげあつ・高島) → 秋帆(しゅうはん・高島たかしま、砲術家) I 2 1 2 2
 重敦(しげあつ・西山) → 存真(ぞんしん、大河内おこうち/西山、医者) F 2 5 5 9
- Q2156 **重操**(しげあや・梅村うめむら、重保男) 1818-9679 南部藩士;勘定/倉奉行歴任、和算;長谷川弘門、
 「算学雑好」「算学招差解義」「未済算法」1860「六斜五円適等集」、「三環円諦斜適等集」著、
 重得しげりの弟、門弟を指導、
 [重操(;名)の通称/号]通称;三平治/三左衛門/忠左衛門、号;算吾、法号;算翁寿操居士
- B2181 **重綾**(重礼しげあや・門脇かどわき、重郷男) 1826-7247 伯耆会見郡渡村の神官家;幼時に神職を嗣ぐ、
 神道;1841飯田秀雄門、国学;1851京の加納諸平門/歌人、1863鳥取藩国学教授、
 飯田年平と共に「伯耆志」編纂、維新後;御歌掛/1871正五位;神祇少輔/例幣使/教部大丞、
 家集「蠅園かくえん集」、「門脇重礼歌文」「門脇重綾手記」著、1862「名和氏紀事」著、

[重綾(；名)の通称/号]通称;将曹/少造、号;蠮園かくえん

Q2157 成章(しげあや・武田たけだ、名;斐、敬忠2男)1827-8054 伊予大洲藩士の家;熟軒じゅくけんの弟、大洲藩校明倫堂に修学/音韻学;山田東海門、外語(蘭・英・仏)・医学;緒方洪庵・伊東玄門、兵学;佐久間象山門、1853幕臣;54蝦夷地御用で箱館詰/56箱館奉行支配諸術調所教授、1864開成所教授職並を歴任、1868信州松代藩兵制士官学校教授/のち兵部省出仕、五稜郭・砲台・溶鉱炉の建設/大小銃砲鑄造/兵法書訳出/兵学寮/陸軍士官学校経営、陸軍大佐、1852「用礮軌範ようほうきはん」訳、61「黒竜江誌」著、「山産逢原」「北俗考略」訳、[成章(；字)の別字/通称/号]別の字;裁之、通称;斐三郎/竹中庄蔵、号;竹塘、法号;禅心院重文(しげあや・吹原) → 政之助(まさのすけ・吹原ふきはら、国学) S 4 0 2 3

B2182 重有(しげあり・庭田にわた、経有男/本姓;源)1378-144063 廷臣;1426従三位/32参議/35正三位、1440権大納言;当日出家/没後贈従一位、長賢(重賢/政賢)・日応(僧正)の父、歌人;1406伏見院殿五十番歌合参加、後崇光上皇御所での連歌会に頭役・執筆等を務める、後崇光院千首和歌入/菊葉集70首入、新続古今1701、[老いらくの秋の寝覚のながき夜にたへて聞くべき萩の風かは](新続古今;雑1701)

B2183 志稽(しげい;法諱・原古;道号、細川義久男)1401-7575 京臨濟僧;菩提所の山城紹宏院簡翁志敬門、嗣法、1421東大寺安楽院で真言密教伝法灌頂を受/法相も修学/1462等持寺住持、応仁乱後阿波桂林寺住、1459「大施餓鬼集類分解」、「般若心経秘鍵抄」著

M2185 志計(しげい・山口やまぐち) ? - ? 京の俳人、1690言水「新撰都曲」入(4句69-72)、「遠眼鏡」/1692助叟「俳諧新始ちやうなはじめ」入、[順礼の高峰たかねを拝む藪蚊かな](新撰都曲;上70)

B2184 子圭(しげい・土井どい/修姓;土・井、別号;子俊)?-? 江前期志摩鳥羽藩士?;1691藩主土井利益の転封により肥前唐津藩士、詩人、1691「唐津名勝詩」著

B2185 始卿(しげい;号・鈴木すずき)? - ? 江中期1751-72頃伊勢津藩士、詩人;奥田三角門、渡辺宗周と1757「絃歌余韻」/58「絃歌余韻第二刻」/60「絃歌余韻第四刻」共編

Q2158 志慶(しげい、別号;甘棠居、通称;苧屋かむしや吉右衛門)?-? 撰津大坂高麗橋三丁目の商家、岸和田藩蔵屋敷名代、俳人;大魯門、1776几董「続明鳥」4句入/1776道立「写経社集」3句入、1776樗良「月の夜」1句・77蕪村「夜半楽」1句・77江涯「假日記」1句入集、[かしましく啼いて寂しき蛙かほかな](続明鳥;甲42)

Q2159 之兮(しげい・山田やまだ、初号;交兄/別号;八仙窓)?-? 京の俳人;几董門、亀兮の父、17782蕪村「花鳥篇」2句入/1783維駒「五車反古」3句入、[ぬけ道やさくら散り込むたまり水](花鳥篇;54)

Q2160 芝溪(しげい・吉田よしだ、名;友直、甚兵衛男)1752-181160 上州渋川の商家、儒者;山崎石燕門、江戸昌平黌で傍聴;発奮・帰郷後勉学;渋川来訪の平沢旭山門、農政に関心;養蚕を研究;1794「養蚕須知」著、95「開荒須知」、「救荒須知」「辨学遼東家」著、1806水戸藩に招かれ著述献上;賞される、1810「上毛上野古墓記」著、[芝溪(；号)の字/通称]字;子正、通称;宇助/甚兵衛、翠屏の兄

V2192 思敬(しげい・ことよし?・田中たなか)?- ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[五百機いほはたをたてて織るともたなばたにけふは衣をなほやかさまし]、(大江戸倭歌;秋712、五百機の衣;棚機姫が多くの機で織ったという衣服)

X2107 施恵(しげい・上領かみりょう) ? - ? 江後期;歌人、名;としえ?・のびえ?・はるえ?・ますえ?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[秋ふけて時雨はいとどしがらきの外山の紅葉色まさるなり]、(大江戸倭歌;秋984/紅葉増雨)

- 之契(しげい/これかげ・石川) → 竹厓(ちくがい・石川、儒者) C 2 8 7 7
- 志計(しげい・柏) → 一礼(いちらい・柏・中村、俳人) B 1 1 3 1
- 子啓(しげい・高橋) → 道斎(どうさい・高橋、儒者) E 3 1 3 7
- 子啓(しげい・岡本/賀川) → 玄迪(げんてき・賀川かがわ、産科医) L 1 8 6 2
- 子啓(しげい・小泉) → 五林(ごりん・小泉こいずみ、医者/詩文) O 1 9 0 4
- 子圭(しげい・中西) → 伯圭(はくけい・中西なかにし、神職/書) C 3 6 9 7

子圭(しけい・松本)	→ 願言(こげん・松本、医者/俳人)	C 1 9 4 6
子圭(しけい・二宮)	→ 桃亭(とうてい・二宮にのみや、医者/工芸)	G 3 1 5 9
子珪(しけい・小池)	→ 崑岡(こんこう・小池こいけ、儒者)	P 1 9 1 8
子景(しけい・赤羽/狩野/北尾)	→ 政美(まさよし・北尾きたお、絵師)	I 4 0 6 0
子景(しけい・牛尾)	→ 養庵(ようあん・牛尾うしお、医者/国学者)	4 7 5 9
子敬(しけい・山鹿)	→ 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者)	2 5 2 2
子敬(しけい・徳川)	→ 義直(よしなお・徳川/源/松平、尾張初代藩主)	4 7 2 0
子敬(しけい・藍沢)	→ 南城(なんじょう・藍沢あいざわ、儒者)	J 3 2 2 0
子敬(しけい・松平)	→ 頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌)	I 4 7 9 0
子敬(しけい・竹田)	→ 春庵(しゅんあん・竹田たけだ、藩儒)	J 2 1 1 8
子敬(しけい・津田)	→ 龜山(きざん・五車亭、幕臣/狂歌)	K 1 6 6 0
子敬(しけい・古野)	→ 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者)	B 1 8 4 9
子敬(しけい・池田)	→ 草庵(そうあん・池田いけだ、儒者/詩文)	2 5 4 9
子敬(しけい・野呂)	→ 見龍(けんりゅう・野呂のろ、医者/詩文)	M 1 8 8 5
子敬(しけい・高橋)	→ 竜蔵(りゅうぞう・高橋たかはし、儒者/詩人)	F 4 9 0 6
子敬(しけい・宮村/杉本)	→ 樗園(ちよえん・杉本/宮村、幕府侍医)	K 2 8 1 7
子敬(しけい・関)	→ 赤城(せきじょう・関せき、漢学者/地誌家)	D 2 4 5 8
子敬(思敬しけい・内田)	→ 五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文)	F 1 9 5 2
子敬(しけい・杉)	→ 政愛(まさよし・杉すぎ、文筆家)	I 4 0 6 1
子敬(しけい・新井)	→ 滄洲(そうしゅう・新井/佐久間、藩儒/詩)	B 2 5 8 1
子敬(しけい・森田)	→ 素堂(そどう・森田もりた、医者/詩文)	K 2 5 2 1
子敬(しけい・難波)	→ 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者)	D 4 9 6 7
子敬(しけい・植松)	→ 是勝(ぜしょう・植松うえまつ/中村、和算家)	K 2 4 6 0
子敬(しけい・黒野)	→ 義方(よしかた・黒野くろの、幕臣/兵学者)	C 4 7 7 2
子敬(しけい・滝)	→ 清壑(せいがく・滝たき、絵師)	H 2 4 8 0
子敬(しけい・堤)	→ 宣信(のりのぶ・堤つみ、医者/歌人)	J 3 5 1 9
子敬(しけい・小沢)	→ 種春(たねはる・柳園、小沢、藩士/戯作者)	R 2 6 9 7
子継(しけい・河原/皆川)	→ 誠蔵(せいぞう・皆川みながわ/河原、藩儒)	J 2 4 1 2
子傾(しけい・堀)	→ 麦水(むくすい・堀ほり、医/俳人)	3 6 0 9
子馨(しけい・藤井/羽倉)	→ 惟得(いとく/これのり・羽倉/荷田、国学/歌)	B 1 1 6 9
子馨(しけい・堀田)	→ 広居(こうきよ・堀田ほった、医/儒者)	I 1 9 3 0
子馨(しけい・秦)	→ 星池(せいち・秦はた、書家)	J 2 4 1 9
子恵(しけい・植木)	→ 無窮(むきゅう・植木うえき、詩人)	4 2 4 0
子恵(しけい・紀)	→ 梅亭(ばいてい・紀き、絵師/俳人)	B 3 6 8 3
子恵(しけい・津田/津)	→ 桜崖(おうがい・津田つだ、国学者)	C 1 4 3 4
子恵(しけい・桜田)	→ 簡斎(かんさい・桜田さくらだ、儒者/勤王派)	Q 1 5 6 1
子慶(しけい・中井)	→ 竹山(ちくざん・中井なかい、儒者/詩文)	2 8 0 9
子慶(しけい・中島)	→ 来章(らいしょう・中島/源/並河、絵師)	4 8 6 4
子慶(しけい・岩城)	→ 蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人)	M 2 4 0 5
子慶(しけい・生野)	→ 臨犀(りんさい・生野いくの、儒者/教育)	K 4 9 3 0
子卿(しけい・中岡/豊島)	→ 豊洲(ほうしゅう・豊島としま/中岡、儒者)	B 3 9 4 3
子卿(しけい・関口)	→ 雪翁(せつおう・関口せきぐち/関、儒者)	K 2 4 7 4
子稽(しけい・中田)	→ 正朔(まさもと・中田なかつ/沢潟、神職)	R 4 0 1 3
子瓊(しけい・松永)	→ 貞辰(さだとき・松永/源、藩士/和算家)	I 2 0 7 8
氏経(しけい・斯波)	→ 氏経(うじつね・斯波しば、武将/歌人)	1 2 3 9
氏経(しけい・藤波/瀬木)	→ 氏経(うじつね・藤波/荒木田、神職)	1 2 4 0
氏継(しけい・森/道体)	→ 氏継(うじつぐ・森もり/道体どうたい、和算家)	C 1 2 4 7
氏計(しけい→ゆきかず・小泉)	→ 蒼軒(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家)	H 2 5 0 8
四溪(しけい・伴はん)	→ 直方(なおかた・伴はん、幕臣/国学/語学)	3 2 9 4
四溪(しけい・柳河)	→ 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)	K 2 1 2 1

士敬(しけい・児玉)	→	旗山(きざん・児玉こだま、儒者/詩)	K 1 6 6 6
士敬(しけい・鈴木)	→	白藤(はくとう・鈴木すずき/紀、幕臣/蔵書)	D 3 6 6 6
士敬(しけい・梶原)	→	景熙(かげひろ・梶原かじわら、金石文学者)	E 1 5 9 9
士敬(しけい・山口/益田)	→	遇所(ぐうしょ・益田ますだ/山口、篆刻家)	C 1 7 2 4
士敬(しけい・小林)	→	北阜(ほっこう・小林こばやし、儒者)	E 3 9 6 4
士敬(しけい・大鐘)	→	篤(あつし・大鐘おおかね/印田、商家/国学)	H 1 0 2 2
士啓(しけい;法諱)	→	東伝(とうでん;道号・士啓、臨濟僧)	S 3 1 5 9
士慶(しけい・松崎)	→	蘭谷(らんこく・松崎まつさき、藩士/儒者)	C 4 8 0 8
士慶(しけい・小川)	→	宜(ぎ・小川おがわ、医者/儒者)	T 1 6 6 6
士継(しけい・東条)	→	通庵(つうあん・東条とうじょう、医者)	2 9 1 9
士卿(しけい・奈良)	→	神門(しんもん・奈良なら、儒者)	P 2 2 9 1
只計(しけい・伴)	→	資次(すけつぐ・伴ばん、商家/歌人)	J 2 3 0 0
志慶(しけい・中川)	→	巖(いわお・中川なかがわ、神職/歌人)	J 1 1 7 6
師経(しけい・藤原)	→	師経(もろつね・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	H 4 4 4 5
師継(しけい・花山院)	→	師継(もろつぐ・花山院/藤原、内大臣/歌)	H 4 4 4 3
師馨(しけい・原)	→	師貞(もろさだ・原はら、医者/歌人)	L 4 4 1 0
資敬(しけい・白川)	→	資敬(すけたか・白川、神祇伯/記録)	G 2 3 3 8
資敬(しけい・日野西)	→	資敬(すけたか・日野西/藤原、廷臣/神道)	G 2 3 3 5
資経(しけい・吉田)	→	資経(すけつね・吉田/藤原、廷臣/記録)	C 2 3 4 5
資慶(しけい・烏丸)	→	資慶(すけよし・烏丸/藤原、廷臣/歌学)	2 3 1 4
至圭(しけい;号)	→	観山(かんだん;法諱・即道、融通念仏僧)	Q 1 5 7 8
紫溪(しけい・四熊)	→	直方(なおかた・四熊しくま、医者/藩侍医)	N 3 2 2 7
思敬(しけい・松本)	→	思斎(しさい・松本、商家/儒者/教育)	T 2 1 4 8
思敬(しけい・関)	→	雪江(せつこう・関せき、儒者/書家)	E 2 4 2 3
思敬(しけい・萩原)	→	元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者)	C 4 4 1 6
しげい	→	千代梅(ちようめ・白井、歌人/紀行)	J 2 8 9 1
子芸(しげい・武部)	→	游(ゆう・武部たけべ、蘭学/医者)	4 6 4 6
B2186 只計(しけい)	?	?	俳人、1677「後集絵合千百韻」独吟百韻入
a2126 慈溪(しけい;法諱)	?	?	江前期;上方の僧/法眼、歌人、 1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、 [聞きなれし音はたかしの浦風に思はぬ袖の波ぞひまなき](麓の塵;恋412)
B2188 自蹊(しけい・河野、名;亮輓、李由男)	1701-58	58	近江の真宗本願寺派僧、 犬上郡平田村月沢の明照寺15世、俳人;瞬七亭角上門、書画・印刻に長ず、 1737父李由33回忌追善集「笠の影」編、 [自蹊(;号)の字/別号]字;通恵、別号;緑猗堂/四梅廬2世、錦波(庭田重孝男)の養父 別号;四靱[梅]廬しばい/孟耶観/月沢道人、法名;亮隅 父 → 李由(りゆう・河野、真宗僧/俳人) 4 9 0 5
a2164 慈敬(しけい;法諱)	?	?	江前中期;詳細不詳/京の隠者? 歌人;1722宮川松堅[倭譚五十人一首]入、 [むらがらす寝に行く松もうづもれて雪にさびしき山もとの暮れ]、 (倭譚五十人一首;14山家雪)
慈慶(しけい・慈仙)	→	慈慶(じきよう;法諱、天台叡山僧、歌人)	B 2 1 6 4
慈稽(しけい;法諱)	→	古澗(こかん;道号・慈稽、臨濟僧/儒/詩人)	L 1 9 9 4
慈卿(しけい・間部)	→	詮勝(あきかつ・間部まなべ、藩主/詩人)	D 1 0 3 2
慈谿(しけい・久山)	→	保(たもつ・久山ひさやま、僧/神職)	Z 2 6 2 3
治卿(しけい・山内)	→	董正(ただまさ・山内やまのうち、幕臣/代官)	Q 2 6 8 4
治卿(しけい・稲本)	→	陽洲(ようしゅう・稲本いなもと、書/詩人)	B 4 7 1 3
自圭(しけい・大菅)	→	圭(けい・大菅、歌人)	1 8 0 0
時慶(しけい・西洞院)	→	時慶(ときよし・西洞院/河鱒/平、廷臣/歌人)	3 1 3 8
時卿(しけい・伊達)	→	村侯(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌)	D 4 2 1 7

- 時芸(しげい) → 緯如(しやくによ・時芸、真宗本願寺僧) W 2 1 1 3
 四景庵(しけいあん) → 椿齡(ちんれい・小日方、俳人) L 2 8 0 3
 此径[経]庵(しけいあん) → 是真(ぜじん;法諱・遵教、日蓮僧/歌) K 2 4 6 1
- 2110 **重家**(しげいえ・藤原ふじわら、初名;光輔、六条頭輔男)1128-8053 平安後期廷臣;1170従三位、
 1171大宰大貳、1176出家入道、二条天皇に近侍、清輔の弟、経家・顕家・有家・成円の父、
 歌人;内裏百首歌/1149家成家歌合参加、1166「中宮亮重家朝臣歌合」主催、
 1170建春門院北面歌合/72広田社歌合/79右大臣兼実家歌合参加、1178家集「重家集」、
 勅撰30首;千載(74/289/762)新古(181/388/768/1102)新勅(2首)続後撰以下、
 1165兄清輔[続詞花集]3首・雲葉集入、
 [遠ざかる音はせねども月きよみこほりと見ゆる志賀の浦波](千載;秋289、月光の波、
 法性寺入道前太政大臣[藤原忠通]家に月歌を詠む)、
 [清輔四位して侍りける時よろこびいひに遣すとて、
 武蔵野の若紫のころもではゆかりまでこそうれしかりけり](続詞花;雑739)、
 [重家(;名)の号/法名]号;六条、法名;蓮寂/蓮家
- 茂子(しげいこ・進藤) → 筑波子(つくばこ・土岐、歌人) 2 9 8 0
 思継斎(しけいさい・有賀) → 長隣(ちようりん・有賀あるが、歌学者) L 2 8 9 9
 持敬斎(しけいさい・神田) → 良近(よしちか・神田かんだ、藩士/兵学) E 4 7 4 9
- B2189 **淑景舎女御**(しげいさのによご、内御匣殿うちのみくしげどの、藤原道隆女)980?-100223? 母;高階成忠女の貴子、
 伊周これちか・隆家・中宮定子の同母の妹、初め内御匣殿/995居貞親王(三条天皇)の女御、
 兄の配流など不運、枕草子入、歌;続古今492、
 [秋霧のたえまたえまをながむれば空にうきたる月ぞ流るる](続古今;五秋492)
- 慈恵大師(しけいだいし→じえだいし)→良源(りようげん;法諱、天台中興、歌人)E 9 4 5 6
 地形堂(しけいどう→じぎょうどう)→ 堅丸(かたまる・地形堂、幕臣/狂歌) N 1 5 0 9
 自景堂(しけいどう) → 景美(かげよし・中村なかむら、医者/和算家) L 1 5 4 9
 志継坊(しけいぼう) → 風陽(ふうよう・志継坊しけいぼう、俳人) B 3 8 0 6
- B2191 **重氏**(しげうじ・紙屋川かみやがわ、顕氏あきうじ男/本姓;藤原)1235-7743 鎌倉期廷臣;1259従三位、
 1265宮内卿、69正三位/77出家、歌人;1246春日若宮社歌合/1263弘長三年内裏百首参加、
 勅撰6首;続拾遺(1090)新後撰(131)玉葉(1437)続後拾(1135)新千載(228)新続古(1229)、
 [年ふれどうきをおもひのしるべにて身になれぬるはつらさなりけり](続拾遺;恋1090)
- Q2161 **成氏**(しげうじ・足利あしかが、足利持氏男)1438-97 室町期の武将;1449第五代鎌倉公方に就任、
 関東管領上杉憲忠を殺害(;享徳の乱)/室町幕府の追討を受け1445下総古河に逃亡、
 古河を本拠とし以後[古河公方ふるかわきんかた]と称す、幕府派遣の足利政知や上杉家と対峙
- Q2162 **重氏**(しげうじ・五代ごだい) ? - ? 安桃期天正1573-92頃神職;姫路の播磨国総社の祠官、
 神道・和学を修学/郷土の故事研究、「五代氏夜話」著
- Q2163 **重氏**(しげうじ・吉田よしだ/旧姓;葛巻)1562-163877 近江蒲生郡葛巻の弓術家;吉田重綱門;女婿、
 出雲流修得、重綱の弟吉田業茂門;左近右衛門派弓術奥義修得、日置流印西派弓術の祖、
 豊臣秀次・越前福井の結城秀泰・松平忠直・忠昌などに出仕/山城伏見住/大坂陣後江戸住、
 家康・秀忠・家光に出仕;厚遇、門人;山口軍兵衛・伊丹半左衛門など、
 「一水軒弓術伝書」「印西無言歌」「一帳弓之秘伝」著、
 [重氏(;名)の通称/号]通称;源八郎、号;一水軒/印西
- Q2164 **重氏**(しげうじ・稲垣いながき)1641-171171歳 幕臣;1656徳川家綱に出仕/書院番/小姓組頭、
 1681堺奉行/知行2千石、従五下淡路守、1707致仕、1667「国々海辺巡見記」著、
 [重氏(;名)の通称/号]通称;虎之助/藤九郎、号;常閑じょうかん(;致仕後)
- Z2145 **重姓**(しげうじ・筑和ちくわ)1763- 182866 出羽久保田(秋田)藩士;大番組、国学
 [重姓(;名)の通称]万蔵/定之允さだのすけ/造酒みき
 重氏(茂氏しげうじ・吉田)→大蔵(おおくら・吉田よしだ、日置流大蔵派弓術の祖1588-1644)C 1 4 7 8
 重氏(しげうじ・戸田) → 氏鐵(うじかね・戸田、武将/藩主) C 1 2 3 6
- Q2165 **重枝**(しげえ・高垣たかがき、別名;祐蔵)1714-8673 羽後秋田藩士、刀番/勘定奉行、1757致仕、
 「羽城昔がたり」「高垣兵右衛門上書」著、
 [重枝(;名)の通称/号]通称;兵右衛門/伝兵衛/七郎、号;猶存/澗月かんげつ

- N2125 **重枝**(しげえ・伊島いしま/直江、藩士伊藤郡兵衛2男)1782-185372 豊後森藩領鶴見村の生、1797(寛政9)鶴見北中村庄屋直江弥藤太の養子、国学;中津藩渡辺重名門・歌香川景樹門、1804家督嗣;北中村庄屋;雄八郎を称す、1824-25藩命で伊能忠敬の測量に藩内外を案内、1825苗字帯刀を許可/藩札流通に功績;1831(天保2)士分;中小姓;森藩士となる、1833藩政参画;頭成代官役に登用;伊島家を興し又兵衛を称す、1836(天保7)飢饉の救援に功績;38江戸出府/39大会所奉行・大山奉行・町奉行兼任、1840大坂御留守居役/44寺社奉行・勘定奉行に昇任/藩主通嘉の照湯行きに随行;1845記録方に転ず/執筆に専念;「鶴見七湯の記」著(画;絵師江川吉貞)、息子梅吉が家督嗣、[鶴見山秋の錦に高機たかたはほの女めの神や織りいだすらむ](鶴峯紅葉/鶴見七湯の記)、[重枝(;名)の別名/通称/号]別名;郷吉さとさち、通称;雄八郎/又兵衛、号;静廬
- 02116 **卯枝**(しげえ・神林かんばやし/本姓;平、通称;巖万呂いざまる)1809-9183 肥後菊池郡西田辺村の神職、神道/歌学;帆足長秋門、権大講義、
- B2192 **茂枝**(しげえ・竹村たけむら、正雄男/茂雄の孫)1810-6455 伊豆君沢郡熊坂村の国学者;1821本居大平門、のち殿村篠斎門、書;狩谷椽斎門、伊豆国学の伝統を守る;歌文に長ず、茂正の父、「詠草」「門田の拔穂」著、1845祖父茂雄「穂向屋集」撰/編纂、鈴木八束・萩原正平の師、[茂枝(;名)の通称/号]通称;直太郎/平右衛門/平九郎、号;花庇陰/後穂向屋のちのほむきのや、
- N2111 **重枝**(しげえ・高木たかぎ、通称;帯刀たてわき)?-? 江後期備前周匝すゐの岡山藩士、歌人、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
 繁枝(しげえ・村林) → 柳庵(りゅうあん・村林むらばやし、医者/国学)M4929
 茂枝(しげえ・塩屋/浅野屋) → 佐平(さへい・浅野屋/塩屋、国学/勤王)L2054
 重枝(しげえ・原田) → 重方(しげかた・原田はらだ、神職/勤王家)Q2176
 重枝(しげえ・豊城) → 豊雄(とよお・豊城とよき、神職/国学)V3146
- Q2166 **重条**(しげえだ・庭田にわた/本姓;源、雅純2男)1650-172576 廷臣;兄雅秀の養嗣子/1665侍従;家督嗣、1682参議/83従三位/97権大納言/1718従一位;出家、1669-1720「庭田重条日記」、1679「賀茂上下社仮殿立柱上棟仮遷宮等日時定私記」、「新宮奉行之記」外著多数、[重条(;名)の一字名/法名/法号]一字名;正、法名;堯祐、法号;田竜院、重孝の養父
 茂楨(しげえだ・大槻) → 磐里(ばんり・大槻おおつき、医/蘭学者)3665
- B2193 **茂雄**(しげお・竹村たけむら、初名;為本、竹村敬明男)1769-184476 伊豆君沢郡熊坂村の豪農の生、1770(2歳)父死別;叔父竹村源五良に養われる/1793(25歳)家督継嗣/名主、農民の惨状を憂い公益事業、時世を批判;「憐農民詞」を幕府に献上、国学者・1795伊勢松阪を訪ね本居宣長門;茂雄名をもらう、歌文:江戸の村田春海門、宣長の著書を出版;国学の普及;伊豆国学の開祖、妻;袖子、養子;竹村正雄、門弟2百余;葦山代官江川坦庵の師、小川成信しげのぶの師
 家集「詞之園圃」(孫茂枝しげえが抜萃「穂向屋集」編)、1801「詞の園生」29「道守之標」著、1841「詞三枝」「千町のぬき穂」、「職田ぬきほ」「石上陳蹟」「王代略誦」「古書万歌類題」著、「賤が敏鎌」「園圃乃拔菜」「宮柱日記」「和歌詞の道志るべ」「聖教賢伝辨」「鷹三百首解」著、「竹村茂雄日記」「竹村茂雄田面之記」著、「をりふしのふみ」編、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;7首入、[ますら雄はををしく武く悟り深く人うつくしむぞ益良男まつらにはある](八十浦;519)[茂雄(;名)の通称/号]通称;仙太郎/平右衛門、号;穂向屋ほむきのや、法号;穂向院
- Q2167 **重雄**(しげお・和田わた、通称;清三郎)?-? 江後期幕臣;江戸八丁堀小普請組に属す/神祇史生、国学:岡部春平(東平/1794-1856)・平田鍬胤かたね門、「武詞」「道のまこと」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[法りの師も帰る山路に迷ふらん深くぞ今朝は雪の積れる]、(大江戸倭歌;冬1328/仏名のあした雪ふりければ)
- N2112 **茂雄**(しげお・小林こばやし、通称;辰蔵、大茂おおじ男)1827-191084 因幡鳥取藩士;砲術家、1848(嘉永元)父の命で周防岩国藩の有阪長為ちやうい門;洋式砲術修得、幕府砲術教授下曾根しもそね金三郎門、鳥取藩洋式砲術の先駆者、歌人;父門
- N2182 **重雄**(しげお・伊高いだか、) ? - ? 江後期;筑前遠賀郡二島村の神官、伊高重躬の孫、

歌;本居大平門、

[重雄(;名)の別名/通称]別名;繁雄、通称;太輔/阿波守

Z2166 **重雄**(しげお・羽田野はたの、敬雄たかお男)1841-78³⁸ 三河吉田の神職/国学者;平田鍬胤門、
[重雄(;名)の通称]兵部/平武

a2114 **成雄**(しげお・渡辺わたなべ、通称;佐渡)1844-92⁴⁹ 土佐高岡郡の神職/国学・歌;野田千蔵ちもと門、
維新後;1873(明治6)高知の土佐神社権禰宜/77禰宜・権大講義/82(明治15)宮司、
1883高知県神道事務分局統理、「高賀茂集;土佐神社月次献詠」編

重雄(しげお・須藤) → 内膳(ないぜん・須藤、神職) 3 2 5 4

重雄(しげお・古海) → 深志(ふかゆき・古海ふるみ、神職/国学) I 3 8 6 9

茂雄(しげお・山本/羽田野) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4

茂雅(しげお・滋野) → 瑞龍軒(初代ずりゅうけん、滋野、講釈師/読本/狂歌) 2 3 9 3

繁雄(しげお・木村) → 鐘成(かねなり・暁、木村、商家/戯作) C 1 5 9 3

B2194 **重老**(しげお・島しま、別名;棟重、富重男)1792-1870⁷⁹ 代々出雲大社の社家(上官職)、
神典/国学/歌;千家俊信としげ門、俊信より神道極意の伝書を受ける/歌・連歌に通ず、
千家尊孫と復古を主唱;出雲歌風を改革/出雲歌壇を統一、出雲地方歌道中興の祖
「櫛舎くしのや集」著、小豆沢道利の師、重養しげかいの父、
[重老(;名)の通称/号]通称;巴之助/弾正、号;櫛廼舎くしのや

B2195 **茂岳**(しげお・植松うえまつ、尾張藩士小林常倫2男)1794-1876⁸³ 母;北村嘉順女、10歳の時父没、
父没後1808(15歳)植松有信に養育され国学修学、有信没後;1816(文化13)植松家を継嗣、
国学・歌;本居大平門、1835尾張名古屋藩士;藩校明倫堂出仕;37典籍見習次座/歌人、
1858(安政5)主君と共に安政の大獄に連座;致仕/1862まで閉居、
1867(慶応3)明倫堂国学教授;金沢文庫本[続日本紀]校合御用/「尾張志」選述
歌集「松蔭集」、「道の記」「小林繁樹詠草」「松の下艸」「茂岳日記」「茂岳書簡」著、
「靈能真柱問答録」「神代文字論」外著多数、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌/短歌入、
[夏虫は火にぞ身をやく我はもよ君に恋ひつつ心しやくも](八十浦;884寄虫)、
[茂岳(;名)の別名/通称/号]初名;繁樹、別名;成岳/懋岳、通称;啓作/慶作/庄(莊)左衛門、
号;松蔭/不知、諡号;豊真菅彦道起根大人、有園・有経の父

重岡(しげお・坪内) → 清禪(きよぜん・坪内つぼうち、藩士/国学) U 1 6 7 9

Q2169 **重興**(しげお・永原ながはら、重隆男/本姓;藤原)?-1561 近江野洲郡永原武将;守護六角承禎有力家臣、
近江永原城主/越前守/筑前守、重虎の父、永原家では曾祖父吉重より代々連歌興行、
1556「弘治二年三月廿四日於永原越前守[重興]新宅百韻(宗養紹巴永原百韻)」主催、
没後に紹巴が「重興追善懐旧百韻」を独吟、
[雨のなごりの藤かほる山](永原重興新宅百韻;何路脇句)、
(発句;行水やさざれ莓こけむす岩つつじ;宗養)、
[重興(;名)の号] 道芥/道斎/道美/道算、
永原家代々;吉重一重泰(重秀)一重隆一重興一重虎

Q2170 **調興**(しげお・のぶおき・柳川やながわ、対馬府中藩家老柳川智永男)1601-84⁸⁴ 江戸生;家康・秀忠の小姓、
1613(慶長18)家督嗣;対馬府中藩士;2千石/玄蕃頭/諸大夫、1614帰郷;外交貿易に尽力、
藩主宗義成と不和;対立激化/直臣旗本になることを画策;正室義成妹(宗義智女)を離縁、
1633(寛永10)藩の秘密[国書改竄]を暴露;幕府に直訴(柳川一件)、
1635將軍家光裁定で敗訴;36(寛永13)陸奥津軽へ配流/朝鮮側使者規伯玄方も南部配流、
但し老中利勝の配慮で弘前城南西に広大な屋敷と家臣7名/弘前藩主津軽信義は賓客待遇、
歌;「柳川素庵詠歌」、
[調興(;名)の初名/通称/号]初名;豊義、通称;玄蕃頭/豊前守、
号;式山/梅軒、剃髪号;素庵、 法号;松巖院

☆祖父柳川調信は元商人で宗義調に出仕;重臣/秀吉・家康の対朝鮮外交を担う

a2120 **重興**(しげお・中川ながわ/本姓;源/村上、)1645-1724⁸⁰ 江前期;武術家;信濃の出身、
母の実家中川重竜の養嗣子、吉田流弓術・根津流試劍ためしぎりを養父より修得;幕府に出仕、
中川流を興す、小笠原流弓馬の礼法新当流;榊原忠郷ただと門/奥義を究める、

歌人;1688忠能[難波捨草]10数首入、1724(享保9)没、
[咲きさかぬ梢とみしも今はとて終に嵐のさそふ花かな](難波捨草;春64/落花)、
[重興(;名)の別名/通称]別名;秀垣、通称;左平太

N2171 **兄興**(しげおき・尾崎おさき/本姓;大伴、忠興男)1693-1753 61 京の官人;京極宮・八条宮諸大夫、
歌人;冷泉家入門、尾崎庸兄・正殖の父/積興(せきこう/かざおき)の祖父、
[兄興(;名)の通称]通称;長門守

B2198 **茂興**(しげおき・伊勢いせ、徳島藩士沢さわ慶作2男)1756-1841 86 阿波徳島生/榎淵町豪農伊勢家を継嗣、
1769上京;儒;中島敬蔵・清水友輔門/医;伯父沢玄任門、茶・香道に通ず、国学を修学、
1806「白山集」著/26「茶人大系譜」編/35「歴代国号歌諺解」40「非葛花」、「有馬はなし」著、
「倭俗嘉礼全書」「喫茶漫録」「茶道諸流略系図」「銚子飾口伝」「家礼図」著、
[茂興(;名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;亀也、初名;光治、字;茂美しげよし、
通称;養蔵/周蔵、号;白山/眠鷗/眠翁/棲霞亭/棲霞陳人、

Q2171 **重興**(しげおき・後藤ごとう)1791- 1854 64歳 常陸茨城郡見川村の郷士;磯浜村砲台の守吏、
郷土史家、「常陸見川志」/1835「磯浜志」著、
[重興(;名)の字/通称]字;子善、通称;友衛門

Q2172 **重意**(しげおき・竹内たけうち、重利3男)1794-1868 75 土佐香美郡葦生郷の郷土史家、書;江村老泉門、
医術;荒川伯敬門、江戸で学問/詩歌・画に通ず、貧窮生活;妻帯せず/諸国行脚、
「葦生風土記」「葦生一統記」「東武紀行」、「五島山房著作集」「五島山房行状記」著、
[重意(;名)の幼名/通称/号]幼名;太郎松、通称;又次郎/隆蔵、号;二扇/五島山房

Q2173 **茂興**(しげおき・松波まつなみ) ? - ? 江後期筑後久留米の故実家;松岡辰方ときが門、
1800「武家装束皆具略記」01「装束図抄」22「東都古跡集」、「色目集」「装束織文図彙」著、

N2173 **茂興**(しげおき・大神おおが/本姓;大三輪)1834-65 死刑 32 筑前志摩郡前原村の老松神社祠官、
国学;平田鉄胤門、1864(元治元)長州赴き同藩藩士と行動を共にし上京;忠勇隊に参加、
1864帰郷;捕縛され小呂島に配流;64(慶応元)死刑、
[茂興(;名)の通称/変名]通称;繁中/繁沖/幾太郎/堰/干堰/徳一/壱岐/壱岐守、
変名;三輪松之助

a2103 **重興**(しげおき・山田やまだ、重秋[沙園]長男)1837-77 41 越後柏崎の商家[山甚]9代目;葉種・回船業等、
漢学;原脩斎門、画・歌を能くす、柏崎藩の郷士、重興しげおき・鏡古きよこの兄/香雨の父、
[重秋(;名)の通称/号]通称;幾太郎/為四郎(父の称)、号;観濤/青嵐/夢軒

a2111 **重興**(しげおき・若園わかぞの、通称;春養)?-1830 美濃大垣の国学者;本居春庭・大平門

重興(しげおき・安藤) → 冠里(かおり・安藤あんどう、藩主/老中/俳) E 1 5 2 0

重興(しげおき・日暮) → 重興(じゅうこう・日暮ひぐらし、俳人/六句付) B 2 1 9 6

重興(しげおき・古田) → 与一左衛門(よいちざえもん・古田ふるた、藩士/歌) O 4 7 9 3

重興(しげおき・久保) → 重興(じゅうこう・久保、詩人/狂歌) B 2 1 9 7

N2108 **重臣**(しげおみ・高山たかやま、通称;播磨)1821-? 美作苦東郡大佐々神社の社司、
歌人;1848平賀元義の楯の舎塾入、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入

Z2106 **重臣**(しげおみ・鈴木すずき、)1821-1918 長寿 98 尾張名古屋藩士;寄合組、国学者、
本草学;吉田高憲門/国学・歌;竹田晨正門、
[重臣(;名)の通称]安之助/源之進

重臣(しげおみ・瀬尾) → 荘三(そうぞう・瀬尾せお、藩士/書家/歌) I 2 5 3 3

重臣(しげおみ・大館) → 信郷(のぶさと・大館おおだち、国学者) H 3 5 7 0

蕃臣(しげおみ・瀬戸/拝崎) → 琴台(きんだい・拝崎はいざき、藩士/儒者) R 1 6 3 5

艸臣(草臣しげおみ・児島) → 葦原(いげん・児島強介、儒/詩歌) 1 1 8 2

重香(しげか・小林) → 松蔭(まつかげ・小林こばやし/竹田、神職/国学) P 4 0 6 3

Q2180 **重養**(しげかい・島しま、重老しげおい長男男)1812-1883 72 代々出雲大社の社家(上官)、
国学・歌;父門、1872(明治5)世襲の上官職廃止により禰宜、息子;多豆夫たずお、
[重養(;名)の別名/通称]初名;重胤、通称;兵庫/海老夫

B2199 **滋蔭**(しげかげ・小野おの) ? - 896 平安前期廷臣;888大蔵少丞/従五下周防守、
信濃守/893掃部頭かもんのかみ、歌人;古今集430、
[あしびきの山たちはなれ行く雲の宿りさだめぬ世にこそ有りけれ](古今:物名430/橋)

- a2115 **重蔭**(しげかげ・渡辺わたなべ、重名しげな男)1792-1881長寿90 豊前中津の古表こひょう八幡神社代々社家、
 神主;父を継嗣、国学者/歌人;父門、中津藩に出仕/維新後;1871中津藩藩校進脩館教授、
 のち大和平群郡の竜田神社大宮司、重春・重石丸いかりの父、「古史伝拾遺」「豊前志」著、
 [ここもまた同じ皇国みくにの内なれば旅に死ぬとは思はざりけり](辞世)、
 [重蔭(;名)の通称/号]通称;竹之丞/越後介、
- 02132 **茂景**(しげかげ・栗原くりはら、旧姓;角井)1799-188284 武蔵大宮氷川神社西角井家の2男/神職、
 国学・歌;清水浜臣・大国隆正門、歌道を研鑽、
 1820(文政3/22歳)武蔵入間郡小手指村の北野天神社大宮司の栗原家を継嗣、
 多くの文化人が集まり北野に文化圏を生ず;沢田泉山の師、
 [茂景(;名)の別名/通称/号]初名;成景、通称;右衛門太郎/左衛門、
 号;桂舎/梅翁/金桂館
 成景(しげかげ・祝部) → 成景(なりかげ・祝部はうりべ、神職/歌人) H 3 2 1 3
 繁景(しげかげ・朝倉) → 孝景(たかかげ・朝倉あさくら、武将/家訓) L 2 6 6 6
- C2100 **重員**(しげかず・賀茂かも、重春男)?-? 鎌倉期神職;上賀茂社正祝、
 歌人;新後撰1612/玉葉1968、
 [夜な夜なの枕のちりによそへてもしらせやせましつもる恨みを]
 (新後撰;異本歌;恋歌1612)
- N2166 **重一**(しげかず・小埜おはなわ、重供男)1760-183475 近江彦根藩士/歌人;[鳩のうみ]入、
 大坂与力大塩平八郎と時事を論ず、
 [重一(;名)の通称/号]通称;喜平太/八十郎/理右衛門、号;芹水/芹之舎/泉麿/松根亭
- Q2174 **成一**(しげかず・藤木ふじき/本姓;賀茂、典薬権助藤木成寿男)1785-185066 母;賀茂社家藤木隼人女、
 京元誓願寺油小路東の医者/1810出羽守/26鍼博士/33典薬権助、48鍼博士を辞退、
 1850正四上、「典薬寮医学館改革意見書」著、
 [成一(;名)の通称]出羽守
- C2101 **茂算**(しげかず/しげとも・竹尾たけお)?-? 江後期国学者、1857大国隆正「学統弁論」校(大国基正と)
- Z2123 **重計**(しげかず・宗そう、) 1819 - 189678 豊後岡藩士、国学者、権大参事/大講義、
 宇佐神宮小宮司、
 [重計(;名)の通称/号]通称;六蔵/六翁、号;東壁
- N2141 **重一**(しげかず・稲垣いながき、通称;金蔵)1841-8949 伊勢菰野の国学者/歌人
 成種(しげかず・大江) → 成種(しげたね/しげかず・大江、二条家連歌) C 2 1 3 4
 重和(しげかず・荻田/荻野) → 安静(あんせい・荻田おぎた/荻野、俳人) C 1 0 1 5
- C2103 **重方**(しげかた・葉室はむろ/本姓;藤原、顕能男)1129-8153 平安後期廷臣;右大弁/宮内少輔/木工頭、
 左衛門佐/中宮権大進、顕隆の孫、重頼・能頼・忠方などの父、1155「重方記」(1155~1167)著
- C2104 **重賢**(しげかた・伏屋ふせや、通称;長左衛門)1638-9356 和泉池田郷万町村の富農/庄屋;池田郷総代、
 俳人;西山宗因門、国学者;契沖門、国書を多数所蔵;契沖が滞在しその蔵書で研究、
 邸内の養寿庵はのち移築され契沖の大坂の円珠庵となる
- X2193 **重方**(しげかた・笥かけい、)1643 - 171977 江戸の幕臣;小普請、国学者、
 [重方(;名)の通称]太郎兵衛/太郎左衛門/五郎左衛門
- 02164 **成方**(しげかた/なりかた・坂本さかもと、重治の長男)1653-171361 江戸の旗本/幕臣、国学者/歌人、
 1693(元禄6)父没;家督嗣/1700石うち500石を弟治之に分与、小普請、
 正室;小出有重女;離縁/継室;中西元照女、
 [父におくれし秋玉まつりするとて
 玉まつる哀はよそにみし秋を露おくけふの身をいかにせん][茂睡[鳥の迹]哀傷603]
 [成方(名)の通称]久五郎/小左衛門、法名;日玄
- C2105 **成方**(しげかた・野田のだ、号;巢飲叟そういんそう/鶉鼠りょうそ、幕臣入江政方2男)1700-6465 母;野田勝成女、
 1715幕臣野田直成の養子;野田家嗣、1724甲府勤番;甲府住、1753致仕、甲府の歴史を記録
 俳人、1753地誌「裏見寒話」著(息;仙鼠編)、正芳(来椒堂仙鼠)の父、
 [成方(;名)の通称/法号]通称;政之丞/市左衛門、法号;栄道
- C2106 **重賢**(しげかた・細川ほそかわ、宣紀のぶのり5男/本姓;源)1720-8566 肥後熊本藩主;1747兄宗孝の不慮死;
 急遽兄の養嗣子;藩主襲封、従四下、越中守/侍従/左近権少将、藩財政は窮乏の極、

藩政改革;堀平太左衛門を起用し藩財政再建に取り組む/人材の育成;1755藩校時習館設立、
1757医学寮再春館設立/79薬園蕃慈園設立、学問;儒臣秋山玉山などの講義を受、
武芸/馬術/博物学/書/詩文/俳諧/画を嗜む、藪孤山に「楽泮集」編纂を命ず、
藩士三井弥作に動植物写生図制作を命ず、1761-62「草木生写」/65「舜百合雜」、
「銀台侯詩稿」「銀台詩稿」「重賢侯詩稿」「鑑湖台宴集」/「花木形状」「竜邸九日宴集」、
「聚芳園」「馬と鷹」「書名故事」「百卉俵状ひゃっさきほうじょう」「表海楼小集詩」「毛介綺煥」、
「雑事紛冗解」外著多数、軌子の兄、治年の父、
[重賢(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;六之助、初名;紀雄、通称;民部/主馬/銀台侯、
号;花裡雨、法号;靈感院、

- N2146 **重堅**(重賢しげかた・宇多うだ、)1736-179257 近江彦根藩士、歌人、重真しげまの父、
[重堅(;名)の通称] 一郎右衛門
- Z2107 **重賢**(しげかた・鈴木すずき、)1758-182972 美濃大垣藩士、国学・歌;加藤千蔭門
[重賢(;名)の通称/号]通称;源五右衛門、号;雲嶺/作楽舎
- C2102 **重賢**(しげかた・高橋たかはし、小兵衛方政男/本姓藤原)1758-183376 母;宮田利秋女、幕臣;1797勘定役、
1802箱館奉行支配吟味役・13ロシア艦長ブラウニン釈放交渉、各種奉行歴任、
長崎奉行の時;シーボルトに好意的だったため地図持出による追放の際は出仕停止処分、
のち日光奉行、1801「松前志」、「寛政重修諸家譜」「革冑製造秘訣」、駿河守/越中守、
[重賢(;名)の幼名/通称/号]幼名;吉之丞、通称;三平、号;竹里、重訓の父
- 02123 **重固**(しげかた・北田きただ、)1774-184774 近江甲賀郡の国学者/歌人;[鴉のうみ]入
[重固(;名)の通称/号]通称;茂兵衛、号;小農軒
- C2107 **重賢**(しげかた・小野おの、篤雄男/本姓;伴)1776-183459 母;賀茂賞久女、江後期京の廷臣;従四上、
陸奥守/筑前守/主殿助とのものすけ(主殿寮官人)、国学・歌;小沢蘆庵門、書・有職に通ず、
1826「伴略譜」著、末弟致雄を養嗣子とす、
[重賢(;名)の号] 螻蛄館ろうこかん/けらのや主人/蛄園こえん/介良廼舎けらのや
- Q2175 **重琦**(しげかた・千村ちむら、重基の長男)1792-187382 母;贅川重喬女の柳、
信州筑摩郡贅川にえかわ村の生、宿場の本陣を勤める、下条竹塙(ちくお/言志ことゆき、典医)の兄、
1818江戸で香川景樹の古今集講義を聴講;探題の歌を詠み点を乞う、
1844尾張熱田を遊歴/45伊勢神宮参拝、詩;渡辺方壺門、1843「一源温古」著、
[重琦(;名)の通称]胤弥/荘司/右衛門司/巨介、妻;山村定千女の瑜珂、景村の父
- a2109 **重固**(しげかた・吉武よしだけ、通称;長兵衛)?-1842 筑後久留米藩士、国学者;神職宮崎信生のぶなり門
- Z2158 **重方**(しげかた・中柳なかやぎ、)1803-184240 京の生/歌人;村田春海門、
江戸で彦根藩家老庵原朝明に出仕、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、
[重方(;名)の通称/号]通称;八十吉/友右衛門、号;斎心/松舎まつのや
- Q2176 **重方**(しげかた/しげまさ・原田はらだ、宮司の重継3男)1806-66入水61 豊前田川郡若松八幡宮神職、
1838諸国遍歴/歌人/勤王派;京の堂上家・清水の月照・江戸の井上頼正と交流/国事に奔走、
1864天狗党の乱に参加;敗戦後豊前の神官高橋清臣と花山院家理を擁し九州で挙兵計画、
海路大坂に上陸したところ捕縛/日田に護送途中高橋清臣と伊予沖で投身自殺、重種の弟、
家集「かきあつめぐさ」(自筆草稿本/井上頼圀の識語)、「諸国神社仏閣随筆」「能里登集」著、
[ふふめりし片山里の桜花雲居に匂ふ時をこそまと];(辞世)、
[重方(;名)の幼名/別名/通称]幼名;陸之助、別名;種方(初名)/重枝、
通称;三郎/七郎/筑後守、変名;大江(大蔵・神田)豊雄
- Q2177 **重固**(しげかた・山路やまじ)1812- 188473 筑前福岡藩士/歌人、1852「あさくら日記」著、
[重固(;名)の通称]勘之助/甚九郎/嘉左衛門
- Q2178 **重賢**(しげかた・岩井・巖井いはい、重遠の長男)1828-6538 上州碓氷郡新井村の和算家;父門、
江戸の内田五観・羽倉簡堂門、安中郷学校教授、詩文に長ず、1844「求積極数解」編、
「算法球責解」「約術全書」編、「鷹巢山額題草」著、「雲洞遺稿」、
[重賢(;名)の幼名/通称/号]幼名;牧太、通称;寿太郎、号;雲洞、
- Q2179 **重象**(しげかた・春木屋はるきや;屋号)?-? 江後期信州飯田筑町の歌人、
1858「貞良磯丸詠草」編
- Z2129 **重方**(しげかた・高野たかの、)1836-189863 信濃筑摩郡日向ひなた村の名主、

歌人;橘冬照・橘道守門、

[重方(;名)の初名/通称/号]初名;重道、通称;四郎、号;卯花

成賢(しげかた・祝部)	→	成賢(なりかた・祝部はふりべ、神職/歌人)	H 3 2 1 7
重方(しげかた・竹内)	→	義方(よしかた・竹内/源、絵師/故実家)	C 4 7 7 0
重方(しげかた・深尾)	→	独笑(どくしょう・深尾ふかお、領主/儒者)	W 3 1 2 1
重方(しげかた・溝口)	→	市兵衛(いちべゑ・溝口みぞぐち/堀田、幕臣)	K 1 1 7 0
重堅(しげかた・万女)	→	重堅(じゅうけん・万女、俳人)	M 2 1 9 3
重堅(しげかた・日野)	→	久左衛門(きゅうざゑもん・日野ひの、商家/歌)	V 1 6 0 5
重賢(しげかた・庭田)	→	長賢(ながかた・庭田、歌/連歌)	D 3 2 4 2
重賢(しげかた・沢崎/朝倉)	→	景実(かげざね・朝倉あさくら、兵法家)	K 1 5 8 8
重賢(しげかた・松尾)	→	宗二(そうに/そうじ・松尾まつお、茶人)	I 2 5 6 4
重賢(しげかた・荒巻)	→	助然(じょねん/じょぜん・荒巻あらまき、俳人)	C 2 2 8 8
重賢(しげかた・鎌原)	→	桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者)	E 3 1 6 2
重賢(しげかた・伊丹)	→	蔵人(くらんど・伊丹いたみ、儒者/勤王家)	B 1 7 1 6
重賢(しげかた・生島)	→	繁高(しげたか・生島いくしま、神職)	N 2 1 3 6
重賢(しげかた・広沢)	→	菅彦(すがひこ・広沢ひろさわ、歌人)	J 2 3 0 7
重賢(しげかた・安井)	→	喜一(きいち・安井やすい、藩士/国学者)	V 1 6 5 1
重固(しげかた・山内)	→	豊敷(とよぶ・山内やまのうち、藩主/歌)	R 3 1 4 3
重固(しげかた・平出/三宅)	→	尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者)	S 2 2 2 9
重固(しげかた・小出)	→	松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者)	J 2 2 0 2
重固(しげかた・山口)	→	安固(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人)	G 4 5 9 5
重位(しげかた・東郷)	→	重位(ちゅうい・東郷/瀬戸口、藩士/兵法)	H 2 8 1 8

Q2180 **重勝**(しげかつ・吉田よしだ、別名;元定、重政男)1514-90⁷⁷ 弓術家;祖父重賢・父重政門、1532將軍足利義晴の警固、1541頃祖父重賢より吉田流弓術の奥秘真伝を受領、京の建仁寺住;吉田嫡伝を伝承;日置流雪荷派弓術の祖/多数の門弟指導、のち丹後田辺の細川忠興に出仕、「雪荷秘伝書」「日置流弓道秘伝箇条」著、「日置流的根源犬追物」「日置流靱之巻」「日置流万射用之巻」著、[重勝(;名)の幼名/通称/号]幼名;勘三郎/介次郎、通称;六左衛門/傑作、号;雪荷法名;方睡/豊睡

C2108 **重勝**(しげかつ・駒井こまい/豊臣とよとみ)?-? 安桃期天正1573-1615頃の武将;豊臣秀吉に出仕、1591従五下中務少輔;豊臣姓を賜う、秀次の側近/1593豊後領主;2万5千石/千3百石加増、秀次の右筆、秀次処断後は秀吉に出仕/1600関ヶ原では西軍;戦後除封、1593「駒井日記」著、[重勝(;名)の通称] 八右衛門

a2117 **繁勝**(しげかつ・新居あらい、初名;喜内/通称;頼母、初代頼母繁行男)?-1705 備後福山藩士、父は阿部対馬守重次に出仕し福山転封に随従;1651(慶安4)重次に殉死、父を継嗣;新居頼母家2代目/千5百石御年寄を嗣ぐ、和学/歌人、1705(宝永2)病死、[咲く花はかすみのうちに数見えて山の端にほふ春のあけぼの](茂睡[鳥の迹]春118)

Q2181 **成勝**(しげかつ・野田のだ、忠脩長男)1754-1822⁶⁹ 母;近藤舜政女、幕臣;1761家督嗣/94書物奉行、1813幕奉行、清水浜臣・成島東岳と交流、1816「てまりうた」/1817「要語歌」著、[成勝(;名)の通称/号]通称;彦之進、号;古愚堂、法号;直諒院

Q2182 **重勝**(しげかつ・白井しらい/本姓;源、長坂治衛門4男)1772-1833⁶² 次兄治部右衛門(八右衛門)の養子、のち分家する、羽前庄内藩士/儒;石川朝陽・白井重行門、1802五人扶持/学問所御用;致道館創建に尽力;1805開校致道館の典学兼助教、1819藩主酒井忠器の命で飽海軍佐郷下野付近の原野を開拓;桑園を作り養蚕機織を興業、1821新知百石/24学校御用を統括する命を受、1861「白氏要簡抄」著/62「白先生御書留」編、「白氏輯説」編、「喪祭録」「仁説」「毛詩諸説抄並自説」「尚書諸説抄並自説」著、[重勝(;名)の字/通称/号]字;任卿、通称;弥平/弥五郎、号;靖斎/西郭先生

Q2183 **繁徒**(しげかつ・増田ますだ/初姓;別所)1802-35³⁴ 増田繁克の養子、陸前仙台藩士;小姓、儒;桜田虎門門/経学を修学、「訥斎先生吟稿」、有常の父、[繁徒(;名)の通称/号]通称;学之進、号;訥斎

- 茂勝(しげかつ・島井) → 宗室(宗叱そうしつ・島井、豪商/日記) H 2 5 6 6
 重勝(しげかつ・糟谷/山口) → 翠巖(すいがん・山口やまぐち、藩士/奉行) E 2 3 2 5
 重勝(しげかつ・筒井) → 庄兵衛(初世しゅうべえ・井筒屋、俳書肆) B 2 2 4 6
 重勝(しげかつ・美代) → 敦本(厚本あつもと・美代みしろ、儒者/医) E 1 0 8 9
 重勝(しげかつ・藤田) → 畏斎(いさい・藤田ふじた、藩士/儒者) E 1 1 2 6
 重勝(しげかつ・中村) → 滄浪亭(そうろうてい・中村、藩士/儒者/武芸) D 2 5 2 8
 重克(しげかつ・正岡) → 主税(ちから・正岡まさおか/越智、神職/歌) N 2 8 5 1
- C2109 **重門**(しげかど・竹中たけなか/本姓;源、竹中半兵衛重治男) 1573-1631⁵⁹ 武将;従五下丹後守、豊臣秀吉に出仕;小牧・肥前名護屋に出陣/1600関ヶ原では初め西軍のち東軍、小西行長を捕捉;徳川家康の臣/家光より領地朱印状を受;美濃不破領有6千石、和漢学に通じ歌文に長ず、林羅山と交流、1631「豊鑑とよかがみ」著、連歌:1620昌琢と「初何百韻」、20道春と漢和聯句、
 [重門(;名)の幼名/字/通称/法名]幼名;半助、字;以敬、通称;吉助、法名;出堂
- C2110 **重門**(重角しげかど・大矢おおや、河地藤助男) 1762-96³⁵ 江中期美濃大垣の材木商大矢家の養嗣子、歌・国学:1786本居宣長門、「重門詠草」(1794「大矢重門家集」)/「大矢重門近躰歌抄」著、宣長[美濃廻家苞]は重門の要請で成る、河地重矩の弟/重虎の兄、本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌3首入、
 [重門(;名)の通称/屋号/法号]通称;仁左衛門/藤助、屋号;野口屋、法号;桂岩道昌居士
- Q2184 **繁門**(しげかど・壺星楼こせいろ/福ふく、姓;大垣、万歳逢義男) 1788-1817^{早世30} 江戸の質商、伯父浅草市人(父逢義の兄)の養嗣子、壺側狂歌作者、狂歌「若紫」著
 [壺星楼繁門(;号)の通称/別号]通称;伊勢屋清太郎、別号;福繁門
 父 → 万歳逢義(まんざいおうぎ、狂歌作者) K 4 0 5 4
 養父 → 市人(いちんど・浅草、姓;大垣、狂歌) 1 1 1 8
- Z2182 **重門**(しげかど・藤井ふじい、初名;重古、重政[1770-1836]男) ?-1896 備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学・歌;藤井高雅門
 [重門(;名)の通称] 権頭(父の称)
- Q2185 **繁門**(しげかど・森集亭しんしゅうてい、姓;毛馬内/名;直恭/通称;典膳) 1805-66⁶² 陸奥盛岡藩士、歌・狂歌、江戸の四方側判者をつとめた、1827「俳諧歌森廻下風」著
 繁門(しげかど・武藤) → 好春(よしはる・武藤むとう、藩士/攘夷論) G 4 7 1 4
- C2111 **滋包女**(しげかねのむすめ・藤原、滋包は魚名流;陸奥介) ?-? 平安中期歌人、五節舞姫に選出、後撰1101
 [くやしくぞ天あまつ乙女となりにける雲路くもぢたづぬる人もなきよに](後撰;十五1101)
- Q2186 **志解喜**(しげき・城じょう) ? - ?(73歳没) 江中期筑後久留米の馬術家、久留米藩士?、1748「御馬或問」/83「天明三年乗馬日記」著、久留米藩馬術師範城隆経の一族
- Z2130 **繁樹**(しげき・高屋たかや、通称;定助/号;露卿) 1750-1810⁶¹ 陸奥弘前の津軽藩士、国学者・歌人;飛鳥井家入門/日野資枝門、藩校稽古館学頭
- Q2187 **茂樹**(しげき・坂倉さかぐら、名;広善) 1763-99³⁷ 伊勢白子の栗真(久留真くるとま)神社の神主、国学・1784本居宣長門、村田春門と江戸下向;村田春海・加藤千蔭と交流、「能褒野陵考」著、
 [茂樹(;通称)の別通称/号]別通称;菅生/大和守、号;楽声舎ささのや
- Q2188 **茂樹**(しげき・大江おおえ) ? - ? 江後期歌人、1810「和歌類葉集」編(自序/源頼政・藤原清輔・源実朝の家集歌を部類)
- N2157 **繁樹**(しげき・小川おがわ、通称;久右衛門) ?-1817 駿河府中の飛脚問屋;日野屋、国学者
- C2112 **茂樹**(しげき・川島/革島かわしま、本姓;林) 1768-1835⁶⁸ 幕臣;西の丸同朋/歌・国学;清水浜臣門、歌学に通ず、「仮名類題和歌集」編/「和歌言葉の千種」「二荒山三滝の歌」「西行上人談抄」著、1790「紅塵集類題」著/1813「文苑玉露」14「和歌七宝題林抄」編/15「消息文梯」著、1819「中古和歌類題集」編/26「須賀曾の辨」著、1833私撰「千種の句」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [かへるさは花のみゆきに埋もれて山路の枝折跡だにもなし](大江戸倭歌;春305)、
 [茂樹(;名)の別名/号]初名;善貞、号;蓮阿れんあ/聴雨庵/水とりのや/歌論庵
 ☆林連阿(姓;拝志/名;茂樹/号;聴雨軒/百合園/京生;東山双林寺/伏見宮家出仕;のち江戸住/1838[天保9]没/歌学書多数/江戸に没)と同一か?

- a2108 **茂木**(茂樹/茂本しげき・吉田よしだ、旧姓;大林)?-1827 上野群馬郡の国学者、
 国学・歌;本居大平(1756-1833)門、
 [茂木(;)名の通称]千蔵/宣蔵
- Q2189 **成樹**(しげき・寺村てらむら、成幹しげもと男)1772-184776 土佐高知藩士;小小姓/歩行頭/留守居組頭、
 江戸留守居役/1830諸役を免除、歌文に長ず、「七番御歌合」判、「丕績後鑑」著、
 別荘湊顎齋に宮地仲枝・寺村成相等の学者・歌人が出入、「建依別振十二首并月の歌」著、
 [成樹(;)名の別名/通称/号]別名;成忠(;)初名)/成蒼、通称;令助/才左衛門、号;**老麿**おまる
- C2113 **繁樹**(しげき・山内やまうち/本姓;藤原、治房男)1774-184673 紀伊日高郡田辺の酒造業(祖父以来)、
 山内家は醸造業[松屋]を営む素封家で郷社須賀神社の祠掌に出仕する家柄、
 幼時より茶・武術習得、暦算の研究/1793(20歳)江戸で漢学修学、
 国学・歌道;伊勢松阪の本居宣長/本居大平門、帰郷し家業、余暇に謡曲・蘭栽培を嗜む、
 田辺藩士分に遇される;国学を講ず、妻;紀州藩御典医の野上応間女、
 息子繁憲しげりも国学者でのち須賀神社祠官、
 1853「常磐集」著(;)門人熊代繁里の跋/3冊)、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、
 [まゆのごと見えし栗島けさ見れば霞きらひてそことしも見えず](八十浦;713)、
 [繁樹(;)名の幼名/通称/号]幼名;栄次郎、通称;太郎兵衛/英作、号;常磐舎ときわのや
- E2165 **繁樹**(しげき・小林こばやし、通称;慶作)?-? 江後期尾張名古屋の国学者;1813本居春庭門、
 文化1804-18頃活動、「霊能真柱問答録」著
- C2114 **成祺**(しげき・源みなもと) ? - ? 江後期絵師:1817与清ともきよ「擁書漫筆」插画
- N2193 **重枝**(しげき・伊藤いとう/本姓;直江、通称;又兵衛)?-? 江後期;豊後玖珠郡森藩の藩士(郷士)、
 国学/歌人;渡辺重名しげな(豊前中津古表八幡社社司)門
- C2115 **重樹**(しげき・中沢なかざわ) ? - ? 信濃贛川宿の生/松本伊勢町で手習師匠/歌人、
 香川景樹(1768-1843)門、信州桂園派の内山真弓・林良本・倉科希言らと松本歌壇中心の1、
 1843真弓「歌学提要」に書留入、千村景村かむらの師、
 [重樹(;)名の別名/通称/号]別名;繁樹/茂樹/広居、通称;由右衛門、号;蝶山人
- 02196 **重樹**(しげき・白木しらき、通称;郷左衛門)?-1840 信濃木曾福島宿の本陣経営、歌人;香川景樹門
- Q2190 **茂樹**(しげき・漆戸うるしど/本姓;源、字;直矢)1790-187081 陸奥盛岡藩士、藩の剣術新当流師範役、
 書・歌を嗜む、三輪派の歌人、1816(27歳)「風葉集」著、「分量勘考録」「北奥路程記」著、
 1816「隣国便覧秘集」編/57「若葉の幣」著、
- Q2191 **茂樹**(しげき・蔵田くらた/本姓;藤原、蔵田堯民男)1798-185356 佐渡相川の地役人、歌人;賀茂季鷹門、
 さらに前田夏蔭門、1839公金上納の宰領の下命を受け江戸へ赴く;吉田松陰と交流、
 「佐渡名所歌集」編/1830「恵美み草」著、「鮎川之記」「野山廼夢」「いさこの浜つと」著、
 源氏物語注釈など著多数あったが安政の火事で大部分焼失、
 重時・松原御中(三中)・年雄の父、蔵田茂穂(1811-53)と同族、
 [よしいふ吉野の春もしかしかしこゝはこかねの花の国なり](恵美草)、
 [この峯は天の川瀬に近からん袂にかゝる雲のうき浪](恵美草)、
 [茂樹(;)名の通称/号]通称;太中、号;松隈所しょうかいよ/培翁
- Z2157 **重樹**(しげき・中村なかむら、)1803-186462 但馬出石郡の国学者、
 [重樹(;)名の通称]小二郎/喜左衛門
- Z2133 **茂樹**(しげき・竹尾たけお、通称;大和守)1806-186560 三河八名郡の賀茂大明神神主、
 国学者;平田篤胤門
- 02162 **繁樹**(しげき・坂田さかた、旧姓;森)1806-187772 飛騨高山の国学者;田中大秀門、
 [繁樹(;)名の通称/号]通称;長五郎、号;有美
- Z2101 **盛樹**(しげき・杉浦すぎうら、)1811-189181 信濃松本藩水野家の家臣/歌人;京の香川景樹門、
 帰郷後;門人指導:桂園派歌風を広める、
 [盛樹(;)名の別名/通称/号]初名;盛久、通称;金吾/如意太郎、号;心水
- Z2108 **重樹**(しげき・鈴木すずき、本姓;穂積、重麿男)1812-8170 伊予宇和島藩士、国学・歌;宍戸大成門、
 宇和島藩校皇学教授、歌人、
 [重樹(;)名の別名/通称]別名;重舒、通称;綱之助/源兵衛
- N2175 **重樹**(しげき・大崎おおさき、重光男)1813-187765 土佐高知藩士、

1833(天保4)御火消方御用(父の代勤)/以後;御扈從役・免奉行となる、
教授館御目付兼異国船打払御用・御留守居物頭・御馬廻・大目付役・御仕置役・
容堂公手許御用を歴任;1864(元治元)致仕、教授館に関わるうち国学を修学、
歌人;鹿持雅澄門;鹿持十哲の1、雅澄の再度の存寄書(意見書)提出を斡旋、
[重樹(;名)の通称] 鋏馬てつま/卷蔵/健蔵/春蔵/武之丞

- N2101 **しげ樹**(しげき・名取なとり) ? - ? 江後期;歌人、商家?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ほろほろと野ぢに降りくる春雨や妻問ふ雉子まの声ものどけし](大江戸倭歌;春213)
[荒き風あてじとぞ思ふ朝夕の露もおもげの撫子の花](同;夏558)
- C2116 **茂樹**(しげき・西村にむら、芳郁男) 1828-190275 下総佐倉藩士;1844出仕/50家督嗣、
1853支藩の佐野藩の付人として藩政参加、儒;安井息軒・海保漁村門/文章;大槻磐溪門、
西洋砲術・兵学;佐久間象山・大塚同庵門/蘭書;木村重周門/蘭・英学;手塚律蔵門、
開国論を主唱、1868本藩佐倉藩に帰り大参事、73文部省に出仕;明六社創立に参画、
東京修身学社(のちの日本弘道会)を起す;儒教による国民道徳を主唱、
1841-47「樸堂詩稿」50-「西村茂樹日記」62「数限通論」著/62-67「百代通覧訳藁」訳、
「海防新論」「日本道徳論」「婦女鑑」「泊翁叢書」、自伝「記憶録」「往事録」外著多数、
[茂樹(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;平太郎、別名;芳在/鼎、字;重器、
号;泊翁/樸堂ばくどう/庸斎、法号;宗徳院
- Q2192 **繁樹**(しげき・中山なかやま、豊村男/美石うましの孫) 1829-7850 三河吉田藩士、祖父美石うましの後継、
国学;本居内遠・平田鋏胤門、維新後;松尾神社禰宜、中山幸彦の父、
「類題三河歌集」共編(中心は竹尾正久/寺部宣光・釈公阿・村上忠順ただまき・繁樹の5名で編纂)
[繁樹(;名)の通称/号]通称;健太郎/仙太郎/弥助、号;桜戸さくらど
- Q2193 **茂樹**(しげき・山崎/山寄やまさき/本姓;藤原、通称;但見)?-? 江後期越中富山藩士、
歌学;藩主前田利保門、藩士に歌の指導、
1853「網廻綱手あみのつなで」共編(前田利保著/浅野光武・小林佐倍すけます・伊林禮初ひろもとと共編)、
1857「連理秘抄」著
- Z2193 **琴樹**(しげき・山内やまうち) 1823-189250 伊勢度会郡の神職;伊勢神宮主典、国学者
- Z2172 **茂樹**(しげき・林はやし) 1831 - 189363 信濃伊那郡の御射山みさやま神社祠官、
国学者;平田鋏胤門、
[茂樹(;名)の初名/号]初名;信重、号;撰津正せつしょう
- Z2131 **茂樹**(しげき・高山たかやま) 1835-189662 上野吾妻郡大宮巖鼓わづみ神社祠官、
国学・歌;橋本直香ただか・平田鋏胤門、草津白根神社祠官、維新後;権少講義、
高山真淹まひさ(大宮巖鼓明神社祠官)の孫、昇の父、
[茂樹(;名)の字/通称/号]字;俣、通称;造酒みき/薩摩、号;槻園/秋籟
- Z2196 **重樹**(しげき・山崎やまさき) 1846-192883 伊勢亀山藩士/国学者、
亀山神社(1908[明治41]改称)の社司
- 重樹(しげき・河本) → 忠光(ただみつ・河本、国学) Q 2 6 9 4
繁樹(しげき・小林/植松) → 茂岳(しげおか・植松/小林、藩士/国学) B 2 1 9 5
繁樹(しげき・村上) → 影面(かげも/かげおも・村上、藩士/国学者) B 1 5 9 7
繁樹(しげき・小山) → 安延(やすのぶ・小山こやま、神職/歌人) F 4 5 8 9
繁樹(しげき・羽山) → 平八郎(へいはちろう・羽山はやま、藩士/歌) B 2 7 5 3
繁樹(しげき・時枝) → 重明(しげあき・時枝ときえだ/藤波、勤王/神職) Z 2 1 4 8
成樹(しげき・松原) → 弥左衛門(やざえもん・松原、藩士/歌人) G 4 5 7 4
茂樹(しげき・安西/三浦) → 道斎(どうさい・三浦、医者/語学) E 3 1 4 1
茂樹(しげき・山田/関本) → 理恩(りおん・松盛斎しょうせい、華道家) 4 9 4 2
茂樹(しげき・中山) → 水枝(みずえ・中山なかやま、藩士/国学/歌) J 4 1 9 3
茂樹(しげき・大谷) → 実徳(さねのり・大谷おおたに、勤王過激派) O 2 0 1 3
茂樹(しげき・黒神) → 直臣(なおおみ・黒神くろかみ、神職/和漢学) M 3 2 0 3
茂樹(しげき・本山) → 竜沢(りゅうたく・本山もとやま茂任、藩士/神職) M 4 9 3 0

- 繁木が本(しげきがもと) → 正雄(まさお・川村/河村、商家/国学者) B 4 0 3 9
 繁子(しげこ・森) → 磐子(はんこ・森もり、歌人) H 3 6 5 3
- C2118 茂吉(しげきち・三井みつゐ、茂豊男)?-? 越後糸魚川藩士、俳人;雑俳、1692菊子「咲やこの花」入
 繁吉(しげきち・藤田/栗田) → 高伴(たかとも・栗田/藤田/大林、歌人) D 2 6 2 4
- Q2194 重清(しげきよ・大和田おおわだ、通称;近江守)?-1619 武将;水戸佐竹氏の家臣、
 1592朝鮮出兵の際佐竹義宣に随い肥前名護屋に出陣、1593「大和田重清日記」著
- Q2195 茂清(しげきよ・村松むらまつ、通称;丸太夫) 1608-9588 常陸那珂郡村松村の和算家;水戸の平賀保秀門、
 常陸笠間藩に出仕;藩主浅野長直転封に随従し播磨赤穂藩士/江戸詰;江戸で数学を教授、
 円周率を少数点以下7桁まで計算、1663「算俎」著
- Q2196 茂清(しげきよ・美濃部みのべ、通称;甚太夫、美濃部茂貞2男)?-1727 美濃部茂秋(茂貞の養子)の養子、
 陸中盛岡藩士;藩主南部利幹の側用人、「美濃部茂清日記」著
- N2179 茂清(しげきよ・殿村ともむら、通称;米屋伊太郎/平吉) 1766-183166 大坂の両替商;
 本家殿村茂乗しげのり(米屋平右衛門/1764-1801)の一族、歌人;加藤景範門
- Q2197 重清(しげきよ・沢さわ) ? - ? 江後期天保1830-44頃尾張藩普請奉行水野岷山門、
 師没後その治水説の大意を著す:1833「珉山先生治水伝」
- Z2154 重清(しげきよ・中井なかい、通称;久右衛門) 1810-1906長寿97 伊予宇和郡の国学者/歌人;和気貞規門、
 重清(しげきよ・三井) → 隆斎(りゅうさい・三井みつゐ、医者/儒/詩) E 4 9 0 5
 重清(しげきよ・板倉) → 勝清(かつきよ・板倉いたくら、藩主/記録) N 1 5 2 6
 重清(しげきよ・飯田いいた) → 重清(じゅうせい・安心院あじむ、僧/連歌) H 2 1 8 7
- C2117 重邦(しげくに・高山たかやま) 1680-175475 上州藤岡東平井の和算家/天尺術にも精通、
 「算書」著、[重邦(;名)の通称] 万右衛門
- N2120 重国(しげくに・天野あまの) 1793-1882長寿90 伊予和気郡の歌人/のち松山三津浜住、
 桂園派で歌学修学、武知五郎造の父
 [重国(;名)の通称/号]通称;助左衛門/十八郎/順太郎/友蔵、号;訥翁
- 02183 茂国(しげくに・樹下じゅげ、) 1822-188463 近江滋賀郡の日吉神社祝はふり、国学・歌;谷森善臣門、
 尊攘派;岩倉具視の命を受け活動/1868(慶応4)神祇官権判官、
 神仏分離廃仏毀釈で日吉大社の仏像・仏具の焼却を先導;免職、晩年は修史館に出仕、
 「皇親系図」編纂に参画、
 [茂国(;名)の通称/号]通称;石見守、号;耕雲
 重国(しげくに・堀) → 秀成(ひでなり・堀ほり、藩士/国学;音韻) D 3 7 5 2
 成国(しげくに・祝部) → 成国(なりくに・祝部はふりべ、神職/歌人) H 3 2 2 9
- C2119 滋子(しげこ・平たいら・建春門院、平時信女) 1142-7635 後白河天皇女御/皇后、高倉天皇の母、
 清盛室時子の妹、歌人を支援:女房歌人に右衛門佐(うねものすけ)・中納言(健御前俊成女)ら、
 1170「建春門院北面歌合(法住寺殿歌合)」催(判者藤原俊成)
- Z2188 繁子(しげこ・松木まつき、旧姓;永山) 1719-180688 伊勢度会郡の伊勢外宮禰宜松木卓彦つねひこの妻、
 言彦のぶひこ(1742-1817)の母、国学・歌人
- N2155 繁子(しげこ・遠藤えんどう、信濃飯田藩主堀親長[1739-1808]女、) 1773-? 江戸の生、
 近江三上藩主遠藤胤富の室、歌人;多田千枝子・桜井知栄尼門、恭寿院(遠藤胤統室)の母、
 [繁子(;名)の別名・号]別名;政/盤、号;芳桂院
- I2137 しげ子(しげこ・林はやし、号;赤女) 1785-185571 武州入間郡勝呂村赤尾の名主林信豊の妻、歌人、
 信海のぶみ(1804-62/名主/国学者)の母
- Q2199 茂子(しげこ・小河おごう、小河弥右衛門一卓女)?-? 江後期;豊後岡藩士黒木一道の妻(;婿養子)、
 歌人:橋千蔭門、常太郎一崇・秀子(歌人/12歳夭折)の母、小河一敏かづしの祖母、
 家集「春霞はるがすみ集」著(1871小河一敏写刊)、歌;[岡藩人歌集]3首入、
 [久方の天の戸とほく霞つゝ雲路よりこそ春は来にけれ](立春/春霞集)
 参考 → 一敏(かづとし・小河おごう、勤王家/歌人) C 1 5 2 3
- Z2125 蔡子(しげこ・伊達だて、仙台10代藩主伊達斉宗の女) 1816-5843 父の正室信恭院信子の養女、
 父の養子伊達斉義(陸奥仙台藩11代藩主)の室、歌人、
 [蔡子(;名)の初名/号]初名;芝姫、号;真明院

- a2100 **茂子**(しげこ・山本やまもと、) 1838-1902⁶⁵ 伊豆田方郡の国学/歌人
 茂子(しげこ/しげいこ・進藤) → 筑波子(つくばこ・土岐とき、歌人) 2 9 8 0
 繁子(しげこ・しげきこ・森) → 磐子(いはこ・森もり、歌人) H 3 6 5 3
 繁子(しげこ・内藤) → 充眞院(じゅうしんいん・内藤ないとう/井伊、藩主室/紀行) Z 2 1 5 3
- C2120 **茂語**(しげこと・小野おの) ? - ? 歌人:萩原宗固門、
 1784宗固家集「志野乃葉草しのはぐさ」序文(大家孝綽の跋/萩原為長の跋;1792刊)
- 02113 **重言**(しげこと・川島かわしま、通称;忠兵衛) 1819-87⁶⁹ 近江蒲生郡の酒造業、国学;大国隆正門、
 重信(;医者)の父
 茂五郎(しげごろう・浜田屋) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9
 茂先(しげさき・斎田) → 茂先(しげゆき/しげとき・斎田さいだ、藩儒/地誌家) T 2 1 0 5
 成前(しげさき・祝部) → 成前(なりさき・祝部はふりべ、神職/歌人) H 3 2 3 4
- C2122 **重貞**(しげさだ・藤原ふじわら、清宣男?) ?-?紀伊で横死? 鎌倉期歌人、廷臣;上野介、続後拾遺582
- R2100 **茂貞**(しげさだ・吉田よしだ、初名;茂時、茂武3男) 1609-81⁷³ 加賀金沢藩士;1626藩主前田利常に出仕、
 1639越中富山藩分封の際前田利次に随い富山藩士、弓術家;射手頭/弓道師範を勤む、
 「弓道初心者心得」著、
 [茂貞(;名)の通称]伝弥/左吉郎
- R2101 **重貞**(しげさだ・大金おおかね、別名;重昭、重供男) 1630-1713⁸⁴ 下野那須郡小口郷の名主、古典に精通、
 郷土史研究、永禄1558-70頃美濃より下野に移住した那須家家臣大金宗宣の11代目、
 1676「那須記」81「仏法裸物語」著/83「田畑難題物語」編、「重昭童依調年記」著、
 [重貞(;名)の通称]久左衛門
- R2102 **重貞**(しげさだ・富田とみた、治太夫男) 1660-1731⁷² 加賀金沢藩士;1685家督嗣/遺知3百石、
 1690-1723藩主前田吉徳の御部屋付物頭、加増;千6百石、「御誕生より御家督迄覚書」編、
 [重貞(;名)の通称]甚五右衛門/織人、
- N2184 **重定**(しげさだ・岡田おかだ、) 1721 - ? 江中期;織田家の家臣、古流故実家;五味貞之門、
 稲葉通邦の師、
 [重定(;名)の通称/号]通称;浅右衛門、号;讚古亭
- 02111 **重定**(しげさだ・川越かわごえ、) 1811-1870⁶⁰ 出羽仙北郡高梨村の八幡神社神主、国学者、
 重熙しげひろ(国学;平田鉄胤門)の父
- Z2126 **繁禎**(しげさだ/しげよし・大道寺だいどうじ、順正男) 1844-1919⁷⁶ 母;美武、大道寺隼人家;陸奥津軽藩士、
 国学;佐々木弘綱門・神学・歌;長利おさり仲聴なかあきら門、1862(文久2)家督嗣;1200石、
 大寄合/側役/学校惣司/家老、戊辰戦;青森口軍事総轄、維新後;権大参事/郡長/藩執政、
 地方政治家;1873区長/79県会議員、南津軽郡郡長/中津軽郡長、
 実業家;第五十九銀行頭取/農牧社・弘前電燈社長、弘前農具会社(のち角弘)設立、
 1907弘前市立図書館長、高崎正風・阪正臣と交流、陸奥史談会;門弟多数/1919(大正8)病没、
 [繁禎(;名)の通称/号]通称;儔之進/族之助/族、号;楸舎/楸園、自邸号;清水居
 重貞(しげさだ・山口) → 風簷(ふうえん・山口、藩士/儒者) 3 8 3 7
 重貞(しげさだ・賀茂) → 重貞(しげかず・賀茂かも、神職/歌) C 2 1 0 0
 重貞(しげさだ・安藤) → 重博(しげひろ・安藤あんどう、藩主/連歌) S 2 1 4 4
 重貞(しげさだ・安部) → 和貞(かずさだ・安部あべ、藩士/和学) T 1 5 3 1
 重定(しげさだ・紀) → 重源(ちようげん・俊乗坊、浄土宗勧進聖) I 2 8 1 1
 重定(しげさだ・古賀) → 仁右衛門(にえもん・古賀こが、大庄屋/公共事業) 3 3 1 1
 重定(しげさだ・植田) → 魚鱗(ぎよりん・一本亭/植田、狂歌) Q 1 6 4 2
 茂貞(しげさだ・高須) → 松亭(しょうてい・高須たかず/光岡、蘭医) L 2 2 0 0
 茂貞(しげさだ・西村) → 馬曹(ばそう・西村にむら、歌人/俳人) E 3 6 7 6
- C2121 **重郷**(しげさと・落合おちあい) 1651-1733^{83歳} 信濃松代藩士/神道流剣術家、藩の剣術指南役、
 蔵奉行を務める/郷土史家;地理伝説の研究、1706「つちくれ(土塊)鑑かがみ」編著、
 「怪談録」「松代家中系譜」「真田武武功覚書并松代御城主御代々」著、
 [重郷(;名)の通称/号]通称;瀬左衛門、号;保孝やすたか
- N2121 **重郷**(しげさと・荒川あらかわ、通称;東右衛門) ?-1869 大和奈良の歌人、京で活動
- 02125 **重郷**(しげさと・北村きたむら、) 1708-1786⁷⁹ 近江彦根の生/京の土御門家に出仕、

陰陽・暦学;土御門泰連・同泰邦門、歌人;[彦根歌人伝・続寿]入、
[重郷(;名)の通称] 隼太/加右衛門

Z2141 **重里**(しげさと・谷口たにぐち、通称;伊八/号;照月) 1715-1787 73 近江彦根の歌人;生駒林雨門、
歌:[彦根歌人伝・続寿]入

02145 **重郷**(しげさと・後藤ごとう、) 1812-1884 73 飛騨古川の酒造業;加賀屋、国学者/歌;田中大秀門、
[奥久手に霧こめておちの山しまとも見ゆるきりのうみかな](霧雲)、
[重郷(;名)の別号/通称/号]別号;繁成、通称;康太郎/源七郎/源兵衛、
号;萩垣内(はぎかいと?)、屋号;加賀屋

N2161 **重郷**(しげさと・小串おぐし、重徳男) 1815-85 71 伊勢桑名の多度神社宮司、
国学;富樫広蔭門/歌人、
[重郷(;名)の通称]通称;右衛門/肥後守

C2123 **繁里**(しげさと・熊代くましろ) 1818-1876 59 紀伊日高郡の農家、国学者・歌人、
山内繁樹・加納諸平・本居内遠門、和歌山藩命で「紀伊国名所図会」続編撰述に従事、
のち田辺修道館国学教授、維新後熊野本宮権宮司/中講義に就任、歌は柿園派逸材と称讃、
1840「安藝の早苗」53「常磐集」55「近世三十六人仙」著/58「類題和歌清渚せいしよ集初編」編、
1859「熊野日記」、「三河名所歌合」判/「熊代繁里詠草」「熊代繁里随筆」「詞花集解」著、
[繁里(;名)の通称/号]通称;熊蔵/源蔵/四郎左衛門、号;瑞穂/桜蔭

02124 **重郷**(しげさと・北田きただ、重固しげかた2男) 1818-1891 74 近江甲賀郡の歌人;大堀正輔・遠藤千胤門、
国学者、歌;[鳩のうみ]入、
[重郷(;名)の初名/通称/号]初名;重孝、通称;権五郎、号;小農軒(父の号)

Z2174 **重郷**(しげさと・林田はやしだ、) 1825-1870 46 近江彦根藩士;目付役、歌人;[鳩のうみ]入、のち東京住

Z2168 **重郷**(しげさと・花井はない、旧姓;吹原) 1836-95 60 尾張名古屋の国学者;植松茂岳しげおか門、
[重郷(;名)の通称] 秀次郎/八郎左衛門

R2104 **重郷**(しげさと・吉村よしむら) 1837-1863 戦死 27歳 土佐高岡郡北川村の庄屋、詩歌;鹿持かもち雅澄門、
尊攘思想に傾き土佐勤王党に参加/平野国臣の浪士蜂起計画に参加のため脱藩、
寺田屋事件で捕縛;土佐で投獄;釈放後再上京し中山忠光を擁立し天誅組を組織、
大和で挙兵;幕府軍に敗北/戦死、詩「舟至由良港」「絶命詞」など、
[重郷(;名)の通称/号]通称;寅太郎/虎太郎、号;黄庵

重郷(しげさと・江田/舟越)→ 雲溟(うんめい・舟越ふなこし、絵師) B 1 2 7 8

重郷(しげさと・加藤) → 安彦(やすひこ・加藤かとう、藩士、国学/歌) F 4 5 6 3

R2105 **成実**(しげさね・伊達だて、実元男) 1568-1646 79 母;米沢城主伊達晴宗女、武将;伊達植宗の孫、
1584家督嗣/86武功により政宗より二本松城を受/91角田城主に転ず/93朝鮮役で武功、
1595高野山に上る/1600関ヶ原戦後に帰参/03亙理領主/15大坂陣に出陣、
1638江戸城で「軍中戦伐之事」を談ず;家光が漏れ聞き感嘆、「奥州合戦記」「成実留書」著、
[成実(;名)の幼名/通称/法号]幼名;時宗丸、通称;藤五郎/兵部/安房/安房守、
法号;雄山寺久山天昌

a2119 **重実**(しげさね・山本やまもと、桑津重正男)?-? 江前期の武士;父は藤堂和泉守に出仕;5千石、
重実(は桑津家3代目、山内家の徳を慕い土佐藩に出仕;[山本]に改姓、
[是も又哀はふかしあかつきの雲間にうすく残る月影](茂睡[鳥の迹]雑下717)、
[重実(;名)の通称]又左衛門、重実のあとは重道(新左衛門)・重信(善右衛門)と続く

N2145 **重眞**(しげさね・宇多うだ、通称;弥三、重堅しげかた長男) 1758-89 31 近江彦根藩士、歌人;父門、
文武の達人、歌;[彦根歌人伝]入

Z2184 **重実**(しげさね・藤井ふじい、) 1817-1870 54 備中賀陽郡の吉備津神社祠官、
国学・歌;藤井高尚門、
[重実(;名)の通称/号] 杵之助/駿河守、号;樞屋

S2175 **繁実**(しげさね・岡谷おかや、岡谷嘉兵衛繁正男) 1835-1920 86 父は羽前山形藩士/中老、
1845主家移封により上野館林に移動;館林藩士;1847家督嗣、儒;水戸の青山延光門、
昌平黌入学、館林藩中老、勤王家として活動し塾居、維新後内務省・修史館御用掛歴任、
氷川神社宮司/足利学校・金沢文庫を再興に尽力/修史事業に功績、
「寒香園存稿」「名将言行録」「皇朝編年史」著、

- [繁実(；名)の通称/号/変名]通称;鈕吾ちゆうご、号;寒香園、変名;斯波純一郎/斯波弾正/天民
- a2105 **重眞**(しげさね・湯沢ゆさわ、)1839-1897 59 信濃伊那郡喬木村の名主、国学者/歌人、
詩歌:松井美澄みはる門/歌;網野延平門、
[重眞(；名)の通称]信太郎/太左衛門/太源治たげんじ
- 重実(しげさね・萱野三平)→ 涓泉(けんせん・萱野、赤穂臣) C 1 8 5 5
重実(しげさね・沢崎/朝倉)→ 景実(かげさね・朝倉あさくら、兵法家) K 1 5 8 8
重実(しげさね→しげみ・大原)→ 重実(しげみ・大原/源、廷臣/記録) S 2 1 7 4
成実(しげさね・藤原) → 成実(なりさね・藤原) H 3 2 3 6
成実(しげさね・祝部) → 成実(なりさね・祝部はふりべ、神職/歌人) H 3 2 3 7
茂実(しげさね・小河) → 立所(りつしょ・小河/小川おがわ、儒者) C 4 9 0 2
繁三郎(しげさぶろう・釜屋)→ 手枕歌種(たまくらのうたたね・永日庵、狂歌) S 2 6 2 4
繁三郎(しげさぶろう・中島)→ 円弥(えんや・中島なかしま、儒者/歌) F 1 3 4 0
重三郎(しげさぶろう)一応 → 重三郎(じゅうさぶろう)に統一
重次(しげじ・柴井) → 重次(しげつぐ/しげじ・柴井、建築家) R 2 1 5 4
- R2106 **繁十郎**(しげじゅうろう・平野ひらの、名;祐長、順十郎祐玄男)1796-1857 62 代々肥前長崎の唐通事、
1806稽古通事/小通事/36大通事助/47諸立合大通事、平兵衛祐義の父、
「唐通事平野繁十郎より到来書簡写」著、
[繁十郎(；通称)の字/別通称/号]字;子純、初通称;藤八郎、号;恵園、法号;篤信院
- Q2144 **繁女**(しげじょ・三浦みうら、初名;補子/号;寛楽亭遊糸)?? 江戸期石見那賀郡の歌人
- P2157 **繁女**(しげじょ) ? - ? 江戸後期歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[とふ人もなき山里に秋来ぬと知らせ顔なる峰の松風](大江戸倭歌;秋916)
- Z2198 **しげ女**(しげじょ・山下やました、)1838-1902 65 伊豆田方郡の歌人;菊池袖子(1785-1838)の門流
- 茂女(しげじょ・佐分利) → 茂(しげ・佐分利さぶり、清因きよより女/国学) O 2 1 5 7
繁次郎(しげじろう・熊谷) → 直遐(なおほる・熊谷くまがい、郷土史家) C 3 2 1 3
重二郎(しげじろう・津田) → 永忠(ながただ・津田、藩士/藩政改革) E 3 2 1 2
重二郎(しげじろう・信沢) → 沢辺帆足(さわべのほたる、藩士/狂歌作者) G 2 0 1 9
重次郎(しげじろう・高島/浅見) → 綱斎(綱斎けいさい・浅見、医/儒者) 1 8 0 3
重次郎(しげじろう・冷泉/天野) → 御民(みたま・天野/藤原/冷泉、藩士) B 4 1 0 2
重次郎(しげじろう・御牧) → 赤報(せきほう・御牧みまき、藩儒/闇斎学) K 2 4 5 0
重次郎(しげじろう・浜地) → 春山(しゅんざん・浜地はまじ、儒者) K 2 1 8 5
重次郎(しげじろう・田林) → 有友(ありとも・田林たばやし、商家/国学) H 1 0 8 5
茂次郎(茂二郎しげじろう/もじろう・藪) → 孤山(こざん・藪やぶ、藩士/儒者/詩文) C 1 9 6 8
茂次郎(しげじろう・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0
- I2182 **重季**(しげすゑ・楊梅やまもも/本姓;藤原、季行[1114-62]男)?? 母;掌侍源重子(源行遠女)、
平安後期廷臣;讃岐守/隠岐守/従五上/修理権大夫/正四下/左近左少将、崇徳院側近、
定能[1148-1209]・能季の兄/九条良経[1169-1206]の母の兄弟、忠行(1168-1231)の父、
歌;1155-56成立「後葉集」1首入(別写本では藤原重家とあるが誤写か)、
[千歳ちとせまで君みるべしと知りがほに竹もよながくおひにけるかな](後葉集;238、
鳥羽にて新院[崇徳院]竹はるかなる年の友との詠歌に近衛天皇の詠;そのあとの詠歌)
- C2124 **重季**(成季しげすゑ・高松たかまつ/本姓;藤原、武者小路実陰2男)1699-1745 48 廷臣;1731従三位、
1738正三位/45参議;初めて高松を名乗る;高松家の祖、歌学;父武者小路実陰門、
宗固「雲上歌訓」に歌論入、「新類題和歌集」編、「高雄山に紅葉を見る記」「高松重季聞書」著、
- R2107 **茂季**(しげすゑ・藤木ふじき/本姓;賀茂、季内男)1711-61 51 伯父藤木季郷の養子;奈良社禰宜、従四上、
1747-49「茂季日記抄」著、
[茂季(；名)の幼名/通称]幼名;善、通称;讃岐守
- R2108 **栄居**(しげすゑ・長谷川はせがわ、通称;伝二)?? 江中期関流和算家;富山の中田高寛たかひろ門、
「括要算法諺解」校/「括要算法卷利術解」校/「括要算法角術演段諺解」校訂
茂末(しげすゑ・橋) → 冬照(ふゆてる・橋たちばな、国学者/歌人) E 3 8 3 1
- R2109 **重輔**(しげすけ・藤原ふじわら、顕忠男、元輔[916?-975]の弟)?? 平安前期廷臣;従四上/左衛門佐、

歌人;960天徳四年「内裏歌合」の[女房和歌]左方人で参加

- R2110 **重輔**(しげすけ・藤原ふじわら、伊賀守重清男?)?-? 鎌倉末南北期廷臣;散位、
重清男なら水谷氏(本姓:藤原)/従五上/蔵人/筑前守/淡路守/右衛門大夫、
詩;1314正和三年「詩歌合」;左方(詩)参加(勝2持6負2)、
[霞籠巴月湖光薄 花出淮雲山影浮](詩歌合;九番左17)
- C2125 **重資**(しげすけ・庭田にわた/綾小路/本姓;源、庭田茂賢男)1305-8985 南北期廷臣;1337参議/38従三位、
1343正三位/44権中納言/59正二位/90権大納言、光厳上皇の近臣、経有の父、
持明院統歌人:1342持明院殿歌合参加、1343院六首歌合・五十四番詩歌合参加、
1367新玉津島社歌合/70-71仙洞歌合などに参加、貞和百首・藤葉集2首・菊葉集7首入、
勅撰8首;風雅(383/512/801/851/1350/1658)新統古(62/1842)、田向資蔭・常有の父、
[うたたねに涼しきかげをかたしきて簾は月のへだてともなし](風雅集;夏/百首歌)、
[夕暮の露と風との外にまた雲にも秋の色はみえけり](藤葉;秋185/権中納言名)
- R2111 **重輔**(しげすけ;変名か) ? - ? 室町期廷臣;侍従、詩;1446文安詩歌合(詩)参加、
[迢迢秋色画難成 蔓草寒煙鎖故城 残雨半含西暎日 野多樵牧少人行]、
(文安詩歌合;一番 野外秋望/左1)(判者は一条兼良)、
一条兼良説あり → 兼良(かねよし/かねら・一条、撰関/歌学) 1 5 3 7
- N2183 **重右**(しげすけ・大和田おおわだ、?)?-?寛文1661-73頃没 伊予宇和島藩士/歌人、
[重右(;名)の通称/号]通称;弥五兵衛尉、号:竜舟軒/雲水子
- C2126 **成資**(しげすけ・香西こうさい、植松時信男)1632-? 1721存 讃岐豪族香西氏の支族植松家、本姓を名乗、
兵学;小早川能久門;武田流兵法修学/小幡景憲門;免許取得、1682筑前福岡に移住;
福岡藩の兵学師範、1696演武堂(;教場)を創建、軍記作者;1663「南海治乱記」著、
1708「武田兵術文稿」19「南海通記」、「甲越戦争記」「甲源武鑑単騎」「講武要訣」「三品正伝」著、
[成資(;名)の通称/号]通称;武兵衛/庄左衛門、号;本立軒/常山
- 成佐(しげすけ・戸川) → 成佐(かんすけ・しげすけ・戸川とがわ、藩士/書家) R 1 5 1 5
重助(しげすけ・片野) → 磐村(いむら・片野かたの、藩士/国学者) K 1 1 1 3
重輔(しげすけ・志寺) → 梅思(ばい・蕉花庵、藩士/俳人) I 3 6 8 7
重輔(しげすけ・桂) → 上枝(ほつえ・桂かつら、国学/神職) G 3 9 1 9
成助(しげすけ・賀茂) → 成助(なりすけ・賀茂、神職/歌人) H 3 2 4 4
茂弼(しげすけ・徳力) → 竜澗(りゅうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
重資女(しげすけのむすめ・庭田) → 資子(すけこ・庭田、歌人) C 2 3 1 2
- Z2109 **重篤**(しげすけ・鈴木すずき、通称;利十郎)1844-190865 三河賀茂郡の国学者
- R2112 **重澄**(しげすみ・姓不詳) ? - ? 室町期武家/歌人/1457武家歌合参(正徹・心敬らと);3首入
[たつた山まだ色うすき紅葉ばは露の千しほや染めはじめらん](武家歌合;十一番左14)
- R2113 **重澄**(しげすみ・箕輪みのわ)?-? 戦国期薩摩の武将;島津氏の家臣/伊賀守、
弘治元1555島津貴久の大隅北村城攻めで窮地に陥った貴久を救助、のち法体、
天文元1532-天正五1577の島津氏合戦を記録、「箕輪伊賀自記」著、
[重澄(;名)の通称]舍人助/伊賀入道
- R2114 **重純**(しげすみ・山本やまもと、通称;新兵衛)?-1694 加賀金沢藩士;1659二百石/大小将に列し御右筆、
北条流兵学;福島国陸門、1684「士鑑用法抄」著
- R2115 **重澄**(しげすみ・伊藤いとう、重正男)1650-172374 加賀藩士;父の遺跡2千石を継嗣/1693公事場奉行
1696寺社奉行兼任/17148百石加増、旧例故実に通、[石動山々境論所ニ付書翰]著、
[重澄(;名)の幼名/通称]幼名;虎之助、通称;平右衛門/内膳
- C2127 **重澄**(しげすみ・林はやし、初名;直澄、重直の長男/本姓;源)1654-172168 母;角南重勝女、幕臣、
徳川綱吉の小姓組;表小姓/1680綱吉男徳松付きの西丸勤仕;83徳松没により小普請、
1694(元禄7)小十人に列す、直秀(美作守)の兄、歌人;中院通茂門/堂上派歌人、
家集「老淵集」著、広通「霞関集」入、
[とはれてぞつらさも増る桜花散らずは庭の跡もをしまじ](霞関;春166/花落客来)
[重澄(;名)の通称/法号]通称;三次郎/五郎左衛門/忠五郎、法号;日妙
- 誉純(しげすみ・有馬) → 誉純(なすみ・有馬・丸岡藩主) G 3 2 6 3

- 重澄(しげすみ・橋本) → 阜鶴(こうかく・橋本、製墨業/歌人) H 1 9 9 6
- R2116 茂純(しげすみ・中山なかやま) ? - ? 江後期阿波徳島藩士、
1835藩主蜂須賀斉昌参勤交代随行;藩命で1835-51「阿淡年表秘録」作成;藩主斉裕に献ず
- 重三(しげぞう・鈴木) → 正三(しょうさん・鈴木/穂積、禅僧/仮名草子) 2 1 7 8
- 茂三(しげぞう・橋) → 冬照(ふゆてる・橋たちばな、国学者/歌人) E 3 8 3 1
- 茂造(しげぞう・藍沢) → 無満(むまん・藍沢あいざわ、国学/俳人) D 4 2 0 1
- 繁蔵(しげぞう・前田) → 国虎(こくたけ・初世くにとら・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 3
- 繁蔵(しげぞう・広瀬) → 克斎(こくさい・広瀬ひろせ、藩士/儒者) M 1 9 1 7
- 繁太(しげた・内堀) → 英長(ひでなが・内堀うちぼり、儒者/神道) D 3 7 4 5
- C2128 重隆(しげたか・藤原ふじわら、為房男) 1076-1118 43 母;源頼国女、平安後期廷臣;皇后宮(令子)権大進、
大学助/右衛門佐、1104歌合催、故実:「蓬萊抄」「雲図抄うんげしやう」、歌;和漢兼作集入、
顕隆・親隆の兄弟
- C2129 重孝(しげたか・平たいら) ? - ? 戦国期廷臣、連歌、
1470教具催「北畠家連歌合」(兼良判)参加、
[氷の下の色もわかれず
うちとけぬ人の心のいかばかり](北畠家連歌合;恋百四十六左、右は賀阿法師)
- M2139 重隆(しげたか・永原ながはら、重泰男/本姓;藤原) ?-1550 戦国期近江野洲郡永原の武将;永原城主、
永原家は代々連歌興行;1540宗牧「永原千句」主催、里村昌休「永原十花千句」主催、重興父、
永原家代々;吉重一重泰(重秀)一重隆一重興一重虎
- R2117 重隆(しげたか・松波まつなみ、重綱男) 1525-1606 82 戦国安桃期武将;徳川家康家臣;御献方奉行、
1595従五下右衛門尉/但馬守、1594「文禄三年秀吉公加州家へ御成御馳走次第拔草書」、
1595「文禄四年御成記」著、重正の父
- N2132 重孝(しげたか・伊東いとう、理蔵重村2男) 1633-68 36 陸奥(陸前)仙台藩士/儒;内藤閑斎門、歌人、
陽明学;京の熊沢蕃山門/兵学;江戸の小櫃与五右衛門・山鹿素行門/国学;日政(元政)門、
寛文事件(伊達騒動)に藩のため一関藩主伊達宗勝暗殺計画;捕縛;絶食;処刑、一族連座、
のち気骨の烈士として名誉回復;伊東家も再興される、
[重孝(;)名の通称]通称;鶴千代/七十郎、法号;鉄叟全機居士
- C2130 繁高(しげたか・日夏ひなつ、丹波篠山藩士日夏熊忠の長男) 1660-1731 72 篠山藩士;1686遺知継嗣、
藩主松平信庸に出仕、天道流剣術;父門/武田流兵学;堀金大夫貞則門、
弓馬槍剣に通ず、故あり致仕/江戸青山で兵学塾を開、のち出羽庄内藩に十人扶持で招聘、
小早川能久門下の甲州流兵学者として一家を成す;門弟多数、1715「兵具詠草」、
1716「本朝武芸小伝」21「兵学茶話」23「本朝武林原始」、「本朝馬法故実源始」著、
[繁高(;)名の通称] 弥助/四郎左衛門/無一郎
- R2118 重孝(しげたか・庭田にわた/本姓;源、権大納言中山篤親2男) 1692-1745 54 母;花園実満女、
1706庭田重条しげねだの養嗣子;重孝に改名、1718参議/従三位/31権大納言/34正二位、35辞任、
1709-22「庭田重孝日記」1716「春日祭申沙汰私記」、「直曹雑記」「直廬御用雑誌」著、
[重孝(;)名の初名/法号]初名;幸親、法号;田養院、重熙しげひろの父
- N2133 重崇(しげたか・石井い、石井権太夫重信3男) 1711-85 75 筑前遠賀郡商家;石井正五郎重勝の養子、
家業継嗣;綿屋当主、歌人、同郷の柴田繁尚を養子とす
[重崇(;)名の通称/号]通称;三五郎、号;仰府、屋号;綿屋/錦屋
- R2119 重就(しげたか/しげなり・毛利もより/本姓;大江、長門府中藩主毛利匡広10男) 1725-89 65 母;飯田津礼子、
長門萩藩主毛利宗広の養嗣子、1735(11歳)府中藩主/51(25歳)宗広没;遺命で宗藩萩藩主、
従四下侍従/式部大輔、吏道を正し財政再建に尽力;1762防長の検地実施/63蕪育局を創設、
公租以外の財源を備蓄運用し増殖を図る、正室;登代とよ(柳川藩主立花貞俣2女/歌人)、
1782隠居;周防三田尻に住、1774「六十賀後宴和歌」著、
[長閑なる春の恵に色添へていつより深く匂ふ梅が香](;[萩の歌人]入)
[重就(;)名の幼名/別名/法号]幼名;岩之丞、別名;元房(;)初名)/匡敬、法号;英雲院
- R2120 重巖(しげたか・関せき、伊勢崎藩家老関当義まさよし男) 1756-1836 81 上州伊勢崎藩士;初め小姓頭格、
1771(16歳)側用人、儒(朱子学);村士珠水門/1774藩校学習堂創設に当り初代学頭、
1783浅間山噴火;父を助け藩政再建に尽力、1788家督嗣;家老/4百石、1805江戸詰、

1813罪を得て蟄居(18年間)、地歴に通ず、1798地誌「伊勢崎風土記」著、1820「月の往来」、
「村士玉水先生行実」「沙降記」「月魂図考」「発墳曆」「容膝亭ノ記」「天譴」著、
[重嶷(；名)の字/通称/号]字；子岐、通称；助五郎/助之丞/此面、
号；睡峯かとう/喚醒/容膝亭ようしつてい、法号；関高院

- R2121 **茂喬**(しげたか・坂井さかい) 1774- 1847 74歳 加賀大聖寺藩士；1840家督嗣、
1840学問所会頭示談相手に就任、漢学/詩に通ず、839「梅屋詩稿翁如」著、
[茂喬(；名)の字/通称/号]字；子木、通称；弥次郎、号；梅屋
- R2122 **重孝**(しげたか・中西なかにし) 1778-1824 47 河内中河内の代々の豪農/里正を務める、
国学者；岩崎美隆門/のち村田嘉言門、歌/俳諧・茶・挿花を嗜む、
1819私撰「河内集」編、「中西重孝詠草」著、多豆伎たずき(国学者)の父、
[重孝(；名)の通称/号]通称；宗兵衛、号；多豆廼舎たずのや
- R2123 **重恭**(しげたか・川崎かわさき/のち末松、川崎杜春男) 1798or1800-1832 35or33 肥前唐津の国学者；
1816平田篤胤門；17篤胤「天説弁々」の末尾に経緯、1823(文政6)末松三平と改姓、
1826「猿舞沿革考」著、29「春の紅葉」編、
1831「しりうごと」著(平田篤胤・小山田与清らを批判；小説家主人名)、
「風の下くさ」「鳥おとし」「霊のをはしら」「天説辨々附記」著、
[重恭(；名)の通称/号]通称；勇次郎/勇治郎/源三/源三郎、
号；羅摩園主/千鳥庵/悠々/小説家こごのや大人/小説家こごのや主人
- C2132 **茂喬**(しげたか・文屋ぶんやの、通称；吉田新兵衛、山田、屋号文徴堂/吉田屋) ?-? 京三条書肆文徴堂主人、
狂歌；得閑斎繁雅門/文屋社を結成；京の狂歌壇指導、1797荘鹿「うかれ草紙」題・刊、
1801「善玉先生大通論」、02「新撰勸進話」11「狂歌手毎の花」13「狂歌呼子鳥」14「百女賦」編、
1819「面迦計百人一首」、咄本「列々波奈志」、「狂歌画賛集」編、「増補狂歌類字名所集」、
[茂喬の別号]得閑斎2世茂喬(；狂歌号)/文廼屋ふみのや茂喬/百川堂/灌河(灌雅)/売書翁
- R2124 **茂喬**(しげたか・市野いちの/市川/藤とう) ?-? 江後期1789-1844頃和算家；本多利明・会田安明門、
最上流四天王の1、暦学；1789-1801頃高橋至時門、天文方属吏となる、1798「町見童算」、
1814「京城画苑」15「造曆基表」19「弧三角品彙」編/「正弧斜弧三角詳解」、24「楢円周通術」編、
「円中逐円」「鏡影互移之題」「翦管術解義」/「七曜住所測数」「諸角術」編、外多数、
[茂喬(；名)の通称/号]通称；金助、号；礪川軒れきせんけん/磊川らいせん
- 02126 **重貴**(しげたか・吉川きつかわ、) 1779-1852 74 周防岩国の国学者、
[重貴(；名)の初名/通称]初名；好芳、通称；剛左衛門
- R2125 **茂喬**(しげたか・漆戸うるしど/本姓；源) 1781-1853 73 陸奥盛岡南部藩士；高知衆、
国学者；黒川盛隆門、歌を嗜む、茂幹しげもとの父、
「源氏物語都気のをくし」、「枕の草紙つけの木枕」「恩頼考」「茂喬百首詠」著、
「茂喬歌集」(；同門江刺恒久つねひさ編)、
[茂喬(；名)の通称/法号]通称；甚左衛門、法号；喬心院
- R2126 **重孝**(しげたか・鈴木すずき/太田、富農鈴木平助男) 1811-63 53 羽後南秋田郡土崎の提灯屋、
大館の曲げ物技術習得、雑貨商経営/郷里の郡方出仕、秋田蔵元勘定役、
郷土史家；旧記書写、善光寺大谷絵伝の書写/天王祭式録の制定/藩主の男鹿巡遊案内役、
1852「絹篩」、「男鹿絵巻」「永代要鑑記」「上京道中記」著、
[重孝(；名)の通称/法号]通称；平十郎、法号；至誠院
- V2174 **茂標**(しげたか・高木たかぎ) ? - ? 江後期；歌人、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、大江戸倭歌集入の高木義標よしたか(1809-66)と同族？、
[我がものと思ひし門の山水やまみづは今宵も月のすみかなりけり](現存百人一首；14)
- N2136 **繁高**(しげたか・生島いくしま、通称；瑞穂/号；重賢) ?-1896 阿波徳島の三島神社祠堂、
「忌部社考略記」著
- Z2155 **重孝**(しげたか・中島なかじま、) 1825-1863 自刃 39 但馬養父郡の大庄屋、国学；足代弘訓門、
尊攘運動；但馬農兵を組織；1863(文久3)生野の変に参加；敗走中銃弾で負傷；自刃
[重孝(；名)の通称/号/変名]通称；才吉郎/信太郎(；幼称)/太郎兵衛、号；椿庵、
変名；石和太郎
- 02175 **栄孝**(しげたか・重村しげむら、旧姓；林) 1836-1908 73 豊前田川郡の国学者/学問；箕田直吉門、

神道・国学・歌;定村直孝(豊前京都郡津積つみ村八幡社祠官)門,大山為起の養子分
豊前京都みやこ郡下崎村の八幡神社の神職/国学者;「大学先生」と称さる、息子栄教も国学者、
神楽の普及に尽力;稗田の定村安太郎の神楽の師、

[栄孝(;)名)の通称]通称;八塩/大学

Z2163 **重威**(しげたか・西川にしかわ、)1848-190558 近江蒲生郡の国学者;西川吉輔門、
[重威(;)名)の通称/号]通称;甚五郎、号;槻園

茂喬(しげたか・平塚) → 飄斎(ひょうさい・平塚、幕臣/俳/狂詩) F 3 7 2 4
茂喬(しげたか・堀池) → 千座(ちくら・堀池ほりいけ、神職/国学/歌) N 2 8 4 7
茂高(しげたか・池田) → 慶行(よしゆき・池田いけだ、藩主/詩人) H 4 7 9 7
成孝(しげたか・荒尾) → 成章(しげあき・荒尾あらお、幕臣/奉行職) Q 2 1 4 8
重位(しげたか・東郷) → 重位(ちゅうい・東郷瀬戸口、藩士/兵法) H 2 8 1 8
重孝(しげたか・安藤) → 重博(しげひろ・安藤あんどう、藩主/連歌) S 2 1 4 4
重孝(しげたか・本阿弥/佐野) → 紹益(じょうえき・佐野/本阿弥、商家/歌) F 2 2 4 6
重孝(繁孝しげたか・北島) → 重孝(しげのり・北島きたじま、神職/国学) O 2 1 2 2
重孝(しげたか・黒沢) → 行業(ゆきなり・黒沢くろさわ、藩士/狂歌) G 4 6 8 0
重孝(しげたか・北田) → 重郷(しげさと・北田きただ、歌人) O 2 1 2 4
重孝(しげたか・三谷) → 八左衛門(はちざえもん・三谷みたに、茶業/歌) K 3 6 8 5
重高(しげたか・永原) → 松雲(しょううん・永原ながはら、武将/兵法/歌) V 2 2 1 4
重高(しげたか・梅川/藤原) → 夏北(かほく・梅川/奈良屋、銅版師) P 1 5 3 6
重高(しげたか・片野) → 磐村(いむら・片野かたの、藩士/国学者) K 1 1 1 3
重恭(しげたか・国友) → 一貫斎(いっかんさい・国友、砲術/蘭学) G 1 1 8 4
重隆(しげたか・富尾) → 似船(じせん、富尾とみお、俳人) E 2 1 4 0
重隆(しげたか・八島) → 為次(ためつぐ・八島やしま、藩士/剣術家) S 2 6 5 2
重隆(しげたか・広瀬/青木) → 鳳毛(ほうもう・青木あおき、藩儒者) C 3 9 6 0

C2131 **重武**(しげたけ) ? - ? 室町期:連歌、1449時述催;忍誓「広柏ひろがしわ千句」連衆

R2127 **重孟**(しげたけ・水野みずの、重良3男)1645-171672 紀伊和歌山藩家老の家の生/兄重上の養子、藩士、
藩主徳川頼宣より5千石を下賜;世子光貞に勤仕、将軍家綱・綱吉に拝謁、兄と合わず義絶、
藩主綱教の特旨で食禄保持、従五下隠岐守・対馬守・志摩守、画、1683「東照宮神君譜」著、
[重孟(;)名)の通称/号]通称;七之丞/縫殿い/縫殿之助、号;苞竹/大機居士/祖堂/風水

Z2102 **重武**(しげたけ・杉原すぎはら、旧姓;藤田)1664-173875 近江彦根藩士、国学者、
歌;[近江歌人伝;鶴]入、
[重武(;)名)の通称/号]通称;数馬、号;一志

R2128 **重威**(しげたけ・野村のむら、重徳男)1667-172458 金沢藩士;大小将組/1695大小将番頭/1702家督相続、
馬廻頭、詩歌/連歌/茶を嗜む、「新田永荒之調」、
[重威(;)名)の字/通称/号]字;孟固、通称;太郎三郎/勘兵衛、号;務敏/謀野亭

R2129 **重武**(しげたけ・鈴木すずき) ? - ? 江中期信州松本藩士;藩主水野忠幹・忠恒に出仕、
1724「信府統記」著

N2130 **重威**(しげたけ・池田いけだ、)1676-174974 近江日野の国学・神道;山崎敬義(闇斎)門
[重威(;)名)の通称/号]通称;庄治郎、号;道斎/盍敬翁こうけいおう

N2163 **重威**(しげたけ・小串おぐし、旧姓;大蔵)1746-182782 豊後杵築藩士、国学;平田篤胤門、
「比売嶋(姫島)考」著、
[重威(;)名)の通称]仙輔

N2147 **重威**(しげたけ・上田うえた、誓斎男)1780-181637 大坂の歌人;加藤景範門、諸芸に通ず、
歌・茶・香に長ず、
[重威(;)名)の別名/字/通称/号]別名;重陳、字;士固、通称;貞斎、号;養真、法名;誓威

N2185 **重威**(しげたけ・岡田おかだ、小島喜三兵衛2男)?-1812 江中期信濃飯田藩士;岡田文内の養嗣子、
江戸中小姓/御広間御番方/御側御用人、歌人;桃沢夢宅門/のち香川景樹門、
岩澤幸年・村澤徳風・瀧田義制・瀧田きく女・中山茂樹・鏑木雅直・島地初瀬らと交流、
[重威(;)名)の通称]与三治、法名;法誉明雪信士

- R2130 **重武**(しげたけ・渋谷しぶや) ? - ? 加賀金沢藩士、能/謡曲研究、
加賀藩年寄の村井長道ながみち[1796-1836]の命で、
1831佐久間寛台ひろもの謡曲注釈書「謡言粗志訂」の補訂作業(河合良温・勝木元直と)
- R2131 **重武**(しげたけ・近藤こんどう/本姓;藤原、内舎人重僖の養子)1808-72 廷臣;1822内舎人、
主殿少允・左兵衛権大尉兼任、1832正六下/少監物/40東宮侍者、
「近藤重武聴話記」「近藤重武禁中奉仕雑記」著
- N2192 **重威**(しげたけ・池松いけまつ、初名;純甫)?-1870 筑後久留米の医者;典医/
国学/歌;豊前小倉新田藩士西田直養なかい門
- R2132 **重武**(しげたけ・三宅みやげ、竹尾正寛5男)1839?-73?35? 三河額田郡舞木山中八幡社神主家の生、神職、
猿投社総検校家三宅家の養子/三河岡崎住、1858-59江戸に滞在;江戸の情勢を郷里に報告、
竹尾正胤の弟、「赤心則」著、
[重武(;名)の通称] 国三郎/邦之助/豊前
- R2133 **重武**(しげたけ・上野うえの/本姓;荒木田)?-? 江後期伊勢の神職/正六位/国学者、
1863-68「参勤並諸用記」著、
[重武(;名)の通称] 右衛門うえもん/えもん
重武(しげたけ・堀田/本田)→ 一継(かづつぐ・堀田ほつた/本田/本多、武将/旗本) V 1 5 6 4
- R2134 **重忠**(しげただ・酒井さかい、西尾城主酒井正親2男)1549-161769 母;石川清兼女、三河坂井郷の武将、
1576家督嗣;三河西尾城主/従五下河内守、徳川家康に出仕;武蔵川越藩主、
文禄役に江戸留守居、1601上州厩橋藩主、「関原記」著、
[重忠(;名)の通称/法号]通称;与四郎、法号;源英傑叟竜海院
- Z2173 **恵忠**(しげただ・林はやし、)1724-178865 信濃伊那郡の農業/歌人;澄月・桃沢夢宅門、
妻;平沢柳子りゅうし(1728-97;同門歌人)、恵信しげのぶ・飯島為仙ためり(名主/歌人)の父、
[恵忠(;名)の通称/号]通称;恵平/孫作、号;菊雅
妻 → 柳子(りゅうし・林はやし/平沢、歌人) M 4 9 2 4
長男 → 恵信(しげのぶ・林、歌人/妻は夢宅女ひさ) Z 2 1 7 4
次男 → 為仙(ためり・飯島いじま、名主/歌人) H 2 6 3 3
- R2135 **重尹**(しげただ・大原おおはら、重慶男/本姓;源)1757-180549 母;菅原在秀女、廷臣;1785従三位、
1800参議、従二位/1805権中納言;没、1792-1800「達記」著、法号;知分院
- 02103 **栄忠**(しげただ・ひでただ・勝部かつべ、)1796-1886長寿91 出雲出雲郡坂田村大庄屋(豪農)、朝矩ともりの孫、
歌;吉田芳章・有栖川熾仁・神白朝興門/二条派歌人、禅;風外門/茶;湖側庵門、書画に通ず
下郡役主座/訓導職、松江藩の新川開発事業で頭取、景濱かげはまの父、
明治初期;松江城天守閣民間払下げに旧藩士高城権八と落札額を献納;天守閣解体を防止
[栄忠(;名)の別号/通称/号]別号;興雅おきまさ、通称;本右衛門(代々の称)、号;乃和だいわ庵
- N2143 **成忠**(しげただ・今井いまい、)1794-187582 信濃善光寺代官、国学者;本居春庭門、
[成忠(;名)の通称/号]通称;豊吉/貢/磯右衛門/掃部かもん、号;錦江/楽庵
- N2186 **重忠**(しげただ・鴨かも、田窪峰忠男)1789-185567 伊予越智郡朝倉村神職家の生/1807鴨家の養子;
小松の高鴨神社14代神主、国学;篤山門、歌人;芝山持豊門/師没後;1822飛鳥井雅光門、
日記「高鴨神社御日次帳」/歌集「碧山鶯詠艸集」「杉乃屋詠艸集」「詠草」著、
紀行「上京旅中日記」「神路山紀行」「都路紀行」著、沼崎為子(誠則の妻/歌人)の兄、
[伊予の海や見る目も晴れていさぎよく船こぎ出づる今日のうれしさ]
[重忠(;名)の号]号;杉の屋/碧山堂
- 02150 **成忠**(しげただ・佐々木ささき、旧姓;木下)1844-191875 信濃伊那郡富章村の戸長、国学者、神官、
[成忠(;名)の通称] 嘉六/平蔵
重忠(しげただ・小川/古筆)→ 了周(りょうしゅう・古筆こひつ;4世/平沢/小川、古筆鑑定) L 4 9 9 4
茂質(しげただ・大槻おおつき)→ 玄沢(げんたく・大槻おおつき/平、藩医/歌) 1 8 2 4
重丈(しげたけ) → 重丈(じゅうじょう、俳人) H 2 1 6 9
成忠(しげただ・丹波) → 成忠(なりただ・丹波、歌人) H 3 2 5 5
茂竜(しげたつ・真野) → 頼恭(よりたか・真野まの、藩士/儒/狂歌) I 4 7 9 1
重建/重達(しげたつ・大森)→ 杖信(じょうしん・大森おおもり、茶道家) K 2 2 0 6
- Z2135 **重楯**(しげたて・竹志田たけしだ、)1843-1863早世29 肥後玉名郡大浜外島の住吉神社祠官、

- 国学;林有通門/尊攘思想を学ぶ、1863(文久3)8月天誅組挙兵に参加;転戦敗北;
十津川郷へ退去、1863・9月2日生来病弱で十津川風屋で病没、
[重楯(;名)の通称/変名]通称;熊雄、変名;真鍋寿七郎
- C2133 **重胤**(しげたね・東とう、法名;覚然、胤頼[法阿]男/本姓;平)?-1244 武家;兵衛尉、源頼家・実朝に出仕、
歌人、内藤知親らと歌合、胤行(素暹そせん)の父/行氏(勅撰歌人)の祖父
- C2134 **成種**(しげたね/しげかず・大江)? - ? 南北期二条家の諸大夫/民部少輔、
連歌作者、良基連歌会参加、1355文和千句参(名;成で6句入)、菟玖波集13句入、
[月あればふらぬも雪の雲間かな](菟;発句2147/関白良基家千句)、
[月に散る花の山風よる吹きて](菟;春138/関白家百韻連歌、
前句;別れの春はおもかげの夢)
- R2136 **重胤**(しげたね・大沢おおさわ)1447-1472**早世26歳** 大沢久守の一族/山科家の雑掌、
1467応仁乱に久守を助け奔走、山科家知行の件で近江坂本に赴き没、
「山科家礼記(山礼記)」(;応仁二1468と文明二・三1470・71の日記を執筆)、
[重胤(;名)の通称/法号]通称;次郎兵衛尉、法号;昌妙
- Z2189 **重種**(しげたね・三原みはら、種行長男)1568-1624**57** 薩摩藩士;1612(慶長17)頃家老、和学者
[重種(;名)の通称/号]通称;諸右衛門、号;備中守
- C2135 **示植**(しげたね・稲田いなだ、植元男)1577-1650**74** 安桃江前期の武将;蜂須賀家の家臣、
小田原攻に初陣/1592-97文禄慶長役に父と出陣;南原城戦で戦功、1614-15大阪陣で活躍、
阿波徳島藩筆頭家老;淡路由良の城代/のち洲本本城代2代当主、植次・植徳の父、
三回忌に田中久次きゅうじが追善集「十寸鏡ますかがみ」編(1652刊)
[示植(;名)の幼名/通称]幼名;小八郎、通称;太郎左衛門/修理亮しゅりのすけ
- R2137 **重種**(しげたね・立花たちばな/賜姓黒田、立花増重2男)1624-1702**79** 母;小河勘左衛門女、筑前福岡藩士、
1638家督継嗣/2百石、藩主黒田光之の寵を受け加増/1648家老;3千2百50石/黒田姓を賜る、
1677禄は1万5百石余、1685致仕、「自得亭記」著、実山の父、
[重種(;名)の通称/法号]通称;平六/平左衛門、法号;不慥斎平山日照大居士
- Z2161 **重種**(しげたね・永田ながた、)1645-1698**54** 江戸の幕臣;御目付、和学、永田重昌の一族、
[重種(;名)の通称]彦兵衛/半十郎/弥左衛門
- C2136 **重員**(しげたね・山田やまだ) ? - ? 江前中期豊前中津の狂歌作者、
1721村田契友編「甚久法師狂歌集」の編集に参加;甚久の狂歌を書留め甚久没後刊
- R2138 **重胤**(しげたね・鯨岡くじらおか)? - ?**文政1818-30頃没** 秋田の詩人、「嚶鳴集」著、
[重胤(;名)の字/通称/号]字;子卯、通称;兵四郎/文右衛門、号;桃塙/臥雲亭
- N2158 **繁胤**(しげたね・小川おがわ、繁樹男)?-1840 駿河府中の商家;日野屋(先祖は飛脚問屋)、国学者、
[繁胤(;名)の通称] 休右衛門
- R2139 **重種**(しげたね・原田はらだ、重継の長男)1795-1869**75** 豊前田川郡夏吉村若宮八幡宮の祠官、
儒;川江玄洲門/1823上京;飛鳥井家で有職故実を修学/26江戸で国学;和漢学修学、
1839帰郷;八幡宮宮司を継嗣、門弟多数を教育、重方(;勤王家)の兄、
復古神道の立場から沼田順義「級長戸風」に反論、「伽倍志廻風」「国要考」「言霊の弁」、
「大祓真意」「神伝豊之正言」著、
[重種(;名)の字/号]字;天祐、号;柿廼舎かきのや
- 2112 **重胤**(しげたね・鈴木すずき/本姓;穂積・源、穂積重威しげたけ男)1812-63**暗殺52** 淡路津名郡仁井村出身、
1825父と死別/大阪の鴻池家などに住込修業/国学・1834大国隆正門/1839大阪で開塾、
1843篤胤没後門/のち篤胤批判;平田家と絶交、1844江戸住;著述/出羽庄内等各地で講説、
門人育成;大滝光憲・平野国臣・藤本鉄石・大橋訥庵・五十嵐正之・桂誉重たかじげらの師、歌人、
郷里に巖櫃神社創建、志士との交遊/江戸本所小梅の自宅で暗殺、重兼の父、光胤の養父、
1843「近世名家歌集類題」44「大祓詞講義」46「和歌うひまなひ」48「経緯歌」50「世継草」著、
1851「巖櫃本大人四十賀歌」60「詞の塵芥」著、
「鈴木重胤家集」「巖櫃本私記」「万葉集一家言」「閑窓独語」「延喜式祝詞講義」外著多数、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[月に吹く夜半はの秋風声やみて軒端の荻は音づれもなし](大江戸倭;秋739)、
[重胤(;名)の通称/号]通称;雄一郎(;幼名)/勝左衛門/府生、

号; 樞廼舎かしのや/ 巖樞下/ 巖樞本いつかしがもと/ 眼玉/ 桂洲/ 楽浪/ 暴虎鬼/ 般若/
小梅/ 二本木田/ 法敵外道

- R2140 **重胤**(しげたね・庭田にわた/ 本姓; 源、重基男) 1821-7353 廷臣; 1853参議/ 従三位、1858日米条約に反対、
1862権中納言/ 議奏加勢・国事御用掛/ 1863尊攘派失脚により議奏格/ 1865正二位、
1867権大納言、維新後; 海軍参謀、「庭田重胤職事備忘」「庭田重胤修理職奉行雑記」、
1852「賀茂祭使備忘」58「石清水放生会参向参議要」67「庭田嗣子凶事留」外記録多数
- a2101 **重胤**(しげたね・山本やまもと/ 本姓; 賀茂、) 1826-7348 京の官人; 曼殊院諸大夫、従五下、国学者、
[重胤(; 名) の字/ 通称/ 号] 字; 益夫、通称; 三河守/ 近江守/ 駿河守、号; 台岬/ 臥虎
- 成胤(しげたね・祝部) → 成胤(なりたね・祝部はふりべ、神職/ 歌人) H 3 2 5 7
成種(しげたね・寺村) → 成範(しげのり・寺村、藩士/ 国学) S 2 1 1 9
茂胤(しげたね・土生) → 玄昌(げんしょう・土生はぶ、眼科医) J 1 8 9 8
重種(しげたね・板倉) → 重道(しげみち・板倉いたくら、藩主/ 詩) S 2 1 7 7
重胤(しげたね・江村) → 老泉(ろうせん・江村えむら、藩士) 5 2 3 4
重胤(しげたね・津田) → 宋路(そうろ・津田つだ、印刻業/ 俳人) K 2 5 6 1
重胤(しげたね・湊) → 長安(ちやうあん・湊みなと、蘭医) H 2 8 1 4
重胤(しげたね・島) → 重養(しげかい・島しま、神職/ 国学/ 歌人) O 2 1 8 0
- R2141 **重民**(しげたみ・山さん) ? - ? 安桃期天正1573-92頃の播磨姫路総社(府中社)社家、
祝代として奉幣を掌る/ 神職十六家中五代氏に次ぐ重席、1579市之郷農頭阿倍氏との争乱、
連座し社家領没収; 多可郡に退く、歌人、1574「府中社略記」授、
[重民(; 名) の通称] 新大夫
- 02176 **蕃民**(しげたみ・七里しちり) ? - ? 江中後期; 京の国学者; 本居宣長(1730-1801)門、
[蕃民(; 名) の通称/ 号] 通称; 次郎吉/ 市兵衛、号; 桜の屋
- 重民(しげたみ・浜田/ 那須) → 信吾(真吾しんご・那須/ 浜田、勤王派) O 2 2 2 8
繁民(しげたみ・野村) → 蛙水(あすい・野村のむら、藩侍医/ 歌人) I 1 0 2 6
- C2137 **成為**(しげたみ・三木みき) ? - ? 読本作者、
1775刊「坂東忠義伝」著(10巻46編/ 北尾重政画/ 1740高泰序/ 源之斎東隅付言)、
佐々木天元「日本水滸伝」(1776刊) とほぼ同内容
- Z2164 **重為**(しげたみ・野口のぐち、通称; 伊勢守) 1774-185178 山城久世郡の玉田神社38代宮司、
従五位下/ 伊勢守、「玉田大明神火難除・御霊験名馬火鎮由来」著
- C2138 **茂太夫**(しげたゆう/ もたゆう・陸奥みちのく/ むつのか) ?-? 大阪の浄瑠璃太夫: 竹本筑後掾[義太夫]門、
1685大坂道頓堀で初舞台/ 竹本座発足当時から師と舞台を勤める/ 1714師没後名古屋へ、
のち復帰、1722「仏御前前扇軍」の舞台が最後、
1737段物集「陸奥杣笥みちのくそまのやまびこ」編纂(; 師の25回忌追善)、
[陸奥茂太夫(; 名号) の別称/ 法号] 別称; 藤原浄慈、法号; 釈浄慶
- C2139 **繁太夫**(しげたゆう・宮古路みやこじ、豊美) ?-? 浄瑠璃太夫: 宮古路豊後掾門、1745独立; 繁太夫節の祖
- C2140 **繁太夫**(しげたゆう・富本とみもと) ?-? 江戸後期浄瑠璃太夫; 富本節語り、
旅日記「筆満可勢ふでまかせ」(1828-38) 著
- R2142 **茂太夫**(しげたゆう; 通称・真鍋まなべ、代々茂太夫を称す) ?-? 尾張名古屋藩士; 2百石、
「信濃国領内名所旧蹟」著
- 茂足(しげたり・堀) → 秀成(ひでなり・堀ほり、藩士/ 国学; 音韻) D 3 7 5 2
滋足(しげたり・安元) → 佐久美(さくみ・安元やすもと、国学者/ 歌) P 2 0 6 7
繁太郎(しげたろう・内堀) → 英長(ひでなが・内堀うちぼり、儒者/ 神道) D 3 7 4 5
繁太郎(しげたろう・安光) → 南里(なんり・安光やすみつ、庄屋/ 儒者) J 3 2 6 3
繁太郎(しげたろう・江木) → 鱈水(がくすい・江木えぎ、藩士/ 儒/ 兵学) E 1 5 7 3
繁太郎(しげたろう・中村) → 竹香斎(ちくこうさい・中村、藩士/ 詩文) C 2 8 9 9
繁太郎(しげたろう・津田) → 東巖(とうがん・津田、藩士/ 儒者) C 3 1 3 4
繁太郎(しげたろう・中村) → 不能斎(ふのうさい・中村、藩士/ 儒者) D 3 8 6 2
繁太郎(しげたろう・永井) → 正誉(まさしげ・永井ながい、歌人) R 4 0 2 1
- C2141 **志月庵素庭**(しげつあんそてい) ? - ? 狂歌、1785徳和歌後万載集3首(111/166/653)、
[そのぼんの位ちがふて三千年になるてふ桃の三年に咲く](後万載: 111)、

(仙女西王母が漢武帝に3千年に一度実る桃を献ず・いま桁違に桃栗三年で花が咲く)

- R2143 **重親**(しげちか・庭田にわた/本姓;源、中山宣親男) 1495-1533 39 母;光兼女or兼寿女、
庭田重経の養嗣子、戦国期廷臣;1521蔵人頭/24参議/従三位/28権中納言/30正三位、
1533春日社神楽参向途中急病没、1522「叙位次第」著、宮中の連歌会や和漢聯句会参加、
和漢聯句;1522鷲尾中納言等と/27万里小路中納言等と・前菅中納言等と
- C2142 **茂周**(しげちか・吉川よしかわ) 1753-1822 70歳 大和高取藩士;近習/御広間番人/御執次番、
騎馬隊長、経籍に精通/詩文・歌・俳諧を嗜む、山陵荒廃を歎き近畿の皇陵を探究、
弘賢「諸国風俗問状答」に「大和高取藩領風俗問状答書」執筆、「諸国風俗」著、
1797「河泉撰陵墓記」著、茂済の父、
[茂周(;名)の字/通称/号]字;士都、通称;覚兵衛、号;深茂亭、法号;覚性院
- N2177 **茂親**(しげちか・大野おおの、殿村茂済しげまさ男) 1825-1907 73 大坂の商家/国学者・歌人
- R2144 **重周**(しげちか・木村きむら、側用人木村重禄男) 1827-62 36 下総佐倉藩士、蘭学:堀達之助・東条栄庵門、
蘭学・兵学;杉田成卿・杉田玄瑞・佐久間象山門、砲術;兼松繁蔵門、1852家督嗣、藩兵制改革、
幕府天文台訳員を執務/1856蕃書調所出役教授手伝/藩主堀田正睦の外国事務総裁を補佐、
1854「砲術訓蒙」訳、「通俗雷除略説」「航海須知」「避焔屋建制略」「鼓方小言」著、
[重周(;名)の字/通称/号]字;士約、通称;軍太郎、号;知能軒、法号;千秀院
- Z2110 **重愛**(しげちか・鈴木すずき、) 1839-1913 75 三河碧海郡の国学者、
妻;村上忠順ただまさ2女小鈴すず(;国学者/歌人/1839-93 55歳)、
忠順編「類題和歌玉藻集」編纂に参加、
[重愛(;名)の初名/通称]初名;保、通称;保兵衛/安兵衛

重親(しげちか・西村)	→ 可玖(かきゅう・西村、俳人)	B 1 5 2 8
重周(しげちか・山口)	→ 巽斎(そんさい・山口やまぐち、藩儒)	F 2 5 4 0
重近(しげちか・金森)	→ 宗和(そうわ・金森かなもり/源、出家/茶人)	J 2 5 2 8
重哉(しげちか・小原)	→ 重哉(しげや・小原おはら、藩士/司法)	N 2 1 6 7
茂親(しげちか・高橋)	→ 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人)	I 1 5 6 4
士潔(しげつ・井坂)	→ 一清(かずきよ・井坂いさか、書家)	M 1 5 1 9
士杰(しげつ・市島)	→ 静修(せいしゅう・市島いちじま、商家/書・詩)	I 2 4 6 5
子傑(しげつ・原)	→ 脩斎(しゅうさい・原はら、儒者/詩人)	X 2 1 3 2
子絜(しげつ・山川)	→ 青山(せいざん・山川やまかわ、藩士/儒詩)	I 2 4 4 7
子潔(しげつ・三井)	→ 隆斎(りゅうさい・三井みつゐ、医者/儒詩)	E 4 9 0 5
子潔(しげつ・高橋)	→ 西山(せいざん・高橋たかはし、医者/歌人)	O 2 4 2 5

- R2145 **指月**(しげつ:道号・慧印えいん:法諱、俗姓;上杉) 1689-1764 76 武州男衾郡柴村の曹洞僧、
上州橋林寺の月泉嫩桂門;出家、武蔵成田竜淵寺の牧田春翁門/法嗣(or月峰快雲の法嗣)、
武蔵押切の西光寺・同小曾根の西光寺・川崎養光寺の三寺を開山;三光老人の称、
広く宗旨を宣揚;面山瑞方・天桂伝尊と並称;曹洞宗中興と称される、磐城根岸村西光寺没、
1733「未正語」35「禅戒篇」61「綱宗頌不能語」「坐禅用心記不能語」「金剛茶話」「橋場夢談」、
「法華示衆」「金剛茶話」「観古老人十二転語」「指月印禅語録」「指月禅師仮名法語」外著多数、
[指月慧印の通称/号]通称;三光老人、号;観古庵

- R2146 **指月**(しげつ・山田やまだ、名;俊祐、別号;四時庵) 1829-94 66 陸中一関藩士、維新後仙台に移住、
晩年は風雅に遊ぶ、「捕影記」編、「かみとらへ」編

似月(しげつ・米谷)	→ 金城(きんじょう・米谷こめたに、商家/漢学)	R 1 6 1 8
慈月(しげつ;号)	→ 周道(しゅうどう;法諱、本願寺派僧/書家)	Y 2 1 1 1
指月庵(しげつあん)	→ 東雄(とうゆう・指月庵、俳人)	S 3 1 6 4
指月庵(枝月庵しげつあん)	→ 宗朴(初代そうぼく・狩野かのう、茶人/鑑定)	K 2 5 8 7
枝月庵(しげつあん)	→ 宗朴(2代そうぼく・狩野かのう、茶人)	K 2 5 8 8
枝月庵(しげつあん)	→ 宗朴(3代そうぼく・狩野かのう、茶人/歌/俳)	K 2 5 8 9

- R2147 **重次**(しげつぐ・本多ほんだ、重正男) 1529-96 68 戦国安桃期三河の武将;徳川家康の功臣;
三河三奉行の1、性は勇猛・直情径行;[鬼作左]と称される、
1558松平清康に出仕以後広忠・家康3代に出仕、1563三河一向一揆鎮圧に功、
小田原攻めに戦功;豊臣秀吉の怒りを買って上総に3千石で蟄居、

のち塾居先が下総相馬郡井野に変更、妻；鳥居忠吉女、成重(のちの丸岡藩主)の父、
1575長篠戦の陣中からの妻宛の手紙「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」；
日本一短い手紙とされる(お仙はのちの丸岡藩主成重)、

[重次(；名)の幼名/通称]幼名；八蔵/作十郎、通称；作左衛門、鬼作左おさくど/鬼殿

M2133 **重次**(しげつぐ・野間のま、重久男) 1590-1638 49歳 尾張の生/幕臣；1610徳川家康の家臣/33致仕、
1613「稻富流鉄砲伝書」著

[重次(；名)の通称] 久三郎/喜左衛門

R2148 **重次**(しげつぐ・高瀬たかせ) ? - ? 江前期和算家；榎並和澄門、1657「商立因帰集」著

M2191 **重次**(しげつぐ・矢野やの) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、

[ちぎりきなかた目に物や入ぬらん](物種集/前句；末の松山ふつと吹く風、
契りきなかたみに袖を絞りつつ末の松山浪越さじとは)

R2149 **重次**(しげつぐ・鈴木すずき、通称；平三郎) ?-? 江前期大阪の和算家；島田・宅間流算学を修得、
1694「算法重宝記」、「広益塵劫記」著

R2150 **重次**(しげつぐ・森田もりた、通称；和泉守) ?-? 江前期兵法家；森田流の祖、「運氣之伝書」著

a2130 **重継**(しげつぐ・大関おおせき) ? - ? 江前期上方の歌人、

1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、

[聞きそむる山ほととぎす一こゑは猶またるべき初めなりけり](林葉累塵；夏260)

Z2160 **重継**(しげつぐ・永田ながた、重昌男) 1641-91 51 江戸の幕臣；大番/大坂住、和学者/歌人、

浅井忠能ただのり[難波捨草]2首入；歌合参加、

[ましらなく深山の嵐音さえて夕淋しき松の下庵いほ](難波捨草；雑717/山家嵐)、

[重継(；名)の通称]勝次郎/次郎左衛門

R2151 **成從**(しげつぐ・渡辺/渡部わたなべ) 1674-1741 68 岩代会津藩士/書家；藩主松平正容の右筆、
書；佐々木玄竜門；唐様を修得、山野宗俊門；尊円流書法を修得；和漢二様の書法に通ず、
「書法大概」「書法奥秘」「真行草書運筆法」著、成以しげもちの父、

[成從(；名)の通称/号]通称；多門、号；澄神堂/竜岳

C2143 **重嗣**(しげつぐ・庭田わた/本姓；源、重熙しげひろ男) 1757-1831 75 母；唐橋在廉女、廷臣；1776従三位、
1777参議/97権大納言/1820従一位/24落飾、重能の父、歌人；1793-95「庭田重嗣歌道日記」、

「作例和歌類題」編、1779-87「庭田重嗣日記」、「袖中竜笛抄」外著・記録多数、

[重嗣(；名)の法名/法号]法名；祐真、法号；宝珠院誠蓮社

C2144 **茂語**(しげつぐ・横田よこた/初姓；小野) 1749-1835 87 幕臣；和学講談所会頭/与力、歌；萩原宗固門、

塙保己一と同門；音読を担当；群書類従編纂幹部、歌；日野資枝すけ・外山光実門、

「占風園四時勝概画譜同四時絶句同四時和歌」著、

[茂語(；名)の通称/号] 通称；孫兵衛、号；袋翁/袋翁たいおう

R2153 **茂承**(しげつぐ・山崎やまざき/本姓；藤原) ?-? 江後期越中富山藩士/連歌に精通、

藩主前田利保・浅野光武と奉納連歌に連名；宗匠近藤光明の会の執筆、

1851「天満宮奉納詠歌」参加、[茂承(；名)の通称]継四郎

R2154 **重次**(しげつぐ/しげじ・柴井しばい) ?- ? 江後期武州葛飾の建築家、

1856「左官雛形」著(；1876勝村治右衛門ら開板)

Z2177 **茂承**(しげつぐ・平山ひらやま、通称；金庫) 1825-92 68 陸奥会津の国学者、歌人；絵師星暁ぎょう門

Z2100 **茂世**(しげつぐ・末永すえなが) 1837-1915 79 筑前福岡藩士、神道・国学；伊藤直江門、

歌人；山路重固・吉田穠ひつじ門、儒/歌；船曳磐主いわぬし(鉄門かねと)門、

維新後；権大属兼和歌引立掛/1885(明治18)宮崎宮宮司、

「筑前旧志略」著/家集「倭主礼草」著、

[茂世(；名)の別名/通称/号]別名；景賢、通称；茂一郎、

号；笛廬ふえのや/忘憂草園主人/橋長水清処/墨松/而樂じらく/鬼門

重次(しげつぐ・安藤) → 重博(しげひろ・安藤あんど、藩主/連歌) S 2 1 4 4

重次(しげつぐ・松本) → 重文(しげふみ・松本まつもと、藩士/儒者) S 2 1 5 3

重次(しげつぐ・雨宮) → 正次(まさつぐ・雨宮あめのみや、幕臣/国学) M 4 0 2 0

重次(しげつぐ・犬井/乾) → 貞恕(ていじよ・犬井/乾、俳人) 3 0 0 6

- 重嶺(しげつぐ・鈴木) → 重嶺(しげね・鈴木/小幡、幕臣/歌人) C 2 1 6 5
 茂遂(しげつぐ・窪田) → 梨溪(りけい・窪田くぼた、藩士/詩人) 4 9 9 1
 成従(しげつぐ・鈴木/溝口) → 千谷(せんこく・溝口/鈴木、書家) M 2 4 2 9
 爾月齋(しげつさい・滝口) → 美顔(よしみね・滝口たきぐち/紀、神職/歌人) H 4 7 5 4
- R2155 指月散人百泰(しげつさんじんひゃくたい、高木与兵衛)?-? 箏曲家、山登検校[1782-1864]の父、
 1809房吉「吾孀箏譜あがまことうた」(;山登検校の改訂増補版/[1824]跋文)
 指月舎(しげつしゃ) → 其成(きせい・菊舎きくや太兵衛、俳諧書肆) B 1 6 3 7
- C2145 重綱(しげつな・藤原ふじわら、重基男)?-1192 平安後期廷臣;従四上/少納言、讃岐入道頭綱の曾孫、
 歌:1186経房家歌合参、千載1050、
 [春霞絵島が崎をこめつれば波の懸かくとも見えぬ今朝かな](千載;雑1050)
- C2146 重綱(しげつな・藤原ふじわら/家名;安東)?-? 鎌倉期関東在住の武家、六位/左衛門尉、
 歌人;玉葉集奏覧後に前集の新後撰集に追加された(勅撰作者部類付載作者異議入)、
 勅撰8首;新後撰(390/776)続千(4首642/1566/1986/2082)続後拾(1074)新千(715)、
 続現葉集・臨永集・拾遺風体集入集、[重綱(;名)の通称] 安東左衛門尉、
 [ながめきてはては老とぞ成りにける月はあはれといはぬものゆゑ](新後撰;五390)
- R2156 重綱(しげつな・中原なかはら)?-? 南朝歌人、新葉集1193、
 [玉ひろふ数にもれなば老の浪哀あはれかひなき名をやながさん](新葉;雑歌1193)
- 02151 薫綱(しげつな・佐々木ささき)?-? 江後期;紀伊和歌山藩士;大御番持格、
 国学;本居内遠うちお(1792-1855)門、
 [薫綱(;名)の通称] 三郎兵衛
- C2148 重経(しげつね・高階たかしな、法名;了意、邦経くにつね男)1257-1311⁵⁵ 鎌倉期廷臣;遠江守/治部卿、
 宮内卿、従二位/1307大蔵卿、1311出家、
 歌人:1275家経「撰政家月十首歌合」参、1292巖島社頭和歌参加/1303嘉元百首参加、
 覚助法親王家五十首に参加、続門葉集・藤葉集入集、
 勅撰5首;新後撰(379/1015)玉葉(2020)続千載(669)新統古今(25)、泰経の兄/寛経の父
 [風わたる野辺の尾花の夕露にかげもとまらぬ袖の月かな](新後撰;五秋379)
- R2157 重経(しげつね・庭田にわた/本姓;源、雅行男)1465-1501³⁷ 廷臣;1492蔵人頭/96参議/97従三位、
 1501正三位、笛に長ず(楽臣類聚抄入)、連歌:新菟玖波集2句入、
 [重経(;名)の一字名/法号]一字名;真、法号;真経
- C2149 重常(しげつね・鱸すずき/鈴木)?-? 幕府役人;獄吏、歌語研究、
 1639歌語辞典「春雨抄」編(;林羅山序)
- M2104 重常(しげつね・加藤、通称;藤原長兵衛、講古堂主人)?-? 伊勢山田一志町書肆/1688-1704頃出版、
 神宮関係書物を執筆出版、養嗣子;重邑しげむら、1707「神宮参拝記」「伊勢参宮按内記」著
 参照 → 重邑(しげむら・藤原/加藤、神職/出版) S 2 1 8 7
- R2158 重経(しげつね・倉橋くらはし、家老上羽重一男)?-? 江前期肥後宇土藩士;12歳で藩主細川行孝の側近、
 江戸で武具掛を勤む;島原戦史に通ず、のち浪人;1693帰郷し隠棲、1703「有馬記」著
- R2159 重倫(しげつね・津田つた)?-? 江中期美作津山藩士;大番衆、松平長矩に出仕、
 郷土史家、1725「作州記」著、
 [重倫(;名)の通称]次郎左衛門/治部左衛門
- R2160 恵懐(しげつね・須貝)?-? 江後期天保1840-44頃庄内藩士、
 1840越後長岡転封騒動の折に郡方下役に加わるよう命ぜられる、「浜之真砂」著
- V2141 重恒(しげつね・山路やまち)1785- 1853^{69歳} 備後沼隈郡藤江村の庄屋岡本屋山路家の一族、
 岡本屋は先祖重直以来代々松永湾の網元/塩田経営、国学・歌;木下幸文門、
 [重恒(;名)の字/通称/号]字;士享、通称;源兵衛、号;抱海
- Z2140 茂恒(しげつね・武正たけまさ、峯越方男)1787-1865⁷⁹ 上野緑野郡の国学者;富田永世門、
 武蔵児玉郡住、峯下蔭の弟、
 [茂恒(;名)の通称] 仙右衛門
- Z2111 重庸(しげつね・鈴木すずき)1807- 1860⁵⁴ 三河設楽郡の商家/国学者、
 [重庸(;名)の通称] 禎助、屋号;鈴木屋
 重恒(しげつね・入間川/渋川) → 春水(しゅんすい・渋川/入間川、藩士/天文家) L 2 1 1 6

- 重恒(しげつね・林) → 文筋(ぶんせつ・林はやし、医者) F 3 8 9 7
 重経(しげつね・藤原) → 素意(そい、紀伊入道/廷臣/僧/歌人) 2 5 3 8
 重経(しげつね・小槻) → 季連(すえつら・小槻/壬生、廷臣/記録) B 2 3 8 7
 慈月房(じげつぼう) → 覚算(かくさん; 法諱、社僧/悉曇学者) J 1 5 8 8
- R2161 **林昱**(しげてる・木村きむら) 1797- 1858 62歳 石見津和野藩士、和算家; 河村十郎左衛門門、のち堀田仁助門、1814藩校養老館お算術稽古手伝/42稽古世話人/49関流算学世話人、「袖珍規矩」/1855「算法尖円豁通」校訂、桑本正明の師、
 [林昱(;)名)の通称/号]通称; 俊左衛門、号; 南堆(なんたい)
 重暉(しげてる・古田) → 策司(さくし、作治さくじ・古田ふるた、藩士/歌人) P 2 0 2 9
- R2162 **重任**(しげとう・六角ろっかく) ? - ? 1805迄に没 摂津西成郡加嶋村の医者; 吉益東洞門、のち大坂酒辺町に移住、1781「古方便覧」82「疾医新話」著、
 [重任(;)名)の字/通称]字; 毅夫、通称; 右門/主計(かずえ)
- Z2112 **重任**(しげとう・鈴木すずき、) 1837-86 50 紀伊田辺の国学者; 熊代繁里(しげさと(1818-76)門、
 [重任(;)名)の通称] 省吾/玄朴、田辺の医者鈴木泰平(玄朴; 熊代繁里門)の同族?
- 成任(しげとう・紀) → 成任(なりとう・紀) J 3 2 8 0
 成任(しげとう・祝部ほりべ) → 成任(なりとう・祝部、歌人) H 3 2 6 9
 茂任(しげとう・宮本) → 茂任(もにん・しげとう・宮本みやもと、藩士/漢学) L 4 4 6 1
 茂任(しげとう・本山) → 竜沢(りゅうたく・本山もとやま、藩士/神職) M 4 9 3 0
 重任(しげとう・鈴木) → 遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者) F 2 3 1 6
 重任(しげとう・木村) → 松陵(しょうりょう・木村、儒者/藩政) L 2 2 9 5
 重任(しげとう・渡辺) → 重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0
 重任(しげとう・竹内) → 経成(つねなり・竹内たけうち/葛城/日野、藩士/勤王) F 2 9 9 7
- 2113 **重遠**(しげとお・谷たに/大神おおが、谷重元3男) 1663-1718 56 土佐長岡郡岡豊八幡宮神職の家、土佐藩士、1679上京し儒を修学; 浅見綱斎・山崎闇斎門、1694江戸の渋川春海に書簡; 天文暦術を修学、神道; 荒木田(中川)経晃門/亀卜法; 度会(出口)延経門/暦道; 安倍(土御門)泰福門、藩主山内豊房の命で藩士に講義/南学を再興/国書・神典・律令格式・故実に通ず、歌人、1707家老深尾家の処罰に連座; 蟄居閉門/1717赦免、入江正雄・美代敦本の師、1689「神代初問」98「七曜御暦」1702「大神姓説」05「土佐国式社考」15「跋学否辨論」、「泰山集」「泰山随筆」「泰山録」「谷泰山日記」「塩土伝」「吾孀路記」「塩土伝」「東遊草」外著多、
 [重遠(;)名)の通称/号]通称; 小三次/丹三郎/桜井清八、号; 泰山(しんざん)、垣守の父
南学の系譜 → 梅軒(ばいけん・南村)参照、
闇斎学 → 崎門学派(きもんがかは)
- R2163 **重遠**(しげとお・植村うゑむら) ? - ? 江後期天保1830-44頃の信州上田の和算家; 竹内武信門、1832「勸学覧」「升高算梯」/38「球欠斜截解義」51「量軽重術」、「植村重遠算草」著/外編著多、
 [重遠(;)名)の通称/号]通称; 平兵衛、号; 孟山、長沼安定の師
- R2164 **重遠**(しげとお・岩井/巖井/岳井/祝い、五十嵐森左衛門一従男) 1804-78 75 上州碓氷郡剣崎村の人、和算家、安中藩士岩井友之丞の養嗣子、和算; 小野栄重門/江戸の白石長忠門; 円理を研究、1856藩命で桃溪書院を設立/1852五耕村に私立学校設立; のち自邸に移し岩井学校とす、「岩井任重解義三章」「岩井三題」、1824「弧背真術辨解」26「極数術」33「雑俎之解」著、1851「文武問答」編、「算法瑚璉解」「求積解」「球内四球解」「白湾亭算叢」「治民要論」外著多、
 [重遠(;)名)の別号/字/通称/号]後名; 任重(ただいげ)、字; 致卿、通称; 右内/左之丞/泉、号; 白湾/湛々
- P2150 **重遠**(しげとお・力石ちからい/本姓; 藤原、通称; 勝之助) 1815-79 65 幕臣; 御歌所の歌道御用掛、歌人; 小林歌城門、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
 [明けぼのの春の匂ひはいづれぞや柳はくらく花はさやけし](大江戸倭歌; 191/春曙)、
 [幾千さと隔つる国の鳥ならん囀る声の聞きもわかれず](同; 雑1966、初て亜米利加人を見て)、
 [友もがなとへかし春の雨の夜に柳さくらの品定めせむ](現存百人一首; 96)
- 重遠(しげとお・大塚) → 桐華(とうか・大塚おおつか、儒者/暦算/詩) B 3 1 6 6
 重遠(しげとお・篠岡) → 謙堂(けんどう・篠岡ささおか、儒者) E 1 8 9 7

- 重遠(しげとお・山口) → 履斎(りさい・山口やまくち、藩士/儒者) B 4 9 0 7
 重遠(しげとお・浅井) → 琳庵(りんあん・浅井あさい、藩儒者) J 4 9 9 7
 重遠(しげとお・鈴木) → 松達(しょうたつ・鈴木すずき、藩侍医) K 2 2 7 9
 重遠(しげとお・小山) → 春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者) J 2 1 7 8
 重遠(しげとお・伊藤) → 蘭溪(らんけい・伊藤いとう、儒者) B 4 8 9 0
 重遠(しげとお・加島) → 一(はじめ・加島かしま、国学者) J 3 6 8 7
 重遠(しげとお・木下) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6
 重遠(しげとお・室田) → 市郎兵衛(いちろうべえ・室田むろた、藩士/国学) K 1 1 7 2
 重遠(しげとお・柳田) → 勝太郎(かつたろう・柳田やなぎだ、藩士/歌) W 1 5 0 7
 成遠(しげとお・清野/石沢) → 浚平(じゅんぺい・石沢/清野、藩儒) L 2 1 8 4
 C2150 繁時(しげとき・藤原ふじわら、弘蔭男)?-943 母;藤原高経女の房子、平安前期廷臣;正五下、
 備前守/伊予守/大学頭/日向守/肥後守/筑前守/従四下、歌人伊勢の母方の従兄
 C2151 重時(しげとき・北条ほうじょう/本姓;平、義時3男) 1198-126164 母;比企朝宗女、鎌倉幕臣;
 六波羅探題(北方)、1247鎌倉幕府執権連署、従四上/駿河守/陸奥守、
 京の時代の重時の動向が明月記に入、1256出家、
 「平重時家訓」「六波羅殿御家家訓」著、泰時・朝時の弟、政村兄、長時・時茂・義政・忠時の父、
 歌人;秋風・雲葉・拾遺風体集・東撰六帖入集、
 勅撰16首;新勅撰(701/1048)続後撰(352/400/722)続古(371/570)続拾(92/1132)玉葉以下、
 [こがれゆく思ひを消たぬ涙川いかなる波の袖ぬらすらむ](新勅撰;恋701)、
 [重時(:名)の通称/法名]通称;相模三郎/陸奥三郎/極楽寺殿、法名;観覚
 C2152 茂時(しげとき・高嶋たかしま) ? - ? 肥前長崎の俳人、
 1678葎宿編「四人法師よにんほうし」に元順による茂時追善独吟百韻がある
 Z2170 重辰(しげとき・花木はなき、重信男) 1739-7133 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
 [重辰(:名)の初名/通称]初名;重吉、通称;銘四郎/伝蔵(父の称)
 02131 重時(しげとき・蔵田くらた/本姓;藤原、茂樹長男) 1828-8659 佐渡相川の地役人の家の生、
 歌人;前田夏蔭・鈴木重嶺門、松原御中(三中)の兄、堯光たかみつの父、
 [春の夜の月朧々と照るつきを花の影ふむ庭に見るかな](庭春月)、
 [重時(:名)の別名/通称/号]別名;茂時/懋時しげとき、通称;太作、号;梓化園しかえん
 茂時(懋時しげとき・蔵田) → 重時(しげとき・蔵田くらた/藤原、役人/歌) O 2 1 3 1
 茂時(しげとき・吉田) → 茂貞(しげさだ・吉田よしだ、藩士/弓術家) R 2 1 0 0
 茂時(しげとき・正玄しょうげん) → 曙覧(あけみ・橘たちなば/正玄、商人/歌人) 1 0 1 4
 茂先(しげとき・斎田) → 茂先(しげゆき・斎田さいだ、藩士/地誌家) T 2 1 0 5
 重時(しげとき・鈴木) → 金谷(きんこく・鈴木すずき、藩士/蘭学者) Q 1 6 9 4
 重時(しげとき・神保) → 長賢(ながかた・神保じんぼう、幕臣/国学) N 3 2 4 4
 重時(しげとき・大脇) → 未徹(みてつ・大脇おおわき、藩代官家臣) F 4 1 3 2
 C2153 重俊(しげとし・脇坂わきさか、通称;与三右衛門尉)?-? 江前期;尾張熱田の俳人、
 1636「熱田万句」(初度)を勸進;37奉納(頭人は守部清正/巻頭発句は大宮司千秋季好)
 a2129 重俊(しげとし・井筒いづつ) ? - ? 江前期;上方の歌人、
 1670下河辺長流[林葉累塵集]6首入、
 [月影を遅しとまてば足疾あしびきの山のあなたもをしか鳴くなり](林葉累塵;秋472)
 R2165 重利(しげとし・宮本みやもと) ? - ? 江前期筑前福岡藩士/航海・軍学を修得、
 大坂より長崎まで数回航海、吉田重昌・勝野清中と海路紀行等を藩主に献上、
 1704「江海風帆草」編
 a2169 重年(しげとし・古郡ふるごおり、重政男/重高の孫) 1626-8661 幕臣/旗本;廩米100俵、祖父以来駿河代官、
 急流富士川の治水に祖父重高は堤防突堤を建設/父重政は遊水地を築堤、
 父を継いだ重年は黄檗僧鉄牛に治水技術を学び逆L字型堤防を築造;通称;雁堤かりがねづみ、
 歌人;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
 [契らずよほの見しまゝに朽ち残る蘆の下根したねのたゞひと夜とは]、
 (若むらさき;144/逢不逢恋あうてあはざるこひ/根と寝を掛る)、

[重年(；名)の法号] 道賢

2114 **重年**(しげとし・小国おぐに/本姓;鈴木/清原)1766-1819⁵⁴ 遠江周智郡宮代村の小国神社神主、
国学・歌;1782内山真竜門/89本居宣長門、栗田土満門、1792家職継嗣、歌人、
1801「長歌詞之珠衣ながうたことばのたまぎぬ」06「六国史皇統記」、「学草千々の故よし」、
「斎火疑問要辨」「日本書紀系譜考」著、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;4首入、
[石上布留野の茅原浅茅あさち原分けつつ妹が若菜摘むらむ](八十浦;429若菜)、
[重年(；名)の別名/通称/号]別名;千代ノ進(初名)/秀穂、

通称;豊前/越前/雅楽うた/弾正、清原直人/鈴木豊前、号;稲室の舎

a2113 **重敏**(しげとし・渡瀬わたせ、通称;兵右衛門)?-1828 江中後期;筑後久留米藩士、国学者

Z2128 **茂敏**(しげとし・高田たかだ、)1795-1862⁶⁸ 近江栗太郡の材木商、歌人、
歌;[鴉のうみ]入、

[茂敏(；名)の通称]小太郎/真太郎/儀助/精一

U2104 **重敏**(しげとし・山路やまぢ・岡本屋、重好男)1797-1823^{早世}27 備後沼隈郡藤江村の庄屋、
先祖の重直以来代々松永湾の網元/塩田経営、国学・歌;木下幸文門

[重敏(；名)の通称]通称;右衛門七、屋号;岡本屋

Z2121 **蕃利**(しげとし・鈴木すずき、)1810-1883⁷⁴ 讃岐高松藩士;参政、国学者

[蕃利(；名)の通称]直八/直弥

02140 **重年**(しげとし・小林こばやし/本姓;藤原、)1836-1910⁷⁵ 信濃小諸の鹿島大明神の神主、
国学;平田鉄胤、

[重年(；名)の通称] 弟二郎/市正

R2166 **茂利**(しげとし・大藪おおやぶ) ? - ? 江後期天保1830-44頃の筑後柳河の和算家、
長谷川弘・宮本重一門、1842「算盤指南」編、「所懸于肥前国領敷山神社算題九条解」編、

[茂利(；名)の通称/号]通称;俵助、号;紫山

成俊(しげとし・藤原) → 基範(もとのり・藤原、歌人) D 4 4 7 7

茂利(しげとし・斎田) → 茂先(しげゆき・斎田さいだ、藩士/地誌家) T 2 1 0 5

茂俊(しげとし・北小路) → 俊包(としかね・北小路きたのこうじ、廷臣/日記) M 3 1 2 9

茂俊(しげとし・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8

茂稔(しげとし・田内) → 衛吉(恵吉えきち・田内、剣術家) D 1 3 6 7

茂肅(しげとし・毛内) → 宜応(ぎおう・毛内もうない、藩士/農政) V 1 6 4 6

重俊(しげとし・観世) → 元信(もとのぶ・観世かんぜ、小鼓方宗家5世) D 4 4 6 9

重俊(しげとし・岡) → 清兵衛(せいべえ・岡おか、浄瑠璃作者) 2 4 1 3

重俊(しげとし・西村) → 重俊(じゅうしゅん・西村にしむら、俳人) H 2 1 6 2

重利(しげとし・沼崎) → 誠則(のぶのり・沼崎ぬまさき/串部、神職/歌) H 3 5 8 1

重敏(しげとし・横田) → 莠(はぐさ・横田よこた、藩士/儒者/教育) K 3 6 9 5

重稔(しげとし・島) → 多豆夫(たずお・島しま/出雲、神職/国学) X 2 6 4 9

重稔(しげとし・山田) → 常山(じょうざん・山田やまだ、藩奉行/国学) V 2 2 4 1

R2167 **重富**(しげとみ・荻野おぎの/初姓;鍋田)1578-1652⁷⁵ 尾張の人/石川康通に出仕/関ヶ原戦に出陣、
のち備後福山藩士;鞆奉行/福山総奉行、京から俳人立圃を招聘し福山文芸の基礎を築く、
1640-41「行水の記」1641「鞆記」著(立圃跋文)、「鞆浦さすらひの記」「立圃重富五十韻」著、
[重富(；名)の通称] 新右衛門

R2168 **重富**(しげとみ・長野ながの、通称;只四郎、重政男)?-? 江前期名古屋藩士;1696書院番/側右筆、
藩腰物奉行/1727免職/馬廻、「三種神器伝講義」「六根清浄大祓口義」

R2169 **茂富**(しげとみ・太田おた、通称;源兵衛)?-? 江戸中期紀州歌人;上冷泉為久門、「百首和歌」著
茂弘と同族? → 道知(道智みちとも・太田/池上、藩士/歌) H 4 1 4 6

R2170 **重富**(しげとみ・一宮いちのみや)?- ? 江戸中期上州榛名神社社家般若坊の主人;神職、
「御鎮座記」著

R2171 **重富**(しげとみ・間はさま、羽間重光6男)1756-1816⁶¹ 大阪長堀富田屋橋の質商;長兄達が相次夭逝;
1771(16歳)家督嗣、1774羽間はさまを間に改姓/家業の傍ら算学を修得/天文学;麻田剛立門、
師とケプラー楕円軌道論研究、1795幕府の暦作御用に就任/江戸で寛政改暦に参画;
中心的役割を果す、1802幕命で日月食観測のため長崎赴任;辺海里程をも測量、

さらに観測機器の改良・新製に尽力、
1798「天地二球用法記評説」1801「算法弧矢索隠家秘」1805-6「ラランテ稿」09「針石惑門採要」、
「寛政暦用数」「円理私説」「オクタント原理」「ラランテ暦書訳述」「重富随筆」外著多数、
[重富(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；孫六郎、字；大業、通称；十一屋五郎兵衛(七代)、
号；長涯/耕雲主人、法号；宗雪大居士、重新じゅうしん/しげしの父、

- R2172 **繁富**(しげとみ・森内もりうち、繁長長男)1758-1833 76 陸奥津軽藩士/漢学・和算に通ず、1798勘定奉行、
同役不和により罷免/1802表書院番組頭/1803藩士待遇改善を江戸の藩主に直訴；
中津軽の川原平村に塾居を命ぜられる；その地で住民に教授/著作活動、1809赦免、
「窮居余論」「貞享規範録」「東園雑談」「復政談」著、
[繁富(；名)の通称] 左門/左兵衛
- R2173 **成富**(しげとみ・大村/大邸おおむら)?-? 江後期寛政-文化1789-1818頃江戸の古銭研究者、
狩谷椽斎・久野克寛・朽木昌綱らと研究、1796-99「弄銭奇鑑」、1807「錢幣考遺図象」、
180714-15「対泉譜」17「珍銭奇品図録」、「孔方図鑑」「宝貨漫文抄」著、
[成富(；名)の号] 竜湖/載陽
- 02161 **茂富**(しげとみ・坂田さかた、通称；治右衛門)?-1835 近江日野の国学者/歌人；島崎春景門
- S2113 **重徳**(しげとみ/しげのり・大原おおはら、重尹しげただ男/本姓；源)1801-79 79 大原重成養子、廷臣；1831従三位、
孝明天皇び出仕/安政1854-60以後公武の間に奔走/62勅使；幕府に攘夷勅旨を承認させる、
その功により左衛門督に任官/1863塾居を命ぜられ出家/64還俗/67参議/68従二位、
権中納言；明治新政に功績大/1869議定職/集議院上局長官/没後正二位追贈、
1820-30「賀茂祭舞人並陪従日記」62「孝明天皇勅諭」、「内侍所仮殿渡御供奉日記」著、
[重徳(；名)の幼名/字/号]幼名；常丸/常麿、字；徳義、号；益壯、法号；不磷/不薄
- N2116 **重富**(しげとみ・明石あかし、通称；山城/石見)?-? 江後期幕末頃；陸奥岩代信夫郡の黒沼神社社祠、
1876「記録書上控」著(；黒沼神社由緒記)
- 02120 **重富**(しげとみ・喜多村きたむら、)1812-1895 84 但馬養父郡の中瀬村神主、
国学/歌；小谷古蔭ひさかげ門
- R2174 **重朝**(しげとも・平たいら、小山田有重男?)?-? 南北期連歌；菟玖波集1句入、
有重男とすると通称；秩父榛谷四郎・法名；諦悟、
[真木も檜原も皆雪のかげ](菟玖波；雑連歌1202/前句；山深き道や夕にまよふらむ)
- R2175 **重朝**(しげとも・菊池きくち、為邦の長男)1449-93 45 肥後の武将；1466肥後国守護/隈部城主；従四下、
儒学/詩歌に通ず；聯句に長ず、1476藤崎八幡で一千句連歌興行/76南禅寺桂庵玄樹を招聘、
聖堂を建設；1477積奠を举行、1481文明十三年八月日隈府一日一万句連句を興行、
[重朝(；名)の幼名/法号]幼名；藤菊丸、法号；智頭院
- M2196 **重供**(しげとも・望月もちづき)?-? 江前期京の俳人、
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[武蔵野はたゞ広袖の尾花哉](手鑑/ただ広い)
- 02168 **重供**(しげとも・志水しみず、号；随応)1660-1714 55 肥後熊本の国学者/歌人・俳諧；北村季吟門
- Q2198 **重知**(しげとも・西尾にしお/本姓；源、通称；小左衛門)?-? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[霞立ちこち吹きおくる梅が香にさそはれいでよ谷の鶯](大江戸倭歌；春82/待鶯)
- 02163 **盛倫**(しげとも・杉すぎ、通称；彦之進)?-? 文政1818-30頃没 長門萩藩士；大組の士、国学者、
養嗣子；植木孫七郎
- a2104 **重智**(しげとも・山本やまもと、通称；物次郎)1802-67 66 肥前長崎の役所附司触頭(地役人)、
国学者/歌人、檀園社中?、歌；中島広足編[瓊浦集]入
- N2169 **重伴**(しげとも・尾古おこ/本姓；鈴木、)1814-85 72 周防防府の神職/防府天満宮祠官、
松崎神社祠官/中講義、国学；鈴木直道門、五十君夷守ひなりの師、重直の父、
[重伴(；名)の通称/号]通称；主計かづえ、号；竹垣内
- 02147 **重与**(しげとも・原はら、旧姓；井原)1827-1915 89 信濃伊那郡の国学/歌人、原梅子(?-1885)の兄、
[重与(；名)の通称/号]通称；九右衛門、号；武栗/柊の舎ひらぎのや
- N2165 **重友**(しげとも・小国おぐに/本姓；鈴木、)1835-90 66 遠江周智郡宮代村の小国神社神主、
国学・歌；石川依平よりひら門、「万葉集序歌抄」著、母は小国重年の姪、

[重友(；名)の通称]浪江/功/千代之進

- Z2113 **重兼**(しげとも・鈴木すずき、重胤男) 1846-64天逝19歳 母；寿美(二宮家)、
江戸の国学者；大滝光憲みつあきら・照井長柄ながら門、長柄は父重胤の冤罪を雪ぐため尽力、
父は江戸本所小梅の自宅で1863(文久3)暗殺される/翌1864(元治元)重兼没、

[重兼(；名)の通称] 武蔵

成朝(しげとも・高階) → 成朝(なりとも・高階、歌人) H 3 2 7 7
茂算(しげとも・竹尾) → 茂算(しげかず/しげとも・竹尾、国学) C 2 1 0 1
茂伴(しげとも・伊達) → 氏伴(うじとも・伊達だて、国学者) E 1 2 7 4
重知(しげとも・荻野/稲次) → 宗雄(むねお・稲次/荻野、武将/藩家老) B 4 2 0 9
重知(しげとも・板倉) → 重寛(しげひろ・板倉いたくら、藩主/国学) N 2 1 3 7
重智(しげとも・黒沢) → 眞臣(まおみ・黒沢くろさわ、藩士/国学/歌) P 4 0 5 1
重具(しげとも・庭田) → 重通(しげみち・庭田/源、大納言/歌人) 2 1 1 6
重具(しげとも・安井) → 敬忠(たかただ・安井やすい、神職/国学) M 2 6 1 9
重朝(しげとも・三上) → 一彦(かずひこ・三上みかみ、神職/歌人) V 1 5 8 2
重倫(しげとも・垂井) → 秋虎(しゅうこ・垂井たるい、藩士/歌人) X 2 1 1 6
重倫(しげとも・南合/駒井) → 晩翠(ばんすい・駒井、儒者) I 3 6 1 9

- C2154 **茂豊**(しげとよ・三井みつ) ? - ? 糸魚川藩士/俳人；雑俳、茂吉の父、
1692静竹窓菊子「咲やこの花」巻末の最多入

- C2155 **重豊**(しげとよ・芝山しばやま/本姓；藤原、初名；季憲、季起男/広豊ひろとよの養嗣) 1703-66 江中期廷臣；
1711従五下/15家督嗣/17侍従；従五上/24従四下兵部大輔/26重豊に改名、32正四下、
1736従三位/41正三位/43大蔵卿/48参議；49辞任/51権中納言；52辞任/54従二位/66正二位、
堂上歌人、勤王派、持豊(権大納言/歌人)の父、

- R2176 **重豊**(しげとよ・渡辺わたなべ、初名；豊) ?-?天保1830-44頃没 江後期備前御野郡の酒折宮禰宜、歌人、
国学・歌；藤井高尚(1764-1840)門/香川景樹の歌風を慕い高尚から破門される、
「大中臣卜部の考」著、

[重豊(；名)の通称/号]通称；左兵衛、号；余哉

成豊(しげとよ・祝部) → 成豊(なりとよ・祝部ほうりべ/はふりべ、歌人) H 3 2 8 2
重豊(しげとよ・戸板) → 保佑(やすすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2
重虎(しげとら・竹中) → 重治(しげはる・竹中半兵衛/源、武将/軍略) S 2 1 2 3

- C2156 **重名**(しげな・高丘たかおか、高誉) ? - ? 平安前期；詩、963道統みちむね「善秀才宅詩合」参加

- C2157 **重名**(しげな・藤原ふじわら、家輔orその長男清忠男) ?-? 鎌倉期廷臣；正四下/右京権大夫/左京大夫、
1268(文永5)出家；願西、後嵯峨院に昇殿；歌人、重清・清綱・清康・伊予内侍(為実母)の父、
歌人；1265(文永2)内裏歌合・白河殿七百首参加、勅撰2首；続拾遺629/続千載796、
[かねてだに木の葉しぐれし神なびのみむろの山に冬はきにけり](続拾；雑秋629)

- C2158 **重名**(しげな・渡辺わたなべ/本姓；藤原、重堅男) 1759-1830 72歳 代々豊前中津の古表八幡社社司、
兄重喬の嗣子、漢学；1776京の柴野栗山門/神道・国学；1782伊勢の荒木田久老門、
歌；1784日野資枝門、1785二条家歌道秘伝を受；重名の名を受、
1786古表八幡社祠官継嗣；従五下上野介、国学；1787本居宣長門；以後本居大平と交流、
1788帰郷後豊前で本居学の普及に尽力、
1790中津藩校進脩館教授；藩主奥平昌高に神道・歌道を進講、1783「南島紀行」、
1787「天明七年二十五番歌合」1814「萩の古枝」19「木柴こばの雪」24「由原八景」著、
「菅の根」「瓊の浦づと」「東上日記」「豊筑紀行」「天橋立紀行」「深山の落葉」「神罰即報論」著、
「詠鷹和歌三百首」「楽山二幸楼歌集」「楽山二幸楼長歌集」「楽山二幸楼文集」著、
重蔭の父、重春・重石丸いかりまるの祖父、歌；本居大平「八十浦の玉」中巻；3首入、

[あかねさしいづる光は神路かみ山神代の春にたちかへるかも](八十浦；414/伊勢の春)、

[重名(；名)の別名/通称/号]幼名；竹之丞、初名；堅石かきわ、通称；造酒、号；楽山/二幸楼

- C2159 **重直**(しげなお・高階たかしな、左衛門尉貞朝男) ?-? 南北期廷臣；五位大和守/兵衛尉、貞有の弟、
歌人；1364?「一万首作者」(二条為明らの発起?)入、新拾遺1157、
[まきの戸はささで今夜も明けにけりさはるといはいで何またるらん](新拾遺；恋1157)

- N2144 **重直**(しげなお・今枝いまえだ、忠光男) 1554-1627 74 美濃の武将；織田信長の臣；1570姉川戦に出陣、

伊勢長島・長篠戦出陣、織田信雄に出仕;小牧・長久手戦に出陣/豊臣秀吉・秀次の家臣、知行5千3百石/1594従五下・内記、1595(文禄4)前田利長に出仕;3千石のうち2千5百石加増、1598日置忠勝5男の直恒を養子とす;以後今枝・日置家は代々縁組を重ねる、妻;平松與左衛門女、1600関ヶ原では北陸方面に参加/14冬陣15夏陣にも出陣、1619(元和5)隠居/養子直恒が家督嗣、明智光秀との鮎の逸話あり、
[重直(;名)の初名/通称/号]初名;定直、通称;弥八郎/内記、号;宗二

- J2122 **重直**(しげなお・水守みずもり) ? - ? 江前期大阪の俳人、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[花を打つ雨や報いで棒振り虫](難波色紙;48/心なく花を散らす報いでポウフラ発生)
西村重俊との関係? → 重俊(じゅうしゅん・西村にしむら、俳人) H 2 1 6 2
- M2192 **重直**(しげなお・俵屋たわらや) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[そなたに向きて若わか女方をやま](物種集/前句;お念仏も忘れぬ口に紅かねを)
水守重直と同一?
- R2177 **重直**(しげなお・富小路とみこのうじ/本姓;藤原、利直男) 1692-1743 52 母;家女房、伯父永貞の養子、
廷臣;1714元服/右京大夫/18従後上/21従四下/23正四下/37従三位、
「富小路重直卿記」著、法号;心徳院
- N2194 **繁尚**(しげなお/しげなり・石井い、通称;平五郎、柴田幸助貞昌男) 1740-1817 78 筑前遠賀郡若松村の生、
同村商家[綿屋]の石井三五郎重崇しげたかの養子;家業継嗣/若松村里正、歌人
- Z2183 **重直**(しげなお・藤井ふじ、) ? - 1837 備中賀陽郡の吉備津神社社家頭、国学者、
[重直(;名)野通称] 空之助/滝弥
- N2118 **重直**(しげなお・朝山あさやま/本姓;勝部) ?-1837 出雲佐太の国学者/人名録を編纂、朝山嘉路よみちの弟、
[重直(;名)の通称/号]通称;千葉之介、号;文調/柳逸
- R2178 **重巨**(しげなお・舎人とねり/本姓;清原) 1779-1847 69 尾張藩士;1789家督;95小姓/新番頭、本草家、
華道靖流の祖、竹の水揚げ法を創案、1823「草木性譜」34「稽徳編附録」、
「進饌要覧」「有毒草木凶説」「蘭竹彙考」編、
[重巨(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;磯次郎、字;君規、通称;九十九/武兵衛、
号;道生軒/一徳、法号;道生軒一徳君規禪定門
- N2170 **重直**(しげなお・尾古お、重伴男) 1837-1905 69 周防防府の神職;1876赤間宮禰宜/78主典、
1779権小講義、80玉祖神社主典/94松崎神社社掌、
国学・歌;父門/皇学・漢学;天野謙吉・武光浪江門、
[重直(;名)の通称/号]通称;源次、号;常磐園
成直(しげなお・源) → 成直(なりなお・源、幽提ゆうだい、武将/歌人) H 3 2 8 3
重直(しげなお・石倉) → 一入子(いちにゅうし・石倉いしくら重直/武将/俳人)
重直(しげなお;初名・西村) → 重俊(じゅうしゅん・西村にしむら、俳人) H 2 1 6 2
重直(しげなお・井口) → 榴荘(りゅうそう・井口いぐち、大庄屋/教育) F 4 9 0 4
重修(しげなお?・堀) → 岫陰(はくいん・堀ほり/蒲生、儒者/尊攘) C 3 6 5 3
- C2160 **重仲**(しげなか・賀茂かも、重能男) ?- ? 神職/歌、1182賀茂重保「月詣つきもいで和歌集」入、
[白雲をわけてかへると見ゆるかな峰の桜を過ぐるかりがね](月詣;二145)
- R2179 **重仲**(しげなか・下原しもはら) 1738-1821 84歳 因幡日野郡宮市村の製鉄業/家業没落;諸国遍歴中出家、
のち故郷で没、1784「鉄山必要記事」著
- R2184 **繁仲**(しげなか・薄井・臼井うすい/本姓;平、通称;縫殿い) ?-? 江後期1830-54頃山城伏見の人、
国学者/江戸住、「続日本紀微考」著
成仲(しげなか・祝部) → 成仲(なりなか・祝部ほうりべ/はふりべ、歌人) H 3 2 8 5
茂仲(しげなか・林はやし) → 徳助(とくのり・林はやし、大庄屋/海防) L 3 1 2 9
- R2180 **重長**(しげなが・丹波たんば、初名;成長しげなが、盛長男) ?-1490 医者;典薬頭;父を継承/侍医/施薬院使、
大膳大夫、院・内裏昇殿を許される/1489従三位/90出家、連歌:1482・83宗伊らと百韻、
新菟玖波1句入、
- R2181 **重長**(しげなが・大橋おおはし、大橋定安[1532没]男) ?-1565 和泉守大橋一重の継嗣、武将・織田信長臣、
「大橋記」著、
[重長(;名)の通称/法号]通称;清兵衛、法号;清威院慶仁

- R2182 **重永**(しげなが・西脇にしわき) ? - ? 1644存 故実家;小笠原長時の故実秘書を村上数馬に伝授、
「元服之次第」著、通称;彦兵衛尉
- a2171 **重長**(しげなが・毛利もうり、初名;重行、重次男) 1636-9661 母;芦田(赤井)時直の長女、幕臣/御家人、
1640(寛永17)父没;継嗣/3百石/小普請/53大番/81(天和元)道奉行、
妻;岡村百々之介(豊臣秀頼家臣)女;おどよ、後妻;渡邊盛(因獄佑)女、
元教・岡部雄救妻・堀田直次妻の父、1696(元禄9)没、
[重長(;名)の通称]平三郎・兵橘
- a2166 **重長**(しげなが・鈴木すずき、通称;長右衛門)?-? 江前期;幕臣?or藩士?/歌人、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[入る月の影にかはりて大井川さすや鶉舟の瀬々の篝火](若むらさき;50/鶉川うがわ)
- R2183 **重長**(しげなが・松下まつた、長光男) 1683-171836 幕臣;1697家督継嗣;
伊豆田方・上総諸郡に3千石領す、「諸家系譜」著、
[重長(;名)の通称/法号]通称;刑部ぎょうぶ、法号;万休
- C2161 **重長**(しげなが・西村にしむら) ? - 1756 江中期江戸通油町の地主/神田に移住;書肆開業、
絵師:初世鳥居清信・奥村政信に私淑か?、独自の画風確立;墨摺絵洋式版画(石摺絵)考案、
一枚絵「三幅対ひよくの三曲」/赤本「猿蟹合戦」「絵本江戸土産」、「浮瀬蟹濡衣」画、外多数、
[重長(;通称)の号]影花堂/仙花堂/百寿
- N2129 **重永**(しげなが・伊高いたか、高崎守勝4男) 1745-182177 筑前遠賀郡小石村里正の家の生、
遠賀郡若松村の神官伊高重清の養嗣子;継嗣/1771従五下伊豆守、歌人
[重永(;名)の通称]伊豆守
- N2195 **繁永**(しげなが・猪股いのまた) ? - ? 幕末-明治;陸奥弘前の国学者;
1856弘前藩和学士取扱/藩校稽古館紀伝学士、1868箱館在役;箱館戦争に参加
- 02104 **重長**(しげなが・門田もんでん、樸斎[朴斎/堯佐]2男) 1831-191585 江戸本郷丸山邸に生、漢学;父門、
儒・詩文;斎藤竹堂・藤森弘庵・安積良斎門、兵学;江木鱈水門、国学;鈴木重胤・松本良遠門、
書;小島五一(成斎)門、1848(嘉永元)江戸学問所文学助教、備後福山藩儒の父に随従、
1858(安政5)福山藩儒者見習/62(文久2)藩校誠之館文学教授;父を継嗣、
維新後;福山県少属;1872退官、鞆町沼名前神社宮司・備中吉備津神社禰宜、
1877誠之館跡の公立師範学校分校教員/81福山中学校教諭;漢文・修身・習字を指導、
七言律詩「紅袖幾多」七言絶句「馬齒今年」/「草書千字文」「莊筮裘在家園」書、
[重長(;名)の通称/号]通称;二郎太、号;温斎/杉東さんとう
- 重長(しげなが・板倉) → 重寛(しげひろ・板倉いたくら、藩主/国学) N 2 1 3 7
重長(しげなが・持田) → 近知(ちかとも・持田もちだ/平、国学者) N 2 8 6 7
茂長(しげなが・毛内) → 宜応(ぎおう・毛内もうない、藩士/農政) V 1 6 4 6
- a2172 **重長母**(しげながのはは・毛利もうり、芦田[赤井]時直の長女)?-? 江前期;歌人、毛利重次(御家人)の妻、
重長(1636-96/通称;兵橘/幕臣;道奉行)の母、通称;兵橘母(へいきつ・ひょうきつ)の母、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
歌人;茂睡[鳥の迹]入/了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[呉竹のよはひや身にも積るらんけさしも雪に起きうかりけり]([鳥の迹]冬481)、
[浅ましの老やと昔見し人を思へば今のわが身なりけり](若むらさき;185述懐)
- 成仲女(しげなかのむすめ・祝部) → 成仲女(なりなかのむすめ・祝部、歌人) H 3 2 8 9
成良(しげなが・祝部) → 成良(なりなが・祝部、歌人) H 3 2 8 7
- N2196 **重浪**(しげなみ・磯部いそべ) 1839- ? 武蔵大宮の氷川神社主典/正八位、
国学;平田篤胤・師岡正胤・橋道守門
重波(しげなみ・櫛淵) → 重之(しげゆき・櫛淵くしぶら、国学者/歌) O 2 1 2 9
- a2156 **重成**(しげなり・中原なかはら) ? - ? 鎌倉南北期;廷臣、歌;1330[北野宝前和歌]参加、
[村雲のはれまの空のほととぎす月にかたらふ初音鳴くなり](北野和歌;15/雲間郭公)
[五月雨の晴れゆくあとの山風に露はなほふる森のしたかげ](同;31/五月雨晴)
- C2162 **重成**(しげなり・大高おおたか/本姓;高階たかしな、重長男orその弟頼基男)?-1362 母;植田清忠女、
足利幕臣/引付頭人、正五下若狭守/伊予守、幕府小侍所/1338若狭守護;51再任、
禪;夢疎石窓門/法号;海岸居士;1344「夢中間答」を開板、

歌;1351足利尊氏催「松尾社法楽和歌」に詠進、連歌;菟玖波9句入、
勅撰;風雅1499、

[みやこにはまだしきほどの時鳥深き山路をたづねてぞ聞く](風雅集;十五雜1499)

[重成(;名)の通称/号]通称;次郎、号;法智/禪勇、法号;海岸居士、重政の父

- 2111 **重然**(しげなり/しげよし・古田ふるた、初名景安、重定[勘阿弥]男)1543-1615自刃73 美濃武将;秀吉臣、
1585織部正に叙任/山城西岡を支配/関ヶ原;家康側で軍功;1万石大名、大坂陣後内通疑惑、
京伏見で切腹、茶道;利休門/利休七哲の1/織部流の祖、陶芸/禪/歌、小堀政一[遠州]の師、
「茶道初心集」「茶道秘伝」「茶道道具集」「小堀遠州古田織部茶湯日記」「古田織部伝書」著、
[重然の通称/号]通称;左介/織部、号;宗屋/印齋/金甫
- R2185 **重成**(しげなり・井上いのうえ、半右衛門清秀男)?-1646 結城秀康の家臣/遠州横須賀に浪居、
1625徳川家光に出仕;幕臣3千石/鉄砲頭、連歌;里村昌琢・斎藤徳元らと交流、
1630井上太左衛門興行[何船百韻]参加、
[重成(;名)の通称] 半三郎/太左衛門たごえもん/太左衛門尉
- R2186 **重宜**(しげなり・久保くぼ) ? - ? 摂津赤川村の文筆家;1735「摂津国記」著、
1739「延喜式神社在所巡参記」著
- R2187 **繁成**(しげなり・野村のむら、通称;瓢彦)?-? 江戸後期土佐の朝峰神社神主、1816「庚申辨」
- R2188 **茂濟**(しげなり・小高おだか) ? - ? 母;妙真尼、江戸後期武蔵比企郡三保谷村の人、
1823「慈堂老尼六十初度賀」著
- Z2114 **重生**(しげなり・鈴木すずき、通称;大膳、鈴木真重まげ[1751-1811]男)?-1835 三河渥美郡吉田の国学者、
歌;村上忠順ただまさら共編「類題三河歌集」入(渥美郡58)
- 02159 **重就**(しげなり・座田さいた/本姓;紀、重増男)1787-185872 京の武者小路室町西の廷臣、院の雑色、
中務少録、正六上/宮内少丞、山城愛宕郡の上賀茂社官人、
絵師;鶴沢家入門、国学者/歌人;賀茂季鷹門?、
歌;1813(文化10)板[李鷹県主六十賀宴歌集]入(;中務少録紀重就名)、
[重就(;名)の字/通称/号]字;守考、通称;座田増男、号;猶龍、法号;随喜院
- 茂成(しげなり・和気) → 明茂(あきしげ/あきもち・半井/和気、歌人) D 1 0 0 9
滋成(しげなり) → 滋成(じせい、連歌) U 2 1 1 1
重成(しげなり・源) → 兼長(かねなが・源みなもと、廷臣/歌人) 1 5 7 3
重成(しげなり・櫻井) → 重成(じゅうせい・櫻井さくらい、医者/俳人) P 2 1 0 9
重成(しげなり・岡野) → 湖中(3世こちゅう、岡野、藩士/俳人) D 1 9 3 2
重就(しげなり・毛利) → 重就(しげたか・毛利/大江、藩主/歌) R 2 1 1 9
重濟(しげなり・山路) → 機谷(きこく・山路やまじ、儒者/国学/歌) K 1 6 3 8
繁尚(しげなり・石井) → 繁尚(しげなお/しげなり・石井いひ/柴田、里正) N 2 1 3 4
- C2164 **茂育**(しげなる・吉田よしだ、通称;彦兵衛、金沢藩弓頭茂雅男)?-? 江戸中期日置流弓術家;父門、
日置流大蔵派を伝承、「弓具穿鑿書」伝
- N2189 **茂庭**(しげにわ・加茂かも)1829-189466 伊予新居郡の伊曾乃神社大宮司、石鎚神社祠官、国学者、
[茂庭(;名)の通称/号]通称;辰也/近江守、号;百十
- N2176 **茂根**(しげね・大槻おおつき、号;曲肱)1701-7777 陸奥磐井郡の大肝入、国学者、大槻玄沢茂質と同族
- P2128 **繁根**(しげね・千頭せんどう/本姓;菅原、通称;琢七)?-? 土佐高知藩士、国学者、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含め4首入、
[海路ゆく旅にしあればほととぎすいつか聞かむと思ひしものを]、
(八十浦;512/播磨の家島の湊に泊すときに郭公を聞く)
- C2165 **重嶺**(しげね/しげつぐ・鈴木すずき/本姓;穂積、小幡多門男)1814-9885 鈴木半次郎の養子;幕臣、
旗本;伊賀者・徒目付/勘定吟味役/勘定奉行/槍奉行/1865佐渡奉行、諸大夫/従五位兵庫頭、
歌・国学;村山素行・伊庭秀賢門、退官後東京に鶯蛙吟社組織;雑誌「詞林」主宰、墨竹を嗜む、
1861「皇風大意」63「旅路記恵の露」66「島曲廼古豆美」67「農論」、「詠史清渚集」「翠園歌論」、
「国歌風調論」「伊香保前橋之記」「夢路の日記」「絹川花見の記」「国歌風調論」外著多数、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入の[知足]と同一?、
[漕ぎ出でてかへりみすれば春霞我がいへしまも立ちこめにけり](大江戸倭歌;春66)、
[人住まずなりていく代をふる狸あれぬ昔の事語らなん](同;雜1798/古宅狸)、

- [重嶺(；名)の別名/字/通称/号]別名；有定、字；子高、通称；大之進、号；翠園/緑堂/知足齋、
 C2166 殷根(滋根しげね/のぶね・河村かわむら、秀根男)1749-68早世20歳 尾張の国学者；父門、儒；飯田高嶺門、
 歌；冷泉為村門/書；広橋兼胤門/音律；本源院日随門/筆策に秀づ、痘瘡を病み早世、
 「洞水間吟」著/「書紀集解」補填、1768「河水問答」編/「殷根遺草」、
 [殷根(；名)の通称/法号]通称；一郎/需吉/金之助/豊三郎、法号；法立院
 重根(しげね・立花) → 実山(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸) E 2 1 9 1
- Z2115 重野(しげの・鈴木すずき/本姓；穂積、梁満やなまる男)1766-183368 三河渥美郡吉田の神職、
 1776重野に改名/国学；父門(父は1786本居宣長より破門)/1797(寛政9)本居宣長門、
 高林方朗・内山真竜訪問、神道；1818(文政)羽田野敬雄門/吉田安海熊野神社神主；父を嗣、
 神道・国学；平田篤胤門、歌；村上忠順ただまさら共編「類題三河歌集」入(渥美郡66)
 [重野(；名)の初名/通称]初名；八十郎、通称；陸奥守
- R2190 茂野(しげの・勝間田かつまた)1778-183659歳 江戸の国学者；清水浜臣・前田夏蔭門、
 相模箱根二子山北麓芦湯に住、1817「箱根神社案内略記稿」著、内山真竜と親交、
 [茂野(；名)の通称/屋号]通称；清蔵/清左衛門、屋号；伊勢屋
- R2191 繁乃(しげの・黒井くろい、米沢藩士重慶女)1804-5350 羽前米沢の人、1810(7歳)で父没、
 湯野川繁実を婿に迎え家督嗣；1823(20歳)で夫と死別；息子繁邦の養育に尽力、
 賢母とされる/繁邦はのち町奉行となり戊辰戦には軍監を務める、「国字四書」著
 繁野(しげの・清原) → 夏野(なつ・清原真人、廷臣/律令/詩) G 3 2 7 0
 繁野(しげの・藤井) → 茂弥(しげや・藤井ふじい、旧姓；中西、歌) Z 2 6 8 0
 滋野(しげの) → 公忠(きんただ・源、廷臣/歌人) 1 6 6 4
 滋野井の中將(しげのいのちゅうじょう) → 公成(きんなり・藤原/閑院、廷臣/歌) E 1 6 5 0
 滋野井の別当(しげのいのべつとう) → 公成(きんなり・藤原/閑院、廷臣/歌) E 1 6 5 0
 滋野井弁(しげのいのべん) → 公忠(きんただ・源、廷臣/歌人) 1 6 6 4
 滋之丞(しげのじょう・内藤) → 笨庵(ほんあん・内藤ないとう、儒者) E 3 9 9 0
 重之丞(しげのじょう・津田/高林) → 利直(としなお・高林、幕臣) N 3 1 1 1
 繁之丞(しげのじょう・齋藤) → 永房(ながふさ・齋藤さいとう、藩士/国学) N 3 2 2 1
 繁之進(しげのしん・木俣) → 守盟(もりちか・木俣きまた/橋、藩老) J 4 4 8 5
 重之進(しげのしん・高野) → 眞盈(まさみつ・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 7 0
 重之允(しげのすけ・島) → 多豆夫(たずお・島しま/出雲、神職/国学) X 2 6 4 9
 重之助(しげのすけ・田沼) → 意行(もとゆき・田沼たぬま、幕臣) E 4 4 5 8
 重之助(しげのすけ・佐藤) → 西山(せいざん・佐藤/小林、儒者/北辺警備) I 2 4 5 0
 重之助(しげのすけ・代田) → 宗真(そうしん・代田しろた、茶華道/歌人) K 2 5 9 6
 茂之助(しげのすけ・内藤/石尾) → 忠辰(ただとき・内藤ないとう、和算家) Q 2 6 0 1
 茂之助(しげのすけ・富永) → 兼章(かねあき・富永とみなが、藩士/国学) V 1 5 1 5
 茂之輔(しげのすけ・林) → 保綱(やすつな・林はやし、酒造業/歌人) G 4 5 4 5
 滋野内侍(しげののいし) → 小式命婦(しょうにのみょうぶ・平安期歌人) B 2 2 0 6
- C2167 重信(しげのぶ・源みなもと；宇多流、敦実あつみ親王4男)922-99574 母；藤原時平女、平安廷臣；960参議、
 従四上修理大夫兼近江権守/963従三位/967修理大夫兼播磨権守/970伊予権守兼大蔵卿、
 974権中納言兼皇太后宮大夫/975正三位中納言/978大納言/981正二位/983按察使兼任、
 991右大臣/994兄雅信(没)に代わり左大臣/995没；贈正一位、通称；六条左大臣、
 歌；960天徳四年内裏和歌合；女房和歌歌合左方参加、
- C2168 重延(重信？しげのぶ・賀茂かも)？- ？ 平安期神職；五位/歌人；千載集692、
 賀茂重保男の重信(重政の弟)説あり(賀茂社禰宜神主図)、
 重信；1182重保「月詣和歌集」入(十928)、
 [いつしかと袖にしぐれのそゝくかな思ひは冬のはじめならねど](千載；恋692/重延)
 [うちそよぐのぢのしのやの笹囀さがこひ吹きくる風はあられなりけり](月詣；928/重信)
- R2192 重宣(しげのぶ・藤原ふじわら)？- ？ 南北期の人；連歌；1356成立「菟玖波集」入
- H2106 重信(しげのぶ)？- ？ 室町期；尾張熱田神宮の神職、
 連歌；1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、
 [うぐひすの縫ふてふ笠もあるなるに](鶯の涙もとけて鶯の飛び移る梅の花も咲く、

前句;仲昌;こほりやきゆる水おとの雨、
本歌;雪のうちに春は来にけり鶯の氷れる涙いまやとくらむ;古今4;二条后、
青柳を片糸により鶯の縫ふてふ笠は梅の花笠;古今1081神遊びの歌)

- C2169 **重延**(しげのぶ・賀茂かも) ? - ? 室町期歌人;1481義尚「将軍家三十番歌合」参加
- R2193 **重信**(しげのぶ・吉田よしだ、重氏男)?-1662 日置流印西派弓術家;父門、1627徳川秀忠に出仕、
「日置流弓法度之条々写」著、
[重信(;名)の通称/法号]通称;久馬之助、法号;一心
- R2194 **成信**(しげのぶ・狩野かのう、狩野氏信の養子)?-1675 肥後狩野家4世嗣;肥後狩野家は代々細川家出仕、
細川光尚の時初めて肥後住、「勅点和歌」画、
[成信(;名)の通称]窪田助之進(;初通称)/狩野志水
- C2170 **重信**(しげのぶ・南部なんぶ・花輪/七戸、南部利直5男) 1616-1702⁸⁷ 母;花輪内膳政友女、閉伊郡花輪生、
七戸直時の嗣子:1647七戸家継嗣/1664陸奥盛岡藩主の兄重直没;家督嗣;4代盛岡藩主、
藩領十万石の内2万石を弟直房に分知し陸奥八戸藩主とす、従四下大膳大夫、
1666から領内検地;開田・山林造成を推進/1674北上川治水工事に着手、花輪様と称さる、
1692息子行信に家督譲渡、歌人;飛鳥井雅章・中院通茂・岡本宗好そごう門、
「南部重信歌集」「重信公歌集」「南部重信公西卒歌集」「重信公御歌」、1702「源重信百首」著、
1690[南部家江戸上屋敷桜田邸詩歌会]催、
[むら雨の過ぐる軒端の露に又ひかりをそふる夏の夜の月]、
(桜田詩歌会;対する詩は林鳳岡ほうこう信篤学士)、
[重信(;名)の通称/号]通称;乙松/彦六郎/彦左衛門/隼人、
号;西卒/南宗院、法号;大源院
- C2171 **鎮信**(しげのぶ・松浦まつうら/まつら、隆信[宗陽]男/本姓源) 1622-1703⁸² 母;牧野康成女、平戸藩主4代;
1637襲封、1637島原乱に有馬長崎に藩士を派遣し警衛/41鎖国のため平戸貿易禁止;
藩政再建に努力、藩法制定・新田開発・商業漁業の振興など尽力/1689致仕、
和漢洋学修得/山鹿素行に私淑;素行の弟義行を家老に登用、茶道;石州流鎮信派を開く、
1675「東還紀行」「円恵紀行」/96「武功雑記」編、「四季会席料理集」著、
[鎮信(;名)の幼名/初名/通称/号]幼名;千代鶴/初名;重信、通称;源三郎、
号;天祥/退静翁/円恵えんけい/徳祐/鎮信ちんしん、法号;天祥院、棟たかの父
☆先祖に初代藩主の松浦鎮信(まつらしげのぶ、1549-1614、久信の父)がいる
家系については→ 静山(せいざん・松浦まつら) B 2 4 7 6 の平戸の松浦家参照
- K2151 **重信**(しげのぶ、安立町) ? - ? 江前期;大坂安立あんりゅう町の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第五青梅第三句/花火脇句等入、
[五月雨のふる句もあらぬ発句して](生玉万句;青梅第三/降ると古句を掛る、
脇句;やまほとゝぎす珍敷めづらしき客、山時鳥に五月雨を付る)
- C2188 **重信**(しげのぶ・山田やまだ) ? - ? 江前期萩藩士/史家、1685「毛利八箇国時代分限帖」編
- R2195 **重信**(しげのぶ・薄田すすきだ/薄、本姓;橘、橘以重男)?-? 江前期美濃西郷の生;代々橘家神道を伝える、
武家として薄田を称す/兵法家として池田輝政に出仕;大坂陣で池田利隆に従い軍功、
「玉方陣記」注、息子信秀は池田家を去り尾張名古屋徳川家に出仕
- Z2116 **重信**(しげのぶ・鈴木すすき、) 1666-1733⁶⁸ 伊予松山の国学者/神書古典;大山為起門、
重松安勝やすかつの師、
[重信(;名)の通称] 久太夫/新八
- C2172 **重信**(しげのぶ・川島かわしま、号;柳花堂/一々堂)?-? 江中期京の浮世絵師(1716-44頃活動);西川風画、
1722「世中百首絵抄」-44「絵本吉野川」画
- Z2169 **重信**(しげのぶ・花木はなき、通称;伝蔵) 1706-74⁶⁹ 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
重辰しげとき之父
- R2196 **重靖**(しげのぶ・前田まえだ、初名;利見、吉徳男) 1735-53^{天逝19} 母;奥泉縫(善良院)、兄重熙の養嗣、
1753兄没;襲封;加賀金沢藩主/正四下加賀守、まもなく急逝、詩歌人、
1748「粟ヶ崎道記」、「拾藻集」「天珠公歌集」「天珠公詠歌百首」「天珠公日記」著、
[重靖(;名)の幼名/字/号]幼名;嘉三郎、字;竜韜りゅうたう、号;崆峒こうとう/清湖/擒藻斎きんそうさい、
法号;天珠院嘯月仁勇

- Z2174 **恵信**(しげのぶ・林はやし、恵忠しげただ[1724-88]男) **?-1809** 母;柳子りゅうし(1728-97/澄月・夢宅門歌人)、信濃伊那郡の農業、歌人;父母門、飯島為仙ためり[1757-1831]の兄、妻;桃沢夢宅女ひさ、[恵信(;名)の通称]通称;孫作(父の称)
- 02118 **茂信**(しげのぶ・木村きむら、) **1748-1840長寿93** 陸奥仙台藩士;出入司、国学者、[茂信(;名)の通称/号]通称;衛守、号;長嘯齋/仙寿齋
- Z2156 **蕃延**(しげのぶ・中田なかつた、) **1757-180448** 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・亀]入、[蕃延(;名)の通称/号]通称;兵右衛門、号;竹林館
- R2197 **昌敷**(しげのぶ・山本やまもと、清溪男/本姓;藤原) **1770-182253** 京の官人;大炊御門おおいみかど家の諸大夫、従五下駿河守、歌;香川景樹門、語学者、1818「百首異見問答」、「柴ぐり」著、渾沌齋松月編「和字便覧」(1795刊)を文化八(1811)改訂増補、嘉之の父
- C2173 **戊申**(しげのぶ・鶴嶺つるみね、宜綱男) **1788-185972** 豊後臼杵八坂神社神主家の生/和漢学;父門、儒;武藤吉紀門/歌;1804京の綾小路俊資門/国学;村上円方・山田以文門、陰陽阿部家入塾、大阪立売堀で講説/1832江戸住;私塾究理塾開設;究理学を講説、内田五観・寺門静軒の師、1838海鷗社を開設/水戸藩の和書編集所に出仕、1853ペリー来航後藩主斉昭に意見書提出、開国論者、「明倫歌集」「五倫和歌集」編、「燼余歌集」「燼余詩集」「旋頭歌論」「今調歌集」、1806「臼杵小鑑拾遺」12「教法論」18「天の真はしら」21「言葉能橋立」26「帰乗捷法」、1833「詞葉の錦」38「鶴嶺戊申詠草」39「史伝摘鈔」47「転禍趣吉考」59「古調梯」外著多数、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[秋寒み霜になる夜の月ふけていめの鹿の声ぞ聞ゆる](大江戸倭歌;秋783)、
[戊申(;名)の字/通称/号]字;世霊/季尼、通称;和左治/左京/彦一郎、
号;皇舎/海西、 法号;秀山院
- C2174 **重信**(初世しげのぶ・柳川やながわ、鈴木忠次郎男) **1787?-183246?** 江戸絵師;葛飾北斎門;師の婿養子、北斎女の美与の入婿/のち離縁、本所柳川町住/根岸大塚村に移転、合巻・読本挿絵を制作、1822大坂住;上方絵の画風に影響を与える/1826頃江戸帰郷;読本・人情本の挿絵制作、1814-32馬琴「南総里見八犬伝」・20種彦「浅間燻煙之姿絵」・32「春水」春色梅児誉美挿絵、1827「文政歌集」29「狂歌水滸伝集」30「天の浮橋」32「狂歌花街百首」、外画多数、
[柳川重信(;号)の通称/別号]通称;重兵衛/弥三次、
別号;雷斗/鈴齋/琴齋/雨蕉齋/一開齋好信
- V2142 **重信**(しげのぶ・山路やまち) **1788-184356** 備後沼隈郡藤江村の庄屋岡本屋山路家の一族、岡本屋は先祖重直以来代々松永湾の網元/塩田経営、国学・歌;木下幸文・香川景樹門、
[重敏(;名)の字/通称/号]字;篤義、通称;忠平、号;鳳鳴
- R2198 **茂延**(しげのぶ・鍋島なべしま、敬文男) **1790-185162** 肥前佐賀藩の家老/歌人、「鍋島一心家集」著、
[茂延(;名)の号] 一心/誠心
- C2175 **重信**(2世しげのぶ・柳川やながわ、谷城、名;清充、志賀理齋3男) **1797-?** 江戸谷中天王寺北住の絵師、谷城家の養子、画;初世柳川重信門、1832重信2世を襲名:1832-42「南総里見八犬伝」・1832-33「春色梅児誉美」等の絵継承、1837「江戸名所図会」43「鎌倉年代記」画、1851-58「仙蛙奇録」53「絵本吳越軍談」54「日本百将伝一夕話」56「柳川画譜」外画多数、
[柳川重信(2世;号)の字/通称/別号]字;子義、通称;季三太/三源次、
別号;重山/雪蕉齋/松影
- R2199 **成信**(しげのぶ・小川おがわ/石井、小川好信男) **1806-6762** 伊豆加殿町の名主小川家の生、伊豆北江間村石井通駿の養子、国学;竹村茂雄門、江川担庵に出仕;用役兼大小砲術製造方、歌人、「詞枝折」著、
[成信(;名)の別号/通称]別名;通庸、通称;半七郎/清次郎/実蔵
- S2100 **重誠**(しげのぶ・しげまさ・西池にいけ/本姓;賀茂、藤木重敦5男) **1809-5850** 西池豪季の養子、禁裏御所に勤務/上賀茂神社祠官、越前守/阿波守/正四下、歌人、1834「神道講私記」、「奉獻百首」著、
[重誠(;名)の幼名/通称]幼名;説五郎、通称;主水もんど/越前守/阿波守
- V2143 **重信**(しげのぶ・山路やまち、通称;甚太夫) **1829-189971** 筑前福岡の歌人
- S2101 **重信**(しげのぶ・竹内たけうち、武信たけのぶ男) **1830-9061** 信濃小県郡山田村の和算家;父門/1849家督嗣、1849「勉強録」51「麓の路」、「算法瑚璉解義」「浅問抄解」「算法瑚璉解」「袋囊求積解」著、

[重信(；名)の通称/号]通称；善次郎、号；黄洲

重信(しげのぶ・狩野)	→ 永徳(初世えいとく・狩野、絵師)	1 3 4 3
重信(しげのぶ・狩野)	→ 良信(よしのぶ・狩野かろう、絵師)	F 4 7 5 7
重信(しげのぶ・大館)	→ 尚氏(ひさうじ・大館おだち、幕臣/歌人)	E 3 7 4 2
重信(しげのぶ・安積/安藤)	→ 良斎(こんさい・安積あさか、儒者)	1 9 5 3
重信(しげのぶ・水野)	→ 丹解(たんげ・水野みずの、藩士/軍学者)	T 2 6 3 1
重信(しげのぶ・淡輪)	→ 四郎兵衛(しるべえ・淡輪たんなわ/たんのわ、藩士/奉行)	N 2 2 1 4
重信(しげのぶ・生駒)	→ 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人)	K 4 0 6 0
重信(しげのぶ・西村/孫三郎)	→ 豊信(とよのぶ・石川、旅宿業/絵師)	R 3 1 4 2
重信(しげのぶ・松本)	→ 寒緑(かんろく、松本まつもと、藩士/儒者)	R 1 5 9 0
重信(しげのぶ・島田)	→ 幸安(ゆきやす・島田しまだ、文筆家)	F 4 6 9 1
重信(しげのぶ・山本)	→ 操(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治)	J 4 1 7 2
重舒(しげのぶ・鈴木)	→ 重樹(しげき・鈴木すずき/穂積、藩士/国学)	Z 2 1 0 8
重宣(しげのぶ・歌川)	→ 広重(2世ひろしげ・歌川うたがわ/安藤、絵師)	G 3 7 0 4
重宣(しげのぶ・島)	→ 北嵩(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師)	D 3 9 5 1
重宣(しげのぶ・松井)	→ 重宣(じゅうせん・松井、俳人/狂歌)	O 2 1 0 2
重陳(しげのぶ・上田)	→ 重威(しげたけ・上田うねだ、歌人)	N 2 1 4 7
成信(しげのぶ・興野)	→ 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人)	L 3 2 5 1

C2176 茂範(しげのり・高階たかしな、峯緒男)?-? 平安前期廷臣；従五上、長屋王の末裔、業平と齋宮怡子の内親王の密通の子の師尚(823-880/右中将)を養子；古事談入

C2177 重憲(しげのり・清原きよはら) ? ? 平安後期廷臣；権少外記、1103日記「清原重憲記」(1103-1144)著

C2178 成範(しげのり・藤原ふじわら、初名；成憲しげのり、通憲[信西]男)1135-8753 母；兼永女朝子[紀伊二位]、平安後期廷臣；1159平治乱に下野配流/60召還/66従三位/74参議/83正二位中納言/民部卿、歌：60-5頃「法勝寺十首会」主催、69「左兵衛督成範歌合主催」、70住吉社・78別雷社歌合参加、「唐物語」「弘法大師和讃」、続詞花集・今撰集・月詠・万代・雲葉・和漢兼作・拾遺風体集入集、勅撰13首；千載(591/761/899)新古(965)新勅(918)続古(120)続拾(693)新後撰(911)以下、[鳥部山思ひやるこそ悲しけれひとりや苔の下に朽ちなん]、(千載；哀傷591/母紀伊二位の没後の詠)、

[成範(；名)の通称] 桜町中納言/民部卿成範、

基範・成房・範行・通成・範兼・成賢・定範・縁成・高倉院小督局(高倉天皇の寵姫)の父、母；兼永女 → 朝子(ちよし・藤原、信西妻、歌人) I 2 8 4 9 娘；小督 → 小督(こごう、高倉天皇の寵姫/琴の名手)M 1 9 1 9

C2179 成範(しげのり・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉期詩人、1250仙洞詩会参加

S2102 茂範(しげのり・藤原ふじわら、経範の長男)1236-? 1294存 鎌倉期廷臣；代々漢学者；1264文章博士、1274(文永11/39歳)従三位非参議/78式部権大輔/81同大輔/83正三位/85(弘安8)従二位、1291備後権守/92辞任；息子重範が権少輔/94(永仁2)出家、詩；和漢兼作集入、「唐鏡」著明範・諸範・淳範の兄、広範・為範・重範の父、1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、[過現当尊皆衛護 上中下法未斎持](定家追善二十八品並九品；29/安楽品)

C2180 重教(しげのり・藤原ふじわら、評定衆藤原[亀谷]仲能男)?-? 鎌倉幕臣；中務権少輔/中務権大輔、歌人；1261宗尊親王(將軍)家百五十番歌合参加；右方、[別れぢのつらさはさぞな有明の月の空ゆく春の雁がね](宗尊合；十一番右22)

a2131 重徳(しげのり・三善みよし) ? - ? 南北期廷臣；歌人、1400[菊葉集]4首入、[夜な夜なに思ひみだるる片糸のあはではてなんことぞかなしき](菊葉；恋1353)

C2181 重矩(しげのり・板倉いたくら、重昌の長男)1617-7357 三河の武将；1638島原戦に従軍；軍功、1639父の遺領継嗣；1万石、三河中島を居所、従四下侍従/主水佑/内膳主、1665老中、1668-70京都所司代/72下野烏山藩主；封5万石、儒；熊沢蕃山門、詩歌を嗜む、「自心受用集」「篁軒詩稿」著、「板倉重矩遺書」「板倉重矩御教訓書」「重矩侯御遺訓」、[大切なるは人なり まして一芸も有者をば少の事はゆるしもとむべし](重矩遺書)、

- [重矩(；名)の幼名/通称/号]幼名；長命、通称；又右衛門、号；篁軒、法号；高德院
- S2103 **重忝**(しげのり・牛込うしごめ、俊重3男) 1622-8766 幕臣；1650徳川家光に出仕/西城書院番/63目付、1671長崎奉行/82致仕、1756「牛込自楽軒聞書」、「古諺記」「自楽軒物語」著、
[重忝(；名)の別名/通称/号]別名；勝脱かつとき(；初名)/勝登かつなり、
通称；求馬/九郎兵衛/忠左衛門、致仕後号；時楽/自楽軒
- 02197 **重矩**(しげのり・進藤しんどう、) 1654-171865 出羽飽海郡吹浦大物忌神社の神官、国学者、邦実くにざね(1707出羽追放)の父、養嗣子；孫菅原重記しげのり(娘の息子)、
[重矩(；名)の通称] 官大夫
- S2104 **重規**(しげのり・鈴木すずき/本姓；穂積、別名；直峯、重宣男) 1664-172966 幕臣；1683大番/小納戸、藏奉行に昇進、1720失策により小普請に降格；赦免/28致仕、歌；烏丸光雄門、「未底記」、
[重規(；名)の通称/号]通称；権六郎/兵左衛門、号；直峯、法号；禪入
- S2105 **茂則**(しげのり・北村きたむら、通称；市兵衛) 1680-173657 近江浅井郡小柿村の和算家；沢口一之門、天文和算に長ず、伊藤家・のち小堀家に出仕、「八乗巾式」著
- C2182 **茂矩**(しげのり・近松ちかまつ/修姓；松、近松孫兵衛茂清男) 1697-177882 尾張藩士；1713側小姓、武芸；片山流居合・貴直流剣術・心念流棒術を修得、藩主徳川吉通に近侍、吉通発案の武道完成のため長沼流兵学を修学；太田教品・佐枝尹重門/一全流兵学を完成、神道；吉見幸和門/歌；観景窓長雄門/俳；各務支考門/儒；松崎睡軒・小出侗齋・宮崎古崖門、茶道にも通ず、「一全流講義」「一全流稽古目録」「兵法矩訓」など兵書著多数、「南海随筆」、1738随筆「近松昔咄むかしばなし」、「視聴謾筆」「俳諧不問語」「近松茂矩叢書」外著多数、
[茂矩(；名)の通称/号]通称；彦之進、
号；南海/囊玄子/鍊兵堂/練武堂/琴台/丁牧(；俳号)/正己堂
- Z2127 **重矩**(しげのり・高木たかぎ、号；午睡庵) ?-1747 大和葛下郡の和学者
- S2106 **重記**(しげのり・進藤しんどう、菅原太次兵衛3男) 1709-6961 羽前飽海郡吹浦村の神職；母の生家吹浦村大物忌神社家進藤官大夫重矩家を継嗣；重矩の実子邦実が追放のため、1752(宝暦2)神宮寺衆徒と境内地で争議、1753敗れて田川郡大山村に追放；同地の梶尾神社社家菅原大和に寄寓、1758余目茗荷瀬村で寺子屋を開設、1748「庵の禰覚」54「袖日記」59「出羽国田川郡式社考」62「出羽国風土略記」著、「羽州大社考」「出羽国大社考」「垣根草」著、
[重記(；名)の通称/号]通称；和泉/与兵衛/三太郎/伊織、号；蟬齋せんさい
- 02153 **重威**(しげのり・佐竹さたけ、旧姓；中原) 1717-9983 京の廷臣；近衛家に出仕/書博士、書；藤木(賀茂)司直もりなお/歌；大炊御門家孝(1747-99)門
[重威(；名)の字/通称/号]字；子儀、通称；石見守/甲斐守、号；蘭腕らんゑん/成遂軒/静休齋
- Z2117 **重矩**(しげのり・鈴木すずき、) 1721-179878 伊予の国学者/歌人、
[重矩(；名)の通称/号]通称；遂良/市太夫、号；楽庵
- S2107 **成徳**(しげのり・松本まつもと、通称；達夫) ?-? 備後尾道の商人、豪商松本重政の曾孫、1767「備後賀島記」編(；1662曾祖父重政の備後賀島受領記念)、「備後賀島詩巻」
- C2183 **成教**(しげのり/なりり・松井まつい、本姓；源) 1731-8656 江中期大炊御門おおいのみかど家の家侍、飛驒守、1781大炊御門家孝いえたか「落栗おちぐり物語」(随筆)の全部の筆者(；翻刻本奥書)
- S2108 **重法**(しげのり・柳井やない) ? - ? 江中後期備中松山の地誌家、1790「備中国巡礼記」著
- N2178 **茂乘**(しげのり・殿村とのむら、通称；米屋平右衛門) 1764-180138 大坂の両替商、歌人；加藤景範門、殿村茂濟しげまさの父
- S2109 **重規**(しげのり・小林こばやし) 1769-183567歳 下総香取村の神職；香取神社権判官/祠官、国学；平田篤胤門、天真正伝香取神刀流剣法に通ず、「経武二神同躰異名弁」/1833「香取志」著
- 02115 **重矩**(しげのり・河地かわち、河地藤助男) ?-1812 美濃大垣の総年寄役、大矢重門(材木商)の兄、国学；本居宣長門、河地定興の祖父、
[重矩(；名)の通称/屋号]通称；小右衛門、屋号；野口屋
- C2184 **重矩**(しげのり・吉田よしだ) ? - ? 江後期筑後柳川藩士/和算家；村田光隆門；溝口流規矩術を修得、1820「規矩術図解」著

- S2110 **重矩**(しげのり・大村おむら) 1778-1843 66 京の医者、歌人、「温疫論標記」著、
[重矩(；名)の字/通称/号]字；士準、通称；文輔、号；藍川らんせん/樵斎
- S2112 **重憲**(しげのり・大山おおやま、通称；矢五郎) ?-?1856以前没 羽後秋田の軍学者、
1811「武田信玄流兵法伝来系図」、「大山矢五郎日記」「重憲筆記」著
- M2169 **重徳**(しげのり・伊高いだか、通称；衛仲) 1789-1817 早世 29 筑前遠賀郡若松村の神官/国学・歌人
- E2184 **茂矩**(しげのり・二渡ふたたり/にたり、初姓；関口) 1792-1851 60 二渡綱彦の養子、関口杉邨の弟、
上州山田郡川内村高津戸の歌人、国学・歌；黒川春村門/家塾を開き子弟教育、
「かいのしづく」著
- R2103 **重則**(しげのり・下田しもだ/本姓；大江、通称；内記) ?-? 江後期；歌人、廷臣or幕臣？
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[見渡せば空も霞みて薄墨にかくか絵しまの春の夜の月]、
(大江戸倭歌；春181/江春月、絵島；淡路北端の岩山；歌枕)、
[更けぬるかもの音たかく聞ゆなり神もみかさの森の夜神楽](現存百人一首；73)
- N2100 **重則**(しげのり・永持ながもち) ? - ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、信州の国学者永持道寛との関係？、
[心からうきに沈みてかくばかりめでたき御代を何歎くらん](大江戸倭歌；雑1862)
- S2114 **重得**(しげのり・梅村うめむら、重保男) 1804-84 81 南部藩士；御物頭、各地代官を歴任、
和算家；志賀吉倫門/のち藤田嘉言・同定升・長谷川弘門、重操しげあや兄、
「環円廉術解」「初学算叢」「矩合便覧」「交商式理解」「算法奇賞解」「五明算法後集解」、
「傍斜捷解」「再訂算法解」/1855「開方翻変五条諺解」著、「算法側円真理」編、
[重得(；名)の通称/法号]通称；徳兵衛、法号；徳翁明念居士
- N2102 **重憲**(しげのり・安部あべ、通称；勘三郎) ?-? 江後期伊勢安濃郡の国学者；
本居春庭(1763-1828)・のち富樫広蔭(1793-1873)門
- S2115 **蕃教**(しげのり・吉田よしだ、蕃実男) ?-1856 讃岐高松の儒者/歌人；友安三冬(1788-62)門、
1845元占格、国学も修学、1852「神楽歌催馬楽辨解」著、北村安雅の師、
[蕃教(；名)の別号/通称]別名；蕃しげる、通称；甚助/八兵衛
- 02136 **重徳**(しげのり・黒部くろべ、) 1803-1871 69 伊予今治の国学者/歌人、
[重徳(；名)の通称/号]通称；武右衛門、号；積水/適庵
- 02114 **重教**(しげのり・河合かわい、) 1807- ? 近江彦根藩士/国学・歌；小原君雄(1752-1835)門、
歌：[鴉のうみ]入
[重教(；名)の通称/号]通称；順介、号；竹の舎たけのや
- N2180 **茂則**(しげのり・大野おおの) ? - 1875 伊予宇和郡麻生宮内の庄屋、
歌人；星野西村門、歌；伊予歌人録入、
[茂則(；名)の通称/号]通称；喜七郎/五郎左衛門、号；敬翁
- 02122 **重孝**(しげのり・北島きたじま、従孝男) ?-1866 出雲出雲郡の出雲国造家の生/神職、
北島全孝たけのり(1803-86/国造)の弟、国学者、勝孝の父、
[重孝(；名)の初名/通称]初名；繁孝、通称；豊主
- 02105 **重矩**(しげのり・門脇かどわき、通称；愛之助) 1813-55 43 伯耆米子の神職；稻荷神社祠官、国学者、
門脇重綾しげあや(藩士/神祇大祐)と同族
- Z2194 **繁憲**(しげのり・山内やまうち、繁樹[1774-1846]男) 1813-79 67 紀伊日高郡田辺の酒造業、
山内家は醸造業[松屋]を営む素封家で郷社須賀神社の祠掌に出仕する家柄、
母；紀州藩御典医野上応間女、国学者；父門/本居内遠門、のち南部の須賀神社祠官、
[繁憲(；名)の通称]保輔/太郎兵衛(父の称)/静太郎
- S2116 **成徳**(しげのり・桑原くわばら) 1818-1882 65 仙台藩士/藩校養賢堂助教、詩人、
「銃砲売買御規則書」編、
[成徳(；名)の通称/号]通称；愛之助、号；溶所/桃村
- S2117 **滋教**(しげのり・石園) ? - ? 江後期の歌人、
1842近世最末期の類題集「雲水和歌集」編(自序/付；穂井田忠友集)
- S2118 **重徳**(しげのり・久徳きゅうとく、第三郎2男) 1820-69 切腹 50 筑後久留米藩士；兄の早世で家督嗣、
使番格公事奉行、1864公武周旋役として上京；禁門変で奮戦/1866帰国；公事方勤務、

1868藩中老水野正名が実権を掌握；謹慎・知行没収処分を受/1869徳雲寺で切腹、
詩歌を嗜む、1864-67「久徳きゅうとく日記」著、
[重徳(；名)の別名/通称]別名；重之、通称；与十郎

N2148 **重範**(しげのり・上田うえだ、重光男)1825-9268 豊前築城郡の湊八幡宮祠官/少講義、歌；定村直孝門、
[重範(；名)の通称] 遠江守

02108 **重範**(しげのり・亀井かめい、)1827-189872 三河渥美郡吉田藩士、国学・神道；羽田野敬雄たかお門、
のち豊岡村神明宮社司、
[重範(；名)の通称]六良二ろくろうじ/六郎治

S2120 **重礼**(しげのり・鈴木すずき) ? - ? 江後期豊前小倉の長沼流兵法家
1856「長沼家学伝系」編、「職事考」

02134 **茂矩**(しげのり・黒木くろき、初名；重矩)1832-190574 讃岐那珂郡吉野村大宮神社神官、
国学；秋山惟恭(厳山)・奈良松莊・平田鉄胤門、黒木欽堂の父、
維新後；讃岐高松藩校講道館の教官/教部省の神道教導職/金刀比羅宮の禰宜、
「樛舎諄辞集」著、
[茂矩(；名)の字/通称/号]字；子芳、通称；倉太郎、号；蟬斎/樛舎きゆうしゃ/蕙圃けんぼ

S2119 **成範**(しげのり・寺村てらむら、成相3男)1834-9663 土佐高知藩士；藩政に参画；公武合体論を支持、
山内容堂の側用役；大政奉還建白副書に連署、1868伏見戦への出兵を批判；追放処分、
赦免後も政界に入らず、国学者、1650「寺村左膳手記」著、
[成範(；名)の別名/通称]別名；成種(；初名)/道成、通称；麟三郎/左膳、変名；日野春草

Z2171 **重意**(しげのり・羽生はにゅう、通称；儀右衛門)1838-190063 信濃伊那郡の国学者；平田鍊胤門

成範(しげのり・祝部) → 成範(なりのり・祝部、神主/歌人) H 3 2 9 8

成徳(しげのり・馬場/吉田) → 長淑(長叔ちようしゆく・吉田、蘭医者) F 2 8 9 6

重教(しげのり・前田) → 重教(しげみち・前田、藩主) S 2 1 8 0

重教(しげのり・城) → 竹窓(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8

重矩(しげのり・東郷) → 藤五左衛門(とうござえもん・東郷、兵法家) E 3 1 1 6

重紀(しげのり・岡嶋) → 重紀(じゅうき・岡嶋おかじま、俳人) O 2 1 0 6

重則(しげのり・堀江) → 林鴻(りんこう、堀江ほりえ、俳/浮世草子) K 4 9 2 2

重則(しげのり・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7

重典(しげのり・安藤) → 一訓(かずのり・安藤あんどう、歌人/吹奏) T 1 5 4 8

重範(しげのり・小山田) → 宗碩(そうせき・小山田おやまだ、藩医者) I 2 5 2 0

重彝(しげのり・内海) → 雲石(うんせき・内海うつみ、槍術/漢学者) D 1 2 8 6

重宣(しげのり・松井) → 重宣(じゅうせん・松井、俳人/狂歌) O 2 1 0 2

重儀(しげのり・日野) → 祖右衛門(そえもん・日野ひの、商家/国学) L 2 5 0 8

重徳(しげのり・寺田) → 重徳(じゅうとく・寺田てらだ、俳諧書肆) I 2 1 1 7

重徳(しげのり・平野) → 重徳(じゅうとく・平野ひらの、俳人) L 2 1 1 8

重徳(しげのり・大河内) → 存真(ぞんしん、大河内おおこうち/西山、医者) F 2 5 5 9

重徳(しげのり・大原) → 重徳(しげとみ/しげのり・大原おおはら、廷臣) S 2 1 1 3

重徳(しげのり・鈴木) → 直徳(なおのり・鈴木すずき、藩士/歌人) N 3 2 5 2

繁孝(しげのり・北島) → 重孝(しげのり・北島きたじま、神職/国学) O 2 1 2 2

茂則(しげのり・星野) → 勘左衛門(かんざえもん・星野、藩士/通し矢) G 1 5 2 9

繁八(しげはち・角) → 至善(のりよし・角すみ、酒造業/歌人) I 3 5 7 7

繁八郎(しげはちろう・原田) → 三昌(みつまさ・原田はらだ、国学者) K 4 1 1 6

C2185 **滋春**(しげはる/ともはる・在原ありわら、通称；在次の君、業平2男)?-? 905迄に没 廷臣；六位内舍人/歌人、
藤原三善六十賀に詠歌、「大和物語」著(；紹運録説)、諸国遍歴し甲斐に没(；大和物語)、
勅撰7首；古今(6首355/372/424/451/465/862)新勅(865)、
[鶴亀も千年ちとせののちは知らなくに飽かぬところにまかせ果ててむ]、
(古今；七賀355/藤原三善みよし六十むそちの賀の詠)

S2121 **重春**(しげはる・足助あすけ/本姓；源)?-? 南朝廷臣；四位/歌人、宗良親王と交流、
新葉集2首；276/818、

[心なきをばなが袖も露ぞおく秋はいかなるゆふべなるらん](新葉集;四秋276)

- S2122 **重治**(しげはる・田向たむけ、経家男/本姓;源)1452-1535⁸⁴ 戦国期廷臣;1488従三位左兵衛督/90参議、1492正三位/99権中納言/1501従二位/06中納言辞退/07兵部卿/14陸奥出羽按察使、1517正二位、晩年は失明/歩行困難;35没、郢曲;笙に秀づ、重経の父
連歌;1485「文明十七年夕何百韻」90「延徳二年何船百韻」参加、新菟玖波;7句入
- S2123 **重治**(しげはる・竹中たけなか/本姓;源、初名;重虎、重元男)1544-79³⁶ 美濃武将:守護斎藤竜興に出仕、1567竜興敗北後;相手の織田信長の家臣/信長の命で豊臣秀吉の与力/軍略に優れる、播州三木の陣に病没、「竹中軍記」「竹中百箇条」「軍法極秘伝書」著、重門しげかどの父、
[重治(;名)の通称/法名/法号]通称;半兵衛はんべえ、法名;水徹、法号;真見院
- S2124 **重春**(しげはる・初坂はつさか、通称;宇右衛門尉)?-? 江前期磯村流和算家;磯村吉徳門、1659刊「円方四卷記」著
- a2167 **重治**(しげはる・板垣いたがき、通称;善兵衛)?-? 江前期;武士、歌人、1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、
[たつのぼる向ひの山の夕けぶり見ぬ里までの秋のさびしさ](若むらさき;58/秋夕)、
[滝津瀬の音にいくたび寝覚して夢もながるゝ谷川の水](同;195/山家心)
- S2125 **重張**(しげはる・伊地知いちぢ、初名;重英)1656-1702⁴⁷ 薩摩藩士/1680御文書并記録奉行、古書に精通、御文書改の命を受け徳之島赴任;同地没、「伊地知助右衛門雑記」著、
[重張(;名)の通称/法号]通称;勝八郎/周八郎/助右衛門、法号;一見自性居士
- S2126 **重治**(しげはる・千村ちむら) ? - ? 江前期尾張藩士;1682出仕/藩主徳川綱誠の小姓、のち大番頭;千石、1724致仕、1699「源誠公御嘉言善行」著、
[重治(;名)の通称/号]通称;大作/内膳/数馬、号;英山
- S2127 **茂春**(しげはる・佐藤さとう、為房2男)?-? 江前期元禄宝永1688-1711頃撰津高槻藩士、和算家;古郡某門/京の沢口一之門、1698「算法天元指南」著
- S2128 **重治**(しげはる・植田うゑだ/本姓;多おの)?-? 1737存 江中期大和十市郡の多お神社神主、1737「大和国十市郡多大明神社記」著
- S2129 **重治**(しげはる・鈴木すずき) ? - ? 江中期名古屋の長沼流兵法家;近松茂矩門、1736「用間伝解」受、「用間伝解口伝書」著
- S2130 **繁治**(しげはる・青方あかた、白浜景寿3男)1767-1841⁷⁵ 青方峻精の養嗣子、肥前福江藩士、1782表当番名代組/91中老兼用人/95養父の遺跡継嗣;家老、藩内外の政事に尽力、1808英船フェートン号事件に軍兵を率い長崎に赴く、1826致仕;風雅の道に遊ぶ、1824「宇久島行誌」31「高五石」、「賀正指南」「鷗山君御直筆御日記書抜」著、受領目録多数、
[繁治(;名)の幼名/初名/通称/号]幼名;盈吉、初名;景尚、通称;田宮/固/弥五左衛門、号;顎山がくざん、法号;輔仁堂
- S2131 **重春**(しげはる・加藤かとう/本姓;藤原、通称;九十九)?-? 江戸後期神道家;神祇管領二位殿門、神祇管領二位殿はト部良連orト部良長、1824刊「神道麓之立石」著
- 02143 **滋治**(しげはる・小村こむら、)1800-1878⁷⁹ 周防岩国藩士、国学者、
[滋治(;名)の別名/通称/号]別名;為絢/晃、通称;源五郎、号;無心/雪翁
- C2186 **重春**(しげはる・柳斎りゅうさい・梅丸斎・滝川・烽山、山口善右衛門男)1802-52⁵¹ 肥前長崎鍛冶屋町の生、父は長崎の両替商大島屋主人、幼時大阪に出て三津寺町住/絵師;滝川国広門/役者絵習得、1822柳川重信門、役者絵/読本・絵入根本の挿画・芝居看板を制作、1808「青霄鄙物語」1828「絵本金石譚」29「都鄙物語」30「琴松譚」41「三傑奇譚」51「大会吾妻諷」外画多数、
[柳斎重春(;号)の名/通称/別号]名;安秀やすひで、通称;甚次郎/甚治郎、
別号;長崎国重/梅丸斎国重/梅丸斎重春/滝川国重/滝川重春/柳斎/玉柳亭/玉柳斎、
山口重春/烽山重春/日華/崎陽亭きやうてい、法号;烽山柳春居士
- N2115 **重春**(しげはる・赤司あかし、通称;万歳)1825-74⁵⁰ 筑後久留米の国学者
- Z2144 **重治**(しげはる・津田つた、通称;廉平)?-1875 筑後久留米藩士、
国学/歌;西田直養なおかい(1793-1865)門
- C2187 **重春**(しげはる・渡辺わたなべ、重蔭長男)1831-90⁶⁰ 母;竹田津重任女、代々豊前中津古表八幡社神主、神道(家学)修得/国学;定村直孝(祖父重名の門人)門、1850大坂の萩原広道・佐久良東雄門、さらに松浦道輔・京の大国隆正・伊勢の足代弘訓・御巫清直門/平田篤胤没後門、

- 1847従五下上野介、1871中津藩校進脩館教授、廃藩後は広田社大宮司・竜田社大宮司、
 塙で病没、1863「豊前志」、「休暇漫筆」「古史伝拾遺」「六史提要」「桜園長歌集」外著多数、
 [重春(；名)の幼名/号]幼名；竹之丞、号；桜園/欽英書屋、重石丸いかりの兄、重兄の父
- S2132 **重治**(しげはる・丹治たじ、別名；賜)1837-191074 岩代信夫郡金沢村和算家；1850(14歳)野地豊成門、
 最上流和算；宍戸政彝まさつね(；二本松藩士/渡辺一門)門、1857「改正算法」60「算法円理」、
 1865「全解算法」編、「算題集」「算法還累術」「算法弧背術」「算法称平術」編、外編著多数、
 [重治(；名)の字/通称/号]字；子通、通称；久女之介/条之助/庄作/正作/昌作、
 号；明齋/王嶽
- 02195 **重晴**(しげはる・白川しらかわ、)1847-191973 阿波三好郡鴨神社の神職、
 国学・歌；岩雲花香はなかも
- 重晴(しげはる・山口) → 翠巖(すいがん・山口/糟谷、藩士/奉行) E 2 3 2 5
 重晴(しげはる・筒井つひ) → 庄兵衛(2世しょうべゑ・井筒屋、俳諧書肆) B 2 2 4 7
 重春(しげはる・坂宇右衛門) → 嘉明(よしあき・田原たむら、和算家/歌) B 4 7 8 7
 重春(しげはる・山田) → 東園(とうえん・山田、儒者/随筆) B 3 1 5 4
 重春(しげはる・山本) → 義信(よしのぶ・山本、絵師) F 4 7 6 0
 重春(しげはる・貝原) → 耻軒(ちけん・貝原、儒/史家) E 2 8 0 5
 重治(しげはる・安藤) → 重博(しげひろ・安藤あんど、藩主/連歌) S 2 1 4 4
 重治(しげはる・馬淵) → 宗畔(そうはん・馬淵まぶら、俳人) C 2 5 7 7
 重治(しげはる・中川) → 喜雲(きうん、俳人、仮名草子) 1 6 0 2
 重陽(しげはる・田近) → 長陽(ながはる・田近たぢか、藩士/神職) N 3 2 6 0
 茂治(しげはる・桜井) → 要親(としちか・桜井さくらい、代官/歌人) T 3 1 3 6
- 02146 **茂彦**(しげひこ・松本まつもと、)1756-183580 常陸の生/陸奥(会津)安達郡本宮の菓子商、
 国学；生駒熊文・小沼幸彦門、後藤幸雄の師、
 [茂彦(；名)の通称/号]通称；源兵衛、号；内木綿庵
- S2133 **茂彦**(しげひこ・松本まつき、範彦男/本姓；度会)1827-188963 伊勢外宮神官；1831外宮十禰宜、
 1862従三位；朝彦ともひと改名、68四禰宜/70三禰宜、光彦の父、1839「御祈御奉納物例書」、
 1849「嘉永二年嘉永遷宮引留下書」1852-60「永代大御神樂執行取計留帳」著、
 [茂彦(；初名)の幼名/後名]幼名；鶴丸、後名；朝彦ともひと
 [家系] 信彦-因彦-高彦-圭彦-栄彦-範彦-朝彦 ─ 美彦
 (茂彦) ─ 光彦
- 成彦(しげひこ・妻木) → 貞彦(さだひこ・妻木つまき、国学・神道家) J 2 0 3 9
 繁彦(しげひこ・浪合) → 胤凭(たねより・浪合なみあい、里正/国学) Y 2 6 7 5
- C2189 **重久**(しげひさ・賀茂かも、保久男?)?-? 平安期神職；神主/歌人、1182重保撰「月詣集」入、
 [なでしこを我が恋草のゆかりとてなづさふ露に袖ぞしほるる](月詣；五恋464)
- S2136 **重旧**(しげひさ・阿部あべ、四郎兵衛重信3男)1644?-171067? 叔父重朝の養子/江前期幕臣；
 1649父重信の遺跡のうち2百石を受；小普請/1656養父重朝の遺跡継嗣；7百石/書院番、
 1682出羽庄内藩主酒井忠真幼少のため保科正静と庄内に赴き政事を監す、
 1697千石を領す/98火事場目付、1682「庄内巡見記」83「羽州庄内旧記」著、
 [重旧(；名)の通称/法号]通称；杵之助/八之丞、法号；日欣
- S2134 **重久**(しげひさ・馬場ばば、政久男?)1663-173573 上州群馬郡北下村の医者/農桑・養蚕に従事、
 鋏の改良；[馬場鋏]を考案、稲穂を比較し等級化し農民指導、1712指導書「蚕養育手鑑」著、
 [重久(；名)の通称/法号]通称；三太夫、法号；長山智遠居士、治太夫信定の弟？
- S2135 **稠央**(しげひさ・岡田おかだ、金右衛門男)1784-185370 尾張藩士；小人目付/隠密懸、
 啓か(；国学者)の弟、「木曾巡行記」/1845「木曾山記」著
- a2107 **林久**(しげひさ・吉川よしかわ/本姓；藤原、通称；縫殿ぬい)1793-185765 常陸鹿島郡鹿島神宮神官、
 神道・国学・歌；富樫広蔭門
- S2137 **重尚**(しげひさ・鈴木すずき、号；茶溪)?-? 江後期箱館の漢学者/1858樺太を巡見、
 「蝦夷物産誌」/1860「唐太日記」62「東蝦夷目録」64「休明重記」著
- 茂久(しげひさ・島津) → 忠義(ただよし・島津しまづ、藩主/日記) R 2 6 3 9
 茂久(しげひさ・木内) → 保旧(やすひさ・木内きうち、神職/国学) C 4 5 7 4

- 成久(しげひさ・祝部) → 成久(なりひさ・祝部ほうりべ/はふりべ、神職/歌) I 3 2 0 4
 重久(しげひさ・佐羽) → 凌雲亭和海(りょううんていわかい・佐羽さば重久、狂歌) G 4 9 4 1
- S2138 **重栄**(しげひで・宇佐うさ) ? - ? 1335存 鎌倉南北期豊前宇佐八幡宮の神官;右筆、
 1335「宇佐八幡宮縁起」著
- P2135 **重秀**(しげひで・庭田にわた、重通孫/本姓源) 1608-50⁴³ 江前期廷臣:中将、雅純まさぎみの父、
 狂歌;1666「古今夷曲集」2首入、
 [年の内に春の小袖は一しほの浅黄とやせんこそめとやせん](古今夷曲集巻頭歌)
 (詞書「ふるとしに春立ちける日よめる」、浅黄あさはきは薄い藍染の浅葱色/こそめは紅の濃染)
 [本歌;年の内に春は来にけり一とせを去年とやいはむ今年とやいはむ/古今集巻頭歌)
- S2139 **重秀**(しげひで・上田うた) ? - ? 戦国/江戸初期の馬術家:上田流馬術の開祖、
 馬術;大坪流の細川左衛門佐さえものすけ康政(斎藤好玄の門人)門、
 伊勢安濃津の富田信高に出仕、「馬道書」著(伝)/「馬礼小笠原流秘書」著、
 [重秀(;)名の通称] 吉兵衛/但馬守、丹後守重国の父/吉之丞重時の祖父
- S2140 **重栄**(しげひで・朝原あさはら・安達、通称;文左衛門)?-? 江戸前期、幕臣浅野長武の家臣、朝原は母方姓、
 「朝原重栄覚書」著、浅野長矩の従弟、英政の父
- a2160 **重秀**(しげひで・荻原おぎわら、種重2男) 1658-1713⁶⁶ 母;横松家の娘、幕臣/旗本、甲斐の生、
 1674勘定方;五機内検地成功/83勘定組頭/87勘定頭差添役(吟味役)、
 1690(元禄3)佐渡奉行;金山再生と検地/重秀は管理通貨制度に通ずる経済観を有す;
 幕府権威下での初の信用貨幣制度導入;1695(元禄8)慶長金銀改鑄し元禄金・銀を鑄造、
 1696(元禄9)勘定奉行;禄2千石、従五下/近江守/1705加増;都合3200石、
 1709新将軍家宣の重臣会議;幕府財政再建策に重秀は貨幣改鑄策提案;新居白石と対立、
 銀座で永字銀鑄造;名目貨幣(信用通貨)に変更、しかし朝鮮貿易に支障;
 貨幣悪銭を国辱として白石や幕臣から弾劾;1712(正徳2)罷免、長男乗秀は越前で相続、
 成重の弟/重秀・小西正武の兄、妻;青柳道孝女/後妻;高木定清女、乗秀の父、
重秀の経済論:[貨幣は国家の造る所 瓦礫を以て之れに代へると雖もまさに行ふべし。
 今鑄る所の銅銭は悪薄と雖も尚ほ紙鈔に勝れり。之を行ひ遂ぐべし。](三王外記入)、
 ☆以後明治政府までこの信用貨幣理論は継承されなかった、
 [重秀(;)名の通称]彦次郎/五左衛門、戒名;日秀居士
- C2190 **重豪**(しげひで・島津しまづ/賜姓;松平、重年男) 1745-1833⁸⁹歳 母;島津貴儔女、
 1755(11歳)薩摩8代藩主;襲封/祖父継豊が後見役、従三位左近中将/薩摩守/上総介、
 学問に熱中;蘭学/本草学/博物学等、1773藩校設立/74医学院設立/79明時館(天文館)設立、
 火災等で財政窮乏、三女茂姫が将軍家斉に嫁したため華美生活;高輪下馬将軍と称される、
 1787家督を長男斉宣に譲渡するが前代の政治を否定したため激怒し隠居させ孫斉興を立、
 以後藩政の実権を掌握;調所広郷を登用し財政を再建、1767唐話辞書「南山俗語考」著、
 1767「長短雑話」編/1830「鳥名便覧」、「南山考講記」「成形図説」著、中国語・蘭語を話す、
 [重豪(;)名の幼名/別名/通称/号]幼名;善太郎、別名;久方/忠洪ただひろ、通称;兵庫/又三郎、
 号;南山/栄翁、法号;大信院
- P2161 **重栄**(しげひで・下村しもむら) ? - ? 江後期加賀藩士?、
 1855「南宮秘録」著(大聖寺藩主13代前田利行の事蹟)
- S2141 **重栄**(しげひで・鈴木すずき) 1829- 1899⁷¹歳 山形の飛脚業/最上流和算;高橋仲善門、
 測量術;伊藤英輔門、後藤算斎(高橋仲善の門人)門、
 「新神璧算法起源」「三先生追善献題辞」編、息子重量も和算家、水口静安ら門人多数、
 [重栄(;)名の幼名/通称/号]幼名;広告、通称;今介、号;量軒、屋号;鈴広、法号;积賢慶
- 02119 **茂栄**(しげひで・木村きむら、) 1851-1890⁴⁰ 伊予松山の国学者/歌人;松山藩士西村清臣門・
 国学;江戸の風間年繁門、国学;堀秀成門、木村信競のぶかつ述「藤衣」「道一言」の筆記、
 [茂栄(;)名の初名/通称/号]初名;信敬、通称;五郎、号;椿ノ廬/戸檀園(こきょうえん?)
- S2142 **重英**(しげひで・萩野はぎの) 1857- 1899⁴³歳 岩代会津若松桂林寺町の眼科医、
 沢田名垂「五家園家集」編、
 [重英(;)名の通称/号]通称;桐園、号;元硯、法号;硯徳院
- 重英(しげひで・伊地知) → 重張(しげはる・伊地知いちち、藩士/記録) S 2 1 2 5

重英(しげひで・太田) → 桃先(とうせん・太田、庄屋/俳人) G 3 1 0 9
 重栄(しげひで・鈴木) → 重栄(しげよし・鈴木すずき、幕臣/歌人) a 2 1 6 8
 重栄(しげひで・大沢) → 久守(ひさもり・大沢おおさわ、家司/記録) C 3 7 0 6
 重栄(しげひで・中里) → 鶴甫(かくほ・中里なかざと、藩医) K 1 5 4 3
 重栄(しげひで・白水) → 宇逸(ういつ・白水しろうず、詩歌/俳人) 1 2 1 3
 重栄(しげひで・海福かいふく/鈴木) → 主税(ちから・鈴木、藩政刷新/歌) C 2 8 3 0
 重栄(しげひで・山川) → 浩(ひろし・山川やまかわ、藩士/軍人/官僚) J 3 7 6 7
 重秀(しげひで・永原) → 重泰(しげやす・永原ながはら、武将/連歌) D 2 1 2 2
 重秀(しげひで・関) → 五葦(ごりゅう・関せき、藩士/和算) N 1 9 9 4

- a2152 **重仁親王**(しげひとしんのう、崇徳天皇第一皇子) 1140-1162²³ 母;法印信縁(藤原季実男)女、母は源行宗養女/崇徳天皇に出仕;兵衛佐局(歌人)、出生後藤原得子(美福門院)の養子、乳母;藤原宗子(平忠盛の継室/池禅尼)、1142(永治元)親王宣下/50三品、1155近衛天皇崩御;鳥羽院が弟雅仁親王を即位(後白河天皇)、保元乱後;仁和寺に出家、法名;空性、通称;**仁和寺一宮**、☆伝説;出家後父母の居る讃岐で生活;檀紙八幡神社に廟あり
 重仁親王母(しげひとしんのうのはは) → 兵衛佐(ひょうえのすけ・崇徳院、信縁女/歌人) F 3 7 0 8
 茂姫(しげひめ・島津) → 寔子(ただこ・近衛このえ/島津、広大院/家齊室) U 2 6 3 6
- C2191 **成衡**(しげひら・大江おおえ、挙周たからか[?-1046]男、赤染衛門の孫) ?-? 平安期漢学者・大学頭/従四上、書籍蒐集、大江匡房の父
- C2192 **重衡**(しげひら・平たいら、清盛5男) 1157-1184^{斬殺} 28 母;平時信女の時子、平安末期武将/廷臣、左馬守/中宮亮/藏人頭/1181従三位/左近権中将/83正三位、平家への謀反鎮圧に尽力、1180南都焼討の総大将;公家・僧侶の反感を買う/都落;84一谷で捕虜/85南都で処刑、「平重衡法然上人へ進上文字」著、歌人;月詣集入、玉葉1179、建礼門院右京大夫集など入、[住みなれしふるき都の恋しきは神もむかしに思ひしるらむ](玉葉集;旅歌1179)、[重衡(;名)の通称] 三位中将/本三位中将
- N2174 **重平**(しげひら・大河内おおこうち、通称;越後守) ?-1799 伊勢一志郡の雲出八幡神社社司/越後守、国学;谷川土清ことすが・土逸ことはや父子門
- Z2197 **繁平**(しげひら・山崎やまさき、通称;総兵衛/嘉兵衛) 1814-1887⁷⁴ 紀伊日高郡の国学者;本居内遠門
 重平(しげひら・石井) → 嘉重(よししげ・石井いひい/鈴木、料理人) D 4 7 6 4
 恵平(しげひら・林) → 恵忠(しげただ・林はやし、農業/歌人) Z 2 1 7 3
- S2143 **重広**(しげひろ・毛利もうり/本姓;大江、道元男) ?-? 室町後期の武家;越後守護上杉房定の家臣、越後刈羽郡鶴川庄安田条を本拠;1462父より所領を譲与、治部少輔/越中守、1471上杉房定の伯父房朝を討ち褒賞を受、87家督を息子清広に譲渡し出家(;性秀)、連歌:新菟玖波;2句入、[重広(;名)の幼名/法名]幼名;小八郎、法名;性秀しょうしゅう
- N2126 **重広**(しげひろ・伊高いだけ、通称;大蔵太夫、重則男) 1596-1681⁸⁶ 筑前遠賀郡二島村神官/歌人
- S2144 **重博**(しげひろ・安藤あんどう、重之男) 1640-98⁵⁹ 上州高崎藩主、1654従後下対馬守、1657祖父の遺領継嗣;64奏者番、1695備中松山に転封、連歌;1673寛文13年昌陸と百韻、[重博(;名)の幼名/別名/法号]幼名;伊勢千代/主税ちから、別名;重次/重貞/重治/重孝、法号;定恵院
- N2137 **重寛**(しげひろ・板倉いたくら、重種の長男) 1669-1721⁵³ 信濃坂木藩主;1683父蟄居隠居;家督継嗣;所領5万石のうち3万石を/残り2万石は従兄板倉重宣の分与、正室;亀井茲政女、1702(元禄15)陸奥福島に転封;福島初代藩主;城よ城下町を整備、従五下/甲斐守、国学、1717家督を長男重泰に譲り隠居、[重寛(;名)の初名/通称]初名;重長/重知、通称;千次郎/式部/甲斐守/将監
- S2145 **重広**(しげひろ・坂田さかた、通称;嘉左衛門) ?-? 江前期筑前の連歌作者、1678「延宝六年暁春一清重広両吟百韻」
- a2116 **重広**(しげひろ・有馬ありま、通称;次郎兵衛/治郎兵衛) 1641-1701⁷⁷ 旗本幕臣;700石、小普請組、歌人;茂睡[鳥の迹]入/1691了然尼[若むらさき]6首入、[春の色はかすめる空にみせてけり外山のみゆき消えずもあらなん]([鳥の迹]春15)

[けふといへば見ぬさかひなる霞をも宿ながらしる春はきにけり](若むらさき;冒頭)、
[重広の法号] 常的

- C2193 **重熙**(しげひろ・庭田にた/本姓;源、重孝男)1717-89 73 母;野宮定基女、廷臣;1740参議/41従三位、
1756権大納言;60辞任/79従一位/84出家、歌人;「詠草」(;広島大蔵書)、「雪十首和歌」、
「画賛草」「書札之礼統類聚抜書」編、1738「神宮申沙汰記」外記録多数、
[重熙(;名)の法名/法号]法名;堯真、法号;宝玉院、重嗣しげつぐの父
- S2146 **重熙**(しげひろ・前田また、吉徳男/本姓;菅原)1729-53 早世 25 母;鑄木家女の民(心鏡院)、江戸の生、
1746兄の加賀金沢藩主宗辰の嗣子/47(19歳)家督嗣;金沢藩主、正四下但馬・加賀守、歌人、
1751-53「謙徳公日記」52「松梅百首」、「謙徳公和歌詠草」著、
[重熙(;名)の幼名/初名/字/号]幼名;亀次郎、初名;利安、字;緝甫、号;尚古堂
法号;謙徳院
- N2127 **重弘**(しげひろ・伊高いたか、大庭盛方2男、通称;隠岐守)1752-73 早世 22 筑前遠賀郡畠山村里正の家、
遠賀郡二島村神官伊高重教の養子;1771(明和8)正六下隠岐守、歌人、病没;
養子重躬が家督嗣
- S2147 **重啓**(しげひろ・藤居ふい、字;士迪)?-? 京の本草学者;小野蘭山門、本草物産学を修得、
近江彦根藩士/藩命により琵琶湖・余吾湖の魚介類調査;彩色図譜製作、
1814「湖中産物図証」、「余吾湖魚譜」著
- Z2167 **重広**(しげひろ・服部はつとり、通称;庄兵衛)?-1860 安藝山県郡の紺屋職、
国学・歌;本居大平・後藤夷臣ひなのみ門
- a2110 **茂寛**(しげひろ・和田むね、初名;千穎)1812-? 越後蒲原郡の国学者;平田篤胤門、
[茂寛(;名)の通称]佐一郎
- 02128 **重広**(しげひろ・日下部くさかべ、)1815-99 85 飛騨益田郡の国学者/詩歌;富田節斎(礼彦)門、
[重広(;名)の通称/号]通称;三五郎、号;可笑
- S2148 **重熙**(しげひろ・一色いっしき)1823?-1892 70? 尾張藩士;1863家督嗣;禄2百石、1865明倫堂主事、
のち監生/維新後:愛知県師範学校教師、「姑射こや百詠」「続姑射百詠」「立志蒙求」著
[重熙(;名)の初名/通称/号]初名;重華、通称;兵吉/兵太夫、
号;長嶼ちやうしよ/麟斎/盤錯狂生/秋水長天
- N2124 **重弘**(しげひろ・有馬ありま/旧姓;加地)1826-79 54 筑後久留米藩国老有馬陳次のぶつぐの養子、
久留米藩家老に就任、国学者/歌人、
[花にもし立つ名もあらば梅が香を何にかこちて袖にとめまし](茂睡[鳥の迹]一春)、
[重弘(;名)の通称]主膳
- S2149 **重弘**(しげひろ・関せき) ? - ? 江戸末期伊予の漢学者、1858「近世名家詩鈔」著
- 02112 **重熙**(しげひろ・川越かわごえ、重定男)1840-1909 70 出羽仙北郡高梨村の神職;八幡神社神主;父を嗣、
国学;平田鉄胤門、
[重熙(;名)の通称]政司
- 02139 **茂大**(しげひろ・小林こばやし、)1843-1905 63 越前敦賀の国学者/歌人、
[茂大(;名)の通称/号]通称;宗助、号;来悠/至日園
- 成広(しげひろ・祝部) → 成広(なりひろ・祝部ほりべ/はふりべ、歌人) I 3 2 0 6
成広(しげひろ・守屋) → 中洲(ちゆうしゅう・守屋もりや、藩士/詩文) G 2 8 2 2
成裕(しげひろ・なりひろ・菊池) → 長良(ながよし・菊池きくち、和算家) G 3 2 4 6
茂広(しげひろ・松前) → 公広(きんひろ・松前まつまえ、藩主/連歌) R 1 6 7 2
茂弘(しげひろ・太田) → 道知(道智みちとも・太田/池上、藩士/歌) H 4 1 4 6
重広(しげひろ・日野) → 久左衛門(きゆうざえもん・日野ひの、商家/歌) V 1 6 0 6
重弘(しげひろ・杉) → 重通(しげみち・杉すぎ/平/多々良、武将/連歌) D 2 1 0 0
重弘(しげひろ・山田) → 静里(せいり・山田やまだ、商家/儒/歌) J 2 4 7 6
重祐(しげひろ・大道寺) → 友山(ゆうざん・大道寺/平、兵法家) B 4 6 8 8
重寛(しげひろ・島崎) → 正樹(まさき・島崎しまさき、庄屋/国学者) C 4 0 2 9
- C2194 **重房**(しげふさ・賀茂かも、重保男)?-? 平安期神職/歌人、1182重保「月詣和歌集」入、
[山桜咲きにけらしなきのふまでたづねかねつつ過ぎし梢こげゑに](月詣集;二107)、
重政・重信・実保・季保の兄弟、重兼・重綱の父

- a2132 **成房**(しげふさ・二階堂にかいどう/本姓;藤原、政賢男)?-? 母;智順(法名)、鎌倉幕臣;左衛門尉、通称五郎、行房(四郎左衛門尉)の弟、歌人;1310刊[柳風抄]入、
[まくらなるむしのうらみはききなれてとほちのしかにのこるゆめかな](柳風抄;秋88)
- S2150 **重房**(しげふさ・小槻おづき/壬生、小槻忠利男)1626-76 母;織田信貞(信長の9男)女、廷臣;660主殿頭、1663左大史/73従四下、「重房宿彌記」「重房宿彌要集」/1663-76「重房宿彌雑用私録」外多数
- S2151 **重房**(しげふさ・寺井てらい) ? - ? 江中期大阪安堂寺町の絵師;西川祐信門?/狩野派、絵本画制作;1749「絵本浜真砂」50「絵本千賀浦」51「絵本源氏物語」75-84「画本拾葉」、1752「画図伊勢物語」57「吾妻百人宝艸」62「絵本風流大学」70「絵本国見山」外画多数、
[重房(;名)の別名/号]別名;尚選(;初名)/尚房、号;雲蕉斎
- C2195 **重房**(しげふさ・吉田よしだ、通称;菱屋平七)?-? 江中期名古屋玉屋町の商家;米札を扱う、「享保年間筆記」「天明紀聞」「寛政紀聞」「紀行」「随筆」、1802「筑紫紀行」著
- S2152 **茂房**(しげふさ・青木あおき/旧姓;向井、本姓;源)?-1826 伊勢松阪の国学者;本居宣長門、「歎なげきの下露」著、
[茂房(;名)の初名/通称]初名;達房、通称;恒蔵/常蔵
重房(しげふさ・鈴木) → 梁満(梁万呂やなまる・鈴木、神職/国学) D 4 5 9 2
重房(しげふさ・宮地) → 常盤(ときわ・宮地みやじ/菅原、神道家) K 3 1 3 7
成藤(しげふさ・二階堂) → 成藤(なりふじ・二階堂、歌人) I 3 2 1 0
成藤(しげふさ・祝部はふりべ) → 成藤(なりふじ・祝部、歌人) I 3 2 1 1
- S2153 **重文**(しげふみ・松本まつもと、別名;重次/長文、藩士重統男)1679-1758⁸⁰ 岩代会津の人;1684頃家断絶、他家で養育/儒詩を修学;1702講所指南役、1705藩儒/06上京遊学/帰藩後侍講、藩主松平正容・容貞の事蹟・墓誌銘等を撰述、「御家訓抄」「徳翁霊神事実」、
[重文(;名)の通称/号]通称;新蔵、号;肅斎
- S2154 **重文**(しげふみ・村岡むらおか) ? - ? 江後期肥前長崎奉行所役人、1801「長崎志続編」補填
繁文(しげふみ・高山) → 麩罫(むい・高山、藩家老/俳人) C 3 7 3 3
- N2110 **重旧**(重布留しげふる・松岡まつおか)1821-95⁷⁵ 江後期;美作苦東郡市宮村中山大社神官、歌人;1849(嘉永2)平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、
[重旧(;名)の別名/通称]初名;重吉、通称;対馬
- a2112 **滋古**(しげふる・若山わかやま、初名;柴たすく)?-1811 大坂の国学者/古典・歌;荒木田久老(1746-1804)門、
村田春海(1746-1811)と清水浜臣(1776-1824)の師弟の確執に巻込まれる?、加藤千蔭(1735-1808)と親交;千蔭[うけらが花]入、
[滋古(;名)の通称/号]通称;藤九郎/但四郎、号;金花園
- N2162 **重穂**(しげほ・小串おぐし、通称;肥後守)1788-1838⁵¹ 伊勢桑名の多度神社宮司、国学;富樫広蔭門/歌人、妻;周防(すおう・歌人)
- N2105 **茂穂**(しげほ・足立あだち/初姓;鈴木)?-1862 撰津西宮の生/飛騨高山に住、国学;田中大秀門
[茂穂(;名)の通称] 和一よしかず?/猪一郎
- 02130 **茂穂**(しげほ・蔵田くらた/本姓;藤原、旧姓;小宮山)1811-1853⁴³ 佐渡相川の地役人蔵田家を継嗣、相川会津町に住/天保改革で登用;山方役/病没、歌人;上京し賀茂季鷹・香川景樹門、信中の父、蔵田茂樹(1798-1853)と同族、
[日にぬらし雨に羽ほすをし鴨のかけとやたのむ島崎の松](島崎;名所歌集)、
[かきりなき四方のあはれを誘ひきて野中の庵に秋風ぞ吹く](幽居秋風;現存歌選)、
[茂穂(;名)の通称/号]通称;(小宮山)純七/のち;友太夫、号;睡翁
茂穂(重穂しげほ・稲掛/本居) → 大平(おおひら・本居ももとおり/稲掛、国学者) 1 4 0 7
- C2196 **茂昌**(しげまさ・菅原すがわら) ? - ? 平安後期撰関家家司/歌人、1096藤原能実催「中宮権大夫家歌合」参加、
[けふ見れば山田の早苗おいにけりおそくもたごのひき植うるかな](能実歌合;五右10)
- C2197 **重政**(しげまさ・賀茂かも、重保男)1142-1225⁸⁴ 平安後期-鎌倉前期神職;片岡社禰宜、大田社祝、1221上賀茂神社神主、四位、歌人;文治建久185-99頃活動、1186・95・1200「経房家歌合」参加、1182重保撰;月詣集入、勅撰4首;千載(232)新古今(1130)新勅撰(414/567)、

[神山の松吹く風もけふよりは色はかはらで音おとぞ身にしむ](千載;秋232/社頭立秋)、
重信・重房・実保・季保・保高の兄弟、重長・政久・重実・幸重・高重の父

- S2155 **重政**(しげまさ・大高おたか/本姓;高階たかしな、重成しげなり男)?-? 南北期室町幕臣、右馬頭、
連歌;菟玖波1句入、
[夢の別れは移香うつりがもなし](菟玖波;十恋895/前句;独身はなほ秋風の身に入れて)
- S2156 **重将**(しげまさ・平たいら) ?- ? 南北期連歌作者、菟玖波集2句入、
[鳥の音を別れになして恨みはや](菟玖波;恋896/前句;今はよそにてあふ夜半もなし)
- S2157 **重政**(しげまさ・本庄/本莊ほんじょう/泉、福山藩士本庄重紹男)1606-7671 尾張生/兵法修業で諸国遍歴、
1639備前岡山藩主池田光政に出仕;のち浪人/1654備後福山藩に帰る;福山藩士、
岡山藩奉公構いのため嫡男重尚を立て後見として5百石を受、1667備後松永の塩田を完成、
「自白法鑑」「白沙人」「本庄随幻覚書」「本莊流砲術伝書」著、
[重政(;名)の字/通称/号]字;憐情、通称;左左衛門、号;露石/随幻、法号;如風院
- S2158 **重政**(しげまさ・大橋おおはし、重保長男)1618-7255 書家;青蓮院宮尊純親王・滝本坊昭乗門、
大橋流と称される、1631將軍家の右筆、徳川家光・家綱の手本を献上、
「大坂戦記」「大橋かな手本」「大橋書状集」「大橋重政書簡集」「大橋流書道伝授」外著多数、
[重政(;名)の通称/法名]通称;小三郎/長左衛門、法名;道樹、妻;一色範勝女
- Z2159 **重昌**(しげまさ・永田ながた、通称;喜左衛門)1618-46早世29 江戸の幕臣;幕府大番、和学修学、
永田重継しげつぐの父
- 02100 **重正**(しげまさ・梶かじ、) 1634 - 169966 江戸の幕臣;西城御留守居、国学者、
[重正(;名)の通称/号/法名]通称;長吉/四郎兵衛/和泉守、号;重政、法名;隆順
- S2159 **重昌**(しげまさ・吉田よしだ) ? - ? 江前期元禄1688-1700頃筑前福岡藩士、
航海軍学を研究;大坂長崎に数回航海、「江海風帆草」共編(宮本重利・勝野清中と)
- S2160 **重正**(しげまさ・弓場ゆみは、通称;荻右衛門、重吉男)?-1743? 尾張名古屋藩士;1695馬廻、
1713書物奉行、常心流馬術;長坂求右衛門勝次門/藩主徳川吉通の馬術師範、
のち随心流馬術の祖、「随心流執御全書」著
- S2170 **重昌**(しげまさ・加藤かとう、通称;六郎兵衛)?-? 江戸中期;相模戸塚の生/紀伊和歌山藩士、
「南竜公遺訓衍義」編(;南竜公は紀伊初代藩主徳川頼宣よりのぶ[1602-71])
1737「父母状講釈」著(;父母状は頼宣の教訓書)/51「断挫日蓮」著
- S2161 **茂雅**(しげまさ・美濃部みのべ、通称;団三郎)?-? 江中期土佐藩士;4百石馬廻、剣道;小林養仲門、
真心陰流剣術を習得、藩の師範役を務める、「剣道聞書」著
- S2162 **蕃昌**(しげまさ・箕輪みのわ、字;伯養/伯直、通称玄蕃、号;銭井斎/本姓;藤原)?-? 江中期天文家、
1750刊「天時占候」、「通気明弁」
- 2171 **茂正**(しげまさ・古川ふるかわ、通称;七郎兵衛)?-1782 丹波福知山藩士/郡奉行;地誌編纂に着手、
篠山藩の永戸貞著と分担で丹波地誌編纂中両者没;(茂正の息正路が1794「丹波志」完成)
- S2163 **重政**(しげまさ・山下やました、号;河州散人)?-? 河内大泉の文筆家;語学・地誌、
「字数節用集」「大全早引節用集」「増字早引節用集」編、「近江国大絵図」「播磨国細見図」著
- 2115 **重政**(初世しげまさ・北尾きたお、姓;中村、書肆須原屋三郎兵衛長男)1739-182082 江戸の絵師;
小伝馬町一丁目住/幼時より書画を好み絵本等独習;1754頃暦の版下作成、俳;谷素外門、
1765役者絵(紅摺絵)初作/大伝馬町三丁目転住;書・画業専念、北尾辰宣ときよのぶの画風に私淑、
安永1772-81頃独自の画風を興す;北尾派の祖、錦絵・浮絵制作/晩年根岸大塚住;挿画多数、
北尾政演(京伝)・北尾政美・窪俊満の師、政美の門弟北川美麿が二世を襲名、
錦絵;「浮世六玉川」「櫻川お仙」「東西南北美人」、絵本・挿画;1775「絵本世都よつの時」、
1786「絵本吾妻挾あづまからげ」88「絵本琵琶湖」90「通俗斎聖伝」98「四季文加しきのゆきかい」、
1799-1801「忠臣水滸伝」03「復讐奇談安積沼」/1805-27「花鳥写真図彙」(没後刊)、外画多数、
[北尾重政(;号)の幼名/名/字/別号]幼名;太郎吉、名;久五郎/左助/佐助/兼壽、字;非羸ひるい、
別号;繁昌/恭雅/花藍(;俳号)/碧水/紅翠軒/紅翠斎/一陽井/北峰/北鄒田夫/東都台嶺北鄒、
東都台嶺良溪樵夫/叡嶽良蹊樵夫/時雨岡逸民/恒酔夫/酔放逸人/北鄒酔放人、
北鄒酔飽人、法号;釈了巍居士
- S2164 **重全**(しげまさ・藤原ふじわら、長兵衛重邑男)1745-182379 藤原大学重河の養子、神職;外宮祠官、
御炊物忌/正四上/実家と養家を合して継承、書肆;出版活動、1772「明和続後神異記」、

[重全(；名)の通称]長之進/数馬/主水もんど/右京/長兵衛を継承?

- Z2181 **重政**(しげまさ・藤井ふじい、)1770-1836 67 備中賀陽郡の吉備津神社の社家、
国学・歌;藤井高尚たかなお門、重門しげかどの父、
[重政(；名)の通称/号]通称;権頭、号;竹の屋
- S2165 **重政**(2世しげまさ・北尾きたお、画姓;北川/喜多川/小川/歌川)1792-?1838 存 江戸の絵師:北尾政美門、
新乗物町河岸住、初姓;北川/喜多川/1810小川姓/1813-14頃歌川姓、1827北尾重政2世襲名、
錦絵;美人画/合巻挿絵を制作、1809合巻「十三金孝子勲績」画/1809-13三馬「浮世風呂」画、
1813-29一九「金草鞋かねのわらじ」のうち4・10・15・16・19編の画、1829種彦「関東小六昔舞台」画、
1830-37墨川亭雪麿「五虎猛勇伝」、1838「相撲忠義伝」画(これ以後没)など画多数、
[北尾重政(；号)の別号] 蕙麿/美麿/北川(小川)美丸よしまる/花藍齋/花蘭齋/一遊齋
- C2198 **茂濟**(しげまさ・殿村とのむら、米屋よねや伊太郎男)1795-1870 76 大阪の米穀・両替商;殿村本家を継嗣、
東横堀住/晩年剃髪し今宮に隠棲、歌人:村田春門・加藤敦善門、1823「もゝち鳥」編、
1851「類題三家和歌集」編、「草垣内くさかいと長歌稿」「草垣内くさかいと文稿」著、
巽斎そんさい「蒹葭堂けんかどう日記」を石居より贈られる、大野茂親しげちかの父、
[茂濟(；名)の字/通称/号]字;原明、通称;米屋平右衛門/磯次郎/伊三右衛門/真齋、
号;草垣内くさかいと/衆芳園/稗之舎かのや/桂庵
- S2166 **重正**(しげまさ・鹿島かしま) ? - ? 江後期天保1830-44頃まで存;伯耆米子の歌人、
1841「鮫玉集作者姓名録」編、
[重正(；名)の通称/号]通称;次助、号;翠の屋
- S2167 **成允**(しげまさ・荒尾あらお、成章しげあき男)1801-61 61歳 旗本/幕臣:土佐守/石見守、1820小納戸/小姓、
1851小姓頭/1852目付;海防掛兼任/1853(嘉永6)ロシア使節応接掛;露ブ[°]チャーチンと会談、
1854長崎奉行;55英使スターリングと会談、55オランダ商館長キョルチュスと日蘭予備約定調印、
1856アロー号事件の詳細を事情聴取(1858幕府に報告)/勘定奉行次席:日露追加条約調印、
ロシア使節プチャーチンと日露追加条約の商議;条約調印
1859(安政6)小普請奉行;本丸普請掛/60(万延元)田安家家老;在職中に没、
1857「通航一覽抄」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[たが家と知らぬ桜の花よりもかへさは月に送らるるかな](大江戸倭歌;267桜誰家)、
[かくばかり逢瀬よどめるおもひ川たれ柵しがらみをかけてせくらん](同;恋1478/稀恋)、
[成允(；名)の通称/法号]通称;平次郎/平八郎/土佐守/石見守、法号;興福院
- T2107 **重昌**(しげまさ・水野みずの/本姓;源、通称;新衛門)?-? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[朝霞匂へる色のあかぬ間にゆふべの雲ぞ花にかかれる](大江戸倭歌;春248/花下日暮)
- N2139 **殷政**(しげまさ・市岡いちおか/本姓;源、北原信雄7男)1813-88 76 信濃伊那郡座光寺村の庄屋の家、
国学者;平田篤胤門/歌人、尾張藩領信濃伊那郡中津川本陣経営の市岡家の養子/庄屋、
平田篤胤遺著の上木運動に参加、国学者北原稲雄の叔父/松尾多勢子の従兄、
屢々上京;勤王活動に奔走;間秀矩・間一太郎・西川吉輔らと交流、京の高橋正賢と交流、
1861降嫁する皇女和宮一行が宿泊/62篤胤「古史伝」上木事業に貢献、
1862長州藩の中津川会議に協力、64尾張藩主に長州征討中止を建白;御用金用立を拒否、
天狗党の武田耕雲齋ら幹部を本陣で歓迎、1868戊辰戦に岩倉具定の鎮撫軍嚮導役を担う、
維新後;1869笠松県に出仕;病で辞職/74中津川区長、藤村「夜明け前」のモデル
[秋はたゝ物をそおもふ暁の鳴の羽かきかきもたゆまで](中津川で福住清風らと歌会)
[殷政(；名)の別名/通称/号]別名;土衛、通称;主馬介/正蔵/長右衛門、号;日新亭
- S2168 **重昌**(しげまさ・日高ひだか、重興男)1817-77 61歳 江後期日向佐土原藩士;6石、
嘉永1848-54頃南蛮流町見ちようけん術;萩原兼敦門、藩の検地に採用/地図・測量器具を収集、
「南蛮流町見術書」/「諸方預銭利揚差引帳」/1848「頼母子講掛米預帳」著
- S2169 **重昌**(しげまさ・浅香あさか、徳之丞)?-? 江後期天保嘉永1830-54頃の和算家;山本時憲門、
1848「新法町見術」、「弧角算法」「新成算法」著
- Z2136 **茂正**(しげまさ・竹村たけむら、茂枝しげえ男)1836-97 62 伊豆君沢郡熊坂村の国学者・歌人;父門、
漢学;井阪適翁門、三島神社祠官、1869飯田守年・小川信邦と伊豆三島に皇学舎開設、
晩年;東京で房子内親王(北白川房子)に出仕、「豆州式内社考案」著、

- [茂正(；名)の字/通称/号]字；其徳、通称；秀太郎、号；檜園/山外高樹楼/穂向屋
02141 **重匡**(しげまさ・小林こばやし、)1838-190770 信濃伊那郡の国学者；佐々木弘綱門、
歌人；海上胤平門、
[重匡(；名)の通称/号]通称；偉三郎、号；寿舎
- N2140 **茂昌**(しげまさ・糸永いとなが、忠昌3男)1846-192075 豊前宇佐神宮祠官；小宮司/大教司、
国学者；物集高世・渡辺重春・平田鉄胤門、妻；益永護輔女の千年ちとせ(1839-89/歌人)、
1884大分県皇典講究所分所社掌/大講義
[茂昌(；名)の通称/号]通称；作之助/尾張、号；牧斎/榎廼舎/古照軒
- Z2124 **重正**(しげまさ・宗そう、)1847 - 190256 対馬巖原藩士、国学；本居豊穎とよかい・樋口平格門、
[重正(；名)の初名/通称]初名；義達、通称；善之允ぜんのすけ
- 重昌(しげまさ・林) → 直秀(なおひで・林はやし、幕臣/歌人) C 3 2 2 2
重昌(しげまさ・国友) → 古照軒(こしょうけん・国友くにとも、藩儒/教育) M 1 9 8 0
重昌(しげまさ・宮下) → 庄兵衛(しょうべえ・宮下みやした、年寄/国学) V 2 2 3 0
重政(しげまさ・毛利) → 兵橋(ひょうきつ・森もり/毛利もうり、武将) M 3 7 4 1
重政(しげまさ・古筆) → 了珉(りょうしゅう・古筆こひつ；5世、鑑定家) L 4 9 9 5
重政(しげまさ) → 重政(じゅうせい、俳人) X 2 1 8 1
重政(しげまさ・横山) → 徳布(とくふ・横山、俳人) L 3 1 3 1
重政(しげまさ・歌川) → 広重(3世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G 3 7 0 5
重正(しげまさ) → 重正(じゅうせい・鈴木、俳人) H 2 1 8 6
重誠(しげまさ・西池) → 重誠(しげのぶ・西池にしげ/賀茂、神職/歌) S 2 1 0 0
芝昌(しげまさ・西田) → 稲麿(いなまる・西田にしだ、庄屋/国学) B 1 1 1 2
茂正(しげまさ・三浦) → 浄心(じょうしん・三浦、武家/商人/天台僧/戯作) T 2 2 6 1
茂正(しげまさ・小中) → 南水(なんすい・小中、神官/俳人) J 3 2 2 1
茂正(しげまさ・高橋) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4
茂政(しげまさ・池田) → 茂政(もちまさ・池田、藩主/歌) B 4 4 6 9
茂政(しげまさ・森田) → 直政(なおまさ・森田、商家/古書画鑑定) C 3 2 4 3
繁雅(しげまさ・山田) → 得閑斎(とつかんさい・山田繁雅、狂歌) O 3 1 4 2
茂松(しげまつ・稲垣) → 寒翠(かんすい・稲垣いながき、儒者) R 1 5 1 3
重松(しげまつ・会田) → 安明(やすあき・会田あいだ、和算家) 4 5 8 0
繁松(しげまつ・新井) → 貞勝(ていしょう・新井、商家/国史/詩) B 3 0 2 2
繁丸(しげまる・清水) → 黙雷(もくらい；法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2
茂丸(しげまる・西四辻) → 公業(きんなり/きんなる・西四辻にしよつじ/高松、廷臣/歌) U 1 6 9 6
重丸(しげまる・武者小路) → 公野(きんの・武者小路むしやのこうじ/藤原、廷臣/歌) V 1 6 4 5
- S2171 **重麿**(しげまる・穂積ほづみ、鈴木増在男/本姓；穂積)1774-183764 伊予宇和島藩士；父継嗣/禄250石、
鉄砲頭、藩主伊達村寿・宗紀に出仕、本姓穂積に復す、国学者；本居大平門、伊予に国学普及、
「桜垣内家集」「ちぶりの日記」「書紀歌八重塩土」「忠婢サツ之伝」「神かねの日記」、
「神楽歌考後釈」「三代考論書」「楠軒正行戦功記」「言語之重弥木栄ことどのいかしやくはえ」著、
穂積重樹(宇和島藩校の国学教授)の父/穂積陳重のぶしげ・八束やつかの祖父、
本居大平撰「八十浦の玉」下巻下901；[天地の]長歌入、
[重麿(；名)の通称/号]通称；源兵衛/伊加志麻呂、号；桜垣内、
- P2129 **重満**(重麻呂しげまる・安藤あんどう、親重男/本姓；藤原)1783-184563歳 陸奥(岩代)郡山の神職；
陸奥二本松八幡社祠官、国学；今和泉八十二門/のち本居春庭・本居大平門、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[安達太良の高根かすめる今朝よりぞ麓の里も春を知りける](八十浦；681)
[重満(；名)の字/通称/号]字；子修、通称；大部/兵庫、号；修斎、安積良斎の兄
- N2160 **重麿**(しげまる・小河原おがわら/本姓；藤原、)1790-185162 信濃埴科郡の玉依比売命神社祠官、
国学；湯本山城門、
[重麿(；名)の別名/通称]初名；等(ひとし?)、通称；和吉/紀伊
- Z2191 **重麿**(しげまる・箕田みのだ、通称；豊後守)1808-7972 豊前田川郡の神職；赤村の我鹿あか神社祠官、
国学；青柳種信(種麿)門

- N2109 **重麿**(しげまる・矢木やぎ、通称;土佐)1831-? 美作久米郡埴和はが村埴和はが三之宮社の社司、歌人;1848(19歳)平賀元義の楯の舎塾入、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- W2184 **重麿**(しげまる・国富くにとみ、)? - ? 江後期;歌人、備前岡山の人?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[入あひの鐘は都にききてだにさびしきものを秋の山寺](大江戸倭歌;秋825/古寺秋夕)
重満(しげまる・丹治) → 経雄(つねお・丹治たじ、神職/歌人) F 2 9 8 9
茂丸(重丸しげまる・荷田/羽倉)→ 信章(のぶり・荷田かだ/羽倉、国学) C 3 5 7 4
- a2175 **重躬**(しげみ・秦はた、) ? - ? 鎌倉期;正応-嘉元(1288-1306)頃仙洞御所の隨身、観相に秀で官人:徒然草145段に北面の下野入道信願の落馬を予言した逸話入、徒然草66段の下毛野武勝と同時代の官人;[実躬卿記]入
- Z2119 **重視**(しげみ・鈴木すずき/旧姓;佐野、)1646-1703⁵⁸ 江戸幕臣旗本、駿河府中の町奉行、和学者/歌人、歌;茂睡[鳥之跡]入/1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[漕ぎいれん湊やいつこ行末も跡もいく重のなみのうらぶね](茂睡[鳥の迹]雑下691)、
[降るまゝに中々松の雪薄し重きが上はやがてこぼれて](若むらさき;94/雪)、
[重視(;名)の通称/法号]通称;駒之助/兵九郎/玄親、法号;洞水
- N2131 **重躬**(しげみ・伊高いだか/田部たなべ、)?-?安永(1772-81)頃没⁷¹ 筑前鞍手郡の生、筑前遠賀郡の伊高重弘の養嗣;二島村の神官継嗣、歌人、
[重躬(;名)の初名/通称]初名;千々彦、通称;帯刀/撰津守
- 02117 **茂見**(しげみ・木原きはら、通称;源蔵)1740 - 1817⁷⁸ 近江彦根藩老戸塚家家臣、国学・歌人;本多忠顕・小原君雄門、歌;1844野津基明編[彦根歌人伝・寿]入
- S2173 **成相**(しげみ・寺村てらむら) ? - 1854(70or82歳) 土佐高知藩士寺村成幹の養嗣子;1813家督嗣、1825側用役/27仕置役/1837惣領成寿に家督譲渡、歌道・故実;伊勢貞丈門、寺村成樹別荘湍顎斎で歌人・学者の集会催、1817「栄松記」36「山狐論」40「続日本紀問答」、「陰陽問答」「鑑直垂問答」「宇多天皇記」「元禄救民記」「はるのやま」「柳原の記」著、
[成相(;名)の通称]喜代之助/九郎太夫/主殿とも、成寿・成範の父
- 02155 **重見**(しげみ・佐藤さとう、通称;次郎八)1807-58⁵² 三河吉田の国学者/歌人;中山美石うまし門
- S2174 **重実**(しげみ・大原おはら/本姓;源/綾小路、重徳しげとみ男)1833-77殺害⁴⁵ 江末期廷臣/1853従四下、1854綾小路俊良の養子;俊実と改名/68大原に復す/戊辰戦争に海軍先鋒総督で活躍、1869酒田県知事/外務省書記官、1877強盗により殺害、1866「大原重実家記」、「大原重実私記」「大原重実卿家記」著、
[重実(;名)の幼名/別名]幼名;常丸、別名;俊実
- 繁実(しげみ→しげざね・岡谷)→ 繁実(しげざね・岡谷おかや、藩士/勤王家) S 2 1 7 5
茂美(しげみ・橋田) → 春湖(しゅんこ・橋田きつた、俳人) J 2 1 5 9
茂美(しげみ→しげよし・沢/伊勢)→ 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8
茂身(しげみ・塩屋/浅野屋)→ 佐平(さへい・浅野屋/塩屋、国学/勤王) L 2 0 5 4
重躬(しげみ・中島) → 孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) D 2 6 7 3
重実(しげみ・萱野) → 涓泉(けんせん・萱野かやの三平、俳人/藩士;討入) C 1 8 5 5
重見(しげみ・小泉) → 重明(しげあき・小泉こいずみ、歌人) Q 2 1 4 7
重視(しげみ・竹中) → 和順(かずより・竹中たけなか、藩士/文筆家) M 1 5 5 9
- C2199 **重道**(重通しげみち・源みなもと;六条源家、別名;信綱、基綱[1049-1117]男)?-? 平安後期廷臣;1128帥大夫/1150従五上/兵部少輔、琵琶を伝承、妙音院琵琶師範、伊賀守孝清の猶子、出家号;桂少輔、時俊(宮内卿/郢曲・琵琶伝承)の弟/敦経の兄、妻;心覚(叡山僧)の母(歌人)・源顕仲あきなか女(伯女)、資重・心覚(叡山僧/詞花歌人)・盛子(皇嘉門院治部卿/琵琶/歌人)の父、歌人;1128頭仲催「南宮歌合」(9月21日広田社境外撰社南宮の門妙社)、1128頭仲催「住吉歌合」(9月28日住吉社社頭)参加;妻の伯女も参加、
[ひくまのゆふつけおけるくらくらに声たててなく響虫かな](南宮歌;八番右15)
妻 → 心覚の母(続詞花集歌人) W 2 2 2 2
妻 → 伯女(はくのむすめ、神祇伯源顕仲女、歌人) D 3 6 7 9
- D2100 **重通**(しげみち・杉すぎ、弘重男/本姓;平・多々良)?-? 室町戦国期武将;周防大内家家臣/美作守、

連歌:主君大内政弘に随い上洛中1477宗祇と「文明九年正月二二日何船百韻」を興行、
1780[筑紫道記]の旅の宗祇を長門美祢郡大嶺の山荘に迎え連歌催、
[重通(;名)の別名/通称]別名;重弘、通称;小七郎、弘相・武道の父

- 2116 **重通**(しげみち・庭田にわた/本姓;源、重保の長男)1547-1598⁵² 母;広橋兼秀女、
安桃期廷臣;1572参議/74従三位/76中納言/85正二位/97権大納言、
歌人;1565飛鳥井雅敦の歌会参加/80頃天正内裏歌合参加、以後宮廷歌会で活躍、
1591「後陽成院一夜百首」(院と三臣;重通・高倉永孝・園基継の各百首詠)参加、
1594「一日百首」(5月25日詠出)著/96「後陽成院五日百首」参加、「庭田重通懐紙詠草」著、
狂歌:「古今夷曲集」入(514)、
[重通(;名)の別名/法名/法号]初名;重頼しげより/後名;重具しげとも、法名;良貞、法号;栄蓮院
- S2176 **重通**(しげみち・谷たに、通称;勘兵衛)?-? 江前期京の和学者/彫刻に通ず、「武将旗旌図」著
- D2102 **重道**(しげみち・木村) ? - ? 俳・近江住、1658梅盛「鸚鵡集」入
- S2177 **重道**(しげみち・板倉いたくら、重矩しげのり3男)1641-1705⁶⁵ 母;小出吉親女、叔父板倉重直の養子、
1672兄重良廃嫡により実家継嗣;1673父遺領下野烏山藩主;5万石襲封、従四下兵庫頭、
石見守/内膳正、寺社奉行/1680-81老中、81武州岩槻藩主;6万石;故あり免職、
1682信濃埴科郡坂木に蟄居、「篁軒詩稿」編、「伝芳集」編、
[重道(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;弁之助、後名;重種、通称;六左衛門、
法号;了空院
- S2178 **茂陸**(しげみち・吉田よしだ、金沢藩弓頭吉田茂清男)1667-1723⁵⁷ 金沢藩士;持弓頭・射手裁許を歴任、
吉田流左近右衛門派弓術を伝承:「吉田流大意要法」著、茂美の父、
[茂陸(;名)の幼名/初名/通称]幼名;権佐、初名;茂教、通称;左近右衛門
- S2179 **重軌**(しげみち・豊原とよはら)1681-1751^{71歳} 祖父佐助は出羽庄内藩士/3歳の時父没;家禄没収、
庄内藩に出仕;書院目付・郡奉行を歴任/1733酒田町奉行、国学者;古典研究、1750致仕、
「よしなし草」「流年録」「羽州庄内孝子伝」「塩梅問答」著、
[重軌(;名)の通称/号]通称;多助、号;止柳子
- S2180 **重教**(しげみち・前田まゐだ、吉徳男/本姓菅原)1741-86⁴⁶ 母;辻氏の女の流瀬(実成院)、加賀金沢生、
1753兄重靖没;養嗣子/54家督継嗣;加賀金沢藩主、1771致仕、室;千間子、齊広の父、
治脩はるながの養父;次代治脩の藩政を指揮、「江山集」「春鞍草」著、
[重教(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;健次郎、別名;利篤(初名)/重基、
字;道積、号;九臯/以寛斎、法号;泰雲院
妻は歌人 → 千間子(ちまこ・前田、徳川宗将女) F 2 8 3 9
- D2101 **重道**(しげみち・荻野おぎの) ? - 1842 尾張藩士;1803父を継嗣;禄50石/馬廻役/大番、
歌人;高松公祐門、上田甲斐子の師、家集「櫻乃屋集」「荻野重道詠草」著、
[重道(;名)の通称/号]通称;金吾/又市/又一郎、号;櫻乃屋
- S2181 **重道**(しげみち・阿部あべ) ? - ? 江戸末期出羽庄内鶴岡藩士;和算家、
石冢克孝・長谷川寛・千葉胤道門、1853「亀繞織数理」、「算法円理解」「阿部重道草稿」著、
「算法起源抄」「精要算法起源」著、「流西算翠」「算法容術集」「算法量地術」編、外編著多数、
[重道(;名)の幼名/通称/号]幼名;松次、通称;雄次、号;流西/務本
- S2182 **重道**(しげみち・井深いぶか) ? - ? 江戸後期歌人、
1863刊私撰集「橋蜘蛛はしくもで」編(;1861坂直明序/源氏物語巻名の題詠)
- 02181 **重道**(しげみち・島しま、本姓;出雲宿禰)1817-94⁷⁸ 出雲出雲郡の出雲大社上官島重老しげおの養子、
神道;養父島重老門/国学;中島広足門、出雲大社祠官/のち肥前長崎の浦上皇大神宮祠官、
広足中心の長崎伊勢宮連中による[十八番歌合]に入(広端・元智・信敏・望古ら12人)、
[重道(;名)の通称] 雅楽之助うたのすけ/讃岐守
- N2190 **重達**(しげみち・甲斐かい、右膳の長男)1838-64^{獄死}27 日向児湯郡邑主米良主膳に出仕、
神職の父の命で上京/国学・歌;赤松祐以(すけもち/すけゆき)門、尊攘派;諸藩の勤王派と交流、
1863(文久3)政変により父と共に人吉藩に捕縛;翌年(元治元)獄死、
[重達(;名)の別名/通称]初名;国衛、通称;大蔵
成通(しげみち・藤原) → 成通(なりみち・藤原ふじわら、大納言/歌人) 3 2 2 9

- 茂道(しげみち・萩原) → 正平(まさひら・萩原、国学/神道家) G 4 0 8 8
 重道(しげみち・近藤) → 竜翁(りゅうおう・近藤こんどう、神職) D 4 9 0 8
 重道(しげみち・高野) → 重方(しげかた・高野たかの、名主/歌人) Z 2 1 2 9
- D2103 **重光**(しげみつ・源みなもと、代明親王の長男)923-99876 母;藤原定方女、廷臣;942侍従/963右近中将、
 964参議/968正三位/991権大納言/992致仕、舞楽に長ず;「重光楽」作曲、
 歌:960内裏歌合参加、和漢朗詠・万代集入、勅撰3首;後撰(675/793)続後撰(1347)、
 [帰りけむ空も知られずをばすての山より出でし月を見し間まに]、
 (後撰集;恋675/詞書;女のもとより帰りて朝あしたにつかはしける)、
 (本歌;我が心慰めかねつ更級やをばすて山に照る月を見て[古今;雑上])
 [重光(;名)の通称] 致仕大納言
 娘2人 → 重光女(しげみつのむすめ・源)①②
- D2104 **重光**(しげみつ・裏松うらまつ/日野/本姓;藤原、裏松資康男)1370-141344 廷臣;1392参議/93従三位、
 1404従一位/1411大納言、没後贈左大臣、歌人;1407内裏九十番歌合参加、
 1412仙洞三席御会の和歌序執筆、連歌;1408応永十五年御会「何路百韻」「何木百韻」参加、
 勅撰2首;新続古今集195・715、
 [咲きかかる松は残らずうづもれておのれ木だかき春の藤波](新続古:春195/住吉社奉納)
 [重光(;名)の一字名/法号]一字名;桜、法号;広寿院
 兄弟;持光/義藤、姉妹;足利義満の妻康子/足利義持の妻栄子、
 息子;資方/義資、
 息女;観智院(重子;將軍義教の妻/義政の母)
- D2105 **重光**(しげみつ) ? - ? 室町期連歌作者、1472紹永催「美濃千句」連衆
- 02110 **重盈**(しげみつ・川喜田かわきた、)1709-9183 伊勢津の商家;川喜田久太夫家10代;光盛より嗣、
 国学;高松重季門、
 [重盈(;名)の初名/通称/号]初名;長義、通称;平四郎/久太夫、
 号;潭空(たんくう/但愚たんぐ/心阿/将佐/千町/驢風)
- S2183 **重光**(しげみつ・羽間ぼさま、昌光の長男)1716-7156 母;羽間家4代宗味女のつや、大阪の質商6代、
 妻;中野家の女の富、間はぼさま重富の父、1756-60頃「間氏系譜略伝」編、
 [重光(;名)の幼名/通称/号]幼名;求之助、通称;十一屋五郎兵衛、号;五鳳
- S2184 **重充**(しげみつ・高田たかだ、通称;四郎右衛門)?-? 天明1781-89頃京の心学講舎恭敬舎講師兼都講、
 1784「我守」著
- S2185 **茂光**(しげみつ・及川おいかわ、通称;又右衛門)?-? 江後期寛政89-1801頃の仙台藩士/御厩頭、
 馬術家;八丈流馬術の伝系者、二宮流馬術;及川勘助門/皆伝、
 「強身之鞍之書」「八条流馬上弓之巻」「二宮流馬上修羅之巻」「二宮流軍場聞書」著
- S2186 **重光**(しげみつ・川俣かわまた、遠浪斎重光)?-1855安政地震死 江戸絵師;柳川重信門?、
 「きやりくづし星月夜」「絵本武勇伝」著
- N2181 **重光**(しげみつ・大場おおば/本姓;藤原、)1815-9278 遠江豊田郡中泉郷の府八幡宮祠官/少講義、
 国学・歌人;石川依平よりひら・八木美穂よほ門、
 [重光(;名)の通称/号]通称;太中/多中、号;橘園
- Z2185 **重光**(しげみつ・藤本ふじもと、通称;原太郎)1819-43早世25 近江彦根藩士/歌人;正木通堯みちたか門、
 歌;[彦根歌人伝・続寿]入
- 02186 **重光**(しげみつ・十文字じゅうもんじ、木下正格3男)1842-190463 十文字重養の養嗣/伊勢神宮神職、
 世々会合年寄;郷政に参加、漢学;鷹羽雲淙門/皇典;平田鐵胤門、
 1862(文久2)伊勢神宮内宮権禰宜酒造大内人/正六上、尊攘運動に奔走;禁門の変参加、
 一時水戸藩に逃亡/伊勢神宮度会府たらひ御用掛兼監察/騎兵隊長、1900(明治33)神宮禰宜、
 [重光(;名)の別名/通称/号]別名;重遠、通称;格三郎/格造/大炊/讃岐、
 号;古青/古青山史/松栢有心居/遅月庵
- 成光(しげみつ) → 成光(なりみつ・姓不詳、平安期歌;連歌) I 3 2 2 6
 成光(しげみつ・祝部) → 成光(なりみつ・祝部はふりべ、鎌南北期歌人) I 3 2 2 7
 重光(しげみつ・樋口/直江) → 兼統(かねつぐ・直江なおえ、武将/軍法) C 1 5 8 4
 重光(しげみつ・茨木) → 素因(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F 2 5 8 3

- 重光(しげみつ・木村) → 南冥(なんめい・木村、心学者) J 3 2 5 6
 重光(しげみつ・鷺津) → 毅堂(きどう・鷺津わしづ、儒者) G 1 6 0 1
 重充(しげみつ・鈴木) → 貞斎(ていさい・鈴木、儒者) 3 0 8 2
 重満(しげみつ・丹治) → 経雄(つねお・丹治たじ、神職/歌人) F 2 9 8 9
- D2106 **重光女**(しげみつのむすめ・源)① ? - ? 平安期 伊周と結婚/道雅(993?誕生)の母
 D2107 **重光女**(しげみつのむすめ・源)② ? - ? 平安期 道長と結婚/長信の母
 重嶺(しげみね・鈴木) → 重嶺(しげみね・鈴木、幕臣/国学/歌) C 2 1 6 5
- D2109 **重宗**(しげむね) ? - ? 戦国期、連歌作者、
 1496頃近江野洲郡永原にて永原重泰興行「永原千句」参加(宗祇兼載らと)、
 [鳥の音にやすらふ春の山路哉](永原千句;第六発句)
- D2110 **重宗**(しげむね・板倉いたくら、勝重かつしげ長男)1586-1656 71 母;栗生永勝女、駿府の幕臣;秀忠に近侍、
 近侍の三臣と称される(永井尚政・井上正就と)/1615大坂夏陣に従軍/20京都所司代、
 1624父の遺領継嗣;3万8千石/54所司代辞職/56下総関宿藩主、安楽庵策伝と交流、
 「新撰信長記」編、「板倉政要」に制定法令など入
 [重宗(;名)の初名/通称/法号]初名;重統、通称;十三郎/五郎八/又右衛門、法号;松雲院
 成宗(しげむね・藤原) → 成宗(なりむね・藤原、歌人) I 3 2 2 8
 成宗(しげむね・荒木田) → 成宗(なりむね・荒木田、神職/歌人) I 3 2 2 9
 茂宗(しげむね・阿部) → 雪麿(ゆきまろ・阿部あべ、俳人) F 4 6 6 5
- D2111 **重村**(しげむら・北条ほうじょう/本姓;平、政長の男)?-? 1331存 武将、鎌倉幕臣/五位刑部少輔/土佐守、
 時教の弟、歌人;拾遺現藻・臨永集入、勅撰4首;新後撰(819)玉葉(1973)続千載(630/1056)、
 [いかにせん心のうちのしがらみにあまりてかかる袖の涙を](新後撰;恋819)
- D2113 **重村**(しげむら・朝日あさひ、重次男)1634-1714 81 尾張藩士朝日重政の養嗣子;1675家督嗣、
 1675天守鍵奉行、神道;吉見幸勝・恒幸・幸和門、重章しげあきの父、
 「塵点録・鸚鵡籠中記」留書(:息子重章しげあき刊)、
 [重村(;名)の幼名/通称/号]幼名;九十郎、通称;定右衛門、号;敬意
- S2187 **重邑**(しげむら・藤原ふじむら/本姓度会、外宮副物忌中西弘忠男)1695-1771 77 藤原長兵衛重常の養子、
 伊勢山田一志町生/外宮祠官/養父は京の書肆と提携し出版業/1705(11歳)父没;家督、
 神宮書物出版;講古堂継承、神道書・伊勢案内書・俳書を出版、1707「神宮参拝記」著、
 1707「伊勢参宮按内記」22「世中百首絵鈔」注、「伊勢服忌令之略」著、
 [重邑(;名)の通称/号]通称;鞆負、号;講古堂、重全しげまさの父
- D2112 **重村**(しげむら・伊達だて/本姓藤原、藩主宗村2男)1742-96 55 母;坂信之女信子、1747世子/56家督継、
 陸前仙台7代藩主、従四上/左近権中將/陸奥守/左兵衛督、高橋与右衛門・田辺希元を侍講、
 歌人;冷泉為村門/日野資枝より秘伝を受/柳沢光綱・近衛家熙門、
 土井利徳・毛利重就らと唱和、[封内風土記]等を編纂させる、家集「朧月まぐげ集」、
 1758「詩歌集」67「重村朝臣百首和歌」72「青根御湯浴之記」79「安永八年鹿島道の記」、
 「知々精義」「徹山公詠歌」「日野家御褒美点之詠歌」外著多数、石野広通「霞関集」入、
 [秋近き程は草葉に見えそめて此の頃しげき野辺の夕露](霞関;夏351/野草秋近)、
 妻;広幡長忠女の年子のぶこ、噺子とんこ(歌人)・斎村なりむらの父、吉村の孫、
 [重村(;名)の幼名/初名/通称/号]幼名;儀八郎、初名;国村、通称;藤次郎、号;徹山、
 法号;叡明院
- S2188 **茂村**(しげむら・伊達だて、一関藩主田村邦行男)1850-67 夭逝 18歳 母;阿倍左門正算女、
 陸前仙台藩主伊達慶邦の養子、従四下/侍従/美作守、家督継嗣前に没、「旅宿時雨和歌」著
 [茂村(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;磐次郎、別名;通頭(;初名)/庸村、
 通称;総次郎、法号;諧孝院
 茂村(しげむら・蒲) → 正村(まさむら・蒲がき/長谷川、神職/国学) O 4 0 9 8
- S2189 **繁茂**(しげもち/のりしげ・平たいら、信繁のふしげ[信阿]男)?-? 鎌倉期廷臣;蔵人/左衛門尉/従五上、遠繁の父、
 阿仏尼[叔父度繁のりしげの養女]の従兄、出家、歌;続後撰1264;後堀河院崩[1234]命日の詠、
 [見し夢の別れにあたる月日こそうしとでもなほかたみなりけり](続後撰;雑1264)
- D2114 **重茂**(しげもち・高こう/本姓高階、初名;師茂、法名;源秀、師重男)?-?1368存? 武将;尊氏家臣/戦功、
 左衛門尉/1337武蔵守/引付頭人、43駿河守/晩年入道;法師、

歌人:1336住吉法楽和歌/44金剛三昧院奉納歌参加、1364一万句作者入、
勅撰3首;風雅1513/新拾遺1636/新後拾遺816、
[ほさでけふいくかになりぬあまごろもたみののしまのさみだれの比](風雅1513)、
[久堅の月の桂の紅葉ばは時雨ぬ時ぞ色まさりける](新拾遺;雑1636)

- S2190 **重茂**(しげもち・相賀あいが、通称;永次郎、光重男?)?-? 室町末期播磨赤松家の家臣、武家、
1574「置塩夜話」著
- S2191 **重以**(しげもち・津田つた、重久男)?-1658 加賀金沢藩士/前田利長の家臣;大坂陣に戦功、
大小将番頭/御小将頭/人持組3千石、「中川八郎右衛門・津田源右衛門連署状」著、
[重以(;名)の通称] 外記/源右衛門
- S2192 **成以**(しげもち・渡辺/渡部わたなべ、成従しげつぐ男)1719-6850 岩代会津藩士/書家;京の持明院基雄門、
元文1746-41頃和漢二様の書法を修得/諸国遊歴し教授、会津に帰り父より唐様を修学、
藩の書家として活動、「鼎新斎連珠集」「母衣幡書法」「右筆心得」「花押式」著、成興の父、
[成以(;名)の通称/号]通称;多門、号;鼎新斎/文童
- 重以(しげもち・谷口) → 重以(じゅうい・谷口たにくち、俳人/歌人) G 2 1 8 0
重茂(しげもち・藤原) → 静蓮(じょうれん;法諱、真言高野山僧/歌) C 2 2 0 6
成茂(しげもち・祝部) → 成茂(なりしげ・祝部はふりべ、神職/歌人) H 3 2 3 8
- 2117 **滋幹**(しげもと・藤原ふじわら、国経男or国経父の長良男)?-931 母;在原棟梁女、廷臣;左近衛、
好色;大和物語に贈答、後撰651/781、
[ちはやぶる神ひきかけて誓ひてし言こともゆゝしくあらがふなゆめ](後撰;十一恋781)
母(少将滋幹の母)→ 敦忠母(あつただのは・藤原、在原棟梁女) B 1 0 3 2
女 → 滋幹女(しげもとのむすめ・藤原、後撰歌人) D 2 1 1 8
- D2115 **重基**(しげもと・藤原ふじわら、有佐男)?-1134 母;通宗女、平安後期廷臣;従五上中務少輔、
歌人;1118内大臣忠通歌合;前後度共に参加、後葉・万代・和漢兼作集入、詞花99・千歳714、
金葉集新編国歌大観解説(橋本公夏拾遺)26/50/51、
[秋の夜の月の光の漏る山は木この下したかげもさやけかりけり]、
(詞花集;秋99/藤原忠通歌合/後葉集134)
- D2116 **重基**(しげもと・平たいら) ? - ? 南北期武将;五位遠江守、
1368足利義詮の遺骨を関東に持参する一行に参加;その間出家(;花営三代記入)、
1380宇都宮氏と小山氏の合戦の詳細を京に注進(;花営三代記・迎陽記入)
歌人;1364頃成立「一万首作者」入/勅撰3首;新拾遺(981)新後拾遺(646/1361)、
[うき人の心の関と成りはててなほ越えがたき逢坂の山](新拾遺;恋981)
[重基(;名)の通称/法名]通称;渋谷遠江守(;1366吉田家日次記)、法名;道喜
- S2193 **重基**(しげもと・紀き/家名;山口、宗岡中治男)1654-168936 母;矢沢豊前女、廷臣;右史生/淡路目、
1685従五下/87神祇大祐、1669「豊受皇太神宮正遷宮御装束神宝調進式目」87「紀重基記」著
- D2117 **重基**(しげもと・庭田わた/本姓;源、重能男)1799-184042 母;大炊御門家孝女、
一説;中山忠尹男で庭田重能の養嗣子、廷臣;1832参議/従三位/34正三位、日記・記録多数、
歌人、「庭田重基詠草」、1829「庭田重基職事日記」31-33「庭田重基日記」40「色紙備忘」など、
[重基(;名)の法号]得春院、嗣子の兄、重胤の父
- S2194 **重先**(しげもと・深尾、通称;鼎、重愷男)1827-9064 高知藩家老/佐川領主、1863山内容堂の諮問、
九門警衛の一隊を引率、国事奔走、「高知藩家老深尾重先上京日記」著
- N2153 **茂幹**(しげもと・漆戸うるしど/本姓;源、茂喬しげたか長男)1781-185373 陸奥盛岡南部藩士;加判格、歌人
- 成元(しげもと・橘) → 成元(なりもと・橘、歌人) I 3 2 3 2
成元(しげもと・藤原) → 成元(なりもと・藤原、歌人) I 3 2 3 3
茂元(しげもと・岸田) → 月窓(げっそう・岸田さした、詩文) H 1 8 1 9
茂幹(しげもと・毛内) → 雲林(うんりん・毛内もうない、藩士/絵師) E 1 2 9 3
茂幹(しげもと・塩屋/浅野屋)→ 佐平(さへい・浅野屋/塩屋、国学/勤王) L 2 0 5 4
繁幹(しげもと・毛利) → 黙翁(もくおう・毛利もうり、国学者) L 4 4 6 8
重本(しげもと・美代) → 敦本(あつもと・美代みしろ、儒者/医) E 1 0 8 9
重元(しげもと・土岐) → 敦山(あつのお・土岐、医者) E 1 0 7 2
重元(しげもと・鈴木) → 一鳴(いちめい・鈴木すずき、藩士/儒者) G 1 1 4 4

- 重意(しげもと・田沼) → 意行(もとゆき・田沼たぬま、幕臣) E 4 4 5 8
 重基(しげもと・青山/井口) → 機山(きざん・井口いぐち/青山、儒者) K 1 6 6 2
 重基(しげもと・前田) → 重教(しげみち・前田/菅原、藩主) S 2 1 8 0
 重許(しげもと・小栗) → 広伴(ひろとも・小栗おぐり、国学/歌人) G 3 7 5 4
 重職(しげもと・野田/宮崎) → 睡鷗(すいおう・宮崎/野田、藩士/武芸家) E 2 3 1 7
 滋幹母(しげもとのかは) → 敦忠母(あつただのは・藤原、在原棟梁女) B 1 0 3 2
- D2118 **滋幹女**(しげもとのむすめ・藤原)?- ? 平中期歌人、紀友則女と交友、後撰1331
 [君をのみ信夫の里へゆくものを会津に山のはるけきやなぞ](後撰集;十九離別1331)
 (友則女が陸奥に行く時に遣わした歌/信夫は偲ぶを会津は会ひを掛ける)
- D2119 **重盛**(しげもり・平たいら、清盛の長男)1138-7942 母;高階基章女、武将/廷臣、保元平治乱で戦功、
 1159伊予守/63従三位/65参議/77正二位/内大臣兼右大将、79出家;没、
 平家物語に性は勤直温厚・忠孝心あり、宗盛・知盛・重衡の兄、資盛の父、「五常内義抄」著、
 歌人;自邸で菊合主催(;建礼門院右京大夫集入)、
 菟玖波集;1句入、[春熊野参詣の道中にここは秋の野里と聞いて、
 秋の野里は春めきにけり](菟玖波;1027/同行者の付句;見渡せばきり目の山は霞にて)、
 [重盛(;名)の法名/通称]法名;浄蓮/静蓮、通称;小松殿、小松内大臣/灯籠大臣
- Z2180 **茂弥**(しげや・藤井ふじ、旧姓;中西)1770-181849 備前賀陽郡の神職藤井高尚たかなの妻、
 夫(1764-1840)は吉備津神社宮司、歌人、高豊(1791-1825)の母/松野の祖母)、
 [茂弥(;名)の初名]繁野
- X2164 **重哉**(しげや・鈴木すずき) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、旗本幕臣鈴木重嶺げね(1814-98)との関係?、
 1860鋤柄助之「現存百人一首」入の[鈴木知足]との関係?、
 [立ちかへり野中の清水汲みみればもとの心の浅からぬかな]、
 (大江戸倭歌;恋1475/絶後逢恋)
 [波荒き蝦夷が千島の果てまでも光あまねき弓張の月](同;雑2023)
- N2167 **重哉**(しげや/しげちか・小原おはら、)1836-190267 備前岡山藩士/国学;上田及淵門、尊攘運動参加、
 新選組の密偵松山幾之助を斬殺;投獄/赦免、維新後;新政府刑法官に出仕、
 司法省判事;監獄制度改良に貢献;内務省監獄局次長、元老院議官/貴族院議員に勅選、
 画;松田翠崖門、従三位、「大日本獄制沿革史」著、
 [重哉(;名)の通称/号]通称;澄太郎、号;米華
- D2120 **重保**(しげやす・賀茂かも、重継男)1119-119173 上賀茂神社神職;1166権禰宜/69従四下/77神主、
 正四上、歌人;俊恵ら歌林苑の人と親交;経済的支援者、1178「別雷社歌合」催、
 1182尚齒会主催、寿永百首を賀茂社に奉納させそれを資料に1182「月詣つきもいで歌集」撰、
 勅撰18首;千載(7首150/200/432以下)新古(1669/1892)新勅(1247)続拾(859)玉(2首)以下、
 続詞花集入、
 [ほとゝぎすしのぶるころは山びこのこたふる声もほのかにぞする](千載;夏150/郭公)、
 [重保(;名)の号]藤木神主、重政・季保の父
 母 → 重保母(しげやすのは・賀茂かも、歌人) S 2 1 7 2
- D2121 **重泰**(しげやす・源みなもと) ? - ? 1338存 廷臣;大蔵少輔/五位、吉田定房に臣従?、
 延元1336以後南朝の廷臣/定房没後に出家、歌人、続現葉・臨永・松花集に入集、
 勅撰2首;続千載(1674)続後拾遺(930)、新葉集2首;1270/1365、
 [吉野山同じ桜の色ながらをられぬ花や峰の白雲](続千載集;雑上1674)
- D2122 **重泰**(しげやす・永原ながはら、改名;重秀、吉重男/本姓;藤原)?-1536 室町戦国期の武将、
 近江野洲郡永原の豪族(国人)、武将;永原城主、蒲生郡の馬淵家被官、重隆の父、
 経済力を蓄え足利政権に接近、菅原神社・牛頭天王社・御上社改築(1502御上神社文書入)、
 連歌興行;1496頃野洲郡永原菅原社で「永原千句」興行(;宗祇兼載紹永らを招聘)、
 [うつろはぬ日数ばかりや遅桜](永原千句;第五発句)、
 永原家代々;吉重一重泰(重秀)一重隆一重興一重虎
- P2136 **重保**(しげやす・庭田にわた、重親男/本姓;源)1525-9571 母;今出川季孝女、廷臣;1555参議/従三位、
 1575権大納言/76正二位、「重保朝臣日記」著、法名;良祐、重通しげみち・中御門資胤の父、

「晴豊重保消息」(勸修寺晴豊はれとと庭田重保)あり

- S2195 **重保**(しげやす・大橋おほし、重慶男)1582-1645⁶⁴ 河内志紀郡古室村書家、1584父討死後叔母に養育、豊臣秀次の命で南禅寺の以心国師に随従、秀次没後片桐且元の臣/豊臣秀頼の右筆、大坂陣後;1626徳川秀忠・家光の右筆/1633病で致仕剃髪/34法印、歌・連歌を嗜む、里村昌琢など南家・斎藤徳元と交流、「式部卿法印童慶百首」著/「光広沢庵等詠草」入、[重保(;)名]の幼名/通称/号]幼名;勝千代、通称;長左衛門/式部卿法印、号;云何/童慶(;)剃髪後)、重政しげまさの父
- S2196 **重恭**(しげやす・久徳きゆうとく、邑重男)?-? 江中期筑後久留米藩士、藩を代表する詩人、「米藩詩文選」22首入、1739「赤城義士弁」著、[重恭(;)名]の通称/号]通称;新七、号;淡居/半酔
- S2197 **重康**(しげやす・松井まつい、通称;玄蕃)?-? 江中期幕府採葉使、本草;阿倍照任門、享保1716-36頃植村政勝らと諸国採葉巡歴、1758「採葉使記」、「諸国採葉記」「諸国採葉日記」著、
- S2199 **重泰**(しげやす・吉野よし/麻統、通称;中務太夫)?-1819 江中後期;下総千葉郡南生実村の生;八剣八幡神社祠官、国学:平田篤胤門、「房総古説伝」5巻編/「房総名家伝」12巻著、1812「式外神名考」著、「本朝神社考記」著
- S2198 **以寧**(しげやす・小槻おつき/壬生、小槻敬義男)1793-1847⁵⁵ 母;入道孤雲女、廷臣;1802左大史/主殿頭、算博士/修理東大寺大仏長官/治部大輔/1847従三位弾正大弼、「以寧卿記」「秘書備忘」、「石清水臨時祭諸次第並図」「弘化度改元記」、1811「彗星出現考」1833-43「儀式日記」外多数
- N2191 **重安**(しげやす・池田いげだ、今村治郎右衛門重宗の長男)1812-53⁴² 信濃伊那郡座光寺村の歌人;笹垣(福住)清風せいふう門、北原因信・北原信質・佐々木吉晴・田山純富・串原祥房と交流 [重安(;)名]の通称]通称;弥平/隆左衛門、法号;潭底秋月居士
- 重靖(しげやす・前田) → 重靖(しげのぶ・前田、藩主/詩歌) R 2 1 9 6
重泰(しげやす・日野) → 久左衛門(きゆうざえもん・日野ひの、商家/歌) V 1 6 0 6
重保(茂保しげやす・中西) → 多豆伎(たずき・中西なかにし、国学者/歌) P 2 6 0 0
重安(しげやす・上田) → 宗筋(そうこ・上田うえだ、家老/茶人) H 2 5 2 0
重安(しげやす・鈴木) → 梁満(りやうまん・鈴木、神職/国学) D 4 5 9 2
重巽(しげやす・吹原) → 九郎三郎(くろさぶろう・吹原ふきはら、商家/国学) E 1 7 4 7
茂泰(しげやす・長沢) → 赤水(せきすい・長沢ながさわ、名;茂泰) K 2 4 2 6
茂泰(しげやす・長沢) → 刀水(とうすい・長沢、巡察紀行文) F 3 1 8 0
成保(しげやす・松本) → 成保(せいほ・松本まつもと、国学者) O 2 4 4 9
成裕(しげやす・沢田) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学者) 3 2 2 3
- S2172 **重保母**(しげやすのはは・賀茂かも、重継の妻)?-? 平安期歌人;1182重保撰「月詣和歌集」入、[すすめいだす三みつの車のわづかにも導みちひかれぬときくよしもがな](月詣;釈教1047)、(一品経すすめて釈す時男のみ出かけるに法華経譬喩品の心を詠む)
- 蕃山了介(しげやまりょうかい) → 蕃山(ばんざん・熊沢) 3 6 4 2
- 2118 **重之**(しげゆき・源みなもと、源兼信男)931?-1000⁷⁰? 伯父源兼忠の養子、平安中期廷臣;従五下、春宮坊[冷泉天皇東宮時代]の帯刀長(先生せんじょう)/右近衛将監/左馬助/976相模権守、995陸奥守藤原実方に随従;陸奥に土着、陸奥で没、歌人;最古の「百首和歌」撰(帯刀長在任中に東宮[のち冷泉天皇]に献上)、977三条左大臣家歌合参加、家集「重之集」、如意宝集・金玉・玄々5首・新撰朗詠・後葉集・続詞花集3首・雲葉集等入集、勅撰71首;拾遺(13首4/81/83/223以下)後拾(15首168/216/219以下)金葉(3首1/270/339)、詞花(6/211)新古(11首28/119/120以下)新勅(76)続後撰(5首)続古(1240)以下、[吉野山峰の白雪いつ消えて今朝は霞の立ちかはらん](拾遺;春4/冷泉東宮時に献上)[風をいたみ岩うつ波のおのれのみくだけで物を思ふころかな](詞花集;211)
- ☆重之母・重之女・重之子僧しげゆきのこのそうの歌がある
- D2124 **重如**(重之しげゆき・山口やまぐち/田口たぐち)?-? 平安中期河内の官人/六位、歌人、藤原伊周邸に出入(俊頼髓脳に逸話)、続詞花集(3首)、勅撰2首;後拾1167/新続古899、[住吉の松さへ変るものならば何か昔のしるしならまし](後拾遺;1167/住吉遷宮日の詠)

[河内に下りて日頃侍りける人の上らむとする時、君を置きてかへるそらよしなど、
いへりける返しに、

心をば君にたぐふる旅なればわれもとどまる心地やはする](続詞花;別689)

[重如(;)名)の通称/法名]通称;河内重如/山次郎判官代、法名;蓮仲(;)袋草紙入)

娘も歌人 → 重如女(しげゆきのむすめ・山口/歌人) a 2 1 5 3

☆田口たぐち重如と同一か?(金葉集歌人;金葉集Ⅱ645/646/Ⅲ637;俊頼髓脳には河内重如の歌)、

[草の葉に門出かどではしたり時鳥死出での山路もかくや露けき](金葉集;雑645)、

(人[俊頼髓脳;伊周]の邸で急に瀕死状態になり死の触穢を避け大路に置かれたところ、

草の露が足に触れ時鳥[異称;死出の田長たおさ/死出の山から来て鳴くという俗承]が鳴

き、息を吹き返して詠む)、(かくてついに絶命するといつて詠む辞世の歌)、

[弛たゆみなく心をかくる弥陀仏みだほけひとやりならぬ誓ひたがふな](金葉集;雑646)、

(ひとやりならぬは仏の御心みずからの意で極楽往生への強い願望)、

叡山僧蓮仲と同一か → 蓮仲(れんちゆう、藤原為信男、後拾遺歌人) B 5 1 2 8

D2126 成之(しげゆき・細川ほそかわ/本姓;源、教祐男) 1434-1511 78 武将;伯父細川持常の養子;1449家督継嗣、

阿波・三河両国の守護、兵部少輔、讃岐守、幕府相伴衆、1462管領代として畠山義就と戦闘、

1467応仁乱;細川勝元(東軍)に参加;転戦、1478出家;道空/85阿波へ下国、歌・連歌に長ず、

若くして室町幕府の歌会に参加、「新撰菟玖波集」撰進事業を後援(1495成立)、

1494兼載より連歌論書「薄花桜」を進献、書画・能楽にも関心、新撰菟玖波集15句入、

[成之(;)名)の別名/通称/法名/法号]後の名;久之、通称;六郎、法名;道空、法号;慈雲院

D2125 茂之(しげゆき・藤岡ふじおか、通称;市郎兵衛)?-? 江前期京の和算家、1657「算元記」著

D2167 重之(しげゆき・佐伯さえき) ?-? 安藝広島の貞門系俳人、

1674安静「如意宝珠」79宗臣「詞林金玉集」入

D2127 重行(しげゆき) ?-? 俳人、1712?知足「千鳥掛」入

T2100 重之(しげゆき・久世くげ、広之3男/本姓;源) 1660-1720 61 下総関宿藩主;1679父遺領継嗣;5万石、

出雲・讃岐・大和守/従四下/侍従、備中庭瀬・丹波亀山・三河吉田に転封/1705関宿再封、

奏者番・若年寄歴任/1713老中;幕政の中心、漢籍精通;將軍綱吉に論語を講、

1719「享保調刀工名簿」編、

[重之(;)名)の通称/法号]通称;勝之助、法号;真如院

N2122 重行(しげゆき・荒川あらかわ、通称;源七郎/亀之助) 1665-1719 55 江戸の幕臣;大番、国学者

T2102 重行(しげゆき・鈴木すずき、通称;下総守) 1709-88 80 出羽(羽前)田川郡の田川八幡社の社司/歌、

「山路の紫折」「田川之桴」著

T2103 重行(しげゆき・白井しらい、久右衛門茂貞の長男) 1753-1812 60 出羽庄内藩士、儒;加賀山桃李門、

1780江戸遊学/1782帰藩;84家督継嗣;93郡代;農政改革実施;徳政を敷く、

1800鳥海山麓に新田開拓/1805藩校致道館開設の功で祭酒兼司業に選出/08中老、

妻;家老水野元朗女、藩内放逸派の首領と目される/1811赤敬派により敗退;隠居、

「東月集詩」「洪範解」「周易解」「周易断叢」「尚書国字解」「余燼集」著/「東月遺稿」、

[重行(;)名)の字/通称/号]字;子徳、通称;矢太夫/弥太由、号;東月

N2128 重行(しげゆき・天野あまの、通称;深蔵) 1766-1808 43 近江彦根藩士/歌人

T2104 成之(しげゆき・田中たなか) ?-? 因幡若桜わかさ藩医/本草家、

藩主池田定常[冠山]の遺志を継承;27か国の草木採集;1806「諸国名木編」著、

[成之(;)名)の字/号]字;叔信、号;見龍

T2105 茂先(しげゆき/しげとき/しげさき・齋田さいだ、初名;茂利、茂矩男) 1774-1815 32 遠江掛川藩士;1789中小姓、

膳番/家譜掛を歴任、儒者;1818家督嗣/大目付、学問と書に長ず、内山真竜と親交、

1806藩主太田資順の命で領内の地誌編纂;未完で没;

地誌「掛川誌稟(志稿)」編(山本忠英が継承し完成)、「秋萩帖」「尚古帖」著、

[茂先(;)名)の字/通称]字;士華、通称;小源太/三左衛門

T2106 成之(しげゆき・上田うえた/本姓;藤原、寧網3男) 1755-1826 72 京の書家・茶事に通ず、古器書画収蔵、

「大師寄進状」編、没後1854「俊成卿賀帖」刊行、

[成之(;)名)の字/通称/号]字;淳夫あつお、通称;理兵衛、号;止々斎、法号;止々斎専誉

Z2195 重之(しげゆき・山県やまがた/本姓;橘、通称;重助) 1796-1862 67 伯耆日野郡の国学者/歌人、

重知しげとも(1839-62/24歳)の祖父、1840(天保11)日野郡の孫四郎橋由来の記述;

[行く水はすめどにごれど諸人の世渡りやすき孫四郎橋](山県重助)

- D2129 **茂之**(しげゆき・堀田ほつた、年足としり男)1830-1907 78 母;貞子、尾張海東郡の津島神社祠官;父の嗣、右馬大夫家、歌人・熊谷直好門(母と同門)、1856「浦の汐貝拾遺」編、
[茂之(;名)の通称/号]通称;四郎、号;荔帷い
- N2150 **成行**(しげゆき・内田うちだ、吉田伝蔵男)1835-98 64 尾張名古屋の内田蘭渚の後裔の本町内田氏継嗣、
国学・歌人;植松茂岳しげおか門、酒を好み[酒百首]を詠
[成行(;名)の通称/屋号]通称;七三郎/壮兵衛、屋号;駒屋
- 02129 **重之**(しげゆき・櫛淵くしぶち、)1838-1910 73 上野利根郡の国学者;平田鉄胤門、
国学・歌;井上頼圀よりに・権田直助門、
[重之(;名)の初名/通称]初名;重波、通称;盛太郎/作右衛門
- | | | | |
|---------------|---|------------------------|-----------|
| 兄之(しげゆき・那波なば) | → | 五明(ごめい・吉川きつかわ、商家/俳人) | D 1 9 9 3 |
| 茂之(しげゆき・佐久間) | → | 東川(とうせん・佐久間さくま、幕臣/儒者) | G 3 1 1 4 |
| 成之(しげゆき・池嶋) | → | 成之(せい・池嶋、俳人/宗匠) | I 2 4 5 2 |
| 重之(しげゆき・石川) | → | 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) | S 2 2 5 7 |
| 重之(しげゆき・北川) | → | 祖因(そいん;法諱・了翁、臨済僧/詩人) | L 2 5 3 6 |
| 重之(しげゆき・久徳) | → | 重徳(しげのり・久徳きゆうとく、藩士/日記) | S 2 1 1 8 |
| 重之(しげゆき・三井) | → | 善庵(ぜんあん・三井みつゐ、眼科医) | L 2 4 5 8 |
| 重之(しげゆき・佐々木) | → | 柳庵(りゅうあん・佐々木ささき/青山、儒者) | C 4 9 6 8 |
| 重行(しげゆき・安藤) | → | 冠里(かんり・安藤あんどう、藩主/老中/俳) | E 1 5 2 0 |
| 重行(しげゆき;名・長山) | → | 重行(じゅうこう・長山ながやま、藩士/俳人) | X 2 1 2 4 |
| 重行(しげゆき・大橋) | → | 尚因(しょういん;通称・大橋おおはし、医者) | G 2 2 8 0 |
| 重行(しげゆき・比野) | → | 勘六(かんろく・比野ひの、藩士/鳥研究) | R 1 5 8 9 |
| 重幸(しげゆき・亀井) | → | 協従(きょうじゅう、亀井/源/亀、本草家) | N 1 6 9 3 |
| 重駕(しげゆき・正木) | → | 舎人(とねり・正木まさき、藩老/歌人) | W 3 1 4 5 |
| 重恭(しげゆき・川崎) | → | 重恭(しげたか・川崎かわさき、国学者) | R 2 1 2 3 |
| 重雪(しげゆき・白根) | → | 白根重雪(しらねのしげゆき、狂歌作者) | Q 2 2 3 3 |
- D2130 **重之子僧**(しげゆきのこのそう、源重之男)?-? 平安中期歌人、出家;吉野・熊野で修行、
一条朝の頃の家集「重之子僧集しげゆきのこのそうのしふ」(序によれば晩年の自選)、
源重之には男子多数あり人物の特定不能
- D2131 **重之母**(しげゆきのはは、源みなもと重之の母)?-? 平安中期の歌人、従五下侍従源兼信の妻、
拾遺545(;重之集では重之の代作としている)、
[親の親と思はましかば訪とひてまし我が子の子にはあらぬなるべし](拾遺集;雑545)、
(詞書;重之母が近江国府滞在中東国より急用で上京する孫が素通りしたのを皮肉る歌)
- D2132 **重之女**(しげゆきのむすめ・源みなもと)?-? 平安中期歌人、父の陸奥下向に同行?(重之集詞書)、
家集「重之女集」、勅撰18首;新古今(354)続古(260/837/1542)玉葉(7首322/577以下)以下、
[秋はたゞものをこそ思へ露かゝる萩の上吹く風につけても](新古今;秋354)、
(かかるは涙に濡れる袖に萩の露が吹きかかる意とこのような意のかかるを掛る)
- a2153 **重如女**(しげゆきのはは・山口やまぐち、)?-? 平安中後期歌人、重如は河内の官人/六位/歌人、
1165清輔[続詞花集]入、父も歌人、
[極楽のはちすの花のうへにこそ露の我が身はおかまほしけれ](続詞花;釈彊466)
- D2128 **繁世**(しげよ・横手よこて、本姓;源)?-? 上州の武将;上野新田庄領主新田[岩松]氏家臣、
歌;堯恵門/1502新田尚純とともに堯恵より「愚問賢注」を受、連歌作者、
1509宗長の[東路の都登]旅の折の下野壬生・鏝阿寺での連歌会に参加、新菟玖波集2句入、
[繁世(;名)の通称] 五郎/刑部少輔ぎょうぶしょう
芳純と同一説あり→ 芳純(ほうじゅん・木布庵、連歌;兼載門) B 3 9 6 5
- D2133 **重世**(しげよ・本多ほんだ、康重4男)1603-42 40歳 三河岡崎の幕臣旗本;1618小姓/御膳番/御書院番、
従五下/丹後守、法号;全貞、
歌人;飛鳥井雅章門、茂睡[鳥之跡]入/了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[今しばし紅葉ば枝に残るとも秋はあらしの山風ぞ吹く](茂睡[鳥の迹]秋419)、

[年をへて祈るしるしはつれなきをうき身のとがと思ひしりきは]、
(若むらさき;140/祈恋)、

[重世(:名)の通称/法号] 通称;長次郎/丹後守、法号;

- D2134 **重帯**(しげよ・馬屋原うまやはら/まやはら) 1762-1836 75 備後の農家/儒者/郷土史家;近隣の子弟教育、
1804「西備名區せいびめいく」本編23巻完成、
1817「備後国品治郡答書」著(弘賢「諸国門状答」入)、
[重帯(;名)の通称/号]通称;治右衛門/呂平、号;桐堂けいどう

- T2108 **重世**(しげよ・田中たなか、通称;助五郎)?-? 江後期撰津豊島郡岡町村の国学者:
本居大平・富樫広蔭門、「五十音大意」著、白井信常[1791-1841]の師

- Z2104 **茂世**(重世しげよ・鈴木すずき、通称;源吉郎) 1802-69 68 三河吉田の国学者・歌人;岩上登波子とわこ門、
村上忠順ただまさら共編「類題三河歌集」入(渥美郡112)

- 02154 **茂世**(しげよ・佐藤さとう、益友の長男) 1840-1923 84 上野群馬郡の国学者;橋本直香門
[茂世(;名)之通称] 駒吉郎

父	→ 益友(ますとも・佐藤さとう、国学者)	P 4 0 8 4
重世(しげよ・宝生)	→ 沾圃(せんぼ、宝生/服部、能楽師/俳人)	G 2 4 6 0
重世(しげよ・前原)	→ 美春(よしはる・前原/横瀬/小野、神職)	G 4 7 1 3
重世(しげよ・山田)	→ 半仙(はんせん・山田やまだ、商家/儒者/歌)	K 3 6 9 3
重代(しげよ・石坂)	→ 瑞枝(みずえ・石坂いしが、神職/歌)	L 4 1 2 2
茂代(しげよ・五十嵐)	→ 浜藻(波間藻はまも・五十嵐いがらし、俳人)	F 3 6 6 7
茂世(しげよ・藤森/島屋)	→ 素檠(そぼく・藤森/島屋、商家/俳人)	E 2 5 2 5
茂世(しげよ・橋)	→ 崑崙(こんろん・橋たちばな、詩人/書画)	P 1 9 3 2
茂世(しげよ→しげつぐ・末永)	→ 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人)	Z 2 1 0 0

- D2135 **茂世王**(しげよおう、仲野親王男、桓武天皇の孫)?-? 平安前期874;子孫の好風・貞文に平姓を申請

- D2136 **重義**(しげよし・平たいら) ? - ? 平安期安藝・因幡守、棟仲の父、妻は道隆女

- D2137 **重能**(しげよし・上杉うえすぎ/本姓;藤原、勸修寺別当宮津入道道兔男)?-1349 母;上杉頼重女の加賀局、
伯父上杉憲房の養子、足利尊氏・直義の従兄弟、武将;従五上伊豆守、尊氏と行動を共にす、
蔵人、院に昇殿、直義にも接近/高師直により越前配流;1349討死、法号;報恩寺秀峯道宏、
歌人;藤葉集(2首)入集、勅撰;風雅集3首821(藤葉361)/1042/1814、
[浪かかる下枝しげえは消えて磯の松木末こずるばかりにつもる白雪](風雅;冬821/直義歌合)

- D2138 **重吉**(しげよし・橋たちばな、別名;重言)?-? 南北期官人/五位、歌人;勅撰2首、
1384成立「新後拾遺集」1428、「新続古」1152、
[はかなくも世のうき事をかこつかなのがれぬほどの身をば歎かて](新後拾;雑1428)

- T2109 **重能**(しげよし・毛利もうり) ? - ? 江初期撰津武庫郡瓦林の武家;池田輝政の家臣、
のち豊臣秀吉の臣、明に留学;程大位の「算法統宗」を持帰る;珠算法を發明、
京二条京極で天下一割算指南の額を出し開塾、江戸で門弟教授したか?、
佐渡の百川治兵衛と共に最早期の和算家、1622「割算書」、「帰除濫觴」著、
門弟;吉田光由・今村知商・高原吉種ら、
[重能(;名)の通称] 勘兵衛/出羽守

- T2110 **重良**(しげよし・中川なかがわ) ? - 1671 加賀金沢藩士;禄千石、長勝の弟、
儒・詩;平岩仙山門、1669病氣治療のため上京;同地没、
1669「寛文己酉道中覚」著、「漢詩文粹」著、
[重良(;名)の通称/号]通称;七兵衛、号;半睡軒

- a2125 **重良**(しげよし・藤原ふじわら) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]8首入、
[さびしさも思ひ絶えたる夕暮にまたおどろかす棹鹿の声](麓の塵;秋230)

- a2168 **重栄**(しげよし・鈴木すずき) 1656- 1715 60 幕臣/旗本、2百石/納戸番組頭、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むささき]入、
[むすびてし神さへ今はうらめしきそひも果てざる中のえにそを]、
(若むらさき:124/妻におくれて)

- 02152 **茂義**(しげよし・佐瀬させ) ? - 1732 陸奥会津の祓遙拜所神職、佐瀬常尚の弟、
神道;吉川よしかわ従長よりなが(1654-1730)門、

- [茂義(；名)の通称/諡]通称；兵衛、諡；立志神靈
- T2111 **重義**(しげよし・羽間はざま、宗徹男)1670?-173465? 母；寿香、大阪海老江の質商、妻；はつ(貞意)、歌人；有賀長伯(風觀齋)門、
「西国下向之記」「奉納百首和歌」「紀行上」著、
[秋に澄む光もさぞな露にふす鹿の園生そのふの法りの月影]、
(風觀齋[平間長雅/長伯の師]追悼和歌；堺の金光寺/月の寄す釈教)、
[重義(；名)の通称/法号]通称；十一屋市右衛門(2代)/宗意、法号；宗意信士
- Z2142 **重福**(しげよし・千々和らむ、)1727-180781 筑前遠賀郡垣生村の神官、国学者、
垣生村は石炭発見場所説の1、
[重福(；名)の通称]岩見/大隅
- T2112 **茂嘉**(しげよし・原田はらだ、七介男)1740-180768 岡山藩士；在勤の父に随い江戸下向；和算を独学、
安永初年1772頃京に在勤/暦算；西村遠里門、「天海図説」「天元術」「天元問答」「天元秘録」、
「永算録」「演段問答」「演段秘録」「算学之要旨」「算顆録」「算顆秘録」「算籌録」外著多数、
[茂嘉(；名)の字/通称]字；子礼、通称；元五郎、片山金弥・窪田淺五郎の師
- 02138 **茂善**(しげよし・小西こし、)1743-182179 駿河府中の町頭役、国学/歌；芝山持豊門、
[茂善(；名)の字/通称/号]字；白華、通称；源右衛門、号；玉映/竜団齋
- T2113 **誠美**(しげよし・源みなもと、号；嶺南)?-? 江後期江戸の暦算家、藤田貞資と交流、
1802「春秋長暦考」「天時明解」著
- Z2179 **重義**(しげよし・弘中ひろなか、号；自軒)?-1828 越中富山藩の医者；津田信大門、歌；小沢蘆庵門、
藩の侍講；藩主前田利謙としり・母自仙院らに歌道教授、1828(文政11)没
- T2114 **重能**(しげよし・庭田わた/本姓；源、重嗣しげつぐ男)1782-184261 廷臣；1808参議/従三位/10正三位、
1823権大納言/42従一位、「庭田重能職事留」「庭田重能備忘別記」、15「賀茂下神社伝奏記」、
「故儀勘物備忘」「彰善堂愚記」「新嘗祭諸儀部類」/1816「東宮使江戸道之記」外記録多数、
法号；宝池院、重基・嗣子つぐ(女官)の父
- N2152 **重美**(しげよし・梅原うめはら/本姓；平、通称；治郎兵衛)1782-184968 近江八幡永原町の商家；
梅原治郎兵衛9代当主/八幡町総年寄役に推挙、
国学；富樫広蔭・城戸千楯・大国隆正門、歌人
- N2134 **重義**(しげよし・伊藤いとう) ? - 1853 備前岡山上之町の糸商の生、歌人；木下幸文門、
熊谷直好とも交流、伊藤義足よしたる(糸商/歌人)の兄、
[重義(；名)の通称]安次郎
- T2115 **重好**(しげよし・田中たなか、別号；頼清、重吉[俳号；月歩]男)1788-186073 岩代会津藩高田組郷頭の家、
家を継嗣；行政に努む、さらに兵学・法律・歴史・本草を修学；郷学師/父開設の継声館教師、
「高田徴古録」「継声館日記」「古潟沼水論記」「桜農菜」「重好日記」「高田組二一カ村土地帳」著、
[重好(；名)の通称/号]通称；太郎左衛門/源一郎、号；博山
- 02144 **茂美**(しげよし・五島ごとう、)1800-186263 伊勢津の商家/国学者；富樫広蔭門、
[茂美(；名)の通称/号]通称；善九郎、号；楽々齋、屋号；藪屋
- Z2151 **重栄**(しげよし・鳥居とりい、本姓；波多野)1812-1906長寿95 伊豆賀茂郡の三島神社主典、国学者/歌人、
国学・神道；平田鉄胤・権田直助門、戊辰戦争；新政府軍に呼応し伊豆伊吹隊に参加、
歌；[大八洲おおやしま歌集]
[重栄(；名)の別号/通称]後名；鎮、通称；彦太夫
- N2119 **重敬**(しげよし・跡見あとみ、)1808-188982 摂津西成郡の国学者；伊達千広門、歌人、
京の姉小路公知きんともに出仕、
[重敬(；名)の通称/号]通称；左衛門/民五郎、号；槐翁/西市
- T2116 **重善**(しげよし・和田わた、湯本幸信3男)1824-190077 尾張名古屋藩士/1834(9歳)藩校明倫堂入、
1862和田家2百石を継嗣；馬廻/大番/寺社奉行所吟味役/寄合組司令官/1869監察、
のち神官/中学校教官、漢詩人、「白湯鄙稿」著/漢詩集「澹齋詩存」、
[重善(；名)の初名/字/通称/号]初名；幸轟こうちく、字；士直/叙宝、通称；重三郎、号；澹齋
- 02102 **重禧**(しげよし・柏原かしわばら/本姓；藤原、)1826-189873 信濃佐久郡岩村田の若宮八幡宮神主、
国学；1863(文久3)平田鉄胤門(；気吹舎門人)、私塾開設；子弟教育、

捕縛された親戚の赤報隊員水野丹波の釈放に尽力、

[重禱(；名)の通称/号]通称；安藝守、号；柏園

- 02149 **成美**(しげよし・佐伯さき、通称；三郎兵衛)?-? 紀伊和歌山藩士、国学；本居内遠(1792-1855)門
- Z2134 **重毅**(しげよし・竹尾たけお、)1830-1874⁴⁵ 三河八名郡賀茂神社神官、
国学者；平田鉄胤・大国隆正門、
[重毅(；名)の初名/通称]初名；茂、通称；能登守
- Z2120 **重良**(しげよし・鈴木すずき、)1831-1894⁶⁴ 出羽庄内の油屋、国学・神学；大滝光憲みつあきら門、
国学；照井長柄門、算学；村田敬勝門、のち鶴岡大山の相尾さぎのお神社祠官、
「算法天生術」「算法術論概言」「算法翦管術」著、鶴岡の常念寺に記念碑、
[重良(；名)の初名/通称]初名；良茂、通称；順吉/文右衛門
- 02165 **重嘉**(しげよし・猿谷さるたに、通称；神佑)1833-90⁵⁸ 信濃佐久郡の国学者
- T2117 **重義**(しげよし・埜はなわ、勝等[勝算]男)1846-64^{斬刑 19歳} 母；和田久敬女、常陸水戸藩士、
1863藩主徳川慶篤上京に随う；攘夷気運に触れ帰国；元治の役に筑波勢(天狗党)に加担、
のち横浜の外国人襲撃を議し意見を異にするが幕府軍の追討により捕縛；斬刑、
「水戸藩士上書」著、
[重義(；名)の初名/通称/号]初名；勝重、通称；又三郎、号；斃休堂へいきゅうどう
- 02106 **重良**(しげよし・金沢かなざわ、)1848-1919⁷² 信濃伊那郡山本村の戸長、国学/歌；平田鉄胤門、
[重良(；名)の通称]猪之弥/喜平治

成良(しげよし・祝部) → 成良(なりなが・祝部、歌人) H 3 2 8 7

茂能(しげよし・賀茂) → 保胤(やすたね・慶滋/慶/賀茂、廷臣/漢学/詩歌) 4 5 0 6

茂美(しげよし・沢/伊勢) → 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8

茂善(しげよし・和田) → 天山(てんざん・和田、修姓；林、詩人) D 3 0 5 9

茂義(しげよし・松本/池田) → 可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3

重良(しげよし・狩野) → 一溪(いっけい・狩野かのう、絵師) G 1 1 9 5

重良(茂良しげよし・垣本) → 正良(まさよし・垣本かきもと/源、代官/国学) O 4 0 7 6

重良(しげよし・鈴木) → 義興(よしおき・鈴木すずき、村役/和学者) N 4 7 4 9

重良(しげよし・鈴木) → 寛藤(ひろふじ・鈴木すずき、幕臣/国学者) K 3 7 0 0

重好(しげよし・中村) → 克正(かつまさ・中村なかむら、藩士/記録) N 1 5 8 7

重吉(しげよし・松岡) → 重旧(重布留しげふる・松岡まつおか、神職/歌) N 2 1 1 0

重吉(しげよし・原田) → 曲斎(きよくさい・原田、商家/俳人) C 1 6 9 9

重新(しげよし・間) → 重新(じゅうしん/しげよし・間はさま、商家/天文) X 2 1 6 5

重美(しげよし・矢田) → 葛原勾当(くずはらこうどう、生田流箏曲) C 1 7 4 4

重義(しげよし・藤原) → 静蓮(じょうれん；法諱、藤原重茂、真言僧/歌) C 2 2 0 6

重義(しげよし・木口) → 訓重(のりしげ・木口まぐち/垣屋、国学/神職) I 3 5 0 7

重義(しげよし・林) → 彦兵衛(7代ひこべえ・林はやし、農/教/歌) K 3 7 6 7

重喜(しげよし・山片) → 平右衛門(へいえもん・升屋ますや、商家/紀行) 2 7 1 2

重善(しげよし・今井/宮竹) → 良順(りょうじゅん・宮竹/今井、医者/儒) I 4 9 0 1

重嘉(しげよし・三岡みおか) → 焼餅道人(しょうへいどうじん・三岡、藩士/歌) V 2 2 2 7

重嘉(しげよし・瀬山) → 登(のぼる・瀬山せやま、藩士/故実) E 3 5 1 7

重由(しげよし・坂本) → 雲郎(雲朗うんろう・坂本、商家/俳人) E 1 2 1 8

重然(しげよし・古田) → 重然(しげなり・古田ふるた、武将/茶人) 2 1 1 1

繁吉(しげよし・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0

繁禎(しげよし・大道寺) → 繁禎(しげさだ/しげよし・大道寺だいでうじ、藩家老/歌) Z 2 1 2 6

- D2139 **成頼**(しげより、なりより・藤原ふじわら/葉室はむろ、藤原頼朝3男)1138-1202⁶⁵ 母；藤原俊忠女(俊成の妹)、
葉室大納言光頼の弟(；猶子)、廷臣；1144周防守/52阿波守/58蔵人/65左中弁/66蔵人頭、
従三位/1166参議/67正三位/68修理大夫/1174出家；兄光頼の一周忌没に高野山入、
惟方の同母の弟、親頼・忠頼・明禅の父、平家物語五入、平家物語の作者説(；平家勘文録)、
愚管抄卷五入(；成頼入道出家には物語あれど無益なり)、中山忠親と親交(；十訓抄)、
撰集抄；空観房事[坊城の宰相成頼]と同一なら空観房と称す、

「鞠道問答」/1159-82「匠記」69「後白河院御落飾記」著、歌：新勅撰1083、
[たかの山奥まで人の訪ひこずは静かに峰の月は見てまし](新勅；雑1083/高野山に住)、
[成頼(；名)の号/法名]号；高野宰相入道/空観房？、法名；智成/成蓮/空親

02107 **重頼**(しげより・金森かなもり、可重3男/実父；伊東治明?) 1596-1650⁵⁵ /実父：伊東治明説あり、
母：名護屋高久女(名古屋山三郎姉妹)、幼少期から徳川家康に侍す/1614長門守/従五下、
大坂陣に家康の傍に従軍、1615(元和元)戦の最中父が急死；家康命で飛騨高山藩3代藩主、
高山藩政に尽力；新田開発・銀山の開発/1615一国一城令を受け増島・諏訪城を陣屋とす、
1619出雲守/1640頃の飢饉に貴重品を売却し農民救済、茶道に通じ歌・連歌を嗜む、
正室；内藤清次女、頼直・重光・従純・重照・重直・範明・可俊・重利・重秀の父、
[重頼(；名)の通称]左兵衛/長門守/出雲守、法号；真龍院

重頼(しげより・庭田) → 重通(しげみち・庭田/源、大納言/歌人) 2 1 1 6

重頼(しげより・松江) → 維舟(いしゅう・松江まつえ、貞門俳人) 1 1 9 2

重頼(しげより・村井) → 長明(ながあき・村井むらい、藩士/随筆) D 3 2 1 6

D2140 **重頼女**(しげよりのむすめ・藤原ふじわら)?- ? 鎌倉期歌人、新和歌集入、新勅980・続古1180
[ちぎりしも見しも昔の夢ながらうつつがほにもぬるる袖かな](新勅撰集；十五恋980)

D2141 **繁**(しげる・小枝さねだ、姓；露木つゆき) 1741-1832⁹² 幕臣；江戸青山焰硝蔵辺住/のち四谷忍原横町住、
1814將軍家斉息女峰姫の水戸徳川家嫁入時の御主殿付、劍術に秀づ/ト筈に通ず、読本作者、
1805「絵本東嫩錦」06-08「絵本壁落穂」11「催馬楽奇談」12「松王物語」「皿屋敷」13「小栗外伝」、
1815「橋供養」「景清外伝」/18「津摩加佐禰」21「道成寺鐘魔記」23「絵本ふちはかま」外著多数、
[小枝繁(；号)の通称/別号]通称；七郎次、別号；絳山こうざん/絳山樵夫/歎鷗とり陳人/歎鷗間士、
法号；道元院

T2118 **蔚**(しげる・大喜多おおきた/泰山) ?- ? 江後期文化1804-18頃京の西本願寺の家臣、
東中筋魚棚南に住、諸学に通ず、1700「音韻断」著、「教学小成」著/「学林制法」編、
[蔚(；名)の字/通称/号]字；文豹、通称；甚右衛門、号；霧隠

T2119 **茂**(しげる・宗川むなかわ/むねかわ、茂京2男) 1806or07-62^{57or56} 陸奥会津藩士；
儒者；藩儒安部井帽山(芝山)門、朱子学を修学/歌；沢田名垂門/洋学にも関心、
教育者；多くの子弟指導、広沢安任らの師、
「新里しんざと叢書」「孫子墨」「孝経則」「左伝釈」「性天問答」「しのぶる種」「若士夜話草」、
「訓点考」「北夷雑記」「和歌集」「詞手著」著、
[茂(；名)の幼名/別名/法号]幼名；儀八郎/義八郎、別名；新里しんざと、法号；信静院

02158 **蒨**(しげる・三枝さいぐさ、) 1840-1868^{斬首29} 大和生駒郡郡山椎木村郡山の浄専寺住職、
画；藤本鉄石門/国学・歌；伴林光平門、尊攘思想；1863師に従い天誅組挙兵に参加、
高取城攻略に失敗；山陰に逃亡；鳥取藩の飯田年平宅に潜伏/書画を残す、
1867(慶応3)鷲尾隆聚らの高野山挙兵参加/新政府の外交に対し攘夷派として失望、
1868(慶応4)同志朱雀操と2人で御所に向う英公使ハリー・パークスを襲撃；失敗、
粟田口刑場で斬首、
[蒨(；名)の別名/号/法諱/法名/変名]別名；芳丸/芳満、号；骨堂/青荷、法諱；真洞、
法名；浄尚、変名；市川静一郎/青木精一郎

02160 **蘋**(しげる・齋藤さいとう、名；千重) 1847-1918⁷² 信濃小県郡の国学者

葆(しげる・小池/円山) → 溟北(めいほく・円山まるやま/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7

茂(しげる・谷口/加藤) → 東郡(とうぐん・加藤/修姓；膝とう、儒者) D 3 1 0 0

茂(しげる・横田) → 柏園(はくえん・横田よこた、儒者/詩人) C 3 6 6 6

茂(しげる・大槻) → 磐里(ぼんり・大槻おつぎ、医/蘭学者) 3 6 6 5

茂(しげる・桜田) → 臥央(がおう・桜田さくらだ、医者/俳人) B 1 5 1 5

茂(しげる・佐久間) → 東川(とうせん・佐久間、幕臣/書/儒家) G 3 1 1 4

茂(しげる・上森) → 坦斎(たんさい・上森うむり、医者/儒者) T 2 6 4 9

茂(しげる・溝城みぞき) → 雲林(うんりん・毛内もうない茂幹、藩士/絵師) E 1 2 9 3

茂(しげる・坂井/垣本) → 眞胤(まさたね・垣本かいもと/菅原/坂井、国学) O 4 0 7 7

茂(しげる・竹尾) → 重毅(しげよし・竹尾たけお、神職/国学) Z 2 1 3 4

- 茂(しげる・毛利) → 主殿(とも・毛利もうり/梶原、神職/国学) W 3 1 6 7
蔚(しげる・小野) → 顕栄(あきひで・小野おの、神職/国学) H 1 0 1 8
楸(しげる・本多) → 思斎(しさい・本多ほんだ、藩儒官) T 2 1 4 9
蕃(しげる・沢田) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学者) 3 2 2 3
蕃(しげる・吉田) → 蕃教(しげのり・吉田よしだ、国学者) S 2 1 1 5
繁(しげる・沢渡) → 広繁(ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師) G 3 7 0 3
繁(しげる・宇都宮) → 為忠(ためただ・宇都宮うつのみや、歌人) V 2 6 7 7
- D2145 芝軒(しけん・鳥山とりやま、名; 輔寛、入斎男) 1655-1715 61 父は京の東福門院出仕の侍で書家、
京の書家・詩人; 唐詩に通ず、終生仕官せず詩の教授を業とす、のち大阪に移住、
詠詩・書評、「芝軒吟稿」「寒山小詩草」「稗官字苑」「鳥山氏詩集」「鳴春筆記」著、
1683「和山居草」1713「芝軒略稿」14「除元各詠」著、
[芝軒(;)の字/通称/別号]字; 碩夫、通称; 左太夫/五郎太夫、別号; 鳴春/入斎/逃禅居士
- H2112 子健(しけん) ? - ? 江中期京の俳人; 淡々門、1728柳岡「万国燕」入(578)
- D2146 之建(しけん) ? - ? 1716-36頃備中足守の俳人・彦根の孟遠門、
1720「目団扇もくうちわ」共編(俱占・干候と)
- T2120 士謙(しけん・林はやし、名; 龔) ? - ? 江後期近江の儒者、1814「幼学詩韻続編」編
- T2121 四娟(しけん、奥山おくやま、名; 万) ? - ? 江後期江戸谷中の漢学者; 平亭銀溪と交流、
文政1818-30頃活動、1829「浮世名所図絵」著、「四娟楼内外集」著、
[四娟(;)の字/通称]字; 万年/大年、通称; 半三郎
- 02167 志賢(しけん; 法諱) 1806 - 1866 61 播磨赤穂郡寺田村の真宗本願寺派善行寺10世、
国学者、
[志賢の名/字/法名]名; 徳潮、字; 海蔵、法名; 慶嘆
- T2122 紫軒(しけん・櫻谷、紫直人) ? - ? 江後期江戸の茶番師: 愛染連、
1852翠柳亭梅鶯・東雅園蝶喜催主の愛染連中口上茶番集「茶番頓智論」の上巻の序(窓月と)
- 子兼(しけん・寺田) → 剛正(たけまさ・寺田てらだ、藩士/佐幕派) O 2 6 7 6
子慊(しけん・森) → 養(よう・森もり、医者/書) 4 7 5 4
子謙(しけん・荘田) → 豊城(ほうじょう・荘田しょうだ、藩士/儒者) B 3 9 7 6
子謙(しけん・本保) → 長益(ながます・本保ほんぼ、藩士/詩人) F 3 2 8 1
子謙(しけん・杉浦) → 益(えき・杉浦すぎうら、漢学者) D 1 3 5 9
子謙(しけん・黒瀬) → 益弘(ますひろ・黒瀬/度会、神職/記録) J 4 0 2 0
子謙(しけん・野口) → 甘谷(かんこく・野口のぐち、藩士/儒者) Q 1 5 4 7
子謙(しけん・森) → 玉岡(ぎよくこう・森もり、医者/詩人) O 1 6 9 1
子謙(しけん・深田) → 九臯(きゅうこう・深田ふかだ、藩士/儒者) I 1 6 7 2
子謙(しけん・山崎) → 鯨山(げいざん・山崎やまさき、儒者) F 1 8 8 1
子謙(しけん・志村) → 天目(てんもく・志村しむら、篆刻家/俳人) E 3 0 4 0
子謙(しけん・秋山) → 盛恭(せいきょう・秋山あきやま、藩儒者) H 2 4 9 2
子謙(しけん・内藤) → 昌盈(まさみつ・内藤ないとう、藩士/随筆) H 4 0 6 6
子謙(しけん・白崎) → 誠(まこと・白崎しろさき、一恭/商家/国学) Q 4 0 2 3
子謙(しけん・三輪田) → 米山(べいざん・三輪田みわた、神職/書家) 2 7 4 5
子謙(しけん・長戸) → 哀斎(ほうさい・長戸ながと、儒者) 3 9 8 6
子顕(しけん・天野) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
子顕(しけん・金こん) → 肇(はじめ・金こん、藩士/系譜編集) E 3 6 4 0
子顕(しけん・松尾) → 東萊(とうらい・松尾、藩士/儒者) H 3 1 9 3
子顕(しけん・田中) → 式如(のぶゆき・田中/松浦、神道家) D 3 5 6 3
子顕(しけん・土田) → 蒙斎(もうさい・土田つちだ、藩医者) 4 4 5 2
子顕(しけん・桜井) → 舟山(しゅうざん・桜井さくらい、医者/藩儒) H 2 1 4 6
子顕(しけん・坂部) → 広胖(こうはん・坂部/戸田/山田、和算家) K 1 9 9 7
子顕(しけん・菊池) → 三溪(さんけい・菊池、幕府儒官/随筆) 2 0 5 0
子顕(しけん・佐藤) → 行道(ゆきみち・佐藤さとう、国学者) G 4 6 8 7

子顕(しけん・太田) → 久孝(ひさたか・太田おた、藩士/国学者) I 3 7 8 9
 子賢(しけん;字・宮崎) → 廷高(ていこう・宮崎、医/詩文) 3 0 7 0
 子賢(しけん・埴) → 一瓢(いっぴょう・埴はなわ、儒者) H 1 1 7 6
 子賢(しけん・高尾) → 竹溪(ちくけい・高尾たかお、藩士/儒者) C 2 8 8 6
 子賢(しけん・北野) → 好友(よしとも・北野きたの、名主/国学) M 4 7 4 8
 子憲(しけん・若井) → 成章(なりあき・若井わかい、藩士/攘夷論) D 3 2 7 9
 子憲(しけん・安藤) → 箕山(きざん・安藤、儒者) I 1 6 5 5
 子憲(しけん・長尾) → 遁翁(とんおう・長尾ながお、儒者/勤王論) S 3 1 0 6
 子健(しけん・並河) → 魯山(ろざん・並河なみかわ/なびかわ/並、藩儒) B 5 2 5 7
 子健(しけん・飛田) → 逸民(いつみん・飛田とびた、儒者) H 1 1 9 6
 子健(しけん・植木) → 玉厓(ぎょくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩) C 1 6 9 8
 子健(しけん・鵜殿/志毛) → 藕塘(ぐとう・志毛しげ、儒者) C 1 7 0 4
 子建(士建しけん・中村) → 鸞溪(らんけい・中村なかむら、藩儒) B 4 8 8 1
 子健(しけん・吉川/青柳) → 剛斎(こうさい/ごうさい・青柳/吉川、儒者) J 1 9 0 5
 子健(しけん・中曾根) → 仙庵(せんあん・中曾根なかそね、医者) L 2 4 5 3
 子健(しけん・乾) → 荘嶽(そうがく・乾いぬい、藩士/詩人) G 2 5 6 1
 子健(しけん・多賀) → 如圭(じょけい・多賀/流光斎、絵師) C 2 2 3 6
 子権(しけん・鵜飼) → 称斎(しょうさい・鵜飼うかい、儒者/藩史官) S 2 2 2 8
 子権(しけん・丸山) → 貝陵(ばいりょう・丸山、儒者) C 3 6 2 5
 子堅(士堅/志堅しけん・石塚) → 確斎(かくさい・石塚、儒者/地理) H 1 5 2 6
 子堅(しけん・/高須) → 松亭(しょうてい・高須たかす/光岡、蘭医) L 2 2 0 0
 子儉(しけん・大塚) → 観瀾(かんらん・大塚おつか、藩士/儒者) H 1 5 7 5
 子儉(しけん・桜井) → 養益(ようえき・桜井さくらい、医者) 4 7 6 3
 子絢(しけん・中山) → 菁莪(せいが・中山なかやま、医・藩儒者) 2 4 8 5
 士謙(しけん・金) → 却壘窩(きやくいか;号、修姓;金、本草家) M 1 6 1 2
 士謙(しけん・村山) → 維益(これます・村山むらやま/村上、医者) O 1 9 8 5
 士猷(しけん・水谷) → 豊文(とよぶみ・水谷みづたに、本草学) R 3 1 5 7
 士顕(しけん・内田) → 南山(なんざん・内田うちだ、医者/儒/詩) J 3 2 0 5
 士顕(しけん・中山) → 弦斎(げんさい・中山なかやま、歌人/連歌) N 1 8 8 6
 士権(しけん・松本) → 奎堂(けいどう・松本まつもと、儒者/天誅組) 1 8 8 7
 士軒(しけん・坂) → 徴(ちよう・しるし・坂さか、国学者/教育) H 2 8 0 7
 士乾(士健しけん・小倉) → 鯤堂(こんどう・小倉おぐら、儒者) G 1 9 9 7
 士絹(しけん・瀬見) → 善水(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人) H 4 7 2 8
 士憲(しけん・五弓) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゆう久文、国学/儒) E 2 4 5 1
 士憲(しけん・柏淵) → 松庵(しょうあん・柏淵かしづち、国学/歌人) G 2 2 6 1
 士憲(しけん・松尾) → 宗甫(むねとし・松尾まつお、藩医/国学/歌) E 4 2 2 6
 士蹟(しけん・奥田) → 竜溪(りゅうけい・奥田おくた、大庄屋/藩士) D 4 9 4 6
 之謙(しけん・山口) → 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
 之憲(しけん・佐野) → 山陰(さんいん・佐野、藩士/儒者/地誌) G 2 0 1 5
 之憲(しけん・沢村) → 之憲(ゆきのり・沢村さわむら/平、藩士/歌) G 4 6 9 0
 只軒(しけん・東) → 縁信(よりのぶ・東とう/石野/平、国学者) J 4 7 4 0
 孜軒(しけん・辻) → 蘭室(らんしつ・辻つじ/中原/村田、医者/蘭学) C 4 8 4 7
 茲見(しけん・枝窪) → 邦直(くになお・枝窪えだくぼ、神職/国学) D 1 7 9 9
 枝賢(しけん・清原) → 枝賢(えだかた・清原きよはら、廷臣/儒者) E 1 3 0 2
 資顕(しけん・白川) → 資顕(すけあき・白川、神祇伯) F 2 3 9 7
 資顕(しけん・吉田) → 資顕(すけあき・吉田/藤原、廷臣/連歌) F 2 3 9 4
 資顕(しけん・長沢) → 資祐(すけやす・長沢ながさわ、幕臣/高家) H 2 3 1 7
 資兼(しけん・二条) → 資兼(すけかね・二条/平松/藤原、廷臣/日記) C 2 3 0 2
 資賢(しけん・源) → 資賢(すけかた・源みなもと、廷臣/郢曲/歌) B 2 3 9 9

資建(しけん・武笠)	→	資建(すけたけ・武笠たけがさ、藩士/歌人)	I 2 3 7 4
紫硯(紫軒しけん)	→	風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/俳・歌)	3 8 5 5
紫軒(しけん・島村)	→	鼎甫(ていほ・島村、医者)	B 3 0 6 7
四軒(しけん・備ひん)	→	備四軒(びんしけん、洒落本作者)	3 7 3 6
氏兼(しけん・一色)	→	氏兼(うじかね・一色/源、廷臣/歌人)	1 2 2 7
梓軒(しけん・富田)	→	畦臣(うねおみ・富田とみた、軍学者/歌)	D 1 2 2 3
師賢(しけん)すべて	→	師賢(もろかた)	
師兼(しけん)すべて	→	師兼(もろかね)	
師顕(しけん・中原)	→	師顕(もろあき・中原、廷臣;明経博士)	H 4 4 0 0
師儉(しけん・奥村)	→	蒙齋(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家)	4 4 4 6

D2148 **志玄**(しげん;法諱・無極むきよく;道号、初法諱;志元、四辻宮尊雅王男)1282-1359⁷⁸ 順徳天皇の曾孫、臨濟僧:幼時に願成院の南洲宏海門;出家、無為昭元門;師に随従し鎌倉円覚寺住、夢窓疎石に参禅、1335京の臨川寺住持/46天竜寺住持/52後村上天皇の命で天竜寺再住、「天龍一指」、「色塵集」編、「無極和尚語録」著、兄弟;善成王/智泉聖通尼(義詮妻良子の母)、諡号;仏慈禅師

E2121 **士沆**(しげん) ? - ? 室町期寛正1460-66頃の連歌師;多く心敬と一座、1466(寛正7)心敬宗祇と「何人百韻」参加、[あくる扉とぼそに残る夜の月](何人百韻;初裏4/戸を開けると吹く秋風と有明の月、前句;紹永;竹の葉の音も身に入しむ風吹きて)

T2123 **私言**(しげん) ? - ? 京丸太町俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

D2149 **旨原**(しげん・小栗おぐり)1725 - 1778⁵⁴ 江戸中橋の俳人;超波門、其角嵐雪に傾倒、1745「江戸廿歌仙」独吟歌仙入、45「うしのとし」47「五元集」52「続五元集」50「玄峰集」編、1750「百歌仙」「嵐雪句集」編/68「誹諧夢ひらき」編/77「宵なゝくさ」「風月集」編;外多数、追善集;13回忌「十三仏」/33回忌「那谷六歌仙」、遺稿「屠竜工随筆」(;門弟竜倫校訂編刊)[稚子の二人親しき夜寒よむかな](五車反古/喧嘩好きの幼い兄弟も今夜は仲良い)、[旨原(;号)の通称/別号]通称;次右衛門、別号;其川/百万坊、伽羅めいぼく庵

T2124 **獅絃**(しげん;号・恵明えみょう;法諱)1729-1807⁷⁹ 備後竹原の真宗本願寺派照蓮寺8世;播磨真浄寺智暹門、詩/書に通ず;頼春水と交流、「恵明集」著、[獅絃(;号)の字/別号]字;達元/義達、別号;大洞

D2150 **子原**(しげん) ? - ? 俳人、1776蓮茎庵常仙の高点付句撰集「はつの葉」編(;麗泉父序/自跋/江戸の堀野屋仁兵衛板)

D2151 **只言**(しげん、法師) ? - ? 俳人、1771諸丸尼と松島に遊ぶ:「秋風記」著

D2152 **思玄**(しげん;法諱、遠州えんしゅう)?-? 江後期高野山の真言宗僧、詩人/狂詩作者、1815雅仏の狂詩「毒玉どくぎよく集」上巻に雅仏と贈答の七言絶句

T2125 **之原**(しげん・小林こばやし、之保男)?-? 江後期丹後宮津の地誌家、祖父玄章が宮津藩命で編纂の「丹哥府志」を補填し完成

師元(しげん・中原)	→	師元(もろもと・中原、明経博士/記録)	I 4 4 0 3
師言(しげん・山領)	→	梅山(ばいざん・山領やまりょう、儒者)	B 3 6 3 0
子言(しげん・岩瀬)	→	華沼(かしょう・岩瀬いわせ、藩士/儒者)	H 1 5 4 8
子言(しげん・水野)	→	丹解(たんげ・水野みずの、藩士/軍学者)	T 2 6 3 1
子言(しげん・葛西)	→	靖斎(せいさい・葛西かさい/小山田、医者)	I 2 4 2 6
子言(しげん・松会)	→	芳文(よしふみ/よしなみ・松会まつえ、書家)	G 4 7 8 2
子言(しげん・岡野)	→	逢原(ほうげん・岡野おかの、儒者/藩士)	F 3 9 1 0
子言(しげん・大村)	→	純昌(すみまさ・すみよし・大村、藩主/藩政改革)	D 2 3 9 7
子言(しげん・尾形/渡辺)	→	慎(しん・渡辺/尾形、和算・測量家)	N 2 2 2 1
子玄(しげん・賀川)	→	玄悦(げんえつ・賀川、医者)	H 1 8 8 7
子玄(しげん・荷田)	→	御風(のりかぜ・荷田/羽倉/柴崎、国学)	E 3 5 3 6
子玄(しげん・松前)	→	広長(ひろなが・松前、藩家老/修史事業)	G 3 7 5 9
子玄(しげん・千葉)	→	芸閣(うんかく・千葉ちば、儒者)	B 1 2 0 6
子玄(しげん・谷田部)	→	東壑(とうがく・谷田部やたべ、儒者)	C 3 1 1 8

子玄(しげん・錦織) → 義昌(よしまさ・錦織にしごり、藩医/和学) O 4 7 3 8
 子玄(しげん・田辺) → 百堂(ひやくどう・田辺たなべ、商家/俳人) E 3 7 6 9
 子玄(しげん・細川) → 林斎(りんさい・細川、林谷男/篆刻家) K 4 9 3 2
 子彦(しげん・黒田) → 東園(とうえん・黒田、儒者/詩) B 3 1 5 1
 子彦(しげん・南部) → 利済(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
 子彦(しげん・奥村) → 茶山(ちやざん・奥村おくむら、儒者) L 2 8 1 4
 子彦(しげん・岡本) → 豊彦(とよひこ・岡本、絵師) R 3 1 4 9
 子彦(しげん・萩野) → 降雪(こうせつ・萩野はぎの、絵師) K 1 9 1 7
 子彦(しげん・熊坂) → 台洲(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育) 2 6 0 5
 子彦(しげん・市場) → 通笑(つうしょう・市場、黄表紙/噺本) 2 9 0 2
 子彦(しげん・境) → 建直(たてなお・境さかい二郎/齋藤、儒者/藩教授) X 2 6 3 7
 子元(しげん; 初道号) → 祖元(そげん; 法諱・無学; 道号、渡来臨濟僧) 2 5 2 0
 子元(しげん・栗原) → 桶川(とうせん・栗原[栗本]、儒者) G 3 1 1 3
 子元(しげん・山田/浅井) → 南臯(なんこう・浅井あさい、医者/詩歌) I 3 2 9 4
 子元(しげん・角倉) → 素庵(そあん角倉すみくら/吉田、商家/嵯峨本版) 2 5 3 6
 子元(しげん・辻/加藤) → 敦善(あつよし・加藤かとう、歌人) E 1 0 9 3
 子元(しげん・萩野) → 元凱(げんがい・萩野おぎの、医者) B 1 8 4 0
 子元(之元しげん・三宅) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0
 子元(しげん・杉山) → 復堂(ふくどう・杉山、儒者/藩政参画) B 3 8 6 1
 子元(しげん・川田) → 資始(すけもと・川田かわた、藩士/国学者) I 2 3 2 7
 子元(しげん・民上) → 永隣(ながちか・民上たみのえ、医者/神職) N 3 2 8 3
 子原(しげん; 字) → 信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人) C 3 5 6 0
 子源(しげん・富永) → 滄浪(そうろう・富永とみなが、儒者) D 2 5 2 4
 子愿(しげん・河野/平松) → 楽斎(らくさい・平松ひらまつ、民政家/詩) D 4 8 4 0
 子愿(しげん・赤沼) → 筋山(せつざん・赤沼あかぬま、漢学者) E 2 4 3 8
 子愿(しげん・森) → 正門(まさかど・森、藩士/和算/三角関数) C 4 0 1 5
 子鉉(しげん・斎木) → 垣窩(たなか・斎木さいき、藩士/儒者) T 2 6 2 0
 子巖(しげん・山岡) → 静山(せいざん・山岡やまおか、旗本/槍術家) N 2 4 8 5
 子儼(しげん原田/昌谷) → 精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4
 士元(しげん・柿岡) → 林宗(りんそう・柿岡かきおか、儒者/教育) K 4 9 6 1
 士彦(しげん・岡田) → 米山人(べいさんじん・岡田おかだ、文人画家) 2 7 4 6
 士彦(子彦しげん・小林) → 肅翁(しゅくおう・小林こばやし、医者) Y 2 1 6 5
 士彦(しげん・陸) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3
 士鉉(しげん・秦) → 滄浪(そうろう・秦はた、儒者) D 2 5 2 6
 士鉉(しげん・宮本) → 篁村(こうそん・宮本みやもと、儒/折衷学) K 1 9 4 2
 止弦(しげん; 初号) → 秋瓜(2世しゅうか・松籟庵、俳人) G 2 1 9 3
 氏彦(しげん・藤波) → 氏彦(うじひこ・藤波/荒木田、神職/日記) C 1 2 6 2
 孜元(しげん; 法諱・太元) → 太元(たいげん; 道号・孜元、臨濟僧) J 2 6 8 8
 志玄(しげん; 字) → 日暲(にっしゅう; 法諱・立正院、日蓮僧) E 3 3 0 8
 旨元(しげん・村沢) → 布高(のぶたか・村沢むらさわ、天文暦算) B 3 5 7 3
 思玄(しげん・吉田) → 思玄(もとはる・吉田よしだ、庄屋/歌人) L 4 4 8 7
 卮言(しげん・松井) → 蠅翁(ようおう・松井/平、医者/国学者) 4 7 6 7
 資原(しげん・股野) → 順軒(じゅんけん・股野またの、藩士/儒者) J 2 1 4 8
 紫源(しげん・古屋) → 昔陽(せきやう・古屋ふるや、儒者) D 2 4 9 2
 獅絃(しげん; 号) → 桂潭(けいたん; 法諱、大豊、真宗僧) G 1 8 3 4
 獅現(しげん・酒井) → 鶯蒲(おうほ・酒井さかい/香阪、僧/絵師) B 1 4 3 6

T2126 慈賢(じげん; 法諱、源頼兼男) 1175-1241 67 天台学僧; 慈円門/天台教学を修学; 1200灌頂を受
 僧正/法性寺座主/1240天台座主; 78世、41病で辞任; 康楽寺に没、
 1204「仏眼法日記建仁宇治」14「尊勝法日記」、「五大虚空蔵」「仁王経法」著、
 [慈賢(; 法諱)の初法諱/号]初法諱; 慈教、号; 真如金剛

- D2153 **持軒**(じけん・五井ごい、名;守任/主任もりとう、守純2男)1641-1721**81** 大阪儒者、初め医者;向井元升門、中嶋長安門、のち儒;中村惕斎門、伊藤仁斎・東涯・貝原益軒と交流、国学・歌;下河辺長流門、大阪で四書を講ず;四書屋加助と称す、のち大和郡山藩儒、蘭州の父、「校註日本紀」「和語集解」「神道遺書」、歌;「五井持軒和歌遺稿」(;息蘭洲編)、[持軒(;号)の通称/別号]通称;加助、別号;四書屋
- D2154 **自見**(じけん・林はやし、名;正森)1696-1787**92歳** 三河吉田呉服町の町人;1720吉田町年寄役、利町世古町庄屋を兼務/1737吉田宿問屋役;55致仕、和漢学;杉江常翁門、郷土史家、1738「武勇雑談集」編/50「三洲吉田記」64「市井雑談集」「雑説囊話」/68「雑戯栄」著、1771「珍説好事談」75「三河刪補松」78「技術蠡海録」著/79「世諺辨略」編、「古今智慧文庫」編、[自見(;号)の幼名/通称]幼名;亀之丞、通称;弥次右衛門
- D2155 **自謙**(じけん・植松うえまつ、名;徳恭、徳左衛門男)1750-1810**61** 信濃諏訪郡落合村瀬沢新田の名主;1775(26歳)継嗣;のち弟に譲渡、江戸で心学者;1791年頃に参前舎の中沢道二門、師没後;大島有隣と輪番交代で参前舎主を務める/道話に秀で諸国巡遊;心学教化に尽力、甲州・信州に一大勢力、慈悲深く[和助菩薩]と称される、1808京遊説で罹病;1810没、[自謙(;号)の通称]和助
- T2127 **自謙**(じけん;法諱、片山甚六男)1751-1846**長寿96歳** 石見邑智郡尾原の真宗本願寺派僧;石見邇摩郡浄泉寺の仰誓門/石見瑞泉寺住職、私塾大慶房社で子弟教育、三業惑乱の時は本山徵命で西本願寺常勤;私財を投じ宗門安定に尽力;その記録「高裁奉行録」を光撰(本如上人)に献上、最初の勸学職の1人、「自謙師画」画、1770「後出阿弥陀偈経糠粃録」1805「無想離念通釈」「真宗安心唱演規矩」、1813「浄土和讃聴記」、「自謙日記」「高裁奉行録」「唯識三十頌卒爾録」外著多数、[自謙(;法諱)の初法諱/通称/号]初法諱;自牽、通称;大慶房、号;檣山しょうざん/雄原、諡号;善友院

自牽(じけん;法諱)	→	善意(ぜんい;法諱、真宗本願寺派僧)	L 2 4 6 5
自謙(じけん・西原)	→	正也(まさなり・西原にしはら、国学/歌人)	R 4 0 3 8
自謙(じけん・松岡)	→	小鶴(こつる・松岡まつおか、医者/漢学)	R 1 9 3 3
自軒(じけん・弘中)	→	重義(しげよし・弘中ひろなか、医者/歌人)	Z 2 1 7 9
持賢(じけん・細川)	→	持賢(もちかた・細川/源、道賢、武将/歌/連歌)	B 4 4 3 5
慈賢(じけん、天台僧)	→	慈賢(じげん、源頼兼男/天台座主)	T 2 1 2 6
慈賢(じけん;号)	→	達巖(たつがん;法諱、真宗木辺派僧)	R 2 6 6 0
次賢(じけん・岡谷)	→	義端(ぎたん・岡谷おかや、藩士/書家)	L 1 6 1 5
時見(じけん・名越/平)	→	時見(ときみ・名越なごえ/平、武家/歌)	K 3 1 0 7
時憲(じけん・近藤)	→	南門(なんもん・近藤、儒者/刀剣鑑定)	3 2 3 9
時憲(じけん・秋元)	→	時憲(ときり・秋元/菅/秋/菅原、儒者)	J 3 1 7 6
時憲(じけん・山本)	→	時憲(ときり・山本やまもと、藩士/暦算家)	J 3 1 7 8
時憲(じけん・柏淵)	→	時憲(ときり・柏淵かしづち、国学者)	U 3 1 7 2
時顕(じけん・西洞院)	→	時顕(ときあき・西洞院にしのとしいん、廷臣/連歌)	I 3 1 8 7
治堅(じけん・山田)	→	治堅(はるかた・山田やまだ、儒/詩/紀行)	G 3 6 1 5
治堅(じけん・臼井)	→	治堅(はるかた・臼井うすい/森、医/歌人)	G 3 6 1 6
治賢(じけん・)	→	治賢(はるかた、歌人)	L 3 6 0 4
治軒(じけん・福田)	→	半(はん・福田ふくだ、洋算)	H 3 6 1 6
治憲(じけん・山梨)	→	稲川(とうせん・山梨やまなし、漢学者/音韻)	3 1 1 9
治元(じげん)	→	治元(はるもと、連歌)	G 3 6 9 9
治元(じげん/はるなが・毛利)	→	治親(はるちか・毛利もうり、藩主/歌)	J 3 6 5 7
治彦(じげん・関)	→	治彦(はるひこ・関せき/勝浦、国学者)	K 3 6 3 1
時元(じげん・北条)	→	時元(ときもと・北条/名越/平、武将/歌)	K 3 1 1 7
時元(じげん→ときもと・中原)	→	安性(あんしょう・沙彌、歌人)	C 1 0 1 2
時元(じげん→ときもと・林/出雲寺)	→	出雲寺和泉掾(2世いずもいづみのじょう、書肆)	C 1 1 3 8
時元(じげん)その他すべて	→	時元(ときもと)	
時言(じげん・野田/伊庭)	→	時言(ときのみ・伊庭いば/野田、歌人)	J 3 1 7 3

時言(じげん・森) → 遜亭(そんてい・森もり/源、儒者) F 2 5 6 5
 持元(じげん・細川) → 持元(もちもと・細川/源、武将/歌人) B 4 4 7 3
 持言(じげん・山科) → 持言(もちとき・山科/藤原、廷臣) B 4 4 4 8
 慈源(じげん) → 惟賢(いけん/ゆいけん; 法諱、天台僧/歌人) 1 1 8 1
 慈眼(じげん; 字) → 聖観(しょうかん; 法諱、僧/国学) U 2 2 9 5

Z2146 慈眼院(じげんいん、堀/勅使河原) 1666-1751 86 信濃飯田藩主堀親蔵ちかただの側室、
 勅使河原直信の妹、堀親長・座光寺為明の母、歌人; 烏丸・飛鳥井家に入門

至玄院(じげんいん) → 日鵬(にっぽう; 法諱、日蓮僧) F 3 3 6 5
 慈眼院(じげんいん) → 日恵(にちえ; 法諱、日蓮僧) 3 3 5 4
 慈眼院(じげんいん) → 日晴(にっせい; 法諱、日蓮僧) E 3 3 6 4
 慈眼院(じげんいん) → 家久(いえひさ・島津しまづ/松平、藩主) E 1 1 9 6
 慈眼院(じげんいん) → 普門(ふもん; 法諱・潮誉、真宗高田派僧) E 3 8 1 5
 自言居士(じげんこじ) → 枳園(きえん・森もり立之、医者/国学) F 1 6 0 3
 自謙斎(じけんさい) → 春斎(しゅんさい・清水しみず、心学者) K 2 1 7 3
 自弦斎(自玄斎 じげんさい) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
 自謙子(じけんし) → 令敬(れいけい・村上むらかみ、俳人) 5 1 1 8
 志源主人(しげんしゅじん) → 道温(とうおん・懐玉、黄檗僧) B 3 1 6 4
 治源太(じげんた・橋本) → 伴鷗(ばんおう・橋本、商家/詩歌/俳) H 3 6 3 1
 治源太(じげんた・杉本) → 正芳(まさよし・杉本すぎもと、歌人) Q 4 0 3 5
 慈眼大師(じげんだいし) → 天海(てんかい・南光坊、天台僧) D 3 0 2 2
 思玄亭(しげんてい) → 衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人) 1 9 8 5
 市喧堂(しけんどう) → 在色(ざいしき・野口/関、材木商/俳人) 2 0 8 0
 自遣堂(じけんどう; 号) → 浪化(ろうか; 号、真宗大谷派僧、俳人) 5 2 0 2
 至元坊(じげんぼう) → 兎夕(とせき・風羅堂、禅僧/俳人) O 3 1 2 8
 慈眼房(じげんぼう) → 叡空(えいく; 法諱・慈眼房、天台僧/歌) 1 3 2 2

T2128 紫狐(しこ; 号、別号; 市陰舎) ?- ? 江中明和1764-72頃加賀大聖寺の俳人;
 山陰山陽を行脚; その記録「老足の拾ひわらじ」著

T2129 師古(しこ・礪はざま) 1811 - 1878 68 長門萩の絵師; 雲鳳門; 写生習得、
 南宗画; 小田海僊門、1844「竹馬鞭」著、
 [師古(; 名)の別名/字/通称/号]別名; 泰、字; 不欺/大来、通称; 宗四郎、
 号; 西崖/柳陰漁者/芙蓉仙史

柿壺(しこ) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、俳人) I 2 8 3 8
 柿壺(しこ・田辺) → 百堂(2世ひゃくどう・田辺、商家/俳人) E 3 7 7 0
 師古(しこ・下田) → 師古(もろひさ・下田/大江、幕臣/国学者) H 4 4 7 5
 師古(しこ・室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
 師古(しこ・岡崎) → 廬門(ろもん・岡崎おかざき/平、詩人) C 5 2 4 4
 師古(しこ・中井) → 藍江(らんこう・中井なかい、絵師) C 4 8 0 4
 師古(しこ・菊池) → 半隠(はんいん・菊池、儒家、耕斎男) H 3 6 2 2
 師古(しこ・鎮西ちんぜい) → 靱の屋(もみのや、鎮西清宣、神職/国学) E 4 4 9 6
 士固(子固しこ・垣内/菊池) → 海荘(海叟かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5
 士固(しこ・高村) → 幹斎(かんさい・高村たかむら、医者/本草) Q 1 5 6 2
 士固(しこ・上田) → 重威(しげたけ・上田うえだ、歌人) N 2 1 4 7
 士固(しこ・林) → 貞(ただし・林はやし、歌人) Z 2 6 0 5
 士虜(しこ・島倉/司馬) → 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2
 子古(しこ・久米) → 景山(けいざん・久米くめ、藩士/郡代/歌) N 1 8 6 9
 子固(しこ・新楽) → 閑叟(かんそう・新楽にいら、幕臣/蝦夷紀行) G 1 5 4 9
 子固(しこ・加藤) → 均斎(きんさい・加藤かとう、暦算家) Q 1 6 9 7
 子固(しこ・大友) → 久米満(くめまる・大友おおとも、歌人) D 1 7 4 7
 子固(しこ・中山) → 忠能(ただやす・中山なかやま、廷臣/日記) R 2 6 0 9
 子固(しこ・山川) → 慎蔵(しんぞう・山川やまかわ、儒者/暦学) P 2 2 2 7

子固(し・四屋)	→ 穂峰(すいほう・四屋よつや、藩儒)	E 2 3 9 9
子固(し・東)	→ 吉貞(よしさだ・東ひがし/林、神職/国学)	O 4 7 7 0
子虎(し・平尾/米谷)	→ 金城(きんじょう・米谷こめたに、商家/漢学)	R 1 6 1 8
氏古(し・水谷)	→ 氏古(うじひさ・水谷みづたに、神職/国学)	E 1 2 9 2
芝湖(し・東方)	→ 芝山(しざん・東方ひがしかた、藩士/儒者)	D 2 1 8 0
子伍(しご・前田)	→ 忠知(ただとも・前田まえだ、文筆家)	Q 2 6 1 5
子悟(しご・村松)	→ 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/松、農家/藩儒)	B 5 2 3 0
滋古(じ・若山)	→ 滋古(しげふる・若山わかやま、国学/歌人)	a 2 1 1 2
師古庵(しこあん)	→ 歩月(ほげつ、俳人)	E 3 9 1 2
紫狐庵(しこあん)	→ 蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師)	3 8 1 1
紫狐庵(しこあん)	→ 東瓦(とうが・山本、蕪村門俳人)	B 3 1 7 5

T2130 **志晃**(しこう;法諱) 1394 - ? 1438存 天台宗園城寺慶恩院4世、古書・旧記の調査、
長吏の命で園城寺の歴史を編纂;「寺門伝記補録」編、
「智証大師年譜略頌」「寺門伝記撮要」著

2119 **支考**(しこう・各務かがみ/村瀬、父:村瀬氏/母;渡辺氏) 1665-1731 67 美濃北野の人/1670(6歳)父没、
次姉の婚家各務家へ移籍/1673(9歳)臨濟宗妙心寺派大智寺の雛僧;竜沢禅師門、
1683(19歳)頃下山;還俗、俳人;1690近江で芭蕉門/師の江戸下向随行/94師臨終に立会う、
美濃派俳諧を普及;全国行脚と師の追善興行、虚実論を中心の俳諧を主張/仮名詞を創始、
美濃派は一大勢力になるが野心家的言動になり低俗に陥る、1711終焉記自作し郷里隠棲、
門人名で俳論を著、俳論;1692「葛の松原」(松島象鴻紀行)/98「続五論」、1719「俳諧十論」、
俳文:1695「笈日記」98「梟日記」/1702「東西夜話」17「本朝文鑑」1723「和漢文操」編、
1725「十論為辯抄」、撰集;1699「西華さいか集」1700「東華集」11「阿誰話たそのむ」30「三日月日記」、
作法書;1711「新撰大和詞」30「俳諧古今抄」、1694「つれづれの讃」/1702「古今集俳諧歌解」、
1707「南無俳諧」編、「一夜黄山」「神あそび」「三匹猿」編/「仮名遣捷徑」「支考俳話」外多数、
追善集;「文星観」「渭江話にうむ」(蘆元坊編)、
[牛呵しかる声に嶋立つゆふべかな](枇杷園随筆)、[船頭の耳の遠さよ桃の花](夜話くるひ)、
[支考の別号]別号;東華坊・西華さいか坊・野盤子・見龍・獅子庵/瑟瑟菴/華表人/桃芭仙とうかせん、
変名(門人の名);蓮二坊/白狂/渡辺ノ狂わたなべのくるう/糺乙子れいつし、諡号;梅花仏

P2100 **市巷**(しじょう) ? - ? 越中高岡の俳人、1691北枝「卯辰集」2句入、
[さみだれに亀の甲かふむ山田かな](卯辰集;二204)

P2137 **紫紅**(しこう・田代たしろ、別号;田止子)?-1731 江戸俳人;其角門、一時秋田住;秋田俳壇を指導、
1697其角「末若葉」独吟歌仙入、1707其角追善「そのはちす」編、
[蟹に這ふ人は唐絵かゝるの若葉哉](末若葉;217第七歌仙発句/唐絵は中国風墨絵;山水画、
(谷間の若葉の小径の人物は這っている蟹のよう)

D2157 **志交**(しこう;号) ? - ? 俳、1704子英剃髮百韻「つげのまくら」入

D2156 **子光**(しこう;号) ? - ? 1739存 俳人;素堂門;10数年俳諧を学ぶ、
師没後その発句・文章・詩などを「素堂句集」として編纂、
のちに1721「素堂家集」として夏目成美が改題出版、1739「俳諧四季名類」著

G2143 **紫紅**(しこう) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」(321)

D2158 **始興**(しこう・渡辺わたなべ、名;求馬) 1683-1755 73 江中期京の琳派絵師、奈良興福院障壁画制作、
「吉野山図屏風」画

P2138 **市貢**(しこう・吹山ふきやま/次山つぎやま、百寿庵2世、巨璞堂きよはくどう) 1691-1743 53 京の俳人;
鞭石門・のち暮四門、1729隆志「俳諧草結」入、1734「かのきし」38「初竜淵」編、
[暮れて行く人の目塞めせきや月の暈かさ](俳諧草結;244/目塞は覆面用深編笠)

D2159 **志厚**(しこう) ? - ? 名古屋住俳人、1734木見「熱田宮鳥」入

T2131 **子洽**(しこう・長尾ながお、別号;逢麴亭) 1722-? 1771存 岩代信夫の俳人、1771「酒興」編

T2132 **子阜**(しこう・亀屋かめや) ? - 1771? 加賀小松の商家/塩問屋役;45歳で引退、俳人、
大阪に遊ぶ、書;亀田窮楽門、1771「秋のくれ」編、「北のさくら」「梅の志都久」著、
「亀の古々路」「八古関の記」「八十古集」著、
[子阜(;号)の通称/別号]通称;亀屋吉兵衛、別号;八古関

- T2133 **士巧**(しこう・松岡まつおか) 1720- 1793 74歳 摂津灘大石の俳人;几董門、
1776几董「続明烏」4句入、[菜の花に雨の近づくにほひ哉](続明烏;183/にほひは色合)、
[士巧(;)の通称]通称;徳右衛門、士川・士喬の弟
兄 → 士川(しせん・松岡まつおか、俳人) E 2 1 3 7
→ 士喬(しきょう・松岡、俳人) Q 2 1 2 3
- T2134 **只浩**(しこう) ? - ? 伊勢川崎の俳人:樗良門、1776樗良「誹諧月の夜」入、
[門徒寺の嫁のひろめや歳の暮れ](月の夜;浄土真宗寺の跡継の新嫁の檀家への披露)
- D2160 **子孝**(しこう・杉谷すぎたに) ? - ? 漢学者/詩人、
1784「討作詩志穀しこう附録」(:1783山本北山「作詩志穀」の補填)
- T2135 **子孝**(しこう・菊田きくた) ? - ? 仙台藩士/俳人、1805「仙台発句撰」「春夜帖」著、
「雪窓興行・葎堂興行」著、
[子孝(;)の通称/別号]通称;喜太夫、別号;雪窓/松月亭
- T2136 **師鴻**(しこう・長谷川はせがわ/本姓;源)?-? 江後期嘉永1848-54頃京塚町の儒者/麩屋町住、
1849「除痘辨疑」著、
[師鴻(;)名]の字/通称/号]字;士儀、通称;朔次郎/源達、号;徑々齋けいけいさい
- D2161 **子行**(しこう・島谷しまに、名;秀次郎/姓;安田)?-? 江後期陸奥北郡野辺地のへじの廻船問屋島屋4代目、
俳人;1829(文政29)頃東奥野辺地社中の中心、岩間乙二おつにと親交
四綱(しこう・大伴) → 四綱(しこう・大伴おおとも、廷臣/万葉歌人) 4 7 3 0
芝紅(しこう) → 星布(せいふ・榎本、俳人) C 2 4 9 0
芝弘(しこう・手島) → 寿(ひさし・手島てじま、農業/里正/詩文) B 3 7 0 8
紫紅(しこう) → 也存(やゆう・横井、俳人/詩歌) 4 5 1 7
紫紅(しこう;俳号) → 久七(きゅうしち・天満屋/辰岡、歌舞伎役/作者) G 1 6 4 2
紫紅(しこう) → 万作(まんさく・辰岡、久七男/歌舞伎役/作者) K 4 0 5 6
紫香(しこう・藤原) → 昌邦(まさくに・藤原ふじわら/西村、国学者) S 4 0 3 4
紫厚(しこう・黒瀬) → 田弘(ただひろ・黒瀬くろせ、神職/国学) W 2 6 9 4
志穀(しこう、大西) → 志穀(しこう・しこう、大西、儒者) T 2 1 4 3
志鴻(しこう・北脇) → 淡水(たんすい・北脇きたわき、儒者/詩人) I 2 6 9 4
士光(しこう・赤城) → 彩霞(さいか・赤城あかぎ、儒者) G 2 0 5 6
士広(しこう・大槻) → 磐溪(ばんけい・大槻、洋学) 3 6 4 0
士行(子行しこう・徳田/錢屋長兵衛) → 椿堂(ちんどう・徳田、商家/俳人) K 2 8 9 4
士行(しこう・荷田) → 信言(のぶこと・荷田/羽倉、神職/詩) B 3 5 4 1
士行(しこう・森) → 篤恒(あつね・森もり、藩士/暦学者) E 1 0 6 9
士行(しこう・加藤/大原) → 観山(かんだん・大原おおはら、儒者) H 1 5 6 5
士行(しこう・鍋田) → 三善(みつよし・鍋田なべた、藩士/儒者) F 4 1 2 1
士行(しこう・六車) → 杏陰(きょういん・六車むぐま、藩士/医者) N 1 6 1 9
士行(しこう・富田/林) → 錦峰(きんぼう・林やし、幕府儒官) I 1 6 2 4
士行(しこう・松田) → 五松(ごしょう・松田まつた、国学/俳人) M 1 9 7 9
士行(子行しこう・吉田) → 宗敏(むねとし・吉田よしだ、里正/紀行) B 4 2 8 5
士行(しこう・鈴木) → 松嵐(しょうらん・鈴木、詩人) L 2 2 8 9
士行(しこう・渡辺) → 眞楫(まかじ・渡辺/大岡、幕臣/教育) 4 0 4 8
士行(しこう・友安) → 盛敏(もりとし・友安ともやす、藩士/国学者) K 4 4 7 4
士行(しこう・蓮沼) → 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0
士交(しこう・多田) → 立意(りゅうい・多田ただ、商家/俳人) C 4 9 7 3
士孝(しこう・肥田) → 通光(みちてる・肥田ひだ、庄屋/国学/俳) K 4 1 1 7
士考(しこう・馬場) → 徵信(もちのぶ・馬場ばば、神道家) K 4 4 9 3
士厚(子厚しこう・小野) → 東溪(とうけい・小野、儒者) D 3 1 0 7
士厚(子厚しこう・藪) → 孤山(こざん・藪やぶ、藩士/儒者/詩文) C 1 9 6 8
士厚(しこう・林) → 榴岡(りゅうこう・林やし、幕府儒官) D 4 9 7 8
士厚(しこう・能美) → 友庵(ゆうあん・能美のうみ/林、医者) 4 6 5 2
士厚(しこう・芦沢/古川) → 元紹(もとつぐ・古川ふるかわ、医者) I 4 4 5 5

士厚(しこう・平田)	→	淳(あつし・平田ひらた、藩校学頭/歌人)	I 1 0 3 3
士恒(しこう・長川)	→	政徳(まさのり・長川ながかわ/高杉、漢学者)	G 4 0 2 9
士綱(しこう・亀山)	→	士綱(ことつな・亀山かめやま、郷土史家)	N 1 9 2 7
士綱(しこう・玉江)	→	正紀(まさのり・玉江たまえ、医者)	G 4 0 0 7
士綱(しこう・小山)	→	駿亭(しゅんてい・小山こやま、藩士/書家)	L 2 1 5 1
士剛(しこう・頼)	→	支峯(しほう・頼らい、儒者)	F 2 1 7 0
士功(しこう・藤)	→	仲郷(なかさと・藤とう、神職/古蹟研究)	D 3 2 7 3
士好(しこう・谷)	→	松茂(まつげ・谷たに、和算家)	J 4 0 7 5
士効(しこう・竹鼻)	→	正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人)	P 4 0 4 9
士効(しこう・竹鼻)	→	纜山(らんざん・竹鼻たけはな、詩人/書)	C 4 8 3 6
士弘(しこう・青葉)	→	南洲(なんしゅう・青葉あおば、儒者)	J 3 2 1 7
士弘(しこう・平沢)	→	随童(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家)	F 2 3 1 5
士康(しこう・鈴木)	→	迪吉(みちよし・鈴木すずき、国学/歌人)	J 4 1 3 8
士興(しこう・福居)	→	芳麿(よしまる・福居ふくい/藤原/膝、幕臣/蝦夷探検)	H 4 7 2 3
士興(しこう・齋藤/清河)	→	八郎(はちろう・清河/清川、教育/尊攘)	F 3 6 0 1
士興(しこう・森)	→	鷗村(おうそん・森もり、儒者/教育)	C 1 4 5 8
士攷(しこう・曾)	→	槃(はん・曾そう/宋そう、本草/医者)	H 3 6 1 5
士亨(しこう・奥田)	→	三角(さんかく・奥田おくた、藩士/儒者)	E 2 0 1 9
士衡(しこう・宇佐美)	→	淡斎(たんさい・宇佐美うさみ、藩士/漢学者)	I 2 6 1 5
子行(しこう・菅沼/阮)	→	東郭(とうかく・菅沼/阮、医者/儒者)	C 3 1 0 9
子行(しこう・今井/長岡)	→	懐山(かいざん・長岡ながおか、医者)	I 1 5 6 6
子行(しこう・徳田)	→	椿堂(ちんどう・徳田、商家/俳人)	K 2 8 9 4
子行(しこう・伊藤)	→	華岡(かこう・伊藤いとう、書家)	L 1 5 6 0
子行(しこう・竹中/河田)	→	東岡(とうこう・河田、藩士/漢学者)	D 3 1 7 6
子行(しこう・円山/丸山)	→	学古(がくこ・円山/丸山まるやま、医/儒者)	J 1 5 7 7
子行(しこう・牛尾)	→	旗峰(きほう・牛尾うしお、儒者)	L 1 6 9 3
子行(しこう・菊池)	→	西崖(せいがい・菊池、藩士/神道研究)	H 2 4 7 4
子行(しこう・吉田)	→	宗敏(むねとし・吉田よしだ、里正/紀行)	B 4 2 8 5
子行(しこう・小田野)	→	清軒(せいけん・小田野おだの、儒者)	I 2 4 0 0
子行(しこう・福井)	→	応周(まさちか・福井ふくい、書家)	D 4 0 7 9
子行(しこう・石井)	→	樟斎(しょうさい・石井いしい、儒者/書家)	I 2 2 9 8
子行(しこう・菅野)	→	彊斎(きょうさい・菅野すげの、医/儒者/詩)	I 1 6 7 8
子行(しこう・阿野)	→	蒼崖(そうがい・阿野/松野、儒者)	2 5 8 5
子行(しこう・大内)	→	玉江(ぎよくこう・大内おおうち、藩士/儒者)	O 1 6 9 0
子行(しこう・竹内)	→	楊園(ようえん・竹内たけうち、儒者/詩人)	4 7 6 5
子行(しこう・森)	→	遜亭(そんてい・森もり/源、儒者)	F 2 5 6 5
子行(しこう・三浦)	→	蘭阪(らんぱん・三浦みづら/松田、医/本草)	D 4 8 1 3
子行(しこう・丸山)	→	株修(むねのぶ・丸山まるやま、宿老/書・歌)	L 4 4 4 1
子行(子孝しこう・西村)	→	壺岳(こがく・西村にしむら、文筆家)	L 1 9 9 0
子行(しこう・堤つみ)	→	正敏(まさとし・堤つみ、儒者/禅学)	E 4 0 5 5
子行(しこう・大塚)	→	恒徳(つねのり・大塚おつか、藩士/歌人)	F 2 9 3 8
子行(しこう・久米)	→	習斎(しゅうさい・久米くめ、詩人)	X 2 1 3 4
子行(しこう・横田)	→	莠(はぐさ・横田よこた、藩士/儒者/教育)	K 3 6 9 5
子行(しこう・尾高)	→	藍香(らんこう・尾高おだか、里正/勤王家)	C 4 8 0 7
子公(しこう・平野)	→	元良(元亮げんりょう・平野ひらの、医者)	N 1 8 0 7
子広(しこう・竹川)	→	竹斎(ちくさい・竹川たけがわ、商家/殖産家)	D 2 8 0 6
子広(しこう・福井)	→	春水(しゅんすい・福井ふくい、本草家)	L 2 1 2 0
子恒(しこう・内藤)	→	貞久(さだひさ・内藤ないとう、和算家)	J 2 0 4 3
子恒(しこう・山県)	→	大式(だいに・山県、医者/漢学/尊王論)	C 2 6 0 3

子恒(しこう・滝沢/高齋)→	単山(たんざん・高齋こうさい/滝沢、書家)	I 2 6 7 7
子恒(しこう・久世/筒井)→	政憲(まさのり・筒井/久世、幕臣/海防)	G 4 0 1 0
子恒(しこう・久田)	→ 蘭州(らんしゅう・久田ひさだ、儒者)	C 4 8 5 7
子恒(しこう・湯浅)	→ 祇庸(やすつね・湯浅あさ、藩士/国学)	H 4 5 0 0
子恒(しこう・横井)	→ 久時(ひさとき・横井よこい、藩士/歌人)	M 3 7 3 1
子康(しこう・星野)	→ 良悦(りょうえつ・星野、医/身幹儀製作)	G 4 9 5 2
子康(しこう・谷川)	→ 物外(ぶつがい・谷川たにがわ、心学者)	D 3 8 2 7
子康(しこう・吉村)	→ 海州(海洲かいしゅう・吉村、和算:測量)	I 1 5 7 0
子康(しこう・星野)	→ 良悦(りょうえつ・星野、医/身幹儀製作)	G 4 9 5 2
子功(しこう・三須)	→ 竦水(とすい・三須みす、儒者)	F 3 1 7 5
子功(士功しこう・塚原)	→ 簡(かん・塚原つかはら、和算家)	P 1 5 8 9
子功(しこう・岩垣)	→ 謙亭(けんてい・岩垣いわがき、儒者/詩)	L 1 8 5 1
子孝(しこう・宇佐美)	→ 友政(ともまさ・宇佐美うさみ、藩士/史家)	Q 3 1 5 5
子孝(しこう・熊谷/丹治)→	直興(なおおき・熊谷/丹、絵/勤王)	3 2 7 9
子孝(しこう・西田)	→ 維則(これのり・西田、儒者/白話翻訳)	O 1 9 6 9
子孝(しこう・三雲)	→ 仙嘯(僊嘯せんしゅう・三雲みくも、篆刻家)	F 2 4 9 5
子孝(しこう・山田)	→ 維則(これのり・山田やまだ、藩士/儒者)	O 1 9 7 2
子孝(子交しこう・森)	→ 一鳳(いっぽう・森もり、絵師)	H 1 1 9 3
子孝(しこう・町田)	→ 清興(きよおき・町田まちだ、儒者/書家)	O 1 6 6 4
子孝(しこう・鈴木)	→ 百年(ひやくねん・鈴木すずき、絵師)	E 3 7 7 3
子孝(しこう・山本)	→ 葎園(みえん・山本やまもと、儒者/書画)	4 1 5 2
子孝(しこう・安達)	→ 清風(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家)	E 2 4 4 3
子考(しこう・大橋)	→ 長憲(ながよし・大橋、歌人)	G 3 2 5 0
子考(しこう・津軽)	→ 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人)	G 4 5 2 7
子宏(しこう・神野)	→ 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌)	I 1 6 4 7
子厚(しこう・菊池)	→ 南洲(なんしゅう・菊池きくち、儒者)	J 3 2 1 9
子厚(しこう・江幡)	→ 晩香(ばんこう・江幡えぼた、詩歌人)	H 3 6 6 0
子厚(しこう・久世)	→ 敦行(あつゆき・久世くぜ、本草家)	E 1 0 9 1
子厚(しこう・竹内)	→ 武信(たけのぶ・竹内たけうち、和算家)	O 2 6 5 8
子厚(しこう・富岡)	→ 正忠(まさただ・富岡、藩士/国学/歌)	D 4 0 5 3
子厚(しこう・河東)	→ 静溪(せいけい・河東かわひがし、藩士/儒/教育)	N 2 4 7 0
子厚(しこう・大河内)	→ 存真(ぞんしん、大河内おおくち/西山、医者)	F 2 5 5 9
子厚(しこう・村上)	→ 松堂(しょうどう・村上むらかみ、絵師)	R 2 2 6 2
子厚(しこう・堤)	→ 量水(りょうすい・堤つみ、藩士/和算家)	I 4 9 3 2
子厚(しこう・近藤)	→ 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌)	B 2 4 5 8
子厚(しこう・三宅)	→ 良斎(こんさい・三宅みやけ、蘭方医者)	P 1 9 2 1
子厚(しこう・頼)	→ 三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、儒者/勤王家)	4 1 6 9
子厚(しこう・服部)	→ 応卿(まさあき・服部はっとり、国学者)	R 4 0 8 1
子厚(しこう・東尾)	→ 美雄(よしお・東尾ひがしお、国学者/歌)	O 4 7 7 1
子交(しこう・松平)	→ 信登(のぶおき・松平、藩主/記録)	B 3 5 0 5
子交(しこう・秋山)	→ 景山(けいざん・秋山あきやま、藩士/儒者)	E 1 8 7 1
子交(しこう・篠沢)	→ 久敬(ひさたか・篠沢しのざわ、藩士/和漢学)	B 3 7 2 4
子好(しこう・小泉/青山)→	延彝(のぶつね・青山、儒者/詩文)	C 3 5 1 7
子高(しこう・野崎)	→ 教景(のりかげ・野崎、藩士/儒者)	E 3 5 3 5
子高(しこう・加藤)	→ 洞庭(どうてい・加藤かとう、医者)	G 3 1 6 3
子高(しこう・古林)	→ 見桃(けんとう・古林ふるばやし、医者)	B 1 8 6 8
子高(しこう・鈴木)	→ 重嶺(しげね・鈴木/穂積/小幡、幕臣/歌)	C 2 1 6 5
子高(しこう・細野)	→ 要斎(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌)	4 7 9 8
子高(しこう・栗山)	→ 孝庵(3世こうあん・栗山くりやま、景範/春水/藩医)	Q 1 9 0 1
子亨(しこう/しきょう・伊藤)→	万年(まんねん・伊藤/藤原、儒者/講説)	K 4 0 7 8

子亨(しこう/しきょう・吉田)→	竹窓(ちくそう・吉田、藩士/儒者)	D 2 8 3 6
子亨(しこう/しきょう・勃海)→	保(たもつ・渤海ふかみ、商家/能楽)	S 2 6 9 2
子亨(しこう/しきょう・飯盛)→	嘉満(よしみつ・飯盛いもり、藩陪臣/教育)	L 4 7 4 9
子浩(しこう・戸板/新井)→	雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌)	C 1 2 0 2
子皓(しこう・高尾)	→ 竹溪(ちくけい・高尾たかお、藩士/儒者)	C 2 8 8 6
子皓(しこう・秋山)	→ 弘通(ひろみち・秋山あきやま、藩儒)	H 3 7 3 0
子光(しこう・香川)	→ 琴山(きんざん・香川かがわ、藩家老/詩歌)	R 1 6 0 7
子光(しこう・堀)	→ 熙明(ひろあき・堀ほり、藩士/儒者)	F 3 7 4 8
子光(しこう・斎藤)	→ 瑞雪(ずいせつ・斎藤さいとう、大庄屋/文筆)	E 2 3 7 8
子光(しこう・円山)	→ 溟北(めいほく・円山まるやま/小池、藩士/儒者)	4 3 3 7
子光(しこう・本木)	→ 正栄(しょうえい・本木、通事/対訳辞書)	H 2 2 1 6
子黄(しこう・赤田)	→ 誠軒(せいけん・赤田あかだ、儒者)	I 2 4 0 3
子耕(しこう・土屋/石井)→	縷齋(じょうさい・石井/土屋、儒者/詩文)	S 2 2 3 7
子耕(しこう・成田/福嶋)→	貞雄(さだお・福嶋/成田、名主/救民)	H 2 0 8 1
子興(しこう・西邑)	→ 楯川(しゅうせん・西邑にしむら、儒者/詩人)	H 2 1 9 3
子興(しこう・小松)	→ 正直(しょうじき・全亭、狂歌・読本作者)	J 2 2 4 1
子興(しこう・尾本)	→ 雪齋(せつさい・尾本おもと/大江、儒者)	L 2 4 0 0
子興(しこう・中野)	→ 素堂(そどう・中野なかの、儒者)	E 2 5 1 1
子興(しこう・丸山)	→ 閑山(かんざん・丸山まるやま、藩士/絵師)	V 1 5 8 1
子剛(しこう・しごう・三野)→	謙谷(けんこく・三野みの、藩士/漢学者)	E 1 8 1 0
子剛(しこう・しごう・高木)→	芳洲(芳州ほうしゅう・高木、家老/儒者)	B 3 9 4 2
子剛(しこう・しごう・松平)→	頼貞(よりさだ・松平まつだいら、藩主/武術)	I 4 7 6 4
子剛(しこう・しごう・荒木)→	蘭阜(らんこう・荒木あらき/富永、儒者/詩)	B 4 8 9 9
子綱(しこう・和田/早川)→	正紀(まさとし・早川/和田、幕臣/教育)	E 4 0 4 7
子綱(しこう・三角)	→ 有紀(ありのり、廷臣/医者)	I 1 0 5 1
之光(しこう・前駿河守)→	之光(これみつ・前駿河守、武家/連歌)	G 1 9 0 8
之光(しこう・力丸)	→ 東山(とうざん・力丸りきまる、儒/兵学/詩)	E 3 1 5 6
之行(しこう・村井)	→ 長貞(ながさだ・村井むらい、藩士/日記)	D 3 2 7 1
之孝(しこう・三井)	→ 之孝(ゆきたか・三井、書家/篆刻)	E 4 6 6 2
之浩(しこう/ゆきひろ・大竹/岳)→	麻谷(まこく・大竹/岳、漢学者)	4 0 7 0
之綱(しこう・朽木)	→ 之綱(ゆきつな・朽木くつき/源、旗本/歌)	G 4 6 2 6
旨広(しこう;字)	→ 日義(にちぎ;法諱・黄華院、日蓮僧)	B 3 3 2 1
氏興(しこう・友松)	→ 氏興(うじおき・藤波、神職/日記)	C 1 2 3 2
氏興(しこう・友松)	→ 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道)	1 2 2 3
氏光(しこう・土岐)	→ 氏光(うじみつ・土岐/今峯、武将/歌人)	C 1 2 7 4
氏光(しこう・児玉)	→ 氏光(うじみつ・児玉こだま、名主/国学)	E 1 2 6 8
氏恒(しこう・石野)	→ 氏恒(うじつね・石野いしの、藩士/国学)	E 1 2 5 2
氏孝(しこう・水無瀬)	→ 氏孝(うじたか・水無瀬みなせ/藤原、権中納言)	E 1 2 9 1
志好(しこう・那波)	→ 葎宿(りっしゆく・那波なば、俳人)	C 4 9 0 1
志考(しこう・佐竹)	→ 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師)	C 3 9 4 9
志厚(しこう・大塚)	→ 敦臣(あつおみ・大塚おつか、藩士/国学)	H 1 0 2 6
師光(しこう)すべて	→ 師光(もろみつ)	
師弘(しこう・中原)	→ 師弘(もろひろ・中原、明経博士/故実家)	H 4 4 8 4
師行(しこう・北畠)	→ 師行(もろゆき・北畠/源、廷臣/歌人)	I 4 4 1 0
師香(しこう・中原)	→ 師香(もろか・中原、廷臣;明経博士)	H 4 4 0 8
師香(しこう・葉川/石山)→	師香(もろか・石山/藤原/葉川、廷臣/画)	H 4 4 0 9
師綱(しこう・朝山)	→ 師綱(もろつな・朝山、梵燈庵、幕臣/連歌)	4 4 3 4
師厚(しこう・沢田)	→ 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人)	C 3 7 3 0
資光(しこう・藤原/日野)→	資光(すけみつ・藤原/日野、廷臣/詩人)	H 2 3 0 6
資光(しこう・白川)	→ 資光(すけみつ・白川、廷臣侍従)	H 2 3 0 7

資広(じゅう・町) → 資広(すけひろ・町/藤原/柳原、廷臣/歌) C 2 3 9 5
 資高(資行じゅう・二条) → 資高(すけたか・二条/藤原/平松、廷臣/歌) C 2 3 2 8
 資行(じゅう・柳原) → 資行(すけゆき・柳原/藤原、廷臣/詩文) H 2 3 1 9
 資康(じゅう・裏松) → 資康(すけやす・裏松うらまつ/日野/藤原、廷臣/詩歌) D 2 3 1 8
 資衡(じゅう・柳原) → 資衡(すけひら・柳原やなぎわら、廷臣/歌人) C 2 3 9 2
 資衡(じゅう/すけひら・大江) → 玄圃(げんぼ・大江おおえ、漢学/詩/書家) D 1 8 0 2
 資綱(じゅう・源) → 資綱(すけつな・源みなと、廷臣/詩歌人) C 2 3 4 3
 資興(じゅう・日野西) → 資興(すけおき・日野西/藤原/石井、廷臣/記録) G 2 3 1 2
 資興(じゅう・那須/本庄) → 資興(すけおき・那須なす/藤原/本庄、旗本) H 2 3 9 0
 思孝(じゅう・三熊) → 花顛(かてん・三熊/密熊みくま、絵師/俳) C 1 5 5 8
 思孝(じゅう・青木) → 錦村(きんそん・青木あおき、儒者) J 1 6 0 5
 思行(じゅう・中条) → 勝次郎(かつじろう・中条ちゅうじょう、藩士/武術) N 1 5 4 7
 斯行(じゅう・玉楮) → 斯行(これゆき・玉楮たまかじ、拳石/彫刻師) R 1 9 0 1
 至高(じゅう・深見) → 要言(ようごん・深見ふかみ、日蓮研究者) 4 7 8 8
 至剛(じゅう・じゅう・岡本/岡) → 稚川(ちせん・岡本/岡、藩士/儒/詩人) E 2 8 5 6
 枝紅(枝鶴じゅう・河合) → 見風(けんぷう・河合かわい、俳人/歌) C 1 8 9 7
 嗣広(じゅう・藤井) → 嗣広(つぐひろ・藤井/藤原、連歌) 2 9 8 3
 嗣興(じゅう・中西/幸福) → 嗣興(つぐおき・中西/幸福/荒木田、神職) 2 9 6 8
 子合(じゅう・功刀) → 君章(くんしょう・功刀くぬぎ、藩士/詩人) B 1 7 8 8

- T2137 **慈航**(じゅう;法諱、真覺寺明性みょうしゅう男) 1644-1727⁸⁴ 京栗田口の真宗本願寺派僧、第2代能化西吟門/近江犬上郡高宮円照寺慈雲の法嗣、本山設立学校の都講、1713-16夏安居の講師、第三代能化知空の弟、1683「正信偈要解刊定記」「無量寿経顕宗疏」、1711「大乘起信論疏序玄譚筌蹄」24「円光大師親鸞聖人両祖本地録」、「高宮聖教目録」編、「追遠帖」編、「無量寿経疏」、「慕帰絵詞人物考」(光隆寺明信みょうしんが継承刊行)、外著多数、[慈航(;法諱)の初法諱/字/号]初法諱;性海しゅうかい、字;無涯、号;益翁、諡号;誠実院
- T2138 **慈光**(じゅう;法諱・隆山;字、俗姓;小久保) 1741-1801⁶¹ 武蔵川越真言僧;武州大智寺慈染門;出家、長谷寺で修学/慈眼院一藪席/1781近江惣持寺住/89御室勝功德院転住、1790惣持寺寺領問題で彦根藩主井伊直中と係争;幕府より追放処分、御室南勝院に没、「成唯識論私記」「浄菩提心門」「大日経浄菩提心門」「具舍論顕相記」「秘密修業念誦作法記」、1770「入阿毘達磨論顕宗記」97「光明真言安心略鈔」1801「異部宗輪論述記聞録」外著多数
- T2139 **事紅**(じゅう) ? - ? 尾張名古屋の俳人:暁台門、1775俳論「美南武須比みなむすび」横井也有と共著(事紅の問・也有の答)/1776「続明鳥」入、[斧の音深くも入らず冬の山](続明鳥;乙626/樵の音が枯木の間を軽快に;寒林伐木図)
- T2140 **自弘**(じゅう・林はやし、初名;弘) 1769-? 1840存 河内狭山藩士;藩主北条氏昉・氏喬に出仕、和算家;藤田貞資・嘉言門/宅間流和算;内田秀富門、藩の貢租収納に携わる、岸忠義の師、1790「税斂法」1804「権衡術」08「偶方陣」11「時憲曆図解見行草」13「大成算経続録解」、1815「時中曆五星推算見行草」19「珠算乗除法」40「七政大小」著、「時中曆立元解」外著多数、[自弘(;名)の通称/号]通称;助右衛門、号;毅卿
- T2141 **慈航**(じゅう;法諱) 1787 - 1842⁵⁶ 近江愛知郡八木の真宗本願寺派西光寺住職、紀伊の芳英門/筑前の曇竜門/性相・宗乗に通ず、1841司教、「四幅絵伝記」「三味海経記」、「三類境講林」「八十華嚴便覧」「無量寿経知命録」「文類祖門録」「和讃通申録」外著多数
- D2162 **耳広**(じゅう・上島うえしま、青人あおんど[1660-1740]男)?-? 摂津伊丹の酒造業/桃足の弟、伊丹派俳人;鬼貫と同族
- D2163 **而后**(じゅう・家城、別号;此芝睡)?-? 会津の俳人、1747「くものみね」編
- T2142 **而后**(じゅう・伊東[藤]、名;栄/別号;暮雪亭) 1785-1865⁸¹ 名古屋益屋町味噌醤油商、一清いっせいの父、俳人;塊翁門、1832-4「こひし笛沙鷗追善」43「俳諧の百韻」編、1845-49「あゆちの水」/52「而后発句集」/55「梅花帖」編、1857「農談集」「百韻百句」編、[したしさに崩るゝ垣や花木権むくげ]、[而后の通称]通称;銭屋喜兵衛/道喜
- P2132 **慈広**(じゅう;法諱) ? - ? 天台僧;江戸上野寛永寺津梁しんりょう院住僧、

大僧都、1848根岸の石碑「初音里鶯之記」の碑文著(書;関根江山)、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[治れる御代としられてあづま路の関のとざしも霞むばかりぞ](大江戸倭歌;21関早春)

侍公(じこう・侍従房)	→ 救済(ぐさい、連歌師)	1 7 0 2
持孝(じこう)	→ 持孝(もちたか・姓不詳、歌人)	B 4 4 4 4
持広(じこう・小笠原)	→ 持広(もちひろ・小笠原/杉浦、幕臣/故実)	B 4 4 6 0
持康(じこう・北畠)	→ 持康(もちやす・北畠/木造/源、大納言/歌)	B 4 4 7 4
次公(じこう・藤倉)	→ 元竜(げんりゅう・藤倉ふじくら、医者/詩)	M 1 8 9 5
次公(じこう・山県)	→ 周南(しゅうなん・山県やまがた/県、藩儒)	2 1 4 8
次弘(じこう・石原)	→ 次弘(つぎひろ・石原いしはら、藩士/神職/国学)	F 2 9 2 7
次綱(じこう・柴山/草川)	→ 次綱(つぐつな・草川/柴山、藩士/記録)	2 9 7 3
次孝(じこう・元田)	→ 次孝(つぎたか・元田もとだ、藩士、国学者)	G 2 9 6 0
時行(じこう) すべて	→ 時行(ときゆき)	
時光(じこう) すべて	→ 時光(ときみつ)	
時綱(じこう) すべて	→ 時綱(ときつな)	
時弘(じこう・西村)	→ 時弘(ときひろ・西村にしむら、家老/国学)	W 3 1 0 2
時香(じこう・北条)	→ 時香(ときか・北条/平、武将/歌)	I 3 1 9 6
時高(じこう・葦名)	→ 時高(ときたか・葦名あしな、歌人)	X 3 1 1 6
慈航(じこう;字)	→ 日津(にっしん;法諱、日蓮僧)	E 3 3 5 1
慈航(じこう;法名)	→ 大順(だいじゅん;法諱、浄土僧)	K 2 6 3 1
慈鴻(じこう;通称)	→ 慧敏(恵正えしょう;法諱、真宗大谷派僧)	D 1 3 9 8
慈興(じこう;法名)	→ 兼成(かねなり・水無瀬みなせ/藤原、権中納言/歌)	C 1 5 9 2
爾公(じこう・香川)	→ 南浜(なんびん・香川かがわ蓋臣、儒者)	J 3 2 3 7
治孝(じこう・二条)	→ 治孝(はるたか・二条、廷臣/記録)	G 3 6 4 8
治恒(じこう/はるつね・寺島)	→ 潤流子(潤流子かりゅうし・寺島、医者/謡研究)	G 1 5 7 3
自好庵(じこうあん)	→ 政憲(まさのり・中村なかむら、酒造業/歌人)	M 4 0 0 2
柿降庵主(じこうあんしゅ)	→ 紅月楼主人(こうげつろうしゅじん、洒落本)	I 1 9 5 0
慈光院(じこういん)	→ 日航(にちこう;法諱、華光院、日蓮僧)	B 3 3 7 8
慈光院(じこういん)	→ 日善(にちぜん;法諱・温志、日蓮僧)	C 3 3 6 5
慈光院(じこういん)	→ 宣海(のぶみ・林、名主/国学/歌人)	D 3 5 3 5
耆光軒(じこうけん)	→ 道仙(どうせん・芦屋あしや、陰陽家)	G 3 1 1 9
糸耕軒(じこうけん)	→ 立吟(りゅうぎん・森/小野川、俳人/地唄)	D 4 9 4 0
時康軒(じこうけん)	→ 忠虎(ただとら・石井、兵法家)	E 2 6 4 5
似功斎(じこうさい)	→ 残口(ざんこう・増穂、神道家/講釈)	F 2 0 7 9
時好斎(じこうさい)	→ 尹賢(いんけん・宮野みやの、儒者)	I 1 1 5 0
慈航真濟禪師(じこうしんさいぜんじ)	→ 観禅(かんぜん;道号・眺宗、曹洞僧)	R 1 5 2 2
慈光尼(じこうに)	→ 多保子(たほこ・大槻おおつき、玄沢妻/和文)	S 2 6 2 2
慈光不昧禪師(じこうふまいぜんじ)	→ 雲居(うんご;道号・希膺、臨濟僧)	B 1 2 1 2
紫江坊(じこうぼう)	→ 栢舟(はくしゅう・布川、俳人)	D 3 6 2 5
慈光房(じこうぼう)	→ 宋延(そうえん;法諱、法相僧/歌人)	2 5 6 7
治五右衛門(じごえもん・森)	→ 在久(ありひさ・森もり、華道家)	F 1 0 6 6
子午園(しごえん)	→ 太橋(たいきつ・竹田、俳人)	J 2 6 6 0
之乎翁(じこう)	→ 春澄(はるずみ・青木、俳人)	G 3 6 4 7

T2143 志穀(しこく/じこう・大西おおにし、名;原/字;子混)?-?1804-18頃没 大和の儒者;増田敬業・戸崎淡園門、
大和郷学教授、「志穀遺稿」

子穀(しこく・加納)	→ 東阿(とうあ・加納、医/詩/俳人)	3 1 7 4
子国(しこく・喜多川)	→ 梅俣(ばいか・喜多川[北川]、医/俳人)	3 6 7 9
子国(土国しこく・中沢/沢)	→ 雪城(せつじょう・中沢なかざわ/沢、書家)	L 2 4 1 0
子克(しこく・小山/関)	→ 勝之(かつゆき・関せき、藩士/儒者)	N 1 5 9 4
子告(しこく・小宅)	→ 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者)	G 2 0 6 2

- 子告(しこく・韓/石井) → 潭香(たんこう・石井、書家) T 2 6 4 7
 之国(しこく・松井) → 蝸庵(かあん・松井まつい、儒者) H 1 5 1 1
 市谷(しこく・熊沢) → 惟興(これおき・熊沢くまざわ、儒者/国学) O 1 9 1 5
 柿谷(しこく・菊川) → 延年(のぶとし・菊川さくかわ、庄屋/儒・国学) I 3 5 1 6
 資国(しこく・藤原) → 資国(すけくに・藤原ふじわら、廷臣) C 2 3 1 1
 至穀(しこく・石井) → 盛時(もりとき・石井いし、幕臣、記録) F 4 4 9 1
 爾谷(じこく・木村) → 正辞(まさこと・木村、国学/万葉研究) C 4 0 5 0
 四国菴(しこくあん) → 宗猿(そうえん・片桐かたざり、茶人) G 2 5 3 5
- I2120 至極楽也(しごくらくなり) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;424
 [ぬき足でしのぶが岡のしら驚やをよばぬ恋もふみつけてみん]
 四国老猿(しこくろうえん) → 鳴門(めいもん・井川いかわ/橘、書家/絵師) 4 3 4 0
 自誤居士(じごこじ) → 松廬(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人) C 2 2 1 2
 自娛齋(じごさい) → 景文(かげふみ・内藤、藩士/儒者) L 1 5 3 0
 四虎山人(しこさんじん) → 三良(さぶろう・尾崎おさき/若林、勤王家) L 2 0 5 1
 之乎者(しこしゃ;号) → 江雲(こううん;道号・宗竜;法諱、臨濟僧) H 1 9 4 2
 思古人(しごじん) → 春信(はるのぶ・鈴木、絵師) G 3 6 6 9
- D2164 支元(しこつ、小菘庵/冬瓜坊とうがぼう)?- ? 俳人/俳文作者、
 1799俳文句集「冬瓜文庫とうがぶんこ」(1801刊/花氏房かていぼう也徳の序/西村源六板;
 自作の詩・詔・表・書・辞・序・頌・賛・論・箴・銘・記・哀文・弁・説等の文章と四季発句を所収)
 醜翁(しこうきな) → 雅澄(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9
 自惚山人(じこつさんじん) → 自惚(うぬぼれ・黄山きやま、絵師/戯作) D 1 2 2 2
 醜翁(しこうきな) → 雅澄(まさずみ・鹿持、国学) 4 0 0 9
 師古堂(しこどう) → 直枝(なおえ・千葉、儒者) 3 2 7 4
 視吾堂(しごどう→あれみどう) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8
 視吾靈社(しごれいしゃ→あれみれいしゃ) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8
 自娛堂(じごどう) → 千梅(せんばい・田中、鋳物師/俳人) G 2 4 5 0
- T2144 色弗(色夫知しこぶち・忌部いむべ)?-701 大和期廷臣;672年の壬申乱では天武側で活躍、
 690持統帝に劍鏡を奉ず、「神代口訣」著、忌部宿禰子首こおびとの弟、
 兄 → 子首(首・子人こおびと/こびと・忌部、廷臣) F 1 9 4 7
 識名親方(しきなうえーかた) → 盛命(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官) D 2 4 0 0
 次五兵衛(じごへえ・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1
 醜磨(しこまる・代田) → 宗真(そうしん・代田しろた、茶華道/歌人) K 2 5 9 6
 思五良(しごりょう→うみぐら・識名) → 盛命(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官) D 2 4 0 0
 治五郎(じごろう・小池) → 内広(うちひろ・小池、国学/神道) D 1 2 1 1
 子坤(しこん・目々沢) → 鉅鹿(きよろく・目々沢めめざわ、儒者) Q 1 6 4 4
 子混(しこん・大西) → 志毅(しこく・しこう・大西、儒者) T 2 1 4 3
 芝昆(しこん・前田) → 玄通(げんつう・前田まえた、医者) L 1 8 4 6
 子巖(しごん・法諱) → 雷音(らいおん・道号・元博、渡来黄檗僧) 4 8 2 3
 滋根(しこん・河村) → 殷根(いんこん・滋根しげね/のぶね・河村、国学者) C 2 1 6 6
- T2145 慈巖(じごん;法諱、左大臣洞院実泰男) 1298-1359 62 母;小倉公雄女の季子、公賢の弟、天台僧;
 慈順(父の叔父)の跡継承し曼殊院門跡・1330天台座主;119世/1351天台座主再任;132世、
 「理趣経題釈」「根本中堂夜叉供式并法則」「天台円教菩薩戒相承血脈譜」外著多数
 紫金台寺御寺(しこんだいじのおむら) → 覚性法親王(かくしょうほつしんのう) 1 5 6 2
 子佐(しさ・小栗/平) → 鶴阜(かくこう・小栗、儒者/詩) B 1 5 4 7
 子差(しさ・福原) → 揺舟(ようしゅう・福原ふくはら、絵師/書家) B 4 7 1 2
 子磋(しさ・蟹) → 養斎(ようさい・蟹かに、儒者) 4 7 9 2
- D2165 士俣(しさい;法諱・友山ゆうざん;道号、初め;友雲士思、俗姓;藤原) 1301-70 70 鎌倉南北期;京臨濟僧、
 幼時に東福寺の南山士雲門;出家、のち闍提正具・潜溪処謙門、1328入元;1345帰国、
 1347甲斐浄居寺住持/山城安国寺住持/1357故郷山崎の正統寺開山/1361東福寺32世、

のち京の臨川寺住持/東福寺万年庵に隠棲、「友山録」著

D2166 思齋(しさい・松永まつなが、名;永三、尺五せきご[昌三]2男、貞徳孫)1628-1710⁸³ 儒(家学);父門、加賀金沢藩侍読;録3百石/父の講習堂継承;講説業、1681「武家節用集」編、1657西武「沙金袋」跋、寸雲(昌易)の弟、
[思齋(;)の別号] 講習堂

T2146 止齋(しさい・杉浦すぎうら/本姓;平、名;宗恒)1711-60⁵⁰ 丹波亀岡藩士/心学;京の石田梅岩門/講説、師梅岩没後その遺塾を預る/大阪で講席を開く、「杉浦先生口授話」、
[止齋(;)の通称/別号]通称;千輔/千助、別号;城齋

T2147 思齋(しさい・渡辺わたなべ、通称;正左衛門/庄左衛門)?-? 江中期対馬の儒者:陶山訥庵門、「思齋紀聞」著

T2148 思齋(しさい・松本まつもと、名;文寛)1766-1837⁷² 上州碓氷郡板鼻の料亭主人、儒者:閑竜門、江戸で昌平覺修学、帰郷し子弟教育、1829「養育歌」30「老婆心説」、
[思齋(;)の字/通称/別号]字;思敬、通称;森五郎、別号;久昌堂

T2149 思齋(しさい・本多ほんだ、名;楸しげる、郡房男)1781-1841⁶¹ 常陸儒者:江戸佐藤一齋門/山城淀藩儒官、竹村悔齋(伯実)・渡辺華山・安積良齋と交流、「竹村伯実伝」「鶏肋稿」著、
[思齋(;)の字/通称/別号]字;伯楸はくぼう、通称;茂一郎、別号;蘆軒/木瓜子

T2150 思齋(しさい・西塚にしづか、別号;陋巷処士ろうこうしよ)?? 江後期江戸の儒者:1855「啓蒙発録」著

Q2145 至齋(しさい・中村なかむら、7代宗哲猷齋の長男)1828-84⁵⁷ 千家十職の塗師;8代中村宗哲、朝廷・將軍家の御用達、御所造営・和宮降嫁の花嫁道具・將軍上洛道具など多数の御用、維新後;京都博覧会会社に勤務/1876フィラデルフィア開催の米国百年祭大博覧会に出品;銅賞、代表作;「碌々齋好」「既望棗」「玄々齋好」「曙棗」著、
[至齋(;)の幼名/通称/別号]幼名;丑之助、通称;八郎兵衛/忠一、別号;聴雨/蜂老

士濟(しさい・守住/庄野)→	貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師)	E 2 9 4 2
士濟(しさい・宮原)	→ 積(つむる・宮原みやはら/荒武、藩士/歌人)	F 2 9 7 7
士濟(しさい・土井)	→ 光華(みつあき・土井どい、国学/政治家)	J 4 1 8 3
士載(しさい・栗田)	→ 維良(これよし・栗田/高野、史家、俳)	O 1 9 9 9
士齋(しさい・石崎)	→ 融思(ゆうし・石崎/荒木、目利/絵師)	C 4 6 1 3
止齋(しさい・奥村)	→ 栄実(てるざね・奥村、国学/藩学制改革)	C 3 0 7 4
止齋(しさい・熊谷)	→ 敬直(のりなお・熊谷くまがい、藩士/記録)	F 3 5 2 9
止齋(しさい・谷田)	→ 輔長(すけなが・谷田たにだ、絵師)	G 2 3 7 5
思齋(しさい・新井)	→ 輔徳(すけのり・新井、易学者)	G 2 3 9 5
思齋(しさい・森)	→ 嘉善(かぜん・森もり、医者)	M 1 5 7 1
思齋(しさい・新井)	→ 輔徳(すけのり・新井/不破、藩士/儒者)	G 2 3 9 5
思齋(しさい・竹内)	→ 修敬(しゅうけい・竹内たけうち、和算家)	X 2 1 0 1
思齋(しさい・成田)	→ 重兵衛(じゅうべえ・成田なりた、養蚕家)	Y 2 1 3 6
思齋(しさい・松岡)	→ 道遠(どうえん・松岡まつおか/津村、医者)	V 3 1 7 2
思齋(しさい・佐久間)	→ 義濟(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇)	M 4 7 9 7
思齋(しさい・丹治)	→ 経雄(つねお・丹治たじ、神職/歌人)	F 2 9 8 9
子齋(しさい・杉山)	→ 篤信(あつぶ・杉山すぎやま、廷臣/医者)	E 1 0 7 3
子齋(しさい・植田)	→ 景賢(かげけん・植田うえだ、儒者)	K 1 5 8 4
子齋(しさい・鎌原)	→ 桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者)	E 3 1 6 2
子才(しさい・原)	→ 雲沢(うんたく・原はら、医者/儒)	D 1 2 9 3
子濟(しさい・天沼/伊藤)→	恒庵(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、儒/書)	E 1 9 8 5
子載(しさい・落合)	→ 雙石(そうせき・落合おちあい、藩儒/詩人)	C 2 5 3 3
芝齋(しさい・宍道)	→ 貞(ただし・宍道しんじ/楊井やない、藩士/歌)	X 2 6 6 2
志齋(しさい・寺田)	→ 剛正(たけまさ・寺田てらだ、藩士/佐幕派)	O 2 6 7 6
自齋(じさい;号)	→ 正運(しょううん;法諱、本願寺派学僧)	H 2 2 0 3
治濟(じさい・一橋)	→ 治濟(はるさだ・一橋/徳川、歌人)	G 3 6 3 5
而齋(じさい・友松)	→ 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道)	1 2 2 3
而齋(じさい・土屋)	→ 直連(なおつら・土屋つちや、藩士/歌人)	N 3 2 8 9

- 慈濟(じさい;諡号) → 彦演(いちえん/いつえん;法諱、廷臣/真言僧) G 1 1 0 5
嗜菜庵(じさいあん) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0
D2168 自在(じざい・三冬庵) ? - ? 江戸の浄瑠璃作者;
1770「往昔模様亀山染むかしもようかめやまぞめ」合作(吉川晴虹・森竹今日志・玉泉堂/肥前座初演)、
俳人;1773几董「あけ鳥」入;[岡に出てあらはに鹿の啼く夜哉](明鳥;204)
自在庵(じざいあん) → 鳳岡(ほうこう・中村、俳人) F 3 9 2 1
自在庵(じざいあん) → 祇徳(ぎとく・仲、俳人) B 1 6 6 0
自在庵(じざいあん) → 祇徳(2世ぎとく・仲、祇貞/初世男、俳人) B 1 6 6 1
自在庵(じざいあん) → 祇徳(3世ぎとく・小西、俳人) J 1 6 3 2
自在庵(じざいあん) → 道立(どうりゅう・樋口/江村、儒者/俳人) I 3 1 2 5
自在庵(じざいあん) → 蛭元(阿元あげん、真宗僧/歌人) 1 0 9 1
自在庵(じざいあん) → 方巖(ほうがん;道号・祖永;法諱、臨濟僧/煎茶) 3 9 3 5
自在庵(じざいあん) → 光林(こうりん、俳人) L 1 9 6 4
自在庵(じざいあん) → 松甫(しょうふ・三好みよし、俳人) Q 2 2 4 2
自在庵(じざいあん) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
自在庵(じざいあん) → 栄武(よしたけ・中島なかじま、大庄屋/歌人) O 4 7 1 8
自在院(じざいいん) → 日建(にちこん;法諱・大珠院、日蓮僧) B 3 3 9 9
自在院(じざいいん;日蓮僧) → 隆達(りゅうたつ;字・高三たかさぶ、商家/隆達節祖) 4 9 1 0
自在王院(じざいおういん) → 典仁親王(すけひとしんのう、閑院宮/歌人) C 2 3 8 9
慈濟軒(じさいけん;号) → 澄一(ちよういつ;法諱・慈濟軒、僧/医者) H 2 8 0 5
自在亭(じざいてい・会田) → 安明(やすあき・会田あいだ、和算家) 4 5 8 0
思齋堂(しさいどう) → 他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者) E 2 6 6 0
自在道人(じざいどうじん) → 智涯(ちがい・深広;法諱、真宗僧) 2 8 6 1
至哉坊(じさいぼう) → 宗古(そうこ、無事庵、俳人) H 2 5 2 4
T2151 治左衛門(じざえもん・柳屋やなぎや/石崎、旧姓;中村) ?-1742 通詞、
1697稽古通事欠員のため唐通事柳屋次左衛門(石崎友少)の養子となる、
1705小通事/1713大通事/25風説定役、1735「大清緝紳全書大小官名」訳、
[治左衛門(;通称)の別通称]権平ごんべい/次兵衛/治兵衛/治郎左衛門、法号;掘信院
T2152 治左衛門(じざえもん・出口でぐち、名;定行、保行男) 1766-1829 母;妙泰尼、
美濃岐阜の歌人;冷泉為村門、茶人;久田宗参門、六人役を務める/1821剃髪、
「伊勢大神宮江神納木図説」著、
[治左衛門(;通称)の別通称/号]初通称;新左衛門、剃髪号;方入齋道悦、
法号;西誉方入齋道悦居士
D2169 次左衛門(じざえもん・有村ありむら、兼善男) 1838-60 自害23歳 母;連寿尼、薩摩藩士/勤王の志士、歌人、
安政大獄に憤激;1860桜田門外変に兄雄助と参加;直弼の首級を挙げるが負傷し自害、
辞世の歌[岩も根もくだけざらめや武士ものぶの国の為にと思ひ切る太刀]
治左衛門(じざえもん・村越) → 道伴(道半どうはん・村越むらこし、幕臣) G 3 1 9 7
治左衛門(じざえもん・杉山) → 大象軒(たいぞうけん・杉山当太、兵法家) K 2 6 5 7
治左衛門(じざえもん・豊島) → 露月(ろげつ・豊島とよしま、謡曲/俳人) B 5 2 3 3
治左衛門(じざえもん・高畑) → 市隠(いん、高畑たかはた、藩士/俳人) B 2 1 0 8
治左衛門(じざえもん・宮崎/岡田) → 千川(せんせん・岡田/宮崎、荊口男/藩士/俳人) G 2 4 2 4
治左衛門(じざえもん・深町) → 景仰(かげすけ・深町ふかまち、藩士) K 1 5 9 1
治左衛門(じざえもん・中沢) → 律斎(りつさい・中沢なかざわ、藩儒/詩人) B 4 9 9 3
治左衛門(じざえもん・都筑) → 政直(まさなお・都筑つづき、幕臣) Q 4 0 9 2
治左衛門(じざえもん・竹村) → 了斎(りょうさい・竹村たけむら、農業/詩歌) H 4 9 5 8
治左衛門(じざえもん・大村) → 賀ト(かたかほく・大村/大森、刀工) P 1 5 3 7
治左衛門(じざえもん・川口) → 西洲(さいじゅう・川口かわぐち、儒者/詩人) G 2 0 7 3
治左衛門(じざえもん・長島) → 尉信(やすのぶ・長島/小泉、農政家) C 4 5 5 7
治左衛門(じざえもん・坂上) → 竹烟(ちくえん・坂上、俳人) C 2 8 6 1
治左衛門(じざえもん・横山) → 治泉(ちせん・横山よこやま、俳人) E 2 8 5 7

治左衛門(じざえもん・中塚)→ 季政(すえまさ・中塚べかなつか、商家/国学) I 2 3 9 1
 次左衛門(じざえもん・岩手)→ 宗也(そうや・岩手、藩士/歌/連歌) D 2 5 0 0
 次左衛門(じざえもん・渡辺)→ 弼(たすく・渡辺、藩士/礼法) P 2 6 0 2
 次左衛門(じざえもん・取田)→ 正潔(まさきよ・取田とりだ、神道家) C 4 0 3 3
 次左衛門(じざえもん・日高)→ 為一(ためかず・日高ひだか、藩士/右筆/歌) Z 2 6 1 5
 次左衛門(じざえもん・原田)→ 直久(なおひさ・原田、郷土史家) C 3 2 1 9
 次左衛門(じざえもん・井上)→ 春清(はるきよ・井上いのうえ、医者/俳人) G 3 6 2 9
 次左衛門(じざえもん・石川)→ 政勝(まさかつ・石川いしかわ、幕臣) C 4 0 1 3
 次左衛門(じざえもん・佐藤)→ 蕉廬(しょうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7
 次左衛門(じざえもん・朝比奈)→ 昌始(まさもと・朝比奈あさひな、幕臣) N 4 0 1 5
 次左衛門(じざえもん・鈴木)→ 政直(まさなお・鈴木すずき、歌人) M 4 0 2 3
 次左衛門(じざえもん・八田屋)→ 空翠(くうすい・野村、商家/詩歌/勤王) C 1 7 2 5
 次左衛門(じざえもん・中川)→ 義光(よしみつ・中川なかがわ、儒者/歌人) O 4 7 1 6
 治作(じさく・加藤) → 正柔(まさなり・加藤かとう、船問屋/国学) O 4 0 6 9
 治察(じさつ・田安) → 治察(はるあきら・田安、国学者) F 3 6 9 6
 治三郎(じさぶろう・山本) → 春正(しゅんしょう・山本、蒔絵師/歌人) J 2 1 9 3
 治三郎(じさぶろう・稲垣) → 御郷(みさと・稲垣いながき/源、歌人) I 4 1 0 9
 治三郎(じさぶろう・佐久間)→ 建彦(たてひこ・佐久間さくま/小池/青山、国学) X 2 6 1 5
 次三郎(じさぶろう・松島屋/山蔭)→ 春里(はるさと・山蔭やまかげ、国学者) J 3 6 3 2
 次三郎(じさぶろう・大森/川喜田)→ 敏則(としのり・川喜田かわきた/大森、商家/国学) U 3 1 8 3

D2170 子珊(しさん;号) ? - 1699 江戸深川の俳人;芭蕉門、深川連中の主要俳人、
 1694芭蕉最後の上方行脚に子珊の別屋で送別会を催;1694「別座鋪」編、1700「続別座敷」編、
 1693其角「萩の露」95浪化「有磯海」入/94「炭俵」7句・98「続猿蓑」2句入、
 [散り残るつゝ じの薬しべや二三本](炭俵;上巻)

士参(しさん・阿久津) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩人) H 4 0 1 3
 士参(しさん・田中) → 元勝(もとかつ・田中、医者/国史) C 4 4 3 9
 士産(子産しさん・菅) → 隆珀(隆伯りゅうはく・菅すが、医者) F 4 9 4 4
 子賛(しさん・頼) → 山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人) 2 0 5 8
 子賛(しさん・春日) → 潜庵(せんあん・春日かすが/源、儒者/勤王) E 2 4 8 0
 子繁(しさん・山県) → 鶴江(かくこう・山県やまがた、藩士/書家) J 1 5 8 0
 子纘(しさん・青木) → 充延(みつのお・青木あおき、儒者/詩文) E 4 1 3 8
 之参(しさん・吉田) → 元卓(げんたく・吉田よしだ、医者) K 1 8 9 5
 嗣燦(しさん・桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/修姓;桑そう、絵師) D 1 6 0 2

T2153 此山(しざん;道号・妙在みょうざい;法諱) 1296-1377⁸² 信州の臨濟僧;那須雲巖寺の高峰頭日門/入元、
 1345帰国/安藝長保寺・山城真如寺・万寿寺住持/1356京の建仁寺38世/59天竜寺7世、
 建仁寺内如是院経営/京南禅寺29世/1374円覚寺炎上;76義満の命で再興の為円覚寺42世、
 美濃安国寺開山、詩・書に秀づ、「此山和尚語録」、詩文「若木じゃくぼく集」著
 [此山妙在の号]如是住道人

D2171 芝山(しざん、大高坂おたかさか、名;季明、宜重男) 1649-1713⁶⁵ 土佐の漢学者/南学;姉婿谷一斎門、
 1664京・江戸に遊学、内藤・稲葉の諸侯に出仕/1685伊予松山藩儒;江戸藩邸で奏者番、
 南学朱子学派の先駆者で南学発展に貢献、詩人、妻;維佐子、1680「適從録」91「蒙訓」著、
 1695「喬松子」97「芝山会稿」、「南学伝」「積英集」「日新集」「蕉余集」「春天集」外著多数、
 [芝山(;号)の字/通称/別号]字;清甫/清助/清介いすけ、通称;九郎三郎、
 別号;黄軒/一峯/黄裳閣/黄裳園/喬松/止足軒/清処士/休也/岡立庵(1664)、
 南学の系譜 → 梅軒(ばいけん・南村なみむら)参照 B 3 6 0 6

T2154 市山(しざん) ? - ? 尾張俳人;1689「あら野」2句入、
 [うっかりと春の心ぞほとゝぎす](あら野;巻一/まだ時鳥への心の準備がない)

D2172 市山(しざん・本庄ほんじょう/塩足、名;清瑞) 1684-1752⁶⁹ 筑後竹野郡柴刈村塩足の庄屋、のち豊前住、
 俳人;1712野坡門、1717「百曲ももすじり」編(九州に野坡を迎えた歌仙や門人の発句など入)、
 1719「市山句帳」、「俳諧結塚」著、安楽坊春坡と交流、

- [市山(；号)の通称/別号]通称;宇左衛門、別号;丈日堂
- T2155 **紫残**(しざん・奥田おくだ、名;歳雄) 1692-1775⁸⁴ 近江日野の俳人:上島鬼貫門/のち巴人(宋阿)門、1780遺稿撰集「陽炎集かげろうしゅう」(門弟紫英編/關更・几董・嘯山序)、
[紫残(；号)の通称/別号]通称;平馬、別号;縷々居
- F2148 **指山**(しざん) ? - ? 江中期京の俳人;1729隆志「俳諧草結」入(203)
- 2120 **芝山**(しざん・後藤ごとう、友貞男) 1721-82⁶² 代々讃岐高松藩士/高松城下四番町に生、漢学者、儒;半儒守屋義門ぎもん・菊池黄山門、藩財政難の人員整理で1726帰農;領内芝山の麓に住、1739藩主の命で江戸の林榴岡りゅうこう門;昌平覺に修学、詩人、1764朝鮮通信使随員と詩文の応酬;「桑韓唱和」著/1754帰藩;藩儒に就任;高松藩主の侍講、1780(安永9)藩校講道館創設;初代総裁、四書五経等の訓点は後藤点と称され流布、1751「元明史略」編、1777「職原鈔考証」「宮詞一百首」著、「芝山集」「玉藻詩乘」「苗字集」著、「朱子読書之要」「遊幽篁軒記」「水主石風呂記」「日光道の記」「無仏齋記」「芝山印譜」著、「讃州孝子伝」外著多数、黙齋の父、柴野栗山・菊池五山らの師、
[芝山(；号)の名/字/通称/別号]名;岩之助/幸八郎/世鈞/元済もとより、字;守中、
通称;弥兵衛、別号;竹風/竹鳳/玉来山人、諡号;敬思
- T2156 **此山**(しざん;道号・玄淵げんえん;法諱、書家寺井養拙齋男) 1721-83⁶³ 京の臨濟僧;1731(11歳)得度;京妙心寺隣華院の大溪門、1743妙心寺春光院の性堂の嗣法/のち春光院住持、「江湖風月集註解」「正法山六祖伝考彙」著/「叢林公論管筋かんがい」「大光明蔵蔑蒙」編、「蒲室文集梗概こうちよ」「蒲室集書問枝蔓略抄」編
- D2176 **紫残**(しざん) ? - 1775 近江蒲生郡日野の俳人;鬼貫・宋阿門、「陽炎集かげろうしゅう」(遺稿;1784門人の紫英編)
- D2173 **紫山**(しざん・宋そう、姓;楠本/南、名;白圭、紫石男) 1733-1805⁷³ 江戸絵:父門、江戸の絵師;父門、紫岡の父、1779刊「紫石蘭譜」編、「宋紫石四君子画譜」編、
[紫山(；号)の字/別号]字;君錫、別号;雪溪(2世)/雪湖(2世)/茗溪、法号;寿性院
- T2157 **志山**(しざん・関せき、別号;洞齋)?- ? 江中期江戸の俳人:6世立志門、「俳諧霜夜塚」「萩乃薫」著
- Q2168 **只山**(しざん・五精庵ごせいあん)?- ? 江中期;長門長府の俳人;大坂の汝星庵句龍門、師より美濃獅子門流を伝受、1778(安永7)菊舎尼の要望で「菊車」号を授与、
[いふ事は積つるも菊の車かな](只山)、
[荻萩おぎはぎの雫を菊の車かな](菊車)
- D2174 **芝山**(しざん・斎藤さいとう、名;高寿、米良り市右衛門4男) 1743-1808⁶⁶ 斎藤伝之允の養嗣子、肥後熊本藩士;2百石/1781川尻作事頭当分/85定役;87御役御免、儒;独学で徂徠学修得、騎射犬追物師範;境野凌雲と犬追物復興に努力、高橋町奉行/作事頭/鉄炮十挺頭を歴任、1792熊本来訪の高山彦九郎に影響を与える、「論語徴補」「粒麦詩珠」「粒麦歌集」、「粒麦文集」「犬追物再御覧記」「王覇辨」「古文尚書国字解」「辨道補義」「儒仏論」外著多数、
[芝山(；号)の字/通称]字;権佐/権輔、通称;権之助
- D2175 **芝山**(しざん、白川しらかわ/修姓;白、名;景皓、別号;玉蕉庵) 1764-1824⁶¹ 淡路洲本の絵師/俳人、幼少時上京;南画を修業、玉蕉庵を営む、のち江戸芝に画塾を開く;1808渡辺崋山が入門、詩歌・書・俳諧を嗜む、1816-20「四海句双紙」16「歴代草書選」編/23「於曾美登李おそみどり」著、「高館俳軍記」「歴代草書鑑定」「春雪帖」著、「玉蕉庵月次句合集」「秋声帳」編
- T2158 **志山**(しざん;道号・宗俊そうしゅん;法諱) 1775-1833⁵⁹ 陸奥の臨濟僧:円覚寺誠拙周樗門;印可を受、円覚寺仏日庵住、1819瑞泉寺住持/24円覚寺192世、「志山録」「円覚寺志山和尚偈頌」著
- D2177 **詩山**(しざん・小畑おばた、名;行簡/字;居敬) 1794-1875⁸² 陸前古川の医者、江戸で医開業、儒・詩文、広福王府の侍儒、法橋、亀田鵬齋・朝川善庵・菊池五山らと交流、1837「熱病指揮」、1841「漫遊詩草」47「詩山堂詩草」50「詩山堂詩話」65「詩山文草」、「居敬堂隨筆」外著多数、
[詩山の通称/別号]通称;良卓/中務、別号;眞隱/居敬堂
- T2159 **紫山**(しざん・浅井あさい、名;正翼まささげ、貞庵の長男) 1797-1860⁶⁴ 尾張医者、儒;昌平覺:古賀精里門、1827尾張藩寄合医に抜擢/番医/奥詰医師/薬園奉行/奥医師を歴任、父の跡を嗣;門下育成、毎年6月10日に医学館で薬品会を主催、1854故あって寄合医に格下げ・禄2百石を削られる、詩・書嗜む、「医書筆記」「紫山叢書」「紫山雜記」「紫山先生記夢」、「貞庵先生語類」編、外著多、

- [紫山(；号)の字/通称/別号]字;亮甫、通称;桃太郎/董太郎、別号;希聖齋、法号;巖然院
- D2178 **紫山**(しざん・加治かじ、初姓;杉野、名;胤禎、白河・桑名藩士杉野直方男)1799-1856⁵⁸ 陸奥白河儒者、儒;広瀬蒙齋門/1814江戸昌平覺入;古賀精里門、帰郷後白河藩管轄の安房松ヶ岡陣屋学頭、1823藩主の桑名転封を機に江戸遊学;江戸詰となり隠居松平定信に侍す/定信没後勘定頭、兵法を修得/祖先の加治に改姓;加治流兵法を創始、笛・筑紫琴を嗜む、「喚醒録」「静軒集」、「御家流後段兵書」「家伝波多野流後段兵書」1847「諸国道中旅鏡」著/49「泰平千代鑑」編、
- [紫山(；号)の字/通称/別号]字;吉甫、通称;啓次郎、別号;静軒、桑名藩儒片山恒齋の弟
- D2179 **四山**(しざん・松平まつだいら、名;直興なおき、直方男)1800-1854⁵⁵ 母;松平輝和女、1817出雲母里8代藩主、従五下駿河守/志摩守/主計頭、財政再建;黒川羽左衛門を登用し新田開発・灌漑用水改良、1843養子直温に家督譲渡、俳人:田川鳳朗門、一茶[おらが春]入、書;嵯峨様/画;狩野派、
- [四山(；号)の幼名/別号]幼名;英三郎、別号;遠山/堂如/南山/一鏡/舌々子/舌翁/宗玄/三世貞佐/閑花林/東幻住庵/不二庵/知足//孤円齋/瓢界/玄翁/
- T2160 **四山**(しざん、愛敬あいきょう、名;武元)1802-52⁵¹ 肥後熊本の儒;熊本藩校時習館訓導、「詩集鷄肋集」「白雲楼詩集」、
- [四山(；号)の通称/別号]通称;四郎次、別号;蕉月/白雲楼/華奴
- D2180 **芝山**(しざん・東方ひがしかた、名;履、潜[蒙齋]男)1813-79⁶⁷ 加賀大聖寺藩士/儒;1832林蓀坡門、1853藩校会頭助役/56家督/57安積良齋門/1869藩校改革/教育に尽力、1851「芝山草稿」、「七家詩存」「雙玄宗論」「唐玄宗論」「勸農文」「君鑑」「皇統録」、
- [芝山(；号)の字/通称/別号]字;天沢、通称;元吉/真平、別号;双岳/芝湖/五楊
- T2161 **紫山**(しざん・中川ながかわ、名;彦祥)?-? 江後期大阪北久宝寺町二丁目の医者、1862刊「麻疹宝鑑」著、[紫山(；号)の字/通称]字;敬、通称;良平
- | | | | |
|---------------|---|----------------------------|-----------|
| 子山(しざん・松野) | → | 保高(ほうこう・松野まつ、儒者) | E 3 9 1 3 |
| 子山(しざん・藤沢) | → | 雪斎(せつさい・藤沢ふじさわ/藤、医者) | K 2 4 9 2 |
| 支山(しざん・法諱・雲溪) | → | 雲溪(うんけい・支山、臨濟僧/1330-91) | B 1 2 0 9 |
| 獅山(しざん・伊達) | → | 吉村(よしむら・伊達、藩主/詩歌) | H 4 7 6 1 |
| 之山(しざん、俳名) | → | 助五郎(すけごろう・初世市山、歌舞伎役作者) | C 2 3 1 4 |
| 芝山(しざん・陳) | → | 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) | B 1 8 2 7 |
| 芝山(しざん・坊城) | → | 経頭(つねあき・勸修寺かじゅうじ/坊城/藤原、歌人) | B 2 9 4 6 |
| 芝山(しざん・長川) | → | 華山(かざん・長川ながかわ、儒者) | H 1 5 4 6 |
| 芝山(しざん・田辺) | → | 喜理(よしただ・田辺たなべ、藩士/家臣録) | E 4 7 2 8 |
| 思山(しざん・家崎) | → | 善之(よしゆき・家崎いえさき、商家/和算家) | H 4 7 9 4 |
| 梓山(しざん・石原/石) | → | 哲庵(ていあん・石原、江前期医/儒/詩) | 3 0 2 3 |
| 梓山(しざん・石原) | → | 桂園(けいえん・石原、江後期医/儒者) | F 1 8 2 9 |
| 紫山(しざん・荒木田) | → | 麗女(れいじょ・荒木田、歌/物語作者) | 5 1 0 2 |
| 紫山(しざん・福) | → | 石室(せきしつ・福ふく、儒者/詩人) | K 2 4 1 2 |
| 紫山(しざん・玉井/遠藤) | → | 高環((たかわり・遠藤/玉井、藩士/測量) | M 2 6 8 0 |
| 紫山(しざん・水野) | → | 政礼(まさのり・村井/水野、廷臣/勤王家) | G 4 0 3 2 |
| 紫山(しざん・大藪) | → | 茂利(しげとし・大藪おおやぶ、和算家) | R 2 1 6 6 |
| 自参(じさん・森田) | → | 盛昌(もりまさ・森田、藩士/随筆家) | G 4 4 5 1 |
- M2140 **慈山**(じざん;法諱・妙立みょうりゅう;字、俗姓;和田)1637-90⁵⁴ 美作の天台律僧;叡山安楽律院の祖、初め1653(17歳)山城花山寺の雷峰禅師門;出家/禅の印可/1664近江坂本住/72自誓受戒、天台三大に接し天台宗に帰す/秘密灌頂・円頓戒を受、口伝法門を排し戒律を主唱;台徒より小乗として排斥追放、東山住;布教活動、門弟光謙が比叡山に安楽律院建立;慈山を開山一世とす、歌「妙立詠和歌集」「妙立和尚歌集」、詩「野山艸集」、「妙典清濁」、「答作智信女書」「答十如義」、1686「三千有門頌大義」「始終心要大義」外著多数、
- [慈山妙立の号] 唯忍子
- | | | | |
|------------|---|-----------------------|-----------|
| 似山(じざん・喜多) | → | 古能(このう・ひさよし・喜多きた、能楽師) | N 1 9 3 5 |
| 寺山(じざん・牧) | → | 天穆(てんぼく・牧まさ、蘭学者/翻訳) | E 3 0 3 3 |
| 紫山園(しざんえん) | → | 周伯(しゅうはく・広瀬ひろせ、藩医/蘭医) | Y 2 1 2 2 |

芝山外史(しざんがいし) → 鴻齋(こうさい・石川いしかわ、儒者/詩/画) J 1 9 0 8
 芝山館主人(しざんかんしゅじん) → 鄰松(りんしょう・鈴木/藤原/船橋、幕臣/絵師) K 4 9 4 7
 紫珊瑚(しさんご) → 紫珊瑚(むらさきさんご、雑俳点者) D 4 2 4 7
 紫山樵夫(しざんしょうふ) → 梅磡(ばいかん・森田もりた、儒者/詩) 3 6 9 1
 支山人(しざんじん) → 三喜(三帰さんき・田代、医者;李朱医学) L 2 0 9 5
 支散人(しざんじん・蒲坂) → 青菴(せいそう・蒲坂ほさか、漢学者) C 2 4 4 9
 慈山叟(じざんそう) → 氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師) C 1 2 7 2
 四山亭(しざんてい) → 嶮水(巴水はすい・宮崎、俳人) E 3 6 6 5
 四山道人(しざんどうじん) → 成美(せいび・夏目、俳人) 2 4 1 2
 嗜山楼(しざんろう) → 伴主(ともぬし・相沢、華道家) Q 3 1 1 1

D2181 師子(し・源みなもと;六条源氏) 1070-1148 79 平安後期;関白大政大臣藤原忠実の妻、
 藤原忠通・高陽院泰子(かやのいんやすこ(1095-1155/鳥羽天皇皇后)の母、
 没後;夫忠実の哀傷歌あり(新古今784)

之只(し・岡) → 之只(ゆきただ・岡おか、商家/和算家) E 4 6 7 5
 湊子(し・藤原、花山帝女御) → 四条中宮(しじょうちゅうぐう) E 2 1 1 4
 茨子(し・藤原) → 以子(苺子いし・藤原、鳥羽天皇母) J 1 1 2 2
 資子(し・従三位) → 資子(すけ・庭田/源、崇光院女房/歌人) C 2 3 1 2
 資子(し・源) → 資子(すけ・庭田) C 2 3 1 2
 資子(し・村上皇女) → 資子内親王(しなないしんのう) D 2 1 8 5
 資子(し/すけ、日野資名女) → 竹向(たけむき、日記、歌人) 2 6 2 2
 資之(し・樺山) → 資之(すけゆき・樺山かばやま、藩士/勤王) B 2 3 0 1
 資之(し・岡田/松波) → 資之(すけゆき・松波/岡田、廷臣/歌人) D 2 3 2 3
 資氏(し・白川) → 資氏(すけうじ・白川、神祇伯) G 2 3 0 5
 資氏(し・福原) → 資氏(すけうじ・福原ふくはら/伊達、藩士) G 2 3 0 6
 資枝(し・日野) → 資枝(すけき・日野/藤原/鳥丸、廷臣/歌人) C 2 3 0 3
 資始(し・堀田/太田) → 資始(すけもと・太田/堀田、藩主/老中) H 2 3 1 5
 資始(し・日野) → 資始(すけもと・日野/藤原、歌人/狂歌) H 2 3 1 6
 資始(し・川田) → 資始(すけもと・川田かわだ、藩士/国学者) I 2 3 2 7
 資施(し・日野) → 資施(すけもち・日野ひの/畠山、旗本高家) H 2 3 9 1
 士思(し;法諱・友雲) → 士愿(しさい;法諱・友山;道号、臨濟僧) D 2 1 6 5
 士師(し・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
 子止(し・原田) → 齋山(てんざん・原田、漢学) D 3 0 6 2
 子之(し・岡村) → 有長(ありなが・岡村おかわら/源、藩士/歌) H 1 0 3 4
 子至(し・田中) → 春回(しゅんかい・田中、儒者/医/詩人) Z 2 1 5 2
 子志(し・田宮) → 如雲(じょうん・田宮/大塚、藩士/藩政改革) M 2 2 1 5
 子思(し・丸山) → 閑山(かんざん・丸山まるやま、藩士/絵師) V 1 5 8 1
 子施(し・堤) → 義府(よしもと・堤つみ、医者/歌人) N 4 7 9 4
 子師(し・菊池) → 半隠(はんいん・菊池、儒家、耕斎男) H 3 6 2 2
 子師(し・藤田) → 北郭(ほつかく・藤田ふじた、藩士/書) E 3 9 5 6
 子師(し・鈴木) → 祥正(さちまさ・鈴木すずき、儒者/詩文) K 2 0 4 5
 子嗣(し・丹治) → 経雄(つねお・丹治たじ、神職/歌人) F 2 9 8 9
 子耜(し・大田) → 南畝(なんぼ・大田おた、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
 子眞(し・山崎/高橋) → 復齋(ふくさい・高橋/山崎、藩儒/詩文) B 3 8 5 3
 氏之(し・山本) → 氏之(うじひさ・賀茂/山本、神職) C 1 2 6 4
 氏之(し・荒木田) → 氏之(うじゆき・荒木田/家田、神職/歌) 1 2 5 7
 止子(し・板倉) → 止子(とめこ・板倉いたくら、間部柳、藩主夫人/歌) U 3 1 2 2
 咨之(し・大田) → 咨之(ことゆき・大田おた、国学者) Q 1 9 5 7
 嗣子(し・庭田) → 嗣子(つぐこ・庭田にわた、女官/歌人) 2 9 7 0
 師氏(し)すべて → 師氏(もろうじ)

- 師嗣(し・二条) → 師嗣(もろつぐ・二条/藤原、関白/歌人) H 4 4 4 4
 師資(し・押小路) → 師資(もろすけ・押小路/中原/小槻、廷臣/記録) H 4 4 3 3
 思之(し・馬目) → 思之(もとゆき・馬目まのめ、藩医/歌人) L 4 4 3 0
 思之(し・小島) → 省斎(せいさい・小島こじま、儒者/藩政) B 2 4 6 1
 M2194 之治(し・姫田ひめだ) ? - ? 江前期上方の俳人/1678西鶴「物種集」入、

[出世に及ぶ寛永通寶](物種集/前句;拾ひ文字あつめあつめて二十年;
 法帖より所要の文字を集字する、寛永は二十年で正保に改元)

- 之辞(し・五島) → 赤水(せきすい・五島ごとう、医者/儒者) K 2 4 2 5
 至時(し・高橋) → 至時(よとき・高橋東岡、幕臣天文家) E 4 7 8 6
 氏侍(し・山本) → 氏侍(うじとも・山本/賀茂、神職/日記) C 1 2 5 3
 氏次(し・丹羽) → 氏次(うじつぐ・丹羽にわ、武将/藩主) C 1 2 4 6
 子次(し・松田) → 得芝(とくし・松田まつだ、農業/俳人) K 3 1 8 3
 子滋(し・古松) → 淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ/清水、歌人) D 3 8 2 0
 師時(し・源) → 師時(もろとき・源みなもと、権中納言/歌人) H 4 4 4 9
 旨治(し・井上) → 旨治(むねはる・井上、狂歌) D 4 2 3 5
 資時(し・源) → 資時(すけとき・源、廷臣/今様/郢曲) C 2 3 5 3
 資時(し・日野) → 資時(すけとき・日野ひの/藤原、廷臣/歌) C 2 3 5 4
 資次(し・伴) → 資次(すけつぐ・伴ばん、商家/歌人) J 2 3 0 0
 滋子(し・平) → 滋子(しげこ・平たいら・建春門院、歌合催) C 2 1 1 9
 持之(し)すべて → 持之(もちゆき)
 持氏(し・足利) → 持氏(もちうじ・足利あしかが、武将) B 4 4 3 1
 持資(し・太田) → 持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7
 滋治(し・小村) → 滋治(しげはる・小村こむら、藩士/国学者) O 2 1 4 3
 時治(し・本堂) → 親知(ちかとも・本堂ほんどう、藩士/歌) B 2 8 3 5
 獅子庵(しあん) → 支考(しこう・各務かがみ、俳人) 2 1 1 9
 獅子庵(5世しあん) → 再和坊(さいわぼう・川村、俳人) B 2 0 1 8
 紫子庵(しあん) → 青峨(2世せいが・前田、春來、俳人) 2 4 8 3
 紫子庵(しあん) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/俳;青峨2世門) C 3 5 2 8
 止止庵(ししあん) → 牛荘(ぎゅうそう・中村、藩士/儒者) M 1 6 7 7
 四時庵(しじあん・英窓) → 紀逸(2世きいつ、俳人) 1 6 7 2
 四時庵(しじあん・広田) → 精知(せいち・広田ひろた、商家/俳人) J 2 4 2 0
 時々庵(しじあん・渭北) → 麦天(ぼくてん・右江、俳人) 3 6 1 1
 時々庵(しじあん) → 茶畑(ちやえん・時々庵、俳人) F 2 8 5 1
 時爾庵(しじあん) → 文卿(ぶんけい・西村、俳人) H 3 8 2 4
 爾時庵(しじあん) → 雲樞(うんしゅ;道号・泰禪;法諱、曹洞僧) 1 2 9 4
 爾時庵(しじあん) → 沂風(きふう・塩路、俳人) B 1 6 7 3
 紫芝園(ししえん) → 春台(しゅんたい・太宰だざい/平手、儒者) 2 1 6 2
 詩史園(ししえん) → 快庵(かいあん・大森おおもり、儒者/詩人) H 1 5 1 2
 獅子園(ししえん) → 亮衍(りょうえん;法諱・歙浦きゅうほ、修験) M 4 9 4 5
 梔子園(ししえん) → 石室(せきしつ・山口やまぐち、篆刻家) K 2 4 1 3

- N2172 宋夫(しお・尾崎おさき) 1825 - 1911 87 京の生/近江大津の国学者/歌人;渡忠秋門、
 1891歌集「菊乃下葉」著、晩年;御歌所参候、鎌田里世子りよこの師、
 [宋夫(;名)の通称/号]通称;弥三兵衛やそべえ/与三衛、号;垣衣小家/愚叟/郁子舎むべのや
 四時観(しじかん); 1733祇空門下4人の俳人による俳諧撰集/その活動

- 祇徳(初世ぎとく・仲、水光すいこう、俳人) B 1 6 6 0
 → 祇明(ぎめい・伊藤、莎鶏さけい、俳人) B 1 6 8 6
 → 為邦(ためくに、衣芳、俳人) G 2 6 7 7
 → 心祇(しんぎ・轍、魚貫ぎよかん、俳人) D 2 2 7 7
 子式(しき・高野) → 蘭亭(らんてい・高野、儒者/詩人) 4 8 0 9

士式(しき・後藤)	→	守黒(もりすみ・後藤ごとう、国学/歌人)	J 4 4 9 7
獅子窟(ししくつ)	→	得住(とくじゅう; 法諱、真宗大谷派僧)	K 3 1 8 9
獅子窟(ししくつ)	→	禪慧(ぜんえ; 法諱・函海、臨濟僧)	L 2 4 6 9
獅子窟(ししくつ)	→	秩ト(おぼく・森岡、船問屋/俳人)	D 3 8 7 5
獅子吼(ししこう)	→	因静(いんせい・東渡、浄土僧)	I 1 1 6 7
獅子吼(ししこう)	→	鸞動(らんどう・古沢ふるさわ/橋川、俳人)	D 4 8 0 8
獅子吼道人(ししこうどうじん)	→	烏洲(うしゅう・金井かない、儒者/絵師)	B 1 2 7 5
止々斎(しさい; 号)	→	集雲(しゅううん; 道号・止水; 法諱、臨濟僧)	W 2 1 6 3
止々斎(しさい)	→	黙斎(もくさい・宇佐美うさみ、茶人)	4 4 8 0
止々斎(しさい)	→	威之(いげき・上田/藤原、書家/茶人)	T 2 1 0 6
孜々斎(しさい)	→	蘭溪(らんけい・西島/下条、儒者/詩人)	B 4 8 8 7
思々斎(しさい)	→	天游(てんゆう・中なか/上田、蘭医)	E 3 0 4 5
孳々斎(しさい・中村)	→	鸞溪(らんけい・中村なかむら、藩儒)	B 4 8 8 1
紫芝山樵(ししんしょう)	→	篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人)	1 9 7 8
四々山人(しさんじん、十六山人)	→	覚峰(かくほう; 法諱、真言僧/国学)	K 1 5 4 6
茲子々斎(じしさい)	→	政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人)	B 4 0 1 0
志々処(ししよ・丁野)	→	遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌)	V 3 1 7 5
此芝睡(ししづい)	→	而后(じこう・家城、俳人)	D 2 1 6 3
治七(じち/はるしち?・山尾)	→	定政(さだまさ・山尾やまお、絵図師/詩歌)	J 2 0 7 1
子質(しつ・佐藤)	→	信直(のぶなお・佐藤さとう、藩士/刀奉行)	C 3 5 4 8
子質(しつ・埜)	→	一瓢(いっぴょう・埜はなわ、儒者)	H 1 1 7 6
師質(しつ/もろかた・中根)	→	雪江(ゆきえ/せっこう・中根、藩士/国事)	E 4 6 3 3
子実(じつ・貝原)	→	楽軒(らくけん・貝原かいばら、藩儒)	B 4 8 1 0
子実(じつ・小宮山)	→	楓軒(ふうけん・小宮山、藩士/儒/農政)	3 8 5 3
子実(じつ・草鹿)	→	玄泰(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人)	K 1 8 9
子実(じつ・入江)	→	北海(ほっかい・入江いりえ、儒者)	E 3 9 4 9
子実(じつ・鈴木)	→	伍草(ごそう・鈴木すずき、藩士/儒者)	M 1 9 9 9
子実(じつ・芳賀)	→	猶昌(なおよさ・芳賀はが、国学者)	O 3 2 2 7
子実(じつ・松浦)	→	東鷄(とうけい・松浦まつうら、易占家)	D 3 1 1 7
子実(じつ・河原)	→	信充(のぶみつ・河原かわはら、神職/国学者)	I 3 5 0 3
士実(じつ・留守)	→	希斎(きさい・留守るす/遊佐ゆさ、儒者)	I 1 6 5 2
氏実(じつ・荒木田)	→	氏実(うじさね・荒木田あらかだ、神職/歌)	E 1 2 9 8
師実(じつ・清原)	→	師実(もろさね/もろみ・清原、廷臣/歌人)	H 4 4 2 3
師実(じつ・藤原)	→	師実(もろさね・藤原ふじわら、摂政関白/歌)	H 4 4 2 4
資実(じつ・日野)	→	資実(すけさね・日野/藤原、廷臣/詩歌)	C 2 3 1 8
時実(じつ・中原)	→	時実(ときさね・中原なかはら、廷臣/歌人)	J 3 1 1 5
時実(じつ・坂田)	→	時実(ときさね・坂田さかた、歌人)	V 3 1 3 2
持実(じつ・花山院)	→	持実(もちさね・花山院/藤原、廷臣/記録)	B 4 4 4 0
持実(じつ/もちさね・中村)	→	忠亨(ちゅうてい・中村、藩士/儒者)	G 2 8 6 4
至日園(じつえん)	→	茂大(しげひろ・小林こばやし、国学者/歌)	O 2 1 3 9

a2147 四室吉王(ししきつおう) ? - ? 鎌倉期; 南都(興福寺?)の四室の童、

歌; 1237刊[檜葉集]2首入、

[四室吉王勸修寺に通ひそめてのちここもかしこも人の心頼みがたくやおぼえけむ、
みちにてよみ侍りける、

いたづらにゆきてはかへるうき雲のあとも定めぬ身とやなりけむ] (檜葉; 雑童736)

D2184 似実軒酔茶(しじつけんすいちゃ) ? - ? 川柳作者; 雨譚の別名か、1776「誹風未摘花」編

	→	雨譚(うたん・小山玄良、鍼医/川柳作者)	B 1 2 0 1
柿実山人(しじつさんじん)	→	松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育)	2 1 6 7
獅子童(しじどう)	→	昌喜(昌熹まさよし・入江、国学者/歌)	I 4 0 5 3
孜孜堂(しじどう)	→	嘉一郎(かいちろう・井口いのくち、儒者)	I 1 5 9 4

- 紫芝堂(しじどう) → 雪柯(せつか・松田まつだ、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
 四時堂(しじどう) → 其諺(きげん、俳人) B 1 6 0 8
- D2185 資子内親王(ししないんのう・すけこないんのう、村上天皇第9皇女)955-1015⁶¹ 母;藤原師輔女の安子、
 父村上・兄円融天皇に鍾愛される(栄花物語入)、一品/准三宮、986出家、
 冷泉天皇・円融天皇・為平親王・選子内親王の同母姉妹、
 歌人/歌合催;962(8歳)村上一品宮歌合・973(19歳)円融院一品宮歌合(扇合)など、
 玉葉集1371、
 [夢路ゆめぢにはなこそその関もなしといふに恋しき人のなどか見えこぬ](玉葉;恋1371)
- 猪之丞(しのじょう) → 道斎(どうさい・山口やまぐち、武将/物語) 3 1 1 2
 猪之丞(しのじょう・赤塚) → 孫重(まごげ・赤塚あかつか、神職/歌人) N 4 0 0 5
 矢治馬(しじま・鈴木) → 永頼(ながより・鈴木すずき/穂積/竹本、藩士) N 3 2 5 3
- T2163 自辞矛斎蒙陸(じじむさいもうろく、姓;多々良たたら/名;輝雄)?-? 通俗本作者・明の小説を和訳、
 1767「通俗如意君伝にいづくんでん」訳/画、70「通俗明皇后宮伝」訳
- 獅子門(3世しもん) → 廬元坊(ろげんぼう・佐野/仙石、俳人) 5 2 0 3
 獅子門(4世しもん) → 五竹坊(ごちくぼう・田中、医者/俳人) D 1 9 2 6
 獅子門(5世しもん) → 再和坊(さいわぼう・川村、俳人) B 2 0 1 8
 似児爺(じじや・丸岡) → 莞爾(かんじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学) V 1 5 8 0
 耳社翁(じじやおう) → 素因(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F 2 5 8 3
 子綽(しやく・辻村/三角) → 東圃(とうぼ・三角みすみ、医者) H 3 1 1 2
 子綽(しやく・大内) → 熊耳(ゆうじ・大内おおうち/余、儒者) C 4 6 1 9
 子綽(しやく・横山) → 政寛(まさひろ・横山よこやま、藩士/記録) G 4 0 9 7
 子綽(しやく・佐藤/藤) → 中陵(ちゅうりょう・佐藤/藤、本草家) G 2 8 9 8
 子綽(しやく・川野辺) → 寛(ひろし・川野辺/川辺、藩士/地誌) F 3 7 8 6
 子錫(しやく・丸山/秋月) → 韋軒(いげん・秋月、藩士/儒者/日記) E 1 1 2 2
 子錫(しやく・三好) → 想山(しょうざん・三好みよし、藩士/書家) J 2 2 3 0
- 2170 齒弱(しじやく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(377)
 [寒咲かんだぎの梅は諸木しよぼくをそゝのかす](二葉之松;377/そそのかすは促す)
 (前句;恋してあそべよしや閑思君わざくれ/閑思君は自暴自棄の心)
- 翅雀(しじやく) → 白羽(はくう・鹿島、俳人) C 3 6 5 5
 志寂(しじやく;法名) → 兼綱(かねつな・勘解由小路・広橋、廷臣/歌) C 1 5 8 6
 士若(しじやく・太田) → 紫水(しすい・太田おた/源、医者) T 2 1 9 3
 子若(しじやく・石井) → 扱所(たくしよ・石井、藩儒/学制) O 2 6 0 4
 子若(しじやく・高木) → 允胤(みつたね・高木たかぎ、和算家) D 4 1 8 3
 紫若(初世しじやく・岩井) → 半四郎(7世はんしろう・岩井いはい、歌舞伎役者) I 3 6 0 6
 慈寂(しじやく;法名) → 光業(みつなり・広橋/勘解由小路/藤原、廷臣/記録) E 4 1 2 2
 紫若半四郎(しじやくはんしろう) → 半四郎(7世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 6
 時釈長(しじやくちやう/万釈庵) → 意語(いご・奥村おくむら/村、伝記説話作者) B 1 1 0 0
- L2157 志酒(ししゅ) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(299)
- 子首(ししゅ・平群) → 子首(こおびと・平群首へぐりのおびと、廷臣/筆記) L 1 9 7 8
 子珠(ししゅ・宇佐美) → 良庵(りょうあん・宇佐美うさみ、医者) G 4 9 1 1
 氏守(ししゅ・前田/藤波) → 氏守(うじもり、藤波/荒木田、神職/歌) B 1 2 3 5
 士繻(ししゅ・阿久津) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩人) H 4 0 1 3
 師守(ししゅ・中原) → 師守(もろもり・中原/押小路、明経博士/記録) I 4 4 0 5
 師守(ししゅ・中原) → 師守(もろもり・押小路/中原、廷臣/記録) I 4 4 0 7
 師寿(ししゅ・大中臣) → 師寿(もろとし・大中臣/西/中臣、神職) H 4 4 5 1
 師寿(ししゅ・大原) → 山清(さんせい、大原おおはら、神職) M 2 0 4 5
 子寿(ししゅ・大沼) → 枕山(ちんざん・大沼、詩人) K 2 8 7 6
 子寿(ししゅ・川口) → 希逸(きいつ・川口かわぐち、臨濟僧) E 1 6 9 4
 子寿(ししゅ・正司) → 碩溪(せきけい・正司しょうじ、商家/儒・兵学) K 2 4 0 0
 子寿(ししゅ・南部) → 草寿(そうじゅ・南部なんぶ、儒者) B 2 5 7 8

- 子寿(しじゆ・福田) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9
子寿(しじゆ・大岩) → 昌蔵(まさなり・大岩おおいわ、藩士/文芸活動) O 4 0 2 7
子樹(しじゆ・山脇) → 東洋(とうよう・山脇、医者) H 3 1 7 7
子樹(しじゆ・楠瀬) → 清蔭(きよかげ・楠瀬くすのせ、藩士歌人) T 1 6 9 8
子樹(しじゆ・奥山) → 華嶽(かがく・奥山/藤、藩士/儒者) H 1 5 2 1
子孺(しじゆ・熊谷) → 竹堂(ちくどう・熊谷くまがい、儒者/詩人) D 2 8 5 7
士寿(しじゆ・原/勝田) → 五岳(ごがく・勝田/原、藩士/儒者/医) L 1 9 9 2
氏寿(しじゆ・戸田) → 氏壽(しじゆ・戸田とだ、旗本/歌) E 1 2 4 0
氏寿(しじゆ・村田) → 氏壽(しじゆ・村田、藩士/政治家) E 1 2 4 1
- T2164 慈守(しじゆ; 法諱、洞院公賢男)?-? 1350存 母; 藤原光久女の従三位光子、曼殊院門跡、
慈敵の甥、1344曼殊院門并北野別当、大僧都、1350隠遁、1343「毘沙門始行鈔」著
- D2186 自主(しじゆ) ? - ? 江戸の俳人・江戸座、
1730年寂「太郎河たろうがわ」に歌仙・発句入
- 時寿(しじゆ・服部) → 宗賢(そうけん・服部はっとり、医者/藩政) H 2 5 0 6
- D2188 帛舟(しじゆ) ? - ? 京の俳人; 雑俳、1696円水「俳諧住吉おどり」入
- D2187 子周(しじゆ) ? - ? 江中期俳人、
1774「俳諧七部集」編(小本1冊; 七部集の最初の合輯本; 水母散人保己一序/1808再刊)
- D2182 紫秋(しじゆ; 柴田しばた、名; 直可/通称; 金右衛門) 1779-1857 59 越後高田藩主榊原家の世臣、
文武諸芸に通ず; 程朱学/山鹿流兵法/制剛流柔術/観音流居合/新当流剣法に精通、
私塾を開き子弟教育、「武備小学解」著
- 資周(しじゆ・阪) → 資周(すけちか・阪、連歌) G 2 3 4 8
資秀(しじゆ・樹下) → 資秀(すけひで・樹下じゆげ、神職/歌人) L 2 3 1 5
師周(しじゆ・大中臣) → 師周(もろひろ・大中臣/西、神職) H 4 4 8 5
師周(しじゆ・後藤) → 黙斎(もくさい・後藤ごとう、藩儒) 4 4 8 3
師秀(しじゆ・中原) → 師秀(もろひで・中原、廷臣/明経博士) H 4 4 7 6
師秀(しじゆ; 法諱) → 守理親王(しゆりしんのう、仁和寺門跡) Z 2 1 1 2
之聚(しじゆ・しけい・石川) → 竹厓(ちくがい・石川、儒者/書) C 2 8 7 7
士修(しじゆ・横江/朝川) → 同斎(どうさい・朝川あさかわ、藩儒者/書) E 3 1 4 4
士修(しじゆ・上野) → 彦馬(ひこま・上野うえの、日本初写真業) 3 7 7 5
士秀(しじゆ・真壁/上野) → 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) G 3 7 5 1
- 子収(しじゆ・久我) → 苗秀(たねひで・久我くが、里正/国学) W 2 6 8 4
子緝(しじゆ・倉石) → 侗窩(とうか・倉石、儒者) B 3 1 7 3
子緝(しじゆ・長沢) → 蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ/上杉、絵師) C 5 2 0 1
子緝(しじゆ・上野) → 梅塙(ばい・上野うえの、書家/詩歌) J 3 6 7 6
子周(しじゆ・石原) → 東隄(とうてい・石原いしはら、儒者) G 3 1 6 1
子周(しじゆ・丸田) → 正通(正道まさみち・丸田まるた、藩士/和算) H 4 0 6 0
子舟(しじゆ・山県) → 行載(ゆきのり・山県やまがた、藩士/国学者) H 4 6 4 2
子猷(しじゆ・牧野) → 成憲(なるのり・牧野まきの、藩士/奉還論) I 3 2 0 1
子秀(しじゆ・足立) → 信頭(のぶあきら・足立あだち、幕臣/暦学) 3 5 8 8
子秀(しじゆ・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0
子秀(しじゆ・高久) → 守静(もりしず・高久たかく、和算家) F 4 4 4 8
子修(しじゆ・金井) → 烏洲(うしゅう・金井かない、農家/儒/絵師) B 1 2 7 5
子修(しじゆ・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0
子修(しじゆ・佐藤) → 陶崖(とうがい・佐藤さとう、医者/陶工) C 3 1 0 1
子修(しじゆ・安藤) → 重満(しげまる・安藤あんどう、神職/国学) P 2 1 2 9
子習(しじゆ・墨江) → 貫(かん・墨江すみのえ/墨、儒者) P 1 5 8 8
子習(しじゆ・大塚) → 長時(ながとき・大塚おつか、藩士/儒/歌) L 3 2 4 4
子洲(しじゆ・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学者) C 1 6 5 5
子衆(しじゆ・谷) → 寛得(ひろのり・谷たに、儒者) G 3 7 9 1

志修(ししゅう・寺井) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1
 氏秀(ししゅう・藤波) → 氏秀(うじひで/うじつら・藤波、神職/連歌) C 1 2 6 6
 氏秀(ししゅう・藤原) → 氏秀(うじひでら・藤原、連歌作者) C 1 2 6 5
 祀脩(ししゅう・諏訪) → 祀脩(としのぶ・諏訪すわ/工藤、国学/歌) V 3 1 4 3
 紫州(ししゅう・前田) → 宗恭(むねやす・前田まただ、国学/歌人) E 4 2 2 4

T2166 子柔(しじゅう・苗村むら/修姓; 苗、介洞2男) ?-1818? 近江蒲生郡八幡の医者、
 六如りくによ[1734-1801]の弟/国学; 兄六如門/伴蒿蹊[1733-1806]門、
 六如「六如菴詩鈔」編(1797二編跋文を筆)、1801兄没/1823「六如菴詩鈔遺稿」編纂、
 [子柔(;字)の名/号]名; 當剛まさたけ、号; 松溪

T2167 至重(しじゅう・荒あら、量重男) 1826-1909 84 磐城中村藩士/和算家; 1840佐藤儀右衛門門、
 江戸の内田五観門、1850帰藩; 51北郷代官、維新後新政府に出仕; 地租改正掛、
 1849「算法容術起源」編/50「算法町見術」52「野州芳賀郡東郷大崎権現社額題解」著、
 1865「量地三略」、「弧矢弦」、「円理軽題之解」、「測量雑解」著、
 [至重(;名)の字/通称]字; 子成、通称; 専八

子充(しじゅう・岸) → 南岳(なんがく・岸きし、藩士/儒者) I 3 2 7 8
 子充(しじゅう・松崎) → 観瀾(かんらん・松崎まつざき、家老/儒詩) G 1 5 7 0
 子柔(しじゅう・三宅) → 澹庵(たんあん・三宅、藩士/儒者/歌人) H 2 6 8 7
 子柔(しじゅう・原) → 南陽(なんよう・原はら、医者) 3 2 4 5
 子重(しじゅう・原) → 在中(ざいちゅう・原/平、絵師; 原派祖) 2 0 9 5
 子重(しじゅう・関) → 当義(まさよし・関せき、藩家老/財政再建) I 4 0 5 6
 子重(しじゅう・山口) → 重山(じゅうざん・山口やまぐち、藩儒) X 2 1 4 3
 子重(しじゅう・平岩) → 元珍(げんちん・平岩いらいわ、藩士/儒/音楽) L 1 8 4 5
 子重(しじゅう・松浦) → 武四郎(たけしろう・松浦、探検家; 北海道名付親) E 2 6 3 8
 之重(しじゅう・観世) → 之重(ゆきしげ・観世、能楽師/観世5世) 4 6 0 7
 之重(しじゅう・赤塚) → 之重(ゆきしげ・赤塚あかつか/財、神職/歌) G 4 6 4 8
 士柔(しじゅう・上野) → 海門(かいもん・上野うえの、儒者; 古文辞) J 1 5 0 9
 士充(しじゅう・関) → 仙籟(せんらい・関せき、藩儒) N 2 4 2 2
 止住(しじゅう・法諱) → 相阿(そうあ、止住、時宗僧/連歌) 2 5 4 1
 氏重(しじゅう) → 氏重(うじしげ、神職/連歌) B 1 2 3 1
 氏重(しじゅう・渡邊) → 氏重(うじしげ・渡邊わたなべ、俳人) E 1 2 3 0
 師重(しじゅう・中原) → 師重(もろしげ・中原、廷臣/歌人) H 4 4 2 5
 師重(しじゅう・北畠) → 師重(もろしげ・北畠/源、権大納言/歌) H 4 4 2 6
 師充(しじゅう・中原) → 師充(もろあつ・押小路/中原/小槻、廷臣/記録) B 4 4 6 6

2121 二洲(しじゅう・尾藤びとう、名; 孝肇たかもと/良佐よしすけ、温州長男) 1745-1813 69 伊予川之江の代々廻船業、
 幼児脚を負傷; 祖父の勧めで学問に進む、儒; 1760宇田川楊軒門・1770大阪の片山北海門、
 大阪で開塾、混沌社友; 頼春水・中井竹山・中井履軒と交流、1791幕府に登用; 昌平黌儒官、
 禄2百石を得て江戸住; 寛政三博士に1、1787「正学指要」「静寄余筆」/91「素餐録」、
 1800「冬読書余」01「中庸首章発蒙図解」、「静寄軒集」「静寄軒文集」「約山詩集」「癡夢録」著、
 「流水居詩稿」「流水居文稿」「白詩問答」「訓蒙駢言」「為学大言」「学庸衍旨」外著多数、
 孝章たかあきの兄、水竹すいちく(積高かざたか)の父、
 妻; 飯岡義斎女の直子[梅月ばいげつ](頼春水妻の静子[梅颯ばい]の妹)
 (姉; 静子しずこ/梅颯ばい)と尾藤二洲しじゅうの妻(妹; 直子/梅月)、
 [義斎の字/別号]字; 徳安、別号; 澹寧

[人を使ふは猶ほ馬を使ふがごとし あるいはその馴良じゅんりよなるを取り
 あるいはその神駿しんしゅんなるを取る](馴良は素直さ/神駿は優秀さ; 1791素餐録)、
 [二洲の字/別号]字; 志井、通称; 伊予屋良佐、別号; 約山/静寄軒せいきけん/流水斎/流水居、

二州(しじゅう、真宗僧) → 克讓(こくじょう・石室) C 1 9 3 6
 二州(しじゅう・藤堂) → 高潔(たかきよ・藤堂とうどう、藩主/書画) L 2 6 7 9
 二洲(しじゅう・長島) → 尉信(やすのぶ・長島/小泉、農政家) C 4 5 5 7
 自脩(しじゅう・大村) → 致知(むねとも・大村、藩士/日記) B 4 2 9 1

爾周(じしゅう・有嘉子)	→	爾周(にしゅう・有嘉子、俳人)	3 3 2 0
慈周(じしゅう;法諱、俗姓苗村)	→	六如(りくによ;字、天台僧/詩人)	4 9 8 1
慈秀(じしゅう;法諱)	→	独峰(どくほう;道号・慈秀、臨濟僧)	L 3 1 4 2
慈舟(じしゅう;法諱)	→	仏海(ぶつかい;道号・慈舟、曹洞僧)	H 3 8 3 2
慈舟(じしゅう・石橋)	→	知空(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家)	M 2 8 0 4
時習(じしゅう・畑)	→	鉄鶏(てつけい・畑はた、医者/絵師)	C 3 0 2 6
時就(じしゅう・大中臣)	→	時就(ときなり・大中臣おおなかとみ、神職/連歌)	J 3 1 6 4
時秀(じしゅう) すべて	→	時秀(ときひで)	
治秋(じしゅう・豊原)	→	治秋(はるあき・豊原とよはら、楽人)	F 3 6 9 5
治脩(じしゅう・前田)	→	治脩(はるなが・前田、藩主/日記)	G 3 6 6 3

D2190 侍従(じしゅう・本院、在原棟梁むねはり女)925?-? 972存 平安前期;藤原為昭の妻、則友母、本院女御仁善子(時平女/945没)家女房/のち村上天皇中宮安子[927-964/従姉妹]家女房、さらに齋宮女御徽子女王[929-985]家女房、中宮安子に出仕中に伊尹・兼通・朝忠らと恋愛、960(天徳4)「天徳内裏歌合」/972(天禄3)「女四宮規子内親王(徽子女王の女)歌合」参加、家集「本院侍従ほんいんのじしゅう集」、雲葉集入、勅撰17首;後撰(709)拾遺(1263)金葉(III 383)新古(1006)新勅(4首)続後撰(729)以下、[絵にかける鳥とも人を見てしがな同じ所を常に訪とふべく](後撰;恋709)、(時々逢う男の部屋の障子の画中の鳥に色紙をつけて)、☆「平中物語」の時平家女房「本院侍従」とは別人

T2168 侍従(じしゅう・無品親王家)? - ? 平安後期歌人; 1178顯昭判「廿二番歌合」/91「若宮社歌合」参、[いにし秋のきてやかへれる古郷に人なき庭の萩のにしきは](廿二番歌合;九番右18) (左方は源仲遠)

D2189 侍従(じしゅう・傀儡ぐつ) ? - ? 美濃青墓の傀儡/歌人、1439成立「新続古今」980;堪覚かんかく法師と贈答

T2169 慈什(じしゅう) ? - ? 1328存 鎌倉期天台僧:叡山延暦寺の僧;法印、1317伏見院御葬礼仏事に奉仕;「伏見上皇御中陰記」著、1319・21・26女院御産祈禱、1328天皇の瘡病加持の功で権僧正

侍従(じしゅう)	→	典侍(ないしのすけ・東三条院女房/連歌)	3 2 5 1
侍従(じしゅう・上総かずさ)	→	上総侍従(かずさのじしゅう)	G 1 5 8 7
侍従(じしゅう、侍従房)	→	救済(ぐさい;法諱、天台僧/連歌師)	1 7 0 2
侍従(じしゅう)	→	兼順(けんじゆん;法諱、真宗僧)	J 1 8 7 0
侍従(じしゅう)	→	実孝(じっこう;法諱、真宗本願寺派僧)	U 2 1 6 6
侍従(じしゅう;号)	→	一雄(いちゆう;法諱・侍従、真宗僧)	G 1 1 4 7
侍従(じしゅう)	→	輝高(てるたか・松平まつだいら/源、藩主/老中/歌)	E 3 0 8 6
侍従(じしゅう・日野)	→	資施(すけもち・日野ひの/畠山、旗本高家)	H 2 3 9 1
侍従(じしゅう・水野)	→	忠成(ただあきら・水野みずの、藩主/老中/歌)	F 2 6 4 4
侍従(じしゅう・諏訪)	→	忠誠(ただまさ・諏訪すわ、藩主/老中/歌)	U 2 6 9 1
侍従(じしゅう・冷泉)	→	為柔(ためとお・冷泉れいぜい/藤原、廷臣/国学)	2 7 2 6
持重(じしゅう/もちしげ・花山院)	→	持実(もちざね・花山院/藤原、廷臣/記録)	B 4 4 4 0
次充(じしゅう・成田)	→	次充(つぐみつ・成田なりた、藩士)	2 9 8 7
時住(じしゅう・横井)	→	淡所(たんしょ・横井よこい、藩士/茶人)	I 2 6 8 3
時習庵(じしゅうあん)	→	山海(さんかい・稲村いなむら、俳人)	L 2 0 9 0
侍従已講(じしゅういこう)	→	貞慶(じょうけい、法相僧/弥勒信仰/歌)	S 2 2 0 5
自秀院(じしゅういん)	→	定隆室(さだたかのしつ・佐々ささ、国学/歌)	O 2 0 5 0
時習館(じしゅうかん)	→	昌三(しょうぞう・松永尺五、儒者)	2 2 5 8
時習館(じしゅうかん)	→	玉山(ぎよくさん・秋山、藩士/儒者)	1 6 4 1
時習館主人(じしゅうかんしゅじん)	→	南溟(なんめい・斎藤さいとう、儒者)	3 2 3 8
四十九軒(しじゅうくけん)	→	孟遠(もうえん・山本やまと、許六門俳人)	4 4 4 3
時習軒(3世じしゅうけん)	→	松見(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者)	I 2 2 4 7

時習軒(しゅうけん・中川) → 篤信(あつのぶ・中川ながわ、漢学/神道) I 1 0 1 0
 時習斎(しゅうさい) → 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり/中村、天文家) D 3 9 6 2
 時習斎(しゅうさい) → 信武(のぶたけ・馬場、医/儒/翻訳) B 3 5 7 8
 時習斎(しゅうさい) → 玄昌(げんしょう;法諱・文之、臨濟僧/詩) C 1 8 1 7
 時習斎(しゅうさい) → 義芳(よしふさ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 3

D2191 **時習堂**(しゅうどう・二山ふたやま、名;義長、義次男/本姓;藤原) 1623-1709⁸⁷ 石見津和野生/浜田の人、
 一時期豊後岡藩中川家に出仕/のち江戸駒込で売薬業、仏・老子説/のち儒;陽明・朱子学、
 篤学慎行;中江藤樹に比較、1695「朱王学辨」、「ことの葉くさ」「良智要旨」「論語精義」、
 [時習堂(;号)の字/通称]字;伯養、通称;弥三郎

時習堂(しゅうどう) → 玄圃(げんぼ・大江、漢学/詩/書家) D 1 8 0 2
 時習堂(しゅうどう) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒/国学) G 1 9 5 3
 侍従阿闍梨(じじゅうのあじり) → 覚審(かくしん、叡山阿闍梨/歌人) B 1 5 6 1
 侍従阿闍梨(じじゅうのあじり) → 日現(にちげん;法諱、日蓮僧) B 3 3 6 6
 侍従典侍(じじゅうのすけ/じじゅうのないしのすけ) → 典侍(ないしのすけ・侍従、連歌) 3 2 5 1
 侍従僧正(じじゅうのそうじょう) → 勝賢(しょうけん;法諱、真言醍醐寺僧) I 2 2 3 6
 侍従僧正(じじゅうのそうじょう) → 了賢(りょうけん;法諱/了庵、真言僧) H 4 9 2 8
 侍従中納言乳母(じじゅうのちゅうなごんのめのと) → 因幡乳母(いなばのめのと・橘行頼女、書) I 1 1 0 9

a2155 **侍従内侍**(じじゅうのないし) ? - ? 平安中期;女房歌人、1046-52能因[玄々集]入、
 栄花物語[松の下枝]の後三条院女御(源基子)に出仕の侍従内侍とは別人?、
 [あかつきに帰りける人に 雨の降りければ、

かづきけん袂は雨に如何せしぬるるはさても思ひしれかし](玄々集;164)

侍従掌侍(じじゅうのないし) → 房子(ふさこ・高野たかの、女官/日記) C 3 8 0 4
 侍従入道(じじゅうのにゅうどう) → 俊平(としひら・源、廷臣/侍従/歌人) N 3 1 5 6
 侍従入道(じじゅうのにゅうどう) → 静蓮(じょうれん;法諱、真言高野山僧/歌) C 2 2 0 6

D2192 **侍従乳母**(じじゅうのめのと、大江匡衡女?)?-? 平安後期女房歌人:1038師房歌合参加、
 1038源大納言師房家歌合/41(長久2)弘徽殿女御歌合/51内裏根合参加、
 勅撰3首;千載226/続古401/続後拾291、雲葉集入、
 [秋きぬと聞きつるからにわが宿の荻の葉風のふきかはるらん](千載;226/秋立つ日)、
 [土御門右大臣(源師房)家歌合 秋月を、

のどかにも見ゆる空かな雲ははれていることおそき秋の夜の月](雲葉;秋524)

江侍従の別名説あり → 江侍従(ごうのじじゅう) B 1 9 8 4
 四十廼舎(しじゅうのや) → 言彦(ことひこ・小松こまつ、国学者) N 1 9 3 4
 四十八崖(しじゅうはちがい) → 匡平(まさひら・堀内、国学/勤王) G 4 0 8 5
 侍従房(じじゅうぼう) → 救済(くさい;法諱、天台僧/連歌師) 1 7 0 2
 子十郎(じじゅうろう・井戸) → 九如(きゅうじよ・井戸/本多/董、幕臣/絵師) M 1 6 7 0
 士叔(ししゅく・青木) → 海嶠(かいきょう・青木あおき、儒者/詩) I 1 5 5 5
 子叔(ししゅく・井上) → 蘭台(らんたい・井上いのうえ、儒者/折衷学) C 4 8 9 1
 思叔(ししゅく・山田) → 慥斎(そうさい・山田やまだ、儒者) B 2 5 5 7
 師叔(ししゅく・杜/中江) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9
 子肅(ししゅく・梅沢) → 西郊(せいこう・梅沢うめざわ、幕臣/漢学者) B 2 4 4 4
 子肅(ししゅく・伊藤/関) → 思恭(しきよう・関せき/伊藤、書家/藩士) B 2 1 6 2
 子肅(ししゅく・杉本) → 祐憲(すけのり・杉本/平、儒詩/歌人) G 2 3 9 4
 時俣(ししゅく・河地) → 時俣(ときよし・河地かわち、国学) U 3 1 8 8
 自肅道人(じしゅくどうじん) → 孝巖(こうがん;道号・父戒;法諱、臨濟僧) I 1 9 0 9
 子述(しじゅつ・黒川) → 好祖(こうそ;名・黒川くろかわ、文筆家) K 1 9 2 9
 子述(しじゅつ・高林) → 信好(のぶよし・高林たかばやし、書家) G 3 5 7 8

D2193 **時述**(しじゅつ/ときり?)・筒井つひ、通称;四郎左衛門尉しろうざえものじょう) ?-? 室町期の武士、連歌作者、
 1449京二条西洞院忍誓得業坊で「広柏ひろがしわ千句(宝徳西洞院千句/顕証院千句)」催;連衆は
 時述・忍誓・宗砌・専順・原秀・竜忠・超心の発句と就忠・満綱・盛承・来阿・俊喬・貞運・重武、
 宗砌の円熟期で当代連歌の代表的興行

T2170	子春(ししゅん・松枝)	? - ?	江中期歌学、1778歌語句索引「五句類葉集」撰
	子春(ししゅん・白石しらい)	→	桃花洞(とうかどう・白石、儒/道学) C 3 1 2 5
	子春(ししゅん・高橋)	→	至時(よしとき・高橋、幕臣/暦算) E 4 7 8 6
	子春(ししゅん・頼)	→	三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、儒者/詩) 4 1 6 9
	子春(ししゅん・楠部)	→	肇(はじめ・楠部くすべ、郷土史家) E 3 6 3 9
	子春(ししゅん・竜)	→	世華(つぐあき・せいか・竜たつ、藩儒/歌人) F 2 9 9 9
	子春(ししゅん・松本)	→	願言(こげん・松本、医者/俳人) C 1 9 4 6
	子春(ししゅん・野尻)	→	栄滋(ひでしげ・野尻/杉山、藩士) D 3 7 0
	子春(ししゅん・榎)	→	浄門(じょうもん・榎えのき、和算家) B 2 2 7 2
	子俊(ししゅん・正宗)	→	雅敦(まさあつ・正宗まさむね、国学者/狂歌) B 4 0 1 6
	子俊(ししゅん・土井)	→	子圭(しけい・土井/土・井、藩士/詩) B 2 1 8 4
	子俊(ししゅん・高島/竹田)	→	梅廬(ばいろ・竹田/高島、藩儒) C 3 6 3 7
	子駿(ししゅん・小林)	→	歌城(うたき・小林おぼやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6
	子駿(ししゅん・本多)	→	忠民(ただもと・本多、藩主/老中/日記) R 2 6 0 1
	子駿(ししゅん・猪)	→	良堅(りょうけん・猪ちよ/猪飼?、儒者;神童) H 4 9 3 2
	士春(ししゅん・津田)	→	致令(むねのり・津田つだ、儒者) C 4 2 2 4
	氏春(ししゅん・細川)	→	氏春(うじはる・細川、武将/歌人) 1 2 4 7
	師俊(ししゅん・源)	→	師俊(もろとし・源みなもと、権中納言/歌人) H 4 4 5 0
	枝春(ししゅん・都賀)	→	大陸(たいりく・都賀つが、医者/戯作) C 2 6 3 0
	資俊(ししゅん・太山)	→	資俊(すけとし・太山、武家/歌人) C 2 3 5 6

D2194 思順(しじゅん;法諱・天祐てんゆう;道号、上人)?-? 鎌倉中期僧;初め天台を修学/入宋、
臨濟僧:北礪居簡禅師門;嗣法/帰国;洛東草川に勝林寺開山、晩年は閉門し客を謝絶、
歌人:勅撰3首;続古今(793/794;思順上人名)続拾遺(1358)、
[しのびつついくたびかける玉づさも思ふほどにはいはれざりけり](続古今;釈教793)、
(教是仏語禅は仏心還有淺深否と問う人への返事)、
[天祐思順の通称] 艸川真観坊/真観上人

T2171 思淳(しじゅん;法諱・朴艾ぼくがい;字/号;我静)1278-1363/86 鎌倉南北期京の律宗僧;泉湧寺僧、
泉湧寺大灯源智門/諸国遍歴;戒律を修学、相模金剛寺・覚園寺住持/京の泉湧寺に移住、
宮中で戒経・三大部を数度講義、「戒疏一卷」「浄心誠観法上私鈔」/1338「業疏三下義纂」著

D2195 紫筍(しじゅん) ? - ? 俳人・露川門、
1717撰集「西国曲さいごぶり」燕説・梅風・草風の共撰(露川と燕説の中国九州紀行と句を集録)

D2196 思純(しじゅん・丘おか;修姓、本姓;岡本/丘本)?-? 1805存 京の医者/儒者;堀南湖・向井滄洲門/経史、
雨森芳洲を敬慕、詩文を嗜む/天文・地理・小説にも通ず、妻;白井定節女、白井赤水の義兄、
1794芳洲「橘窓文集」編刊、
[思純(;名)の字/通称/号]字;守心、通称;正吉、号;遜齋そんさい

D2197 師準(しじゅん;法諱・尚隆しょうりゅう;字、俗姓;大谷)1758-1815/58 京の臨濟僧;幼時に出家、
柳原家or観智院景室僧正の猶子、国学者・歌人:契沖に私淑、茶・香道に通ず、
伴蒿蹊と交流、1824「松の夕月」著、若菜集入、
[師準(;法諱)の通称/号]通称;七観音院隠居、号;緊堂/長松庵

師淳(しじゅん・大中臣)	→	師淳(もろきよ・大中臣中臣/西、神職) H 4 4 1 9
師淳(しじゅん・中原)	→	師淳(もろあつ・中原、廷臣;明経博士) H 4 4 0 1
師順(しじゅん・大中臣)	→	師順(もろなお・大中臣、神職) H 4 4 5 7
氏純(しじゅん・多羅尾)	→	氏純(うじひろ・多羅尾、国学) C 1 2 6 9
氏純(しじゅん・村田)	→	氏純(うじずみ・村田むらた、藩士/故実) C 1 2 3 9
氏順(しじゅん・太田)	→	氏順(うじのぶ・太田おおた、藩士/歌人) E 1 2 6 1
子順(しじゅん・瀬谷せや)	→	桐齋(とうさい・瀬谷、儒者) E 3 1 2 3
子順(しじゅん・山高)	→	信順(のぶより・山高やまたか、藩士/軍法家) E 3 5 0 9
子順(しじゅん・高階)	→	枳園(きえん・高階たかしな、医者) J 1 6 7 1
子順(しじゅん・田中)	→	芹坡(きんば・田中たなか、儒者/藩士) J 1 6 0 7
子順(しじゅん・野中/田辺)	→	楽齋(らくさい・田辺/野中、藩儒) B 4 8 1 3

子順(しじゆん・佐野) → 琴嶺(きんれい・佐野さの、藩士/漢学者) I 1 6 4 1
 子順(しじゆん・久米) → 博高(ひろたか・久米くめ、藩士/国学者) G 3 7 2 1
 子順(しじゆん・竹内) → 無因斎(むいんさい・竹内たけうち、儒者) 4 2 2 1
 子順(士順しじゆん・岡) → 敬安(けいあん・岡おか、医者) F 1 8 2 2
 子順(しじゆん・臼杵) → 溪村(けいそん・臼杵うすき、儒者/藩士) E 1 8 7 5
 子順(しじゆん・中村) → 梁山(りょうざん・中村/中邨なかむら、藩儒) H 4 9 7 3
 子順(しじゆん・秋山) → 遜(そん・秋山あきやま、儒者/藩儒) B 2 5 4 0
 子順(しじゆん・太田) → 午庵(ごあん・太田おた、藩士/詩文) H 1 9 0 5
 子順(しじゆん・今田) → 剛斎(こうさい/ごうさい・今田いまだ、俳人) P 1 9 4 3
 子順(しじゆん・瀬谷) → 桐斎(とうさい・瀬谷せや、藩士/儒者) E 3 1 2 3
 子順(至純しじゆん・黒崎) → 洗心(せんしん・黒崎くろさき、儒者/詩人) M 2 4 6 6
 子順(しじゆん・片岡) → 竹亭(ちくてい、片岡、儒/医者) D 2 8 5 1
 子順(しじゆん・佐藤) → 祐之(すけゆき・佐藤さとう、和算・天文家) H 2 3 2 3
 子順(しじゆん・山上) → 光道(てるみち・山上やまがみ、和算家) C 3 0 9 8
 子順(しじゆん・富田) → 徳風(とくふう・富田/陸、商家/儒/国学) L 3 1 3 3
 子順(しじゆん・森) → 祐信(すけのぶ・森もり、藩士/兵学者) G 2 3 8 5
 子順(しじゆん・杉本) → 祐之(すけゆき・杉本すぎもと、和学者) I 2 3 6 5
 子順(しじゆん・武笠) → 宣予(のぶやす・武笠たけがさ、藩士/歌人) J 3 5 0 4
 子順(しじゆん・植村) → 蘆洲(ろしゅう・植村うえむら、幕臣/詩人) B 5 2 7 4
 子潤(しじゆん:字) → 慧雲(えうん;法諱・子潤、真宗僧) D 1 3 4 7
 子潤(しじゆん・重野) → 樸軒(れきけん・重野しげの、漢学者) 5 1 7 4
 子潤(しじゆん・山科) → 宗安(そうあん・山科やましの、医/侍医/墨竹) 2 5 4 6
 子潤(しじゆん・金成) → 徳雄(のりお・金成かなり、国学者) I 3 5 0 6
 子淳(士淳しじゆん・長谷川) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B 1 3 3 1
 子淳(しじゆん・新宮) → 涼民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) J 4 9 5 1
 子淳(しじゆん・和田) → 宗淳(そうじゆん・和田わだ、国学者/歌人) L 2 5 1 7
 子淳(しじゆん・三宅) → 興道(おきみち・三宅みやけ、藩士/日記) C 1 4 9 9
 子詢(しじゆん・平野) → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) 2 7 1 6
 子恂(しじゆん・由良) → 時謹(ときざね・由良ゆら、藩士/暦算家) J 3 1 1 6
 子純(しじゆん・鬼頭) → 忠純(ただすみ・鬼頭さとう、儒者) P 2 6 6 9
 子純(しじゆん・佐藤) → 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9
 子純(しじゆん・阿部) → 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9
 子純(しじゆん・松本) → 安美(やすよし・松本まつもと、商家/儒者) D 4 5 5 3
 子純(しじゆん・平野) → 繁十郎(しげじゅうろう・平野ひらの、唐通事) R 2 1 0 6
 子準(しじゆん・竹内) → 修敬(しゅうけい・竹内たけうち、和算家) X 2 1 0 1
 之淳(しじゆん・陸原) → 之淳(ゆきあつ・陸原くがはら、藩儒/詩人) E 4 6 2 4
 志純(しじゆん・小川) → 志純(ゆきとく・小川、藩士/郷土史家) E 4 6 9 8
 士準(しじゆん・大村) → 重矩(しげのり・大村おおむら、医者/歌) S 2 1 1 0
 士潤(しじゆん・白井) → 華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師) P 1 5 5 9
 士潤(しじゆん・滝川) → 太冲(たいちゅう・滝川たきがわ、医者) K 2 6 6 1
 士順(しじゆん・安井) → 顕比(あきちか・安井、藩士/日記) D 1 0 5 3
 士順(しじゆん・高井) → 鴻山(こうざん・高井たかい、農業/儒/歌) J 1 9 3 3
 士順(しじゆん・新山) → 忠(ちゅう・新山にいやま、藩士/儒者/詩人) F 2 8 7 1
 思順(しじゆん・竹中) → 霞城(かじょう・竹中たけなか、医者) L 1 5 9 7
 思順(しじゆん・安藤/今泉/安積) → 長斎(こうさい・安積あさか、漢学/詩) 1 9 5 3

D2198 慈俊(しじゆん;法諱) ? - ? 平安後期元興寺の僧;大法師、
1165「元興寺伽藍縁起」抜粋

D2199 慈俊(しじゆん;法諱、本願寺3世宗昭覚如2男) 1295-1365 71 鎌倉南北期の僧:1311得度/頼禅門、
日野俊光の猶子、天台学;永寛親王・慈道親王門、のち真宗に帰依;親鸞の法語消息を編纂、
父覚如の行状を叙述、父が兄存覚を義絶;慈俊が本願寺の寺務を執る;辞任;世代に入らず、

長子俊玄善如が4世継承、1351「慕帰絵詞」(；父追慕)、1333「未燈鈔」編(；親鸞の法語消息)、
[慈俊(；法諱)の幼名/別法諱/号]幼名；光珠丸、別法諱；光真(初法諱)/光楯/光尋
号；從覚

E2100 **似春**(じしゅん・小西こにし、屋号；加賀屋)?-? 元禄1688-1704頃没 大阪の俳人；季吟門、京に住?、
1673延宝初年江戸本町住、風虎・芭蕉と交友/宗因に私淑；江戸の新風派として活躍、
1679上方行脚；82江戸を出る/晩年下総行徳の神職、1678桃青らと三吟/重尚と両吟式百韻、
1680「山の端千句」、81「芝肴しばさかな」編、「櫻川」「武蔵曲」入、87芭蕉と旧交/以後消息不明
[相蚊屋あひがやの乳ちをはなれ鳴く別れかな](宗因七百韻/1675鎌倉で宗因を送る)、
(乳は蚊帳の釣手と母親の乳を掛る/慈父と慕う宗因との別れの悲しみ)
[似春(；後号)の通称/別号]通称；加賀屋三郎左衛門/平左衛門、
別号；安静(初号)/似船(次号)/洒水軒/自準、

時雋(じしゅん・平石)	→	時光(ときみつ・平石、曆算家)	K 3 1 0 9
時春(じしゅん・諏訪)	→	忠晴(ただはる・諏訪すわ、藩主/詩人)	F 2 6 6 5
時春(じしゅん)すべて	→	時春(ときはる)	
時俊(じしゅん)すべて	→	時俊(ときとし)	
自春(じしゅん；字)	→	亮貞(りょうてい；法諱・自春、真言僧)	I 4 9 9 7
次春(じしゅん・伊藤)	→	不伝(ふでん・伊藤、居合術不伝流祖)	D 3 8 5 1
次俊(じしゅん・梶山)	→	主水(もんど・梶山かじやま、藩家老/和算)	I 4 4 3 5
慈春(じしゅん；字)	→	照忍(しょうにん；法諱、本願寺派僧/音韻)	L 2 2 2 9
滋春(じしゅん・在原)	→	滋春(しばはる/ともはる・在原、業平男/歌人)	C 2 1 8 5

E2101 **慈順**(じしゅん、左大臣洞院とういん実雄男)?-? 母；主殿司瑠璃女、良覚門；嗣、鎌倉期天台僧、
曼殊院大僧正/法性寺座主/北野別当、1315為兼「詠法華経和歌」出詠、
勅撰7首；新後撰(1512)玉葉(781/2200/2797)風雅(1703)新千載(1002/1673)、
[かねてなどいとふ心なかるらむつひに行くべき道ときけども](新後撰；雑1512)

T2172 **慈順**(じしゅん；法諱・通明つうめい；字、別法諱；慈忍、俗姓鎗田)1735-1816⁸² 武蔵埼玉郡荒木の真言僧、
1746(12歳)武州長久寺光浄門；出家/1755(21歳)長久寺住職、1774京の智積院動潮門；修学、
1791山城蓮台寺住職/権僧正、1799智積院25世、1803京の大報恩寺退隱、
「十卷鈔沢方」「雑記」、1805「年中行事私記」著

自準(じしゅん・本間)	→	松江(しょうこう・本間ほんま、藩士/医/俳人)	S 2 2 1 0
自準(じしゅん)	→	似春(じしゅん・小西、俳人)	E 2 1 0 0
持純(じしゅん・畠山)	→	持純(もちずみ・畠山/源、歌人)	B 4 4 4 3
志筍斎(じしゅんさい)	→	楚満人(そまひと・南仙笑、戯作者)	2 5 2 8
慈俊從覚(じしゅんじゅうかく)	→	慈俊(じしゅん・從覚、真宗僧)	D 2 1 9 9
自準亭(6世じしゅんてい)	→	道偉(どうい・本間、医者/俳人)	B 3 1 0 0
子緒(しよ・小原)	→	克紹(かつつぐ・小原おはら、儒/絵師/地誌)	N 1 5 5 3
司書(しよ・中島)	→	勝称(かつな・中島なかじま、陪臣/歌人)	V 1 5 1 8
師緒(しよ・中原)	→	師緒(もろお・中原、廷臣；明経博士)	H 4 4 0 7

E2102 **旨恕**(しよ・片岡かたおか、通称；庄三郎)?-? 大坂堂島の俳人/連歌；季吟門・のち宗因門、
1656「ゆめみ草」入；初出、大阪談林派の重鎮、1676「草枕」78「難波風」79「わたし船」編、
1680「備前海月」著(難波津散人名)、1681賀子「山海集」82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
貞享1684-88以後連歌に傾倒；「松門亭万句合連歌」催、
1687法橋、1687浮世草子「好色旅日記」著/90「多田の紀行」著、
[旨恕(；号)の別号]別号；松舟軒/松門亭/愛日庵/難波津隠士/難波津散人、
連歌号；宗岑/宗森、

[桜散るこのした事よ今日の風](山海集；左19/このした事はこれはどうしたこと事だ、
拾遺集；貫之；桜散る木の下風は寒からで空に知られぬ雪ぞ降りける)

T2173 **四如**(しよ・黒沢くろさわ、名；重巽、重典男)1783-1851⁶⁹ 羽後角館の儒者；糸井茅斎・金岳陽門、
1794(12歳)秋田藩校明德館勤番に抜擢/教授/1828明德館詰役支配/文学に昇進、
藩命で「別号録」編纂に参画、家塾四如堂でも子弟教育、秋田易学の大成者のひとり、
「易考」「国語参考」「左星管窺」「四書考」「春秋考」「書経考」著、

[四如(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名;米松、字;風卿、通称;勘五郎/宇左衛門、別号;半村/巽

子恕(しよ・鎌原かんばら)	→	桐山(とうざん・鎌原かんばら、儒者)	E 3 1 6 2
子恕(しよ・山地)	→	東山(とうざん・山地やまじ/千早、儒者)	E 3 1 6 3
子恕(しよ・原沢)	→	文仲(ぶんちゆう・原沢はらさわ、医者)	G 3 8 1 7
子恕(しよ・矢島)	→	敏彦(としひこ・矢島やじま、和算家/歌人)	W 3 1 7 5
子叙(しよ・和田)	→	春庵(しゅんあん・和田わだ、本草家)	2 1 9 3
子叙(しよ・福井)	→	松山(しょうざん・福井/佐藤、儒者/兵法)	J 2 2 2 2
子舒(しよ・田中/田)	→	蘭陵(らんりょう・田中たなか、儒者/講説)	D 4 8 2 3
士茹(しよ・宇野)	→	士朗(しろう・宇野うの/宇、儒者)	D 2 2 2 8
之女(しよ・瀬川)	→	之女(これじよ・瀬川せがわ、歌人)	Q 1 9 1 7
氏如(しよ・北条)	→	氏如(うじゆき・北条、軍学者)	B 1 2 7 6
時叙(しよ・源)	→	時叙(ときぶ・源みなもと、廷臣)	J 3 1 7 0

T2174 **士昭**(ししょう;法諱・鑑翁かんのう;道号)?-1360 南北期臨濟僧:南山士雲門、莊嚴藏院住、のち天竜寺住/万寿寺住寺/1356(延文元)東福寺29世、晩年;同寺宝寿庵隠棲、1360(延文5)没、「乾峯和尚語録」編(1818[文政元]刊/乾峯士曇;1285-1362)、歌;1350尊氏[経旨和歌]出詠、
[もろもろの蘇迷盧のほどの布施よりも般若をとくは猶増りけり](経旨和歌;28、福智無比分、蘇迷盧そめいろは仏教で最高の山;須弥山/般若;最高の知力)

E2103 **紫簫**(ししょう・鳴川なるかわ) ? - ? 奥州岩城の俳人;
1669風虎催「百番俳諧発句合」右方参加(；玖也判)

T2175 **子祥**(ししょう・神戸かんべ) ? - ? 寛政1789-1801頃の医者、腹診法;因幡文礼門、1797「診腹図説」著

T2176 **子承**(ししょう・本井もと/修姓;井)?-?1810前後没 河内佐太の医者、1794「秘伝衛生論」(；蛔虫疾病専門書)著;知識普及に貢献・「秘伝衛生論後篇」著、1797「秘伝長寿法」、「長命衛生論」著、
[子承(；名)の通称]伊左衛門

T2177 **子章**(ししょう・角館かくのだて、名;正珍/固佐)1799-1847 49 羽前の儒者;三浦竜山門/のち昌平齋入、新庄藩に文学として出仕、「角館氏遺稿」、
[子章(；字)の号]子章

子昭(ししょう・目々沢)	→	樗軒(ちゆけん・目々沢めめざわ、漢学者)	K 2 8 3 5
子昭(ししょう・後藤)	→	祐壮(すけまさ・後藤ごとう、藩校国学教授)	I 2 3 5 2
子升(ししょう・河村)	→	春恒(はるつね・河村かわむら、医者、)	G 3 6 5 3
子升(ししょう・菅沼)	→	貞主(さだぬし・菅沼/源、藩士/文筆家)	J 2 0 1 2
子昌(ししょう・竹中)	→	通庵(つうあん・竹中たけなか、医者)	2 9 1 8
子昌(ししょう・高橋)	→	景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文/シボルト事件)	B 1 5 9 9
子昌(ししょう・河原/河)	→	保寿(ほうじゆ・河原/小河原、商家/書)	B 3 9 2 9
子松(ししょう・奥田)	→	容安斎(ようあんさい・奥田おくだ、医者/詩文)	4 7 6 1
子松(ししょう・荒井/吉田)	→	六朶園二葉(ろくたえんふたば、商家/狂歌)	5 2 9 8
子松(ししょう・長島)	→	宜青(よしはる・長島ながしま、歌人)	O 4 7 2 4
子承(ししょう・三浦)	→	乾斎(けんさい・三浦みづら、医者/詩人)	I 1 8 9 1
子承(ししょう・大窪)	→	池屋(ちおく・大窪おおくぼ、医者)	2 8 5 1
子承(ししょう・谷口/加藤)	→	東郡(とうぐん・加藤/修姓;勝とう、儒者)	D 3 1 0 0
子承(ししょう・小林)	→	大茂(おおしげ・小林こばやし/三宅、藩士/歌)	D 1 4 8 2
子頌(ししょう・斯波)	→	黒人(くろひと・浜辺、書肆/狂歌)	B 1 7 1 8
子章(ししょう・三枝さいぎ/土屋)	→	斐子(あやこ・三枝/土屋、歌人)	C 1 0 7 6
子章(ししょう・松下)	→	鳩台(きゅうだい・松下まつした、儒/国学)	M 1 6 7 9
子章(ししょう・奥田)	→	松庵(しょうあん・奥田おくだ、儒者/詩人)	Q 2 2 8 0
子章(ししょう・林)	→	晋軒(しんけん・林、幕府儒官)	D 2 2 9 3
子章(ししょう・竜)	→	鏡湖(きやうこ・竜りゅう、儒者/詩)	N 1 6 6 8

子章(ししょう・藤塚) → 知明(ともあき・藤塚ふじつか、神道学) P 3 1 1 0
 子章(ししょう・田中/大滝) → 光憲(みつあきら・大滝/田中、商家/国学) E 4 1 4 8
 子章(ししょう・宮脇) → 梶畝(こうほ・宮脇みやわき、俳人) L 1 9 1 8
 子章(ししょう・榊原) → 香山(こうざん・榊原さかきばら、故実家) J 1 9 2 5
 子章(ししょう・渋井/井) → 太室(大室たいしつ・渋井/井、藩士/儒者) 2 6 0 4
 子章(ししょう・小泉) → 檀山(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画) I 2 6 7 9
 子璋(ししょう・本多) → 壺山(こざん・本多、藩主/詩人) G 1 9 6 0
 子彰(ししょう・山寺) → 常山(じょうざん・山寺、藩士/儒/兵学) S 2 2 6 2
 子彰(ししょう・藤田) → 嘉言(よしとき・藤田ふじた、藩士/和算家) E 4 7 8 7
 子彰(ししょう・木俣) → 周平(かねひら・木俣きまた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5
 子祥(ししょう・奥井) → 中里(ちゅうり・奥井おくい、藩儒/詩人) G 2 8 9 3
 子祥(ししょう・五井) → 蘭洲(らんしゅう・五井ごい、儒者) 4 8 0 5
 子祥(ししょう・谷) → 麩山(びざん・谷たに、儒者/詩人) 3 7 0 6
 子祥(ししょう・藤井) → 西洞(さいどう・藤井ふじい、医者/書家) 2 0 9 8
 子詳(ししょう・赤松) → 香雨(こうう・赤松あかまつ、商家/鑑定家) H 1 9 3 9
 子詳(ししょう・小島) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0
 子紹(ししょう・佐野) → 竹亭(ちくてい、佐野さの、儒者/詩文) D 2 8 5 2
 子紹(ししょう・奥/漆島) → 並継(なみつぐ・奥おく/漆島/藤波、神職/勤王/官僚) L 3 2 5 2
 子尚(ししょう・柳原) → 光愛(みつなる・柳原/藤原、廷臣/歌) E 4 1 2 7
 子商(ししょう・臼杵) → 鹿垣(ろくえん・臼杵うすき、藩儒/詩文) 5 2 7 7
 子証(ししょう・藤田) → 定資(貞資さだすけ・藤田/藤/本田、和算家) B 2 0 9 1
 士章(ししょう・野村) → 藤陰(とういん・野村、儒者) B 3 1 0 8
 士章(ししょう・西川) → 明雅(あきまさ・西川、役人/文筆家) D 1 0 8 8
 士章(ししょう・山口) → 葛坡(葛坡かっぱ・山口やまぐち、詩人) N 1 5 7 8
 士章(ししょう・前野) → 良沢(りょうたく・前野まえの/谷口、蘭学/医) I 4 9 8 1
 士章(ししょう・益田) → 厚(あつし・益田ますだ香遠、篆刻家) I 1 0 4 2
 士祥(之祥ししょう・湯浅) → 常山(じょうざん・湯浅ゆあさ/湯、藩士/儒詩) S 2 2 5 9
 士祥(ししょう・宮田) → 嘯台(しょうだい・宮田/田、酒造業/詩人) K 2 2 7 2
 士祥(ししょう・越村) → 德基(とくき・越村こしむら、蘭方医/蘭語) K 3 1 5 6
 士昇(士升ししょう・陳) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7
 士尚(ししょう・石川) → 竹厓(ちくがい・石川いしかわ、儒者) C 2 8 7 7
 士鍾(ししょう・阪元) → 生字(せいう・阪元さかもと/種子田、儒者) H 2 4 4 1
 之昌(ししょう・佐方) → 之昌(ゆきまさ・佐方さかた/藤原、歌人/連歌) B 4 6 1 9
 之昌(ししょう/ゆきまさ・内山) → 彦次郎(ひこじろう・内山、幕臣/献策) 3 7 6 1
 四章(ししょう・上杉) → 治憲(はるのり・上杉/秋月、鷹山、藩主/儒者) G 3 6 7 1
 氏章(ししょう・菱沼/萱場) → 傍斎(ぼうさい・萱場かやば/菱沼、藩士) 3 9 9 0
 氏章(ししょう・河島) → 春翠(しゅんすい・河島かわしま、漢学者) L 2 1 1 9
 氏章(ししょう・村田) → 氏章(うじあき・村田、藩士/文筆家) C 1 2 3 0
 氏昭(ししょう・津守) → 氏昭(うじあき・津守、神職/連歌) C 1 2 2 9
 氏祥(ししょう・岡本) → 氏足(うじたり・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) E 1 2 6 2
 氏勝(ししょう・藤波) → 氏勝(うじまさ・藤波/荒木田、神職) C 1 2 3 5
 芝祥(ししょう・佐久間) → 果園(かえん・佐久間、藩士/歌人) B 1 5 1 3
 芝昌(ししょう→しげまさ・西田) → 稻麿(いなまる・西田にしだ、庄屋/国学) B 1 1 1 2
 芝賞(ししょう・俳号) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5
 師尚(ししょう・高階) → 師尚(もろひさ・高階たかしな、廷臣) H 4 4 7 2
 師尚(ししょう・中原) → 師尚(もろひさ・中原、廷臣/明経博士/歌) H 4 4 7 3
 師象(ししょう・押小路) → 師象(もろかた・押小路/中原、廷臣/記録) H 4 4 1 3
 資章(ししょう・本間) → 棗軒(そうけん・本間ほんま、医者) H 2 5 0 9
 資章(ししょう/すけあき・瀬山) → 命助(めいすけ・瀬山せやま、藩士) 4 3 2 2
 資承(ししょう・羽佐間) → 宗玄(そうげん・羽佐間はさま、医者) H 2 5 1 8

- 資韶(しやう・那須) → 資韶(すけつぐ・那須なす、商家/国学/歌) I 2 3 8 7
 資勝(しやう・日野) → 資勝(すけかつ・日野・藤原、廷臣/歌人) C 2 3 0 1
- T2178 氏仍(しやう; 姓不詳) ? - ? 太宰府天満宮社僧/1700頃信仙と連歌; 3度「両吟百韻」
- L2100 子饒(しやう・岩室いわた、惣左衛門恭最[岩室3代]男)?-1764 安藝広島醸造家; 富商岩室家4代目、
 1738(享保17)才覚銀御用13組に選出/1747(延享4)新町組の大年寄(; 父を継嗣);
 新町組は愛宕・白島・国泰寺・竹屋・左官・広瀬・船入町など城下の中心部、
 1755(宝暦5)相場会所創設に尽力; 褒賞/56綿会所引受方、
 詩人、俳人; 楽々(5代喜右衛門)の父、風律/梅北らと交遊、源八(詩; 日本詩選続入)の兄、
 詩; 江村北海「日本詩選続編」入(室恭豊の名)、
 7回忌追善「降る雪」(梅北編)、源八(詩人)の兄
 [子饒(; 号)の一字姓/名/通称/別号]一字姓; 室、名; 恭豊、通称; 源内/喜右衛門、
 別号; 雲処
- E2104 志丈(しやう) ? - ? 江中期江戸の噺本作者;
 1779(安永八)「寿々葉羅井すはらい」著(北川豊章[歌麿]画/竹川藤助板)
- T2179 子常(しやう・冢田つかた、名; 経、旭嶺男)?-1808 信州水内郡長野村の医者(家業); 家督を嗣/法橋、
 一茶の父弥五郎を診療、大峯たいほう・慈延の兄、「傷寒論一家言」著、
 [子常(; 字)の号] 納斎/調斎/百里/道有
- T2180 師静(しやう; 法諱・南堂なんどう; 道号、初号; 枯禅、俗姓; 西沢) 1757-1819 63 信州水内郡静間曹洞僧、
 1769(13歳)品能大聖寺無外門; 出家/近江常德寺の明菴哲了門; 嗣法、近江常德住持、
 大聖寺/信州貞祥寺の住持、「明菴哲了禅師伝」編
- T2181 志条(しやう・狭川さがわ、別号; 弄花坊ろうかぼう)?-? 江後期俳人、1804「四つの緒」編
- 四条(しやう・源) → 高明(たかあきら・源みなもと、左大臣/歌人) 2 6 0 7
 四条(しやう・大中臣) → 輔親(すけちか・すけむつ・大中臣み、神職/歌) 2 3 0 8
 四条(しやう・安嘉門院) → 阿仏尼(あぶつに、歌人/日記) 1 0 2 7
 四条(しやう・藤原) → 顕俊(あきとし・藤原、廷臣/記録) D 1 0 6 3
 四条(しやう・藤原) → 隆季(たかすえ・藤原、廷臣/歌人) C 2 6 8 3
 四繩(しやう・大伴) → 四綱(よつな・大伴おおとも、廷臣/万葉歌人) 4 7 3 0
 子条(しやう・伏原) → 宣条(のぶえだ・伏原ふしはら、廷臣/文筆) 3 5 9 9
 子常(しやう・加藤) → 景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者) B 1 5 9 0
 子常(しやう・吉弘) → 菊潭(きくたん・吉弘よしひろ、藩士/儒者) B 1 6 0 1
 子常(しやう・星野) → 熊嶽(ゆうがく・星野ほしの、儒者) B 4 6 0 2
 子常(しやう・千葉) → 桃三(とうぞう・千葉ちば、医者/和算家) G 3 1 3 0
 子常(しやう・那須/松岡) → 次郎(じろう・松岡まつおか/那須、藩家老/儒) N 2 2 0 6
 子常(士常しやう・関) → 政方(まさみち・関せき/関藤、医/国学/歌) 4 0 0 6
 子晟(しやう/しせい・荷田かた) → 信郷(のぶさと・荷田/羽倉、神職/国学) B 3 5 5 4
 子丈(しやう・三村) → 玄碩(げんせき・三村みむら、医/薬剤研究) K 1 8 4 9
 子丈(しやう・森) → 樞堂(しゅうどう・森もり、儒者) R 2 2 6 3
 子乗(しやう・吉村) → 蘭洲(らんしゅう・吉村よしむら、絵師/解剖図) C 4 8 5 9
 子繩(しやう・深田) → 香実(こうじつ・深田ふかた、藩士/儒/歌学) B 1 9 2 5
 子繩(しやう・川目) → 直(ただし・川目かわめ、漢学者) P 2 6 5 5
 子繩(しやう・大槻) → 平泉(へいせん・大槻おおつき、藩儒/詩人) 2 7 6 1
 子讓(しやう・室田) → 謙(ゆずる・室田むろた/泉せん、医者/国学) G 4 6 9 6
 子讓(しやう・今井) → 随庵(ずいあん・今井、藩医/儒者) E 2 3 0 3
 子讓(しやう・竹中) → 蒼菴(そうりゅう・竹中たけなか/源、医者/詩) J 2 5 1 4
 子穰(しやう・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0
 士常(しやう・田沢/奈須) → 恒徳(つねのり・奈須なす/田沢、幕医) D 2 9 1 8
 士常(子常しやう・宮崎) → 筠圃(いんぼ・宮崎みやざき/宮、儒者/書画) E 1 1 7 0
 士常(しやう・高尾) → 吉(きち・高尾たかお、国学者) U 1 6 6 0
 士常(しやう・梶川) → 景典(かげのり・梶川かじかわ、藩士/儒者) L 1 5 1 8
 士讓(しやう・長戸ながと) → 得斎(とくさい・長戸ながと、儒者/詩人) K 3 1 7 3

- 士讓(子讓じじょう・北条)→ 霞亭(かてい・北条ほうじょう、儒者/詩人) F 1 5 5 2
 士讓(じじょう・吉成) → 好謙(よしかた・吉成よしなり、神職/和漢学) C 4 7 7 1
 士讓(じじょう・奥) → 劣斎(れつさい・奥おく/源、医者;産科) 5 1 8 3
 士讓(じじょう・萩原) → 元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者) C 4 4 1 6
 士讓(じじょう・佐藤) → 西山(せいざん・佐藤/小林、儒者/北辺警備) I 2 4 5 0
 士繩(じじょう・三国) → 幽眠(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌) D 4 6 8 2
 士条(じじょう・青木) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8
 氏上(じじょう・大伴) → 氏上(うじかみ・大伴/伴、廷臣/詩人) C 1 2 3 7
 氏常(じじょう・小幡) → 氏常(うじつね・小幡おばた、藩士/国学) E 1 2 5 7
 紫茸(じじょう・武藤) → 好春(よしはる・武藤むとう、藩士/攘夷論) G 4 7 1 4
 資常(じじょう・太田) → 資常(すけつね・太田、武家/歌人) C 2 3 4 7
- E2107 自性(じじょう;法名、俗名;二階堂行継?、二階堂義賢男?)?-? 鎌倉後期の僧;法師/歌人;玉葉1675、
 [恋しさをたがとがとてかかこつべきうきをば人のうきになすとも](玉葉;恋1675)
- E2106 示証(じじょう;法諱/別法諱;頓恵、上人?)?-? 鎌倉末期浄土宗西山派僧;東山流、歌人、
 続現葉集入、勅撰4首;続千載(1996)風雅(2089)新千載(1984)新後拾遺(1489)、
 [ありとてもうき身はよしやよしの河はやく此の世をいとひはてなん](続千載;雑1996)
- E2105 慈勝(じじょう;法諱、号;金剛寿院、近衛家基男?)?-1350 天台僧;浄土寺僧正、1318天台座主;22辞任、
 歌人;自邸で千首歌会催?、1345?小倉実教[藤葉とうよ集]4首入/50為世十三回忌和歌参加、
 勅撰14首;続千載(901/1883/1963)新後拾(264/1313)風(1583/2141)新千(5首)新拾(2首)、
 [わすれじな思ひしままに見る月の契りありける七の神がき](続千載;神祇901)、
 [さき残すたえまもあらば山桜かさねてかかれ峰の白雲](藤葉;春50)
- T2182 慈昭(じじょう;法諱) ? - ? 1387存 南北期天台僧;元応国清寺7世住職、
 1388「天応国清寺年中行事」、「授菩薩戒作法」著、
 [常楽記]の「竹内僧正慈昭・永和二(1376)三月八日没;四十二」記事は別人(公賢男?)か?
- P2101 自笑(じじょう) ? - ? 加賀山中の俳人、加賀藩の用人か?、
 1691北枝「卯辰集」3句入(;173/269/283)、
 [麦の穂や芍薬埋む里の背戸](卯辰集);173/表は麦の穂・裏は芍薬の花)
- 2166 似咲(じじょう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入(443/479)、
 [松陰まつかげの調しらべにたよる詩の師匠](二葉之松;443/松風を愛する先生の庵)
- E2108 自笑(じじょう・岡島おかじま) ? - 1713 尾張鳴海の俳人・芭蕉門、刀鍛冶(:出羽守氏雲名)、
 鳴海六俳仙の1、1687冬芭蕉を自邸に迎えた
 [自笑(;号)の通称/別号]通称;佐助/庄三郎、
 別号;出羽守氏雲(;刀鍛冶号)/了照(;剃髮号)、
- 2122 自笑(初世じじょう・八文字はちもんじ、姓;安藤)1658-174588 京麩屋町の書肆八文字屋の主人、
 元禄初年1688頃家業を継嗣;八文字屋八左衛門の2or3代目、絵入狂言本出版で家業伸張、
 江島其磧を作者に起用;役者評判記・浮世草子出版で地位確立/八文字屋本と称される、
 自笑に実作があったか不明;1708(宝暦五)後の自笑署名本は江島其磧・多田南嶺の匿名か?、
 其磧と利害の対立があったが1718和解/其磧没後は多田南嶺を代作者に起用、
 「色ひいな形」「情ひいな形」「女男色遊」「自笑楽日記」(遺稿)著、俳諧「たかも集」版、出版多数、
 [初世八文字自笑の通称/法号]通称;八文字屋八左衛門、法号;教誉宗円禅定門、
 初世八文字其笑きしょうの父
- T2183 自笑(2世じじょう・八文字、瑞笑ずいしょう、初世其笑男、姓;安藤)?-1766 京の書肆八文字屋の主人、
 初世自笑の孫/3世自笑[素玉]の兄、1750父其笑没後家業継嗣;宝暦1751-64中頃迄管掌、
 浮世草子;多田南嶺没後は瑞笑が実作、考証雑著を編述、俳人、
 1749「小野篁恋釣船」50「道成寺岐柳」54「世間世間長者容気」55「栄花遊二代男」、
 1756「御伽太平記」57「花色紙襲詞」59「契情蓬萊山」62「役者年越草」63「役者吉野山」著、
 1764「俳論」(秋月下白露の号)著、56斜天・呑獅「一目千軒」序文、外著多数、
 [2世八文字自笑の通称/別号] 通称;八文字屋八左衛門、
 別号:八文字瑞笑/李秀/白露/秋月下白露、法号;寒山宗甫信士、/初世の孫
- E2109 自笑(3世じじょう・八文字、通称;八文字屋八左衛門、安藤興邦、初世其笑男)1738-181578 京の書肆、

初世自笑の孫/瑞笑(2世自笑)の弟/八文字屋を継承;
 1766浮世草子版木の大半を大阪の升屋大蔵に譲渡、役者評判記・演劇考証書・俳書出版、
 衰運に向い移転・大火類焼;息子は放蕩無頼;やがて廃業に至る、
 1763「風流庭訓往来」69「略縁記出家形気」71「新刻役者綱目」74「役者一陽来」著、
 1776「役者大通鑑」96「玉の光」1805「役者一口商」09「一河の流れ」14「役者繁栄記」外著多数、
 俳人・蕪村門;明和・安永1764-81頃屢々俳席を共にす;蕪村「玉藻集」などこの派の俳書出版、
 1762一蝶「歌舞妓事始」版・序、1764三葉社参加、1782「永慕集」編、
 1772几董「其雪影」2句・73「あけ鳥」1句・76「続明鳥」4句/77蕪村「夜半楽」2句・82「花鳥篇」2句、
 1783維駒「五車反古」3句/美角「ゑぼし桶」1句・樗良「月の夜」1句入、
 [こちら向け海老煮る女藤白し](続明鳥;暮春179/丹波市の酒店/花に託け呼びかける)
 同所の芭蕉の句;草臥て宿かる比や藤の花)
 [3世自笑の別号] 百墨(;初号)、2世八文字屋其笑、素玉/凌雲堂自笑/八文舎自笑、
 法名;仁誉宗徳禅定門

T2184 爾松(じょう・寺戸、別号;不易亭)1753-1817⁶⁵ 長門大津郡紫津浦の俳人;萩の聴松庵門、
 「蓬萊塚」著、如松の父

T2185 自笑(じょう・大脇おわき/織田、名;肅/重騏、大脇信就男)1808-76⁶⁹ 幕臣;信州木曾中津川代官、
 儒者;秦滄浪・松崎慊堂門、父(木曾山村氏の家臣)が事に連座し改易、一時織田を名乗る、
 復姓/軍事奉行、業務の傍ら私塾自笑塾を開き子弟教育、武術家、1857「木曾事蹟考証」著、
 [自笑(;号)の字/通称/別号]字;希魯、通称;武一郎、別号;栗齋

自性(じょう;字)	→	我宝(がほう;法諱・自性、真言僧)	P 1 5 3 5
自昭(じょう・朝長)	→	晋亭(しんてい・朝長ともなが、儒者/侍読)	P 2 2 4 0
自炤(じょう・小沢)	→	精庵(せいあん・小沢おざわ、漢学/洋学)	H 2 4 2 8
自笑(じょう;号)	→	宗渭(そうい;法諱・清巖;道号、臨濟僧)	F 2 5 9 6
自笑(じょう・2世八文字舎)	→	瑞笑(ずいしょう・八文字、其笑男)	2 3 0 2
自証(じょう;字)	→	良運(りょううん;法諱・自証;字、天台僧)	G 4 9 3 2
自訟(じょう・能勢)	→	明陳(あきのぶ・能勢のせ、藩士/儒者)	I 1 0 2 3
自勝(じょう・広瀬)	→	花隠(かいん・広瀬ひろせ、絵師)	J 1 5 1 9
自嘯(じょう)	→	実紀(さねえ・姉小路あねがこうじ/藤原、廷臣/歌人)	D 2 0 4 5
二松(じょう)	→	常与(じょうよ・歆之軒、華道)	L 2 2 8 0
慈成(じょう;法諱)	→	慈成(じじょう;法諱、僧/歌人)	E 2 1 1 1
慈照(じょう・高山:道号)	→	高山(こうざん・慈照、臨濟僧、連歌)	J 1 9 1 3
慈照(じょう)	→	惟貞(これさだ・大仏おさらぎ/北条、鎌倉幕臣/歌)	E 1 9 1 9
慈昌(じょう;法諱)	→	存応(ぞんのう;字、浄土僧/増上寺発展)	F 2 5 7 2
次章(じょう・玉置たまき)	→	次章(つぐあき・玉置たまき、藩士)	2 9 6 6
次章(じょう・黒田)	→	次章(つぐあき・黒田くろだ、庄屋/国学/歌)	F 2 9 6 5
持尚(じょう・)	→	持尚(もちひさ・/廷臣/歌人)	M 4 4 1 4
時升(じょう・平松)	→	時升(ときのり・平松、廷臣/記録)	J 3 1 7 7
時升(じょう・新納)	→	時升(ときます/ときのり・新納にいり、藩士/儒者)	K 3 1 0 6
時昌(じょう・大中臣)	→	時昌(ときまさ・大中臣/中東、神職)	K 3 1 0 5
時章(じょう・萩原)	→	時章(ときあき・萩原はざわら、和算家)	I 3 1 8 8
時章(じょう・平松)	→	時章(ときあき・平松/平、廷臣/歌人)	I 3 1 8 9
時章(じょう・山田)	→	勘解由(かげゆ・山田、宮家臣/勤王派)	L 1 5 4 3
時賞(じょう・小谷)	→	時賞(ときよし・小谷おたに、藩士/歌人)	U 3 1 4 0
時照(じょう・岸崎)	→	時照(ときてる・岸崎、藩士/税制)	J 3 1 4 1
治継(じょう→はるつぐ・中原)	→	治勝(はるかつ・中原なかはら、明法家)	G 3 6 1 7
爾祥(じょう・中村)	→	水竹(すいちく・中村なかむら、篆刻家)	E 2 3 8 5

E2111 慈成(じじょう;法諱) ? - ? 南北期の僧;権律師/歌人、
 康永1342-45頃花園院三十首歌参加、勅撰;風雅(4首433・901・1434・1738)、
 [山川の水底清き夕波になびく玉藻ぞみるもすずしき](風雅集;夏433)

B2136 慈静(じじょう;法諱、洞院公敏男)?-? 1365存 母;源為雅女、天台宗法印権大僧都/南朝の僧正、

号;雲林院、藤原[洞院]実清の弟、1365「正平廿年点取三百首和歌」(於南朝住吉行宮)参加、新葉集375、1345刊[藤葉集]入、通称;雲林院僧正

[見し秋の月にとはばやふる郷の人ほかはらで衣うつやと](新葉;秋375)、

(正平廿年1365内裏三百六十首歌中;故郷擣衣)

[しばしこそ人めもつつめ袖にはやあまるばかりの我が涙かな](藤葉;恋404)

B2104 持淨(じじょう;法諱、俗姓;青木)?-? 幕末期越中射水郡塚原の真宗本願寺派覺円寺住職、興隆・僧朗門、1853・56学林の夏安居の講師を務める/87勸学、「浄土和讃聴記」「論註聴記」、「御袖須閑李御文章聴記」「観経華座観講義」「選択集聴記」「御伝記法話」「辨行信状記」、「二門偈曇華記」「高僧和讃聴記」著

慈成(じじょう;字) → 日霽(にちてん;法諱・妙道院、日蓮僧) C 3 3 8 7

茲柴(じじょう・岡本) → 穆堂(ぼくどう・岡本おかもと、藩士/文筆家) D 3 9 8 2

時縄(じじょう・藤波/真野) → 時縄(ときつな・真野まの/藤波、神職) J 3 1 3 5

時常(じじょう・東/平) → 時常(ときつね・東とう/平、武将/歌人) J 3 1 3 7

齒松庵(じしゅうあん) → 青蘿(せいら・松岡/竹沢/栗本、俳人) 2 4 1 4

紙小庵(じしゅうあん) → 可春(よしはる・小西にし/柳原、藩士/歌) G 4 7 0 9

芝場庵(じしゅうあん) → 桂園(けいえん・石原いしはら、医者/儒者) F 1 8 2 9

自春庵(じしゅうあん) → 鬼貫(おにつら・上島うえじま、俳人) 1 4 2 4

自笑庵(じしゅうあん) → 長元(ながもと・黒田、藩主/儒/歌) G 3 2 0 3

自笑庵(じしゅうあん) → 橋夢(きょうむ・牧田、俳人) O 1 6 5 8

慈照院(じしゅういん) → 義政(よしまさ・足利、8代將軍/東山文化) G 4 7 9 7

自証院(じしゅういん) → 日詔(にっしょう;法諱・無問、日蓮僧) E 3 3 2 1

自証院(じしゅういん) → 広之(ひろゆき・久世くぜ/源、藩主) H 3 7 6 0

自性院(じしゅういん) → 慶算(きょうさん/けいさん;法諱、江戸前期天台僧) S 1 6 2 9

自讓院(じしゅういん) → 広周(ひろちか・久世くぜ/源、藩主/老中) G 3 7 3 7

慈讓院(じしゅういん) → 日謙(にちけん;法諱・聴松庵、日蓮僧) B 3 3 6 2

事成院(じしゅういん) → 日寿(にちじゅ;法諱・泰遠、日蓮僧) C 3 3 1 1

四条院少将内侍(じしゅういんのしょうしょうのないし) → 少将内侍(しょうしょうのないし・後深草院、歌) N 2 1 9 1

賜松館(じしゅうかん) → 曙覧(あけみ・橘/正玄、商人/国学/歌) 1 0 1 4

自笑軒(じしゅうけん) → 良哉(りょうさい;道号・元明、臨濟僧) H 4 9 5 8

自笑斎(じしゅうさい・根本) → 与人(よじん・根本ねもと、酒造業/俳人) I 4 7 0 8

四条斎院(じしゅうさいいん) → 式子内親王(しきしなないしんのう、歌人) 2 1 0 7

四条宰相(じしゅうさいしやう) → 親隆(ちかたか・藤原/葉室、歌人) B 2 8 0 9

四条宰相(じしゅうさいしやう、四条中宮女房) → 四条宰相(じしゅうのさいしやう) E 2 1 1 3

自性上人(じしゅうしやうにん) → 我室(がぼう;法諱・自性;字、真言僧) P 1 5 3 5

自浄心院(じじゅうしんいん) → 内基(うちもと・一条、関白/連歌) D 1 2 1 3

T2186 慈性親王(じしゅうしんのう、有栖川宮韶仁親王2男) 1813-6755 光格天皇の猶子/1818(6歳)大覺寺入、1822親王宣下/受戒/38二品/42東大寺別当/46公紹親王の跡継承;天台東叡山輪王寺門跡、一品宣下/1862天台座主/准三后、「慈性日記」著、

[慈性(;法諱)の幼名/名/諡号]幼名;精宮、名;明道、諡号;大樂王院

四条贈左大臣(じしゅうぞうさだいにん) → 隆資(たかすけ・藤原、歌人) C 2 6 8 7

四条太皇太后宮信濃(じしゅうたいこうたいごうぐうのしなの) → 信濃(しなの) F 2 1 3 7

四条太皇太后宮下野(じしゅうたいこうたいごうのみやのしもつけ) → 下野(しもつけ・四条宮、歌) F 2 1 9 3

四条太皇太后宮主殿(じしゅうたいこうたいごうぐうのとのも) → 主殿(とのも) O 3 1 6 6

四条大相国(じしゅうだいしやうこく) → 師長(もろなが・藤原、太政大臣/楽人) H 4 4 6 1

四条大納言(じしゅうだいなごん) → 定(さだむ・源、嵯峨天皇皇子) F 2 0 5 5

四条大納言(じしゅうだいなごん) → 公任(きんとう・藤原、学者/詩歌/故実) 1 6 6 5

四条大納言(じしゅうだいなごん) → 隆房(たかふさ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 2 6 6 6

四条大納言(じしゅうだいなごん) → 忠教(ただのり・藤原、廷臣/歌人) F 2 6 5 9

E2114 四条中宮(じしゅう[の]ちゆうぐう、藤原暲子し、藤壺女御、頼忠女)?-1035 母;代明親王女恵子けい女王、花山天皇女御;984入内/皇后、歌人;985-6「皇太后宮瞿麦合」主催、「男女房歌合」主催、

- 勅撰3首;後拾遺(269;異母兄藤原公任への返歌)/詞花354/403、
 [訪ね来る人もあらなん年を経て我がふる里の鈴虫の声](後拾遺;秋269)、
 (公任の歌;年経ぬる秋にもあらず鈴虫のふりゆくままに声のまされば)、
 異母姉は円融天皇皇后→ 遵子(じゅんし・藤原、頼忠女) J 2 1 8 0
 四条中宮(じょう[の]ちゅうぐう)→ 遵子(じゅんし・藤原、円融帝皇后) J 2 1 8 0
 四条中納言(じょうちゅうなごん)→ 忠教(ただのり・藤原、廷臣/歌人) F 2 6 5 9
 四条中納言(じょうちゅうなごん)→ 定頼(さだより・藤原、公任男/歌人) 2 0 2 9
 自性天真国師(じしょうてんしんこくし)→ 慧玄(えげん;法諱・関山、臨濟僧) 1 3 6 1
 E2115 四条天皇(じょうてんのう、名;秀仁みつひと、後堀河天皇第1皇子)1231-42天逝12歳 1232(2歳)即位、
 在位(123-1242没)、歌、「大嘗会和歌類聚」入
 自咲先生(じしょうせんせい)→ 梅翁(ばいおう・了恵、真宗僧/連歌/俳) 3 6 6 7
 而咲堂(じしょうどう)→ 鞭石(べんせき・福田、俳人) B 2 7 3 3
 而咲堂(2世じしょうどう)→ 練石(れんせき・福田、鞭石孫/俳人) B 5 1 2 3
 四条皇后(じょうのこうごう)→ 寛子(かんし・藤原) D 1 5 8 2
 E2113 四条宰相(じょう[の]さいしやう、別称;宰相/栗田宰相)?-? 四条中宮誦子(花山天皇妃/藤原頼女)の女房、
 四条中納言藤原定頼の女房説あり(;和歌色葉)、大安寺別当明祐法師の姉妹、
 平安中期の歌人;後拾遺集944、藤原能通よしみと親交(続詞花集669詞書入)、
 [祈りけむことは夢にてかざりてよさても逢ふてふ名こそをしけれ](後拾集;944)、
 (石山寺の夢で逢ったという能通の言に対する返歌)
 四条宰相(じょうのさいしやう)→ 親隆(ちかたか・藤原/葉室、廷臣/歌人) B 2 8 0 9
 四条局(じょうのつばね)→ 阿仏尼(あぶつに) 1 0 2 7
 四条宮(じょうのみや)→ 寛子(かんし・藤原) D 1 5 8 2
 四条宮(じょうのみや)→ 遵子(じゅんし/のぶこ・藤原、円融天皇皇后) J 2 1 8 0
 四条御息所(じょうのみやすどころ)→ 弘徽殿女御(こきでんのによご、藤原実頼女述子) M 1 9 0 3
 E2116 四条御息所女(じょうのみやすどころのむすめ)?-? 平安中期歌人;
 951以後成立「後撰集」1122(;坊門本では四条御息所とす)、
 四条御息所は藤原実頼女の述子(村上天皇の御息所;947没15歳)か?、
 しかし娘・本人共に時代不相応;別人であろう、
 [隔てける人の心のうき橋をあやふきまでもふみみつる哉](後撰集;雑1122)、
 (男が隠していた新しい女の文を見つけた元の妻がその文に書き付けた歌)、
 (私を隔てるあなたの心のいやな一端を危うい思いで手紙で見てしまった)、
 (憂き端と浮橋・文見ると踏み見るの掛詞)
 四条宮甲斐(じょうのみやのかい)→ 甲斐②(かい・四条宮) E 1 5 2 6
 四条宮下野(じょうのみやのしもつけ)→ 下野(しもつけ・四条宮、女房/歌人) F 2 1 9 3
 四条宮筑前(じょうのみやのちくぜん)→ 康資王母(やすすけおうのはは、歌人) 4 5 2 2
 四条宮主殿(じょうのみやのとのも)→ 主殿(とのも四条宮寛子女房) O 3 1 6 6
 四条の良阿(じょうのりょうあ)→ 良阿(りょうあ;法諱、時宗僧/連歌師) F 4 9 9 7
 指象坊(じょうぼう)→ 太初(たいしよ・高こう、俳人) K 2 6 3 2
 自証房(じょうぼう)→ 覚印(かくいん・自証房、真言僧) J 1 5 4 5
 自性房(じょうぼう)→ 了然(りょうねん;法諱、三論僧/歌人) J 4 9 1 9
 持乗坊阿闍梨(じょうぼうのあじやり)→ 良賀(りょうが;法諱、天台僧) G 4 9 6 8
 四如翁(じよおう)→ 四如軒(しよけん・矢田やだ、藩士/絵師) T 2 1 8 7
 四書屋(しよおく)→ 持軒(じけん・五井ごい、儒者/歌人) D 2 1 5 3
 四序閣(しよかく)→ 永頼(ながより・小堀、藩士/詩人) G 3 2 5 7
 示植(しよく・稲田)→ 示植(しげたね・稲田いなだ、武将/城代) C 2 1 3 5
 子職(しよく・池野)→ 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2
 子植(しよく・植田)→ 義方(よしかた・植田うえだ/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9
 子殖(しよく・平巖/近藤)→ 幸殖(ゆきたね・近藤/平巖、藩老/詩) E 4 6 8 0
 子寔(しよく・一瀬)→ 序庵(じよあん・一瀬いちのせ、医者;古医方) G 2 2 4 4
 止織(しよく・高橋)→ 泰助(やすすけ・高橋たかはし、歌人) E 4 5 9 7

- T2187 **四如軒**(しよげん・矢田やだ、名; 広貫) 1718-9477 加賀金沢藩士/藩の重職前田直躬家の家老、
絵師; 長谷川派、「加賀国吉野名所記」画/1792「吉野村領十景紀行」画、
[四如軒(;号)の通称/別号]通称; 六郎兵衛、別号; 四如翁
- E2117 **慈助法親王**(じよほっしんおう、後嵯峨天皇皇子) 1254-9542 母; 西園寺公経女の小侍従局こじじゅうのつね、
鎌倉期天台僧; 尊助親王・道玄准后門/1265得度、親王宣下/青蓮院門跡、1289天台座主、
1290座主還補、通称; 市河宮、歌; 続拾遺集1146、
[我が山のさかゆくみちを尋ねつついかで昔のあとをふままし](続拾遺; 雑1146)
- 四時楼(しじろう・英窓) → 紀逸(2世きいつ、俳人) 1 6 7 2
 巳次郎(しじろう・馬來) → 伸綱(のぶつな・馬來まき、藩士/歌人) J 3 5 9 6
 治四郎(しじろう・須藤) → 元知(もととも・須藤すどう/土岐沢、国学/歌) K 4 4 1 3
- E2118 **師振**(ししん; 法諱・起山きざん; 道号) 1318-8669 豊後の臨濟僧; 諸師歴參後無題庵に閑居、
上京; 山城円通寺寺主・三聖寺住持、愚直師侃門; 嗣法、1372真如寺住持/82東福寺48世、
晩年は豊後に帰郷; 東禅・千光・玉田・来迎寺などの住持、「起山和尚語録」著
- T2188 **子真**(ししん; 法諱・家山かざん; 道号、俗姓横井) 1636-9156 名古屋臨濟僧; 定光寺要門門/越中大愚門、
1687京北野万松寺住持/88近江高源寺・90大安寺住持、「家山詩偈」著
- 子申(ししん・岡) → 長洲(ちやうしゅう・岡おか、藩儒/詩文) I 2 8 7 1
 子晋(ししん; 道号・明魏; 法諱) → 耕雲(こううん・花山院長親、臨濟僧/歌人) 1 9 0 4
 子晋(ししん・山口) → 素堂(初世そどう・山口、商家/俳人) 2 5 2 6
 子晋(ししん・藍沢) → 北溟(ほくめい・藍沢あいざわ、儒者) D 3 9 9 4
 子晋(ししん・山川) → 元輔(もとすけ・山川、儒/和算/教育者) C 4 4 7 4
 子晋(ししん・矢野) → 昭徳(あきのり・矢野やの、藩士/国学者) I 1 0 5 9
 子信(ししん・林) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖; 幕政) 4 8 0 2
 子信(ししん・恩田) → 三省(さんせい・心応軒、華道家) M 2 0 4 8
 子信(ししん・菊池) → 桐江(とうかう・菊池、儒者) D 3 1 7 7
 子信(ししん・瀬下) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家) B 3 5 8 3
 子信(ししん・藤) → 斉長(まさなが・藤とう、神職/藩士) F 4 0 3 1
 子信(ししん・篠田) → 明浦(めいほ・篠田しのだ/島田、書家) 4 3 3 3
 子信(ししん・恩田) → 三省(さんせい・心応軒しんおうけん、華道家) M 2 0 4 8
 子信(ししん・中村/渡辺) → 寛(ひろし・渡辺/中村、郷土史家) F 3 7 8 7
 子信(ししん・奈古屋) → 豊敬(とよたか・奈古屋、藩士/藩学振興) R 3 1 2 2
 子信(ししん・三宅) → 友信(とものお・三宅、蘭学者) Q 3 1 2 2
 子信(ししん・徳川) → 斉昭(なりあき・徳川、藩主/攘夷論) G 3 2 9 8
 子信(士信ししん・荒井/勝田) → 半斎(はんさい・勝田、幕臣/儒/詩) H 3 6 6 6
 子信(ししん・高橋) → 赤水(せきすい・高橋たかはし、医者/儒者) K 2 4 2 7
 子信(ししん・高川) → 楽真(がくしん・高川たかがわ、藩士/詩/書) K 1 5 1 0
 子信(ししん・中里) → 鶴甫(かくほ; 通称・中里なかざと、藩医) K 1 5 4 3
 子信(ししん・山田) → 賢敬(かたたか・山田やまだ、文筆家) M 1 5 9 8
 子信(ししん・中川) → 鯉淵(りえん・中川/越智、藩士/儒者) 4 9 3 9
 子信(ししん・横谷) → 葛南(かつなん・横谷よこや、儒者) C 1 5 5 0
 子信(ししん・大久保) → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学) O 1 5 3 3
 子信(ししん・斎藤) → 笠山(りゅうざん・斎藤さいとう、藩校儒者) E 4 9 2 6
 子信(ししん・加藤) → 主一郎(しゅいちろう・加藤、藩士/詩人) W 2 1 5 1
 子信(ししん・加藤) → 行忠(ゆきただ・加藤かとう、藩侍医/国学) G 4 6 7 1
 子信(ししん・常盤) → 謙斎(けんさい・常盤ときわ、儒者) I 1 8 9 6
 子信(ししん・津島) → 北岳(ほくがく・津島つしま、文筆家) C 3 9 9 7
 子軫(ししん・芥川) → 帰山(きざん・芥川あきたがわ、儒者) K 1 6 7 0
 子新(ししん・吉田) → 愚谷(ぐこく・吉田よしだ、儒者) C 1 7 3 7
 子新(ししん・高/深見) → 玄岱(げんたい・深見ふかみ/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4
 子新(ししん・塚越/越) → 惣太郎(そうたろう・越/塚越/斎藤、藩蘭医/尊攘) I 2 5 4 0
 子深(ししん・坂根/桃) → 白鹿(はくろく・桃ももとう・桃井もものい、儒者) E 3 6 1 9

子深(しん・河口)	→	静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人)	B 2 4 5 6
子進(しん・黒岩)	→	竜谿(りゅうけい・黒岩くろいわ、儒者)	D 4 9 5 5
子眞(しん・宮本)	→	八朗(はちろう・宮本、俳人)	E 3 6 9 8
子眞(しん・釈)	→	一竿斎(いっかんさい、古典研究)	B 1 1 3 5
子眞(しん・岩下)	→	草司(そうじ・岩下いわした、商家/俳人)	H 2 5 6 3
子慎(しん;号)	→	景菴(けいし;法諱・蘭坡らんぱ、臨濟僧)	1 8 6 4
子慎(しん・中台)	→	惇(あつし・中台なかだい、藩士/儒者)	E 1 0 6 2
子慎(しん・宮崎)	→	畏斎(いさい・宮崎みやざき、幕臣/儒者)	F 1 1 4 6
子慎(しん・臼杵)	→	溪村(けいそん・臼杵うすき、儒者/藩士)	E 1 8 7 5
子慎(しん・村田)	→	氏寿(うじひさ・村田、藩士/政治家)	E 1 2 4 1
子慎(しん・浅見)	→	巢雲(そううん・浅見あさみ、藩士/書家)	G 2 5 0 9
子慎(しん・小林)	→	順堂(じゅんどう・小林こばやし/田淵、医者)	L 2 1 6 0
子慎(しん・喜多)	→	武清(ぶせい・喜多きた、絵師;挿絵)	C 3 8 8 9
子慎(しん・横山)	→	政礼(まさのり・横山/山、藩士/文筆家)	G 4 0 0 3
子慎(しん・今井)	→	松庵(しょうあん・今井/井、医者/漢学)	G 2 2 6 2
子慎(しん・藤)	→	元通(もとみち・藤とう、歌人)	K 4 4 6 9
子慎(しん・沢)	→	熊山(ゆうざん・沢さわ、漢学/教育者)	B 4 6 9 9
子慎(しん・堀池)	→	敬久(たかひさ・堀池ほりいけ、藩士/和算家)	M 2 6 9 6
子慎(しん・村上)	→	中所(ちゅうしょ・村上むらかみ、藩儒)	G 2 8 2 7
子慎(しん・松田)	→	秋池(しゅうち・松田まつだ、儒者/詩)	Y 2 1 0 0
子審(しん・林)	→	孚一(さねかず・林はやし/石井、商家/歌人)	P 2 0 1 6
子辰(しん・戴たい)	→	独立(どくりゅう;道号・性易;法諱、戴笠、医者/黄檗僧)	L 3 1 5 6
子振(しん・原)	→	元麟(元麟げんりん・原はら、医者)	N 1 8 1 0
子振(しん・奥寺)	→	山厚(さんこう・奥寺おくでら、藩士/俳人)	M 2 0 1 7
子振(しん・丹羽)	→	輔之(すけゆき・丹羽にわ、藩士/国学者)	I 2 3 6 8
之辰(しん・豊島)	→	之辰(ゆきたつ・豊島とよしま、和算家)	E 4 6 7 9
之進(しん・林)	→	鳳池(ほうち・林はやし、儒者)	C 3 9 2 6
之信(しん・太田)	→	之信(ゆきのぶ・太田おた、藩医/歌人)	G 4 6 6 9
士辰(しん・池内)	→	奉時(まさとき・池内いけうち、医/漢学/尊攘)	E 4 0 4 0
士信(しん・間宮)	→	士信(ことぶ・間宮、幕臣/儒者)	F 1 9 8 2
士信(しん・境田/紅林)	→	梅処(ばいしょ・紅林くればやし/吳/境田、藩儒)	B 3 6 5 4
士信(しん・早崎)	→	巖川(がんせん・早崎はやざき、儒者)	H 1 5 7 0
士信(しん・小川)	→	忠篤(ただあつ・小川おがわ、医者/儒/勤王)	P 2 6 1 8
士深(しん・池永)	→	碧於亭(へきおてい・池永いけなが、漢学/詩)	2 7 8 6
士深(しん・五十川)	→	認堂(じんどう・五十川いそかわ、儒者/教育)	P 2 2 4 8
士伸(子伸しん・北条)	→	螻堂(かくどう・北条ほうじょう、儒者)	K 1 5 3 3
士振(しん・関)	→	海南(かいなん・関せき、医者/詩人)	J 1 5 0 2
士進(しん・清水)	→	中洲(ちゅうしゅう・清水しみず、藩士/詩人)	G 2 8 2 1
士新(しん・宇野)	→	明霞(めいか・宇野/宇、商家/儒者)	4 3 0 7
士新(しん・木村)	→	明堂(めいどう・木村きむら、儒者)	4 3 3 0
士新(しん・雛田)	→	中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌)	L 3 2 1 6
士慎(しん・岡本)	→	宣顕(のぶあき・岡本おかもと、商家/歌人)	H 3 5 8 3
至信(しん・諦州)	→	諦州(たいしゅう;道号・至信、臨濟僧)	K 2 6 1 9
氏心(しん/うじむね・関口)	→	柔心(じゅうしん・関口、武道;柔術家)	H 2 1 7 0
氏臣(しん・岡本)	→	氏臣(うじおみ・岡本、神職/書家)	C 1 2 3 4
氏信(しん・石尾)	→	氏信(うじのぶ・石尾いしお/藤原、幕臣)	E 1 2 5 1
氏真(しん・今川)	→	氏真(うじざね・今川、武将/歌/連歌)	1 2 3 1
氏親(しん・今川)	→	氏親(うじちか・今川、武将/歌人/連歌)	1 2 3 7
氏親(しん・江間)	→	氏親(うじちか・江間えま、兵学家)	C 1 2 4 4
氏辰(しん・藤原/紀/小野)	→	氏辰(うじとき・紀、廷臣/記録)	C 1 2 5 1

氏辰(しん・井手)	→	氏辰(うじとき・井手いで、藩士/歌人)	E 1 2 4 7
氏辰(しん・紀)	→	氏辰(うじたつ・紀きの、廷臣/和学者)	E 1 2 6 4
至眞(しん・憲蓮社)	→	了秀(りょうしゅう:法諱、浄土僧)	4 9 6 7
至信(しん・巨瀬)	→	至信(ゆきのぶ・巨瀬こせ、旗本/藩士/幕臣/歌)	G 4 6 8 2
師信(しん・花山院)	→	師信(もろのぶ・花山院/藤原、歌人)	H 4 4 6 5
師信(しん・葉川/石山)	→	師香(もろか・石山/藤原/葉川、廷臣/画)	H 4 4 0 9
師信(しん・菱川)	→	師信(もろのぶ・菱川ひしかわ、絵師)	H 4 4 6 7
師身(しん・押小路)	→	師身(もろみ・押小路/中原、廷臣/記録)	H 4 4 9 4
師岑(しん・押小路)	→	師岑(もろみね・押小路/中原、廷臣/記録)	I 4 4 0 0
師親(しん・北畠)	→	師親(もろちか・北畠/源、権大納言)	H 4 4 4 0
師親(しん・平)	→	師親(もろちか・平たいら、廷臣/歌人)	H 4 4 4 1
師親(しん・押小路)	→	師親(もろちか・押小路/中原、廷臣/記録)	H 4 4 4 2
此心(しん・吹原)	→	九郎三郎(くろさぶろう・吹原ふきはら、商家/国学)	E 1 7 4 7
資信(しん・藤原)	→	資信(すけのぶ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	G 2 3 8 1
資親(しん・藤原)	→	資親(すけちか・二条にじょう/藤原、廷臣/歌)	J 2 3 5 6
資深(しん・川田)	→	雄琴(ゆうきん・川田、藩儒/陽明・朱子学)	B 4 6 2 6

E2119 紫塵(しん・松賀まつが、名;泰閩/通称;族之助)?-1719牢死 磐城平藩士;

3代藩主内藤義概(よむね[義泰/俳号;風虎])のとき寵愛され家老;権勢を揮う、
 義概嫡子義英(よひで[俳号;露沾])を廃嫡、5代藩主義稠(よしげ)の時は藩政を親子で専横、
 藩主毒殺説まで生ず/1718政樹(義英男)が6代藩主となり廃嫡した義英が藩政を主導;
 松賀父子は罪を得て処断され入牢し没、
 俳人:風虎(内藤義概)門、1674風虎「桜川」に句多数入、
 1672風虎主催「奥州名所百番発句合」参加、1677百五十番誹諧発句合;左方参加

T2189 市塵(しん) ? - ? 京の俳人、1690言水「新撰都曲」1句入、
 [冬に来て湯にもなき哉糺川(ただすがは)](都曲;下324)
 (下鴨の糺森の御手洗川/夏は納涼の水・冬は温泉ならいいがただの冷水)

子人(しん・市川)	→	鶴鳴(かくめい・市川、儒者)	B 1 5 7 5
紫人(しん・岸)	→	岱(たい・岸きし、岸岱、岸駒男/絵師)	2 6 0 0

a2177 慈心(しん;号/上人、法諱;清豪(せいこう)?-? 平安中期;1000年頃の天台僧、袖中抄入、
 [浜こそといふ(侍)童の四十九日に誦經文に書いて送る歌、
 おしてるや与謝の浜こそ恋しけれ涙(なみだ)をよする方しなければ、
 横川の覚超僧都(960-1034) 導師にてこれに和す、
 世中に有りてかひなき我れが身をかかをしまるる人にかへばや](袖中抄/袋草紙)

T2190 慈心(しん;号、覚真・覚心;法諱、俗名;藤原長房、藤原光長男)1168-124376 母;藤原俊経女、
 廷臣;後鳥羽上皇の近臣/正三位民部卿;1210出家/法相僧;興福寺貞慶門/戒律を修学、
 海住山寺に五大院創建;顕密を修す、興福寺に常喜院創建;莊田を買い寄せ十方に供給、
 明恵(高弁)と親交;高山寺経営に尽力、「海住山寺雑事三箇状事」著

a2161 慈親(しん;法諱) ? - ? 南北期;僧/内供奉十禅師、
 歌人;1375頃細川頼之(1329-92)奉納[大山祇神社百首]出詠、
 [大井川みをさかのぼる程なれや瀬々にぞ淀む夜半の篝火](大山祇百首;28/鵜河)、
 [時雨には色もかはらぬ呉竹の一よへだてて冬はきにけり](同;52/初冬)

慈身(しん;法諱)	→	梧水(ごすい;号・慈身、天台僧/俳人)	D 1 9 0 4
時謙(しん・由良)	→	時謙(ときさね・由良ゆら、藩士/暦算家)	J 3 1 1 6
時續(しん・柿岡)	→	林宗(りんそう・柿岡かきおか、儒者/教育)	K 4 9 6 1
時親(しん) すべて	→	時親(ときちか)	
治信(しん・相沢)	→	治信(はるのぶ・相沢あいざわ、測量家)	G 3 6 7 0
治臣(しん・久保田)	→	治臣(はるおみ・久保田くぼた、医者/尊攘)	J 3 6 4 9
治親(しん・毛利)	→	治親(はるちか・毛利もうり、藩主/歌)	J 3 6 5 7
持信(しん・一色)	→	持信(もちのぶ・一色いっしき/源、幕臣/歌)	B 4 4 5 4
師心庵(しんあん)	→	惟親(これちか・浅野あさの/源、儒者/詩人)	O 1 9 5 1

- 慈心庵(じしんあん;号) → 亮讓(りょうじょう;法諱、慈心庵/天台僧) L 4 9 4 8
 只信院(しんいん) → 日好(にちこう;法諱、心信院、日蓮僧) B 3 3 8 5
 至心院(しんいん・檜林) → 宗建(そうけん・檜林ならばやし、医者;種痘) B 2 5 2 7
 慈眞和尚(じしんおしょう) → 信空(しんくう;法諱、真言律僧) D 2 2 8 3
 此心齋(しんさい) → 如毛(じょう・岡崎おかさき、酒造業/俳人) M 2 2 8 5
 子心齋(しんさい・吉目木) → 集徳(ためり・吉目木よしめき、剣道家) S 2 6 6 8
 嗜辛齋(しんさい) → 藍園(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者) B 4 8 6 1
 慈心寺上人(じしんじのしょうにん) → 清豪(せいごう;法諱、天台僧/歌人) P 2 4 0 3
 此身堂(しんどう) → 白亥(はくがい・石坂、俳人) C 3 6 8 6
 至心房(しんぼう;諡号) → 聞生(もんしょう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 6 4
 慈信房(じしんぼう) → 善鸞(ぜんらん・親鸞男/真宗僧;破門) N 2 4 2 4
 子晋明魏(しんみょうぎ) → 耕雲(こううん・花山院長親、臨濟僧/歌人) 1 9 0 4
 司晨楼主人(ししんろうしゅじん) → 浪化(ろうか;号、真宗大谷派僧、俳人) 5 2 0 2
 静(しず・頼) → 静子(しずこ・頼、梅颯ばいし、春水妻) E 2 1 2 5
 鎮誠(しずあき・千原) → 夕田(せきでん・千原ちはら、商家/詩/画/書家) D 2 4 7 6
 I2132 紫翠(しすい) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [頭陀袋払ひつづくすや年の暮](丁卯集/三旅僧;西行)
 E2120 四睡(しすい;号) ? - ? 加賀金沢藩の用人か?、俳人、
 1690北枝「卯辰集」19句入、
 [七種なくさのみくさは摘みし雪野かな](卯辰集;一春20)
 M2105 此水(しすい;号) ? - ? 江前期俳人;1685風瀑「一楼賦」入、
 1690不角「二葉之松」入(288)、[螢消えて白犬の尾ぞよごれたる](一楼賦)、
 [公きみの智恵幾尋いくひる有るか国括くる](二葉之松:288)
 T2191 志水(しすい;号) ? - ? 江中期三河猿投の雑俳点者、
 1726「智恵の海」編、「俳諧手引の糸」著
 E2122 志水(しすい、柳下庵) ? - ? 俳人;芭蕉門、1760「曾良追福文」(:李郭「乞食囊」所収)
 E2123 止水(しすい) ? - ? 俳人;鳥酔門、1745「けふの時雨」入
 T2192 芝水(しすい・仙石せんごく) ? - ? 江後期書家、娘春水(江戸芝住)も書家、「雑帖」書
 T2193 紫水(しすい・太田おた/本姓;源、名;庭之、介寿院法印硯安男) 1778-1851 京の医者;1809従六上、
 寮医師、1811典薬大属、1820肥後守/42権医博士/50従四上、1810「方帰」42「痘科方雋」著、
 1842「三播方雋さんちくほうしゅん」編、「保育抄」「新撰預薬録」「備急要用方効能」「光浦家君遺稿」著、
 [紫水(;号)の字/別号]字;士若、別号;藍街
 T2194 止水(しすい;号・平田ひらた、通称;頼母)?-? 江後期京の絵師/山城幡枝に隠棲、
 1833「観音経和談鈔図会」/36「一休諸国物語図会」編、「一休卅三所靈驗記図会」著
 止水(しすい;法諱) → 集雲(しゅううん;道号・止水;法諱、臨濟僧) W 2 1 6 3
 止水(しすい・西郷) → 隆盛(たかもり・西郷さいごう、藩士/倒幕) D 2 6 9 2
 止水(しすい・横田) → 定堅(さだかた・横田よこた/原、国学/歌人) P 2 0 7 7
 士水(しすい;初法諱) → 慈永(じえい;法諱・青山;道号、臨濟僧) B 2 1 1 8
 四水(しすい・鎌田) → 杜陵(とりょう・鎌田かまた、医/俳人) R 3 1 9 5
 四水(しすい・大沢) → 君山(くんざん・大沢おおさわ/印牧かねまき、儒者/詩文) D 1 7 6 4
 四酔(しすい・野宮) → 定基(さだもと・野宮/藤原/中院、廷臣/故実) 2 0 2 6
 紫水(しすい・鍋島) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7
 紫水(しすい・岸) → 岱(たい・岸きし、岸岱、岸駒男/絵師) 2 6 0 0
 紫翠(しすい・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3
 子穂(しすい・富田) → 畦臣(うねおみ・富田とみた、軍学者/歌) D 1 2 2 3
 子萃(しすい・関) → 輝萼(きがあく・関せき、和算家) J 1 6 8 5
 子帥(しすい・鈴木/秋元/秋本) → 澹園(たんえん・秋元/秋本/鈴木、儒者/詩文) H 2 6 9 5
 志水(しすい;号) → 集雲(しゅううん;道号・止水;法諱、臨濟僧) W 2 1 6 3
 志水(しすい・杉浦) → 国頭(くにあきら・杉浦さぎうら、神職/国学) 1 7 1 7
 志水(しすい・狩野) → 成信(しげのぶ・狩野、肥後狩野家絵師) R 2 1 9 4

- 志水(しずい・板原) → 寿(じゅ・板原いたはら、医者) W 2 1 4 1
 斯綏(しすい・竹田) → 斯綏(これやす・竹田たけだ、幕臣) O 1 9 9 5
 芝瑞(しずい・岡野) → 黄石(こうせき・岡野おかの、藩儒臣/詩人) K 1 9 0 8
- T2195 似水(しすい・藤掛ふじかけ、別号; 儉閑斎とうかんさい) ?-? 江前期の華道家; 池坊の門人、
 立花; 1692奈良の大仏殿に供花(猪飼三枝と)、1687「草木図編」、「生花極秘之書」著
- E2124 児水(じすい・瀬山せやま、別号; 清客堂/芳樹軒) ?-? 江前期京の俳人: 言水門か?、林鴻と交流、
 1691「ひたち帯」編
- M2106 似水(しすい・釈) ? - ? 安藝宮島の厳島社の社僧/貞門のち蕉門系俳人;
 1679宗臣「詞林金玉集」/99支考「西華集」入、1772維舟「時勢粧」/74風虎「桜川」入
- T2196 二水(じすい/にすい・永山ながやま、名; 貞武、貞拋男) 1802-4544 肥前佐賀藩儒者: 父門/藩校弘道館修学、
 1823辛島塩井門、薩摩日向豊後諸藩の漢学者を歴訪し帰藩/1829世子鍋島直正の侍講、
 1840弘道館助教、朱子陽明学両用; 学問の実践躬行を主唱、1840「庚子遊草」著、
 [二水(;号)の字/通称/別号]字; 徳夫、通称; 十兵衛/寛助、別号; 迂亭
- T2197 耳水(じすい・日高ひだか、実義男/本姓; 源) 1809-4739 日向児湯郡耳津の代々高鍋藩主の関船船頭家、
 家業を嫌い儒学修学; 荒川嘯亭門/1830豊後日田の広瀬淡窓門/藩命で1837昌平塾入学、
 古賀侗庵門/1842帰藩; 藩校明倫堂助教/43教授、1846大阪の篠崎小竹門/47大坂藩邸に没、
 詩文・書を嗜む、「安素堂叢書」著/「耳水遺稿」、
 客死後に1867妻蔦子の大阪墓参紀行[此花日記]あり、
 [耳水(;号)の名/字/通称/別号]名; 明実/杲/謙、字; 東卿、通称; 謙三、別号; 安素堂、
 法号; 消翁軒郭山良的居士
- 妻 → 蔦子(つたこ・荒川/日高、紀行) 2 9 0 7
- 似水(しすい・鈴木) → 遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者) F 2 3 1 6
- 似水(しすい・大島) → 朝信(ともぶ・大島おおしま、藩士/歌) U 3 1 5 0
- 四睡庵(しすいあん) → 元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人) E 4 4 7 3
- 泗水軒(しすいけん) → 似春(しじゅん・小西、俳人) E 2 1 0 0
- 止水軒(しすいけん) → 斉宣(なりのおぶ・島津しまづ、藩主/詩歌) H 3 2 9 4
- 志随軒(しずいけん) → 高信(たかのぶ・望月、隠士/実録作者) M 2 6 6 9
- 四睡庵(しすいあん) → 素練(それん; 号、僧/俳人) B 2 5 3 9
- 四睡廬(しすいろう) → 楚石坊(そせきぼう・伊藤いとう、俳人) J 2 5 9 7
- 子崇(しすう・伊藤) → 竜洲(りゅうしゅう・伊藤いとう/清田、藩儒) E 4 9 5 5
- T2198 静氏(しずうじ・賀茂かも/岡本、賀茂氏三男) 1742-8443 江中期廷臣; 1778従六下/右兵衛少尉、
 1779因幡守、中院家に出仕、「賀茂静氏安永八年日記」著
- 静枝(しずえ・安井) → 九左衛門(きゅうざえもん・安井やすい、藩士/国学) V 1 6 4 9
- 静江(しずえ・深江) → 遠広(とほひろ・深江ふかえ、藩士/神道家) W 3 1 2 0
- N2199 静夫(しずお・柏淵かしぶち、嘉一よしかず[蛙亭あてい]男) 1813-9280 美濃多芸郡高田の庄屋/里正、
 儒; 父門/国学; 富樫広蔭門、維新後; 1870大垣藩校で皇学の教授/大垣八幡宮祠官、
 南宮神社禰宜/大講義、
 [静夫(;名)の別名/字/通称/号]別名; 貢/重寧、字; 士安、通称; 勇太郎/三七郎/藤太夫、
 号; 椋園しやうえん
- N2164 静雄(しずお・小口おぐち/本姓; 源、) 1838-190972 信濃伊那郡の国学者、
 黒川春村・井上文雄・横山由清・平田鉄胤門
 [静雄(;名)の別名/通称/号]別名; 苗清、通称; 芳松/勘左衛門、号; 桂月堂秋満
- Z2165 鎮雄(しずお・野津のぶ、通称; 七左衛門、鎮圭男) 1835-8046 薩摩鹿児島藩士/国学者、のち陸軍中將、
 野津道貫(陸軍元帥)の兄、早く両親と死別; 弟と共に叔父折田家で養育、
 天山流砲術; 青山愚痴門/薬丸自顕流; 薬丸兼義門、1863薩英戦争参加/67京都御所守護、
 1868戊辰戦争に五番隊長; 鳥羽・伏見さらに奥羽・箱館に転戦、
 維新後; 1869藩兵4番大隊長/71東京で御親兵大隊長/陸軍奉職; 佐賀乱に佐賀城奪回貢献、
 西南戦争; 第一旅団司令長官/中將; 1880明治天皇に随行直前病没
- Z2122 静雄(しずお・鈴木すずき、高鞞長男) 1842-190968 周防防府の国学者; 萩原広道門、太政官に出仕、
 [静雄(;名)の別名/号]別名; 静枝/直臣/直鞞、号; 瑞穂廼舎

静夫(しずお・竹村) → 東野(とうや・竹村、儒者) H 3 1 5 2
 静夫(しずお・堀家) → 正樹(まさき・堀家ほりけ、神職/国学) S 4 0 4 7
 静雄(しずお・深江) → 遠広(とおひろ・深江ふかえ、藩士/神道家) W 3 1 2 0
 倭文雄(しずお・佐藤) → 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6

- a2176 静(しずか・静御前しずかごぜん)? - ? 平安末鎌倉期の白拍子、母; 磯禪師いそのぜんじ、母に白拍子の舞を受ける/源義経の愛妾、1185(文治元)義経都落に随従; 吉野で離別、1186母磯禪師と共に鎌倉へ護送/頼朝に鶴岡八幡社前で白拍子の舞; [しづやしづ しづのをだまきくり返し昔を今になすよしもがな、吉野山峰の白雪踏み分けて入りにし人の跡ぞ恋しき]と唄う; 頼朝は激怒; 北条政子が助ける/鎌倉で義経の男子を出産; 頼朝は殺害を命ず; 静が泣き叫び離さない子を母の磯禪師が取上げ安達清常に渡す; 由比ヶ浜に遺棄される、北条政子により母と共に帰京(吾妻鏡)/母と大和磯野に住したという
- T2199 静(しずか・藤井ふじい) ? - ? 江後期洋学者; 鈴木春山門、春山没後に箕作省吾と春山「三兵治法」の校正(跋文執筆)、1857「妖異事略」著
- T2101 静(しずか・平山ひらやま、通称; 名輔)?-? 江後期; 歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[桜咲く山ふところに宿しめて今年はおくかいざこころみん](大江戸倭歌; 春247/翫花)
- 静御前(しずかごぜん) → 静(しずか、白拍子/義経愛妾) a 2 1 7 6
 静風(しずかぜ・市兼) → 静風(せいふう・市兼いちかね/源、藩士/歌人) J 2 4 3 3
- U2100 治助(じすけ・本屋ほんや; 通称)?- ? 江中期大阪岩田町の書肆、1782「万物急用間合即座引」、「真字引玉篇大成」著
- 2123 治助(初世じすけ・桜田、通称; 中村平吉/笠屋善兵衛?) 1734-1806 73 江戸歌舞伎作者、世話狂言確立、1764立作; 桜田風/4世松本幸四郎/5世団十郎と提携、浄瑠璃作詞、江戸歌舞伎中興の祖、1778「伊達競阿国戯場だてくらべおくにかぶき」、84「大商蛭子島」88「傾城吾孀鑑」93「貢曾我富士着錦」、1769「常花かはらぬはな栄鉢木」77「将門冠初雪」79「吾孀森栄楠」81「四天王宿直着綿」、長唄; 1768「教草吉原雀」81「我背子恋の合榎」、常磐津; 「戻駕色相肩もどりがごうにあいかた」、外著多数 [初世治助の別号] 田川治助/津村治助/堀越治助/柳井隣りゅうせいりん/花川戸/狂言堂左交、俳名; 左交、家号; 成田屋
- 2124 治助(2世じすけ・桜田、初世松島半二、藤助男) 1768-1829 62 江戸歌舞伎作者; 笠縫専助門、1790出勤/1800から初世治助に同行/08治助襲名、18中村座立作/3世坂東三津五郎に隨身、常磐津/清元/長唄の作詞多、1827てうふ名/29大火; 自宅焼失/仮宅中に病氣、歌舞伎作品; 1812「台頭霞彩幕だいがしらかすみいろまく」/18「伊勢平氏撰神風ひいきのみみかぜ」、1827「万歳ばんせい阿国歌舞伎」/1828「更名桜の盞」著、常磐津作詞; 1808「倭仮名色七文字(源太)」、長唄; 1811「七枚続花の姿絵(汐汲)」作、清元節作詞; 1815「今様須磨の写絵」20「月雪花名残文台」など; 作曲清沢万吉、24「傀儡師」、[2世桜田治助(初世松島半二)の別号] 栄半次/清水半次/松島陽助/松島てうふ(初世)、田川章作/俳名; 左交/調布、父が江戸ごみ舟の株主のため通称「ごみ半」
- I2115 治助(3世じすけ・桜田、3世松島半二[半次]) 1802-77 76 江戸歌舞伎作者; 2世治助門、浄瑠璃作詞、1833治助襲名、35中村座立作/4世歌右衛門と提携/56森田座(守田/新富座)立作兼任、1846「青砥稿あおとぞうし」「六歌仙」/1847「仮名手本忠臣蔵」/51「源氏模様娘雛形」、1854「花見台はなみどう大和文庫」55「邯鄲枕物狂」、常磐津; 43「乗合船恵方万歳」46「どんつく」、[3世桜田治助(3世松島半二)の別号] 葛飾音助/松島てうふ2世/狂言堂左交/中村左交 俳名; 左交/調布
- U2102 治助(4世じすけ・桜田、2世木村園治)?-1897? 幕末期江戸歌舞伎作者: 藤本吉兵衛門/3世治助門、1862治助襲名、守田座立作、1860「復讐天橋立」62「繰返米升贅」63「いろは撰女節用」など [4世桜田治助(2世木村園治)の別号] 藤本助/藤本元助/藤本基助/宝屋基助、左昂
- P2151 慈輔(慈甫/治助/治輔/慈助じすけ・近松ちかまつ)?-? 江後期1810-45頃歌舞伎作者: 近松徳三門、1822「江戸紫浪花色揚」27「色くらべ時雨松」30「絵本善知鳥物語」著、1836「花魁荅八総はなのあにつぼみのやつぶき(八犬伝)」共著(西沢一鳳軒・奈河政橋・金沢吾輔らと)、

1845「噂有東土産」著、1805刊「役者正札附」以降の役者評判記に上方作者として記載

治助(じすけ・嵐亭)	→	嵐雪(らんせつ・服部、俳人)	4 8 0 6
治助(じすけ・浜田)	→	洒堂(しゃどう・高宮/浜田、医者/俳人)	G 2 1 5 0
治助(じすけ・潤)	→	富屋(ふおく・潤うるつ、嵐亭/俳人)	B 3 8 2 5
治助(じすけ・加藤)	→	傘下(さんか・加藤かとう、俳人)	E 2 0 1 8
治助(じすけ・長浜屋)	→	長寛(ちようかん・佐野さの、漆工/国学)	M 2 8 6 2
治助(じすけ)	→	白羽(はくう・鹿島、俳人)	C 3 6 5 5
治助(じすけ・岡部)	→	尹里(いんり・岡部おかべ、俳人)	E 1 1 7 1
治助(じすけ・中東)	→	政常(まさつね・中東なかひがし、国学者)	R 4 0 1 6
治助(じすけ・田林)	→	有友(ありとも・田林たばやし、商家/国学)	H 1 0 8 5
治介(じすけ・桔梗屋/原、妓楼主人)	→	吞獅(どんし、俳人)	S 3 1 2 4
二輔(じすけ・隅田屋)	→	直保(なおやす・正宗まさむね、国学/狂歌)	O 3 2 7 8
次助(じすけ・鹿島)	→	重正(しげまさ・鹿島かしま、歌人)	S 2 1 6 6
次助(じすけ・稲垣)	→	御郷(みさと・稲垣いながき/源、歌人)	I 4 1 0 9
次輔(じすけ・水島)	→	永政(ながまさ・水島みずしま、音曲/国学)	F 3 2 7 8

2125 倭文字(しづ・油谷[弓屋・油屋]ゆや、平右衛門女) 1733-52早世²⁰ 江戸京橋弓町御用達伊勢屋の生、歌人；賀茂真淵門/師より倭文字の雅号、1747(15歳)某大名家奥方に行儀見習で出仕、新婚後に病死、県門三才女の1、1750「伊香保の道ゆきぶり」著、遺作「文布あやぬの」[遺歌集『散りのこり』『ゆきかひ』など](：橘常樹編)、[雪深き谷のふるすの鶯はまだ春としも知らずや有るらん](散りのこり；冒頭歌) 辞世歌[桐の葉のこよなと人はいふめれどしばしばかりや急くなるらむ]、[倭文字(；号)の名/法号]名；八代/八代子/いく子、法号；良信院

U2103 しづ子(しづ・都筑つぎ、北川一信の妻)?-1807 歌人；清原雄風門か?、「宇良々歌集」

E2125 静子(しづ・頼らい、号；梅颯ばい、飯岡義斎女、頼春水の妻) 1760-1843⁸⁴ 大坂の生/安藝竹原の歌人、小沢蘆庵門、詩人/俳人、頼山陽の母、1780「遊洛記」、56年間の日記「梅颯ばい日記」/「東遊日記」著、「梅颯書簡」、[寒さうに夜空を鳴くや渡り鳥](短冊)、頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい) 参照 2 1 6 0

N2138 倭文字(静子しづ・一井いちのい、伊忠女) 1784-1851⁶⁸ 近江高島郡藁園の御所所属の武家の家の生、1801(享和元)但馬出石藩士仙石久長男久朝を婿養子/良輔の母、1815(文化12)夫久朝没、後に歌人；京の賀茂季鷹門；師に随従、京住/大田垣蓮月と交流、家集「藻しほぐさ」著、[倭文字(；号)の名]幼名；柳、名；静子、法名；清月歌楽善女

Z2143 静子(しづ・千村ちむら、) 1820 - ? 江後期信濃筑摩郡の千村政成まさなり(1817-66)の妻、歌人；夫(；香川景恒門歌人)門

閑子(しづ・佐久間) → 立枝(たつえ・佐久間さくま、歌人/書画) R 2 6 5 5

02156 鎮定(しずさだ・佐藤さとう、) 1704-1782⁷⁹ 陸奥仙台の国学者；出雲路翁門 [鎮定(；名)の通称/号]通称；石内、号；右斎、諡；五土靈神

U2101 静修(しずさね・八木やぎ/本姓；橘、旧姓；鐙木かぶらぎ) 1809-56⁴⁸ 幕臣の家の生、儒；佐藤某門、国学者；本居春庭門、長く大坂に住、のち北越・近江大津・伊賀上野に行脚/若狭小浜の住；子弟教育、妻；敏子(国学/歌人)、「韻学捷徑」「韵庫秘鑰」「歌文枢要」著、「詞の玉の緒よりつぎ」「尚平語格の説」「むすび辞」「畸語要語大成」「増補歌文枢要」著、「活語捷徑標幟かつごしょうけいひょうしよく」、1851「要語大成」外著多数、松平春嶽[古今百人一首]入、[こととなくただ大空に澄む月をおのがさまさま人の見るかな](古今百人一；61)、[静修(；号)の名/字/通称/別号]名；愨/尚平/有年/時中/直方、字；立礼、通称；新太郎/又太郎/賢之助/謙之助、別号；縦陰/愨堂かどう居士

鎮三郎(しずさぶろう・脇坂) → 安斐(やすあや・脇坂わかさか/藤堂、藩主/歌) H 4 5 0 3

静石(しずい・矢野) → 吉左衛門(きちざえもん・矢野やの/外池、商家/歌) V 1 6 5 0

02121 静知(しずとも・岸さし、) ? - ? 江中期；筑後久留米藩士；奏者番、国学者、国学；家老の岸正知(?-1754)・谷川士清(1709-76)門、儒；西依成斎門、1736(元文元)致仕、「かげの小草」著、

[静知(；名)の通称]小左衛門/平兵衛

鎮虎(しづとら・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9

- U2105 静野(清野しずの・荒井あらい) 1793-1868 76 上州邑楽郡館林の木綿問屋兼酒造業(代々町年寄)、初め儒；武州熊谷の江雪翁門、国学者；本居大平・平田篤胤門/家塾草蔭屋を開き子弟教育、町年寄・検断役；帯刀を許可、利根川の氾濫；1834邑楽郡南部大島村の被害地開墾に関与、平田篤胤の高弟生田万と親交；財政面を援助、歌に精通、晩年は子弟教育と著述に没頭、「上野かうげけ神名帳」「新選上野国志」「草蔭屋家集」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[わたの原春来にけらし波の花さきちる澳おきへかすみたなびく](八十浦；682/早春)、
[静野(；号)の名/通称/別号]名；真清、通称；静右衛門/政吉/峰次郎/清右衛門、
別号；丹生の屋/草蔭舎

倭文纏居(しずのまとい) → 面堂安久楽(めんどうあぐら、職人/狂歌師) 4 3 4 8

静廼舎(静舎しずのや・加藤) → 宇万伎(美樹うまさ・加藤、幕臣/国学) 1 2 8 5

静廼舎(しずのや) → 東雄(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌) 1 0 5 0

静舎(しずのや) → 真国(まくに・石橋、茶屋経営/国学者) 4 0 6 8

静舎(しずのや) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学/随筆) C 1 1 0

静舎(しずのや・島崎) → 正樹(まさき・島崎、庄屋/国学者) C 4 0 2 9

倭文舎(しずのや・村上) → 円方(まどかた・村上、国学/歌人) J 4 0 9 2

倭文舎(しずのや・菊池) → 民子(たみこ・菊池/菊地きくち/大橋、歌) S 2 6 2 6

倭文舎(しずのや) → 春樹(はるき・服部はつとり、歌人) J 3 6 6 4

倭文舎(しずのや・上木) → 清成(きよなり・上木うわぎ、酒造業/国学) Q 1 6 0 7

倭文舎(しずのや・真佐木) → 元興(もとおき・真佐木まさき、国学者) L 4 4 2 6

倭文廼舎(しずのや) → 綾村(あやむら・河原田かわらだ、国学者) H 1 0 4 1

賤乃屋(しずのや) → 亀文(きぶん・大河原、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1

賤屋(しずのや) → 正生(まさなり・津田た、商家/地誌家) F 4 0 4 0

- U2106 しづはた(しずはた) ? - ? 京島原桔梗屋抱え太夫、斜天/吞獅「一目千軒」序

- N2104 倭文彦(しずひこ・我妻あづま、通称；寿庵) ?-1855 出羽米沢藩医、国学者；北村信精・本居大平門

- U2107 志頭磨(志津磨しづま・佐々木ささき) 1619-95 77 京の書家；藤木敦直門/大師流書法修学；奥義を受、のち張即之ら南路体の影響を受け独自の書風確立；志頭磨流と称す、加賀藩に出仕；組外書物役、致仕後に帰京、「佳墨集」「入墨玄妙」「橋之記」「佐々木志頭磨書状集」著、寺井養拙・荒木是水・赤井得水らの師、
[志頭磨(；通称)の名/別通称/号]名；直信、別通称；七兵衛/七右衛門、
号；静庵/松竹堂、専念(；剃髮号)、法号；嶺照院

志頭磨(志津磨しづま・佐々木) → 穿石(せんせき・沢井さかい?-1779、書家) M 2 4 7 7

志津摩(しづま・杉原/御巫) → 清直(きよなお・御巫みかんなぎ、神職/歌) D 1 6 4 3

志津摩(しづま・佐伯) → 稜威雄(いげお・佐伯ささき、神職/尊攘) K 1 1 2 6

志津馬(しづま・池田) → 憲成(のりしげ・池田いけだ、藩士/歌人) H 3 5 3 2

志津馬(しづま・酒居) → 正足(まさたり・酒居さかい、国学/歌人) Q 4 0 0 0

静馬(しづま・海妻) → 直繩(なおつな・海妻かうま、儒/国/故実) B 3 2 6 9

静馬(しづま・飯島/佐久良) → 東雄(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌) 1 0 5 0

静馬(しづま・村井) → 房種(ふさたね・歌川うたがわ/村井、絵師) C 3 8 1 3

静馬(しづま・黒川) → 豊磨(とよまる・黒川くろかわ、神職/国学) V 3 1 0 9

- M2130 賤丸(2世しづまる・眠亭みんでい) ?-1825 川柳作者；初世賤丸(4世川柳)門、1825正月武蔵野会参加後に没；同年4月28日に追福会(誹風柳多留；八九篇入)、
[五百の内に助兵衛が顔もあり](柳多留；八六)

賤丸(初世しづまる・眠亭) → 川柳(せんにゅう・4世、人見周助) 2 4 4 2

- a2196 倭文磨(しづまる・吉岡よしおあか、高橋権兵衛4男) 1849-97 49 隠岐周吉郡矢尾村の生；幼時に父母没、12歳；西町(西郷)の吉岡家の養子、13歳；養家の家督嗣/15歳；養父没、和漢学修学；医師野津徹斎・田中鼎助門、1868(慶応4)隠岐騒動で自治政府の警護頭取、戊辰戦争に従軍/1871(明治4)水祖神社神官/八尾小学校訓導/神道教導職/郡学務委員、

戸長、1890衆議院議員(2期)、
[倭文麿(;名)の初名]要男/要人

自寸(じすん/自寸斎・和田)→ 湖水(湖水こい・和田むね、俳人) D 1 9 0 3

E2126 止静(しせい・素兄堂そけいどう;姓不詳)?-? 江前中期1688-1736頃の歌人/歌学、
歌の啓蒙書を著述、1704「歌道岸の姫松」/06「源氏物語道しるべ」「和歌千年の友」、
1726「和歌寄垣」、「歌道垣根の梅」「和歌藻英小伝」「歌林軒葉の松」著

P2102 思晴(しせい・西村にしむら) ? - ? 羽前山形の俳人、
1689言水「誹諧前後園」・1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
[呑み捨てて魚道に流す歳暮哉](新撰都曲;下360/魚道は凝当ぎょうどう;杯に残った酒、
魚道に流すは口を付けた部分をすすいで酒を人に勧める動作)

U2108 資清(しせい) ? - ? 近江八幡俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

E2127 只清(しせい) ? - ? 和泉堺の俳人・淡々門、隠居所に師が住む

M2131 子誠(しせい・市中菴) ? - ? 江後期雑俳;川柳作者、和笛わたきの親友、
1795頃「誹風柳多留二五篇」跋文、
[折昏が娘へ付くと疵になり](柳多留;二五/鑑定保証付き)

U2109 子星(しせい;通称・樋口ひぐち、名;台)?-? 江後期伊賀の眼科医;肥前長崎の吉雄家入門、
諸方の眼科医で研鑽を積み大阪で開業、のち父老齢のため伊賀に帰郷、1826「眼科撰要」著

U2110 肆成(しせい・小山こやま) ? - ? 江後期伊熊野の医者・牛痘接種を試験、
長崎より舶来の牛痘を得て成功、1849「引痘新法全書附録」著、
[肆成(;名)の通称/号]通称;有造/敬輔、号;蓬州/東風館

Z2103 只青(しせい・為田ためだ、師職小林対鷗3男) 1812-7665 伊勢度会郡岩淵の生/八日市場為田家の養嗣、
書;久世戸の川上葆門、俳諧;京の五仲庵有節門、神風館15世継承、秋斎の父、
書・俳の門弟多数;富沢青之・高部移水・山原得水・中瀬竹鶯・上田しか女・磯部百鱗ら、
遺句集「亡師花明叟遺金」(;門人の仁風廬山原得水謄写)
[うくひすやものに紛らぬ朝こゝろ](1851[嘉永4]春;館主)
[水青し動きみえぬも春の色](遺句集)、
[只青(;号)の名/通称/別号]名;家明、通称;兵大夫、神風館15世、
別号;之青(;初号)/華明(花明;晩年号)/夢々翁/知丈斎/抱素斎

資清(しせい/すけきよ・太田)→ 道真(どうしん・太田、武将/連歌) F 3 1 6 2

資清(しせい・白川) → 資清(すけきよ・白川、神祇伯/日記) C 2 3 0 8

資清(しせい・北郷) → 資清(すけきよ・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 8

資清(しせい・伴) → 資清(すけきよ・伴ばん、商家/歌人) I 2 3 9 9

資成(しせい・橋) → 資成(すけしげ・橋、廷臣/歌人) C 2 3 1 9

資成(しせい・本間) → 道偉(どうい・本間、医者/俳人) B 3 1 0 0

資政(しせい・渡辺) → 資政(すけまさ・渡辺わたなべ、神職/国学) J 2 3 4 4

資生(しせい・裏松/勘解由小路)→ 資生(すけより/すけなり・勘解由小路/藤原、廷臣/歌) D 2 3 2 8

資生(しせい・馬場) → 仲達(ちゆうたつ・馬場ばば、幕臣/本草家) G 2 8 6 3

資盛(しせい・平) → 資盛(すけもり・平たいら、武将/歌人) D 2 3 1 5

思声(しせい、俳名、歌舞伎作者) → 二三治(にそうじ・三升屋) 3 3 0 2

思誠(しせい・佐藤) → 誠(まこと・佐藤さとう、藩士/歌/金石学) 4 0 8 1

思誠(しせい・渡辺) → 予斎(よさい・渡辺わたなべ、藩儒) B 4 7 8 3

至政(しせい/よしまさ・蜂須賀)→ 光隆(みつたか・蜂須賀/松平/源、藩主/歌) D 4 1 7 3

至生(しせい;俳名) → 文七(ぶんしち・中山、歌舞伎役者) F 3 8 6 3

至静(しせい・小林) → 畏堂(いどう・小林こばやし、儒者) E 1 1 1 6

士清(しせい・谷川) → 士清(ことすが・谷川、医/国学) 1 9 3 6

士清(しせい・松原) → 鶴峰(かくほう・松原まつばら、儒者/詩人) H 1 5 3 8

士清(しせい・本木) → 良永(りょうえい・本木もとき、西、通詞/翻訳) G 4 9 4 7

士清(しせい・渡辺) → 広輝(ひろてる・渡辺わたなべ、絵師) G 3 7 4 8

士精(しせい・村上) → 量弘(かずひろ・村上むらかみ、藩士/儒者) M 1 5 4 6

士成(しせい・市河) → 遂庵(すいあん・市河/横井、書家/詩人) 2 3 2 3

士成(しせい・中島)	→	棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人)	2 5 0 4
士成(しせい・出雲路)	→	定信(さだのぶ・出雲路いずもじ/春原/齋部、神職/国学)	L 2 0 8 6
士誠(しせい・甲斐)	→	岷谷(みんこく・甲斐かい、儒者/詩人)	G 4 1 8 1
士誠(しせい・茅根)	→	寒緑(かんりよく・茅根ちのね、藩士/儒者)	R 1 5 8 2
子正(しせい・中西)	→	子正(つぐまさ・中西、剣法家)	2 9 8 6
子正(しせい・今村)	→	長順(ながより・今村、医者/俳人)	G 3 2 5 8
子正(しせい・丹)	→	就道(なりみち・丹たん、国学者)	I 3 2 2 3
子正(しせい・野上)	→	陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者)	C 3 5 8 5
子正(しせい・速水/座田)	→	惟貞(これさだ・座田さいだ/速水、国学/典籍)	E 1 9 2 0
子正(しせい・吉田)	→	芝溪(しげい・吉田よしだ、商家/儒者)	Q 2 1 6 0
子正(しせい・牧)	→	東海(とうかい・牧/橘、儒者/兵学/歌)	B 3 1 9 1
子正(しせい・下郷/清水)	→	雷首(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩)	4 8 5 4
子正(しせい・山島)	→	守良(もりよし・山島やましま、和算家)	G 4 4 9 3
子正(しせい・谷)	→	三山(さんざん・谷たに、儒者)	F 2 0 8 5
子正(しせい・北岡)	→	石台(せきだい・北岡きたおか、藩士/詩人)	K 2 4 3 7
子正(しせい・土肥)	→	石斎(せきさい・土肥どひ/田村、藩士/儒者)	K 2 4 0 7
子正(しせい・小川)	→	義局(よしちか・小川おがわ、神職)	E 4 7 5 4
子成(しせい;字・山田)	→	鼎石(ていせき・山田/山、詩人)	B 3 0 3 4
子成(しせい;字・加藤)	→	天山(てんざん・加藤、藩校総司/儒者)	D 3 0 6 0
子成(しせい;字・小林/宇野)	→	東山(とうざん・宇野/宇、医/儒者)	E 3 1 5 4
子成(しせい・頼)	→	山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人)	2 0 5 8
子成(しせい・尾崎)	→	称斎(しょうさい・尾崎おさき、藩儒者/教育)	S 2 2 3 2
子成(しせい;字・柏原)	→	学而(がくじ、柏原かしばら、蘭医者)	J 1 5 9 3
子成(しせい;字・岡田)	→	華陽(かよう・岡田おかだ、医者/詩)	P 1 5 6 0
子成(しせい;字)	→	功存(こうぞん;法諱、真宗僧/三業帰命論)	K 1 9 4 5
子成(しせい・山県)	→	溥泉(ふせん・山県、藩士/儒者/詩)	D 3 8 0 4
子成(しせい・伊東)	→	奚疑(けいぎ・伊東いとう、藩士/儒/易学)	F 1 8 4 2
子成(しせい・松平/榊原)	→	月堂(げつどう・榊原さかきばら、幕臣/書家)	H 1 8 3 0
子成(しせい・伊良子)	→	大洲(たいしゅう・伊良子いらこ/伊良、儒者)	K 2 6 1 8
子成(しせい・秋山)	→	富南(ふなん・秋山あきやま、郷士/地誌)	D 3 8 5 7
子成(しせい・三井)	→	高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎)	N 2 6 7 7
子成(しせい・今村)	→	楽(たぬし・ら・今村、医/国学/歌)	G 2 6 3 4
子成(しせい・中村)	→	中侗(ちゅうそう・中村、藩士/医/儒者)	G 2 8 5 6
子成(しせい・高須)	→	松斎(しょうさい・高須/斎藤、蘭医/藩医)	J 2 2 0 5
子成(しせい・山下)	→	利章(としあき・山下やました、藩士/系譜)	L 3 1 9 6
子成(しせい・馬場)	→	正通(まさみち・馬場ばば、経世家/教育)	H 4 0 4 7
子成(しせい・嵯峨)	→	実愛(さねなる・嵯峨/藤原/正親町三条、大納言/記録)	L 2 0 1 7
子成(しせい・上田)	→	善淵(ぜんえん・上田うえだ、藩儒)	L 2 4 8 0
子成(しせい・木村)	→	信章(のぶあき・木村きむら、歌人)	I 3 5 1 1
子成(しせい・荒)	→	至重(しじゅう・荒あら、藩士/和算家)	T 2 1 6 7
子成(しせい・中島)	→	石浦(せきほ・中島なかじま/中浦、医/儒者)	D 2 4 8 3
子成(しせい・室)	→	方義(まさよし・室むろ、国学/勤王/政治家)	T 4 0 1 4
子政(しせい;字・松平)	→	斉民(なりたみ・松平、藩主/詩)	H 3 2 5 9
子政(しせい・山崎)	→	宗運(そううん・山崎やまざき、幕臣/医者)	G 2 5 0 8
子政(しせい・佐竹)	→	義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革)	H 4 7 0 9
子征(しせい・本田)	→	四明(しめい・本田ほんだ、儒者)	V 2 1 8 1
子世(しせい;字・岸)	→	信之(のぶゆき・岸きし、儒者)	3 5 6 6
子世(しせい;字・武田)	→	濟美(せいび・武田、和算家)	J 2 4 4 7
子世(しせい;字・青山)	→	拙斎(せつさい・青山延子のぶゆき、儒者)	E 2 4 3 3
子世(しせい・大沢)	→	順軒(じゅんけん・大沢おおさわ、儒者)	J 2 1 4 9

子齊(しせい・新保/伊能)→ 忠敬(ただたか・伊能いのう、商家/測量図) F 2 6 2 5
 子誠(しせい・安田/山県)→ 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3
 子誠(しせい・宮城) → 春意(しゅんい・宮城/宮木、神道/儒者) M 2 1 3 7
 子誠(しせい・和田) → 静観窩(せいかんか・和田わだ、儒者/国学) 2 4 9 2
 子誠(しせい・溝口) → 千谷(せんこく・溝口/鈴木、書家) M 2 4 2 9
 子誠(しせい・湯浅) → 明善(あきよし・湯浅、藩士/文筆家) E 1 0 0 8
 子誠(しせい・大縄) → 念斎(ねんさい・大縄おこなわ、藩士/詩人) 3 4 6 4
 子誠(士誠しせい・本城/本荘)→ 維芳(惟芳いほう・本城/本荘、漢学/白話) D 1 1 9 6
 子誠(しせい・貝原) → 益軒(えきけん・貝原、藩士/儒者) 1 3 0 6
 子誠(しせい・野村) → 貞処(ていしょ・野村のむら、和算家) B 3 0 1 6
 子誠(しせい・金子) → 松洞(しょうどう・金子かねこ、儒者/詩人) R 2 2 5 8
 子誠(しせい・浅田) → 棕園(そうえん・浅田あさだ、医者) G 2 5 3 6
 子誠(しせい・金井) → 之恭(ゆきやす・金井かない、勤王家/書家) F 4 6 9 0
 子誠(しせい・河野) → 通理(みちまさ・河野こうの、神職/国学) J 4 1 1 2
 子誠(しせい・大田) → 英実(ひでざね・大田おた、藩士/教育者) I 3 7 8 3
 子誠(しせい・中山) → 忠愛(ただなる・中山なかやま/藤原、廷臣) Y 2 6 6 7
 子誠(しせい・矢島) → 敏堯(としたか・矢島やじま、和算/国学) W 3 1 7 6
 子生(しせい・矢上) → 快雨(かいう・矢上やがみ、儒者/詩) E 1 5 3 3
 子性(しせい・筑紫) → 義門(よしかど・筑紫、藩士/国事奔走) C 4 7 9 7
 子晟(しせい/しじょう・荷田かだ)→ 信郷(のぶさと・荷田/羽倉、神職/国学) B 3 5 5 4
 子清(しせい・矢野) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4
 子清(しせい・川喜田) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0
 子清(しせい・賀川) → 蘭斎(らんさい・賀川かがわ/源、医者) C 4 8 2 0
 子清(しせい・羽栗) → 春望(はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学) K 3 6 5 7
 子清(しせい・和久田) → 叔虎(よしとら・和久田わくだ、藩士/儒/医) F 4 7 1 0
 子精(しせい・佐藤) → 解記(げき・佐藤さとう、商家/和算家) G 1 8 8 6
 子精(しせい・日高) → 凉台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩) I 4 9 8 0
 子精(しせい・賀集) → 惟一(これかず・賀集かお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
 子精(しせい・神田) → 孝澄(たかすみ・神田かんだ、鑑識/国学) W 2 6 6 5
 子静(しせい・藤田) → 帛川(はくせん・藤田ふじた、藩士/詩人) D 3 6 5 5
 子静(しせい・永島) → 審(しん・永島ながしま、医者/引水工事) N 2 2 2 2
 子静(しせい・山瀬/市河)→ 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8
 子静(しせい・中川) → 景山(けいざん・中川ながわ、藩士/詩歌) F 1 8 7 8
 子静(しせい・徳力) → 竜澗(竜間りゅうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
 子静(しせい・小川/杉山/中西)→ 元瑞(げんずい・中西、藩士/医者) K 1 8 3 5
 子静(しせい・小橋) → 静学(せいがく・小橋こばし、儒者/医者) H 2 4 7 9
 子静(しせい・高) → 良斎(りょうさい・高こう/山崎、蘭医;眼科) H 4 9 6 4
 子静(しせい・河瀬) → 太宰(ださい・河瀬/戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2
 子静(しせい・都丸) → 董庵(とうあん・都丸とまる、藩士/儒者) 3 1 8 8
 子静(しせい・井上) → 静軒(せいけん・井上いのうえ、藩儒) I 2 4 0 2
 子静(しせい・能美) → 隆庵(りゅうあん・能美のうみ、医者/藩医) C 4 9 6 9
 子静(しせい・松本) → 秀業(ひでなり・松本まつもと、神職/歌人) D 3 7 5 3
 子静(しせい・中原) → 剛(かたし・中原なかはら、国学者) V 1 5 2 0
 子静(しせい・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いちち、藩士/記録) F 2 3 7 2
 子省(しせい・柳原) → 隆光(たかみつ・柳原やなぎはら、廷臣/記録) D 2 6 8 4
 子省(しせい・岡本) → 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人) C 1 5 5 7
 氏精(しせい・水無瀬) → 実徳(さねのり・園池/藤原/水無瀬、廷臣) L 2 0 2 4
 氏誠(しせい・山本) → 氏侍(うじとも・山本/賀茂、神職/日記) C 1 2 5 3
 氏晴(しせい・大館) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0
 氏清(しせい・山名) → 氏清(うじきよ・山名やまな、武将/歌人) 1 2 2 8

氏政(しせい・藤原) → 氏政(うじまさ・藤原/小山、連歌作者) C 1 2 7 1
 氏政(しせい・北条) → 氏政(うじまさ・北条、武将/城主/歌人) B 1 2 7 3
 氏正(しせい・金剛) → 氏正(うじまさ・8世金剛、能役者) B 1 2 7 4
 氏成(しせい・姓不詳) → 氏成(うじしげ、風雅集歌人) 1 2 3 2
 氏成(しせい・水無瀬) → 氏成(うじなり・水無瀬、廷臣/歌人) 1 2 4 5
 氏盛(しせい・宗像) → 氏盛(うじもり・宗像むなかた、神職) C 1 2 7 5
 四生(しせい・児山) → 紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行) E 3 5 6 8
 市正(しせい) 役職名は → 市正(いちのかみ)
 市正(しせい・毛利) → 秀包(ひでかね・毛利/大田/小早川、武将/連歌) C 3 7 9 9
 市正(しせい・朽網) → 宗歴(むねゆき・朽網くたみ/入田、武将) C 4 2 7 5
 市正(しせい・北島) → 孝玄(のりはる・北島きたじま、神職) F 3 5 4 3
 市正(しせい・松平) → 康済(やすなり・松平まつだいら、藩家老) C 4 5 4 6
 市正(しせい・松平) → 直明(なおあき・松平まつだいら、藩主/和学) O 3 2 8 7
 市正(しせい・水野) → 忠福(ただよし・水野、幕臣/神宮記録) R 2 6 2 7
 市正(しせい・玉井) → 貞衛(さだもり・玉井たまのい、藩家老/日記) J 2 0 9 8
 市正(しせい・松平) → 勝定(かつさだ・松平、幕臣/記録) N 1 5 3 1
 市正(しせい・稲葉) → 知通(ともみち・稲葉いなば、藩主) Q 3 1 6 4
 市正(しせい・島津) → 忠広(ただひろ・島津しまう、家老/国学者) X 2 6 5 4
 市正(しせい・平田) → 常任(つねとう・平田ひらた、神職/国学) G 9 2 2
 市正(しせい・山内) → 豊敷(とよぶ・山内、藩主/学問奨励/歌) R 3 1 4 3
 市正(しせい・脇屋) → 恕亭(じよてい・脇屋わきや、儒者) M 2 2 7 1
 之正(しせい・千家) → 之正(ゆきまさ・千家せんげ、神職/茶・歌人) G 4 6 9 5
 之正(しせい・平岡) → 之正(ゆきまさ・平岡ひらおか、鍼医/国学) H 4 6 1 5
 之成(しせい・水島) → ト也(ぼくや・水島みずしま、故実家;礼法) E 3 9 0 1
 之政(しせい・越智/松平) → 清武(きよたけ・松平/越智、藩主) P 1 6 8 2
 之清(しせい・山根) → 清(きよし・山根、儒者) D 1 6 1 8
 之清(しせい/これきよ・石/石川/石河) → 大凡(たいぼん・石川/石河、儒者) C 2 6 2 1
 之清(しせい・桂) → 之清(ゆききよ・桂かつら、藩士/国学者) E 4 6 4 3
 之晴(しせい・堀内) → 之晴(こればる・堀内ほりうち、藩士/国学者) R 1 9 2 7
 之盛(しせい・紀) → 之盛(ゆきもり・紀き、廷臣/新続古歌人) F 4 6 8 5
 枝栖(しせい) → 栗斎(りつさい・内山う/本源、儒者/俳人) B 4 9 8 9
 此静(しせい・市岡) → 智寛(ともひろ・市岡、役所手代/博物学) Q 3 1 4 4
 師生(しせい・押小路) → 師生(もろなり・押小路/中原、廷臣/記録) H 4 4 6 4
 師政(しせい・大塚/福地) → 師政(もろまさ・福地ふくち/大塚、儒/和算家) H 4 4 9 3
 師盛(しせい・大中臣) → 師盛(もろもり・大中臣/中臣、神職) I 4 4 0 6
 師静(しせい) → 師静(しじょう;法諱・南堂;道号、曹洞僧) T 2 1 8 0
 嗣成(しせい・和氣) → 嗣成(つぐしげ・和氣わけ、廷臣/典薬頭/歌) G 2 9 8 0
 紫青(しせい・梶村/木村) → 紫貞女(しいじよ・木村/梶村、俳人) F 2 1 2 0
 紫清(しせい・嶺田) → 楓江(ふうこう・嶺田/峰田、藩士/詩) 3 8 6 0
 U2111 滋成(しせい/しげなり) ? - ? 連歌;1564景恵「石山千句」連衆
 自性(しせい) → 我室(がぼう、真言僧) P 1 5 3 5
 自省(しせい・遠田) → 自省(よしみ・遠田、藩士/日記) J 4 7 7 8
 自省(しせい/自省軒・白井) → 宗因(そういん・白井、医/和学者) G 2 5 0 2
 時生(しせい・徳田/銭屋長兵衛) → 椿堂(ちんどう・徳田、商家/俳人) K 2 8 9 4
 時成(しせい・横井) → 時成(ときなり・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 6 5
 時成(しせい・若井) → 時成(ときなり・若井、衣八清蔵、戯作者) J 3 1 6 6
 時成(しせい・豊) → 時成(ときなり・豊ゆたか、戯作者;絵咄本) J 3 1 6 7
 時成(しせい・平野) → 深淵(しんえん・平野ひらの、藩士/儒者) N 2 2 4 6
 時成(しせい・北条) → 時成(ときなり・北条ほうじょう/中臣、神職) W 3 1 3 4
 時政(しせい・北条) → 時政(ときまさ・北条/平、鎌倉初代執権) K 3 1 0 4

- 時清(じせい) すべて → 時清(とききよ)
- 持世(じせい・大内) → 持世(もちよ・大内/多々良、武将/歌/連歌) B 4 4 7 9
- 慈成(じせい/じじょう; 字) → 日霽(にちてん; 法諱・妙道院、日蓮僧) C 3 3 8 7
- 慈誠(じせい・西山) → 慈誠(ちかのぶ・西山にしま、藩士/国学者) N 2 8 2 4
- 慈静(じせい; 法諱) → 慈静(じじょう; 法諱、天台僧正/歌) B 2 1 3 6
- 治政(じせい・池田) → 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6
- 自生庵(じせいあん) → 紀逸(初世きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1
- 至成院(しせいいん) → 明声(名声めいせい・三上みかみ、僧/歌人) 4 1 6 2
- 自成院(じせいいん/じじょういん) → 日堯(にちぎょう; 法諱・円詮、日蓮僧) B 3 3 3 5
- 事成院(じせいいん/じじょういん) → 日寿(にちじゅ; 法諱・泰遠、日蓮僧) C 3 3 1 1
- 慈声閣(じせいかく) → 乗徳(じょうとく・明達院、真宗僧/歌人) U 2 2 9 8
- 自省軒(じせいけん) → 宗因(そういん・白井しらい、医/和学者) G 2 5 0 2
- 思誠齋(しせいさい; 法号) → 連恭(つらやす・長ちよう、連弘男/藩士) E 2 9 5 2
- 而生齋(じせいさい) → 実山(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸) E 2 1 9 1
- 司成書屋(しせいしょおく、司成書室) → 清斎(せいさい・細川、藩儒/詩文) B 2 4 5 9
- 思靖先生(しせいせんじょう) → 塵隠(じんいん・国造くにのみやつこ/くにづくり/国、儒/医者) D 2 2 4 6
- 市井痴人(しせいちじん) → 凉庭(りょうてい・新宮しんぐう、蘭医) I 4 9 9 9
- 詩聖堂(しせいどう; 塾名) → 詩仏(しぶつ・大窪、儒者/詩人) 2 1 3 2
- 施政堂(しせいどう) → 東所(とうしょ・伊藤、儒者) F 3 1 1 8
- 至誠堂(しせいどう) → 敏夏(としなつ・服部、歌人) N 3 1 2 3
- 至誠堂(しせいどう) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
- 至誠堂(しせいどう) → 白翁(はくおう・笠原かさばら、医者/種痘) C 3 6 7 7
- 至清堂(しせいどう) → 捨魚(すてな・至清堂、狂歌) D 2 3 8 3
- 思誠堂(しせいどう) → 敏成(年成としなり・吉田、国学者) N 3 1 2 6
- 自省堂(じせいどう) → 柳条(りゅうじょう・江見えみ、俳人) E 4 9 7 0
- 至清堂捨魚(しせいどうすてな) → 捨魚(すてな・至清堂、狂歌) D 2 3 8 3
- 資生圃(しせいほ・馬場) → 仲達(ちゅうたつ・馬場ばば、幕臣/本草家) G 2 8 6 3
- 持是印(じせいいん) → 妙椿(みょうちん; 法諱・斎藤、武将/連歌) 4 1 4 2
- P2103 思昔(しせき) ? - ? 江前期播磨姫路の俳人、1692才磨「椎の葉」5句入、才磨らと連句、[浮世かな紅葉つながぬ書写しよ増位まする](椎の葉; 129、書写山増位山が連山なら紅葉が連なるのに残念/これも浮き世か)
- E2128 至席(しせき・並井なみい) ? - 1790 江中期宝暦明和1751-72頃の大坂の雑俳点者、大坂桜橋南詰薬師裏住、笠付の新風・揚付を主唱; この趣向は寛政1789-1801頃まで流行、1781刊の亀毛「むくの葉」に1759至席の高点場付の評入、1768「沖かもめ」編、1782「鼻あぶら」入、桃下庵亀毛の師、追善「至席十三回忌追善集」(1802息女群女編)、[至席(;号)の別号] 呉綾斎/呉綾散人/梅翁
息女 → 群女(むらじよ・並井なみい、至席女/俳人) 4 2 1 6
- E2129 志夕(しせき・東池菴とうちあん) ? - ? 江中期江戸の雑俳点者、夢仏・麟々らと並び活躍、1767丸窓:「豆鉄砲」入、68「世話文殊」編
- E2130 志席(しせき・水音亭すいおんてい) ? - ? 江中期江戸の俳人; 蓼太系?、1757律中「誹諧耳勝手」入、68撰集「年八卦」編
- E2131 紫石(しせき・宋そう、本姓; 楠木) 1715-86? 江戸の絵師: 諸国遊歴後長崎に遊学、熊斐(熊代嘯江)門; 沈南蘋の画法修学/来日中の清人の宋紫岩門; 宋紫石に改名、南蘋花鳥画風を修得、江戸に帰郷後南蘋画風の教育の普及; 蠣崎かきざき波響・司馬江漢の師、紫山の父/紫岡の祖父、「王元美詠百詩」著、1769-73「宋紫石画譜」画、70/71「古今画藪」編、1770「宋紫石画藪山水式」編、77「宋紫石蘭譜」78「宋紫石画藪」画、「宋紫石画譜梅菊」外面多、[紫石(;号)の字/通称/別号] 字; 君赫、通称; 幸八郎、別号; 雪溪/雪湖/霞亭/宋岳、
法号; 諦量院
- U2112 芝石(しせき・西川にしかわ、名; 吉陣) 1777-1848? 尾張海東郡福田新田の俳人: 大鶴庵竹有(塊翁)門、名護屋長島町住、冠句に長ず; 点者よなる、1812「手折菊」35-39「太はし集」41「続太箸集」編、

1842「天保十三年寅月次俳諧」1843「潮の花」編、「狂俳雪月花」著、
[芝石(；号)の通称/別号]通称；官次郎、別号；帯月庵/千里亭、法号；学圃院

U2113 紫石(しせき・春暁斎しゅんぎょうさい)?-? 江後期加賀の俳人/華道を修得、
1813「見果ぬちり」著

咫尺(只尺、しせき) → 寥和(初世りょうわ・大場、俳人/五色墨) J 4 9 6 6
紫石(しせき・長野) → 馬貞(ばてい・長野、医/俳人) F 3 6 3 4
紫石(しせき・建部/杉田) → 伯元(はくげん・杉田、蘭医者) D 3 6 0 2
紫石(しせき・桃の林) → 蝶麿(ちょうまろ・桃林堂、浮世草子作者) J 2 8 9 0
士錫(しせき・阿部) → 松園(しょうえん・阿部あべ、藩士/儒者) F 2 2 5 4
子石(しせき・桑名) → 黙斎(もくさい・桑名くわな、藩儒) 4 4 7 9
子績(しせき・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4
子績(しせき・高橋) → 東陽(とうよう・高橋、儒者/詩) H 3 1 7 6
子績(しせき・川瀬/桜井) → 東亭(とうてい・桜井、儒者/詩人) G 3 1 5 7
子蹟(しせき・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4
子錫(しせき・丸山/秋月) → 韋軒(いけん・秋月、藩士/儒者/日記) E 1 1 2 2
芝石(しせき・清水) → 義壽(よしひさ・清水しみず、神職/国学) N 4 7 2 8
獅石(しせき・馬島) → 元長(もとなが・馬島まじま、書家) L 4 4 2 9

M2124 似石(しせき) ?-? 江前期俳人；1692不角「千代見草」入
[かけがねは人の宝を探る脉みやく](千代見草/他家に入り宝を得るには施錠の有無で分る)

E2132 児石(じせき) ?-? 俳人；馬光門、1790撰集「霞の碑」共編；
(野逸序/連水舎跋、馬光の句碑建立記念と50回忌取越追善集、舎中の霞の句など所収)

慈尺(字石しせき) → 祇徳(初世ぎとく・仲、札差/俳人) B 1 6 6 0
時績(じせき・柿岡) → 林宗(りんそう・柿岡かきおか、儒者/教育) K 4 9 6 1
四夕庵(しせきあん) → 桃隣(5世とうりん・山口/加藤、俳人) I 3 1 3 8
咫尺斎(3世しせきさい) → 寥和(3世りょうわ・浅井あさい、俳人) J 4 9 6 7
咫尺斎(5世しせきさい) → 寥和(5世りょうわ・羽鳥、俳人) J 4 9 6 8
此石亭(しせきてい) → 近績(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
紫石堂(しせきどう) → 馬貞(ばてい・長野、医/俳人) F 3 6 3 4
子節(しせつ・大槻) → 磐里(ぼんり・大槻おつぎ、医/蘭学者) 3 6 6 5
子節(しせつ・松下) → 真山(しんざん・松下/坂上、儒者/医者) E 2 2 3 3
子節(しせつ・小島) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0
子節(しせつ・石井) → 好胤(よしたね・石井いしい、郷土史家) E 4 7 3 5
子節(しせつ・吉田) → 修房(のぶふさ・吉田よしだ、医者/歌人) K 3 5 3 6
子節(しせつ・矢野) → 義和(よしかず・矢野やの/藤井、商家/藩士/国学) P 4 7 7 4
士屑(しせつ・松沢) → 老泉(ろうせん・松沢まつざわ、書肆/典籍研究) 5 2 3 5
紫雪(しせつ・宝生) → 友子(ともゆき・宝生ほうしょう、能楽師) Q 3 1 8 7
似雪(じせつ；号) → 道晃親王(どうかうしんのう、天台修験門跡/歌・連歌) E 3 1 0 6
紫雪庵(しせつあん) → 宗鳳(初世そうほう・青木、茶人) I 2 5 8 8
時節庵(じせつあん) → 八亀(はつき、商人/俳人) F 3 6 0 9
紫雪庵官蘭(しせつあんかんらん) → 藤助(とうすけ・福松、浄瑠璃作者/俳) F 3 1 8 8
指雪斎(しせつさい) → 昌休(しょうきゅう・里村、連歌師；家祖) S 2 2 0 3
似切斎(じせつさい・山崎) → 闇斎(あんさい・山崎やまさき、垂加流神道) 1 0 3 7
志雪窓(しせつそう) → 三白(さんぱく、俳人) 2 0 7 1
慈撰大師(じせつだいし) → 眞盛(しんせい/しんぜい；法諱、天台眞盛宗の祖) P 2 2 0 7
四節亭(しせつてい) → 西風(にしかぜ・波多野はだの、俳人) 3 3 1 9

E2133 自然麻呂(じぜんまろ/じねんまろ・多おの、多藤野麻呂男)?-886 上総守、右方舞、神楽を創始

E2134 紫川(しせん) ?-? 江戸中期江戸俳人；判者/雑俳宗匠、
1704?冠楽堂人「雪の笠」入/1720(享保5)撰集「俳諧ちゑぶくろ」点入

E2136 之川(しせん) ?-? 俳人、1715乃露「八ゆふぐれ」入

E2135 志川(しせん) ?-? 俳人、1723書肆「和哥みどり」入

- E2137 **士川**(しせん・松岡まつおか)1742- ? 1816存 撰津灘大石の酒造業、俳人：蕪村・几董門、弟士喬・士巧や同族の士流を率い兵庫俳諧を指導、1789伊丹の別邸で几董客死、1776几董「続明鳥」4句入/76樗良「月の夜」1句入/77蕪村「夜半楽」「花鳥篇」各1句入/1777江涯「仮日記」1句入/83維駒「五車反古」2句入、「俳諧ふくろ草紙」著、1816遺墨、[又ことし待つ人に散る桜かな](続明鳥；甲157/今年も待人の来ないうちに散った)、[あるかせて猿引きかへる入日哉](遺墨/七十五翁士川)、[士川(；号)の通称/別号]通称；甚左衛門/伝助/伝介、別号；五仙窓、屋号；松屋
- U2114 **洒筈**(しせん) ? - ? 越中魚津の俳人、1776樗良「誹諧月の夜」入、[よるべなき浪よりおこる秋の風](月の夜；51/秋風の源を想像)
- U2115 **贅川**(しせん・大島おしま、名；維直、休甫男)1762-183877 越中魚津の儒者；1784江戸遊学、初め山本北山門/のち林家入門；昌平黌入学、加賀金沢藩に招聘；藩校明倫堂助教、二十一史校正の総裁/のち都講、1834致仕、1792「学校向留帳」編、「史記考異」著、「友教堂雑録」「校正御用言上留」「梧井庵先生墓碑銘」(梧井庵有沢永貞1639-1715)著、[贅川(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；吉五郎、字；無害、通称；忠蔵、別号；希軒/三古庵主/三古堂、桃年の父
- U2116 **之仙**(しせん・小松こまつ) ? - ? 江後期羽前米沢の俳人、乙二・梅室と交流、1817「かりの寝さめ」
- E2138 **史千**(しせん・古川ふるかわ)1778 - 184669歳 越後の俳人；江戸の鳳朗門、1830九州を行脚、1828「其望集」編、天保期の東国俳人12家の吟詠句集；1834「俳諧十二律」編(鶴峰序)、1844芭蕉150回忌追善「旅のひとつ」著、[史千(；号)の別号]風外/蓬窓
- E2143 **涵川**(しせん・高津たかつ、名；泰/光泰、佐藤信庸男)1785-186581 高津伝吾成良の養子、岩代会津藩儒、初め徂徠学を修学/藩命で昌平黌入学；林述斎・古賀精里門、帰藩後；儒者見習/旗奉行、大組物頭/学校奉行供蕃/藩校日新館教授、藩主松平容衆・容敬の侍講、1808会津藩の蝦夷出兵に従軍；記録「終北録」著、「枕上集」「対州日記」著、[涵川(；号)の字/通称]字；平甫、通称；学/平蔵、仲三郎の父
- 四川(しせん・岩田/大枝)→ 流芳(りゅうほう・大枝/大江/巖、香道家・煎茶) F 4 9 6 3
 四染(しせん) → 恋雀亭四染(れんじゃくていしせん、歌舞伎評判記) B 5 1 1 3
 志宣(しせん・法諱) → 明巖(めいがん・道号・志宣、曹洞僧) 4 3 1 0
 紫泉(しせん) → 檉斎(ていさい・平井、儒/本草家) 3 0 8 5
 紫川(しせん) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3
 紫扇(しせん・河原崎) → 権之助(6世ごんのすけ・河原崎、歌舞伎座元) G 1 9 9 9
 子泉(しせん・駒井) → 白水(はくすい・駒井こまい、儒者) D 3 6 4 3
 子泉(しせん・増野/曾) → 雲門(うんもん・増野ますの、儒者) E 1 2 0 8
 子泉(しせん・幸田) → 親盈(ちかみつ・幸田こうだ/中山、幕臣/暦算) B 2 8 9 3
 子泉(しせん・芥川) → 思堂(しどう・芥川あくたがわ、儒者/明楽) V 2 1 2 7
 子泉(しせん・堀井) → 簡亭(かんてい・堀井ほりい、儒者) R 1 5 4 5
 子泉(しせん・鎌田) → 桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、藩医；外科) F 1 8 9 8
 子泉(しせん・秀島) → 鼓溪(こけい・秀島ひでしま、庄屋/儒/教育) M 1 9 2 8
 子泉(しせん・平野) → 喜房(よしふさ・平野ひらの、藩士/和算家) G 4 7 7 7
 子先(しせん・安積) → 澹泊(たんぱく・安積あさか、儒者/史家) 2 6 9 5
 子先(しせん・飯田) → 正号(まさな・飯田いいた、藩士) N 4 0 4 8
 子先(しせん・雲井) → 正帥(まさのり・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 4
 子洗(しせん・桜井) → 武雄(たけお・桜井けさくらい、藩士/国学者) X 2 6 1 9
 子仙(しせん・神野) → 嘉功(よしのり・神野じんの、藩士/武術) F 4 7 9 5
 子宣(しせん・山田) → 兵左衛門(へいざえもん・山田、藩士/儒) 2 7 3 6
 子詹(しせん・宇津木) → 泰翼(やすすけ・宇津木うつき、泰交男/藩士/歌) F 4 5 3 7
 子賤(しせん・野/野村) → 東臯(とうこう・野村、儒者) 3 1 0 9
 子賤(しせん・松田) → 雪柯(せつか・松田まつた、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
 子璣(しせん・桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山くわやま/桑そう、絵師) D 1 6 0 2

子遷(士遷しせん・山村) → 良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4
 子遷(しせん・服部) → 南郭(なんかく・服部はつとり、儒/詩歌) 3 2 3 1
 子遷(しせん・岡) → 安定(やすさだ・岡おか、商家/本草/救荒) B 4 5 5 2
 子瞻(しせん・諏訪) → 忠林(ただとき・諏訪すわ、藩主/詩文) P 2 6 9 9
 子潜(しせん・城) → 竹窓(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8
 子潜(しせん・里見) → 酔経(すいきょう・里見さとみ、儒者) E 2 3 3 2
 子潜(しせん・小野) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6
 子潜(しせん・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
 士川(しせん・不破/三上) → 藤川(とうせん・三上/不破、儒/医/尊攘) G 3 1 1 5
 士宣(しせん・福田) → 宗禎(そうてい・福田ふくだ、蘭医者) I 2 5 5 2
 士泉(しせん・小山) → 川蔭(かわかげ・小山おやま/藤原、藩士/国学/画/歌) S 1 5 8 4
 士錢(子錢しせん・福田) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4
 士戩(しせん・加藤) → 梅崖(ばいがい・加藤かとう、藩士/儒者) 3 6 8 3
 士潜(しせん・元木/畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/修姓; 錢、医者/儒) J 1 5 9 1
 士潜(しせん・田中) → 謙斎(けんさい・田中たなか、藩儒者) E 1 8 9 8
 士専(しせん・山田) → 文啓(ぶんけい・山田やまだ、医者/儒者) F 3 8 0 8
 士専(しせん・太田/近藤) → 潜庵(せんあん・近藤/太田、儒者/医者) L 2 4 5 6
 師宣(しせん・菱川) → 師宣(もろのぶ・菱川/菱河、浮世絵師) H 4 4 6 6
 巳千(しせん・谷) → 一斎(いっさい・谷たに、儒; 南学) E 1 1 1 7
 資宣(しせん・日野) → 資宣(すけのぶ・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 7 1

U2117 **至善**(しぜん; 法諱、俗姓: 不二門ふじと) 1799-1869 71 伊勢吉沢の真宗大谷派僧; 源正寺住職、
 1816高倉学寮入/嘉永1848-54頃屢々夏安居で講義/擬講に就任、国学; 富樫広蔭門、
 1854「解深密経記」著、

[至善(; 法諱)の号]号; 観導/芳洲、諡号; 華生院

U2118 **士前**(しぜん・永井ながい、名; 匡儀まさのり?) 1808-78 71 代々尾張愛知郡荒井村の庄屋/俳人; 竹有門、
 晩年は名古屋長島町住; 士前と改号、茶道を嗜む、

1837「もみちこ」編/58「初しくれ」、「春の霜」著、

[士前(; 号)の通称/別号]通称; 松右衛門、

別号; 和潮/烏津/天目軒/一撮園/竜鱗亭/金鱗舎/荒井の入道、法号; 十里香院泡影

E2139 **紫髯**(しぜん・樹下舎) ? - ? 上方狂歌: 紫笛門

U2119 **子善**(しぜん・吉沢よしざわ) ? - ? 江後期上州佐波郡境町伊与久の儒者、
 「八居題詠」著

子善(しぜん・由美) → 希賢(まれかた・由美ゆみ/稲富、儒者/詩) K 4 0 2 3
 子善(しぜん・山高) → 信篤(のぶあつ・山高やまたか、藩士/兵法) 3 5 8 9
 子善(しぜん・岡田) → 梅間(ばいかん・岡田おかだ、藩士/俳人) 3 6 8 9
 子善(しぜん・吉井/貫名) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1
 子善(しぜん・後藤) → 重興(しげおき・後藤ごとう、郷土史家) Q 2 1 7 1
 子善(しぜん・田辺) → 損斎(そんさい・田辺たねべ、藩士/儒者) F 2 5 3 8
 子善(しぜん・脇) → 蘭室(らんしつ・脇わき/脇屋、儒者) 4 8 1 0
 子善(しぜん・呉) → 継志(けいし・呉ご、琉球医者) F 1 8 8 7
 子善(しぜん・貝原) → 元端(げんたん・貝原、儒者/歌人) C 1 8 6 2
 子善(しぜん・頼) → 養堂(ようどう・頼らい、儒者/詩文) 4 7 0 7
 子善(しぜん・熊谷) → 秋雨(しゅうう・熊谷くまがい、医者/日記) W 2 1 6 1
 子善(しぜん・四方) → 春翠(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師) L 2 1 2 1
 子善(しぜん・桜井) → 霽松(せいしょう・桜井さくらい、儒者) I 2 4 7 9
 子善(しぜん・上田) → 光賢(みつかた・上田うえだ、国学・歌) H 4 1 7 8
 子善(しぜん・丸山) → 株徳(もとりのり・丸山まるやま、宿老/書・歌) L 4 4 4 2
 子善(しぜん・樋口) → 泉(いずみ・樋口ひぐち/岩佐、和算家/歌) K 1 1 5 8
 子善(しぜん・山口) → 襲明(よりあき・山口権三郎、国学/経済人) P 4 7 8 3
 子全(しぜん・墨江) → 武禪(ぶぜん・墨江すみえ、絵師) D 3 8 1 2

子全(しぜん・安井) → 滄洲(そうしゅう・安井、藩儒/息軒の父) B 2 5 8 4
 子前(しぜん・野田) → 笛浦(てきは・野田のだ、藩士/儒者/詩文) 3 0 1 0
 子漸(しぜん・宮地) → 要三(ようさん・宮地みやじ、蘭医/外科) B 4 7 0 3
 子漸(しぜん・大村) → 蘭林(らんりん・大村おおむら、藩儒) D 4 8 3 0
 子漸(しぜん・岸田) → 月窓(げつそう・岸田きしだ、詩文) H 1 8 1 9
 子漸(しぜん・猿子) → 惟常(これつね・猿子まじこ、藩士/詩/園芸) O 1 9 5 5
 之善(しぜん・鈴木) → 桜溪(おうけい・鈴木すずき、藩士/儒者) C 1 4 3 6
 之善(しぜん・高島) → 慶成(よしなり・高島たかばたけ、藩士/儒者) F 4 7 3 9
 士善(しぜん・小泉) → 則之(のりゆき・小泉、和算家) G 3 5 1 4
 士善(しぜん・山川) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
 士善(しぜん・塩田/伊藤) → 栄吉(えいきち・伊藤君嶺、儒者/詩人) B 1 3 4 2
 士善(しぜん・若山) → 立意(りゅうい・若山わかやま、藩儒医) C 4 9 7 2
 士善(しぜん・吉田) → 常与(じょうよ・歆之軒/吉田、華道/俳人) L 2 2 8 0
 至善(しぜん・角) → 至善(のりよし・角すみ、酒造業/歌人) I 3 5 7 7
 資善(しぜん・勘解由小路) → 資善(すけたる・勘解由小路かでのこうじ、廷臣/漢詩文) G 2 3 4 5
 資善(しぜん・伴/上野) → 資善(すけよし・伴ばん/上野、幕臣/歌人通称;四郎三郎) H 2 3 8 1
 詩禪(しぜん・森田) → 月瀬(げつらい・森田もりた、医/漢学者) H 1 8 4 0
 詩禪(しぜん・稲津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
 祀善(しぜん・大口) → 祀善(としよし・大口おおぐち、神職) U 3 1 4 9
 紫髯(しぜん・細井) → 東陽(とうよう・細井、医/本草学) H 3 1 8 5
 自然(しぜん) すべて → 自然(じねん)

U2120 **慈宣**(しぜん;法諱・説心/雪心せつしん;道号) ?-1626 臨濟僧;1558頃美濃瑞竜寺大徹堂の天瑞門、
 内典外典を修学、1605大輝の印可を受、京の妙心寺住持/駿河清見寺住持;1620大梁に讓渡、
 1622頃相模三崎の見桃寺住/伊勢桑名藩主松平定勝の招聘で崇建寺に住/京に没、
 「古聯句集叢」「虚堂和尚頌古鈔」「三体詩素隠抄」「文章源流」著、
 [説心慈宣の別法諱/号]別法諱;宗宣、号;素隠

E2140 **似船**(しせん、富尾とみお、名;重隆、通称;弥一郎) 1629-1705 77 京の俳人;荻野似空軒安静あんせい門;
 貞門系、1665「蘆花集」編/1669師没後;跡目似空軒2世を継嗣;「如意宝珠」刊行、
 その後宗因談林風に転向;1677「隠蓑かくれみの」編、元禄1688-1704頃京俳壇の実力者、
 雑俳点者としも活躍、1677「大上戸」79「火吹竹」著/81「安楽音あんらくのこえ」「花見乗物」著、
 1689「苗代水なむしろみず」91「勢多長橋」編/92「堀河の水」著、97「千代正月ちよのむつき」編、
 仮名草子;1677「石山寺入会鐘」著、外編著多数、1691江水「元禄百人一句」入、
 [さや豆や釜中ふちゅうニ 在ありテ 月を鳴る](安楽音/ゆでられながら月を恋うて泣く)、
 (曹植そうち「七步詩」の「萁まめがらハ釜下ニ在リテ燃エ 豆ハ釜中ニ在リテ泣ク」;世説新語)
 [似船の別号] 芦月庵/柳葉軒/剃髮号;似空軒2世

N2198 **似扇**(しせん・吹田すいた?) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」歳暮脇/第九雪発句等入;[菓子袋根笹に霰とかかれたり](雪発句)、
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 [踊り子やあけて悔しき箱提灯](難波色紙;74/盆踊に踊り足りない;悔しき玉手箱)

U2121 **慈泉**(しぜん;法諱・洞空;号、俗姓;岩越) 1645-1707 63 京の浄土僧;西山派安養寺の性寛(慈空)門、
 出家受戒、師に随い東山禅林寺住/五智山覚彦より菩薩戒を授与、
 延宝(1673-81)頃性寛を継嗣し安養寺住職、円頓戒を主唱;著述活動、
 天台・華嚴・法相思想を導入し南都に追放される;東山方広寺付近に隠棲、
 1673「女人往生章」79「浄土護法論」85「往生機鑑」86「円頓戒補助儀摧邪辨正記」、
 1698「一枚起請骨目鈔」、「往生要集補闕正文」「往生論註正義」「談義集」「臨終節要」外著多

E2141 **二川**(しせん) ? - ? 俳人、1722白推「鶴坂集」序執筆

O2170 **慈川**(しせん;法諱、) 1740 - 1802 63 安藝の曹洞宗僧/近江犬上郡長純寺住職、
 歌人;[彦根歌人伝・続寿]入

E2142 **次宣**(しぜん・百々もも) ? - ? 備後福山藩士、全斎「診苑げんえん」を修訂(天理本)
 自仙(しぜん・今村) → 息長(やすなが・今村いまむら/鹿子田、藩士/国学) F 4 5 3 4

- 自僊(じせん・滝沢) → 自僊(よりひと・滝沢たきざわ、神職) N 4 7 7 7
似船(じせん・小西) → 似春(じしゅん・小西、俳人) E 2 1 0 0
慈仙(じせん; 初法諱) → 慈慶(じきょう; 法諱、天台叡山僧、歌人) B 2 1 6 4
慈仙(慈僊じせん; 道号・如忍) → 忍仙(にんせん; 道号・如慧、黄檗僧) G 3 3 6 1
慈専(じせん; 号) → 鷲助(さぎすけ・木村きむら、俳人) B 2 0 3 5
慈僊(じせん; 法諱) → 仏乗(ぶつじょう; 道号・慈僊、曹洞僧) H 3 8 4 6
慈璇(じせん・玉成) → 玉成(ぎよくじょう・慈璇、臨濟僧) P 1 6 1 0
U2122 慈祥(じぜん; 法諱) ? - ? 江中明和安永1764-81頃の讃岐の真言僧、
讃岐三木郡六万寺5世、「六万寺縁起」著
次善(じぜん・山崎) → 宗運(そううん・山崎やまさき、幕臣/医者) G 2 5 0 8
志筌庵宗干(しぜんあんそうかん) → 正礼(せいらい・稲次いなつぐ/稲、藩士/暦算) J 2 4 8 6
事仙庵(じせんあん) → 丁知(ていち・村林/高柳、札差/俳人) 3 0 4 4
耳洗庵(じせんあん) → 徒流(とりゅう・耳洗庵、文筆家) R 3 1 8 7
Z2186 自仙院(じせんいん、山田佳子/初名; 佳江)?-1810 江戸生/越中富山藩主前田利與(1737-94)の側室、
歌人、前田利謙(8代富山藩主)の母/1794(寛政6)夫利與ととも没;のち自仙院と称す、
1798「桜谷八景」著(藩儒佐伯有融の序);人麿堂に奉納、
[山の端も波に入日のかげさしてまぶゆく渡る越の舟はし](舟橋夕照/桜谷八景入)
慈泉院(じせんいん) → 超空(ちょうくう; 法諱、僧/伊那歌人) M 2 8 9 5
慈善院(じぜんいん) → 日心(にっしん; 法諱、日蓮僧) E 3 3 5 3
四千翁(しせんおう) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1
四川観(しせんかん) → 玉珂(ぎよか・吉原、俳人) O 1 6 8 2
紙川軒(しせんけん) → 拾水(しゅうすい・下河辺しもこうべ/藤原、絵師) H 2 1 7 4
志宣斎(しせんさい・菅野) → 椿園(ちえん・菅野かんの、藩士/書家) K 2 8 1 6
事仙子(じせんし・村林/高柳) → 丁知(ていち・村林/高柳、札差/俳人) B 3 0 4 4
巳千之斎(しせんしさい) → 雪柯(せつか・松田まつだ、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
E2144 紫仙女(しせんじょ) ? - ? 加賀金沢の俳人、1786兎路「姫の式」歌仙入
芝川亭(しせんてい) → 烏秋(うしゅう・芝川亭、俳人) 1 2 5 6
恣川亭(しせんてい) → 守山(しゅざん・恣川亭、俳人) Y 2 1 8 1
紫川亭(しせんてい) → 高雅(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0
自然亭鬼拉(しぜんていきらち → じねんてい) → 正岑(まさみね・宮下成岑、国学) H 4 0 7 4
詩仙堂(しせんどう) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
芝川堂(しせんどう) → 千之(せんし・芝川堂、医者/川柳作者) E 2 4 2 4
芝泉堂(しせんどう) → 暘谷(ようこく・坂川さかがわ、書家) 4 7 8 5
此川堂(しせんどう) → 花仙(かせん・田中、鋳物師/俳人) F 1 5 2 7
紫髯道人(しぜんどうじん) → 東陽(とうよう・細井、医/本草学) H 3 1 8 5
士素(しそ・菊地) → 幽軒(ゆうけん・菊地きくち、儒者) B 4 6 4 5
師曾(しそ・那波) → 魯堂(ろどう・那波なば、儒者/藩儒) C 5 2 2 3
E2146 芝叟(しそう・司馬しば、姓; 永富/雄崎、永富独嘯庵男) 1760?-1810? 51? 大阪の商家吹田屋で養育、
一説に父; 清人/母; 長崎円山遊女、大阪の浄瑠璃・歌舞伎作者、1783江戸肥前座で浄瑠璃作、
寛政(1789-1801)以降は大阪で活動/1802芝屋勝助名で歌舞伎立作、
講釈; 素人を集め窈譚会ながばなしかいを主催、1783「石田詰将棊軍配」88「花上野誉の石碑」、
1799「植木屋文蔵遊里恋風」1801「新玉万歳台」06「新吉原瀬川復讐」外著作多数、
[司馬芝叟(; 号)の通称/別号]通称; 芝屋勝助/又三郎、別号; 芝屋芝叟/司馬叟/し葉叟
子操(しそう・横井) → 小楠(しょうなん・横井よこい、思想家) B 2 2 0 5
子聡(しそう・名越) → 南溪(なんけい・名越なごや、藩士/儒者) I 3 2 8 3
子壯(子莊しそう・津軽) → 儼淵(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者) E 1 8 8 2
子相(しそう・松平) → 頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌) I 4 7 9 0
子相(しそう・石川) → 雅望(まさもち・石川、旅宿業/国学/狂歌) 4 0 2 1
子相(しそう・磯谷) → 滄洲(そうしゅう・磯谷いそがい、儒者/文章) B 2 5 8 3
子瘦(子倉しそう・米良/米) → 東嶠(とうきょう・米良めら/米、藩士/漢学) C 3 1 8 1

- 士藻(しろう・松村/呉) → 景文(けいぶん・松村まつむら/呉、絵師) 1 8 8 9
 士崇(しろう・菱川) → 月山(げつざん・菱川/菅/修姓;菱、藩士/儒者) E 1 8 7 7
 士聰(しろう・永田) → 忠宜(ただよし・永田、藩士/音律研究) R 2 6 3 1
 詩瘦(しろう・山崎) → 勝謙(かつかた・山崎やまさき、藩士/国学) W 1 5 1 0
 資宗(しろう・藤原) → 資宗(すけむね・藤原ふじむら、廷臣/歌人) D 2 3 1 0
 資宗(しろう・日野) → 資宗(資統すけむね・日野/藤原/広橋、廷臣/記録) D 2 3 1 1
 資宗(しろう・太田) → 資宗(すけむね・太田/源、藩主/系図編纂) D 2 3 1 2
 資早(しろう・太田) → 資早(すけはや・太田おた、歌人) J 2 3 4 9
 思聡(しろう・南部) → 南山(なんざん・南部なんぶ、儒者) J 3 2 0 1
 思聡(しろう・辻) → 端亭(たんてい・辻つじ、藩士/儒者) I 2 6 5 3
 氏宗(しろう・藤原) → 氏宗(うじむね・藤原、廷臣/貞観格撰) 1 2 5 2
 師宗(しろう・中原) → 師宗(もろむね・中原、明経博士/歌人) I 4 4 0 1
- E2147 子蔵(しろう・原はら、名;良翰) 1749-182880 三河渥美郡畠村の医者;
 美濃大垣新田藩主戸田家の医師、俳人・美濃派、美濃・三河の俳人と交流、
 1789畠村に隠棲の杜国百回忌追善集「十かへりの花」共編(戸田家奉行の免孔・為蝶と)、
 1793「鷹の石ぶみ」(免孔・為蝶と共編);三河伊良湖岬に[鷹ひとつ]の芭蕉句建立記念集、
 [子蔵(;号)の別号]桂下窓/麦生舎
 子蔵(しろう・中村) → 栗園(りつえん・中村/片山、藩儒/執政) B 4 9 5 9
 子臧(しろう・東条) → 琴台(きんだい・東条とうじょう、儒者) E 1 6 2 4
 士蔵(しろう・松岡) → 道遠(どうえん・松岡まつおか/津村、医者) V 3 1 7 2
 志蔵(しろう・杉坂) → 百明(ひゃくめい・杉坂すぎさか、俳人) 3 7 1 3
- 02171 慈相(じそう;法諱、) ? - 1762 備中玉島の天台宗僧、歌人、
 玉島の羽黒山清滝寺せりゅうじ(羽黒権現の別当寺)の4世/権大僧都、
 時壮(じそう・林) → 良斎(りょうさい・林はやし、藩家老/陽明学) H 4 9 6 6
- E2148 治蔵(じろう・竹田たけだ、讃岐屋)?- ? 江中期歌舞伎作者:初世竹田出雲門か?、
 大坂大吉座の立作者;各座で活動し並木正三と並称、1758「源平千歳松」「前編鳴滝育」、
 1759「栄曾我吾妻丹前」「乱曲卯葉重」「銀閣寺新始」/60「遠州中山寺」「熊野山女中案内」、
 1761「秋葉権現廻船語」「鐘がなる今朝噂」「銀閣寺新始」/62「井手玉川正平織」外著多数、
 [竹田治蔵(;号)の通称/別号]通称;讃岐屋治蔵、別号;左貫治平/佐貫治兵衛/竹田治平
 左貫治平(佐貫治兵衛さぬきじへい) → 治蔵(じろう・竹田、歌舞伎作者) E 2 1 4 8
 枝桑庵(しろうあん) → 夢仏(むぶつ・枝桑庵しろうあん、俳人;雑俳) C 4 2 9 6
 地藏院僧正(じざういんのそうじょう) → 親玄(しんげん;法諱、真言醍醐寺座主) O 2 2 1 6
 地藏院大僧正(じざういんのだいそうじょう) → 覚雄(かくおう;法諱、真言僧) J 1 5 5 6
 地藏院法印(じざういんのほういん) → 深賢(しんけん/じんけん;法諱、真言僧) D 2 2 9 2
 地藏院法印(じざういんのほういん) → 親快(しんかい;法諱、真言僧) N 2 2 5 8
 紙莊主人(しろうしゅじん) → 南洋(なんよう・香川かがわ、医/儒者) 3 2 4 3
 地藏房(じざうぼう) → 仁濟(にんせい;法諱、真言僧) G 3 3 5 6
 紫蘇園(しそえん) → 清流(すがる・小川おがわ、藩士/国学) I 2 3 1 5
 祀則(しそく・黒崎) → 祀則(としのり・黒崎、和算家) N 3 1 3 4
 子足(しそく・布施) → 御牆(みかき・布施ふせ、藩士/典故) 4 1 5 4
 子則(しそく・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5
 子則(しそく・志賀) → 筋庵(せつあん・志賀しが、藩儒) K 2 4 6 8
 子測(しそく・山本) → 香(かおる・橋たちばな/山本、儒者) V 1 5 0 3
 士則(しそく・山内) → 蘭洲(らんしゅう・山内やまうち、医者) C 4 8 6 2
 氏足(しそく・岡本) → 氏足(うじたり・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) E 1 2 6 2
 子続(しそく・蘆沢) → 長卿(ながのり・蘆沢あしざわ/玉井、藩士) K 3 2 8 3
- P2104 而則(じそく) ? - ? 大和法隆寺僧、俳人、1690言水「新撰都曲」3句入
 [節季候せきざろやおほくて犬の鳴かざりし](都曲;下308/異様な人々に犬も恐れる)、
 (節季候;歳末-新年2-3人一組で赤絹で顔を覆い「せきざろござれや」と歌舞する物乞い)
 止足軒(しそくけん) → 芝山(しざん・大高坂、藩儒/南学) D 2 1 7 1

- 自足坊(じそくぼう) → 桐羽(とうう・窪田くぼた、藩士/俳人) B 3 1 1 5
 児素仙(じそせん) → 素仙(そせん、菊研究家) K 2 5 0 0
 士巽(しそん・赤井あかい) → 東海(とうかい・赤井、儒者) B 3 1 9 3
 士存(しそん・一松) → 昔桜(せきおう・一松ひとつまつ/松/淡海、儒者) J 2 4 9 5
 柿村(しそん・野口) → 正忠(まさただ・野口のぐち、商家/歌人) R 4 0 4 7
 紫存(2世しそん・山彦) → 可慶(かけい・十寸見ますみ、河東節太夫) K 1 5 7 3
 時存(しそん・矢島/坂) → 時存(ときもり・坂さか、藩士/儒者) K 3 1 2 1
 時存(しそん・ときあり・横井) → 小楠(しょうなん・横井よこい、思想家) B 2 2 0 5
 子孫庵(しそんあん) → 金馬(きんば・国谷、俳人) R 1 6 6 4
 慈尊院僧正(じそんいんそうじょう) → 栄海(えいかい・真言僧/歌/説話作者) 1 3 0 2
 慈尊院大僧都(じそんいんだいそうず) → 榮然(えいねん・ようねん; 法諱、真言僧) D 1 3 2 8
 慈尊院阿闍梨(じそんいんのあじかり) → 興然(こうぜん・こうねん; 法諱、真言僧) K 1 9 2 2
 紫苔(しさい・内藤) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5
 子泰(しさい・大須賀) → 筠軒(いんけん・大須賀おすが、儒者) I 1 1 5 1
 氏泰(しさい・安保) → 氏泰(うじやす・安保あぼ、武将/連歌) C 1 2 7 9
 D2108 矢代(しだい) ? - ? 安藝倉橋の俳人/貞門系、梅盛の句集に入集;
 1659「捨子集」64「落穂集」68「細石」入、74安静「如意宝珠」入
 子大(しだい・高橋) → 坦室(たんしつ・高橋、藩士/歴史編纂) I 2 6 8 0
 子大(しだい・田内) → 穂波(ほなみ・田内たのうち、藩士/随筆) G 3 9 2 5
 芝台(しだい・松岡) → 稲坡(とうは・松岡、藩士/俳/詩/書) G 3 1 9 0
 自大(じだい・草野/佐藤) → 固庵(こあん・佐藤さとう/草野、儒者) G 1 9 2 0
 四代庵(しだいあん) → 与斎(よさい・新関にいぜき、茶人/狂歌) B 4 7 8 1
 自怠軒(じたいけん) → 経賢(つねかた・船橋ふなはし、廷臣/故実) B 2 9 9 2
 治太一(じたいち・稲本) → 陽洲(ようしゅう・稲本いなもと、書/詩人) B 4 7 1 3
 順(したごう・源) → 順(したごう・源、詩人) 2 1 2 6
 順(したごう・高本) → 順(したごう・高本/原田、国学/歌人) E 2 1 5 0
 随(したごう・渡辺) → 随(したごう・渡辺、坊官) U 2 1 2 4
 Z2139 下蔭(したかげ・峯みね、越方こしかた長男) 1783-1859 77 上野緑野郡藤岡の国学者: 富田永世・黒川春村門、
 武久茂恒の兄、
 [下蔭(;名)の字/通称/号]字; 秀民、通称; 安右衛門、号; 壺喬園/浅路庵
 D2143 下風(したかぜ・梅野うめ、別号; 竹下奇白) ?-? 江後期天明文化1781-1818頃の浄瑠璃作者; 合作、
 司馬芝叟・近松梅枝軒らと合作; 1786「比良嶽雪見陣立」芝叟と合作/
 1786「彦山権現誓助剣」(保蔵と)/98「比良御陣雪舛形」(魚眼と)、
 1812「瓢馬印黄金千生」(梅枝軒と)、外著多数
 E2149 思託(したく、俗姓; 王) ? - ? 奈良期; 唐沂州の律宗天台僧; 揚州大明寺鑑真門、
 天平勝宝六754鑑真と共に渡来、道璿(どうせん)の招請で東大寺・興福寺・大安寺で律の講義、
 757唐招提寺建立に尽力/779三船「唐和上東征伝」に追悼詩入、「延暦僧暦」著、
 「大唐伝戒師僧名記大和上鑑真伝」(散佚)/「上宮皇太子菩薩」伝
 U2123 士扱(したく・長野ながの、名; 正庸) ?-? 江中期京の和算家; 村井中漸(ちゅうぜん)[1708-97]門、
 1770「開商点兵算法演段」著
 子扱(したく・神原) → 友子(ともゆき・神原かんばら、醸造家/歌人) U 3 1 9 0
 子託(したく・佐藤) → 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9
 子琢(したく・布川) → 菱潭(りょうたん・布川ぬのかわ、儒/兵学者) I 4 9 8 2
 子濯(したく・山根) → 清(きよし・山根、儒者) D 1 6 1 8
 子濯(したく・唐崎) → 信通(のぶみち・唐崎からさき、神職/国学) H 3 5 9 6
 子鐸(したく・関) → 良致(よしむね・関せき、医者/神職/教育) N 4 7 5 6
 四扱館(したくかん) → 盈文(えいぶん・関せき、漢学/博物学) D 1 3 3 5
 2126 順(したごう・源みなもと、挙こぞる男) 911-983 73 平安中期廷臣: 953文章生/勘解由判官/東宮蔵人・
 民部大丞/下総権守/和泉守、951撰和歌所で後撰集撰進: 梨壺の5人、973従五上/979能登守、
 詩歌に堪能、万葉訓釈(古点; 万葉集読解)、959内裏詩合・960内裏歌合参、972女四宮歌合判者、

973野宮歌合;判、931-38頃勤子内親王のため「和名類聚抄」撰、959「天徳三年鬪詩行事略記」、
「源順集」「栄葉和歌」、詩;本朝文粹32入/扶桑・和漢朗詠・新撰朗詠・和漢兼作集などに入集、
勅撰51首;拾遺(27首6/68/80/85以下)後拾(425/559/1013)[金(Ⅲ10)]詞(94)新古(3首)以下、
歌;金玉・麗花・後葉・続詞花2首・万代・秋風・雲葉集入、頼たのむの兄、貞の父、
「古今六帖」「宇津保物語」の作者説あり?
[氷だにとまらぬ春の谷風にまだうちとけぬ鶯の声](拾遺集;春6/天徳四960内裏歌合)、
[子のなくなりて侍りけるに 元輔がとぶらへりけるかへりごとに、
くちはててなきこのもとは君がとふことのはみるもまづぞかなしき](続詞花;哀傷422)、
[順(;名)の字] 源階/具璿ぐさい/眞峽

E2150 順(したごう/したがう・高本たかもと/李、原田宗昆6男)1736-181378 肥後熊本藩医高本玄碩の養嗣子、
高本家の祖は朝鮮の李氏、幼少時;藩儒秋山玉山門;詩作を学ぶ、1767養家嗣;熊本藩医、
1771藩儒となる;藩校時習館出仕、国学/歌にも通ず、1788-1812時習館教授、
本居宣長・中島広足・加藤千蔭と交流、「座右観音」「高本順大人歌集」「松之雫」「鈴鹿川」著、
「銀台遺事」「紫溟先生詩集」「紫溟先生茶談」外著多数、村井琴山・菊舎と交流、
「遊京雑歌」編(門弟の長瀬眞幸・山口眞積と歌紀行)、
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末;阿蘇山など長歌2首短歌1首入、
[しらぬひの 筑紫の国に 山はしも 多にあれども なぞへなき 阿蘇のみ岳は 世とともに
けぶり立ちたつ 時じくに 雪は降りふる . . .](八十浦;313長歌;阿蘇山を詠)、
[順(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;伝八、字;子友、通称;慶順/慶蔵/敬蔵、
号;紫溟しめい/万松廬/川観の舎せみのや/せみの屋/川観亭/田舎珍夫

U2124 随(したごう/したがう・渡辺わたなべ、常彦男/本姓;源)1819-? 代々青蓮院門跡の坊官/青蓮院門跡侍法師、
1844従六下河内介/52正六下因幡守、1865「日涉記」67「梅堂雑記」、「梅堂見聞集」著、
「吉水要々録」「吉水雑記」「貸附雑記」「講方雑記」「月輪殿御墓所記」著、「梅堂諸類聚」編

U2179 順(したごう・芝しば、) 1832 - 190978 近江愛知郡の神職、国学・歌;平田鉄胤門、
歌;[鴉のうみ]入、
[順(;名)の別名/通称]別名;義勝、通称;順吉

趁(したごう・源)	→ 安法(あんぼう、天台僧/歌人)	C 1 0 1 6
子達(したつ・山口)	→ 素堂(初世そどう・山口、商家/俳人)	2 5 2 6
子達(したつ・小川)	→ 月麿(つきまる・喜多川、絵師)	2 9 5 9
子達(したつ・滝川/三好)	→ 質直(かたなお・滝川/三好、藩士/和算)	N 1 5 0 3
子達(したつ・三村)	→ 崑山(こんざん・三村みむら、儒者)	G 1 9 1 5
子達(したつ・幡鎌)	→ 鄰斎(りんさい・幡鎌はたかま、儒者)	K 4 9 2 9
子達(したつ・中山)	→ 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師)	C 1 9 0 0
子達(したつ・鈴木)	→ 竜洞(りゅうどう・鈴木すずき、和漢学者)	F 4 9 3 2
子達(したつ・田代)	→ 恒親(つねちか・田代たしろ、藩医/国学)	F 2 9 9 0
子達(したつ・前田)	→ 道通(どうつう・前田、医者/家塾)	G 3 1 5 5
子達(したつ・和田)	→ 昌孝(まさたか・和田わた、藩士/詩歌人)	T 4 0 7 6
子達(士達したつ・賀川)	→ 文煥(ぶんかん・賀川かがわ/源、産科医)	E 3 8 9 3
子達(士達したつ・宮崎)	→ 青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画)	I 2 4 1 4
士達(したつ・太田)	→ 翠陰(すいん・太田おた、儒者/藩士)	2 3 2 5
士達(したつ・奥村)	→ 得義(徳義のりよし・奥村、藩士/国学)	G 3 5 3 2
士達(したつ・池田)	→ 謙堂(けんどう・池田いけだ、藩士/儒者)	L 1 8 7 4
士達(したつ・溪)	→ 百年(ひゃくねん・溪たに/河田、儒者/兵学)	E 3 7 7 2
士達(したつ・小野)	→ 湖山(こざん・小野/横山、詩人)	C 1 9 6 9
士達(したつ・西村)	→ 中和(ちゅうわ・西村/西邨にしむら、絵師)	H 2 8 0 2
思達(したつ・永田)	→ 格庵(かくあん・永田ながた、儒者/詩人)	J 1 5 4 2
資達(したつ・太田)	→ 竹城(ちくじょう・太田おた、藩家老/国学)	D 2 8 2 2
下照(したてる・蘭)	→ 蘭下照(あららぎのしたてる、狂歌作者)	G 1 0 2 5
下照姫(したてるひめ)	→ 高比売命(たかひめのみこと、記紀歌謡)	D 2 6 6 1
下見(したみ・上水)	→ 上水下見(うえみずしたみ・久保、狂歌)	C 1 2 0 0

- 下燃えの少将(したもえのしょうしょう)→ 俊成卿女(としなりきょうのむすめ) 3 1 4 5
- E2151 治太夫(じだゆう・松本まつもと、初名;菅野延弥?)?-? 江前中期京の浄瑠璃太夫;山本角太夫門、
治太夫節の祖;延宝・元禄・享保1673-1736頃京を中心に流行、
主な語り物;「石川五右衛門」「鎌倉袖日記」など
- U2125 次太夫(じだゆう・高橋たかはし) ?- ? 幕臣;文化文政1804-30頃箱館・松前奉行支配、
1801「唐太島巡視」
- 治大夫(じだゆう・杉山) → 大象軒(たいぞうけん・杉山当太、兵法家) K 2 6 5 7
- 治大夫(次大夫じだゆう・富田)→ 貞武(さだたけ・富田とみた、藩士/記録) I 2 0 4 2
- 治太夫(じだゆう・古山) → 則満(のりみつ・古山ふるやま、藩士/歌人) G 3 5 5 0
- 治太夫(じだゆう・太田) → 翠陰(すいいん・太田おおた、儒者/藩士) 2 3 2 5
- 治太夫(じだゆう・小田切)→ 昌倫(まさとも・小田切おだぎり、幕臣/国学) O 4 0 1 1
- 次太夫(じだゆう・横井) → 淡所(たんしょ・横井よこい、藩士/茶人) I 2 6 8 3
- 次太夫(じだゆう・伊藤) → 松軒(しょうけん・伊藤いとう、歌人) R 2 2 3 4
- 次太夫(じだゆう・横井) → 鉄叟(てつそう・横井/西郷、藩士/国事奔走) C 3 0 5 5
- 次太夫(じだゆう・乗松) → 正表(まさあき・乗松のりまつ、藩士/歌人) R 4 0 5 4
- 自多楽軒(じだらくけん) → 正春(まさはる・源、歌) G 4 0 4 2
- 自他楽斎(じだらくさい、狂歌・狂文)→ 北華(ほっか・山崎相如、俳人) E 3 9 4 8
- 自墮落散人(じだらくさんじん)→ 夕田(せきでん・千原、商家/詩/画/書家) D 2 4 7 6
- 自墮落先生(じだらくせんせい)→ 北華(ほっか・山崎相如、俳人) E 3 9 4 8
- 設楽堂(じだらどう) → 乙州(おとくに・河合/川井、俳人) 1 4 8 9
- 治太郎(じたろう・稲本) → 陽洲(ようしゅう・稲本いなもと、書/詩人) B 4 7 1 3
- I2146 卮端(したん) ?- ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[人の非や時雨もあへる石清水](丁卯集;石清水)
- E2152 紫旦(したん・花林堂かりんどう) ?- ? 絵師:1805真酔「野圃の玉子」画、「南駅夜光珠」画
- U2126 四端(したん) ?- ? 江後期江戸の俳人:西馬門、「まさゆめ集」編参加、
1856「如意宝珠」編
- Y2128 四端(したん・福永ふくなが) ?- ? 江後期安藝広島藩士/俳人;菊年・一鳳と親交、
1860氷壺「二葉艸」/臥亀「書画帳」入、[汐よけの俵にも鳴くいとゝかな](「二葉艸」)
西馬門四端と同一?→ 四端(したん、西馬門俳人) U 2 1 2 6
- 四端(したん・中村) → 耒耜(らいし・中村なかむら、庄屋/俳人) 4 8 5 2
- 子旦(したん・宮部) → 義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学) C 4 7 0 5
- 子坦(したん・西田) → 耕耘(こうりん・西田にしだ、医者/茶道) H 1 9 4 7
- 氏端(したん・大和田) → 氏端(うじまさ・大和田おおわだ、国学/歌) E 1 2 6 1
- 資坦(したん・藤井/吉田/吉)→ 篁墩(こうどん・吉田/藤井、医/儒者) 1 9 1 8
- 紫潭(したん・衛藤) → 実厚(さねあつ・衛藤えとう、国学) O 2 0 0 1
- 紫灘(したん・真木) → 保臣(やすおみ・真木まさき、神職/討幕論) B 4 5 0
- 氏端(したん・大和田) → 気求(ききゅう・大和田おおわだ、書肆/国学) 1 6 9 0
- 慈潭(したん;字) → 浄空(じょうくう;法諱、真言僧;僧正) G 2 2 2 7
- 慈潭(したん;字) → 東溪(とうけい;号・森もり/押小路、天台僧) W 3 1 7 0
- 持男(じだん・県犬養宿禰)→ 持男(もちお・県犬養宿禰あがたのいぬかいのすくね、万葉歌人) B 4 4 3 2
- 子知(しち・河田) → 小菴(しょうりゅう・河田/土生、絵師) B 2 2 9 6
- 子知(しち・関) → 良致(よしむね・関せき、医者/神職/教育) N 4 7 5 6
- 資置(しち・太田) → 資置(すけおき・太田おおた、藩士/地誌) G 2 3 1 3
- 資知(しち・北郷) → 資知(すけとも・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 9
- 詩痴(しち・岡本) → 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人) C 1 5 5 7
- 詩痴(しち・佐渡) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) M 2 0 8 5
- 持知(じち・茂木) → 持知(もちとも・茂木もてぎ/小田/源、武将/連歌) B 4 4 4 9
- 七雨軒(しちうけん) → 定安(さだやす・布施ふせ、藩士/文筆家) K 2 0 0 3
- 実運(じちうん;法諱) → 実運(じつうん・じちうん;法諱、真言僧/座主) U 2 1 4 3

- 実慧(じちえ) → 実慧(じつえ・檜尾僧都、真言僧) U 2 1 4 4
- U2127 七右衛門(しちえもん・升屋ますや) ? - ? 江後期大阪船町の書肆、1797「和歌千種」著
- 七衛門(しちえもん・真幸) → 正心(せいしん・真幸まさき、書家) I 2 4 9 0
- 七右衛門(しちえもん・鶴屋) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒学) 2 2 2 3
- 七右衛門(しちえもん・後藤) → 祐道(すけみち・後藤ごとう、藩士/国学者) I 2 3 5 1
- 七右衛門(しちえもん・佐々木) → 志頭磨(志津磨しづま・佐々木、書家) U 2 1 0 7
- 七右衛門(しちえもん・古川) → 定甫(ていほ・古川ふるかわ/稲熊、俳人) E 3 0 0 1
- 七右衛門(しちえもん・村田) → 橋彦(橋比古はしひこ・村田、国学者) E 3 6 3 7
- 七右衛門(しちえもん・小栗) → 鶴臯(かくこう・小栗、儒者/詩) B 1 5 4 7
- 七右衛門(しちえもん・岩田) → 七左衛門(しちざえもん・岩田、藩中老/馬術家) U 2 1 3 0
- 七右衛門(しちえもん・大坂屋) → 眉山(初世びざん・中山、俳人) C 3 7 2 5
- 七右衛門(しちえもん・宮竹屋/亀田) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0
- 七右衛門(しちえもん・山口) → 和(やわら・山口やまぐち、和算家) E 4 5 4 2
- 七右衛門(しちえもん・田中) → 千梅(せんばい・田中、鋳物師/俳人) G 2 4 5 0
- 七右衛門(しちえもん・松井) → 可楽(からく・松井、藩士/詩歌/紀行) H 1 5 5 4
- 七右衛門(しちえもん・高橋) → 東臯(とうこう・高橋、商家/書家/俳人) D 3 1 8 3
- 七右衛門(しちえもん・辻葩) → 菅陽(かんよう・辻葩つじはな、藩士/儒者) R 1 5 7 3
- 七右衛門(しちえもん・野田) → 剛斎(こうさい/ごうさい・野田のだ、儒者) I 1 9 8 6
- 七右衛門(しちえもん・梶谷) → 景業(かげなり・梶谷かじたに/平地、医者/歌) U 1 5 2 4
- 七右衛門(しちえもん・本田) → 親孚(ちかさね・本田ほんだ、藩士/代官) 2 8 9 0
- 七右衛門(しちえもん・本多) → 忠顕(ただあき・本多ほんだ/源、藩士/歌) W 2 6 6 7
- 七右衛門(しちえもん・来住) → 千古(ちふる・来住きずみ、藩校教授/歌) M 2 8 4 1
- 七右衛門(しちえもん・秀島) → 英露(えいろ・秀島ひでしま、養菊家) D 1 3 4 3
- 七右衛門(しちえもん・佐々木) → 柳庵(りゅうあん・佐々木まさき/青山、儒者) C 4 9 6 8
- 七右衛門(しちえもん・今村) → 信正(のぶまさ・今村いまむら、国学者) H 3 5 4 4
- 七右衛門(しちえもん・芝原) → 千郷(千里ちさと・芝原しばはら、国学者) M 2 8 6 6
- 七右衛門(しちえもん・芝原) → 恒久(つねひさ・芝原/岡、千郷養子/国学) F 2 9 7 8
- 七右衛門(しちえもん・小島) → 則栄(のりひで・小島こじま、幕臣/歌人) I 3 5 4 0
- 七右衛門(しちえもん・浅田) → 保臈(やすよし・浅田あさだ、藩士/歌人) F 4 5 1 3
- 七右衛門(しちえもん・末松) → 房澄(ふさずみ・末松すえまつ、庄屋/国学) I 3 8 3 5
- 七右衛門(しちえもん・田中) → 知邦(ともくに・田中たなか、国学者) V 3 1 5 3
- 七右衛門(しちえもん・富奥) → 直威(なおさね・富奥とみおく、神職/国学) O 3 2 0 0
- 七猿斎(しちえんさい) → 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ、神職/歌/俳人) J 3 6 2 8
- 七香園(しちかえん) → 花守(はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0
- 自知館(じちかん) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1
- 七観音院隠居(しちかんのいんのいんきょ) → 師準(しじゅん; 法諱・尚隆; 字、臨濟僧/歌) D 2 1 9 7
- 俟知己斎(しちきさい) → 屈斎(くっさい・三木みき、藩士/詩/戯作) C 1 7 4 7
- U2128 紫竹(しちく) ? - ? 俳人; 1692才麿「椎の葉」入、
[柴に売る紅葉を里のすがたかな](椎の葉; 140/紅葉の木々もやがて柴となる)
- 四竹(しちく・十河) → 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2
- U2129 児竹(じちく) ? - ? 俳人; 1689「あら野」2句入、
[潮引きて藻の花しほむ暑さかな](あら野; 卷三/仲夏)
- 師竹庵(しちくあん) → 吾山(ござん・会田/越谷、俳人) C 1 9 6 6
- 師竹庵(2世しちくあん) → 立和(りゅうわ・燕、吾山門俳人) F 4 9 9 2
- 紫竹庵(七九庵しちくあん) → 梁岳(りょうがく; 法諱・僧/歌人) G 4 9 8 9
- 質草少々(しちくさのしょうしょう、狂名) → 参和(さんな・唐来、戯作者) 2 0 5 4
- 紫竹堂(しちくどう) → 徳瓶(とくべい・橋本、合巻作者) L 3 1 3 4
- 七溪(しちけい・難波) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9
- 七五庵(しちごあん・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0
- 七香斎(しちこうさい) → 南岳(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育) J 3 2 9 6

- 七国楼(しちこくろう) → 焉馬(2世えんば・烏亭うてい、狂歌/戯作) B 1 3 3 4
七五三(しちごさん)すべて→ 七五三(しめ)
七五郎(しちごろう・三溝) → 政員(まさかず・三溝さみぞ、国学/教育者) P 4 0 7 8
七三(しちざ・中村) → 七三郎(しちさぶろう・初世中村、少長) 2 1 2 7
七斎(しちさい・太田) → 可笛(鹿笛かてき・太田おた、俳人) O 1 5 1 0
- E2153 **七才子**(しちさいし・岡野おかの) 1720-1780⁶¹ 大阪の医者/1756-61頃豊竹座の浄瑠璃合作者、
1756「義仲勲功記」57「前九年奥州合戦」59「先陣浮洲巖」「芽源氏鶯塚」61「人丸万歳台」合作、
[七才子(;号)の通称] 源一、医の門弟;産科医佐伯重甫(狂歌師;無坊)
- U2130 **七左衛門**(しちざえもん・岩田いわた、七左衛門政長男) 1609-68⁶⁰ 阿波徳島藩士;中老/千3百余石、
馬術:解竜派に精通;藩の師範役、「解竜流馬方」著、
[七左衛門(;通称)の別通称/号] 初通称;三太右衛門/七右衛門、号;三伯、
- U2131 **七左衛門**(しちざえもん・長岐ながき、長崎清左衛門4男) 1731-1820⁹⁰ 羽後鷹巣の殖産家、
長岐伝助の養嗣子、1755(25歳)親郷肝煎となる/私財を投じ治水事業、勤勉儉約を主唱、
農村発展に尽力、「種蒔鑑」「農業心得草」「妙薬集」「代歳記」「老農置土産」、
「老農置土産添日記」「秋田六郡巡礼縁起」1788「羽州秋田蝗除法」著
[七左衛門(;通称)の幼名] 幼名;小助
- 七左衛門(しちざえもん・前田) → 知好(とよよし・前田まえだ、藩士/城代) Q 3 1 9 0
七左衛門(しちざえもん・小池) → 桃洞(とうどう・小池、藩士/儒/暦算) G 3 1 7 5
七左衛門(しちざえもん・島本) → 正長(せいちょう・島本、正伯、俳人) C 2 4 6 4
七左衛門(しちざえもん・中村) → 惕斎(てきさい・中村/仲邨なかむら、儒者) B 3 0 8 8
七左衛門(しちざえもん・萩原) → 宗固(そうこ・萩原/鈴木/源、幕臣/歌人) 2 5 0 8
七左衛門(しちざえもん・鈴木) → 秀外(しゅうがい・鈴木すずき、商家/俳人) W 2 1 8 2
七左衛門(しちざえもん・大坂屋) → 祐阿(ゆうあ・時雨庵、商家/俳人) 4 6 5 0
七左衛門(しちざえもん・春田) → 久啓(ひさとお・春田/根来、幕臣/梅栽培) B 3 7 4 7
七左衛門(しちざえもん・藤田) → 浪緒(なみお・藤田ふじた、藩士/歌人) G 3 2 8 9
七左衛門(しちざえもん・大田) → 南畝(なんぼ・大田おた、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
七左衛門(しちざえもん・田中) → 貞澄(さだすみ・田中たなか、本陣/歌人) O 2 0 8 1
七左衛門(しちざえもん・石川) → 大浪(たいろう・石川、幕臣/洋画家) L 2 6 3 7
七左衛門(しちざえもん・玉虫) → 暢茂(のぶしげ・玉虫たまむし、兵法家) B 3 5 5 8
七左衛門(しちざえもん・田中) → 千梅(せんばい・田中、鋳物師/俳人) G 2 4 5 0
七左衛門(しちざえもん・板倉) → 塞馬(さいば・板倉いたくら、俳人) B 2 0 0 6
七左衛門(しちざえもん・木室) → 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん、幕臣/狂歌/嘶本) 3 6 1 2
七左衛門(しちざえもん・佐橋) → 佳清(よしきよ・佐橋さし、幕臣/国学) N 4 7 1 5
七左衛門(しちざえもん・並木) → 信粹(のぶきよ・並木なみき、商家/国学/歌) J 3 5 4 3
七左衛門(しちざえもん・太田) → 可笛(鹿笛かてき・太田おた、俳人) O 1 5 1 0
七左衛門(しちざえもん・村田) → 流芳(りゅうほう;号・村田むらた、俳人) F 4 9 6 5
七左衛門(しちざえもん・井田) → 寒涯(かながい・井田いだ、庄屋/俳人) Q 1 5 0 6
七左衛門(しちざえもん・高田) → 義和(よしかず・高田たかた、国学者) C 4 7 5 5
七左衛門(しちざえもん・大木) → 正之(まさゆき・大木おおき、村役/国学) O 4 0 3 0
七左衛門(しちざえもん・出口) → 利純(としずみ・出口でぐち/吉田、歌人) M 3 1 6 4
七左衛門(しちざえもん・勝) → 信義(のぶよし・勝かつ、国学/歌人) H 3 5 9 2
七左衛門(しちざえもん・梶谷) → 景業(かげなり・梶谷かじたに/平地、医者/歌) U 1 5 2 4
七左衛門(しちざえもん・平井屋) → 三隠(さんいん・三輪みわ、町年寄/歌) P 2 0 5 0
七左衛門(しちざえもん・壺井) → 義璉(よしつら・壺井つばい、里正/和学者) N 4 7 9 5
七左衛門(しちざえもん・野津) → 鎮雄(しずお・野津のづ、藩士/軍人) Z 2 1 6 5
- 2127 **七三郎**(しちさぶろう・初世中村、七郎右衛門男) 1662-1708⁴⁷ 歌舞伎役者、俳号:少長、和事芸、
俳人と交流;「花見車」入(;中村七三しちざ・中村七しち名)
- E2154 **七三郎**(しちさぶろう・二世中村、初世清三郎男) 1701-74⁷⁴ 歌舞伎役者、1711初舞台、
1770俳名;少長
七三郎(しちさぶろう・染川) → 十郎兵衛(じゅうろべえ・染川、歌舞伎役者) I 2 1 4 5

七三郎(しちさぶろう・三世中村)→ 勘三郎(9世・中村、歌伎役者) D 1 5 7 5
 七三郎(しちさぶろう・植田)→ 兎堂(とどう・植田、商家/俳人) O 3 1 5 3
 七三郎(しちさぶろう・植田)→ 義方(よしかた・植田うえだ/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9
 七三郎(しちさぶろう・林)→ 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8
 七三郎(しちさぶろう・田中)→ 岫巖(こうろう・田中たなか、藩士/詩人) L 1 9 6 5
 七三郎(しちさぶろう・駒屋/内田)→ 成行(しげゆき・内田うちだ/吉田、歌人) N 2 1 5 0
 七三居士(しちさんこじ)→ 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
 七杉堂(しちさんどう)→ 二柳(にりゅう・勝見かつみ、俳人) D 2 2 2 0
 七杉堂(しちさんどう)→ 奇淵(きえん・菅沼すがぬま/菅、俳人) 1 6 8 3
 七杉堂(しちさんどう)→ 星譜(せいふ・七杉堂、奇淵門俳人) C 2 4 9 2
 七次(しちじ・中村)→ 傷斎(てきさい・中村/仲邨なかむら、儒者) B 3 0 8 8
 七七庵(しちしちあん・加藤)→ 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0
 七々庵(しちしちあん)→ 野逸(やいつ・文川堂、俳人) 4 5 3 4
 七々軒(しちしちけん)→ 孟遠(もうえん・山本やまもと、俳人) 4 4 4 3
 七尺堂(しちしゃくどう)→ 利世(としよ・久保、神職/茶人) O 3 1 1 5
 七舟(しちしゅう・加島)→ 一(はじめ・加島かしま、国学者) J 3 6 8 7
 七十叟(しちじゅうそう;号)→ 水巴(すいは;号、武士/俳人) E 2 3 8 9
 七十童(しちじゅうどう)→ 蘆庵(ろあん・小沢おさわ/平、歌人) 5 2 0 1
 七十二連峰(しちじゅうにれんぼう)→ 海荘(かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5
 七十郎(しちじゅうろう・榊原)→ 忠郷(たださと・榊原さかきばら/藤原、幕臣/礼法/歌) 2 7 5 4
 七十郎(しちじゅうろう・久志本)→ 常貫(つねつら・久志本/度会、神職/国学) C 2 9 5 5
 七十郎(しちじゅうろう・花中さき)→ 清五郎(せいごろう・中村、歌舞伎役・作者) B 2 4 4 8
 七十郎(しちじゅうろう・伊東)→ 重孝(しげたか・伊東いとう、藩士/兵学/歌) N 2 1 3 2
 七十郎(しちじゅうろう・小野)→ 正雄(まさお・小野おの/篠屋、商家/歌人) O 4 0 1 5
 七十郎(しちじゅうろう・小豆沢)→ 道利(みちとし・小豆沢あずさざわ、農業/歌) I 4 1 0 7
 七十郎(しちじゅうろう・熊谷)→ 一澄(かずみ・熊谷くまがい、藩士/歌人) U 1 5 5 3
 自知春館(しちしゆんかん)→ 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1

N2159 **七女**(しちじよ・小川おがわ/旧姓;沼沢、)1692-1778⁸⁷ 陸奥宮城郡の小川盛則の妻、国学・歌人

七条院(しちじょういん)→ 殖子(しよくし・藤とう、藤原信隆女1157-1228) C 2 2 3 2
 七条院権大夫(しちじょういんのごんのだいふ)→ 権大夫(ごんのだいふ・歌人) P 1 9 2 7
 七条院大納言(しちじょういんのだいなごん)→ 大納言(だいなごん・七条院、歌人) B 2 6 9 5
 七松子(しちしょうし)→ 季吟(きぎん・北村、古典学/歌・俳人) 1 6 0 6
 七条善阿(しちじょうぜんな)→ 善阿(ぜんあ・ぜんな、連歌) 2 4 2 3
 七条后(しちじょうのきさい)→ 温子(おんし・藤原、歌人) B 1 4 2 5
 七条中宮(しちじょうのちゅうぐう)→ 温子(おんし・藤原、歌人) B 1 4 2 5
 七条修理大夫入道(しちじょうのしゆりだいふにゅうどう)→ 高経(たかつね・斯波、室町執権/連歌) M 2 6 2 8
 七助(しちすけ・月形)→ 鷗窠(しゅうか・月形つきがた、藩士/儒者) F 2 2 7 2
 七助(しちすけ・岡)→ 間喬(かんきょう・岡おか、商家/諸芸) G 1 5 2 2
 七助(しちすけ・福森)→ 久助(くすけ・福森、歌舞伎作者) 1 6 2 7
 七助(しちすけ・茶屋)→ 眞国(まくに・石橋、茶屋経営/国学者) 4 0 6 8
 七助(しちすけ・木内)→ 惺堂(せいどう・木内きうち、儒者/詩人) J 2 4 3 2
 七助(しちすけ・池田)→ 政雍(まさやす・池田いけだ、藩士/代官) N 4 0 5 3
 七助(しちすけ・土居)→ 実忠(さねただ・土居どい、藩士、国学) O 2 0 8 5
 七介(しちすけ・松本/大山)→ 為起(ためおき・大山/秦/松本、神職/国学) S 2 6 3 6
 七輔(しちすけ・宇田川)→ 長齡(ながよ・宇田川うだがわ、商家/歌人) L 3 2 2 6
 七精(しちせい・大田垣)→ 猶川(ゆうせん・大田垣、医/心学者) D 4 6 2 3
 七尺堂(しちしゃくどう)→ 利世(としよ・久保、神職/茶人) O 3 1 1 5
 七遷庵(しちせんあん)→ 瑞明(ずいめい;法諱、真言僧/国学) I 2 3 6 2

E2155 **七僧**(しちそう・北山きたやま、名;皓/正皓)1721-1806⁸⁶ 河内の儒者;江戸遊学;服部南郭門、大阪で柳沢淇園・祇園阿南海門、大阪で開塾/大阪過書船の役人/晩年医業、茶・香を嗜む、

古法帖を愛蔵、高芙蓉・池大雅と交流、北山橋庵の従兄、正鑑の父、1772「北山詩艸」著、
「定武楼筆記」「定武楼文集」「詞壇鶏鳴集」「閑窓夜話」「医林摘芳」「韵鏡秘訣」外著多数、
[七僧(；号)の字/通称/別号]字；白甫/伯甫、通称；昌蔵、別号；七僧居士/桃庵/仏橋/定武楼

- 七蔵(しちぞう・小坂) → 貞直(定直さだなお・小坂こさか、和算家) I 2 0 9 9
七蔵(しちぞう・松本) → 半四郎(4世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 3
七蔵(しちぞう・市山/瀬川) → 如臯(初世じょこう・瀬川せがわ、歌舞伎役/作者) 2 2 0 9
七蔵(しちぞう・田村/田西) → 琴溪(きんけい・劉、儒者/詩) D 1 6 9 4
七蔵(しちぞう・人見/野) → 元徳(玄德げんとく・人見ひとみ/野、医者) M 1 8 0 1
七蔵(しちぞう・森) → 正門(まさかど・森、藩士/和算/三角関数) C 4 0 1 5
七蔵(しちぞう・平尾) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
七草庵(しちそうあん) → 交山(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師) J 1 9 3 1
七竈庵(しちそうあん) → 周竹(2世しゅうちく・平尾ひらお、俳人) I 2 1 0 8
七草園(しちそうえん) → 匡琴(まさこと・毛利もうり/大江、和学/歌) T 4 0 1 7
七草園(しちそうえん) → 佝厚(信厚のぶあつ・柘植つげ、藩士・国学) J 3 5 1 5
七僧居士(しちそうこじ) → 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者) E 2 1 5 5

E2156 **七太夫**(しちだゆう・佐渡さど)? - ? 江前期正保明暦1644-58頃、江戸説教浄瑠璃の祖、
1648正本

U2132 **七太夫**(しちだゆう・山本やまと) 1665-? 1752以後没 伊勢桑名藩士；「勢桑見聞略志」著、
1710藩主松平定重転封で越後高田藩士/30(76歳)致仕、のち大和柳生藩・羽後亀田藩に出仕

- 七大夫(しちだゆう・金剛/北/喜多) → 長能(ちやうのう・初世喜多きた、能役者) J 2 8 6 5
七大夫(9世しちだゆう・喜多) → 古能(このう・ひさよし・喜多きた、能楽師) N 1 9 3 5
七太夫(しちだゆう・堀) → 立庵(りつあん・堀、儒者/藩儒) B 4 9 5 5
七太夫(しちだゆう・斎藤) → 瑞雪(ずいせつ・斎藤さいとう、大庄屋/文筆) E 2 3 7 8
七太夫(しちだゆう・小野) → 顕世(あきよ・小野おの、庄屋/国学) H 1 0 1 9
七太夫(しちだゆう・荒川) → 義章(よしあき・荒川あらかわ、藩士/歌人) L 4 7 3 2
七太夫(しちだゆう・中山) → 和清(かずきよ・中山なかやま、藩士/兵学者) M 1 5 1 7
七太夫(しちだゆう・松本) → 雅徳(まさのり・松本まつもと、藩士/歌人) S 4 0 7 7
七太夫(しちだゆう・花房) → 端連(まさつら・花房はなぶさ/徳田、藩士/歌) R 4 0 8 2
七太郎(しちたろう・高尾) → 竹溪(ちくけい・高尾たかお、藩士/儒者) C 2 8 8 6
七之丞(しちのじょう・水野) → 重孟(しげたけ・水野みずの、藩士) R 2 1 2 7
七之丞(しちのじょう・井手) → 夢沢(ぼうたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7
七之丞(しちのじょう・遠山) → 伊清(これきよ・遠山とおやま、幕臣/歌研究) E 1 9 1 6
七之助(しちのすけ・岡本) → 慶雲(きやううん・岡本おかもと、藩士/軍記) N 1 6 2 4
七之助(しちのすけ・平岩) → 親吉(ちかよし・平岩、家老/城主/地誌) C 2 8 1 7
七之助(質之助しちのすけ・金平[公平]) → 信辨(しんべん；法諱、修験僧) P 2 2 8 3
七之助(しちのすけ・山名/清水) → 時庸(ときもち・清水、幕臣/神道/兵学) K 3 1 1 5
七之助(しちのすけ・平賀) → 義雅(よしまさ・平賀ひらが、藩士/和学) O 4 7 7 8
七之助(しちのすけ・竹田) → 春庵(しゅんあん・竹田たけだ、藩儒) J 2 1 1 8
七之助(しちのすけ・鳥居) → 清広(きよひろ・鳥居とりい、絵師) Q 1 6 2 2
七之助(しちのすけ・大橋) → 宗英(そうえい；号・大橋、将棋中興の祖) G 2 5 2 1
七之助(しちのすけ・山村) → 蘇門(そもん・山村良由たかよし、家老/儒詩) E 2 5 4 3
七之助(しちのすけ・秋田/津田) → 鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家) C 3 9 4 1
七朝国師(しちちようこくし) → 疎石(そせき・夢窓、臨済僧/文学) 2 5 2 4
七珍万宝(しちちんばんぼう) → 七珍万宝(しちちんまんぼう、戯作/狂歌) 2 1 2 8

E2157 **七梅**(しちばい・伊丹いたみ) ? - ? 江中期戯作者；信陽大飯喫しなののおおめしぐらい門、

1780洒落本；信陽大飯喫「娼註銚子戯語しやうちゆうちやうしけご」(同門坂上滝水と校合)

- 七八庵(しちはちあん・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0
実範(じちはん；法諱) → 実範(じっばん/じちはん；法諱、法相・真言・天台僧) V 2 1 0 4
七部(しちぶ・堤) → 盛尹(もりただ・堤、盛員男/神職/国学) K 4 4 6 1

- 七福翁(しちふくおう) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3
七文(しちぶん・加藤) → 卷阿(かんあ・加藤かとう、俳人) D 1 5 3 8
七文舎鬼笑(しちぶんしやくしきしょう) → 鬼笑(きしょう・七文舎、滑稽本作者) B 1 6 2 5
七平(しちへい・陶山) → 槁木(こうぼく・陶山すやま、藩士/磯釣) L 1 9 2 7
七平(しちへい・岩田) → 清庸(せいよう、岩田/磐田、藩士/和算) J 2 4 7 0
七平(しちへい・納屋) → 貞秋(さだあき・広田ひろた、納屋七/問屋/歌) P 2 0 2 1
七平(しちへい・京増きよます) → 安信(やすのぶ・小沢おざわ、菅廼舎、役人/歌) E 4 5 8 9
U2133 **七兵衛**(しちべえ・富田屋とんだや)?- ? 江後期大阪書肆、1796「琴曲鶴の声」校
七兵衛(しちべえ・益田) → 元堯(もとたか・益田ますだ、藩家老/財政) C 4 4 7 9
七兵衛(しちべえ・佐々木) → 志頭磨(志津磨しづま・佐々木、書家) U 2 1 0 7
七兵衛(しちべえ・竹山) → 重栄(じゅうえい・竹山、俳人) G 2 1 8 4
七兵衛(しちべえ・中川) → 重良(しげよし・中川なかがわ、藩士、詩) T 2 1 1 0
七兵衛(しちべえ・吉田) → 光由(みつよし・吉田よしだ、和算家) F 4 1 1 4
七兵衛(しちべえ・若狭屋) → 青雨(せいう・春草舎、俳人) 2 4 6 2
七兵衛(しちべえ・伊勢屋) → 大町(たいちょう・中西、商家/俳人) B 2 6 8 7
七兵衛(しちべえ・佐野屋) → 方人(かたうど・辺越へごしの、魚商/狂歌) C 1 5 3 1
七兵衛(しちべえ・糠屋ぬかや) → 豊信(とよのぶ・石川、旅宿業/絵師/絵本) R 3 1 4 2
七兵衛(しちべえ・糠屋) → 雅望(まさもち・石川、豊信男/旅宿業/国学/狂歌) 4 0 2 1
七兵衛(しちべえ・小沢/高力) → 種昌(たねまさ・高力こうりき、藩士/文筆家) S 2 6 0 4
七兵衛(しちべえ・森) → 信親(のぶちか・森もり、蒔絵師/俳人) B 3 5 9 6
七兵衛(しちべえ・播磨屋/岡) → 之只(ゆきただ・岡おか、商家/和算家) E 4 6 7 5
七兵衛(しちべえ・野村) → 信由(のぶよし・野村、藩士/文筆) D 3 5 9 5
七兵衛(しちべえ・曾我) → 助弼(すけまさ・曾我そが/平、幕臣) G 2 3 8 3
七兵衛(しちべえ・垂井) → 梅弟(ばいてい・垂井、俳人) B 3 6 8 4
七兵衛(しちべえ・紙屋/武藤) → 巴雀(はじゃく・武藤、商家/俳人) E 3 6 4 5
七兵衛(しちべえ・久保) → 之英(ゆきひで・久保くぼ、歌人/文筆) F 4 6 4 0
七兵衛(しちべえ・奥村) → 惟美(これよし・奥村/本姓;源、国学者) P 1 9 0 0
七兵衛(しちべえ・石尾) → 氏一(うじかず・石尾いしお/藤原、幕臣) D 1 2 5 4
七兵衛(しちべえ・河村/川村) → 瑞軒(ずいけん・河村、材木商/土木) 2 3 5 0
七兵衛(しちべえ・大森) → 武信(たけのぶ・大森おおもり、国学者) W 2 6 2 1
七兵衛(しちべえ・斎藤) → 真幸(まさち・斎藤さいとう、里正/俗謡家) D 4 0 6 9
七兵衛(しちべえ・織戸) → 為貞(ためさだ・織戸おりと、国学者) W 2 6 3 7
七兵衛(しちべえ・佐久間) → 貞泰(さだやす・佐久間さくま/菅原、藩士/国学) O 2 0 4 8
七兵衛(しちべえ・白鳥) → 南山(なんざん・白鳥しらとり、国学者) N 3 2 3 6
七兵衛(しちべえ・竹中) → 和布磨(にぎまる・竹中たけなか、藩士/国学) H 3 3 1 3
七兵衛(しちべえ・塩屋) → 素行(もとゆき・村田むらた/大沢、商家/詩文) L 4 4 6 7
七兵衛(しちべえ・出淵) → 豊矩(とよのり・出淵でぶら、歌人) V 3 1 7 9
七兵衛(しちべえ・村井) → 求林(きゅうりん・村井、商家/和算家) M 1 6 9 9
七丸(しちまる・佐竹) → 義寛(よしひろ・佐竹さたけ/高倉、藩主/歌) N 4 7 0 9
G2194 **七面堂儘世**(しちめんどうまよ)?- ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;400、
[二人ある妹もは両がけ挟箱はさみばこかたかたならぬ恋の重荷や](才蔵集;十恋400)、
氏著(しちやく・戸田) → 氏著(うじあき・戸田とだ、幕臣) C 1 2 3 1
U2134 **此柱**(しちゅう・長野ちやうの、別号;隣鶏下)?-? 江中期越後新潟の俳人、1742「江湖集」編、
俳人鷺洲の弟、兄鷺洲と共に新潟俳壇の重鎮
之仲(しちゅう・五辻) → 之仲(ゆきなか・五辻いつじ/源、廷臣/連歌) F 4 6 1 1
氏忠(しちゅう・荒木田) → 氏忠(うじただ・荒木田、13ct神職/歌) 1 2 3 4
氏忠(しちゅう・大炊御門) → 氏忠(うじただ・大炊御門、14ct廷臣/連歌) C 1 2 4 2
氏忠(しちゅう) → 氏忠(うじただ、15ct連歌師) B 1 2 3 2
士仲(しちゅう・宝田) → 蘭陵(らんりょう・宝田たからだ、藩儒/詩人) D 4 8 2 6
子中(しちゅう・元田) → 東野(とうや・元田、儒/藩政改革) H 3 1 5 3

子中(しちゆう・打越)	→	樸齋(ぼくさい・打越うちごえ、儒者)	D 3 9 0 9
子中(しちゆう・伴)	→	香竹(こうちく・伴ばん、国学者;歌/書)	B 1 9 6 9
子中(しちゆう・近藤)	→	淡泉(たんせん・近藤、藩校教授/儒者)	I 2 6 4 8
子中(しちゆう・新井)	→	道雄(みちお・新井あらい、国学/歌)	L 4 1 0 9
子仲(しちゆう・富永)	→	謙齋(けんさい・富永仲基、思想家)	E 1 8 8 3
子仲(しちゆう・山本)	→	質庸(ただつね・山本やまと/中臣;/杉本、国学)	2 7 2 1
子丑(しちゆう・美濃屋)	→	魚心(ぎょしん、美濃屋正兵衛、俳人)	P 1 6 6 9
子忠(しちゆう・田中)	→	従吾軒(じゅうごけん・田中、藩儒)	X 2 1 2 6
子疇(しちゆう・徳田)	→	錦江(きんこう・徳田とくだ、藩士/儒者)	J 1 6 1 2
子忠(しちゆう・桃井)	→	安貞(あんてい・桃井もものい、医者)	G 1 0 1 8
思忠(しちゆう・伊藤)	→	萃野(しんや・伊藤いとう、儒者)	2 2 8 2
師忠(しちゆう・源)	→	師忠(もろただ・源、廷臣/和琴/歌人)	H 4 4 3 6
師忠(しちゆう・二条)	→	師忠(もろただ・二条/藤原、関白/歌人)	H 4 4 3 7
師仲(しちゆう・源)	→	師仲(もろなか・源みなもと、権中納言/歌人)	H 4 4 5 8
資忠(しちゆう・菅原)	→	資忠(すけただ・菅原すがわら、廷臣/詩歌)	C 2 3 3 3
資忠(しちゆう・白川)	→	資忠(すけただ・白川、神祇伯)	C 2 3 3 6
資忠(しちゆう・太田)	→	資忠(すけただ・太田おおた、武将/歌人)	C 2 3 3 7
資仲(しちゆう・藤原)	→	資仲(すけなか・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	C 2 3 6 0

E2158 **慈忠**(しちゆう;法諱、藤原忠家男?)**?-?** 鎌倉期天台僧;忠家男ならば叡山僧/法印、
権大僧都、歌人;拾遺風体集入、新続古今集1首;1298、
[おき別れかへる涙の袖のうえへにまだふかき夜の月ぞ残れる](新続古;十三恋1298)

E2159 **時中**(しちゆう・谷たに、真宗僧の宗慶男)1598-1649⁵² 土佐安藝郡甲浦の生/吾川郡瀬戸村眞常寺入、
儒;長浜村雪蹊寺の天質門/上京し「大学」を書写;帰郷後読誦/程朱学を研鑽;還俗し儒者、
出仕に应ぜず民間にあって子弟教育;南学の大成、門人;野中兼山/小倉三省/山崎闇斎ら、
「素有文集」「素有語録」「二条家和歌作法」著、
[時中(;号)の字/通称/別号]字;素有、通称;大学/三郎左衛門、
別号;慈冲(;僧名)/鈍齋、一齋の父

参照 **南学の系譜** → **梅軒**(ばいけん・南村) B 3 6 0 6

E2160 **時中**(しちゆう・天木あまぎ、通称;善六、光玄男)1696-1736⁴¹ 尾張知多郡須佐村儒者;幼時小出侗齋門、
1717(22歳)江戸の佐藤直方門、1721伊勢長島藩に儒者として出仕、後上京;子弟教育、
1724「倭士論説」26「気塊然太虚筆記」27「天木氏自警文」/28「為貧説」「愛日惜陰集」著、
1732「命説」35「浅野家臣復讐論」著/35「義士問答」編、「肉食論」「学校考」外著多数、

E2161 **時中**(しちゆう・山田やまだ) **?-?** 儒詩・広瀬淡窓門、1854「宜園百家詩」第3編共編

時中(しちゆう・源)	→	時中(ときなか・源、廷臣/管弦歌舞)	3 1 5 4
時中(しちゆう・永山)	→	外記(げき;通称・永山ながやま、藩士/歌)	G 1 8 8 7
時中(しちゆう・箇木/八木)	→	静修(しずさね・八木/箇木/橘、国学者)	U 2 1 0 1
時中(しちゆう/ときなか・天津)	→	眞(まこと・天津あまつ、国学/神道)	N 4 0 1 9
時中(しちゆう・金子)	→	時中(ときなか・金子かねこ、国学者)	U 3 1 7 8
慈冲(しちゆう;僧名)	→	時中(しちゆう・谷、僧/儒者;南学)	E 2 1 5 9
市中庵(しちゆうあん)	→	宗輔(そうすけ・並木なみき、浄瑠璃作者)	2 5 1 2
市中庵(2世しちゆうあん/いちなかあん)	→	如髪(じよはつ・関本、俳人)	M 2 2 7 7
市中庵(しちゆうあん)	→	十江(じっこう・林/高野、篆刻家)	E 2 1 8 6
市中庵(しちゆうあん)	→	梅従(ばいじゆう・後藤ごとう、商家、俳人)	B 3 6 4 9
市中庵(しちゆうあん)	→	鶯喬(ろきょう・山本やまと、俳人)	5 2 6 9
市中庵(しちゆうあん)	→	扇朝(せんちよう、川柳)	G 2 4 3 8
市中庵(しちゆうあん)	→	柳荘(りゅうそう・今井いまい、代官/俳人)	F 4 9 0 3

E2162 **市中軒**(しちゆうけん) **?-?** 江中期浮世草子作者、

1707浮世草子「美景蒔絵松ひげいまきえのまつ」著(5巻、1708京菊屋七郎兵衛刊/伊勢色茶屋評判)

E2163 **七友齋**(しちゆうさい、中村なかむら、名;嘉種)1678-1744⁶⁷ 土佐幡多郡尾浦の儒者;1696京の伊藤仁斎門、
江戸の三宅観瀾門、土佐藩に登用;留守居組/大扨従/侍読、1732高知北会所講の講師、

「高岡市右衛門夫婦孝弟記事」/1729「足輕弥五之丞孝行記事」著、
[七友斎(；号)の字/通称]字；仲武、通称；惣次郎

市中山人(しちゅうざんじん、浄瑠璃作者)→石上(せきじょう・樹下じゅげ、梶原、黄表紙) D 2 4 6 0
市中散人(しちゅうざんじん) → 祐佐(ゆうさ・伴ばん、書肆/浮世草子) B 4 6 6 9
市中舎(しちゅうしゃ) → 道然(どうねん：号、僧) G 3 1 8 8
七楽居(しちらくきよ) → 鸞湖(がこ・千村ちむら、藩士/儒者) C 1 5 0 1
資長(しちよう・太田) → 資長(すけなが・日野/藤原、権中納言/歌) C 2 3 6 2
資長(しちよう/すけなが・太田)→ 持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7
資長(しちよう・伴) → 資長(すけなが・伴、藩士) G 2 3 7 4
資長(しちよう・太田) → 資長(すけなが・太田おた、国学者/歌人) D 2 3 3 8
資朝(しちよう・日野) → 資朝(すけとも・日野/藤原、廷臣) C 2 3 5 7
子潮(しちよう・端山) → 凶南(となん・端山はやま、書家) O 3 1 6 0
子長(しちよう・杉山) → 梅園(ばいえん・杉山/楡山すざやま、儒者/詩) 3 6 6 5
子長(しちよう・松村) → 梅岡(ばいこう・松村まつむら、儒者/詩人) B 3 6 1 7
子長(しちよう・山沢/国島)→ 筈斎(かっさい・国島くにしま、藩士/儒者) N 1 5 3 0
子長(しちよう・喜多村/川合)→ 大壑(たいがく・川合/喜多村、儒者) J 2 6 4 5
子長(しちよう・郷) → 東岡(とうこう・郷ごう、儒者/詩文) D 3 1 8 5
子長(しちよう・川村) → 壽庵(じゅあん・川村/河村/川、医者) W 2 1 4 8
子長(しちよう・家崎) → 善之(よしゆき・家崎いえさき、商家/和算家) H 4 7 9 4
子長(しちよう・林) → 正延(まさのぶ・林はやし、暦算家) F 4 0 6 3
子長(しちよう・寺尾) → 東海(とうかい・寺尾てらお、儒者/音韻学) B 3 1 8 8
子張(しちよう・浦/橋) → 元景(もとかげ・橋たかはな/浦、医者) C 4 4 2 2
子兆(しちよう・西垣) → 桐斎(とうさい・西垣にしがき、儒者/詩文) E 3 1 2 1
子徴(しちよう・浜田) → 杏堂(きやうどう・浜田/名和、医者/絵師) D 1 6 4 5
子徴(しちよう・華岡) → 鹿城(ろくじょう・華岡はなおか、医者/清洲の弟) 5 2 9 4
子徴(しちよう・井上) → 夏鼎(ひろさだ・井上いのうえ、商家/歌人) L 3 7 0 8
子徴(しちよう・各務) → 文献(ぶんけん・各務かがみ、医者/整骨科) F 3 8 0 9
子蝶(しちよう・今井/大国)→ 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7
子暢(しちよう・高木) → 秀条(ひでえだ・高木たかぎ、神道/歌人) L 3 7 7 3
子肇(しちよう・長谷川) → 昆溪(こんけい・長谷川はせがわ、藩士/詩人) P 1 9 1 7
氏張(しちよう・丹羽) → 氏張(うじはる・丹羽にわ、藩士/剣術家) C 1 2 5 9
氏暢(しちよう・村田) → 氏暢(うじのぶ・村田、藩士/故実) C 1 2 4 9
氏朝(しちよう・藤波) → 氏朝(うじあさ・藤波ふじなみ/菌田、神職) C 1 2 3 2
士張(しちよう・南摩) → 羽峯(うほう・南摩なんま、藩士/儒者) D 1 2 3 2
士長(しちよう・南川) → 金溪(きんけい・南川みなみかわ、医/詩人) H 1 6 8 0
士長(しちよう・奥村) → 栄発(てるのり・奥村おくむら、医者/儒詩) C 3 0 8 6
士超(しちよう・尾台) → 榕堂(ようどう・尾台おだい/小杉、医者) B 4 7 5 1
士蝶(しちよう・目賀田) → 文村(ぶんそん・目賀田めがた、絵師) G 3 8 0 9
士激(しちよう・安岡) → 良亮(よしすけ・安岡、郷士/国事奔走) D 4 7 8 1
志庁(しちよう・八羽) → 光謙(みつかた・八羽はつば/荒木田、神職) K 4 1 0 9
師長(しちよう・菅原) → 師長(もろなが・菅原すがわら、廷臣/漢学者) H 4 4 6 0
師長(しちよう・藤原) → 師長(もろなが・藤原、太政大臣/楽人) H 4 4 6 1
紫朝(しちよう・嵐/吉田) → 小六(初世ころく・嵐・吉田歌舞伎役者) E 1 9 6 2
嗣長(しちよう・丹波) → 嗣長(つぐなが・丹波たんば、医者) 2 9 7 4
賜菫(しちよう・佐藤) → 応渠(おうきよ・佐藤、儒/医者) C 1 4 0 8

E2166 慈澄(じちよう；法諱) ? - ? 室町期僧；僧正、歌人、1439成立「新続古今集」824、
[むらさきの雲のむかへを松の戸に心をとほかくる藤波](新続古；釈教824)

E2164 慈潮(じちよう；法諱、円照寺慈舟男)?-1826 近江犬上郡高宮の真宗本願寺派円照寺住職；父継嗣、
宗学；常照(智暹門下)門/1824勸学、「雷山詩集」「他利利他辨」著、
[慈潮(；法諱)の別法諱/諡号]別法諱；大濤、諡号；恭敬院、

- 自澄(じちよう:法諱・湛元)→ 湛元(たんげん:道号・自澄、曹洞僧) T 2 6 3 9
時鳥(じちよう) → 時鳥(ほととぎす、俳人) F 3 9 7 8
時長(じちよう)すべて → 時長(ときなが)
時朝(じちよう)すべて → 時朝(ときとも)
持長(じちよう・小笠原) → 持長(もちなが・小笠原、武将/故実家) B 4 4 5 2
耳鳥齋(じちようさい) → 耳鳥齋(にちようさい・松屋、絵師) D 3 3 5 3
E2167 子直(しちよく) ? - ? 俳人、
1704范孚「あさふあそう」(吾仲序/許六跋)に正秀以下の六十韻参加の連句入
司直(しちよく→もとなお・成島)→ 東岳(とうがく・成島、幕臣/儒/歌) C 3 1 2 0
司直(しちよく・藤木) → 司直(もりなお・藤木/賀茂、書博士) G 4 4 0 3
司直(しちよく・篠崎) → 睽孤(けいこ・篠崎しのぎ、漢学者/兵法) F 1 8 5 3
之直(しちよく・大坂屋) → 徳順(とくじゆん、大坂屋庄兵衛、狂歌) K 3 1 1 9
子直(しちよく・鶴飼) → 石齋(せきさい・鶴飼/鶴、儒者/史学) D 2 4 4 7
子直(しちよく・佐久間) → 義方(よしかた・佐久間さくま、儒者) C 4 7 6 5
子直(しちよく・山本) → 青城(せいじよう・山本、家老/儒者) C 2 4 2 6
子直(しちよく・世古) → 延世(のぶよ・世古せこ、酒造業/勤王) G 3 5 2 0
子直(しちよく・宮本) → 八朗(はちろう・宮本、俳人) E 3 6 9 8
子直(しちよく・桜田) → 景敬(かげのり・桜田、武道家/勤王派) L 1 5 2 0
子直(しちよく・長崎) → 金城(きんじよう・長崎ながさき、儒者) J 1 6 0 2
子直(しちよく・松野) → 清邦(きよくに・松野まつの、藩士/詩文) P 1 6 3 0
子直(しちよく・高須/植田)→ 義方(よしかた・植田うえだ/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9
子直(しちよく・須藤) → 柳圃(りゅうほ・須藤すどう、商家/儒者) F 4 9 5 9
子直(しちよく・中島/田中)→ 芳洲(ほうしゅう・田中/中島、医者/和算) B 3 9 4 1
子直(しちよく・奥山) → 源蔵(げんぞう・奥山おくやま、和算家) K 1 8 8 3
子直(しちよく・解良) → 栄重(よししげ・解良げら、国学者) D 4 7 6 7
子直(しちよく・春田/曾我)→ 耐軒(たいけん・曾我/春田/伊藤、儒者/詩) B 2 6 3 1
子直(しちよく・伊藤) → 武矩(たけのり・伊藤、儒者/詩文) O 2 6 6 1
子直(しちよく・太田) → 春平(春比良はるひら・太田おおた、狂歌師) K 3 6 7 6
子直(しちよく・石黒) → 通玄(つうげん・石黒いしくろ、藩医/本草) 2 9 3 3
子直(しちよく・山本) → 鹿洲(ろくしゅう・山本やまもと、医者) C 5 2 7 8
子直(しちよく・由井) → 正繩(まさなわ・由井ゆい/金子、国学/歌) T 4 0 6 1
子直(しちよく・佐々木) → 雄齋(ゆうさい・佐々木ささき、医者/歌人) B 4 6 7 5
子直(しちよく・松岡) → 定庵(ていあん・松岡まつおか、本草家) 3 0 2 5
士直(しちよく・大城/森田)→ 桂園(けいえん・森田もりた、幕臣/儒者) F 1 8 3 0
士直(しちよく・高妻) → 芳洲(ほうしゅう・高妻たかつま、藩士/儒者) B 3 9 5 4
士直(しちよく・和田) → 重善(しげよし・和田/湯本、藩士/詩人) T 2 1 1 6
氏直(しちよく・源) → 氏直(うじなお・源/今川?、廷臣/歌人) 1 2 4 3
氏直(しちよく・北条) → 氏直(うじなお・北条、武将/歌) B 1 2 7 1
師直(しちよく・高) → 師直(もろなお・高こう/高階、武将/歌人) H 4 4 5 6
資直(しちよく・富小路) → 資直(すけなお・富小路/藤原、歌人) C 2 3 5 9
自直(じちよく・高橋) → 掖齋(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7
自直(じちよく・谷) → 垣守(かきもり・谷たに、藩士/国学者) B 1 5 2 5
時直(じちよく) すべて → 時直(ときなお)
U2135 七里(しちり) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入
[眠りつつ現うつつにつよき礎きぬたかな](卯辰集;三394/砧を打つ時だけは正気に返る)
E2168 七里(しちり・北村きたむら/北) 1673-1726 越後新潟の回漕問屋、俳人;各務支考門/文台を受、
鷺洲と共に北陸の逸士と称される、1723雲鈴7回忌追善で出雲崎に建碑;追善集「淡雪」編、
七里追善集「其鑑」(1729友人の鷺洲・葉圃編)、
[七里(;号)の通称/別号]通称;又右衛門、別号;鑑亭
七里香草堂(しちりこうそうどう)→ 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9

七良司(しちりょうじ・江波戸)→ 胤信(たねのぶ・江波戸えぼと、歌人) V 2 6 9 0

U2136 七郎(しちろう・鈴木すずき、名;故道)?-? 江後期寛政1789-1801頃大坂舟町の読本作者、
1800「諸国妙見尊靈験記」、「警世通話」著

七郎(しちろう・小串) → 範秀(のりひで・小串、雲岩聖秀、歌/早歌) F 3 5 5 3

七郎(しちろう・結城) → 政勝(まさかつ・結城ゆうき、武将/城主) C 4 0 0 3

七郎(しちろう・堀江) → 光傳(みつたけ・堀江/藤原、武家/連歌) D 4 1 6 5

七郎(しちろう・若槻) → 元数(もとかず・若槻わかつき/源、武将/連歌) C 4 4 2 5

七郎(しちろう・市橋) → 宗源(そうげん・市橋/藤原、武家/領主/連歌) H 2 5 1 3

七郎(しちろう・大野) → 久高(ひさたか・樺山かばやま/大野、武将/家老/歌) J 3 7 0 8

七郎(しちろう・伊勢) → 貞直(さだなお・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 9 7

七郎(しちろう・伊勢) → 貞国(さだくに・伊勢/平、幕臣/故実/歌) B 2 0 8 4

七郎(しちろう・伊勢) → 貞勝(さだかつ・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 0 2

七郎(しちろう・伊勢) → 貞親(さだちか・伊勢/平、幕臣/故実家) C 2 0 0 1

七郎(しちろう・伊勢) → 貞陸(さだみち・伊勢/平、幕臣/故実家) 2 0 2 5

七郎(しちろう・伊勢) → 貞忠(さだただ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 4 4

七郎(しちろう・伊勢) → 貞宗(さだむね・伊勢/平、幕臣/故実家) C 2 0 5 3

七郎(しちろう・伊勢) → 貞知(さだとも・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 9 0

七郎(しちろう・真野) → 安通(安道やすみち・真野まの、武家故実) D 4 5 0 7

七郎(しちろう・吉見) → 頼隆(よりたか・吉見/源、武将/歌人) I 4 7 8 6

七郎(しちろう・土岐) → 頼遠(よりとお・土岐とき/源、武将/歌人) J 4 7 1 2

七郎(しちろう・柳生) → 三巖(みつよし・柳生やぎゅう、領主/武芸者) F 4 1 1 5

七郎(しちろう・観世) → 元能(もとよし・観世、世阿弥男/能楽) E 4 4 6 6

七郎(しちろう・堤) → 盛徴(もりずみ・堤/荒木田、神職/国学) F 4 4 5 2

七郎(しちろう・長野) → 美波留(みはる・長野/藤原、国学/歌) 4 1 3 6

七郎(しちろう・福田) → 渭水(いすい・福田ふくだ/ふた、儒/砲術) E 1 1 3 7

七郎(しちろう・高垣) → 重枝(しげえ・高垣たかがき、藩士) Q 2 1 6 5

七郎(しちろう・依田) → 学海(がつかい・依田よだ、儒/詩/日記) F 1 5 4 0

七郎(しちろう・河村) → 秀穎(ひでかい・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9

七郎(しちろう・松井) → 輝星(暉星きせい・松井まつい、易占家) B 1 6 3 6

七郎(しちろう・中井) → 碩果(せきか・中井なかい、儒者) J 2 4 9 7

七郎(しちろう・飯田) → 年平(としひら・飯田、国学/歌人) N 3 1 5 8

七郎(しちろう・田村) → 顕寛(あきひろ・田村たむら、旗本寄合/歌) H 1 0 8 9

七郎(しちろう・村田) → 嘉言(よしこと・村田/平、国学者/絵師) D 4 7 3 0

七郎(しちろう・杉山) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

七郎(しちろう・林) → 眞自彦(まじひこ・林はやし、和学者) R 4 0 8 9

七郎(しちろう・木村) → 千根(ちね・木村きむら、藩士/国学/歌) M 2 8 4 0

七郎(しちろう・三宅) → 師鋌(もろかね・三宅みやけ、国学者) L 4 4 5 3

七郎(しちろう・原田) → 重方(しげかた・原田はらだ、神職/勤王家) Q 2 1 7 6

七郎(しちろう・下平) → 益栄(ますなが・下平しもひら/大原、国学者) Q 4 0 1 8

七郎(しちろう・水谷) → 政恒(まさつね・水谷みづたに/坂崎、陪臣/国学) S 4 0 9 2

a2118 七郎右衛門(しちろうえもん・岩波いわなみ、名;道能)?-? 江前期;甲斐(武田系)の武士;甲斐奉行/代官、
駿河徳川忠長の佐久領代官;1632(寛永9)忠長の狂疾理由での改易に連座;閉門蟄居、
のち赦免;佐久郡代官に復帰;1636(寛永13)致仕、歌人、
[母におくれてなげく人に遣はしける、

先立つをなげくにつけて我を又今の心に誰かしのばん](茂睡[鳥の迹]哀傷612)

U2138 七郎右衛門(しちろうえもん・野附のつき、名;彰常、庄司甚太郎2男) 1825-92 68 羽前飽海郡小泉村の生、
1849飽海郡酒田の大庄屋野附家の養子;大庄屋を継嗣、儒;経史に通じ詩文を能くす、
寺子屋を開き子弟教育/1869天正寺に開設の学而館学業係/酒田県学区取締;学制編成、
大庄屋御用記録「野附叢書」著、1861「英船御沙汰御用控」著、

[七郎右衛門(；通称)の別通称]初通称；七郎兵衛

- 七郎右衛門(しちろうえもん・木屋)→ 直庸(なおつね・永瀬ながせ、国学者) B 3 2 7 5
七郎右衛門(しちろうえもん・人見)→ 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0
七郎右衛門(しちろうえもん・山田屋)→ 雪芝(せつし・広岡、商家/俳人) E 2 4 4 1
七郎右衛門(しちろうえもん・橋)→ 泰(とある・橋たちばな、書肆/国学/篆刻) I 3 1 7 8
七郎右衛門(しちろうえもん・吉村)→ 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2
七郎右衛門(しちろうえもん・伊藤)→ 弘風(ひろかぜ・伊藤いとう、国学者) F 3 7 7 0
七郎右衛門(しちろうえもん・足代)→ 弘早(ひろとし・足代/度会、神職/歌) G 3 7 5 2
七郎右衛門(しちろうえもん・金屋)→ 鳴門(めいもん・田中/田、鑄造業/詩) 4 3 3 9
七郎右衛門(しちろうえもん・塩)→ 隆好(たかよし・塩しお、藩士/蝦夷地誌) N 2 6 7 3
七郎右衛門(しちろうえもん・山崎)→ 英常(ひでつね・山崎、藩士/郷土史) D 3 7 2 7
七郎右衛門(しちろうえもん・稲生)→ 正房(まさふさ・稲生いろう、幕臣/国学) N 4 0 7 7
七郎右衛門(しちろうえもん・浦上)→ 円意(のぶり・浦上うらがみ、歌人) H 3 5 5 4
七郎右衛門(しちろうえもん・中根)→ 雪江(ゆきえ/せつこう・中根、藩士/国事) E 4 6 3 3
七郎右衛門(しちろうえもん・千葉原)→ 胤英(たねひで・千葉原ちばら、農業/歌人) Y 2 6 2 2
七郎右衛門(しちろうえもん・小泉)→ 正房(まさふさ・小泉こいづみ、藩士/国学) P 4 0 5 7
七郎右衛門(しちろうえもん・平井)→ 直純(なおずみ・平井ひらい、醸造/歌人) O 3 2 5 2
七郎右衛門(しちろうえもん・浅海)→ 澳満(おきまる・浅海あさみ、藩士/歌人) D 1 4 8 4
七郎右衛門(しちろうえもん・武笠)→ 宣予(のぶやす・武笠たけがさ、藩士/歌人) J 3 5 0 4
七郎右衛門(しちろうえもん・河野)→ 通重(みちしげ・河野こうの/越智、庄屋/歌) J 4 1 0 9
七郎右衛門(しちろうえもん・堀内)→ 立雄(たつお・堀内ほりうち、藩士/国学/歌) Z 2 6 4 3
七郎右衛門(しちろうえもん・川瀬)→ 教徳(のりなり・川瀬かわせ、藩士/奉行) F 3 5 3 8
七郎右衛門(しちろうえもん・並木)→ 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6
七郎右衛門(しちろうえもん・大森)→ 快庵(かいあん・大森おおもり、儒者/詩) H 1 5 1 2

E2169 **七郎左衛門**(しちろうざえもん・杉山すざやま)?? 京の浄瑠璃太夫；滝野検校門、1612江戸に下向、江戸の操浄瑠璃の祖、1652丹後掾を受；天下一丹後掾を名乗る、1661頃まで活動、將軍前で浄瑠璃を語りかぶらの紋の染抜きの紫の幕を下賜された、「清水の御本地」、[七郎左衛門(；通称)の別通称/入道号]別通称；杉山丹後掾藤原清澄、入道号；宝山高智

E2170 **七郎左衛門**(しちろうざえもん・光島みつしま)?? 江前期歌舞伎役者/作者、1696大阪で座元、1701以降江戸諸座に立役者で出演、1707台本作りに協力/作者専業に転ず；1715頃迄活動、1708「凱陳十二段」10「藪入隅田川」「女兵常磐松」11「けいせい逆沢瀉」12「破魔弓曾我」、1713「一心親子桜」「義経十番続」「頼政大旭的」/14「女竜虎二頭」15「早咲女嶋原」外著多数

- 七郎左衛門(しちろうざえもん・杉原)→ 家次(いえつぐ・杉原、武将/記録) E 1 1 8 5
七郎左衛門(しちろうざえもん・河野[別府]通尚)→ 智真(ちしん；法諱、一遍上人/時宗開祖) 2 8 1 2
七郎左衛門(しちろうざえもん・結城)→ 政勝(まさかつ・結城ゆうき、武将/城主) C 4 0 0 3
七郎左衛門(しちろうざえもん・藤懸)→ 則定(のりさだ・藤懸ふじかけ、藩士/記録) E 3 5 5 4
七郎左衛門(しちろうざえもん・堀)→ 未塵(みじん・堀ほり、藩士/俳人) 4 1 8 9
七郎左衛門(しちろうざえもん・那波)→ 葎宿(りっしゅく・那波なば、俳人) C 4 9 0 1
七郎左衛門(しちろうざえもん・向井/久米)→ 牡年(暮年ぼねん・久米くめ/高木、俳人) E 3 9 7 6
七郎左衛門(しちろうざえもん・堀内)→ 千豈(せんがい・堀内ほりうち、名主役/俳人) L 2 4 9 0
七郎左衛門(しちろうざえもん・川口)→ 信之(のぶゆき・川口かわぐち、幕臣/国学) H 3 5 9 9
七郎左衛門(しちろうざえもん・村田)→ 春野(はるの・村田、国学者) G 3 6 6 8
七郎左衛門(しちろうざえもん・菅沼)→ 吉次(よしつぐ・菅沼すがぬま、藩士/歌) N 4 7 4 5
七郎左衛門(しちろうざえもん・万家)→ 雲帯(うんたい・成沢なるさわ、商家/俳人) D 1 2 9 1
七郎左衛門(しちろうざえもん・成沢)→ 寛経(ひろつね・成沢、雲帯孫/商家/国学) G 3 7 4 4
七郎左衛門(しちろうざえもん・佐藤)→ 親信(ちかのぶ・佐藤、藩士/日記) B 2 8 5 3
七郎左衛門(しちろうざえもん・鏡島)→ 養生(ようせい・鏡島かがみしま、藩士/武家故実) B 4 7 2 8
七郎左衛門(しちろうざえもん・蔭山)→ 休安(きゅうあん・蔭山かげやま、俳人) B 1 6 8 9
七郎左衛門(しちろうざえもん・藤本)→ 箕山(きざん・藤本ふじもと/畠山・笠原、古筆鑑定/色道) 1 6 1 3
七郎左衛門(しちろうざえもん・山根)→ 清(きよし・山根、華陽、儒者) D 1 6 1 8

- 七郎左衛門(しちろうざえもん・森田)→道依(みちより・森田/宮原、国学/歌) C 4 1 9 2
七郎左衛門(しちろうざえもん・赤川)→知哲(ともしと・赤川あかがわ/岩松、藩士/歌) T 3 1 9 1
七郎左衛門(しちろうざえもん・安間)→浄心(じょうしん;法諱、禅僧/国学者) U 2 2 9 9
七郎左衛門尉(しちろうざえもんのじょう・丸)→雅連(まさつら・丸まる/平、武将/連歌) E 4 0 1 9
七郎左衛門尉(しちろうざえもんのじょう・伊勢)→貞儀(さだのり・伊勢/平、故実家) J 2 0 2 2
七郎左衛門尉(しちろうざえもんのじょう・矢野)→遠村(とおむら・矢野/橘、歌人) I 3 1 7 5
七郎作(しちろうさく・内田)→長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) L 3 2 3 1
七郎次(しちろうじ・露木つゆき)→繁(しげる・小枝さえだ、露木、幕臣/読本作者) D 2 1 4 1
七郎次(しちろうじ・小津)→正邦(まさくに・小津おつ/寺田、商家/国学) O 4 0 1 3
七郎次郎(しちろうじろう・河合)→専堯(もろたか・河合/仙石、藩士/教育) H 4 4 3 4
七郎次郎(しちろうじろう・荒木田)→久敬(ひさひや・荒木田あらかた/宇治、神職/歌) M 3 7 0 2
- U2139 **七郎太夫**(しちろうだゆう・横山よこやま) ?-? 江前期加賀金沢藩士;関所奉行、
越中礪波郡境町の寺社の由来を著述、1711「越中護国寺由来書」著
七郎大夫(しちろうだゆう・松葉)→風瀑(ふうばく・松葉まつば、俳人) 3 8 9 9
七郎兵衛尉(しちろうべいゑのじょう・宮原)→盛孝(もりたか・宮原、武将/連歌) F 4 4 5 5
七郎平(しちろうべい・長瀬)→真幸(まさき・長瀬ながせ、藩士/国学者) 4 0 0 8
七郎平(しちろうべい・小野)→亮年(すけとし・小野おの/原、国学者) I 2 3 1 8
七郎平(しちろうべい・佐藤)→方達(まさみち・佐藤さとう、藩士/歌人) P 4 0 8 5
- E2171 **七郎兵衛**(しちろうべえ・そろま、本姓;松井まつい) ?-? 江前中期道化人形遣い;1677-1708頃活躍、
京の宇治加賀掾座に所属/道化人形の創始者;江戸より早い、そろまは上方弁でのろまの意、
1677「てんぐのだいら」にそろまの名;眼と眉が垂れ下がった人形に道化の芸が加わる、
そろま人形遣いには外に;そろま六兵衛・そろま浄周などがいる
そろま浄周(そろまじょうしゅう)→浄周(じょうしゅう・そろま、人形遣) N 2 1 4 5
そろま六兵衛(そろまろくべえ)→六兵衛(ろくべえ・そろま、人形遣) B 5 2 0 6
七郎兵衛(しちろうべえ・福富)→親政(ちかまさ・福富ふくとみ、武将/藩士) B 2 8 8 1
七郎兵衛(しちろうべえ・前田)→直玄(なおほる・前田、藩士/書簡) C 3 2 1 0
七郎兵衛(しちろうべえ・加治)→景治(かげはる・加治かじ、武将) L 1 5 2 2
七郎兵衛(しちろうべえ・毛利)→元康(もとやす・毛利/大江、武将/連歌) E 4 4 4 6
七郎兵衛(しちろうべえ・武嶋)→茂敦(しげあつ・武嶋/菅原、幕臣) Q 2 1 5 4
七郎兵衛(しちろうべえ・杉山)→肥前掾(ひぜんのじょう・江戸、浄瑠璃太夫) C 3 7 5 1
七郎兵衛(しちろうべえ・森)→立吟(りゅうぎん・森/小野川、俳人/地唄) D 4 9 4 0
七郎兵衛(しちろうべえ・土橋)→友直(ともなお・土橋つちはし/三宅、儒/教育) V 3 1 7 6
七郎兵衛(しちろうべえ・伊勢屋)→大町(たいちょう・中西、商家/俳人) B 2 6 8 7
七郎兵衛(しちろうべえ・伊勢屋)→大梅(たいばい・中西、大町男/商家/俳人) K 2 6 9 5
七郎兵衛(しちろうべえ・大坂屋)→保寿(ほうじゅ・河原/小河原、商家/書) B 3 9 2 9
七郎兵衛(しちろうべえ・油屋・野井)→安定(あやだてやすだ・野井のい、醸造/国学) B 4 5 4 6
七郎兵衛(しちろうべえ・田代)→鴉山(あざん・肅月斎、田代定直、狂歌) C 1 0 6 9
七郎兵衛(しちろうべえ・古川)→茂正(しげまさ・古川ふるかわ、藩士/地誌) 2 1 7 1
七郎兵衛(しちろうべえ・小津)→正邦(まさくに・小津おつ/寺田、商家/国学) O 4 0 1 3
七郎兵衛(しちろうべえ・高野)→正実(まさざね・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 6 8
七郎兵衛(七郎平しちろうべえ・川村)→碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1
七郎兵衛(しちろうべえ・庄司)→七郎右衛門(しちろうえもん・野附のつき/庄司、大庄屋/儒詩) U 2 1 3 8
七郎兵衛(しちろうべえ・中川)→友直(ともなお・中川なかがわ、国学/歌人) V 3 1 9 0
七郎兵衛(しちろうべえ・内田)→長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) L 3 2 3 1
七郎兵衛(しちろうべえ・神尾)→尚方(なおかた・神尾かみお、国学/歌) L 3 2 6 3
七郎兵衛(しちろうべえ・倉沢)→景久(かげひさ・倉沢くらさわ、国学者) U 1 5 5 6
七六庵(しちろくあん・加藤)→野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0
- M2128 **支枕**(しちん) ?-? 江戸期美濃岩村の俳人;1695不角「昼礫ひるつぶて」入
[転ぶ子に道理を付て叩たく石](昼礫/この石が悪いと屁理屈で泣く子をあやす親心)
士陳(しちん・合川)→珉和(みんわ・合川あいかわ、絵師) H 4 1 2 6

- 子珍(しちん・堀池) → 久道(ひさみち・堀池、藩士/和算家) B 3 7 9 9
 至鎮(しちん・蜂須賀) → 至鎮(よしげ・蜂須賀はちすか/源、藩主/連歌) D 4 7 5 8
 芝椿(しちん・永井) → 星岬(せいこう・永井ながい/土田、俳人) I 2 4 1 2
 U2140 自珍(じちん) ? - ? 江中後期京の俳人;几董門、
 1781-9几董初懐紙入、1790紫暁「鐘筑波」入
 慈鎮(じちん) → 慈円(じえん、天台僧/歌人/史論) 2 1 0 4
 自陳(じちん・野呂瀬) → 与一郎(よいちろう・野呂瀬のろせ、藩士/記録) 4 7 5 2
 自珍斎(じちんさい・高木) → 宗矩(むねのり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6
 質(しつ・伊形) → 靈雨(れいう・伊形いがた、儒者/詩) 5 1 1 1
 質(しつ・吉田) → 竹嶺(ちくれい・吉田、医/儒/歌) D 2 8 9 6
 質(しつ・月形) → 鷗窠(しゅうか・月形つきがた、藩士/儒者) F 2 2 7 2
 質(しつ・秋吉) → 錦水(きんすい・秋吉あきよし、医者) R 1 6 2 5
 質(しつ・桜田) → 虎門(こもん・桜田さくらだ、藩士/儒者) F 1 9 9 0
 質(しつ・渡辺) → 質(ただす・渡辺わたなべ、医者/漢学) P 2 6 6 2
 質(しつ・八木) → 質(ただす・八木やぎ、和算家) P 2 6 6 3
 質(しつ・藤井) → 三郎(さぶろう・藤井、藩士/暦算天文) D 2 0 8 3
 質(しつ・尾芝) → 静所(せいしょ・尾芝おしは、儒者/詩人) I 2 4 7 5
 質(しつ・中山) → 利質(としただ・中山、幕臣/正成研究) M 3 1 7 3
 質(しつ・吉田) → 竹嶺(ちくれい・吉田よしだ、医者/儒/詩歌) D 2 8 9 6
 質(しつ・樋口) → 赤陵(せきりょう・樋口ひぐち、藩儒/詩文) K 2 4 5 4
 質(しつ・青根) → 文臣(ふみおみ・青根あおね、医者/歌人) H 3 8 9 3
 黍(しつ・人見) → 璣岳(きゅう・人見ひとみ、藩士/詩歌) G 1 6 3 0
 執(しつ・中村/西川) → 藁園(こうえん・西川にしかわ、医者/詩) H 1 9 7 0
 実(じつ・源) → 実(さね・源みなもと、廷臣/歌) C 2 0 8 1
 実(じつ・白井) → 華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師) P 1 5 5 9
 実(じつ・渡辺) → 頑石(がんせき・渡辺わたなべ、詩文) R 1 5 1 9
 実(じつ・稲毛) → 実(みのる・稲毛いなげ、国学者/歌) F 4 1 6 8
 実(じつ・小出) → 秀実(ひでみ・小出こいで、幕臣/奉行) D 3 7 8 6
 実(じつ・森本) → 海寿(かいじゅ・森本もりもと/福住、歌人) V 1 5 9 9
 E2172 実阿(じつあ・沙弥、蔭山入道) ? - ? 室町期足利將軍近臣武家、早歌名手;坂阿(はんあ)門、
 1406「拾葉集」写、口阿・清(盛)阿と同門
 実愛(じつあい・正親町三条/嵯峨) → 実愛(さねなる・嵯峨/藤原/正親町三条、大納言/記録) L 2 0 1 7
 U2141 実庵(じつあん;号・武田たけだ、通称;司馬) ? - ? 江後期周防の書家、門弟に読書習字を教授、
 1850刊「書家鑒要」著
 実庵(じつあん・西山) → 宗春(そうしゅん・西山、宗因男/連歌) B 2 5 9 6
 G2111 実位(じつい;法諱) ? - ? 僧;法印、1248成立「万代集和歌集」入;3095
 [ささわくる露より袖のしほるるは世のうきふしの涙なりけり](万代;雑3095)
 E2173 実伊(じつい;法諱、号;南松院、権大納言藤原伊平男) 1223-81 鎌倉期天台宗園城寺僧;実真門、
 顕密を修学、権大僧都、天台法理を受;祐暁・審基門/1271宮廷で静明と摩訶止観を講ず、
 1280大僧正、歌人;1256基家百首歌合・61宗尊親王家百首参加、
 1262三十六人大歌合(父と参加;5首入)/65十五夜歌合参加、1254雲葉集入(権大僧都名)、
 勅撰28首;続後撰(1224)続古(4首404/635/799/1451)続拾(6首)新後撰(3首)玉葉以下、
 [みな人のつひにはさらぬ別れ路ちをさだめなき世とたれかいひけん](続後撰;雑1224)
 E2174 実意(じつい;法諱、楊梅[藤原]親家男) 1393-1454 興福寺法相僧;1427頃数度熊野参詣先達を務む、
 1441興福寺別当/住心院・法雲院住、法印権大僧都/僧正/大僧正に至る、歌人、
 1446伏見宮貞常親王・足利義観を迎え田楽会を主催、1427「熊野詣日記」著、
 1446「文安田楽能記」著、歌;新続古今集1644、
 [うらむべき風だに吹かて散る花のさらぬ別れもうきならひかな](新続古;雑1644)
 実維(じつゐ・今出川) → 晴季(はるすえ・今出川/菊亭、廷臣/故実) G 3 6 4 3
 実惟(じつゐ・阿野) → 実惟(さねただ・阿野あの、権中納言/日記) K 2 0 9 2

- 実為(じつゐ・阿野) → 実為(さねため・阿野あ、南朝内大臣/歌) D 2 0 1 5
- E2175 **実因**(じつゐん;法諱、橘たちばな敏貞男) 946-1000⁵⁵ 天台叡山僧;慈念門;959得度/989権律師、998大僧都、極楽寺座主、大日本国法華経験記・今昔物語集・古事談などに説話入、歌人;玄々集入集、勅撰1首;拾遺集593、
[願ねぎ掛くる日吉ひえの社の木綿襷ゆふだすき草のかき葉も言ことやめて聞け](拾遺;神楽593)、
(木綿襷を懸けて祈願する詞の端々まで草の片葉も囁きを止めて聞いてくれ)、
[実因(;法諱)の号] 具足房僧都/具房僧都/小松僧都
- 実因(じつゐん→さねより・志村) → 五城(ごじょう・志村、儒者/詩人) G 1 9 4 6
- 実尹(じつゐん・今出川) → 実尹(さねただ・さねまさ・今出川/藤原/菊亭、大納言/歌) D 2 0 1 3
- 実胤(じつゐん・正親町) → 実胤(さねたね・正親町おおさまち/藤原、権大納言) K 2 0 9 3
- 実胤(じつゐん/さねたね・四辻) → 公亨(きんみち・四辻よつじ、廷臣/楽譜) R 1 6 8 2
- 実陰(じつゐん・西郊/武者小路) → 実陰(さねかげ・武者小路/藤原/西郊、権大納言/歌人) 2 0 3 5
- 子通(しゅう・林はやし) → 東庵(とうあん・林はやし、医者) 3 1 9 1
- 子通(しゅう・岩永/太田) → 澄元(澄玄ちようげん・太田/岩、本草家) I 2 8 1 2
- 子通(しゅう・江口/高楊) → 浦里(ほり・高楊たかやなぎ/江口、儒者/詩) E 3 9 8 0
- 子通(しゅう・丹治) → 重治(しげはる・丹治たじひ、和算家) S 2 1 3 2
- 子通(しゅう・奥宮) → 慥斎(そうさい・奥宮、儒者/国学/歌) B 2 5 5 8
- 士通(しゅう・源/嶋) → 雅修(がしゅう・源みなもと/嶋しま、絵師) L 1 5 8 5
- 士通(しゅう・陶山) → 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0
- 止通(しゅう・野中) → 兼山(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者) 1 8 1 4
- 師通(しゅう・藤原) → 師通(もろみち・藤原、関白/詩歌人) H 4 4 9 5
- 師通(しゅう・屋代) → 師通(もろみち・屋代やしろ/永邨、幕臣/歌) I 4 4 7 6
- 資通(しゅう・源) → 資通(すけみち・源みなもと、源流音曲/詩歌) D 2 3 0 7
- U2142 **慈通**(じつじう;法諱) ? - ? 1818-30頃日蓮宗身延山西谷談林の学徒、
1822「対座問対」著
- 持通(じつじう・二条) → 持通(もちみち・二条/藤原、関白/歌・連歌) B 4 4 7 1
- 時通(じつじう/ときみち・河鱸/西洞院) → 時慶(ときよし・西洞院//平、廷臣/歌) 3 1 3 8
- U2143 **実運**(じつうん・じちうん;法諱、源みなもと俊房男) 1105-60⁵⁶ 母;藤原重房女、真言醍醐寺の兄勝覚門;出家、1127学頭職/56権律師/僧都/醍醐寺座主17世;元海の跡継嗣、60座主を乗海に譲渡、醍醐寺勝俱胝院を開く、「玄秘抄」「金宝集」「諸尊要鈔」「秘蔵金宝口決」「別尊私記」著、「妙抄口伝」「保元記」「両界鈔」「摩尼鈔」「宗要抄」/1160「嫡々三重相承秘口決」著、外著多数、
[実運(;法諱)の初法諱/号]初法諱;明海、号;勝俱胝院しょうぐわいん僧都/廟僧都
- U2144 **実慧**(じつゑ・じちゑ;法諱、俗姓;佐伯) 786-847⁶² 讃岐多度の真言僧;初め南都で唯識を修学、空海門、816空海の命で高野山開創の事業、827河内に観心寺創建、836律師;東寺長者;空海を継嗣、840少僧都、晩年は河内(or山城深草)の檜尾に法禅寺建立;同寺没、門弟に恵運・眞紹など、「広略観」「阿字観用心口決」「胎蔵略次第」「東寺灌頂記」「檜尾口訣ひのおくけつ」「檜尾口伝」、「檜尾護摩口決護摩法略鈔」「檜尾両界次第」「蓮華部心軌檜尾訣」/843「檜尾式」外著多数、
[実慧(;法諱)の号]号;檜尾僧都ひのおのそうぞ、諡号;道興大師
- U2145 **実慧**(実恵じつゑ;法諱) ? - ? 室町後期の浄土僧、
日蓮宗徒へ反論書「摧邪興正集」
- 実恵(じつゑ;法名) → 継尊(けいそん・華園はなぞの、真宗僧) N 1 8 8 8
- U2146 **実睿**(じつゑい;法諱) ? - ? 平安中期天台宗園城寺の上座、
「地藏菩薩靈験記」原撰本を編纂
- E2176 **実叡**(じつゑい;法諱・別法諱;実疑/俗姓;藤原、得業覚尹男) ?-? 平安末鎌倉初期の法相宗興福寺僧、治承1177-81頃大乘院の大法師、1191「南都巡礼記」(皇后宮[藤原多子?])の巡礼次第記録、「南都七大寺縁起」著、栄縁・円教の父、
歌人;続詞花集・檜葉集入(雑921;1185[元暦2]殷富門院大輔との贈答歌)、新続古今集887、
[思ひ出でよ今宵の月の光をばたれも雲井のよそになるとも](新続古;離別887)、
(わらはのみちの国に罷るとき人々別れを惜しむ詠歌)
- U2147 **実永**(じつゑい) ? - ? 連歌;1476「表佐ひょうさ/おさ千句」参;専順宗祇らと

- E2177 **実永**(じつえい、三井寺定光坊阿闍梨)?-? 芭蕉・路通を仲介、1695行状記後援
実栄(じつえい・清水谷) → 実栄(さねひで・清水谷/藤原、権大納言) L 2 0 2 8
- U2148 **漆園**(しつえん・漆原うるしばら、名;寧景)1771-1824⁵⁴ 讃岐山田郡三谷の絵師/詩人、画;長町竹石門、
山水画に長ず、「三溪湖水詩」、「漆園詩集」著、
[漆園(;号)の字/通称]字;千齡、通称;弥義右衛門
漆園(漆園しつえん・王) → 治本(じほん・王お、清人/詩文) Z 2 1 7 8
- a2151 **実円**(じつえん;法諱、源朝実[従五下下野守]男?)?-? 平安期;園城寺?僧;僧都/已講?、
歌人;1165清輔[続詞花集]入、朝実男なら;実基(従五上/崇徳院判官代者)の弟、
[七夕の心地こそすれあやめ草年に一たびつまに見ゆれば](続詞花;夏135/五月五日)
- a2136 **実円**(じつえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[檜葉集]入、
[秋ぎりのたつとはきけどのべごとにもぬしきだまらぬふぢばかまかな](檜葉;秋222)
- U2149 **実円**(じつえん;法諱、藤原[徳大寺]公隆男)1232-1306⁷⁵ 天台宗園城寺僧;1265仙朝門;灌頂を受、
1294別当/園城寺大僧正、「法華経示珠指上卷破文」著、
[実円(;法諱)の通称]花台房法印
- U2150 **実円**(じつえん;法諱) ? - ? 1495存 真言宗権大僧都、
千本釈迦堂住(新撰菟玖波集作者部類鶴岡本)or法成院住(同大永本)?、
連歌;新撰菟玖波集1句入
実延(じつえん/さねのぶ?・斎藤) → 大雅(たいが・斎藤さいとう、藩士/儒者) J 2 6 4 0
実遠(じつえん) すべて → 実遠(さねとお)
- F2111 **漆翁**(しつおう・3代中村なかむら宗哲)1699-1776⁷⁸ 江中期;京の千家方十職の塗師3代目中村宗哲、
幼少時両親に死別/表千家6代覚々斎・7代如心斎に養育される、若くして「七事式」、
代表作;「覚々斎好」「ブルブリ香合」「少庵好」「彭祖棗」制作、
俳人;仙鶴門、与謝蕪村・几董・仙鶴と交流、1750「籠耳」編(:師3回忌追善集)、
1733巴人「一夜松」入/72几董「其雪影」1句入、
[暫しばらくはあたり隣の巨燧哉](其雪影;巻尾391/あたり隣は隣近所/自分はまだ我慢)、
[漆翁(;号)の幼名/通称/別号]幼名;鍋千代、通称;八兵衛、
別号;宗哲/勇斎/方寸庵/漆桶しとう、俳号;紹朴/公粥こういく/公粥/芹生、
- E2178 **実翁**(じつおう) ? - ? 江前期真言僧;高野山西室院権僧正、
1621注釈書「性霊集鈔」(12冊)著
実応院(じつおういん;諡号) → 竜山(りゅうざん;法諱、真宗大谷派僧) E 4 9 2 2
室屋(しつおく・守田) → 旁通(まさみち・守田もりた、国学者/歌人) T 4 0 2 2
実音(じつおん・三条) → 実音(さねおと・三条/正親町三条/藤原、准大臣/歌) C 2 0 9 4
蛭牙(しつが) → 羅口(らこう、俳人/羅人門) B 4 8 3 1
実家(じつか・一条) → 実家(さねいえ・一条/町/藤原、太政大臣/歌人) C 2 0 8 9
実夏(じつか・洞院) → 実夏(さねなつ・洞院/藤原/山階、内大臣/歌) D 2 0 4 0
- N2114 **実雅**(じつが;法諱) ? - ? 江後期;美作英多郡閭武郷の真言宗大聖寺の僧(法師)、
歌人;平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
十華庵(じつかあん・橋本) → 素孝(そこう・橋本はしもと、俳人) J 2 5 7 0
- E2179 **実快**(じつがい;法諱、右大臣藤原公能男)1153-? 1204存 天台宗叡山僧;1183法眼/法印、歌人;
1195民部卿経房家歌合参加(;右大臣法眼名)/1200石清水若宮歌合参加、月詣集;4首入、
勅撰;千載集2首214・699、
[堰せきとむる山水下にみがくれてすみけるものを秋のけしきは](千載;夏214泉辺納涼)、
(水隠れと身隠れ・澄みと住みを掛る/秋を擬人化)
- E2180 **実海**(じつかい;法諱) 1446 - 1533⁸⁸ 武蔵川崎(or品川)の天台宗学僧;常陸月山寺尊舜門?、
関東天台の巨匠、論義に長ず/川越喜多院住;著述に専念、太田道灌の帰依を受け歌人;
「塩味集」「塩味集見聞」「阿弥陀経科註」「元品能治」「円頓者見聞」/1526「轍塵抄」著、
「法花訳和集」「訳和和歌集」編、「十妙義本迹浅深」「五味儀案立」「続綱目抄」著、外編著多数
- U2152 **実海**(じつかい;法諱、法名;神蓮社騰誉)?-1820 浄土僧;江戸芝増上寺の学頭、
1795将軍家斉の命で檀林大巖寺34世/のち1808檀林大光院住職/09伝通院住職、

1818増上寺57世;大僧正、在職3年;病により隠居、1819「浄土宗要集聴書」注、
「三縁山三大蔵目録」著

実戒(じっかい;字) → 亮阿(りょうあ;法諱・実戒、天台僧) G 4 9 0 2

実解(じっかい;字) → 信晧(しんぎょう;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 2 9 0

U2153 **実外**(じつがい;法諱・格峰;道号、号;断橋、鍋島直孝、直朝男) 1652-1715⁶⁴ 肥前鹿島黄檗僧;桂巖門、
1715「禅林口実混名集」、「東渡南游記」著、肥前鹿島普明寺発願(桂巖開山)

実覚(じつかく;法名) → 実冬(さねふゆ・滋野井/藤原、権大納言/歌) D 2 0 5 7

実岳(じつがく・武者小路) → 実岳(さねおか/さねたけ・武者小路/藤原、歌人) C 2 0 9 2

蛭牙斎(初世しつがさい) → 羅人(らじん・山口、1699-1752、書肆/俳人) B 4 8 4 1

蛭牙斎(2世しつがさい) → 波光(はこう・山口、羅人門俳人) E 3 6 2 4

蛭牙斎(しつがさい) → 羅院(らいん・中井、1709-1779、俳人) B 4 8 0 0

蛭牙斎(しつがさい) → 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2

室丸(しつがん・山野) → 室丸(むろまる・山野やまの、国学/歌人) E 4 2 3 2

U2154 **実貫**(じつかん;法諱・泰音;字、俗姓;丹下) 1666-1720⁵⁵ 越前丸岡の真言僧;宝積院快心門;出家、
のち智積院入;運徹門、1719寺社奉行土井利忠の命で江戸真福寺12世、画・詩に長ず、
陸奥仙台藩主伊達公と詩・書について討論、仙台大崎八幡神社別当寺の龍宝寺25世、
1699「付法伝纂解序註」1703「秘蔵宝鑰纂解抄」10「光明真言経照闇鈔纂霊記」著、
1710「桜陰腐談」1712「性霊集便蒙鈔」著、
1717(享保2)国分寺の依頼で漢文「奥州国分寺縁起」・仮名交文「護国山国分寺来由記」著、
1718「竹駒神社縁起」、「性霊集文考」、「性霊集考語」、「国郡寺社縁起」外著多数、
[実貫の別法諱/号]別法諱;実政(じつせい、号;梅国

U2155 **実観**(じつかん;法諱・体具;字、俗姓;中根、坊城俊広の猶子) 1661-1744⁸⁴ 三河岡崎の天台僧;
1666(6歳)江戸寛永寺常照院実俊門;1670(10歳)師に随い叡山延暦寺浄教房入;72剃度、
1682浄教房住持;房名を実蔵房に改称、1707東塔の執行;命により寛永寺凌雲院住持、
武蔵川越喜多院を兼領、1739辞任;明静院に退隠、探題/大僧正、「実観法師家集」著、
「対問法語」「仁王経法則」「堺浦天満宮御法楽百首」「玄義節要随記」「誦誦万部供養法則」、
1685「菩薩戒義疏会解」98「曼殊院宮伝法灌頂記」1729「般若心経講釈」外著書多数、
[実観(;法諱)の別法諱/号]別法諱;実増、号;念生院

実鑿(じつがん・僧都) → 実誉(じつよ、権少僧都/続千載歌人) F 2 1 1 9

実寛(じつかん/さねひろ・正親町) → 公蔭(きんかげ・正親町おおきまち、廷臣/歌) D 1 6 8 5

実幹(じつかん・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6

U2156 **実巖**(じつがん;道号・照海しょうかい;法諱、俗姓;山本) 1697-? 1750^存 遠江都田邑の曹洞僧、
1706(10歳)遠江竜泉寺の法山徹護門;得度、諸師に参禅/1728竜泉寺10世大興嘯禅の法嗣、
1733竜泉寺11世住持、「竜泉源皎歴志」編、
[実巖照海の初道号/号]初道号;為眞、号;実相/性戒/大脱像雲

U2157 **実巖**(じつがん;法諱・千丈せんじょう;道号、俗姓;西片) 1722-1802⁸¹ 近江高島郡の曹洞僧;拈華実参門、
出家/1750嗣法、1766信州大澤寺住持/1779松代長国寺住持/92近江栗津に無名庵開創、
晩年は近江海蔵院に隠棲、詩文;大鵬正鯤門、1766「千丈巖和尚語録」71「雅臭編」、
1771「成就禅院記」76「正真院記」85「日本寺碑記」92「弾虎像記」1801「幽谷余韻」外著多数、

実眼(じつがん;法諱) → 実眼(じつげん;法諱、法師/歌人) a 2 1 3 7

実鑿僧都(じつかんそうどう) → 実誉(じつよ、権少僧都/続千載歌人) F 2 1 1 9

実季(じつき) すべて → 実季(さねすえ)

実紀(じつき・姉小路) → 実紀(さねえ・姉小路あねがこうじ/藤原、廷臣/歌人) D 2 0 4 5

実起(じつき・小倉) → 実起(さねおき・小倉おぐら/藤原/藪、権大納言/配流) O 2 0 0 4

実起(じつき・三条) → 実起(さねおき・三条/転法輪三条/藤原、右大臣/日記) K 2 0 7 7

実基(じつき・徳大寺) → 実基(さねもと・徳大寺/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 6 9

実基(じつき・源) → 実基(さねもと・源、地方官/歌) D 2 0 6 8

実熙(じつき・洞院) → 実熙(さねひろ・洞院とういん/藤原、廷臣/故実) D 2 0 5 5

実熙(じつき・清水谷) → 実熙(さねひろ・清水谷しみずたに/藤原、廷臣/歌) D 2 0 5 4

実達(じつき・園池) → 実達(さねかつ・園池/藤原、記録) K 2 0 8 2

- 実疑(じつぎ) → 実叡(じつゑい、興福寺法相僧/歌) E 2 1 7 6
 昵吉(じつきち・増子) → 三左衛門(さんざえもん・増子まこ、名主/農業振興) M 2 0 2 5
 実躬(じつきゆう・三条) → 実躬(さねみ・三条/藤原、権大納言/歌) D 2 0 6 3
 実久(じつきゆう・橋本) → 実久(さねひさ・橋本/藤原、権大納言/歌) D 2 0 4 7
 実休(じつきゆう・伊東) → 実休(さねやす・伊東/伊藤、歌人) L 2 0 4 6
 実教(じつきょう・三条西) → 実教(さねのり・三条西/藤原、廷臣/歌) D 2 0 4 4
 実匡(じつきょう・田村/土肥) → 石斎(せきさい・土肥どひ/田村、藩士/儒者) K 2 4 0 7
 U2158 **実暁**(じつぎょう) ? - ? 室町末期興福寺光明院僧、日記「実暁記」
 実業(じつぎょう・堀/清水谷) → 実業(さねなり・清水谷/藤原/三条西/堀、権大納言/歌) 2 0 4 4
 十金堂(じっきんどう、古銭蒐集) → 願斎(ごさい・長良ながら、医者/儒者) G 1 9 5 0
 E2181 **十九**(じゅうく・一編舎いっぺんしゃ、姓;蒲原/初姓;相良、相良求馬敬真2男) 1783-5775 蒲原孝古の養子、
 家督嗣;肥前佐賀藩士、1808フェートン号事件により浪人/1811再任130石、1830隠居、
 戯作;滑稽本作者、1848-60頃「伊勢道中不案内記」、「田舎狂言幕の内」「おどけ敵討」、
 「年中行司」「反魂二世物語」「町方盛衰記」「薬師ちよんがれ」「六韃三略猫の巻」外著多数、
 [一編舎十九(;号)の名/通称]名;孝栄、通称;権蔵/大蔵
 疾空(しゅうく;号) → 仙霊(せんれい;法諱・疾空、浄土宗西山派僧) F 2 4 0 2
 実空(じゅうく;法名) → 実氏(さねうじ・西園寺/藤原、太政大臣/歌) 2 0 3 2
 実空(じゅうく;号) → 顕貞(けんてい;法諱、浄土宗西山派僧) L 1 8 5 0
 実空(じゅうく;号) → 俊瑞(しゅんずい;法諱、浄土宗西山派僧) L 2 1 2 2
 実勲(じゅうくん・三条西) → 実勲(さねいそ・三条西/藤原、権中納言) K 2 0 7 3
 U2159 **実継**(じつけい;法諱、一条公保男) 1154-120451 真言僧;小野の行海・雅宝門;伝法灌頂を受、
 のち醍醐の勝賢に許可灌頂を受、1185法眼/1193醍醐寺23世座主/1201清滝社の祈雨の法、
 その功により1202大僧都/03病により座主職辞任;成賢が継嗣、「曼荼羅供作法」著、
 [実継(;法諱)の初法諱/通称]初法諱;実信、通称;萱坊大僧都けんぼうのだいそうず
 実兄(じつがい・宇野) → 実兄(さねえ・宇野の、国学者) K 2 0 7 5
 実継(じつがい・三条) → 実継(さねつぐ・三条/正親町三条/藤原、廷臣/歌) D 2 0 1 8
 実経(じつがい・藤原) → 実経(さねつね・藤原、行成男/廷臣/歌) F 2 0 6 1
 実経(じつがい・九条/一条) → 実経(さねつね・一条/藤原/九条、一条祖/関白・摂政/歌) D 2 0 2 1
 実啓(じつがい・齋藤) → 操(みさお・齋藤さいとう、神職/国学者) J 4 1 1 6
 実敬(じつがい・中村) → 実敬(さねたか・中村なかむら、陪臣/歌人) O 2 0 9 6
 十恵房(じつがいぼう) → 順高(じゅんこう;法諱、華嚴僧) M 2 1 8 2
 実潔(じつけつ・滋野井/押小路) → 実潔(さねきよ・押小路/藤原/滋野井、廷臣/記録) K 2 0 8 5
 E2182 **実顕**(じつけん;法諱、号;仙蔵坊、藤原顕賢男?) 1125-? 1185(61歳)存 天台叡山僧;1183法橋、
 1185法眼、歌人;1172法輪寺歌合に出詠?、勅撰2首;新千載1322/新拾遺1214、
 [梓弓あざゆみひく手あまたに成りぬとももとの心をわすれずもがな]
 (新千;恋1322/法印実顕名)
 U2160 **実賢**(じつけん;法諱・胎蓮たいれん;字、左馬権頭藤原基輔男) 1176-124974 平安末鎌倉期真言醍醐寺僧、
 1196三宝院で勝賢より具支灌頂を受/1200金剛王院賢海より重ねて具支灌頂を受、
 醍醐寺金剛王院5世/1236醍醐寺33世座主/1240東寺四長者/41大僧正/49東寺長者法務、
 「三宝院灌頂秘口決」「三重事」「増益護摩次第」「祖師伝来口伝」/1246「実賢記」外著多数、
 連歌;菟玖波集1句入、
 [元本や無明住地のしたにすむ](菟玖波;八釈教627)
 (前句;こひのふるねをたつよしもかな)、
 [実賢(;法諱)の通称] 大夫僧都/金剛王院大僧正
 B2156 **実顕**(じつけん;法諱、俗姓;藤原、毘沙門堂僧正実尊男) 1339-9052 内大臣三条公茂孫、
 天台宗園城寺僧、覚誉・清顕・経深門、晩年は如意峰西方院に退隠、「法華顕味抄」著、
 [実顕(;法諱)の通称] 毘沙門堂僧正/本一上人
 実兼(じつけん・藤原) → 実兼(さねかね・藤原ふじむら、詩/説話筆録) K 2 0 8 4
 実兼(じつけん・西園寺) → 実兼(さねかね・西園寺/藤原、太政大臣/歌) 2 0 3 7
 実顕(じつけん・阿野) → 実顕(さねあき・阿野、権大納言/歌/連歌) C 2 0 8 3

- 実頭(じつげん・三条) → 実頭(さねあき・三条/転法輪三条/藤原、右大臣/日記) K 2 0 6 8
 実堅(じつげん・徳大寺) → 実堅(さねみ・徳大寺/藤原、内大臣/歌) L 2 0 3 5
 実賢(じつげん・長井) → 実賢(さねかた・長井ながい、藩士/歌人) P 2 0 0 0
 実建(じつげん・武者小路) → 実建(さねたけ・武者小路/藤原、廷臣) K 2 0 8 9
 実憲(じつげん・徳大寺) → 実憲(さねのり・徳大寺/藤原、権大納言/記録) L 2 0 2 3
- E2183 **実源**(じつげん;法諱/法師) 1024-1096 73 肥後の天台僧;1088叡山西塔院主/91権律師、
 歌人:勅撰2首;後拾遺613/金葉403、続詞花集入、
 [なき名立つ人だに世にはあるものを君恋ふる身と知られぬぞ憂き](後拾;恋613/初恋)
- a2135 **実玄**(じつげん;法諱、藤原貞憲男)?-? 平安末鎌倉期僧;京の東寺の僧、
 光憲・貞覚(権大僧正)・貞慶(1155-1213/笠置解脱上人)・貞円の兄弟、
 興福寺覚憲(1131-1212)の甥、
 1237刊[檜葉集]4首入の実玄法師と同一?
 [大僧都経円(1188-?)さまざまの花の歌これかれによませ侍りけるに盛りににはほふ花、
 おしなべてさくや桜のはなかざり雲も霞もにはほふ春風](檜葉;春39/実玄法師)
- a2137 **実眼**(じつげん;法諱、) ? - ? 平安末鎌倉期;南都の僧/法師、
 1237刊[檜葉集]2首入、
 [故郷落葉、
 ふる里のさほの山べにちるもみぢかへらぬ人もにしきをぞきる](檜葉;冬298)
- U2161 **実元**(じつげん;法諱) ? - ? 鎌倉前期の僧;法橋/歌人;
 1200石清水若宮歌合参加;左方(右方;源光行)、
 [まがへつるたかねの花を来て見ればまことの雲は麓にぞある](若宮歌合;廿八番左55)
- U2162 **実源**(じつげん;法諱、本姓;藤原/日野氏流、権大僧都兼誉男) 1271-1353 83 興福寺法相僧、
 1347興福寺権別当/法印、連歌;菟玖波集1句入(;前大僧正実源名)、
 [待し夜もなかでやあらむ郭公ほととぎす](菟玖波;発句2083)
 次記の南朝歌人実源と同一か? → 実源(じつげん、新葉集歌人) U 2 1 6 3
- U2163 **実源**(じつげん;法諱) ? - ? 南朝において法印/歌;新葉集1253
 [吉野川くだす筏のつなで縄ひく人なしに身を歎つつ](新葉;雑1253)、
 前記の兼誉男と同一か? → 実源(じつげん、連歌;菟玖波集入) U 2 1 6 2
- U2164 **実源**(じつげん;法諱) ? - ? 室町期天台僧;叡山光聚房住;僧正、
 「無題天台宗古記録」「六即義案立草木成仏」著
- 実彦(じつげん) → 実彦(さねひこ、連歌師) D 2 0 4 6
 実元(じつげん・郷) → 東岡(とうこう・郷ごう、儒者/詩文) D 3 1 8 5
 実弦(じつげん;字) → 称阿(しょうあ;号、浄土僧) G 2 2 4 8
 実巖(じつげん;法諱) → 実巖(じつごん/じつげん;法諱、真言僧) U 2 1 6 8
 十故(じつこ;字) → 存統(ぞんとう;法諱、浄土僧、天文地理) F 2 5 6 8
 実古(じつこ・三条) → 実古(さねひさ・三条さんじょう/藤原、参議/歌) P 2 0 9 8
 実悟(じつご;字) → 兼了(けんりょう;法諱、真宗僧) M 1 8 9 7
- U2165 **実弘**(じつこう;法諱) ? - 1262 鎌倉期華嚴僧;東大寺尊勝院の宗性門、
 1242「銘肝落涙鈔」「調伏意馬抄」/46-47「華嚴経探玄記抄」48「円覚経大疏要文」外著多数
- U2166 **実孝**(じつこう;法諱、本願寺兼寿[蓮如]12男) 1495-1553 59 大和真宗本願寺派本善寺住職、
 1551法印・権大僧都、「蓮能御往生記」、
 [実孝(;法諱)の別法諱/通称]別法諱;兼就/実玄/兼継、通称;侍従
- E2185 **十口**(じつこう・青木/柳/広瀬) 1723-91 69 江中期京綾小路通大宮東入町の俳人;貞佐門、
 師に随い讃岐住;9年間滞在/1753帰京、音韻学修学、「閑居友」「蔭の舞」「旅亭記」著、
 1771「俳諧家譜拾遺集」87「俳諧点業家譜」89「俳林三十二宗」91「俳諧家譜後拾遺」編、
 [十口(;号)の別号]貞怱/佐徳/意心斎/柳羊子/兌庵/清古散人
- E2186 **十江**(じつこう・そく・林はやし/初姓;高野、名;友蔭) 1777-1813 37 常陸水戸の篆刻家/林家の養嗣子、
 文人画家、江戸で谷文晁と交流、「霜葉集」「十江印譜」「常陸言考」「街巷新話」「画論新註」、
 「初冠」「蝦夷雑談」「解頤新調」「玉緒よりそへ」「常陸異聞録」外著多数、「十江遺文」、
 [十江(;号)の字/通称/別号]字;長羽/子翼/雲夫、通称;西三郎/長次郎、

別号;市中庵/花中逸人/風狂野郎、栗田維良これよしの兄

実光(じつこう・梅洲) → 梅洲(ばいしゅう・実光、黄檗僧) B 3 6 4 6

実光(じつこう) 上記以外すべて → 実光(さねみつ)

実行(じつこう・古久保) → 実行(さねゆき・古久保ふるくぼ、神職/国学) P 2 0 2 8

実孝(じつこう・徳大寺) → 実孝(さねたか・徳大寺/藤原/野宮、権中納言/歌) D 2 0 1 1

実香(じつこう・近衛) → 実香(さねか・近衛/藤原、権中納言/歌) C 2 0 9 5

実香(じつこう・三条) → 実香(さねか・三条/転法輪三条/藤原、太政大臣) K 2 0 7 9

実厚(じつこう・衛藤) → 実厚(さねあつ・衛藤えとう、国学) O 2 0 0 1

実興(じつこう・藤原) → 実興(さねおき・藤原、廷臣/歌人) C 2 0 9 3

実綱(じつこう) すべて → 実綱(さねつな)

実衡(じつこう・西園寺) → 実衡(さねひら・西園寺/藤原、内大臣/歌) D 2 0 5 2

実糴(じつこう・小倉/林) → 実糴(さねあき・小倉おぐら、桜舎、幕臣/歌) K 2 0 6 9

実行院(じつこういん) → 僧朗(そうろう; 法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 2 3

U2167 十石(じつこく・和田原わたはら)? - ? 大阪の雑俳点者;

1725「千国集」評/25大立たいりゅう「和国丸わこくまる」評入

実国(じつこく・藤原) → 実国(さねくに・藤原/滋野井、廷臣/歌) D 2 0 0 2

執古斎(しつこさい・伊藤) → 長秋(ながあき・伊藤、書家) D 3 2 0 9

実骨(じつこく・渋谷) → 三貫(さんかん・渋谷しぶや、絵師) L 2 0 9 4

実悟房(じつごぼう; 字) → 観心(かんしん; 法諱・実悟房、真言僧) R 1 5 0 9

U2168 実巖(じつがん/じつげん; 法諱)? - 1185 真言僧; 律師/山城の安祥寺12世、

1143安祥寺正法金剛院で宗意より伝法灌頂受、安祥寺大勝金剛院建立/安祥寺流2代嫡詞、
後白河法皇の帰敬を受け1181太元別当/85権僧正、「護摩私次第」「護摩口伝鈔」、
「伝法灌頂手日記鈔」「伝法灌頂三卷式」「宅鎮御修法日記私」「附法相承記」「目六」著、
[実巖(; 法諱)の通称] 本願律師/筑前律師

E2187 実巖(じつがん; 法諱、内大臣洞院実夏男) 1338-? 1387存 南北期天台僧; 叡山阿弥陀房住、
檀那院別当、のち法性寺座主/大僧正、1373「山密往来」84「四度伝授次第」「伝授次第」、
「1387指微韻鑑略抄」、「細々要記」「韻鏡秘決」「法曼流灌頂口決」著、
[実巖(; 法諱)の通称] 靈山僧正

実言院(じつごんいん) → 恵景(えけい・実言院、真宗大谷派僧) D 1 3 7 6

実巖院(じつごんいん; 号) → 超尊(ちようそん; 法諱、真宗大谷派僧) J 2 8 4 3

E2188 執斎(しつさい・三輪みわ/初姓; 沢村/別姓; 大村/真野、沢村自三[三輪親重]2男) 1669-1744 76 京の生、
綾小路東洞院の医者の家; 幼時両親に死別/父の従弟の豪商大村可全(白木屋)に養育、
のち真野家を継嗣/のち本姓の三輪に復す、1686江戸で儒者; 1687佐藤直方門/朱子学修学、
1690直方の推挙で上州前橋藩儒官; 95致仕、1697帰京; 陽明学を研究、
丹波篠山藩主松平信庸に出仕; 京で勤務、1716江戸在住; 下谷明倫堂を開塾; 子弟教育、
陽明学伝播普及に尽力、歌学; 中院通茂・通躬門・河瀬菅雄門、門人川田雄琴が明倫堂継嗣、
1702「執斎日用心法」24「古本大学講義」26「堯典和釈」27「四言教講義」31「正享問答」著、
「格物辨議」「執斎記」「執斎和歌集」著、「執斎家集」「執斎全書」「三輪執斎遺稿」外著多数、
[執斎(; 号)の名/通称/別号] 名; 希賢、通称; 善蔵、別号; 神子山/躬耕廬/光斎/弄月/明倫堂

E2189 質斎(しつさい・河浪かわなみ/野田、名; 道義、野田俊信男) 1672-1734 63 肥前佐賀の儒者; 石丸良尚門、
のち河浪自安門; 養嗣子、1699京に遊学; 中村惕斎(きさい)門、帰郷; 養父を継嗣;
佐賀郷校東原庵舎教授、「一元気説」「先君行状賦」著、
[質斎(; 号)の字/通称] 字; 路甫、通称; 所兵衛

執斎(しつさい・川田) → 蘆江(おうこう・川田かわた、儒者) B 1 4 6 5

瑟斎(しつさい・大地) → 東川(とうせん・大地おおち、藩士、儒者/詩) G 3 1 1 2

U2169 実濟(じつさい; 法諱) ? - ? 陸前の真言僧; 仙台坊主町の宝珠院童宝寺11世、
連歌: 1585伊達政宗「裏方十句」参加/1616「元和二年正月七日政宗忠宗等若菜連歌」参加

U2170 実斎(じつさい・藤木ふじのき、名; 福穂/游、田中葵園男) 1824-59 36 藤木福明の養子、
佐渡相川の儒者; 家学、1833養父と江戸へ; 昌平黌に修学、相川の地方役・山方役・目付、
病弱のため赤泊番所の定役、詩人、居を小滄浪亭と号す、「小滄浪亭詩集」「趨亭日抄」著、

[実齋(；号)の字/通称/別号]字;子秀/子穰、通称;茂次郎、別号;竹窓/北陞ほくせい/滄浪

実齋(じつさい) → 嘉長(よしなが・宮内、詩人/国学) F 4 7 3 1
実齋(じつさい・小阪) → 北嵩(ほくすう・小阪/郷、儒者/詩) D 3 9 5 2
実齋(じつさい・饒田) → 西疇(せいちゆう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3
実齋(じつさい・宮内) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1
実齋(じつさい・伊藤) → 臨阜(りんこう・伊藤いとう、儒者) K 4 9 2 5
実齋(じつさい) → 雲潭(うんたん・鎬木かぶらぎ、絵師) D 1 2 9 4
実材母(じつさいのはは) → 実材母(さねきののはは・西園寺、歌人) C 2 0 9 9
十作(じっさく・稲葉) → 英好(ひでたか・稲葉いなば、国学者) I 3 7 5 2

E2190 実算(じつさん;法諱) ? - ? 南北期?僧/法印、歌人、1384成立「新後拾遺集」1首入、
[つれなくてこぬ夜数かく涙河よどむ逢瀬あふせはいかがたのまん](新後拾:恋1026)

E2191 実山(じつざん・立花たちばな、名;重根、福岡藩家老重種げね2男) 1655-1708幽囚殺害54 筑前福岡藩士、
1662藩主黒田光之の近習;光之の隠居後も隠宅頭取として出仕/1694禄2千5百50石、
1707光之没後に致仕;住吉松月庵に閑居;藩主黒田綱政により幽囚;1708殺害される、
学芸に精通/書家;定家流/歌人;中院通茂門;古今伝授を受/参禅;卍山道白・古外宗少門、
茶人;千利休流の南坊宗啓の「南方録」を発見し書写筆録、「梵字艸」「松がね」「南窓随筆」、
1682「百人一首抄」94「実山茶湯覚書」1700「壺中炉談」04「帰路辨疑」、「病臥随筆」著、
元啓「山里和歌集」(1833/66刊)入、東林寺開、貝原益軒・木下順庵を親交、寧拙齋宗璞の兄、
[実山(；号)の通称/別号]通称;五郎左衛門、

別号;宗有/而生齋/松窠子/寸魚堂/来也堂/松月庵

実山(じつざん;道号・瑞門) → 瑞門(ずいもん;法諱・実山、曹洞僧) F 2 3 0 4
実事求是書屋(じつじきせうぜいしよおく) → 椽齋(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7
実子(じつし・正親町実明女) → 宣光門院(せんこうもんいん、花園天皇妃) F 2 4 3 7
実之(じつし・平) → 実之(さねゆき・平たいら、武士/歌人) Q 2 0 1 0
実之(じつし/さねゆき・山田) → 公章(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9
実氏(じつし・西園寺) → 実氏(さねうじ・西園寺/藤原、太政大臣/歌) 2 0 3 2
実枝(じつし・三条西) → 実枝(さねき・三条西/藤原、内大臣/歌) 2 0 3 3
実資(じつし・藤原) → 実資(さねすけ・藤原、右大臣/故実/歌) 2 0 3 9
実治(じつじ・三条) → 実治(さねはる・三条/転法輪三条、左大臣) L 2 0 2 6
実持(じつじ・藤原) → 実持(さねもち・藤原、権大納言/歌) L 2 0 3 9
実時(じつじ) すべて → 実時(さねとき)

E2192 室子女王(しむしじよおう、格宮ただのみや、直仁親王女) 1736-56早世21 追号:格心院宮、公仁親王の妃、
歌人:「格宮ただのみや詠草」、「今出川十首和歌」「月讃歌」「桂紀行」「瀟湘八景和歌」著

F2152 瑟瑟(しつしつ・織田おだ、名;政江、津田貞秀女) 1779-183254 近江御園村川合寺の生、画を習得、
彦根藩士石居信章を婿とする/津田貞逸の母、1813信章が病没;上京し絵師;三熊露香門、
織田瑟瑟と名告り力強い桜の画を専門に描く;[織田桜]の異名をとる、法号;専浄院、
1828「異牡丹桜真図」「八重伊勢桜図」、「異有明桜真図」外70余点現存

瑟瑟菴(しつしつあん) → 支考(しこう・各務かがみ/村瀬、俳人) 2 1 1 9
蟋蟀亭(しつしつてい) → 庭李(ていり・蟋蟀亭、狂歌) B 3 0 7 7

E2193 実守(じつしゅ) ? - ? 鎌倉期の真言僧;釈迦院真言学僧、
1389「平他字類抄」の写本奥書

実守(じつしゅ・藤原) → 実守(さねもり・藤原、廷臣/歌人) D 2 0 7 1
実守(じつしゅ・洞院) → 実守(さねもり・洞院/藤原、南朝内大臣) L 2 0 4 3
実珠(じつしゅ;法諱) → 竜海(りゅうかい;道号・実珠、黄檗僧) L 4 9 3 5
実種(じつしゅ・今出川) → 実種(さねたね・今出川/藤原/菊亭/西園寺、廷臣) K 2 0 9 5
実種(じつしゅ・姉小路/風早) → 実種(さねたね・風早/藤原/姉小路、廷臣/茶・香道) K 2 0 9 4

E2194 実寿(じつじゅ;法諱、太政大臣後徳大寺公孝男?) ?-? 鎌倉後期の僧;1303頃権少僧都、
のち1320頃法印・1359頃には僧正に至る、
歌人/勅撰3首:新後撰711(権少僧都)/続千載960(法印)/新千載917(僧正)、
[夜もすがら窓のともし火かかげてもふみみる道になほ迷ふかな](新後撰;釈教711)

- 実寿(じつじゆ・茶室) → 康哉(やすなり・茶室ちやしつ、暦算家/歌人) C 4 5 4 7
- E2195 実修(じつしゆ;法諱、権中納言藤原伊実男) 1145-? 1185存 平安後期天台叡山僧;快修門、
本覚院法印/1179妙香院権大僧都/宝幢院檢校、歌人:千載集1007、
[世をいとふ心は月をしたへばや山の端はにのみ思ひ入るらん](千載;雑1007/やは疑問)
- U2171 実秀(じつしゆ;法諱) 1560 - 1615 56歳 法相僧;法隆寺阿弥陀院住持、権律師、榮胤の師、
1607「太子伝撰集鈔別要」著
- U2172 十拾(じっしゆ) ? - ? 江中期俳人;
1772几董「其雪影」1句(;275)、1777江涯こうがい「仮日記」1句入(;107)、
[雪にせば何丈積まん五月雨さつきあめ](其雪影;巻尾275)
[世に文ふみの花を咲かすや紫野](仮日記;107)
- E2196 十洲(じっしゆ・小栗おぐり/本姓;平、名;光胤)?-1811 若狭小浜の儒者、京に住;詩・画を能くす、
鶴阜の孫/常山の弟、「河東詞(竹枝)」、「観海詩楼小藁」著、
[十洲(;号)の字/別号]字;万年、別号;痴僊居士/痴仙居士
- 十洲(じっしゆ・安岡) → 良亮(よしすけ・安岡、武術/勤王家/詩) D 4 7 8 1
- 十洲(じっしゆ・久徳) → 直利(なおとし・久徳きゆうとく、藩士/財政改革) B 3 2 8 1
- 十洲(じっしゆ・葛西) → 靖斎(せいさい・葛西かさい/小山田、医者) I 2 4 2 6
- 十洲(じっしゆ・細川) → 潤次郎(じゆんじろう・細川、藩士/航海術) L 2 1 1 3
- 十洲(じっしゆ・安岡) → 良亮(よしすけ・安岡、郷士/国事奔走) D 4 7 8 1
- 実秋(じっしゆ・一条) → 実秋(さねあき・一条/清水谷/藤原、権大納言/歌) C 2 0 8 2
- 実秋(じっしゆ・財部) → 実秋(さねあき・財部たからべ、藩士/神職/歌) Q 2 0 8 9
- 実秀(じっしゆ)すべて → 実秀(さねひで)
- E2197 実従(じつじゆ;法諱、本願寺兼寿[蓮如]13男) 1498-1564 67 真宗本願寺僧;河内牧方の順興寺住職、
法印/権大僧都、1532-61「私心記」、「御戸之記」著、歌:1563(永禄6)「十五夜三首歌合」参加、
[松にのみ風は残りてはらふべき雲もかゝらぬ峯の月影](永禄十五夜;一番右/月前松風)
[実従(;法諱)の別法諱/号]別法諱;兼知(初法諱)/兼智、号;左衛門督
- 実重(じつじゆ)すべて → 実重(さねいげ)
- 十洲国直(じっしゆくになお) → 国直(初世くになお・歌川うたがわ、絵師) 1 7 7 9
- 十州人(十洲人じっしゆじん) → 秋虎(しゅうこ・垂井たるい、藩士/歌人) X 2 1 1 6
- a2158 実俊(じっしゆん;法諱、) ? - ? 鎌倉南北期;僧、
歌;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加、
[見ても猶あかぬなごりか澄む月にしたひ忘れぬ姨捨の山](朝棟亭歌会;97)、
[世をそむく心にも猶捨てやらで月をばしたふ墨染めの袖](同;99)
- U2173 実俊(じっしゆん;法諱、号;十住心院、俗姓;木村) 1618-1702 85 京の天台僧/幼少時叡山浄教房入、
吉祥院実祐門;得度、のち守澄親王の侍読:1647随従し東下/江戸寛永寺常照院住;執務、
1665比叡山に帰り探題/78僧正/洛北に蓮華寺創建/法勝寺戒和尚、1682眼病で台麓に退隱、
実蔵房と称す/贈大僧正、実観・実興の師、「珠玉抄」「問要十題」編、「実類抄」「三部周覽」著、
「拾珠抄」「二乗智断」「言許対」/1657「密灌壇図」72「維摩四論」82「大堂繕々」著、外編著多数
- 実俊(じっしゆん・西園寺) → 実俊(さねとし・西園寺/藤原、歌、1260-1341) D 2 0 3 0
- 実俊(じっしゆん・西園寺) → 実俊(さねとし・西園寺/藤原、歌、1335-89) D 2 0 3 1
- 実駿(じっしゆん・四辻) → 公万(きんかず・四辻よつじ、廷臣/催馬楽) Q 1 6 7 6
- U2174 実順(じつじゆん;法諱) ? - ? 1425存 真言僧;勸修寺慈尊院住/1415東寺長者/22再任、
法務/大僧正、1405「菩提心論口筆」1415「後七佛法記」著
- 実順(じつじゆん;法諱) → 雪巖(せつがん;号、天台のち真宗僧、詩) E 2 4 1 1
- 実順(じつじゆん・葛谷) → 実順(さねより・葛谷くずや、和算家) L 2 0 4 9
- 実順(じつじゆん・今出川) → 実順(さねあや・今出川、廷臣/日記) K 2 0 7 2
- 実淳(じつじゆん・徳大寺) → 実淳(さねあつ・徳大寺/藤原、太政大臣) C 2 0 8 6
- 実純(じつじゆん・斎藤) → 実純(さねずみ・斎藤さいとう、藩士/国学者) K 2 0 8 7
- 実純(じつじゆん・武者小路) → 実純(さねいと・武者小路/藤原/三条、廷臣/歌) K 2 0 7 4
- 実楯(じつじゆん・福田) → 美楯(実楯みたて・福田、商家/国学者/歌) 4 1 0 2
- U2175 実助(じつじよ;法諱) 1419 - 1482 64歳 天台僧;定法寺住/叡山西塔院主兼横川長吏、

大僧正、顕密に精通、公助・忠助・実済の師、1445「探題愚記」49「両界問答抄」著、
1456「如法仏眼法記」62「胎灌頂私記三昧流」80「慈恵大師像裏書」外著多数

- U2176 **実怒**(じつじょ;法諱) 1714 - ? 1777存 天台叡山金剛院住僧/僧正、1728「経供養表白」、
1741・46・57「御経供養法則」60・77「経供養法則」著
- a2141 **実証**(じつじょう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
歌人;1237刊[檜葉集]入、
[みをしれば思ひたえてもふるさとに猶まつむしのこゑ□つれなさ](檜葉;恋414)
- U2177 **実性**(じつじょう;法諱、興福寺権別当親縁男or弟) 1213-77 法相僧;興福寺法雲院住、
1266興福寺権別当・法印権大僧都/68別当・権僧正、顕空・顕豪・実顕・信顕・道縁の兄弟?、
1269「興福寺長官実性敬白文」著
- U2178 **実勝**(じつじょう;法諱、西園寺公経男) 1241-9151 真言僧;幼時に禅門/長じて真言宗醍醐寺入、
1264親快門;伝法灌頂を受、1287醍醐寺42世座主、「求聞持法」「持宝院伝法灌頂雜記」著、
「伝法灌頂口伝抄」「灌頂秘口決事」「灌頂私記」「曼荼羅供法則」著、
[実勝(法諱)の通称]太政大臣法印/西南院法印
- E2198 **実承**(じつじょう;法諱、内大臣三条公親男) ?-? 1303存 鎌倉期天台叡山檀那院住僧;法印/大僧正、
公豪より灌頂、能書家、歌人;1303伏見院三十首参加、藤葉とうり集入、
実重(太政大臣)・実禅・実辨・深圓・房子(久明親王母)・中宮御匣(永尊親王母)の兄弟、
勅撰7首;新後撰(1193/1300)玉葉(521)続千(3首462/931/1900)新千(2131)、
[人をのみなほ恨むとや思ふらん身をかこちても落つる涙を]
(新後撰;1193/院三十首歌;怨恋)
- I2113 **実性**(じつじょう;法諱、法印長舜男) ?-? 1350存 鎌倉南北期天台僧;権少僧都/法印、
歌人、1326完成「続後拾遺和歌集」撰集の和歌所開闢、1327二条為定より和歌会次第を受、
1344金剛三昧院奉納和歌/50為世十三回忌和歌参加/続現葉・臨永集・藤葉集(3首)入、
勅撰17首;続千載(286/1057/2152)続後拾遺(185/440)、
風雅(1218)新千(6首147/830/167以下)新拾遺(367/907)新後拾(604)新統古(687/1079)、
[池水のみぎはも見えず成りにけり庭に浪こす五月雨のころ](続千載;夏286/権律師)、
[わけゆけば山路ぞとほき程近くみえつる花の梢なれども](藤葉;9春53/法印実性)
[したひ来てわが老いらくとなりけり十とせ三とせのつらき月日を](為世忌;112)
- F2100 **実清**(じつじょう;法諱) ? - ? 南北期僧;法印/歌人、勅撰2首;新千載1996・新後拾遺858、
[和歌の浦や昔のなみの跡にしも身のうき舟のなどまよふらん](新千載;雑1996)
- E2119 **実掌**(じつじょう;法諱・深識しんしき;字、俗姓;大山) 1756-183580 武州葛西の生の真言僧、
1766(11歳)安福寺実賢門;得度、1769(14歳)豊山に登る/1804近江北野寺住、1812権僧正、
1828長谷寺43世能化、1833弘法大師一千年忌に小池坊で大曼荼羅供・結縁灌頂を修す、
1834「両部曼荼羅附言」著
- 十松(じつじょう・河辺) → 都盛(くにもり・河辺かわべ、神職) D 1 7 2 8
実章(じつじょう・花園) → 実章(さねむみ・花園/藤原/正親町三条、琵琶) L 2 0 3 1
実松(じつじょう・葉室/橋本) → 実松(さねまつ・橋本/藤原/葉室、権中納言/笛) D 2 0 6 2
実称(じつじょう・三条西) → 実称(さねな・三条西/藤原、廷臣/記録) L 2 0 0 9
実勝(じつじょう・滋野井) → 実勝(さねかつ・滋野井/藤原、廷臣/歌) C 2 0 9 7
実勝(じつじょう/さねかつ・井東) → 弦斎(げんさい・井東いとう、儒者) J 1 8 0 7
実照(じつじょう・橋本) → 実文(さねぶみ・橋本/藤原、権大納言/記録) L 2 0 3 0
- a2139 **実乘**(じつじょう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
1237刊[檜葉集]入、
[すみがまのけぶりやそらにまよふらむこの里ばかりくもる月影](檜葉;冬347)
- U2180 **実浄**(じつじょう;法諱・真海;字、俗姓;鶴川) 1675-174470 讃岐高松の真言僧;
1687(13歳)蓮華寺翁胤門;出家、96高野山入;1717教業門;安祥流/栄智門;三宝院流を修学、
1738碩学となる/41快道門;灌頂を受、「施餓鬼修習用集」「三宝院道教方伝授次第」著
- U2181 **実乘**(じつじょう;法諱) ? - ? 江後期天台僧;江戸寛永寺凌雲院住、大僧正、
1783「金光明最勝王経玄義文句科」「金光明最勝王経玄義拾遺記会本」著、
1798輪王寺宮公澄親王の命で「孝順者之趣意」編

- 実条(じつじょう・三条西) → 実条(さねだ・三条西、右大臣/歌) 2034
 実乗(じつじょう;通称) → 僧亮(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2519
 実常(じつじょう・広瀬) → 実常(さねつね・広瀬、兵学者/藩中老) L 2000
 実繩(じつじょう・梅園) → 実繩(さねつな・梅園/藤原、廷臣/歌) K 2099
 実成院(じつじょういん) → 日典(にちでん;法諱・教典、日蓮僧) C 3394
 実成院(じつじょういん、実成坊) → 仰誓(ごうせい;法諱、真宗本願寺派僧) B 1952
 実乗房(じつじょうぼう) → 快雅(かいが;法諱・実乗房、真言僧) I 1548
 実信(じつしん・洞院) → 実信(さねのぶ・洞院/藤原/正親町、権大納言) L 2018
 実信(じつしん;初法諱) → 実継(じつけい;法諱、真言僧/醍醐寺座主) U 2159
 実信(じつしん/さねのぶ・郷/小阪) → 北嵩(ほくすう・小阪/郷、儒者/詩) D 3952
 実親(じつしん・平) → 実親(さねちか・平たいら、廷臣/日記) D 2016
 実親(じつしん・三条) → 実親(さねちか・三条/転法輪三条、右大臣) D 2017
 実岑(じつしん・押小路) → 実岑(さねたか・押小路/藤原、権大納言/記録) K 2088
- U2182 実深(じつじん;法諱、源公国男or徳大寺為国男?) 1201-1274or77?74or77 真言僧;
 醍醐寺遍智院成賢門;出家/1228成賢より伝法灌頂を受/1236憲深より印可を受、
 1255醍醐寺36世座主;56辞任、蓮蔵院に退居、1260権僧正/61東寺三長者、
 1264長者・権僧正を辞退;蓮蔵院に再退隠、
 「三摩耶戒」「三摩耶戒・口決・戒相・支度・初後夜口決式」「三昧耶戒秘決」「灌頂実深記」著、
 [実深(;法諱)の通称] 蓮蔵院僧正
- F2101 実甚(じつじん;法諱) ? - ? 南北期僧;法印、
 歌人、勅撰3首;新千載1958/新後拾遺1464/新続古今1058、
 [あし鶴のねにのみ鳴きて年もへぬあはれと思へ和歌の浦人](新千載;雑1958/述懐歌)
- 実信房(じつしんぼう, 蓮生) → 頼綱(よりつな・宇都宮、歌人) 4733
 実遂(じつじ・関) → 橋守(はしもり・関せき、歌人) E 3644
 実垂(じつじ・正親町) → 実垂(さねたる・正親町おぎまち/藤原、廷臣) K 2096
 実数(じつじう・三条) → 実数(さねかず・三条/正親町三条/藤原、大納言/歌) G 2023
 実崇(じつじう・後藤) → 実崇(さねたか・後藤ごとう、国学/歌人) O 2044
 実世(じつせ・洞院) → 実世(さねよ・洞院/藤原、南朝左大臣) L 2047
- F2102 実誓(じつせい;法諱) 972 - 102756歳 母:一条天皇の女御藤原元子の乳母、左京の生、
 天台叡山の僧;986(15歳)得度受戒/覚慶・院源門、1011権律師/1923権少僧都/23少僧都、
 慈徳寺別当/西塔院主、歌:後拾遺集322、
 [荻の葉に人だのめなる風の音をわが身にshめてあかしつるかな](後拾遺;秋322)、
 (来訪の約束をした友が来ない夜の詠歌/秋風のなかで友を待つ心境)
- U2183 実政(じつせい,) ? - ? 室町期の僧;権大僧都、
 歌人;1443前摂政家(一条兼良邸)歌合参加、
 [山の端にはつ桜花にほふらし見し雲ならぬ春のあけぼの](前摂政家歌合;廿三右46)
- U2184 実盛(じつせい、円城院えんじょういん)?-? 江戸前期の歌人、
 「和歌宝鑑抄」著(1658写本/前半は初心者和歌作法心得・後半は同訓異義詞の例歌解説)
- 実生(じつせい/みじょう・津栗) → 如臯(2世じょう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) 2210
 実清(じつせい→じつじょう) → 実清(じつじょう;法諱、僧/歌人) F 2100
 実清(じつせい) 上記以外 → 実清(さねきよ)
 実性(じつせい) 僧はすべて → 実性(じつじょう)
- 実正(じつせい・藤原) → 実正(さねまさ・藤原、廷臣/歌人) L 2032
 実政(じつせい・藤原) → 実政(さねまさ・藤原/日野、廷臣/歌人) D 2060
 実政(じつせい;法諱) → 実貫(じつかん;法諱、真言僧/詩人) U 2154
 実政(じつせい・山本) → 実政(さねもり・山本やまもと、廷臣/歌人) P 2074
 実誠(じつせい・橋本) → 実誠(さねなり・橋本/藤原、廷臣/歌人) L 2016
 実成(じつせい・山田) → 嬭堂(かくどう・山田、儒者/詩) H 1535
 実盛(じつせい・藤原) → 実盛(さねもり・藤原、廷臣;武人/歌) L 2042
 実盛(じつせい・徳大寺) → 実盛(さねもり・徳大寺/藤原、権大納言/歌) D 2072

- 実盛(じっせい・橋本) → 実盛(さねもり・橋本、神職/神典/書) L 2 0 4 5
 実生庵(じっせいあん) → 実生庵宗海(みしょうあんそうかい、華道家) 4 1 8 6
 実成院(じっせいいん/じつじょういん) → 日典(にちでん; 法諱・教典、日蓮僧) C 3 3 9 4
 実成院(じっせいいん/じつじょういん、実成坊) → 仰誓(ごうせい; 法諱、真宗本願寺派僧) B 1 9 5 2
 F2103 十石(じっせき・和田原) ? - ? 江中期大阪雑俳点者、1725大立「和国丸」入、「千句集」評
 実積(じっせき・風早) → 実積(さねつむ・風早かざはや/藤原、廷臣/日記) L 2 0 0 1
 実積(じっせき・岩切) → 実積(さねかず・岩切いわきり、藩士/歌人) N 2 0 9 0
 十雪館(じっせつかん) → 松塘(しょうとう・疋田/藤原、藩家老/詩) R 2 2 5 5
 U2185 実暹(じっせん; 法諱、太縁男)?- ? 平安後期天台僧; 園城寺大法師、
 歌人; 仁安-治承1066-80頃「三井寺山家さんか歌合」(判者; 観蓮[教長])参加、
 [冬寒み越路の風に散る雪のつもるがほなる庭の月かな](山家歌合; 冬月六番右)
 a2149 実専(じっせん; 法諱) ? - ? 鎌倉期; 南都の僧/法師、
 歌人; 1237刊[檜葉集]入、
 [ふるさとの佐保の川瀬の夕なみにつばさしほれて千鳥なくなり](檜葉; 雑888)
 U2186 実泉(じっせん; 法諱) ? - ? 南北期真言僧; 実融[証道]門、「金宝鈔聞書」著
 U2187 実泉(じっせん; 法諱) ? - ? 1602存 日吉社大宮僧/勝官・法橋、1602「元龜後七社再興覚」著
 U2188 実詮(じっせん; 法諱、字; 眞教/眞暁、号; 極喜堂) 1663-1740 78 江前中期の真言僧; 丹後西明院入、
 江戸の靈雲寺浄厳門、1697安祥寺流及び西院流の許可を受/華嚴宗の鳳潭と長年法論争、
 1707河内延命寺住/のち清水寺光乗院に転住、具舎・唯識に精通、1719「密乗菩提心戒義」著、
 1720「驚覚心続生義」「紅罍一唾篇」27「大日経教主義」31「反唾汚己指笑篇」、外著多数
 十千(じっせん・加藤) → 豈苟(かこう・加藤かとう、儒/神道家) I 1 5 6 3
 十千(じっせん・浦上) → 春琴(春葉しゅんきん・浦上/紀、絵師/詩) J 2 1 4 1
 実宣(じっせん・滋野井) → 実宣(さねのぶ・滋野井/藤原、権大納言/歌) D 2 0 4 1
 実宣(じっせん・西園寺) → 実宣(さねのぶ・西園寺/藤原、左大臣) L 2 0 1 9
 実宣(じっせん・星野) → 実宣(さねのぶ・星野、藩士/和算/測量) L 2 0 2 0
 a2140 実禅(じっぜん; 法諱) ? - ? 平安鎌倉期; 南都の僧/法師、
 1237刊[檜葉集]入、
 [春の雪のありけるをみて志ありける人につかはしける、
 ふる雪のつもるにたがふ思ひかなはるとはみれどかきくらしつつ](檜葉; 恋395)、
 返し、
 つもりてもほどなくきゆるあは雪にたぐふ思ひのたのまれぬかな](396/読人不知)
 U2189 実全(じっぜん; 法諱) ? - ? 1581存 天台宗叡山神蔵寺・帝釈寺住僧、
 舜慶・天海の師/天海に玄旨帰命壇の印信を授与、
 1555「即身成仏口伝」-81「一言芳談集」、「円頓者見聞」「七箇口決恵流」「臨終真実事」著
 U2190 実善(じっぜん; 法諱) ? - ? 1602存 天台宗叡山延暦寺浄教坊住僧/法印、
 連歌; 1583「転生十一年五月二日紹巴実善等山何百韻」参加
 実前(じっぜん・滋野井) → 実前(さねさき・滋野井/藤原、権中納言/歌) D 2 0 0 3
 実全(じっぜん・滋野井) → 実全(さねまさ・滋野井/藤原権中納言/故実) L 2 0 3 3
 実然(じっぜん→じつねん) → 実然(じつねん; 法諱、天台僧) V 2 1 0 3
 実善(じっぜん→さねよし・郷) → 実善(さねよし・郷ごう、国学/歌) N 2 0 3 5
 F2104 十千亭(じっせんてい、屋号; 万屋/通称; 藤七/助二郎/助次郎)?-1809? 江戸飯田町の本草家、
 狂歌; 1799南畝門; 和文の会に参加、蔵書家、1806南畝「ひともと草」狂文2編入、
 1792「花信風」著
 F2105 入楚(じっそ) ? - ? 俳人; 一鼠の友人、1777一鼠「一三興」に発句
 実祖(じっそ・徳大寺) → 実祖(さねみ・徳大寺とくだいじ/西園寺、右大臣) N 2 0 4 1
 実礎(じっそ・横田) → 実礎(さねもと・横田よこた/土肥、藩士/神職/歌) P 2 0 7 8
 F2106 実聡(じっそう; 法諱、別法諱; 実聰、藤原為氏男) 1250-1328 79 法相僧; 興福寺西南院住僧; 僧正法印、
 1315興福寺別当、歌人; 1315京極為兼「詠法華経和歌」に出詠、
 勅撰7首; 新後撰(710)玉葉(2663)続千載(875/883/1820)続後拾(1308)新千載(1710)、
 [墨染めしもとの心のきよければ濁りもはてぬ玉の井の水](新後撰; 釈教710)

- 実相(じっそう;号) → 実巖(じつがん;道号・照海;法諱、曹洞僧) U 2 1 5 6
 実操(じっそう・三宅) → 尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者) S 2 2 2 9
 実操(じっそう・小倉) → 尚斎(しょうさい・小倉おぐら、藩儒/詩文) S 2 2 3 0
 F2107 実蔵(じっぞう;法諱、通称;周防大夫房)?-? 南北期僧;権律師/歌;1364頃成立「一万首作者」入、
 新後拾遺1205、
 [面影の残るかたみもかひぞなき見し夜の夢の契ならねば](新後拾;恋1205)
 実増(じっぞう;法諱) → 実観(じつかん;法諱、天台大僧正) U 2 1 5 5
 実蔵(じっぞう・碓井/臼井) → 且松(たししょう・碓井/臼井うすい、俳人) I 2 6 8 5
 実蔵(じっぞう・小川) → 成信(しげのぶ・小川おがわ/石井、国学者) R 2 1 9 9
 実蔵(じっぞう・内田) → 饒穂(にぎほ・内田うちだ、庄屋/歌人) H 3 3 0 7
 N2103 実相院(じっそういん、上田秋成女) 1718-9679 父秋成は大炊御門の家臣、歌人、
 毛利宗広(1717-51/35歳)の側室、夫没後;実相院、
 [亀の尾の山の岩ねをとめて落つる滝の糸玉千世のかずかも](;萩の歌人)
 実相院(じっそういん・勸妙坊智清) → 正(ただし・齋藤さいとう、修験/神職) X 2 6 3 3
 実蔵院(じっぞういん) → 日嗣(にっしゅう;法諱、日蓮僧) E 3 3 0 0
 実相院古道(じっそういんこどう) → 古道(こどう;字・実相院、真言僧/歌) N 1 9 1 9
 十叟舎笹丸(じっそうしゃささまる) → 笹丸(ささまる、狂歌) B 2 0 6 0
 実相無相禅師(じっそうむそうぜんじ) → 大道(だいいどう;道号・文可;法諱、臨濟僧) K 2 6 8 2
 実則(じっそく/さねり・岩淵) → 加兵衛(かへい・岩淵いわぶち、藩士/馬術家) P 1 5 2 9
 実則(じっそく・徳大寺) → 実則(さねつね・徳大寺とくだいじ/藤原、廷臣) O 2 0 8 7
 蛭村(しゅそん・佐々) → 豊水(とよみ・佐々ささ/源、藩士/国学) V 3 1 2 7
 U2191 実尊(じっそん;法諱) ? - ? 1383存 南北期真言僧;河内通法寺別当、
 1383「通法寺別当実尊謹言書」著
 実村(じっそん・橋本) → 実村(さねむら・橋本/藤原、権中納言/笛) D 2 0 6 7
 実泰(じつたい・洞院) → 実泰(さねやす・洞院/藤原、左大臣/歌) D 2 0 7 3
 実体(じつたい;字) → 良俊(りょうしゅん;法諱・実体、真言僧) H 4 9 9 5
 実達(じつたつ・園池) → 実達(さねかつ・園池/藤原、記録) K 2 0 8 2
 十達(じつたつ;字) → 俊才(しゅんさい;法諱、華嚴僧) K 2 1 7 0
 実太夫(じつだゆう・竹本) → 松長軒(しょうちやうけん・佐久間、浄瑠璃太夫/作) U 2 2 3 4
 実太夫(2世じつだゆう・竹本) → 染太夫(そめだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) E 2 5 4 0
 実智(実智じつち;法諱) → 愚禅(ぐぜん;道号・実智[実智じつち]、黄檗僧) C 1 7 4 5
 十地(じつち;号) → 湛照(たんしょう;法諱・東山;道号、臨濟僧) I 2 6 3 7
 U2192 十竹(じつちく;号・姓;岩間いわま/互理、名;清商/通称;左伝、乙二おに男) 1794-185158 修験僧;
 陸前白石の千手院住持、俳人;父門、晩年は故郷を去り各地遍歴行脚;大和三本松で没、
 1823「松窓句集」編、
 父乙二は俳人 → 乙二(おに・岩間、松窓、俳人) 1 4 1 9
 妹溶々も俳人 → 溶々(ようよう・岩間清女、梅室妻、俳人) B 4 7 5 9
 弟竹山は詩人 → 竹山(ちくざん・松井、医者/詩人) D 2 8 0 8
 U2193 十竹(じつちく・中村なかむら、名;惟孝) ? - ? 江後期高松讃岐藩士/書画を嗜む、
 「古言采覧」著、
 [十竹(;号)の字/通称/別号]字;伯敬、通称;義太夫、源惟孝、
 別号;賛岳/十竹花顛/楽楽老人
 十竹(じつちく・佐々) → 十竹斎(じつちくさい・佐々ささ、僧/漢学) F 2 1 0 8
 十竹(じつちく・一松) → 昔桜(せきおう・一松ひとつまつ/松/淡海、儒者) J 2 4 9 5
 十竹花顛(じつちくかてん) → 十竹(じつちく・中村なかむら、藩士/書画) U 2 1 9 3
 F2108 十竹斎(じつちくさい・佐々ささ、名;宗淳、佐々直尚5男/本姓;良峯/丹羽) 1640-9859 良岑安世の後裔、
 瀬戸内の小島の生/1654(15歳)京妙心寺の僧/黄檗の普照国師門、のち還俗、儒;朱舜水門、
 1674水戸藩主徳川光圀の近習;大日本史編纂のため諸国で史料収集、1688彰考館総裁、
 1696致仕;西山荘隠居の光圀に出仕、「十竹集」「十竹斎筆記」「十竹斎詩稿」「十竹斎文稿」、

1678「求書権輿目録」81「南行雜録」92「続南行雜録」編、「佐々助三郎書簡」外著多数、
[十竹斎(；号)の字/通称/別号]字；子朴、通称；島之助/島介/介三郎/助三郎、
別号；十竹、薙髮時号；祖淳

十竹叟(じちくそう) → 沢庵(たくあん；道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
十竹堂(じちくどう) → 鶴雲(かくうん・寺尾てらお、儒者/詩人) J 1 5 5 1
執中(しちちゅう・大矢) → 尚斎(2世しょうさい・大矢おおや、医者) I 2 2 9 9
執中(しちちゅう・広田) → 執中(もりなか・広田ひろた、藩士/勤王) L 4 4 1 6

U2194 実忠(じちちゅう；法諱) 731-? 815存 華嚴東大寺権別当；良弁門、
760良弁の目代として東大寺二月堂十一面悔過(か)の法要修二会を創始、
伝灯大法師、815「東大寺権別当実忠廿九箇条事」著

U2195 実中(じちちゅう；法諱) ? - ? 1495前没 撰津三島郡富田の臨濟宗景瑞庵の住持、
連歌作者；1465(寛正6)心敬宗祇らと「何人百韻」参加、
新撰菟玖波集の読人不知衆の1人；2句入、
1466(寛正7)心敬宗祇の「賦何人連歌」の英仲と同一？

実忠(じちちゅう・三条) → 実忠(さねただ・三条/転法輪三条/藤原、内大臣/歌) 2 0 4 1
実忠(じちちゅう・小幡) → 実忠(さねただ・小幡おばた/平、藩士、歌人) O 2 0 0 5
実忠(じちちゅう・土居) → 実忠(さねただ・土居どい、藩士、国学) O 2 0 8 5
実紐(じちちゅう・阿野) → 実紐(さねもと・阿野/藤原、廷臣/日記) L 2 0 4 1
執中庵(しちちゅうあん) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8
執中庵(しちちゅうあん) → 三考(さんこう・執中庵、俳人) M 2 0 1 4
執中庵(しちちゅうあん) → 泥舟(でいしゅう・高橋、幕臣/槍術家) B 3 0 1 2
実猪(じちちゅう・伊与木) → 実猪(さねい・伊与木いよき/藤原、藩士/国学) N 2 0 2 9

F2109 実超(じちちゅう；法諱、内大臣三条公親男) ?-1322 鎌倉期天台僧；叡山毘沙門堂の大僧正、
1315京極為兼「詠法華經和歌」出詠、1321・22当座和歌会を主催、小倉実教[藤葉集]2首入、
勅撰17首；玉葉(786/972)続千(5首160/604/1311/1335/1657)風(667/2493)新千(3首)以下、
[みむろ山ふもとの松のむらむらに時雨わけたる秋の色かな](玉葉；秋786)

F2110 実澄(じちちゅう；法諱) 1302 - ? 1344存 真言仁和寺僧；法印、1344多羅尼供養の題名僧、
歌；風雅2064、[すみなれし宿をば花にうかれきて帰るさ知らぬ春の旅人]
(風雅；釈教2064/本覚流転の心)

実朝(じちちゅう・源) → 実朝(さねとも・源、鎌倉3代将軍/歌人) 2 0 4 3
実聴(じちちゅう) → 実聴(じちちゅう・興福寺僧/歌人) F 2 1 0 6
実澄(じちちゅう・小倉) → 実澄(さねずみ・小倉おぐら/源、武将/歌人) D 2 0 1 0
実長(じちちゅう・竹村) → 喬宣(たかのぶ・竹村たけむら/野村、歌人) Y 2 6 1 0
実長(じちちゅう)訓はすべて → 実長(さねなが)
質直(しちちよく・金井) → 質直(ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代) Q 2 6 2 5
質直(しちちよく・滝川/三好) → 質直(かたなお・滝川/三好、藩士/和算) N 1 5 0 3
実直(じちちよく) すべて → 実直(さねなお)
実陳(じちちん・橋本) → 実陳(さねつら・橋本、国学/詩) N 2 0 1 4

2128 七珍万宝(しちちんまんぼう、姓；樋口、通称；福島屋仁左衛門) 1762-1831? 芝桜田久保町の菓子舗；
錦泉堂主人、戯作者；森島中良(森羅万象)門；洒落本・黄表紙を著述、1797森羅万象号継承、
狂歌；鹿都部真顔門、大田南畝・頼春水と交流、1788「管卷太平記」89「嘘無箱根先」著、
1790「茶事加減役割番附」「美止女南話みしめなわ」/93「昔話銚子浜」94「工面壁観師大通」著、
1804「狂歌武射志風」25「俳諧歌愛嬌百首」29「狂歌近来風体集」30「風調百首」編、外編著多、
[七珍万宝(；号)の別号] 孤鶯亭/2世森羅万象/森羅亭/万珍舎/南湖子、法号；釈玄運信士

実通(じちちゅう・徳大寺) → 実通(さねみち・徳大寺/藤原、権大納言/歌) D 2 0 6 4
実定(じちちゅう) → 実定(さねさだ、後徳大寺、左大臣/歌人) 2 0 3 8
実禎(じちちゅう・田上) → 実禎(さねただ・田上たがみ、藩士/国学) O 2 0 7 8

U2196 実徹(じちちゅう；法諱) ? - ? 1868存 江後期天台宗叡山実蔵房住僧、1868戸津説法厳修、
1858「輪王寺新宮御在洛記」59「梶井宮御移転記」著、「大指成光法用心秘記」編、外著多数
実典(じちちん・阿野) → 実典(さねのり・阿野/藤原、廷臣/日記) L 2 0 2 5

- U2197 **実伝**(じつでん;道号・宗真そうしん;法諱、号;仏宗大弘禅師、俗姓;林)1434-1507 美濃恵那郡遠山の生、1437(4歳)美濃大円寺入/臨濟宗大徳寺40世春浦宗熙門;嗣法、1486大徳寺56世住持、1497後土御門天皇より禅師号、「実伝和尚語録」「言外和尚行状」、1504「日本名僧伝」著
- U2198 **実伝**(じつでん;道号・道鈞どうきん;法諱、真宗本願寺派光徳寺道栄男)1627-1704 母;寿栄尼、播磨姫路の光徳寺の生、播磨飾磨郡野里村の臨濟宗雲松寺周道門;出家、のち黄檗山万福寺2世木庵性瑫もくあんしょうとう門;1675嗣法、1686雲松寺に再住し黄檗宗に改宗、江戸白金瑞聖寺4世住持、晩年は播磨神西郡須加院村の常福寺に隠棲;没、1696「実伝禅師語録」著
- 漆桶(しつとう・中村) → 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1
 執冬(しつとう・吉松) → 教冬(きょうふゆ・吉松よしまつ、藩士/学者) L 4 4 8 9
- U2199 **実東**(京東じょうとう;法諱・青海せいかい;道号)1645-? 1701存 肥前の黄檗僧;左嘉高城寺桂岩門;出家、1661即非如一到参謁/1676肥前福源寺桂巖明幢門;嗣法;系字の[海]で海東と称す、肥前円城寺住持、1697佐賀藩主鍋島綱茂建立の佐嘉野口村の大願寺開山に招聘、「青海東禅師語録」、1699「碧巖録無明解」著、
 [青海実東の別法諱] 海東/道東
- 実幢(じつとう;字) → 敬彦(きやうげん;法諱・実幢、天台僧) N 1 6 6 5
 実冬(じつとう・滋野井) → 実冬(さねふゆ・滋野井/藤原、権大納言/歌) D 2 0 5 7
 実冬(じつとう・三条) → 実冬(さねふゆ・三条/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 5 8
 実藤(じつとう・阿野) → 実藤(さねふじ・阿野あの/藤原、季信/大納言) N 2 0 6 7
 実等(じつとう;字) → 日竟(にっきやう;法諱・誠嶺院、日蓮僧) D 3 3 8 3
- V2100 **実導**(実道じつどう;法諱、藤原為信男)1309-8880 初め天台叡山僧;顕密二教を修学、京の廬山寺照源門、のち浄土宗西山派三鈷寺の示導門;西山義を修学、1355示導没後に三鈷寺住職、頓証・照慧・正睿・円慧の師、「浄土顕揚鈔」「観経弘深抄」「本源抄」「正定鈔」「覆審鈔」「転心戒浄抄」「梵網経直談」著、1354「金記立印鈔」69「戒珠抄」70-71「円戒暁示鈔」71「義积私鈔」81「略布薩用心」外著多数、1386「西山上人縁起(証空伝)」著
 [実導(:法諱)の字/号]字;恵仁/仁空/静山、号;浄衍院、諡号;円応
- 実道(じつどう・上田) → 春荘(しゅんそう・上田、里正/新田開発) L 2 1 3 3
 実道(じつどう・拝郷) → 蓮茵(れんいん;法諱、拝郷はいごう、僧/歌人) 5 1 9 1
 漆嶋軒(しつとうけん) → 白川(はくせん・本庄、商人/俳人) D 3 6 5 0
 漆桶子(しつとうし;号) → 集九(しゅうく;法諱・万里、臨濟僧/詩) H 2 1 1 6
 漆桶万里居士(しつとうばんりに) → 集九(しゅうく;法諱・万里、臨濟僧/詩) H 2 1 1 6
 実徳(じつとく・正親町) → 実徳(さねあつ・正親町おおぎまち/藤原、権大納言) K 2 0 7 1
 実徳(じつとく・園池) → 実徳(さねのり・園池/藤原、水無瀬、廷臣) L 2 0 2 4
 実徳(じつとく・大谷) → 実徳(さねのり・大谷おおたに、勤王過激派) O 2 0 1 3
 実徳(じつとく・末田) → 眞穂(まほ・末田すえだ、神職/国学) Q 4 0 3 2
 実敦(じつとん・小倉) → 実敦(さねあつ・小倉おぐら/藤原、廷臣/歌) P 2 0 9 7
 実入(じつにゅう・稲掛) → 棟隆(むねたか・稲掛/山口、商家/国学/歌) B 4 2 4 8
- F2113 **実如**(じつにょ;号・光兼こうけん;法諱、本願寺8世兼寿[蓮如]5男)1458-1525 母;平貞房女、日野勝光の猶子、浄土、1473得度;青蓮院尊応門/法印権大僧都、1483長兄光如没;法嗣、89宗務継嗣、細川政元の乱を避け近江堅田に移住;1508山科に帰る、1521後柏原より香衣を賜る;准門跡、「蓮如上人御詠歌」編/「七帖御文」編、「安心定得鈔」、「往生明文鈔」「持得鈔」「聞信鈔」「女人最要集」「真宗安心一書」著、「実如上人自筆文章」、[実如(:号)の幼名/諡号]幼名;光養磨、諡号;教恩院
- V2101 **実如**(じつにょ;法諱、号;大観堂)1750-? 1823存 天台僧;悉曇学に精通、「大観堂私稿集」著、「修験喪祭事物用心集下」、1814「嗣統草」16「悉曇指南口伝鈔」23「日用礼儀集」外著多数
 実如(じつにょ;法諱) → 宝洲(ほうしゅう;号・実如;法諱、真言僧) B 3 9 5 2
- V2102 **実任**(じつにん;法諱、大炊御門おおいのみかど公能男)1138-? 1205存 真言僧;覚性親王門;出家、1168観音院で覚性親王より伝法灌頂を受/仁和寺別当/法務/権僧正、威徳寺方の祖、「灌頂日記」受、信遍・元長・隆範・実俊の師、

- [実任(；法諱)の通称]威徳寺僧正・右大臣僧正
 実任(じつにん・三条) → 実任(さねとう・三条/正親町三条、中納言/歌) D 2 0 2 4
 実任(じつにん・阿野/清水谷) → 実任(さねとう・清水谷/藤原/阿野、権大納言/連歌) L 2 0 0 2
- V2103 実然(じつねん;法諱) ? - ? 1605存 上州の天台宗柳沢寺等覚院の住僧、
 のち武州大光普照寺の能化;上州那波郡万善寺に退隠、「仁王経科註」「通受自誓受作法」著、
 「仁王経科註見聞私」著
 実之助(じつのすけ・三輪田) → 米山(べいざん・三輪田みわた、神職/書家) 2 7 4 5
- F2114 十白(じつぱく) ? - ? 連歌師、1558「花千句」参加:宗養・紹巴らと
 実博(じつはく→さねひろ・洞院) → 実熙(さねひろ・洞院とういん/藤原、廷臣/故実) D 2 0 5 5
- V2104 実範(じつぱん/じちはん;法諱、藤原ふじわら頭実4男)?-1144 平安後期;京の僧;初め興福寺の法相僧、
 真言僧;醍醐寺敵覚門;密教を受、天台叡山僧;横川の明賢門;天台学修学、忍辱山に隠棲、
 大和添上郡中の川に法相・真言・天台兼学の伽藍建立;成身院と号す、
 唐招提寺を荒廢から再興:1116伽藍修理、法脈は法相僧の蔵俊・覚憲・貞慶・戒如に継承、
 法流を中の川流と呼ぶ、藤原頼長・宗忠の信頼を得る、晩年は山城光明山に住、
 「眉間白毫集」「大経要義鈔」「病中修行記」「出家授戒作法」「大日経抄」「理観」外著多数、
 [いくとせも今はきくまじほととぎす老のみみには心してなけ](檜葉集;夏145)
 [実範(；法諱)の字/通称] 字;本願/蓮光、通称;中の川少将/少将聖人/実範上人
- V2105 実範(じつぱん;法諱) ? - ? 安桃期天正1573-92頃真言僧;羽前米沢竜宝寺住持、
 連歌:1585政宗「天正十三年正月七日若菜百韻」参加
 実範(じつぱん・藤原) → 実範(さねのり・藤原、漢学/大学頭/詩文) F 2 0 6 3
 実美(じつび・三条) → 実美(さねとみ・三条/転法輪三条、尊攘/歌) L 2 0 0 6
 実備(じつび・沢崎) → 実備(さねなが・さねとも・沢崎、藩士/史家) L 2 0 1 4
 実弼(じつひつ・吉植/香取) → 実弼(みのり・香取かとり/吉植、神職) F 4 1 6 7
- V2106 実敏(じつびん、俗姓;物部ものべ) 788-85669 尾張愛知郡の三論僧;800西大寺入:玄叡・安澄門、
 東大寺戒壇に登る/永忠門/819西大寺維摩会の堅義/838東大寺別当、
 850朝廷で学僧に三論宗を講義、853大僧都、「二諦義私記」著
 実敏(じつびん・大松沢) → 実敏(さねとし・大松沢おねまつざわ/藤原、藩士) L 2 0 0 4
 実夫(じつふ・三宅) → 石庵(せきあん・三宅みやげ、儒者/詩/俳人) D 2 4 3 1
 実夫(じつふ・野呂) → 元丈(げんじょう・野呂のろ、幕府医官) C 1 8 2 6
 実富(じつふ・押小路) → 実富(さねとみ・押小路/藤原、権大納言/記録) L 2 0 0 5
 実富(じつふ・今出川) → 実富(さねとみ・今出川/菊亭、権大納言/歌) D 2 0 3 2
 実富(じつふ・大松沢) → 実富(さねとみ・大松沢おねまつざわ、藩士/国学) O 2 0 1 7
- M2111 十風(じつふう) ? - ? 江前期俳人;1690不角「二葉之松」2句入(434/468)
 実風(じつふう・小原) → 実風(さねかぜ・小原/物部、神職/国学) K 2 0 8 0
- F2115 実腹斎(じつぷくさい) ? - ? 狂歌、1785徳和歌後万載集1首163
 「口はすくなくなりても鳴くか梅ぼしに皺のよるまで老の鶯」(後万載;二夏163/梅干に鶯)、
 (すくはすっぱく/夏秋の末まで老い声に鳴きてむしくひなど…口惜しく;枕草子)
- 実文(じつぶん・阿野) → 実文(さねぶみ・阿野/藤原、廷臣/歌) D 2 0 5 6
 実文(じつぶん・橋本) → 実文(さねぶみ・橋本/藤原、権大納言/記録) L 2 0 3 0
 実聞(じつぶん・木下) → 蘭阜(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学) B 4 8 9 8
- V2107 石屏(しつぺい;道号・子介しかい;法諱、諡号;仏宗眞悟禪師)?-? 南北期周防の臨濟僧:靈山道隱門、
 入元、帰国後大内義弘の帰依で周防香積寺開山に招請、「石屏録」「仏宗眞悟禪師語」著
 十平(じつぺい・中山) → 巖水(いずみ・中山なかやま/宮川、藩士/史家) J 1 1 8 4
 実兵衛(じつべゑ・志田/柿崎) → 義貫(よしつら・志田じだ/柿崎、藩士/歌人) L 4 7 3 1
- a2143 実弁(じつべん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 歌人;1237刊[檜葉集]3首入
 [たび衣かさねて袖ぞしほれける夜半のしぐれのふたむらの山](檜葉;羈旅659)
 十返舎一九(初世じつべんしやいっく) → 一九(初世いっく・十返[偏・遍・扁]舎、滑稽本) 1 1 2 0
 十返舎一九(3世じつべんしやいっく) → 春馬(初世しゅんば・三亭) 2 1 6 5
 漆畝(しつぽ・中村) → 豹斎(ひょうさい・5代中村宗哲、千家塗師) Q 2 1 4 5

- 実甫(じっぽ・神田) → 柳溪(りゅうけい・神田かんだ、医者) D 4 9 5 7
 実甫(じっぽ/さねもと・松本) → 寒緑(かんろく、松本まつもと、藩士/儒者) R 1 5 9 0
 実甫(じっぽ・高岡) → 養拙(ようせつ・高岡、商家/儒者) B 4 7 3 1
 実甫(じっぽ・久坂) → 玄瑞(げんずい・久坂くさか、藩士/奇兵隊) C 1 8 4 2
- V2108 **実峰**(じっぽう;道号・良秀りょうしゅう;法諱、俗名;藤原実秀)1318-1405⁸⁸ 能登の曹洞僧;峨山韶碩門、その法嗣/永和1375-79頃能登総持寺9世;康暦1379-81頃再度総持寺住持、能登定光寺・信濃峰松寺・備中永祥寺など開創;永祥寺に没、「実峰秀禅師語録」著
- 実方(じっぽう・藤原) → 実方(さねかた・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 0 3 6
 実苞(じっぽう・永田) → 実苞(さねもと・永田ながた、神職) O 2 0 9 8
 実豊(じっぽう・三条) → 実豊(さねとよ・三条さんじょう/正親町三条、廷臣/記録) L 2 0 0 7
 実房(じっぽう・三条) → 実房(さねふさ・三条/転法輪三条、左大臣/歌) 2 0 4 5
 実房(じっぽう・木村) → 実房(さねふさ・木村きむら、国学者) L 2 0 2 9
 十方庵(じっぽうあん) → 仏仙(ぶつせん・北海坊、俳人) D 3 8 3 7
 十方庵(じっぽうあん) → 敬順(けいじゆん;法諱、真宗僧/茶/紀行) D 1 8 4 9
 十方庵(じっぽうあん、十方院) → 雲左(うんさ;道号・日唯にちゆい、日蓮僧/俳人) D 1 2 7 1
 十方院(実報院じっぽういん) → 松雲(しょううん・永原ながはら、武将/兵法/歌) V 2 2 1 4
 実報院(じっぽういん) → 雅宝(がほう;法諱、真言僧) P 1 5 3 4
 十方窩(じっぽうか) → 天垂(てんすい・十方窩、俳人) D 3 0 9 2
 十方舎(じっぽうしゃ) → 一丸(いちまる・十方舎、戯作者) G 1 1 4 1
 十畝園主人(じっぽえんしゅじん) → 鵲斎(せきさい・原田はらだ、医者/詩歌) K 2 4 0 4
 志津馬(しづま・安達) → 清風(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家) E 2 4 4 3
 志津馬(しづま・平) → 源澄(もとずみ・平たいら/桜田/丹下、藩士) K 4 4 3 6
 志津麻(しづま・織田) → 豊秋(とよあき・織田がおだ、神職/歌人) U 3 1 4 6
 志津摩(しづま・原田) → 忠徹(ただとお・原田はらだ、旗本家臣/歌) Z 2 6 1 2
 志頭磨(志津磨しづま・佐々木) → 穿石(せんせき・沢井さわい、書家) M 2 4 7 7
- V2109 **実満**(じつまん/さねまる;名・児玉こたま、幼名・通称;善吉)1764-1835⁷² 日向児湯郡穂北郷の郷土史家、敬神崇祖の念篤く穂北の聖史蹟湮滅を恐れ調査研究、「笠狭大略記」「神代皇都絵図」著
- 実万(じつまん・三条) → 実万(さねむ・三条/転法輪三条、内大臣) K 2 0 8 1
 実満(じつまん・荒木田) → 実満(さねみつ・荒木田あらかだ、神職/歌) Q 2 0 0 8
 実満(じつまん・花園) → 実満(さねみつ・花園はなぞの/藤原、廷臣/参議) P 2 0 1 3
 実苗(じつみょう;道号) → 義産(ぎさん;法諱・実苗、曹洞僧) K 1 6 7 4
 実明院(じつみょういん) → 功存(こうぞん;法諱、真宗僧/三業帰命論) K 1 9 4 5
 実無(じつむ、高大夫) → 実無(さねなし、高大夫、歌人) L 2 0 1 5
 実務(じつむ、内田) → 実務(さねかね・内田うちだ、儒医/歌) N 2 0 9 8
 実名(じつめい・小倉) → 実名(さねな・小倉/藤原、権大納言/歌) D 2 0 3 4
 実明(じつめい・志茂) → 実明(さねあきら・志茂しも、藩士/歌/経史) K 2 0 7 0
 実茂(じつも・押小路) → 実茂(さねもち・押小路/藤原/三条、廷臣/日記) L 2 0 4 0
- F2117 **実門**(じつもん;号) ? - ? 江後期の俳人、1791近江義仲寺で興行の芭蕉追善しぐれ会の世話役;句集刊行、1792「奉扇会」編
- 02177 **実門**(じつもん;法諱、) ? - 1860 江後期;撰津八部郡の浄土宗阿弥陀寺21世、国学
- 実門(じつもん・東郷) → 実門(さねかど・東郷とうごう、藩士/歌人) O 2 0 8 6
- F2118 **実瑜**(じつゆ;法諱、号;中納言僧正、藤原公仲男)1201-64⁶⁴ 鎌倉期真言僧;仁和寺成就院僧、法印、1254東寺三長者/59僧正、東寺一長者、69寺務法務/護持僧、歌人/勅撰4首;続後撰(1127)続拾遺(1298)新後撰(1055)新続古今(852)、[いつくにてわが斧の柄えの朽ちにけん見し人もなくかはるふるさと](続後撰;雑1127)、(斧の柄の朽つはほんの少しの間とと思っている間に長い年月を経ていること)
- V2110 **実融**(じつゆう;法諱・満月まんげつ;字、俗姓;藤原)1247?-1339^{93?}(90説) 真言僧;定円法師門;出家、泉涌寺明観門;沙弥戒を受/意教上人門;三宝院流を布教、天台・華嚴;定円・定性門、1304高野金剛院三昧院長老となる、意教流証道方の祖、「証道方三重大事」「証談鈔」著、「十仏頂陀羅尼」「十八道師伝抄」「四度師伝抄」「四度加行私記」「護摩師伝抄」外著多数、

[実融(；法諱)の初法諱/通称]初法諱；静空、通称；証道上人

- V2111 **実祐**(じつゆう；法諱、俗姓；大河内) 1505-1591⁸⁷ 播州書写山円教寺十妙院の天台僧；僧正、円教寺長吏、「相伝聞書」「施餓鬼法則」「諸表白集十八法」「作法六十種」著、1568「山家灌頂支度私」著、90「赤松記」編、90「靈夢記」著、「書写山十地坊過去帳」著
- V2112 **実雄**(じつゆう；法諱) ? - ? 室町後期天台僧；奥州竹貫の寂光寺住、常陸の月山寺住、1570「前後自受用」71「草木成仏」81「三身義案立爾前久遠」、1581「仏土義方便土説通教歟」82「聞書抄住果妙覺」著
- V2113 **実祐**(じつゆう；法諱、幼名；藤辰/通称；左京公) 1618-? 1655^存 華嚴僧；地藏坊実道に受戒、東大寺薬師院に住；執行職/大法師、東大寺の諸記録を集録；「東大寺雑集録并加録」編
- V2114 **実融**(じつゆう；法諱、号；虚堂どう/環洲) ?-? 1819^存 叡山南谷仏頂尾住の天台僧；探題/僧正、紫衣を賜う、1813「通相三觀生起之因」「通相三觀斥誤竹楼譚」/19「磨光韻鏡淘礫」著、「別請豎義記」「両法華会用留」「恵海回光明供表白」著
- 02178 **実祐**(じつゆう；法諱、) 1806 - 1893⁸⁸ 紀伊和歌浦東照宮別当玉泉院住職・靈蓋院院代、国学者；本居内遠門、
[実祐の号] 梅園/知足院/寿門院
- N2168 **実雄**(じつゆう；法諱・小原おはら/本姓；原) 1843-72^{30歳} 紀伊和歌山浜中の天台宗長保寺住職、国学/歌人；加納諸平・伊達千広・本居内遠門、
[実雄(；法諱)の名/通称/号]名；政尚/晴満一、通称；卯吉、号；大瞋^{だいしん}道人
実右(じつゆう・裏辻/小倉) → 実右(さねすけ・小倉、藤原、裏辻、歌人) F 2 0 6 0
実有(じつゆう・藤原) → 実有(さねあり・藤原、清水谷家祖/歌人) C 2 0 8 7
実雄(じつゆう・安藤) → 源五兵衛(げんごべゑ・安藤/安東、弓術家) I 1 8 8 8
実雄(じつゆう・洞院) → 実雄(さねお/さねかつ・洞院/藤原/山階、左大臣/歌) C 2 0 9 1
実雄(じつゆう・一東) → 実雄(さねお・一東いっとう、文筆家) K 2 0 7 6
実祐(じつゆう・草野/佐藤) → 固庵(こあん・佐藤さとう、儒者) G 1 9 2 0
実猷(じつゆう；法諱) → 文江(ぶんこう；号・密帷、臨濟僧) F 3 8 2 1
実揖(じつゆう・清水谷) → 実揖(さねおさ・清水谷、廷臣/記録) K 2 0 7 8
- F2119 **実誉**(じつよ；法諱、通称；実鑒僧都) ?-? 鎌倉期の僧；律師/権少僧都/歌人、1320成立「続千載集」入；1941、
[年月をふるのたかはしいたづらにおもひ出なくて世をやわたらん](続千載；雑1941)
実誉(じつよ；初法諱) → 尋海(じんかい；法諱、真言僧) N 2 2 6 5
質庸(じつよう・山本) → 質庸(ただつね・山本やまもと/中臣/；杉本、国学) 2 7 2 1
- V2115 **実養**(じつよう；法諱・長与房；字) ?-1702 真言僧；智積院の運敞門/教学を修学、伊達綱村の帰依を受け仙台竜宝院住持、歌人、1697「成唯識論述記序解」著、1698「具舎論頌疏賈曾記纂註」編、「異部宗輪論述記」著
叱羊亭(しつやうてい) → 嘉(よしみ・菅原すがわら、博物学者) H 4 7 3 0
実頼(じつらい・藤原) → 実頼(さねより・藤原、廷臣/歌人/故実) 2 0 4 6
実利(じつり・橋) → 実利(さねとし・橋たぢはな、廷臣/歌人) D 2 0 2 9
実隆(じつりゅう) すべて → 実隆(さねたか)
実量(じつりょう・三条) → 実量(さねかず・三条/転法輪三条/藤原、左大臣/歌) C 2 0 9 6
実梁(じつりょう・小倉/橋本) → 実梁(さねやな・橋本/藤原/小倉、廷臣/歌) D 2 0 7 4
実良(じつりょう・一条) → 実良(さねよし・一条/藤原、廷臣) L 2 0 4 8
- V2116 **実倫**(じつりん；法諱・観如^{かんにょ}；字) ?-? 1848^存 天台僧；常陸阿波の安穩寺36世、江戸寛永寺癡空の講席に列す；講義録編纂、1831「天台四教儀集註啓蒙」、1848「和漢高僧年忌日鑑」、「七九又略啓蒙」著
漆林館(しつりんかん) → 鶯室(おうしつ・中山なかやま、俳人) C 1 4 4 4
- V2117 **実霊**(じつれい；法諱) ? - 1800 叡山吉祥院の天台僧、1741「天台秘法集」著、「諸尊用心草」「妙印雑記」「後正法院宮御葬送記」「三味流再興好相記」著
実麗(じつれい・橋本) → 実麗(さねあきら・橋本/藤原、廷臣；国事奔走) C 2 0 8 4
実麗(じつれい・竹村) → 実麗(さねよし・竹村たけむら、歌人) Q 2 0 9 1

実連(じつれん) → 生覚(しょうかく、綾小路経資、歌/早歌) H 2 2 7 3
 実連(じつれん・正親町) → 実連(さねつら・正親町おおぎまち/藤原、権大納言/神道) G 2 0 3 7
 実連(じつれん・三条西) → 実連(さねつら・三条西さんじょうにし/藤原、歌) D 2 0 2 3
 実廉(じつれん・花園) → 実廉(さねかど・花園/藤原、廷臣/琵琶) K 2 0 8 3
 実廉(じつれん・山本) → 鹿門(ろくもん・小倉おぐら/坂/山本、藩儒者) B 5 2 1 2
 実蓮社(じつれんしゃ) → 学天(がくてん;法諱・因順、浄土僧) K 1 5 2 6
 膝六丈人(しつろくじょうじん) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
 実和(じつわ・西山) → 実和(さねかず・西山にしま、国学者) P 2 0 0 8

V2118 **思亭**(してい・丹羽にわ、名; 憲、満矩男) 1795-1846⁵² 越後新発田藩士/郡方附人/郡廻、
 儒; 中村択斎門、藩主の抜擢で江戸遊学; 儒者; 松崎慊堂こうどう・林檎宇てい門、帰郷し復官、
 新発田藩は蘭学重視のため藩校に出仕不能、家塾を開き子弟教育、詩歌・画・琴を嗜む、
 「積善堂詩話」「積善堂文草」「随得随録」著、「思亭遺稿」、和氣寛ひろしの師
 [思亭(;)号)の字/通称/別号]字; 伯弘、通称; 惣助/総助、
 別号; 積善堂/学半楼/方軒/六任文房/弗得弗措斎、

V2119 **芝亭**(してい・下司しづかき/げじ、本姓; 源、名; 美章) ?-? 江後期京烏丸二条下ル町の篆刻家; 高芙蓉門、
 「摹印篆選ばいんてんせん」編、
 [芝亭(号)の字/通称/別号]字; 士玉、通称; 左近、別号; 謙斎/栗斎/阮美章

師貞(してい;法諱) → 幹山(げんざん;道号・師貞、臨濟僧) J 1 8 1 9
 師貞(してい・有沢) → 師貞(もろさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学) H 4 4 2 1
 師鋌(してい・三宅) → 師鋌(もろかね・三宅みやけ、国学者) L 4 4 5 3
 菫亭(してい;号) → 道本(どうほん;道号・寂伝、黄檗僧) H 3 1 2 4
 菫庭(してい;号) → 元堅(もとかた・多紀たき/丹波、幕府奥医) C 4 4 3 6
 子貞(してい・小川) → 南塔(なんとう・小川おがわ、医/儒詩) J 3 2 3 3
 子貞(士貞してい・根岸) → 鶴亭(かくてい・根岸ねぎし、藩士/儒者) K 1 5 2 4
 子貞(してい・富小路) → 貞直(さだなお・富小路/藤原/伏原、廷臣/歌) C 2 0 1 4
 子貞(してい・有吉) → 文英(ふみひで・有吉ありよし、医者/歌) H 3 8 9 6
 子禎(してい・森) → 蘭斎(らんさい・森もり、医者/絵師) C 4 8 1 7
 子禎(してい・豊田) → 養慶(ようけい・豊田とよだ、藩医/本草) 4 7 7 1
 子定(してい・蟹) → 養斎(ようさい・蟹かに、儒者) 4 7 9 2
 子定(してい・藤田) → 幽谷(ゆうこく・藤田ふじた、彰考館総裁) 4 6 0 1
 子亭(してい・安光) → 南里(なんり・安光やすみつ、庄屋/儒者) J 3 2 6 3
 之貞(してい・梅田/木村) → 松石(しょうせき・木村/梅田、医者/詩) K 2 2 3 1
 司貞(してい・谷) → 其章(もとあき・谷たに、医者) B 4 4 9 8
 氏貞(してい/うじさだ・大館) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0
 氏定(してい・藤原) → 氏定(うじさだ・藤原、廷臣/歌人) 1 2 2 9
 師定(してい・押小路) → 師定(もろさだ・押小路/中原、廷臣/記録) H 4 4 2 0
 士弟(してい・岸) → 岸礼(がくれい、絵師) R 1 5 8 6
 士貞(してい・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7
 士貞(してい・榎本) → 敬元(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) V 2 6 9 4
 士貞(してい・木村) → 雅敬(まさたか・木村きむら、藩士/医者/歌) D 4 0 2 5
 柿庭(してい・大橋) → 長広(ながひろ・大橋おおはし、国学/歌人) F 3 2 5 7
 資定(してい・柳原) → 資定(すけさだ・柳原、廷臣/故実/歌) C 2 3 1 7
 嗣定(してい・藤原) → 嗣定(つぎさだ・藤原/近衛/藤井、歌人) 2 9 5 0

V2120 **慈鼎**(じてい;道号・九峯きゅうほう;法諱) ?-1815**幽閉死** 能登の曹洞僧; 金沢松山寺住寺、
 1808金沢宝円寺26世住持、1810藩主前田治脩の葬儀の導師; 「治脩公賛語草稿」、12隠居、
 のち罪を得て天徳院座敷牢に幽閉; 没

V2121 **慈亭**(じてい・友石ともいし、名; 文儀) 1799-1858⁶⁰ 豊前企救郡畑村/農業/大庄屋、儒; 矢島伊浜門、
 「烟霞篇」「老嬉鈔」「論語語策」、古香/篁陽/惕堂の父、
 [慈亭(;)号)の字/通称]字; 元度、通称; 宗左衛門

- 治貞(じてい・芳賀) → 治貞(はるさだ・芳賀、狂歌) I 3 6 9 4
 治貞(じてい・徳川) → 治貞(はるさだ・徳川とくがわ、藩主) G 3 6 3 4
 治貞(じてい/はるさだ・中山) → 玄亨(げんこう・中山、医者/日記) I 1 8 8 1
 慈貞院(じていじん) → 健子(たけこ・松平まつだいら/鍋島、貢姫/藩主室) Z 2 6 5 8
 止定齋(していさい) → 安崇(やすたか・伴部ともべ、儒・神道家) B 4 5 8 3
- F2120 紫貞女(していじよ・木村/旧姓; 梶村、初号; 紫青) 1683?-175169? 肥前菌部郡の俳人; 九州蕉門、
 坂本朱拙・志太野坡門、菌部郡上村の庄屋木村嵐州(重格/与市/次三郎)の後妻、
 句は「蕉門名家句集」入、法号; 松月軒元水紫貞大姉
 垂穎(しでかい・原田) → 槐雲(かいうん・原田はらだ、神職/国学) V 1 5 4 4
- F2132 志滴(してき) ? - ? 江前期元禄頃京の俳人、1690順水「誹諧破曉集」入、
 1691好春「新花鳥」(;折々ての歌仙発句入)、
 [折り折りて手にはもたれぬ花野哉](新花鳥;歌仙発句/脇は好春・第三は言水)
- F2121 紫笛(してき・如雲舎じょうんしゃ、本名; 山田直方) 1718/21-7959-62? 大阪の狂歌作者;
 初め雪縁齋陰山一好門、1751頃栗柯亭木端門、
 1754「狂歌水の鑑」著(柳沢淇園後序; 夢に紫玉笛を得て紫笛とす)、
 1758出家; 黄檗僧、拙堂名で北長柄に結庵/1768木端流に新風を模索; 如雲舎と改号/破門、
 新風一派を形成; 諸国雲水の旅、野田に結庵; 傍らの楠の大樹に因み楠の上人と称す、
 教訓歌を作る; 1777「かな説法付いろは歌」/のち東三番村貞円庵に移住; 没、
 1778「狂歌無心抄」「狂歌続無心抄」編、1779「孝の道」「如雲紫笛道人不二法門」著、外著多数、
 狂歌才蔵集入(紫笛法師名)、
 [またぐらをくぐりし人はいたゞきぬ金の冠玉のかんむり](才蔵集; 538/韓信の画に)、
 [如雲舎紫笛の別号] 山果亭、楠庵/楠の上人、出家号; 拙堂、
 門下生; 即今舎放過・樹下舎紫髯・楚雲堂山丘・青々園蕪坊など
- 子迪(してき・佐久間) → 象山(しょうざん・佐久間、儒/蘭学/兵学) S 2 2 5 4
 子迪(子迪してき・宇佐美) → 瀧水(しんすい・宇佐美/宇、儒者/詩人) E 2 2 7 3
 子迪(してき・三条西) → 季知(すえとも・三条西/西三条/藤原、廷臣/尊攘) B 2 3 2 9
 子迪(してき・山村) → 良啓(よしひろ/たかひら・山村やまむら、代官/和学) P 4 7 9 3
 子適(してき・永田) → 忠宜(ただよし・永田、藩士/音律研究) R 2 6 3 1
 士迪(してき・藤居) → 重啓(しげひろ・藤居ふじい、藩士/本草学) S 2 1 4 7
 自適(じてき; 字) → 順崇(じゅんしゅう; 法諱、真宗大谷派僧) K 2 1 9 7
 自適園(じてきえん) → 鷺湖(がこ・千村ちむら、儒者/歌人) F 2 1 2 1
 自適齋(じてきさい) → 尚信(なおぶ・狩野かのう、幕府絵師) B 3 2 9 8
 自適齋(じてきさい・千原) → 夕田(せきでん・千原ちはら、商家/詩/画/書家) D 2 4 7 6
 紫笛法師(してきほうし) → 紫笛(してき・如雲舎、黄檗僧/狂歌) F 2 1 2 1
 士轍(してつ・志村) → 五城(ごじょう・志村むら、藩儒/詩文) G 1 9 4 6
 子轍(してつ・芥川) → 玉潭(ぎよくたん・芥川あくたがわ、藩士/儒者) I 1 6 8 9
 子轍(してつ・山川) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
 子徹(してつ・手塚) → 玄通(げんつう・手塚てつか、藩士/医者) L 1 8 4 8
 子徹(してつ・入江) → 若水(じゃくすい・入江、商家/詩人) G 2 1 3 1
 子哲(してつ・石井) → 沢所(たくしよ・石井、藩儒/学制) O 2 6 0 4
 子哲(してつ・早田) → 簾山(しょうざん・早田はいだ、藩士/儒者) J 2 2 3 1
 子哲(してつ・小島) → 有卿(ゆうけい・小島こじま/川崎、藩医) B 4 6 3 5
 子哲(してつ・大野) → 北海(ほっかい・大野おおの、儒者/兵学) E 3 9 5 0
 子哲(してつ・芳賀) → 慶明(よしあき・芳賀はが、肝入/国学者) O 4 7 4 9
 氏鐵(してつ・戸田) → 氏鐵(うじかね・戸田、武将/藩主) C 1 2 3 6
 資哲(してつ・川田) → 芝嶠(しきょう・川田、藩儒/陽明・朱子学) Q 2 1 2 2
- V2122 自徹(してつ・鈴木すずき、名; 詠昌/別号; 松濤館) ?-? 江中期宝暦1751-64頃尾張の文筆家、
 1763刊「礼用記」著
 埜出鷹久(しでのたかひさ→とやでのたかひさ) → 雨什(うじゅう・生方、俳人) C 1 2 8 0
 垂加(してます・山崎) → 闇齋(あんさい・山崎、神道家) 1 0 3 7

- 四囀(してん・童戲堂) → 童戲堂四囀(どうぎどうしてん、評判記) C 3 1 6 3
 師点(してん;法諱) → 即川(そくせん;道号・師点、臨濟僧) D 2 5 5 5
 士楨(してん・寺西) → 元永(元栄もとなが・寺西、幕臣/国学) D 4 4 5 5
 字典(してん;字) → 獬(かい・広川ひろかわ、医者;蘭漢医) E 1 5 3 1
 字典(してん・伊良子) → 大洲(たいしゅう・伊良子いらこ/伊良、儒者) K 2 6 1 8
 字典(してん・成瀬) → 当職(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) H 4 0 9 5
 字典(してん・井上) → 常之(つねゆき・井上/小原、商家/歌/画) E 2 9 1 5
 字典(してん・上田/榊原) → 守典(もりのり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5
 字典(してん・河野) → 通礼(みちあや・河野/越智、廷臣/曆算家) B 4 1 1 4
 士典(字典してん・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7
 子伝(士伝してん・藤田/人見) → 懋斎(ぼうさい・人見/小野/野藤田、儒者/藩士) 3 9 8 9
 自典(じてん・三浦) → 文嶺(ぶんれい・東翁舎、書家) G 3 8 8 3
 自天(じてん・赤松) → 則祐(そくゆう;法諱、赤松/源、武将/僧/歌) D 2 5 5 9
 自天(じてん・草野/佐藤) → 固庵(こあん・佐藤さとう/草野、儒者) G 1 9 2 0
 F2122 慈伝(じてん;法諱、後浄妙近衛経平男)?-? 母;仲高入道女、叡山天台僧;叔父慈勝僧正門、
 比叡山浄土寺の大僧正、歌人;新千載集3首703/1003/1077、
 [とはれじないづくを道とまどふまで我さへみつる庭の白雪](新千載;冬703)
 支天庵(してんあん) → 文晔(ぶんぎょう;法諱・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
 四天王寺宮(してんのうじのみや) → 寛尊法親王(かんそんほつしんのう、門跡/歌) E 1 5 0 8
 F2123 子登(しと;法諱) ? - ? 江中期大阪生玉の真蔵院住職、
 1716「世説故事苑」著/28「真俗伝事編」編
 子登(しと・松永) → 花遁(かんとん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
 子登(しと・賀来) → 玉淵(ぎよくえん・賀来かく、醸造家/儒者) O 1 6 8 0
 子登(しと・菅沼) → 西陵(せいりょう・菅沼すがぬま/阮、儒者) J 2 4 8 2
 子登(しと・翠釜亭) → 翠釜亭(すいふてい、絵師) 2 3 8 4
 士登(しと・柴田) → 拗斎(ようさい・柴田/新発田、地理学者) 4 7 9 9
 士都(しと・吉川) → 茂周(しげちか・吉川よしかわ、藩士/地誌) C 2 1 4 2
 時度(じど・裏松/交野) → 惟肃(これすみ・交野かたの;/平、廷臣) O 1 9 4 2
 V2123 子東(しとう) ? - ? 江中期尾張名古屋の俳人;
 1768-72暁台「秋の風」6句入/74美角「ゑぼし桶」1句入/76几董「続明烏」1句入、
 [年礼にすこしの野路のみち気はれたり](続明烏;11/年始回りは気疲れ;途中野道で一息)
 子等(しとう・鎌田) → 桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、藩医:外科) F 1 8 9 8
 子冬(しとう・藤/藤原) → 貞幹(さだもと・藤原、国学/故実家) 2 0 2 7
 子当(しとう・高木) → 凝式(なりり・高木たかぎ、商家/儒・歌) N 3 2 7 1
 子統(しとう・猪飼) → 箕山(きざん・猪飼いかい、藩士/儒者) K 1 6 6 9
 子棟(しとう・幸田) → 光隆(みつたか・幸田こうだ/度会、神職) D 4 1 7 4
 子韜(しとう・千田) → 玄智(玄知/元智げんち・千田せんだ、医者) L 1 8 1 0
 子蕩(之蕩しとう・大竹/岳) → 麻谷(まこく・大竹/岳、漢学者) 4 0 7 0
 士棟(しとう・山岡) → 次隆(つぎたか・山岡、藩士/詩人) 2 9 5 2
 士侗(しとう・山村) → 良啓(よしひろ/たかひら・山村やまむら、代官/和学) P 4 7 9 3
 史頭(しとう・沢井) → 穿石(せんせき・沢井さわい、書家) M 2 4 7 7
 資藤(しとう・町) → 資藤(すけふじ・町/藤原/柳原、廷臣/歌) C 2 3 9 8
 資統(しとう・広橋) → 資宗(すけむね・日野/藤原、廷臣/記録) D 2 3 1 1
 資董(しとう・烏丸) → 資董(すけただ・烏丸、権大納言/記録) G 2 3 4 1
 氏冬(しとう・吉見) → 氏冬(うじふゆ・吉見、藩士/兵法) C 1 2 7 0
 師冬(しとう・高) → 師冬(もろふゆ・高こう/高階、武将/歌人) H 4 4 9 0
 師冬(しとう・今小路) → 師冬(もろふゆ・今小路/藤原、大納言/歌) H 4 4 9 1
 紫藤(しとう) → 真蘂(しんずい;法諱・季瓊けい、臨濟僧) 2 2 3 6
 V2125 至導(しとう;道号・無難^{ぶなん};法諱、号;至導庵主、合川親直男) 1603-76 74 美濃関ヶ原本陣の家の生、

家業の本陣を継嗣/1642(40歳)出家;臨濟僧愚堂東寔門/法嗣、江戸麻布東北庵住、
1673頃門人の建立した江戸の東北寺開山、至道庵を創建隠棲、74同庵を小石川に移設;没、
1666「人に与ふる法語」「竜沢寺所蔵法語」/70「即心記」、「自性記」「至導無難禪師法語」、
「無難禪師道歌集」著、

[至導無難の号]出家以前;道時居士/劫外、出家後;至導庵主

F2124 **之道**(しどう;号・槐本えのもと、通称;伏見屋久右[左]衛門)1659?-170850? 大阪道修町商人;菓種商?、
俳人;初め来山門;東湖号/1690芭蕉門;之道に改号、1695伊賀・尾張・美濃・近江を行脚;
1697諷竹に改号、諸国の俳人と交流、
1690「江鮭子あめご」98「淡路島」99「砂川」1707「つんぼ猿」編、1690順水「破暁集」入、
1691「猿蓑」3句/94「炭俵」3句/98「続猿蓑」2句/97晡扇「染川そめかわ集」入、
[三ヶ月に鱻ふのあたまをかくしけり](猿蓑;卷三)
(洋上悠然と頭をもたげた鱻が浪間にかかる三日月におびえて潜っていった)、
[之道(;号)の別号]東湖(;来山門)/之道(1690改号)/諷竹(1697改号)、
蟻門亭/浪花俳諧之長者、北方

F2125 **紫道**(しどう、別号;玄秀) ? - 1741 豊後日田郡渡里村の長善寺第7世住職、
俳人;豊後日田蕉門、法名;釈玄秀

V2126 **師道**(しどう/もろみち・屋代やしろ/本姓;源、永邨ながむら長達男)1710-8677 屋代家の養嗣;幕臣;与力、
1734大番与力隊に属、1740番衛/1741以降大阪城・二条城・駿府城勤務、
致仕後;晩年は江戸で自適生活(隠居号;空二/空々居士)、歌人;冷泉家門、
儒;渡辺蒙庵門/林家入、書家;松下烏石・細井広沢門/篆刻・歌・画・筆・琵琶を嗜む、
「竜岡詩稿」「金魚帖」「墨池瑣談」「観濤八勝帖」「麻布七勝帖」「詠勝詩帖」、
1750「竜岡印譜」外著多数、広通「霞関集」入(息女梅園も共に入集)、
[鐘の音ねにたぐへて聞くもしづけきはちりの外なる庭の松風](霞関;雑939/古寺)、
[師道(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;喜之助、字;友達、
通称;剛七郎/次右衛門/与左衛門/馬左衛門、号;竜岡りゅうこう/空二/空々居士

V2127 **思堂**(しどう、芥川あくたがわ、名;元澄、丹邨の長男)1744-180764 京の儒者(家学);父門、
1788間部侯の招聘で越前鯖江藩儒;書;源鳥在門、明楽みんがく;魏皓こう(君山)門;奥義を究む、
1762「薔薇館集」編/93「越前鯖江志」著、
[思堂(;号)の字/通称/法号]字;子泉、通称;左民、法号;徳鄰院

V2128 **紫洞**(しどう) ? - ? 俳人;1782蕪村「花鳥篇」2句(47/117)入、
[花の雲大和河内の夕けぶり](花鳥篇;47/生駒山の東西から炊煙が立ち混じるよう)

V2129 **志道**(しどう・山口やまぐち、初名;長厚、利右衛門福敬男)1765-184278or76 安房長狭郡寺門村国学者、
1815来村の羽倉訓之門;稻荷古伝を受、神代学を創始/1818江戸で哲学的神代学を大成、
1830上京し神代学を普及活動;客死/没後1850神祇伯より神号を贈与、詩歌、
「万葉集言撰」「旅寐の夢」「安房日記」「火水与伝」「夢浮橋」、1834「水穂伝」40「神風伯」外多、
[志道(;名)の通称/号]通称;利右衛門、号;杉庵/崇山/杉の本/杉庵志道/志道杉庵、
神号;斎瑜霊神

V2130 **嗣堂**(しどう;道号、東緝とうしゅう;法諱) ?-1836 京臨濟宗建仁寺344世住持、1816「以酌雑志」編、
「建仁規範」「仁和寺参暇雑記」「嗣堂東緝和尚雑記」「嗣堂和尚再任法語艸」/「嗣堂和尚遺稿」

V2131 **志道**(しどう/はたみち・片岡かたおか、名;宜尹)1796-188590 信州松代藩士;1820藩主真田幸貫の右筆、
天保1830-44頃私塾を開く/1864致仕、見聞記「騷擾風雪聞書」著、
[志道(;号)の通称/別号]通称;源左衛門、別号;可泉、法号;源学志道居士

M2134 **芝童**(しどう) ? - ? 安藝広島の俳人、
[うぐひすのひそかに鳴くや浮御堂](短冊)

N2135 **諮道**(しどう・石村いむら、)1842-190463 紀伊南牟婁郡五郷村湯谷の生/三木里浦の法念寺住職、
維新後;小学校教師の務める、歌人;小泉虎雄門、
[諮道(;名)の号]号;木陰、法号;雪庭諮道禪師

之道(しどう/ゆきみち・林) → 春勝(はるかつ・林、羅山男/儒者) 3 6 3 0
之道(しどう・曲淵/渡辺) → 之道(これみち・渡辺/曲淵、藩士/儒者) O 1 9 8 8
芝堂(しどう・佐々) → 眞応(しんおう・佐々さき、藩士/歌人) U 2 2 8 4

士道(しどう・高野)	→	延清(のぶきよ・高野、文学者)	B 3 5 3 6
士道(しどう・解良)	→	栄重(よししげ・解良けら、国学者)	D 4 7 6 7
志道(しどう;字)	→	順藝(じゅんげい;法諱、真宗大谷派僧/歌)	J 2 1 4 6
志道(しどう・南川)	→	蔣山(しょうざん・南川みなみかわ、藩儒/医)	S 2 2 5 3
志道(しどう・水田)	→	良温(よしはる・水田みづた、和算家)	G 4 7 1 7
子道(しどう・寺井/円山)	→	応立(おうりゅう・円山まるやま/源、絵師)	C 1 4 7 2
子道(しどう・鈴木)	→	桜溪(おうけい・鈴木すずき、藩士/儒者)	C 1 4 3 6
子道(しどう・森井)	→	月艇(げつてい・森井もりい、医者/詩人)	H 1 8 2 7
子道(しどう・温井/江馬)	→	松斎(しょうさい・江馬えま、医者)	J 2 2 0 3
子道(しどう・長谷川)	→	弘(ひろむ・長谷川/佐藤、和算家)	H 3 7 4 6
子道(しどう・柴田)	→	芳州(ほうしゅう・柴田しばた、絵師)	B 3 9 5 7
子道(しどう・野口/佐竹)	→	蓬平(ほうへい・佐竹さたけ、絵師)	C 3 9 4 9
子道(しどう・関口)	→	本貞(ほんてい・関口せきぐち、医者)	F 3 9 5 5
子道(士道しどう・宇佐美)	→	主善(主膳しゅぜん・宇佐美うさみ、医者)	Y 2 1 9 6
子道(しどう・上代)	→	敏政(としまさ・上代かみしろ、歌人)	U 3 1 8 1
子道(しどう・奥宮)	→	慥斎(ぞうさい・奥宮、藩士/和漢/教育)	B 2 5 5 8
子同(しどう・遠藤)	→	鶴州(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者)	H 1 5 2 9
子同(しどう・宇津木)	→	泰交(やすとも・宇津木うつき/平、家老/歌)	F 4 5 3 6
師道(子道しどう・内藤)	→	泉庵(せんあん・内藤ないとう、医者/詩文)	L 2 4 5 1
示導(しどう;号)	→	広慧(こうえ;法諱、示導;号、真宗僧)	H 1 9 5 0
示導(しどう;法諱)	→	示導(じどう;法諱、浄土宗西山派僧)	V 2 1 2 4
茲堂(しどう/げんどう;別号)	→	雪巖(せつがん;号・実順、僧/詩人)	E 2 4 1 1
至道(しどう;初諱)	→	円月(えんげつ;法諱・中巖ちゅうがん、臨濟/五山文学)	1 3 9 4
賜堂(しどう・中川)	→	千町(ちまち・宝田、中川泰重、藩士/合巻)	F 2 8 4 2
思堂(しどう・井川いかわ)	→	東海(とうかい・井川/松田、儒者)	B 3 1 9 2
思堂(しどう・三浦)	→	坦斎(たんさい・三浦みうら、医/儒者)	T 2 6 5 1
思道(しどう/もとみち・青山)	→	拱斎(きょうさい・青山あおやま、儒者/幕臣)	N 1 6 8 3
思道(しどう・鈴木)	→	抱山(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者)	B 3 9 1 7
斯道(子道しどう・藤沢)	→	南川(なんせん・藤沢ふじさわ、儒/医者)	J 3 2 2 2
資同(しどう・森江/中井)	→	敬所(けいしょ・中井なかい篆刻家)	B 1 8 0 0

V2124 **示導**(しどう/しどう;法諱) 1286-1346 61歳 浄土宗西山派本山義流の流祖、初め叡山僧; 天台学;忠円・禅仙・相実・良祐門、浄土宗西山義;鎌倉の覚空門、京の西山三鈷寺の玄観門、本山義を開く;1323玄観の遺跡を継ぎ三鈷寺住職、一山の改革に尽力;本山義流を主唱、九条道教の招聘で大慈恩寺住職、1340「本源抄」/1342-45「観無量寿経四帖疏康永抄」著、「三心出要鈔」著、

[示導(;法諱)の号]康空/向空/浄土院、諡号;広慧

V2132 **慈等**(じどう;法諱・普育ふく;字)?-1819 武州の天台僧;川越喜多院住、のち寛永寺凌雲院住;大僧正となる、解行持戒を修学/須弥山説に基づく仏教世界を主唱、司馬江漢と論争、「三王一実神道原」著(;一実神道嚆矢)、「論義秘記」「金剛毘論本爾鈔」、「言帰集」「阿弥陀経要解一心鈔」「老之楽」/1764「百籤指南」88「成仏の直路」外著多数

慈棹(じどう;法諱)	→	峨山(がざん;道号・慈棹、臨濟僧)	I 1 5 4 7
慈等(じどう;字)	→	智暹(ちせん;法諱、真宗本願寺派僧)	E 2 8 5 5
児嶋(じどう・佐々木)	→	徳綱(のりつな・佐々木、医者/詩歌)	F 3 5 1 5
時棟(じどう/ときむね・前田)	→	東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒)	D 3 1 0 4
時当(じどう/ときまさ・西洞院)	→	時秀(ときひで・西洞院にしとういん、廷臣)	J 3 1 8 7
時藤(じどう) すべて	→	時藤(ときふじ)	

F2126 **慈道**(じどう) ? - ? 平安期 歌人、屏風歌

慈道(じどう;字)	→	信空(しんくう;法諱、真言律僧)	D 2 2 8 3
治道(じどう・池田)	→	治道(はるみち・池田いけだ/源/松平、藩主)	J 3 6 3 6
至導庵主(しどうあんしゅ)	→	至導(しどう;道号・無難;法諱、臨濟僧)	V 2 1 2 5

- 紫藤園(しとうえん) → 伴存(ともあり・畔田くろだ、国学/本草家) P 3 1 1 7
 志道館(しどうかん) → 恵堂(けいどう・白土しらと、藩士/儒者) G 1 8 4 7
- F2127 **志道軒**(しどうけん、姓; 深井ふかい/名; 新蔵・政七) 1680?-1765 86? 京梅津の農業、12歳で出家; 真言僧、真言大僧正隆光の侍僧として知足院・護持院・成満院歴住/1709寺籍離脱; 破戒酒色に耽る、享保1716頃より浅草観音堂傍で高床を設け**講釈師**; 既に同所で辻談義をする**霊全**りょうぜん門、治乱荒廃を語り性描写で評判を取る、宝暦1751-64頃には歌舞伎市川海老蔵と人気を二分、政信・豊信・春信らによる肖像画版、1748「元無草」58「三国都合点」61「可笑穴物語辯談」著、「風流神代巻」「志道軒五癖論」著、歌; 48「拾貝集」編、のちに平賀源内「風流志道軒伝」の主人公となる、[志道軒(;号)の別号/法諱/法号]別号; 至道軒/一無堂、法諱; 義定/栄山、法号; 一無堂栄山大徳
- 紫藤軒(しとうけん) → 言水(ごんすい・池西、俳人) 1 9 5 4
 紫藤軒(2世しとうけん) → 言石(ごんせき・下村、俳人) E 1 9 7 4
- F2128 **此道好人**(しどうこうじん) ? - ? 1864「今様茶番硝子鏡」第3編著
 1863「今様茶番硝子鏡いもうちやばんがらすかがみ」第三編著(北粹舎芳豊画・三五園桂子序、選者は金絲楼主人、第一二編は和合連友戯編)
- 紫藤山人(しとうさんじん) → 築山(らくざん・築山つきやま、絵師) B 4 8 1 5
 四当書屋(しどうしょおく) → 静廬(せいろう・北きた、国学/狂歌) D 2 4 2 3
 紙洞仙(しどうせん) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
- F2130 **止動堂馬呑**(しどうどうばどん)? - ? 洒落本作者; 1781刊「にやんの事だ」著(自序自跋)
- F2129 **慈道法親王**(じどうほつしんのう、号; 青龍院/十楽院、龜山天皇皇子) 1282-1341 母; 平時仲女、1295出家/親王宣下/1314青蓮院門跡/天台座主、1320二品、24・27天台座主還補、「青龍院二品法親王御記」「慈道親王集」著、歌人; 二条派法体歌人と交流、1335「内裏千首」参加、勅撰23首; 新後撰(704)玉葉(789/850/2259)続千(5首226/505以下)、続後拾遺(165/851/1030)風雅(4首490/1773/2035/2168)新千載(7首)新拾遺(906)、[悟りとて外にもとむる心こそ迷ひそめけんはじめなるらめ](新後撰; 釈教704)
- 2129 **持統天皇**(じとうてんのう、名; 鸕野讚良うののさららのひめみこ、天智天皇第2皇女) 645-702 58歳 母; 石川麻呂女遠智娘、657親王時の天武天皇妃、草壁皇子の母/壬申乱後672夫が皇位; 673皇后/686夫没後; 称制、689皇太子草壁の死; 690即位/藤原宮造営、在位690-697(孫文武天皇に譲位)、太上天皇と称す(; 本朝最初)、歌人; 万葉二期6首、新古今175/新勅撰497、[春過ぎて夏来る[来にけ]らし白たへの衣干したり[ほしてふ]天の香具山]、(万葉集; 28/[]内は新古今175)
 [持統天皇の別名/諡号]別名; 菟野皇女うのひめみこ/沙羅々皇女さららのひめみこ、諡号; 高天原広野天皇/大倭根子天之広野日女尊
- 資同父(しどうふ・森江/中井) → 敬所(けいしょ・中井なかい、篆刻家) B 1 8 0 0
 至道無難(しどうむなん) → 至道(しどう・無難、臨濟僧) V 2 1 2 5
- V2133 **子徳**(しとく・佐藤さとう) ? - ? 江戸の地誌家;
 1819「江都古墳志」編(; 伊藤勇助の収集)
- V2134 **子徳**(しとく・藤田ふじた) ? - ? 江後期上州館林藩士/和算家; 吉田子弘門、坂部広胖・本多利明と交流、1820「立法算顛術起源」著、
 [子徳(;字)の名/通称]名; 生親、通称; 運平
- 士徳(しとく・森田) → 直政(なおまさ・森田、古書画鑑定) C 3 2 4 3
 士徳(しとく・下田/浅井) → 奉政(ともまさ・浅井/下田、幕臣/故実) Q 3 1 5 4
 士徳(しとく・西川) → 桃源(とうげん・西川、儒者/詩) D 3 1 4 8
 士徳(子徳しとく・菅原/土師/鎌田) → 得庵(徳庵とくあん・菅かん、儒者) K 3 1 4 1
 士徳(しとく・森田) → 直政(なおまさ・森田、商家/古書画鑑定) C 3 2 4 3
 士徳(しとく・吉田) → 盤谷(ばんこく・吉田よしだ、儒者) H 3 6 6 4
 士徳(しとく・氏家) → 閑存(かんそん・氏家うじえ、藩士/儒者) H 1 5 7 1
 士徳(しとく・中村) → 嘉田(かでん・中村なかむら、儒者) O 1 5 1 1

士徳(しとく・浅野) → 嵩山(すうざん・浅野あさの、藩士/奥医師) F 2 3 2 7
 士徳(しとく・安部/小野) → 蕙畝(けいほ・小野おの、本草家) G 1 8 6 3
 士徳(しとく・山本) → 雪亭(せつてい・山本やまと、棋士;碁) L 2 4 2 5
 士徳(しとく・天野) → 恬庵(てんあん・天野あまの、藩士/儒者) D 3 0 1 0
 士徳(しとく・榎) → 浄寿(じょうじゅ・榎えのき、和算家) J 2 2 5 2
 士徳(しとく・嶺田) → 楓江(ふうかう・嶺田/峰田、藩士/詩) 3 8 6 0
 士徳(子徳しとく・草間) → 直方(なおかた・草間くさま、商家/経済研究) 3 2 9 2
 士徳(子徳しとく・藤井) → 方亭(ほうてい・藤井ふじい、蘭方医) C 3 9 3 4
 士徳(子徳しとく・重野) → 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) B 2 4 6 5
 士徳(しとく・田中) → 綏猷(すいみち・田中/小森、儒者/勤王) E 4 5 6 6
 士得(しとく・江馬) → 榴園(りゅうえん・江馬えま/飯尾、蘭医) D 4 9 0 3
 士篤(しとく・堀内) → 憲時(のりとき・堀内ほりうち、神職/国学) J 3 5 9 5
 氏徳(しとく・賀茂) → 氏徳(うじり・賀茂・西池、神職/日記) C 1 2 5 6
 氏徳(しとく・戸田) → 氏徳(うじり・戸田とだ、幕臣/資料編纂) B 1 2 7 2
 氏篤(しとく・今田) → 氏篤(うじあつ・今田こんだ、大庄屋/和漢学) E 1 2 7 0
 子徳(しとく・小川屋/加藤) → 東岡(とうかう・加藤かとう、書肆/歌人) D 3 1 8 6
 子徳(しとく・沢辺/皐) → 東谷(とうこく・沢辺/皐、儒者/医者) E 3 1 0 9
 子徳(しとく・竹川) → 馬陵(ばりょう・竹川たけがわ、儒/詩人) F 3 6 9 0
 子徳(しとく・寺尾) → 一純(いちじゅん・寺尾てらお、藩士/詩人) C 1 1 4 9
 子徳(しとく・河村) → 秀俊(ひでとし・河村、藩士/国学者/詩歌) D 3 7 3 1
 子徳(しとく・杉林) → 雲鶴(うんかく・杉林すぎばやし、書家) D 1 2 6 4
 子徳(しとく・葛巻/大野木) → 克明(かつあきら・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 2 3
 子徳(しとく・白井) → 重行(しげゆき・白井しらい、藩士/儒者) T 2 1 0 3
 子徳(しとく・松平) → 頼救(よりすけ・松平/徳川、藩主/俳人) I 4 7 8 1
 子徳(しとく・原) → 在明(ざいめい・原/平、絵師) F 2 0 0 2
 子徳(しとく・関) → 克明(かつあき・関せき、書家/儒者) N 1 5 2 0
 子徳(しとく・塚村) → 嘉伝太(かでんた・塚村つかむら、里正/歌) O 1 5 1 3
 子徳(しとく・錦織にしごり) → 唐麿(からまる・千柳亭、綾彦、医者/狂歌) F 1 5 9 6
 子徳(しとく・秋葉) → 東叢(とうそう・秋葉、郷土/文筆) G 3 1 2 8
 子徳(しとく・片柳/石井) → 磯岳(きがく石井いしい、絹織業/儒者) I 1 6 4 5
 子徳(しとく・菅原) → 曲溪(きょくけい・菅原、書肆/詩歌文) O 1 6 8 7
 子徳(しとく・岡田) → 玉山(ぎょくざん・岡田おかだ、絵師) D 1 6 0 0
 子徳(しとく・宮竹) → 良順(りょうじゅん・宮竹/今井、医者/儒) I 4 9 0 1
 子徳(しとく・大内) → 定盛(さだもり・大内おおうち、藩士/儒者) J 2 0 9 9
 子徳(しとく・中野) → 源蔵(げんざう・中野、真宗僧/儒者) K 1 8 8 2
 子徳(しとく・坂元/坂本) → 玄岡(げんかう・坂元/坂本さかもと、儒者) I 1 8 8 2
 子徳(しとく・宮原) → 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒) E 4 9 1 9
 子徳(しとく・揚/上野) → 弘斎(こうさい・揚あげ/上野あげの、藩士/国学) I 1 9 9 5
 子徳(しとく・神谷) → 為政(ためまさ・神谷かみや、国学者/詩歌) S 2 6 7 8
 子徳(しとく・川上/上田/紀) → 千風(ちかぜ・上田/紀、材木商/国学/歌) B 2 8 0 7
 子徳(しとく・金谷) → 静台(せいだい・金谷かなや/源、儒者) J 2 4 1 5
 子徳(しとく・斎藤) → 竹堂(ちくどう・斎藤さいとう、儒者) 2 8 1 0
 子徳(しとく・西尾) → 喜宣(よしのぶ・西尾にしお、藩士/和算家) F 4 7 6 6
 子徳(しとく・松浦) → 星洲(せいしゅう・松浦まつうら、星占家) B 2 4 9 9
 子徳(しとく・伊藤) → 鳳山(ほうざん・伊藤いとう、漢学者) B 3 9 1 4
 子徳(しとく・太田) → 佐良(すけよし・太田、農業/国学/歌人) H 2 3 9 2
 子徳(しとく・松平) → 頼覚(よりさと・松平まつだいら、藩主名代) P 4 7 2 2
 子徳(しとく・三角) → 有孝(ありたか・三角みすみ、廷臣/医官) I 1 0 5 0
 子徳(しとく・加藤) → 正之(まさゆき・加藤かとう、商家/尊王) I 4 0 3 7
 子徳(士徳しとく・重野) → 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) B 2 4 6 5

子徳(しとく・阿部)	→	崇広(たかひろ・阿部あべ、儒/歌)	V 2 6 0 1
子徳(しとく・吉田)	→	恒重(つねしげ・吉田よしだ、国学者)	G 2 9 7 1
子徳(しとく・川合)	→	清丸(きよまる・川合かわい、神職/思想家)	T 1 5 9 6
子得(しとく・菊池)	→	巻石(けんせき・菊池さくち、藩士)	K 1 8 4 7
子得(しとく・遠藤)	→	随所(ずいしょ・遠藤、篆刻家/砲術家)	E 2 3 6 8
子篤(しとく・山中)	→	信古(のぶふる・山中、藩士/本草家)	D 3 5 2 2
子篤(しとく・鈴木)	→	主計(かづえ:通称・鈴木すずき、眼科医)	M 1 5 1 2
子篤(しとく・服部)	→	宗賢(そうけん・服部はっとり、医者/藩政)	H 2 5 0 6
子篤(しとく・中村)	→	沢斎(たくさい・中村なかむら、儒者/教育)	N 2 6 9 8
子篤(しとく・間部)	→	詮実(あきざね・間部まなべ、藩主/随筆)	G 1 0 5 8
子篤(しとく・柚木)	→	玉洲(ぎよくしゅう・柚木ゆきの、藩士/絵師)	U 1 6 2 0
之篤(しとく・津島)	→	北岳(ほくがく・津島つしま、文筆家)	C 3 9 9 7
之徳(しとく・勝田)	→	季鳳(きほう・勝田かつた、藩士/儒/医者)	I 1 6 6 8
之徳(至徳しとく・鈴木)	→	石橋(せつきょう・鈴木、儒家/教育者)	E 2 4 1 4
四徳(しとく;号)	→	詮海(せんかい;法諱、融通念仏僧)	I 2 4 7 0
至徳(しとく・蛭田)	→	玄仙(げんせん・蛭田ひるた、産科医)	K 1 8 6 3
志篤(しとく・庄司)	→	文螭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳)	G 3 8 1 3
資徳(しとく・日野)	→	資徳(すけのり/すけかつ・日野ひの、商家/神職)	J 2 3 0 2
師徳(しとく・押小路)	→	師徳(もろのり・押小路/中原/小槻、廷臣/記録)	H 4 4 7 1

F2131 耳徳(じとく・雪瓜園せつかえん、姓;力石/通称;荻之進)?-? 江中期宝暦1751-64頃の俳人:蓼太門、
1763「芙蓉文集」編(;蓼太の収集した諸家の俳文及び蓼太の俳文を編纂)

自得(じとく)	→	瓢水(ひょうすい・滝、俳人)	F 3 7 2 7
自得(じとく・野上)	→	陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者)	C 3 5 8 5
自得(じとく・三輪)	→	花信斎(かしんさい・三輪みわ、狩野派絵師)	M 1 5 0 1
自得(じとく・権田/光谷)	→	竹二坊(ちくじぼう・権田、医者/俳人)	D 2 8 1 6
自得(じとく・中川)	→	希雲(きうん・中川ながわ、醸造/歌・俳人)	U 1 6 9 0
自得(じとく・伊達)	→	千広(ちひろ・伊達/宇佐美、藩士/歌)	F 2 8 2 2
自得(じとく・永井)	→	如瓶子(じよへいし・永井/大江、書家/狂歌)	C 2 2 9 5
字徳(じとく・乳井)	→	貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政)	D 4 1 2 6
治徳(じとく・下条)	→	秋水(しゅうすい・下条しもじょう、医者/国学)	X 2 1 7 4
四徳庵(しとくあん)	→	梅州(梅洲ばいしゅう・岡本おかもと、俳人)	B 3 6 4 5
自得庵(じとくあん)	→	瓢水(ひょうすい・滝/滝野、商家/俳人)	F 3 7 2 7
自得院(じとくいん)	→	長晟(ながあきら・浅野あさの、藩主)	K 3 2 7 9
自徳院(じとくいん)	→	胤富(たねとみ・遠藤たえんどう/松平、藩主)	V 2 6 9 5
慈徳院(じとくいん)	→	正虎(まさとら・堀田/紀、藩主/歌人)	E 4 0 8 7
慈徳院(じとくいん)	→	宗信(むねのぶ・島津しまつ、藩主/弓術)	D 4 2 8 6
自徳翁(じとくおう)	→	常辰(つねとき・隼土はやと、俳人)	C 2 9 6 4
自得翁(じとくおう)	→	自得(じとく・伊達)	F 2 1 3 2
自得軒(じとくけん)	→	長珪(ちやうけい・瀬尾せお、医者)	H 2 8 9 7
自得居士(じとくこじ)	→	自得(じとく・伊達)	F 2 1 3 2

F2133 自得斎(じとくさい・会翁かいおう)?-? 1769「盤珪禅師白挽歌うすひきうた」(歌謡)編、
(盤珪永琢ばんけいようたく;臨濟僧/吉野山中作の雨乞踊歌21首と白挽歌)

自得斎(じとくさい)	→	光悦(こうえつ・本阿弥、鑑定/書家)	1 9 0 5
自得斎(じとくさい)	→	祐信(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本)	C 2 3 7 4
自得斎(じとくさい)	→	瓢水(ひょうすい・滝/滝野、商家/俳人)	F 3 7 2 7
自得軒(じとくけん)	→	長珪(ちやうけい・瀬尾、医者)	H 2 8 9 7
自得叟(じとくそう)	→	祐信(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本)	C 2 3 7 4
自得堂(じとくどう)	→	臨犀(りんさい・生野いくの、儒者/教育)	K 4 9 3 0
士訥(しとく・木村)	→	克敏(かつとし・木村きむら/長野、国学/歌)	U 1 5 4 6
子訥(しとく・服部)	→	東洋(とうよう・服部はっとり、儒者)	H 3 1 8 0

子訥(しとつ・田村) → 看山(かんざん・田村たむら、藩士/儒者) Q 1 5 8 3
 子訥(しとつ・武部) → 敏行(としゆき・武部たけべ、庄屋/農政) O 3 1 1 4
 子訥(しとつ・志村) → 麗沢(れいたく・志村しむら、藩儒/詩) 5 1 5 0
 子訥(しとつ・安原) → 正敏(まさとし・安原やすはら/河本、商家/歌) T 4 0 3 7
 子訥(しとつ・渋江) → 晩香(ばんかう・渋江しぶえ、教育/神職) K 3 6 2 8
 子訥(しとつ・辻) → 守瓶(もりかめ・辻つじ/三枝/志村、医者) K 4 4 5 4
 士訥(しとつ・三木) → 雲門(うんもん・三木みき、儒者) E 1 2 0 9
 蔀(しとみ・星野) → 葛山(かつさん・星野ほしの、藩士/儒者) H 1 5 7 8
 蔀(しとみ・神野) → 易興(やすおき・神野じんの/かんの、藩士/国学) B 4 5 0 7
 蔀(しとみ・武谷) → 栄国(ひでくに・武谷たけたに、藩士/歌) L 3 7 5 2
 蔀(しとみ・中山) → 秋福(あきとみ・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 4
 蔀(しとみ・中山) → 篤則(あつり・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 5
 蔀関月(しとみかんげつ) → 関月(かんげつ・蔀、絵師) D 1 5 5 8
 蔀関牛(しとみかんぎゅう) → 関牛(かんぎゅう・蔀、絵師) G 1 5 2 0
 子敦(しとん・菅野) → 恭厚(やすあつ・菅野かんの、儒者) 4 5 9 1

- F2135 **子曇**(しどん/すどん; 法諱・西澗/西礪せいかん; 道号、俗姓; 黄) 1249-1306 58 宋の台州仙居の臨濟僧;
 1265出家/71渡来; 78一時帰国/99一山一寧に随従し再渡来、円覚寺6世/建長寺10世住寺、
 五山僧を養成、「西澗和尚語録」「法燈禪師塔銘」著、諡号; 大通禪師
- F2136 **士曇**(しどん; 法諱・乾峯けんぼう; 道号、号; 少雲/諡号広智国師) 1285-1361 77 博多臨濟僧: 南山士曇門、
 1331建長寺首座/37東福17世/47南禅寺20世、京東山宝菩提寺住、武蔵成願寺・日向大光寺開、
 「見性義記」「安国寺開山入寺門疏」「乾峯和尚語録」著、「広智国師語録」(抜関要)
- F2134 **示敦**(じとん; 法諱・儀雲ぎょうん; 道号) ?-1527 山城の臨濟僧; 栄福寺東昇希杲門; 法嗣、
 伊勢安国寺住/1497東福寺182世、1522安国寺で開山虎関師鍊2百年忌を預修、
 「儀雲示敦文集」「儀雲和尚法語」著
 時敦(じとん・北条/平) → 時敦(ときあつ・北条/平、武将/歌人) I 3 1 9 2
 志那園(しなえん) → 清名(きよな・早川はやかわ/井内、藩士/国学) V 1 6 0 3
- 02101 **志那子**(しなこ・柏木かしわぎ、) 1808-1893 86 陸奥会津若松の歌人; [明治歌集]に入
 品太夫(しなだゆう・宮古路) → 豊前掾(初世ぶぜんのだじょう・富本、浄瑠璃太夫) 3 8 1 0
 級長(しなが・風早/篠原) → 笠山(りゅうざん・篠原しのはら/風早、藩士/儒/兵学) E 4 9 2 4
- P2152 **信濃**(しなの) ? - ? 平安中期; 藤原師実[1042-1101]家女房、
 醍醐流源道成[?-1036]の孫
- F2137 **信濃**(しなの・四条太皇太后宮、源経隆[999-1081]女) ?-? 平安後期; 女房歌人、経長・経信の姪、
 後冷泉皇后四条宮寛子[関白藤原頼通女; 1036-1127]の女房、1053馨子けいに内親王歌合参加、
 1056皇后宮寛子春秋歌合/1066皇后宮寛子歌合/1094高陽院七番歌合参加(; 信乃君)、
 1104「左近権中将俊忠家歌合」入(; 信の君名)、四条宮下野しもつけ集入、玉葉724、
 [ほととぎす雲みの声はきく人の心さへこそそらになりけり](高陽院歌合; 郭公六左25)
 [音のきく小倉の山は月影の入りぬる時の名にこそありけれ](玉葉; 秋724/桂での歌)
- V2135 **信濃**(しなの・関白家、藤原永実[?-1118以後没]女) ?-? 平安後期: 関白忠実[1078-1162]家女房、
 歌人; 1118内大臣忠通家歌合参加(; 信濃公名/判者; 俊頼・基俊)、寂超「後葉ごよう集」入、
 [神無月旅行く人もいづくにかたちかへるべき時雨もる山](忠通家歌合; 時雨九番左17)
 [世とともに袖のみ濡れて衣川こひこそ渡れあふ瀬なれば](後葉集; 恋308)
- V2136 **信濃**(しなの、稲野いな) ? - ? 1694存 京二条通東洞院の薬種商、本草家; 阿部将翁門?、
 1694(元禄七)幕命で薬品鑑定、1673「真偽諸薬考」「自採薬録」著
 信濃(しなの、祝部/新古今作者) → 下野(しもつけ・後鳥羽院) F 2 1 9 4
 信濃(しなの・国司くにし) → 親相(親輔ちかすけ・国司、家老/歌) B 2 8 0 6
 信濃(しなの・伊達) → 宗重(むねしげ・伊達だて/天童、領主) B 4 2 4
 信濃(しなの・米川: 変名) → 忠行(ただゆき・角田、神職) G 2 6 0 1
 信濃(しなの・松室) → 礼重(のりしげ・松室まつむろ、官人/日記) E 3 5 6 9
 信濃(しなの・中村) → 光枝(みつえ・大村/藤原、国学者/歌人) D 4 1 1 1
 信濃(しなの・中川) → 正遊(せいゆう・中川ながわ、神職/歌人) N 2 4 9 7

信濃(しなの・大路) → 延貞(のぶさだ・大路おおじ、国学者/歌人) H 3 5 6 7
 信濃(しなの・林) → 景正(かげまさ・林はやし/藤原、神職/国学) V 1 5 4 2
 信濃(しなの・烏谷) → 長国(ながくに・烏谷からすや、神職/国学) L 3 2 6 7
 信濃(しなの・静) → 鞆夫(ゆきお・静しずか/諏訪、神職/国学) G 4 6 9 2
 信濃(しなの・山田) → 稻城(いなき・山田やまだ、神職/歌人) K 1 1 7 5
 信濃五郎左衛門尉(しなのごろうざえものじょう・佐々木) → 道珍(どうちん、室町幕臣/連歌) G 3 1 5 4
 信濃入道(しなのにゅうどう) → 為篤(ためあつ・葛山かつらやま/坂、藩士/地誌/歌) S 2 6 3 1
 信濃阿闍梨(しなのあじり) → 恵什(えじゅう; 法諱、真言僧) D 1 3 9 5

F2138 信陽大飯喫(しなののおおめしぐらい) ?- ? 江中期洒落本作家、
 1780「娼註詠子戯語しょうちゅうちようしげご」著(；初世勝川春好画、遊里の穿ちの洒落本先行作品、
 太宰春台[標註孔子家語]の振り；筆名も春台の生地信州に因む戯名)

信濃守(しなののかみ・横瀬) → 国繁(くにしば・横瀬/由良、武将/連歌) C 1 7 7 6
 信濃守(しなののかみ・守矢) → 満実(みつざね・守矢もりや、神職) D 4 1 4 9
 信濃守(しなののかみ・杉浦) → 国頭(くにあきら・杉浦すぎうら、神職/国学) 1 7 1 7
 信濃守(しなののかみ・小笠原) → 長勝(ながかつ・小笠原おがさわ/源、藩主/連歌) D 3 2 4 5
 信濃守(しなののかみ・由良) → 貞房(さだふさ・由良ゆら、高家旗本/歌人) P 2 0 8 8
 信濃守(しなののかみ・菅沼) → 定敬(さだゆき・菅沼すがぬま、幕臣/歌人) K 2 0 1 7
 信濃守(しなののかみ・中川) → 長経(ながつね・中川ながかわ、廷臣/歌人) O 3 2 0 4
 信濃前司(しなののぜんじ) → 行長(ゆきなが・藤原、詩人) 4 6 2 2
 信濃中書王(しなののちゅうしょおう) → 宗良親王(むねながしんのう、天台僧/南朝将軍/歌) 4 2 0 8
 信濃入道(しなのにゅうどう) → 行朝(ゆきとも・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 0 7
 信濃宮(しなののみや) → 宗良親王(むねながしんのう、天台僧/南朝/歌) 4 2 0 8
 信濃望月(しなののもちづき) → 長孝(ながよしの・ちようこう・望月、歌人) 3 2 2 2
 支那廼舎(しなのや) → 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8
 品彦(しなひこ・松木) → 品彦(ただひこ・松木、禰宜) Q 2 6 5 4
 種姫(しなひめ・戸田) → 親子(ちかこ・戸田とだ/島津、藩主室/歌) N 2 8 0 2

V2137 しなほ(・柳) ?- ? 狂歌；高彦「狂風大人墨叢たいじんぼくそう」詠草入

子南(しなん・河合) → 鹿門(ろくもん・河合かわい、儒者/詩) B 5 2 1 3
 子南(しなん・堀口) → 直好(なおよし・堀口ほりぐち、国学者) O 3 2 7 0

V2138 自南(じなん；道号・聖薫しょうくん；法諱、号；陶隱) ?-? 室町中期臨濟僧；南禅寺128世南谷聖奘しょうせき門、
 1382?紀伊由良庄の西方寺住持、「法燈国師行実年譜」編

自入(じにゅう；禅号) → 由平(ゆうへい・よしひら・前川まえかわ、俳人) D 4 6 6 8
 四乳主人(しにゅうしゅじん) → 定資(貞資さだすけ・藤田/藤/本田、和算家) B 2 0 9 1
 巳任(しにん・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0
 資任(しにん・烏丸) → 資任(すけとう・烏丸/藤原、廷臣/歌人) C 2 3 5 1
 士任(子任しにん・関) → 鉄之介(てつすけ・関、藩士/桜田門外変) C 3 0 5 9
 子任(しにん・宮本) → 茂任(もにん・しげとう・宮本みやもと、藩士/漢学) L 4 4 6 1
 慈忍(じにん；号) → 尋禅(んぜん；法諱・慈忍；号、天台座主) 2 2 4 6
 慈忍(じにん；字) → 日孝(にちこう；法諱・大中院、日蓮僧) B 3 3 8 1
 慈忍(じにん；字) → 慧猛(えみょう；法諱・慈忍、真言律僧) E 1 3 2 9
 慈忍(じにん；別法諱) → 慈順(じじゆん；法諱・通明；字、真言僧) T 2 1 7 2
 治仁王(じにんおう) → 治仁王(はるひとおう・伏見宮、歌人) G 3 6 8 0
 幟仁親王(しにんしんのう) → 幟仁親王(たかひとしんのう・有栖川宮、歌) D 2 6 6 0

F2139 士寧(しねい・鶴殿ぐどの、名；昌一/長一、村尾誠一男or金田昌豊男) 1710-7465 鶴殿長周の婿養子、
 旗本；1740継嗣/禄6百50石、1759西城御書院番士/70番を致仕、儒；初め朱子学修学、
 徂徠学；服部南郭門、「鶏肋集」「楼居放言」、1742-72「桃花園文稿」/74「芭蕉翁句冢碑」著、
 「桃花園遺稿」、鶴殿(村尾)余野子よこの実兄、

[士寧(；字)の通称/号]通称；半四郎/主膳/左膳、号；桃花園/本荘/本荘先生、法号；本源院
 士寧(しねい・草場) → 晋水(しんすい・草場くさば、書家/歌人) U 2 2 8 0
 子寧(しねい・松原) → 櫟園(れきえん・松原まつばら、儒者/史学) 5 1 7 3

志寧(士寧しねい・神野)	→	菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌)	1 6 4 7
資寧(しねい・太田)	→	資寧(すけやす・太田おた、旗本/幕臣/歌)	H 2 3 8 9
慈念(じねん; 初法諱)	→	如実(にょじつ; 法諱・空観、真言僧)	F 3 3 9 3
治年(じねん・細川)	→	治年(はるとし・細川ほそかわ、藩主)	G 3 6 5 7
自然(じねん・萩原)	→	秋巖(しゅうがん・萩原はぎわら、書家/詩)	W 2 1 8 7
自然(じねん・黒川)	→	良安(りょうあん・黒川くろかわ、医者)	G 4 9 1 0
自然(じねん・念蓮社)	→	了也(りょうや; 法諱、浄土僧)	J 4 9 5 3
自然(じねん・栗田)	→	千嶺(せんれい・栗田くりた、商家/歌人)	O 2 4 1 0
自然庵(じねんあん)	→	霜後(そうご、太無・柳居門の俳人)	B 2 5 3 3
自然庵(じねんあん)	→	淵竜(えんりゅう・有元ありもと、医者/俳人)	F 1 3 4 7
自然翁(じねんおう)	→	政和(まさとも・美甘みかも、神職/国学)	S 4 0 9 0
自然窟(じねんくつ)	→	芳斎(ほうさい・青木/湯浅、蘭方医者)	3 9 8 5
自然軒(じねんけん)	→	鈍全(どんぜん、寺田宮内、武士/狂歌)	S 3 1 3 6

V2139 **自然齋**(じねんさい・松田まつだ/修姓; 松、名; 正楨まささだ) 1723-8866 京の儒者; 堀南湖門、詩/書に秀でる、子弟教育; 門人多数、1778「補註蒙求国字解」補、

[自然齋(;号)の字/通称/別号]字; 周之、通称; 正次、別号; 松岳

自然齋(じねんさい)	→	宗祇(そうぎ・飯尾、連歌師)	2 5 0 6
自然齋(じねんさい)	→	洞庵(とうあん・能美のうみ、医者)	3 1 8 3
自然齋(じねんさい)	→	勝義(かつよし・小野おの、与力/歌人)	F 1 5 4 9
自然齋(じねんさい)	→	奚花坊(けいかぼう・青木、俳人)	1 8 4 1
自然齋(じねんさい)	→	宗長(むねなが・伊藤いとう/自然齋、家老/茶人)	D 4 2 5 6
自然齋(じねんさい)	→	正記(まさのり・町田まちだ、藩士/和算家)	G 4 0 1 3
爾然齋(自然齋じねんさい)	→	玄無(げんむ: 法諱、真言僧/歌人)	D 1 8 1 0
自然亭鬼拉(じねんていきらち)	→	正岑(まさみね・宮下、名主/国学者/歌)	H 4 0 7 4
自然堂(じねんどう)	→	鳳朗(ほうろう・田川たがわ/永井、俳人)	3 9 5 8
自然麻呂(じねんまろ・多)	→	自然麻呂(じねんまろ/じねんまろ・多、舞人)	E 2 1 3 3
自然楼(じねんろう)	→	仙庵(せんあん・利光としみつ、藩医者)	L 2 4 5 7
信乃(しの→しの)	→	信濃(しの・四条太皇太后宮、歌人)	F 2 1 3 7
資能(しのう・武者小路)	→	資能(すけよし・武者小路/、廷臣/連歌)	D 2 3 6 6

F2141 **慈能**(じのう; 法諱、大納言洞院実明男)?-1376 南北朝叡山横川の天台僧; 玄智・慈巖門、横川尊勝院大僧正/横川長吏/日吉社別当、歌人; 1367新玉津島社歌合参加、勅撰; 新拾遺2首629・1488、

[にほの海や比良の山風さゆる夜の空よりこほる在明の月](新拾遺; 冬629)

V2140 **時能**(じのう; 法諱) ? - ? 安桃期天台園城寺僧/連歌; 紹巴門、1604「慶長九年正月二十日時能兼誠等懐旧百韻」参加

篠右衛門(しのえもん・山下)	→	利章(としあき・山下、藩士/系譜作製)	L 3 1 9 6
鎬(しのぎ・生田)	→	鎬(こう/しのぎ/鎬女・生田いた、歌/殉死)	Q 1 9 3 1
治之助(じのすけ・清岡)	→	正道(まさみち・清岡きよおか、郷士/国学/勤王)	P 4 0 3 4
篠園(しのぞの)	→	若雄(わかお・後藤、歌人)	5 3 0 8
小竹園(しのぞの)	→	言道(ことみち・大隈おおくま、歌人)	1 9 3 8
篠田金次(しのだきんじ)	→	金治(初世きんじ・篠田しのだ、歌舞伎作者/戯作)	E 1 6 0 8
信田喜常(しのだきつね)	→	喜常(きつね・信田、石川源徹、狂歌)	L 1 6 5 1

F2142 **篠野玉湧**(しののたまわく、姓; 加藤)?-1798 尾張名古屋の書肆、狂歌作者; 東都酔竹側判者、「弄花集」著、右馬耳風(二世)の父、

[篠野玉湧(;号)の別号] 右馬耳風(初世)/佩詩堂/不断庵/蛸池天国

M2132 **東雲**(しのめ; 組連) ? - ? 江戸浅草雷門前の雑俳の組連;

取次; 1766「露玉評万句合」67「川柳評万句合」入;

取次例; [年始帳あがるなといふやうなもの](1766露玉評万句合/前句; をしい事から々々)(玄関に年賀記名帳のみ; 飲めると期待したが残念)

(1767川柳評; あがるなといはぬばかりの帳を出し[誹風柳多留五篇]の元句?)

- F2140 **篠目保雅楽**(しのめほがら) ? - ? 江後期文化1804-18頃伊勢阿濃津郡八幡町の狂歌作者、
篠目連創設;子弟指導、1805「狂歌言玉集」編、
[篠目保雅楽(;号)の通称/別号]通称;煙草屋与左衛門、別号;篠目穂殻(保可良)/東雲館
- 篠の舎(しののや) → 君雄(きみお・小原、国学・歌) B 1 6 8 1
 篠廼舎(しののや) → 菅麿(すがまろ・木島、歌学) B 2 3 6 5
 篠廼舎(しののや→ささのや) → 雀庵(じやくあん・加藤) G 2 1 0 5
 篠廼舎(しののや) → 言道(ことみち・大隈おおくま、歌人) 1 9 3 8
 篠舎(しののや) → 義足(よしたり・伊藤、歌人) E 4 7 4 4
 篠舎(しののや/ささのや) → 泰吉(やすよし・朝比奈あさいな、歌人) D 4 5 5 9
 篠舎(しののや→ささのや) → 安守(やすもり・殿村、国学/歌人) 4 5 2 8
 篠舎(しののや/ささのや) → 景雄(かげお・篠原しのはら、国学者) K 1 5 8 0
 篠舎(しののや/ささのや) → 君雄(きみお・小原おはら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1
 篠舎(しののや/ささのや) → 藤蔭(ふじかげ・戸田とだ/田中、藩士/歌) C 3 8 4 2
 篠舎(しののや/ささのや) → 保教(やすのり・渡辺わたなべ、商家/歌人) C 4 5 6 6
 篠屋(しののや/ささのや) → 泰吉(やすよし・朝比奈あさいな、神職/歌人) D 4 5 5 9
 篠家(篠之屋しののや/ささのや) → 菅雄(須賀雄すがお・服部/富田、国学/歌) B 2 3 6 1
 篠の屋(しののや→ささのや) → 貞賢(さだかた・青島あおしま、神職/国学) I 2 0 0 0
 笹の舎(しののや→ささのや) → 光平(みつひら・伴林) 4 1 3 0
 笹舎(しののや→ささのや) → 直養(なおかい・西田、国学/歌人) 3 2 8 1
 笹舎(しののや→ささのや) → 敏(御野みぬ・小篠おささ、儒/国学) F 4 1 4 2
 笹の舎(しののや→ささのや) → 貴恒(たかつね・中島/植木、国学/歌人) M 2 6 3 1
- F2143 **信夫**(しのぶ) ? - ? 俳人、1783「ものの親」に蓼太らと歌仙入
- 忍(しのぶ・志賀) → 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8
 信夫(しのぶ・岡島) → 安斎(あんさい・岡島、儒者) D 1 0 1 1
 しのぶ庵(しのぶあん) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0
 忍岡隠士(しのぶがおかいんし) → 一也(かずや/かずなり・河辺かわべ、歌人) M 1 5 5 4
 忍岡歌麿(しのぶがおかうたまる) → 歌麿(うたまる・喜多川、絵師/狂歌) 1 2 7 0
- F2144 **忍岡虚路里**(しのぶがおかきよるり)?- ? 狂歌作者;堺丁連、1785「後万載集」3首入;
[新宅の壁もまだひぬ長の日にとらりたらりとふすまはるさめ](後万載集)
- 忍岡常丸(しのぶがおかつねまる) → 常丸(つねまる・忍岡、戯作/狂歌) D 2 9 8 1
 志濃夫廼舎(忍屋しのぶのや) → 曙覧(あけみ・橘/正玄、国学/歌人) 1 0 1 4
 忍廼屋(しのぶのや) → 広城(こうじょう・ひろき・大野、幕臣/故実) B 1 9 3 8
 忍屋隠士(しのぶのやいんし) → 広城(こうじょう・ひろき・大野、幕臣/故実) B 1 9 3 8
 神符満(しのぶまる・佐藤) → 鶴城(かくじょう・佐藤、医者/国学) K 1 5 0 6
- F2116 **賜馬**(しば) ? - ? 江前期伊勢の俳人、1773几董「あけ鳥」1句入、
[我が魂たまと人や見るらめ鶉の笛かがり](明鳥;200/鶉飼篝火は明く燃えやがて尽る;魂も)
- 子馬(しば・笠原) → 白翁(はくおう・笠原かさはら、医者/種痘) C 3 6 7 7
 司馬(しば;通称・岡本) → 豊彦(とよひこ・岡本、絵師) R 3 1 4 9
 司馬(しば;通称・岡本) → 亮彦(あきひこ・岡本、豊彦養嗣子/絵師) D 1 0 8 0
 司馬(しば;通称・笹) → 丘高(きゅうこう・笹ささ、神風館13世/俳人) M 1 6 5 2
 司馬(しば・武田) → 保勝(やすかつ・武田たけだ、暦算家) B 4 5 1 7
 司馬(しば・武田) → 実庵(しつあん;号・武田、書家) U 2 1 4 1
 司馬(しば・仙石) → 隆明(たかあき・仙石せんごく、藩士/尊攘) X 2 6 8 3
 士馬(しば・三浦) → 桜所(おうしよ・三浦みうら、医者/詩) C 1 4 5 0
 子培(しばい・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8
 士勤(しばい・石井) → 潭香(たんこう・石井、書家) T 2 6 4 7
 戲場好人(しばいこうじん) → 半兵衛(はんべえ・松好斎、絵師) I 3 6 5 1
 芝居山人(しばいさんじん) → 半兵衛(はんべえ・松好斎、絵師) I 3 6 5 1
- F2112 **戲場大通庵**(しばいだいつうあん)?- ? 江中期、1777「(当世)伎者やくしゃ穿鑿論」序/刊
- 柿梅林(しばいりん) → 沙羅(しゃら・柿梅林、俳人) W 2 1 3 7

- 四靱[梅]廬(しばいろ) → 李由(りゆう・河野、真宗僧;通賢、俳人) 4 9 0 5
 四梅廬(2世しばいろ) → 自蹊(じけい・河野、李由男/真宗僧/俳人) B 2 1 8 8
 芝垣(しばき/しえん・片桐) → 春一(はるいち・片桐、藩士/軍学/国学) F 3 6 9 8
 芝金(しばきん・歌沢) → 金吉(きんきち・柴田) J 1 6 1 7
- D2183 之白(しばく) ? - ? 姫路の俳人;1692才膺「椎の葉」1句入、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [聞きなれて鐘に手を取る桜かな](椎の葉;100/桜は油断し手間取り鐘に遅れをとった、
 本歌;山里の春の夕暮来てみれば入相の鐘に花ぞ散りける/新古今;春116能因法師)
 [雨の梨とまり鴉のかうと鳴](伊丹発句合;春)
- F2145 芝柏(之白しばく・根来ねろ、別号;宗雲/無量坊) 1644-1713? 和泉堺俳人;伊丹風/京のち大阪住;
 鬼貫と親交、「杉の庵い」編、月尋編「とてしも」跋文、1702轍士「花見車」/04月尋「鶴の隣」入、
 1710鶏賀「何の姿」入、追善集「なつをばな」、
 [花の雲 そりやそりや そりやそりや そりやそりや] (花見車;58/花の雲だよ それぞれ)
 (歌謡;そりやそりや そりやそりや鐘の権三は蓮葉にござる;落葉集)
- F2146 只泊(しばく) ? - ? 俳人、1700角呂「雪月花」(芭蕉7回忌追善集)入
- V2144 子伯(しばく;字・林はやし) ? - ? 江中期医者:耳鼻科;咽喉・梅毒の治療、
 1715「外治方鑑」、「湿毒古方後世方経験良方」著
- V2145 紫陌(しばく・大谷、名;用七) 1767-1833? 上州佐波郡境町の俳人:栗庵似鳩門、
 栗門(似鳩門)の四大家、「月の芒」著、
 [紫陌(;号)の字/通称/別号]字;柳隠、通称;助右衛門、別号;玄々斎
- 紫白(糸白しばく) → 紫白女(しばくじよ) F 2 1 4 7
 士博(しばく・三井) → 士博(ことひろ・三井みつゐ、医者/和学) R 1 9 3 8
 士璞(しばく・内山) → 栗斎(りつさい・内山う/本源、儒者/俳人) B 4 9 8 9
 子白(しばく・丹羽) → 南荘(なんそう・丹羽にわ、老荘学/書) J 3 2 2 3
 子伯(しばく・野津) → 政屋(まさいえ・野津/竹屋、藩士/歌人) J 4 0 0 7
 子璞(しばく・山本) → 健斎(けんさい・山本やまと、藩士/儒者) I 1 8 8 9
 子博(しばく・日野) → 資愛(すけなる・日野/藤原、准大臣/詩歌) C 2 3 7 0
 子博(しばく・数江) → 尚準(ひさのり・数江かづえ/脇坂、国学/歌) J 3 7 0 3
 子博(しばく・岡本) → 監輔(けんすけ・岡本、儒/北辺防備主張) K 1 8 3 7
 子博(しばく・松平) → 頼該(よりかね・松平まつだいら、藩士/宗教家) I 4 7 5 4
- V2146 紫麦(しばく;号・野田のだ、別号;宗遊庵/風耳坊)?-? 江後期江戸住の俳人、1859刊「諏訪集」編
- V2147 自伯(じはく・村山むらやま、名;佐介/元徳、唐津藩士村山信庸男) 1647-1706? 肥前唐津の生、
 殺人で長崎に逃亡潜伏;剃髪/外科医学;吉田自休門、1691幕府医官/94寄合医師に列す、
 「村山氏外科全書」著、
 [自伯(;通称)の号] 松瑞軒、法号;慈徳庵鉄船良濟居士
- 自白(じはく) → 澄方(すみかた・秋央亭/真山、狂歌作者) D 2 3 8 7
 詩瀑山人(しばくさんじん) → 桃野(とうや・鈴木すずき、幕臣/儒者) H 3 1 5 1
- F2147 紫白女(糸白女しばくじよ、寺崎一波の妻)?-1718? 肥前田代の俳人:朱拙門/のち野坡門、
 1700「菊の道」編(女性最初の俳諧集;朱拙の後援で編纂/上巻;発句集/下巻;連句集)
- 止白堂(しばくどう) → 燕説(えんせつ・逢春軒、俳人) B 1 3 1 8
 司馬交(しばこう) → 全交(初世ぜんこう・芝/司馬、狂言師/戯作) 2 4 2 9
 司馬作(しばさく・芝) → 頼道(よりみち・芝しば/井上、国学/歌) N 4 7 3 0
 司馬山人(しばさんじん) → 曲山人(きょくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2
 司馬山人(しばさんじん) → 晋交(しんこう・芝しば、洒落本作者) E 2 2 0 8
 柴雫(しばしずく→さいだ) → 柴雫(さいだ、俳人) G 2 0 3 8
- F2149 芝助(しばすけ・金沢かなざわ) 1778-1828? 51歳 大阪の歌舞伎作者:初世奈河篤助門、1818二世襲名、
 1819初世金沢竜玉(3世中村歌右衛門)に入門;以後竜玉付き狂言作者を務める、
 1817「敵討御堂前」21「けいせい雙鏡山」24「恩愛の乱菊」25「けいせい百万石」「靱猿」、
 1827「乱菊露枕」中村筭/28「天満宮花梅桜松」、「けいせい花大樹」「菊月入船嘶」外著多、
 [金沢芝助(;号)の別号]奈河十喜助/2世奈河篤助ながわとくすけ、法号;廓応了然

- 芝全交(司馬全交しげんこう)→ 全交(初世ぜんこう・芝/司馬、狂言師/戯作) 2 4 2 9
 芝全交(2世しげんこう) → 玉粒(ぎょくりゅう・晋米斎、合巻/狂歌) D 1 6 1 2
 司馬叟(し葉叟しほう) → 芝叟(しほう・司馬しげ、永富/雄崎、浄瑠璃歌舞伎作者) E 2 1 4 6
 市馬窓主人(しほうしゅじん)→ 只狂(じきょう/しきょう・土屋、俳人) B 2 1 6 5
 芝僧正(しほうじょう) → 印性(いんしょう; 法号、真言僧) C 1 1 0 5
 司馬太(しばた・萱野) → 錢塘(せんとう・萱野かやの、藩士/儒者/詩) M 2 4 9 9
 子発(しはつ・小倉/建部)→ 雲如(うんじよ・遠山とおやま・建部、詩人) B 1 2 1 7
 子発(しはつ・早野) → 橋隧(きつすい・早野はやの、儒者/講説/詩) I 1 6 6 5
 子発(しはつ・清水) → 江東(こうとう・清水、商家/儒者) G 1 9 4 1
 子発(しはつ・玉虫) → 誼茂(よししげ・玉虫たまむし/荒井、藩士/儒者) D 4 7 6 8
 子発(しはつ・柚木) → 玉嶼(ぎょくしょ・柚木ゆきの、藩士/書家) U 1 6 1 9
 士発(しはつ・松波) → 光興(みつおき・松波/藤原、官人/詩人) D 4 1 1 4
 司馬亭(しばてい) → 全交(初世ぜんこう・芝/司馬、狂言師/戯作) 2 4 2 9
 柴垣内(柴籬内しばのかきつ)→ 梢隆(すえたか・森野もりの、農業/国学/歌) J 2 3 3 1
 司馬助(しばのすけ・山田) → 維則(これのり・山田やまだ、藩士/儒者) O 1 9 7 2
 司馬之助(しばのすけ・高沢)→ 瑞穂(みずほ・高沢たかさわ、神職/国学) J 4 1 5 8
 司馬之助(しばのすけ・館松)→ 千足(ちたり・館松たてまつ、神職/国学/歌) M 2 8 8 1
 柴の戸の誰也良(しばのとのたれやら)→ 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9
 芝の屋(しばのや・山陽) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9
 柴廼舎(しばのや) → 文信(ふみのぶ・朝枝あさだ/長多、藩士/歌) H 3 8 9 4
 芝姫(しばひめ・伊達) → 葵子(しげこ・伊達だて、藩主女/藩主室) Z 2 1 2 5
 司馬平(しばへい・菊池) → 清彦(きよひこ・菊池きさくち/宇野、国学/庄屋/神職) U 1 6 1 3
 芝昌(しばまさ・西田) → 稻麿(いなまる・西田にしだ、庄屋/国学) B 1 1 1 2
 F2150 柴樹(しばます・初世竹本たけもと) ? - ? 娘義太夫、1803大阪の座摩社で大当り
 柴屋三郎右衛門(しばやさぶろうえもん)→ 荷豆(かとう・加藤、商家/俳人) O 1 5 1 7
 F2151 使帆(仕帆しはん) ? - ? 1721存 肥後熊本助成寺住職、俳人・蕉門、
 助成寺境内に芭蕉塚(茶の木塚)建立、1704一通らと共編「寺の笛」
 子範(しはん・今井) → 崑山(こんざん・今井いまい/源、藩儒) P 1 9 2 5
 子範(しはん・草野) → 石瀬(せきらい・草野くさの、藩士/儒者) D 2 4 9 4
 子範(しはん・明石) → 行憲(ゆきのり・明石あかし、藩士/歌文) F 4 6 3 0
 子藩(しはん・伊達) → 宗城(むねなり・伊達南洲、藩主/藩政改革) C 4 2 0 5
 子藩(しはん・大村) → 純鎮(すみやす・すみしげ・大村、藩主/和漢学) D 2 3 9 9
 子藩(しはん・岡井) → 蓮亭(れんてい・岡井おかい、儒者) B 5 1 3 0
 氏伴(しはん・伊達) → 氏伴(うじとも・伊達だて、国学者) E 1 2 7 4
 氏範(しはん・戸田) → 氏範(うじのり・戸田、幕臣/高家) C 1 2 5 8
 指帆(しはん・石原) → 為平(いへい・石原、久留米商家/俳人) I 1 1 2 2
 士反(しはん・中井) → 碩果(せきか・中井なかい、儒者) J 2 4 9 7
 師範(しはん・大春日) → 師範(もろのり・大春日おおすが、廷臣/歌) H 4 4 6 8
 師蛮(しばん; 法諱) → 卍元(まんげん; 道号・師蛮; 法諱、臨濟僧) K 4 0 8 4
 V2148 慈範(じはん; 道号・観昭かんしょう; 法諱、諡号; 楽寿院、慈賢男) 1446-8944 近江真宗木辺派錦織寺9世、
 法印/頭大僧都、「安心抄」編、「御書」著
 V2149 慈般(じはん) ? - ? 江後期近江天台宗玉林寺僧、国学/歌人; 鳥居政舎の師、
 1849「古学通辨」注
 時範(じはん・平) → 時範(ときのり・平たいら、廷臣/絵師) J 3 1 7 4
 時範(じはん・平) → 時範(ときのり・北条/平、武将/歌人) J 3 1 7 5
 時般(じはん/ときつら・横井)→ 也有(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7
 子斑道梨(しはんどり) → 東海(とうかい・山脇、医者) B 3 1 9 0
 子肥(しひ; 字・乾/池田)→ 長孝(ながたか・乾いぬい、藩士/漢学) E 3 2 0 6
 子飛(しひ・小原) → 君雄(きみお・小原おはら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1

- 子斐(しひ・花房) → 雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、藩士/儒者) 4 8 2 6
氏斐(しひ・吉本) → 氏斐(うじあき・吉本よしもと、藩士/国学者) E 1 2 9 5
示備(しび・山岸) → 梅塵(ばいじん・山岸、醸造業/俳人) B 3 6 6 4
子微(しび・岩井田) → 昨非(さくひ・岩井田いわいだ、藩士/儒者) H 2 0 2 8
子美(しび・山口) → 和(やわら・山口やまぐち、和算家) E 4 5 4 2
士美(しび・毛利) → 半山(はんざん・毛利もうり、詩人) H 3 6 8 1
資美(しび・石井) → 源蔵(げんぞう;通称・石井いし、和算家) K 1 8 8 0
氏美(しび・佐脇/久世) → 氏美(うじよし・久世/佐脇、藩士/儒/歌) C 1 2 8 4
次美(しび→つぐよし・山崎次良) → 宗円(そうえん・山崎/源、幕府鍼医) G 2 5 3 2
自貴庵(じひあん・狩野) → 宗朴(初代そうぼく・狩野かのう、茶人/鑑定) K 2 5 8 7
子匹(しひつ・金沢) → 松下亭(しょうかてい・金沢、旅宿業/詩文) H 2 2 7 9
- 2130 慈悲成(じひなり・桜川さくらがわ、名;則久) 1762or1767-1839? 73or78? 江戸芝宇田川町の鋳職;
杉浦如泉門、黄表紙;岸田(櫻川)杜芳門、寛政1789-1801頃戯作者として活動、幫間/落語家、
烏亭焉馬と共に中興の祖と称される、桜川甚孝・桜川善孝の師、1790「意濃張智恵艶出」、
1797「塩焼文太都物語」1801「競腰業平形」02「七福今年咄」03「遊子戯語」09「福鼠子宝噺」、
1812「寿五百八十七曲」24「落語屠蘇喜言」31「今昔虚実録」、「落咄常々草」外著多数、
[桜川慈悲成(;号)の通称/別号]通称;鋳屋がざりや大五郎、別号;芝楽亭/親慈悲成
紫薇翁(しびおう) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2
- F2153 志毘臣(しひのおみ;古事記、平群臣へぐり鮪しび;日本書紀、平群真鳥男;武烈紀)?-? 記紀歌謡人物/
古事記;顕宗天皇と菟田首うだのおびと女の大海おおうをめぐり歌垣争いの後夜襲殺害される、
日本書紀;相手が武烈天皇/女性は物部鹿火あらかひ大連女影媛かげひめ、影媛による挽歌あり
- 2131 志斐姫(しひのおみな;志斐連出身)?-? 後宮の老女?、万葉二期歌237:持統天皇と贈答、
[天皇贈歌236;否いなと言へど強しふる志斐のが強ひ語りこのころ聞かずて朕あれ恋ひにけり]、
[姫の答歌237;否と言へど語れ語れと詔のらせこそ志斐いは奏まらせ強ひ語りと言ふ]、
志婢麻呂(しびまろ・土師) → 水道(みみち・土師はにし、万葉嗤笑歌) 4 1 3 8
- F2154 支百(しひやく・姓;五宝ごほう、別号;仰山亭) 1743-1792 50 丹波日間浦俳人;蝶夢門、
1782「きくの湯口」著、83文章「寝ころび草」再版/86「遅楊和舞頭歌」編
士彪(しひょう・高宮) → 三中(さんちゅう・高宮たかみや、儒者) M 2 0 5 8
士豹(しひょう・寺田) → 臨川(りんせん・寺田/源/田/寺、藩儒) K 4 9 5 8
士表(しひょう・蓮沼) → 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0
師馮(しひょう・林) → 屋山(おくざん・林はやし、儒者) D 1 4 0 4
之豹(しひょう・山脇) → 東海(とうかい・山脇やまわき、医者) B 3 1 9 0
子豹(しひょう・内山/関) → 孝和(たかかず・関せき、幕臣/和算家) C 2 6 6 0
子冰(しひょう・藪内) → 竹陰(ちくいん・藪内やぶのうち、茶人) C 2 8 5 0
子表(子豹しひょう・和田) → 廉(れん・和田わだ/中台、藩士/儒者) 5 1 0 9
芝瓢(しひょう・羽佐間) → 宗玄(そうげん・羽佐間はさま、医者) H 2 5 1 8
子彬(しひん・三浦) → 竹溪(ちくけい・三浦、藩士/儒;徂徠学) C 2 8 8 4
子彬(しひん・海野) → 紫瀾(しらん・海野うんの、藩士/儒者) M 2 2 9 5
子彬(しひん・中村) → 雪樹(ゆきき・中村なかむら、藩士/国学) H 4 6 0 5
子敏(しびん・高) → 雲外(うんがい・高こう、儒/蘭学者) D 1 2 6 2
子敏(しびん・樋口) → 遯庵(かいあん・樋口ひぐち、藩士/儒者) H 1 5 1 3
子敏(しびん・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おおつか蒼梧、故実家) D 4 7 0 3
子敏(しびん・萩野) → 鳩谷(きゅうこく・萩野はぎの/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4
子敏(しびん;法名) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
子敏(しびん・本間/堀田) → 省軒(せいけん・堀田ほった、藩士/儒者) G 2 4 8 9
之敏(しびん・堀) → 之敏(ゆきとし・堀ほり、藩主/出雲守/歌) G 4 6 3 2
士敏(しびん・山崎) → 九阜(きゅうこう・山崎やまさき、医者/儒) M 1 6 5 1
志敏(しびん・平井) → 収二郎(しゅうじろう・平井、藩士/尊攘) X 2 1 5 9
時敏(しびん) すべて → 時敏(ときとし)
時敏斎(しびんさい) → 尹賢(いんけん・宮野みやの、儒者) I 1 1 5 0

氏富(しふ・藤波) → 氏富(うじとみ・藤波/荒木田、神職/連歌) B 1 2 3 3
 師富(しふ・中原) → 師富(もろとみ・中原/押小路、廷臣/記録) H 4 4 5 2
 子孚(之孚しふ・武田) → 眞元(しんげん・武田たけだ、暦算家) O 2 2 2 3
 子魁(しふ・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学) G 3 6 0 5
 思夫(しふ・山口) → 滄洲(そうしゅう・山口やまぐち、儒者) H 2 5 7 6
 思父(しふ・上田) → 素鏡(そきょう・上田、書家/藩主右筆) J 2 5 4 2
 思父(しふ・品川) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
 子武(しぶ;字) → 光闌(こうせん;法諱・法如;号、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8
 氏武(しぶ・和田) → 氏武(うじたけ・和田、藩士/文筆家) C 1 2 4 1
 士武(子武しぶ・内藤) → 景文(かげふみ・内藤ないとう、藩士/儒者) L 1 5 3 0
 師武(しぶ・押小路) → 師武(もろたけ・押小路/中原、廷臣/記録) H 4 4 3 5
 旨武(しぶ・津村) → 旨武(むねたけ・津村つむら、国学/歌人) B 4 2 5 5
 資武(しぶ・太田) → 資武(すけたけ・太田おねた/源、幕臣) G 2 3 3 9
 事負(じふ→ことい) → 信友(のぶとも・伴ぼん、藩士/国学者) 3 5 1 0
 治富(じふ・はるとみ・金田一) → 久右衛門(きゅうえもん・金田一きんだいち、藩士/地誌) M 1 6 2 9

V2150 治部(じぶ;通称・増山ますやま、求包男)?-? 江中期伊勢の歌人、
 祖父求宣もとのぶの[瓦礫百吟集]を豊宮崎文庫に奉納;一日百首を詠「瓦礫詠百種和歌」著

治部(じぶ・伊達) → 宗実(むねざね・伊達だて、領主/銃術/歌) B 4 2 3 6
 治部(じぶ・天野) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
 治部(じぶ・増山) → 求宣(もとのぶ・増山ますやま/秦、歌人) D 4 4 7 0
 治部(じぶ・大国) → 盛宗(もりむね・大国/荒木田、神職/国学) G 4 4 6 6
 治部(じぶ・梅田) → 春鷹(はるとか・梅田うめだ、神職/歌人) J 3 6 7 9
 治部(じぶ・梅谷) → 末晴(すえはる・梅谷うめたに/荒木田、国学) I 2 3 1 2
 治部(じぶ・合田) → 錦園(きんえん・合田ごうだ、諸大夫/儒者) U 1 6 3 5
 治部(じぶ・仙石) → 信之(延之のぶゆき・仙石せんごく、歌人) D 3 5 6 7
 治部(じぶ・正木/越智) → 通堯(みちたか・正木、藩士/鷹匠/歌) B 4 1 7 2

V2151 市楓(しふう・松原まつばら) ?-? 江中期京の俳人:市貢門、「鷺雪」著、
 「俳諧乗合舟」編、[市楓(;号)の別号]、木ちゆぼく(;初号)、石寿堂3世

F2155 糸風(しふう) ?-? 江中期俳人、1703矩久「青すだれ」に連句入

V2152 志風(しふう;号) ?-? 江中期享保1716-36頃三河の雑俳点者、
 1726「秋の錦」著/26「都の塩竈」編、「八ツ橋」編

V2153 髭風(しふう・福井ふくい、通称;八郎右衛門、別号;花懐亭)?-1809 但馬豊岡の俳人、
 1773几董「あけ鳥」1句入、1797蝶夢「俳諧童子教」跋文執筆、
 [谷河の幅広びろと夕がすみ](明鳥;188)

V2154 之楓(しふう) ?-? 江後期文化文政1804-30頃名古屋の俳人:暁台門、
 「虎石集」編

資風(しふう・白石) → 資風(すけかぜ・白石正一郎、国学/勤王) G 2 3 1 6
 子風(しふう・西村) → 楠亭(なんてい・西村、絵師) J 3 2 3 2
 思風(しふう・高木) → 宗矩(むねのり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6
 此楓(しふう) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3

V2155 耳風(じふう・深江ふかえ、別号;耳風坊/竹如亭) 1764-1840 77 肥前佐賀の俳人:美濃派5世宗匠、
 1827「夏木立」著(:文台開き記念集)、3回忌追善集「空蟬集」(息の文翅ぶんし編)

時風(じふう・山中) → 時風(ときかぜ・山中やまなか、庄屋/俳人) J 3 1 0 1
 似風(じふう・小山) → 進(すずむ・小山こやま/山本、神職/国学) I 2 3 4 9
 慈風(じふう;、法号) → 雲頂(うんちよう;法諱、遣蓮社/浄土僧) D 1 2 9 6
 洪右衛門(しぶえもん・吉田) → 軌中(のりなか・吉田、藩士/文筆) F 3 5 3 1
 治部右衛門(じぶえもん・中原) → 三治(みはる・中原、神道家/教育) F 4 1 7 5
 治部右衛門(じぶえもん・堀) → 貞儀(さだのり・堀/菅原、藩士/記録) J 2 0 2 4
 洪柿蓐成(しぶがきのへたなり) → 楽(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) G 2 6 3 4
 洪川栗人(しぶかわのくりひと) → 栗人(くりひと・洪川、狂歌) B 1 7 1 1

- F2158 **治部卿**(じぶきょう・皇嘉門院こうかもんいん、源盛子、源信綱[重道/重通]女)?-? 平安後期女房歌人、父は従五上兵部少輔、崇徳天皇中宮皇嘉門院聖子(関白忠通女)の女房、従三位、心覚の妹、歌人、琵琶の上手(枇杷血脈に入)、後葉集1首(158)入、詞花集65、[さみだれの日をふるまゝに鈴鹿河八十瀬やそその波ぞ声まさるなる](詞花集;二夏65)、(乱れ振る・声まさる・鳴るは鈴の縁語)
[小夜深く小鹿をしか鳴くなり宮城野の萩の下葉の露や寒けき](後葉集:158、九条関白忠通家に皇嘉門院の御幸あり歌を詠ませられて)
- F2156 **治部卿**(じぶきょう・永福門院えいふくもんいん)?-? 1313存 永福門院鐙子の女房/花園院にも出仕、歌人、1313「衣笠殿方違行幸三十首和歌」参加、玉葉859、[嵐吹き木この葉散りかふ夕暮にむら雲きほひ時雨降るなり](玉葉集;六冬859)
- F2157 **治部卿**(じぶきょう・瓊子内親王家/女三宮)?-? 鎌倉南北期歌人、瓊子内親王家けいしないしんのうけ女房、「坊門定資家詩歌合」参加、勅撰3首;続千載(1462;女三宮治部卿名)新千載(771/1786)、[ふかくのみ思ひそめにしままならで心の色のなどかはるらん](続千載;恋1462)
- 治部卿(じぶきょう) → 伊房(これふさ・藤原ふじわら・世尊寺、廷臣/歌) E 1 9 4 8
 治部卿(じぶきょう) → 泰諱(たいじん;法諱、天台僧/連歌) B 2 6 6 5
 治部卿(じぶきょう) → 詮平(よしひら・鳥居大路といのおおじ/賀茂、神職/連歌) G 4 7 5 0
 治部卿(じぶきょう) → 兼順(けんじゆん;法諱、真宗僧) J 1 8 7 0
 治部卿(じぶきょう) → 浄友(じょうゆう・吉田よしだ、幕府医官) L 2 2 7 7
 治部卿公暹亮(じぶきょうこうせんりょう) → 暹亮(せんりょう;法諱・雲照、天台僧) N 2 4 3 5
 治部卿僧正(じぶきょうのそうじょう) → 顕深(けんじん;法諱、天台僧) K 1 8 1 4
 治部卿法印(じぶきょうのほういん) → 能覚(のうかく;法諱、真言僧) G 3 5 2 6
 子復(しふく・福原) → 瀨水(はすい・福原ふきはら、儒者) E 3 6 6 6
 子復(しふく・石川) → 克(かつ・石川いしかわ、詩人) G 1 5 0 8
 子復(しふく・田中) → 義近(よしちか・田中たなか、儒者/詩文) E 4 7 5 9
 子復(しふく・井手) → 伊明(これあき・井手いで/山内、藩士/歌人) Q 1 9 2 8
 子福(しふく・葛山/松下) → 葵岡(きこう・松下/葛山、幕臣/儒者) I 1 6 6 2
 子福(しふく・志賀) → 綏(やすし・志賀しが、藩士/国学者) B 4 5 6 2
 士復(しふく・三井) → 士復(ことまた・三井みつゐ、医者/和学) R 1 9 3 9
 茲福(じふく・亀井) → 茲福(これとみ・亀井かめい/源、幕臣/歌人) N 1 9 5 4
 子福長者(しふくちやうじや) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合巻) 2 6 9 1
 治部斎(じぶさい・堀江) → 逸風(いっふう・堀江ほりえ、書家) H 1 1 7 8
 治部左衛門(じぶさえもん・上泉) → 義郷(よしさと・上泉かみいずみ/藤原、軍学者) D 4 7 4 0
 治部左衛門(じぶさえもん・松岡) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0
 治部左衛門(じぶさえもん・戸田) → 直安(なおやす・戸田とだ/藤原、藩老/歌) N 3 2 9 4
 治部左衛門(じぶさえもん・鈴木) → 伍草(ごそう・鈴木すずき、藩士/儒者) M 1 9 9 9
 治部左衛門(じぶさえもん・津田) → 重倫(しげつね・津田、藩士/郷土史家) R 2 1 5 9
 治部少輔(じぶしょう・石田) → 三成(みつなり・石田いしだ、武将/関ヶ原戦) E 4 1 2 3
 治部少輔(じぶしょう・朝山) → 常清(つねきよ・朝山あさやま/源、廷臣/歌) F 2 9 1 6
 治部少輔(じぶしょう・友安) → 盛岡(もりおか・友安ともやす、神職) K 4 4 7 3
 紫府真人(しふしんじん;号) → 玄巖(げんごん;法諱・季亨、臨濟僧) B 1 8 8 0
 治部大輔(じぶたいふ・新田) → 尚純(ひさずみ・新田/岩松、武将/連歌) B 3 7 1 8
 治部大輔(じぶたいふ・森) → 用久(もちひさ・森もり、神職) B 4 4 5 8
 洪民(しふたみ) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩歌) E 3 1 5 3
 治部大夫(じぶだゆう・黒沢) → 長尚(ながひさ・黒沢、藩士/地誌) F 3 2 4 5
 治部太夫(じぶだゆう・武田) → 信温(のぶあつ・武田、藩士) 3 5 9 0
 治部太夫(じぶだゆう・二宮) → 守恒(もりつね・二宮にのみや、神職/国学) F 4 4 8 4
 治部太夫(じぶだゆう・鈴木) → 広視(ひろみ・鈴木/高橋/藤原、神職/歌) H 3 7 1 9
- F2159 **士仏**(しぶつ・坂さか、名;慧勇、十仏男) 1327-1415⁸⁹ 室町期京の医僧:祖は源頼光5世の孫充角?、後光厳・後円融・後小松天皇に出仕;上池院の号を賜る、將軍義詮・義満・義持の侍医、坂流医学の大成者/民部卿法印、歌を嗜む、「勢州紀行」著、

[士仏(;号)の別号] 健叟/忠勇/上池院

2132 詩仏(しぶつ・大窪おおくぼ、名;行、宗春男)1767-1837 71 常陸多賀郡の生/医者 of 父に随い江戸に出る、儒;山中天水門/詩文:山本北山・市河寛齋門、柏木如亭と二瘦詩社を興す、1806神田お玉が池に詩聖堂を開塾/菊池五山と江戸詩壇の双璧、遊歴し地方に門人多数、秋田藩儒、墨竹画を嗜む、1793「卜居集」99「詩聖堂詩話」著/1805「両韻便覧」編、1809「詩学自在」編/09-38「詩聖堂詩集」1819「西遊詩草」22「北遊詩草」25「再北遊詩草」著、「池頭集」「竜閑集」「西遊集」「北征集」「加賀山中温泉場八景」「詩仏詩抄」著、外編著多数、[詩仏(;号)の字/通称/別号]字;天民、通称;柳太郎、

別号;柳埤りゅうた/瘦梅そうばい/江山翁、詩聖堂(;塾名)

詩仏(しぶつ・春田/曾我)→ 耐軒(たいけん・曾我/春田/伊藤、儒者/詩) B 2 6 3 1

子物(しぶつ・小野) → 以正(もちまさ・小野おの、里正/和算家) B 4 4 6 8

治部少輔(しぶのしょう) → 治部少輔(しぶしょう)

治部丞(しぶのじょう/しぶのすけ・細木)→ 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0

治部之輔(しぶのすけ・山口)→ 星屋光次(ほしやのみつぐ/-みつじ、藩士/狂歌) 3 9 6 8

治部兵衛(しぶべゑ・三木)→ 隆盛(たかもり・三木みき、国学者/俳人) N 2 6 4 8

治部房(しぶぼう) → 日位(にちい;法諱・承賢、日蓮僧) 3 3 3 8

V2156 渋谷翁(しぶやおう:名不詳)? - ? 江戸後期1828「擬唐詩ぎとうし五絶和歌」:季鷹跋/岡崎元軌序

季鷹(すえたか) → 季鷹(すえたか・賀茂、歌人) 2 3 0 6

元軌(もとりの・岡崎)→ 鵲亭(こくてい・岡崎、詩人) F 1 9 5 7

渋谷遠江守(しぶやおとうみのかみ)→ 重基(しげもと・平たいら、武将/歌人) D 2 1 1 6

子文(しぶん・井上) → 石溪(せつげい・井上いのうえ、儒学/兵学) K 2 4 8 4

子文(しぶん・田でん) → 穀山(こくざん・小田、漢学/歌謡) F 1 9 5 5

子文(しぶん・山本) → 洞雲(とううん・山本、儒者/詩) B 3 1 2 2

子文(しぶん・山本) → 中斎(ちゅうさい・山本、医/儒者) G 2 8 0 8

子文(しぶん・篠崎) → 東海(とうかい・篠崎、儒者/和学) 3 1 0 5

子文(しぶん・菅原) → 南涯(なんがい・菅かん、菅原、篆刻家) I 3 2 6 3

子文(しぶん・宮崎) → 雲台(うんだい・宮崎みやざき、医者/儒者) D 1 2 9 2

子文(しぶん・姥柳) → 有莘(ゆうしん・姥柳うばやなぎ、藩士/儒者) C 4 6 7 5

子文(しぶん・川端) → 玉章(ぎよくしょう・川端かわはた、画家) B 1 6 5 4

子文(しぶん・長谷川) → 敬(けい・長谷川はせがわ、藩士/尊攘論) F 1 8 2 0

子文(しぶん・河崎) → 敬軒(けいけん・河崎/川崎かわさき、儒者) F 1 8 5 0

子文(しぶん・林) → 読耕斎(どこうさい・林はやし、幕府儒官) O 3 1 4 8

子文(しぶん・中西) → 深斎(しんさい・中西、医者/傷寒論研究) O 2 2 4 2

子文(しぶん・天野) → 謙吉(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩) I 1 8 4 0

子文(しぶん・友安) → 三冬(みふゆ・友安ともやす、儒者/国学/歌) F 4 1 7 8

子文(しぶん・寺村) → 百池(ひやくち・寺村、商家/俳人) E 3 7 6 6

子文(しぶん・樋口/磯辺)→ 鯉斎(こんさい・磯辺いそべ、儒者/易/茶) P 1 9 2 0

子文(しぶん・周布) → 五郎左衛門(ごろうざえもん・周布すぶ兼親、藩士) P 1 9 0 7

子文(しぶん・渡辺) → 質(ただす・渡辺わたなべ、医者/漢学) P 2 6 6 2

子文(しぶん・内海) → 釣経(ちようけい・内海うつみ、藩儒者) H 2 8 9 9

子文(しぶん・市川) → 彬斎(ひんさい・市川いちかわ、儒者/日記) 3 7 3 5

子文(しぶん・後藤) → 松窩(しょうか・後藤ごとう、儒者/詩人) H 2 2 5 0

子文(しぶん・加藤) → 尚質(ひさただ・加藤かとう、藩儒/歌人) I 3 7 9 6

子文(しぶん・鉄) → 復堂(ふくどう・鉄てつ、儒者/教育者) B 3 8 6 0

子文(しぶん・中島/木山)→ 楓溪(ふうけい・木山きやま、藩士/儒者) 3 8 4 9

子文(しぶん・藤江) → 石亭(せきてい・藤江ふじえ、儒者/俳人) K 2 4 3 9

子文(しぶん・野上) → 仁里(じんり・野上のがみ、儒者/教育) Q 2 2 0 6

子文(士文しぶん・佐藤) → 幹員(もとかず・佐藤さとう、詩人/俳人) C 4 4 2 7

子文(しぶん・壬生) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6

子文(しぶん・羽倉) → 可亭(かてい・羽倉はくら、書画/篆刻) O 1 5 0 9

子文(しぶん・岡) → 鹿門(ろくもん・岡おか、藩儒者/紀行) B 5 2 1 5
 子文(しぶん・藤) → 珍彦(うずひこ・藤とう/藤原/鍋島、神職) E 1 2 7 9
 子文(しぶん・安仲) → 徳昌(のりまさ・安仲やすな/樋口、里正/国学) K 3 5 2 3
 子聞(しぶん・堤) → 大防(だいぼう・堤つみ、医者/歌人) Y 2 6 3 2
 士文(しぶん・河尻) → 春之(はるの・河尻かわじり、幕臣) 3 6 3 4
 士文(子文しぶん・樋口) → 武(たけし・樋口ひぐち、藩士/儒/砲術) O 2 6 3 9
 士文(しぶん・中原) → 章(あきら・中原/葛巻、歌人) E 1 0 1 7
 士文(しぶん・平井) → 樗堂(ちようどう・平井ひらい、藩士/詩人) K 2 8 4 4
 士文(しぶん・佐久間) → 熊水(ゆうすい・佐久間さくま、儒者/詩人) C 4 6 8 1
 士文(しぶん・福智/福地/銭) → 土成(つちなり・大根おね、絵師/狂歌) 2 9 9 3
 士文(しぶん・村田) → 誠斎(せいさい・村田むらた、医者) I 2 4 2 8
 士聞(しぶん・岡田) → 鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、神職/儒者) H 1 5 3 9
 思文(しぶん・鳳鳴閣) → 鳳鳴閣思文(ほうめいかくしぶん、狂歌/僧) C 3 9 5 8
 思文(しぶん・浅井) → 正賛(まさとし・浅井、藩医者) E 4 0 5 2
 志文(しぶん・田中) → 箕山(きざん・田中たなか、儒者/詩/書) K 1 6 7 2
 斯文(しぶん・熊谷) → 竹堂(ちくどう・熊谷くまがい、儒者/詩人) D 2 8 5 7
 斯文(しぶん・安東) → 仕学斎(しがくさい・安東あんど、儒者) B 2 1 3 3
 斯文(しぶん・根来) → 喜内(きない・根来ねごろ、幕臣/記録) L 1 6 7 0
 斯文(しぶん・天野) → 恥堂(ちどう・天野あまの、儒者/詩人) F 2 8 0 1
 師文(しぶん・上甲) → 振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育) Q 2 2 0 1
 紫文(しぶん・宇治) → 紫文斎(しぶんさい・宇治、2世千種庵/一中節/狂歌) F 2 1 6 0
 時文(しぶん・紀) → 時文(ときふみ・紀き、廷臣/歌人) 3 1 3 5
 時文(しぶん・横井) → 時文(ときふみ・横井よこい、藩士/儒者) K 3 1 0 0

自賁庵(じぶんあん/じひあん・狩野) → 宗朴(初代そうぼく・狩野かのう、茶人/鑑定) K 2 5 8 7

F2160 **紫文斎**(初世しぶんさい・宇治うじ、姓;勝田/名;雄輔) 1791-1858 68歳 江戸浅草材木町の名主、国学、浄瑠璃;一中節の菅野序遊門;菅野派を修得、のち都派に転向;都一閑斎に改号、三味線の名手、1849宇治派を開く;祖/宇治紫文(紫文斎)と改号、代々宇治派の家元となる、狂歌;初世千種ちぐさ庵霜解しもとけ門、歌集「壁草かべくさ集」、1824「狂歌武蔵野百首」編、1829「狂歌都名物集」31「菱花狂歌集」33「東花集」著、「鶯蛙狂歌集」「狂歌三才拾遺」編、「狂歌四季遊」「狂歌竜虎集」「豊穂集」「玉塵狂歌集」編、外編著多数、福太郎(2世宇治紫文)の父、

[宇治紫文斎(;号)の通称/別号]通称;権左衛門、別号;青雲亭友呼(せいうんさいともよび)/2世千種庵/千種庵諸持ちちぐさあんもろもち/松蘿館/芙蓉花/都みやこ一閑斎、法号;心静院、千鳥友呼の男? → 千鳥友呼(ちどりのとよび、名主勝田権左衛門/1787狂歌才蔵集入) F 2 8 0 8

斯文堂(しぶんどう) → 有恒(ありつね・中川、書肆) F 1 0 4 6

2133 **子平**(しへい・林はやし、名;友直ともなお、岡村[のち林]良通よしみち男) 1738-93 56 陸前仙台藩士の家;江戸の生、1740仙台藩士の父が刃傷沙汰で除籍;叔父林従吾の養子となり養育される、姉は仙台藩主伊達宗村側室なお/仙台藩士となる兄に随い仙台に移住/無禄厄介の扱い、博識で兵学を好み経世家、江戸で工藤平助(球卿)に兄事、大槻玄沢・桂川甫周と交流、肥前長崎で通詞を介し世界図・地理書書写、蝦夷で北辺形勢を探索;ロシア南下を警告、海防論を主唱:1785-6「三国通覧図説」86「海国兵談」著;幕府より忌避され1791在所蟄居、「安永道中記」「蝦夷略説」「経済九策」「富国建議」「兵策問答」「友千鳥」「夢物語」「我が思」、歌人;「林子平詠草」「籠居百詠」「詩歌日誌」「伊呂波歌」、「林子平先生叢書」、外著多数、[子平(;字)の通称/号]通称;定治、号;無六斎、法号;無六斎友直居士

士平(しへい・服部/駒沢) → 利廉(としかど・駒沢/服部、藩士/兵農学) M 3 1 2 8

子平(しへい・大串) → 元善(もとよし・大串おおくし/平野、儒者) E 4 4 7 0

子平(しへい・尾崎) → 称斎(しょうさい・尾崎おさき、藩儒者/教育) S 2 2 3 2

子平(しへい・岡田) → 守常(もりつね・岡田/遠山、藩士/詩人) F 4 4 8 1

子平(しへい・間庭) → 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8

子平(しへい・長崎) → 奇山(きざん・長崎、藩士/詩歌/俳) K 1 6 6 4

子炳(しへい・土佐) → 光文(みつふみ/みつあや・土佐/藤原、絵師) E 4 1 8 0
 矢柄(しへい・田鎖) → 鶴立斎(かくりゅうさい・田鎖たぐさり、藩士/絵師) K 1 5 5 9
 矢柄(しへい・中野/御巫) → 清富(きよとみ・御巫みかんなぎ、神職) P 1 6 9 8
 資平(しへい・藤原) → 資平(すけひら・藤原ふじわら、廷臣/詩歌) C 2 3 9 0
 資平(しへい・源) → 資平(すけひら・源みなもと、廷臣/歌人) C 2 3 9 1
 師平(しへい)すべて → 師平(もろひら)

K2143 治平(しへい・古筆こひつ/城越/堀越/平野ひらの) ?-? 江前期摂津平野郷の俳人、大坂備後町八丁目住；
 古筆鑑定業、俳人；諸家の句や俳書を蒐集；のち西鶴が1676「古今誹諧師手鑑」に編纂、
 1673西鶴「生玉万句」第四螢脇句、
 [月のある夜は涼し学問](生玉万句：螢脇句/車胤の故事、
 発句；正明；螢火は星のうすきがごとく也；謡曲「融」；月のある夜は星の薄きが如く也)

V2157 治平(しへい・有山ありやま) ? - ? 江戸中期大阪伏見両替町の考証家、
 1800「衣箱考」著

時平(しへい・藤原) → 時平(ときひら・藤原、左大臣/歌人) 3 1 3 6
 次平(治平しへい・杉村/相村) → 次兵衛(治兵衛しへい・杉村/相村、絵師) F 2 1 6 1
 次平(しへい・久米) → 淡斎(たんさい・久米くめ、儒者/詩歌) W 2 6 7 0
 治平(しへい・小出) → 侗斎(とうさい・小出こいで、儒者) E 3 1 1 9
 治平(しへい・雲川) → 春庵(しゅんあん・雲川くもかわ、儒者) 2 1 9 1
 治平(しへい・水島) → 永政(ながまさ・水島みずしま、音曲/国学) F 3 2 7 8
 治平(しへい・佐藤) → 維周(これちか・佐藤、儒者) O 1 9 5 0
 治平(しへい・左貫/佐貫/竹田) → 治蔵(じぞう・竹田、歌舞伎作者) E 2 1 4 8
 治平(しへい・葉種屋) → 宇中(うちゅう・和田わた、俳人) B 1 2 4 2
 治平(しへい・菊池) → 武保(たけやす・菊池、荒物商/文筆家) B 2 6 1 3
 治平(次平しへい・三谷) → 坦斎(たんさい・三谷/前田、刀匠/俳) T 2 6 5 2
 治平(しへい・北野/小高/鈴木) → 春友(しゅんゆう・為永ためなが、戯作者) K 2 1 5 5
 治平(治兵しへい・片野) → 磐村(いわむら・片野かたの、藩士/国学者) K 1 1 1 3
 治平(しへい・山田) → 清壽(きよひさ・山田やまだ、医者/国学者) V 1 6 5 5
 自平(しへい・駒田) → 道張(みちはる・笹川ささかわ/源、藩士/歌) J 4 1 2 2
 慈平(しへい・多賀) → 如圭(じけい・多賀/流光斎、絵師) C 2 2 3 6
 四兵衛(しへい・柳沢) → 安利(やすとし・柳沢やなぎさわ、幕臣/和学) G 4 5 9 4
 四兵衛(しへい・荒木) → 元政(もとまさ・荒木あらかき、幕臣/記録) E 4 4 2 9
 四兵衛(しへい・河田) → 安親(やすちか・河田かわた、藩士/歌人) C 4 5 0 2
 四兵衛(しへい・蒲) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌) F 4 5 7 7
 四兵衛(しへい・善方) → 義胤(よしたね・善方よししかた、国学者) Q 4 7 1 0

V2158 治兵衛(しへい・百川ももかわ、名；正次) ?-1638 京or大阪の和算家、
 慶長元和1596-1624頃佐渡川原田住；算法を教授/1630佐渡相川に移住、
 明の程大位の算法統宗を修学；百川流算法を創始、1638切支丹の嫌疑をかけられ投獄、
 赦免後まもなく没、1622「諸勘分物第二巻」45「亀井算」55「しんへんさん記」著、
 [治兵衛(；通称)の別通称] 忠兵衛

F2161 次兵衛(治兵衛しへい・杉村/相村すぎむら) ?-? 江前期江戸通油町の絵師；1681-98頃活動、
 菱川師宣様式画；師宣との関係不詳、1684「大和風流絵鑑」
 「古今好色男」画、
 1697「御成敗式目絵抄」1709刊「ふり袖枕」画、
 [次兵衛(；通称)の別通称/号]別通称；次平/治平、号；治信はるのぶ/春信/正高

F2162 治兵衛(初世しへい・津打つう/つうち、初号；津山次兵衛) ?-?1714前没 初め大阪の歌舞伎役者；
 1684頃舞台に上る/1694頃大坂岩井座の歌舞伎作者/1700江戸の市村座で作品が好評、
 江戸に定住、1695「茜の色揚」1700「初恋三略巻」01「持統天皇都移」06「一心二河白道」、
 1707「傾城顧本尊」「頼政五葉松」「行平尾花狐」08「傾城佐々木問答」14「円満太平記」外著多、

2134 治兵衛(2世しへい・津打つう/つうち、初世津打治兵衛男か?) 1699?-176062? 江戸の歌舞伎作者、
 1716頃二世襲名、53頃英子に改号、各座を歴勤；約百編著作、1716「大系凶繫馬」著、
 1717「傾城富士高根」31「大角力藤戸源氏」36「東海道温泉汲車」44「今川仲秋みちゆき」、

- 1748「夢開安宅松」51「乗掛妹背小室節」56「月湊英雄鑑」57「江戸見八景」外著多数、
 [2世津打治兵衛(；号)の別号]初世英子/初世太鼓堂/泥築どろつく/鈍通、法号；勇健院
- V2159 治兵衛(2世じへえ・石井い、初世石井治兵衛男)？-1772 江戸の町人；代々幕府公式行事料理頭取、
 1748「朝鮮人来朝留」/64「朝鮮信使御献立」「朝鮮信使御馳走勤帳」「朝鮮人御饗応之控」、
 1765「日光山御法会登山御宿坊附」著、法号；栄屋常昌信士
- G2113 治兵衛(次兵衛じへえ・橘屋たちばなや、姓；野田のだ)？-？ 江中期京の寺町通り二条下ル町の書肆、
 1716-85頃蕉門の書林、天明1781-89以降の蕉風復古運動に貢献、
 「蕉門俳書目録」「俳書書籍目録」編、「俳諧追善一長歌行」著、菊舎「手折菊」刊行、
 [橘屋治兵衛(；通称)の別通称/号]別通称；橘治、号；山陽堂/懐玉堂
- V2160 治兵衛(じへえ・国東くにさき)1743- ? 1798存 石見益田の紙問屋、紙漉技術の指導；
 石州和紙の基礎を築く、1798「紙漉重宝記」著
- V2161 治兵衛(4世じへえ・石井い、3世石井治兵衛男)1743-181169 江戸の代々幕府公式行事料理頭取、
 1811朝鮮通信使接待で対馬赴任；没/法号；真岳良輝信士、1809「御婚礼御祝式御献立」、
 1810「朝鮮信使御用諸色取調書」11「朝鮮信使客館への進物」「朝鮮信使御用日記」外著多数
- F2163 治兵衛(4世じへえ・津打つづつ/つうち)？-？ 江戸の歌舞伎作者；3世津打治兵衛(初世鈍通与三兵衛)門、
 江後期1820-30代に活動、1828河原崎座で隈蔵改め四世治兵衛を襲名；立作者、
 1835中村座で二世鈍通与三兵衛を襲名/のち治兵衛に復す/市村座でも活動、
 1829「江南魁曾我」30「市川哉真砂御撰」35「敵討東八景」38「恵閨雨鉢木」外著多数、
 [4世津打治兵衛(；号)の別号]津打隈蔵/2世鈍通与三兵衛
- V2162 治兵衛(じへえ・浜武はまたけ、本田元賢男/本姓；藤原)1807-7266 肥前長崎の代々糸割符宿老、
 槍術・剣術・洋式砲術に精通、安政1854-60頃長崎奉行荒尾成充に製造した大砲献上、
 歌人；中島広足・香川景樹門、書も嗜む、妻；徳見蓉よう(蓉香/歌人)、
 「旅銀拝借願」「長崎宿老勤方覚書扣」著

[治兵衛(；通称)の名/別通称]名；元興もとおき、別通称；鄭次郎、号；腕亭えんてい

- 治兵衛(じへえ・山口) → 翠巖(すいがん・山口/糟谷、藩士/奉行) E 2 3 2 5
 治兵衛(じへえ・松尾) → 宗二(そうに/そうじ・松尾まつお、茶人) I 2 5 6 4
 治兵衛(3世じへえ・津打) → 与三兵衛(初世よそべえ・鈍通どんつう、歌舞伎作者) I 4 7 1 3
 治兵衛(じへえ・崎屋/塩屋) → 笛躬(2世ふえみ・若竹、浄瑠璃作者) B 3 8 2 2
 治兵衛(じへえ・末吉) → 宗久(そうきゅう・末吉すえよし、俳人・連歌) G 2 5 7 7
 治兵衛(じへえ・唐物屋) → 岑延(みねのぶ・竹内、自安/商家/歌人) F 4 1 5 1
 治兵衛(じへえ・横谷) → 宗珉(そうみん・横谷よこや、彫金師) C 2 5 9 7
 治兵衛(じへえ・宮永) → 正高(まさたか・宮永みやなが、俳人) D 4 0 1 6
 治兵衛(じへえ・宮永) → 正運(まさゆき・宮永、農政家/俳人) I 4 0 2 6
 治兵衛(次兵衛じへえ・中村) → 治左衛門(2世次左衛門じざえもん・柳屋/石崎、通事) T 2 1 5 1
 治兵衛(じへえ・上柳) → 四明(しめい・上柳うわやなぎ/柳、儒者/詩) F 2 1 8 1
 治兵衛(じへえ・岡橋) → 鵬子(かんし・岡橋、俳人/詩文家) G 1 5 3 4
 治兵衛(じへえ・土田) → 信綱(のぶつな・土田つちだ、藩士) C 3 5 1 2
 治兵衛(じへえ・高田) → 幸佐(こうさ・高田、俳人/仮名草子) B 1 9 1 0
 治兵衛(じへえ・榎本) → 米人(こめんど・酒月さかつきの、商人/狂歌) D 1 9 9 5
 治兵衛(じへえ・住江屋) → 葉流軒河丸(ようりゅうけんかわまる、狂歌作者) B 4 7 6 3
 治兵衛(じへえ・天満屋) → 浄友(じょうゆう・富島とみしま、商家) V 2 2 3 1
 治兵衛(じへえ・天満屋) → 邦道(くにみち・富島とみしま、商家/歌人) E 1 7 3 7
 治兵衛(じへえ・平野) → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) 2 7 1 6
 治兵衛(じへえ・山口) → 履斎(りさい・山口やまぐち、藩士/儒者) B 4 9 0 7
 治兵衛(じへえ・村田) → 春道(はるみち・村田むらた、商人/国学/歌) 3 6 3 7
 治兵衛(じへえ・村田) → 春郷(はるさと・村田、春道男/商/国学) G 3 6 3 7
 治兵衛(じへえ・村田) → 春海(はるみ・村田、春郷弟/商/国/歌) 3 6 3 6
 治兵衛(じへえ・村田) → 春路(はるみち・村田、春海の孫/国/歌) G 3 6 9 5
 治兵衛(じへえ・佐貫) → 治蔵(じざう・竹田、歌舞伎作者) E 2 1 4 8

治兵衛(じへえ・桑原) → 幾太郎(いくたろう・桑原くわばら、藩士) F 1 1 3 3
 治兵衛(じへえ・堺屋) → 雲郎(雲朗うんろう・麦竜舎/坂本、商家/俳人) E 1 2 1 8
 治兵衛(じへえ・中島) → 荷了(かりょう・中島なかしま、俳人) P 1 5 7 4
 治兵衛(じへえ・杉野) → 翠兄(すいけい・杉野すぎの、俳人) 2 3 4 4
 治兵衛(じへえ・佐藤、治平) → 維周(これちか・佐藤、儒者) O 1 9 5 0
 治兵衛(じへえ・春好齋) → 北洲(ほくしゅう・春好齋、絵師) D 3 9 4 0
 治兵衛(次兵衛じへえ・森屋) → 軒東(けんとう・錦森堂、書肆/戯作) L 1 8 6 6
 治兵衛(5世じへえ・石井) → 嘉孝(よしとか・石井/杉山、幕府料理人) E 4 7 0 7
 治兵衛(6世じへえ・石井) → 嘉重(よししげ・石井いひ/鈴木、料理人) D 4 7 6 4
 治兵衛(8世じへえ・石井) → 嘉晴(よしはる・石井いひ、料理人) K 4 7 2 9
 治兵衛(じへえ・浅山) → 可清(よしきよ・浅山あさやま、藩士/歌人) L 4 7 1 7
 治兵衛(じへえ・小川) → 英長(ひでなが・小川おがわ/源、藩士/歌人) I 3 7 6 6
 治兵衛(じへえ・小野) → 清賢(きよかた・小野おの、国学/歌人) T 1 6 7 2
 治兵衛(じへえ・長浜屋) → 長寛(ちようかん・佐野さの、漆工/国学) M 2 8 6 2
 治兵衛(じへえ・木村) → 信之(のぶき・木村きみら、歌人) I 3 5 1 4
 治兵衛(じへえ・木村) → 信菟(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0
 治兵衛(じへえ・笹川) → 道張(みちはる・笹川ささがおわ/源、藩士/歌) J 4 1 2 2
 治兵衛(じへえ・山形屋) → 長保(ながやす・河内かわうち、製造業;歌人) L 3 2 7 3
 治兵衛(じへえ・大口屋) → 曉雨(ぎょうう・大口屋、札差/俳人) J 1 6 2 6
 治兵衛(じへえ・江戸屋/近江屋) → 有斐(ゆうひ・石原、商家/俳人) D 4 6 6 4
 治兵衛(次兵衛じへえ・押野屋/後藤/大聖寺屋) → 雪袋(せつたい、俳人) L 2 4 2 0
 治兵衛(じへえ・増田) → 正起(まさおき・増田ますだ、藩士/国学者) S 4 0 5 7
 次兵衛(じへえ・津山、歌伎親仁方役者) → 治兵衛(じへい・初世津打) F 2 1 6 2
 次兵衛(じへえ・島屋) → 荷造早文(にづくりのはやふみ、番頭/狂歌) G 7 3 8 6
 次兵衛(じへえ・鈴木) → 春信(はるのぶ・鈴木、絵師) G 3 6 6 9
 次兵衛(じへえ・山口) → 履斎(りさい・山口やまぐち、藩士/儒者) B 4 9 0 7
 次兵衛(じへえ・牛田/大岡) → 雲峯(うんぼう・大岡おのおか、絵師) E 1 2 0 5
 次兵衛(じへえ・茨木屋) → 元貞(もとさだ・中山、酒造家/文筆) C 4 4 4 9
 紫兵衛庵(しへえあん) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
 士碧(しへき・森) → 春樹(はるき・森もり、商人/画/俳人) G 3 6 2 5
 四碧斎(しへきさい) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
 紫碧仙叟(しへきせんそう) → 東溟(とうめい・林はやし、儒者) H 3 1 3 6
 四壁堂(しへきどう) → 湖中(3世こちゅう・岡野、藩士/俳人) 5 5 7 3
 子弁(子弁しへん・酒井/松岡) → 辰方(ときかた・松岡/丹比たじひ、故実家) J 3 1 0 4
 子勉(しへん・丹羽) → 盤桓(ばんかん・丹羽にわ、国学/書家) H 3 6 3 4
 子勉(しへん・飯田) → 楽軒(がくけん・飯田いいだ、藩士/儒者) J 1 5 7 6
 F2164 慈遍(じへん;法諱、俗名吉田[卜部]兼清、卜部兼頭男)?-? 兼好の兄弟、鎌倉南北期天台叡山僧、
 天台学を修学/天台神道・伊勢神道に精通;神道理論確立に尽力/神道:反本地垂迹、
 後醍醐天皇の要請で仏法・神道を説く、のち大僧正、「旧事本紀玄義」「古語類要集」著、
 「神懷論」「豊葦原本記」、1333「山王審鎮要記」40「神道大意要文并両部説」外著多数
 F2165 慈弁(じへん;法諱、眉間禅師[覚成]男)?-? 平安期叡山僧;法橋/御導師、
 歌人、月詣集入集、1187成立「千載集」1首入;377、
 [散りつもる木この葉も風にさそはれて庭にも秋の暮れにけるかな](千載;秋377)
 V2163 慈弁(じへん) ? - ? 南北室期大僧正/歌;1407内裏90番歌合参
 慈弁(じへん;字) → 日鶴(にちかく;法諱、日蓮僧) 3 3 9 9
 自鞭(じへん・村上) → 石田(せきでん・村上むらかみ、篆刻家) K 2 4 4 3
 子輔(しへ・内村) → 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7
 子輔(しへ・成田) → 祐右衛門(ゆうえもん・成田なりた、藩士/国学) H 4 6 0 9
 芝浦(しへ・安部井) → 帽山(ぼうざん・安部井あべい/安田、藩儒) B 3 9 2 0
 師輔(しへ・藤原) → 師輔(もろすけ・藤原、右大臣/故実/歌) 4 4 3 3

- 士輔(しほ・園田) → 不時宜(ふじぎ・園田、藩士/儒/教育) C 3 8 4 3
 思甫(しほ・石川) → 安亭(あんてい・石川いしかわ、儒者) G 1 0 1 7
 此母(しほ・原/寺島) → 静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革) I 2 4 2 4
 資模(しほ・平岡) → 資模(すけのり・平岡ひらおか、幕臣) G 2 3 9 3
 治保(しほ・徳川) → 治保(はるもり・徳川、藩主/修史事業) H 3 6 0 2
 治保(しほ・栗山) → 治保(はるやす・栗山くりやま、神職/国学者) K 3 6 1 1
 時保(しほ・服部) → 時保(ときやす・服部はつとり、藩士/和学) W 3 1 1 0
 時保(しほ・平松) → 時保(ときやす・平松/平、廷臣/記録) K 3 1 2 3
 茲甫(しほ・齋藤) → 規教(のりあつ・齋藤さいとう、藩士/国学者) I 3 5 6 0
- F2167 示峰(示峰しほう/じほう・植田うえだ、通称;権左衛門)?-? 伊賀上野の俳人;蕉門、
 1693浪化「有磯海」94其角「枯尾花」入、91「猿蓑」94「炭俵」98「続猿蓑」各1句入、
 1700子珊「続別座敷」(;示峰名)入、
 [鵲かさぎの橋よりこぼす霰あられかな](猿蓑;巻一)
- V2164 示峰(しほう)/じほう ? - ? 俳人;1700子珊「続別座敷」入
 示峰と同一? → 示峰(しほう・植田、芭蕉俳人) F 2 1 6 7
- V2165 芝峰(しほう・友鶴山人) ? - ? 京の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- N2154 志宝(しほう・遠藤えんどう、通称;武兵衛)1664-1727 64 陸奥(陸中)江刺郡の大肝煎、国学者
- F2168 至芳(しほう・井田いだ、別号;杉雪楼/風菊房)?-? 1771存 江中期;1750-6飛騨代官元締、
 俳人;初世宗端門、師没後;1744師の追善集「翌のたのむ」編、「半閑集」編、「一いびき」著
- V2166 子鳳(しほう・沢さわ) ? - ? 京の俳人;美濃派、1772几董「其雪影」1句入、
 [枯れたかと鳥の居れば梅の花](其雪影;巻尾250)
- V2167 市芳(しほう) ? - ? 俳人;1776樗良「誹諧 月の夜」1句入、
 [一家ひとつやの灯ともしびゆかし鳴の声](月の夜;82)
- F2169 士峰(しほう) ? - ? 俳人、1796撰集「杉本尊すぎほんぞん」;大魚と共著
 [杉本尊];鳴海千代倉家の芭蕉手植の杉が台風で倒れその材で墨山が翁像を刻み開眼供養、
 その供養時の人々の俳諧を集録したもの
 参考 → 大魚(たいぎょ・山口、墨山[延年]男、俳人) J 2 6 6 5
- F2171 士豊(しほう・大国おおくに、名;盛永、盛行男/本姓;荒木田)1779-1844 66 伊勢宇治の神職の家、
 1792(14歳)上京/絵師;土佐家入門、駿河遠江伊豆相模を遊歴、
 蕪山代官江川太郎左衛門の師、「皇太神宮大御田祭図絵」画、
 [士豊(;号)の通称/別号]通称;丹波、別号;春斎
- V2168 芝峰(しほう;号・清暉堂せいきどう)?-? 江後期文化1804-18頃の西讃岐の俳人、
 大阪の八千坊木僊と親交、1806芝峰句撰集「山荘集」(;百川編)
- H2196 土方(しほう・六呂堂初世、通称;三笠屋平助)1801-70 70 安藝広島胡町の商人/俳人;篤老とくろう門、
 1823玄蛙「萍日記三」入、24南亭「はつひかけ」/31鳳郎「いはひ草」41和切「養花集」入、
 安藝阿賀の可洛と親交、六呂堂は祖木(祖木)が2世を継嗣、
 [菊の香のゆたゆたするや小杯](1823玄蛙「萍きくさ日記三編」入)
- V2169 紫峰(しほう・柳原やなぎわら/一字姓;柳、名;春樹、小西富春男)?-? 江後期;讃岐高松の国学者、
 1822柳原に復姓、「古風歌」「御代之報腹」著、
 [紫峰(;号)の字/通称/別号]字;芳雪、通称;三郎、別号;柳洲、屋号;佐久良乃屋
- F2191 芝鳳(しほう・山科やまなし、名;才助)?-? 備後三原の俳人;1831鶴巢「海内千家集」入、
 [講中か寒かる柳青みけり](海内千家集)
- F2170 支峯(しほう・頼らい、名;復あし、山陽次男)1823-89 67 母;梨影、京三本木の漢学者;家学継承、
 儒;後藤松陰・牧百峯門、1868天皇に随従し大学教授/69大学少博士/従後下、三樹三郎の兄、
 「神皇紀略」「編年日本外史」「支峰詩文集」/1863「謙信事蹟考証」著、京頼家2世、
 [支峰(;号)の字/通称/別号]字;士剛、通称;又次(二)郎/復次郎、
 別号;西涯/迂亭/穆斎ぼくさい
 頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい) 2 1 6 0
 史邦(しほう、俳人・芭蕉庵小文庫編) → 史邦(ふみくに・中村) D 3 8 8 5

士芳(しほう・神原)	→	友子(ともゆき・神原かんばら、醸造家/歌人)	U 3 1 9 0
士峯(しほう・加藤)	→	空山(くうざん・加藤、儒者/詩)	C 1 7 2 1
士峰(しほう・雪朝庵)	→	如孺子(によらいし、斎藤親盛/仮名草子作者)	G 3 3 2 3
士峰(しほう・高野)	→	隆礼(たかのり・高野たかの、和算家/教育)	M 2 6 8 8
士萌(しほう・手塚/原)	→	古処(こしよ・原はら叔燁、儒者/詩人)	C 1 9 9 4
士方(しほう・岩崎)	→	灌園(かんえん・岩崎いわさき、本草学者)	P 1 5 9 7
士鳳(しほう・中島)	→	尚翼(なおすけ・中島なかじま、和算家)	B 3 2 3 5
子方(しほう・黒沢)	→	東蒙(とうもう・黒沢、医者/儒)	H 3 1 4 1
子方(しほう・河東田)	→	直正(なおまさ・河東田かとうだ、天文家)	C 3 2 4 5
子方(しほう・谷)	→	文晁(ぶんちよう・谷たに、絵師)	G 3 8 2 4
子方(しほう・安原)	→	正郷(まささと・安原やすがら、商家/歌人)	T 4 0 3 4
子方(しほう・川合)	→	長行(ながゆき・川合かわい、郷土史家)	G 3 2 2 7
子方(しほう・渋江)	→	松石(しょうせき・渋江しぶえ、儒者/藩士/神職)	T 2 2 8 4
子方(しほう・鷹見)	→	爽鳩(そうきゆう・鷹見/鷹/石川、家老/儒者)	B 2 5 0 3
子方(士方しほう・妻木)	→	陸叟(りくそう・妻木/石川、藩医/本草)	4 9 7 8
子方(しほう・平井)	→	櫻斎(ていさい・平井/源、儒者/本草家)	3 0 8 5
子方(しほう・殿村)	→	正義(まさよし・殿村、篆刻/書家/俳人)	I 4 0 5 2
子苞(しほう・野間)	→	静軒(せいけん・野間、医/詩文)	2 4 0 8
子鳳(しほう・杉田)	→	玄白(げんぱく・杉田すぎた、医/蘭学)	1 8 2 9
子豊(しほう・岡田)	→	閑林(かんりん・岡田おかだ、絵師)	R 1 5 8 3
子豊(しほう・水野)	→	政和(まさかず・水野、鋳物師/和算家)	B 4 0 7 7
子豊(しほう・衛藤)	→	実厚(さねあつ・衛藤えとう、国学)	O 2 0 0 1
子宝(しほう・武田/龍)	→	公美(きんえ・龍たつ/りゅう、儒者/詩歌)	E 1 6 8 7
子宝(しほう・鈴木)	→	道順(どうじゆん・鈴木すずき、医者)	F 3 1 1 6
子宝(しほう・沼尻)	→	修平(しゅうへい・沼尻ぬまじり、書家)	Y 2 1 3 0
子宝(しほう・徳永)	→	宥(ゆう・徳永とくなが、儒者)	4 6 4 7
子宝(しほう・野村)	→	立栄(初世りゅうえい・野村/舎人、医者)	C 4 9 8 5
子邦(しほう・松本)	→	月痴(げつち・松本、蔵書/窮民救済)	H 1 8 2 5
子邦(しほう・飯田/里見)	→	忠彦(ただひこ・飯田/里見、史家)	F 2 6 6 7
子邦(しほう・高木)	→	芳洲(芳州ほうしゅう・高木、家老/儒者)	B 3 9 4 2
子邦(しほう・徳川)	→	慶喜(よしのぶ・徳川/一橋、最後の将軍)	F 4 7 7 4
子芳(しほう・西村)	→	清狂(せいきやう・西村にしむら、絵師)	H 2 4 8 9
子芳(しほう・黒木)	→	茂矩(しげのり・黒木くろき、神職/国学)	O 2 1 3 4
子彭(しほう・服部/石井)	→	蠡(れい・石井いしい、藩士/儒者)	5 1 0 0
子逢(しほう・細井)	→	宜麻(よしま・細井ほそい、町役/勸農家)	G 4 7 9 2
子鵬(しほう・林)	→	文翼(ぶんよく・林はやし、儒者)	G 3 8 5 8
之宝(しほう・辛島)	→	古淵(こえん・辛島からしま、藩士/儒者)	L 1 9 7 5
之邦(しほう・鈴木)	→	之邦(ゆきくに・鈴木すずき、歌人)	G 4 6 2 9
至邦(しほう・近藤)	→	至邦(むねくに・近藤こんどう、国学者/歌人)	D 4 2 8 4
始芳(始方しほう・北沢)	→	始芳(始方もとよし・北沢、養蚕家/本草)	E 4 4 7 8
師豊(しほう・中原)	→	師豊(もろとよ・中原なかはら、廷臣/記録)	H 4 4 5 4
資方(しほう・土田)	→	資方(すけかた・土田つちだ、儒者/詩歌)	I 2 3 8 3
資方(しほう・野々口)	→	資方(すけかた・野々口ののぐち、俳人)	H 2 3 8 0
資方(しほう・三室戸)	→	資方(すけかた・三室戸みむろど/藤原/梅小路、廷臣)	G 2 3 1 8
資邦(しほう・白川)	→	資邦(すけくに・白川しらかわ、神祇伯)	G 2 3 2 7
資芳(しほう/すけよし・伴)	→	蒿蹊(こうけい・伴ばん、商家/歌人/和文)	1 9 0 8
施報(しほう・立見)	→	幽谷(ゆうこく・倉田/立見、儒者)	B 4 6 6 4

V2170 扨房(しほう) ? - ? 江前期俳人;1688不卜「続の原」1句入、
 [世になしや芝に刈らるゝ木瓜げの花](続の原;19/世になし;世間に認められぬ日陰者)
 (芝は柴と同じ雑木/木瓜は梅や桜と違い雑木として刈られるごとく存在感がない)

- V2171 **之房**(しぼう) ? - ? 俳人、1772几董「其雪影」1句入、
 [有り過ぎて背戸の水仙咲きにけり](其雪影;巻尾379/裏口まで咲いた)
- 之望(しぼう/のぶもち・渡辺) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒/国学) G 1 9 5 3
 之房(しぼう・岩永) → 藿斎(かくさい・岩永いなが、医者/本草) J 1 5 8 4
 士髦(しぼう・岡田) → 南涯(なんがい・岡田、儒者/講説) I 3 2 6 7
 子卯(しぼう・鯨岡) → 重胤(しげたね・鯨岡くじらおか、詩人) R 2 1 3 8
 子房(しぼう・宮重) → 信義(のぶよし・宮重みやげ、幕臣/儒/国学) D 3 5 8 6
 子謀(しぼう・三木) → 屈斎(くつさい・三木みき、藩士/詩/戯作) C 1 7 4 7
 氏房(しぼう・戸田) → 氏房(うじふさ・戸田とだ、藩主/歌) E 1 2 3 2
 氏房(しぼう・井手) → 氏房(うじふさ・井手いで、藩士/歌人) E 1 2 4 8
 師房(しぼう・源) → 師房(もろふさ・源みなもと、右大臣/詩歌人) H 4 4 8 6
 師房(しぼう・菱川) → 師房(もろふさ・菱川ひしかわ、絵師/縫箔師) H 4 4 8 7
 資房(しぼう・藤原) → 資房(すけふさ・藤原、廷臣/故実家/詩) C 2 3 9 7
 資望(しぼう・烏丸/勘解由小路) → 資望(すけもち・勘解由小路かでのこうじ、記録) H 2 3 1 1
 嗣房(しぼう・栗田口) → 嗣房(つぎふさ・栗田口/藤井/藤原、廷臣/歌人) 2 9 5 7
 嗣房(しぼう・万里小路) → 嗣房(つぎふさ・万里小路までのこうじ/藤原、廷臣) 2 9 8 4
- V2172 **時寶**(寺寶しほう;法諱) ? - ? 1338存/1367以前に没 鎌倉南北期の華嚴僧/法印、
 1331・38奈良東大寺寺務代、連歌;菟玖波4句入、
 [花をしたひて鳥や鳴くらむ](菟玖波;春/前句;雲に入山路の春もくれにけり)
- V2173 **持寶**(しほう、徳大寺公俊男/足利義持の猶子) 1416-? 華嚴東大寺尊勝院僧;光経門/法印、
 1442東大寺別当、1444まで寺務を勤める/1447東大寺と興福寺の紛争を憂慮し公武に訴訟、
 1445「東大寺尊勝院院主次第」著
- F2166 **慈芳**(しほう;法諱・仏山ぶつざん;字、俗姓;青山) 1731-180474 近江坂田郡能登瀬村の尼僧:15歳出家、
 天台叡山の慈勺門、1761叡山南楽坊主宰、江戸寛永寺住;公遵法親王に随い律師となる、
 1780(50歳)帰郷し草庵を結ぶ、悉曇学を修学/念仏勸化、「悉曇軌範」「念仏三昧秘決」著、
 歌人;1799「百如庵浄土和歌並自序」著、「悉曇反音口決」著、「悉曇連声篇」編、外編著多数、
 [慈芳(;法諱)の号]百如ひやくによ/千界百如庵
- 二峰(しほう・高林) → 信好(のぶよし・高林たかばやし、書家) G 3 5 7 8
 治宝(しほう・徳川) → 治宝(はるとみ・徳川、藩主/雅楽) G 3 6 6 0
 治邦(しほう・竹野) → 治邦(はるくに・竹野たけの、医/天文/詩人) G 3 6 3 1
 次芳(しほう・高野/永井) → 次芳(つぐよし・永井/高野、役人/史家/俳) 2 9 9 0
 慈峰(しほう;法諱) → 本宗(ほんしゅう;道号・祖陳;初法諱、臨濟僧) F 3 9 3 9
 時方(しほう・平松) → 時方(ときかた・平松/平、廷臣/故実家) J 3 1 0 3
 時方(しほう/ときかた・伊藤) → 定敬(さだたか・伊藤いとう、藩士/和算家) I 2 0 3 7
 時邦(しほう・北条) → 時邦(ときくに・北条/平、武将歌人) J 3 1 1 2
 時芳(しほう・原) → 時芳(ときふさ・原、神職/記録) J 3 1 9 7
 時房(しほう) すべて → 時房(ときふさ)
 時望(しほう・平) → 時望(ときもち・平たいら、廷臣/歌人) K 3 1 1 3
 時懋(しほう・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8
 時懋(しほう・松岡) → 時懋(ときよし/ときしげ・松岡まつおか、神職/歌) W 3 1 4 8
 自邦(しほう・野呂瀬) → 秋風(しゅうふう・野呂瀬のろせ、藩士/歌) I 2 1 2 4
 持宝(しほう;号) → 如海(にょかい;法諱・性寂、真言僧) F 3 3 8 5
 持豊(しほう・芝山) → 持豊(もちとよ・芝山/藤原、大納言/歌人) 4 4 0 9
 持房(しほう/もちふさ・花山院) → 持実(もちざね・花山院/藤原、廷臣/記録) B 4 4 4 0
 持房(しほう・北畠) → 持房(もちふさ・北畠きたばたけ、廷臣/歌人) B 4 4 6 1
 持房(しほう・大館) → 持房(もちふさ・大館おおだち/源、廷臣/歌) B 4 4 6 2
 次房(しほう・下平) → 次房(つぎふさ・下平しもだいら、藩士/砲術/歌) 2 9 5 8
 次傍(しほう・正木) → 次傍(つぎかた・正木まさき、藩老/歌人) G 2 9 3 6
 四方庵(しほうあん→よほうあん) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0

- 四方庵(5世しほうあん→よほうあん)→宗真(そうしん・代田しろた、茶華道/歌人) K 2 5 9 6
 四方庵(しほうあん/よもあん) → 澧水(ほうすい・八木/中出、俳人) B 3 9 9 2
 枝法庵(しほうあん) → 白輅(はくろ・永田ながた、藩士/俳人) E 3 6 1 6
 枝芳軒(しほうけん) → 静之(せいし・枝芳軒、書肆) B 2 4 8 5
 似蜂軒波丸(じほうけんはまる)→波丸(はまる・鉄格子、鉄問屋/狂歌) F 3 6 6 8
 自芳斎枳舟(じほうさいきしゅう)→貞麿(さだまろ・菊池さくち、里正/歌人) O 2 0 3 7
 四方樹(しほうじゅ、蓬廼舎)→忠順(ただまさ・村上、医者/国学/歌) F 2 6 8 6
 穉笑(稚笑ちしょう・指峰堂)→忠兵衛(ちゅうべい・西村/伊勢屋、書肆) G 2 8 8 4
 指峰亭(しほうてい) → 忠兵衛(ちゅうべい・西村/伊勢屋、指峰堂穉笑/書肆) G 2 8 8 4
 指峰堂穉笑(しほうどうちしょう)→忠兵衛(ちゅうべい・西村/伊勢屋、書肆) G 2 8 8 4
 至宝の屋(しほうのや) → 拈(ゆづか・野崎のさき/昆陽野、塩田実業家) H 4 6 1 2
 四方明(しほうめい) → 百庵(ひやくあん・寺町、茶/俳/歌) E 3 7 4 3
 四方郎(しほうろう) → 朱拙(しゅせつ・坂本、俳人) 2 1 5 3
 指峯楼(しほうろう) → 雲帯(うんたい・成沢なるさわ、商家/俳人) D 1 2 9 1
 2169 志卜(しぼく) ? - ? 江前期俳人;1690不角「二葉之松」入(428)
 F2172 只木(しぼく、葉隠堂よういんどう)?- ? 江前期浜松の雑俳点者/京住、
 1704紅梅軒「俄雨」点入/序、1705「はまつと集」編
 子穆(しぼく・藤井) → 樗亭(ちよてい・藤井、医者/詩/俳) K 2 8 4 2
 子穆(しぼく・谷) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
 子朴(しぼく・佐々) → 十竹斎(じゅちくさい・佐々ささ、漢学/史編纂) F 2 1 0 8
 子朴(子樸しぼく・谷田部)→東壑(とうがく・谷田部やたべ、儒者) C 3 1 1 8
 子朴(しぼく・小宅) → 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) G 2 0 6 2
 子朴(しぼく・鈴木) → 松江(しやうこう・鈴木/鱸ずき/盧ろ、医/詩) I 2 2 7 5
 子木(しぼく・相良) → 繩正(なわまさ・相良さがら、藩士/武芸者) I 3 2 4 7
 子木(しぼく・市浦) → 南竹(なんちく・市浦いちうら、藩士/儒者) J 3 2 3 0
 子木(しぼく・坂井) → 茂喬(しげたか・坂井さかい、藩士/詩人) R 2 1 2 1
 子牧(しぼく・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2
 子睦(しぼく・秋保) → 政右衛門(まさえもん・秋保あきほ、藩士/軍学) B 4 0 3 6
 子樸(しぼく・藤堂) → 高文(たかふみ・藤堂、藩国老/漢学者) D 2 6 6 9
 F2173 次木(しぼく) ? - ? 出羽の狂歌作者、1672行風「後撰夷曲集」入
 自牧(しぼく・若林) → 強斎(きやうさい・若林わかばやし、儒者/詩歌) C 1 6 5 0
 自牧(しぼく・永木) → 守篤(もりあつ・永木ながき、歌人) K 4 4 8 4
 時木(しぼく・中沢) → 常春(つねはる・中沢なかざわ、歌人) G 2 9 0 8
 V2175 茨木軒(しぼくけん) ? - ? 美作津山の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 V2176 自牧斎(しぼくさい・菅かん;修姓、名;惟繩/字;昭叔、菅波長作男)1810-60 母;敬、備後儒;杏坪・山陽門、
 菅茶山の弟の孫;茶山の後継者/郷校廉塾の主、詩;1832「黄葉夕陽村舎詩」茶山遺稿4巻編、
 「自牧斎歌集」「自牧斎文集」著、[自牧斎の通称/別号]通称;三郎、別号;良庵
 自牧斎(しぼくさい;号) → 大典(だいてん;号・梅莊頭常、臨濟僧) B 2 6 9 0
 自牧子(しぼくし) → 鉄牛(てつぎゅう;道号・道機、黄檗僧) C 3 0 2 5
 柿木舎(しぼくしゃ) → 信精(のぶきよ・田中、儒者/詩歌) B 3 5 3 3
 子本(しほん・大林) → 正修(まさなが・大林おおばやし/源、藩士/国学) O 4 0 4 1
 V2177 慈本(じほん;法諱・泰初たいしよ;字)1795-1869 75 父は伊勢の真宗僧、比叡山に登り受戒;天台僧、
 叡山無量寿院住/松尾明寿院に退隠/妙法院宮・曼殊院宮の侍読、敬雄の跡継承;史料編纂;
 1862敬雄「天台霞標」(日本天台史料集)を完成、叡山金光明院に没、詩人;「羅溪詩稿」著、
 1828「比叡山記」31「一実神道記」43「奥州燕沢碑文釈」44「密蔵院慈妙上人伝」外著多数、
 [慈本(;法諱)の号] 羅溪/水月道場
 Z2178 治本(じほん・王おう、字;維能/号;漆[漆]園/夢蝶道人)1836-1908 73 清国慈溪黄山村の文人、
 詩文に精通、1877(明治10)広部鹿山の招聘で来日;中村敬宇の[道人社]入、
 詩社[聞香社]創設;大河内輝声(旧高崎藩主)ら文人と交流、中国公使館の囑託、

日本各地を漫遊し文芸交流、「新新潟繁昌記」著外各地に詩文

- F2174 **志万**(しま・松下まつた、初世絵馬屋額輔の妻)?-? 狂歌名:三条台女、
市摩(しま・溝口) → 徳成(のりなり・溝口みぞぐち、藩士/弓術家) F 3 5 3 7
志摩(しま・甲良) → 宗員(むねかず・甲良こうら/藤原、幕臣/工匠) B 4 2 1 6
志摩(しま・中西/小林) → 秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人) X 2 1 6 9
志摩(しま・真田) → 貫道(つらみち・真田さなだ、藩家老) E 2 9 4 9
志摩(しま・横山) → 正房(まさふさ・横山よこやま、藩家老/記録) H 4 0 0 7
志摩(しま・檜垣) → 貞根(さだもと・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 9 0
志摩(しま・檜垣) → 秀俊(ひでとし・檜垣/度会、神職) D 3 7 3 2
志摩(しま・安元) → 真満(まさみつ・安元やすもと、神職/歌人) O 4 0 1 9
志摩(しま・小能) → 吉春(よしはる・小能このう/斎藤、神職) M 4 7 7 5
志摩(しま・八羽) → 光穂(みつほ・八羽はつば/荒木田、神職/国学) E 4 1 8 1
志摩(しま・八幡) → 光保(みつやす・八幡やわた、神職/国学) K 4 1 8 4
次磨(じま・滝本) → 次磨(つぐまる・滝本たきもと、神職/歌人) F 2 9 1 5
島公方(しまきんかた) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府将軍) E 4 7 3 4
島崎勝太(しまざきしょうた) → 勇(いさみ・近藤、剣術/新撰組) F 1 1 5 1
志満山人(しまさんじん) → 国信(くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8
島三(しまぞう・島地) → 幸三(初世こうぞう・松井、歌舞伎作者) B 1 9 6 1
- F2175 **島足**(しまたり;姓不詳) ? - ? 万葉集二期歌人;1724(;吉野川の歌)、
文献には安勅島足・竹志島足・菅生島足など同名者十数人と多いが関係不明、
[見まく欲ほり来こしくも著しるく吉野川音のさやかさ見るにともしく](万葉;九1724)
(著しは甲斐がある/ともしは心惹かれる意/柿本人麻呂歌集?)
島太郎(しまたろう・松浦) → 正典(まさのり・松浦まつら/沢近、神職/歌) S 4 0 6 2
- F2176 **次末**(じまつ) ? - ? 俳人;大阪談林、1678西鶴「五徳」入
揣摩堂(しまどう) → 鬼谷(きこく・谷たに、維揚男/儒者/兵学) K 1 6 3 7
島也(しまなり・便財亭) → 便財亭島也(べんざいていしまなり・狂歌) B 2 7 2 4
志摩守(しまのかみ・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9
志摩守(しまのかみ・川口) → 信成(のぶなり・川口かわぐち、旗本/歌人) H 3 5 0 2
志摩守(しまのかみ・浜島) → 等庭(とにもわ・浜島ろはまじま、廷臣/国学) W 3 1 1 2
志摩守(しまのかみ・麻生) → 秀俊(ひでとし・麻生あそう/斎部宿禰、神職/国学) M 3 7 0 1
志摩守(しまのかみ・河津) → 毎鎮(つねしず・河津かわづ/浦、神職) F 2 9 5 8
志摩守(しまのかみ・山本) → 兼尚(かねひさ・山本やまもと/賀茂、諸大夫/和学) W 1 5 1 2
志摩守(しまのかみ・山本) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6
島之丞(島之允しまのじょう・秦) → 櫛丸(あわぎまる・秦はた/村上、探検家) F 1 0 9 4
島之助(島介しまのすけ・佐々) → 十竹斎(じちくさい・佐々ささき、漢学/史編纂) F 2 1 0 8
志摩介(詩磨介/司馬介しまのすけ・壬生) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6
島人(しまひと・相良) → 頼徳(よりのり・相良さから、藩主/狂歌) J 4 7 4 6
嶋文流(しまぶんりゅう;号) → 文流(ぶんりゅう・錦にしき、俳/浄瑠璃・浮世草子) 3 8 2 7
- F2177 **島麻呂**(しままる・神麻続部かむおみべ/みわおみべ)?-? 755防人/下野国河内郡かわちのこおり上丁・万葉4381、
[国々の防人集ひ船ふな乗りて別るを見ればいとすべなし](万葉集;二十4381)
- F2178 **嶋麻呂**(島磨しままる・津守つもの宿禰)?-? 奈良期天平729-49頃住吉大社神主:従八下、
731「住吉大社神代記」共著(津守守人と言上)
- V2178 **島磨**(しままる・泊瀬はつせ) ? - ? 江中期豊後佐伯の国学者:賀茂真淵門、
1786「万葉類聚地名考」著
- F2179 **紫万**(しまん、初世秋色[1669?-1725]と寒玉との次男)?-? 18cの俳人/林鳥の弟
時万(じまん・中村) → 時万(ときかず・中村、幕臣/和算家) J 3 1 0 0
時万(じまん・交野) → 時万(ときつむ・交野かたの、廷臣/神職/歌) U 3 1 7 6
- F2180 **清水立登磨**(しみずたちどまる)? - ? 狂歌作者、1785徳和歌後万載集3首、
[情なきなき人の心は鬼あざみ言のは末に持つやとげ針](後万載;八恋514)
清水廻舎(しみずのや) → 忠浄(ただきよ・村上むらかみ、医者/歌) E 2 6 4 4

- 四未能軒(しみのけん) → 敦(あつし・亀田、商家/儒/詩) E 1 0 6 5
 紙魚室(蠹舎しみのや) → 千楯(ちたて・城戸・蛭子屋、書肆/国学) 2 8 1 3
- B2190 慈妙(じみょう;法諱、空慧くうえ;字、俗姓;赤松、尊覚忍空男)1661-1729 母;妙清信尼、筑後の僧、
 光真洞覚門;出家、真言律;浄厳門/1681安祥寺流伝法灌頂を受、1701河内教興寺3世、
 筑後久留米城下の東林寺を開基、「五種秘要雲聞記」「秘鍵雲聞記」「秘蔵記雲聞記」、
 「菩提心論雲聞記」「尊法供養念誦雲聞記」「諸鎮秘口雲門隨筆」外著多数
- E2110 慈明(じみょう;法諱) ? - ? 江後期の僧;尾張熱田如法院座主、
 1862「日枝山紀行」著
- 慈妙(じみょう;字) → 日蓮(にちりん;法諱、日蓮僧) 3 3 5 0
 慈明(じみょう;字) → 日叡(にちえい;法諱、日蓮僧) 3 3 6 3
 持明(じみょう;字) → 真誉(しんよ;法諱・持明、真言僧/持明院創建) P 2 2 9 8
 事妙院(じみょういん) → 日然(にちなん;法諱・枢蹊、日蓮僧) D 3 3 1 2
 慈明院(じみょういん;法号) → 光重(みつげ・丹羽にわ、藩主) D 4 1 5 3
 持明院(じみょういん;号) → 基家(もといえ・藤原、廷臣/日記) 4 4 1 1
 持名院(じみょういん) → 蓮阿(れんあ/れんな;法諱、真宗大谷派僧/歌) B 5 1 4 8
 持明院殿(じみょういんどの) → 伏見天皇(ふしみてんのう、歌人) 3 8 0 8
 持明院殿(じみょういんどの) → 後伏見天皇(ごふしみてんのう、歌人) D 1 9 6 8
 持明院殿(じみょういんどの) → 光厳天皇(こうごんてんのう、北朝初即位/歌人) B 1 9 0 9
 持明院殿(じみょういんどの) → 光明天皇(こうみょうてんのう、北朝、歌) B 1 9 9 3
 慈明広恵禅師(じみょうこうえぜんじ;諡号) → 竺隠(じくいん;道号・崇五;法諱、臨濟僧) Q 2 1 3 4
- 02172 慈珉(じみん;法諱・号;蘭溪/荊山)?-1798 信濃善光寺山内の圓乗寺住僧、歌;天台僧慈延門
 耳眠舎(じみんしゃ) → 正輔(まさすけ・大堀おおほり/源、藩士/歌) O 4 0 4 5
 思無邪園(しむじやえん) → 龜卜(きぼく、俳人) B 1 6 8 0
- F2181 四明(しめい・上柳うわなぎ/修姓;柳、名;啓/美啓、浄頓男)1711-9080 京の儒者;向井滄洲門/朱子学、
 小倉藩儒臣/1758藩校思永斎の助教、「蘊古堂詩稿」「蘊古堂続文稿」「孟子贅」「東遊紀行」著、
 [四明(;号)の字/通称/別号]字;公通/公美、通称;治兵衛、別号;士名、牧斎の父
- V2179 市明(しめい・木村きむら、鶯丘舎草也そうや男)1716-8772 相模三崎の薬種業・米穀商、俳人;父門、
 のち鳥酔・鳥眼門/三島連中の代表格、1756「三崎志」編
 [市明(;号)の別号]通称;甚蔵、別号;、松月/、松月亭/松月楼
- V2180 思明(しめい・寺田でらだ/修姓;田、名;高忠)?-? 江中期大阪阿波座衞町の書肆、1764「志まかゞみ」、
 1765「拍子筥内百番」67「唱歌辨疑」、67「糸のしらべ」編、84「一口謡」92「拍子筥」外多数刊行、
 [思明(;字)の通称/号]通称;奈良屋善助・善右衛門/田思明でんしめい・田高忠でんこうちゅう、
 号;会友堂
- F2183 四明(しめい・井上いのかげ、名;潜、戸口孝広男)1730?-181990?(一説97) 江戸の生/6歳で孤児、
 義理の叔父尾崎孤雲に養育/越後高田藩に出仕;辞任し儒学;井上蘭台門;蘭台の養嗣子;
 岡山藩儒/1802侍講/1814致仕、「井上四明書」、「佩弦園文集」「牛渚唱和集」「稗田野史」、
 「四明小稿」「経義輯説」「経済十二論」「北陲記聞」「論語鈔説」「論語三家考」外著多数、
 [四明(;号)の字/通称/別号]字;仲竜、通称;仲、別号;佩弦園
- F2184 支明(しめい・先住、雪蘭居)?- ? 美濃派俳人、文暁(甥)の俳諧の師
 → 文暁(ぶんぎょう・法侶、僧/俳人:1735-1816) F 3 8 0 4
- F2186 四溟(しめい・岡部おかべ、名;世懋/字;公修)1745-181470 江戸の幕臣;青山百人隊騎士、
 詩;耆山上人門、文;井上金峨門、
 太田南畝・菊池衡岳・大森華山と牛門四友と称し作詞;1767「牛門四友集」入、
 安永1772-81頃官を致仕/出家参禅;素観と称す、1772「四溟陳人詩集」、「溪声余響」著、
 「法略一路」「孝子撮註」「般若心経註参考」著、
 [四溟(;号)の通称/別号]通称;平二[八]郎、別号;四溟陳人/嘯月楼/梅谷、
 法号:素観/一阿道人
- F2185 紫溟(しめい・吉雄よしお、名;貞美)?-? 江中期蘭医;オランダ医者に入門、
 江後期寛政1789-1801頃京の室町二条南で開業医;1800蘭学塾蓼莪堂を設立、
 1804「缺舌医言」、「性僻候篇」「蓼莪堂外科伝書」「蘭訳筌蹄」著

[紫溟(；号)の字/通称]字；元吉/玄吉、通称；王貞美

- V2181 **四明**(しめい・本田ほんだ、名；武純/武徳、里正本田吉郎右衛門男) 1762-1809⁴⁸ 肥後宮原村の生、
農家の養子；農を嫌い実家に戻る、儒者；熊本藩校時習館に修学/藪孤山・亀井南冥門、
筑後柳川藩に出仕/藩政改革案が容れられず一時離藩、「治安大綱」著、「四明先生遺稿」、
[四明(；号)の幼名/字/別号]幼名；猶二郎/弥一兵衛、字；子征/眞卿、
別号；闕崇山人あつすうさんじん

- V2182 **紫溟**(しめい・相木あいき、名；常德) ?-1859 日向延岡藩士/1839内藤家用人/50年寄に就任、
儒者；大阪の篠崎小竹門、詩文、藩主の妻充真院に協力し六代藩主内藤義泰の歌を整理；
「義泰朝臣歌集」編纂、「春木堂詩集」著、
[紫溟(；号)の字/通称/別号]字；子容?、通称；市兵衛、別号；春木堂

紫溟(しめい・高本)	→	順(したごう・高本/李/原田、医/儒/国学)	E 2 1 5 0
紫溟(しめい・古賀)	→	侗庵(とうあん・古賀、儒者)	3 1 0 2
紫溟(しめい・古屋)	→	昔陽(せきやう・古屋ふるや、儒者)	D 2 4 9 2
子明(しめい・加藤)	→	空山(くうざん・加藤、儒者/詩)	C 1 7 2 1
子明(しめい・小川)	→	櫻齋(ていさい・小川、医者)	3 0 8 8
子明(しめい・川西/塩野)	→	適齋(てきさい・塩野、幕臣/武芸)	B 3 0 9 0
子明(しめい・佐久間)	→	象山(しょうざん・佐久間、儒/蘭学/兵学)	S 2 2 5 4
子明(しめい・川田)	→	芝嶠(しきやう・川田、藩儒/陽明・朱子学)	Q 2 1 2 2
子明(しめい・魏/鉅鹿)	→	皓(皓こう・魏ぎ・鉅鹿おおが、明楽みんがく)	H 1 9 1 1
子明(しめい・鈴木)	→	榊林(ばいりん・鈴木すずき、儒者)	C 3 6 2 8
子明(しめい・藤岡)	→	有貞(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量)	F 1 0 3 4
子明(しめい・武田/龍)	→	公美(きんえ・龍たつ/りゅう、儒者/詩歌)	E 1 6 8 7
子明(しめい・葛)	→	蛇玉(じゃぎよく・葛かつ、絵師)	H 2 1 7 9
子明(しめい・田中/田)	→	鳴門(めいもん・田中/田、鑄造業/詩人)	4 3 3 9
子明(しめい・寺尾)	→	顕融(けんゆう・寺尾てらお、医者)	M 1 8 5 8
子明(しめい・揚/上野)	→	弘齋(こうさい・揚あげ/上野あげの、藩士/国学)	I 1 9 9 5
子明(しめい・滑川)	→	通則(みちのり・滑川なめかわ、藩士/儒者)	C 4 1 2 7
子明(しめい・戸崎/崎)	→	淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学)	H 2 6 9 4
子明(しめい・介川)	→	通景(みちかげ・介川すげがわ、藩士/詩文)	B 4 1 3 1
子明(しめい・日下)	→	雪中(せつちゆう・日下くさか、商家/俳人)	E 2 4 5 5
子明(しめい・高橋/関)	→	梨一(りいち・関・高橋/一祚・一紹、幕臣/俳人)	4 9 3 1
子明(しめい・野田)	→	笛浦(てきほ・野田のだ、藩士/儒者/詩文)	3 0 1 0
子明(しめい・岡)	→	了允(りょういん・岡おか、医官)	G 4 9 2 6
子明(しめい・山村)	→	昌永(まさなが・山村やまむら、藩士/蘭学者)	F 4 0 3 4
子明(しめい・長山)	→	菱涯(りょうがい・長山ながやま、文筆家)	G 4 9 8 4
子明(しめい・頼)	→	誠軒(せいけん・頼らい、藩儒)	I 2 4 4 4
子明(しめい・清野/石沢)	→	浚平(俊平しゅんぺい・石沢/清野、藩儒)	L 2 1 8 4
子明(しめい・吉田)	→	拙藏(せつざう・吉田よしだ、藩士/儒・蘭学)	L 2 4 1 8
子明(しめい・徳川/池田)	→	慶徳(よしのり・池田いけだ、藩主/歌文)	F 4 7 9 7
子明(しめい・関)	→	常明(つねあき・関せき、医者/神職)	F 2 9 8 6
子明(しめい・若林)	→	正旭(まさあきら・若林わかばやし、商家/歌人)	T 4 0 7 8
子明(しめい・深井)	→	彰(あきら・深井ふかい/今村、藩士/兵学/儒学)	I 1 0 3 5
四明(しめい・石川)	→	丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人)	S 2 2 5 7
四明(しめい・謝)	→	蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師)	3 8 1 1
四明(しめい・太田/賀川)	→	秀益(しゅうえき・賀川かがわ/太田、医者)	W 2 1 6 8
氏明(しめい・大館)	→	氏明(うじあき・大館おおだち、武将)	C 1 2 2 7
氏命(しめい・世木/藤波)	→	氏命(うじなが・藤波/荒木田、神職/日記)	C 1 2 5 5
泗溟(しめい・平井)	→	棟隆(とうりゅう・平井、卜占家)	I 3 1 2 3
四溟(しめい・岡部)	→	平次郎(へいじろう・岡部、儒/詩/狂歌)	2 7 5 5

- 思明(しめい・佐久間) → 東川(とうせん・佐久間、幕臣/儒者) G 3 1 1 4
 思明(子明しめい・高井) → 蘭山(らんざん・高井たかい、与力/戯作者) 4 8 0 4
 思明(しめい・松) → 蘿溪(らけい;号、書家) B 4 8 9 5
 士明(しめい・野田) → 知彰(ともあき・野田のだ、藩士/天文/儒) P 3 1 1 2
 士明(しめい・武岡/劉) → 素軒(そけん・劉りゅう/彭城/武岡、通事) J 2 5 6 0
 士明(しめい・前田) → 雲洞(うんどう・前田まえた、藩士/儒者) E 1 2 0 2
 士明(しめい・武田) → 梅菴(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0
 士明(しめい・山県) → 大武(だいに・山県、医者/漢学/尊王論) C 2 6 0 3
 士明(しめい・真壁/上野) → 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) G 3 7 5 1
 士明(しめい・中島) → 松堂(しょうどう・中島/中嶋、藩士/日記) L 2 2 2 1
 士明(しめい・加藤) → 昌融(まさひら・加藤かとう、国学者) O 4 0 7 0
 之明(しめい・大蔵) → 勘解由(かげゆ・大蔵おおくら、神職/書家) L 1 5 4 1
 之明(しめい・内山) → 栗斎(りつさい・内山之明、与力/儒者) B 4 9 8 9
 之冀(しめい・浅岡/浅井) → 芳所(ほうしょ・浅岡/浅井、藩儒) B 3 9 6 6
 師明(しめい;名) → 性信親王(しょうしんしんのう、三条天皇皇子、真言仁和寺門跡) K 2 2 1 0
 資明(しめい・日野/柳原) → 資明(すけあきら・柳原/日野、廷臣/歌人) B 2 3 7 6
 資名(しめい・日野) → 資名(すけな・日野/藤原、権大納言/歌) C 2 3 5 8
 F2187 時明(じめい・小松原こまつばら) ?- ? 俳人・1658梅盛「鸚鵡集」入
 F2182 二鳴(じめい) ? - ? 江中期江戸俳人、独立点者、1754竹翁「誹諧童の的」点句入
 自明(じめい・岡野) → 依古(よりひさ・岡野おかの、藩家老/国学) M 4 7 0 5
 時明(じめい・源) → 時明(ときあきら・源:文徳流、廷臣/歌人) I 3 1 9 0
 時名(じめい・西洞院/平) → 時名(ときな・西洞院にしとういん、廷臣/歌) J 3 1 5 0
 治明(じめい・伊奈) → 治明(はるあき・伊奈、神職/歌人) J 3 6 6 7
 慈明(じめい;法諱) → 慈明(じみょう;法諱、僧) E 2 1 1 0
 紫冥軒(しめいけん) → 三千風(みちかぜ・大淀、三井、商家/俳人) 4 1 0 3
 自明軒(じめいけん・林) → 良斎(りょうさい・林はやし、藩家老/陽明学) H 4 9 6 6
 四名山人(しめいさんじん) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
 耳瞑子(じめいし) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
 四明窓(しめいそう) → 来之(らいし・早川はやかわ、俳人) 4 8 5 0
 絲明窓(しめいそう) → 星布(せいふ・榎本、俳人) C 2 4 9 0
 紫溟陳人(しめいちんじん) → 昔陽(せきやう・古屋ふるや、儒者) D 2 4 9 2
 四溟陳人(しめいちんじん) → 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6
 シメオン(;キリシタン名) → 孝高(よしたか・黒田くろだ/源、武将/連歌) D 4 7 9 3
 2135 七五三助(初世しめすけ・奈河ながわ、茶屋福新男) 1754-181461 大阪道頓堀の生/日本橋で旅宿経営、
 歌舞伎作者;初世奈河亀輔門、1781立作者;1784「隅田川続佛ごにちのおもかげ」で評判、
 並木五瓶・辰岡万作・近松徳叟らと並称;寛政-文化1789-1810頃大坂江戸で活躍、
 1800江戸に下向し初世桜田治助・勝俵蔵・村岡幸次らと執筆・活躍、浄瑠璃作品もある、
 先行作品の手直しも多く[洗濯物の七五三助]と綽名、大阪で没、篤助・十八助・九二助の師、
 1784「稲光田毎月」89「大振袖湖けわのみずうみ」93「平井権八吉原衢」1803「大和錦吉野内裡」、
 1805「全盛女虎石ぜんせいとらがいし」08「復讐かたきうち高音鼓」12「敵討義恋柵」、外著作多数、
 [奈河七五三助(初世;号)の幼名/通称/別号]幼名;新次郎、通称;金次郎、俳号;洗口、
 法号;観岳院
 F2188 七五三助(2世しめすけ・奈河ながわ) ?-? 江後期大阪の歌舞伎作者;初世奈河七五三助門、
 1804頃奈河十八助名で大阪の浜芝居・堀江市の側芝居など中芝居の立作者、
 1816京で2世七五三助を襲名、1818初世竹葉と改号、晩年は初世奈河篤助(金亀堂)と合作、
 1804「丑歳金蔵入」08「撰集善光寺」09「新板陸竹節」23「中当金蔵人」27「摘討高砂松」著、
 [奈河七五三助(2世;号)の別号]奈河宗二/奈河宗治/奈河十八助/奈河竹葉
 F2189 七五三助(3世しめすけ・奈河ながわ) ?-? 江後期大阪の歌舞伎作者;二世奈河七五三助門、
 大阪の宮地芝居出身/文政1818-30頃中芝居・小芝居の作者、1834三世七五三助を襲名、
 1826「いろは文字読切講釈」著、27「摘討高砂松」(2世と合作)、

[奈河七五三助(3世)の別号]奈河一点/近松市郎兵衛/柳やなぎ市郎兵衛/柳一良瓶いちろべえ

F2190 **七五三助**(4世しめすけ・奈河ながわ)?-1880

大阪の歌舞伎作者;三世奈河七五三助門、

1841嶺琴八十助を名乗;弘化嘉永1844-54頃清水賞七と並称;上方二大作者、

1867四世七五三助を襲名、1871嶺琴八十翁と改号、1853「四十七士銘々伝」著、

1858「道行思ひの吹雪」60「東都錦土産」64「けいせい児雷也譚語」65「けいせい曾我譚」外多、

[奈河七五三助(4世)の別号]嶺琴八十助/近松八十翁

- | | | |
|-----------------------|-------------------------------|-----------|
| 七五三蔵(しめぞう・星野)→ | 恒(ひさし・星野ほしの、儒者/史家) | K 3 7 9 4 |
| 注連手(しめて・板津)→ | 吉金(よしかね・板津いたづ、藩陪臣/歌) | L 4 7 5 4 |
| 注連丞(しめのじょう・関藤)→ | 政信(まさのぶ・関藤せきと、神職/医者) | F 4 0 7 3 |
| トの門(しめのと・ト田)→ | 清明(きよあき・ト田しめだ、国学者) | U 1 6 4 9 |
| 七五三屋(しめや)→ | 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) | I 2 8 3 8 |
| 此面(しめん・中西)→ | 伯圭(はくけい・中西なかにし、神職/書) | C 3 6 9 7 |
| 此面(しめん・関)→ | 重巖(しげたか・関せき、藩家老/地歴) | R 2 1 2 0 |
| 此面(しめん・野々村)→ | 良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者) | O 4 7 4 5 |
| 此面(しめん・本多)→ | 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) | G 2 9 3 4 |
| 此面(しめん・薬師神)→ | 守清(もりきよ・薬師神やくしじん、神職/国学) | L 4 4 7 6 |
| 子冕(しめん・田辺)→ | 明庵(めいあん・田辺たなべ、儒者) | 4 3 0 5 |
| 師茂(しも・中原)→ | 師茂(もろしげ・中原、明経博士/故実) | H 4 4 2 7 |
| 資茂(しも・源)→ | 資茂(すけしげ・すけもち・源、神祇伯/歌人) | C 2 3 2 2 |
| 資茂(しも・日野)→ | 資茂(すけしげ・日野ひの、藤原、廷臣/歌) | C 2 3 2 3 |
| 資模(しも・平岡)→ | 資模(すけのり・平岡、幕臣) | G 2 3 9 3 |
| 士猛(しもう・長川)→ | 華山(かざん・長川ながかわ、儒者) | H 1 5 4 6 |
| 士猛(しもう・今村)→ | 蓮坡(れんぱ・今村いまむら、藩士/詩人) | B 5 1 3 1 |
| 子孟(しもう・松平)→ | 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) | J 4 7 6 5 |
| 子孟(しもう・小侯)→ | 螻庵(かくな・小侯こまた/おまた、商人/篆刻) | J 1 5 4 3 |
| 子猛(しもう・本城)→ | 紫巖(しがん・本城ほんじょう、藩儒) | P 2 1 8 9 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・松岡)→ | 雄淵(おぶち・松岡、神道) | B 1 4 9 1 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・伊達)→ | 村望(むらもち・伊達/三沢、領主/詩文) | D 4 2 2 2 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・宇津木)→ | 昆岳(こんがく・宇津木、藩士/儒者) | G 1 9 5 7 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・宇津木)→ | 泰交(やすとも・宇津木うつき、昆岳男/家老/歌) | F 4 5 3 6 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・島津)→ | 久徴(ひさなが・島津しまう、藩家老/日記) | B 3 7 7 1 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・村山)→ | 松根(まつね・村山/樺山、藩士/歌) | J 4 0 8 4 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・清家)→ | 堅庭(かたにわ・清家せいけ、医者/歌人) | U 1 5 2 3 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・清家)→ | 貞一(さだかず・清家、堅庭男/神職/歌) | O 2 0 7 6 |
| 下総(しもうさ/しもおさ・水沢)→ | 宅旧(いえふる・水沢みずさわ、神職/国学) | K 1 1 6 9 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・安井)→ | 敬忠(たかただ・安井やすい、神職/国学) | M 2 6 1 9 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・藤井)→ | 高雅(たかまさ・藤井ふじい、神職/歌人) | D 2 6 7 4 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・鈴木)→ | 重行(しげゆき・鈴木すずき、神職/歌人) | T 2 1 0 2 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・長尾)→ | 宗証(そうしやう;法名、武家/連歌) | C 2 5 0 7 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・白石)→ | 千別(ちわき・白石/小野、幕臣/歌) | K 2 8 5 3 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・諏訪)→ | 頼蔭(よしかげ・諏訪すわ、旗本/奉行) | N 4 7 4 0 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・田村)→ | 誠顕(のぶあき・田村たむら、藩主/歌) | I 3 5 8 9 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・町口)→ | 是保(これやす・町口まちぐち/坂上/別所、廷臣/明法博士) | R 1 9 3 1 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・関)→ | 守一(もりかず・関せき、神職/国学者) | F 4 4 3 0 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・関)→ | 行篤(ゆきひろ・関せき、幕臣/奉行/歌) | G 4 6 7 0 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・矢部)→ | 定令(さだのり・矢部やべ/原田、幕臣/奉行/歌) | P 2 0 6 3 |
| 下総守(しもうさのかみ/しもおさ・大西)→ | 親典(ちかのり・大西おおにし/秦、神職/国学) | M 2 8 2 5 |
| 下総正(しもうさのしょう・岡原)→ | 常島(つねしま・岡原おかはら、神職/国学) | F 2 9 4 6 |
| 下河原殿(しもうわらのどの/下川原門跡)→ | 道永親王(どうえいしんのう、真言僧/歌/連歌) | B 3 1 3 7 |
| 下河原宮(しもうわらのみや)→ | 道朝親王(どうちやうしんのう、真言僧/歌) | G 3 1 4 8 |

子黙(しもく・荘田) → 琳庵(りんあん・荘田しょうだ、藩儒) J 4 9 9 6
 子黙(しもく・井上) → 桐庵(とうあん・井上、医者/本草学) 3 1 7 8
 子黙(しもく・松崎) → 観海(かんかい・松崎まつさき、藩士/儒者) 1 5 4 6
 子黙(しもく・青山) → 拱斎(きょうさい・青山あおやま、儒者/幕臣) N 1 6 8 3
 下田翁(しもだおう) → 下田翁(かであう・蘆沢あしざわ武卿、藩士) O 1 5 1 2
 下田処子(しもだしよし) → 一鼎(いってい・石田いしだ、儒者/詩文) H 1 1 6 4
 下田屋(しもだや) → 宗柳(そうりゅう;号、葦竹斎/連歌作者) D 2 5 1 3

F2192 下野(しもつけ・下野守源正澄女?)?-? 平安中期歌人、源中正なかただと贈答:後撰786、
 [道知らで止やみやはしなぬ相坂あふさかの関のあなたは海といふなり](後撰;恋786)、
 (男への返歌;逢う道を知らぬままで終わるでしょうよ/海と憂みを掛る)
 男の贈歌 → 中正(中忠なかただ・源、廷臣/後撰;785) E 3 2 1 1

F2193 下野(しもつけ・四条宮じょうのみやの、下野守源政隆女?)?-? 平安期、四条宮寛子[後冷泉天皇皇后]女房、
 1050寛子入内時に出仕か?;後宮で中心的役割/1068寛子落飾後に出家、
 1051-57六条斎院祓子内親王家歌合4回参加、1056「皇后宮寛子春秋歌合」参加、
 1066「皇后宮寛子歌合」参加、家集「四条宮下野集」(出家後に自撰?)、和歌六人党と交流、
 瑠璃女御(小一条院寵愛の妾で信宗の母)は姉か?(下野本人説もある)、
 勅撰6首;後拾遺(943)金葉(69)玉葉(1992)風雅(750/1055)新統古今(912)、続詞花集入、
 [さらでだに岩間の水はもるものを氷とけなば名こそ流れめ](後拾遺;雑943)、
 (親密でもない男との名が立始めた頃男から打ち解けて欲しい旨よこした文への返事)、
 [後冷泉院御時()雪降れるあした皇后宮(四条宮寛子)の御方に渡らせ給ひけるに、
 すすきに雪ふりかかれるををかしがらせ給ひて御ともなる殿上人して折らせて、
 下野にとらせよと仰せられければ取りて、
 雪ふればさかぬえだなくみゆれどもをりからまさる花薄かな](続詞花;冬315)、
 [四条宮下野(;女房名)の別名] 四条太皇太后宮下野

F2194 下野(しもつけ・後鳥羽院、初名;信濃、祝部允仲まさなか女?)?-?1253頃存 母;源光基女、後鳥羽院女房、
 源家長の室、成茂の姉妹、歌;1204-51頃各種の歌合参加、1204春日社歌合/北野宮歌合参加、
 1229為家家百首/遠島歌合/32石清水若宮歌合/47院御歌合/48宝治百首/51影供歌合参加、
 勅撰30首;新古(563/1098)新勅(1007/1035)続後撰(6首333/362以下)続古(6首921以下)、
 続拾(942)新後撰(95)玉葉(48/1552/2164)続千(2045)続後拾(879)風雅以下、
 御裳濯集・雲葉集2首入、
 [しづれつゝ袖もほしあへず足引きの山の木この葉に嵐吹くころ](新古;冬563/信濃名)

下野(しもつけ・曾禰/柳) → 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
 下野(しもつけ・毛利) → 広漢(ひろくに・毛利もうり、藩士/儒家) F 3 7 7 9
 下野庵宮住(しもつけあみみやずみ・狂歌) → 久左衛門(きゅうざえもん・上野、郷土史) M 1 6 6 3
 下野阿闍梨(しもつけのあじやり) → 永巖(ようごん:法諱、真言僧) 4 7 8 7
 下野阿闍梨(しもつけのあじやり) → 日忍(にちにん;法諱、日蓮僧) D 3 3 0 6
 下野阿闍梨(しもつけのあじやり) → 覚印(かくいん・自証房、真言僧) J 1 5 4 5
 下野守(しもつけのかみ・金沢[蟹沢]) → 源意(げんい;法名、武将/連歌) B 1 8 2 4
 下野守(しもつけのかみ・島津) → 久元(ひさもと・島津しまづ/新納、武将/家老) J 3 7 8 2
 下野守(しもつけのかみ・岡本) → 清足(きよたり・賀茂/岡本、神職) P 1 6 8 8
 下野守(しもつけのかみ・岡本) → 経賢(つねかた・岡本おかもと/賀茂、神職) F 2 9 4 8
 下野守(しもつけのかみ・岡本) → 経威(つねたけ・岡本/賀茂、経賢男/神職) F 2 9 4 9
 下野僧都(しもつけのそうず) → 祐朝(ゆうちょう;法諱、伊賀流天台学僧) D 4 6 4 3
 下野入道(しもつけのにゅうどう) → 持春(もちはる・細川/源、武将/歌人) B 4 4 5 6
 下野法印(しもつけのほういん) → 永巖(ようごん:法諱、真言僧) 4 7 8 7
 下野房(しもつけぼう) → 日秀(にっしゅう;法諱、日蓮僧) D 3 3 9 6
 下間少進(しもつまのしょうしん) → 仲孝(なかたか・下間しもつま、真宗僧/能役者) D 3 2 9 9

N2123 若木(しもと・沢井さわい、初名;正畝)?-1864 江後期;代々美濃墨俣宿本陣職を勤める、
 国学・歌人;富樫広蔭(1793-1873)門、歌;1861松平春嶽「古今百人一首」入、正瑞まさしの父、
 [玉川や幾度いくたび水をむすびても手には影なき山吹の花](古今百人一首;56)、

- [若木(；名)の通称/号]通称；九一郎/彦四郎(；代々の称)、号；佳功
- F2195 **霜解**(しもとけ・初世千種庵ちぐさあん、姓；山中/名；清足きよたり/恒海つねみ)1761-1811⁵¹ 常陸の人、江戸浅草で書肆経営、諏訪町に移転、狂歌師：頭光門/浅草市人と壺側を結成；判者(1789伯楽連)、1788「狂歌花鳥集」90「夷曲花鳥集」1802「狂歌幕之内」04「狂歌三十六題集」、1806「狂歌続後万載集」編、「狂歌新手集」編、2世千種庵諸持[紫文斎]の師、[千種庵霜解(；号)の通称/別号]通称；要助、別号；霜解道和留しもとけのみちわる/霜翁/梅霜解霜解道和留(しもとけのみちわる)→霜解(しもとけ・初世千種庵ちぐさあん、書師/狂歌) F 2 1 9 5
下総(しもふさ) → 下総(しもうさ)
紫門(しもん・水野) → 政礼(まさり・村井/水野、廷臣/勤王家) G 4 0 3 2
- F2196 **自問**(じもん・高木たかぎ) ? - ? 大阪の俳人、1691「難波曲」編：万海の協力、1691賀子「蓮実」4句入、[巻ながら粽ちまきくふべきおとこかな](蓮実；239/粽をむかないままで食うような男)宗先と同一か？ → 宗先(そうせん・高木、俳人) C 2 5 3 7
- F2197 **自門**(じもん・大橋おはし) ? - ? 心学者、1792「石田先生女教訓」著；([石田先生語録]答問中の第227項[姑ト嫁ト妾トノ所主]を抄出し自費出版した書)、猪飼敬所(1761-1845)の師
時門(じもん・平松) → 時門(ときかど・平松/平、廷臣/鳴虫飼育) J 3 1 0 6
慈門(じもん；号) → 観国(かんこく；法諱、天台僧) Q 1 5 4 6
地紋(じもん/ぢもん・綾織) → 綾織地紋(あやおりのぢもん、狂歌) G 1 0 3 2
慈門院(じもんいん) → 日祥(にっしょう；法諱・円瑞、日蓮僧) E 3 3 3 1
賜門亭(じもんてい) → 栢山(はくざん・多湖たこ、儒者) D 3 6 0 9
- V2183 **慈門尼**(じもんに・彦根藩士武居正景女)1700-75⁷⁶ 近江彦根の生/幼時父母を失い祖母により養育、1717近江里根村広慈庵主黄檗僧一枝禅師門；出家/多賀の向山に庵住/広慈庵で師の看病、幼少より詠歌；沢村琴所・竜草廬に添削受、海量法師(里根村に移住)より和漢典籍を修学、没後師により歌集編纂；1780「松風集」海量編
- F2198 **之也**(しや・佐久間さくま) ? - ? 尾張の俳人、1664友次「阿波手集」入
子野(しや・阿部) → 岳陽(がくよう・阿部あべ、医者/漢学) K 1 5 5 6
子弥(しや・加倉井) → 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2
士弥(しや・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山/原、兵学/国学) C 3 0 7 9
灑(しや・峰岸/桑原) → 北林(ほくりん・桑原/峰岸、儒者) E 3 9 0 9
- F2199 **謝庵**(樹庵しやあん・丹羽にわ/修姓；藤、名；嘉言よとき)1742-86⁴⁵ 尾張名古屋伏見町の家和屋の生、尾張藩士竹中家に奉公/儒者；小出慎斎・石川香山門、1764頃京の曾我部容所の容塾入、画業専念、1776隠退後；名古屋に樹庵を結ぶ、雲臥禅師門、文人画；多くの富士山図制作、「神洲奇観図」「福善斎画譜」画、「胆吹遊草」「湖東游草」「生老病集」「詠花訓」著、「翻訳名義抄本」著/1783「謝庵叢抄」84「晴句日録」編、「謝菴遺稿」、真澄胤の師、[謝庵(；号)の字/通称/別号]字；彰甫/章甫、通称；新治/新次郎、別号；天放/福善斎/聚珍堂/名士閣/樹庵、法号；秋林章甫嘉言
者庵(しやあん) → 九峰(きゅうほう；道号・主拙；法諱、臨濟僧) M 1 6 9 1
柘庵(しやあん；号) → 尊通(そんつう；法諱、天台園城寺学僧) E 2 5 9 9
- G2100 **舎員**(しやいん・百可斎) ? - ? 京の俳人、1777蕪村「夜半楽」2句入(22/63)、[梅咲くや陶すゑものつくる老が業わざ](夜半楽；63/陶器造り一筋の生涯)
謝寅(しやいん) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
斜雲舎(しやうんしや) → 昨囊(さくのう・岸名、材木業/俳人) B 2 0 4 6
- G2102 **斜影**(しやえい・窪田くぼた、猿雖えんすい男)?-? 俳人・蕉門、射江の兄、舎栄(しやえい・泉/土屋) → 舎栄(いえよし・泉いづみ/土屋/荒木田、神職) J 1 1 9 1
- V2184 **社燕**(斜燕しやえん) ? - ? 京の俳人；島原社中、1780-1[初懐紙]に斜燕、1784-6[初懐紙]に社燕、1783維駒「五車反古ごしやほうぐ」1句入(；社燕名)、[こがらしや後うしろの山も遠からず](五車反古；巻尾434/山麓の木枯しの音の凄まじさ)社園(しやえん・山根) → 清平(きよひら・山根やまね、神職/国学) V 1 6 5 7

- 沙園(しゃえん・山田) → 重秋(しげあき・山田やまだ、漢学/大肝煎) a 2 1 0 2
捨翁(しゃおう・蓮沼) → 景祥(かげよし・蓮沼はすぬま、藩士/学問興隆) L 1 5 4 7
車翁(しゃおう・佃) → 久徴(ひさもと・佃つくだ/源/黒田、歌人) K 3 7 1 9
舎雅(しゃが・鈴木) → 小市(こいち・鈴木すずき、武芸家;砲・弓) H 1 9 0 8
V2185 捨芥(しゃがい) ? - ? 俳人;1718波天「万石船」評入
捨介(しゃかい・末吉) → 捨介(すてすけ・末吉すえよし、儒者/教育者) D 2 3 8 2
G2103 車蓋(しゃがい、屋号;よろづ屋) ?-1795 京の俳人・關更門、類題発句集編纂など編著多い、
1787「半化坊発句集」88「桃の白実」/89「優傑集」「誰か恋」90「蕉門格外辨」92「こそことし」編、
1793「椎の陰」/94「類題発句集」「発句三傑集」「発句題林集」編、94「季寄袖の玉」著、外多数、
[車蓋(;号)の別号] 亭々坊/木蔭庵
釈迦院僧正(しゃかいんのそうじょう) → 隆勝(りゅうしょう;法諱、真言僧/歌) E 4 9 6 6
釈迦院大僧正(しゃかいんのだいそうじょう) → 有雅(ゆうが;法諱、真言僧) 4 6 9 1
釈迦院法印(しゃかいんのほういん) → 隆海(りゅうかい;法諱、真言僧) D 4 9 1 4
杜格(しゃかく) → 桃翁(とうおう・瀬尾せのお、俳人) B 3 1 6 1
這季(しゃき・中島) → 這季(これすえ・中島、和算家) O 1 9 4 0
舎暉(しゃき・本多/泉いづみ) → 舎暉(いえてる・泉/荒木田、神職/詩歌) E 1 1 8 7
V2186 車蟻(しゃぎ) ? - ? 伏見の俳人;1776几董「続明烏」2句入(;60/263)、
[春深し松の花散る城の堀](続明烏;甲60/松の花粉の飛び散る光景)
捨魚(しゃぎょ・守川) → 捨魚(すてな・至清堂せいどう、狂歌作者) D 2 3 8 3
四野狂夫(しやきょうじん) → 朱拙(しゆせつ・坂本さかもと、医者/俳人) 2 1 5 3
舎興(しゃきょう・多ヶ谷) → 舎興(いえおき・多ヶ谷たがや、藩士/国学) K 1 1 3 8
G2104 斜橋道人(しゃきょうどうじん) ? - ? 江戸の読本作者、1803「怪婦録」著
砂旭(しゃぎよく) → 砂旭(さぎよく、俳人) H 2 0 1 9
H2179 蛇玉(じゃぎよく・葛かつ、名;季原/字;子明) 1735-86 大阪の絵師;橘守国・海眼かいげん浄光門、
宋の古画研究、鯉の画を得意とする、「鯉魚図」/「雪中松に兎・梅に烏図屏風」(六曲一双)
舎魚堂(しゃぎょどう) → 波山(はざん・芳川、儒者/詩人) E 3 6 3 2
沙金入道(しゃきんにゅうどう) → 永幸(ながゆき・村上、馬術家) G 3 2 2 5
子約(しやく・佐沢) → 広胖(こうはん・佐沢さざわ、藩士/儒者) L 1 9 0 0
子約(しやく・中山) → 葺菘(せいが・中山なかやま、医・藩儒者) 2 4 8 5
子躍(しやく・波多野) → 為興(ためおき・波多野はたの、神職/国学) Y 2 6 9 6
士約(しやく・木村) → 重周(しげちか・木村きむら、藩士/蘭学者) R 2 1 4 4
綽(しやく・松田) → 棗園(ていえん・松田まつだ、藩儒) 3 0 3 5
綽(しやく・吉田/岸) → 汝裕(じゅう・岸きし/吉田、幕臣/詩文) M 2 2 8 6
綽(しやく・品川) → 藤兵衛(とうべえ・品川、通事/砲術/医) H 3 1 0 9
綽(しやく・榊) → 令輔(れいすけ・榊さかき、幕臣/洋学者) 5 1 4 4
錫(しやく・西坂) → 成庵(せいあん・西坂にしざか、藩儒/詩文) 2 4 5 6
爵(しやく・天沼/伊藤) → 恒庵(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、儒/書) E 1 9 8 5
a2162 釈阿(しゃくあ;法諱、) ? - ? 南北期;時宗僧、
1387(至徳4)浄阿奉納[隱岐高田明神百首和歌]3首出詠、
[ふるさとは住む我よりも梅が香にまつ袖ふれて人やはまし](高田明神;8/故郷梅)、
[吹き下ろす音は高田の山風に里も夜さむの衣うつなり](同;48/擣寒衣)
釈阿(しゃくあ) → 俊成(としなり・藤原、歌学/歌人) 3 1 4 7
V2187 寂阿(じゃくあ;法諱、俗名;藤原友季、武蔵守藤原季政男) ?-? 鎌倉初期;従四下伊勢守、
母;高松院(二条天皇中宮)の侍従内侍、出家;寂阿名、伊勢林崎で玄忠と連歌;菟玖波集入、
[はやしきき舞まはてはいかゝ帰るへき](菟玖波;雑体連歌/伊勢林崎にて/林と囃子)、
(玄忠法師の付句;つゝみのたけをうちならしつゝ)
参照 → 玄忠(げんちゅう、法師/連歌) L 1 8 1 7
寂阿(じゃくあ;法名) → 忠守((ただもり・丹波、廷臣/医/歌人) F 2 6 9 4
寂阿一叟(じゃくあいつそう・並木) → 一叟(いつそう・飛鳥園2世、俳人) B 1 1 5 6

- 借庵(しゃくあん:号) → 慧鳳(えほう:法諱・翱之・臨濟僧) 1 3 8 4
尺鴫(しゃくあん) → 三千風(みちかぜ・大淀、三井、商家/俳人) 4 1 0 3
- V2188 寂庵(しゃくあん:道号・玄定げんじょう:法諱) 1746-1812 67 臨濟僧; 諸方遍歴/美濃慈恩寺の竜山門; 法嗣、
1789慈恩寺住持; 20年間在住、曬脊軒さいせきげんに退隠、「寂庵玄定禪師語録」著
- G2105 雀庵(しゃくあん・加藤かとう/初姓; 田中/加田、名; 昶きよし) 1796-1875 80 江戸俳人/狂歌・隨筆作者/博識、
祖父田中弥四郎が千住の名主から分家し通新町住、雀庵は妻八十子の姓; 加藤を称す、
雑学者; 古瓦・古器物の収集家、伊勢桑名侯より五人扶持を給される、1832「深川考」、
1841「つかさね」45「雨の花」60「庵静録」66「陰陽神石叟同附言」70「さへづり草」著、
「漫醉集」「綿蛮草」「言の莠」「小々葉ふね」「さりつの雫」「高尾考」「多津美の記」外著多数、
[雀庵(;)号]の通称/別号]通称; 弥四郎/弥十郎、狂名; 藤の長房/今津里人/立川菊馬、
別号; 庵静妥什山人/墨水翁/升金/堤隣翁/千声、俳号; 篠の屋/篠廼舎ささのや/篠廼舎翁/白鷗、
法号; 篠屋雀庵日永居士
- 寂庵(しゃくあん・椿) → 仲輔(なかすけ・椿つばき、国学/歌) D 3 2 8 7
寂庵(しゃくあん・小栗) → 永言(ながこと・小栗おぐり、国学/歌人) K 3 2 2 8
雀庵(しゃくあん・鎌垣) → 春岡(はるおか・鎌垣かまがき/大伴/児玉、国学/歌) J 3 6 9 5
寂庵(しゃくあん;号) → 慶応(きょうおう;法諱・西野にし、真宗僧) U 1 6 9 5
鵠庵(しゃくあん・玉田) → 歩牛(ほぎゅう・玉田/渡辺、俳人) C 3 9 8 2
借庵先生(しゃくあんせんせい) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
- V2189 寂意(しゃくい:法諱、齋藤/本姓; 藤原、俗名; 基種/基具、基成男) ?-? 母; 兼清女、鎌倉期廷臣;
大学助/1263頃出家、尊真の兄弟、基行[行生ぎょうしょう]の父、
歌; 1261-5後藤基政編「東撰和歌六帖」入/1263住吉社歌合参加、
[あまの住むとは里小野のしるべをぞ桜に頼むうらの通ひ路](住吉歌合; 野花六番右12)
- G2106 寂意(しゃくい:法諱、通称; 門真玄蕃左衛門入道、俗姓; 伴・門真かどま) ?-? 1352存 鎌倉南北期武士、
出家、出家後: 建武新政府の雑訴決断所寄人、室町幕府引付衆/奉行人; 公家領・寺社領管掌、
連歌: 救済門、菟玖波集25句入、寂身[経清]の父、
[雲遠し声はそなたの郭公](菟玖波; 発句2092)
- 寂怡(しゃくい・宇夫方) → 広隆(ひろたか・宇夫方うぶかた、藩士/伝記) G 3 7 1 8
若一子(しゃくいっし・原) → 省庵(せいあん・原はら、医者) H 2 4 1 7
- H2164 寂印(しゃくいん:法諱) ? - ? 鎌倉期の僧/歌学者; 万葉者、
仙覚の「万葉集」校訂本を1311書写/のちに成俊(じょうしゅん)に伝承; 寂印・成俊本と称される
- 寂印(しゃくいん) → 有家(ありえ・藤原、歌人) 1 0 3 0
寂因(しゃくいん;法名) → 光行(みつゆき・源みなもと、武将/学者/歌) 4 1 3 2
寂雲(しゃくうん;法諱) → 潤宗(じゅんしゅう;道号・寂雲、曹洞僧) K 2 1 9 6
- G2107 寂恵(しゃくえ:法諱、号; 順教房、俗名; 安倍範元) ?-?1314存 大監物安倍宣賢の孫、鎌倉幕府陰陽師、
宗尊親王の和歌近習、1265頃出家; 松陰の別所に住/歌人; 藤原為家・為氏門;
「続拾遺集」撰進に助力、「古今集」「拾遺集」を書写、「滝山集」撰(散佚)、「寂恵法師文」、
「寂恵法師歌語」「詠十首和歌」著、勅撰9首; 新後撰(1327)玉(2283/2475)続千(3首)風以下
[吹きたつる木この葉の下も木の葉にて風だにわけぬ谷の通路かよひち](新後撰; 雑1327)
- 寂慧(しゃくえ;法名) → 資隆(すけたか・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 3 2 9
寂慧(しゃくえ;法名) → 照意(しょうい;法諱、本願寺派僧) G 2 2 7 2
寂恵(しゃくえ) → 隆房(たかふさ・藤原、大納言/歌) D 2 6 6 6
寂恵(しゃくえ;法名) → 良暁(りょうぎょう;法諱、浄土; 白旗流祖) H 4 9 0 7
寂栄(しゃくえい;法名) → 光継(みつぐ・竹屋たけや/藤原、廷臣) D 4 1 8 6
若瀛(しゃくえい→しゃくえい;字) → 玄智(げんち;法諱、真宗僧大谷派僧) L 1 8 1 1
若英(しゃくえい→しゃくえい;法諱) → 超然(ちょうねん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 8 6 3
积円(しゃくえん:道号) → 栄朝(えいちょう;法諱・积円、臨濟僧) F 1 3 6 8
积円(しゃくえん;号) → 鳳溪(ほうけい;法諱、真宗僧) F 3 9 0 1
- G2108 寂縁(しゃくえん;法諱、俗名; 橘たちばな長政、橘以房男) ?-? 1251存 鎌倉期廷臣; 能登守/出家; 法師、
歌人; 藤原定家家に出入り、1231日吉社撰歌合参加、1251影供歌合参加、

新勅撰集の入集歌数をめぐり憤って削除を求め定家と不和、東国へ下向か?、
勅撰6首;続後撰(5首431/664/957/986/1311)・新続古(1138)、

[世とともにもえてとしふる伊吹山秋は草木の色に出でつつ](続後撰集;秋431)

2103 寂円(じゃくえん;道号、智深ちしん;法諱/禪師)1207-9993歳 鎌倉期1228道元を慕って南宋より渡来;
曹洞宗祖道元に随侍、1253道元没;61越前の石上に坐禅18年間、
伊自良氏(本姓藤原)の援助で大野に宝慶寺開山

V2190 寂淵(じゃくえん;法諱) ? - ? 江中期明和1764-72頃美濃真宗大谷派常法寺住職、
没後に擬講を贈与、1769「易行品要津録」著、「十二礼偈心浄」編

寂延(じゃくえん、荒木田) → 長延(ながのぶ・荒木田、神職/歌人) F 3 2 1 4

寂円(じゃくえん) → 最円(さいえん;法諱、天台学僧) G 2 0 5 2

栴園(じゃくえん・松本) → 秀業(ひでなり・松本まつもと、神職/歌人) D 3 7 5 3

寂遠院(じゃくえんいん/じゃくおんいん) → 日通(にっつう;法諱・玄海、日蓮僧) F 3 3 2 6

淖翁(しゃくおう・安藤) → 淖翁(どうおう・安藤あんどう、医者/教育) U 3 1 0 4

G2109 若翁(じゃくおう・堀ほり、名;徳輝)1734-181380 肥前大村藩士/故あって致仕、詩文;服部南郭門、
芭蕉の俳諧に傾倒、1784伊予今治藩主松平定休の知遇を得て尾張・大阪・伊賀上野に遊歴、
1792芭蕉百回忌追善;尾道長月庵で催/1802-10伊賀上野に欣々亭/芭蕉故郷塚再興、
1790「曇華囊」93「其蔓集」/1804「春題発句左右合」/1809「万春楽」「このはな」編、柏原に没、
[若翁(;号)の通称/別号]通称;孫左衛門、別号;桃国/菊如/不知火人/長月庵/白雲廬

V2191 寂翁(じゃくおう・石塚/石東いしか、名;嘉辰、施薬院宗隆2男)1767-? 江後期京室町下立売南に住、
閑院宮諸大夫/伊勢守、致仕/歌人;日野資枝かけ(1737-1801)・梶井一室門、
1808「虚字之詠格」10「誦虚字詠格」、「和歌の大意」/「和歌問答」(;日野資枝の答)著
[しのびねはひとしづめてと更る夜に鳴くや枕の山ほととぎす](短冊;深夜郭公)、
[寂翁(;号)の別号]号;幻交庵げんこうあん

鵠翁(じゃくおう) → 一方(いっぽう・北川、俳人) H 1 1 8 9

寂翁(じゃくおう・吉永) → 升庵(しょうあん・吉永/菊池、外科医) G 2 2 5 8

釈王寺入寺(しゃくおうじにゅうじ) → 恵什(えいじゅう;法諱、真言僧) D 1 3 9 5

寂遠院(じゃくおんいん) → 日通(にっつう;法諱・玄海、日蓮僧) F 3 3 2 6

G2110 若海(じゃくかい・三浦みうら) ? - ? 江戸期俳人、「故人俳書目録」著

寂覚(じゃくかく) → 頼通(よりみち・藤原、宇治関白太政大臣/歌) 4 7 3 9

尺蠖斎(しゃくかくさい) → 直隆(なおたか・栗田口あわたぐち、絵師) B 3 2 4 9

尺蠖子(しゃくかくし・村田) → 明哲(めいてつ・村田むらた、藩士/天文家) 4 3 2 8

V2193 寂岸(じゃくがん;道号・心覺[心光]しんこう;法諱)?-? 1364存 越中臨濟僧;慈雲妙意の法孫、
1364「清泉妙意禪師行録」著

寂巖院(じゃくがんいん) → 康高(やすたか・三宅みやけ、藩主/茶人) G 4 5 8 1

寂基(じゃくき;法名) → 基頼(もとより・後藤/藤原、幕臣/歌人) E 4 4 8 3

若虚(じゃくきよ;号) → 明応(みょうおう;法諱・空谷、臨濟僧/五山文学) G 4 1 1 9

若虚(じゃくきよ;字) → 青郊(せいこう・江村えむら、儒者) I 2 4 0 8

尺教(しゃくきょう・岩谷) → 円松(えんしょう;法諱・岩谷いわや、僧/歌) T 1 3 9 0

石橋亭(しゃくきょうてい) → 英子(えいし・石橋亭、俳人) B 1 3 4 5

釈空(しゃくくう) → 為定(ためさだ・二条) 2 6 5 9

綽空(しゃくくう・日野) → 親鸞(しんらん;法諱、浄土真宗祖) 2 2 3 0

綽空(しゃくくう) → 公秀(きんひで・三条/正親町三条、歌) E 1 6 5 8

寂空(じゃくくう;法名) → 惟成(これしげ・これなり・藤原、廷臣/詩歌) 1 9 4 4

寂空(じゃくくう;法名) → 隆衡(たかひら・四条しじょう/藤原、権大納言/歌) D 2 6 6 2

爻局(じゃくけい→さくらど) → 美石(うまし・中山、国学/歌人) 1 2 8 6

竊溪(じゃくけい・柳) → 尚賢(ひさかた・柳/千野せんの、医者・和算) 3 7 9 4

雀軽子(じゃくけいし) → 資直(すけなお・富小路/藤原、歌人) C 2 3 5 9

寂蹟(じゃくけん) → 日初(にっしょ・寂蹟、黄檗僧/国史) E 3 3 1 5

寂賢(じゃくけん;法名) → 保季(やすすえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 4 5 7 0

- V2194 **寂源**(じゃくげん:法諱・一如;号、俗名;藤木宗直、藤木敦道男)1630-9667 父は上賀茂舎祠官・書博士、今出川晴末の猶子、社僧;1669筑後久留米高良大社50世座主、貞享1684-88頃に権僧正、詩歌に通ず/書;賀茂家の書法修得、能筆;本庄道芳門、1688上京;洛外の鷹ヶ峰に隠棲、1685「高良山十景詩歌」編、「寂源消息」「高尾山寺弘仁三年灌頂記」「高隆寺縁起」著、「厨氏系図」「大祝家旧記」著、甥生直なりなおの書の師、[寂源(;法諱)の通称] 虎蔵とらぞう/権七ごんしち
- a2122 **寂元**(じゃくげん:法諱/舜元?、法師)?-? 江前期;禅僧/歌人、1688浅井忠能[難波捨草]2首入;月次会参加、[磯ちかく松吹く風に音たてて白波高き住よしの浦](難波捨草;雑730)
- G2112 **寂玄**(じゃくげん:号、別号;秋之坊あきのぼう)?-1718 加賀鶴来の人/金沢藩士/剃髪;金沢蓮雅寺住僧、加賀蕉門俳人;北枝門、1690幻住庵訪、91北枝「卯辰集」15句入/97「藻の名残」跋、1700「草庵集」「柞原集」入、關更「俳諧世説」に逸話、[東君とくんまた身の恥は許し賜たびにけり](卯辰集;春4)(東君は春の神/昨年の私の恥を今年も許してくださり新春を迎えることができた)
- V2195 **寂玄**(じゃくげん:法諱) ? - ? 江中期伊勢一身田の真宗高田派慈光寺8世、「正統伝弁要」「正統伝私評弁要」「浄土宗相承記」著
- 寂元(じゃくげん;法名) → 実泰(さねやす・洞院/藤原、左大臣/歌) D 2 0 7 3
 寂玄(じゃくげん;法名) → 基藤(もとぶじ・園その、廷臣/権中納言) M 4 4 2 1
 寂巖(じゃくげん・吉永) → 升雲(しょううん・吉永/菊池、蘭方医) H 2 2 0 0
 酌源堂(しゃくげんどう) → 蘭軒(らんせん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3
- E2145 **寂公**(じゃくこう:法諱、のち宗千)?-? 江中期筑前の僧;曇英門、詩人;「詠野史」著、豊島豊洲[1737-1814]・谷斗南・山梨稲川と交流、天真寺の没;30余歳、山梨稲川(1771-1826)「思旧漫録」に記事入
- 寂光(じゃくこう、寂元) → 為盛(ためもり・八条/法性寺、廷臣/歌) H 2 6 5 8
 若皐(じゃくこう・古賀) → 素堂(そどう・古賀こが/劉、藩儒) K 2 5 2 3
 寂光院(じゃくこういん) → 日韓(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 1 3
 若恒子(じゃくこうし・田子) → 玄同(げんどう・田子たご、医者) L 1 8 9 1
 寂光大師(じゃくこうだいし) → 円澄(えんちよう;法諱、天台僧) B 1 3 2 3
 寂光普照禅師(じゃくこうふしょうぜんじ) → 寧山(ねいざん;道号・禅慧ぜんね;法諱、臨濟僧) 3 4 5 4
- G2114 **寂巖**(じゃくごん;法諱・諦乘;字、俗姓;富永)1702-7170 備中足守の真言僧;1710(9歳)普門院超染門、出家/1736京の曇寂門;醍醐法流の印璽を受/1760長谷寺常明より地藏院流を受、備中都羅島宝島寺に住/悉曇学に精通、1767倉敷王泉寺に退隱、「悉曇合論」「悉曇十八章表」「悉曇字記大観」「梵文心経私記」、1764「反切二字記」外著多数
- V2197 **鶴斎**(じゃくさい・磯野いその、通称;原泉、別号;鶴堂/汝行)1742-181776 甲斐山梨郡一町田中村の医者、壮年時に江戸・京で医を修学/故郷で開業、1776「甲斐徳本翁抄書」/97「十全香」著、1816「麻疹書」、「十九方」著、法号;普照院
- Z2175 **鶴斎**(じゃくさい・原田はらだ、)? - ? 越後蒲原郡国上の庄屋の生、等睡(1756-1808)の弟、中島村庄屋齋藤家から譲り受け住;大森子陽の狭川塾に修学;同門に良寛(7歳年上)、医業/詩・歌・俳諧を嗜む、良寛と交流、解良家から譲渡された茶室あり、正貞(医者/詩人)の父
- 寂西(じゃくさい) → 信実(のぶざね・藤原、歌人/絵巻) 3 5 0 6
 寂斎(じゃくさい) → 長盛(ちようせい、真言僧/俳人) J 2 8 1 6
 寂斎(じゃくさい・宮田) → 謙養(けんよう;法諱・宮田/役、修験/和学) N 1 8 9 8
 寂済(じゃくさい・六角) → 光益(光増みつます・土佐とき/藤原、絵師) E 4 1 9 1
 淖山(しゃくざん・有賀) → 満包(みつかね・有賀ありが、藩士/記録) D 4 1 2 4
 淖山(しゃくざん、板倉) → 勝尚(かつなお・板倉、詩文) N 1 5 6 2
 斫山樵夫(しゃくざんしやうふ) → 鞏革斎(きやうかくさい・三宅みやげ、儒者) G 1 6 6 3
 斫山樵人(しゃくざんしやうじん) → 鞏革斎(きやうかくさい・三宅みやげ、儒者) G 1 6 6 3
- G2115 **若芝**(じゃくし・河村かわむら)1638-170770歳 江戸初期の長崎で活動した絵師/工芸家、肥前佐嘉の龍造寺家出身?、出家し長崎で黄檗僧と交流;絵師;逸然門、長崎漢画に尽力、

奇矯な造形美の画風;若芝流の祖、工芸家;木庵門/鉄腐食象眼による金工技術を修得、
若芝鐔工の祖、門人;上野若元・河村若軌・山本若麟ら多数、1669「群山人星祭図」画、
1672「十八羅漢図」「芦葉達磨図」(隠元賛)/1675「布袋図」画、外画多数、
[若芝(;号)の字/別号]字;蘭溪、道号;道光(釈道光・意山和尚と称される)、

別号;煙霞比丘(師逸然の号を襲名)/風狂人/散逸道人/普馨、

G2116 寂芝(若芝じやくし・竹内たけうち、字;八郎右衛門)?-? 俳人;豊後日田の蕉門、
1696風国「初蟬」初見

G2117 雀志(じやくし・斎藤さいとう)1841-1908 68 俳人・梅年門、俳書の蒐集保存に尽力、
「嵐雪全集」編、蔵書は没後に東大図書館洒竹文庫入、
[蟬時雨比叡にも風のなき日哉]、
[雀志(;号)の通称/別号]通称;銀蔵、別号;老鶯巢5世、雪中庵9世(師の号を襲名)

雀子(じやくし・中村) → 清五郎(2世せいごろう・中村、歌舞伎役・作者) B 2 4 4 9

若思(じやくし・中根) → 東里(とうり・中根、儒者) I 3 1 0 5

寂紫(じやくし・吉永) → 升庵(しょうあん・吉永/菊池、外科医) G 2 2 5 8

寂而(じやくじ;法諱・定山) → 定山(じょうざん;道号・寂而、臨濟僧) J 2 2 3 4

G2118 釈氏定規(じやくしじょうぎ、法名;釈白道)?-1798 江戸京橋太刀売町(数寄屋橋)住の真宗本願寺派僧、
江戸築地西本願寺寺中子院の眞光寺の僧、狂歌作者;「狂歌駿河細工」著、
1787「狂歌才蔵集」4首入;

[棟多き板屋の谷の漏るだにも直すひまなき五月雨の比こり](才蔵集;三夏141)

G2119 寂室(じやくしつ;道号・元光げんこう;法諱、俗姓;藤原)1290-1367 78 美作高田臨濟僧;1302(13歳)出家、
東福寺入/鎌倉禅興寺の約応徳俊門;随従し1320入元/1326帰国、1334備後吉津永徳寺開山、
備前・美作などに隠棲/詩文;昭元門、能書、のち摂津福厳寺・近江往生寺住持、
1361近江守護六角氏頼の招請で永源寺開山、中国から蒟蒻料理を伝える、
1367「永源寂室和尚語録」、「永源集」、「緊要一訣」著、「寂室和尚遺誡」「円応禅師十件要須」、
[寂室元光の初法諱/諡号]初法諱;鉄船、諡号;円応禅師(没後;1395贈与)

V2198 寂室(じやくしつ;道号・堅光/空海;法諱、俗名;宮本方朔、式部少輔宮本包美男)1753-1830 78

母は深水氏、豊前宇佐郡敷田村の曹洞僧;1762(9歳)同国松尾寺の大堅全海門;出家、
長門功山寺の真梁門、周防笑山寺の海外亮天門;嗣法/尾張泉松寺の鉄文道樹門、
1804武蔵世田谷の豪徳寺17世、1814近江彦根の清涼寺17世、

1817藩主廟所宗徳寺を彦根に移し天寧寺に改名開山、歌人;[彦根歌人伝;鶴]入、

「寂室堅光和尚歌集」「寂室堅光禅師語要随筆」「寂室堅光禅師語録」「西湖紀行」外著多数

寂室(じやくしつ;剃髮号) → 正子(まさこ・矢部やべ、歌人/書) C 4 0 4 6

雀叱(じやくしつ・大岡) → 春ト(しゅんぼく・大岡/藤原/狩野、絵師) K 2 1 4 9

雀叱(じやくしつ・長谷川) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3

嚼々斎(じやくしやくさい) → 天外(てんがい・沖おき、儒者/勤王) D 3 0 2 4

綽々子(じやくしやくし) → 痴漸(ちぜん・春海はるみ、茶人/鑑定/商家) N 2 8 3 5

雀々堂(じやくじやくどう) → 一磨(いちまる・石橋、俳人) E 1 1 3 1

尺樹庵(じやくじゅあん) → 烏谷(うごく・西島、俳人) C 1 2 2 3

釈殊意痴(じやくしゆいち) → 主一(殊意痴しゆいち;法諱、浄土僧/随筆) W 2 1 5 0

G2120 鵲舟(じやくしゅう) ? - ? 俳人、1692和氣遠州「すがた哉」入

G2121 雀州(じやくしゅう・梁) ? - ? 滑稽本作者、

1763「評判龍美野子たつのみやこ」(:泉山坊と共著)

若州(じやくしゅう・近藤) → 謙山(兼山けんざん・近藤こんどう、医者) J 1 8 2 5

借宿闕主人(じやくしゆくけつしゅじん) → 振鷲亭(しんろてい・猪狩いかり、戯作者) 2 2 3 2

寂俊(じやくしゅん;法名) → 俊房(としふさ・源/藤原、左大臣/詩歌) 3 1 4 9

寂俊(じやくしゅん;法名) → 頼宗(よりむね・藤原、堀河右大臣/歌人) J 4 7 8 1

V2199 寂潤(じやくしゅん;法諱) ? - ? 江中期天台宗叡山双巖院住僧、

1789「請雨御修法記」「盛化門院七回忌御懺法記」/90「青綺門院御中陰記」著

寂潤(じやくしゅん;字) → 光国(こうこく;法諱・寂潤、真言僧) I 1 9 7 8

寂淳院(じやくしゅんいん) → 頼徳(よりのり・相良さがら、藩主/狂歌) J 4 7 4 6

- 2136 **寂昭**(寂照じやくしやう;法諱、俗名;大江定基、大江齊光男)962-1034 73 平安期廷臣;紀伝道修学、
藏人・図書頭/従五下;三河守、愛妾の死で無常を觀じ発心;988出家、
山城如意輪寺の寂心(慶慈保胤)門、天台学:源信門/真言;小野僧正仁海門、天台真言学僧、
1003入宋;四明知礼の知遇を得て詩人楊億と交流、杭州で没;蘇州僧録司/円通大師の号、
「生西指南要」「来唐日記」著、詩;本朝文粹入、歌:玄々集入、
勅撰4首;後拾遺498/(金葉Ⅲ344)/詞花181/新古今864/新続古1030、
[そのほどと契れる旅の別れだに逢ふことまれにありとこそ聞け](後拾遺;別498)、
(入宋の旅路で源心[源信?]に送る歌/そのほどは帰るときはいつと約束可能の旅)
[唐に渡るとて、
とどまらんとどまらじとも思ほえずいつくも終のすみかならねば](玄々集;47)、
[寂昭(;法諱)の通称/号]通称;三河(参河)入道/三河聖(参河聖)みかわのひり、号;円通大師
- G2123 **寂昌**(じやくしやう;法諱) ? - ? 南北期僧;法師/歌人、
1359成立「新千載集」入;1282、
[恋ひしなん身をば思はずおなじ世にあはぬためしの名こそ惜しけれ](新千載;恋1282)
- G2124 **寂証**(じやくしやう;法諱、善覚男)1321-? 1386存 伊予宇和の天台宗齒長寺(父善覚の創建)住職、
1333上京;法勝寺の難に助力す、1386「齒長寺縁起」編
- H2161 **若松**(じやくしやう) ? - ? 江戸赤坂の俳人;1690不角「二葉之松」入、
[今時の賢けんは隣の金持め](二葉之松;318/前句;詔ひなしに世をわたる也)
- W2100 **寂照**(じやくしやう;法諱) ? - 1810 越前片屋の真宗仏光寺派光照寺住職、1807本講師、
「無量寿経講義」「愚禿鈔義記講録」著
- 寂照(じやくしやう;法諱) → 大光(だいく;道号・寂照、曹洞僧) J 2 6 9 6
 寂照(じやくしやう;法号・信蓮社) → 知鑑(ちかん;法諱、浄土僧) C 2 8 3 1
 寂嘯(じやくしやう・高森) → 正因(まさよし・高森、医者/歌人) I 4 0 4 5
 若松(じやくしやう)すべて → 若松(わかまつ)
 寂驥(じやくしやう;法諱) → 神竜(しんりゅう;道号・寂驥、黄檗僧) Q 2 2 1 0
 雀笑庵(じやくしやうあん・号) → 梧堂(ごどう・雀笑庵、俳人) N 1 9 2 2
 寂照院(じやくしやういん) → 日乾(にちけん;法諱・孝順、日蓮僧) B 3 3 5 5
 若松軒(じやくしやうけん) → 慶養(けいよう・田辺、俳人) G 1 8 7 5
 雀松原舎(じやくしやうげんしゃ/すずめまつばらのや?) → 綾平(あやひら・松尾、里正/国学) F 1 0 1 4
 雀松舎(じやくしやうしゃ) → 復斎(ふくさい・山本、酒造/儒者/講説) B 3 8 5 1
 寂照主人(じやくしやうしゅじん) → 月俤(げつせん・月仙げつせん・玄瑞、浄土僧/絵師) B 1 8 1 1
 寂照湛然(じやくしやうたんねん) → 知足(ちそく・下里しもさと、醸酒業/俳人) E 2 8 6 1
- G2125 **寂身**(じやくしん;法諱、藤原能盛[能蓮のうれん]男)?1191頃-? 1251存 鎌倉期北面/右衛門尉、
20歳代で出家、歌人;度々百首歌を試る、1232石清水若宮歌合参加、藤原定家と交流、
晩年関東住、「寂身法師集」、「撰玉集」撰者(散佚)、東撰和歌六帖・新和歌集・雲葉集入集、
勅撰6首;新勅撰(1271)続後撰(1084)続古今(224/1846)新続古(893/1382)、
[下草もいかでか色のかはるらん染めぬときはの森のしづくに](新勅撰;雑1271)
- G2126 **寂真**(じやくしん;法諱、俗姓;門真/伴とも、名;経清、寂意男)?-? 南北期武家;1340室町幕府奉行人、
出家;法師、西国下向/歌;1315京極為兼催「詠法華経和歌」参加/1343-50頃二条家月次会衆、
頓阿と交流、1345刊[藤葉集]入、1387良基「近来風体抄」入、
勅撰8首;新千(926)新拾(808)新後拾(530/610/1003/1036)新続古(1188/1867)、菟2句入
[あらはれぬ衣のうらの玉がしはいかなる江にかしづみそめけん](新千載;釈教926)
[かきくらす涙をしらでわかれぢを猶よふかしたふはかなさ](藤葉;恋532)
[寂真(;法諱)の通称]門真弾正忠入道/門真霜台入道、
- 寂信(じやくしん) → 惟方(これかた・藤原、12ct後半歌人) E 1 9 1 4
 寂信(じやくしん;法諱、法師) → 国頭(くにがしら・津守つり、13ct後半歌人) 1 7 5 7
 寂真(じやくしん;法名) → 義懐(よしかか/よしかね・藤原、中納言/歌) E 4 7 4 5
 寂真(じやくしん;道号、如覚) → 高光(たかみつ・藤原、多武峯少将入道/歌人) 2 6 1 8
 寂真(じやくしん;法名) → 基頭(もとあき・園その・藤原、廷臣/歌人) B 4 4 9 3
 寂心(じやくしん;法名) → 保胤(やすたね・慶滋/慶/賀茂、廷臣/漢学/詩歌) 4 5 0 6

- 寂心(じゃくしん・蓮生れんしょう)→ 頼綱(よりつな・宇都宮) 4 7 3 3
- G2128 若人(じゃくじん・花調斎) ? - ? 江中期大阪の雑俳点者、
1736梅門らと笠付集「はいかいはつを花」評を出版、
- G2129 若人(じゃくじん・久保島くぼしま) 1763-1851⁸⁹ 信濃諏訪の人;高島藩士(70石2人扶持)、
俳人:井上士朗門、藤森素檠と諏訪俳壇の中心、「曾良日記」を伝える、1811「深川帖」編、
1834「花脛はななます」編/23「素檠そぼく句集」(;素檠の遺吟)編、43「昔蓑」著、
素檠追善「ひなはうご」共編、門人;岩波其残・高林白外・吉田正郁・千野良臣・牛山閑牧ら多、
[若人(;号)の通称/別号]通称;久左衛門/権平、別号;濤観
- 若人(じゃくじん・藤井) → 恒斎(こうさい・藤井ふじい、医者/詩文) I 1 9 9 1
 寂尋(じゃくじん;法名) → 孝範(たかのり・藤原、漢学/詩人) D 2 6 4 4
 尺伸堂(しゃくしんどう;号) → 善意(ぜんい;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 4 6 5
 尺水堂(しゃくすいどう) → 治邦(はるくに・竹野たけの、医/天文/詩人) G 3 6 3 1
- G2130 若水(じゃくすい・稻生いのう、修姓;稻、名;宣義、恒軒こうけん男) 1655-1715⁶¹ 山城淀藩江戸藩邸の生、
儒;父門/木下順庵門、本草;福山徳潤門、主家除封により流浪;京住、
1693金沢藩儒者として出仕、京金沢を往復;本草の著述、前田綱紀の命で「庶物類纂」編述、
1692「炮炙全書」94「金沢草木録」95「食物伝言纂」編、1709「詩経小識」14「本草図翼」、
「食物本草文集」「稻生若水涉獵志類」「郡県書州物産誌」「本草鑿識」「物産鑿識」外著多数、
[若水(;号)の字/通称/別号]字;彰信、通称;正助、別号;白雲道人
- P2105 若水(じゃくすい) ? - ? 京の俳人;淡々門、
1690言水「新撰都曲」4句入/90「破曉集」入/1728柳岡「万国燕」15句入
[涼しさや松を跡なる走り舟](新撰都曲;上58/松原をうしろにして走る舟)
- G2131 若水(じゃくすい・入江いりえ、名;兼通) 1671-1729⁵⁹ 撰津三島郡富田村の代々酒造業;富豪、
遊里に放蕩し破産、発憤し読書/詩:鳥山芝軒門、剃髪し詩囊を携え諸国遊歴、伊藤東涯門、
晩年は洛西嵯峨に結庵;僧徒と往来唱和、1721「通俗両国誌」、「杏村酔哦」「東行吟」、
「西山樵唱集」著、
[若水(;号)の字/別号]字;子徹、別号;櫟谷山人れきこくさんじん
- G2127 若水(じゃくすい・随朝ずいちょう/初姓;阿野、名;肇臣/陳、阿野一繩男) 1790-1850⁶¹ 京の和算家/漢学者、
算学;本願寺儒官大喜多泰山門、儒/経学;猪飼敬所門、1821常総で算学(逢原流)を教授;
門人300人、1841常州小野の逢善寺の学頭在任中に火災;著書焼失/香取郡高岡で没、
「韻鏡国字解」「韻鏡童問」「日食交度」「輿梁録」「論語小識」「孟子小識」「周易小識」、
「孝経小識」「学記表章」「画籌筌」「若水文集」/1832「算法英六冊」47「韻鏡捷用便」外著多数、
[若水(;号)の姓/幼名/字/別号]姓の随朝;外祖父大久保彦国の字を姓とす、幼名;千里駒郎、
字;欽若、別号;不不芳斎/一貫堂鈍斎、権大納言阿野公繩(きんりの)の孫、欽哉の養父、
- W2101 若水(じゃくすい・馬場ばば、名;喜徴/喜澄、喜通男)?-? 江後期上州高崎藩士;初め越後勤務、
のち高崎・江戸住、1837「若水翁詩稿」著、
[若水(;号)の字/通称]字;公淵、通称;大輔
- W2102 若水(じゃくすい・加藤かとう) ? - ? 1863存 江後期備後尾道の歌人;3千余首残す、
1860-63「清煩惱」著、 [若水(;名)の通称]少進入道
- 若水(じゃくすい・江村) → 訥斎(とつさい・江村えむら、儒者) O 3 1 4 9
 若水(じゃくすい・石川) → 柳溪(りゅうけい・石川いしかわ、儒者) D 4 9 5 8
 若水(じゃくすい・下里) → 千穎(ちかひ・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道) M 2 8 6 9
 雀水(じゃくすい・難波) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9
 弱水(じゃくすい・錦戸) → 好昌(よしまさ・錦戸にしきど、国学者) O 4 7 4 0
 鵲瑞(じゃくすい・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7
 若水庵(じゃくすいあん) → 陸馬(りくば・岡島おかじま、俳人) 4 9 8 2
 雀助(じゃくすけ・丹羽) → 堂靨白主(どうともものしろぬし、藩士/狂歌) G 3 1 8 1
- a2159 寂晴(じゃくせい;法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧、
歌;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加(3首)、
[行く水に月をやどして五十鈴河波も今夜の秋やしるらん](朝棟亭歌会;112)、
[長き夜の慰めがたきうれへをも月より外にとふ人はなし](同;114)

- 寂西(じゃくせい;法名) → 信実(のぶざね・藤原、歌人/絵師) 3 5 0 6
 寂清(じゃくせい;法諱) → 峻諦(しゅんたい;法諱、真宗本願寺派学僧) L 2 1 4 2
 寂静院(じゃくせいゐん) → 日賢(にちけん;法諱・春甫、日蓮僧) B 3 3 5 6
 尺切(しゃくせつ) → 尺切(せきせつ、江前期俳人) C 2 4 6 9
 若拙(じゃくせつ;字) → 宗朗(しゅうろう;法諱・若拙、本願寺派僧) Y 2 1 5 2
 若拙齋(じゃくせつさい・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者) 2 5 2 2
 若拙堂(じゃくせつどう・栗翁) → 耕耘(こうん・西田、医者/茶人) H 1 9 4 7
 若拙堂(じゃくせつどう・栗生坊) → 負米(ふまい・棗由亭そうゆうてい、狂歌作者) D 3 8 7 7
- W2103 寂仙(じゃくせん;法諱・桂岳けいがく;字) 1644-1709/or1703?66or60? 江戸浄土僧;小石川伝通院春岳門、
 幡随院12世、1691江戸城における法問で有名/92金戒光明寺36世、
 末寺の由緒書を知恩院に提出;一山の充実を図る、知恩院門跡3世尊統の得度の教授師、
 「原人論続解序」「光明記」著、
 [寂仙(;法諱)の法名] 心蓮社熏誉くんよ
- 寂然(じゃくぜん) → 寂然(じゃくねん・歌人) 2 1 3 8
- G2132 雀千声(じゃくせんせい、本名不祥)?-? 黄表紙;1782「蜀魂三津啼ほととぎすみつのさえずり」
 寂仙房(じゃくせんぼう) → 日澄(にっしょう;法諱、日蓮僧) F 3 3 1 2
- W2104 尺艸(しゃくそう;号) ?-? 江戸の俳人;1702轍士「花見車」1句入
 [青のりや潮うしほにさらす磯そなれ松](花見車;おくさ190)
 (磯馴松を海の潮にさらしたような見事な青のり)
 尺草と同一? → 尺草(せきそう、俳人) D 2 4 6 8
- W2105 鵲巢(じゃくそう・吉岡/葛西、名;長竜) 1763-1849⁸⁷ 土佐香美郡岩村の人/俳諧;美濃の雨岡門、
 上京し医学;三条家の医師吉岡家門;養子、美濃派俳人の徐風門、頼山陽と交流、
 国学・有職を修学、1838帰郷;医業、美濃派宗匠として門人指導、1817「夜話の谷響」編、
 1818「菴乃夜話」編、「花暦」「面影草」「七種供養」「芭蕉編年記」「麓捷徑」「夜永伽」著、
 [鵲巢(;号)の字/通称/別号]字;御雲、通称;右衛門助/真太郎、
 別号;嘘吠/行志斎/南北仙/徴鬣ちようきよく
- 鵲巢(じゃくそう・大平) → 久壽(ひさとも・大平おのだいら、国学社) I 3 7 8 4
 寂窓(じゃくそう・世継) → 直員(なおかず・世継よつぎ、商家/絵師/歌) P 3 2 2 4
 雀巢庵(じゃくそうあん) → 高憲(たかのり・吉田よしだ、藩士/本草家) M 2 6 7 9
 鵲巢山人(じゃくそうさんじん) → 保寿(ほうじゅ・河原/小河原、商家/書) B 3 9 2 9
- W2106 若存(じゃくそん;道号・通用つうよう;法諱、俗姓;西村) 1776-1850⁷⁵ 因幡鳥取黄檗僧1789泰源普清門、
 出家/諸方遍歴/1801泰源の法嗣、1830鳥取興善寺住持、1841万福寺31世、44退隱、
 1845因幡法美郡玉鉾村の幽芳寺に隱棲、「若存和尚語録」「若存和尚詩偈贊」著
- 寂尊(じゃくそん;号) → 羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9
 寂泰(じゃくたい;法諱) → 謙光(けんこう・寂泰、黄檗僧) I 1 8 6 5
- W2107 寂潭(じゃくたん;道号・俊竜しゅんりゅう;法諱)?-? 1864存 江後期曹洞僧;1836下野曹洞宗実相院住持、
 一端退出後;三河香積寺住持/1853武蔵世田谷豪徳寺住持/61近江彦根清涼寺住持、
 「寂潭俊竜禅師語録」著
- 酌中(しゃくちゅう・岡村) → 簀斎(さい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
- 2137 若冲(じゃくちゅう・海北かいほう、名;千之、野田吉兵衛浄有男) 1675-1751⁷⁷ 撰津今津の名主の家の生、
 野田忠肅の弟、母方の海北かいほう家を継嗣、大坂玉造に住、歌/国学;契沖門(16-7歳で入門)、
 今井似閑と共に高弟として活躍;万葉集に造詣深い、「岑栢集」「海北若冲歌集」著、
 「万葉集師説」「万葉集作者履歴」「紫文要語」著、「万葉集師説類林」「和訓類林」編、外編著多、
 [若冲(;号)の通称/別号]通称;善右衛門、別号;岑栢しんぱく、屋号;垂水屋たるみのや、
 法号;大誉千之若冲
- G2133 若冲(じゃくちゅう・伊藤いとう、名;春教/汝鈞) 1716-1800⁸⁵ 京の高倉通錦小路の青物問屋柵源の長男、
 1738家督嗣/絵師;初め狩野派/中国画・光琳派などの技法を導入、1755弟に家督譲渡、
 画に専念;写生的装飾画:特に鶏画は有名、本邦最初の木拵版画を制作、
 「群鶏図襖絵」「動植絵」「草木図」画、1768「玄圃瑶華」「素絢帖」著
 [若冲(;号)の字/通称/別号]字;景和、通称;源左衛門/茂左衛門、

別号;斗米とべい/斗米庵/心遠館/錦街居士、法号;斗米翁若冲居士

若冲(じゃくちゅう・安田) → 躬弦(みつる・安田/源、藩医/国学/歌) F 4 1 2 8

若仲(じゃくちゅう・高橋) → 盈(みつる・高橋たかはし、別名;景作、医者) F 4 1 2 9

G2134 寂超(じゃくちゅう;法諱・日想坊;号、俗名;藤原為経/盛忠、藤原為忠男)1113?-?1180存 母;橘大夫女、寂念の弟/寂然の兄、廷臣;長門守/正五下/皇后宮少進、隆信の父、1143叡山で出家、大原住;常磐三寂/大原三寂の1、「今鏡」著?、「伝教大師廟讚」著、歌人:

1155-6「後葉ごふ和歌集」撰(1首506入)、1170住吉社歌合参加、

治承三十六歌仙・歌仙落書・為忠家初度百首・為忠家後度百首参加、続詞花・今撰集入集、

勅撰15首;千載(734/930/1233)新古(1543/1551)新勅(3首)、

続後撰(824)続古(488)続拾(169)新後撰(1172)玉葉(1112)続後拾(113)新千載(1841)、

[命をば逢ふに替へてむと思ひしを恋ひ死ぬとだに知らせてしがな](千載;恋734)

[大原に住み侍りける比(兄の)為業(寂念)まうでこむとのみ申して見えざりける、

たまたまもうできたりけるに月をかき所とて外に宿れりければいひて遣しける、

まちでたる雲みの月もやどらねばおぼろの清水すむかひぞなき](続詞花;787)

W2108 寂超(じゃくちゅう;法諱・正行しょうこう;字/号;即心、俗姓;栗谷)1660-173677 筑後高良山の天台僧、

1671(12歳)上京;叡山延暦寺の寂源門/73御井道場で出家/78灌頂を受;霊空門、

菩薩戒;妙立門、1687太宰府戒壇院で智円より受戒/浄土経;京鹿ヶ谷の忍澄門、

晩年は浄土念仏に勤め筑後極楽無常院住、「円頓戒儀」「授戒法」「浄土三部経円信疏」著

W2109 寂澄(じゃくちゅう;法諱) ? - ? 尾張中島郡の真宗大谷派了覚寺の住職、

1762「浄土真宗領解問答」著

寂澄(じゃくちゅう) → 公時(きんとき・滋野井/藤原、廷臣/歌) E 1 6 3 6

寂朝(じゃくちゅう;法名) → 経朝(つねとも・世尊寺/藤原、能書/歌人) C 2 9 6 9

寂通院(じゃくつういん;法号) → 乘美(のりよし・松平まつだいら、藩主) G 3 5 9 3

寂伝(じゃくでん;法諱) → 道本(どうほん;道号・寂伝、渡来黄檗僧) H 3 1 2 4

W2110 綽堂(しゃくどう、大橋おおはし/本姓;平、名;貞裕、岡谷真純5男)1820-7859 尾張名古屋の商家の生、

医者大橋景保の養子/儒;奥田桐園門/医;神波延伸門、1841上京し医;小林蘭溪門、

古医方;錦小路頼易門/古方;宇津木昆台門/蘭方;奥村泰山門/経術;伊藤鳳山門、

1849(30歳)名古屋で開業/のち医学館講師/藩御用掛医師/明倫堂訓導助役、

1849「詩人巻懐韻礎」著、59「淵々斎夜話」編、

[綽堂(;号)の字/通称/別号]字;寛寿、通称;寿作、別号;甍所そしよ

W2111 寂堂(じゃくどう;法諱) ? - ? 江前期寛文1661-73頃武蔵浦和の真言僧、

玉蔵院法印、1668-9「調宮縁起」著

W2112 寂堂(じゃくどう;道号・呑空/嫩控どんくう;法諱)?-? 江中期江戸の曹洞僧;深川増林寺9世住持、

1733「洞上規繩」編(;宝寿[1682-1757]の跋文)

寂堂(じゃくどう;法諱) → 杲宥(こうゆう;道号・寂堂、真言僧) L 1 9 4 1

雀童(じゃくどう・中村) → 勘三郎(7世かんだぶろう・中村、歌伎役者) D 1 5 7 3

釈道光(しゃくどうこう) → 若芝(じゃくし・河村かわむら、絵師/工芸) G 2 1 1 5

尺度氏娘子(しゃくとしじょうし) → 尺度氏娘子(さかどうじのむすめ、万葉人物) B 2 0 2 7

寂日坊(じゃくにちぼう) → 日現(にげん;法諱、日蓮僧) B 3 3 7 1

寂日房(じゃくにちぼう) → 日華(にっけ・寂日房、日蓮僧) D 3 3 8 5

W2113 綽如(しゃくにょ・時芸、善如男)1350-9344歳 真宗本願寺5世、北陸に教導、瑞泉寺創、

「綽如勸進状」著

寂如(しゃくにょ・西本願寺14世) → 光常(こうじょう、良如男) J 1 9 8 1

G2135 寂忍(じゃくにん;法諱、俗名;藤原有季ありすえ、寂阿男)?-? 1292存 鎌倉期1243-49頃の僧、

地下連歌師;1246-47法勝寺花下連歌の代表者、二条家末流の歌人と交流、

1292厳島社頭和歌参加、「人家和歌集」入、菟玖波集;18句入、

[花の色をかずまで見せよ春の月](菟玖波集;発句2040/法勝寺花下連歌)、

[難波江やいその松風さえくれてすざきの鶴ちどり浪に鳴くなり](厳島社頭歌;25)、

[寂忍(;法諱)の通称] 太郎左衛門

- 寂忍(じゃくにん;号) → 大瀛(だいえい:法諱、真宗僧) J 2 6 1 8
 寂忍(じゃくにん;号) → 願海(がんかい:法諱、天台僧/千日回峰) Q 1 5 0 7
 寂忍(じゃくにん;字) → 光鑒(こうかん;法諱・寂忍、真言僧) I 1 9 0 5
 寂仁(じゃくにん;法名) → 基綱(もとつな・後藤/藤原、幕臣/歌人) D 4 4 1 1
- G2136 **寂念**(じゃくねん;法諱、俗名;藤原為業、為忠男) 1112?-? 1182以後没 寂超・寂然の兄、母;橘大夫女、
 廷臣;従五下/1151皇后宮権大進、1158-66頃出家/常磐・大原三寂の1、歌人、
 1134-5為忠両度百首参加/70住吉社・72広田社・78別雷社歌合参加、自邸歌合首催、
 後葉集入・1165成立[統詞花集]4首入(為業名)、雲葉集入、
 勅撰5首;千載(70)風雅(1979)新拾遺(26)新統古今(1201/1794)、
 [吉野山花のさかりになりぬれば立たぬときなき峰の白雲](千載;春70)、
 [寂念(;法諱)の通称] 伊賀入道
- 2138 **寂然**(じゃくねん/じゃくぜん;法諱、俗名;藤原頼業、藤原為忠男) 1120頃-? 1182存 母;橘大夫女、
 号;唯心房、寂念・寂超の弟、平安後期廷臣;近衛天皇東宮時の蔵人/従五下/壹岐守、
 出家/天台止観:縁忍門、山城大原に住;兄2人と共に[常磐三寂/大原三寂]と称される、
 西行・藤原惟方(寂信)と親交、
 「唯心房集」「寂然法師集」「寂然和歌色紙」「法門百首」著、
 西行と贈答;「山家集」入、兄寂超(為経)「後葉集」7首(内読人しらず6首)/統詞花集3首入、
 勅撰47首;千載(6首230/604/664/1068/1069/1251)新古(15首692/1625/1951/1952以下)、
 新勅(4首)続後撰(692)玉葉(2241)続後拾(1299)風(10首)新千(1884)新拾以下、
 [秋はきぬ年もなかばに過ぎぬとや荻ふく風のおどろかすらむ](千載;秋230)
- W2114 **寂然**(じゃくねん;法諱) ? - ? 南北室町期僧/歌人;
 1407内裏九十番歌合(後小松天皇催)参加、
 [夏の夜も霜か見えし玉敷の庭の真砂まごの冬の夜の月](九十番歌合;廿四番右48)
- W2115 **寂然**(じゃくねん;法諱・円白;字、初称;隆存房長盛) 1682-1756 75 安房の真言僧;1714江戸の慧光門、
 湯島靈雲寺で慧光より衣鉢戒受/1721安祥寺流伝法灌頂・22比丘戒・25安祥寺流大寺を受、
 安房神余村円智庵のち与野地藏庵に住、「諸儀軌伝授記」著
- W2116 **寂然**(じゃくねん;道号・恵空えく;法諱) ?-? 江戸期の曹洞僧;融峯堅祝門/法嗣、
 武州多摩郡の永林寺13世、「宏智録事義」編
- 寂然(じゃくねん・山崎) → 菜茹(さいじよ・山崎やまさき、医者) G 2 0 7 4
 寂念(じゃくねん;法名) → 基綱(もとつな・後藤/藤原、幕臣/歌人) D 4 4 1 1
 寂能(じゃくのう;法名) → 行能(ゆきよし・世尊寺/藤原、廷臣/書家/歌人) 4 6 2 6
 鑠廬舎(しゃくのや) → 完和(さだかず・清水しみず/中島、藩士/歌) O 2 0 6 0
 錫範(しゃくはん・中西) → 嗣興(つぐおき・中西/幸福、神職/万葉植物研究) 2 9 6 8
 尺彦(しゃくひこ) → 尺彦(せきげん・竜鼻館、語学) D 2 4 4 2
 綽夫(しゃくふ・今村) → 蓮坡(れんぱ・今村いまむら、藩士/詩人) B 5 1 3 1
- W2117 **若風**(じゃくふう;号) ? - ? 美濃長良の俳人;1689「あら野」1句入、
 [うぐひすの鳴きそこなへる嵐かな](あら野;卷二)
 积普濟(しゃくふさい) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
 寂聞(じゃくぶん;字) → 聖観(しょうかん:法諱、僧/国学) U 2 2 9 5
 寂便(じゃくべん;法諱) → 賞賢(しょうけん;法諱、真宗本願寺派僧) I 2 2 4 5
- W2118 **寂峯**(じゃくほう、花岳庵かがくあん) ?-? 江中期1751-64頃筑後歌人;福岡郊外住、
 1762「樹下石上和歌集」著(:津和野亀井侯に献上)
 寂法(じゃくほう;字) → 応住(おうじゅう;法諱・寂法、真言律僧) C 1 4 0 5
 寂峰(じゃくほう;法諱) → 月堂(げつどう;道号・寂峰、曹洞僧) H 1 8 2 9
 寂峰(じゃくほう;号) → 光闡(こうせん;法諱・法如;号、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8
- W2119 **雀木**(じゃくぼく) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
 [嵐にも並木をうたぬ柳かな](新撰都曲;上/柳並木は互に枝を打合わぬしなやかさ)
 若木(じゃくぼく・沢井) → 若木(しもと・沢井さわい、正畝、歌人) N 2 1 2 3
 治平(じゃくほせい) → 宇中(うちゅう・和田わた、俳人) B 1 2 4 2

- G2137 **寂本**(じゃくほん;法諱・運周うんしゅう;字、俗姓;長谷川)1631-170171 山城深草真言僧:幼時に高野山入、
 応盛門/出家、応盛没後;快運門、宝性院玄宥より安祥寺流印璽を受、1659高野山を退く、
 越前丸岡中台寺住/1673再度高野山入;宝光院を領す/82大雲院に退隠、外典に通ず、
 詩文/書画/彫刻を嗜む、泉涌寺天圭・智積院運徹と交流、1685「弘法大師伝止沸編」、
 1686「神社啓蒙邪誣論」88「異字編」89「四国遍礼霊場記」99「辨々惑通衡」外著多数、
 [寂本運周の初称/号]初法諱;応仙、初字;雲岫、号;雲石堂
- W2120 **寂本**(じゃくほん;道号・達道たつどう;法諱、号;衢)?-? 江中期尾張の曹洞僧、1787「いろは如意注」著
 雀丸(じゃくまる・長和) → 千尋(ちひろ・長和ながわ/高橋、国学者) N 2 8 2 3
- G2138 **寂明**(じゃくみょう/じゃくめい;法諱・恵日;字、通称;阿闍梨法印)?-? 江中期京の真言僧/法印、
 歌人:冷泉為村門、1782「歌道根源問答」、「五音秘伝」著
 寂明(じゃくみょう;法名) → 伊信(これのぶ・藤原、歌人) E 1 9 4 0
 寂妙(じゃくみょう;法諱) → 知足(ちそく;字、寂妙、日蓮僧) E 2 8 6 3
 寂夢(じゃくむ、夜半亭四世) → 呂蛤(ろごう・西村、俳人) B 5 2 4 6
 若夢(じゃくむ・西村) → 呂蛤(ろごう・西村にしむら、俳人) B 5 2 4 6
 若無子(じゃくむし) → 蠡(れい・石井いし、藩士/儒者) 5 1 0 0
 寂明(じゃくめい・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
- W2121 **寂滅**(じゃくめつ;法諱) ? - ? 1235存 鎌倉期の僧;
 1234行基の託宣により大和平群郡有里村竹林寺の行基の墓から銀瓶の舍利を発見、
 その間の事情を注進状にまとめ荒廢に竹林寺に仏像塔廟作製;寺院を再興、
 1235「生駒竹林寺縁起」著
- W2122 **寂黙**(じゃくもく;法諱・蓮妙みょうれん;字、初称;融觀蓮如)?-? 江中期足立郡桶川の真言宗薬師寺住持、
 1720江戸湯島靈雲寺の慧光より安祥寺流の許可を受/1725安祥寺流伝法灌頂を受、
 1771「秘密儀軌伝授聞書」、「悉曇字記建立略頌」著
- W2123 **寂門**(じゃくもん;法諱) ? - ? 江前期大阪四天王寺塔頭の住僧、
 1685「浪花四天王寺記」「四天王寺細見」「四天王寺年中法事記」、「四天王寺由来記」著
- W2124 **寂門**(じゃくもん;道号・道律どうりつ;法諱、号;湖隠頭陀、安部奇泉男)1651-173080 近江蒲生郡日野生、
 1667出家/1668黄檗僧:竜溪性潜門/侍者、1682万松寺住持/91近江野洲郡宝覺寺転住、
 1716近江正明寺5世住持、「念仏齊戒二略記」著
 杓屋(しゃくや・須藤) → 元知(もととも・須藤どう/土岐沢、国学/歌) K 4 4 1 3
 芍薬亭(しゃくやくてい、狂歌) → 長根(ながね、本阿弥、狂歌/戯作) 3 2 1 4
- G2139 **若耶三胤子**(じゃくやさんいんし)?- ? 1680辞書「合類節用集ごういせつようしゅう」編
 寂融(じゃくゆう) → 為信(ためぶ・法性寺/藤原、歌人) H 2 6 2 8
- G2140 **寂誉**(じゃくよ;法諱、沙弥)? - ? 室町期の歌僧、1475甘露寺親長催「公武歌合」参加、
 [七度ななたびの秋ぞおぼゆる葦原や国つみかみの浦の月影](公武歌合;五番湖上月右)
- W2125 **寂誉**(じゃくよ;法諱) ? - 1665? 江戸の浄土僧;芝増上寺の雪念門、
 「阿弥陀根本秘密神呪経」著
 綽余老人(しゃくよろうじん) → 葉庵(ようあん・前田、藩儒/医者) 4 7 5 5
 若蘭亭(じゃくらんてい) → 長嘯(ちようしやう・北山、俳人) I 2 8 9 6
 若竜(じゃくりゅう) → 常足(つねたり・上野、洋学者) C 2 9 4 6
 寂霊(じゃくりよう;法諱) → 通幻(つうげん;道号・寂霊、曹洞僧) 2 9 2 7
 寂了庵(じゃくりようあん) → 綱貞(つなさだ・朽木くつき、藩主/書/歌) B 2 9 0 6
 寂了院(じゃくりよういん) → 綱貞(つなさだ・朽木くつき/源、藩主/歌) B 2 9 0 6
- W2126 **寂林**(じゃくりん;道号・心宗しんそう;法諱)?-? 江中期安藝の曹洞僧:隠之道頭門;法嗣、
 広島国泰寺の住持、遠江の松寿院の開山、1750「瑞光隠之和尚語録」編
- G2141 **若麟**(じゃくりん・山本やまもと、名;長昭、河村若元男)1721-180181 長崎漢画派の絵師;父門、
 人物花鳥画など;虎図に長ず、唐館公用支配を務める、1790「蘭亭曲水図」、掛軸「虎図」、
 [若麟(;号)の字/通称/別号]字;蘭榮、通称;丹次郎、別号;瑞翁/温故斎/魯石/長英
 若霖(じゃくりん;字) → 汝岱(じょたい;法諱・若霖、本願寺派僧) M 2 2 6 8
 寂林公子(じゃくりんこうし、寂林院) → 忠輝(ただてる・松平、藩主/歌人) P 2 6 9 2
 寂霊(じゃくれい・じゃくりよう;法諱) → 通幻(つうげん;道号・寂霊、曹洞僧) 2 9 2 7

- 2139 **寂蓮**(じゃくれん;法諱、俗名;藤原定長、醍醐寺阿闍梨俊海男)1139?-120264? 伯父藤原俊成の猶子、
從五上/中務少輔/1172頃出家:少輔入道と称す、嵯峨住、歌人:在俗時代より活動、
1193六百番歌合・98守覚法親王御室五十首・1200正治百首・千五百番歌合参加、
1201和歌所寄人;新古今撰者;撰進前に没、西行・慈円と交流、1187「寂蓮法師百首」、
「寂蓮[結題]百首」「寂蓮法師集」、「新豊折臂翁」「能恵法師絵詞」書?、雲葉集(20余首)入
勅撰117首?;千載(7首325/328/544/785以下)新古(35首58/87/154/155/169/252/以下)、
新勅(8首59/681/760以下)続後撰(8首)続古(7首)続拾(7首)新後撰(9首)以下、
[さびしさはその色としもなかりけり真木立つ山の秋の夕暮](新古今;361/三夕の歌)
[村雨の露もまだひぬ槇の葉に霧立ちのぼる秋の夕暮](新古;491/1201年老若五十首歌合)
- 寂鍊(じゃくれん;法諱) → 鉄面(てつめん;道号・寂鍊、黄檗僧) C 3 0 6 3
寂蓮社口阿(じゃくれんしゃこうあ) → 猷空(ゆうくう;法諱・離言;字、浄土僧) B 4 6 3 1
舎景(しゃけい・平) → 舎景(いえかげ・平たいら、神道家) E 1 1 8 0
- G2142 **射江**(しゃこう・窪田くぼた、猿雖男)?- ? 俳人・蕉門、斜影の弟
P2140 **車香**(しゃこう;号) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」15句入
W2127 **洒高**(しゃこう;号) ? - ? 俳人、1776樗良「誹諧 月の夜」1句入、
[春の日や梅暮れかねる竹のうち](月の夜;109/梅花の白さで暮れ残る)
舎幸(しゃこう・奈良原) → 舎幸(いえゆき・奈良原、国学者) K 1 1 4 8
- W2128 **舎鰲**(しゃごう・是非庵、別号;梅裡)?-1764 尾張の俳人;1754頃より詠句、横井也有と交流、
1762白尼編「橋立みやげ」の序文、「蓮阿坊行脚句集」著
車谷(しゃこく・実川) → 定賢(さだかた・実川さねかわ、和算家) H 2 0 9 9
且俚(しゃこん・柴/柴橋) → 応亨斎(おうこうさい・柴/柴橋、相法家) C 1 4 3 9
捨左衛門(しゃざえもん・田中) → 保祐(ぼゆうやすすけ・田中たなか、歌人) B 4 5 7 4
舎三郎(しゃさぶろう・野村) → 立栄(たてえい・初世りゅうえい・野村/舎人、医者) C 4 9 8 5
- W2129 **沙山**(しゃざん・土沢つちざわ、名;潔巳)1807-8579 陸中盛岡藩士/能楽・国学・詩に通ず/俳人、
「烟草話」著、
[沙山(;号)の字/別号]字;鳳郷、別号;桐斎/母不敬斎/梅之本3世、法号;梅本軒潔翁沙山居士
写山(しゃざん・谷、写山楼) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
射山(しゃざん・草間) → 宗仙(そうせん・草間くさま、医者) I 2 5 2 8
舎山(しゃざん・北川) → 守貞(もりさだ・喜田川/北川/石原、商家/考証家) F 4 4 4 2
舎子(しゃし・二条) → 青綺門院(せいきもんいん、桜町天皇女御) H 2 4 8 6
車軸軒(しゃじくけん・桑山) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9
- W2130 **車軸亭大雨**(しゃじくていたう)?- ? 江後期天保1830-44頃の名古屋の戯作者、
1834「米金蔵軍記」著、
桑山好之と同一か? → 好之(よしゆき・桑山、郷土史家) H 4 7 9 9
斜日堂(しゃじつどう) → 乙語(おつご・佐方さかた、藩士/俳人) D 1 4 1 7
捨若(しゃじやく・磯貝) → 捨若(すてわか・磯貝、浮世草子作者) D 2 3 8 5
射山々人(しゃじゃんさんじん) → 靱夫(ゆぎお・静しずか/諏訪、神職/国学) G 4 6 9 2
謝春星(しゃしゅんせい) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
舎従(しゃじゆう・南合/岩崎) → 些斎(ささい・岩崎いわさき、藩儒) H 2 0 4 1
且昭(しゃじょう・片桐) → 且昭(かつてる・片桐かたざり、幕臣) N 1 5 5 4
写照(しゃじょう・原) → 在明(ざいめい・原/平、絵師) F 2 0 0 2
車螻(しゃじょう・宮) → 紫暁(しぎよう・宮みや、俳人) B 2 1 6 3
- G2144 **車尋**(しゃじん・中島なかじま) ? - ? 江中期江戸の戯作者;すべて本島桴遊と共著、
1754談義「無而七癖むくてななくせ」/浮世草子「風流宝文箱」/読本浄瑠璃「仮名雑後日菅原」著
舎人(しゃじん) すべて → 舎人(とねり)
這人(しゃじん) → 朝伍(あさご・熊代/姫路屋、俳人) I 2 8 1 9
四野人(しやじん) → 朱拙(しゆせつ・坂本さかもと、医者/俳人) 2 1 5 3
写真斎(しゃしんさい) → 梅園(ばいえん・毛利/野里、本草学/画) 3 6 6 6
写生斎(しゃせいさい) → 梅園(ばいえん・毛利/野里、本草学/画) 3 6 6 6

- 写静楼(しゃせいろう) → 敬義(たかよし・鏡味がみ、楽人) N 2 6 7 4
- M2125 捨席(しゃせき) ? - ? 江前期山梨の俳人;1692不角「千代見草」入、
[僕が身は西瓜か殿の稽古針](千代見草/前句;怖ぶおづそばへ這い寄りにけり)
- 捨石(しゃせき・稲垣) → 景直(かげなお・稲垣、大庄屋) L 1 5 1 2
- 紗雪(しゃせつ・杉坂) → 百明(ひやくめい・杉坂すぎさか、俳人) 3 7 1 3
- 斜川(しゃせん・菊池) → 景福(けいふく・菊池さくち、医者) G 1 8 6 0
- W2131 舎朶(しゃだ・鳥道下) 1677 - ? 1748存 加賀金沢の俳人;麦林門、1748「俳諧その燈」著
- G2145 車大(しゃだい・別号;黄山舎/暮柳舎3世)?-? 1817存 加賀金沢の俳人;後川門、
1797後川より暮柳舎を継承、1797希因55回追悼句集「ゆめのあと」編、1801「あめのはし」著、
1802「としもうち」編/05「草木の花」著/05「ましりさき」08「くさ摘」編/08「生自物」著、
1811「四時の可勢」「四時の津幾」著、15「道のともし」編
- 娑旦那(しゃたんじん) → 雲鈴(うんれい・吉井、摩詰庵、俳人) B 1 2 2 5
- 謝長庚(しゃちやうこう) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
- G2146 釈果(しゃつか・冷雲れいうん) ? - ? 詩人・菊池海莊門、
1848海莊詩集第三集「海莊集」の巻末に「題海莊先生三集後」著
- 石橋(しゃつきやう/せつきやう) → 春耕(しゅんこう・千葉、俳人) J 2 1 6 4
- 石橋僧正(しゃつきやう/いしばしやう) → 源愉(げんゆ・源輸げんゆ、天台僧) M 1 8 5 4
- 石橋亭(しゃつきやうてい) → 英子(えいし・石橋亭、俳人) B 1 3 4 5
- 釈空(しゃくう) → 為定(ためさだ・二条) 2 6 5 9
- 寂空(じやくう) → 惟成(これしげ・藤原、歌人) 1 9 4 4
- G2147 寂公(じやくこう) ? - ? 江戸期:稲川「思旧漫録」に伝あり
- G2148 社笛(しゃてき・柳原、別号;梧桐泉)?-? 江中期大阪の雑俳点者、淡々系の折句、
1751春耕「あふ夜」入、1754「瑟の上」編/74「五文字秘事」著、「滝清水」「宝曆七年歳旦」編
- G2149 斜天(しゃてん;号・通称;西川屋徳兵衛、分稻男)?-? 京島原の遊里の揚屋主人、俳人;風状・太祇門、
1757遊里案内記「一目千軒」吞獅と共編(;文車・しづはた・瑞笑の序)
- G2150 洒堂(しゃどう・高宮たかみや/初姓;浜田はまだ、通称;治助) 1668?-1737? 近江膳所の医者/一時大阪住、
俳人;尚白門/1689芭蕉門、90「ひさご」編纂/序文執筆、1692-93江戸下向;芭蕉案逗留、
1692改号;洒堂、江戸で其角・杉風・許六と交流、1693「俳諧深川」編(序と52句入)、
1693大阪に移住;点者、1694「市の庵」編、
同門の之道(諷竹)と確執;芭蕉が幹旋に入るが客死;追善の席に名なし、点者経営に失敗、
1699頃膳所に帰郷、医者とし本多家に出仕、1702俳壇復帰を図るが低迷、
1702「白馬しろうま」(正秀と共編)、芭蕉1690「洒落堂の記」に逸話、
1689挙白「四季千句」/90之道「あめ子」18句/91江水「元禄百人一句」・ノ松「西の雲」句入、
「ひさご」47句「猿蓑」10句「炭俵」7句「続猿蓑」5句入、
[洗足に客と名の付く寒さ哉](;四吟歌仙発句;芭蕉・許六・嵐蘭と;深川所収)、
[春雨や蓑につゝまん雉子ぎの声](続猿蓑;卷下鳥)、
[洒堂(;号)の別号]初号;珍碩/珍夕/珍磧、医号;道夕
- W2132 謝堂(しゃどう・八巢2世) ? - ? 江戸の俳人;蕉雨門、師没後「ひより鳶」継続編
- 射堂(しゃどう) → 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2
- W2133 謝徳(しゃとく・八巢3世) ? - 1888 江戸日本橋の俳人;蕉雨・謝堂門、
1856「俳諧百人集」57「きさらき」60「謝堂社二百人集」編、「百々人集」編、句集「白雲集」、
1870「俳家画像人名録」編/75「日和登飛集」継続編刊
- a2146 舎那(しゃな・一乗院) ? - ? 鎌倉期;南都興福寺一乗院の童/歌人、
1237刊[檜葉集]2首入、
[ももしきの花見侍りけるにゆゑある女ばらひとむら見えければつかはしける、
おのづからそのことのはやりくると花にはつらき風ぞまとるる](檜葉;雑童692)
- 遮那王丸(しゃなおうまる) → 義経(よしかね・源みなもと、武将、平家追討) E 4 7 7 4
- W2134 洒入(しゃにゅう・卓阿) ? - ? 江後期1830-44頃江戸の俳人、
1836「きさらき集」編
- 蛇之介常矩(じやのすけつねのり;綽名) → 常矩(つねのり・田中たなか、俳人) 2 9 1 2

- 這梅翁(しゃばいおう) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9
 社麦(しゃばく・中村/内田) → 沾山(せんざん・四世、春化坊/俳人) F 2 4 5 4
 遮莫(しゃばく; 俳名) → 宗十郎(3世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 8 9
 遮莫(しゃばく; 俳名) → 宗十郎(4世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 0
 遮莫(しゃばく・川上) → 静庵(せいあん・川上かわかみ、国学者) H 2 4 2 2
 洒白窓(しゃはくそう) → 三貫(さんかん・寺村、商家/俳人) E 2 0 2 0
 遮莫亭(しゃばくてい) → 雲堂(うんどう・加藤、空門子/俳人) B 1 2 5 8
 遮莫堂(しゃばくどう・了因) → 箕山(きざん・藤本、古筆鑑定/俳人) 1 6 1 3
 遮莫楼(しゃばくろう) → 致美(むねよし・山本やまもと、医者) C 4 2 9 1
 W2135 洒鬢(しゃびん) ? - ? 大阪の俳人; 1691賀子「蓮実」1句入、
 [朝霜に疵きずをつけたる霰あられ哉](蓮実; 397)
 謝蕪邨(しゃぶそん) → 蕪村(ぶそん・与謝、俳人/絵師) 3 8 1 1
 G2151 舍鳳(しゃほう・河合かわい、別号; 天真庵/九苞堂) ?-? 江中期大阪の俳人; 芳室門、
 1770才麿(芳室の師) 33回忌追善集「蘆間月」編、87「首祚詠」92「寛政四壬子歳旦」編
 舍芳(しゃほう・神原) → 業広(なりひろ・神原かんばら、商家/国学) L 3 2 8 0
 紗方(しゃほう、紗方斎) → 野坡(やば・志太/斎藤、俳人) 4 5 1 2
 紗帽(しゃぼう、紗帽斎) → 野坡(やば・志太/斎藤、俳人) 4 5 1 2
 車螭(しゃちゅう; 号) → 紫暁(しぎょう・宮、俳人) B 2 1 6 3
 G2152 舍椗(しゃぼつ・堀ほり、八千房はちちぼう) 1707-7771 大阪阿波座の俳人; 淡々門/宗匠、八千房の祖、
 1760「子母銭」著/73「半時庵十三回」編、「俳諧季寄腰扇」「俳諧浪花風流」著、
 [舍椗(; 号)の別号] 浪華散人/深茂亭/八千房/八千坊、駝岳(八千房2世)の師
 柿耶丸(しやまる・七五三) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8
 沙弥女王(しゃみのおおきみ) → 沙弥女王(さみのおおきみ) D 2 0 9 3
 沙弥満誓(しゃみまんせい) → 満誓沙彌(まんせいさみ、廷臣/僧/万葉歌人) 4 0 3 8
 麴眠(じやみん・林) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖; 幕政) 4 8 0 2
 沙明(しゃめい) → 利助(としすけ・梅田、歌舞伎作者) M 3 1 6 2
 舍明(しゃめい・南合/岩崎) → 些斎(ささい・岩崎いわさき、藩儒) H 2 0 4 1
 W2136 舍遊(しゃゆう・別号; 山雀庵) ?- ? 江中期筑前三原の俳人; 野坡流、
 1768遊五十三回忌追善集「鏡種」編
 舍熊(しゃゆう・林/梶原) → 舍熊(家熊いにくま・梶原、神職) 1 1 3 4
 G2153 車庸(車要しやう・塩江/潮江しおえ) ?-? 江前期元禄1688-1704大阪の商人、俳人; 1691芭蕉門、
 長町の別荘で師を招待した、口語的句作が多い、1692「己が光」「足揃」1702「松のなみ」編、
 1691鋤立「俳諧六歌仙」「きさらぎ」入、98「続猿蓑」3句入、
 [起しせし人は逃けり蕎麦の花](続猿蓑下; 農業/開墾の人は貧苦で放棄; なお人は住む)、
 [車庸(; 号)の通称/別号]通称; 長兵衛、別号; 松濤庵
 G2154 舍用(しゃよう・小島こじま/初姓; 目黒、名; 一章、目黒清内男) 1795-185965 小島家養子、仙台の俳人、
 文学を志し歴遊中に鳳朗に出合い俳諧に開眼: 曰人わつじん門、曰人十七回追善集編纂、
 1829「五梅庵舍用居士集」著/1838「耳馴集」51「事ふり集」52「御歳玉集」編、
 1853「俳諧海内人名録」(鼎左と共編)、1856「玉川集」著、「幸玉集」「陸奥百句集」著、
 [舍用(; 号)の通称/別号]通称; 八太郎、別号; 五梅庵
 G2155 舍羅(しゃら・榎並えなみ) ? - 1716? 大阪の俳人; 之道門、1694吞舟と芭蕉を見舞い介抱、
 中四国を行脚; 数度/蕉風の伝播に努力/支考・惟然・鬼貫と交流、雑俳点・版下清書で生活、
 1699「蓑笠」編/「あさくのみ」著、1701「荒小田」編、1701「追鳥狩おどりがり」露堂と共編、
 1713「俳諧鑪鏡さびかがみ」編、「俳諧唐子おどり」編、1702轍士「花見車」1句入、
 [笠を手に夏の朝日ぞ浦の何](追鳥狩)、
 [舍羅(; 号)の別号] 百々子/百々齋/百々坊どぼう/桃々坊/空草庵/語雪堂
 W2137 沙羅(しゃら・柿梅林) ? - ? 江中期筑前の俳人、1772「松の古葉」、「探り梅集」著
 G2156 沙羅(しゃら・堀田ほった) 1748 - 181669歳 江戸幕臣; 八丁堀与力、俳人: 蓼太門、
 参禅; 深川要津寺の無底門、晩年は幕臣致仕し俳諧に遊ぶ、1775「附合小鏡」共著、
 1806「歳旦歳暮」10「面白日記」著、「沙羅句集」「たね瓢」著、

- [沙羅(；号)の通称/別号]通称;六左衛門、別号;九直/牛歌/牛家/雪星観/沙羅庵/玄樹
沙羅庵(しゃらん) → 沙羅(しゃら・堀田ほつた、幕臣/俳人) G 2 1 5 6
- G2157 **車来**(しゃらい・山岸やまざし、名;重助、半残男)1674-173360 伊賀上野藩士;藤堂玄蕃家の家臣、
俳人;祖父陽和・父半残と共に芭蕉門/祖母は芭蕉の姉、
1691「猿蓑」2句/94「炭俵」1句/98「続猿蓑」2句入、1702去来「渡鳥集」入、
[この寒さ牡丹の花のまつ裸](猿蓑;巻二/元禄三1690?;17歳)
(寒中無防備で眩しく咲く正に真っ裸)、
[車来(；号)の通称] 半六/重左衛門
- G2158 **洒来**(しゃらい) ? - ? 江中期駿河庵原郡の棋手;駿河第一、俳諧を嗜む、
80歳にして精神衰えず飄々として仙を欲す、山梨稲川「思旧漫録」記事入
舎来(しゃらい;初号) → 白雄(しらお・加舎かや、俳人) 2 2 1 4
- M2198 **社楽**(しゃらく・藤井ふじい、別号;徳庵)?-? 江前期和泉堺の俳人、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、
[木の春や採うめ杵まが枝の金盞銀](手鑑/金盞銀台;一重咲きの水仙)
- G2159 **写楽**(しゃらく、東洲斎とうしゅうさい)1763-182058 浮世絵画家、1794-95頃に140種の役者絵・相撲絵、
すべて蔦屋の出版、出自に謎が多く諸説ある;齋藤十郎兵衛説がやや有力、
蔦重(つたじゅう)説 → 重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋、書肆、1750-97) 2 1 4 2
燕十説 → 燕十(えんじゅう・志水、戯作、1747?-1810?) B 1 3 0 4
歌麿説 → 歌麿(初世うたまる・喜多川、1753-1806) 1 2 7 0
北斎説 → 北斎(ほくさい・葛飾、1760-1849) 3 9 6 2
齋藤十郎兵衛(さいとうじゅうべえ)説;阿波藩お抱の能役者(ワキツレ方)/与右衛門男、
江戸八丁堀地蔵橋住;加藤千蔭(蔦屋と親交)の近所、1763-1820(58歳)
- G2160 **舎楽**(しゃらく・茂竹庵) ? - ? 狂歌、1780梅好「大津みやげ」3首入
- G2161 **舎楽斎**(しゃらくさい・鈍草子どんくさし)?-? 江中期京の戯作者/狂歌作者、
1758滑稽本「見外白宇瑠璃」著
- W2138 **捨楽斎**(しゃらくさい、詳細不明)?-? 江中期・1771談義:「当世穴噺」著
2 説 → 大我(だいが・孤立、浄土僧、歌人) B 2 6 1 0
→ 舎楽斎(しゃらくさい・鈍草子) G 2 1 6 1
捨楽斎(しゃらくさい、俳諧) → 北華(ほっか、俳/戯作/狂歌文/1700-46) E 3 9 4 8
写楽斎(しゃらくさい、絵師) → 国直(くになお・歌川、絵師) 1 7 7 9
洒落斎(しゃらくさい、戯作) → 三馬(さんば・式亭、戯作者) 2 0 5 5
洒落斎(しゃらくさい) → 躰(あきら・高橋、藩士/歌) E 1 0 2 1
射楽才(しゃらくさい) → 惟一(これかず・賀集かお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
社楽斎万里(しゃらくさいばんり) → 猿万里大夫(さるまりだゆう、長門万里、帮間/狂歌) E 2 0 0 3
沙羅樹下老衲(しゃらじゅかろうのう) → 慧鶴(えかく・白隠;道号、臨濟僧) C 1 3 0 9
写蘭(しゃらん・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
藉蘭(しゃらん・三宅) → 松庵(しょうあん・三宅みやげ、儒者/教育) G 2 2 5 9
- Z2138 **車龍**(しゃりゅう・武田たけだ)1806-1898長寿93 伊予越智郡の歌人;神職の沼崎誠則のぶのり門、
[車龍(；号)の名/通称/別号]名;且、通称;和三郎/保太郎、別号;米谷/静月亭/秀雅
舎柳(しゃりゅう;俳名) → 宗輔(そうすけ・並木なみき、浄瑠璃作者) 2 5 1 2
舎柳(しゃりゅう;俳名) → 来助(初世らいすけ・中山、2世中山新九郎/歌舞伎役者) 4 8 7 0
且隆(しゃりゅう → かつたか・片桐) → 且昭(かつてる・片桐かたざり、幕臣) N 1 5 5 4
- G2162 **車両**(しゃりょう) ? - ? 江後期俳人、1815心非らと共著「俳諧鼠の道行」
- G2163 **斜嶺**(しゃれい・高岡たかおか、通称;三郎兵衛)1653-170250 美濃大垣藩士、怒風の兄/俳人;芭蕉門、
師と歌仙を巻く、1691「勸進牒」95「荒磯海」入、94「炭俵」4句/98「続猿蓑」2句入、
[蜘蛛もの巢のきれ行く冬や小松原](炭俵)
- W2140 **舎六**(しゃらく;号) ? - ? 江中期俳人;1777蕪村「夜半楽」1句入、
[三本傘は婿の定紋ぢやうもん](夜半楽;安永六年1777春歌仙;18/かけ的に興じる男はあの婿)、
(前句;かけの夕暮れかけて春の月;正白/かけの如き春の満月)
子瑜(しゆ;道号・元瑾) → 元瑾(げんきん;法諱・子瑜しゆ、臨濟僧) B 1 8 6 0
子榆(しゆ・中村) → 三蕉(さんしょう・中村、儒/藩儒/詩文) M 2 0 3 9

之瑜(しゆ・朱) → 舜水(しゆんすい・朱しゆ、儒者/水戸学祖) 2 1 5 9
 之俞(しゆ;字・植村) → 禹言(のぶこと・植村うえむら、地誌家/紀行) B 3 5 4 0
 士俞(しゆ・大地) → 東川(とうせん・大地おおち、藩士、儒者/詩) G 3 1 1 2
 主(しゆ・長沢) → 楽浪(らくろう・長沢ながさわ、藩儒/詩) B 4 8 2 9
 守(しゆ;一字名) → 基定(もとさだ・持明院/藤原、権大納言/書) C 4 4 4 6
 守(しゆ・那波) → 木庵(もくあん・那波なば/祐、儒者/藩儒) 4 4 0 3
 守(しゆ・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4
 首(しゆ・大津) → 首(意毗登おびと・大津、医/陰陽家) B 1 4 1 2
 種(しゆ→たね・佐久間) → 果園(かえん・佐久間、藩士/歌人) B 1 5 1 3

W2141 寿(しゆ・板原いたはら) ? - ? 紀州藩の医官、「延寿宝鑑」「寿林御覽」著、
 [寿(;名)の字/通称/号]字;元彊、通称;万寿、号;志水しけい

寿(しゆ・加古) → 角洲(かくしゅう・加古かこ、医者) J 1 5 9 7
 寿(しゆ・葛山/松下) → 葵岡(きこう・松下/葛山、幕臣/儒者) I 1 6 6 2
 寿(しゆ・黒岩) → 慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者;南学) B 2 1 0 5
 寿(しゆ・杉田/加藤) → 肩吾(けんご・加藤かとう、藩医者/魯語) I 1 8 5 9
 寿(しゆ・中西) → 耕石(こうせき・中西なかにし、絵師) K 1 9 1 0
 寿(しゆ・馬嶋) → 魯斎(ろさい・馬嶋まじま、眼科医/詩歌) B 5 2 5 5
 寿(しゆ・渡辺) → 寿(ひさし・渡辺わたなべ、国学者/歌) B 3 7 0 7
 寿(しゆ・手島) → 寿(ひさし・手島てじま、農業/里正/詩文) B 3 7 0 8
 寿(しゆ・木舗) → 百年(ひやくねん・木ぼく・三枝/木舗、庄屋/詩人) I 3 7 1 2
 寿(しゆ・小野) → 寿(ひさし・小野おの、庄屋/詩人) I 3 7 7 1
 需(しゆ・宮川) → 禄斎(ろくさい・宮川みやがわ、農業/詩・書) 5 2 8 1
 綬(しゆ・伊藤/江村) → 北海(ほっかい・江村、儒者/詩人) 3 9 7 0
 就(しゆ・釧) → 雲泉(うんせん・釧くしろ、絵師) 仲孚ちゆうふ/通称文平) D 1 2 8 7

G2164 珠阿(しゆあ) ? - ? 歌、1474道灌「武州江戸城歌合」入、
 [海原や釣の小船に鳴神の魚の命をやすめぬるかな](武州江戸歌合;八番左15)、
 時宗僧珠阿と同一?→ 知蓮(ちれん;法諱、21代遊行上人) K 2 8 5 1

珠阿弥(しゆあみ・金子正雄) → 元木綱(もとのもくあみ、国学・狂歌師) D 4 4 7 5

G2165 寿阿弥(しゆあみ・長島ながしま、江間・西村、絵師北尾紅翠斎男) 1769-1848 長島五郎八の養子、
 江戸神田の菓子商;水戸家御用達/儒;山本北山門、家業を弟に譲渡、長唄・浄瑠璃作者;
 宝田寿来門/師を継嗣;劇神仙二世襲名、幕府御連歌師の執筆、日輪堂に入、
 「蓮生物語」「秀鶴草子」「劇神僊話」「廓八景」「江戸雀」「壽阿彌手束」「壽阿彌筆記」、
 「筆のまにまに」、1832「姿花後雛形」33「初子日」41「堺開帳三升花衣」著、
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[およびなき心の奥の隠れがをたれかはひとり行きてとふらん]、
 (大江戸倭歌;雑2065/維摩居士を)、

[寿阿弥(;号)の名/字/通称/別号]名;秋邦、字;爽/得入/太朗、通称;五郎作/五郎八、
 別号;月所/来月所/斎斎ちようさい/曇斎どんちよう/空華くうげ/知足緑菴/劇神仙2世、
 屋号;真志屋、法号;東陽院寿阿弥陀仏曇斎和尚、狂寿(狂人の振舞の綽名)

寿阿弥(しゆあみ) → 香以(かうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0
 守安(しゆあん・木俣) → 守安(もりやす・木俣きまた/橘、藩老/歌) J 4 4 7 5
 蛛庵(しゆあん) → 游清(ゆうせい・本間、歌人) 4 6 0 5

G2101 壽庵(しゆあん・大村おおむら) ? - ? 江前期医者;鍼灸など漢方外科的療法に精通、
 1671「捷徑外科俗書」編、「外科熊掌」著

W2142 壽安(しゆあん・北山きたやま/本姓;馬、名;道長、明人の馬榮于男) ?-1701 母;長崎の歌妓(樋口家女)、
 父は明末期戦火を避け長崎に渡来。医学;渡来僧化林・独立門/古医方を奉じ大阪に開業医、
 小倉藩・尾張藩の招聘を固辞/貧者施療に射礼とらず、隠元・即非と交流、風水・地理に通ず、
 「北山医話」「時医録」「時習録」「馬療調法記」「医方捷要」著、「北山友松子医案」編、外編著多、
 [壽安(;通称)の号]号;友松子/仁寿庵/逃禅堂

- W2143 **壽庵**(じゅあん・竹内たけうち) 1670- 1755 86歳 越前の医者、越前丸岡藩本多家の浪人、大野郡北郷村志比原に隠遁; 医業、諸国巡遊/のち真宗に帰依; 親鸞を追慕し諸国巡遊、宝永1704-11頃伊勢参宮の旅日記、「越前国名勝誌」「廻国指南車」著、1730「親鸞聖人御旧跡二十四輩記」著、
[壽庵(;通称)の号]号; 芳契子、法号; 是心
- W2144 **壽庵**(じゅあん・七条しちじょう)? - ? 江中期享保1716-36頃阿波の医者; 徳島藩医、詩人、春潮院住職慈峰と親交、1728阿波十箇所参詣; 1728紀行文「みちの記」著、「白眼先生東行酔吟」著、
[壽庵(;号)の別号]温故祭主/寧野居士/白眼先生
- W2145 **壽庵**(じゅあん;通称・北山きたやま、号; 櫟寿庵)?-? 北山壽安の外孫、大阪の医者、1745「北山友松子医案」編、「腹診之法」著
- W2146 **壽安**(じゅあん・桑原くわばら、名; 惟親) 1776-? 日向飢肥の医者; 上京し賀川蘭齋門; 産術を修学、帰国し飢肥藩医、1813「産航」、「妊娠宝函」編、
[壽安(;通称)の字] 敬夫、寿庵の父
- W2147 **壽安**(じゅあん・吉山よしやま/旧姓; 明石あかし、名; 為章) 1798-1839 42 吉山市右衛門正兼の養子、儒者、肥後熊本藩時習館訓導、穿鑿頭を務む、詩人:「寿安詩集」著、
[壽安(;号)の幼名/通称]幼名; 久馬喜、通称; 太左衛門
- W2148 **壽庵**(じゅあん・川村/河村かわむら/修姓; 川、名; 元善)?-1815? 陸奥盛岡の医者、名山高岳の旅好き、その写生画を画工に描かせ大幅に仕立てる; 谷文晁はそれらを縮写し1804「名山図譜」著、1812「名山図会」編、書画幅・笛類を多数所蔵; 天明飢饉の時盛岡の窮民救済に充てる、
[壽庵(;通称)の字/号]字; 子長、号; 錦城、博の父
- W2149 **壽庵**(じゅあん・橋たちばな、名; 晋明)?-? 江戸期大阪の儒者; 儒を業とす/詩文に長ず、「蘿崖集」「塵史」「読孟」「孟子千二百条紫朱辨」「文例」「徂徠文集註」著、
[壽庵(;号)の字/別号]字; 順明、別号; 蘿厓らがい
- 寿庵(じゅあん・村山) → 素行(そこう・村山むらやま/藤原、歌人) D 2 5 7 3
 寿庵(じゅあん・中山) → 静安(せいあん・中山/倉光、医・儒者) H 2 4 1 6
 寿庵(じゅあん・小野) → 杜陵(とりょう・小野おの、藩士/儒詩) R 3 1 9 1
 寿庵(じゅあん・村上) → 忠直(ただなお・村上むらかみ、国学/歌人) Z 2 6 8 8
 寿庵(じゅあん・津山) → 正行(まさゆき・津山つやま/平野、歌人) Q 4 0 9 1
 寿庵(じゅあん・宮杜) → 藍斎(らんさい・宮杜みやもり、医者/詩人) C 4 8 2 5
 寿庵(じゅあん・菊池) → 寿(ひさし・菊池きくち、医者/歌人) J 3 7 2 5
 樹庵(じゅあん・井口) → 榴荘(りゅうそう・井口いぐち、大庄屋/教育) F 4 9 0 4
 之唯(しゆい・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
 守彝(しゆい/もりつね?・藺田) → 一斎(いっさい・藺田そだ、禰宜/儒詩) E 1 1 1 8
 酒為郷(しゆいごう) → 乾什(けんじゅう、岩本、妓楼主人/俳人) C 1 8 0 7
- W2150 **主一**(しゆいち・高井; 法諱、称; 釈殊意痴)?-1740 江中期浄土宗西山派西谷流の僧、1728「即心念仏談義本辨惑編」/30随筆「白河燕談」/31「蓮門却掃編」32「遂懷往生伝」著、「虚偽決」著、
[主一(;法諱)の号] 竜淵りゅうえん
- 守一(しゆいち・高井) → 守一(もりかず・高井たかい、名主/和学) K 4 4 3 7
 寿一(しゆいち・賀来) → 惟幾(これちか・賀来かく、医者/歌人) Q 1 9 6 0
 従一位禰子(じゆいちいばいし) → 禰子(ばいし・よしこ・九条くじょう、忠教女) B 3 6 3 4
- W2151 **主一郎**(しゆいちろう・加藤かとう、名; 明信、善兵衛文矩2男) 1812-33 早世²² 筑後久留里藩士; 江戸藩邸に住、儒; 藩儒吉田竹窓門、久留米で番士を務む/詩人、「舜窓褥志」「鋸山紀行」「翠巒寄吟」著、
[主一郎(;通称)の号] 子信
- 主一郎(しゆいちろう・小野寺) → 丹元(たんげん・小野寺おのでら、医者) T 2 6 4 2
 主一郎(しゆいちろう・森田) → 義章(よしあき・森田もりた、医者) B 4 7 9 6
 守一郎(しゆいちろう・宮原) → 炳友(あきとも・宮原みやはら、儒者/歌人) L 1 0 6 1
 寿一郎(しゆいちろう・高島) → 千春(ちはる・高島/高嶋たかしま、絵師) F 2 8 1 9

- 寿一郎(じゅいちろう・横井)→ 忠直(ただなお・横井よこい、漢学/史学) 2 7 2 7
W2152 守一(しゅいつ;号) ? - ? 大阪の医者/俳人;大魯社中、
1776几董「続明鳥」2句/76道立「写経社集」3句/76樗良「月の夜」1句入、
[涅槃会ねはんゑや上野の鐘の市いちに入いる](続明鳥;甲142)
守一(しゅいつ;字) → 無能(むのう;法諱・守一;字、浄土僧/歌) C 4 2 9 3
守一(しゅいつ・中村) → 豹斎(ひょうさい・5代中村宗哲、千家塗師) Q 2 1 4 5
守一(しゅいつ) → 朴庵(ぼくあん・佐藤、独笑庵、詩/俳人) C 3 9 8 6
守一(しゅいつ・関) → 守一(もりかず・関せき、神職/国学者) F 4 4 3 0
守一(しゅいつ→もりかず・小川/入交)→ 省斎(せいさい・入交いまり/小川、藩士/国学) I 2 4 2 9
主一(しゅいつ・大森) → 搜雲(そううん;号・大森おもり、絵師) G 2 5 0 7
主一(しゅいつ・沢井) → 穿石(せんせき・沢井さわい、書家) M 2 4 7 7
守一翁(しゅいつおう) → 一抱(いっぽう・岡本おかもと、医者/浄作) H 1 1 8 5
主一堂(しゅいつどう、歌人)→ 宗川(そうせん・清水、歌人) C 2 5 3 6
G2166 珠印(しゅいん) ? - ? 連歌師、1555公条「天文梅千句」入
種員(しゅいん・柳下亭) → 種員(たねかず・柳下亭、合巻作者) 2 6 4 2
守蔭(しゅいん・目賀田) → 守蔭(もりかげ・目賀田めがた、幕臣/蝦夷検分) F 4 4 2 6
守胤(しゅいん・青山) → 守胤(もりたね・青山、神職) F 4 4 6 7
守胤(しゅいん・山下) → 守胤(もりたね・山下、商業/絵師/藩士) F 4 4 6 8
守胤(しゅいん・菌田) → 守胤(もりたね・菌田/荒木田、神職/国学) K 4 4 2 1
櫻隠(しゅいん→そういん) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
G2167 壽印(じゅいん;法諱・如月じよげつ;道号)?-? 1534存 室町期臨濟僧:建仁寺の月舟寿桂門;高弟、
継天壽戩けいてんじゅせんの法弟、1517月舟に随い宮筵に列す;後柏原天皇より扇を賜う、
強記・伶俐で知られる、1533師月舟没後地方に下向;退隠、還俗し学徒に教授か、
「和漢三百抄」編、「幼学詩句」著、「中華若木詩抄」注
寿筠(じゅいん;法諱) → 有和(ゆうわ;道号・寿筠、臨濟僧/聯句) E 4 6 1 6
M2114 集(しゅう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」3句入、
[時とき計る天桴てんぶんの音死の歩み](二葉之松;167/天桴は時計の部品)
N2197 しゅう(脩しゅう・大村おむら、旧姓;那波) 1775-1829 55 京の大村邦全くにあきの妻、
歌;加藤景範門(夫と同門)
W2155 菘(しゅう・百々どど、俊徳男/本姓;越智、俊範しゅんぱん弟)?-? 江末期代々京の医者:父門、
1820「家里松島文会録」
W2156 秀(しゅう・高橋たかはし、通称;藤助)?-? 江後期羽前米沢の和算家;内田五観門、
1830「羽州山形鳥海月山額題算法」/30「斎藤尚中門人額題解」
秀(しゅう・荒川) → 天散(てんさん・荒川、儒者) D 3 0 5 2
秀(しゅう・熊坂) → 磐谷(ばんこく・熊坂/熊阪くまさか、儒者) H 3 6 6 3
秀(しゅう・藤江) → 石亭(せきてい・藤江ふじえ、儒者/俳人) K 2 4 3 9
修(しゅう・上田) → 堂山(どうざん・上田うえた、庄屋/詩人) E 3 1 7 0
修(しゅう・安達) → 清河(せいが・安達あだち、修験/儒者/詩文) 2 4 8 0
修(しゅう・沢野) → 含斎(がんさい・沢野さわの、藩士/儒者) H 1 5 6 3
修(しゅう・尾崎) → 称斎(しょうさい・尾崎おさき、藩儒者/教育) S 2 2 3 2
修(しゅう・深井) → 象山(しょうざん・深井、藩士/兵学/歌人) J 2 2 2 6
修(しゅう・梅本/川合) → 梅所(ばいしょ・川合/梅本、藩士/儒者) B 3 6 5 5
修(しゅう・緒方) → 蘭阜(らんこう・緒方おがた、医者/儒者) C 4 8 0 0
修(しゅう・小西) → 澹斎(たんさい・小西、藩士/儒者/地誌) I 2 6 1 8
修(しゅう/おさむ・竹村) → 東野(とうや・竹村、儒者/藩校教授) H 3 1 5 2
修(しゅう・丸山) → 株修(もとのお・丸山まるやま、宿老/書・歌) L 4 4 4 1
修(しゅう/おさむ・飯尾/江馬) → 榴園(りゅうえん・江馬えま/飯尾、蘭医) D 4 9 0 3
修(しゅう・大林) → 正修(まさなが・大林おおやし/源、藩士/国学) O 4 0 4 1
脩(しゅう・入江) → 東阿(とうあ・入江いりえ、暦算/軍学者) 3 1 7 0

脩(しゅう・大村)	→	しう(しゅう・大村おむら/那波、歌人)	N 2 1 8 2
集(しゅう・岩泉/大菅)	→	南坡(なんば・大菅/岩泉、漢学者/藩儒)	J 3 2 3 6
収(しゅう・石井いはい)	→	三朵花(さんだか・石井/源、儒者/詩人)	G 2 0 0 1
収(しゅう・井内)	→	南涯(なんがい・井内うち、藩士)	I 3 2 7 0
収(しゅう・井上)	→	鴨脚(おうきやく・井上いのうえ、儒者/紀行)	C 1 4 3 5
収(しゅう・野田)	→	恭正(たかまさ・野田のだ、国学者)	Y 2 6 8 9
習(しゅう・山県)	→	溥泉(ふせん・山県、藩士/儒者/詩)	D 3 8 0 4
習(しゅう・細川)	→	潤次郎(じゅんじろう・細川、藩士/航海術)	L 2 1 1 3
就(しゅう→じゆ・釧)	→	雲泉(うんせん・釧くしろ、絵師)	D 1 2 8 7
就(しゅう・松田)	→	芹斎(きんさい・松田まつだ、医者)	Q 1 6 9 6
戢(しゅう・友近)	→	戢(あつむ・友近ともちか、国学者・歌人)	I 1 0 0 4
緝(しゅう・牧江)	→	霞城(かじょう・牧江まきえ、儒者)	L 1 5 9 8
緝(しゅう・池田)	→	草庵(そうあん・池田いけだ、儒者/詩文)	2 5 4 9
周(しゅう・藤沢)	→	雪斎(せつさい・藤沢ふじさわ/藤、医者)	K 2 4 9 2
周(しゅう・藤沢)	→	周(あまね・藤沢、藩士/本草家)	F 1 0 0 7
周(しゅう・西)	→	周(あまね・西にし、洋学者)	F 1 0 0 8
周(しゅう・神崎屋)	→	源蔵(源三げんぞう・神崎屋かんざきや、薬舗)	K 1 8 8 7
贅(しゅう・葛井)	→	文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌)	F 3 8 2 9
襲(しゅう・佐々木)	→	文山(ぶんざん・佐々木/佐/源、書家)	F 3 8 4 0
襲(しゅう・永井)	→	星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者)	C 2 4 1 1
襲(しゅう・河田)	→	小菴(しょうりゅう・河田/土生、絵師)	B 2 2 9 6

G2168 四友(しゅう;号) ? - ? 俳人;1680「山の端千句」宗因・似春と共著、
1682「武蔵曲」入/98「続猿蓑」1句入、
[残る蚊や忘れ時とき出る秋の雨](続猿蓑;巻下)

G2169 示右(しゅう/じゅう・小栗栖おぐるす、名;祐元/祐玄、祐義男)?-1705 京の御霊神社別当家の28代目宮司、
神職;1670法橋/85法印、俳人;息子の雅楽頭元規(景桃)と俳諧を嗜む、芭蕉と交流、
1690芭蕉の年忘歌仙に一座、1691?「俳諧八重桜集」編、
[示右(;号)の別号/法号]別号;苑扇、法号;休樵院、
息祐規 → 景桃(けいとう、小栗栖祐規、神職) G 1 8 4 3

W2153 支幽(しゅう・吉田よしだ) ? - ? 近江膳所藩士/のち剃髪、俳人;
1691「猿蓑」1句/1701支考「帰花」入、

[日当たりの梅咲くころや屑牛蒡くぐぼぼう](猿蓑/昨秋の土中の活牛蒡も初春には屑ばかり)

G2171 志友(しゅう・高市たけち、名;伊兵次)1751-1823 73 紀州藩の御用書肆、御用商人高市六郎兵衛の後裔、
1758(8歳)江戸浅草菓種商で修業;傍ら読書・学問に精励/20余歳で帰郷;書肆経営、
俳人;雑俳点者を援助/芝居小屋開設;浄瑠璃興行、河川浚渫など社会活動にも尽力、
1796藩命で郷土地誌編纂に着手;1812「紀伊国名所図会」編、1805「若の浦」編、
1819-25「折句紀の玉川」編/1820-27浪花宗匠折句「桜多留」撰/1823「すみれ草」著、
[志友(;号)の通称/別号]通称;帯屋伊兵衛、別号;青霞堂/一日庵反朱、法号;華道寿信士

W2154 芝友(しゅう・林はやし) ? - ? 江後期の藩士/紀行文、
1809「府中六所道の栞」(六所明神参詣記/江戸数寄屋橋藩邸より甲州街道を武蔵府中まで)

G2170 士由(志由しゅう・大屋おおや/初姓;沼倉、名;交教かたのり)1788-1850 63 陸前登米郡の国学者、仙台住、
陸奥二本松藩士、俳人;高橋東皐門、兵法;会津の田中東昌門、諸書を渉獵、門人多数、
1818「美佐古鮎みさごずし」編(;馬年・蘭卿校/蘭人ヘンゲレキトーフ跋)/20「三春楽事初編」編、
1839「袖塚集」編、「槐国余話」「花勝見通考」「花逕樵話」「浦伝集」「連集」「不二烟集」著、
[士由(;号)の字/通称/別号]字;久敬、通称;卓蔵、別号;塊然斎/信天翁/探花斎/花逕樵夫

P2139 四友(しゅう・小尾おび、守彦もりひに男)?- ? 江戸後期甲斐五町田村の俳人;父門、
兄植松田彦でんげんの跡を継嗣;蕪庵おん6世、[不断きく声ははなれて初鳥]

志雄(しゅう・北原)	→	因信(よりのぶ・北原きたはら、名主/歌人)	J 4 7 4 1
資友(しゅう・伴)	→	資友(すけとも・伴ばん、藩士/砲術家)	G 2 3 6 7

資有(しゅう・藤原) → 資有(すけあり・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 2 3 7 9
 資祐(しゅう・長沢) → 資祐(すけやす・長沢、幕臣) H 2 3 1 7
 資雄(しゅう・太田) → 持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7
 資雄(しゅう・太田) → 資雄(すけかつ・太田おた、道灌甥/武将/歌) B 2 3 9 3
 資雄(しゅう・樺山) → 資雄(すけお・樺山、藩士/神職/国学/歌) G 2 3 1 0
 子友(しゅう・吉沢) → 聴松(ちようしゅう・吉沢、詩人) I 2 8 9 7
 子友(しゅう・橋本) → 晩翠(ばんすい・橋本はしもと、儒者) I 3 6 2 1
 子友(士友しゅう・佐藤) → 敬庵(けいあん・佐藤さとう、儒者) E 1 8 6 3
 子友(しゅう・小野) → 春庵(しゅんあん・小野おの、藩医) 2 1 9 4
 子友(しゅう・江馬) → 藤渠(とうきよ・江馬えま、藩医/本草学) C 3 1 7 4
 子友(しゅう・橋本) → 政孝(まさたか・橋本/中条、与力/槍術) D 4 0 2 9
 子友(しゅう・山田) → 惟孝(これたか・山田やまだ、薬舗/絵師/詩) R 1 9 4 8
 子友(しゅう・小川) → 官介(かみすけ・小川おがわ/桜井、儒/国学) T 1 5 8 5
 子祐(しゅう・山高) → 信順(のぶより・山高やまたか、藩士/軍法家) E 3 5 0 9
 子祐(しゅう・青木) → 研蔵(けんざう・青木、藩士/医者) K 1 8 7 3
 子祐(しゅう・成川) → 眞棹(まさお・成川なるかわ、医者/歌人) R 4 0 3 0
 子裕(しゅう・田結/宮本) → 元甫(げんぽ・宮本/田結たゆい、蘭医) M 1 8 2 7
 子裕(しゅう・大塚) → 孝緯(たかやす・大塚おつか、儒者) C 2 6 8 4
 子裕(しゅう・浅田) → 上山(じょうざん・浅田あさだ、儒者/詩/書) J 2 2 3 8
 子裕(しゅう・田/井田) → 信斎(しんさい・井田/田、漢学者) O 2 2 5 0
 子佑(しゅう・緒方) → 槐窓(かいそう・緒方おがた、儒者) H 1 5 1 7
 子佑(しゅう・大野) → 祐之(ひろゆき・大野おおの、和算家) H 3 7 6 5
 子有(しゅう・小田野) → 直武(なおたけ・小田野おだの、絵師) B 3 2 5 2
 子有(しゅう・神村) → 正鄰(まさちか・神村かみむら、国学/神道家) D 4 0 7 5
 子宥(しゅう・平出) → 延基(ながもと・平出ひらで、医者/国学) G 3 2 0 4
 子由(しゅう・野田) → 睡鷗(すいおう・宮崎/野田、藩士/武芸家) E 2 3 1 7
 子由(しゅう・柏原) → 瓦全(がぜん・柏原、商人/俳人) C 1 5 2 8
 子由(しゅう・高橋) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4
 子勇(士勇しゅう・小川) → 義倫(よしひと・小川おがわ、神職/皇典) G 4 7 4 5
 子猷(しゅう・牧) → 香松(かうしょう・牧まき、藩士/詩歌/書) J 1 9 8 0
 子雄(しゅう・西島) → 柳谷(りゅうこく・西島/西嶋、儒;講説) D 4 9 9 4
 子熊(しゅう・武藤) → 虎峰(こほう・武藤むとう、藩士/儒者) G 1 9 6 7
 子熊(士熊しゅう・波多) → 嵩山(すうざん・波多/波田/秦、儒者) B 2 3 0 0
 子熊(しゅう・鵜飼) → 拙斎(せつさい・鵜飼うかい、藩士/攘夷派) K 2 4 9 9
 子遊(しゅう・尾見/石島) → 筑波(つくば・石島/石/尾見、浪人/儒詩) 2 9 7 9
 子遊(しゅう・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1
 氏祐(しゅう・丹羽) → 氏祐(うじすけ・丹羽にわ、商家/心学者) 1 2 3 3
 之有(しゅう・佐藤/藤) → 竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者) C 2 8 6 2
 之友(しゅう/ゆきとも・西島) → 八兵衛(はちべえ・西島にしじま、藩士/土木事業) E 3 6 9 4
 之邑(しゅう・堀田) → 之邑(ゆきむら・堀田ほった/紀、神職) F 4 6 7 8
 之雄(しゅう・藤原) → 之雄(ゆきお・藤原ふじわら、歌人) H 4 6 5 5
 之雄(しゅう・堀田) → 之雄(ゆきお・堀田ほった、神職/国学者) H 4 6 2 3
 四有(しゅう・山田) → 三川(さんせん・山田やまだ、儒者/詩人) G 2 0 1 7
 四熊(しゅう・小原;変名) → 簀斎(きさい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
 示右(しゅう・小栗栖) → 景桃(けいとう・小栗栖おぐるす、神職/俳人) G 1 8 4 3
 士友(しゅう・武田) → 立斎(りつさい・武田たけだ、儒医/経学) B 4 9 8 7
 士雄(しゅう・中川) → 忠英(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆) F 2 6 3 4
 士雄(しゅう・瀬名) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2
 士猷(しゅう・福武) → 允(まこと・福武ふたけ、漢学/歌人) 4 0 7 6
 士游(しゅう・本多) → 康伴(やすとも・本多/藤原/酒井、藩主) C 4 5 3 3

- 師右(しゅう・中原) → 師右(もろすけ・中原なかはら、廷臣/故実家) H 4 4 3 2
- Z2162 重(じゅう・西尾にしお、) 1730 - 1816⁸⁷ 近江彦根藩士の妻;西尾隆次の母、藩医の家?
歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- 十(じゅう・岡本) → 季宝(すえたか・賀茂かも/岡本、神職) F 2 3 4 8
- 重(じゅう・) → 重(しげ、江前期歌人) a 2 1 2 7
- 柔(じゅう・清水) → 南山(なんざん・清水しみず、詩人) J 3 2 1 2
- 柔(じゅう・関根) → 延年(のぶとし・関根せきね、藩士/詩人) I 3 5 8 3
- 充(じゅう・岡本/岡) → 稚川(ちせん、岡本/岡、藩士/儒/詩人) E 2 8 5 6
- 充(じゅう・富田) → 王屋(おうおく・富田とみだ、儒/詩賦・天文) C 1 4 3 3
- 充(じゅう・宇佐美) → 蕨亭(ひんてい・宇佐美うさみ、藩士/儒/詩) 3 7 3 8
- 充(じゅう・神田) → 柳溪(りゅうけい・神田かんだ、医者/教育) D 4 9 5 7
- 充(じゅう・土屋) → 安足(やすたり・土屋つちや、藩士/国学) B 4 5 9 7
- 充(じゅう・勝田) → 充(みつる・勝田かつた、幕臣) F 4 1 3 0
- 従(じゅう・渡辺) → 湊水(みなみず・渡辺わたなべ/辺、絵師) O 2 2 9 7
- 従(じゅう・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
- 従(じゅう・立川) → 従(まさる・立川たつかわ/たち-、心学/歌人) Q 4 0 8 5
- G2173 二有(じゅう) ? - ? 俳人・升六門、1810「黄華庵句集」編
- 宝圍(じゅう;字) → 照珍(しょうちん;法諱・宝圍、天台僧) K 2 2 9 4
- 時有(じゅう)すべて → 時有(ときあり)
- 自遊(じゅう・小川) → 春経(はるつね・小川おがわ、国学/歌人) J 3 6 8 0
- 2141 周阿(しゅうあ:号、初名;坂さかの小二郎)?-1375or77? 南北末期連歌師;救済門、二条良基と交流;
1355文和千句参加;56句入;この頃から頭角を表す、56菟玖波集;22句入、
1356-70「紫野千句」参加(168句入;円熟期)、吉体;周阿風連歌の流行(知連抄入)、
1372独吟山何百韻、73応安新式制定(新式追加など)にも関与、救済・心敬らと連歌合、
侍公周阿百番連歌/太閤周阿百番連歌、救済と確執、東国へ行脚;駿河国府・霞関・筑波巡遊、
晩年は句風の相違から良基と離反、1374九州下向(箱崎/安楽寺/宰府山の井で発句);
門弟の九州探題今川了俊を訪問・大内義弘に良基[知連抄]を与える、帰郷後没、常松の父、
[袖ぬらす涙の滝の上に寝て](1379良基「連歌十様」入、付句救済;箕面の山の暁の雨)
- D2147 周阿(しゅうあ) ? - ? 連歌師;1385至徳二年石山百韻(良基催)に参加、
[松一木ひとときあらぬ落葉に色かへで](石山百韻;賦何船第三句/冬も緑;唐崎の松を連想、
前句脇句;石山座主坊杲守こうしゅ;さざ波さむき夜こそふけぬれ)
- G2174 秋鴉(しゅうあ) ? - ? 俳人:1704渭北(淡々)「安達太郎根」入
- G2175 重阿(じゅうあ:法諱) ? - ? 1433存 時宗の四条道場金連寺僧;上人、歌人、
1387「隠岐高田明神百首和歌」参加、連歌作者;二条良基(1320-88)門、
1430足利義教月次参加、1433北野社一万句連歌参加、
勅撰;新後拾遺(1502)新続古今(823)、
[心をぞなほみがくべき墨染めの衣のうらの玉はみずとも](新後拾;釈教1502;重阿上人)、
[おのづから籬になびく竹の葉をよすがにかかる夕顔の宿](高田明神歌;32/牆夕顔)
- W2157 重阿(じゅうあ:法諱) ? - ? 時宗僧/連歌作者、
1476「表佐ひょうさ/おさ千句」参加(;専順・宗祇らと)/1482通直「大山祇社法楽連歌」(万句)参加、
- 重阿(じゅうあ;法諱) → 浄阿(じょうあ;法諱、時宗僧/歌人;1317-79) Q 2 2 7 4
- 十阿(じゅうあ;字) → 義闍(ぎもん;法諱・十阿、浄土僧) M 1 6 1 1
- 重愛(じゅうあい・鈴木) → 重愛(しげちか・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 1 0
- 秋蛙翁(しゅうあおう) → 轍斎(てっさい・堤つみ/荒居、医者/歌人) F 3 0 1 4
- 十握(じゅうあく・島崎) → 土夫(つちお・島崎しまざき、藩士/国学/歌) F 2 9 8 1
- 2140 贅庵(しゅうあん・中井なかい、名;誠之、医者中井玄端男) 1693-1758⁶⁶ 播磨竜野の儒者;三宅石庵門、
大阪住;1724懐徳堂創設に尽力/二代学主、1728「不問語とはすかたり」39「五孝子伝」、「筆塵」、
「春のこぼ」 「富貴村良農事状」 「葬祭私説」 「贅庵和文集」 「贅庵雑記」 「貽範先生遺集」、
[贅庵(;号)の字/通称]字;叔貴、通称;四郎/忠蔵、諡号;貽範いはん先生

- G2177 **秀安**(しゅうあん・深津ふかつ、狂名; 蛙面坊懸水あめんぼうけんすい) ?-? 江戸牛込火之番町の医者、
狂歌: 橘州・南畝と親交、1782橘州「狂歌若葉集」編纂参加(27首入集)、明和十五番狂歌合参、
[待つ春の宵一刻の千金をすこし借りたき年の暮れかな](若葉集/万載集; 六冬)
- G2178 **修庵**(しゅうあん・香川かがわ、名; 修徳、哥吟男) 1683-1755 73 播磨姫路医者/1700京で古医方修学、
; 後藤良山門、儒; 伊藤仁斎門/詩人: 東涯門、古医方を広め儒医一本説を主唱、
薬は実験による効力確認を重視、門弟多数/都賀庭鐘の師、「当世詩林遺編」入、
「医事捷徑」「一本堂雑話」「一本堂行余医言」「一本堂薬選試功」「一本堂題灸点図解」著、
「香川灸点」「秀庵診法」「修庵文集」「病因論」「古学先生文集国字解」「修菴香川先生文」著、
「灸点図説」「温泉攷」著、1729「大学叢」編/31-38「一本堂薬選」44「医事説約」著、外著多数、
[修庵(;号)の字/別号]字; 太仲/太冲、別号; 一本堂
- G2176 **周庵**(しゅうあん・工藤くどう、名; 静卿、桑原くわばら隆朝男) ?-? 江後期仙台の医者; 1810頃仙台藩医、
工藤鞏卿の養子、「報国以言」
- 舟庵(しゅうあん・堀川) → 済(せい・堀川ほりかわ、医者) H 2 4 1 0
 習庵(しゅうあん・五十嵐) → 貞利(さだとし・五十嵐いがらし/田巻、国学) N 2 0 7 6
 修安(しゅうあん・鈴木) → 修安(ながやす・鈴木すずき、藩士/国学者) N 3 2 5 4
 就庵(しゅうあん:号・戴たい) → 独立(どくりゅう; 道号・性易; 法諱、戴笠、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6
 秋庵(しゅうあん・前田) → 知頼(ともより・前田、藩士/記録/日記) R 3 1 0 2
 秋安(しゅうあん・吉田) → 秋安(あきやす・吉田よしだ、国学者) I 1 0 7 9
 柗庵(しゅうかい・比良城) → 林曹(りんそう・比良城ひらき、俳人) K 4 9 6 4
 羞庵(しゅうあん・竹内) → 式部(しきぶ、竹内たけのうち、垂加神道家) B 2 1 5 4
 萩庵(しゅうあん・太田) → 可笛(かてき・太田おた、俳人) O 1 5 1 0
 周庵(しゅうあん・長井/工藤) → 球卿(きゅうけい・工藤/長井、藩儒/医者) M 1 6 4 5
 周庵(しゅうあん・工藤) → 鞏卿(きょうけい・工藤、球卿男/医者/詩) G 1 6 6 8
 周庵(しゅうあん・木村) → 雅敬(まさたか・木村きむら、藩士/医者/歌) D 4 0 2 5
 周安(しゅうあん・田中) → 世文(つぐふみ・田中たなか、医者) F 2 9 9 2
 秀安(しゅうあん・森田) → 元夢(げんむ・森田、俳人) D 1 8 1 1
 秀安(しゅうあん・佐々木) → 秀安(ひでやす・佐々木ささき、神職/歌人) J 3 7 6 4
 秀安(しゅうあん・飯岡) → 秀安(ひでやす・飯岡いおか、名主/歌人) L 3 7 1 4
 秀安(しゅうあん・勝俣) → 秀安(ひでやす・勝俣かつまた、医者/国学) J 3 7 0 7
 秀庵(しゅうあん・石丸) → 秀樹(ひでき・石丸いしまる、医者/歌人) L 3 7 2 2
 岫庵(しゅうあん・大森) → 宗勲(そうくん・大森おおもり、音曲家) B 2 5 1 5
 臭庵(しゅうあん;号) → 宗香(そうこう; 法諱・梅屋; 道号、臨濟僧) B 2 5 3 7
 醜庵(しゅうあん・里村) → 昌築(しょうちく・里村[南家]、幕府連歌師) U 2 2 1 7
 至游菴(しゅうあん) → 月潭(げつたん; 道号・全竜、曹洞僧) H 1 8 2 4
- G2179 **重安**(じゅうあん・伊勢村いせむら、名; 宗善) ?-? 江前期大阪長堀紺屋町の仏師、俳人; 梅盛門、
1656休庵「夢見草」入/のち宗因に接近し談林派; 1663宗因・玖也・春倫と四吟百韻興行、
宗因を大阪俳壇の中心にすることに貢献、1665「大坂俳諧雪千句」編刊、
狂歌: 66行風「古今夷曲集」入/1669百五十番発句合右方参加/75「俳諧糸屑」編、
1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」/75「大坂独吟集」入(宗因点百韻入)、
1674宗信「千宜理記ちぎりき」/76西鶴「俳諧師手鑑」入、生川春明「誹家大系図」(1838頃刊)入、
[十二羽や琴柱ことぢに足らで帰る雁](哥仙; 十八番左/十三絃に琴柱は13)、
[薬喰くすりぐひや七日干ひざらん料理鍋](大坂独吟集/薬喰は寒に7日間位動物の肉を食う)、
(薬喰の鍋は脂が付き乾かない/本歌; 新古今; 1915貫之の難解な歌、
河社はやしほ篠しのにをりはへほす衣いかにほせばか七日干ひざらん)
[重安(;号)の通称/別号]通称; 伊勢村屋弥右衛門、別号; 宗善庵/難波津散人
- G2172 **什安**(じゅうあん・大田おた、名; 秀歳/秀蔵/秀成、秀秋男) 1617-1702 86 尾張名古屋の町医者; 父門、
1676尾張藩医; 禄2百石/1677法橋/1700致仕、「大田什安雑記」、「大田什安諸願達写記」著、
「古触留并勤書」編、
[什安(;通称)の別通称/号]別通称; 竹庵、号; 養気軒、法号; 養気軒無物安貞
 什庵(じゅうあん) → 昌琢(しょうたく、里村; 南家、連歌師) 2 1 9 5

- 従安(じゅうあん・吉川) → 従安(よりやす・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 3
 重安(じゅうあん/しげやす・上田) → 宗箇(そうこ・上田うえだ、家老/茶人) H 2 5 2 0
 重安(じゅうあん・池田) → 重安(しげやす・池田いけだ/今村、歌人) N 2 1 3 1
 就安斎(しゅうあんさい) → 玄幽(げんゆう・就安斎、真言僧/医者) M 1 8 6 2
 W2158 宗意(しゅうい;法諱・徳応;字) 1659-1732 74歳 京の真宗本願寺派の雲晴寺開基、浄光寺5世住職、
 三代能化知空門、紀州鷺森別院の輪番、一時帰京するが1719鷺森に戻り別院本堂再建尽力、
 1693「鷺森旧事記」、「鷺森神社記」「御伝謝徳記」「蓮如上人遺徳記拾穂抄」著
 秋為(しゅうい・豊田) → 秋為(あきため・豊田とよだ、絵師/歌人) H 1 0 3 9
 秀緯(しゅうい・守屋) → 峨眉(がび・守屋もりや、医者/儒者) H 1 5 5 7
 G2180 重以(じゅうい・谷口たにぐち) ? - ? 京の俳人;貞徳門/のち定清(立圃門)門、季吟門、
 1677常矩に随従し貞門から談林に転ず、元禄1688-1704頃俳人から歌人へ;自邸で歌会催、
 1660「百人一句」71「新百人一句」編、1691地誌「吾妻紀行」(3巻)著、
 1676西鶴「古今詐諧師手鑑」入、1682河瀬菅雄[麓の塵]14首入、
 [四方山の雪を埋うむや富士の山](手鑑)、
 [けふの礼や春のものとして長袴](寛政五年乙巳歳旦)、
 [春のたつしるしもけふぞ三輪の山杉の葉青き雪のむら消](麓の塵;春4)、
 [重以(;名・号)の通称/別号]通称;宗兵衛/十郎兵衛、別号;同和/樂山子
 重以(じゅうい・津田) → 重以(しげもち・津田、藩士/武将) S 2 1 9 1
 重位(じゅうい→ちようい) → 重位(ちようい・東郷、兵法家) H 2 8 1 8
 重為(じゅうい)訓すべて → 重為(しげため)
 重彝(じゅうい→しげのり・内海) → 雲石(うんせき・内海うつみ、槍術/漢学) D 1 2 8 6
 重威(じゅうい・野村) → 重威(しげたけ・野村のむら、藩士/詩歌) R 2 1 2 8
 重威(じゅうい・江田) → 霞村(かすみ・江田えだ、儒者/詩) M 1 5 8 5
 重威(じゅうい・古田) → 含章(がんしょう・古田ふるた、藩士/儒者) F 1 5 7 2
 重威(じゅうい・間) → 重新(じゅうしん・間はざま、商家/天文家) X 2 1 6 5
 重威(じゅうい・上田) → 重威(しげたけ・上田うえだ、歌人) N 2 1 4 7
 重威(じゅうい・池松) → 重威(しげたけ・池松いけまつ、医者/歌人) N 2 1 3 2
 重威(じゅうい・池田) → 重威(しげたけ・池田いけだ、国学者) N 2 1 3 0
 重威(じゅうい・小串) → 重威(しげたけ・小串おくし/大蔵、藩士/国学) N 2 1 6 3
 重威(じゅうい・岡田) → 重威(しげたけ・岡田おかだ/小島、藩士/歌) N 2 1 8 5
 重威(じゅうい・佐竹) → 重威(しげのり・佐竹さたけ/中原、書博士/歌) O 2 1 5 3
 重威(じゅうい・西川) → 重威(しげたか・西川にしかわ、国学) Z 2 1 6 3
 重位(じゅうい・東郷) → 重位(ちようい・東郷/瀬戸口、藩士/兵法家) H 2 8 1 8
 重意(じゅうい→しげもと・田沼) → 意行(いぎゆき・田沼たぬま、幕臣) E 4 4 5 8
 重意(じゅうい・竹内) → 重意(しげおき・竹内、郷土史家/詩歌) Q 2 1 7 2
 重意(じゅうい・羽生) → 重意(しげのり・羽生はにゅう、国学者) Z 2 1 7 1)
 十意語(じゅういご/十意・万釈庵ばんしやくあん) → 意語(いご・奥村おくむら/村、伝記説話作者) B 1 1 0 0
 秀一(しゅういち・磯野) → 喜万太(きまた;通称・磯野いその、和算家) L 1 6 9 7
 秀一(宗一しゅういち・森川) → 香山(こうざん・森川もりかわ、弓術家) J 1 9 1 5
 秀一(しゅういち・生駒) → 秀一(ひでかず・生駒いこま、医者/歌人) L 3 7 1 0
 周一(しゅういち・山厓) → 洪(こう;名・山厓やまざし、医者) H 1 9 1 3
 重一(じゅういち・小塙) → 重一(しげかず・小塙おはなわ、藩士/歌人) N 2 1 6 6
 重一(じゅういち・稲垣) → 重一(しげかず・稲垣いながき、歌人) N 2 1 4 1
 拾菴斎(しゅういちさい) → 時風(ときかぜ・山中やまなか、俳人) J 3 1 0 1
 十一兵衛(じゅういちひょうえ・工藤) → 行広(ゆきひろ・工藤、藩家老/武道) F 4 6 5 1
 十一屋五郎兵衛(7代じゅういちやごろうべえ) → 重富(しげとみ・間はざま、質商/天文家) R 2 1 7 1
 十一屋五郎兵衛(8代じゅういちやごろうべえ) → 重新(じゅうしん・間、重富男/商家/天文家) X 2 1 6 5
 十一屋太右衛門(じゅういちやたえもん;通称) → 太右衛門(たえもん・十一屋、華道家) L 2 6 4 0
 W2159 十一郎(じゅういちろう・松田まつだ、金兵衛男) 1826-67 42 津田源四郎の養子;離縁、幕臣;
 1845番町御薬園出役見習手伝/48天文方渋川助左右衛門手付下役;新巧曆書数理の調査、

- 1859長崎奉行支配調役下役/67学問所勤番、1858「推日食地球上見食地方算例」
 周乙(しゅういつ・山厓) → 洪(こう;名・山厓やまざし、医者) H 1 9 1 3
 主一堂(しゅういつどう・清水) → 宗川(そうせん・清水しみず、歌人) C 2 5 3 6
- G2181 秀胤(しゅういん;法諱) ? - ? 南北期の法師/歌人、1384成立「新後拾遺」1179、
 [小山田のひたのかけ縄たえしよりおどろかすべきたよりだになし](新後拾遺;恋1179)
 (引板ひたは鳴子/掛縄は引板を鳴らす縄)
- G2182 秀尹(しゅういん) ? - ? 南北期連歌、1385良基「石山百韻」入
- W2160 秀胤(しゅういん;法諱) ? - ? 1837存 江後期天台宗三光院(比叡山か)僧、
 1826「仙洞御所修学院御幸記」「来迎寺僧現住願一件記」/27「洞中御懺法講記」著
 周印(しゅういん・古篆;道号) → 古篆(こてん・周印、臨濟僧) N 1 9 1 2
 秀員(しゅういん・妻屋) → 秀員(ひでかず・妻屋/妻谷つまや、歌人) C 3 7 9 1
 秀印(しゅういん・富永) → 春駒(はるこま・富永、川柳作者) J 3 6 3 1
 秀允(しゅういん・真宮/橋本) → 稻斎(とうさい・橋本はしもと、藩士) E 3 1 2 5
 秀尹(しゅういん・島川) → 秀尹(ひでただ・島川しまかわ、藩士/国学) J 3 7 7 9
 秀胤(しゅういん・松風) → 秀胤(ひでたね・松風まつかぜ/松岡、神職) L 3 7 2 6
 秀胤(しゅういん・三牧) → 秀胤(ひでたね・三牧みまき、僧/尊攘派) L 3 7 3 3
 秀蔭(しゅういん・賀田) → 秀蔭(ひでかげ・賀田かだ、歌人) C 3 7 9 0
 終隠(しゅういん・古松) → 淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ/清水、医/歌) D 3 8 2 0
- P2130 充因(じゅういん・米原よねはら)? - ? 江後期石見三隅の医者、国学;本居大平門、
 歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入;
 [とこしへにいよよさかえむ神代より神のつたへし神国のみち](八十浦;911道)
- 重員(じゅういん・山田) → 重員(しげたね・山田やまだ、狂歌作者) C 2 1 3 6
 重蔭(じゅういん・渡辺) → 重蔭(しげかげ・渡辺わたなべ、神職/国学) a 2 1 1 5
 重胤(じゅういん・東) → 重胤(しげたね・東とう/平、覚然、武家/歌) C 2 1 3 3
 重胤(じゅういん/しげたね・湊) → 長安(ちやうあん・湊みなと、蘭方医者) H 2 8 1 4
 重胤(じゅういん・鯨岡) → 重胤(しげたね・鯨岡くじらおか、詩人) R 2 1 3 8
 重胤(じゅういん・庭田) → 重胤(しげたね・庭田/源、廷臣/記録) R 2 1 4 0
 重胤(じゅういん・大沢) → 重胤(しげたね・大沢おおさわ、日記執筆) R 2 1 3 6
 重胤(じゅういん・山本) → 重胤(しげたね・山本やまもと/賀茂、国学者) a 2 1 0 1
 重尹(じゅういん・大原) → 重尹(しげただ・大原/源、廷臣/記録) R 2 1 3 5
 重陰庵(じゅういんあん) → 宗周(そうしゅう・金子理平次、俳人) H 2 5 7 9
 萩陰斎(しゅういんさい) → 大朝(たいちやう・中野、僧/俳人) K 2 6 6 4
- W2161 秋雨(しゅうう・熊谷くまがい、名;常)?-1863 周防岩国藩医/詩文を能くす、「揚井日記」著、
 [秋雨(;号)の字/通称]字;子善、通称;白兔
 秀宇(しゅうう→ひでたか・陶すえ) → 石蘭(せきらん・石中庵、俳人) H 2 4 9 5
 拾宇庵(しゅううあん) → 風話(ふうわ・森川もりかわ、俳人) B 3 8 1 5
- W2162 集雲(しゅううん;道号・守藤しむとう;法諱)1583-1621 39 近江の臨濟僧:幼時叡山入/東福寺桂庵守広門、
 得度/1597東福寺223世/1604南禅寺住持;入院はなし、後陽成院に招聘;詩聯会に参加、
 慶長五-元和五1600-19和漢聯句に多数参加、1614徳川家康の命で駿府住;紀行執筆、
 1608「集雲独吟聯句」著、「集雲和尚遺稿」、
 [集雲守藤の号] 江湖散人/湖山
- W2163 集雲(しゅううん;道号・止水しすい;法諱)?-1716 京の臨濟僧;尾張春日井洞光院住僧、
 「朽葉集」「柳井の記」「小金山八景」「十枝松之記」「感応寺開山行基菩薩木牌記」著、
 [集雲止水の号] 如得子、止々斎、志水
- W2164 岫雲(しゅううん・櫛橋くしはし、名;一清)?-? 1720存 福岡藩家老櫛橋又之進の一族か、連歌作者、
 「岫雲独吟千句」「岫雲千句」「一鷗岫雲両吟抜句」著、
 [岫雲(;号)の通称] 弥八郎
 秀雲(しゅううん・千村/松平) → 君山(くんざん・松平まつだいら、藩士/儒者) 1 7 2 8
 集雲庵(しゅううんあん) → 宗啓(宗慶そうけい;法諱・南坊;号、臨濟僧/茶道) B 2 5 1 7
- G2183 習雲子(しゅううんし) ? - ? 俳人、1671「聯句初心鈔」著

- 岫雲亭(しゅううんてい) → 華産(かさん・岫雲亭、狂歌師) F 1 5 0 5
 秀恵(しゅうえ;字) → 弘阿(こうあ;法諱・秀恵、真言僧) H 1 9 1 6
 宗慧(しゅうえ) → 宗慧(そうえ;法諱、真宗大谷派僧) G 2 5 1 5
 W2165 修榮(しゅうえい;法諱) ? - ? 770存 唐からの渡来僧(;本朝高僧伝)、菩提僊那門、
 真言律:道璿門/戒律を修学、大和大安寺住、伝灯住位の時神護景雲四770師の行状記著、
 770「南天竺婆羅門僧正碑并序」/「仙那行状」著、伝灯大法師位に昇る?
 W2167 就英(しゅうえい;法諱) ? - ? 江中期天明1781-89頃筑後久留米の慈恩院僧、
 「筑後句三十三所巡礼歌」/「大慈院殿御製中尾山一字一石塔録」著
 W2166 秀榮(しゅうえい/ひでなが・井上いづえ、別名;栄信)?-? 幕臣/備後・備前守、1814評定所留役/勘定組頭、
 広敷番頭/普請奉行/勘定奉行次席/江戸城修復工事に功績;1835二百俵・43五百俵加増、
 1843御役向の不埒のため下野佐野藩主にお預け、1806「秀榮紀行独語」、「越後巡見記」、
 [秀榮(;名)の通称] 三郎右衛門
 宗叡(宗睿しゅうえい) → 宗叡(そうえい;法諱、真言僧) 2 5 6 2
 宗英(宗栄しゅうえい、妙喜院) → 宗栄(宗英そうえい/しゅうえい;法諱・妙喜院、興福寺僧) 2 5 6 3
 周永(しゅうえい・阪) → 昌永(しょうえい・阪さか、幕府連歌師) F 2 2 4 2
 宗斎(しゅうえい) → 宗斎(そうえい、曹洞僧) G 2 5 1 7
 秋英(しゅうえい・足立) → 秋英(あきひで・足立あだち、藩士/絵師) G 1 0 8 2
 秀榮(しゅうえい;法号) → 忠頼(ただより・多おの、楽人) R 2 6 4 0
 秀榮(しゅうえい、岩橋) → 秀榮(ひでなが・岩橋、歌学) D 3 7 4 4
 秀榮(しゅうえい・平泉/上島) → 鬼貫(おにつら・上島うえしま/平泉、俳人) 1 4 2 4
 秀榮(しゅうえい・木田) → 雪斎(せつさい・月岡つきおか/木田、絵師) K 2 4 9 4
 秀穎(しゅうえい・河村) → 秀穎(ひでかい・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9
 秀穎(しゅうえい・川田) → 秀穎(ひでかい・川田かわだ、神職/国学) J 3 7 1 4
 秀盈(しゅうえい・猿山) → 叡麓(えいろく・猿山さやま、書家) D 1 3 4 4
 修榮(しゅうえい・暁歎房) → 暁歎(ぎょうかん;法諱、修験僧) N 1 6 5 7
 修營(しゅうえい・波多野) → 修營(ながよし・波多野はたの、里正/国学) K 3 2 1 8
 洲英(周永しゅうえい・伴林) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0
 a2138 重英(じゅうえい;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 歌人;1237刊[檜葉集]入、
 [百首歌よみ侍りける中に たかがり、
 はしたか(鶴)のすゑの野原に宿かりてこよひあけなばあさかりにせむ](檜葉;冬345)
 G2184 重榮(じゅうえい・竹山たけやま)? - ? 京室町通上ル下柳原の俳人:重頼門(or立圃or春澄門)、
 竹山定通の従弟、1674「短綆たんこう集」編(諸家の発句を四季類題別に集録)、78「小倉百韻」著、
 「燕遊軒随筆」/「歌仙発句」著、「発句集并聯句集」判、91賀子「蓮実」4句入/「元禄百人一句」入、
 [不思議さに火をよせて見る螢哉](蓮実;212/ナンセンスのおかしさ)、
 [重榮(;号)の通称/別号]通称;七兵衛、別号;燕遊軒
 重永(じゅうえい・西脇) → 重永(しげなが・西脇にしわき、故実家) R 2 1 8 2
 重永(じゅうえい・伊高) → 重永(しげなが・伊高いだか/高崎、神職/歌) N 2 1 2 9
 重英(じゅうえい/しげひで・太田) → 桃先(とうせん・太田、庄屋/俳人) G 3 1 0 9
 重英(じゅうえい/しげひで・長島) → 英斎(えいさい・長島ながしま、書家/歌) C 1 3 7 9
 重英(じゅうえい/しげひで・伊地知) → 重張(しげはる・伊地知いぢち、藩士/記録) S 2 1 2 5
 重英(じゅうえい・萩野) → 重英(しげひで・萩野はぎの、医者/歌) S 2 1 4 2
 重榮(じゅうえい・宇佐) → 重榮(しげひで・宇佐うさ、神職/記録) S 2 1 3 8
 重榮(じゅうえい・鈴木) → 重榮(しげよし・鈴木すずき、幕臣/歌人) a 2 1 6 8
 重榮(じゅうえい・しげひで?・大沢) → 久守(ひさもり・大沢おおさわ、家司/記録) C 3 7 0 6
 重榮(じゅうえい・安達/朝原) → 重榮(しげひで・朝原あさはら/安達、記録) S 2 1 4 0
 重榮(じゅうえい/しげひで?・太田) → 宇逸(ういつ・白水、俳人) 1 2 1 3
 重榮(じゅうえい/しげひで・中里) → 鶴甫(かくほ;通称・中里なかざと、藩医) K 1 5 4 3
 重榮(じゅうえい・下村) → 重榮(しげひで・下村しもむら、藩士/記録) P 2 1 6 1
 重榮(じゅうえい・鳥居) → 重榮(しげよし・鳥居とりい/波多野、神職) Z 2 1 5 1

- 重栄(じゅうえい・鈴木/鈴広)→ 重栄(しげひで・鈴木、飛脚業/和算家) S 2 1 4 1
 重栄(じゅうえい・海福かいふく/鈴木)→ 主税(ちから・鈴木、藩士/記録) C 2 8 3 0
 重盈(じゅうえい・川喜田)→ 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0
 聚英堂(しゅうえいどう)→ 惟長(これなが・市瀬いちせ、和算家) O 1 9 6 1
- W2168 秀益(しゅうえき・賀川かがわ/初姓;太田、名;晋) 1805-51 47 備前牛窓生/医者;大阪の賀川南竜門;養子、大阪賀川家3世を継嗣、産科に長ず/文学を好み古書画・点茶を愛す、「雅言提綱」「産論考」、「帯下論」「南陽叢書」「婦人解剖書」/1841「南陽館一家言初編」編、
 [秀益(;通称)の字/号]字;四明、号;蕃斎/晋斎
- 周益(しゅうえき・木俣)→ 周平(かねひら・木俣きまた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5
 周易(しゅうえき・安東/井上)→ 正鉄(まさかね・井上/富田、神道家) C 4 0 1 7
- a2123 拾悦(しゅうえつ:号) ?- ?1682以前没 江前期;女流歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]25首入、
 [父の20回忌によみ侍りける、
 たらちねの心のやみもたがためと思ひしるべのあり明の月](麓の塵;哀傷568)、
 [五十あまり五年になりて独りむすめにおくれてよめる、
 惜めども梢の花はちり過ぎてかしらの雪ぞ残るかひなき](麓の塵;哀傷569)、
 ☆[拾悦女身まかりけるによみてつかはしける、
 とはじただおくれ先だつ習ひぞと思ひすててもすてられぬ世を](麓の塵;550菅雄)
- W2169 習悦(しゅうえつ:通称・神戸かんべ、号;兮翁けいおう) ?-? 江後期文政1818-30頃の医者・回虫治療、
 「征虫瑣言」著
- 秀悦(しゅうえつ・広沢)→ 菅彦(すがひこ・広沢ひろさわ重賢、歌人) J 2 3 0 7
 秀右衛門(しゅうえもん・高野)→ 栄軒(えいけん・高野たかの、儒者/藩政) C 1 3 6 9
 周右衛門(しゅうえもん・相良)→ 琴州(きんしゅう・相良さがら、俳人) H 1 6 9 8
 周右衛門(しゅうえもん・山内)→ 豊道(とよみち・山内、藩士/学制改革) R 3 1 6 5
 周右衛門(しゅうえもん・原田)→ 信成(のぶなり・原田はらだ、国学者) J 3 5 7 2
 周右衛門(しゅうえもん・福田)→ 頼実(よりざね・福田ふくだ、藩士/国学) O 4 7 8 2
- W2170 十右衛門(じゅうえもん・荒川あらかわ) ?-1841 越前福井藩士;3百50石/俳人:白寿坊門、
 「皐園句集」「野遊の駕」著、
 [十右衛門(;通称)の号]聴松庵松花(;初号)/聴松庵蓬雨/孤雲坊/皐月園
- W2171 十右衛門(じゅうえもん・豊島屋とよしまや、姓;田村) ?-? 江後期江戸鎌倉河岸の酒屋業、狂歌作者、
 狂歌本町側判者;1809「夢の浮橋附録」/1812「興佳きょうか帖」編、「楚漢狂歌合」、
 [豊島屋十右衛門(;通称)の号]春の屋/春廼屋成丈はるのやなりたけ、
 朝寝成丈あさねのなりたけ/罌花園ばいかえん
- 十右衛門(じゅうえもん・工藤)→ 工十(こうじゅう・工藤くどう、俳人/連歌) J 1 9 5 5
 十右衛門(じゅうえもん・松原)→ 自休(じきゅう・松原、軍功/軍記作者) Q 2 1 1 4
 十右衛門(じゅうえもん・田中)→ 佳政(よしまさ・田中/山野、藩士/和算/神道) H 4 7 0 1
 十右衛門(じゅうえもん・佐野)→ 綱道(つなみち・佐野さの、歌人) Q 2 9 9 2
 十右衛門(じゅうえもん・刑部)→ 如濃(じよのう・刑部おさかべ、家士/記録) M 2 2 7 5
 十右衛門(じゅうえもん・池田)→ 利牛(りぎゅう・池田、商家支配人/俳人) 4 9 6 0
 十右衛門(じゅうえもん・桑名)→ 黙斎(もくさい・桑名くわな、藩儒) 4 4 7 9
 十右衛門(じゅうえもん・井上)→ 友貞(ともさだ・井上、俳/歌人) P 3 1 4 8
 十右衛門(じゅうえもん・大津屋)→ 柳江(りゅうこう、商家/俳人) F 4 9 2 9
 十右衛門(じゅうえもん・河村/川村)→ 瑞軒(ずいけん・河村、材木商/土木) 2 3 5 0
 十右衛門(じゅうえもん・箕田)→ 青坡(せいば・箕田みのだ、俳人) J 2 4 3 8
 十右衛門(じゅうえもん・糸屋/打它)→ 公軌(こうき/きんのり・打它うだ/うつだ、歌) E 1 9 9 4
 十右衛門(じゅうえもん・打它)→ 光軌(みつり・打它うつだ/うだ、公軌の孫/歌) E 4 1 4 5
 十右衛門(じゅうえもん・後藤)→ 実崇(さねたか・後藤ごとう、国学/歌人) O 2 0 4 4
 十右衛門(じゅうえもん・鴻池)→ 籃果亭拾栗(らんかていじゅうりつ、商家/狂歌) B 4 8 6 9
 十右衛門(じゅうえもん・宮永)→ 正好(まさよし・宮永みやなが、農政家) I 4 0 6 5
 十右衛門(じゅうえもん・宮崎)→ 元知(もととも・宮崎みやざき、国学/歌人) L 4 4 5 7
 十右衛門(じゅうえもん・野村)→ 英至(ひでゆき・野村のむら、地誌) E 3 7 0 5

重右衛門(じゅうえもん・箕田)→ 牛山(きゅうざん・箕田みた、書家) M 1 6 6 7
 重右衛門(じゅうえもん・金子)→ 照泰(てるやす・金子かねこ、郷土史家) D 3 0 0 2
 重右衛門(じゅうえもん・横山)→ 徳布(とくふ・横山、俳人) L 3 1 3 1
 重右衛門(じゅうえもん・田中/安藤)→ 広重(初世ひろしげ・歌川/安藤、幕臣/絵師) G 3 7 0 2
 重右衛門(じゅうえもん・那波屋)→ 忠成(ただなり・春名、読本作者) F 2 6 4 9
 重右衛門(十右衛門じゅうえもん・淀屋)→ 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7
 重右衛門(じゅうえもん・吉村)→ 朝良(ともよし・吉村よしむら、藩士) Q 3 1 9 2
 重右衛門(じゅうえもん・楠瀬)→ 清蔭(きよかげ・楠瀬くすのせ、藩士歌人) T 1 6 9 8
 重右衛門(じゅうえもん・山口)→ 言信(げんしん・山口やまぐち、和算家) K 1 8 2 1
 重右衛門(十右衛門じゅうえもん・平岩)→ 元珍(げんちん・平岩、藩士/儒/音楽) L 1 8 4 5
 重右衛門(じゅうえもん・篠原)→ 慶英(よしひで・篠原しのはら、武芸者/書画) G 4 7 4 1
 重右衛門(じゅうえもん・那波屋)→ 忠成(ただなり・春名はるな、読本作者) F 2 6 4 9
 重右衛門(じゅうえもん・高木)→ 竹妓(ちくぎ・高木たかぎ、俳人) C 2 8 8 2
 重右衛門(じゅうえもん・深町)→ 北荘(ほくそう・深町ふかまち、商家/詩文) D 3 9 6 8

G2185 秀延(しゅうえん;号) ? - ? 江前期俳人;松堅門、1662政由「俳集良財」(63刊)入

N2188 周円(しゅうえん;法諱、俗名;近藤常太郎)?-1756 伊予周布郡楠村石岡八幡宮の僧、
 紀州の叔父の許出家;のち阿波を経て伊予に入国/壬生川の円海寺の辺の庵に入、
 歌;冷泉為村門、1775(安永4)罹病/76没、歌;「詠百首和歌」に1首/「歌集」に3首入、
 門人達が1807(文化4)「松葉集」刊行(237首/序文;加地信之)、
 [中空の霞にもれて春もなほ雪を姿の伊予の大嶽]

02185 周円(しゅうえん;法諱、号;梅柳軒) 1736-1775 40 武蔵の僧/伊予住/歌;森増道ますみち・冷泉為村門

W2172 秀円(しゅうえん;法諱) ? - ? 江後期江戸の真宗大谷派念速寺の住職、
 1797「弥陀経要解菽粟譚」1808「当麻寺曼陀羅掌中解」、「茶店問答」著

G2186 宗淵(しゅうえん/そうえん;法諱、俗姓;久松ひさまつ、社僧能桂男) 1786-1859 74 京北野天満宮社家の生、
 幼少時大原来迎院で出家/実光院良津より大原魚山声明の奥義修学;声明しょうみょう興隆尽力、
 大原普賢院住職、天台学;豪怒門、近江走井堂・伊勢西来寺の住職;教学面の振興に努力、
 天台権大僧都法印、声明本を多数集成・印図集等を著、「北野文叢」等北野天満宮資料編刊、
 今様にも通ず、1815「曼供導師音用」24「大源声明集」40「法華経考異」著、40「北野藁草」編、
 1841「北野藁草図書」編、41「宝印集」著、「魚山叢書」「竹円雑記」「竹円密記」「渡唐抄草子」著、
 「宗淵短冊」「韻図朝鮮音」「音曲秘要私名目」「北野抄草子」「梵漢法華陀羅尼」外著多数、
 [宗淵(;法諱)の幼名/字/号]幼名;正丸/佐多丸、字;真阿/良淵、号;竹円房/光乗坊/能桂、
 諡号;法華清浄院

秋園(しゅうえん) → 清安(きよやす・山田、歌・考証) D 1 6 6 9

秋園(しゅうえん) → 升子(ますこ・神方、歌・桂園派) J 4 0 0 1

秋園(しゅうえん) → 薫子(におこ・若江わかえ、和漢学/歌) 3 3 1 2

秋園(しゅうえん) → 清安(きよやす・山田やまだ、藩士/国学者) D 1 6 6 9

秋園(しゅうえん) → 古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人) 3 7 8 9

秋園(しゅうえん) → 北馬(ほくば・葛飾、有坂、御家人/絵師) D 3 9 8 6

秋園(しゅうえん) → 武雄(たけお・桜井けさくらい、藩士/国学者) X 2 6 1 9

楸園(しゅうえん) → 安宅(やすいえ・瀬尾せのお、海運業/歌人) G 4 5 0 9

楸園(しゅうえん) → 繁楨(しげさだ/しげよし・大道寺だいどうじ、藩家老/歌) Z 2 1 2 6

檜園(しゅうえん/ならぞの) → 清先(きよさき・小寺、神職/国学) D 1 6 1 5

檜園(しゅうえん/ならぞの・) → 茂正(しげまさ・竹村たけむら、国学/歌/神職) Z 2 1 3 6

修円(しゅうえん) → 修円(しゅうえん・櫻生禅師、法相/天台僧) Y 2 1 5 6

萩園(しゅうえん) → 麴麿(かぢまろ/麴万呂みかまろ・夏目、国学) 4 1 6 1

萩園(しゅうえん) → 豊正(とよまさ・中山、歌人) R 3 1 6 0

萩園(しゅうえん) → 正巳(まさみ・萩原はぎわら、書家/歌) H 4 0 3 5

萩園(しゅうえん) → 正足(まさたり・田代たしろ/藤原、国学/歌) Q 4 0 0 1

秀円(しゅうえん) → 岳輅(がくろ;号、真宗僧/俳人) B 1 5 8 0

- 秀延(しゅうえん・結城) → 秀延(ひでのぶ・結城/藤原、廷臣/故実) D 3 7 5 6
 秀垣(しゅうえん・中川) → 重興(しげおき・中川ながわ/源/村上、武術/歌) a 2 1 2 0
 重淵(じゅうえん・沢田) → 一斎(いっさい・沢田、風月堂5世/書肆) B 1 1 4 2
 重淵(じゅうえん・城じょう) → 竹窓(ちくそう・城じょう、儒者) D 2 8 3 8
 重延(じゅうえん)すべて → 重延(しげのぶ)
 重遠(じゅうえん)すべて → 重遠(しげとお)
 重円(じゅうえん;法諱) → 重円(ちようえん;法諱、天台宗園城寺僧) H 2 8 4 4
 重円(じゅうえん;法諱) → 重円(ちようえん;法諱、天台宗叡山僧) H 2 8 5 1
 重篤(じゅうえん・鈴木) → 重篤(しげすず・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 0 9
 充延(じゅうえん・青木) → 充延(みつのみ・青木あおき、儒者/詩文) E 4 1 3 8
 秋園齋(しゅうえんさい) → 米都(べいと・鈴木すずき、俳人・狂歌) 2 7 7 4
 聚遠亭(しゅうえんてい・林) → 龜瑞(きずい・林、国学者) L 1 6 0 0
 萩垣内(しゅうえんない) → 重郷(しげさと・後藤ごとう、商家/国学/歌) O 2 1 4 5
- W2173 秀翁(しゅうおう;法諱・深慶しんけい;字、俗姓;若林) 1626-9974 伊勢安濃津真言僧;幼時智恩寺慶秀門、出家/1641(16歳)高野山入;地藏院弘翁門、のち蓮花三昧院住、1694碩学に任ぜらる、1699高野山265代寺務検校;没、1663「法華要略頌」69「科註十住心論」75「山王大権現縁起」、1695「具舎論頌記」著、95「阿毘達磨俱舎論図紀」編、「科大乘入道草」外著多数
- 秋翁(しゅうおう・村瀬) → 秋水(しゅうすい・村瀬むらせ、絵師) X 2 1 7 3
 秋翁(しゅうおう・岡本) → 秋暉(しゅうき・岡本おかもと、絵師) H 2 1 0 4
 萩翁(しゅうおう・林) → 良本(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) H 4 7 7 0
 醜翁(しゅうおう/しこつおきな) → 雅澄(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9
 秋央亭澄方(しゅうおうていすみかた) → 澄方(すみかた・秋央亭/真山、狂歌) D 2 3 8 7
 従鷗老漁(じゅうおうろうぎよ) → 成章(なりあき・岡本おかもと、儒・国学/教育) L 3 2 4 9
- G2187 秀億(しゅうおく・明田あけた、号;角醒/春日庵/天目庵)?-? 江戸の俳人・米仲門、其角座平砂側点者、1763俳諧隨筆「標雑談こざえぞうだん」編、「俳諧葛藤」編、1752「江戸十余歌仙」入
- G2188 秋屋(しゅうおく;号) ? - ? 俳人、1801「花はさくら」刊
- G2189 周可(しゅうか;号、別号;吉野山人・謡春庵)?-? 1694存 江前期俳人/地誌家、1671撰集「よしの山ひとりあない」編(吉野屋惣兵衛板/歌・発句等の吉野の絵入地誌)
- G2190 秀可(しゅうか;号) ? - ? 江前期上方の俳人:其角門、1704団水と共編「東西集」編/1705「乙酉十歌仙」07「其角追善筆の帰雁」編
- G2191 楸下(しゅうか;号) ? - ? 俳人:嵐雪門、1719嵐雪十三回忌集入
- G2192 萩花(しゅうか;号) ? - ? 俳人、俳人立羽寿角じゅかくの妻
- G2193 秋瓜(2世しゅうか;号) ? - 1790 江戸の俳人:柳居門、1747「鳥の都」48「星七草」編、1771「夏の曙」編/「秋瓜旅俳諧」、74「其葉うら」78「花天古稀賀集」80「ふた木の春」編、1781「桃の酔」編/89「多少菴句集」、「もゝとせ集」(92刊)、
 「多少庵句集後篇」(;息子慎子編;99刊)外多数、
 [行く秋や数寄屋の咳は畳さし](多少菴句集/畳さしは畳を張替える職人/暮秋の静寂)
 [秋瓜(;号)の別号] 止弦(;初号)/多少庵/松籟庵3世/三斛庵さんこくあん3世、
 円瓜・秋良の師、慎子しんしの父
- W2174 周禾(しゅうか;号) ? - ? 大阪の俳人、茶雷撰高点句集「ひとすぢみち」跋文執筆、1772几董「其雪影」1句入、
 [柴垣のさはると折れる暑さ哉](其雪影;巻尾310/乾燥が続く暑さ)
- 秋瓜(しゅうか) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、麦阿、俳人) D 4 9 3 3
 秋瓜(しゅうか・古川) → 太無(たいむ・古川、柳居門俳人) C 2 6 2 2
 秀佳(秀歌しゅうか) → 三津五郎(3世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 3 9
 秀香(しゅうか・六人部) → 秀香(ひでか・六人部むとべ、神職/国学) L 3 7 4 7
 秀華(しゅうか・奈良井) → 秀萃(ひでとみ・奈良井ならい/高山、歌人) K 3 7 3 4
 周家(しゅうか・平松) → 周家(ちかいえ・平松ひらまつ/大中臣/川端、神職) N 2 8 3 6
 袖香(しゅうか、俳名) → 澤之丞(さわのじょう・萩野、歌伎役・作者) E 2 0 0 6

- 袖香(しゅうか・山田) → 淳子(あつこ・山田やまだ/近藤、歌人) L 1 0 5 5
袖歌(しゅうか、俳名) → 半四郎(6世はんしろう・岩井、歌伎役者) I 3 6 0 5
- G2195 秀雅(しゅうが;法諱) ? - ? 鎌倉期の僧;権律師/律師、歌人;新後拾遺1049、
[恋ひしなぬ程とて身にぞいそがるる人は命もかけぬ契に](新後拾;恋1049)
- G2196 秀賀(しゅうが・鶴亭かくてい、姓;藤村ふじむら/名;光朝)?-? 江後期江戸本所伊予橋の戯作者、
人情本・合巻・往来物執筆:1846-68「教草女房形氣」21-25編/50-56「庭訓武蔵鑑」著、
1857-66「濡衣女鳴神」58-59「安矢女艸」60「身体往来」60-68「金花七変化」61「源家武勇鑑」、
1862「八重桜蝶々記」67「和歌紫小町文章」、「狂歌俗古今集」、「糸廼調第二輯」著、外編著多数、
[鶴亭秀賀(;号)の通称/別号]通称;清之助、別号;春霞楼
- 周雅(しゅうが・伴林) → 光雄(みつお・伴林ともばやし、国学者/勤王) J 4 1 8 8
宗我(しゅうが) → 宗我(そうが・西光院、僧/歌人) G 2 5 4 2
秀雅(しゅうが・篠沢) → 秀雅(ひでまさ・篠沢しのざわ、文筆家/歌人) D 3 7 8 3
秀雅(しゅうが・結城) → 秀雅(ひでまさ・結城ゆうき、廷臣/文筆/書) M 3 7 2 6
秀雅(しゅうが・武田) → 車龍(しやりゅう・武田たけだ、歌人) Z 2 1 3 8
- M2107 重嘉(じゅうか・大隅おおすみ)?-? 江前期備後三原の俳人;貞門系、
1655令徳「崑山土塵集」入、1659梅盛「捨子集」/63「早梅集」入
重華(じゅうか・塩田) → 随斎(ずいさい・塩田しおだ、藩士/儒/詩人) 2 3 5 9
重華(じゅうか・植木/杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
重華(じゅうか・一色) → 重熙(しげひろ・一色いっしき、藩士/漢学者) S 2 1 4 8
住夏(じゅうか・足羽) → 住夏(すみなつ・足羽あすは、神職/国学者) D 2 3 9 5
- W2175 重賀(じゅうが;法諱) ? - ? 1490存 室町戦国期真言僧:醍醐三宝院義賢門、
1439義賢より具支灌頂を受/90三宝院政紹より伝法灌頂を受、醍醐宝池院に住、
1443「曼荼羅供雜記」著
- G2197 十賀(じゅうが) ? - ? 俳人・1692遠舟「八重一重」に独吟入
十駕(じゅうが) → 幸雄(ゆきお・後藤ごとう、国学者) G 4 6 8 3
重駕(じゅうが→しげゆき・正木)→ 舍人(とねり・正木まさき、藩老/歌人) W 3 1 4 5
- W2176 宗快(しゅうかい;法諱、讃岐法印)?-? 1257存 天台僧;大原来迎院住;法印、声明;湛智門、
天台声明の再興者と称される、1236「如法経現修作法六帖」38「魚山目録」著、
1257「長音供養文私見聞」、「懺法作法私」著
- a2158 秀海(しゅうかい;法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧;阿闍梨、
歌人;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加、
[五十鈴河昔の月のめぐり来てくもらぬ御代にまたやすむらん](朝棟亭歌会;91)、
[月影にまた来ん秋を契るこそうき世にとまる心なりけり](同;93)
- W2177 宗海(しゅうかい;法諱) 1360 - 1429 70歳 南北室町期;真言観智院住僧/僧正、
「求聞持秘印」「伝法灌頂日記」著
- W2178 秀海(しゅうかい;法諱) ? - ? 戦国期永禄1558-70頃の天台僧;
叡山東塔西谷の宝林院・吉祥院住僧;法印、西山宝菩提豪宣及び摂津善法寺豪承に修学、
1561頃「胎灌聞書」著、「合灌聞書」「当流諸私記抄出」「穴太流灌頂私記見聞書」著
- W2179 周海(しゅうかい;法諱、深海しんかい;字) 1705-89 江中期真言僧;長谷寺西蔵院芳寿門、
丹波西光寺住/長谷寺に再修学;地藏院住/1758月輪院住/武蔵鷲宮代乗院転住、
1764江戸根生院17世、1765栄慶と護持院住持を争い敗北;戸塚西光院に退隠、
「大疏決扱記」「具舍決扱鈔」「真言教誠義」「即身成仏義述讚」「秘蔵宝鑰開発」、
1759「大日経疏肝心鈔」60「吽字義纂要」89「具舍論義演」外著多数、
- W2180 周海(しゅうかい;法諱) ? - ? 1790存 江戸の天台僧;上野寛永寺凌雲院住僧/僧正、
「坐禅調三略記」「両部神道秘訣」「東照宮造替之砌御経供養法則」外著多数
周海(しゅうかい・加藤) → 素毛(そもう・加藤かとう、遣米使に随行) K 2 5 4 5
拾芥(しゅうかい・比良城) → 林曹(りんそう・比良城ひらき、俳人) K 4 9 6 4
宗海(しゅうかい) → 宗海(そうかい・泉蔵坊、修験僧) G 2 5 4 7
衆海(しゅうかい・藤原) → 衆海(もろうみ・藤原ふじむら、詩人) H 4 4 0 6
- W2181 衆鑑(しゅうがい;法諱・月皎げっこう;字) 1727-1809 83 大阪津村の真宗本願寺派浄明寺住職、泰巖門、

のち僧鎔門、1807文化四年安居に越中の恵航と共に代講を務める、
1765「易行品餽餽」95「二乗成仏章」1803「辨俗難篇」、「浄土論随釈」「從仮入真辨」著、
「溪師問答決疑」「三経宗体章」「樸師行信会通」「破折追善決択篇」外著多数、
[衆鎧(；法諱)の号] 無為室

W2182 秀外(しゅうがい・鈴木すずき、名；長裕)1794-1840⁴⁷ 尾張熱田御目見町の浜魚問屋、俳人；道彦門、
旅の途中に近江で客死、1835「秋草集」「道彦追福集」編、35-39「鈴の音」/39「聯詠」著、
1839「熱田新三歌仙」編、
[秀外(；号)の通称/別号]通称；七左衛門、別号；大清居/鱸亭/鱸汀、
法号；大清居秀外一挙居士

秋厓(しゅうがい・菊池) → 武康(たけやす・菊池さくち/浅井、藩士/国学)W 2 6 7 7

G2198 重懐(じゅうかい/ちようかい) ? - ? 南北期法隆寺弥勒院の五師僧、
1360「太子伝見聞記」著、歌謡；1364「法隆寺縁起白拍子」編

充懐(じゅうかい・朝生) → 充懐(みつかね・朝生あそ、歌人) D 4 1 2 5

重該(じゅうがい・奥平) → 華溪(かけい・奥平おくだいら、詩人) K 1 5 7 1

秋花園(しゅうかえん) → 琴子(きんこ・森田/小倉、漢学者/教育) V 1 6 4 7

G2199 州覚(しゅうかく) ? - ? 平安後期歌人、

1178(治承二)顯昭判「廿二番歌合」参加、

[さらぬだにはらはぬ庭のさびしきに一葉を散らす秋風ぞ吹く](廿二番歌；五番右10)

M2115 終角(しゅうかく) ? - ? 江前期俳人；1691不角「二葉之松」3句入

[待つうちの蚊帳かやは軒はたるの座敷牢](二葉之松；160/恋人を待つ間/軒は連俳用字)

周格(しゅうかく・物先) → 物先(もつせん・周格、臨濟僧) B 4 4 9 0

秀鶴(しゅうかく・中村) → 仲蔵(初世なかぞう・中村、歌舞伎役者) D 3 2 9 7

秀鶴(しゅうかく・中村) → 仲蔵(3世なかぞう・中村、歌舞伎役者) D 3 2 9 8

H2100 周噩(しゅうがく；法諱・巖中げんちゆう；道号、摂政九条経教男)1359-1428⁷⁰ 臨濟僧；春屋妙葩門、
師に随従、鎌倉で詩文；義堂周信門、備前天寧寺・山城等持寺住寺/1413相国寺22世、
天童寺65世、1423南禅寺102世/その間相国寺鹿苑院塔主；僧録職、天童寺持地院など開創、
「養浩集」著、

[巖中周噩の初名号/号]初道号；天助、初法諱；周祐、号；懶雲子/天府/鳳城

秀岳(しゅうがく；法諱) → 髻珠(けいしゆ；道号・秀岳、曹洞僧) G 1 8 0 5

秀岳(しゅうがく・良岑) → 秀崇(秀岳ひでおか・良岑/良峰、廷臣/歌) C 3 7 8 5

周学(しゅうがく・山田) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0

従覚(じゅうかく；別法諱) → 慈俊(じしゆん；法諱、真宗僧) D 2 1 9 9

重角(じゅうかく・河地/大矢) → 重門(重角しげかど・大矢/河地、商家/歌) C 2 1 1 0

a2146 修学房大輔(しゅうがくぼうのだいふ) ? - ? 鎌倉期；南都興福寺?の修学房の童

歌人；1237刊[檜葉集]入、

[月ゆゑにいくたびものを思ふらむまつもをしむもひとよならねば](檜葉；雑828)

聚化軒(しゅうかけん) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6

秋佳子(しゅうかし・井田) → 寒涯(かんがい・井田いだ、庄屋/俳人) Q 1 5 0 6

縦画生(じゅうがせい) → 春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師) J 2 1 9 4

十月堂(じゅうがつどう) → 寒瓜(かんか・井上、俳人) D 1 5 4 9

周滑平(しゅうかつへい→すこつへい) → 亀文(きぶん・大河原おのがわら、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1

秋可亭(しゅうかてい) → 夕静(積清せきせい・岸きし、俳人) K 2 4 3 3

H2102 秋花堂(しゅうかどう・久澄ひさずみ) ? - ? 京の浮世草子作者、1702「飛鳥川当流男あすかがわとりゅうおとこ」著

莠莪堂(しゅうがどう) → 中陵(ちゅうりょう・佐藤、本草家) G 2 8 9 8

萩花風葉楼(しゅうかふうようろう) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学/神職) K 4 0 1 3

W2183 秋澗(しゅうかん；道号・道泉どうせん；法諱、諡号；大法源禪師)1263-1323⁶¹ 鎌倉期備中の臨濟僧；

備中井山の宝福寺鈍庵慧聡門/東福寺入、鎌倉の大休正念門；師没後に嗣香を通じ嗣法、
相模大慶寺住持/1321鎌倉寿福寺住持；同寺に没、「秋澗録」著

W2185 秀貫(しゅうかん) ? - ? 俳人；1763秀億「標雑談こずえぞうだん」発句入

- W2186 **周監**(しゅうかん;通称・西谷にしたに)?-? 江後期の医者;上州高崎藩医、藩主大河内輝聰作の「奇石録」の図を描く(安政七1860画)
- 周監(しゅうかん・菅原) → 南涯(なんがい・菅かん/菅原、篆刻家) I 3 2 6 3
 周観(しゅうかん) → 普寧(ふねい;法諱・周観;字、真言僧) D 3 8 5 9
 周翰(しゅうかん→ちかもと;名) → 眞仁法親王(しんにん/まさひとほしんのう、天台座主/日記) P 2 2 5 5
 周翰(しゅうかん・野田/橘) → 惟嶽(これたけ・橘たちばな/野田、儒者) O 1 9 4 5
 秀貫(しゅうかん・夏田) → 秀貫(ひでつら・夏田なつた、商家/国学) K 3 7 4 6
 秀幹(しゅうかん・二木) → 秀幹(ひでもと・二木ふたき/にき、酒造業/歌) K 3 7 9 0
 秀感(しゅうかん;字) → 日春(にっしゅん;法諱・中道院、日蓮僧) E 3 3 1 3
 集箴(しゅうかん→しゅうしん;法諱) → 益之(えきし;道号・集箴しゅうしん、臨濟僧) F 1 3 6 5
- W2187 **秋巖**(しゅうがん・萩原はぎわら、名;輩き、道高男)1803-7775 上州藤岡の生/江戸住、儒・書;市河米庵門、書家;巻菱湖門;菱湖四天王の1、1825菱湖に随い伊勢津藩主藤堂高猷に出仕、詩;宮沢雲山門、江戸浅草不動智内住/下谷長者町一丁目に転居、1859「前赤壁賦」書、「萩原秋巖真行絶句」書/「墨苑異纂」編/「書法薈粹」「十体源流」著、[秋巖(;号)の字/通称/別号]字;大飛/文侯、通称;只助/祐助/自然、別号;介庵/松筠堂しゅういんどう/古梁漁史/古梁漁夫
- 周巖(しゅうがん・東沼とうしゅう) → 周巖(しゅうげん;法諱・東沼、臨濟僧) H 2 1 2 7
 重寛(じゅうかん・板倉) → 重寛(しげひろ・板倉いたくら、藩主/国学) N 2 1 3 7
 十願王院(じゅうがんおういん) → 智周(ちしゅう;法諱・徧詢;字、天台僧) E 2 8 3 2
 秋巖仙史(しゅうがんせんし) → 元瑞(げんずい・小石こいし、医者/詩文) E 1 8 2 2
- H2104 **秋暉**(しゅうき・岡本おかもと、名;隆仙、彫金家石黒政美男)1807-6256 母;岡本祐仙女、江戸の絵師、画;大西圭斎門/渡辺華山門、母方姓を嗣ぐ/一時小田原藩に出仕;栄達を固辞、佐竹永海・二宮尊徳と交流、北宋風・花鳥図に長ず、「秋暉筆下夕絵」画、[秋暉(;号)の字/通称/別号]字;柏樹、通称;祐之丞、別号;秋翁
- 修喜(しゅうき・小出) → 兼政(かねまさ・小出こいで、暦算家) O 1 5 9 3
 緝熙(しゅうき/つぐひろ・津軽) → 儼淵(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者) E 1 8 8 2
 秀起(しゅうき・新村) → 秀起(ひでおき・新村しんむら、国学者/歌) J 3 7 8 8
 秀喜(しゅうき;初諱) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭;法諱、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
 秀機(しゅうき・三輪) → 秀機(ひでのり・三輪みわ、藩士/歌道) L 3 7 3 5
 秀驥(しゅうき・松崎/長谷川) → 宗右衛門(そうえもん・長谷川/松崎、藩士/勤王) G 2 5 3 0
 就姫(しゅうき・久我) → 美子(よしこ・久我がが/細川、歌人) D 4 7 2 8
 就軌(しゅうき・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主) E 4 4 4 0
 就義(しゅうぎ・河合) → 就義(なりよし・河合かわい/伊東、神職/歌人) L 3 2 7 2
 集義(しゅうぎ・朝日) → 一貫斎(いっかんさい・朝日あさひ、藩士/儒) G 1 1 8 5
- H2105 **重軌**(じゅうき・山本やまもと、号;国友くにとも/塵介子)?-? 近江大津の鉄砲鍛冶(国友銘)/俳人;立圃門、1668「嗚呼立あつた千句」著、1659重以「百人一句」65立圃「小町躍」70種寛「誹諧詞友集」入
- P2125 **重紀**(じゅうき・岡嶋おかじま) ? - ? 江前期伊丹俳人;貞門、1667貞室「玉海集追加」の発句;[大内や太古にまさる御代の春]
- P2106 **重規**(じゅうき・佐伯さえき) ? - ? 江前期安藝の俳人、1690言水「新撰都曲」2句入、[残菊はなほ恥多き霜間しもま哉](都曲;上199/名前のうえに冬まで残る恥ずかしさ)
- 充輝(じゅうき・吉成) → 充輝(みちてる・吉成よしなり/渡辺、藩士/剣術家) B 4 1 9 3
 重基(じゅうき) すべて → 重基(しげもと)
 重季(じゅうき・高松) → 重季(成季しげすえ・高松/藤原/武者小路、廷臣/歌学) C 2 1 2 4
 重器(じゅうき・西村) → 茂樹(しげき・西村にむら、藩士/洋学者) C 2 1 1 6
 重規(じゅうき・鈴木) → 重規(しげのり・鈴木/穂積、幕臣/歌人) S 2 1 0 4
 重規(じゅうき・小林) → 重規(しげのり・小林こばやし、神職/剣法) S 2 1 0 9
 重貴(じゅうき・吉川) → 重貴(しげたか・吉川きつかわ、国学者) O 2 1 2 6
 重軌(じゅうき・豊原) → 重軌(しげみち・豊原とよはら、藩士/国学者) S 2 1 7 9
 重記(じゅうき・菅原/進藤) → 重記(しげのり・進藤/菅原、神職/地誌) S 2 1 0 6

重琦(じゅうき・千村) → 重琦(しげかた・千村ちむら、本陣/歌人) Q 2 1 7 5
 重禧(じゅうき・柏原) → 重禧(しげよし・柏原かしわばら/藤原、神職/国学) O 2 1 0 2
 重達(じゅうき・甲斐) → 重達(しげみち・甲斐かい、国学/歌/尊攘) N 2 1 9 0
 重暉(じゅうき・薬袋) → 重暉(しげあき・薬袋みない、藩士/詩人) Q 2 1 5 2
 重熹(じゅうき・川北) → 温山(おんざん・川北かわきた、儒者/詩文) B 1 4 6 1
 重徽(じゅうき・沢田) → 静庵(せいあん・沢田さわだ、儒者/詩人) H 2 4 2 6
 重熙(じゅうき)すべて → 重熙(しげひろ)
 重騏(じゅうき・大脇) → 自笑(じしょう・大脇おおわき、幕臣/武術) T 2 1 8 5
 重宜(じゅうぎ・久保) → 重宜(しげなり・久保くぼ、文筆家) R 2 1 8 6
 重義(じゅうぎ・羽間) → 重義(しげよし・羽間はざま、質商/歌人) T 2 1 1 1
 重義(じゅうぎ・埴) → 重義(しげよし・埴はなわ、藩士/攘夷論) T 2 1 1 7
 重義(じゅうぎ・伊藤) → 重義(しげよし・伊藤いとう、商家/歌人) N 2 1 3 4
 重義(じゅうぎ・弘中) → 重義(しげよし・弘中ひろなか、医者/歌人) Z 2 1 7 9
 重儀(じゅうぎ・日野) → 祖右衛門(そえもん・日野ひの、商家/国学) L 2 5 0 8
 宗義観(しゅうぎかん) → 一麿(いちまる・石橋、俳人) E 1 1 3 1
 集義館(しゅうぎかん) → 誉恕(たかひろ・桂かつら/平、神職/国学) W 2 6 5 3
 秀吉(しゅうきち・本城) → 紫巖(しがん・本城ほんじょう、藩儒) P 2 1 8 9
 修吉(しゅうきち・真鍋) → 叡美(えいび・真鍋まなべ/赤松、医者/俳人) D 1 3 3 3
 終吉(修吉/周吉しゅうきち・豊島) → 豊洲(ほうしゅう・豊島としま/中岡、儒者) B 3 9 4 3
 襲吉(しゅうきち・永井) → 星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者) C 2 4 1 1

K2120 重吉(じゅうきち) ? - ? 江前期;大阪?の俳人、

1673西鶴「生玉万句」第三椿脇句入、

[うぐひすの声出合ひ遠近をちこち](生玉万句;椿脇句、

出合遠近;千句万句に席次の遠近問わず最初の声の主の句を採用、

発句有年;玉椿八千代を籠こめし万句哉)

W2188 重吉(じゅうきち・小栗おぐり) 1784-1853 70歳 尾張知多郡半田村の船頭、1813漂流;10ヶ月、
 アメリカ・ロシアを経て4年後帰国/尾張藩お抱えの船頭となる、
 「ヲロシアノ言」「魯西亜国衣類器物披露来由書」著

重吉(じゅうきち・橋) → 重吉(しげよし・橋たはな、重言/官人/歌) D 2 1 3 8

重吉(じゅうきち・檜垣) → 貞和(さだかず・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 9 2

重吉(じゅうきち・原田) → 曲斎(きよくさい・原田はらだ、商家/俳人) C 1 6 9 9

重吉(じゅうきち・田中) → 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6

重吉(じゅうきち・花木) → 重辰(しげとき・花木はなき、藩士/歌人) Z 2 1 7 0

重吉(じゅうきち・松浦) → 舜挙(しゆんきよ・松浦、絵師) Z 2 1 3 6

重吉(じゅうきち・友野) → 則裕(のりひろ・友野とも、和算家) F 3 5 6 5

充吉(じゅうきち・内藤) → 有慶(ありよし・内藤ないとう/国府/中臣、藩士/神職) I 1 0 0 7

柔吉(じゅうきち・古河/新宮) → 凉閣(りょうかく・新宮しんぐう/古河、蘭医) G 4 9 8 7

従吉(じゅうきち・福井/山本) → 達所(たつしよ・山本/福井、典薬寮医者) R 2 6 6 2

修橋(しゅうきつ・牧野) → 康哉(やすし・牧野まさの/源、藩主/詩人) C 4 5 2 6

集義堂(しゅうぎどう) → 尚志(たかもと・上野うえの、藩士/兵学者) N 2 6 4 5

W2189 周休(しゅうきゅう;法諱・無学むがく;字、俗姓;葉) ?-? 江後期1818-48頃上州勢多郡横野村の天台僧、
 11歳で地元極楽院の周師門;出家、のち渋川遍照寺住職、詩人、医・卜術に通ず、
 「竹溪三集」「小隠集」著、1818-45「竹溪小稿」著、
 [周休(;法諱)の号]竹溪/無学道人

脩久(しゅうきゅう・賀茂) → 脩久(ながひさ・賀茂、神職/歌人) F 3 2 4 4

集久(しゅうきゅう・万里) → 集九(しゅうく・万里、詩人) H 2 1 1 6

鷲丘(しゅうきゅう;号) → 恵旭(えぎよく;法諱、真宗僧/親鸞研究) D 1 3 7 2

周及(しゅうきゅう;法諱) → 愚中(ぐちゅう;道号・周及、臨濟僧) C 1 7 4 6

重久(じゅうきゅう・賀茂) → 重久(しげひさ・賀茂かも、歌人) C 2 1 8 9

- 重久(じゅうきゅう・馬場) → 重久(しげひさ・馬場、医者/養蚕家) S 2 1 3 4
 重旧(じゅうきゅう・阿部) → 重旧(しげひさ・阿部あべ、幕臣/記録) S 2 1 3 6
 重旧(じゅうきゅう・松岡) → 重旧(重布留しげふる・松岡まつおか、神職/歌) N 2 1 1 0
 重躬(じゅうきゅう・秦) → 重躬(しげみ・秦はた、官人/随人/観相) a 2 1 7 5
 重躬(じゅうきゅう・伊高) → 重躬(しげみ・伊高いだか/田部、神職/歌) N 2 1 3 1
 十牛庵(じゅうぎゅうあん) → 曲川(きょくせん・山内、商家/俳人) P 1 6 1 6
 十九助(じゅうきゅうすけ→とくすけ) → 篤助(初世とくすけ・奈河ながわ、歌舞伎作者) 3 1 4 0
- H2107 修居(しゅうきょ・味池あじち、名;直好、味池[岩崎]安貞男) 1689-1745⁵⁷ 父;一時岩崎家に入/のち復姓、播磨美嚮郡竹原村の儒者;京の浅見綱斎・三宅尚斎門、京で敬義学を講ず、1728肥前唐津藩に出仕/29辞去;帰郷/閑居、1734「南狩録」39「朱子訓子帖別録」、「洪範全書統録講義」「三種神器不墮賊手論」「易学啓蒙聞書」著、[修居(;号)の通称]松之助/儀平(義平)
- H2108 秋挙(しゅうきょ・中島なかじま、名;衛輔) 1773-1826⁵⁴ 三河刈谷藩士/俳人・士朗門、1801師に随い同門松兄と共に諸所遊歴、致仕後は碧海郡小垣江に草庵結、東雅・宜彦の師、「士朗終焉記」「曙庵しよあん句集」著/1810「小殿原」「浜名紀行」著/12「惟然坊句集」編、1817「つれづれ」19「枇杷園句集後篇」編/24「弥生日記」著、[秋挙(;号)の通称/別号]通称;大之進/大之丞、別号;曙庵/竹巢
- 周挙(しゅうきょ・岸上/加藤) → 暁台(きょうたい・加藤/岸上きしのうえ、俳人) 1 6 3 6
 秀居(しゅうきょ・中臣) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
- H2109 舟魚(しゅうぎょ) ? - ? 江前期俳人:一品門、1685風瀑「一楼賦」入、1687一昌「丁卯ていぼう集」入
 [紅葉子はけふは鯉に火あてせん](一楼賦)
- W2190 秋漁(しゅうぎょ・梅辻うめつじ/琴、名;更張つぐはる、春樵男) 1824-97⁷⁴ 代々近江坂本日吉神社神官、幼時より家学を受け大学寮講師、儒者・神職、1868「織錦学製集初編」編、[秋漁(;号)の字/別号]字;玉佩、別号;彩連/平格
- 重巨(じゅうきょ・舎人とねり) → 重巨(しげなお・舎人、本草/華道家) R 2 1 7 8
- H2110 周鏡(しゅうきょう;法諱・月翁げつおう・げつとう;道号) 1419-1500⁸² 近江臨濟僧;巖仲周噩しゅううがく門/嗣法、1485南禅寺225世/1489-92頃相国寺鹿苑院住;僧録職/93相国寺住寺、同寺栖芳軒に隠棲、「北斗集」入、「江介集」「月翁和尚語録」「北野君小伝」著、[月翁周鏡の号] 江介老人/交蘆/三蘆
- W2191 秀享(しゅうきょう;法諱) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃武州北埼玉郡荒木村の真言僧;真観寺住職、1751「小見郷真観寺略記」著
- 秀郷(しゅうきょう・藤原) → 秀郷(ひでさと・藤原、武将) D 3 7 0 5
 秀恭(しゅうきょう・芝) → 秀恭(ひでやす・芝しば/加藤、藩士/神職) J 3 7 7 7
 周郷(周卿しゅうきょう・土井) → 后雛丸(のちのひなまる、九日庵、狂歌師) 3 5 6 5
 宗興((しゅうきょう;法諱) → 宗興(しゅうこう;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 2 2
 宗教(しゅうきょう・難波) → 宗教(むねのり・難波/藤原、廷臣/蹴鞠) C 4 2 1 6
 宗教(しゅうきょう・高橋) → 宗教(むねのり・高橋/紀、廷臣) C 4 2 1 8
 秋郷(しゅうきょう・坂本) → 秋郷(あきさと・坂本さかもと、国学/神職) H 1 0 6 7
 秋郷(しゅうきょう・福島) → 秋郷(あきさと・福島ふくしま、商家/歌人) I 1 0 3 6
 集堯(しゅうぎょう;法諱) → 仁如(にんじょ/じんじょ;道号、臨濟僧/詩文/聯句) G 3 3 9 7
 秀堯(しゅうぎょう・五代) → 秀堯(ひでたか・五代、藩士/儒者) D 3 7 1 3
 秀業(しゅうぎょう・松本) → 秀業(ひでなり・松本まつもと、神職/歌人) D 3 7 5 3
 周暁(しゅうぎょう・猿山) → 竜池(りゅうち・猿山さやま、書家) F 4 9 1 8
 重供(じゅうきょう・望月) → 重供(しげとも・望月もちづき、俳人) M 2 1 9 6
 重供(じゅうきょう・志水) → 重供(しげとも・志水しみず、国学者/歌人) O 2 1 6 8
 重恭(じゅうきょう・久徳) → 重恭(しげやす・久徳きゅうとく、藩士/詩人) S 2 1 9 6
 重恭(じゅうきょう・国友) → 一貫斎(いっかんさい・国友、砲術/蘭学) G 1 1 8 4
 重恭(じゅうきょう・川崎) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3
 重恭(じゅうきょう・檜崎) → 幸名(ゆきな・檜崎ならさき、藩士/国学/歌) H 4 6 0 8

- 重匡(じゅうきょう・小林) → 重匡(しげまさ・小林こばやし、国学/歌) O 2 1 4 1
 重教(じゅうきょう・藤原) → 重教(しげのり・藤原、鎌倉幕臣/歌人) C 2 1 8 0
 重教(じゅうきょう・城) → 竹窓(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8
 重教(じゅうきょう・前田) → 重教(しげみち・前田/菅原、藩主) S 2 1 8 0
 重教(じゅうきょう・河合) → 重教(しげのり・河合かわい、藩士/歌人) O 2 1 1 4
 重郷(じゅうきょう・落合) → 重郷(しげさと・落合、剣術家/郷土史家) C 2 1 2 1
 重郷(じゅうきょう・北村) → 重郷(しげさと・北村きたむら、陰陽/歌人) O 2 1 2 5
 重郷(じゅうきょう・吉村) → 重郷(しげさと・吉村よしまら、庄屋/天誅組) R 2 1 0 4
 重郷(じゅうきょう・江田/舟越) → 雲溟(うんめい・舟越ふなこし、絵師) B 1 2 7 8
 重郷(じゅうきょう・後藤) → 重郷(しげさと・後藤ごとう、商家/国学/歌) O 2 1 4 5
 重郷(じゅうきょう・荒川) → 重郷(しげさと・荒川あらかわ、歌人) N 2 1 2 1
 重郷(じゅうきょう・小串) → 重郷(しげさと・小串わおぐし、神職/国学) N 2 1 6 1
 重郷(じゅうきょう・北田) → 重郷(しげさと・北田きたただ、歌人) O 2 1 2 4
 重郷(じゅうきょう・花井) → 重郷(しげさと・花井はない/吹原、国学者) Z 2 1 6 8
 住郷(じゅうきょう・中川) → 住郷(すみさと・中川なかがわ、神職) I 2 3 8 9
 十暁(じゅうぎょう・俳名) → 歌右衛門二世(うたえもん・中村) B 1 2 7 8
 従業(じゅうぎょう・長野) → 従業(よりなり・長野ながの、藩士/歌人) O 4 7 2 6
 重暁(じゅうぎょう・拾井/木内) → 石亭(せきてい・木内きのうち/拾井、本草/愛石家) D 2 4 7 4
- P2107 岫曲(しゅうきよく) ? - ? 俳人、1690北枝「卯辰集」2句入
 [蝶鳥てふとりにあぶなき梅の零しづく哉] (卯辰集;一30)
- W2192 秀旭(しゅうぎよく;法諱・輝雲;道号)?-1561 陸中曹洞宗僧;水沢大林寺2世/総持寺951世、
 「笑翁禪師行業記」著
- W2193 周玉(しゅうぎよく・安立坊あんりつぼう、高田安立坊)?-? 江戸前期の真宗高田派僧、華道家;池坊専好門、
 「御巻」、息;雲泰うんたいも華道家(立花)
- 周玉(しゅうぎよく;法諱) → 潤甫(じゅんぼ;道号・周玉;法諱、臨濟僧/歌/狂歌) K 2 1 4 5
 重巖(じゅうぎよく・関) → 重巖(しげたか・関せき、藩家老/地歴) R 2 1 2 0
 十玉斎(じゅうぎよくさい・賀) → 玉斎(ぎよくさい・千賀ちが/賀が、儒者) O 1 6 9 4
 舟居斎(しゅうぎよさい) → 雪村(せつそん;道号・周継;法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3
 集虚斎(しゅうきよさい) → 右麦(うまぎ 友麦ゆうばく・桑原くわばら、俳人) D 4 6 5 8
- H2113 秋錦(しゅうきん・竜田舎たつたのや)?- ? 江後期絵師、1868「新增補浮世絵類考」編
 H2114 秋琴(しゅうきん、浦上玉堂男) 1787?-? 絵師、1797以後:玉堂琴士集後集に「山水図」
 W2194 秋琴(しゅうきん・大島おおしま、名;克)?-? 江後期越後新潟の音曲家/伊勢津に移住、
 月琴・一絃琴に秀で煎茶・篆刻・画に通ず;書画鑑定に長ず、
 1851「一絃琴譜」著/60「観生居月琴詞譜」編
- 02184 秀欣(しゅうきん;法諱、) 1804 - 1879 76 備後深津郡の福山明泉寺住職、歌人
 秀金(しゅうきん→ひでかね・中山) → 巖水(いずみ・中山なかやま/宮川、藩士/史家) J 1 1 8 4
 秀近(しゅうきん・檜原) → 秀近(ひでちか・檜原ならはら、書家/歌人) K 3 7 5 0
 宗閻(しゅうぎん;法諱・笑岩) → 笑岩(あせきしょうがん;道号・宗閻、曹洞僧) H 2 2 8 3
 充均(しゅうきん・小島) → 充均(みつただ・小島/小嶋/源、役人/地図) D 4 1 8 1
- H2115 重吟(じゅうぎん;号) ? - ? 室町後期和泉堺の連歌師:肖柏門;高弟、
 師の池田在住時代から没年まで行動を共にす、1516宗碩庵「十花千句」参加、
 1518宗長「東山千句」参加、21士祥と山何百韻/1529師の3回忌を前に遺稿「春夢集」完成、
 1537師の遺影を画幅、追善和歌会を三条西実隆邸で行う
 修琴斎(しゅうきんさい) → 吟夕(ぎんせき・富松とみまつ、俳人) E 1 6 1 9
 琇吟社(しゅうぎんしゃ) → 千種庵(ちくさあん、磐樹、商家/狂歌師) D 2 8 0 3
- W2195 周欽尼(しゅうきんに;号、小倉吉久女)?-? 江前中期1673-1716頃伊勢の歌人、
 1715「心花集」、「清渚集」著(巻中に1680撰集のものに加筆した旨の記事あり)
- H2116 集九(しゅうく/しゅうきゅう;法諱・万里ぼんり;道号、俗姓;速水) 1428-1507?80? 近江安曇郡の臨濟僧;
 京東福寺永明院の叔父梅西門/相国寺雲頂院の大圭宗价門;嗣法、学芸;瑞溪周鳳門、
 応仁乱後に還俗;美濃鶉沼に梅花無尽蔵を結庵;漆桶万里居士と称す/詩人;唐詩講筵を開、

一時江戸城で太田道灌に出仕、千里瑞翼・百里等京の父、
詩注;「天下白」、詩文集;「新韻集」「梅花無尽蔵」「曉風集」「棘門集」、
「碧巖録梅庵鈔」外著多、
[万里集九の号] 梅庵/漆桶子/椿岩/江左、齋号;梅花無尽蔵/漆桶万里居士

秀矩(しゅうく・間) → 秀矩(ひでのり・間はざま、本陣経営/国学) K 3 7 6 3
重矩(じゅうく・板倉) → 重矩(しげのり・板倉いたくら、藩主/遺訓) C 2 1 8 1
重矩(じゅうく・東郷) → 藤五左衛門(とうごさえもん・東郷、兵法家) E 3 1 1 6
重矩(じゅうく・吉田) → 重矩(しげのり・吉田よしだ、藩士/和算家) C 2 1 8 4
重矩(じゅうく・河地) → 重矩(しげのり・河地かわち、町役/国学) O 2 1 1 5
重矩(じゅうく・大村) → 重矩(しげのり・大村おむら、医者/歌) S 2 1 1 0
重矩(じゅうく・高木) → 重矩(しげのり・高木たかぎ、和学者) Z 2 1 2 7
重矩(じゅうく・鈴木) → 重矩(しげのり・鈴木すずき、国学/歌人) Z 2 1 1 7
重矩(じゅうく・門脇) → 重矩(しげのり・門脇かどわき、神職/国学) O 2 1 0 5
重矩(じゅうく・進藤) → 重矩(しげのり・進藤しんどう、神職/国学者) O 2 1 9 7
重具(じゅうぐ/しげとも・安井) → 敬忠(たかただ・安井やすい、神職/国学) M 2 6 1 9
周空(しゅうくう・堀池) → 敬久(たかひさ・堀池ほりいけ、藩士/和算家) M 2 6 9 6
重九齋(じゅうくさい) → 英山(えいざん・菊川、絵師) 1 3 2 7
十九郎(じゅうくろう・前田) → 宗恭(むねやす・前田まえだ、国学/歌人) E 4 2 2 4

2147 周桂(しゅうけい;号・桑宿齋) 1470-1544 75歳 戦国期肥前有馬の連歌師;宗碩門/師の旅に随伴、
1509細川高国「石清水初卯はつ千句」参加(;初出)/18宗長「東山千句」・肖柏「池田千句」参加、
古典歌学修得/1526頃より連歌師の活動;宗碩の2度の九州旅行・宗牧の九州旅行随伴、
三条西実隆の高野参詣・宗長の駿河下向随伴、天文二1533宗碩没後連歌界の重鎮;
多数の連歌会に参加、三条西公条と連歌式目歌五百八十八首詠、「宗祇独吟何人百韻」注、
1539「天文八年十月三日周桂独吟何船百韻」「周桂発句集」「伊勢物語一花堂読曲清濁」著、
1532宗碩との「何人百韻」を初め多数の百韻参加、紹巴の師、
[梅かほるかげや行く手のうつし馬]

(1544天文十三年正月十二日宗牧草庵の梅千句巻頭発句;最後の作/同年2月9日急死)

W2196 秀馨(しゅうけい;法諱、平たいら貞祐男)?-1539 京の浄土僧;叔父玄真門/出家、
清浄華院山内華開院住、のち清浄華院22世、1504頃黒谷金戒光明寺16世;寺門復興に尽力、
「秀馨秘記」著、
[秀馨(;法諱)の法名]英蓮社善誉称念ぜんよしょうねん

R2152 袖蛍(しゅうけい) ? - ? 江前期上州安中の俳人;1691不角「二葉之松」「若みどり」入、
[行平ゆきひらに愷気りんきしにくき姉の螢あま(若みどり)、
(在原行平が須磨で汐汲の姉妹を愛した故事[謡曲;松風])]

W2197 秀啓(しゅうけい;法諱・芳洲ほうしゅう;号)?-? 江中期1741-64頃越後高田の真宗大谷派僧、
高田の浄興寺住職、1742「三帖和讃聞信鈔」54「一枚起請文講讃」、「自信報恩章」、
「教行信証惣別序法話」「正像末和讃俗談」「浄土文類聚鈔俗談」「無量寿経俗談」外著多数

W2198 周契(しゅうけい;法諱・寰海かんかい;道号、字;処中) 1730-67 38 安藝臨濟宗仏通寺両足院僧/健脚、
平賀中南/頼春水等と交遊・詩人、「寰海善寺詩」著、「寰海遺稿」

W2199 周桂(周圭しゅうけい;通称・菅沼すがぬま、名;長之)?-? 江中期大阪の鍼医/復古の説[古方針]を唱道、
1766「鍼灸一学綱要」/67「鍼灸則」著、「鍼灸治験」「鍼灸摘要」著

X2100 周溪(しゅうけい;号・青木あおき、通称;仙吉) 1771-1845 75 上野高崎の絵師;上絵職人、俳人、
「周溪雑記」「俳家百人集」「高崎図談」著

X2101 修敬(しゅうけい・竹内たけうち) 1815-1875 61歳 尾張名古屋藩の同心/上宿柳町住、和算家、
1840書を通じ江戸の五観門;関流七伝の印可を受、1869藩校明倫堂謁者に推挙;算学教授、
のち小学校教員、1840「算法浅問抄邪正辨」50「算法円理進歩」51「算法円理括発」、
「算法極題解義」「算学小成解義」「日用算法」著、
[修敬(;名)の字/通称/号]字;子準、通称;安七/藤左衛門、号;思斎/成数堂、
法号;円覚明頓居士

周継(しゅうけい;法諱) → 雪村(せつそん;道号・周継;法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3

周卿(しゅうけい・土井) → 后雛丸(のちのひなまる、九日庵、狂歌師) 3 5 6 5

- 周慶(しゅうけい) → 堯延親王(ぎょうえんしんのう、天台座主) N 1 6 3 3
 周経(しゅうけい・磯永) → 周経(ちかつね・磯永いそなが、藩士;天文方) B 2 8 2 4
 周溪(しゅうけい・渡辺) → 清(きよし・渡辺わたなべ、絵師/国学/故実) V 1 6 6 5
 秀経(しゅうけい・大屋) → 秀経(ひでつね・大屋おおや/藤原、廷臣/歌) D 3 7 2 6
 秀形(しゅうけい→ひでかた・築山) → 秀賢(ひでかた・伊庭/源/築山、幕臣/国学) C 3 7 9 7
 秀景(しゅうけい・深沢) → 秀景(ひでかげ・深沢ふかざわ、国学/狂歌) K 3 7 8 0
 秀慶(しゅうけい・竹田) → 定祐(じょうゆう・竹田/藤原、医者/歌人) I 2 2 2 6
 秀馨(しゅうけい・今井) → 秀馨(ひでか・今井いまい、藩士/国学) I 3 7 5 4
 秀馨(しゅうけい・高妻) → 秀馨(ひでか・高妻こうづま、儒者/教育者) J 3 7 5 7
 修敬(しゅうけい・入江) → 東阿(とうあ・入江いりえ、暦算/軍学者) 3 1 7 0
 修敬(しゅうけい・岩崎) → 守斎(しゅさい:号・岩崎いわさき、儒者) Y 2 1 7 7
 修敬(しゅうけい・山田) → 翠雨(すいう・山田、儒者/詩人/教育) 2 3 2 8
 修敬(しゅうけい・) → 宗汲(そうきゅう・速水はやみ貯雲斎/茶人) G 2 5 7 8
 修卿(しゅうけい・横井) → 鉄叟(てつそう・横井/西郷、藩士/国事奔走) C 3 0 5 5
 秋溪(しゅうけい・青木) → 研蔵(けんざう・青木、藩士/医者) K 1 8 7 3
 秋溪(しゅうけい・権藤) → 松門(しょうもん・権藤ごんどう、藩医者) B 2 2 6 9
 秋景(しゅうけい・河野) → 秋景(あきかげ・河野こうの、藩士/国学/歌) H 1 0 5 5
 秋卿(しゅうけい・岩井) → 貞良(さだよし・岩井いわい、具足師/歌人) N 2 0 8 9
 就卿(しゅうけい・滝浪) → 秀成(ひでなり・滝浪たきなみ、医者/歌人) K 3 7 1 4
 終卿(しゅうけい・上領) → 頼軌(よりのり・上領かみりょう/藤井、藩士/詩) J 4 7 4 7
 X2102 重慶(じゅうけい;法諱) ? - ? 室町前期真言僧;東寺住僧:
 1428称光院五七日法会の導師、「胎蔵界散念誦次第」著
 X2103 重慶(じゅうけい;法諱、裏松重光男) 1409-4739 室町前期天台宗尊勝院住僧;忠慶・良什門/僧正、
 法性寺座主、1441「経供養表白」44「大会探題記」、「密独受集」著/「十如是義」注
 X2104 什慶(じゅうけい;法諱) ? - ? 1490存 室町期天台僧;叡山横川解脱谷の蓮蔵坊住僧、
 1463「天台宗名目私類聚」、「問要抄」「口決集」著
 X2105 重慶(じゅうけい・湯浅ゆあさ/初姓;西村)?-? 京の儒者;韻学に通ず、
 1685「韻鏡求源鈔」/87「韻鏡抄」「韻鏡問答鈔」著、87「合類韻鏡」編、
 [重慶(;名)の通称/号]通称;加右衛門/嘉右衛門、号;鸞鏡子
 K2166 重卿(じゅうけい・田;修姓) ? - ? 江中期詩人、1742東溟編「名月篇;寛保二年版」編
 「明詩礎」共編(原良延と)
 重経(じゅうけい・高階) → 重経(しげつね・高階たかしな、廷臣/歌人) C 2 1 4 8
 重経(じゅうけい・上羽/倉橋) → 重経(しげつね・倉橋/上羽、藩士/戦史) R 2 1 5 8
 重計(じゅうけい・宗) → 重計(しげかず・宗そう、藩士/国学者) Z 2 1 2 3
 重溪(じゅうけい・野呂) → 金定(かねさだ・野呂のろ、儒者/医/歌人) V 1 5 3 5
 重敬(じゅうけい・跡見) → 重敬(しげよし・跡見あとみ、国学者) N 2 1 1 9
 重啓(じゅうけい・藤居) → 重啓(しげひろ・藤居ふじい、藩士/本草学) S 2 1 4 7
 重継(じゅうけい・大関) → 重継(しげつぐ・大関おおせき、歌人) a 2 1 3 0
 重継(じゅうけい・永田) → 重継(しげつぐ・永田ながた、幕臣) Z 2 1 6 0
 従卿(じゅうけい・関) → 養軒(ようけん・関せき、儒/藩校創設) 4 7 7 4
 従継(じゅうけい・藤枝) → 従継(よみつぐ・藤枝ふじえだ、神職/国学) O 4 7 8 7
 聚景斎(しゅうけいざい) → 忠央(ただなか/ただちか・水野、城主/学問) Q 2 6 2 8
 集鶏堂(しゅうけいどう) → 嵐青(らんせい、酒造業/俳人) C 4 8 7 9
 H2117 秀月(しゅうげつ;号) ? - ? 江戸の俳人;雑俳、1702松葉軒「あかゑぼし」入
 H2118 舟月(しゅうげつ;号) ? - ? 江前期江戸の雑俳点者、1704麟子「よくり」入
 H2111 秋月(しゅうげつ・片山かたやま、名;正朝)?-? 江前中期大阪の俳人;立圃門、1705「かさづけ」編、
 1673西鶴「哥仙大坂誹諧師」/76西鶴「古今誹諧師手鑑」78西鶴「物種集」入、
 [ながめやる月や心のかよひ舟](大坂誹諧師;五番左)、
 [秀月(;号)の通称] 清右衛門

- H2101 秋月(しゅうげつ;号・林はやし、字;士淵)?-? 江中期出雲松江の医者/詩文を嗜む、「秋月文集」著
- H2119 収月(初世しゅうげつ;号) ? - 1740 江戸の雑俳・前句付点中興の祖、前句付点者の第一人者、1732「続みどり」点句入(松宝軒板)、33山之「雨の落葉」点句入、1736自撰「口よせ草」編、1737「収月評万句合」評点、法号;収月院日円法師
- H2120 収月(二世しゅうげつ) ? - ? 江戸雑俳点者・初世門、1757「収月評万句合」編
- H2121 収月(三世しゅうげつ、二徳亭)1724-1803?80? 江戸雑俳点者、1783「福寿艸」編、1789「月花集」編、1802「奉納万句合」1803「もも衛ちどり」編
- H2122 収月(四世しゅうげつ) ? - ? 江戸雑俳点者、1805「浜のまさご」編
- 秋月(しゅうげつ・舟橋) → 晴潭(せいたん・舟橋ふなはし、儒者/詩人) B 2 4 7 2
- 秋月(しゅうげつ・加藤) → 正従(まさより・加藤かとう、正識男) I 4 0 8 4
- 秋月(しゅうげつ・鈴木) → 康明(やすあき・鈴木すずき、藩士/歌人) G 4 5 0 8
- 周月庵(しゅうげつあん) → 牧水(ぼくすい・鈴木、俳人、牧之の父) D 3 9 5 0
- 秋月庵(しゅうげつあん) → 牧之(ぼくし・鈴木、牧水男/商家/随筆) D 3 9 3 5
- 秋月庵(しゅうげつあん) → 松隣(しょうりん・清水しみず、俳人) L 2 2 9 8
- 秋月庵景雄(しゅうげつあんけいゆう) → 景雄(けいゆう・秋月庵、絵師/俳人) D 1 8 6 6
- 秋月下白露(しゅうげつか・はくろ) → 瑞笑(ずいしょう・四代八文字屋) 2 3 0 2
- 秋月斎(しゅうげつさい) → 景雄(けいゆう・秋月庵、絵師/俳人) D 1 8 6 6
- 秋月堂(しゅうげつどう) → 清倍(せいはい河内八尾の俳人) C 2 4 7 7
- 秋月堂(しゅうげつどう) → 孤龍(こりゅう、河内八尾の俳人) E 1 9 0 3
- H2123 四友軒(しゅうけん) ? - ? 嘶家、1747「軽口花咲顔」
- X2108 秀憲(しゅうけん;法諱) 1469 - ? 1542存 戦国期天台僧;賢乗院住/権大僧都/大法主、1538「大師供次第」42「密蔵院開基上人御縁起」著、「十如是義私類文集」編
- X2109 秀憲(秀見しゅうけん;法諱)? - ? 安桃江前期慶長1596-1615頃天台僧;叡山西谷の覚村房住僧、「仏果空不空私」著
- H2124 舟軒(しゅうけん・桃風斎) ? - ? 大阪俳人1692遠舟「八重一重」「すがた哉」両吟入
- H2125 周軒(しゅうけん・佐藤さとう、名;広義、信広男)1665-174177 江戸の生/美濃岩村藩士、儒;後藤松軒門、1702岩村藩の儒員/世子の傅/家老職就任;藩政刷新のため学事振興尽力、以後代々家老職、本邦祭義を創制;以後永く岩村松平家に施行、「四書参考」「論語参考」「孟子参考」外著多数、[周軒(;号)の通称/別号]通称;勘平、別号;塵也、法号;光山院
- X2110 宗賢(しゅうけん;法諱・卞関べんかん;字、号;潮音)1674-173663 越前の真宗本願寺派僧;坂井郡金津の教順寺5世住職、初め同郡三国勝授寺の峻諦門/のち越中明光寺の靈潭門、「真宗答客難」「本願帰命編」「童子譚」、1736「安心決定鈔篙江記」著
- H2126 湫喧(しゅうけん) ? - ? 俳人・加越蕉門、1705「しるしの竿」編
- X2111 習軒(しゅうけん・入り、通称;古金屋弥三兵衛)?-1751 撰津?の儒者;三宅石庵門、「習軒筆記」著
- 周賢(しゅうけん;名) → 尊証法親王(そんしょうほつしんのう、青蓮院門跡/書) E 2 5 9 2
- 秀堅(しゅうけん・清宮) → 秀堅(ひでかた・清宮せいみや、国学;地誌) C 3 7 9 8
- 秀堅(しゅうけん・青山) → 秀堅(ひでかた・青山あおやま、幕臣/記録) C 3 7 9 6
- 秀堅(しゅうけん・石田) → 秀堅(ひでかた・石田いしだ、神職/茶人) L 3 7 1 9
- 秀堅(しゅうけん→ひでかた・築山)→秀賢(ひでかた・伊庭/源/築山、幕臣/国学) C 3 7 9 7
- 秀憲(しゅうけん;名) → 公弁法親王(こうべんほつしんのう、天台座主) B 1 9 9 1
- 秀憲(しゅうけん・沼波) → 秀憲(ひでのり・沼波ぬなみ、医者) D 3 7 6 6
- 秀憲(しゅうけん・三輪) → 秀憲(ひでのり・三輪みわ、藩士/歌道) L 3 7 3 6
- 秀賢(しゅうけん・大屋) → 秀賢(ひでかた・大屋おおや、廷臣/歌人) C 3 7 9 3
- 秀賢(しゅうけん・伊庭) → 秀賢(ひでかた・伊庭/源/築山、幕臣/国学) C 3 7 9 7
- 秀賢(しゅうけん・寺西) → 秀賢(ひでかた・寺西てらにし、藩家老) C 3 7 9 4
- 秀賢(しゅうけん・神保) → 臥雲(がうん・神保じんぼう、国学/歌) J 1 5 2 2
- 秀軒(しゅうけん・尾川;変名) → 太宰(ださい・河瀬/戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2
- 就賢(しゅうけん・上野) → 就賢(ちかよし・上野うえの、藩士/歌人) M 2 8 1 4
- 宗謙(しゅうけん/そうけん;法諱) → 益翁(やくおう/えきおう;道号・宗謙;法諱、曹洞僧) 4 5 4 6
- 周建(しゅうけん;初法諱) → 宗純(そうじゆん;法諱・一休;道号、臨濟僧) 2 5 1 1

- 修軒(しゅうけん・松岡) → 雄淵(おぶち・松岡、神道) B 1 4 9 1
 修謙(しゅうけん・李家) → 隆彦(たかひこ・李家りのいえ/河内山、侍医/歌) 2 7 2 5
 萩軒(しゅうけん・伊丹) → 宗朝(宗長そうちょう・伊丹いたみ、茶人) I 2 5 4 8
 雌雄軒(しゅうけん) → 蟹丸(かにまる・芦原あしむら、大阪狂歌) C 1 5 6 5
- H2127 周巖(しゅうげん/しゅうがん;法諱・東沼とうしゅう;道号、初道号;東洋) 1391-1462 72 近江臨濟僧;遊叟周芸門、
 遊叟の法嗣、学芸;惟肖得巖門、撰津の栖賢寺住持/1442建仁寺住持/47相国寺住持、
 晩年は建仁寺大統院内に栖芳軒設置退隱、「東沼和尚語録」、「流水集」(門人中昇編)、
 1448(文安5)「畠山匠作亭詩歌」参加(詩)、
 [律入黄鐘寒尚加 満山矮木六雲花 森森祇合漢皇劍 遠岫横岡走白蛇]、
 (畠山亭詩歌;21/雪中碧杉/対する歌は畠山賢良[義忠])、
 [東沼周巖(巖)の号] 留月老人、祥光老子
- X2112 宗源(しゅうげん;法諱・徹宗てつそう;字、号;也足、俗姓;大内) 1604-74 71 仙台の臨濟僧;瑞巖寺月叟門、
 覚範寺清岳門、のち遠山覚範寺中興5世、妙心寺再住/名取郡恵供寺の開山、「深海集」著
- X2113 宗玄(しゅうげん;道号・居山きよざん;法諱)?-? 安藝広島の曹洞僧、「智外和尚伝」著、
 禅利智外(1802没;79歳/広島長福寺の開山)の甥
- 宗源(しゅうげん;法諱) → 宗源(そうげん;法諱・雙峰;道号、臨濟僧) B 2 5 2 8
 周原(しゅうげん・飯田) → 範正(のりまさ・飯田、藩士/連歌) F 3 5 7 6
 周玄(しゅうげん・平松) → 周玄(ちかはる・平松ひらまつ、神職/歌人) N 2 8 3 7
 就言(しゅうげん・平佐ひらさ) → 就言(なりこと・平佐ひらさ、随記) H 3 2 3 3
 収玄(しゅうげん・法橋) → 景軌(かげのり・打它うたつた/うだ、歌人) L 1 5 1 6
 集彦(しゅうげん・松木) → 集彦(ためひこ・松木/度会、神職) S 2 6 7 1
 秀元(しゅうげん) すべて → 秀元(ひでもと)
 鷲原(しゅうげん・吉村) → 光徳(みつなり・吉村よしむら、里正/国学者) K 4 1 9 4
- I2136 重賢(じゅうげん) 1638 - 1693 56歳 和泉万町村の大庄屋伏屋家の当主、
 俳人・1691賀子「蓮実」1句入、
 [梅が香に生なま魚遠く成りにけり](蓮実;141/春暖になると山里では生魚が遠くなる)
- M2193 重堅(じゅうげん・万女) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [此方こちは三味線歌の中山](物種集/歌の中山;京清水寺の南の清閑寺の上の山、
 前句;小鞆こつみの音羽の滝やかすむらん)
- X2114 重賢(じゅうげん) ? - ? 備中西阿知俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- X2115 充賢(じゅうげん;法諱・号;浄信房/仏陀寺)?-1836 真宗本願寺派僧;越中中新川郡宮川浄泉寺住、
 のち京の仏現寺に転住;柔遠門/唱導に秀づ、化政1804-30頃本山に出仕;諸国に派遣、
 没後に司教学階授与、「百不思議」「一枚起請文勸考」「中興宗主伝」「三首詠歌説教」外著多
- 重兼(じゅうげん・鈴木) → 重兼(しげとも・鈴木すずき、重胤男/国学) Z 2 1 1 3
 重見(じゅうげん・佐藤) → 重見(しげみ・佐藤さとう、国学者/歌人) O 2 1 5 5
 重建(じゅうげん・大森) → 杖信(じょうしん・大森おおもり、茶道家) K 2 2 0 6
 重健(じゅうげん・高橋) → 確堂(かくどう・高橋たかはし、藩士/志士) K 1 5 3 1
 重賢(じゅうげん・沢崎/朝倉) → 景実(かげざね・朝倉あさくら、兵法家) K 1 5 8 8
 重賢(じゅうげん・伏屋) → 重賢(しげかた・伏屋ふせや、農/庄屋/国学) C 2 1 0 4
 重賢(じゅうげん・細川) → 重賢(しげかた・細川/源、藩主/詩/武芸) C 2 1 0 6
 重賢(じゅうげん・松尾) → 宗二(そうに/そうじ・松尾まつお、茶人) I 2 5 6 4
 重賢(じゅうげん・高橋) → 重賢(しげかた・高橋、幕臣;奉行) C 2 1 0 2
 重賢(じゅうげん・鎌原) → 桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者) E 3 1 6 2
 重賢(じゅうげん・小野) → 重賢(しげかた・小野おの/伴、廷臣/歌人) C 2 1 0 7
 重賢(じゅうげん・鈴木) → 重賢(しげかた・鈴木すずき、藩士/国学・歌) Z 2 1 0 7
 重賢(じゅうげん・岩井) → 重賢(しげかた・岩井・巖井、和算家) Q 2 1 7 8
 重賢(じゅうげん・伊丹) → 蔵人(くらんど・伊丹いたみ、儒者/勤王家) B 1 7 1 6
 重賢(じゅうげん・小野) → 重賢(しげかた・小野おの/伴、廷臣/歌人) C 2 1 0 7
 重賢(じゅうげん・広沢) → 菅彦(すがひこ・広沢ひろさわ、歌人) J 2 3 0 7

- 重堅(重賢じゅうけん・宇多)→ 重堅(しげかた・宇多うだ、藩士/歌人) N 2 1 4 6
 重堅(じゅうけん・日野) → 久左衛門(きゅうざえもん・日野ひの、商家/歌) V 1 6 0 5
 重顕(じゅうけん・山脇) → 重顕(しげあき・上杉・藤原、武将/歌人) B 2 1 7 5
 重顕(じゅうけん・山脇) → 道円(どうえん・山脇やまわき、医者/儒者) B 3 1 5 7
 重憲(じゅうけん・大山) → 重憲(しげのり・大山おおやま、軍学者) S 2 1 1 2
 重憲(じゅうけん・安部) → 重憲(しげのり・安部あべ、国学者) N 2 1 0 2
- J2192 重玄(じゅうげん・伊勢村いせむら)?- ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」;第七月脇句入、1678西鶴「物種集」入、
 [紅葉折り焚く行水の下](生玉万句;月の脇句、
 発句;林元;急ぎいそろ都にはやく月の暮)、
 [番屋の戸押し明け方の春めきて](物種集、
 前句;一丁三所咲く梅の花/一丁三所;間隔の疎なること)
- 重言(じゅうげん・川島) → 重言(しげこと・川島かわしま、酒造業、国学) O 2 1 1 3
 重源(じゅうげん・俊乗坊) → 重源(ちようげん;法諱、浄土僧/勸進) I 2 8 1 1
 収玄院(しゅうげんいん) → 日祐(にちゆう;法諱・立慧りゅうえ、日蓮僧) D 3 3 3 3
 楸軒外史(しゅうけんがいし) → 元融(げんゆう・村尾、医/儒/国学者) D 1 8 1 7
 習元井堂(しゅうげんせいどう) → 朝彦(ともたつ・片桐かたぎり、藩士/郡奉行) P 3 1 7 1
- X2116 秋虎(しゅうこ・垂井たるい、名;重倫しげとも)?-1765 筑後久留米藩家老有馬家の家臣、俳人;野坡門、
 師が九州行脚に秋虎邸滞在、久留米俳壇の実力者、1717「百曲」43「上戸雪」編、
 以鳥・指帆・東鶴の師、
 [秋虎(;号)の通称/別号]通称;長兵衛、別号;十州人/十洲人/楓紅庵
- X2117 修古(しゅうこ・宮本みやもと) 1719-1775 57歳 京の俳人;竿秋門、道統は丹波亀山神門ごうと全瓦が嗣、
 1761「我寐さめ」編、[修古(;号)の別号]文旨舎/逍遙窩
- 秋湖(しゅうこ・松木) → 直秀(なおひで・松木、国学/歌人) C 3 2 2 4
 秋湖(しゅうこ・伊庭) → 良恭(よしたか・伊庭いば/大月、国学者) L 4 7 4 6
 秋湖(穉湖しゅうこ・久坂) → 玄瑞(げんずい・久坂、奇兵隊/詩歌) 1 8 4 2
 秀固(しゅうこ・原田) → 忠漸(ちゆうぜん・村井/邸井/村、儒医/和算) G 2 8 5 3
 秀古(しゅうこ・小林) → 反古(はんこ・小林こばやし、商人/俳人) H 3 6 5 4
 周子(しゅうこ・並木) → 芳薫(ほうくん・並木なみき/磯野、歌人) G 3 9 3 1
 周祐(しゅうこ・三木) → 半邨(はんそん・三木みき、藩士/儒者) I 3 6 3 6
 周吾(しゅうご・市河) → 得庵(とくあん・市河いちかわ、書家) K 3 1 4 3
 周吾(しゅうご・神合) → 儔明(としかき・神合じんごう、藩士/歌人) V 3 1 4 1
- P2133 重固(じゅうこ・2世野田のだ、吉文字屋庄右衛門)?-? 元禄期書肆、「信長記」「吾妻鏡」刊
- P2141 重故(じゅうこ・西川にしかわ)?- ? 撰津俳人、狂歌、1666行風「古今夷曲集」3首入
 [芳野川滝とびぐちをあまたもて手おうざわうにくだす筏士いだし](古今夷曲集;九)
 (掛詞;滝とびぐちは滝を飛び越すと鳶口/手おうざわうはてんでこ舞いと蔵王堂)
- K2123 重故(じゅうこ/しげひさ・しげもと?・岨山そはやま)?-? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」七夕第三句入、
 [秋風をお聞きやるかとて木遣して](生玉万句;七夕第三、
 脇句正春しょうしゅん;鴟口とびぐちのさきとがる三ヶ月みかづき/鴟口に木遣を付る)
- 十故(じゅうこ;字) → 存統(ぞんとう;法諱、浄土僧、天文地理) F 2 5 6 8
 重古(じゅうこ・藤井) → 重門(しげかど・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 1 8 2
 重固(じゅうこ・山内) → 豊敷(とよぶ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 4 3
 重固(じゅうこ・菊池) → 南洲(なんしゅう・菊池さくち、儒者) J 3 2 1 9
 重固(じゅうこ・山口) → 安固(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人) G 4 5 9 5
 重固(じゅうこ・小出) → 松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者) J 2 2 0 2
 重固(じゅうこ・白井) → 固(かたし・白井しらい、藩士/歌人) M 1 5 9 4
 重固(じゅうこ・中嶋/鈴木) → 平九郎(へいくろう・鈴木、名主/記録) 2 7 2 4
 重固(じゅうこ・福田) → 作太郎(さくたろう・福田ふくだ、幕臣) H 2 0 2 6
 重固(じゅうこ・三宅) → 尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者) S 2 2 2 9

- 重固(じゅうこ・山路) → 重固(しげかた・山路やまじ、藩士/歌人) Q 2 1 7 7
 重固(じゅうこ・吉武) → 重固(しげかた・吉武よしたけ、藩士/国学) a 2 1 0 9
- H2128 周午(しゅうご・砂岡いさおか、尚我[俳人]男)?-? 下総結城の俳人、雁宕(がんどう)の弟、
 1771甥の冲翼・進歩と「蓼すり古義」を上梓(蓼太に対する雁宕の反駁書)
- H2129 重五(じゅうご・加藤かとう、通称;善右衛門、隠居名;弥兵衛)1654-171764 尾張名古屋の材木商、
 上材木町住の富商;御目見町人/俳人・芭蕉門、1684「冬の日」連衆の1人;34句入、
 1686「春の日」;12句/89「あら野」;6句入、1693荷兮「曠野後集」1729越人「猫の耳」入、
 一步・蓑笠の父、
 [跡や先気をつく野辺の郭公ほととぎす](あら野;一ほととぎす)
- H2130 従吾(じゅうご、通称;白尾屋伝右衛門)?-? 加賀金沢の俳人・芭蕉門、支考・北枝と交流、
 1704「白陀羅尼はくだらに」(支考編)入
 従吾(じゅうご・南部) → 静斎(せいさい・南部なんぶ、郷士/儒者) I 2 4 3 2
 住護(じゅうご・大竹) → 鳳羽(ほうう・大竹おたけ、藩儒者) 3 9 1 6
 習古庵(しゅうこあん) → 亨弁(こうべん、法諱、日蓮僧/歌人) B 1 9 9 0
- H2131 秀幸(しゅうこう・しゅうぎょう;法諱)?-? 鎌倉期の僧;法師、歌人、新後拾遺707、
 [松風の吹く音ながら山水の岩根をつたふ波ぞ涼しき](新後拾;雑春/夏歌707)
- H2132 周興(しゅうこう;法諱・彦竜げんりゅう/げんりょう;道号、俗姓菅原)1458-9134 京臨濟僧;黙堂祖久門/嗣法、
 詩文;月翁周鏡・横川景三・桃源瑞仙・万里集九門、相国寺蔵主、鹿苑院侍衣、
 五山文学薄命の天才:「西遊稿」「丹陰記」「半陶文集」、1491「半陶藁」著、
 [彦竜周興の号] 半陶子/陶庵
- X2118 秀高(しゅうこう;法諱) ? - ? 江前期相模高座郡真善寺の修験僧、
 1684「役君形生記」著
- I2183 秋香(しゅうこう・井上いのうえ、名;貞則/連歌号;昌海)?-? 江前期大坂高麗橋筋島屋町の連歌師、
 俳諧;西山宗因門、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 [立田山にしきのきれや古歌直し](難波色紙;15/立田の紅葉の古歌を焼き直して詠む)
- H2136 繡江(しゅうこう・熊代くましろ/本姓;神代くましろ、名;斐あやる)1693(or1712)-177381? 長崎の唐通事の家;
 21歳:唐通事小頭の見習、のち小頭/稽古通事、絵師;初め渡辺秀石門、
 1732長崎滞在中の沈(しん)南蘋(なんびん)門/さらに後日渡来の高乾(高弟)門、
 画風を継承;南蘋流彩色花鳥画の第一人者で普及活動、森蘭斎(娘婿)・鶴亭・宋紫石らの師、
 「鷓鴣(じこ)捉魚図」「浪に鶴図」「仙鶴遐齡図」「花鳥図屏風」「松鷲梅孔雀図屏風」画、
 娘婿森蘭斎「蘭斎画譜」中に[熊斐小伝]がある、息子の熊斐文・熊斐明も絵師;父を継承、
 [繡江(;号)の字/通称/別号]字;淇瞻(きせん)、通称;彦之進/甚左衛門、
 別号;熊斐(ゆうひ)(唐風名)
- X2119 秋江(しゅうこう・島村しまむら/初姓;永野、名;皓)1718-7962 筑前福岡藩儒島村晩翠の養嗣子、
 儒者;養父門/1750養父継嗣し福岡藩儒、1763韓使を接待/のち藩主黒田治之の侍講、
 「藍島唱和録」「藍島倭漢唱和集」著
 [秋江(;号)の字/通称]字;漢濯、通称;宇兵衛
- X2120 秋江(しゅうこう;号) ? - ? 江中期若狭小浜の俳人・1776樗良「俳諧月の夜」入、
 [人しばしかしこくなりぬ年の暮](月の夜;110/人間切羽詰まると無い知恵も浮かぶ)
- H2134 秋江(しゅうこう・日比野ひびの、名;仲遠/仲援、成輒男)1750-182576 尾張名古屋の儒者;岡田新川門、
 医術;浅井図南門、上京しのち帰郷;前津に私塾を開;門弟に教授/傍ら医業、
 1795美濃高須藩に藩儒として招聘/1819致仕、石津郡駒野村に隠棲、「秋江詩稿」著、
 [秋江(;号)の幼名/字/通称]幼名;彦太郎、字;肇甫/徴甫、通称;太玄
- X2121 秋香(しゅうこう・前川まえがわ、名;温)1801-5454歳 阿波撫養の儒者;若くして漢学習得/長崎で蘭学、
 私塾麗沢社創設;教授、帰郷後徳島藩儒に抜擢、江戸で大橋訥庵と交流、
 1844「亜墨新話」(酒井輝と共著)、「皆妄作」、
 [秋香(;号)の通称/別号]通称;文蔵/文造/文、別号;吟月主人
- X2122 宗興(しゅうこう;法諱、俗姓;瑕丘)1815-8066 尾張中島郡本願寺主の次男/真宗本願寺派僧、
 近江日野願正寺主明門;1848即往寺で得度/48近江即往寺住職、71真宗座の教授/権大講義、

没後勸学を贈、1866「上宮太子慈視録」67「無何里問対」、「大蔵輔国集」「百法明門論俗詮」著、
 [宗興(；法諱)の字/号]字；玄風/遊識、号；閑雲/返照道人/清痴/解脱、諡号；開藏院

宗綱(しゅうこう；道号・慧統) → 慧統(えとう；法諱・宗綱、臨濟僧)	1 3 7 9
集交(しゅうこう・廓) → 廓集交(かくしゅうこう、洒落本作者)	E 1 5 7 1
集光(しゅうこう・笠原) → 集光(なりみつ・笠原かさばら、神職/国学)	L 3 2 5 9
周光(しゅうこう・藤原) → 周光(ちかみつ・藤原ふじわら、廷臣/詩人)	B 2 8 8 8
周行(しゅうこう→かねゆき・西依) → 成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者)	B 2 4 5 5
周皎(しゅうこう；法諱・碧潭；道号) → 宗鏡(そうきょう；禪師、臨濟僧)	B 2 5 0 8
周皐(しゅうこう・五十嵐) → 嵐児(らんじ・五十嵐いがらし、俳人)	C 4 8 4 1
修光(しゅうこう；字、修光院) → 日精(にっせい；法諱・修光院、日蓮僧)	E 3 3 6 8
脩公(しゅうこう・山県) → 榕所(ようしょ・山県やまがた、儒者)	B 4 7 2 3
脩孝(しゅうこう・北島) → 脩孝(ながのり・北島きたじま、国造/神職)	L 3 2 8 7
緝光(しゅうこう・深栖) → 緝光(まさみつ・深栖ふかす、儒者)	H 4 0 6 7
秀光(しゅうこう・大滝) → 新蔵(しんぞう・大滝おおたき、藩士/奉行)	P 2 2 2 3
秀香(しゅうこう・江刺) → 恒久(つねひさ・江刺えさし、藩士/国学者)	D 2 9 4 0
秀行(しゅうこう)すべて → 秀行(ひでゆき)	
秀幸(しゅうこう・高橋) → 秀幸(ひでゆき・高橋たかはし、和算家)	E 3 7 0 7
秀幸(しゅうこう・知久) → 秀幸(ひでゆき・知久ちく、家老/歌人)	K 3 7 1 8
秀興(しゅうこう)すべて → 秀興(ひでおき)	
秀厚(しゅうこう・岡田) → 秀厚(ひであつ・岡田おかだ/田熊、国学/神職)	I 3 7 9 3
袖岡(しゅうこう・倉田) → 績(いさお・倉田、儒者)	F 1 1 4 7
秋航(しゅうこう・長岡) → 懷山(かいざん・長岡ながおか、医者)	I 1 5 6 6
秋航(しゅうこう・北条/伊勢) → 氏摩(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩)	E 1 2 8 7
秋江(しゅうこう・太田) → 元貞(げんてい・太田おおた、俳人)	F 1 8 0 3
秋江(しゅうこう・千柳亭) → 唐麿(からまる・千柳亭/錦織、綾彦、狂歌)	F 1 5 9 6
秋江(しゅうこう・荒木) → 為理(ためまさ・荒木あらかき/山岸、国学/歌)	V 2 6 2 9
秋広(しゅうこう・辻) → 秋広(あきひろ・辻つじ、歌人)	H 1 0 9 8
秋香(しゅうこう・葛西) → 靖斎(せいさい・葛西かさい/小山田、医者)	I 2 4 2 6
秋香(しゅうこう・中村) → 秋香(あきか・中村なかむら、幕臣/歌人)	I 1 0 1 3
衆香(しゅうこう・柴田) → 礼一(れいち・柴田しばた、神道家)	B 5 1 5 4
鷓江(しゅうこう・中島) → 来章(らいしょう・中島/源/並河、絵師)	4 8 6 4
宗亘(しゅうこう→そうこう) → 古岳(こがく；道号・宗亘、臨濟僧)	L 1 9 8 8

B2196 **重興**(じゅうこう・日暮ひぐらし)? - ? 江前期河内小山村の俳人；梅盛門、
 1657梅盛「鸚鵡集」入、「古今俳諧師手鑑」「河内鑑名所記」に句入
 万治1658-1660頃「六句付」を創案(堺の成之の前句から始める；良弘[俳諧高天鷲]入)、
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [呑みさしや烟に残る若たばこ](手鑑/若たばこ；今年の煙草[秋]/
 謡曲[天鼓]；白居易は子を先立てて枕に残る菓を恨む)

H2133 **洪篠**(じゅうこう) ? - ? 江前期俳人；一昌門、1685風瀑「一楼賦」入、
 1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [菜の花は黄昏白し蝶世界](一楼賦)

B2197 **重興**(じゅうこう・久保くぼ) ? - ? 江前期河内小山村の詩人/狂歌、大阪城中に出仕、
 1698「城山八景詩集」著

X2124 **重行**(じゅうこう・長山ながやま、名；重行いげゆき、長山伝兵衛男)?-1707 出羽庄内鶴岡藩士；百石/歌を嗜む、
 俳人；江戸在勤中に芭蕉門/呂丸の縁者；師の奥州行脚の時重行邸にて一卷、
 「夢物語三歌仙」、1692不玉「継尾つぎお集」97桃隣「陸奥衛むつらどり」98「続猿蓑」2句入、
 [風吹くに舞の出来たる小蝶かな](続猿蓑；巻下猫恋附胡蝶)
 [重行(；号)の通称/別号]通称；左太八/五郎次郎/五郎右衛門、別号；無分別軒、
 法号；江国空寒居士

H2137 **重厚**(じゅうこう・井上いのうえ・菅原すがわら) 1738-1804 67 京天台僧/俳人・蝶夢門、1770去来の落柿舎再興、

1771「去来忌」74「落柿舎日記」出版、77近江栗津の義仲寺住職;78辞退、78九州行脚、
 1781-85頃奥羽・蝦夷行脚、1781「江戸みやげ」83「みちのくふり」85「魂まつり」編、
 1786「句雙紙」「宇良不二」/87「もとの水」「乞食ふくろ」編、89「其梅」著、92「しくれ会」編、
 1792義仲寺再入;無名庵主7世継嗣、93師蝶夢の支援で芭蕉百回忌法要;94「祖翁百回忌」編
 1796龍ヶ丘に蝶夢の供養碑建立、1798失明、交遊関係は広い、1801「よくの花」著、
 1803「時雨会」編、「あさかり」「十波羅蜜」「菅原重厚紀行俳文集」「俳人重厚私大巻」著、
 [さくら寒し雨に明行く嵐山]、

[重厚(;)号)の別号] 椿杖斎、落柿舎2世/無名庵7世、法号;桃青院

- 重光(じゅうこう)すべて → 重光(しげみつ)
 重幸(じゅうこう/しげゆき・亀井) → 協従(きょうじゅう、亀井/源/亀、本草家) N 1 6 9 3
 重幸(じゅうこう/しげゆき?・嶋) → 順水(じゅんすい・嶋しま、俳人) K 2 1 0 7
 重行(じゅうこう・荒川) → 重行(しげゆき・荒川あらかわ、幕臣/国学) N 2 1 2 2
 重行(じゅうこう) → 重行(しげゆき、俳人) D 2 1 2 7
 重行(じゅうこう・鈴木) → 重行(しげゆき・鈴木すずき、神職/歌人) T 2 1 0 2
 重行(じゅうこう・白井) → 重行(しげゆき・白井しらい、藩士/儒者) T 2 1 0 3
 重行(じゅうこう・天野) → 重行(しげゆき・天野あまの、藩士/歌人) N 2 1 2 0
 重広(じゅうこう・毛利) → 重広(しげひろ・毛利/大江、武家/連歌) S 2 1 4 3
 重広(じゅうこう・坂田) → 重広(しげひろ・坂田さかた、連歌作者) S 2 1 4 5
 重広(じゅうこう・伊高) → 重広(しげひろ・伊高いだか、神職) N 2 1 2 6
 重広(じゅうこう・服部) → 重広(しげひろ・服部はっとり、職人/歌人) Z 2 1 6 7
 重弘(じゅうこう)すべて → 重弘(しげひろ)
 重光(じゅうこう・茨木) → 素因(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F 2 5 8 3
 重光(じゅうこう・伊藤) → 輻斎(ゆうさい・伊藤いとう、儒者/古義学) B 4 6 8 0
 重好(じゅうこう・田中) → 重好(しげよし・田中たなか、郷学;教育者) T 2 1 1 5
 重候(じゅうこう・村瀬) → 平四郎(へいしろう・村瀬むらせ、幕臣) 2 7 5 4
 重恒(じゅうこう・渋川) → 春水(しゅんすい・渋川/入間川、藩士/天文家) L 2 1 1 6
 重恒(じゅうこう/しげつね・林) → 文筋(ぶんせつ・林はやし、医者) F 3 8 9 7
 重恒(じゅうこう・山路) → 重恒(しげつね・山路やまち、商家/国学) V 2 1 4 1
 重厚(じゅうこう・大森) → 有斐(ゆうひ・大森おおもり、茶道家) D 4 6 6 3
 重厚(じゅうこう・太田) → 翠陰(すいいん・太田おた、儒者/藩士) 2 3 2 5
 重厚(じゅうこう・鈴木) → 重厚(しげあつ・鈴木すずき、藩士/国学者) Z 2 1 0 5
 重興(じゅうこう・永原) → 重興(しげおき・永原/藤原、武将/連歌) Q 2 1 6 9
 重興(じゅうこう・中川) → 重興(しげおき・中川ながわ/源/村上、武術/歌) a 2 1 2 0
 重興(じゅうこう・後藤) → 重興(しげおき・後藤ごとう、郷土史家) Q 2 1 7 1
 重興(じゅうこう・山田) → 重興(しげおき・山田やまだ、商家/郷土/漢学) a 2 1 0 3
 重衡(じゅうこう・平) → 重衡(しげひら・平たいら、武将/歌人) C 2 1 9 2
 重康(じゅうこう・松井) → 重康(しげやす・松井、本草家/採薬使) S 2 1 9 7
 重孝(じゅうこう・北島) → 重孝(しげのり・北島きたじま、神職/国学) O 2 1 2 2
 重孝(じゅうこう)上記以外 → 重孝(しげたか)
 重綱(じゅうこう)すべて → 重綱(しげつな)
 従高(じゅうこう;字) → 宣澄(せんちよう;法諱、真宗大谷派僧/俳人) M 2 4 9 6
 従高(じゅうこう、季吟に古今伝授) → 暫酔(ざんすい・従高、俳人) E 2 0 4 9
 充香(じゅうこう) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8
 充香(じゅうこう・山田) → 充香(みちか・山田やまだ、藩士/国学) H 4 1 5 4
 充興(じゅうこう/みつおき・吉村) → 周山(しゅうざん・吉村、絵師/根付) X 2 1 4 1
 柔行(じゅうこう・池田) → 霧溪(むけい・池田/村岡、医者) 4 2 4 7

W2139 **重剛**(じゅうごう・古田ふるた、号;家山かざん、重功[玄室]男)1808-87 80 織部流茶道9代(豊後古田13世)、
 儒者;豊後岡藩儒、1822「日本歴代天皇御製」編、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 10代目重名(宗関1839-1913)の父、幕末の志士渡辺彦九郎(1804-74)の師、
 [妻子らをいさめてなくか秋の夜に虫の音聞けばつづりさせてふ](大江戸倭歌;787)

重豪(じゅうごう・島津) → 重豪(しげひで・島津/松平、藩主/諸学) C 2 1 9 0
 秋光庵(しゅうこうあん:狂歌) → 桂素(けいそ:俳人、文亭綾継:戯作) 1 8 8 1
 秋香庵(しゅうこうあん) → 道彦(みちひこ・鈴木/村上、医者/俳人) 4 1 1 5
 秋香庵(しゅうこうあん) → 巢兆(そうちょう・建部、俳人/書画) 2 5 1 7
 秋香庵(2世しゅうこうあん) → 国村(くにむら・加茂/高橋、俳人;巢兆門) 1 7 9 8
 修光院(しゅうこういん) → 日精(にっせい;法諱、日蓮僧) E 3 3 6 8
 秋香庵二世(しゅうこうあんー) → 国村(くにむら・加茂) 1 7 9 8
 十合齋(じゅうごうさい・浅田) → 八百彦(やおひこ・浅田/朝田あさだ、俳人) 4 5 3 8
 秋江齋楓吳(しゅうこうさいふうご) → 風五(ふうご・小林、商家/俳人) 3 8 5 7
 秋香舎(しゅうこうしゃ) → 春雄(はるお・隈川くまかわ/山口、歌人) K 3 6 0 1
 秋香亭(しゅうこうてい) → 矩久(ききゅう・坂崎、俳人) 1 7 4 3
 秋香亭(しゅうこうてい・傘路) → 忠洪(ただひろ・森、藩主/俳人) Q 2 6 6 8
 秋毫亭(しゅうごうてい) → 其明(きめい・秋毫亭、俳人) G 1 6 2 6
 秀光堂(しゅうこうどう) → 恵空(えくう;法諱、真宗大谷派学僧) B 1 3 0 1
 秋香堂(しゅうこうどう) → 円遵(えんじゆん;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 3
 従吾衛門(じゅうごえもん・井上) → 道(みち・井上のうえ、儒者) F 4 1 3 3

H2139 **秀国**(しゅうこく・壽ことぶき) 1711- 1796 86歳 江戸中橋上槇町おまん稲荷側住の俳人:買明門、
 1758「歌之介」60「ひるを見」「其角江戸座俳人連句」編/62「海の幸」編/64「奥羽行記」著、
 1774「あつまにしきゑ」82「山の幸」84「俳諧秋のねざめ」85「俳諧尚齒会」編、
 1790「俳諧ふるすゝり」95「石寿観歳旦」96「俳諧めつけ絵」編、「春の山寺」編、
 [秀国(;名/号)の別号]石寿観/恵方窟

X2125 **秀谷**(しゅうこく・寺崎てらさき、通称;甚右衛門)?-? 江中期山城愛宕郡鹿ヶ谷村の名主/俳人、
 1757「俳諧拾遺清水記」69「童問答間似合講釈」著

秋告(しゅうこく・林) → 秋告(あきのり・林はやし、国学者/歌人) D 1 0 7 7
 秀克(しゅうこく・加藤) → 仲実(ちゆうじつ・加藤、医者) G 2 8 1 7
 重国(しゅうこく・天野) → 重国(しげくに・天野あまの、歌人) N 2 1 2 0
 重克(しゅうこく→しげかつ・正岡) → 主税(ちから・正岡まさおか/越智、神職/歌) N 2 8 5 1
 重穀(しゅうこく・竹尾) → 重穀(しげよし・竹尾たけお、神職/国学) Z 2 1 3 4
 柔克(しゅうこく・都筑) → 高(たかし・都筑まつぎ、儒者/詩人) X 2 6 4 3
 綉谷庵(しゅうこくあん) → 文阿弥(もんあみ・綉谷庵、同朋衆/華道) I 4 4 1 4

X2126 **従吾軒**(じゅうごけん・田中たなか、名;重参/参) 1827-94 68 下総佐倉の儒者;古賀洞庵門/佐倉藩儒、
 江戸日本橋浜町に住、「随園文鈔」編(1857序)、

[従吾軒(;号)の字/通称/別号]字;子忠/士忠、通称;弥五郎、別号;竹所
 従吾軒(じゅうごけん) → 静斎(せいさい・南部なんぶ、郷士/儒者) I 2 4 3 2
 十五山水精舎(じゅうごさんすいしょうじゃ) → 香村(こうそん・遠藤・猪狩いかり、絵師/詩) K 1 9 4 1
 従吾所好館(じゅうごしょこうかん) → 直務(なおちか・新井あらい、里正/国学者) K 3 2 8 9
 修古堂(しゅうこどう) → 円陵(えんりょう・宮田/江間、儒者) F 1 3 5 0
 集古堂(しゅうこどう) → 光義(みつよし・谷村たにむら、神職/故実家) F 4 1 1 9
 習古堂(しゅうこどう) → 亨弁(こうべん;法諱、日蓮僧/歌人) B 1 9 9 0
 集古堂(しゅうこどう) → 豊芥子(ほうかいし・石塚、商家/稀書収集) 3 9 5 2
 従吾道人(じゅうごどうじん) → 義勇(よしたけ・島しま、藩士/蝦夷開拓) E 4 7 2 0
 集古葉堂(しゅうこようどう) → 正辞(まさこと・木村/清宮、国学者) C 4 0 5 0
 雌雄五郎(しゅうごろう・赤田) → 誠軒(せいけん・赤田あかだ、儒者) I 2 4 0 3
 州五郎(しゅうごろう・伴) → 信友(のぶとも・伴ばん、藩士/国学者) 3 5 1 0
 秀五郎(しゅうごろう・青山) → 忠高(ただたか・青山、藩主/藩校創設) P 2 6 7 4
 拾五郎(しゅうごろう・鈴木) → 準道(のりみち・鈴木すずき、藩士/記録) C 3 5 4 2
 十五郎(じゅうごろう・吉田) → 筋藁仲貫(ふしわらのなかぬき、藩士/狂歌) C 3 8 7 6
 十五郎(じゅうごろう・鈴木/稲葉) → 迂斎(うさい・稲葉いなば、儒者) B 1 2 3 0
 十五郎(じゅうごろう・徳力) → 竜潤(りゅうじゆん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
 十五郎(じゅうごろう・菊山) → 十郎兵衛(じゅうごろうべゑ・吉田蘆風、歌舞伎役・作者) I 2 1 4

- 重五郎(じゅうごろう・兼清)→ 蔭正(かげまさ・兼清かねきよ、国学者) L 1 5 3 2
 重五郎(十五郎じゅうごろう・町田)→ 清興(きよおき・町田まちだ、儒者/書家) O 1 6 6 4
 重五郎(じゅうごろう・上倉)→ 老梅(らうばい・上倉かみくら、幕臣/歌人) 5 2 4 4
 重五郎(じゅうごろう・鎗形)→ 春徳(しゅんとく・勝川かつかわ、絵師) L 2 1 6 6
 重五郎(じゅうごろう・西山)→ 政樹(まさき・西山/中里、国学者/歌) L 4 0 8 1
 周今(しゅうこん) → 周令(しゅうれい、詩/俳人) I 2 1 4 2
 秀根(しゅうこん・河村) → 秀根(ひでね・河村かわむら、藩士/国学者) D 3 7 5 4
 重根(じゅうこん/しげね・立花)→ 実山(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸) E 2 1 9 1
 重良叟(じゅうこんそう:号) → 等連(とうれん:法諱・竺運:道号、臨濟/五山文学) 3 1 3 1
- H2140 宗佐(しゅうさ;法諱・通称;大輔公)1575-? 1616存 天台僧;日光山法華堂の僧/光樹坊に住、
 1592「常行堂俱舎」98「勘発一之承仕」著
 周佐(しゅうさ;法諱・徳叟)→ 徳叟(とくそう;道号・周佐、臨濟僧) L 3 1 1 3
 修佐(しゅうさ・伊藤) → 蘭腕(らんえん・伊藤いとう、儒者/藩儒) B 4 8 5 6
- H2135 周斎(しゅうさい・鈴鹿すずか) ? - ? 江前期正保-延宝1644-81頃香道家、
 始め京住;公家諸家の組香を伝授、1673頃江戸住/1677山下弘永に香道伝授、
 衣山宗秀と関東に香道を伝播普及、1737「香道蘭の園」伝
- X2128 秀斎(しゅうさい・堀尾ほりお、名;春芳はるよし、字;秋実、吉次男)1713-9482 尾張名古屋医者、
 儒;小出侗斎門、垂加神道;玉木葦斎正英門、歌;藤原常樹門、高須藩に出仕、
 知多横須賀に観潮閣を開設;門人教育、美濃で書指導;名古屋から往復、
 1774「衣浦千鳥集」76「名分大義説」87「詰問答書」著、「亀伝」編、「神道大意」著、
 [秀斎の通称/別号]通称;勝次郎、別号;弘斎/青垣/観潮翁、有秋ありあきの養父
- H2141 習斎(しゅうさい・中村なかむら、名;蕃政、尾張藩士政順男)1719-9981 尾張儒者;小出侗斎門/蟹養斎門、
 經学修学/天文・地理・兵法・医術を修学/武芸の鍛錬、詩歌人、長く市井で門弟指導、
 1777尾張藩用人支配下の儒者;5人扶持、「諸経伝説」「易学諸説」「詩文学則」「釈奠考」、
 「読書伝」「風心雑語」「和訓義」、1771「歌学考」93「花心余情」98「感興詩私記」著、外編著多数、
 [習斎(;号)の通称/法号]通称;伊八/猪八/猪与八郎、法号;道已居士
- H2142 周斎(しゅうさい・大村おおむら、名;詔く/字;徳先/別号;越南)?-? 江後期武州川越の漢学者:
 1802石川雅望の喃本「しみのすみか物語」の漢文序
- X2129 周斎(しゅうさい・吉田よしだ/修姓;田)1749-182577 上州高崎藩医・儒者;藩主大河内輝和に出仕、
 藩老宮部義旭・菅谷帰雲・井沢蘭軒と交流、「烏水遺稿」、
 [周斎(;通称)の名/字/別通称/号]名;豹、字;伯皮/文蔚ぶんぷつ、別通称;田豹、号;烏水散人
- X2130 周斎(しゅうさい・青木あおき、名;惇、恭庵男)1780-182142 越後南魚沼郡上田村雲洞の医者;父門、
 1796(17歳)江戸遊学;儒;三縄桂林門/98再び江戸遊学し医術;加川定文章の昭曠館入門、
 在学4年;大槻磐水・佐久間維章と交流、経史・詩経に通じ詩文に長ず、帰郷し医業、
 「周斎遺稿」、
 [周斎(;号)の字/別号]字;叙卿、別号;雲峰
- H2143 周斎(しゅうさい・内田うちだ、名;楨)1784-183047 武蔵の儒者;大田錦城門、俳人、
 「論語集説辨義」「論語集説辨正抄」著、
 [周斎(;号)の字/別号]字;元盛、別号;旧雨/似雲亭
- X2131 習斎(しゅうさい・大槻おおつき、名;清格、平泉男)1811-6555 仙台儒者;父門、養賢堂学頭(;父を継承)、
 養賢堂支校を設立/日講所設立;庶民教育、洋学研究;医学館に蘭学局設置しロシア語講習、
 武術の奨励;巨砲・船艦の製造に尽力、「封内孝義録」、1850「仙台孝義録」「封内孝義録目録」、
 1855-56「西遊日記」、「家礼新図」著、
 [習斎(;号)の字/通称]字;文礼、通称;格治
 父 → 平泉(へいせん・大槻、藩校学頭/儒者) 2 7 6 1
- X2132 脩斎(しゅうさい・原はら、名;世雄/雄、松洲男)1814-7764 越後柏崎の儒者;父門/丹羽思亭門、
 1833(20歳)江戸の朝川善庵門/昌平黌入学、帰郷;父の業を継嗣/子弟教育、
 書;巻菱湖(父の友人)門、山下霜筠・松村精所の師、
 「脩斎詩文集」「淡圃旧草」「詩経鈔説」「論語鈔録」「読春秋」「筆記」著、
 [脩斎(;号)の字/通称/別号]字;君量/子傑/公飛、通称;理一、別号;淡圃

父 → 松洲(しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士) N 2 1 3 8

- X2133 周斎(しゅうさい・渡辺わたなべ/初姓;丹波谷、名;純)?-? 佐渡新穂村の酒造業・町年寄渡辺慎斎の養子、渡辺家は貞阿・巴丈・慎斎と代々俳人で巴江庵を継承、周斎も俳諧を習う:梅室・九起門、1835養父没;養家を継嗣、1845「文恵良美」51「雁の玉章」52「水鳥の嘴集」、「不遊の雁巢」著
- X2134 習斎(しゅうさい・久米くめ、名;篤)?-? 幕末期武州児玉の期漢学者/詩人、忍藩の能楽に関与?、1853「習斎摘草」著(大沼枕山の序と批点)、1870「三雲絶句」共編(木内子陽・桐原鳳兮と編/宮沢雲山・遠山雲如・竹内雲濤の遺作集)、[習斎(;)の字/通称]字;子行にう/竹馬、通称;徳太郎
- X2135 秀斎(しゅうさい・藤田ふじた、秀治長男)1825-8157 備中賀陽郡惣社の生薬屋の生、和算;小野以正門、数理・陰陽道を極める/諸国の大家を歴訪/京の司天台家に入門;免許を得、帰郷し子弟教育、1866備中上房郡の高梁川を実測/維新後小田県に出仕し測量に当る、1854「整数術秘書」56「算題抜解」64「易道独判断」、「算題集秘書」「算法起術円」「算法便書」、「シーヒレキ用法図解」「藤田秀斎雑記」著、「算法辨疑」「算法適等詳解」編、[秀斎(;)の通称/別号]通称;助次郎、別号;薬園亭、
- X2136 周斎(しゅうさい・豊由とよよし/豊田?、名;照恭/照泰)?-? 江末期京の仏小路油小路東住の和算家、「円理」「改正算梯」「算法天元術」「演段」「直術」「点竄三要」編、「開立法」著、外編著多数、[周斎(;)の字/別号] 字;伯敬、別号;共堂
豊由照明と親戚? → 照明(てるあき・豊由とよよし、京和算家) C 3 0 6 8
- 周斎(しゅうさい・藤門) → 元弘(もとひろ・藤門ふじかど、歌人) E 4 4 1 0
周斎(しゅうさい・宮田) → 鉄楞(てつかい・宮田、医者/俳人) C 3 0 1 6
秋斎(しゅうさい・多田) → 義俊(よしとし・多田/桂/源、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
秋斎(しゅうさい・坂) → 徴(ちよう・坂、国学) H 2 8 0 7
秋斎(羞斎しゅうさい・竹内) → 式部(しきぶ、竹内たけのうち、垂加神道家) B 2 1 5 4
秋斎(しゅうさい・生山) → 正方(まさかた・生山いくやま/うぶやま/藤原、神職/国学) N 4 0 5 1
秋斎(しゅうさい・宇留野) → 静庵(せいあん・宇留野うるの、藩士/学者) H 2 4 2 5
秋斎(しゅうさい・岡田) → 元善(もとよし・岡田おかだ/源、家老/国学) J 4 4 5 9
萩斎(しゅうさい・林) → 良本(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) H 4 7 7 0
萩斎(しゅうさい・平尾) → 信種(のぶたね・平尾ひらお/平井、僧/医/国学) J 3 5 8 3
修斎(周斎しゅうさい・山中) → 秀之(ひでゆき・山中/秦、医者/救民活動) E 3 7 0 6
修斎(しゅうさい・桃井) → 筋山(せつざん・桃井/桃、翠庵養嗣/藩儒) E 2 4 3 9
修斎(しゅうさい・安藤) → 重満(重麻呂しげまる・安藤あんどう、神職/国学) P 2 1 2 9
修斎(しゅうさい・柏淵) → 嘉一(よしかず・柏淵かしぶら、儒/国学者) M 4 7 1 6
脩斎(しゅうさい・大野) → 恥堂(ちどう・大野、儒者) F 2 8 0 0
脩斎(修斎しゅうさい・土生) → 玄昌(げんしょう・土生はぶ、眼科医) J 1 8 9 8
習斎(しゅうさい・堀) → 南湖(なんこ・堀ほり、儒/医者/詩) I 3 2 9 1
習斎(しゅうさい・吉岡) → 羽人(うじん・吉岡よしおか、俳人) C 1 2 8 7
習斎(しゅうさい・鈴木) → 伍草(ごそう・鈴木すずき、藩士/儒者) M 1 9 9 9
習斎(しゅうさい・菅野) → 元健(もとたけ・菅野すがの、和算家) C 4 4 8 7
遯斎(しゅうさい) → 月磨(つきまろ・喜多川、絵師) 2 9 5 9
拾斎(しゅうさい) → 八朗(はちろう・宮本、俳人) E 3 6 9 8
秀才(しゅうさい・鹿島) → 天翁(てんおう・鹿島かしま、俳人) D 3 0 1 7
秀斎(しゅうさい・竹中) → 霞城(かじょう・竹中たけなか、医者) L 1 5 9 7
秀斎(しゅうさい・宇野) → 東山(とうざん・宇野/宇/小林、医/儒者) E 3 1 5 4
秀斎(しゅうさい・森;変名) → 忠光(ただみつ・中山、国学:勤王派) F 2 6 8 9
秀哉(しゅうさい・猪股) → 独幹(どくかん・猪股いのまた、藩医) K 3 1 5 4
秀歳(しゅうさい・大田) → 什安(じゅうあん・大田おた、医者) G 2 1 7 2
聚斎(しゅうさい・小出) → 敬一(たかかず・小出こいで、神職/歌人) W 2 6 9 8
鋏斎(しゅうさい・宇都宮) → 大潔(ひろきよ・宇都宮うつのみや、博学/地誌) F 3 7 7 7
重斎(じゅうさい・若井) → 成章(なりあき・若井わかい、藩士/攘夷論) D 3 2 7 9
重濟(じゅうさい・山路) → 機谷(きこく・山路やまじ、儒者/国学) K 1 6 3 8

重哉(じゅうさい・鈴木) → 重哉(しげや・鈴木、歌人) X 2 1 6 4
 重哉(じゅうさい・小原) → 重哉(しげや・小原おはら、藩士/司法) N 2 1 6 7
 柔斎(じゅうさい・貝原) → 益軒(えきけん・貝原、藩士/儒者) 1 3 0 6
 住斎(じゅうさい・三浦) → 元住(もとずみ・三浦みうら、藩士/歌人) L 4 4 4 4
 従斎(じゅうさい・黒瀬) → 益弘(ますひろ・黒瀬/度会、神職/記録) J 4 0 2 0
 什斎(じゅうさい・阿野) → 実頭(さねあき・阿野、権大納言/歌/連歌) C 2 0 8 3
 什斎(じゅうさい・里村) → 昌琢(しょうたく・里村、連歌師) 2 2 8 6
 修斎舎舜雅(しゅうさいしやしゅんが) → 業智(なりとも・間宮、茶人/歌) H 3 2 7 9
 衆裁亭(しゅうさいてい) → 素行(もとゆき・川波かわなみ、国学者) E 4 4 6 2
 周左衛門(しゅうざえもん・今城) → 峴山(硯山けんざん・今城いまき、儒者) E 1 8 8 7
 周左衛門(しゅうざえもん・浅野) → 栗斎(りつさい・浅野/中村、藩士/儒者) B 4 9 9 6
 重左衛門(じゅうざえもん・山岸) → 陽和(ようわ・山岸やまぎし、藩士/俳人) B 4 7 6 7
 重左衛門(じゅうざえもん・山岸) → 半残(はんざん・山岸、陽和男/藩士/俳人) H 3 6 7 4
 重左衛門(じゅうざえもん・山岸) → 車来(しやらい・山岸、半残男/藩士/俳人) G 2 1 5 7
 重左衛門(じゅうざえもん・別所) → 良修(よしなが・別所べつしよ、藩士/歌) O 4 7 9 7
 重左衛門(じゅうざえもん・一ノ瀬) → 調実(ちようじつ・一ノ瀬、紙漉/俳) 2 8 5 9
 重左衛門(十左衛門じゅうざえもん・浜野) → 建雄(たけお・浜野、網元/国学) O 2 6 2 8
 重左衛門(じゅうざえもん・石川) → 子温(しおん、石川、藩士/和算家) P 2 1 7 4
 十左衛門(じゅうざえもん・荒木) → 元政(もとまさ・荒木あらかき、幕臣/記録) E 4 4 2 9
 十左衛門(じゅうざえもん・鈴木/稲葉) → 迂斎(うさい・稲葉いなば、儒者) B 1 2 3 0
 十左衛門(じゅうざえもん・巨勢) → 利啓(としのり・巨勢こせ、幕臣/歌人) N 3 1 3 1
 十左衛門(じゅうざえもん・久保田) → 義知(よしとも・久保田くぼた/源、幕臣/歌) K 4 7 4 2
 十左衛門(じゅうざえもん・紅林) → 梅処(ばいしょ・紅林くればやし/呉/境田、藩儒) B 3 6 5 4
 十左衛門(じゅうざえもん・間) → 直光(なおみつ・間はさま、藩士/和学) O 3 2 3 3
 十左衛門(じゅうざえもん・興田) → 吉従(よさゆ・興田おきた、儒/神道/国学) K 4 7 2 0
 十左衛門(じゅうざえもん・宮永) → 正運(まさゆき・宮永、農政家/俳人) I 4 0 2 6
 十左衛門(じゅうざえもん・増井) → 玄覧(げんらん・増井ますい、儒者/詩) F 1 8 0 1
 十左衛門(じゅうざえもん・加藤) → 古風(ひさかぜ・加藤かとう、藩士/歌人) 3 7 9 1
 十左衛門(じゅうざえもん・池田) → 貞一(さだかず・池田/紀、幕臣/和算家) H 2 0 9 4
 十左衛門(じゅうざえもん・三浦) → 安貞(やすさだ・三浦みうら/杉原、藩士/歌) G 4 5 7 7
 十左衛門(じゅうざえもん・三浦) → 安輝(やすてる・三浦みうら、藩士/歌) G 4 5 7 8
 十左衛門(じゅうざえもん・大井) → 満郷(みつさと・大井おおい、幕臣/国学) I 4 1 3 2
 十左衛門(じゅうざえもん・久保) → 信敏(のぶとし・久保くぼ、国学/歌人) I 3 5 2 5
 十左衛門(じゅうざえもん・中村) → 得斎(とくさい・中村、藩士/儒者) K 3 1 7 4
 十左衛門(じゅうざえもん・佐藤) → 可住(よしずみ・佐藤さとう、藩士/国学) N 4 7 1 3
 十左衛門(じゅうざえもん・長谷川) → 弘(ひろむ・長谷川/佐藤、和算家) H 3 7 4 6
 十左衛門(じゅうざえもん・羽田) → 正見(まさみ・羽田はねだ、幕臣) H 4 0 3 6
 十左衛門(じゅうざえもん・大沢) → 輝尚(てるひさ・大沢おおさわ、藩士/歌) F 3 0 0 6

X2137 周朔(周作しゅうさく・武井たけい、号; 樸涯れきがい) ?-? 江後期江戸日本橋東長浜町の博物学者、

1819「医家人名録」/31「魚譜」「魚鑑」「菜鑑」「藻鑑」「鳥鑑」「獸鑑」著

秀作(しゅうさく・飯野) → 厚比(あつとも・飯野いいの/木下、国学/歌) B 1 0 3 4
 秀策(しゅうさく・本因坊) → 本因坊秀策(ほんいんぼうしゅうさく、桑原、棋士) E 3 9 9 5
 十作(じゅうさく・稲葉) → 英好(ひでたか・稲葉いなば、国学者) I 3 7 5 2
 重作(じゅうさく・山田) → 昌之(まさゆき・山田やまだ、藩士/歌人) I 4 0 3 6
 周冊(しゅうさく・高島) → 尉之介(じょうのすけ・高島/高嶋、医者/俳) L 2 2 3 5
 周三郎(しゅうざぶろう・朽木) → 倫綱(ともつな・朽木くつき、藩主) P 3 1 8 3
 周三郎(しゅうざぶろう・甲斐/河鍋) → 晁斎(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師) N 1 6 8 5
 周三郎(しゅうざぶろう・近藤) → 眞瑤(またま・近藤こんどう/関川、国学/歌) P 4 0 7 3

2142 重三郎(しゅうざぶろう・蔦屋つたや、尾張の丸山重助男) 1750-97 48 母; 江戸の広瀬家の娘、江戸の生、幼時に新吉原茶屋(芸妓屋)蔦屋本家喜多川家の養子、1773吉原大門口に小書肆を営む、

1774卸小売・自家版行を開始/1778新店を構え吉原細見・富本節正本・狂歌集・戯作等版行、
1783日本橋通油町に本店を移し地本問屋耕書堂主人;細見株を独占、狂歌;吉原連、
朋誠・京伝・春町・南畝と親交、歌麿・栄松齋・燕十・参和・写楽などを世に出す、
1791寛政の改革で京伝が筆禍;版元は縮小され再び隆盛はなかった、
1775「現金安売はなし」76「美人真姿鑑」86「敵討浮木の亀山」90「本樹真猿浮気噺」著、
1797「身体開帳略縁起」著、「伊丹諸白」「絵本江戸爵」編、外編著多数、1787狂歌才蔵集入、
[髪それば格別目立つ耳のたぶ目出度く載する米の数かな]、

(才蔵集;九367/三粒載ると金持になるという)、

[葛屋重三郎(;通称)の名/別通称/号]名;柯理、通称;葛重/葛十、

号;葛唐丸(つたのからまる;狂歌名)/薛羅へいら館/耕雲堂、屋号;葛屋

重三郎(4世じゅうざぶろう・葛屋)→春馬(2世しゅんば・三亭、書肆/合卷/狂歌) L 2 1 7 5

重三郎(じゅうざぶろう・檜垣)→貞命(さだのぶ・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 1 5

重三郎(じゅうざぶろう・天王寺屋)→庭枝(ていし・松寿亭、狂歌作者) B 3 0 0 1

重三郎(じゅうざぶろう・岡田)→明義(あきよし・松岡まつおか、故実家) E 1 0 1 3

重三郎(じゅうざぶろう・鳥海)→松亭(しょうてい・鳥海とりのうみ、医/老荘学) U 2 2 3 9

重三郎(じゅうざぶろう・中川)→忠英(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆) F 2 6 3 4

重三郎(じゅうざぶろう・和田)→重善(しげよし・和田/湯本、藩士/詩人) T 2 1 1 6

重三郎(じゅうざぶろう・豊田)→長教(ながあつ・豊田とよだ/本姓;平、国学) K 3 2 4 2

十三郎(じゅうざぶろう・勝部)→芳房(よしふさ・勝部かつべ/朝山、神職/歌) G 4 7 7 4

十三郎(じゅうざぶろう・板倉)→重宗(しげむね・板倉いたくら、藩主) D 2 1 1 0

十三郎(じゅうざぶろう・寺本)→直道(なおみち・寺本、儒者) C 3 2 5 8

X2138 秀算(しゅうさん;法諱・京識きやうしき;字、俗姓;須藤) 1572-1641 70 上州高崎の真言僧:

1584(13歳)碓氷郡後閑の北野寺慧算門;出家/1601長谷寺の専誉門、1615長谷寺4世、
徳川家康・秀忠・家光の尊信を受、「伝流四度伝授聴受鈔」著

秀三(しゅうさん・木下) → 秀三(ひでみつ・木下/豊臣、幕臣/歌人) D 3 7 9 0

X2139 宗山(しゅうざん;道号・等貴とうき;法諱、伏見宮貞常親王男) 1464-1526 63 母;庭田重有女の盈子、
臨濟僧:1474(11歳)相国寺仙巖澄安の塔を拝し出家/希世靈彦・横川景三門、
等持寺・相国寺を住持、相国寺鹿苑院主;2度僧録を務める、没後すぐ禅師郷贈与、
各種和漢聯句多数参加、「等貴和尚詠草」著/1486「和漢狂句」参加、

[宗山等貴の号] 松逕/松下、諡号;仏眼天祐禅師、就山永崇しゅうざんえいそうの弟

P2108 秋山(しゅうざん) ? - ? 近江の俳、1689言水「前後園」/90「新撰都曲」1句入、
[涼しさや灸して山を見る心](都曲;上186/農作業を終え足腰を癒して山を見る)

H2145 舟山(しゅうざん) ? - ? 江戸の雑俳点者、1702「冠独歩行かんむりひとりあるき」入

X2140 周山(しゅうざん;通称・田中たなか、初通称;三貞) 1659-1715 57 肥前長崎の医者;1676京の西三博門、
1682皇太后の療治;法橋に叙せらる、元禄1688-1704頃周防岩国領主吉川家に随い江戸住、
「通俗勸善宝訓」著、杉浦玄流(幕府医官)の師

X2141 周山(しゅうざん・吉村よしむら、名;充興)?-1776 大阪島の内の絵師:牲川充信門、彫刻の根付師、
法眼、1750「画英」著/67「画宝」編/70「画賛」著、「官職補任図絵」画、
[周山(;号)の通称/別号]通称;周次郎、別号;探仙叟/探興斎

H2146 舟山(しゅうざん・桜井さくらい、名;良翰よしとか、藩医桜井親房[玄樹]4男) 1717-57 41 但馬出石藩の医者、
上京し医術修得/儒学;伊藤蘭岨・宇野明霞門、1746但馬出石藩儒、
「舟山文集」「舟山詩稿」著、1751藩命で「但馬考」編、「舟山先生国雅」「舟山文集補遺」著、
[舟山(;号)の字/通称]字;子顕、通称;善蔵

H2147 鷺山(しゅうざん・大久保おおくぼ、名;好知) 1797-1852 56 代々越後高田藩士、儒;中島嘉春・大田錦城門、
藩儒指南役として子弟教授、幕命で藩主榊原政令「明史稿」310巻上梓の際に句読訓点担当、
「鎌倉紀行」「探芳録」「撃攘独談」「文政十二年江戸大火」著、「葵藿堂叢書」編、
[鷺山(;号)の字/通称]字;学海、通称;長之助/門兵衛

X2142 拾山(しゅうざん・永島ながしま) 1818-1884 67歳 三河宝飯郡上ノ郷の俳人;卓池門/のち京の梅室門、
同門梅通と子女教育、国風社設立;皇道を主唱、「感得集」「明意」編/1856「ふくろさうち」編、

[拾山(；号)の通称/別号]通称;喜右衛門、別号;白鱗舎

就山(しゅうざん・永崇;法諱)→	就山(じゅうざん・永崇、臨濟僧)	Y 2 1 8 2
就山(しゅうざん・狩野)	→ 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学)	F 4 5 7 2
舟山(しゅうざん)	→ 八朗(はちろう・宮本、俳人)	E 3 6 9 8
舟山(しゅうざん・平井)	→ 庸慎(ようしん・平井ひらい、医者)	B 4 7 2 6
舟山(しゅうざん・熊懷)	→ 行礼(ゆきのり・熊懷くまがい、神職/国学)	G 4 6 7 9
周山(しゅうざん;号)	→ 覚応(かくおう;法諱、真宗本願寺派僧)	J 1 5 6 0
周山(しゅうざん)	→ 桃秋(とうしゅう・広瀬、商/俳人、淡窓父)	E 3 1 9 4
周山(しゅうざん・末川)	→ 久救(ひさひら・末川/島津、歌人)	B 3 7 7 2
周山(しゅうざん・賀田)	→ 秀蔭(ひでかげ・賀田かた、歌人)	C 3 7 9 0
秋山(しゅうざん・木村)	→ 豊持(とよもち・木村きむら、藩家老/歌人)	U 3 1 9 2
秋山(しゅうざん・斎藤)	→ 磐根(いわね・齋藤さいとう、村長/国学)	K 1 1 2 9
秋山(しゅうざん・渋川)	→ 常躬(つねか・渋川しぶかわ、藩士/国学)	F 2 9 8 0
衆山(しゅうざん・臯月)	→ 平砂(2世へいさ・臯月さつき、俳人)	2 7 3 1
秀山(しゅうざん;字)	→ 豪尊(ごうそん;法諱・秀山、天台僧)	K 1 9 4 6
秀山(しゅうざん;道号)	→ 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌)	G 4 7 5 3
秀山(しゅうざん;号)	→ 瑞藤尼(ずいとうに;法諱、歌人)	I 2 3 6 1
宗山(しゅうざん・亀岡)	→ 宗山(そうざん・亀岡かめおか、幕臣/記録)	C 2 5 7 3
繡山(しゅうざん・松平)	→ 頼徳(よりのり・松平まつだいら、藩主/歌)	K 4 7 5 9
重三(じゅうざん/しげぞう・鈴木)→	正三(しょうざん・鈴木/穂積、禅僧/仮名草子)	2 1 7 8
重参(じゅうざん・田中)	→ 従吾軒(じゅうごけん・田中、藩儒)	X 2 1 2 6
重祭(じゅうざん・鴫田)	→ 重祭(しげあき・鴫田ときた、国学者)	Z 2 1 4 9

H2148 重山(しゅうざん・桜井さくらい、別号;桜井軒)?-? 江前期伊勢久居藩主藤堂家の家士/俳人、1673作法書「俳諧公界集」編

H2149 什山(しゅうざん・小西こにし、名;知秀、別号;十万堂4世)?-? 江後期大阪の俳人、来山の裔、1783「続いま宮草(来山真蹟)」編

X2143 重山(しゅうざん・山口やまぐち、名;弘毅、剛斎男)1781-1853 73 大坂生/幼児期父と石見津和野に移住、儒;父門/1803藩校養老館句読/兄省斎の継嗣/安藝の頼山春水門/帰藩;1810助教/15教授、1832家督相続;百石、42致仕、「重山遺稿」、[重山(；号)の字/通称]字;子重、通称;唯次

重山(しゅうざん・久隅)	→ 守景(もりかげ・久隅くすみ、絵師)	F 4 4 2 4
重山(しゅうざん・柳川)	→ 重信(2世しげのぶ・柳川やながわ、絵師)	C 2 1 7 5
修算院(しゅうざんいん)	→ 兼政(かねまさ・小出こいで、暦算家)	O 1 5 9 3
鷲山院(しゅうざんいん)	→ 日慈(にちじ;法諱、日蓮僧)	C 3 3 0 3
十三園主人(しゅうざんえんしゅじん)	→ 甄里((せんり・森本、藩士/儒者)	N 2 4 2 7
秋山下(しゅうざんか)	→ 声々(せいせい・松本、医者/俳人)	I 2 4 9 8
十三松堂(じゅうざんしやうどう)→	確堂(かくどう・中村なかむら、藩士/儒者)	H 1 5 3 6
楫山人(しゅうざんじん)	→ 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学)	B 1 1 8 4
舟山人(しゅうざんじん)	→ 眞篳(ますず・宮本、虎杖庵4世/俳人)	J 4 0 0 5
十三助(しゅうざんすけ)	→ 十三助(とみすけ・奈河ながわ、歌舞伎作者)	O 3 1 8 4
囚山亭(しゅうざんてい)	→ 波山(はざん・芳川よしかわ、儒/詩人)	E 3 6 3 2
十山亭(じゅうざんてい)	→ 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学)	G 3 7 5 1
修三堂(しゅうざんどう)	→ 徳風(とくふう・富田、商家/儒/国学者)	L 3 1 3 3
十三郎(じゅうざんろう・朝山)→	芳房(よしふさ・朝山あさやま/勝部、神職)	G 4 7 7 4
十三楼(じゅうざんろう)	→ 景山(けいざん・久米くめ、藩士/郡代/歌)	N 1 8 6 9

H2151 周子(しゅうし/ちかこ・源みなもと、右大弁源唱の女)?-935? 醍醐天皇の更衣、時明/盛明両親王・源高明・勤子/郁子/雅子内親王らの母、歌:930以前「近江御息所歌合」催、万代集入、勅撰3首;後撰277/新古今1172/玉葉1360、[五月雨に濡れにし袖にいとどしく露置き添ふる秋のわびしさ](後撰;六秋277)(五月に母が死去し服喪中、醍醐上皇からの文に返歌)

[周子(；名)の通称] 近江更衣(近衛更衣は誤?)、近江御息所、中将御息所

- X2144 周子(しゅうし) ? - ? 1357存 南朝歌人、従三位、新葉集854/961、
[袖の香や形見ならまし小夜衣またかさぬべき契りならずは]、
(新葉;恋854/1357正平十二年内裏百首歌)
- H2152 周嗣(しゅうし;法諱/法師)? - ? 1365存 南北期禅僧/歌人・頓阿門、多くの歌書書写;
「異本山家集」「後鳥羽院御口伝」等書写、頓阿ら5人と「句題百首(五玉集)」著(書写)、
頓阿家集「草庵集」入、新千載集1933、
[山里にのがれもいらじ世の中のうきこそいとふたよりなりけれ](新千載;雑1933)、
[周嗣(;法諱)の号]江湖周嗣/頓倒野人
- X2145 蝨髭(しゅうし;号) ? - ? 尾張の俳人;1686「春の日」1句(付句)入、
[行幸みゆきのために洗ふ土器かはらけ](春の日;三月十九日舟泉亭歌仙追加第四句;越人発句)、
(前句;きさらぎや餅晒さらすべき雪ありて;聴雪)
- X2146 習之(しゅうし;号、俳人・圃友男)?- ? 日向本庄の俳人・
1793蝶夢一門の近江義仲寺での芭蕉百回忌追善興行に上京して参加、
1814父追善集「鴈のわかれ」編・刊
- 周子(しゅうし・鍋島) → 周子(かねこ・鍋島、歌人) O 1 5 4 7
 周子(しゅうし・島津) → 周子(かねこ・島津しまづ/池田、弥姫/和漢学) U 1 5 7 7
 周之(しゅうし・猿山) → 赤城(せきじょう・猿山さやま、書家) K 2 4 1 8
 周之(しゅうし・加古川) → 遜斎(そんさい・加古川/糟谷、医/儒者) F 2 5 3 9
 周之(しゅうし・権田/光谷) → 竹二坊(ちくじぼう・権田、医者/俳人) D 2 8 1 6
 周之(しゅうし・松田) → 自然斎(じねんさい・松田/松、儒者) V 2 1 3 9
 周士(しゅうし・菅) → 隆珀(隆伯りゅうはく・菅すが、医者) F 4 9 4 4
 秋子(しゅうし・広瀬) → 秋子(あきこ/ときこ・広瀬ひろせ、淡窓妹) G 1 0 7 5
 秋子(しゅうし・岡部おかべ) → 秋子(あきこ・岡部おかべ、歌人) G 1 0 7 2
 秀氏(しゅうし)すべて → 秀氏(ひでうじ)
 秀之(しゅうし・山中/秦) → 秀之(ひでゆき・山中/秦、医者/救民活動) E 3 7 0 6
 秀之(しゅうし・海老原) → 秀之(ひでゆき・海老原えひはら、歌人) L 3 7 6 6
 秀子(しゅうし・小河) → 秀子(ひでこ・小河おごう/おがわ、歌人) I 3 7 6 8
 秀子(しゅうし・小出) → 秀子(ひでこ・小出こいで、歌人) L 3 7 7 0
 秀史(しゅうし・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
 秀枝(しゅうし・二木) → 秀枝(ひでえ・二木ふたき、国学/歌人) K 3 7 8 9
 秀趾(しゅうし・竹内) → 東白(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学) G 3 1 9 2
 就子(しゅうし・吉成) → 就子(なりこ・吉成よしなり、歌人/教育者) P 3 2 3 3
 習之(しゅうし;剃髮号) → 吉子(きつこ・村上むらかみ、国学/詩歌) B 1 6 5 1
 習之(しゅうし・秋元/菅/秋) → 時憲(ときのり・秋元、儒/詩人) J 3 1 7 6
 習之(しゅうし・畑) → 鉄鶏(-雞てつけい・畑はた、医者/絵師) C 3 0 2 6
 舟之(しゅうし・芥川) → 帰山(きざん・芥川あくたがわ、儒者) K 1 6 7 0
 修之(しゅうし/なおゆき・志村/古屋) → 峰城(ほうじょう・古屋/伴、儒/書家) F 3 9 7 6
 修子(しゅうし・藤原) → 中将更衣(ちゅうじょうのこうい、醍醐天皇妃/歌) G 2 8 4 4
 修錫(しゅうし・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0
 脩芝(しゅうし・柴田) → 汶嶺(ぶんれい・柴田/芝田/柴、書家/漢学) G 3 8 8 1
- X2147 周次(しゅうじ;通称・菅生ずごう)?- ? 江中期大阪の書家:
1626「竹楼帖」、「文徴明茶詩」「秋風帖」「前後赤壁賦」書
- H2153 周二(しゅうじ・田井そのい) ? - ? 歌舞伎作者:1753「中富三大臣」合作:英露鳥らと
- B2140 修治(しゅうじ・丹波たんば/初姓;木村、名;公憲) 1826-1908⁸³ 尾張愛知郡一色村生;丹波衛門の養子、
伊勢に住/博物学者;名古屋旭園の菅百社の社員(伊藤圭介主宰)、植物採集・博物会に参加、
歌人;黒沢翁満おきなまろ門、1857翁満「葎居むぐらい前集」共編(伊藤信寛と)、1858「本草真影」編、
1863「伊阪山採薬目録」編、「諸国物産録」「丹修雑記」著、「丹波氏博物叢書」編、外編著多数、
[修治(;通称)の字] 之翰(しかん・ゆきふみ)
- 修二(しゅうじ・大槻) → 如電(じよでん・にょでん・大槻おおつき、漢学者) U 2 2 7 2
 鷲児(しゅうじ) → 稻坡(とうは・松岡、藩士/俳人) G 3 1 9 0

- 周而(しゅうじ・進藤) → 周人(しゅうじん・進藤しんどう、藩医/詩歌) X 2 1 6 3
 周次(しゅうじ・竜田) → 義陳(よしのぶ・竜田たつた、国学者/歌人) N 4 7 8 5
 周時(しゅうじ・天野/馬場) → 楽山(らくざん・馬場ばば、藩士/儒者) B 4 8 1 9
 秀治(しゅうじ・大屋) → 秀治(秀春ひではる・大屋/藤原、廷臣/歌) D 3 7 6 8
 秀治(しゅうじ・白石) → 義隆(よしたか・白石しらいし、国学/歌人) N 4 7 3 6
 秀次(しゅうじ)すべて → 秀次(ひでつぐ)
 秀時(しゅうじ・赤堀) → 秀時(ひでとき・赤堀あかぼり、藩士/歌) L 3 7 9 3
 秀時(しゅうじ・木下) → 秀時(ひでとき・木下きのした、官人/歌人) J 3 7 1 7
 秀時(しゅうじ・児二井) → 秀時(ひでとき・児二井こにい、神職/国学) J 3 7 5 4
 充之(じゅうし・岡谷) → 義端(ぎたん・岡谷おかや、藩士/書家) L 1 6 1 5
 従之(じゅうし・奥村) → 栄通(てるみち・奥村、藩士/文筆) C 3 0 9 6
 重之(じゅうし・源) → 重之(しげゆき・源みなもと、廷臣/歌人) 2 1 1 8
 重之(じゅうし・山口/田口) → 重如(重之しげゆき・山口/田口、官人/歌) D 2 1 2 4
 重之(じゅうし/しげゆき・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
 重之(じゅうし・久徳) → 重徳(しげのり・久徳きゆうとく、藩士/日記) S 2 1 1 8
 重之(じゅうし・佐伯) → 重之(しげゆき・佐伯さえき、俳人) D 2 1 6 7
 重之(じゅうし・久世) → 重之(しげゆき・久世くぜ/源、藩主/漢学) T 2 1 0 0
 重之(じゅうし・櫛淵) → 重之(しげゆき・櫛淵くしぶら、国学者/歌) O 2 1 2 9
 重之(じゅうし・山県) → 重之(しげゆき・山県やまがた/橘、国学/歌) Z 2 1 9 5
 重視(じゅうし/しげみ・竹中) → 和順(かずより・竹中たけなか、藩士/文筆家) M 1 5 5 9
 重視(じゅうし・鈴木) → 重視(しげみ・鈴木すずき/佐野、幕臣/奉行) Z 2 1 1 9
 重資(じゅうし・庭田) → 重資(しげすけ・庭田/綾小路/源、大納言/歌) C 2 1 2 5
 重嗣(じゅうし・庭田) → 重嗣(しげつぐ・庭田/源、大納言/歌人) C 2 1 4 3
 重氏(じゅうし)すべて → 重氏(しげうじ)
 重謨(じゅうし・三井) → 丹丘(たんきゆう・三井みつゐ、医者/絵師) T 2 6 2 8
 重枝(じゅうし・高垣) → 重枝(しげえ・高垣たかがき、藩士) Q 2 1 6 5
 重枝(じゅうし・高木) → 重枝(しげえ・高木たかぎ、藩士/歌人) N 2 1 1 1
 重枝(じゅうし・伊島) → 重枝(しげえ・伊島いじま/直江/伊藤、庄屋/勘定奉行) N 2 1 2 5
 重枝(じゅうし・伊藤) → 重枝(しげき・伊藤いとう/直江、藩士/歌) N 2 1 3 3
 X2149 重治(じゅうじ;号) ? - ? 尾張津島の俳人;1689「あら野」1句入、
 [しら浪とつれてたばしる霰あられ哉](あら野;五仲冬)
 H2155 十字(じゅうじ・蓮左廬) ? - ? 俳人・蓮之[珪琳]門、1737「水ぐるま」編
 重次(じゅうじ)すべて → 重次(しげつぐ)
 重治(じゅうじ・馬淵) → 宗畔(そうはん・馬淵まぶら、俳人) C 2 5 7 7
 重治(じゅうじ)訓読すべて → 重治(しげはる)
 重時(じゅうじ・北条) → 重時(しげとき・北条/平、幕臣/歌人) C 2 1 5 1
 重時(じゅうじ/しげとき・鈴木) → 金谷(きんこく・鈴木すずき、藩士/蘭学者) Q 1 6 9 4
 従耳(じゅうじ・丸山) → 拳石(けんせき・丸山まるやま、医者) K 1 8 4 8
 従時(じゅうじ・吉川) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8
 従事(じゅうじ・田山) → 敬儀(たかのり・田山たやま、歌人) D 2 6 4 7
 洪紙庵(じゅうしあん) → 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人) C 3 1 3 5
 十時庵(じゅうじあん/とときあん) → 道彦(みちひこ・鈴木、俳人) 4 1 1 5
 十時庵(じゅうじあん/とときあん) → 谷峨(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/音曲) C 1 9 3 5
 a2165 十思覚(じゅうしかく・法号;万蓮社億眷十思素覚)?-1724 京の浄土僧、歌人;宮川松堅門、
 浄土宗鎮西派聖光寺第19世住職、1722松堅[倭譚五十人一首]入・顕紘[同追加]6首入、
 [五月雨に蜚あまのまてがたうづもれてうらめづらしきいとまなるらん]、
 (五十人一首;22/浦五月雨/長雨にめずらしく休暇を得る/まてがた;製塩の道具説?)
 2143 秋色(初世しゅうしき・菊后亭、名;おあき、菓子商大坂屋伊勢大掾の女)1669-1725⁵⁷ 江戸小網町生、
 俳人・其角門、寒玉[姓不詳:其角門俳人]の妻/古手屋・儉鈍(けんどん)屋を営む/のち点者、
 師より半面美人点印を受;のち湖十に伝授、其角を追善;「類柑文集」「俳諧石なとり」編、

- 上野清水堂秋色桜の逸話あり、子息多し、長男林鳥・次男紫万も俳人、追善集「兩三声」、
[井戸端の桜あぶなし酒の酔ひ] (江戸砂子)、[見し夢のさめても色の杜若] (辞世)、
- H2156 **秋色** (2世しゅうしき・田本、通称; なか/きよ) 1727-84 58 俳人; 3世湖十門/その養女 (深川氏を称す)、
「俳諧魚と水」「花実集」「古今婦女句拾」編、1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」歌仙入、
[石山の月吹落ちてこほりかな]、[ほらもとの雪となるかや初ざくら] (双猿路談)
[2世秋色(;号)の別号] 囿窓/田秋色/秋色亭野菊女しゅうしきていのぎくじよ
周七(しゅうしち・上田) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0
- H2157 **十七** (じゅうしち・於仁茂おにも) ?- ? 名古屋の洒落本作者:
1800大野屋惣八編「軽世界けいせいかい四十八手」のうち「忍の手」著
十七郎(じゅうしちろう・秋田/津田) → 鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家) C 3 9 4 1
- H2158 **宗叱** (しゅうしつ) ? - ? 入唐僧、肖柏「夢庵記」に中国の能筆家の書あり
- X2150 **秀実** (しゅうじつ・渡辺わたなべ、秀詮男) 1778-1830 53 絵師; 父門/真村芦江門、人物・山水・花鳥画に秀づ、
1802肥前長崎奉行配下唐絵目利; 父を継嗣、1825「歴代画家提要」30「長崎画人伝」著、
[秀実(;名)の字/号] 字; 元成、号; 鶴洲/親文堂主人/居易堂主人、大城石農の師
- 秀実(しゅうじつ・橋本/真宮) → 稻斎(とうさい・橋本、藩士/町奉行) E 3 1 2 5
秀実(しゅうじつ・小出) → 秀実(ひでみ・小出こいで、幕臣/奉行) D 3 7 8 6
秀実(しゅうじつ・田中) → 信精(のぶきよ・田中、儒者/詩歌) B 3 5 3 3
秀実(しゅうじつ・金) → 岳陽(がくよう・金こん、藩士/儒者) H 1 5 8 0
秀実(しゅうじつ・今村/笠間) → 奥庵(おうあん・笠間かさま、儒者) C 1 4 2 9
秀実(しゅうじつ・高階) → 氷壺(ひょうこ・高階たかしな、儒者/詩) F 3 7 1 9
秀実(しゅうじつ・莊司) → 健斎(けんさい・莊司/畠山、儒者/医者) I 1 8 9 5
秀実(しゅうじつ・中垣) → 謙斎(けんさい・中垣なかがき、藩士/儒者) I 1 8 9 7
秀実(しゅうじつ・大橋) → 秀実(ひでみ・大橋おおはし/橋、歌人) L 3 7 5 9
秀実(しゅうじつ・中川) → 秀実(ひでさね・中川なかがわ、国学/神職) K 3 7 3 6
秀実(しゅうじつ・大谷) → 秀実(ひでさね・大谷おおたに/源、藩士/神職) I 3 7 8 6
秀実(しゅうじつ・永鳥) → 秀実(ひでさね・永鳥ながとり/松村、国学者) K 3 7 4 3
秀実(しゅうじつ・岩室) → 楽々(らくらく・岩室、醸造家/俳人) D 4 8 3 7
秀実(しゅうじつ→ひでさね・蒲生) → 君平(くんべい・蒲生がもう/福田、儒/尊攘) C 1 7 0 0
秋実(しゅうじつ・堀尾) → 秀斎(しゅうさい・堀尾、医/儒/神道) X 2 1 2 8
秋実(しゅうじつ・西田) → 秋実(あきさね・西田、国学者) D 1 0 4 3
- a2148 **重実** (じゅうじつ; 法諱、昌実 [興福寺甲斐上座] 男?) ?-? 平安鎌倉期; 南都興福寺の僧; 法師、
歌人; 1237刊 [檜葉集] 入、昌実男なら住蓮 (法然の弟子) の従兄弟・兼実や全実の兄、
[歳暮の心をよめる、
おのづからことしもけふをまちつけつ花みるほどの命ともがな] (檜葉; 雑878)
- 充実(じゅうじつ・富田) → 玉屋(おうおく・富田とみだ、儒/詩賦・天文) C 1 4 3 3
充実(じゅうじつ・細井) → 金吾(きんご・細井ほそい、藩士/儒・国学) Q 1 6 8 6
充実(じゅうじつ・青木) → 充実(みつさね・青木、商家/地誌) B 4 1 0 1
重実(じゅうじつ・大原) → 重実(しげみ・大原/源/綾小路、廷臣/記録) S 2 1 7 4
重実(じゅうじつ・山本) → 重実(しげさね・山本やまもと/桑津、藩士・歌) a 2 1 1 9
重実(じゅうじつ・藤井) → 重実(しげさね・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 1 8 4
十字亭主人(じゅうじていしゅじん、三九) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) B 1 1 3 7
- H2159 **脩子内親王** (しゅうしないしんのう、一条天皇皇女) 996-1049 54 母: 藤原定子、1041脩子内親王家歌合催、
女房に小侍従命婦(こじじゅうのみようぶ、歌人)
璿子内親王(しゅうしないしんのう) → 朔平門院(さくへいもんいん、伏見皇女) B 2 0 4 8
- H2160 **柔子内親王** (じゅうしないしんのう、やすこ-すみこ-よしこ-、宇多天皇皇女) ?-959 母: 藤原高藤女の胤子、
醍醐天皇の同母姉妹/母方の叔父に藤原定方、897-930齋宮、大和物語に逸話、
歌; 後撰集1110(; 齋宮内親王さいぐのみこ名/定方女能子 [醍醐天皇の女御] の贈歌への返歌)、
[春ごとに行きてのみ見む年ぎりもせずといふ種は生おひぬとか聞く]、
(後撰集1110; 能子が左大臣仲平と結婚したと聞き返歌/年ぎりもせずは毎年咲く)、
(能子の贈歌; いかでかの年ぎりもせぬ種もがな荒れたる宿に植ゑて見るべく)

参考	→	能子(のうし/よしこ・藤原定方女、歌人)	3 5 3 4
秋樹(しゅうしや・成島)	→	筑山(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者)	D 2 8 0 7
楸舎(しゅうしや)	→	繁楨(しげさだ/しげよし・大道寺だいでうじ、藩家老/歌)	Z 2 1 2 6
秋主(しゅうしゆ・二村)	→	秋主(あきぬし・二村ふたむら、国学者)	I 1 0 3 8
秋主(しゅうしゆ・吉田)	→	秋主(あきぬし・吉田よしだ、機業/歌人)	C 1 0 5 5
秀種(しゅうしゆ・荒川)	→	秀種(ひでたね・荒川あらかわ、宿老/歌人)	D 3 7 1 7
秀守(しゅうしゆ・江川)	→	秀守(ひでもり・江川えがわ、神職/国学)	I 3 7 6 4
集樹(しゅうじゆ:法諱)	→	茂叔(もしく:道号・集樹、臨濟僧)	B 4 4 2 4
秀寿(しゅうじゆ・三輪)	→	秀寿(ひでひさ・三輪、藩士/歌人)	D 3 7 7 3
秀樹(しゅうじゆ・石丸)	→	秀樹(ひでき・石丸いしまる、医者/歌人)	L 3 7 2 2
重種(じゅうしゆ・永田)	→	重種(しげたね・永田ながた、幕臣)	Z 2 1 6 1
重種(じゅうしゆ・原田)	→	重種(しげたね・原田はらだ、神職/国学者)	R 2 1 3 9
重樹(じゅうじゆ)すべて	→	重樹(しげき)	

X2151 **宗秀**(しゅうしゅう;法諱・号;心光房) ?-? 戦国期1469-89頃京大原の天台宗光乗房の住僧、法印/権大僧都、「法華懺法」「悉曇相伝書」著

周宗(しゅうしゅう・南英:道号)	→	南英(なんえい・周宗、臨濟僧)	I 3 2 5 1
周宗(しゅうしゅう・伊達)	→	周宗(かむね・伊達だて、藩主)	U 1 5 9 1
秀脩(しゅうしゅう・神/諏訪)	→	英脩(秀脩ひでなが・神じん・諏訪、連歌)	D 3 7 4 3
秀宗(しゅうしゅう・伊達)	→	秀宗(ひでむね・伊達、藩主/連歌/狂歌)	D 3 7 9 2
秀就(しゅうしゅう)すべて	→	秀就(ひでなり)	
秀秋(しゅうしゅう・島田)	→	秀秋(ひであき・島田しまだ/紀、神職/国学)	J 3 7 8 1
秋秀(しゅうしゅう・野呂瀬)	→	秋風(しゅうふう・野呂瀬のろせ、藩士/歌人)	I 2 1 2 4
秋洲(しゅうしゅう・鳥谷)	→	長国(ながくに・鳥谷からすや、神職/国学)	L 3 2 6 7
習々(しゅうしゅう・梶川)	→	正陳(まさのぶ・梶川かじかわ、藩士/国学)	O 4 0 8 1
修就(しゅうしゅう・川村)	→	修就(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌)	F 3 2 0 7
修重(しゅうじゅう・鈴木)	→	修重(ながしげ・鈴木すずき、藩士/歌人)	N 3 2 5 4
重修(じゅうしゅう・鈴木)	→	大舟(たいしゅう・鈴木、藩士/俳人)	K 2 6 1 7
重修(じゅうしゅう→しげなお?・堀)	→	岫陰(はくいん・堀ほり/蒲生、儒者/尊攘)	C 3 6 5 3
重周(じゅうしゅう→しげちか・山口)	→	巽斎(そんさい・山口やまぐち、藩儒)	F 2 5 4 0
重周(じゅうしゅう・木村)	→	重周(しげちか・木村きむら、藩士/蘭学者)	R 2 1 4 4
重秀(じゅうしゅう・上田)	→	重秀(しげひで・上田うえだ、馬術家)	S 2 1 3 9
重秀(じゅうしゅう・荻原)	→	重秀(しげひで・荻原おざわら、幕臣/経済論)	a 2 1 6 0
重秀(じゅうしゅう・関)	→	五竜(ごりゅう・関せき、藩士/和算)	N 1 9 9 4
重就(じゅうしゅう・毛利)	→	重就(しげたか/しげなり・毛利/大江、藩主/歌)	R 2 1 1 9
重就(じゅうしゅう・座田)	→	重就(しげなり・座田さいた/紀、廷臣/絵師/歌)	O 2 1 5 9
十洲(じゅうしゅう)すべて	→	十洲(じっしゅう)	
重充(じゅうじゅう・高田)	→	重充(しげみつ・高田たかた、心学者)	S 2 1 8 4
重充(じゅうじゅう/しげみつ・鈴木)	→	貞斎(ていさい・鈴木、儒者)	3 0 8 2
十拾(じゅうじゅう)	→	十拾(じっしゅう、俳人)	U 2 1 7 2
習々軒(しゅうしゅうけん)	→	蝶羽(ちやうう・下郷/千代倉、俳人)	H 2 8 2 6
習々斎(しゅうしゅうさい)	→	宗真(そうしん・代田しろた、茶華道/歌人)	K 2 5 9 6
十住心院(しゅうじゅうしんいん)	→	実俊(じっしゆん;法諱、天台僧正)	U 2 1 7 3
重秋亭(じゅうしゅうてい)	→	孤舟(こしゅう、俳人、談義本)	C 1 9 9 0
重習堂(じゅうしゅうどう)	→	可彦(よしひこ・陸くが、医者)	G 4 7 2 3
秋収冬蔵(しゅうしゅうふゆぞう、黄表紙)	→	内新好(ないしんこう、俳/戯作)	3 2 5 3

X2152 **秀舜**(しゅうしゆん;法名) ? - ? 室町末期肥後天草の妙薬寺僧/連歌作者、1566上京;紹巴らと「永禄九年閏八月十八日何船百韻」

秀春(しゅうしゆん・京極)	→	秀春(ひではる・京極/佐々木/源、武家/歌)	D 3 7 6 9
秀俊(しゅうしゆん)すべて	→	秀俊(ひでとし)	

- 周春(しゅうしゅん・田中) → 利諱(としあつ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 1
- X2153 秀順(しゅうじゅん;法諱・号;妙覚院/通称;兵部卿)?-? 1595頃存 天台僧;撰津四天王寺住、
権大僧都、連歌;1490宗祇を迎え「山河百韻」興行、肖柏とも交流;「肖柏政照等百韻」参加、
新菟玖波集;3句入
- X2154 秀順(しゅうじゅん;法諱) ? - ? 1806存 上州渋川の天台宗真光寺・日光山教観坊住僧、
1806「日光山大千度縁起」、「観行退不」著
秀順(しゅうじゅん・金) → 岳陽(がくよう・金こん、儒者) H 1 5 8 0
秀順(しゅうじゅん;号) → 義産(ぎさん;法諱・実苗;道号、曹洞僧) K 1 6 7 4
宗順(しゅうじゅん/そうじゅん;法諱) → 逆翁(げきおう・宗順、曹洞僧) G 1 8 8 8
- X2155 重俊(じゅうしゅん) 1357 - ? 1409存 天台宗叡山西塔東谷の僧/大定坊法印、
1398「法華教主椿堂」、「心法形色事」著
- H2162 重俊(じゅうしゅん・西村にしむら・初名;重直)?-? 江初期京の俳人:令徳門、
1660「源氏鬢鏡」/64「俳諧名所附合」著、
[重俊(;名/号)の通称/号]通称;次右衛門、号;寸胸子
- H2144 重春(じゅうしゅん) ? - ? 江前中期俳人、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[柿の葉の木の下闇を空の月](伊丹発句合;夏)
重俊(じゅうしゅん・脇坂) → 重俊(しげとし・脇坂、俳人/奉納句勧進) C 2 1 5 3
重俊(じゅうしゅん・井筒) → 重俊(しげとし・井筒いづつ、歌人) a 2 1 2 9
重春(じゅうしゅん)訓読はすべて → 重春(しげはる)
重駿(じゅうしゅん・齋木) → 巖(いわお・齋木さいき/藤原、神職/国学) K 1 1 2 8
重純(じゅうじゅん・山本) → 重純(しげすみ・山本やまもと、藩士/兵学者通称;新兵衛) R 2 1 1 4
収駿窩(しゅうしゅんか) → 近文(ちかふみ・高屋/大宅、国学者) B 2 8 7 8
- X2156 秀恕(しゅうじよ) ? - ? 1555頃存 天台宗大原来迎院塔之坊住僧、法印/権大僧都、
1521「例時作法私」著、1528後柏原院三回忌懺法講に勤仕、声明を能くす、「阿弥陀懺法律」、
「法華五種行私記」「二月七日夜修正所作次第」著
周助(しゅうじよ・人見) → 川柳(せんにゅう・四代柄井) 2 4 4 2
秀恕(しゅうじよ;法諱) → 嶺南(れいなん;道号・秀恕、曹洞僧) 5 1 5 7
秀叙(しゅうじよ・生嶋) → 秀叙(ひでのぶ・生嶋いくしま、廷臣/記録) D 3 7 5 9
秀女(しゅうじよ) → 秀女(ひでじよ、修験僧の妻/歌人) K 3 7 7 6
秀女(しゅうじよ・富田) → 秀女(ひでじよ・富田とみた、歌人) L 3 7 7 1
- X2157 重女(じゅうじよ) ? - ? 丹波福知山の俳人;
1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
[待宵まつひは蚊に吸はせざる五月躑つじかな](都曲/人待つ身は蚊になど吸わせない)
- N2149 重女(じゅうじよ・上田うえだ、大西祐之の女/長沢) 1819-9476 近江大津の生/上京/歌人;近藤芳介門、
長沢伴雄と結婚;のち離婚、高島式部・大田垣蓮月と当代女流三歌と称される、能書家、
紀伊和歌山に住、「いなはの波」著、
[重女(;号)の名] 幾(いく?) / ちか / 親(ちか) / 千賀(ちか) / ちう
重如(じゅうじよ・山口/田口/河内) → 重如(重之しげゆき・山口/田口/河内、官人/歌) D 2 1 2 4
重舒(じゅうじよ・しげのぶ・鈴木) → 重樹(しげき・鈴木すずき/穂積、藩士/国学) Z 2 1 0 8
- H2163 修勝(しゅうしょう) ? - ? 平安後期の僧/歌人、
1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」:右方入(判者;紀伊入道素意[藤原重経])、
[野辺ごとに咲きてにほへる色々の花のにしきと見えわたるかな]、
(多武峯歌合;四番右8/野花錦筵)
- H2165 秋宵(しゅうしょう) ? - ? 俳人、1687信徳ら「三月物」百韻入
舟象(しゅうしょう・森) → 養(よう・森もり、医者/書) 4 7 5 4
集証(しゅうしょう;法諱) → 亀泉(きせん;道号・集証、臨濟僧) F 1 6 1 0
周勝(しゅうしょう;法諱) → 古旛(ことう;道号・周勝、臨濟僧) P 1 9 6 4
就将(しゅうしょう・北沢) → 遜斎(そんさい・北沢きたざわ、漢学者) E 2 5 8 2

- 就将(しゅうしょう・沖) → 安海(やすみ・沖おき/源、商家/国学/歌) D 4 5 0 1
 就章(しゅうしょう・松本) → 龍沢(りゅうたく・松本まつもと、書家) F 4 9 1 4
 就祥(しゅうしょう・益田) → 就祥(なりよし・益田ますだ、家老/国学) O 3 2 7 9
 秀章(しゅうしょう/ひであき・根岸) → 鶴亭(かくてい・根岸ねがし、藩士/儒者) K 1 5 2 4
 秀松(しゅうしょう/ひでまつ・竜) → 世華(つぐあき・せいか・竜たつ、藩儒/歌人) F 2 9 9 9
 秀升(しゅうしょう・吉田) → 秀升(ひでのり・吉田/佐々木、幕臣/天文家) D 3 7 6 3
 秀紹(しゅうしょう・山田) → 秀紹(ひでつぐ・山田まだ、神職/国学/歌) M 3 7 2 0
 秀条(しゅうじょう・高木) → 秀条(ひでえだ・高木たかぎ、神道/歌人) L 3 7 7 3
 秀乘(しゅうじょう・河島/佐々木) → 秀乘(ひでのり・佐々木、兵法家) D 3 7 6 0
 秀常(しゅうじょう/ひでつね・岡本) → 可復(かふく・岡本おかもと、藩士) P 1 5 2 6
 H2166 **重尚**(じゅうしょう;号・小山こやま) ? - ? 江前期京の俳人;宮川松堅[政由]門;歌・俳諧修学、
 1668梅盛「細少石」入、1678「愛宕百韻」「似春重尚両吟式百韻」参加
 重尚(じゅうしょう・鈴木) → 重尚(しげひさ・鈴木、漢学/樺太巡見) S 2 1 3 7
 重章(じゅうしょう)すべて → 重章(しげあきorしげあきら)
 重昌(じゅうしょう)すべて → 重昌(しげまさ)
 重勝(じゅうしょう)すべて → 重勝(しげかつ)
 重象(じゅうしょう・春木屋) → 重象(しげかた・春木屋はるきや、歌人) Q 2 1 7 9
 重将(じゅうしょう・平) → 重将(しげまさ・平たいら、連歌作者) S 2 1 5 6
 縦性(じゅうじょう;号) → 円旨(えんし;法諱・別源、曹洞僧) 1 3 9 7
 02179 **重丈**(じゅうじょう) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第六相撲第三句入、
 [浦船の面梶おまかじの音をと月くれて](相撲第三句、
 脇句正俊;和哥の達者や秋の風の手)
 H2167 **十丈**(じゅうじょう・竹内たけうち、別号;間々軒、屋号;米屋) ?-? 越中高岡の蕉風俳人、1697諸国行脚、
 北枝と親交、1701「射水川いみづがは」編(上・下巻)、1700句空「誹諧草庵集」入
 X2158 **十丈**(じゅうじょう) ? - 1831 伊勢の俳人/京住;梅室門、
 1818-30頃俳諧隨筆「十丈園筆記」著(;見聞雑話)、1829「ゆき五歌僊」編、
 十丈園(じゅうじょうえん)は同門金沢の大橋卓丈が継承、
 [十丈(;号)の別号]天然てんぜん(;初号)/十丈園
 従縄(じゅうじょう・石川) → 従縄(つぐなわ・石川、和算家) 2 9 7 6
 重常(じゅうじょう・鱸) → 重常(しげつね・鱸すずき/鈴木、歌語研究) C 2 1 4 9
 十丈園(じゅうじょうえん) → 十丈(じゅうじょう、俳人) X 2 1 5 8
 十丈園(じゅうじょうえん) → 卓丈(たくじょう・大橋、俳人) O 2 6 0 6
 H2168 **秀松軒**(しゅうしょうけん) ? - ? 三味線歌謡;1703「松の葉」編、俳人、
 1704刊「落葉集」編者大木扇徳や1706刊「若緑」編者静雲閣しやううんかくとの関係は不詳
 十乗房(じゅうじょうぼう) → 伝祐(でんゆう、天台僧) E 3 0 4 6
 十乗房(じゅうじょうぼう、天台僧) → 日忠(にっちゆう・常住院、日蓮僧) F 3 3 0 7
 重職(じゅうしよく・野田/宮崎) → 睡鷗(すいおう・宮崎/野田、藩士/武芸家) E 2 3 1 7
 重舒斎(じゅうじょさい、神道家) → 良頭(よしあきら・跡部、幕臣/歌人) C 4 7 0 4
 十字廬(じゅうじろ) → 曾洛(そらく・照井、俳人) E 2 5 4 5
 X2159 **収二郎**(しゅうじろう・平井ひらい、平井伝八直証男) 1835-63切腹29歳 土佐藩士/儒;伊勢の斎藤拙堂門、
 1861土佐勤王党に参加/62家督継嗣/藩主山内豊範の上京に随従;他藩応接役、
 土佐藩尊攘派を主導、1863藩政改革推進に当り藩主山内容堂の怒りを買い投獄;切腹、
 1862-3「隅山春秋」、「帰南日記」「平井隅山通信」著、
 [収二郎(;通称)の名/別通称/号]名;義比/志敏、別通称;幾馬/徳助、号;隅山
 周次郎(しゅうじろう・林) → 品美(ただよし・林はやし、藩士/儒者) R 2 6 3 6
 周次郎(しゅうじろう・吉村) → 周山(しゅうざん・吉村、絵師/根付) X 2 1 4 1
 周次郎(しゅうじろう・奥宮) → 燧斎(そうさい・奥宮、儒者/国学/歌) B 2 5 5 8
 周次郎(しゅうじろう・林) → 友幸(ともゆき・林はやし、藩士/武術/政治) W 3 1 1 4
 周治郎(しゅうじろう・桐生) → 利正(としまさ・桐生きりゅう、歌人) V 3 1 0 0

- 秀次郎(しゅうじろう・安田)→ 子行(しう・島谷しまたに、商家/俳人) D 2 1 6 1
- H2169 **十次郎**(しゅうじろう・浅尾あさお) 1685-?元文(1736-41)頃没 52-57 歌舞伎役者;初代芳沢あやめ門、傾城事・女武道を得意とす/女方では三都代表の役者、「生瀬川尼殺」の尼・傾城伊豆日記の訛傾城などで好評、[浅尾十次郎(;役者名)の通称/俳名]通称;甚吉、俳名;玉山、屋号;京屋
- X2160 **十次郎**(しゅうじろう・新渡戸にとべ、名;常訓つねのり、伝つとう2男) 1820-67 48 陸奥盛岡藩士;花巻出身、1853勘定奉行、1855(安政2)父と共に三本木原(十和田市)開拓に従事、1855箱館・野辺地など9箇所上台場築造、57三本木新田御用掛;稲生川の上水実施、1860(万延元)稲生町の都市計/61(文久元)小川原湖と陸奥湾を結ぶ運河工事、1862(文久2)勘定奉行御元締;江戸詰/1863より藩主南部利剛の用人、1864(元治元)鉄鉦山掛;京大坂に赴任、1866(慶応2)再度三本木原の開拓、1867財政再建のため領内産の絹をフランス人に売却を画策;独断的として同僚の讒言、藩の忌諱に触れ蟄居、赦免後に没、稲造の父、1855「雑録」「松前持場見分留」著、[十次郎(;通称)の幼名/字/号]幼名;民弥、字;昭瑤/昭、号;洋々斎/謙斎/受益堂
- 重二郎(しゅうじろう/しげー・津田)→ 永忠(ながただ・津田、藩士/藩政改革) E 3 2 1 2
- 重二郎(しゅうじろう・井上)→ 酒船(さけふね・問屋といや/とんや、狂詩/狂歌) B 2 0 5 6
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・高島/浅見)→ 綱斎(綱斎けいさい・浅見、医/儒者) 1 8 0 3
- 重次郎(十次郎しゅうじろう・石川)→ 大凡(たいぼん・石川/石河/石、儒者) C 2 6 2 1
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・冷泉/天野)→ 御民(みたま・天野/藤原/冷泉、藩士) B 4 1 0 2
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・御牧)→ 赤報(せきほう・御牧みまき、藩儒/闇斎学) K 2 4 5 0
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・浜地)→ 春山(しゅんざん・浜地はまじ、儒者) K 2 1 8 5
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・名倉)→ 松窓(しょうそう・名倉、藩士/漢学/渡仏) K 2 2 5 9
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・小幡)→ 正修(まさなが・小幡おばた/藤原、幕臣/歌) M 4 0 1 7
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・田林)→ 有友(ありとも・田林たばやし、商家/国学) H 1 0 8 5
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・野島)→ 正武(まさたけ・野島のじま、陪臣/歌人) R 4 0 4 8
- 重次郎(しゅうじろう/しげー・安田)→ 敬直(あつなお・安田やすだ、網屋惣兵衛/本陣) I 1 0 6 0
- 十二郎(しゅうじろう・村田)→ 氏英(うじひで・村田、藩士/記録) C 1 2 6 7
- 十二郎(重次郎しゅうじろう・古屋)→ 昔陽(せきよう・古屋ふるや、儒者) D 2 4 9 2
- 十次郎(しゅうじろう・古野)→ 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者) B 1 8 4 9
- 十次郎(しゅうじろう・谷)→ 麓谷(ろくこく・谷たに、儒者/詩人) 5 2 8 0
- 十次郎(しゅうじろう・中根)→ 元珪(元圭げんけい・中根なかね、暦算家) B 1 8 6 3
- 十次郎(しゅうじろう・中村)→ 西里(せいり・中村なかむら、藩儒/教育) D 2 4 1 0
- 2144 **周信**(しゅうしん;法諱・義堂ぎどう;道号、号;空華道人/五台、俗姓平) 1325-88 土佐高岡郡の臨濟僧、1331(7歳)高岡郡松園寺修業/38得度/上京;夢窓疎石門、1359足利基氏の招聘で鎌倉;22年間鎌倉の諸寺住持/1379義満の招聘で上京;建仁寺住持/86南禅寺住持、五山文学者、「空華集」「空華文集」「空華日工集」「空華外集」「三体詩抄」「今雑録」「義堂和尚語録」著
- X2161 **宗信**(しゅうしん;法諱・存空;号)?- ? 1664存 京の真宗本願寺派僧;明覚寺住僧、新町御前通の妙覚寺の開基、1649「止啼集」著(;'日本国未来記)を評破)、1664紀伊黒江の作太夫が異安心を主唱;本山の命で糾斥;自身も嫌疑を受け閉門50日、1661「正信偈皆撰」、「勸化要談集」著
- 周信(しゅうしん;法諱・古帆)→ 古帆(こはん;道号・周信、臨濟僧) N 1 9 5 1
- 周信(しゅうしん・狩野)→ 周信(ちかのぶ・狩野かのう、絵師) L 2 8 1 5
- 周信(しゅうしん・四王天)→ 周信(ちかのぶ・四王天しおうてん、藩士/故実) B 2 8 5 4
- 周伸(しゅうしん;法諱・無求)→ 無求(むぐ;道号・周伸、臨濟僧) 4 2 4 5
- 周辰(しゅうしん・河窪)→ 周辰(かねとき・河窪かわくぼ/源、歌人) U 1 5 3 7
- 州信(しゅうしん/くにもぶ・狩野)→ 永徳(初世えいとく・狩野、絵師) 1 3 4 3
- 秀信(しゅうしん)すべて → 秀信(ひでのぶ)
- 秀真(しゅうしん→ほつま・会田/越谷)→ 吾山(ござん・会田/越谷、俳人) C 1 9 6 6
- 秀真(しゅうしん・高木)→ 秀真(ひでざね・高木たかぎ、藩士/歌人) D 3 7 0 6
- 秀親(しゅうしん・喜多)→ 秀親(ひでちか・喜多きた/来田/秦、神職/国学) J 3 7 2 3

- 秀辰(しゅうしん・河村/俵)→秀辰(ひでとき・河村/俵/藤原、藩士/国学) D 3 7 2 9
 脩身(しゅうしん・北山) → 李庵(りあん・北山きたやま/橋、医者) 4 9 2 8
 修身(しゅうしん・北山) → 正剛(まさかた・北山きたやま/橋、医者/歌) P 4 0 3 3
 集箴(しゅうしん;法諱) → 益之(えきし;道号・集箴しゅうしん、臨濟僧) F 1 3 6 5
- X2163 周人(しゅうじん・進藤しんどう) 1803-1864 62歳 出羽庄内藩医/詩歌・画を嗜む、進藤重記いげりの裔、
 「蘆鶴集」「進藤周人詩集」「進藤文集」「偕老浴史」著、
 [周人(;号)の名/別号]名;鼎(かなえ/周而、別号;馬骨道人
 岫人(しゅうじん) → 青艸堂岫人(せいそうどうしゅうじん、俳人) C 2 4 5 2
 宗深(しゅうじん;法諱) → 宗深(そうしん;法諱・雪江;道号、臨濟僧) C 2 5 1 7
 秋迅(しゅうじん・清水) → 脩徳(まさのり・小西こにし/清水、国学/歌) P 4 0 6 2
 道人(しゅうじん・安田) → 放庵(ほうあん・安田やすだ、儒者/詩人) 3 9 1 2
- a2133 重信(じゅうしん;法諱、高倉/本姓;藤原、権中納言家通男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧/権大僧都、
 時通(左中將)・敦通(中將)・親通(侍從)・信家(法印)・尊能(法眼)・円家(法眼)の兄弟、
 重尊(興福寺律師)の父、重寿(法印)・玄家(法印権大僧都)の祖父、歌人;檜葉集5首入、
 [としをならべて維摩会の延年にくははりけるわらはにとらせける、
 おのづからしぐるるそらにめぐりあひてふたたび人の袖ぬらすらむ](檜葉;雑858)
 [ななそぢにみちくるしほのさしもやは同じ浜辺に人をまつべき](檜葉;904/太公望)
- H2171 住信(じゅうしん;法諱、通称;愚勸住信) 1210-? 鎌倉期常陸の浄土僧、談義僧か?、
 1257説話集「私聚百因縁集」編
- H2170 柔心(じゅうしん・関口せきぐち、名;氏心うじむね、氏幸男) 1598-1670 73 河内武道家;刀槍に長じ各地に修行、
 長崎で拳法を修得;関口流柔術の柔新心流を創始;諸国遍歴後江戸芝に道場開設子弟指導、
 寛永1624-44頃紀州藩主徳川頼宣に招聘;和歌山で門人指導;流儀を確立、「柔術秘覚抄」著、
 [柔心(;号)の通称/別号]通称;弥六右衛門/弥左右衛門、別号;柔心斎、法号;金性院
- 2145 重辰(じゅうしん・児玉こだま、通称;源右衛門)?-1727 尾張鳴海の荷物問屋/俳人・芭蕉門、
 鳴海六俳仙の1、1688芭蕉を迎え歌仙一折を巻く
- X2165 重新(じゅうしん/しげよし・間はざま、重富しげとみ長男) 1786-1838 53 大阪長堀富田屋町の質商/天文:父門、
 算学;松岡能一門、家業の傍ら天文観測に従事/1802父の日月食観測に随行;長崎に赴く、
 幕府の測量御用となる、父同様に観測機器改良・製作に尽力、
 1811「彗星実測記」28「楢円紀元」著、1831「未験蒙気差測算法」、「日月食実測器記」著、
 [重新(;名)の別名/字/通称/号]幼名;清市郎/清一郎、初名;重威、字;伯固、
 通称;十一屋五郎兵衛(八代)、号;確斎/盛徳
 重臣(じゅうしん・高山) → 重臣(しげおみ・高山たかやま、神職/歌人) N 2 1 0 8
 重辰(じゅうしん・花木) → 重辰(しげとき・花木はなき、藩士/歌人) Z 2 1 7 0
 重親(じゅうしん・中山/庭田) → 重親(しげちか・庭田/中山/源、廷臣/聯句) R 2 1 4 3
 重親(じゅうしん・西村) → 可玖(かきゅう・西村、俳人) B 1 5 2 8
 重信(じゅうしん)すべて → 重信(しげのぶ)
 重真(じゅうしん・鈴木) → 伍草(ごそう・鈴木すずき、藩士/儒者) M 1 9 9 9
 重真(じゅうしん・宇多) → 重真(しげさね・宇多うだ、藩士、歌人) N 2 1 4 5
 重真(じゅうしん・湯沢) → 重真(しげさね・湯沢ゆさわ、名主/歌人) a 2 1 0 5
 重慎(じゅうしん・加藤) → 米山(べいざん・加藤、藩士/儒者/教育) 2 7 4 4
 重深(じゅうしん・山口) → 風簷(ふうえん・山口、藩士/儒者) 3 8 3 7
 住心(じゅうしん;号) → 覚瑜(かくゆ;法諱、天台僧/念仏唱導) K 1 5 5 1
 住心(じゅうしん;字) → 日耀(にちよう;法諱・円是院、日蓮僧) D 3 3 4 7
 重晨(重辰じゅうしん・浅山) → 一伝斎(いちでんさい・浅山あさやま、武術) G 1 1 3 0
- Z2153 充眞院(じゅうしんいん・内藤ないとう、名;充姫/繁子、彦根藩主井伊直中女) 1800-1880 81 井伊直弼の姉、
 1814(文化11)日向延岡藩14代藩主内藤政順と結婚;繁子と改名、文学・画を修学、
 1834(天保5)夫が病没;薙髪し充眞院と称す(35歳)、この際御用職藩士今村知規が活躍、
 1860(万延元)弟直弼が桜田門外で暗殺される、源氏物語に精通/風虎の家集修復し跋文筆、
 江戸~延岡往復に旅日記2編著作;(日向三大おんな旅日記の1/他は随眞院・日高蔦子)、
 1863(文久3)「五十三次ねむりの合の手」(;江戸→延岡)・

1865(慶応元)「海陸返り咲ことばの手拍子」(延岡→江戸)著、
隨筆「色々見聞きしたる事を笑ひに書」著

[けふこそはつきぬ名残を川水に移してにほへ藤浪のはな](江戸へ出立の詠)

修心斎(しゅうしんさい) → 友信(とものお・佐藤さとう、国学/歌) V 3 1 1 3

柔心斎(じゅうしんさい) → 柔心(じゅうしん・関口せきぐち、武道;柔術家)H 2 1 7 0

修真道人(修真-しゅうしんどうじん)→ 狂斎(きやうさい・原はら、儒/折衷学)C 1 6 4 9

- H2172 秋水(しゅうすい) ? - ? 江前期俳人;晩山門、1690晩山らと本式百韻
1692不角「千代見草」入;[傾城の実じつと四角な玉子なし]
- X2166 萩水(しゅうすい) ? - ? 江前期京の俳人;
1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
[人数ひとがずに夢をくばりし火燧たつ哉](都曲;416/火燧は入った人をみな眠夢に誘う)
- X2167 周水(しゅうすい・鈴木すずき、名;正真/別号;悦斎)1692-176978 武州鴻巣の書家;井出正水門、
1730「鈴木正真書翰集」「書翰集並詩歌」「臨池堂書札並詩歌」、53「筆理考文」
- H2173 拾翠(しゅうすい、別号;雪堂/不白軒/楽山観)?-1759 江戸の俳人;嵐雪・吏登りとう門、
1716宗瑞「江戸筏」独吟歌仙入、1723「ひろ葉」編、
[大名の尾先に照りの時雨かな](江戸筏;第八歌仙発句/行列前半は雨で後尾は日照り)
- H2174 拾水(しゅうすい・下河辺しこうべ/本姓;藤原、名;行耿)?-?1801頃没 京絵師、宝暦初1751頃より活動、
絵本・挿絵、特に武者絵が得意、1767「浮世荘子」68「万福塵劫記大全」「絵本高名鑑」、
1773「万福往来」79「絵本満都鑑」/83「増補塵劫記大全」「万国山海経」、90「教の小つち」、
1795「通俗和漢雑話」1800「庭訓往来」01「庭訓往来」、「女前訓騷種」「絵本教草」外画多数、
[拾水(;号)の別号] 呑火叟/紙川軒/洛西隠士
- H2175 秋水(しゅうすい・山本やまと、名;正誼、伝右衛門男)1734-180875 薩摩鹿兒島藩儒/儒;志賀登竜門、
山田月洲門、江戸の大内熊耳門、聖堂奉行/1773藩校造士館初代教授;藩校教育の基礎、
詩文を嗜む、「島津国史」「秋水詩文稿」「秋水経解」「正誼惟完贈答詩文」「桜島炎上記」、
1800「島津国史」編/04「本支百世提要図」編、「秋水先生文集」「山本正誼遺文」外著多数、
[秋水(;号)の字/通称/別号]字;子和、通称;伝蔵、別号;小酔
- X2168 秋水(しゅうすい;号) ? - ? 京大原の俳人;1776樗良「俳諧 月の夜」1句入、
[風に伏してやがても起らず女郎花](月の夜;122)
- X2169 秋水(しゅうすい・小林こばやし/初姓;中西ながし、中西烏梅うばい男)1749-183183 伊勢山田の俳人、
歌;飛鳥井雅威門/連歌;荒木田麗女・昌逸門、俳諧;神風館14世襲名、1825「翫月帖」編、
[秋水(;号)の名/字/通称/別号]名;光延みつのお、字;千里、通称;志摩、
別号;梅屋/梅所/梅軒/龜息・神風館14世
- H2176 周水(しゅうすい・桂かつら、名;綏/貞綏)?-1832 周防岩国藩士/儒者;樋口義所門、藩校講堂助教、
講堂会頭、1823上京し古義堂入学;伊藤東峰門、帰藩;講堂で講説/家塾で教授、「精賞集」著、
[周水(;号)の字/通称/別号]字;猷輔、通称;治右衛門、別号;潜斎
- X2170 秋水(しゅうすい・池守いけもり/初姓;太田、名;竜)1778-184871 江戸の儒者;龜田鵬齋門、
豊前小倉藩主小笠原家に出仕;1813致仕、母の姓池森を名乗る;門弟を教授、
「周易質疑」「中庸断」「孟子摘解」「灰燼余録」著/「唐宋詩韻鑑」編、1847-48「秋水詩稿」著、
[秋水(;号)の字/通称]字;潜夫、通称;儀右衛門
- H2177 秋水(しゅうすい・長尾ながお、景翰かげふみ、越後村山藩士景行男)1779-186385 江戸生/他家の養子;出奔、
諸国遊歴/1819蝦夷松前住/北方防備を主張;白眼視される/1844越後隠棲;藩老と対立、
九州を遍歴;尊攘派、/晩年帰郷、詩/画、「山樵詩草」「梅花百律」「唱和集」著、「秋水遺稿」、
[秋水(;号)の字/通称/別号]字;文卿、通称;藤次郎/藤十郎、
別号;臥牛山樵/玉立山樵/青樵老人/百一翁/王慕秋、法号;楽水
- X2171 秋水(しゅうすい・広江ひろえ、名;鐘、殿峰でんぼう3男)1785-183450 長門下関の醤油醸造業、
詩人;高本紫溟・頼山陽門、画・篆刻に長ず、家業軽んじ産傾く、「秋水詩集」「名家印叢」著、
[秋水(;号)の字/通称/別号]字;大声、通称;吉郎/吉蔵/常蔵、別号;松下清斎
- X2172 秋水(しゅうすい・其日庵きじつあん)?- ? 江後期文化-天保1804-44頃大阪の黒金橋の俳人、
1815「俳諧春秋」27「俳諧七草集四季」著、43「梅柳集」編
- H2178 秋水(しゅうすい・小谷おたに/こたに、名;正躬まさみ)1792-187281 伊勢神戸かんばん藩士/儒;古賀侗庵門、

昌平黌入学、1825藩校教倫堂の教授/詩に長ず、「秋水遺稿」、近藤武脩の父、
[秋水(；号)の字/通称]字；白圭、通称；三治

X2173 **秋水**(しゅうすい・村瀬むらせ、名；徴、重為男)1795-1876⁸² 美濃武儀郡上有知の絵師；
1807(13歳)名古屋の張月樵門/中林竹洞門/紀伊の野口介石門、帰郷し絵に専心、
1831「秋水山人墨戯」43「南遊墨戯巻」、「南画問答俚言」「己未秋日作草稿」「湖石齋字彙」、
[秋水(；号)の字/通称/別号]字；世猷、通称；太郎九/平三郎、別号；韓江/秋翁、
法号；鋤雲軒秋水宗漁居士

X2174 **秋水**(しゅうすい・下条しもじょう、竹塙ちくお長男)1827-85⁵⁹ 信州松本藩医；祖父敬義たかよしや父を継嗣、
幼時より国学/歌を修学、このち皇漢医外科医；江戸日本橋に開業、私財で志士を匿う、
「下条秋水日記」「途中日記」「秋水漫録」「網兔小録」「麻疹流行年記」著、
[秋水(；号)の名/字/通称]名；治徳はるのり/敬、字；貞固、通称；通春みちはる

秋水(しゅうすい・佐竹) → 義根(よしね・佐竹/源/長倉、天文家) F 4 7 4 8

秋水(しゅうすい・小林) → 安石(あんせき・小林こばやし、医者/詩人) G 1 0 1 2

秋水(しゅうすい・松井) → 渙斎(かんさい・松井まつい、儒/詩/教育) Q 1 5 6 4

秋水(しゅうすい・与住) → 順庵(じゅんあん・与住よすみ、医者) 2 1 9 9

秋水(しゅうすい・手塚/大築) → 筋藏(ぢんざう・手塚/大築、洋学者) E 2 4 5 2

収翠(しゅうすい・菱屋/著屋めどきや) → 兼勝(かねかつ・上坂かみさか、書肆) F 1 5 6 7

秀穂(しゅうすい・小国) → 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4

秀穂(しゅうすい・田中) → 秀穂(ひでほ・田中たなか、神職/歌人) K 3 7 0 6

秀萃(しゅうすい・奈良井) → 秀萃(ひでとみ・奈良井ならい/高山、歌人) K 3 7 3 4

襲水(しゅうすい・犬塚) → 興恕(おきひろ・犬塚いぬづか/橘、国学者) D 1 4 8 6

P2118 **拾瑞**(しゅうずい・岩村いわむら)1709- ? 1798(90歳)存 江戸の歌人；冷泉家門、寄合池田左門家に出仕、
1798刊石野広通「霞関集」入、岩村九兵衛の父、
[君と親の深きめぐみは九十このそち身も世に安く過ぐるかしこさ](霞関；1022)

聚水庵(しゅうすいあん、北壺游) → 武夷(ぶい・根本、儒者/読本) 3 8 3 0

秋水園主人(しゅうすいえんしゅじん、小説字彙：編) → 蘆屋(ろおく・高安、書) 5 2 4 8

秋水軒(しゅうすいけん) → 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9

秋水軒(しゅうすいけん) → 政昭(まさあき・浅井、藩士/儒者) B 4 0 0 8

拾穂軒(しゅうすいけん) → 季吟(きぎん・北村、俳/古典学) 1 6 0 6

秋水茶寮主人(しゅうすいさりょうしゅじん) → 順庵(じゅんあん・与住よすみ、医者) 2 1 9 9

秋水長天(しゅうすいちやうてん) → 重熙(しげひろ・一色いっしき、藩士/漢学者) S 2 1 4 8

鷺水亭(しゅうすいてい) → 如水(じょすい；号・瀦蛙；匿名) 2 2 1 1

周崇(しゅうそう・大岳) → 周崇(しゅうそう・大岳) H 2 1 9 5

秀崇(しゅうそう・良岑) → 秀崇(秀岳ひでおか・良岑/良峰、廷臣/歌) C 3 7 8 5

秀嵩(しゅうそう・宮川) → 秀嵩(ひでたか・宮川みやがわ、旅宿/歌人) L 3 7 3 9

重崇(じゅうそう・石井) → 重崇(しげたか・石井いしい、商家/歌) N 2 1 3 3

X2175 **周輔**(しゅうすけ・土岐とき/大館・建部、本姓；源)?-1794? 備中新見郷竈山村の僧；1760出家、
1772頃吉野山西行庵に参籠/のち東国を行脚；駿河府中住/遠江の内山真竜と親交、
1781までに還俗、1785国学者；本居宣長門、のち備中に帰郷、「県居翁紀行」著、
歌；本居大平「八十浦の玉」上巻末；長歌4首短歌14首入、
[奥山のまさきのかづらまさきくつていませ父母よろづ代でも](八十浦；295/帰郷時)
[周輔(；通称)の別通称/号]別通称；周助/建雄たけお/武雄、号；道翁/鉄者

X2176 **周輔**(しゅうすけ・奈河ながわ) ? - ? 江後期1790頃上方の歌舞伎作者、
「頭載再の入御覧」著

X2177 **周助**(しゅうすけ；通称・望月もちづき、名；通俊)?-1826 駿河沼津藩士；公用方物書/馬廻郡勘定奉行、
納戸席歴任/1801目付席町奉行兼郡勘定奉行、初代藩主水野忠友の側近；
家中の制度・書式制定に尽力、「御家中興記」著

H2182 **周弼**(周祐しゅうすけ・青木あおき、名；信/邦彦、玄棟男)1803-63⁶¹ 周防大島郡の医者；
三田尻の能美友庵父子門/江戸で蘭医；坪井信道・宇田川榛斎門/1837長崎遊学、
萩藩で医学所会頭兼蘭学掛/侍医/好生堂教諭を歴任、藩の西洋医学発展に寄与、

「医理学論」「産婦熱論」「病理論」著/訳本；「察病論」「医院類案」「袖珍内外方叢」など、
[周弼(；通称)の別通称/号]別通称；大吉、号；浩斎/月橋/西峰、

法号；養拙斎誠誉月橋居士、研蔵の兄

- X2178 **周亮**(しゅうすけ・三吉みよし、益田伊豆4男)?-1903 三吉造酒の養子/長門府中藩士；禄2百石、
江戸で砲術修得；江川坦庵・高島秋帆門、幕末維新期藩主毛利元周を補佐、権大参事、
「瓊子内親王御墓所之儀ニ付伺」著、
[周亮(；名)の通称] 栄之進/内匠、

周助(しゅうすけ・人見) → 川柳(4世せんにゅう・眠亭賤丸/雑俳点者) 2 4 4 2
周助(周介しゅうすけ・畠山/吉益) → 東洞(とうどう・吉益、医者) G 3 1 7 6
周助(しゅうすけ・吉益) → 南涯(なんがい・吉益、東洞男/医者/詩) I 3 2 6 5
周助(しゅうすけ・吉益) → 北洲(ほくしゅう・吉益/青沼、南涯の養子/医者) D 3 9 3 9
周助(しゅうすけ・辻) → 維徳(これのり・辻つじ、儒者) O 1 9 6 7
周助(周介しゅうすけ・林) → 東溟(とうめい・林はやし、儒者/詩人) H 3 1 3 6
周助(しゅうすけ・黒瀬) → 元礼(もとみや・黒瀬くろせ、商家/国学者) J 4 4 9 3
周介(しゅうすけ・中村) → 景美(かげよし・中村なかむら、医者/和算家) L 1 5 4 9
周介(しゅうすけ・永田) → 西河(せいか・永田ながた、儒者・書家) H 2 4 5 3
周甫(周輔しゅうすけ・高浜) → 亀山(きざん・高浜、藩士/儒者/詩) K 1 6 5 8
周輔(周圃しゅうすけ・岡田) → 鴨里(おうり・岡田おかだ、儒者) C 1 4 1 7
周輔(しゅうすけ・伊東/伊藤) → 蘭洲(らんしゅう・伊東/伊藤/修姓東、漢学者/戯作) C 4 8 6 0
周輔(周助しゅうすけ・片岡) → 寛光(ひろみつ・片岡/所、名主/国学/歌) H 3 7 4 1
周輔(しゅうすけ・海老名) → 翹斎(ぎょうさい・海老名えびな、儒者) N 1 6 8 4
周輔(しゅうすけ・駒井) → 善政(よしまさ・駒井こまい、医者/郷土史) H 4 7 0 6
周輔(しゅうすけ・桜田) → 虎門(こもん・桜田さくらだ、藩士/儒者) F 1 9 9 0
周輔(しゅうすけ・渋谷/林) → 蓀坡(そんぱ・林/渋谷、藩士/儒者/詩) F 2 5 0 3
周輔(周助しゅうすけ・猪瀬) → 豊城(ほうじょう・猪瀬いのせ、庄屋/儒者/詩) B 3 9 7 8
周輔(しゅうすけ・木下) → 可隆(よしたか・木下きのした、医者/国学) M 4 7 3 4
周輔(しゅうすけ・藤森) → 恒景(つねかげ・藤森ふじもり、歌人) F 2 9 1 3
周輔(しゅうすけ・古川) → 豊彭(とよちか・古川ふるかわ/前田、神職) W 3 1 2 8
周輔(しゅうすけ・松井) → 之翰(これふみ・松井まつい、藩医/歌人) R 1 9 3 2
秀助(しゅうすけ・瀬井) → 馬雪(ばせつ・斉せい、歌舞伎作者) E 3 6 7 1
秀助(しゅうすけ・菅井) → 正房(まさふさ・増田ますだ、藩士/尊攘/歌) S 4 0 5 8
修助(しゅうすけ・高) → 充国(みつくに・高こう、医者) D 4 1 3 3
修助(しゅうすけ・櫛原) → 蒼斎(せっさい・櫛原いちいはら、儒者/教育) E 2 4 2 7
修輔(しゅうすけ・塩谷) → 箕山(きざん・塩谷しおのや、儒者/幕臣) J 1 6 1 1
修輔(しゅうすけ・森脇) → 惟良(これよし・森脇もりわき/筏、神道/歌) R 1 9 2 2
秋介(しゅうすけ・時田) → 流翠(りゅうすい・時田ときた、商家/俳人) E 4 9 8 7

- 2146 **十輔**(十介じゅうすけ・並木なみき)?-1790? 江中期上方の歌舞伎作者；初世並木正三門、
寛延1748-51頃並木永輔・翁輔らと合作、66立作者/89頃からは寿輔名；古老とし重視、
1767「けいせい睦玉川」69「傾城廓芋環さとのおだまき」70「けいせい咬啗吧恋文じゃがたらぶみ」、
1773「淀伏見躰嘶」83「蘭菊女夫狐」87「けいせい桜城砦」88「歳叶酉新興」外著作多数、
[十輔(；号)の号] 東輔/東祐/1753；桂の吉(桂乃吉)/1761；十輔/1773；松寿軒/寿輔/寿助

- H2180 **重助**(初世じゅうすけ・中村なかむら、初世中村伝九郎[4世中村勘三郎]3男) 1698-1755⁵⁸ 歌舞伎作者、
俳名：故一、俳諧を好む/作者歴未詳
俳人(故一)：1751大梅編「つゆ六かせん」・「落葉合」入

- H2181 **重助**(2世じゅうすけ・中村なかむら、3世中村七三郎男?) 1749-1803⁵⁵ 初世中村重助の養子/歌舞伎作者、
壕越二三治門、1768江戸森田座で立作者、寛政1768-1801頃まで江戸の各座で著作、堺町住、
随筆「芝居乗合話」著/1764「吾妻花相馬内裡」65「天津風念力曾我」73「道行初鶯」著、
1776「白菖葺花空」83「土佐娘仇討」87「廿尋帶有夜睦言」94「春待猫妻乞」外著作多数、
[2世中村重助(；号)の通称/別号]通称；徳之助/勝太郎、別号；笹森堂助/中村三平、

俳名：故一、狂名：鶴子/歌舞伎工(かぶきのたくみ、1785狂歌後万載/87才蔵集入)、法号：起念院
[川風に鬢びんそゝけたる人ばかりあらふてくふは鯉のひやもの]、

(後万載;697/[鯉の羹あつもの食たる日は鬢そゝげずとなん;徒然草]/冷物は鯉の洗い)、
浮世絵師歌舞伎堂艶鏡(1796の数ヶ月間活動)と同一か?

→ 歌舞伎堂艶鏡(かぶきどうえんきやう、絵師) C 1 5 9 6

- H2183 重助(4世じゅうすけ・中村なかむら、4世中村七三郎男) 1807-4135 初め志賀山流舞踊家元;中村伝次郎名、
1822歌舞伎作者;中村重助名/中村座所属、4世鶴屋南北没後の江戸で活動、
1835市村座の「雪桜詠千本きごとはなひとめせんぼん」(;立作者)、38「戌歳里見八熟梅あたりどしさとみのやつぶき」、
1838「花舞台霞の猿曳(靱猿・新うつぼ)/39「狂乱廓三面」41「心中浮名の鮫鞘」外作品多数、
[4世中村重助(;号)の通称/別号]別号;中村伝次郎5世/中村十助、

俳名：故一、法号：故説院一乗日法

- 重助(じゅうすけ・守川) → 捨魚(すてな・至清堂、狂歌) D 2 3 8 3
重助(じゅうすけ・山岸) → 半残(はんざん・山岸、藩士/俳人) H 3 6 7 4
重助(じゅうすけ・山岸) → 車来(しやらい・山岸、半残男/藩士/俳人) G 2 1 5 7
重助(じゅうすけ・京屋) → 一鷺(いちろ・京屋、俳人) B 1 1 3 2
重助(じゅうすけ・高木) → 戀古(らんこ・百花坊、美濃派俳人) B 4 8 9 6
重助(じゅうすけ・小川) → 定澄(さだすみ・小川おがわ、和算家) I 2 0 3 1
重助(じゅうすけ・守川) → 捨魚(すてな・至清堂せいどう、狂歌作者) D 2 3 8 3
重助(じゅうすけ・大谷) → 品嵩(かずたか・大谷おおたに、国学・歌人) T 1 5 9 1
重助(じゅうすけ・山県) → 重之(しげゆき・山県やまがた/橘、国学/歌) Z 2 1 9 5
重介(柔介じゅうすけ・小林) → 畏堂(いどう・小林こばやし、儒者) E 1 1 1 6
重介(じゅうすけ・吉村) → 秋陽(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人) E 2 1 1 2
什介(十助じゅうすけ・田丸屋) → 棟隆(むねたか・稲掛/山口、商家/国学/歌) B 4 2 4 8
十介(十助じゅうすけ・磯谷) → 久英(ひさひで・磯谷いそがひ、藩士/兵法家) B 3 7 8 3
十介(十助じゅうすけ・山田) → 有裕(ありひろ・山田、書家/詩文) F 1 0 7 2
十介(じゅうすけ・稲掛/本居) → 大平(おおひら・本居/稲掛、国学者) 1 4 0 7
十介(じゅうすけ・武笠) → 宣予(のぶやす・武笠たけがさ、藩士/歌人) J 3 5 0 4
十助(じゅうすけ・小篠) → 敏(御野みね・小篠/篠/田淵、藩士/儒・国学) F 4 1 4 2
十助(じゅうすけ・西村) → 貞寛(さだひろ・西村にしむら/藤原、藩士/歌) P 2 0 0 7
十寸尾(じゅうすんび) → 十寸尾(ますお・未熟庵、俳人) I 4 0 9 3
秀是(しゅうぜ・多田) → 立意(りゅうい・多田ただ、商家/俳人) C 4 9 7 3

- H2184 秀政(しゅうせい;号・長谷寺ちやうこくじ)?-? 江前期和泉堺の長谷寺ちやうこくじ住の俳人、
堺の正法寺成安(じやうあん)の未完の遺著を完成;1667「貝殻(かいがら)集」編;
1663埋草に続く堺俳壇の第三撰集/句引に;堺俳人137人・大坂61人・河内40人)、
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[古酒ならば覚めざらましを一夜酒ひとよざけ](手鑑/一夜酒;甘酒、
古今;552小町;思ひつつ寝ぬればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを)

- X2179 秀正(しゅうせい) ? - ? 美濃岐阜の俳人;1689「あら野」入、
[吹き散りて水のうへゆく蓮はちすかな](あら野;三/暮夏、風・花びら・流れの涼しさ)

- X2180 宗誓(しゅうせい;法諱) 1645 - 172884歳 越中下新川郡生地町の真宗大谷派願楽寺17世住職、
医に通ず、親鸞の遺跡・宝物調査;1710見聞記「遺徳法輪集」、「親鸞聖人御直弟散在記」著、
「二十四輩記」「二十四輩諸国散在記」著/「本願寺御代之事」編

- H2185 習静(しゅうせい・村井むらい、名;桃、見朴4男) 1750-182071 肥後熊本の儒者;古屋愛日庵門、
藪慎庵・孤山門、熊本藩校時習館句読師/訓導/助教/刑獄錢穀局監、詩人、
兄琴山とは別家を興す;禄百石、「習静遺稿」、

[習静(;号)の字/通称]字;蟠年、通称;藤十郎/桃寿、琴山・蘇山の弟

- 周清(しゅうせい・伴) → 周清(ちかきよ・伴とも/門真、室町幕臣/歌) 2 8 7 7
周成(しゅうせい・鷹取) → 周成(ちかしげ・鷹取たかとり、藩士/地誌) 2 8 9 6
周政(しゅうせい/ちかまさ・古松) → 貞幹(ていかん・古松こまつ、藩士/書家/歌) 3 0 4 9
周政(しゅうせい・難波) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9

周政(しゅうせい・武津) → 周政(ちかまさ・武津ふかつ、藩士/国学者) N 2 8 3 8
 就正(しゅうせい・長屋) → 就正(なりまさ・長屋ながや、武将/記録) I 3 2 1 3
 就正(しゅうせい・沢さわ/小原) → 峯山(とうざん・小原おはら、医/本草) E 3 1 6 0
 就正(しゅうせい・横地) → 楚山(そざん・横地、医者/儒者) J 2 5 7 4
 就正(しゅうせい・恩田) → 柳磯(りゅうかん・恩田おんだ、儒者/詩人) D 4 9 2 8
 秋声(しゅうせい) → 竹田(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人) D 2 8 5 4
 秋声(しゅうせい・斎藤) → 実村(さねむら・斎藤さいとう、藩士/日記) L 2 0 3 8
 秋世(しゅうせい・矢田) → 秋世(あきつぐ・矢田やだ/源、神職/国学) I 1 0 5 8
 摯成(しゅうせい) → 長溥(ながひろ・黒田、藩主/連歌) F 3 2 5 9
 秀井(しゅうせい) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5
 秀生(しゅうせい・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
 秀世(しゅうせい・横山) → 秀世(ひでよ・横山よこやま、国学者/歌) I 3 7 3 1
 秀世(しゅうせい・土屋) → 秀世(ひでよ・土屋つちや/川上、役人/国学) K 3 7 2 0
 秀成(しゅうせい)すべて → 秀成(ひでなり)
 秀政(しゅうせい・前島) → 秀政(ひでまさ・前島まえじま、医者/眼科) D 3 7 8 0
 秀政(しゅうせい・吉野) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1
 秀征(しゅうせい・中川) → 久盛(ひさもり・中川なかがわ、藩主/連歌) C 3 7 0 4
 秀清(しゅうせい・小笠原) → 秀清(ひできよ・小笠原、武道礼法) D 3 7 0 2
 秀精(しゅうせい・三輪) → 表秀(あきひで・三輪みわ/南雲齋、藩士/歌) D 1 0 8 2
 修省(しゅうせい・中島) → 修省(ながみ・中島なかじま、藩士/国学者) O 3 2 0 5
 修政(しゅうせい・池田) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9
 修静(しゅうせい・蒲生) → 君平(くんぺい・蒲生がもう、儒者/尊攘) C 1 7 0 0
 衆芥(しゅうせい・北野) → 好友(よしとも・北野きたの、名主/国学) M 4 7 4 8
 X2181 重政(じゅうせい) ? - ? 俳人;
 1670種寛たねひろ「誹諧詞友集」の巻末「作者句数」(;常純と共著)
 H2186 重正(じゅうせい・鈴木すずき) ? - ? 三河岡崎住の俳人、1671友次「藪香物」入
 P2109 重成(じゅうせい/しげなり・櫻井さくらい) ?-? 大阪の医者/俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第六七夕発句等入、1691賀子「蓮実」2句入、
 [轟いよやかな伽藍に見たき軒の雪](蓮実;399/我家の雪を高く聳える堂の雪と見よう)
 H2187 重清(じゅうせい・安心院あじむ・釈重清) 1699-? 1743存 豊前宇佐の安心院僧、歌人;冷泉為村門、
 連歌師、1758刊学書「連歌安心あんじん集」編(;1743[寛保3]里村昌迪序/自序/宇佐公箇跋)、
 [重清(;法諱)の本名/通称]本名;飯田重清しげきよ、通称:安心院聖人
 重世(じゅうせい・本多) → 重世(しげよ・本多ほんだ、幕臣/歌人) D 2 1 3 3
 重世(じゅうせい・田中) → 重世(しげよ・田中たなか、国学者) T 2 1 0 8
 重正(じゅうせい・弓場) → 重正(しげまさ・弓場ゆみば、藩士/馬術家) S 2 1 6 0
 重正(重政じゅうせい・梶) → 重正(しげまさ・梶かじ、幕臣/国学者) O 2 0 0 0
 重正(じゅうせい・鹿島) → 重正(しげまさ・鹿島かしま、歌人) S 2 1 6 6
 重生(じゅうせい・松田) → 本生(もとなり・松田まつだ、藩医/歌人) L 4 4 3 9
 重清(じゅうせい・大和田) → 重清(しげきよ・大和田おおわだ、武将/日記) Q 2 1 9 4
 重清(じゅうせい・沢) → 重清(しげきよ・沢さわ、治水研究) Q 2 1 9 7
 重政(じゅうせい)訓読はすべて → 重政(しげまさ)
 重姓(じゅうせい・筑和) → 重姓(しげうじ・筑和ちくわ、藩士/国学) Z 2 1 4 5
 重成(じゅうせい・中原) → 重成(しげなり・中原なかはら、廷臣/歌) a 2 1 5 6
 重成(じゅうせい・井上) → 重成(しげなり・井上いのうえ、幕臣/連歌) R 2 1 8 5
 重成(じゅうせい・大高) → 重成(しげなり・大高おおたか/高階、幕臣/歌) C 2 1 6 2
 重盛(じゅうせい・平) → 重盛(しげもり・平たいら、武将/歌人) D 2 1 1 9
 重誠(じゅうせい・平野) → 元良(元亮げんりょう・平野ひらの、医者) N 1 8 0 7
 重誠(じゅうせい・西池) → 重誠(しげのぶ・西池/賀茂/藤木、神職/歌) S 2 1 0 0
 重靖(じゅうせい・前田) → 重靖(しげのぶ・前田まえだ、藩主/詩歌) R 2 1 9 6
 縦性(じゅうせい) → 縦性(じゅうしょう;号) → 円旨(えんし;法諱・別源、曹洞僧) 1 3 9 7

- 修静庵(しゅうせいあん) → 君平(くんぺい・蒲生がもう、儒者/尊攘) C 1 7 0 0
 秋声庵蒼々(しゅうせいあんそうそう) → 一鳳軒(いつぼうけん・西沢、書肆/戯作) 1 1 2 6
 秋霽観(しゅうせいかん) → 有兎(ゆうと、俳人) D 4 6 4 9
 修成先生(しゅうせいせんせい、諡号) → 東所(とうしょ・伊藤、儒者) F 3 1 1 8
 習静堂(しゅうせいどう) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3
 集成堂(しゅうせいどう) → 宣信(のりのぶ・堤つみ、医者/歌人) J 3 5 1 9
 T2165 秋生尼(しゅうせいに・増山ますやま)?-? 江後期;歌人、尼僧、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [後の世の闇路はさても照らさじをあはれ鶴川にきほふ篝火](大江戸倭歌;夏568)
 習静楼(しゅうせいろう・吉川) → 経幹(つねまさ・吉川きつかわ、領主/日記) D 2 9 7 8
 H2188 秀石(しゅうせき・渡辺わたなべ、岩川甚吉男) 1639-1707 69 長崎の絵師;逸然門/北宗画家、
 渡辺に改姓、長崎奉行所御用絵師に採用;1697唐絵目利職に就任、唐絵目利派の祖、
 写生画を基調とする風俗画・細密な花鳥画を描く、のち代々唐絵目利職を世襲、
 「野稻群雀図」「唐夫人図」「老松双鶴図」画など、弟渡辺秀岳も絵師、
 秀朴(2世)・元周(3世)・秀溪(4世)・秀彩(5世)・秀詮(6世)・秀実(7世)・元洲(8世)と続く、
 [秀石(;号)の字/通称/別号]字;元章、通称;甚吉(;父名を嗣)、
 別号;仁寿斎/嬾らん道人/煙霞比丘(;逸然の号を同門河村若芝と継嗣)、法号;仁寿院
 X2182 萩石(しゅうせき・別号;湖月斎)?-? 江前期近江の俳人;舎羅系俳人?、
 数年間大阪の天王寺住;1701頃帰郷、1702「俳諧野可羅寿のがらす」編
 周碩(しゅうせき・浅井) → 南溟(なんめい・浅井あさい、医者) J 3 2 5 8
 周碩(しゅうせき・中川) → 恭重(ゆきしげ・中川なかがわ、医者/歌人) H 4 6 0 3
 周碩(しゅうせき・広田) → 周碩(かねひろ・広田のひろた、歌人) V 1 5 5 1
 秋夕(しゅうせき・不破) → 方好(まさよし・不破ふむ、藩士/記録) L 4 0 1 8
 十石(じゅうせき) → 十石(じっせき・和田原、雑俳点者) F 2 1 0 3
 舟夕子(しゅうせきし) → 由平(ゆうへい・よしひら・前川、俳人) D 4 6 6 8
 重石丸(じゅうせきまる・渡辺) → 重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0
 X2183 周節(しゅうせつ・村瀬むらせ、名;載貞) 1695-1771 77 江中期阿波阿波郡香美村の医者/京で開業医、
 「医経小識」「見声雑誌」「源氏経験要方」著
 X2184 修節(しゅうせつ・塚原つかはら)?-? 江後期本草家;名古屋の浅井家(貞庵?)入門、
 1834浅井家(貞庵男の紫山?)の命で上京し仁和寺の「新修本草」を书写、「甲午筆乗」著
 周拙(しゅうせつ・森野) → 冶天(やてん・森野もりの、藩士/医者/俳人) D 4 5 8 2
 舟雪(しゅうせつ) → 雲煙(うんえん・安西、書画鑑定業) D 1 2 5 7
 舟雪(しゅうせつ・土井) → 光華(みつあき・土井どい、国学/政治家) J 4 1 8 3
 周雪(しゅうせつ・服) → 南郭(なんかく・服部はっとり、儒/詩歌) 3 2 3 1
 H2189 重雪(じゅうせつ・重井しげい、末雪男)?-? 江戸の俳人;珪林門、1737撰集「俳諧明星台」編、
 [重雪(;号)の通称/別号]通称;伊勢屋清次郎、別号;雲足
 重節(じゅうせつ・鎌田) → 梁洲(りょうしゅう・鎌田かまた、儒官/家老) H 4 9 8 7
 H2190 周顥(しゅうせん;法諱・希頊きぎよく;道号)?-? 1495存 臨濟僧;京の南禅寺瑞雲庵入/在中中淹門、
 在中の嗣法、出世の意志なく丹波徳蔵院に閑居、1486足利義政に招聘;孝経を講ず、
 1488義政室の日野富子に招聘;法華経を講ず、1495南禅寺に寓し法華経・論語を講ず、
 1486「孝経抄」著
 H2192 秋扇(しゅうせん・井上いのかえ)?-? 岐阜の俳人・季吟系、1673「百人一首基箭抄」著、
 1667湖春「続山井」・76季吟「続連珠」・91不角「二葉之松」入、
 [眠ねわたきをせめて筐かたみとかこつ女]
 (二葉之松;300恋/前句;移り香たゝむあけぼのの蚊屋)
 H2191 舟泉(しゅうせん・永田ながた)?-? 三河拳母の俳人;1687芭蕉門、放蕩のため勘当、
 名古屋寓居;のち帰郷、「舟泉句集」著、1686「春の日」4句(;舟泉亭での連句入)、
 1689「あら野」31句入、1692「荷兮かき歳旦」入/93「曠野後集」入、
 [散る花は酒ぬす人ひとよぬす人よ](あら野;巻一/落花の寂しさについて盃を重ねる)

- [舟泉(；号)の通称/別号]通称;弥兵衛/六兵衛、別号;介石園/後調子/流形庵
M2126 繡鮮(しゅうせん) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息」入、
[面とれば本の木阿弥練供養ぬりくよう](二息/来迎会の菩薩の面をとれば唯の人)
- H2193 楫川(しゅうせん・西邑にむら、名;淑)?-? 江戸期播磨の儒者/詩人、
「楫川詩文稿」「遊都稿」著、
[楫川(；号)の字/通称]字;子興、通称;道円
- 周泉(しゅうせん;字) → 日胤(にちいん;法諱、日蓮僧) 3 3 4 6
周仙(しゅうせん・久須見) → 宣尹(のぶただ・久須見くすみ、神道/医者) B 3 5 8 2
修仙(しゅうせん・臼井) → 治堅(はるかた・臼井うすい/森もり、医/歌人) G 3 6 1 6
秋扇(しゅうせん・片山) → 良庵(りょうあん・片山かたやま、藩士/兵学者) G 4 9 0 3
贅泉(しゅうせん・井田) → 寒涯(かながい・井田いた、庄屋/俳人) Q 1 5 0 6
秀詮(しゅうせん) すべて → 秀詮(ひであき/ひであきら)
周禪(しゅうぜん・杉木) → 普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人) B 3 8 9 9
秀前(しゅうぜん・菊池) → 五大(こだい・菊池、俳人) N 1 9 0 4
秋全(しゅうぜん・清水) → 秋全(あきまさ・清水、藩士/国学/歌) D 1 0 8 7
崇全(しゅうぜん) → 崇金(すうこん・すうきん;法名僧、歌人) F 2 3 2 5
- P2124 重宣(じゅうせん/しげのり?・松井まつい、号;桜花おうか)?-? 江前期撰津大阪の俳人、狂歌作者、
狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、
俳諧;1681賀子「山海集」82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[餅の輪は清くきよきぞ大鏡](山海集;右32/餅の輪は鏡餅を一定にする竹製の輪、
謡曲「三輪」;三つの輪は清く浄きぞ唐衣来ると思ふな取ると思はじ)
- 重宣(じゅうせん・藤原) → 重宣(しげのぶ・藤原ふじわら、連歌作者) R 2 1 9 2
重宣(じゅうせん/しげのり?・鈴木) → 大凡(たいぼん・鈴木、史学) L 2 6 0 5
重先(じゅうせん・深尾) → 重先(しげもと・深尾、藩士/国事/日記) S 2 1 9 4
十千(じゅうせん・加藤) → 豈苟(かいかう・加藤かとう、儒/神道家) I 1 5 6 3
重善(じゅうぜん・和田) → 重善(しげよし・和田/湯本、藩士/詩人) T 2 1 1 6
重善(じゅうぜん・今井/宮竹) → 良順(りょうじゅん・宮竹/今井、医者/儒) I 4 9 0 1
重全(じゅうぜん・藤原) → 重全(しげまさ・藤原、神職/書肆) S 2 1 6 4
重漸(じゅうぜん・高島) → 正重(まさしげ・高島たかしま、武将) C 4 0 7 0
- H2194 秋扇翁(しゅうせんおう・真嶋まじま)?-? 能楽故実家/鼓;榎島玄蕃頭昭光門、
1658「舞正語磨」、「承応神事能評判」「檜垣型付」著、
[秋扇翁(；号)の通称/別号/仮名]通称;照三、別号;円庵、仮名;観世元広、
穉扇翁(しゅうせんおう、神道家) → 時綱(ときつな・真野/藤波、神職) J 3 1 3 5
十髯叟堂(じゅうぜんそうどう) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸すぎき、詩人) R 2 2 5 6
修禪庵(しゅうぜんあん) → 政方(まさみち・小堀こぼり、藩主) H 4 0 4 4
修禪大師(しゅうぜんだいし) → 義眞(ぎしん、初代天台座主) B 1 6 2 8
守泉堂(しゅせんどう) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1
諏善堂(しゅうぜんどう) → 正典(まさのり・久貝くが、幕臣/歌人) G 4 0 2 3
- X2123 秋仙尼(しゅうせんに) ? - ? 江後期;尼僧、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[塩がまのけぶりはしばし絶えにしを浦わの紅葉下こがれつつ]、
(大江戸倭歌;秋1005/前田夏蔭邸の紅葉合に州浜に塩がまのさまを造りて)
- 秀素(しゅうそ・藤田) → 秀素(ひでもと・藤田ふじた、絵師) E 3 7 0 0
- H2195 周崇(しゅうそう;法諱・大岳だいがく;道号、号;全愚道人、俗姓一宮) 1345-1423 79 阿波臨濟僧;黙翁門・
詩文;義堂周信門、等持寺住寺/1402相国寺10世/04相国寺鹿苑院塔主;鹿苑院僧録、
天竜寺46世/南禅寺71世/宝積寺で没、「大岳録」、「翰苑遺芳(東坡の抄物)」著、
「早霖集」「三国一覽合運図」「前漢書抄」著
- 周宗(しゅうそう→しゅうしゅう・南英) → 南英(なんえい・周宗、臨濟僧) I 3 2 5 1
周宗(しゅうそう・伊達) → 周宗(ちかむね・伊達だて、藩主/歌) C 2 8 0 0
秀奏(しゅうそう・三輪) → 秀奏(ひでのり・三輪みわ、藩士/歌人) D 3 7 6 2

- 秀叟(しゅうそう・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
 秀倉(しゅうそう・高橋) → 秀倉(保具良ほぐら・高橋/大橋、国学者) E 3 9 0 6
 秋窓(しゅうそう・土肥) → 渭虹(渭江いこう、土肥、藩士/俳人) F 1 1 4 3
 鷲巢(しゅうそう・青木) → 樹堂(じゅどう・青木あおき、禅僧/漢学/詩) 2 1 7 5
- H2197 周蔵(しゅうそう・並木なみき) ? - ? 江中期大阪の豊竹座浄瑠璃作者・歌舞伎作者、
 合作;番付作者、1747「悪源太平治合戦」番付/70栄さかい善平「催馬楽踊始」番付、
 1772初世並木正三「近江源氏躰講釈おうみげんじしかたこうしゃく」番付
- H2198 修蔵(しゅうそう・服部はっとり、名;遜、甫庵男)?-1847 因幡若桜藩士/儒者;松崎慊堂こうどう門/和漢学、
 藩主池田冠山に近侍、1816冠山・渡辺奎輔・生田英碩と詩の応酬(;岐亭余響)、
 大槻磐溪と交流、1822冠山女の露姫6歳死去の際の漢文・和文二つの追悼文を記述、
 冠山死去に当り諸事を松崎慊堂と共に取仕切る、1824「玉露童女追悼集」編、
 [修蔵(;通称)の字/号]字;叔養、号;黙齋/黙堂
- X2185 周蔵(しゅうそう・斉せい) ? - ? 江末期歌舞伎作者:4世中村重助門、
 師に次ぎ江戸市村座作者に連名;合作/1838頃最も活動、1838「男舞楓顔色」合作、
 1838「戌歳里見八熟梅あたりどしさとみのやつぶき」「御撰ごひき手向花川戸」「男舞楓顔色」師と合作
- X2186 修三(しゅうそう・石井いし、名;信恕)?-1857 伊豆韮山の兵法家、幕府蘭書翻訳方;兵書翻訳、
 江川太郎左衛門の属吏、1855「歩兵運動軌範」57「三兵教練」著、「小隊教練篇」訳
- X2187 周蔵(しゅうそう・亀屋かめや、号;万年舎亀麿)?-? 江後期武蔵高麗郡飯能の本草家、
 1854「幼学食物能毒」著
- X2188 脩造(しゅうそう・阿波加あわか、初名;捨五郎、佐渡養順[8世]男)1835-191682 越中高岡の生、
 魚津の医者阿波加家の養子、医学;春日寛平・緒方洪庵門、1858魚津で医開業、
 1861私塾[阿波加塾]開設、1872病院[好生舎]設立、1859「哥路里贅語」著、
 [脩造(;名)の字/通称/号]字;土栗、通称;正穎、号;酔夢/春塘/六無齋
- X2189 周三(周蔵しゅうそう・三瀬みせ、麓屋半兵衛長男)1838-7740 伊予大洲の塩問屋麓屋の生、
 幼時に両親と死別;親戚により育成、漢学;玉田三治門、国学・歌;三輪田元綱門、
 国学;八幡社神主常盤井巖戈いかにこの[古学堂]に修学、医学;二宮敬作(母方の叔父)門、
 二宮家にいた長州藩村田蔵六(大村益次郎)に蘭語修学/1856敬作に同行し長崎へ;
 シーボルトに入門、蘭学・英語・独語を修得、1858(安政5)大洲藩に出仕;
 長崎から持参の発電機と電信機で電信実験成功/1859師シーボルト再来日;医学修学、
 シーボルト江戸参府に同行し日本研究を援助;1862日本史翻訳が発覚;シーボルト事件連座;
 投獄;1864赦免、帰郷;伊予宇和島藩に招聘され蘭学・産科を教授、
 1866(慶応2)シーボルトの孫娘の楠本高子と結婚、
 維新後は大阪医学校兼病院設立尽力、1870頃[諸淵]に改名、1871東京医学校設立に関与、
 同校の文部中助教/1872文部大助教、73退官;大阪に病院開設;77(明治10)コレラで没、
 「日蘭英仏対訳辞典」「蘭訳翻訳の鍵」「独英蘭対訳集」著、
 [周三(;通称)の名/字/法号]幼名;弁次郎/初名;亨/後名;諸淵もろふち、字;修夫、
 法号;竜雲院
- 秀三(しゅうそう・木下) → 秀三(ひでみつ・木下/豊臣、歌人) D 3 7 9 0
 秀三(しゅうそう・岡田) → 煌亭(こうてい・岡田/岡田おかだ、儒者) G 1 9 4 0
 秀蔵(しゅうそう・瀬井) → 秀蔵(ひでそう・瀬井、歌舞伎作者) D 3 7 1 1
 秀蔵(しゅうそう・田辺) → 玄齡(げんれい・田辺たなべ、医者/詩歌) N 1 8 1 4
 秀蔵(しゅうそう・大田) → 什安(じゅうあん・大田おおた、医者) G 2 1 7 2
 秀蔵(しゅうそう・勝) → 源八(げんぱち・勝井かつい、歌舞伎作者) C 1 8 9 3
 秀蔵(しゅうそう・瀬井) → 秀蔵(ひでそう・瀬井せい、歌舞伎作者) D 3 7 1 1
 秀蔵(しゅうそう・滝川) → 友直(ともなお・滝川、藩士/和算家) Q 3 1 0 3
 秀蔵(秋蔵しゅうそう・林) → 閼苑(らうえん・林はやし、絵師) 5 2 2 0
 舟蔵(しゅうそう・大館) → 氏義(うじよし・大館おおだち、藩士/歌人) E 1 2 5 8
 周蔵(しゅうそう・木津屋/西浦) → 波丸(はまる・鉄格子、狂歌/滑稽本) F 3 6 6 8
 周蔵(しゅうそう・安孫子) → 東岡(とうこう・安孫子、商家/俳/日記) D 3 1 8 2

周蔵(しゅうぞう・小池) → 曲江(きょくこう・小池こいけ、藩士/絵師) O 1 6 8 8
 周蔵(しゅうぞう・加古川) → 遜斎(そんさい・加古川/糟谷、医/儒者) F 2 5 3 9
 周蔵(しゅうぞう・平賀) → 蕉斎(しょうさい・平賀ひらが、詩人) S 2 2 3 3
 周蔵(しゅうぞう・大須賀/中山) → 鬼卵(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者) D 1 6 7 1
 周蔵(周造しゅうぞう・三木) → 屈斎(くっさい・三木みき、藩士/詩/戯作) C 1 7 4 7
 周蔵(しゅうぞう・水山/生駒/土師) → 熊文(くまぶん・生駒/土師はじ、国学) D 1 7 4 3
 周蔵(しゅうぞう・勝浦) → 源八(げんぱち・勝井かつい、歌舞伎作者) C 1 8 9 3
 周蔵(しゅうぞう・広瀬) → 台山(たいざん・広瀬、藩士/絵師/詩) K 2 6 0 7
 周蔵(しゅうぞう・伊勢) → 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8
 周蔵(しゅうぞう・不破/新井) → 輔徳(すけのり・新井/不破、藩士/儒者) G 2 3 9 5
 周蔵(収蔵しゅうぞう・古森) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1
 周蔵(しゅうぞう・後藤) → 義質(よしただ・後藤ごとう、医者/国学) M 4 7 8 8
 周蔵(しゅうぞう・谷) → 千生(ちなり・谷たに、語学者) F 2 8 1 1
 周蔵(周造しゅうぞう・林) → 詢(じゆん・林はやし、医者) 2 1 8 6
 周蔵(しゅうぞう・山田) → 孟明(たけあき・山田やまだ/田、儒者/詩人) 2 7 1 4
 周蔵(しゅうぞう・石川) → 惟治(これはる・石川いしかわ、歌人) Q 1 9 0 6
 周蔵(しゅうぞう・熊谷) → 直房(なおふさ・熊谷くまがい、神職/国学) M 3 2 0 0
 周造(しゅうぞう・塩路) → 貢(みつぐ・塩路しおじ/物部、薬/医/国学) D 4 1 3 0
 修蔵(しゅうぞう・香川) → 南浜(なんびん・香川かがわ、儒者) J 3 2 3 7
 修蔵(しゅうぞう・伊藤) → 弘窩(こうか・伊藤いとう、藩士/儒者) H 1 9 7 7
 修蔵(しゅうぞう・長井) → 旌峨(せいが・長井/永井ながい、詩文) H 2 4 6 8
 修蔵(しゅうぞう・土屋) → 愛親(よしちか・土屋つちや、藩士/和算家) E 4 7 5 5
 修蔵(しゅうぞう・上村) → 鷺洲(ろしゅう・上村うへむら、儒者/詩文) B 5 2 7 3
 修蔵(しゅうぞう・生駒) → 親孝(ちかたか・生駒いこま/丹羽、旗本) L 2 8 4 6
 修蔵(しゅうぞう・入谷) → 澄士(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) I 2 3 0 9
 収蔵(しゅうぞう・常松) → 菊畦(きくけい・常松つねまつ、大庄屋/詩文) K 1 6 0 7
 収蔵(しゅうぞう・田中) → 玉峰(ぎょくほう・田中たなか、書家/俳人) P 1 6 3 8
 収蔵(しゅうぞう・福田) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9
 収蔵(しゅうぞう・柴田) → 拗斎(ようさい・柴田/新発田、地理学者) 4 7 9 9
 収蔵(しゅうぞう・安東) → 貞敏(さだとし・安東あんどう、藩士/国学/詩) N 2 0 7 4
 収蔵(しゅうぞう・奥村) → 邦秀(くにひで・奥村おくむら/橘、国学/茶人) E 1 7 0 8
 収蔵(しゅうぞう・奥村) → 邦光(くにみつ・奥村おくむら/橘、神職/歌人) E 1 7 0 9
 脩三(しゅうぞう・守元) → 溪圃(けいほ・守元もりもと、儒者) G 1 8 6 2
 脩造(しゅうぞう・本莊) → 知和(ともかず・本莊ほんじょう、医者/国学) W 3 1 3 7
 秋蔵(しゅうぞう・横田) → 樗園(ちよえん・横田、藩士/儒/詩) K 2 8 1 8
 鷲蔵(しゅうぞう・千葉) → 葛野(かどの・千葉/大蔵屋、国学/歌) 1 5 7 1
 鋏蔵(しゅうぞう・平尾) → 他山(たざん・平尾/力丸、藩士/儒者/詩) O 2 6 9 4
 重操(じゅうぞう・梅村) → 重操(しげあや・梅村うめむら、藩士/和算家) Q 2 1 5 6
 重宗(じゅうぞう) → 重宗(しげむね、戦国期連歌作者) D 2 1 0 9
 重宗(じゅうぞう・板倉) → 重宗(しげむね・板倉いたくら、藩主) D 2 1 1 0

- I2100 **十蔵**(初世じゅうぞう・中村) 1694-1770⁷⁷ 上方の歌舞伎役者、
 I2101 **十蔵**(2世じゅうぞう・中村) 1740-1788⁴⁹ 上方の歌舞伎役者、初世中村吉右衛門
 X2190 **絨造**(じゅうぞう・堅田かただ、初名;馮) 1746-1812⁶⁷ 武蔵の生/幼時に堅田家の養子、長じて上京、
 雨宮家より学資を受け儒医、本草学;小野蘭山門、「算定度量衡」/1791「木鐸集本草部」著、
 1798「万病回春名物考」著、「痘疹要訣」校訂、
 [絨造(;)名)の字/号]字;君翼、号;独得、法号;光明院
 I2104 **重造**(じゅうぞう・並木なみき)? - ? 歌舞伎作者:1772初世晴助「濃紅葉小倉色紙」番付
 I2102 **十蔵**(3世じゅうぞう・中村) 1774-1801^{早世28} 上方の歌舞伎役者、立役、二世嵐雛助ひなすけ
 I2103 **十蔵**(4世じゅうぞう・中村) 1780-1832⁵³ 上方の歌舞伎役者
 X2191 **十蔵**(じゅうぞう・都筑つづき、名;知利ともとし) 1781-1852⁷² 出羽庄内藩士;1801家督/近習頭取、

1836小姓頭、1844藩主世子酒井忠発の養育に関する意見を呈す/46隠居、

「都筑長孺先生御詩集」著、

[十蔵(；通称)の字/号]字；長孺、号；唯楽ゆらく

X2192 **十蔵**(じゅうぞう・深町ふかまち、名；邦正)？-？ 江末期加賀大聖寺藩士/槍術；深町源兵衛門、
正智流槍術を修得、1862「心明剣印可」著

重蔵(じゅうぞう・近藤) → 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌) B 2 4 5 8

重蔵(じゅうぞう・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4

重蔵(じゅうぞう・伊藤) → 梅宇(ばいう・伊藤いとう、儒者/詩/俳) 3 6 0 1

重蔵(じゅうぞう・高橋) → 梅洲(ばいしゅう・高橋、藩士/儒/詩) B 3 6 4 7

重蔵(じゅうぞう・夏目) → 可敬(かけい；字・夏目なつめ、商家/地誌) K 1 5 7 4

重蔵(じゅうぞう・益田) → 勤斎(きんさい・益田ますだ、篆刻家) H 1 6 8 7

重蔵(じゅうぞう・幡谷) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合巻) 2 6 9 1

重蔵(十蔵じゅうぞう・佐々木) → 弘綱(ひろつな・佐々木、国学者/歌人) G 3 7 4 2

重蔵(じゅうぞう・津田) → 明馨(めいきょう・津田つた、藩士/剣術) 4 3 1 2

重蔵(じゅうぞう・北村) → 令尹(よしただ・北村きたむら、国学/歌人) M 4 7 4 9

重蔵(じゅうぞう・福井) → 亨長(ゆきなが・福井ふくい/杉原、国学/歌) H 4 6 1 9

重三(じゅうぞう・鈴木) → 正三(しょうさん・鈴木/穂積、禅僧/仮名草子) S 2 2 4 7

十蔵(じゅうぞう・名越/暮露) → 南溪(なんけい・名越なごや、藩士/儒者) I 3 2 8 3

十蔵(じゅうぞう・喜多山) → 毛絨(もうがん・大雅堂たいがどう、藩士/俳人) 4 4 4 9

十蔵(じゅうぞう・富田/名越) → 范斎(はんさい・名越なごや、南溪の養子/藩士/儒者) H 3 6 6 7

十蔵(重蔵じゅうぞう・越智) → 越人(えつじん・越智おち、染物業/俳人) 1 3 1 0

十蔵(じゅうぞう・稻掛/本居) → 大平(おおひら・本居り/稻掛、国学者) 1 4 0 7

十蔵(じゅうぞう・上松) → 木導(もくどう・奈越江なおえ/上松、俳人) B 4 4 0 4

十蔵(じゅうぞう・佐野) → 石燕(せきえん・鳥山とりやま/鳥、絵師) D 2 4 3 5

十蔵(じゅうぞう・鈴木) → 扇橋(2世せんきょう・船遊亭、落語家) F 2 4 1 4

十蔵(じゅうぞう・河北) → 景楨(かげだ・河北かわきた、藩士/儒者) F 1 5 0 1

十蔵(じゅうぞう・神野) → 世猷(せいゆう・神野じんの/服部、藩士/儒) J 2 4 6 6

十蔵(じゅうぞう・沢井) → 穿石(せんせき・沢井さわい、書家) M 2 4 7 7

十蔵(じゅうぞう・伊東) → 祐根(すけね・伊東/藤原/弓削、藩士/水練) G 2 3 7 9

十蔵(じゅうぞう・玉虫) → 尚茂(ひさしげ・玉虫たまむし、藩士/兵学) B 3 7 1 2

十蔵(じゅうぞう・三谷) → 吳綿堂永良(ごめんとうながら・五面堂長良、狂歌) N 1 9 7 6

充蔵(じゅうぞう・石野) → 東陵(とうりょう・石野いしの、儒者) I 3 1 3 0

録蔵(じゅうぞう・平尾) → 信左衛門(しんざえもん・平尾、藩士/儒) O 2 2 5 8

X2194 **秋叢園**(しゅうそうえん) ？ - ？ 江後期本草家、1853「朝顔花併」/55「朝顔譜」著、

[秋叢園(；号)の別号]叢園/靚粧せいしょう/葬亭しゅんてい

舟叟翁(しゅうそうおう) → 我黒(がこく・中尾、俳人) C 1 5 0 3

修蔵館(しゅうぞうかん) → 清庵(せいあん・小泉おがた、藩医/国学) H 2 4 1 9

秋草舎(しゅうそうしゃ) → 野坡(やは・志太、俳人) 4 5 1 2

秋足(しゅうそく・野村) → 秋足(あきたり・野村のむら、藩士/国学) D 1 0 5 0

秋足(しゅうそく・金田) → 秋足(あきたる・金田かねだ、神職/国学) H 1 0 3 7

秋足(しゅうそく・横田) → 秋足(あきたり・横田よこた、商家/歌人) I 1 0 7 8

P2110 **重則**(じゅうそく) ？ - ？ 伊勢白子の俳人、1690言水「新撰都曲みやこぶり」6句入、

[須磨の巻まき紐とく秋の夕べ哉](都曲；上151)

重則(じゅうそく・下田) → 重則(しげり・下田しもだ/大江、歌人) R 2 1 0 3

X2195 **秀尊**(しゅうそん；法諱、字；玄舜房)？-？ 1580存 上州の真言僧；高野山竜光院住；法院/大和尚、

天正三-六1575-78寺務検校執行、1571「最後耳語大事」80「卒都婆供養法則」著、

「悉曇講問鈔」「鹿園寺古記」「諸儀軌口訣録」著

X2196 **秀存**(しゅうそん；法諱、諡号；一蓮院、小島こじま秀道男)1788-1860 美濃中屋の生/漢学；村瀬藤城門、

真宗大谷派僧；1801高倉学寮入；深励門、具舎・唯識；増上寺照阿門、天台；寛永寺慧澄門、

華嚴・真言；紀伊の芳英門、播磨赤穂郡赤穂町加里屋の万福寺18世、1842擬講/47副講、

- 没後;1886講師職追贈、「秀存法話」「真宗示諭録」「深思熟計録」「真宗百題」「輪宝考」著、
1846「易行品聴記」48「阿弥陀経戊申記」51「能登頓成御調理」59「一蓮院雑録」外著多数
- X2197 **秋村**(秋邨しゅうそん・椎名いな逸/字;佳友、通称半次郎)1800-6869 上州藪塚里正、詩;独学・山陽門、「夢中詩集」、「晩栄堂詩草」「半間居詩稿」著、
[秋村(;号)の別号] 半痴/晩栄堂
- I2105 **秋村**(しゅうそん・柴しば、名;莘、清左衛門男)1830-7142 阿波徳島の儒者、幼時に父没、医;河野弘門、
儒学;徳島藩儒新居水竹の小心塾入門、1845江戸の大沼枕山門・羽倉簡堂門、
大阪の広瀬旭荘門/57豊後日田の広瀬淡窓の咸宜園を訪問、1861徳島藩儒、
1870淡路の稲田家臣団を徳島藩士が襲撃した事件に連座;禁固、遺稿「習字本」書、
[秋村(;号)の字/通称/別号]字;東野/緑野、通称;六郎、別号;繭山けんざん、諡号;文肅
- 秋村(しゅうそん・山本) → 晴海(はるみ・山本、砲術家) G 3 6 9 1
秋村(しゅうそん・広瀬) → 旭荘(きよくそう・広瀬ひろせ、儒者/詩人) 1 6 4 4
周村(しゅうそん・佐竹) → 永海(えいかい・佐竹たけ、絵師) B 1 3 9 3
重村(じゅうそん)すべて → 重村(しげむら)
重巽(じゅうそん・黒沢) → 四如(しよ・黒沢くろさわ、藩儒/易学) T 2 1 7 3
重巽(じゅうそん→しげやす・吹原)→九郎三郎(くろさぶろう・吹原ふきはら、商家/国学) E 1 7 4 7
十太(じゅうた・稲掛/本居)→大平(おおひら・本居/稲掛、国学者/歌) 1 4 0 7
- I2141 **周泰**(しゅうたい・菅すが/藤野ふじの橘、菅周策の長男)?-? 江後期天保1830-44頃筑後久留米藩士、
久留米藩老女藤野(士分;15人扶持)の養子;藤野家(本姓橘)を興す、「藤野老女歌歴」著
[周泰(;号)の名/通称]名;利貞、通称;為氏
- X2198 **秋台**(しゅうだい・浅野屋あさのや;屋号、名;端)?-1815 加賀金沢の畳製造業、書;松花堂門、篆刻に長ず、
蘇東坡書風を修学、茶事/詩/戯画を嗜む、1807-8「秋台詩稿」、「啓沃軒随筆」「秋台印譜」著
[秋台(;号)の通称/別号]通称;彦六/彦兵衛、
別号;戴笠たいりゅう道人/半僧道人/半酔老人/阮蓑野王げんさやおう/端王蓑たんおうさ/海石老人、
青蓑せいさ道人/恬処てんしよ道人/息斎/半兼老人/半禅居士/阮鎌人げんれんじん/遂初ししよ道人、
鉄華居士/阮蓑鎌叟げんざれんそう/周台、法号;釈無著
- 重帯(じゅうたい・馬屋原) → 重帯(しげよ・馬屋原、史家) D 2 1 3 4
重泰(じゅうたい)すべて → 重泰(しげやす)
- I2106 **周沢**(しゅうたく;法諱・龍湫りゅうしゅう;道号、俗姓;武田)1308-8881 甲斐臨濟僧;1313(6歳)夢窓疎石門、
のち夢窓の法嗣/1356甲斐恵林寺住持/京建仁寺47世/南禅寺35世/天竜寺15世、
大興寺開山、京嵯峨の寿寧院に没、画に長ず;多数の不動明王画像を遺す、
「随得集」「入寺法語並詩偈集」「龍湫和尚語録」著、
[龍湫周沢の別法諱/号]別法諱;妙沢、号;咄哉/咄斎とっさい/古剣、諡号;正覚国師
- 秀宅(しゅうたく;法名) → 為秀(ためひで・冷泉/藤原、為相男/歌) 2 6 7 3
十太兵衛(じゅうたべえ・渡辺)→政寛(まさひろ・渡辺わたなべ、藩士;建白) T 4 0 8 4
- X2199 **十太夫**(じゅうだゆう・黒河内くろこうち)1794-185865 会津藩士;禄5百石、兵学者黒河内節斎の孫、
長沼流兵学に長ず、招聘され諸侯の家臣に教授、将軍家慶臨席のもとで操練、
番頭兼軍事奉行に就任、「西洋伝辨駁」著、
[十太夫(;通称)の名/別通称/号]名;高定、前通称;武右衛門、号;松斎
- 十太夫(じゅうだゆう・相良)→ 綱正(なわまさ・相良さがら、藩士/武芸者) I 3 2 4 7
十太夫(じゅうだゆう・畑中)→ 建得(たけのり・畑中はたなか/齋藤、藩士/連歌) Y 2 6 9 9
十太夫(じゅうだゆう・畑中)→ 青霞(せいか・畑中、建得の孫/藩士/詩文) H 2 4 5 4
十太夫(じゅうだゆう・戸村)→ 義国(よしくに・戸村とむら、家老/系譜作成) D 4 7 2 2
十太夫(じゅうだゆう・戸村)→ 義見(よしあき・戸村とむら、藩家老) B 4 7 9 0
十太夫(じゅうだゆう・溝口)→ 素丸(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人) E 2 5 3 6
十太夫(じゅうだゆう・中西)→ 正好(まさよし・中西なかにし/床井、和算家) I 4 0 4 8
十太夫(じゅうだゆう・本保)→ 以守(ゆきさね・本保ほんぼ、藩士/暦学者) E 4 6 4 9
十太夫(じゅうだゆう・石川)→ 篤記(あつき・石川いしかわ、国学者) E 1 0 5 4
十太夫(じゅうだゆう・入江)→ 応忠(まさただ・入江いりえ、藩士/和算家) D 4 0 5 0
十太夫(じゅうだゆう・村田)→ 氏純(うじずみ・村田むらた、藩士/故実) C 1 2 3 9

十太夫(じゅうだゆう・深沢)→ 喬山(きょうざん・深沢ふかざわ、藩士/儒/歌) N 1 6 8 9
 十太夫(じゅうだゆう・深沢)→ 君山(くんざん・深沢ふかざわ、喬山孫/家老/和漢学) B 1 7 2 1
 十太夫(じゅうだゆう・香西)→ 光逸(みつはや・香西かさい、歌人) I 4 1 0 2
 重太夫(十太夫じゅうだゆう・戸崎/崎)→ 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4
 重太夫(十太夫じゅうだゆう・若林)→ 嘉陵(かりよう・若林わかばやし、儒者) H 1 5 5 6
 秀太郎(しゅうたろう・清宮)→ 秀堅(ひでかた・清宮せいみや、農業/国学者) C 3 7 9 8
 周太郎(しゅうたろう・土肥)→ 鹿鳴(ろくめい・土肥どひ、儒者;易説) B 5 2 0 9
 周太郎(しゅうたろう・櫛原)→ 良亮(よしあき・櫛原くしはら、国学/歌人) M 4 7 5 4
 十太郎(じゅうたろう・町野)→ 資礼(すけひろ・町野まちの、歌人) I 2 3 0 0
 十太郎(じゅうたろう・大黒)→ 泰然(たいぜん・大黒おおくろ、医者/歌・俳) W 2 6 1 2
 拾太郎(じゅうたろう・水谷)→ 氏古(うじひさ・水谷みずたに、神職/国学) E 1 2 9 2
 重太郎(じゅうたろう・檜垣)→ 常副(つねすけ・檜垣ひがき/度会、神職) C 2 9 2 9
 重太郎(じゅうたろう・田口)→ 霞村(かそん・田口たぐち、書家) C 1 5 5 1
 重太郎(じゅうたろう・建部)→ 山比子(やまひこ・建部たけこ、書家/歌人) E 4 5 2 3
 重太郎(じゅうたろう・高橋/鮎沢)→ 国維(くにつな・鮎沢あゆさわ、藩士) C 1 7 9 0
 重太郎(じゅうたろう・岩井)→ 孚(まこと・岩井いらい、和算家) C 4 0 9 5
 重太郎(じゅうたろう・益田)→ 厚(あつし・益田ますだ香遠、篆刻家) I 1 0 4 2
 重太郎(じゅうたろう・松野)→ 尚志(なおゆき・松野まつ、陪臣/国学) O 3 2 9 0
 柔太郎(じゅうたろう・須田)→ 正令(まさのり・須田すだ、藩士/国学/歌) Q 4 0 3 0
 柔太郎(じゅうたろう・富田)→ 正路(まさみち・富田とみた/岩沢、藩士/歌) R 4 0 0 9

Y2100 秋池(しゅうち・松田まつだ、名;敏/幸敏、葵亭男) 1743-8139 伊勢宮後の儒者・斎藤拙堂門、
詩人、1865「作文便覧」校、

[秋池(;号)の字武家歌合通称]字;子慎、通称;伊織

周知(しゅうち・山本) → 荷兮(かへい・山本、俳人) 1 5 1 0

Y2101 重致(じゅうち/しげむね) ? - ? 室町期歌人;招月(正徹)門、
康正三1457「武家歌合」参加、

[秋の色はけふぞ千しほの初時雨まだ染めあへぬ峰の紅葉ば](武家歌合;十四番右21)

Y2102 十知(十雉じゅうち・深沢ふかざわ) 1706-1760 55歳 羽前鶴岡の酒商;庄内藩御用達、俳人;五竹坊門、
1716頃五竹坊の鶴岡来訪時に宿提供;修学、「冬の筐」編、一周忌追善「春の雪」息斗昔とせき編、
[十知(;号)の通称/別号]通称;与兵衛、別号;十雉/古柵園こしゅうえん/古疑園/翠柳軒、
法号;弁誉了観居士

重知(じゅうち・西尾) → 重知(しげとも・西尾にしお/源、歌人) Q 2 1 9 8

重智(じゅうち・山本) → 重智(しげとも・山本やまもと、地役人/歌人) a 2 1 0 4

I2109 舟竹(しゅうちく) ? - ? 俳人;一晶門、1687「丁卯集」入、
「冬扇一路」に芭蕉らと三吟入、

[近桜塔の南の日影かな](丁卯集/上野の塔)

I2107 周竹(舟竹しゅうちく初世・清水しみず) ?-? 江前中期江戸の医者、俳人;嵐雪門、
嵐雪自ら周竹の髪をはらい手剃りの小僧とす/嵐雪より譲られた点印・押物を吏登に譲渡、
1713「幾久伊多々起きいただき」編(師嵐雪七回忌追善集)、「こせぬ風」著、
[周竹(;号)の別号] 寸松斎/粥翁しゅくおう

I2108 周竹(2世しゅうちく・平尾ひらお) ? - 1766? 江中期遠江掛川の俳人;蓼太門、初世周竹との関係不詳、
1755-6頃駿府の時雨安に入;東海道の雪中庵社中を預けられる、
探菖・弄晚涼・百花嬌語の点印を分て附属される、1766「草鞋供養」著(蓼太と仙台旅の句)、
「三吟未来記」「五器一具」著、1757「蜀川夜話」著/64「雪中庵歳旦」65「春帖」編、
[周竹2世の別号] 風一廬ふういつろ/葛才/菜路庵/渡道/七竈庵しちそうあん/愛水居/白夢山人

周竹(しゅうちく;法諱) → 音竺(おんじく;法諱・晴蔭;道号、臨濟僧) D 1 4 4 5

周竹(しゅうちく;法諱) → 千畝(せんぼ;道号、臨濟僧) H 2 4 9 8

修竹(しゅうちく・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1

修竹(しゅうちく・西川) → 高煥(たかあき・西川にしかわ、藩士/国学) Y 2 6 8 3

- 修竹庵(しゅうちくあん) → 堯民(ぎょうみん・修竹庵、歌人) O 1 6 5 6
修竹斎(しゅうちくさい) → 榕斎(ようさい・奥山/糸井、藩士/儒者) 4 7 9 4
脩竹斎(しゅうちくさい) → 能順(のうじゅん、社僧/連歌) 3 5 3 8
十竹叟(じゅうちくそう) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
I2110 脩竹堂(しゅうちくどう) ? - ? 関西より江戸に僑居/俳人:惟中門か惟中匿名、
1678「俳諧或問」著
秋筑堂(しゅうちくどう) → 保国(やすくに・橋たちばな、絵師) B 4 5 3 3
十竹堂(じゅうちくどう→じちくどう) → 鶴雲(かくうん・寺尾てらお、儒者/詩人) J 1 5 5 1
修竹廬(しゅうちくろ・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1
Y2104 就忠(しゅうちゅう) ? - ? 連歌;1449時述催「広柏ひろがしわ千句」参
就忠(しゅうちゅう/なりただ・高洲) → 平七(へいしち;通称・高洲たかす、藩士) 2 7 4 9
周忠(しゅうちゅう→かねただ・島田) → 真恵美(まゑみ・菊廼屋きくのや、商家/狂歌作者) 4 0 4 4
周忠(しゅうちゅう→かねただ・島田) → 周忠(かねただ・島田しまだ/源、商家/国学) U 1 5 7 6
重忠(じゅうちゅう)すべて → 重忠(しげただ)
重仲(じゅうちゅう)すべて → 重仲(しげなか)
重衷(じゅうちゅう・斎藤) → 磐根(いわね・齋藤さいとう、村長/国学) K 1 1 2 9
充仲(じゅうちゅう・井上) → 充仲(みつなか・井上いのうえ、神職/詩歌人) L 4 1 1 5
周樗(しゅうちよ;法諱) → 誠拙(せいせつ;道号・周樗;法諱、臨濟僧) C 2 4 4 5
重貯(じゅうちよ・河島) → 新右衛門(しんえもん・河島かわしま、藩士) N 2 2 4 0
I2111 周奄(しゅうちよう;法諱・大周だいしゅう;道号) 1348-1419? 臨濟僧;大照円臨門/法嗣、等持寺住寺、
1408相国寺17世/15南禅寺87世/今熊野の永安院を開、詩人;詞藻、將軍義持の帰依、
「三周集」著、
[大周周奄の初法諱/号]初法諱;希奄、号;東川/三周
I2112 舟調(しゅうちよう・玉川たまがわ) ? - ? 江戸後期寛政享和1789-1804頃の浮世絵師、
一筆斎文調門、錦絵隆盛期で錦絵・黄表紙挿画を描く、
「養蚕錦絵」「風流化粧鏡」「四季子供遊び」画、1803馬光作「仇討備前徳利」(黄表紙)の挿画
周樗(しゅうちよう) → 誠拙(せいせつ・臨濟僧、歌人) C 2 4 4 5
秋長(しゅうちよう/あきなが・若林) → 玄如(げんによ;法諱、浄土僧/歌人) C 1 8 8 8
秋蝶(しゅうちよう・要) → 要秋蝶(ようしゅうちよう、絵師) B 4 7 1 5
秋澄(しゅうちよう) → 秋澄(あきずみ、俳人) D 1 0 4 6
秋澄(しゅうちよう・臼井) → 秋澄(あきずみ・臼井うすい、旗本/歌人) G 1 0 6 1
秀超(しゅうちよう・白井/菅江) → 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3
秀長(しゅうちよう)すべて → 秀長(ひでなが)
秀朝(しゅうちよう) → 三津五郎(4世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 4 0
秀澄(しゅうちよう・赤尾) → 秀澄(ひでずみ・秀實・赤尾あかお、漢学/詩) M 3 7 3 9
充長(じゅうちよう・井関) → 充長(あつなが・井関いせき、神道家) E 1 0 9 2
充長(じゅうちよう・仁木) → 充長(みつなが・仁木につき、歌学者) E 4 1 1 7
従長(じゅうちよう・吉川) → 従長(よりなが・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 2
重澄(じゅうちよう)すべて → 重澄(しげずみ)
重長(じゅうちよう)すべて → 重長(しげなが)
重朝((じゅうちよう・平) → 重朝(しげとも・平たいら、小山田?、連歌) R 2 1 7 4
重朝((じゅうちよう・菊池) → 重朝(しげとも・菊池、守護/城主/聯句) R 2 1 7 5
重張(じゅうちよう・伊地知) → 重張(しげはる・伊地知いちぢ、藩士/記録) S 2 1 2 5
重晁(じゅうちよう・佐々木) → 了斎(りょうさい・佐々木/西村、藩士/詩歌) H 4 9 6 3
秋長堂(しゅうちようどう) → 川井物梁(かわいものやな、河合かわい、狂歌) G 1 5 0 3
秀直(しゅうちよく・児二井) → 秀直(ひでなお・児二井こにい、神職/国学) J 3 7 5 5
周直(しゅうちよく・竹下) → 周直(ちかなお・竹下たけした、庄屋/勸農家) B 2 8 3 6
周直(しゅうちよく・恩田) → 周直(ちかなお・恩田おんだ、藩士/記録) B 2 8 3 7
重直(じゅうちよく・水守) → 重直(しげなお・水守みずもり、俳人) J 2 1 2 2
重直(じゅうちよく・高階) → 重直(しげなお・高階たかしな、廷臣/歌人) C 2 1 5 9

- 重直(じゅうちよく・富小路)→ 重直(しげなお・富小路/藤原、廷臣/記録) R 2 1 7 7
 重直(じゅうちよく・藤井) → 重直(しげなお・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 1 8 3
 重直(じゅうちよく) → 重俊(じゅうしゅん) H 2 1 6 2
 重直(じゅうちよく・尾古) → 重直(しげなお・尾古おこ、神職/歌人) N 2 1 7 0
 従直(じゅうちよく・藤木) → 従直(よりなお・藤木/賀茂、神職) J 4 7 2 4
 重陳(じゅうちん・上田) → 重威(しげたけ・上田うえだ、歌人) N 2 1 4 7
 聚珍堂(しゅうちんどう) → 謝庵(榭庵しやあん・丹羽/藤、儒者/絵師) F 2 1 9 9
 重通(じゅうつう)すべて → 重通(しげみち)
- Y2105 周鼎(しゅうてい;道号・中易/仲易ちゅうえき;法諱)?-1519 尾張の曹洞僧:乾坤院3世芝岡宗田門/法嗣、
三河宝飯郡の竜源寺・尾張常滑の天沢寺を開創、「血脈法式」著
- Y2106 周鼎(しゅうてい・徳田とくだ) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃丹後田辺藩の本草家、
790南部遠野で薬草採集、「早池峯記」著
- Y2107 秀挺(しゅうてい・西脇にしわき、名;典)?-? 江後期美濃の医者・本草家、
1839「経験良方」、「薬性論」、「医術中西異同論」、「泰西食鑑」著、
[秀挺(;字)の号] 格物堂
- 秀定(しゅうてい/ひでさだ・愛甲)→ 喜春(きしゅん・愛甲あいこう、医者/儒) K 1 6 8 5
 秋亭(周亭しゅうてい・木村)→ 豊平(とよひら・木村、医/国学者) R 3 1 5 1
 秋庭(しゅうてい・万里路睦子)→ 斉昭側室(なりあきのそくしつ・徳川、歌人) G 3 2 9 9
 萩亭(しゅうてい・はぎてい) → 政子(まさこ・井上いのうえ/菅、商家妻/歌) N 4 0 3 5
 修亭(周貞しゅうてい・中川)→ 壺山(こざん・中川なかがわ、医者) M 1 9 6 1
 周禎(しゅうてい・大島) → 高任(たかとう・大島、蘭学/鉄山開発) M 2 6 3 6
 重定(じゅうてい) すべて → 重定(しげさだ)
 重貞(じゅうてい) すべて → 重貞(しげさだ)
 重鼎(じゅうてい・山井) → 崑崙(こんろん・山井やまのい/大神、儒者) G 1 9 9 1
 自由亭(じゅうてい) → 孝和(たかかず・関せき、幕臣/和算家) C 2 6 6 0
 周迪(しゅうてい・浅井) → 東軒(とうけん・浅井あさい、医者) D 3 1 3 1
 秀哲(しゅうてい・本多/賀川)→ 南童(なんりゅう・賀川かがわ、医者) J 3 2 6 4
 周典(しゅうてん;俗名) → 守恕親王(しゅじよしのう、歌人) O 2 1 0 6
 秀典(しゅうてん/ひでのり・益戸)→ 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7
 重忝(じゅうてん・牛込、自楽軒)→ 重忝(しげのり・牛込、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3
 重典(じゅうてん/しげのり・安藤)→ 一訓(かずのり・安藤あんどう、歌人/吹奏) T 1 5 4 8
 秀伝(しゅうてん;字) → 尊海(そんかい;法諱・秀伝、真言僧) F 2 5 2 4
- a2163 周藤(しゅうとう;法諱・春林しゅんりん;道号)?-? 南北期;臨濟僧/相国寺36世/自坊;塔頭慶玉軒、
1447(文安4)相国寺鹿苑院僧録12世;51退任、雪舟の師、
詩人;1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌](詩)出詠(鹿苑積周藤名)、
[清蔭能令仲夏寒 錦繡玉立幾千竿 何人倚笛江南雨 鳳羽毳毳染未乾]、
(匠作亭詩歌;9/新竹/対するは道賢法師[細川義頭]の歌)
- Y2108 周東(しゅうとう・片山かたやま/修姓;菅、名;邦秋)?-1784 江戸生;駿河小島藩士;御城使役、俳人、
俳人寸長[百草園]の弟、藩主松平昌信(俳号;文東)・信義(俳号;文車)に出仕、
1761兄没後は小島藩士の[百草園塾]の中心;歳旦帳刊行、戯作の恋川春町と交流、
1761「譬喩蓮華」編、62「夢の跡」65「智恵の海」68「筆の林」69「老の麓」著、
[周東(;号)の通称/別号]通称;伊織、別号;彫棠/文月庵/於菟磨おとまる、法号;本蓮院
- 周東(しゅうとう・青地) → 彫棠(ちやうとう・青地、医者/俳人) 2 8 5 2
 周東(しゅうとう・岡) → 研介(けんかい・岡おか、蘭医) E 1 8 2 3
 秀東(しゅうとう・目加田) → 守如(もりゆき・目加田めがた、絵師) G 4 4 7 6
 秀藤(しゅうとう・葛原) → 秀藤(ひでふじ・葛原くずはら、神職/国史) D 3 7 7 7
 秀稻(しゅうとう・田中) → 秀稻(ひでいね・田中たなか、歌人) L 3 7 7 5
 秋冬(しゅうとう、姓;星?) → 春夏亭秋冬(しゅんかていしゅうとう、養蚕家) Z 2 1 5 7
 秋燈(しゅうとう・宮崎) → 安弼(やすすけ・宮崎みやざき、家老/歌人) G 4 5 8 3

- 鷲洞(しゅうとう・重松しげまつ)→ 篤太夫(とくだゆう・重松、藩士/記録) L 3 1 1 7
- Y2109 秀道(しゅうどう;法諱・法名;本蓮社白誉直至) 1631-1707 江戸の浄土僧;増上寺路白門/出家、幡随院・常福寺・伝通院の檀林を歴任/1694知恩院42世、1697「円光大師(法然)略伝」著
- Y2110 秋童(しゅうどう・闇牛斎あんぎゅうさい、別号;円志) ?-? 江中期の絵師;鳥居清長風の画風、1780「銀世界豊年鉢木」画、錦絵「大川端夕景」画、1748?洒落本「華里通商かりつしょう考」著?
- Y2111 周道(しゅうどう;法諱;号;慈月・玄翁) ?-? 江中期京の真宗本願寺派僧;猪熊六角下ルの専応寺住、書家、1804「伊豆般若院開山快運書翰」編、「伊豆山略縁起」著
- Y2112 修道(しゅうどう・田中たなか、名;恕) 1805-72 68 越後長岡藩医、儒者;1825江戸の佐藤一斎門、昌谷精溪・和気柳斎・青木南薫に従遊、医学;柴田芸庵門、1852長岡藩医学取締に就任、1853済生館設立;医を講ず/詩・書を能くす、梁川星巖・館柳湾と交流、「鑑函秘録」、1843「書法詩」、「修道百絶」、「修道摘稿」、「修道詩刪」、「題画百絶」、「史詩百律」、「徳化録」外著多、[修道(;号)の字/通称]字;仁卿、通称;春東 [履堂(;号)の名/通称/別号]名;惟徳、通称;、別号;
- 02199 舟堂(しゅうどう・函師ずし、門川長兵衛2男) 1828-1910 日向飢肥藩士函師助六郎の養子、1848(嘉永元)江戸で奥絵師の板谷桂舟門;住吉派画法修得、小田切直介門、1863(文久3)帰郷/維新後;測量絵図方/地図調方に出仕、1882(明治15)国内絵画共進会に出品、戸長/飢肥小学校で画学教員、[舟堂(;号)の通称]菅六郎
- 秋洞(しゅうどう・神) → 履堂(りどう・神じん、漢学者) C 4 9 3 3
- 秋道(しゅうどう・長岡) → 秋道(あきみち・長岡/栗田、神職/歌) I 1 0 1 6
- 秀道(しゅうどう・吉川) → 秀道(ひでみち・吉川よしかわ、伊豆諸島探査) D 3 7 8 7
- 秀道(しゅうどう・皆川) → 秀道(ひでみち・皆川、幕臣/蝦夷地検分) D 3 7 8 8
- 秀道(しゅうどう・桜井) → 秀道(ひでみち・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 3
- 習堂(しゅうどう・野崎) → 教景(のりかげ・野崎、藩士/儒者) E 3 5 3 5
- 習堂(しゅうどう・町田) → 亘(わたる・町田まちだ、藩士/歌人) 5 3 8 9
- 周道(しゅうどう・大橋) → 訥庵(とつあん・大橋、儒者/尊攘派) O 3 1 4 1
- 周道(しゅうどう・西島) → 城山(じょうざん・西島/牧野、儒者) J 2 2 3 7
- 周道(しゅうどう・平住) → 専庵(せんあん・平住ひらざみ、医/儒/本草) E 2 4 7 9
- 周道(しゅうどう・牧野/西島) → 城山(じょうざん・西島/牧野/牧、漢学者) J 2 2 3 7
- 周道(しゅうどう・田中) → 周道(ちかみち・田中たなか、国学/歌人) M 2 8 7 5
- 就道(しゅうどう・奥村) → 就道(なりみち・奥村、藩士/文筆家) I 3 2 2 2
- 就道(しゅうどう・丹) → 就道(なりみち・丹たん、国学者) I 3 2 2 3
- 就道(しゅうどう・福原) → 瀾水(はすい・福原ふくはら、儒者/詩歌) E 3 6 6 6
- 修道(しゅうどう・林) → 謙(けん・林はやし、医者) H 1 8 5 2
- 修道(しゅうどう・杉) → 梅太郎(うめたろう・杉すぎ、藩士/教育) D 1 2 3 8
- 鷲洞(しゅうどう・重松/張) → 篤太夫(とくだゆう・重松、藩士/記録) L 3 1 1 7
- 重濤(じゅうとう・静) → 鞞夫(ゆぎお・静しずか/諏訪、神職/国学) G 4 6 9 2
- Y2113 重道(じゅうどう・木村きむら、別号;飯璣[岱]子) ?-? 近江草津の俳人;梅盛門、「湖東千句」編、1702轍士「花見車」目録入
- 柔同(じゅうどう・戸田) → 守勝(もりかつ・戸田とだ、藩士/記録) F 4 4 3 3
- 重道(じゅうどう)訓読すべて → 重道(しげみち)
- 衆道庵穴好(しゅうどうあんけっこう) → 衆道庵穴好(しゅうどうあんけっこう、洒落本作者) I 2 1 1 4
- 修道先生(しゅうどうせんせい) → 履堂(りどう・田中たなか/青山、儒/講説) C 4 9 3 2
- Y2114 周篤(しゅうとく・木村きむら/葛) ?- ? 江中期華道家:生花投入技術に長ず、法式重視、1730「生花秘伝野山の錦」著
- I2116 周徳(しゅうとく・河西さい、広房男、曾良の甥) 1695-1753 59 信州諏訪の酒造業/俳;沾徳門、諏訪俳壇、1737叔父曾良の遺稿「ゆきまろげ」編(;1783關更が「雪満呂気」として出版) [周徳(;名)の号]胖はん/山水亭
- 周徳(しゅうとく・斎木) → 垣斎(たんか・斎木さいき、藩士/儒者) T 2 6 2 0
- 周徳(しゅうとく・三井) → 士博(ことひろ・三井みつゐ、医者/和学) R 1 9 3 8

周得(しゅうとく・吉松) → 龍菴(りゅうあん・吉松よしまつ、藩士/国学) M 4 9 5 3
 修徳(しゅうとく・香川) → 修庵(しゅうあん・香川、医/詩人) G 2 1 7 8
 修徳(しゅうとく・石田) → 玉山(ぎよくざん・石田いしだ、絵師) D 1 6 0 1
 修徳(しゅうとく・山川) → 揚庵(ようあん・山川やまかわ、医者;熱病研究) 4 7 6 0
 脩徳(しゅうとく・小西) → 脩徳(まさのり・小西にし/清水、国学/歌) P 4 0 6 2
 秀徳(しゅうとく・江村) → 厚(あつし・江村えむら、藩士/勤王/斬首) B 1 0 3 0
 秀徳(しゅうとく・木村) → 聿(いつ・木村きむら、藩士/勤王/日記) G 1 1 7 1
 秀得(しゅうとく・山本/小塚) → 秀得(ひでのり・小塚/山本、藩士/殖産) D 3 7 6 4
 就篤(しゅうとく・内藤) → 閑斎(かんさい・内藤ないとう、儒者) H 1 5 6 1
 集徳(しゅうとく・吉目木) → 集徳(ためり・吉目木よしめき、剣道家) S 2 6 6 8

I2117 **重徳**(じゅうとく・寺田でらだ) ? - 1694? 京寺町二条上ル町の俳諧書肆、歌;源慶安門/俳人;梅盛門、
 1664「落穂集」初入集、1665「俳諧独吟集」「続独吟集」71「新独吟集」72「俳諧塵塚」編、
 1675「新続独吟集」91「花見弁慶」編、「江戸川三吟」著、談林俳人等の集多数出版(寺田版)、
 七部集[波留濃日はるのひ]初版も寺田版、1691江水「元禄百人一句」/1702轍士「花見車」入、
 追悼集「ねざめの友」(1696息友英ともひでの編)、
 [弁慶は花見るまでも具足かな](元禄百人一句;花見にも具足の忠義と不粹)、
 [重徳(;号)の通称/別号]通称;与平次/与平治、別号;蘭秀子/蘭秀斎、屋号;菱屋/俳書堂

L2118 **重徳**(じゅうとく・平野ひらの) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第七萩発句入、
 [生玉のひかりは萩の戸帳哉](生玉万句;萩発句/戸帳;神仏の厨子の上に垂らとぼり)

充徳(じゅうとく・日下部) → 充徳(みつり・日下部くさかべ、国学者/歌) I 4 1 9 5
 従徳(じゅうとく・坪池) → 従徳(つぐのり・坪池つばいけ、詩文) 2 9 7 8
 重得(じゅうとく・梅村) → 重得(しげのり・梅村うめむら、藩士/和算家) S 2 1 1 4
 重徳(じゅうとく・三善) → 重徳(しげのり・三善みよし、廷臣/歌人) a 2 1 3 1
 重徳(じゅうとく・平元) → 謹斎(きんさい・平元ひらもと、藩士/儒/軍事) J 1 6 0 0
 重徳(じゅうとく・大原) → 重徳(しげとみ・大原おおはら、権中納言) S 2 1 1 3
 重徳(じゅうとく・久徳) → 重徳(しげのり・久徳きゅうとく、藩士/日記) S 2 1 1 8
 重徳(じゅうとく・小林) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0
 重徳(じゅうとく・伊高) → 重徳(しげのり・伊高いだか、神職/歌人) N 2 1 3 0
 重徳(じゅうとく・黒部) → 重徳(しげのり・黒部くろべ、国学/歌人) O 2 1 3 6
 修徳院(しゅうとくいん) → 忠友(ただとも・水野みずの、藩主/老中) Q 2 6 1 4

I2118 **十内**(じゅうない・小野寺おのでら、名;秀和ひでかず、十内秀次男) 1643-1703切腹 61 播磨赤穂藩士、
 京都留守居役/妻;灰方丹子たんこ、歌人;夫婦で金勝慶庵門、大高源吾弟幸右衛門秀富を養子、
 刃傷事件で廃藩、養子秀富を伴い討入に参加、歌;「涙襟集」入、1738梅雨「見聞談叢」に逸話、
 妻丹子たんこととの別離[おきわかれ今朝うち渡る加茂川の水の煙はむねに立ちそふ]、
 [十内の雅号] 里竜/悦貫、変名;仙北十庵

十内(じゅうない・小室) → 虚斎(きよさい・小室こむろ、儒者/詩人) P 1 6 5 1

Y2115 **周南**(しゅうなん;道号・円旦えんたん;法諱)?-1647 臨濟僧;惟敬光諱門/法嗣、
 1630後水尾天皇の支援で東福寺勝楽院を改め良岳院を開創、1640東福寺238世、
 1644対馬の以酌庵に住;同所で没、「周南和尚詩稿」著、
 [周南円旦の初名/号]初道号;俊甫、初法諱;光勝、号;金華/蕃陽

2148 **周南**(しゅうなん・山県やまがた/修姓;県、良斎2男) 1687-1752 66 周防佐波郡の儒者;幼児に修学、
 1705父に随い江戸に出る;荻生徂徠門/安東東野と共に古文辞学・徂徠学興隆に尽力、
 1707長門萩藩儒;1711朝鮮通信使接待に貢献;文名を挙げ以後藩主に近侍、
 萩藩校明倫館開設に尽力;37学頭祭酒/門弟多数を育成、「為学初問」「講学日記」「宗祇伝」、
 「雪舟伝」「宣室夜話」「翰林芳瀾」「公室譜牒」「釈菜儀註」「翰林芳瀾」著、「詩藪詩考」編、
 1711「問槎崎賞」41「長門明倫館記」49「瀾城新著」著(山県洙川編)、「周南先生詩文集」、
 外著多数、[周南(;号)の名/字/通称]名;孝孺、字;次公、通称;少助、嗣子;棠園
 [周南門下の三傑] 山県周南門下のうち優れた3人の儒者

- 東郊(とうこう・和智わち) 1703-65 D 3 1 7 5
 → 東溟(とうめい・林) 1708-80 H 3 1 3 6
 → 鶴台(かくだい・滝) 1709-73 B 1 5 6 7

I2119 周南(しゅうなん・樋口ひぐち、名:元憲/字;右仲) 1694-1771 78 越後蒲原郡水原の医者、初め儒;
 経史;1724京の伊藤東涯門/東涯の勧めで医;香川修庵門;帰郷師開業、
 丹波福知山藩主朽木玄綱の奇病を治癒し名医の評判を得/詩文を嗜む、
 「春台方五略辨」「越畧考」、1770-71「春台方拔書」著、女婿;三浦東里

Y2116 鷺南(しゅうなん・菅間すがま、名;元祥) ?-? 江後期加賀の儒者、1809刊「青衿啓蒙」著、
 「鷺南随筆」「孔張堂随筆」「孔張堂一貫筆録」「管見録」「六経略談」著、
 [鷺南(;号)の字/通称/別号]字;休卿、通称;貞助/貞介、別号;孔張堂

終南(しゅうなん・浄寿、号;介石) → 天年(てんねん:道号・浄寿:法諱、黄檗僧) E 3 0 1 4

十南斎(じゅうなんさい) → 白羽(はくう・鹿島、俳人) C 3 6 5 5

十南斎(2世じゅうなんさい) → 茶雷(ちやらい・山県、白羽男、俳人) F 2 8 6 0

十南斎(3世じゅうなんさい) → 茶裡(ちやり・鹿嶋、茶雷男、俳人) F 2 8 6 3

終南山人(しゅうなんさんじん) → 天年(てんねん:道号・浄寿:法諱、黄檗僧) E 3 0 1 4

州南処士(しゅうなんしよし) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0

十二庵(じゅうにあん/とにあん) → 東吹(とうすい・小島屋、俳人) F 3 1 7 6

十二花楼(じゅうにかろう) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9

十二洞天斎(じゅうにどうてんさい) → 葆堂(ほうどう・戸田とだ、藩士/詩人) F 3 9 9 1

十二皇子(じゅうにのみこ) → 行明親王(ゆきあきらしんのう、歌人) E 4 6 2 3

十二峰小隠(じゅうにほうしょういん) → 愚山(ぐざん・佐々木ささき、儒者/書) D 1 7 6 8

Y2117 秀如(しゅうによ;法諱、俗名;本多勝麿、近江膳所城主本多泰慶男) 1675-1729 55 西園寺致季猶子、
 真宗僧;1694真宗誠照寺派本山の秀海没後に養子/法灯を継承;秀如と改名し17世を襲名、
 1695顕大僧都/1701権僧正/11僧正、1718將軍吉宗より朱印状を受、「秀如上人法語」著、

十如院(じゅうによいん) → 日体(にちたい・日諦にたい・学妙、日蓮僧) F 3 3 0 2

十如院(じゅうによいん) → 義延親王(ぎえんしんのう、天台園城寺僧) J 1 6 7 6

Y2118 十如房(じゅうによぼう;号) ? - ? 室町期天台僧;叡山東塔西谷十如房住、
 1410「三六聞書」「四度見聞」「十八道見聞」著

Y2119 十二栗圃(じゅうにりっぼ) ? - ? 狂歌;橘州門、1782橘州「若葉集」入

周仁(しゅうにん;字) → 日讓(にちじょう;法諱・秀妙院、日蓮僧) C 3 3 4 7

周仁(しゅうにん/かねひと;親王) → 後陽成天皇(ごようぜいてんのう、古典/歌) D 1 9 9 6

周任(しゅうにん・田沢) → 周任(かねとう・田沢たざわ、幕臣:儒者) O 1 5 6 8

秀仁(しゅうにん→みつひと) → 四条天皇(しじょうてんのう、後堀河天皇皇子) E 2 1 1 5

秀任(しゅうにん・松田) → 秀任(ひでとう・松田まつだ、兵法家) D 3 7 2 8

Y2120 重忍(じゅうにん;法諱) ? - ? 江前中期真言僧;亮元門、
 宝永1704-11頃山城相楽郡祝菌村の六僧房に住、「大日経疏菁測鈔」校訂

重任(じゅうにん・鈴木) → 遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者) F 2 3 1 6

重任(じゅうにん・六角) → 重任(しげとう・六角ろっかく、医者) R 2 1 6 2

重任(じゅうにん・木村) → 松陵(しょうりょう・木村、儒者/藩政) L 2 2 9 5

重任(じゅうにん・鈴木) → 重任(しげとう・鈴木、国学者) Z 2 1 1 2

重寧(じゅうねい/しげやす?・柏淵) → 静夫(しずお・柏淵かじぶち、里正/儒・国学) N 2 1 9 9

重年(じゅうねん・古郡) → 重年(しげとし・古郡ふるごおり、旗本/代官/築堤) a 2 1 6 9

重年(じゅうねん・小国) → 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4

重年(じゅうねん・小林) → 重年(しげとし・小林こばやし/藤原、神職/国学) O 2 1 4 0

脩然翁(しゅうねんおう) → 流芳(りゅうほう・大枝/大江/巖、香道家・煎茶) F 4 9 6 3

秀能(しゅうのう) → 秀能(ひでとう/ひでよし・藤原、歌人) 3 7 0 9

秀能(しゅうのう) → 秀能(ひでよし、連歌) E 3 7 0 9

秀農(しゅうのう・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7

重能(じゅうのう・源) → 雅具(まさとも・源みなもと、廷臣/歌人) E 4 0 6 0

重能(じゅうのう・上杉) → 重能(しげよし・上杉/藤原、武将/歌人) D 2 1 3 7

重能(じゅうのう・毛利) → 重能(しげよし・毛利もうり、武家/和算家) T 2 1 0 9
 重能(じゅうのう・庭田) → 重能(しげよし・庭田/源、大納言/記録) T 2 1 1 4
 十之丞(じゅうのじょう・酒井) → 直道(なおみち・酒井さかい、藩士/書簡) C 3 2 6 4
 十之丞(じゅうのじょう・徳力) → 竜潤(りゅうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
 十之丞(じゅうのじょう・原) → 眞武(まさたけ・原はら/吉岡、歌人) R 4 0 9 8
 周之進(しゅうのしん・奥田) → 容安斎(ようあんさい・奥田おくだ、医者/詩文) 4 7 6 1
 周之進(しゅうのしん・神合) → 儔明(としあき・神合じんごう、藩士/歌人) V 3 1 4 1
 周之助(しゅうのすけ・下里) → 延隆(のぶたか・下里しもさと、町役/国学) I 3 5 7 1
 秀之助(しゅうのすけ・赤井) → 東海(とうかい・赤井/芦田、藩士/儒者) B 3 1 9 3
 十之允(じゅうのすけ・高橋) → 梅洲(ばいしゅう・高橋、藩士/儒/詩) B 3 6 4 7
 柗の舎(しゅうのや/ひいらぎのや) → 重与(しげとも・原はら/井原、国学/歌) O 2 1 4 7
 周白雪(しゅうはくせつ) → 白雪(はくせつ・太田、俳人) D 3 6 4 8
 秋笛(しゅうはく・八木) → 豊水(ほうすい・八木/中出、俳人) B 3 9 9 2
 秀葩(しゅうは・石川、狂歌) → 豊信(とよのぶ・石川、旅宿業/絵師) R 3 1 4 2
 秀波(しゅうは・野口) → 秀波(ほなみ・野口のぐち、陪臣/国学) G 3 9 3 2

Y2121 集馬(しゅうば;号) ? - ? 京の俳人;春夜楼連、
 1776几董「続明鳥」2句/76樗良「月の夜」2句/77蕪村「夜半楽」2句入、
 [ぬくぬくと師走日和びよりや麦の丈たけ](続明鳥;乙727/詞書;野行、春近し)

I2121 秋佩(しゅうはい・成田なりた、名;元美、元讓男) 1829or31-8355or53 備前岡山藩士、儒者;経史に長ず、
 書画を嗜む、1863国事周旋方として上京;諸藩の動静を探索、隣藩赦免を画策、
 1865老中阿部正外に長州再征の不可を陳上、1868藩主池田章政の顧問、執政補/公議掛、
 参政/権大参事を歴任、剣・槍・馬術に長ず、1841「雲煙漫筆」42「雲煙芥圃」43「寒泉叢書」著、
 1863「池田家履歴略記後集」、「備前略史」著、
 [秋佩(;号)の字/通称]字;美卿、通称;太郎兵衛/太郎

十梅園(じゅうばいえん) → 黄年(おうねん・二夜庵、山伏/俳人) C 1 4 6 1

Y2122 周伯(しゅうはく・広瀬ひろせ、名;信) ?-1818 常陸谷田部藩医/蘭医;杉田玄白門、
 1799「三才窺管」、「医事独断」、「磁石論」、「天断」、「脈源論」、「広瀬周伯筆記」著、
 [周伯(;通称)の号]号;紫山園、法号:数学院、周度(谷田部藩医)の父

周伯(しゅうはく・安西/三浦) → 道斎(どうさい・三浦茂樹、医者/語学) E 3 1 4 1

周伯(周璞しゅうはく・浅井) → 策庵(さくあん・浅井あさい、医者) H 2 0 2 1

十白(じゅうはく) → 十白(じっぽく、連歌師) F 2 1 1 4

周白雪(しゅうはくせつ) → 白雪(はくせつ・太田、国学/俳人) D 3 6 4 8

周八(しゅうはち・種田/小出) → 慎斎(しんさい・小出こいで、儒者) E 2 2 1 7

秀八(しゅうはち・大坂屋) → 秀八(ひではち・大坂屋、書肆/草紙問屋) D 3 7 6 7

十八公舎(じゅうはちこうしゃ) → 弘恭(ひろたか・鈴木すざき、藩士/教育者) J 1 7 9 9

十八大通(じゅうはちだいつう):安永天明期(1772-89)江戸で豪奢を気取り「通」を自任した富裕な町人、
 奇行・金遣・遊蕩が基準で出入りがある、

1846三升屋二三治(にそうじ、珉斎)の随筆「十八大通」により喧伝された、

→ 曉雨(ぎょうう・大口屋治兵衛) J 1 6 2 6

→ 金翠(きんすい・大口屋八兵衛) → 空翠(くうすい、俳人) 1 7 3 6

→ 稻有(とうゆう・大口屋平兵衛) H 3 1 5 9

→ 祇蘭(ぎらん・下野屋十右衛門) Q 1 6 4 7

→ 曉雨(2世ぎょうう・全吏・伊勢屋宗四郎) C 1 6 2 0

→ 珉里(びんり・伊勢屋宗三郎) H 3 7 8 5

→ 百亀(ひゃつき・伊勢屋喜太郎) E 3 7 9 5

→ 星池(せいち・伊勢屋幾次郎) J 2 4 1 8

→ 有游(ゆうゆう・笠倉屋平十郎) D 4 6 9 2

→ 景舎(けいしゃ・近江屋佐平次) F 1 8 9 2

→ 柳賀(りゅうが・近江屋伊平次) K 4 9 8 9

→ 文魚(ぶんぎょ・大和屋太郎次) E 3 8 9 9

- 左達(さたつ・松坂屋市右衛門) I 2 0 5 3
 → 魚交(ぎょう・平野屋久次郎) P 1 6 4 9
 → 春海(はるみ・魚長・村田屋平四郎) 3 6 3 6
 十八助(じゅうはちすけ・奈河)→ 七五三助(2世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) F 2 1 8 8
 十八洋(じゅうはちよう・頼)→ 養堂(ようどう・頼らい、儒者/詩文) 4 7 0 7
 秀八郎(しゅうはちろう/ひで・宇治田)→ 忠郷(たださと・宇治田うじた、藩士/故実家) P 2 6 5 0
 周八郎(しゅうはちろう・伊地知)→ 重張(しげはる・伊地知いぢち、藩士/記録) S 2 1 2 5
 十八郎(じゅうはちろうこく・天野)→ 重国(しげくに・天野あまの、歌人) N 2 1 2 0
- Y2123 周発(しゅうはつ・武井たけい、名;常美つねよし、押川由貞4男)1694-1770⁷⁷ 伊予松山生;1715武井家を継嗣、
 1717伊予松山藩主松平定直の次小姓;定英・定喬の三代に出仕、絵師;豊田随園門、
 江戸浜町狩野家入門、1736伊予松山藩四代目藩絵師:周発号、1770有資格、
 随園孫の随可に藩絵師を譲渡、1765「武井周発自伝」著、
 [周発(;号)の通称]作之丞/三郎
- Y2124 舟伴(しゅうはん) ? - ? 大阪の俳人;1690鬼貫「俳諧大悟物狂」1句入、
 [親の住まゐにおなじ白雪](大悟物狂たいごものぐるい;鬼貫五十韻8句目/男と隠れ住む身の悲しさ、
 前句;世の噂いはぬ草木ぞ恥しき 万海)
- I2122 秋帆(しゅうはん・高島たかしま、名;茂敦、高島四郎兵衛茂紀3男)1798-1866⁶⁹ 肥前長崎町年寄の家、
 砲術家;天山流を修得/のち蘭人より西洋砲術・洋兵術を修学、高島流砲術の祖、門弟指導、
 1841幕命により武州徳丸原で洋式演習;幕臣江川坦庵・下曾根信敦に伝授、42讒言で投獄、
 1853赦免/富士見宝蔵番格/講武所砲術師範役/63幕府武具奉行格;幕府軍事洋式化に寄与、
 1841「高島家由緒書」53「砲術要録」63「施条礮図説」64-65「歩操新式」、「高島流砲術伝書」、
 「高島流砲術伝書」「西洋流奥儀大鑑」「高島流諸砲制度」「大隊教練」外著多数、
 [秋帆(;号)の幼名/字/通称/法号]幼名;糾之丞、字;舜臣、通称;四郎太夫/喜平、
 法号;皎月院
- 修範(脩範しゅうはん・藤原)→ 修範(脩範ながのり・藤原、信西男) F 3 2 2 3
 秀伴(しゅうはん・結城)→ 秀伴(ひでとも・結城ゆうき、廷臣/国学) M 3 7 2 7
 周磐(しゅうばん→かねいわ・喜多岡/井土)→ 学圃(がくほ・井土いど、藩儒) H 1 5 3 7
 重範(じゅうはん・上田)→ 重範(しげのり・上田うえだ、神職/歌人) N 2 1 4 8
 重範(じゅうはん・亀井)→ 重範(しげのり・亀井かめい、藩士/神職/国学) O 2 1 0 8
 重伴(じゅうはん・尾古)→ 重伴(しげとも・尾古おこ/鈴木、神職/国学) N 2 1 6 9
- Y2125 洲尾(しゅうび・巖田いわた、名;恕卿)1792-1816^{早世}25 越後新潟儒者;信州松本の竜田榎斎宅に寓す、
 江戸で古賀精里門・詩文も修得、1816松本に再遊/上京を志し客死、交友は広い、
 「雲山余韻」「鷗盟集」「国華集」「洲尾詩文集」「洲尾園詩話」「洲尾文稿」「徐天池詩集」、
 「題語叢」「萍踪録」「江湖名公書画譜」著、「歴代沿革略説」編、
 [洲尾(;号)の字/別号]字;忠恕、別号;夙夜堂
- 秀美(しゅうび・松本)→ 魯堂(ろどう・松本まつもと/源、藩儒/城代) C 5 2 2 7
 就美(しゅうび・岸本)→ 武太夫(ぶたゆう・岸本きしもと、幕臣・代官) D 3 8 1 8
 充美(しゅうび→あつよし・井関)→ 充長(あつなが・井関いぜき、神道家) E 1 0 9 2
 充美(しゅうび・股野)→ 玉川(ぎょくせん・股野またの、藩士/儒/詩) I 1 6 8 6
 重美(しゅうび/しげよし?・矢田)→ 葛原勾当(くげはらこうどう、生田流箏曲) C 1 7 4 4
 重美(しゅうび・梅原)→ 重美(しげよし・梅原うめはら/平、商家/歌) N 2 1 5 2
 就姫(しゅうひめ・細川)→ 美子(よしこ・久我こが/細川、歌人) D 4 7 2 8
 脩姫(しゅうひめ・田安)→ 兼子(かねこ・田安たやす、酒井忠徳妻、歌) S 1 5 8 0
 充姫(しゅうひめ・井伊)→ 充眞院(じゅうしんいん・内藤ないとう、藩主室/紀行) Z 2 1 5 3
 秋飄(しゅうひょう・東)→ 蘭洲(らんしゅう・伊東/伊藤、漢学/読本/地誌) C 4 8 6 0
 周表(しゅうひょう→かねあきら・殿村)→ 篠斎(しゅうさい・殿村/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4
 秀彪(しゅうひょう・篁黒)→ 秀彪(ひでたけ・篁黒のぐろ/太田、神職/国学) K 3 7 5 9
 鷺浜(しゅうひん・山中)→ 秀之(ひでゆき・山中/秦、医者/救民活動) E 3 7 0 6
 重敏(じゅうびん・山路)→ 重敏(しげとし・山路やまち・岡本屋、国学) U 2 1 0 4

- Y2126 **秀夫**(しゅうふ;字・山本やまと、亡羊男)?? 幕末期京の本草家(;家学)、1850「竹米行」兄弟で共著、「中河内採集薬記行」、錫夫せきふの弟、章夫しょうふ・農夫のうふの兄
- 周父(しゅうふ・林はやし) → 東溟(とうめい・林、儒者) H 3 1 3 6
- 周夫(しゅうふ・菊池) → 高洲(こうしゅう・菊池/菊地/加藤、儒者) B 1 9 8 8
- 脩夫(しゅうふ・草加) → 崑山(こんざん・草加くさか/そうか、儒者) G 1 9 5 8
- 洪阜(しゅうふ;号) → 南溟(なんめい;法諱、真宗僧) J 3 2 5 7
- 修夫(しゅうふ・吉益) → 南涯(なんがい・吉益よします、医者/詩) I 3 2 6 5
- 修夫(しゅうふ・吉益) → 北洲(ほくしゅう・吉益、南涯の養子/医者) D 3 9 3 9
- 修夫(しゅうふ・奥村) → 茶山(ちやざん・奥村おくむら、儒者) L 2 8 1 4
- 修夫(しゅうふ・麓屋/三瀬) → 周三(しゅうぞう・三瀬みせ、洋学者) X 2 1 8 9
- 秀富(しゅうふ・内田) → 秀富(ひでとみ・内田うちだ、和算家) D 3 7 3 4
- 秀富(しゅうふ・広岡) → 秀富(ひでとみ・広岡、医者) D 3 7 3 5
- 秀富(しゅうふ・三輪) → 秀富(ひでとみ/ほさき・三輪、藩士/歌) D 3 7 3 6
- 秀富(しゅうふ・木田余) → 秀富(ひでとみ・木田余きだまり/源、藩士/歌) J 3 7 1 8
- 秀富(しゅうふ/ひでとみ・小野寺) → 漸之(ぜんし、赤穂義士/俳人) F 2 4 7 8
- 驚夫(しゅうふ・大倉) → 驚夫(わしお・大倉おおくら、商家/歌人) 5 3 0 5
- 重富(じゅうふ)すべて → 重富(しげとみ)
- 住武(じゅうぶ・すみだけ・窪田) → 桐羽(とうう・窪田くぼた、藩士/俳人) B 3 1 1 5
- 重武(じゅうぶ・鈴木) → 重武(しげたけ・鈴木すずき、藩士) R 2 1 2 9
- 重武(じゅうぶ・渋谷) → 重武(しげたけ・渋谷しぶや、藩士/能研究) R 2 1 3 0
- 重武(じゅうぶ・近藤) → 重武(しげたけ・近藤・藤原、廷臣/記録) R 2 1 3 1
- 重武(じゅうぶ・杉原) → 重武(しげたけ・杉原すぎはら・藤田、藩士/歌) Z 2 1 0 2
- 重武(じゅうぶ・竹尾/三宅) → 重武(しげたけ・三宅みやけ/竹尾、神職) R 2 1 3 2
- 重武(じゅうぶ・上野) → 重武(しげたけ・上野/荒木田、国学者) R 2 1 3 3
- I2123 **秋風**(しゅうふう・三井みつ、名;俊寅、重俊男)1646-171772 京の富商/4歳で父死別;伯父俊次に養育、俳人;梅盛・宗因門、室町に本邸、洛外鳴滝に広大な別荘花林園;芭蕉など多くの文人来往;(梅白しきのふや鶴を盗まれし;芭蕉)、常矩に親炙/其角・嵐雪と交流、漢詩文調の異体句、遊興ぶりは西鶴作品のモデル(諸艶大鑑/新竜宮の遊興)、晩年は江戸で蠟燭の御用商人、1682「打曇砥うちぐもりと」「あやしき」/90「吐綬鶏とじゅけい」「狂遊集」編、追善「花林燭」(女婿文露編)、[茫然と覚め蚊屋かや葬あさがほの繡ぬひものせり](吐綬鶏/風瀑「一楼賦」に入集、;蚊帳ごしの朝顔が蚊帳の刺繡に見える)、[花花花花花かな](吐綬鶏;吉野にて/16音の不定型)、辞世;[此の秋この夕けぶり身は立枯れのみねの松]、[秋風(;号)の幼名/通称/法名]幼名;五郎三郎、通称;六右衛門/時治/時次、法名;道会どうえ法号;嶺曜院
- Y2127 **秋風**(しゅうふう・豊福とよふく、名;則明、則敬[鵲巢]男)1783-184563 美作英田郡馬形の医者:眼科医、俳人、1830「鳩の声」編、妻の光子は歌人(平賀元義門)、[秋風(;号)の通称/別号]通称;三平、別号;花塵房、法号;松嶺院
- I2124 **秋風**(しゅうふう・野呂瀬のろせ、別名;自邦/秋秀、服部正章男/野呂瀬自堅養子)1826-54 尾張藩士、妻;養父自堅女つな[暁月ぎょうげつ]/1846家督/50中奥番格、歌;桂園派、国学;植松茂岳門、家集「秋風集」、「秋冬集」編、[秋風の通称/法号]通称;悦三郎/六郎、法号;新月院
- 妻 → 暁月(ぎょうげつ・野呂瀬のろせ、名;つな、歌人) B 1 6 1 0
- 秋風庵(初世しゅうふうあん) → 月化(げつか・広瀬ひろせ、商家/俳人) B 1 8 0 1
- 秋風庵(2世しゅうふうあん) → 桃秋(とうしゅう・広瀬、商/俳人、淡窓父) E 3 1 9 4
- 秋風居士(しゅうふうこじ) → 高敏(たかとし・三井みつ、商家/国学) D 2 6 2 1
- 秋風子(しゅうふうし) → 是誰(これたれ・池田いけだ、俳人) E 1 9 2 9
- 秋福(しゅうふく・中山) → 秋福(あきとみ・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 4
- 周馥(しゅうふく;法諱) → 旃室(せんしつ;道号・周馥、臨濟僧) M 2 4 4 0
- 秀福(しゅうふく・三輪) → 秀福(ひでとみ/ほさき・三輪、歌人) D 3 7 3 6

- 重福(じゅうふく・千々和) → 重福(しげよし・千々和ちぢわ、神職/国学) Z 2 1 4 2
- 12125 十仏(じゅうぶつ・坂さか、九仏男) 1282?-? 1342存 南北期医僧; 1337民部卿法印、士仏の父、足利尊氏に仙覚注「万葉集」を進講、歌・連歌; 善阿門、1342伊勢太神宮法楽連歌を興行、1342「伊勢太神宮参詣記」、「拾塵抄」(30帖/散佚)、新後拾遺集917、菟玖波集18句入、[風さむきいそやの枕夢さめてよそなる波にぬるる袖かな](新後拾遺集; 羈旅917)
- 修武堂主人(しゅうぶどうしゅじん) → 藤園(とうえん・木原、藩士/国学/故実) B 3 1 5 3
- 舟阜老人(しゅうふろうじん; 号) → 僧温(そうおん; 法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 1
- Y2129 周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/本姓; 平、元亮男) 1787-1861 75 筑後の医者; 大阪の中神琴溪門、大阪で眼科医を開業、篠崎小竹・斎藤拙堂と交流、「刀圭秘録」「上科一家言」著、[周文(; 字)の名/通称/号]名; 貢、通称; 元恭、号; 華陽/荔園(れいえん)/尽心堂/蘸峰楼さんぼうろう主人
- 秀文(しゅうぶん)すべて → 秀文(ひでふみ)
- 修文(しゅうぶん・草加) → 崑山(こんざん・草加くさか/そうか、儒者) G 1 9 5 8
- 修文(しゅうぶん・久間) → 修文(ひさふみ・久間くま、和算家) B 3 7 8 9
- 修文(しゅうぶん・大田) → 晴斎(せいさい・大田おおた、儒者) I 2 4 3 6
- 修文(しゅうぶん・菊池) → 蔭亭(うてい・菊池/菊地、藩士/医/貿易) C 5 2 1 9
- 重文(じゅうぶん)すべて → 重文(しげふみ・しげあや)
- Y2130 修平(しゅうへい・沼尻ぬまじり、名; 其章) 1748-1822 75 常陸の書家・細井九臯門、江戸で書を業とす、1772「習書論童」、「竜涯印譜」「心画放言」「書学叢話」「鍊筆贅語」「習書余言」著、[修平(; 通称)の字/別通称/号]字; 子宝、別通称; 収平、陸其章、号; 竜涯/逢原叟
- Y2131 秋坪(しゅうへい・箕作みつくり、名; 矩、美作津山藩儒菊池文理2男) 1825-86 62 母; 後藤佐野右衛門女、備中阿賀郡上砦部の生/1843(19歳)江戸で漢学; 古賀侗庵門、洋学; 箕作阮甫門、医学; 緒方洪庵の適塾入門、1850阮甫の次女と結婚; 阮甫の婿養子、1853蕃書和解御用就任、翻訳に従事、1855箕作家の家督嗣; 津山藩医/外国奉行手付/蕃書調所教授手伝、1861竹内保徳に随行し訪欧、幕臣に列す; 1866ロシア派遣使節に随行、維新後は致仕; 三叉舎を開校、明六社会員、「日本行記」著、「星学航海地誌」訳 [秋坪(; 通称)の幼名/別通称/号]幼名; 驥次郎、別通称; 文蔵/矩二郎、号; 宜信斎/宜斎、法号; 宜信院
- 修平(しゅうへい・羽生田) → 修平(のぶひら・羽生田、不如学斎、歌人) D 3 5 0 7
- 修平(しゅうへい・村松) → 紀風(のりかぜ・村松、本草家) E 3 5 3 7
- 修平(しゅうへい・森) → 嘉善(かぜん・森もり、医者) M 1 5 7 1
- 修平(しゅうへい・山内) → 蘭洲(らんしゅう・山内やまうち、医者) C 4 8 6 2
- 修平(しゅうへい・日根野) → 鏡水(きょうすい・日根野ひねの、藩士/儒者) J 1 6 1 3
- 修平(しゅうへい・佐田) → 直道(なおみち・佐田さだ、国学者) M 3 2 1 9
- 修平(しゅうへい・尾崎) → 称斎(しょうさい・尾崎おさき、藩儒者/教育) S 2 2 3 2
- 修平(しゅうへい・太田) → 文角(ぶんかく・太田おおた、俳人) E 3 8 9 2
- 修平(しゅうへい・佐田) → 竹水(ちくすい・佐田さだ、藩士/儒者) D 2 8 2 6
- 修平(しゅうへい・今中) → 親教(ちかのり・今中いまなか/秦、藩士/国学) M 2 8 1 1
- 修平(しゅうへい・筒井) → 清厚(きよあつ・筒井つひ、国学者) U 1 6 7 8
- 秀平(しゅうへい・岩瀬) → 鼎(てい・岩瀬、医者) 3 0 1 8
- 秀平(しゅうへい・六角) → 秀平(ひでひら・六角ろっかく、神職、国学/歌) M 3 7 2 8
- 秋平(しゅうへい・池野) → 大雅(たいが・池/池野、絵; 文人画) B 2 6 1 2
- 秋平(しゅうへい・稲岡) → 秋平(あきひら・稲岡いなおか、藩医/歌人) H 1 0 0 3
- 秋平(しゅうへい・荘野) → 秋平(あきひら・荘野しょうの、藩士/神職/国学) H 1 0 4 2
- 秋平(しゅうへい・高橋) → 文祇(ふみまさ・高橋たかはし、国学者) I 3 8 4 4
- 周平(しゅうへい・多田) → 麦洲(ばくしゅう・多田ただ、医者/俳人) D 3 6 3 1
- 周平(しゅうへい・牧まき/新興) → 夏嶽(かagak・新興におう/興、書家) J 1 5 3 0
- 周平(しゅうへい・高村) → 悠斎(ゆうさい・高村、医者/心学) B 4 6 7 6
- 周平(しゅうへい・広瀬) → 中庵(ちゅうあん・広瀬ひろせ、医者) F 2 8 7 5
- 周平(しゅうへい・武元) → 登々庵(とうとうあん・武元たけもと、儒者/書) O 3 1 5 2

- 周平(しゅうへい・木俣) → 周平(かねひら・木俣きたまた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5
 洲平(しゅうへい・長瀬) → 文豊(ふみとよ・長瀬ながせ/斎藤、国学者) D 3 8 9 5
 十平(じゅうへい・中山) → 巖水(いずみ・中山なかやま/宮川、藩士/史家) J 1 1 8 4
 重平(じゅうへい・油屋/田中) → 小稻(おしね・田中たなか、和漢学者) D 1 4 9 8
- Y2132 **十平次**(初世じゅうへいじ・村山むらやま)?-1729 上方出身;江戸歌舞伎役者・初世村山平十郎門、
 1693江戸の舞台上で立役・敵役で活躍、1712病に倒れ14年間空白/1728作者として活動、
 1728「兜碁盤忠信」著、別号;十平治、法号;了外宗智
- Y2133 **十平次**(2世じゅうへいじ・村山むらやま)?-? 江中期江戸の歌舞伎作者;初世村山十平次門、
 1729師没後2世を名乗る、諸座せ合作;1729「梅暦婚礼名護屋」30「今秀衛孖目見得」、
 1730「鳥坂城甲英」「入船蛭小嶋」31「和合一字太平記」32「大銀杏繁栄景清」合作
- 周兵衛(しゅうべえ・熊谷) → 直房(なおふさ・熊谷くまがい、神職/国学) M 3 2 0 0
 周兵衛(しゅうべえ・肥丹) → 眞守(まもり・肥丹ひたん/高橋、神職/国学) S 4 0 0 6
 周兵衛(しゅうべえ・白木屋) → 久寛(ひさひろ・宮坂みやさか、商家/国学者) L 3 7 4 3
- Y2134 **十兵衛**(じゅうべえ;通称・田中たなか)?-? 江中後期伊勢松坂の勸農家、
 父祖伝来の農作法と自分の実験による知見を子孫に書き遺す;1790「田家遺冊」著
- Y2135 **重兵衛**(じゅうべえ・檜林ならばやし、重右衛門男) 1750-1801 通事、訳学;叔父栄左衛門(高亮)門、
 阿蘭陀通詞;1765稽古通詞/77小通詞助/79小通詞/88大通詞/1782-90五度番通詞、
 1790オランダ人提出の受書誤訳事件に連座;蟄居/1797赦免/御用阿蘭陀書物和解、
 年若之者蘭学取立を兼任、松前・水戸出張/1798江戸で芝蘭堂阿蘭陀正月の賀宴に列す、
 「困学筆記」著、
 [重兵衛(;通称)の名/字]名;通/高広、字;達夫
- Y2136 **重兵衛**(じゅうべえ・成田なりた、号;思斎)?-? 江後期近江坂田郡神照村の農家、
 各地歴遊し養蚕技術を修得;郷里に養蚕製糸業を興す、1813「蚕飼絹篩大成」著、
 のち長浜城跡地の開墾を計画し測量;咎められ出奔
- 十兵衛(じゅうべえ・明智) → 光秀(みつひで・明智、武将/連歌) E 4 1 6 3
 十兵衛(じゅうべえ・明智) → 光慶(みつよし・明智、光秀男/武将/連歌) F 4 1 1 2
 十兵衛(重兵衛じゅうべえ・柳生) → 三巖(みつよし・柳生、領主/剣豪) F 4 1 1 5
 十兵衛(じゅうべえ・柴崎) → 直古(なおひさ・柴崎、商家/国学/狂歌) C 3 2 2 0
 十兵衛(じゅうべえ・三枝) → 守恵(もりえ・もりしげ・三枝さえぐさ、幕臣/歌) L 4 4 9 4
 十兵衛(じゅうべえ・田丸屋) → 棟隆(むねたか・稲掛/山口、商家/国学/歌) B 4 2 4 8
 十兵衛(じゅうべえ・生田) → 永貞(ながさだ・生田いくた、漢学/兵学) D 3 2 6 9
 十兵衛(じゅうべえ・毛利) → 匡琴(まさこと・毛利もうり/大江、和学/歌) T 4 0 1 7
 十兵衛(じゅうべえ・吉田寺/佐久間) → 景忠(かげただ・佐久間、兵法家) K 1 5 9 7
 十兵衛(じゅうべえ・徳力) → 竜澗(りゅうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
 十兵衛(じゅうべえ・朽木) → 尚綱(なおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌) K 3 2 1 1
 十兵衛(じゅうべえ・井関) → 知辰(ともとき・井関いせき、和算家) P 3 1 9 0
 十兵衛(重兵衛じゅうべえ・植田) → 孟縉(もうしん・植田うえだ、幕臣/史家) 4 4 5 8
 十兵衛(じゅうべえ・浜地) → 庸山(ようざん・浜地はまじ、庄屋/詩/画) B 4 7 0 5
 十兵衛(じゅうべえ・篠山) → 景德(かげのり・篠山ささやま、幕臣/記録) L 1 5 1 9
 十兵衛(じゅうべえ・畔田) → 伴存(ともあり・畔田くろだ/源、藩士/本草) P 3 1 1 7
 十兵衛(じゅうべえ・永山) → 二水(じすい/にすい・永山ながやま、藩儒) T 2 1 9 6
 十兵衛(じゅうべえ・末永) → 虚舟(きょしゅう・末永すえなが、藩士/地理) P 1 6 6 3
 十兵衛(じゅうべえ・下野屋) → 祇蘭(ぎらん・下野屋しもつけや、札差/十八大通) Q 1 6 4 7
 十兵衛(じゅうべえ・小倉) → 正房(まさふさ・小倉おぐら/源、旗本幕臣) M 4 0 0 6
 十兵衛(じゅうべえ・糸屋/打它) → 公軌(こうき/きんのり・打它うだ/うつだ、歌) E 1 9 9 4
 十兵衛(じゅうべえ・沖) → 清別(きよわけ・沖おき/大野/三上/和気、藩士/歌) T 1 6 8 0
 十兵衛(じゅうべえ・近藤) → 至邦(むねくに・近藤こんどう、国学者/歌人) D 4 2 8 4
 重兵衛(十兵衛じゅうべえ・鎌倉屋) → 豊芥子(ほうかいし・石塚、商家/稀書収集) 3 9 5 2
 重兵衛(じゅうべえ・山岸) → 秋良(しゅうりょう・山岸やまぎし、商家/俳人) I 2 1 4 0
 重兵衛(じゅうべえ・平野屋) → 正直(せいちよく・鈴木すずき、俳人) C 2 4 6 5

重兵衛(じゅうべえ・直江屋;妓楼)→俵蔵(2世ひょうぞう・勝、歌舞伎役/作者) F 3 7 3 1
 重兵衛(じゅうべえ・大久保)→南香(なんこう・大久保おおくぼ、俳人) I 3 2 9 5
 重兵衛(じゅうべえ・坂内)→仁義道守(じんぎのみちもり、狂歌/絵師) N 2 2 7 9
 重兵衛(じゅうべえ・鈴木)→重信(初世しげのぶ・柳川やながわ、絵師) C 2 1 7 4
 重兵衛(じゅうべえ・田中)→檜園梅明(かいてんうめあき、狂歌) I 1 5 4 2
 重兵衛(じゅうべえ・中居屋)→剛屏(ごうへい・中居なかい、商家/蘭学) L 1 9 0 7
 重兵衛(じゅうべえ・横須賀)→静斎(せいさい・横須賀よこすか、儒者/教育) I 2 4 3 4
 重兵衛(じゅうべえ・堀舎ほりや)→永世(ながよ・二神ふたがみ、商家/歌人) O 3 2 6 1
 重兵衛(じゅうべえ・浅井)→清足(きよたり・浅井あさい/菊地、庄屋/歌) T 1 6 3 9
 重兵衛(じゅうべえ・桜井)→道考(みちたか・桜井さくらい、代官/歌人) I 4 1 8 2
 柔兵衛(じゅうべえ・五十嵐)→光春(みつはる・五十嵐いがらし/武田、藩士/儒者) L 4 1 1 3
 周遍院(しゅうへんいん)→日進(にっしん;法諱・本妙院、日蓮僧) E 3 3 4 9

Y2137 衆甫(しゅうほ;号) ? - ? 江中期俳人;1774美角「ゑぼし桶」1句入、
 [裏山や紅葉見に行く日の夕べ](ゑぼし桶;85/夕日を浴びる紅葉)

I2127 秋圃(あきう) (稚圃/周囲しゅうほ・斎藤さいとう/旧姓;葵・池上、名;相行) 1769-1861長寿93歳 加賀の絵師;
 円山応挙門/森狙仙門、円山派を修学/のち長崎で清の江稼圃の画風に傾倒;一家を成す、
 大坂新町の幫間/1805筑前秋月藩主黒田長舒に招聘;側勤/1828隠居/嗣子相光の事件;
 禄を辞す、花鳥・人物・武者画に長ず;筑前四大絵師の1、村田東圃・吉嗣梅僊らの師、
 1803「葵氏艶譜」・05「つはものつくし」・06「廓中艶譜」画/49「玉兔集」編、「京遊日記」著、
 [秋圃(;号)の通称/別号]通称;市太郎・臻平しんべい/衛/又右衛門/宗右衛門/惣右衛門、
 別号;相行/葦行/双鳩子/土筆翁/純鳩庵/文輔/亦介、法号:瑞気斎秋圃居士

秋浦(しゅうほ・田中)→秋浦(あきうら・田中/市村、役人/国学) H 1 0 8 3
 秋畝(しゅうほ・林)→友幸(ともゆき・林はやし、藩士/武術/政治) W 3 1 1 4
 秋輔(しゅうほ・高久)→靄崖(あいがい・高久たかく、絵師) D 1 0 1 7
 鵜輔(しゅうほ・中井)→乾斎(けんさい・中井、漢学者/詩人) E 1 8 1 2
 緝甫(しゅうほ・前田)→重熙(しげひろ・前田/菅原、藩主/歌人) S 2 1 4 6
 修甫(しゅうほ・杉江/平出)→延齡(えんれい・平出、医者) C 1 3 2 4
 修甫(しゅうほ・松田)→三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩) B 4 1 2 7
 修輔(しゅうほ・森脇)→惟良(これよし・森脇もりわき/筏、神道/歌) R 1 9 2 2
 周甫(しゅうほ・田中/杳掛)→夢嶽(むがく・杳掛くかけ/田中、藩医) 4 2 3 4
 周保(しゅうほ;法諱)→有節(ゆうせつ;道号・瑞保/周保;法諱、臨濟僧/詩人) D 4 6 0 5
 衆甫(しゅうほ・松井)→材庵(さいあん・松井まつい、医者) H 2 0 0 2
 袖浦(しゅうほ・春日)→袖子(そでこ・春日ちかすが、歌人) K 2 5 9 0
 周囲(しゅうほ・岡田)→鴨里(おうり・岡田おかだ、儒者) C 1 4 1 7
 習圃(しゅうほ・大林)→正修(まさなが・大林おおばやし/源、藩士/国学) O 4 0 4 1
 充甫(じゅうほ・幡頭/吉野/杉田)→玄端(げんたん・杉田すぎた、医者) K 1 8 3 6
 従甫(じゅうほ・前島)→庸政(つねまさ・前島まえじま、医者/詩人) D 2 9 7 3
 重保(じゅうほ)すべて→重保(しげやす)
 重輔(じゅうほ)すべて→重輔(しげすけ)

Y2138 宗峰(しゅうほう;道号・妙超みょうちょう;法諱、俗姓;浦上/本姓;紀) 1282-133756 播磨揖西郡の僧、
 父;浦上掃部助入道覚性、1292(11歳)書写山円教寺の戒信門/出家、初め天台のち禅門、
 臨濟僧;鎌倉の高峰頭日門/さらに南浦紹明門;嗣法、洛北紫野に大徳庵(1326大徳寺)開、
 「大応大燈国師法語」「大燈国師語録」「大燈国師示衆」「大燈国師参詳語要」「夜話記」著、
 「碧巖集古鈔」「碧巖集下語」「臨濟録大燈古抄」「大燈国師遺誠」外著多数、
 [宗峰妙超の号]号;興禅大燈国師/高照正灯国師、

諡号;大慈雲匡真国師/弘鑑常明国師/円満浄光国師/大知性海国師

2149 周鳳(しゅうほう;法諱・瑞溪/瑞谿ずいけい;道号、俗姓:伴) 1391-147383 和泉堺の人;父の戦死、
 10歳で外祖母一族の一心の室に入;出家/臨濟僧;無求周伸・巖中周墨・惟肖得巖門、
 無求周伸に嗣法/山城景德寺・等持寺住持、1440相国寺50世/相国寺鹿苑院主;僧録職、
 応仁乱を避け慈雲庵に寓す;没、詩文に長ず、没後;1482後土御門天皇より禅師号、

「臥雲稿」「臥雲夢語集」「臥雲子尺素」「臥雲日件録抜尤」「刻楮」「刻楮集」「竹郷集」、
「温泉紀行」「瑞溪和尚語録」「瑞溪疏」「禅僧詩集」「入東記」「碧巖集鈔」外著多数、
詩人;1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌]出詠、

[堂前繡竹小婢娟せんけん 碧黛紅裙日闌妍 誰記杜陵曾入寺 山庭寂寞麝香眠]、

(匠作亭詩歌;11/瞿麦くばく・なでしこ/対するは教親の歌)、

[瑞溪周鳳の号] 臥雲山人/竹郷子/刻楮子/閑雲散人/北禅/泉南、諡号;興宗明教禅師

Y2139 秀峰(しゅうほう;法諱、法名;正蓮社覺譽等阿、俗姓;松井)?-1815 讃岐山田郡上田井の浄土僧、
松井長太夫の弟、高松の浄土宗浄願寺住職、江戸で漢学;板倉瓊溪・服部仲英門/詩人、
1792「郭注莊子覈玄かくげん」1812「糸浜亭集」、「唐詩選指掌」著

Y2140 周峰(しゅうほう・森もり、名;貴信、如閑斎次信2男)1740-182384 撰津西宮絵師;吉村周山・月岡雪鼎門、
法橋、人物花鳥山水に長ず、1780「狂歌両節東街道」画、父如閑斎・弟祖仙台せんも絵師、
[周峰(;号)の別号]別号;鍾秀斎しゅうしゅうさい、法号;鍾秀斎高山周峰居士、徹山の父

I2128 鷺峰(しゅうほう・桑原くわばら、名;啓/忱、平作男)1819-6648 美濃栗野村の郷土、儒;江戸の佐藤一斎門、
紀伊田辺で講説/京で講説、頼三樹三郎と交流、田辺藩の招聘で藩校修道館頭取;学政改革、
「桑原鷺峰詩集」「鷺峰文集」「糞壤集」「観星録」1856「測度考」、63「陸象山先生文抄」編、外多、
[鷺峰(;号)の通称/別号]通称;元吉郎、別号;陸仙

鷺峯(しゅうほう;号) → 道粹(どうすい;法諱、真宗本願寺派僧) F 3 1 8 3

鷺峰(しゅうほう;号) → 円遵(えんじゆん;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 3

鷺峰(しゅうほう;号) → 歎励(かんにい;法諱・普潤、真宗大谷派僧) R 1 5 8 5

秋芳(しゅうほう・宜白) → 己百(きひやく/きはく、日賢、日蓮僧/俳人) G 1 6 1 6

秋芳(しゅうほう・佐原) → 鞠塙(きくう/佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9

秋芳(しゅうほう・壇だん) → 東郊(とうこう・壇、儒者) D 3 1 9 3

秋邦(しゅうほう/あきくに・江間・西村/長島) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5

秀峰(しゅうほう;初道号・性一) → 独吼(どっく;道号・性獅;法諱、黄檗僧) O 3 1 4 4

秀峰(しゅうほう) → 能阿弥(のうあみ、書画/連歌) 3 5 0 1

秀峰(しゅうほう・橋本) → 守雄(もりお・橋本はしもと/林、藩士/歌/絵師) K 4 4 9 8

秀包(しゅうほう・毛利) → 秀包(ひでかね・毛利/大田/小早川、武将/連歌) C 3 7 9 9

秀法(しゅうほう;字) → 密巖(みつごん;法諱・秀法;字、真言僧) D 4 1 4 1

秀邦(しゅうほう・島川) → 秀邦(ひでくに・島川しまかわ/倉田、藩士/和漢学) J 3 7 7 8

重奉(じゅうほう・鈴木) → 呉雪(ごせつ・鈴木すずき、俳人) M 1 9 9 1

充豊(じゅうほう・中村/岸) → 充豊(みつとよ・岸きし、/中村、和算家) H 4 1 3 4

鷺峰院(しゅうほういん) → 日豊(にっぽう;法諱・僧那院、日蓮僧) F 3 3 5 7

衆芳園(しゅうほうえん) → 茂濟(しばさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8

聚芳園(しゅうほうえん) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3

秋峰(しゅうほう・鈴木/鈴) → 長頼(ながより・鈴木、幕臣/大工) G 3 2 5 5

周邦(しゅうほう・井上) → 直繩(なおつな・海妻かいづま、儒/国/故実) B 3 2 6 9

周房(しゅうほう・吉雄) → 左七郎(さしちろう・吉雄よしお、阿蘭陀通詞) H 2 0 4 8

秀芳(しゅうほう・小槻) → 秀芳(ひでよし・小槻おつき、官人/衣紋術) I 3 7 6 9

秀芳(しゅうほう・脇坂) → 千枝子(ちえこ・脇坂わささか、住職妻/歌人) N 2 8 8 2

M2199 秀昉(しゅうほう/ひであき;法諱、熊沢くまざわ、名;采庵[宗安])?-? 江中期の僧、歌;冷泉家門、幕府坊主衆、
1762-3[冷泉為村点取]に出詠(片玉集前集34・35入)/1798刊石野広通「霞関集」入、
[河添の里の灯かつ見えて露に暮行く水ぞをぐらき](霞関;秋518)

秀房(しゅうほう・狛) → 秀房(ひであき・狛こま、神職/歌人) D 3 7 7 6

秀房(しゅうほう・松井) → 秀房(ひであき・松井まつい/大場、藩士/国学) L 3 7 0 3

秋房(しゅうほう・白杵) → 秋房(あきふさ・白杵うすき、藩士/国学者) H 1 0 1 2

就房(しゅうほう・杉岡) → 就房(なりふさ・杉岡、史家) I 3 2 0 9

修房(しゅうほう・吉田) → 修房(のぶふさ・吉田よしだ、医者/歌人) K 3 5 3 6

充豊(じゅうほう・後藤) → 充豊(みつとよ・後藤ごとう、和算家) E 4 1 0 8

従方(じゅうほう・吉川) → 従方(よりかど・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 5

- 重方(じゅうほう・原田) → 重方(しげかた・原田はらだ、神職/勤王家) Q 2 1 7 6
 重方(じゅうほう・高野) → 重方(しげかた・高野たかの、名主/歌人) Z 2 1 2 9
 重方(じゅうほう・中柳) → 重方(しげかた・中柳なかやぎ、陪臣/歌人) Z 2 1 5 8
 重法(じゅうほう・柳井) → 重法(しげのり・柳井やない、地誌家) S 2 1 0 8
 重邦(じゅうほう・高山) → 重邦(しげくに・高山たかやま、和算家) C 2 1 1 7
 重豊(じゅうほう) すべて → 重豊(しげとよ)
- I2129 **十卯**(じゅうぼう) ? - ? 俳人、1691「胡蝶判官」に信徳と歌仙
 充房(じゅうぼう・島田) → 充房(みつふさ・島田しまだ、本草家) E 4 1 7 7
 重房(じゅうぼう) すべて → 重房(しげふさ)
 秋芳園(しゅうほうえん) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9
 聚芳園(しゅうほうえん) → 真弓(まゆみ・内山、歌学) 4 0 3 3
 鷲峰閣(しゅうほうかく) → 登洲(とうしゅう、真宗僧) E 3 1 9 3
 衆芳軒(しゅうほうけん) → 蕙畝(けいほ・小野おの、本草家) G 1 8 6 3
 秋芳軒宜白(しゅうほうけんぎはく) → 己百(きひやく/きはく、日賢、日蓮僧/俳人) G 1 6 1 6
 衆芳子(しゅうほうし) → 蘭山(らんざん・小野おの、医者/本草家) C 4 8 3 0
 秋暮園(しゅうぼえん) → 葛三(かつさん・倉田、俳人) C 1 5 4 4
 周北(しゅうほく・浅井) → 凶南(となん・浅井、医者/本草/詩文) O 3 1 5 6
 舟木(しゅうぼく・山本) → 春正(しゅんしょう・山本、蒔絵師/歌人) J 2 1 9 3
 聚墨庵(しゅうぼくあん) → 大梁(だいらょう・桜部さくらべ、真宗僧/国学) X 2 6 3 9
 舟木軒(しゅうぼくけん・山本) → 春正(しゅんしょう・山本、蒔絵師/歌人) J 2 1 9 3
 集木軒(しゅうぼくけん) → 成利(なりとし・清水しみず/志水、国学/歌) N 3 2 2 8
 秋暮亭(しゅうぼてい) → 葛三(かつさん・倉田、俳人) C 1 5 4 4
 秋暮亭(しゅうぼてい) → 雉啄(ちたく・遠藤、俳人/葛三門) E 2 8 6 9
 周本(じゅうほん・渡辺) → 溱水(しんすい・渡辺わたなべ/辺、絵師) O 2 2 9 7
 周馬(しゅうま・青木; 変名) → 橘門(きつもん・秋月、儒者) I 1 6 6 6
 周磨(しゅうま・山下) → 盛好(もりよし・山下やました、神職/国学者) L 4 4 8 0
 就馬(しゅうま・内藤) → 閑斎(かんさい・内藤ないとう、儒者) H 1 5 6 1
 集馬(しゅうま; 号) → 集馬(しゅうま; 号、俳人) Y 2 1 2 1
 周丸(しゅうまる・堀河/岩倉) → 具視(ともみ・岩倉/堀河、廷臣/公武合体) Q 3 1 6 2
 周磨(しゅうまろ・河鍋) → 暁斎(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師) N 1 6 8 5
- Y2141 **十磨**(じゅうまろ・岡田おかだ、別号; 非々庵) ?-?1765前没 大阪の雑俳点者、「俳諧和泉川」撰(瓢水と)、「俳諧枯の花」著、「非々庵遺稿」(1769刊)
 重磨(じゅうまろ・国富) → 重磨(しげまろ・国富くにとみ、歌人) W 2 1 8 4
 秋満(しゅうまん・太田) → 秋満(あきみつ・太田おた、神職/国学) H 1 0 3 1
 秋満(しゅうまん・倉田) → 秋満(あきみつ・倉田くらた、商家/国学) H 1 0 4 5
 秀満(しゅうまん・塩川) → 秀満(ひでみつ・塩川、武将/城主/連歌) D 3 7 8 9
 秀満(しゅうまん・斎藤) → 秀磨(しゅうまろ・斎藤・藤原、医者/国学) D 3 7 8 4
 重満(じゅうまん・安藤) → 重満(じゅうまん・安藤あんど、神職/国学) P 2 1 2 9
 重満(じゅうまん; 諱・伊古田) → 檜陵(ひのりょう・伊古田いこた、産科医) E 4 6 0 2
- I2130 **十万堂**(じゅうまんどう、号; 一来、小西こにし、通称; 留三郎/留之助、来山男) 1713-26¹⁴ 大阪の俳人
 十万堂(じゅうまんどう) → 来山(らいざん・小西、俳人) 4 8 0 1
 十万堂(4世じゅうまんどう) → 什山(じゅうざん・小西こにし、俳人) H 2 1 4 9
- Y2142 **宗命**(しゅうみょう/そうみょう; 法諱、通称; 鳥羽僧都、内大臣藤原宗能男) 1119-71⁵³ 真言僧、醍醐寺理性院の賢覚門; 伝法灌頂を受、のち理性院3世; 理性院流宗命方の祖、「真言肝心抄」「諸尊形像集」「諸尊法真言集」「授心鈔」「秘密鈔」「五種護摩私記」著、宗叡・尊念の師
 秀妙院(しゅうみょういん) → 日讓(にちじょう; 法諱・周仁、日蓮僧) C 3 3 4 7
 衆妙館(しゅうみょうかん) → 千谷(せんこく・溝口/鈴木、書家) M 2 4 2 9
 秋眠(しゅうみん) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3
 秋民(しゅうみん・松枝) → 篁山(こうざん・松枝まつえだ、儒者/詩人) J 1 9 2 9

- 周民(しゅうみん・川本) → 幸民(こうみん・川本かわもと、蘭医/理化学) L 1 9 3 0
 秀民(しゅうみん・吉田) → 秀民(ひでひと・吉田よしだ、幕臣;天文家) D 3 7 7 4
 秀民(しゅうみん・片岡/大黒屋) → 小槌(こづち・俵の、妓楼主人/狂歌) F 1 9 8 0
 重民(じゅうみん・山) → 重民(しげたみ・山さん、神職/歌人) R 2 1 4 1
 重民(じゅうみん・浜田/那須) → 信吾(しんご・那須/浜田、勤王派) O 2 2 2 8
 洪民(じゅうみん) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩歌) E 3 1 5 3
 十夢(じゅうむ) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8
 十無居士(じゅうむごじ) → 北華(ほっか・山崎、俳/戯作/狂歌/狂文) E 3 9 4 8
 秋名(しゅうめい・長坂) → 秋名(あきな・長坂ながさか、商家/歌人) I 1 0 1 7
 秀明(しゅうめい・竹内) → 東白(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学) G 3 1 9 2
 秀明(しゅうめい・松下) → 見林(けんりん・松下まつした、医者/史家) D 1 8 2 6
 就明(しゅうめい・内藤) → 就明(なりあき・内藤/渋谷、藩士/文筆) G 3 2 9 5
 緝明(しゅうめい・三宅) → 観瀾(かんらん・三宅みやけ、儒者) 1 5 5 6
 襲明(しゅうめい・和田) → 宗淳(そうじゆん・和田わだ、国学者/歌人) L 2 5 1 7
 襲明(しゅうめい・山口) → 襲明(よりあき・山口権三郎、国学/経済人) P 4 7 8 3
 I2131 重名(じゅうめい) ? - ? 撰津の俳人;季吟門、1660真続犬筑波集入
 重明(じゅうめい・勝浦) → 重明(しげあき・勝浦/桂/森本、藩士/槍術) B 2 1 7 7
 重明(じゅうめい/しげあき・儘田) → 柳軒(りゅうけん・儘田まだ、問屋業/歌) D 4 9 6 3
 重明(じゅうめい/しげあき・菱田) → 毅斎(きさい・菱田ひだ、藩士/儒者) I 1 6 6 3
 重明(じゅうめい・小泉) → 重明(しげあき・小泉こいずみ、歌人) Q 2 1 4 7
 重明(じゅうめい・牛丸) → 重明(しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9
 重明(じゅうめい・竹中) → 重明(しげあき・竹中/源、幕臣) Q 2 1 5 0
 重明(じゅうめい・水野) → 重明(しげあき・水野みずの、幕臣) Q 2 1 5 1
 重名(じゅうめい) すべて → 重名(しげな)
 十明庵(じゅうめいあん) → 紀逸(初世きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1
 修明門院大弍(しゅうめいもんいんのだいに) → 大弍(だいに、修明門院重子女房) C 2 6 0 1
 十夢(じゅうむ) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8
 十夢(じゅうむ・小川) → 尋香(じんこう・小川おがわ、俳人) O 2 2 3 3
 十無居士(じゅうむごじ) → 北華(ほっか・山崎/平、医/俳人/戯作) E 3 9 4 8
 Y2143 秀茂(しゅうも;法諱) ? - ? 1527存 遠州の曹洞僧;普濟寺住僧、
 1527「普濟寺日用清規」編
 秀茂(しゅうも)訓は → 秀茂(ひでもち) or 秀茂(ひでしげ)
 修茂(しゅうも・大胡) → 修茂(のりしげ・大胡おおご、連歌) E 3 5 6 6
 充茂(じゅうも → みつしげ・勝見) → 二柳(じりゅう・勝見かつみ、俳人) D 2 2 2 0
 重茂(じゅうも・相賀) → 重茂(しげもち・相賀あいが、武家/文筆家) S 2 1 9 0
 重孟(じゅうもう・水野) → 重孟(しげたけ・水野みずの、藩士) R 2 1 2 7
 M2123 重門(じゅうもん) ? - ? 江前期上州吉井の俳人;1692不角「千代見草」入;
 [呑み残す反魂丹に子を返せ](漢の孝武帝が反魂香を焚き故李夫人の面影を見た故事)
 (ここは反魂香の代わりに死んだ子の呑み残しの反魂丹を焼いて生き返らせた親心)
 従門(じゅうもん・筑紫) → 従門(よりかど・筑紫つくし、幕臣/神道家) I 4 7 5 3
 従門(じゅうもん・吉川) → 従門(よりかど・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 4
 重門(じゅうもん・竹中) → 重門(しげかど・竹中/源、武将/歌・連歌) C 2 1 0 9
 重門(じゅうもん・河地/大矢) → 重門(重角しげかど・大矢/河地、商家/歌) C 2 1 1 0
 重門(じゅうもん・藤井) → 重門(しげかど・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 1 8 2
 修文斎(修門斎しゅうもんさい・蒲坂) → 青荘(せいそう・蒲坂ほさか、漢学者) C 2 4 4 9
 十文字舎自恐(じゅうもんじやじきょう、洒落本) → 自恐(じきょう・十文字舎) B 2 1 6 6
 十文字舎自惚(じゅうもんじやじこつ) → 自惚(うぬぼれ・黄山きやま、絵師/戯作) D 1 2 2 2
 I2133 周也(しゅうや) ? - ? 江前期京綾小路新町西入ルの俳人;
 1687「誹諧三月物」「新三百韻」「誹諧前後園」90「新撰都曲みやこぶり」入、
 [被かぎ着ておらばや人の山桜](都曲;上189/かぶりものを着てもあの桜を折りたい)

- 舟也(しゅうや、俳名) → 捨若(すてわか・磯貝、浮世草子作者) D 2 3 8 5
 秀野(しゅうや・河野/越智) → 鉄兜(てつとう・河野、医/詩歌) C 3 0 5 7
 重野(じゅうや・鈴木) → 重野(しげの・鈴木すずき/穂積、神職/国学) Z 2 1 1 5
 秋夜亭(しゅうやてい) → 幸四郎(五世こうしろう・松本、歌舞伎役者/合巻) B 1 9 4 1
 秋野房(しゅうやぼう) → 亭順(ていじゆん・秋野房、天台四天王寺僧) B 3 0 1 3
 周諭(しゅうゆ;法諱) → 周諭(しゅうゆ;法諱・黙庵;道号、臨濟僧) H 4 4 0 2
 Y2144 秀幽(しゅうゆう;法諱) ? - ? 江後期1818-30頃上州利根郡の僧、
 「在職世代相統記」著
 秀雄(しゅうゆう) → 秀雄(ひでお、俳人) C 3 7 8 2
 秀祐(しゅうゆう・河又) → 浩斎(こうさい・河又かわまた、儒者) J 1 9 0 1
 周祐(しゅうゆう;法諱・天助) → 周璽(しゅうがく;法諱・巖中、臨濟僧) H 2 1 0 0
 周祐(しゅうゆう/ちかすけ・有馬) → 定次郎(ていじろう・有馬、和算家) B 3 0 2 5
 周祐(しゅうゆう・井原) → 周祐(かねすけ・井原いほら/今井、国学者) S 1 5 8 9
 修融(しゅうゆう・石井いしい) → 修融(まさみち・石井いしい、連歌作者) H 4 0 4 6
 Y2145 重祐(じゅうゆう;法諱) ? - ? 1425存 真言僧;栄助門;忍辱山流御室方の血脈を受、
 東寺鎮守灌頂院兩預職、1425賢慶に職を譲渡、「忍辱山流灌頂口伝」著
 Y2146 重友(じゅうゆう;号) ? - ? 江前期京の俳人;1698「続猿蓑」1句入
 [老の身は今宵こよひの月も内で見む](続猿蓑;巻下/我が家で静かに賞でる)
 十友(じゅうゆう・野呂) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
 重有(じゅうゆう・庭田) → 重有(しげあり・庭田/源、廷臣/歌人) B 2 1 8 2
 重右(じゅうゆう・大和田) → 重右(しげすけ・大和田おおわだ、藩士/歌人) N 2 1 8 3
 重祐(じゅうゆう・大道寺) → 友山(ゆうざん・大道寺/平、兵法家) B 4 6 8 8
 重祐(じゅうゆう・荻野) → 斃己斎(へいきさい・荻野おぎの、藩士/儒者) 2 7 1 7
 重邑(じゅうゆう・中西/藤原) → 重邑(しげむら・藤原/度会、神職/書肆) S 2 1 8 7
 重雄(じゅうゆう・和田) → 重雄(しげお・和田わだ、幕臣/国学/歌) Q 2 1 6 7
 重猷(じゅうゆう・平野) → 橘翁(きつおう・平野ひらの、心学者) L 1 6 4 2
 十友窩(じゅうゆうか) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
 秋友斎(しゅうゆうさい) → 竹翁(ちくおう・勝田士貞、絵師) C 2 8 6 7
 周愈(周畚しゅうよ;法諱) → 笑山(しょうざん;道号・周愈、臨濟僧) Q 2 2 9 2
 宗誉(しゅうよ;法諱) → 宗誉(そうよ;法諱、大僧都/歌人) L 2 5 3 1
 秀誉(しゅうよ・近藤) → 至邦(むねくに・近藤こんどう、国学者/歌人) D 4 2 8 4
 重与(じゅうよ・原) → 重与(しげとも・原はら/井原、国学/歌) O 2 1 4 7
 重誉(じゅうよ) → 重誉(朝誉ちようよ、三論/真言僧) K 2 8 0 1
 重誉(じゅうよ;法諱) → 良重(りょうじゅう;法諱、堯智房、真言金剛峯寺検校) H 4 9 8 8
 重誉(じゅうよ;字) → 湛奕(湛益たんえき;法諱・重誉、浄土僧) T 2 6 1 7
 十誉(じゅうよ;号) → 経歴(きょうれき;法諱・十誉、浄土僧) O 1 6 6 1
 P2112 拾葉(しゅうよう) ? - ? 俳人、1690北枝「卯辰集」2句入、
 [菜の花や幾野いのかゞやく朝日影](卯辰集;上一107/幾野;どれだけの野)
 E2112 秋陽(しゅうよう・吉村よむら/小田、小田三左衛門3男) 1797-1866 70 備後三原浅野家家臣吉村家継嗣、
 儒者;1811(15歳)山口西園門/京の伊東東里門;古義学修学、広島藩家老三原浅野家の儒臣、
 1816安藝広島城内浅野邸朝陽館助教/29伊予今治で講/30京の頼山陽門/江戸佐藤一斎門、
 陽明学信奉、1836長門府中藩毛利家の招聘で督学/帰藩;48朝陽館教授/学館総裁、55致仕、
 1863三原桜山山麓に開塾、中江藤樹の学を信奉;諸国に講説、「読我書楼詩草」3巻、
 「読我書楼文章」4巻/「格致贖義かちようぎ」/「姚江諸説」/1855「大学贖義」/61「王学提要」外著多、
 [秋陽(;号)の名/字/通称/別号]名;晋;字;麗明、通称;隆介/重介、
 別号;我書楼/六郷史氏/一枝楼/花王山樵、斐山の養父
 周洋(宗洋しゅうよう・東海;道号) → 東海(とうかい・周洋、曹洞僧) B 3 1 8 4
 秋陽(しゅうよう・妻木) → 陸叟(りくそう・妻木/石川、藩医/本草) 4 9 7 8
 袖陽(しゅうよう・松田) → 立敬(たつり・松田まつだ/種谷、儒/詩歌) Z 2 6 5 7
 修耀(しゅうよう;字、修耀院) → 日進(にっしん;法諱・修耀院、日蓮僧) E 3 3 5 8

- Y2147 **重葉**(じゅうよう) ? - ? 伊賀の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
 重陽(じゅうよう・小山) → 進(すすむ・小山こやま/山本、神職/国学) I 2 3 4 9
 重養(じゅうよう・島) → 重養(しげかい・島しま、神職/国学/歌人) O 2 1 8 0
 重庸(じゅうよう・鈴木) → 重庸(しげつね・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 1 1
 重膺(じゅうよう・上木) → 清成(きよなり・上木うわぎ、酒造業/国学) Q 1 6 0 7
 拾葉庵(しゅうようあん) → 万和(まんわ、俳人) K 4 0 8 8
 拾葉軒(しゅうようけん) → 無倫(むりん・志村しむら、僧/俳人) D 4 2 2 8
 秋陽堂(しゅうようどう) → 蘭秀(らんしゅう・吉田、横船よこふね、俳人) C 4 8 5 2
 秋陽堂(しゅうようどう) → 冬央(とうおう・太田、横船門俳人) B 3 1 6 0
 脩葉堂(しゅうようどう) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9
- I2138 **修来**(しゅうらい・森本もりもと)?- ? 大阪住の書家/篆刻;新興におり蒙所門、
 「修来印譜」「金剪府」著
 修来(しゅうらい・小田切おだぎり) → 藤軒(とうけん・小田切、藩士/儒者) D 3 1 3 4
 修来(しゅうらい・戸田) → 葆堂(ほうどう・戸田とだ、藩士/詩人) F 3 9 9 1
 秋来(しゅうらい・木兎菴) → 宣治(のぶはる・堀越、藩士/俳人) C 3 5 8 4
 秋籟(しゅうらい・高山) → 茂樹(しげき・高山たかやま、神職/国学) Z 2 1 3 1
 脩来(しゅうらい・森本) → 黙愿(もくいん:法諱・佚山、書/曹洞僧) 4 4 6 7
 重頼(じゅうらい)すべて → 重頼(しげより)
 十楽院(じゅうらくいん) → 最守(さいしゅ;法諱、大僧正/連歌) E 2 0 9 5
 十楽院(じゅうらくいん) → 道玄(どうげん:法諱、天台座主/歌) D 3 1 5 8
 十楽院(じゅうらくいん) → 慈道法親王(じどうほつしんのう、天台座主/歌) F 2 1 2 9
 十楽院神主(じゅうらくいんのかんぬし) → 信久(のぶひさ・賀茂、神職) C 3 5 9 1
 十楽院宮(じゅうらくいんのみや) → 道熙親王(どうきしんのう、天台門跡/歌) C 3 1 5 9
 集落軒(しゅうらくけん) → 一風(いっふう・西沢、大阪書肆) 1 1 2 5
 集落軒(しゅうらくけん) → 一鳳軒(いっほうけん・西沢、書肆) 1 1 2 6
 自由楽地斎(じゅうらくちさい) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9
- H2103 **秋蘭**(しゅうらん) ? - ? 江前中期摂津の俳人、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [あつさりと一重桜は散るてこそ](伊丹発句合;春発句)
 秋蘭(袖蘭しゅうらん) → 薰子(におこ・若江、和漢学/歌) 3 3 1 2
 袖蘭(しゅうらん・吉田) → 佐登子(さとこ・大倉おおくら/吉田、詩/絵師) O 2 0 1 2
- Y2148 **十卵**(じゅうらん;号) ? - ? 近江八幡の俳人・1777江涯「仮日記」1句入、
 [山吹に雲かゝる雨の夜明よあけ哉](仮日記;160/山吹の色の鮮やかさ)
- H2199 **秋蘭の妻**(しゅうらんのつま) ? - ? 江前中期摂津の俳人、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [思ひやる玉の御園の雪の沓](伊丹発句合;冬))
- I2139 **秋脛**(しゅうり・蜂房ほうぼう、姓;吉見)?-? 江後期1804-44頃江戸の絵師、浮世絵;蹄斎北馬門、
 狂歌;便々館琵琶磨門/琵琶連の判者、紀定丸の姻戚か、肉筆美人画「花の吉原」画、
 「船まんじゅう」画/1810宿屋飯盛作読本「梅が枝物語」挿画、
 狂歌絵本;1811瀬川路蝶「露の淵」・18立川焉馬「以代美満寿」挿画、
 [蜂房秋脛(;号)の通称/別号]通称;八太郎、
 別号;八房/八房巢/蹄斎(;師の号踏襲)/蹄亭/柳花園山形
- Y2149 **秋里**(しゅうり・安藤あんど、名;乘)1803-185755 大阪大江橋南詰の儒者;篠崎小竹門;小竹門四天王、
 詩文/書に秀づ、1852藤沢東暎とうがい・後藤松陰・広瀬旭荘と大坂文運隆盛のため真率会を結、
 「中原逐鹿帖」書/1855「中庸新疏結尾」校訂/「文章軌範纂評」(没後1858刊)、
 [秋里(;号)の字/通称/別号]字;維義、通称;太郎、別号;介軒
 修理(しゅうり)すべて → 修理(しゅり)
 柊里(しゅうり・坪井) → 信良(しんりょう・坪井/佐渡、医者) E 2 2 4 3
 舟里(しゅうり・寺地) → 強平(きょうへい・寺地てらち、蘭学/医) O 1 6 4 8
 十里(しゅうり・平野) → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) 2 7 1 6

重利(じゅうり・宮本) → 重利(しげとし・宮本みやもと、藩士/航海) R 2 1 6 5
 秋里庵(じゅうりあん) → 東々(とうとう・秋里庵、俳人) G 3 1 7 3
 十里庵(じゅうりあん) → 晡扇(晡川ほせん、俳人) E 3 9 3 8
 重陸(じゅうりく・鈴木) → 遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者) F 2 3 1 6
 十里香(じゅうりこう) → 松峰(しょうほう・服部はつとり、俳人) B 2 2 5 7
 脩立(じゅうりつ・今村) → 竹堂(ちくどう・今村、儒者/家塾教育) D 2 8 5 9
 拾栗(じゅうりつ・籃果亭) → 籃果亭拾栗(らんかていじゅうりつ、商家/狂歌) B 4 8 6 9
 十栗僊(じゅうりつせん) → 徐々坊(じょじょぼう・宮みや、俳人) M 2 2 4 6
 十里亭(じゅうりてい) → 卯七(うしち・蓑田、俳人) 1 2 3 6
 秀隆(じゅうりゅう・夏川) → 秀隆(ひでたか・夏川なつかわ、藩士/歌人) K 3 7 4 5
 重隆(じゅうりゅう)すべて → 重隆(しげたか)

2150 周良(じゅうりょう:法諱・策彦さくげん:道号、管領細川家臣井上宗信3男)1501-7979 臨濟僧;
 1509(9歳)鹿苑寺の心翁等安門/出家、天竜寺塔頭妙智院3世住持、
 周防大内義隆派遣の遣明使;初度は1539副使/再度は1547正使、織田信長・武田信玄の帰依、
 五山文学/紹巴と親交、京の等持院・西芳寺・臨川寺・鎌倉円覚寺など住持;妙智院に没、
 「南遊藁」「蠡測集」「糝糠集」「聯句集」「詩聯診解」「四六文章法」「謙斎詩集」「謙斎記」、
 「策彦入唐記」「策彦和尚初度集」「策彦和尚再渡集」「策彦和尚南遊集」「名賢詩話」著、
 「策彦紹巴両吟千句」/1556「城西聯句」編/78「三千句」外編著多数、
 聯句;1556三条西公条「大覚寺和漢千句」参加/1564・66・68・69和漢聯句参加、
 [策彦周良の通称] 怡斎/謙斎、

I2140 秋良(じゅうりょう・山岸やまざし)1750-182172歳 江戸の質商/俳人:秋瓜門、
 1819「橡栗集」21「霞のふくろ」編、「今人発句集」「忍岡奉額連月発句合」著、
 [秋良(;号)の通称/別号]通称;重兵衛、別号;東杵とうしよ庵/最中堂

重良(じゅうりょう・中川) → 重良(しげよし・中川ながわ、藩士、詩) T 2 1 1 0
 重良(じゅうりょう・金沢) → 重良(しげよし・金沢かなざわ、村役/国学/歌) O 2 1 0 6
 重良(じゅうりょう・鈴木) → 重良(しげよし・鈴木すずき、神職/算学) Z 2 1 2 0
 重綾(じゅうりょう・門脇) → 重綾(重礼しげあや・門脇、神職/国学/歌) B 2 1 8 1

P2145 周麟(じゅうりん:法諱・景徐けいじょ:道号、幕臣大館持房男)1440-151879 母;赤松則友女、
 近江の臨濟宗僧:用堂中材門/嗣法、瑞溪周鳳・希世靈彦・横川景三に私淑、
 1486山城景德寺/87等持寺住寺、95相国寺住寺/96相国寺鹿苑院塔主;鹿苑僧録職、
 1504退隱、「翰林胡蘆集」「宜竹詩藁」「今花集」「小艶冗六」「鳳鳴尺八記」「法語集」著、
 「鹿苑日録」著、1500「湯山千句」参加、「宜竹残稿」、
 [景徐周麟の号] 宜竹/半隱[子]/対松/江左

M2116 秀林(じゅうりん) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」入

秀林(じゅうりん・葛西/吉成) → 高好(たかよし・吉成よしなり/葛西、神職/歌) N 2 6 7 2
 秋琳(じゅうりん・勝川) → 春扇(しゅんせん・勝川かつかわ、絵師) K 2 1 1 3
 重倫(じゅうりん・津田) → 重倫(しげつね・津田、郷土史家) R 2 1 5 9
 重隣(じゅうりん・山手/門田) → 樸斎(朴斎ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者) D 3 9 1 6
 十輪院(じゅうりんいん) → 通秀(みちひで・中院/源、廷臣/歌・連歌) C 4 1 3 3
 十輪院能化(じゅうりんいんのうけ) → 道瑜(どうゆ;法諱、真言学僧) H 3 1 5 8

I2142 周令(じゅうれい、周今?) ? - ? 漢詩・俳人:1664季吟「俳諧両吟集」下巻入、
 重徳「俳諧塵塚」入

Y2150 秀嶺(じゅうれい;法諱) ? - 1852 越後出雲崎の真宗大谷派浄玄寺の住職・1844擬講、
 高倉学寮で天台典籍(摩訶止観・法華玄義・十不二門指要鈔など)を講ず、
 1843「十不二門指要鈔講義」著、
 [秀嶺(;法諱)の号] 蓮浄院(蓮成院)/智現子

I2143 重麗(じゅうれい・綾部あやべ) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃の儒者;日向高鍋藩出仕、
 藩儒大塚精斎の甥/大塚観瀾の従弟、1797物頭/藩校明倫堂教授、晩年罪を得て禄を失う、
 「本藩史略」著、
 [重麗(;名)の通称] 恒兵衛

- 秀礼(しゅうれい・守山) → 夏樹(なつき・守山もりやま、神職/国学/歌) P 3 2 0 8
 修齡(しゅうれい・関) → 松窓(しょうそう・関せき、儒者/詩人) T 2 2 9 8
 修齡(しゅうれい・三浦) → 垣斎(たんさい・三浦みづら、医/儒者) T 2 6 5 1
 周令(しゅうれい・池田/衣川) → 長秋(ながあき・衣川きぬがわ、国学者) D 3 2 1 1
 重礼(じゅうれい・黒沢) → 翁満(おきなまる・黒沢、国学/歌人) 1 4 1 2
 重礼(じゅうれい・鈴木) → 重礼(しげのり・鈴木すずき、兵法家) S 2 1 2 0
 重礼(じゅうれい・門脇) → 重綾(重礼しげあや・門脇、神職/国学/歌) B 2 1 8 1
 重嶺(じゅうれい・鈴木/小幡) → 重嶺(しげね・鈴木/小幡、幕臣/歌人) C 2 1 6 5
 Y2151 秀蓮(しゅうれん;法諱) ? - ? 室町後期三河碧海郡桑子の真宗高田派明眼寺住職、
 連歌作者、1518宗長を迎え安城城主松平長親らと「永正十五年四月二十三日山何百韻」参加
 秀蓮(しゅうれん;法諱) → 古溪(こけい;道号・秀蓮、江中期曹洞僧) M 1 9 2 6
 a2134 住蓮(じゅうれん;法諱、実遍[東大寺僧]男/本姓;清和源氏)?-1207 平安鎌倉期;浄土宗僧;
 法然門;師の専修念仏の拡大に尽力、各所の別時念仏で六時礼讃を行う、
 旧仏教勢力からの浄土教教団に対する弾圧;興福寺衆徒の1205「興福寺奏状」の朝廷提出、
 1206(建永元)安楽房坊遵西と共に後鳥羽上皇女房達との密通の嫌疑;
 1207(承元元)近江馬淵荘で弟子僧と共に斬首;法然讃岐・親鸞越後流罪等[承元の法難]
 住蓮(じゅうれん;号) → 性威(しょうい;号、神資脩、幕臣/歌人) Q 2 2 8 3
 重蓮(じゅうれん;法名) → 頼盛(よりもり・平たいら、武将/権大納言) J 4 7 8 5
 P2113 舟露(しゅうろ・佐藤さとう) ? - ?元禄1688-1704頃没 京本誓願寺通知恵光院西入ル二丁目の俳人、
 1691江水「元禄百人一句」入、
 [確からずは年の暮れほど音高し](元禄百人一句;9)
 Y2152 宗朗(しゅうろう/そうろう;法諱・若拙;字、俗姓;齊田)1726-7853 筑前宗像郡岡邑の真宗本願寺派僧、
 安藝高田郡原の高林坊の住職、宗内で最初の学匠伝を編纂;宗学の振興に尽力、
 本山が異解者として排斥;晩年は宗学を論ぜず、詩文に長ず、
 1768「龍谷講主伝」著、「金七十論解」「新修浄往生論」「大経刪註」「香山長語」著、
 [宗朗(;法諱)の号] 号;香山/竜吼/岡水居士
 秋朗(しゅうろう・船曳/石坂) → 空洞(くどう・石坂いさか、医者/蘭学) C 1 7 2 9
 十郎(じゅうろう・北条/小田) → 道円(どうえん・法界寺、鎌倉幕臣/歌) B 3 1 5 5
 十郎(じゅうろう・観世) → 元雅(もとまさ・観世、観世3代目/能楽) 4 4 2 1
 十郎(じゅうろう・伊勢) → 貞行(さだゆき・伊勢/平、幕臣/故実/歌) C 2 0 6 2
 十郎(じゅうろう・伊勢) → 貞良(さだよし・伊勢/平、故実家) K 2 0 1 9
 十郎(じゅうろう・茂木) → 義範(よしのみ・茂木もてぎ/源/小田、武将/連歌) F 4 7 7 8
 十郎(じゅうろう・大野) → 拙斎(せつさい・大野/紀、医者/儒者) E 2 4 3 2
 十郎(じゅうろう・市川) → 松筠(しょういん・市川、幕臣/兵学者) G 2 2 8 4
 十郎(じゅうろう・島川) → 成梁(せいりょう・島川/二見、国学者) J 2 4 8 4
 十郎(じゅうろう・加藤) → 素毛(そもう・加藤かとう、遣米使に随行) K 2 5 4 5
 十郎(じゅうろう・渋川) → 常躬(つねかみ・渋川しづかみ、藩士/国学) F 2 9 8 0
 十郎(じゅうろ・乃木) → 希次(まれつぐ・乃木のぎ、藩士/武家故実) K 4 0 2 4
 十郎(じゅうろ・北郷) → 資知(すけとも・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 9
 十郎(じゅうろう・福永) → 祐功(すけのり・福永ふくなが、歌人) J 2 3 1 6
 十郎(じゅうろう・古田) → 鋭矛(としほこ・古田ふるた/源/萱野、藩士/国学) W 3 1 3 1
 十郎(じゅうろう・山田) → 信道(のぶみち・山田やまだ/井原、藩士/政治家) K 3 5 2 8
 重老(じゅうろう・島) → 重老(しげおい・島しま、神職/国学/歌人) B 2 1 9 4
 重浪(じゅうろう・磯部) → 重浪(しげなみ・磯部いそべ、神職/国学) N 2 1 3 6
 Y2153 十郎右衛門(じゅうろうえもん・塚原つかはら、字;真表)?-? 江中期播磨姫路?の和算家;清野信興門、
 1779「清野流打量秘訣」/80「清野流打量秘訣附録」「清野流打量秘訣余意」著
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・吉川) → 長能(ながよし・吉川よしかわ、藩士/記録) G 3 2 3 9
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・松平) → 忠勝(ただかつ・松平、藩主後見/国老) P 2 6 3 8
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・藤堂/西島) → 百歳(ひやくさい・西島/藤堂、藩士/俳人) E 3 7 4 8
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・池田) → 正式(まさのり・池田、俳人/狂歌) F 4 0 9 4

十郎右衛門(じゅうろうえもん・丹羽)→ 樗山(ちよざん・佚斎いっさい、藩士/談義本) K 2 8 3 8
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・安達)→ 舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌) C 3 5 5 5
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・江見)→ 柳条(りゅうじょう・江見えみ、俳人) E 4 9 7 0
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・沖野屋6代)→ 花蹠(かぎょう、俳人) S 1 5 1 9
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・内山)→ 正常(まさつね・内山うちやま/藤原、藩士/歌) N 4 0 9 9
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・鈴木)→ 朱玉(しゆぎよく・鈴木、藩士/俳人) Y 2 1 6 0
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・大石)→ 眞麿(まさまる・大石/魚住、藩士/史家) H 4 0 3 2
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・田辺/菊屋)→ 豊矩(とよのり・田辺、富士講神道) R 3 1 4 5
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・千村)→ 峯陽(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・三瓶)→ 可道(よしみち・三瓶みかめ、陪臣/和学) P 4 7 3 1
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・熊谷)→ 直方(なおかた・熊谷くまがい、藩士/国学) L 3 2 9 3
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・山崎)→ 弘泰(ひろやす・山崎やまさき、国学者/歌) H 3 7 5 7
 十郎右衛門(じゅうろうえもん・西郷)→ 近登之(ちかとし・西郷さいごう、藩士/国学) M 2 8 6 3
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・依田)→ 守広(もりひろ・依田よだ、鷹匠) G 4 4 3 8
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・長谷川)→ 千四(せんし・長谷川、浄瑠璃作者/俳人) 2 4 3 1
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・横井)→ 時庸(ときもち・横井/井、藩士/地誌) K 3 1 1 4
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・樋口)→ 定雄(さだお・樋口ひぐち、武芸者) H 2 0 8 0
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・樋口)→ 定伊(さだこれ・樋口、定雄甥/武芸者) I 2 0 1 5
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・小浦)→ 朝通(ともみち・小浦こうら、藩士/歌人) Q 3 1 6 5
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・鷹見)→ 泉石(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学) M 2 4 7 8
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・肥田)→ 頼房(よりふさ・肥田ひだ、幕臣/記録) J 4 7 7 0
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・馬場)→ 信祥(のぶよし・馬場ばば、幕臣/和学者) J 3 5 5 8
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・明石)→ 行憲(ゆきのり・明石あかし、藩士/歌文) F 4 6 3 0
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・井沢)→ 蟠龍(ぼんりゅう・井沢、神道家) I 3 6 6 6
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・神尾)→ 包晝(かねたか・神尾かみお、幕臣) O 1 5 5 7
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・河合)→ 祐之(すけゆき・河合かわい、藩士/記録) H 2 3 2 4
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・野口)→ 喬樹(たかしげ・野口、藩士/歌人) M 2 6 0 5
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・横井)→ 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2 8 0 1
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・砂沢)→ 定栄(さだひで・砂沢すなざわ、藩士/歌人) O 2 0 1 6
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・二神)→ 礼和(ひろかず・二神ふたがみ、庄屋/歌人) K 3 7 8 8
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・村田)→ 正宣(まさのぶ・村田むらた/検本、藩士/国学) T 4 0 1 1
 十郎左衛門(じゅうろうざえもん・横井)→ 千足(ちたり・横井よこい、国学者) N 2 8 7 6
 十郎左衛門尉(じゅうろうざえもんじょう・依田)→ 守広(もりひろ・依田、鷹匠) G 4 4 3 8
 十郎次(じゅうろうじ・毛利)→ 匡琴(まさこと・毛利もうり/大江、和学/歌) T 4 0 1 7
 十郎次郎(じゅうろうじろう・喜入)→ 久正(ひさまさ・喜入きいれ/川上、武将/家老/国学) J 3 7 2 2
 十郎助(じゅうろうすけ・八木田)→ 桃水(とうすい・八木田やぎた、藩士/郷土史家) F 3 1 7 9
 十郎太(じゅうろうた・野村)→ 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2

12144 秋六(しゅうろく) ? - ? 大阪の噺本作者、噺会の1人

1810浪花一九「画ばなし当時梅」/11「画噺百の笑」などに入

周助(しゅうすけ・高林) → 豊鷹(とよたか・高林たかばやし、国学/歌人) V 3 1 6 6
 十六山人(じゅうろくさんじん、四々山人)→ 覚峰(かくほう;法諱、真言僧/国学) K 1 5 4 6
 十六堂(じゅうろくどう) → 松洲(しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士) S 2 2 9 3
 十六兵衛(じゅうろくべゑ) → 三蝶(さんちよう・泉花堂せんかどう、戯作者) M 2 0 6 0
 十六林(じゅうろくりん・伊村)→ 鷗沙(おうさ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8
 十六郎(じゅうろくろう・小野)→ 素秋(そしゅう・小野おの、庄屋/俳人) D 2 5 8 2
 十六郎(じゅうろくろう・菊池)→ 武康(たけやす・菊池きくち/浅井、藩士/国学) W 2 6 7 7

12145 十郎兵衛(じゅうろべゑ・染川そめかわ) ?-1708/12? 大阪の歌舞伎役者/初め若衆方、1691頃上方の舞台、11699江戸の中村・山村座に出演;立役、1701上方で松本名左衛門座・早雲長太夫座出演、1707大坂片岡仁左衛門座「万宝千箱玉」の箆之丞役で上出来/08同座「源満仲翁賀」出演、武道事・侠客を得意、染川系の元祖、口述「賢外集」(吾妻三八が書留)、此兵衛・宇兵衛の師、

- [染川十郎兵衛(通称)の初名/号]初通称;染川七三郎、号;賢外、妻;姉川新四郎の姉
- P2191 **十郎兵衛**(じゅうろべえ初世・吉田よしだ)?-? 江前期17c後期大坂住の歌舞伎役者、六法を得意
- I2147 **十郎兵衛**(2世じゅうろべえ・吉田よしだ、号;蘆風ろふう)?-? 江中期1716頃より上方歌舞伎役者;
道外方・立役・実悪など/歌舞伎作者;1736蘆風と改号/1739頃から名が見えない、
作品;1722「相生大島台」、28「羽嘉多小女郎比翼の鏡」(伊介と合作)、31「相生喜見城」、
1732「花裙甥松金」36「妹背の舞扇」「不老門金磚」、37「久米仙人袖振山」(文治と合作)、
[十郎兵衛2世の号] 役者名;千右衛門/1716菊山十五郎/17吉田十郎兵衛2世、作者名;蘆風
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・丸田) → 利躬(としみ・丸田また、国学/歌) N 3 1 7 9
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・伊藤) → 頼長(よりなが・伊藤いとう、藩士/歌人) J 4 7 3 2
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・持永) → 豊次(とよつぐ・持永もちなが、和算家) R 3 1 2 8
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・田中) → 由真(よしざね・田中たなか/源、和算家) D 4 7 5 2
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・榊原) → 忠知(ただとも・榊原さかきばら、幕臣/国学) X 2 6 3 8
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・内藤) → 昌盈(まさみつ・内藤ないとう、藩士/随筆) H 4 0 6 6
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・樋口) → 定雄(さだお・樋口ひぐち、武芸者) H 2 0 8 0
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・樋口) → 定伊(さだこれ・樋口、定雄甥/武芸者) I 2 0 1 5
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・谷口) → 重以(じゅうい・谷口たにぐち、俳人/歌人) G 2 1 8 0
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・浜地) → 庸山(ようざん・浜地はまじ、庄屋/詩/画) B 4 7 0 5
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・岡村) → 菊叟(きくそう・岡村、藩士/砲術/国学) K 1 6 1 7
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・垣本) → 忠顕(ただあき・垣本かきもと、藩士/国学) W 2 6 4 3
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・千野) → 方義(まさよし・千野ちの/源、藩士/神職/歌) Q 4 0 8 8
- 十郎兵衛(じゅうろべえ・河地) → 定興(さだおき・河地かわち、国学者/歌) O 2 0 3 6
- 重郎兵衛(じゅうろべえ・岡村) → 不ト(ふぼく・岡村おかむら、俳人) D 3 8 7 2
- 重郎兵衛(じゅうろべえ・三橋) → 鶴彦(つるひこ・三橋みつはし、歌人) E 2 9 6 6
- I2148 **秀和**(集和しゅうわ・大野おの、別号;相水翁/炭瓢斎)1651-1714⁶⁴ 江戸の武士/俳人;似春門、
1702轍士「花見車」入82、
[あづまにはもし黄きな桜赤き藤](花見車;82/出典;陸奥衛/桃隣への餞別句)、
(旅立つ東国陸奥には珍しいものがあるかもしれない;餞別まで貰ってうらやましい)
- 秀和(しゅうわ・本因坊14世) → 本因坊秀和(ほんいんぼうしゅうわ、棋士)
- 秀和(しゅうわ/ひでかず・小野寺) → 十内(じゅうない・小野寺、義士/歌人) I 2 1 1 8
- 秀和(しゅうわ/ひでかず?・吉永) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N 2 8 7 9
- 重和(じゅうわ/しげかず・荻田/荻野) → 安静(あんせい・荻田おぎた、俳/歌人) C 1 0 1 5
- I2149 **臭穢道人**(しゅうわいどうじん) ? - ? 洒落本:「北里懲愆録」訳(堤道凹居士作)
- M2189 **壽和利かた餅**(じゅうわりのかたもち)?-? 狂歌;1787「狂歌才蔵集」入、
[吹さらす磯辺の風のおとこ松若木とみえて寒さうもなし](才蔵集;六288)
- I2150 **酒云**(しゅうん) ? - ? 俳人、1676蝶々子「誹諧当世男」入
- Y2154 **寿雲**(じゅうん;道号・良椿りょうちん;法諱)?-1516 戦国期曹洞僧;儀菴妙順門;法嗣、
1504陸奥黒石の正法寺続灯庵に住;07正法寺住持、「正法清規」著、
1512「正法眼蔵」15「正法眼蔵弁道話」を書写
- Y2155 **朱英**(しゅえい;号) ? - ? 江中期俳人、1772几董「其雪影」1句入、
[物申ものまうやうぐひす答ふまばら垣](其雪影;巻尾230)
(透垣の家を訪ねてもものもうと案内を請うと鶯がほけきょうと答える)
- 守衛(しゅえい・高木) → 有制(ありのり・高木、藩士/国学) F 1 0 6 2
- 守盈(しゅえい・木俣) → 守盈(もりみつ・木俣きた、藩執権/連歌) J 4 4 8 2
- 取映(しゅえい・竹田) → 蘿亭(らてい・竹田たけだ、藩儒) B 4 8 4 8
- 種永(しゅえい・薬師寺) → 種永(たねなが・薬師寺やくしじ、砲術家) R 2 6 8 8
- 種英(しゅえい・朝江) → 種英(たねひで・朝江・浅江、儒/俳人) G 2 6 4 1
- 種英(しゅえい・原) → 白圭(しろき・原はら、藩儒/詩人) C 3 6 9 8
- 種栄(しゅえい・磯崎) → 種栄(たねひで・磯崎いそざき、本陣勤務/歌) V 2 6 6 4
- 種類(しゅえい・秋月) → 種類(たねひで・秋月、藩主/藩校創設) S 2 6 0 0
- 寿栄(しゅえい・片桐) → 源栄(げんえい・片桐かたぎり、歌人) B 1 8 2 9

寿英(じゅえい・佐竹/那須)→ 資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、幕臣) C 2 3 6 4
 寿永(じゅえい・岸/中山) → 琴主(ことぬし・中山/岸、音曲/八雲琴祖) F 1 9 8 1
 守盈齋(しゅえいさい) → 貫千(かんせん・四感亭、俳人) C 1 5 1 3
 寿榮齋(じゅえいさい) → 正方(まさかた・桑沢くわさわ、神道家) B 4 0 9 1
 守永親王(しゅえいしんのう) → 守永親王(もりながしんのう、南朝/歌人) G 4 4 1 3
 寿榮堂(じゅえいどう) → 芳瀆(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師) E 4 7 1 5
 守易(しゅえき・井面) → 守易(もりやす・井面いのも/荒木田、神職) G 4 4 6 9
 守易(しゅえき・木俣) → 守易(もりやす・木俣きまた/橘、藩老/楽焼) J 4 4 7 9
 守懌(しゅえき/しゅたく) → 自悦(じえつ・守懌、臨濟僧) P 2 1 6 6
 取益(しゅえき・前田綱紀)→ 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
 受益(じゅえき・新居) → 水竹(すいちく・新居にい、藩士/儒者) 2 3 8 1
 受益(じゅえき・大熊) → 峰麿(みねまろ・大熊おおくま、医者/歌人) I 4 1 3 5
 受益(じゅえき・三木) → 受益(つぐます・三木みき、藩士/国学者) G 2 9 4 3
 受益堂(じゅえきどう) → 十次郎(じゅうじろう・新渡戸にとべ、藩士) X 2 1 6 0
 主悦(しゅえつ・南部) → 信譽(のぶのり・南部なんぶ、藩主/歌) G 3 5 7 6
 寿右衛門(じゅえもん・蟹江)→ 観遊(かんゆう・蟹江かにえ、藩士/儒者) H 1 5 7 4

Y2156 **修円**(しゅえん;法諱・通称;櫻生禪師でいしょうぜんじ、俗姓;小谷)771-83565 大和北谷の法相僧;賢璟門、奈良末・平安期初め興福寺住/別当の少僧都;興福寺伝法院を開き初世、天台密灌;最澄門、顕教;義真門、義真没後遺命で延暦寺の総事に就任;反対にあい大和室生寺に移住、「法相燈明記」「因明秘心」「法華訓釈記」「法華消文記」「法華心随」「法華略断」「清辨量決」著、興昭・徳一・寿広・春徳の師

守遠(しゅえん・宮地) → 守遠(もりとお・宮地みやぢ、神職/国学) L 4 4 5 8
 珠淵(しゅえん) → 風徳(ふうとく・小林、俳人) 3 8 9 7

a2154 **壽円**(しゅえん;法諱) ? - ? 平安期僧;法師/歌;1165清輔[続詞花集]入、
 [日吉社の礼拝講(3月12-3日社前に行う法華八講)に定誓律師かはらけとりて、
 歌のなからをいへりければ、
 もとどりのなかにかくせる玉なればかみのひかりもけふはますらん]、
 (続詞花;物名940)

寿円(じゅえん;字) → 日舒(にちじよ;法諱・随信院、日蓮僧) C 3 3 3 1
 寿円(じゅえん・山崎) → 宗円(そうえん・山崎/源、幕府鍼医) G 2 5 3 2
 寿王(じゅおう・禅定院) → 禅定院壽王(ぜんじょういんのじゅおう、童/歌) O 2 4 9 1
 寿王(じゅおう・高島) → 千春(ちはる・高島/高嶋たかしま、絵師) F 2 8 1 9
 寿翁(じゅおう・黒岩) → 慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者;南学) B 2 1 0 5
 寿翁(じゅおう・梅沢) → 梅壽(ばいじゅ・梅沢うめざわ、書肆/俳人) B 3 6 4 4
 朱桜園(しゅおうえん) → 之晴(これはる・堀内ほりうち、藩士/国学者) R 1 9 2 7
 朱翁鶏告(しゅおうけいこう) → 鶏告(けいこう・山東、戯作/狂歌/画) E 1 8 5 3
 朱桜岡(しゅおうこう) → 守臣(もりおみ・中村なかむら、国学者/神道) F 4 4 2 3
 寿遠院(じゅおんいん) → 日浄(にちじょう;法諱・受源、日蓮僧) C 3 3 4 0

Y2157 **朱花**(しゅか) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
 [さむしろや雹あられ降りをく旅芝居](卯辰集;上四482)、
 (旅芝居を迎えるために敷かれた筵に霰が一面に降り残る)

守夏(しゅか・菌田) → 守夏(もりなつ・菌田/荒木田、神職/国学) G 4 4 1 4
 守雅(しゅが・井面) → 守雅(もりつね・井面いのも/荒木田、神職/国学) F 4 4 8 2
 守賀(しゅが・菌田) → 守賀(もりよし・菌田そのだ/荒木田、神職) K 4 4 2 4
 寿賀(じゅが) → 壽賀(すが)

Y2158 **主海**(しゅかい;法諱・号;不不外)?-? 1708存 肥前天台宗興国寿院住僧/のち常陸月山寺住、
 下野日光山に移住、会海の師、1661「摩訶止観円頓章折衷」80「六即敲門」、
 1690「金剛錚發硎」97「天台伝仏心印記佩綬」1708「減緑減行略決」外著多数、
 守快(しゅかい;法諱) → 宣存(せんそん/せんぞん;法諱、天台僧) M 2 4 8 7

- 種愷(しゅがい/たねひで・松室)→ 松峽(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説) S 2 2 1 1
 寿介(じゅかい・高橋) → 西山(せいざん・高橋たかはし、医者/歌人) O 2 4 2 5
 寿海老人(じゅかいろうじん) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合巻) 2 6 9 1
 珠顆園(しゅかえん) → 翠庵(すいあん・桃井/桃/坂根、藩儒/詩) 2 3 2 0
- 2167 朱角(しゅかく・松枝、別号;万水堂)?-? 仙台の俳人;三千風(1639-1707)門、
 1722[東往居士三千風翁塚]を同門共同で供養碑建立、朱滴(2世朱角)の師、
 [名の風や水想観の花かほる](三千風供養碑側の朱角の句)
 朱角(3世しゅかく) → 朱玉(しゅぎょく・鈴木すずき、藩士/俳人) Y 2 1 6 0
- 12151 壽角(じゅかく;号・立羽たちば、不角の次男)?-? 江中期1716-64頃江戸の俳人;父門/不扁ふけいの弟、
 父の庇護のもと高点月並句集・歳旦集を刊行、1735「二面鏡」36「紀行遅桜」39「俳諧力車」編、
 1747「日の恵」54「蟬の声」56「玉くしのは」57「春物語」58「虎嘯集」59「初日の出」63「亀の林」、
 1765「俳諧鏡山」編、「紀行二度の懸」「壽角派俳諧集」外編著多数、妻;菖花(;俳人)、
 [壽角(;号)の別号]松千堂/櫟翁れきおう
- 2151 守覚法親王(しゅかくほつしんのう、後白河天皇第二皇子)1150-1202⁵³ 母;藤原季成女の高倉三位成子、
 以仁王・式子内親王と同腹、1156(7歳)仁和寺入/60仁和寺北院で出家;覚性入道親王門、
 1169仁和寺の法灯を継嗣/70親王宣下、72六勝寺長吏/76二品、広沢・小野両流の伝授を受、
 經典編纂;「沢鈔」「沢見新抄」など、源平乱後義経に軍話を聞き記録、「右記」「左記」「愚抄」、
 「拾要集」「心秘抄」「野月鈔」「孔雀法経法関白次第」「諸尊護摩抄」「秘鈔」外著作百点以上、
 歌人;藤原教長門;1177古今集講述を受、1198-9「御室五十首」(守覚法親王五十首)主催、
 「北院御室御集」(守覚法親王集)、「守覚法親王百首」著、1200後鳥羽院[正治初度百首]参、
 勅撰37首;千載(9首28/157/227/262以下)新古(5首549/629/630/1563/1768)、
 新勅(1075/1296)続後撰(1190)続古(615/650)続拾(1051)新後撰(301)玉(5首)以下、
 [梅が枝の花にこづたふ鶯の声さへにほふ春のあけぼの](千載集;春28)、
 [天の戸のあくればやがてくる春は鳥のねよりぞ聞きはじめける](御室五十首;冒頭歌)、
 [守覚法親王(;法諱)の初法諱/通称]初法諱;守性、通称;仁和寺宮/喜多院御室
- 樹下子(じゅかし) → 幹雄(みきお・三森みつり、俳人) 4 1 6 8
 寿賀子(じゅがし・山田) → 寿賀子(すがこ・山田やまだ、歌人) I 2 3 0 5
 寿賀松(じゅがしょう・佐々木)→ 義教(よしのり・佐々木ささき/宮部、国学) I 4 7 0 4
 樹下石上(じゅかせきじょう、じゅげー)→ 石上(せきじょう・樹下、梶原) D 2 4 6 0
 壽賀蔵(じゅがぞう・伊藤) → 東峯(とうほう・伊藤いとう、儒者/詩文) H 3 1 1 5
 朱果堂(しゅかどう) → 素山(そざん・会田、藩士/御風門俳人) J 2 5 7 8
 樹下堂(じゅかどう・草山祖芳)→ 草山(そうざん;道号・祖芳;法諱、臨濟僧)H 2 5 4 5
- K2157 種寛(しゅかん・朝江/浅江あさえ、名;忠栄、種英男)1638-?1707存 京の俳人;立圃門、種英(俳人)の弟、
 1661(寛文元)俳壇に登場;10年かけて撰集を刊行、
 1670「俳諧詞友集」72「続詞友俳諧集」73「俳諧誘心集」編/71-73頃「俳諧作者之名寄」著、
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、1707「本朝儒名志」、「俳諧大概抄」「花軍」著、
 [風吹けば散りつ白波花の景](手鑑/伊勢物語;風吹けば沖つ白浪竜田川・・・)、
 歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]6首入、
 [咲きぬやと花にまかせて行く道の末はまよはぬ山の端もなし](麓の塵;春67)、
 [種寛(;号)の通称/別号]通称;小左衛門、別号;梅遊軒/一風子/可敬/風草軒
- 守官(しゅかん・安東) → 間庵(かんあん・安東あんどう、藩儒/詩文) P 1 5 9 2
 守観(しゅかん・三宅) → 縦台(しょうだい・三宅みやげ、儒者/詩文) U 2 2 0 7
 守貫(しゅかん・田中) → 守貫(もりつら・田中たなか、絵師/法橋) K 4 4 2 9
 守貫(しゅかん・常磐井) → 守貫(もりつら・常磐井ときわい、神職/歌人)K 4 4 5 0
 手巻(しゅかん・中山) → 手巻(たまき・中山なかやま、国学/名主) Y 2 6 6 5
- 12152 寿閑(じゅかん;号) ? - ? 江前期日向延岡藩士か?/俳人:
 1701延岡から江戸に赴く、狂歌・俳諧を嗜む、1701「吾妻之道記」著
- 寿閑(じゅかん・松元) → 正福(まさとみ・松元まつもと/塙、医者) S 4 0 7 4
 寿官(じゅかん) → 長興(ながおき・小槻、廷臣/歌/連歌) 3 2 0 5
 受環(じゅかん;法諱) → 玉崖(ぎょくがい;道号・受環、臨濟僧) O 1 6 8 5

P2127 **呪願**(じゆがん;法諱/法師、通称;式部卿)?-? 江中期真宗東本願寺派の僧、歌;冷泉家門、
江戸浅草東本願寺住僧、1798刊石野広通「霞関集」入、
[かかげぬるかひこそなけれ灯ともしびのもとより暗き窓の学びに]、
(霞関;雑1031/寄灯述懐)

酒鐘斎(しゆかんさい) → 湖十(3世こじゅう・深川、2世養子/俳人) C 1 9 8 4
 守紀(守起しゆき・山本) → 探淵(たんえん・山本やまと、絵師) K 2 6 0 4
 守貴(しゆき;名) → 尊常法親王(そんじょうほつしんのう、一乗院僧) F 2 5 5 6
 守熙(しゆき・栗阪) → 守熙(もりひろ・栗阪あわか、藩士/地誌) G 4 4 4 0
 守熙(しゆき/もりひろ・鶴沢) → 探索(たんさく・鶴沢つるさわ、絵師) I 2 6 7 5
 種季(しゆき・伊庭) → 種季(たねすえ・伊庭いば、国学) G 2 6 3 7
 種姫(しゆき→しなひめ・戸田) → 親子(ちかこ・戸田とだ/島津、藩主室/歌) N 2 8 0 2
 朱義(しゆぎ・赤田) → 臥牛(がぎゅう・赤田あかだ、酒造家/儒詩) B 1 5 3 0
 守義(しゆぎ・岩井) → 守義(もりよし・岩井いわい、地誌) G 4 4 9 4
 守義(しゆぎ・国枝) → 守義(もりよし・国枝くにえだ、詩人) G 4 4 8 6
 守義(しゆぎ・細川) → 守義(もりよし・細川、鍛冶職、郷土史) G 4 4 8 7
 守儀(しゆぎ・飯沼) → 守儀(もりよし・飯沼いぬま、藩士/伝記) G 4 4 8 2
 種義(しゆぎ・薬師寺) → 種義(たねよし・薬師寺やくじ、砲術家) S 2 6 1 4
 種義(しゆぎ・諏訪) → 種義(たねよし・諏訪すわ/上原、藩士/国学) X 2 6 6 6
 寿祺(じゆき・市原) → 蝶二(ちようじ;号・市原、商家/俳人) I 2 8 5 6
 寿季(じゆき・西園寺) → 実理(さねすけ・橋本/藤原/西園寺、権大納言/歌) D 2 0 0 9
 寿喜(じゆき・入江) → 石亭(せきてい・入江いりえ、書家/鑑定家) K 2 4 4 0
 寿吉(じゆきち・木野戸) → 勝誼(かつよし・木野戸きのと/豊田、神職) U 1 5 4 4
 需吉(じゆきち・河村) → 殷根(いんこん・河村、国学者) C 2 1 6 6
 種久(しゆきゆう) すべて → 種久(たねひさ)
 守躬(しゆきゆう・中神) → 守躬(もりみ・中神なかがみ、国学/歌) I 4 4 8 6
 寿弓(じゆきゆう・秋山) → 寿弓(すみ・秋山あきやま/塩谷、歌人) L 2 3 2 2
 守居(しゆきよ・有馬) → 守居(もりい・有馬ありま、藩家老/国学) J 4 4 1 2

I2153 **種莢**(しゆきよう・財津ざいつ) ? - ? 江中期随筆作者?、
1732-33「種莢翁昔物語(八十翁疇昔話/むかしむかし物語/新見老人むかし物語)」著、
(著者は新見正朝まさとも[1651-1742/92歳]説あり)

→ 正朝(まさとも・新見しみ/源、幕臣/随筆) E 4 0 6 9
 種喬(しゆきよう・白井) → 種喬(たねたか・白井しらい、藩士/医者) R 2 6 8 3
 守恭(しゆきよう・滝) → 松隠(しょういん・滝たき/赤松、儒・医者) G 2 2 8 1
 守郷(しゆきよう・輿石) → 守郷(もりさと・輿石こしい/山本、神職/歌人) K 4 4 0 0
 守業(しゆきよう/もりなり?・高木) → 篤庵(とくあん・高木、儒者) K 3 1 4 2
 寿郷(じゆきよう・戸谷) → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4
 寿郷(じゆきよう・岡) → 寿郷(ひさくに・岡おか、商家/国学) I 3 7 9 3

I2154 **壽暁**(じゆきよう、法師) ? - ? 鎌倉期僧/歌人:「津守和歌集」6首入・

住吉社祠官の津守家出身か、
勅撰7首;新後撰(881/1113;読人不知;津守集は寿暁法師)続千(2149)続後拾(1195)、
新千載(2108)新拾遺(1304)新後拾遺(1040)、
[何ゆゑに思ひすつべき我が身とてうきをばしのぶ心なるらん](続千載;異本歌2149)

I2155 **寿暁**(じゆきよう、青陽舎) ? - ? 晰家;1808落話会おとしばなしかい開催、

寿暁の落話会から1817朝寝房夢羅久の会までの摺物が三馬「落話会刷画すりえ帖」に入

種杏庵(しゆきようあん) → 寸長(すんちよう・片山/菅原、藩士/俳人) D 2 3 5 5
 修行庵(しゆきようあん) → 成美(せいび・夏目、俳人) 2 4 1 2
 守境靈社(しゆきようれいしゃ) → 復斎(ふくさい・山本、酒造/儒者/講説) B 3 8 5 1

Y2160 **朱玉**(しゆぎよく・鈴木すずき、名;通音)1704-8380 仙台藩士;代々作事方役人、俳:三千風/朱角門、
のち朱滴(朱角2世)門;高弟、1746「朱滴追善集」編、息子通春も俳人、
[朱玉(;号)の通称/別号]通称;十郎右衛門、別号;朱角3世/仙橋庵

- I2156 **朱玉**(しゅぎょく・黒沢くろさわ、別号;露月庵/朱玉2世)?-? 仙台の俳人:
1808三千風百回忌追善「ころもがえ」編(;三千風追善を弄我(4世朱角)・南山らと催)
種玉庵(しゅぎょくあん) → 宗祇(そうぎ・飯尾、歌/連歌作者) 2 5 0 6
珠玉山人(しゅぎょくさんじん) → 恵辨(えべん;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 2 3
守勤(しゅきん → しゅごん;法諱) → 惟忠(いちゆう;道号・守勤、曹洞僧) J 1 1 2 5
主金蘭(しゅきんらん) → 金蘭(きんらん・主、平安期漢学者) R 1 6 9 5
- Y2161 **肅**(しゅく・景山かげやま、別号;立碩)1774-1862⁸⁹ 伯耆会見郡中野村の町医の生、
京で医学・漢学を修得、帰郷後中野塾を開き子弟教育、「伯耆志」
- I2157 **俶**(しゅく/はじめ?・大田おおた、通称;定吉/号;鯉村、南畝男)?-? 漢学/詩人;父門、病弱?;仕官せず、
父と詩を唱和、狂歌作者、1806南畝「ひともと草」に狂文入
- 02198 **肅**(しゅく・須田すだ、) 1797 - 1845⁴⁹ 信濃飯田藩医、歌人;福住清風門、
[肅(;名)の字/通称/号]字;伯寛、通称;貞吉/橘蔵、号;筠堂いんどう/松蔭
祝(しゅく・武藤) → 虎峰(こほう・武藤むとう、藩士/儒者) G 1 9 6 7
肅(しゅく・藤原) → 惺窩(せいか・藤原、儒者) 2 4 0 3
肅(しゅく・安野) → 南岳(なんがく・安野やすの、儒者/詩文) I 3 2 7 6
肅(しゅく・岡田) → 半江(はんこう・岡田おかだ、文人画家) H 3 6 5 8
肅(しゅく・梅沢) → 西郊(せいこう・梅沢うめざわ、幕臣/漢学者) B 2 4 4 4
肅(しゅく・松本) → 魯堂(ろどう・松本まつもと/源、藩儒/城代) C 5 2 2 7
肅(しゅく・加藤) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1
肅(しゅく・小川) → 其瀾(きらん・小川おがわ、儒者) Q 1 6 4 6
肅(しゅく・杉本) → 祐憲(すけのり・杉本/平、儒詩/歌人) G 2 3 9 4
肅(しゅく・藤井) → 樗亭(ちよてい・藤井ふじい、医/詩文) K 2 8 4 2
肅(しゅく・山口/益田) → 遇所(ぐうしょ・益田ますだ/山口、篆刻家) C 1 7 2 4
肅(しゅく・大脇) → 自笑(じしょう・大脇おおわき/織田、幕臣) T 2 1 8 5
叔(しゅく・内田) → 鵜洲(ういしゅう・内田、儒者) B 3 0 0 9
叔(しゅく・井上) → 蘭台(らんだい・井上いのうえ、儒者/折衷学) C 4 8 9 1
叔(しゅく・村田) → 香国(こうこく・村田むらた、絵師/詩/書) I 1 9 7 9
淑(しゅく・能美) → 洞庵(とうあん・能美のうみ、藩士/医者) 3 1 8 3
淑(しゅく・田淵/小林) → 順堂(じゅんどう・小林こばやし/田淵、医者) L 2 1 6 0
淑(しゅく・中根) → 香亭(こうてい/きょうてい・中根、幕臣/史家) F 1 9 3 1
淑(しゅく・西邑) → 楫川(しゅうせん・西邑にしむら、儒者/詩人) H 2 1 9 3
夙(しゅく・鷹司/前田) → 隆子(たかこ・前田まえだ、歌人) L 2 6 8 5
- Y2162 **守愚**(しゅぐ・曾根そね) ? - ? 江後期文政天保1818-44頃遠江掛川の心学者:
大島有隣門/壺簪写に修学/1827より壺簪写で講話、屢々信濃高遠に赴き領内を巡講、
1829「積善録」訳、32「心学教訓道歌集」著、
[守愚(;名)の通称] 直次郎
守愚(しゅぐ・朝山) → 意林庵(いりんあん・朝山、儒/仮名草子) 1 1 3 0
守愚(しゅぐ → もりみ・船越) → 清蔵(せいぞう・船越ふなこし、藩士/勤王家) D 2 4 2 0
宿阿弥陀仏(しゅくあみだぶつ) → 託阿(たくあ;法諱、時宗僧/遊行7世) E 2 6 1 7
祝阿彌(しゅくあみ) → 行成(ゆきなり・一気、料亭主人/狂歌) F 4 6 1 6
淑蔭(しゅくいん・井上) → 淑蔭((よしかげ・井上、国学者/歌) 4 7 0 5
叔英(しゅくえい;道号) → 宗播(そうは;法諱・叔英;道号、臨濟/五山文学) C 2 5 7 6
淑英(しゅくえい・斎藤) → 柳之(りゅうし・斎藤/藤とう、絵師/能書) E 4 9 4 5
叔悦(しゅくえつ;道号・禅懺) → 禅懺(ぜんえき;法諱・叔悦、臨濟僧) E 2 4 9 2
- Y2163 **菽園**(しゅくえん・宮永みやなが、名;坦、正好男)1795-1867⁷³ 越中砺波下川崎村の儒者;1814三宅橋園門、
1838熊本藩主細川家に出仕;大坂藩邸で経学講義/53致仕帰郷、福光村で子弟教育、
「和歌語」「和書語」、1851「名類」著、大倉たいそうの兄、
[菽園(;号)の字/通称]字;叔蕩、通称;直三/直三郎/叔平
- Y2164 **縮往**(しゅくおう・佐々木ささき、藩医佐々木道安男)1649-1734⁸⁶ 長門萩の儒者;家学を受、

萩藩儒員;藩主毛利綱広の庶子監物の侍講/1696藩主吉広の伽役;1718致仕、
絵師;明人の画法を修得、「両関唱和集」著、張方平・井上親明の師、
[縮往(;)号)の幼名/字/通称]幼名;次郎、字;洸真ぶっしん、通称;平太夫

Y2165 **肅翁**(しゅくおう・小林こばやし、名;貞亮)?-?;寛政1787-1801頃没75歳 大和五条の代々医者、
上京し甲賀家入門/儒;石王塞軒門、帰郷し医を継ぐ、「孟子記聞」著、「肅翁遺稿」、
[肅翁(;)号)の字]字;士彦/子彦しげん

粥翁(しゅくおう) → 周竹(初世しゅうちく・清水、医者/俳人) I 2 1 0 7
叔翁(しゅくおう・秦) → 致(いたす・秦はた、商家/国学) K 1 1 5 6
叔果(しゅくか・芳野) → 金陵(きんりょう・芳野よし、儒者) E 1 6 9 3
叔華(しゅくか・新山/津高) → 勤斎(きんさい・小亀こがめ、書肆/韻学) I 1 6 9 8
叔華(しゅくか・鈴木) → 主税(ちから・鈴木/海福、藩政刷新/歌) C 2 8 3 0
叔稼(しゅくか・上田) → 竜郊(りゅうこう・上田うえだ、儒者/教育) D 4 9 8 5
叔牙(しゅくが・森) → 狙仙(せんそせん・森もり、絵師) D 2 5 9 5
椒芽田楽(しゅくがでんがく → きのめでんがく) → 田楽(でんがく・椒芽きのめの・戯作) D 3 0 2 5
叔幹(しゅくかん・坂本) → 俊貞(としさだ・坂本/阪本、砲術家/漢学) M 3 1 4 8
叔貫(しゅくかん・力石) → 癡々(ちち・力石ちからいし、藩士/篆書家) E 2 8 7 4
叔間(しゅくかん・津島) → 北溪(ほっけい・津島つしま、医者/漢学) E 3 9 6 1
叔寛(しゅくかん・春日) → 載陽(さいよう・春日かすが、医者/儒者) O 2 0 2 8
叔貴(しゅくき・中井) → 瓮庵(しゅうあん・中井なかい、心学者) 2 1 4 0
叔亀(しゅくき・太田) → 全斎(ぜんさい・太田、藩士/音韻研究) F 2 4 4 2
叔規(しゅくき・佐竹) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9
叔義(しゅくぎ・頼) → 春風(しゅんぷう・頼らい、儒者/医者/詩) K 2 1 4 2
叔義(しゅくぎ・宮地) → 維則(これのり・宮地、医者/本草家) O 1 9 7 1
叔義(しゅくぎ・岡野) → 石城(せきじょう・岡野/河合、藩士/儒者) D 2 4 5 5
菽吉(しゅくきち・山崎) → 宗徳(そうとく・山崎/多紀、幕府/鍼医) I 2 5 5 9
叔魚(しゅくぎょ・人見) → 璣岳(きゅう・人見ひとみ、藩士/詩歌) G 1 6 3 0

Y2166 **叔京**(しゅくきょう;道号/天隠;初道号・妙禰みょうき;法諱)1372-143665 甲斐臨濟僧;絶海中津門/法嗣、
撰津広厳寺・山城真如寺住持、1425相国寺住持の公帖を受;入院せず、
京嵯峨に松泉庵を開創;退隠、1423「仏智広照浄印翊聖国師年譜」/28「仏国国師行録」編

叔享(しゅくきょう・中岡) → 益(えき・中岡なかおか、医者) D 1 3 6 1
叔恭(しゅくきょう・森/源) → 楓斎(ふうさい・森もり、書家/儒者) 3 8 6 7
釈空(しゃくくう;法名) → 為定(ためさだ・二条/御子左/藤原、廷臣/歌人) 2 6 5 9
叔卿(叔馨しゅくけい・原田) → 霞裳(かしよう・原田はらだ、藩士/儒者/詩) L 1 5 9 3
叔卿(しゅくけい・横須賀) → 静斎(せいさい・横須賀よすか、儒者/教育) I 2 4 3 4
叔卿(しゅくけい・細川) → 頼直(よりなお・細川ほそかわ、郷士/暦算家) J 4 7 2 5
叔卿(しゅくけい・佐々木) → 柳庵(りゅうあん・佐々木ささき/青山、儒者) C 4 9 6 8
叔慶(しゅくけい・本間) → 築山(ちくざん・本間ほんま/土門、儒者) B 4 8 2 0
肅月斎(しゅくげつさい) → 鴉山(あざん・肅月斎、田代定直、狂歌) C 1 0 6 9
叔建(しゅくけん・奥田) → 鶯谷(おうこく・奥田、儒者) C 1 4 1 0

I2158 **宿源**(しゅくげん・大尊院) ? - ? 連歌、1582光秀の愛宕百韻参加

Y2167 **熟軒**(じゅくけん・武田たけだ、名;敬孝ゆきたか、敬忠長男)1820-8667 伊予大洲藩士、儒;常磐井厳戈門、
のち藩校明倫堂で山田東海門、1839父の代勤として江戸在番;昌平黌入学、
大橋訥庵・佐藤一斎門/兵学や諸学を修学、明倫堂教授/藩主侍講;藩論を勤王に導く、
諸藩間を国事に奔走/維新後;藩の中枢で改革に貢献、矢野玄道と親交、成章しげあやの兄、
「兼逸楼集」編/1862「山陵叢書」編、「武田敬孝詩稿」「老子集解」、

[熟軒(;)号)の通称/別号]通称;勘八/亀五郎、別号;韜軒/伯佐/伯経/天経、法号;瑞雲院

叔虎(しゅくこ・深井) → 松斎(しょうさい・深井/深、藩士/儒/兵学) I 2 2 9 6
叔虎(しゅくこ・和久田) → 叔虎(よしとら・和久田わくだ、藩士/儒/医者) F 4 7 1 0
肅公(しゅくこう;諡号) → 綱条(つなえだ・徳川/松平/源、藩主) B 2 9 0 2
叔工(しゅくこう・塩見) → 利次(としつぐ・塩見しおみ、蝦夷記録) M 3 1 8 6

- 叔考(しゅくこう・熊谷/田辺)→ 簡斎(かんさい・田辺たなべ、藩士/儒者) Q 1 5 5 4
叔孝(しゅくこう・有吉) → 葳器(ぞうき・有吉ありよし、儒者/教育) 2 5 9 7
叔興(しゅくこう・阿部) → 玄喜(げんき・阿部あべ、医者/絵師) I 1 8 3 6
叔弘(しゅくこう・布施) → 胤毅(たねたけ・布施ふせ、幕臣/典故) R 2 6 8 4
淑光(しゅくこう・紀) → 淑光(よしてる/よしみつ・紀き、廷臣/歌人) E 4 7 7 9
俣香(しゅくこう・立花) → 鑑通(あきみち・立花、藩主/詩歌俳) D 1 0 9 4
肅齋(しゅくさい・松本) → 重文(しげふみ・松本まつもと、藩士/儒者) S 2 1 5 3
淑斎(しゅくさい・酒井) → 喜熙(よしひろ・酒井さかい、藩士/文筆家) G 4 7 6 6
叔三郎(しゅくさぶろう・佐枝)→ 種重(たねしげ・佐枝さえた、射術家) R 2 6 8 1
- I2159 肅山(しゅくざん、久松ひさまつ)? - ? 伊予松山藩士、俳人;其角門、
1690其角「花摘」の閑興六歌仙入/90其角「いつを昔」94其角「句兄弟」入、「雑談集」入、
1697其角「末若葉うらわかば」入
- 祝山(しゅくざん・松平) → 定通(さだみち・松平まつだいら、藩主/教育) J 2 0 7 7
叔子(しゅくし・津田) → 永忠(ながただ・津田、藩士/藩政改革) 3 2 1 2
叔子(しゅくし・斎/斎藤) → 静斎(せいさい・斎いつき/斎藤/斎宮、儒者) B 2 4 5 7
叔子(しゅくし・山梨) → 稻川(とうせん・山梨やまなし、漢学者/音韻) 3 1 1 9
淑子(しゅくし・北島) → 淑子(すみこ・北島きたじま/甘露寺、歌人) I 2 3 4 0
淑氏(しゅくし・紀) → 淑氏(よしうじ・紀き、神職/歌人) C 4 7 2 0
肅之(しゅくし・滝川) → 南谷(なんこく・滝川たきがわ、幕臣/詩人) J 3 2 0 0
叔瑟(しゅくしつ・片山) → 兼山(けんざん・片山かたやま、儒者/経学) 1 8 1 5
- I2161 肅子内親王(しゅくしなしいんおう・すみこ・としこ、後鳥羽天皇皇女)1196-? 母;源信康女の丹波局(兵衛局)、
鎌倉期;1199-1210斎宮、1204異母妹礼子内親王と共に准三后、歌人;新続古今913、
[植ゑおきて花の都へかへりなば恋しかるべき女郎花かな](新続古今;913)、
(伊勢から帰京の時の詠歌)、
[肅子内親王(;名)の通称] 高辻斎宮
- I2160 祝子内親王(しゅくしなしいんおう、花園天皇皇女)?-? 母;葉室頼任女の冷泉(;天皇の女房)、
南北期;1346内親王(園太暦入)、歌人;京極派、風雅集10首(380/432/582/761/983以下)、
[松のうへに月のすがたも見えそめてすずしくむかふ夕暮れの山](風雅;夏380)
母; → 冷泉(れいぜい・花園院典侍、歌人) 5 1 4 5
- 叔緝(しゅくしゅう・松浦) → 熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革) H 3 7 4 5
叔重(しゅくじゅう・神代) → 鶴洞(かくどう・神代かみしろ、儒者) K 1 5 2 8
淑俊(しゅくしゅん・紀) → 淑俊(よしとし・紀き、歌人) E 4 7 8 9
叔順(しゅくじゅん・柘植) → 竜洲(りゅうしゅう・柘植つげ/柘、医者) E 4 9 5 7
叔潤(しゅくじゅん・小川) → 白堂(はくどう・小川おがわ/杉山、藩医/詩) D 3 6 7 1
叔章(しゅくしょう・神田/奥山)→ 金陵(きんりょう・奥山、医者/詩文) S 1 6 1 5
叔尚(しゅくしょう・海老名)→ 翹斎(ぎょうさい・海老名えびな、儒者) N 1 6 8 4
叔襄(しゅくじょう・西) → 鼓岳(こがく・西にし、儒者) F 1 9 4 9
叔穰(しゅくじょう・大石) → 鳳蕉(ほうしゅう・大石、儒者/和算家) B 3 9 7 3
- Y2168 叔親(淑親しゅくしん・清中亭せいちゅうけん)?-? 江後期江戸中橋の煙草屋、洋学;大槻玄沢門?、
1815「目さまし草」;玄沢の「薦録えんろく」(;煙草に関する考証)を抜粋仮名書きで著
- 叔信(しゅくしん・田中) → 成之(しげゆき・田中、藩医/本草家) T 2 1 0 4
淑信(しゅくしん・橋) → 淑信(よしのぶ・橋たちばな、廷臣/詩人) F 4 7 5 4
淑人(しゅくじん・福永) → 淑人(義人/祥人よしと・福永ふくなが、儒者) E 4 7 8 2
淑慎齋(しゅくしんさい) → 鳴門(めいもん・井川いかわ/橋、書家/絵師) 4 3 4 0
叔清(しゅくせい・鈴木) → 胤(朗あきら・鈴木、儒/国学者/歌人) 1 0 1 3
叔清(しゅくせい・本田) → 山雪(さんせつ・本田ほんだ、書家) M 2 0 5 3
叔成(しゅくせい・菊池/関口)→ 衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人) 1 9 8 5
叔靖(しゅくせい・多田) → 誠明(ともあき・多田ただ、藩士/儒者) P 3 1 1 1
宿成(しゅくせい→やどなり) → 宿成(やどなり・雪木庵、宿屋/狂歌) D 4 5 8 7
釈誠寿(しゅくせいじゅ;法名)→ 勇(いさむ・女賀めが/目賀、藩士/故実家) F 1 1 5 2

叔先(しゅくせん・秋山) → 白賁堂(はくびどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4
 肅叟(しゅくそう・正住) → 弘美(こうび・正住しょうじゅ、絵師/茶道) B 1 9 8 6
 肅叟(しゅくそう・岡村) → 鳳水(ほうすい・岡村/岩佐、絵師) B 3 9 9 4
 叔蔵(しゅくぞう・北角/成島) → 衡山(こうざん・成島、幕臣/漢学/歌) J 1 9 2 6
 叔蔵(しゅくぞう・藤/藤原) → 貞幹(さだもと・藤原、国学/故実家) 2 0 2 7
 祝村(しゅくそん・伊達) → 斉村(なりむら・伊達、仙台藩主/詩) I 3 2 3 1
 叔泰(しゅくたい・志鎌/新井) → 精斎(せいさい・新井/志鎌、医者/俳人) I 2 4 2 3
 叔達(しゅくたつ・荻生) → 北溪(ほっけい・荻生/物部/物、儒者) E 3 9 5 8
 叔達(しゅくたつ・細井) → 東陽(とうよう・細井、医/本草学) H 3 1 8 5
 叔達(しゅくたつ・今井) → 柳荘(りゅうそう・今井いまい、代官/俳人) F 4 9 0 3
 叔達(しゅくたつ・長野) → 芳斎(ほうさい・長野/月形、藩士/儒者) 3 9 8 4
 叔達(しゅくたつ・江邸) → 磊堂(らいどう・江邸えむら/田中、藩医) 4 8 8 7
 叔統(しゅくたん・林) → 述斎(じゅっさい・林/松平、幕府儒官) I 2 1 9 4
 叔潭(しゅくたん・石/石川/石河) → 大凡(たいぼん・石川/石河、儒者) C 2 6 2 1
 叔諫(しゅくちやう・西尾) → 為忠(ためただ・西尾、漢学/勤王家) D 2 6 1 2
 叔通(しゅくつう・柏) → 夢江(むこう・柏かしわ、儒者/詩人) 4 2 5 0
 叔通(しゅくつう・藤咲) → 僊潭(せんたん・藤咲ふじさき、儒者/藩士) M 2 4 9 2
 叔哲(しゅくてつ・浅田) → 信明(のぶあき・浅田三堂、医者) 3 5 7 6
 叔蕩(しゅくとう・宮永) → 菽園(しゅくえん・宮永みやなが、儒者) Y 2 1 6 3
 叔同(しゅくどう・茅原) → 虚斎(きょさい・茅原ちはら、医者/和漢学) P 1 6 5 0
 叔道(しゅくどう・物/荻生) → 金谷(きんこく・荻生おぎぎゅう/物、儒者) D 1 6 9 9
 叔道(しゅくどう・工藤/川崎) → 也魯斎(やろさい・川崎/工藤、藩士/儒者) E 4 5 3 9
 叔道(しゅくどう・阿部) → 正弘(まさひろ・阿部、藩主/老中/条約) H 4 0 0 1
 縮堂(しゅくどう・島地) → 黙雷(もくらい; 法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2
 叔徳(しゅくとく・鈴木) → 益堂(えきどう・鈴木すげき、儒者) D 1 3 6 8
 叔徳(しゅくとく・佐久間) → 草偃(そうえん・佐久間さくま、絵師) G 2 5 3 4
 熟寐(じゅくね・酒上さけのうえの) → 瓢空酒(ひさごのからざけ) B 3 7 0 2
 叔寧(しゅくねい・笠原) → 貞康(さだやす・笠原かさばら、藩士/国学) O 2 0 2 7
 寂然堂(じやくねんどう) → 柳昌(りゅうしょう・朝岡あさおか、藩士/儒者) E 4 9 6 8
 祝之丞(しゅくのじやう→ときのじやう・松平) → 久貞(ひささだ・中川なかがわ/松平、藩主) B 3 7 0 5
 叔貔(しゅくひ・冢/冢田) → 大峯(たいほう・冢田/塚田/冢、儒者) C 2 6 1 8
 叔飛(しゅくひ・北角/成島) → 衡山(こうざん・成島、幕臣/漢学/歌) J 1 9 2 6
 叔飛(しゅくひ・加藤/園山) → 西山(ゆうざん・園山そのやま/加藤、藩儒) B 4 6 9 7
 叔豹(しゅくひやう・村松) → 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/松、農家/藩儒) B 5 2 3 0
 肅夫(しゅくふ・岡) → 鳳鳴(ほうめい・岡おか、儒者/書) C 3 9 5 3
 叔復(しゅくふく・大田) → 晴軒(せいけん・大田、錦城男/漢学者) B 2 4 2 6
 淑文(しゅくぶん・紀) → 淑文(よしふみ・紀き、廷臣/神職/歌) G 4 7 8 1
 肅文(しゅくぶん・市島) → 岱海(たいかい・市島いちじま、医/儒/詩文) J 2 6 4 2
 叔文斎(しゅくぶんさい) → 忠知(ただとも・前田まえだ、文筆家) Q 2 6 1 5
 叔平(しゅくへい・宮永) → 菽園(しゅくえん・宮永みやなが、儒者) Y 2 1 6 3
 祝甫(祝保しゅくほ・中島) → 宜門(よしかど・中島/幸田、藩士/歌人) C 4 7 9 6
 叔芳(しゅくほう: 字・間宮) → 永好(ながよし・間宮まみや、国学/歌人) G 3 2 4 7
 叔謀(しゅくぼう・西尾) → 為忠(ためただ・西尾、漢学/勤王家) D 2 6 1 2
 淑望(しゅくぼう・紀) → 淑望(よしもち・紀き、廷臣/詩歌人) 4 7 2 8
 俶丸(しゅくまる・東久世) → 通岑(みちみね・東久世ひがしぐせ、廷臣/歌・書) K 4 1 2 4
 祝嶺親方(しゅくみねうえかた) → 文溥(ぶんぷ・蔡さい、琉球漢詩人) G 3 8 3 6
 Y2169 叔苗(しゅくみょう; 道号・玄芳げんぼう; 法諱)?-1768 曹洞僧: 圭立法環(大梅1682-1757) 門; 法嗣、
 信濃如法寺21世/東勝寺2世住持、「宝寿大梅和尚年譜」編
 叔民(しゅくみん・三宅) → 沃地(よくち・三宅みやげ/清原、儒者) B 4 7 7 4
 叔明(しゅくめい・内田) → 鵜洲(ていしゅう・内田、儒者) B 3 0 0 9

- 叔明(しゅくめい・斎藤) → 桃源(とうげん・斎藤、儒者/詩) D 3 1 4 3
叔明(しゅくめい・緒方) → 蘭阜(らんこう・緒方おがた、医者/儒者) C 4 8 0 0
叔明(しゅくめい・木原/平賀) → 中南(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者) G 2 8 7 8
叔明(しゅくめい・市原) → 政寛(まさひろ・市原いちばら、絵師) H 4 0 0 0
淑明(しゅくめい・大橋) → 白鶴(はつかく・大橋/富川とみかわ、儒者) F 3 6 0 8
叔茂(しゅくも・菊池/関口) → 衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人) 1 9 8 5
淑茂(しゅくも/よしもち・増子) → 毅斎(きさい・増子まじこ、藩士/文筆家) K 1 6 4 5
叔問(しゅくもん・解良) → 栄綿(よしつら・解良けら、国学/栄重の父) K 4 7 3 8
- 12162 夙夜(夙也しゅくや・竹村たけむら、名;昌成、通称半右衛門) 1780-1867⁸⁸ 京生/尾張藩重臣織田氏家隸、
俳人;椿堂/蒼虬門、執筆、1822「鶴巢日記」編、31「海内千家集」35「さとかへり」「還卿集」、
1843「月の光」49「葉ふたつ」58「刈跡集」62「冬かれ」編/67「花供養」、「俳諧四季発句集初篇」編
[夙夜の別号] 鶴叟/鶴巢/可悦/止丘軒
- 夙夜(しゅくや・浅井) → 凶南(となん・浅井、医/本草/詩) O 3 1 5 6
夙夜堂(しゅくやどう) → 洲尾(しゅうび・巖田いわた、儒者/詩文) Y 2 1 2 5
叔友(しゅくゆう・野田) → 石陽(せきよう・野田、藩士/儒;徂徠学) D 2 4 9 3
叔雄(しゅくゆう・伴) → 香竹(こうちく・伴ばん、国学者;歌/書) B 1 9 6 9
叔養(しゅくゆう・服部) → 修蔵(しゅうぞう・服部はつとり、藩士/儒者) H 2 1 9 8
叔燁(しゅくよく・手塚/原) → 古処(こしょ・原はら、儒者/詩人) C 1 9 9 4
叔鷹(しゅくよう・高橋) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4
叔栗(しゅくりつ・栗田) → 寛(ひろし・栗田、国学者) F 3 7 9 5
叔良(しゅくりよう・脇) → 有貴(ありたか・脇わき、儒者) F 1 0 3 7
祝琳斎(しゅくりんさい) → 其一(きいつ・鈴木すずき、抱一門絵師) E 1 6 9 5
叔厲(しゅくれい・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7
宿鷺亭(しゅくろてい) → 桃妖(とうよう・長/長谷部、旅宿業/俳人) H 3 1 7 3
叔和(しゅくわ・西宮) → 宣明(のぶあき・西宮にしのみや、藩士/国学) 3 5 7 7
守訓(しゅくん・井面) → 守訓(もりのり・井面いのも/荒木田、神職/国学/歌) G 4 4 2 4
- Y2170 守慶(しゅけい;法諱) ? - ? 江戸上野の天台宗寛永寺春性院住僧、
「当山子院歴代記」著
- N2117 主計(しゅけい/かづえ・朝比奈あさひな/本姓;鈴木) 783-? 遠江佐野郡日坂町の日坂八幡宮神主、
歌人/1828気吹舎いぶさきや訪問、
主計(しゅけい) 訓はすべて → 主計(かづえ)
- 守景(しゅけい・久隅) → 守景(もりかげ・久隅くすみ、絵師) F 4 4 2 4
守景(しゅけい・北河原) → 守景(もりかげ・北河原きたがわら、藩士/文筆) F 4 4 2 5
守敬(しゅけい・菌田) → 守敬(もりよし・菌田/荒木田、神職/歌) G 4 4 8 3
守敬(しゅけい・兵頭) → 守敬(もりよし/もりたか・兵頭/常磐井、神職) G 4 4 8 5
守継(しゅけい・辻) → 守継(もりつぐ・辻つじ、歌人/連歌) K 4 4 5 7
種継(しゅけい・藤原) → 種継(たねつぐ・藤原ふじむら、長岡京建設) 2 7 9 1
- 12163 寿桂(じゅけい;法諱・月舟;道号、江見伊豆守男) 1470-1533⁶⁴ 近江臨濟僧:正中祥瑞門/嗣法、
1210建仁寺246世/晩年は同寺妙喜庵内に一華軒を建立隠棲、五山文学で活躍、実隆と親交、
「幻雲文集」「幻雲詩藁」「続幻雲文集」「月舟録」「攢花集」「蒲生集抄」、「続錦繡段」編、
聯句;1521「新宰相月舟等和漢聯句」29「中御門大納言月舟等和漢聯句」、「月舟和尚語録」
[月舟寿桂の号] 幻雲/中孚道人/橘洲/柴桑
- 2152 寿慶(じゅけい;号、乗音軒) ? - 1552^{or3} (80歳頃没) 戦国期伊勢河村の連歌作者;宗祇門、書家、
1496頃より宗祇会席の執筆;その懐紙の楷法が世の規範となる、1518宗長「東山千句」参、
1525加賀に下向;畠山義総の信任を得る、1532(天文初年)頃より連歌活動旺盛;
三好長慶・大覚寺義俊・宗牧・宗養・近衛植家と同座;百韻多数、
1537能親「伊予千句」第二発句、1551義隆「宮島千句」参加、「寿慶附句集」「寿慶発句」著、
「揚波あげ集」(寿慶の句を没後に遺弟編纂)、
追善「寿慶追福何人百韻」(1554長慶・宗養・紹巴三吟)あり、
[わかれて後のちぎりはかなし 天地にわがうき事やみちぬらん](揚波集)

- I2164 **寿敬**(じゅけい・近藤こんどう、名;久五郎)?-? 江戸の代々射御(弓術・馬術)家、幕臣;將軍麾下、致仕後変名し任侠となる;伊豆下田住/のち駿河住、茶・香・歌・鎗劍・書画・鑑定を修得、詩人矢入葛溪と親交、山梨稲川「思旧漫録」記事入
- Y2171 **寿桂**(じゅけい・菅かん、号;玄々亭)?-? 江戸期尾張葉栗郡の郷土史家、「美濃旧蹟誌」
- 受卿(じゅけい・金内) → 格三(かくぞう・金内かねうち、儒者) K 1 5 1 8
 寿敬(じゅけい・池永) → 碧於亭(へきおてい・池永いけなが、漢学/詩) 2 7 8 6
 寿卿(じゅけい・岡) → 雀汀(かくてい・岡おか、儒者/詩人) K 1 5 2 2
 孺卿(じゅけい・三井) → 親和(しんな・三井みつゐ、書家/篆刻) P 2 2 5 0
 寿計齋(じゅけいさい・豊島) → 之辰(ゆきたつ・豊島とよしま、和算家) E 4 6 7 9
 樹下翁(じゅげおう) → 宇右衛門(うえもん・樹下じゅげ、心学者) C 1 2 0 5
 樹下山人(じゅげさんじん) → 石上(せきじょう・樹下、浄/黄表紙) D 2 4 6 0
 樹下石上(じゅげせきじょう) → 石上(せきじょう・樹下じゅげ、梶原、黄表紙) D 2 4 6 0
 樹下先生(じゅげせんせい) → 宇右衛門(うえもん・樹下、心学者) C 1 2 0 5
 菜月(しゅげつ、菜月洞) → 晋流(晋柳しんりゅう・藤井/近藤、商家/俳人) 2 2 9 1
 種月堂(しゅげつどう) → 恵鑑(えとう;法諱・玉絃、本願寺僧派僧) E 1 3 1 3
 守月堂(しゅげつどう) → 一壺(いっこ・守月堂、俳人) E 1 1 6 1
- I2165 **菜軒**(しゅけん・隠岐おき、名;秀明、米津左五兵衛正栄男)1743-8846 隠岐宇右衛門朝栄養の養嗣子、大坂城番与力、儒/詩;片山北海門、混沌社友、尾藤二洲・頼春水と交流、学川「野史詠」入、「菜萸しゅけん集」著、
 [菜軒(;号)の字/通称]字;子遠/誠甫、通称;造酒みき/宇右衛門
- 守見(しゅけん・泰円:道号) → 泰円(たいえん・守見、曹洞僧) J 2 6 2 1
 守謙(しゅけん・三井) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1
 守謙(しゅけん・富田) → 文山(ぶんざん・富田とみた、藩士/詩文) F 3 8 4 4
 守堅(しゅけん・井面) → 守堅(もりかた・井面いのも/沢田、神職) J 4 4 1 5
- P2114 **朱絃**(しゅげん) ? - ? 俳人、1686仙化「蛙合」/90不卜「続の原」入、
 [僧いづく入相いはひのかはづ亦また淋さびし](蛙合;七番左13)
- Y2172 **酒彦**(しゅげん;通称、本名不詳)?-? 幕末期陸前栗原郡の文筆家、1850「社倉解話」著
- H2138 **守源**(しゅげん;法諱) ? - ? 幕末・明治期の天台僧;
 天台僧守脱の講説の筆記・板行に務める、守脱「十不二門指要鈔講述」編
- 種言(しゅげん/たねとき・平野) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) 1 7 0 6
 守元(しゅげん・藤林) → 守元(もりもと・藤林ふじばやし/三谷泰作、医者) L 4 4 5 0
 守彦(しゅげん・小尾) → 守彦(もりひこ・小尾おび、蕪庵3世、里正/俳人) I 4 4 5 8
- Y2173 **寿軒**(じゅけん・八島やしま、別号;泉重院、左衛門男)1658-173073 父は加藤清正の家臣、修験僧、医者;道固門、修験;羽前田川郡大山松倉山観世音の別当意寿坊本達の跡を継承;第5世、「荘内往来」「夜学往来」「魚類青物合戦」著、妻;栗本良意(;医者)女
- Y2174 **寿軒**(じゅけん、薬師寺やくしじ)?-? 江後期摂津兵庫の医者/法橋1800刊「麻疹便覧」著、
 [寿軒(;通称)の字] 正長
- 寿軒(じゅけん・小村) → 松庵(しょうあん・小村こむら、和算家) G 2 2 5 7
 寿軒(じゅけん・久保) → 長秋(ながあき・久保、医/国学者) D 3 2 1 3
 寿軒(じゅけん・堤) → 大防(だいぼう・堤つみ、医者/歌人) Y 2 6 3 2
 寿軒(じゅけん・吉村) → 宣徳(のぶのり・吉村よしむら、家老/歌) C 3 5 7 5
- I2166 **寿玄**(じゅげん;法諱、法師)? - ? 平安中期の僧/歌人;996「如意宝集」入、
 貴顕の経供養の法師の従僧を務める;拾遺集532、
 [いな折らじ露に袂たもの濡れたらば物思ひけりと人もこそ見るみれ](拾遺集;雑532)、
 (詞書;法師の従僧の控えの間に簾内から女の「花を折りて」の声に答えて)
- 壽原(壽元じゅげん・殿村) → 文子(ふみこ・殿村とのむら、国学/歌) I 3 8 5 2
 受源(受玄じゅげん) → 日浄(にちじょう;法諱・寿遠院、日蓮僧) C 3 3 4 0
 守玄院(しゅげんいん) → 日顕(にちぎ;法諱・玄静、日蓮僧) B 3 3 2 0
 守玄院(しゅげんいん) → 日誠(にちじょう;法諱、日蓮僧) C 3 3 3 7
 守玄院(しゅげんいん) → 日禅(にちぜん;法諱・了然、日蓮僧) C 3 3 6 4

守玄院(しゅげんいん) → 日顔(にちりょう;法諱、正覚院、日蓮僧) D 3 3 5 9
 守玄院(しゅげんいん) → 日親(にっしん;法諱、日蓮僧) E 3 3 4 1
 守元斎(しゅげんさい) → 憲蔭(のりかげ・山本、神職/神道家) E 3 5 3 4
 寿硯斎(じゅげんさい) → 直矩(なおのり・新居にい、神職) C 3 2 0 7
 守古(しゅこ・森田) → 千庵(せんあん・森田もりた、蘭医者) L 2 4 5 5
 守古(しゅこ・上山) → 青樹(せいじゅ・上山うえやま、藩士/日記) I 2 4 6 0

P2142 種好(しゅこう・吉村よしむら) ? - ? 河内弓削俳人、1659胤及「匏脣かんなくず集」66吉竹「遠近集」、
 1681「西鶴大矢数」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入

守幸(しゅこう) → 守幸(もりゆき、神職/連歌) I 4 4 5 3
 守光(しゅこう・町/広橋) → 守光(もりみつ・広橋/藤原/町、贈内大臣/故実) G 4 4 6 1
 守広(しゅこう・依田) → 守広(もりひろ・依田よだ、鷹匠) G 4 4 3 8
 守広(しゅこう・木村) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
 守孝(しゅこう・原) → 守孝(もりたか・原はら、陪臣/国学) L 4 4 0 9
 守考(しゅこう・座田) → 重就(しげなり・座田さいた/紀、廷臣/絵師/歌) O 2 1 5 9
 守高(しゅこう・永野/富田) → 春山(しゅんざん・富田、医者/詩人) K 2 1 8 2
 守恒(しゅこう・二宮) → 守恒(もりつね・二宮にのみや、神職/国学) F 4 4 8 4
 守綱(しゅこう・渡辺) → 守綱(もりつな・渡辺/源、武将/領主) F 4 4 7 6
 守行(しゅこう・高橋) → 守行(もりゆき・高橋、庄屋/郷土史家) G 4 4 7 7
 守厚(しゅこう) → 守厚(もりあつ、神職/連歌) F 4 4 0 9
 守洪(しゅこう・藺田) → 守洪(もりひろ・藺田/荒木田、神職) G 4 4 3 9
 守弘(しゅこう・河野) → 守弘(もりひろ・河野/越智/石崎、国学/史家) G 4 4 4 1
 守弘(しゅこう・川井) → 守弘(もりひろ・川井かわい、歌人) I 4 4 9 6
 珠光(珠孝しゅこう;真言名) → 如珠(によしゅ;法諱・竜堂りょうどう;道号、黄檗僧) F 3 3 9 6
 酒幸(しゅこう・齋藤) → 寛一(ひろかず・齋藤さいとう/藤原、歌人) J 3 7 6 9

Y2175 珠光(しゅこう・村田むらた、村田空市検校の男) 1423-1502 80 大和奈良の僧;1433(11歳)奈良称名寺入、
 了海門/20歳頃寺を出て諸国行脚;24-5歳頃在京/立花法;能阿弥or相阿弥門、
 30歳頃臨濟禅;一休宗純門;大徳寺真珠庵住/一休より圓悟克勤の墨蹟を受、
 茶人;点茶法に精通、能阿弥の推挙で足利義政の茶道師範、「お尋ねの事」著、
 茶の心得「珠光心の文」(門弟古市播磨守に贈)、

[心の師とはなれ 心を師とせざれ](珠光しゅこう心の文)、

[珠光(;号)の幼名/別号]幼名;茂吉、別号;独炉軒/独芦軒/香楽庵

I2167 寿好(しゅこう・玉縁斎ぎょくえんさい、姓;陰山、白縁斎梅好男)?-?1811前に没 大阪今橋書肆金西屋主人、
 狂歌;父門、1790「寿福年代記」1808「狂歌庭の雪」、「狂歌浪花土産」、

[玉縁斎寿好の通称/別号]通称;塩屋三郎兵衛、別号;玉岳/金西館、祖父;雪縁斎一好

兄弟 → 亀好(きこう・玉縁斎、狂歌) F 1 6 3 2
 寿考(しゅこう;字) → 日祐(にちゆう;法諱・竹山;号、日蓮僧) D 3 3 3 8
 寿恒(しゅこう・菊田) → 寿恒(ひさつね・菊田さくた、藩士/兵法家) B 3 7 4 0
 寿光院(しゅこういん・法号) → 千間子(ちまこ・前田、藩主妻/歌人) F 2 8 3 9
 寿好堂(しゅこうどう) → 芦麿(あしまろ・豊川、絵師) E 1 0 4 1
 種克(しゅこく・島尾) → 種克(たねかつ・島尾しまお、国学者/歌人) X 2 6 5 1
 守国(しゅこく・檜村/橋) → 守国(もりくに・橋たはな/檜村、絵師) F 4 4 3 7
 守国(しゅこく・上垣) → 守国(もりくに・上垣かみがき、庄屋/養蚕業) F 4 4 3 8
 守国(しゅこく・富永) → 守国(もりくに・富永とみなが、神職/国学) K 4 4 7 2
 守黒(しゅこく・後藤) → 守黒(もりすみ・後藤ごとう、国学/歌人) J 4 4 9 7
 守黒庵(しゅこくあん) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3
 寿国院(しゅこくいん;法号) → 宗政(むねまさ・池田、藩主/日記) C 4 2 4 8
 守黒軒(しゅこくけん) → 敬彦(きょうげん;法諱・実幢じつとう、天台僧) N 1 6 6 5
 寿骨山人(しゅこつさんじん) → 資知(すけとも・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 9
 守勤(しゅごん;法諱) → 惟忠(いちゆう;道号・守勤、曹洞僧) J 1 1 2 5
 主佐(しゅさ・櫛原) → 菴斎(せつさい・櫛原いちいはら、儒者/教育) E 2 4 2 7

- Y2177 **守齋**(じゆさい:号・岩崎いわさき、名;修敬/通称;宗助)?-1724 土佐の儒者:浅見綱齋門、
「周礼三物説」著、味池修居と交流
守濟(じゆさい・梶谷) → 守濟(もりずみ・梶谷かじたに、医者/国学) J 4 4 6 8
種材(じゆさい・大蔵) → 胤材(種材たねき・大蔵おおくら、廷臣/歌人) G 2 6 4 9
- Y2178 **寿齋**(じゆさい・赤松あかまつ、別号;松愛堂)?-? 安桃期天正1573-92頃の故実家、
「故実考」「諸家注進」著
- Y2179 **寿齋**(じゆさい:号・山口やまぐち、山口三郎左衛門の養子)?-? 江前期肥前長崎の外科医:養父門、
出島蘭医カスパルの外科医術を養父より伝受/以後代々出島役人、「紅毛一流」
養祖父は新影流剣術指南の山口主膳
寿齋(じゆさい・本多) → 忠敬(ただたか・本多、藩主/文集) P 2 6 7 5
寿齋(じゆさい・吉野) → 尊徳(たかのり・吉野よしの/村田、国学者) 2 7 3 2
受菜堂(じゆさいどう) → 金城(きんじょう・鼎かなえ、絵師) R 1 6 1 9
酒左衛門(しゆざえもん・渋谷) → 三貫(さんかん・渋谷しぶや、絵師) L 2 0 9 4
寿作(じゆさく・大橋) → 緯堂(しやくどう、大橋/平/岡谷、医者) W 2 1 1 0
寿作(じゆさく・加藤) → 磯足(いそたり・加藤、国学者/歌) B 1 1 0 9
寿作(じゆさく・小林) → 筋堂(せつどう・小林こばやし、儒者) L 2 4 3 3
寿三郎(じゆさぶろう・細野) → 要齋(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌) 4 7 9 8
守三(じゆさん・葛垣/葛巻) → 守三(もりみつ・葛垣/葛巻、俳人) G 4 4 6 4
守参(じゆさん・辻) → 守参(もりみつ・辻、幕臣/文筆家) G 4 4 6 2
- Y2180 **守山**(じゆざん・大内おおうち、名;定興)?-? 江後期儒者/詩、1851「散堂詩鈔」著、
[守山(;号)の字] 子陵
- Y2181 **守山**(じゆざん・恣川亭;号)? - ? 1804-18頃三河新城の俳人、
1809同郷の俳人の野松亭鏡二の一周忌追善句集「楫枕」編
寿三(じゆさん・木戸) → 元齋(げんさい・木戸きど、武将/歌人) J 1 8 0 3
寿散(じゆさん・池永) → 碧於亭(へきおいてい・池永いけなが、漢学/詩) 2 7 8 6
- Y2182 **就山**(じゆざん:道号・永崇えいそう:法諱、伏見宮貞常親王男)1462-1508⁴⁷ 母:庭田重有女の盈子、
足利義政の猶子、臨濟僧:相国寺常德院聯輝軒の虎山永隆門;出家、横川景・桃源瑞仙門、
等持寺住持/1508相国寺鹿苑院主;僧録職;没、三条西実隆と交流、宗山等貴しゅうざんとときの兄、
1483-84和漢聯句/86和漢狂句/98連歌;「山何百韻」
- Y2183 **寿山**(じゆざん:道号・元岫げんしゅん:法諱)?-? 江前期黄檗僧/潮音道海の侍者:1683嗣法、
1696「黒滝潮音和尚年譜」編、「潮音老和尚末期事実」編
- 02182 **寿山**(じゆざん・井口、名;仙治、別号;百歳翁)1726-1826^{長寿101歳} 美濃高田の書家/歌人、
養老山下で百寿のため喧伝される;1825(文政8)大垣藩御領役所より黒印を賜る、
文人墨客絶えず;1826京坂に遊び大坂で客死
- Y2184 **寿山**(じゆざん・佐々木ささき/初姓;高杉たかすぎ、名;成式)1784-1856⁷³ 代々陸奥盛岡藩侍医、
和漢書に通じ詩文・俳諧を嗜む、藩儒となる;藩主南部利済より佐々木姓を下賜、
1832藩命で寿山と称す、「傷寒論標記」著、
[寿山(;号)の別号]別号;玄意/栄孝堂、法号;栄孝堂良誉寿仙居士
- Y2185 **寿山**(じゆざん・杉原すぎはら、名;行天/通称;長治、行弼男)1797-1838⁴² 羽後秋田の代々阿仁銅山方、
「鉦山紀年録」「諸国鉦山記」「鉦夫雜譚」「旧書集摺」著
- V2196 **寿山**(じゆざん・笥かけい) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[暮れはてて千種の色は見えねども尾花のみなほ月にほのめく]、
(大江戸倭歌;秋745/月下薄)
寿山(じゆざん・松亭) → 玉蘭齋(ぎょくらんさい・橋本/歌川貞秀、絵師) D 1 6 1 1
寿山(じゆざん・信夫) → 槐軒(かいけん・信夫しのぶ、儒者/国学者) I 1 5 5 8
寿山(じゆざん・中田) → 平山(へいざん・中田、藩士/儒者/詩) 2 7 4 3
寿山(じゆざん;字) → 祐仙(ゆうせん;法諱・寿山、天台僧) D 4 6 2 4
寿山(じゆざん・山本) → 孝茂(たかしげ・山本やまもと、医者/歌人) V 2 6 1 4
寿山(じゆざん・林) → 復(ふく・林はやし、医者/国学) I 3 8 6 6

寿山(じゅざん・長谷川) → 保樹(やすき・長谷川はせがわ/宇都宮、国学/歌) F 4 5 3 3
 樹山(じゅざん・千葉) → 正中(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌) Q 4 0 8 9
 守三軒(しゅさんけん) → 宗寛(そうけん・速水はやみ、茶人) H 2 5 1 0
 寿山人(じゅざんじん、酒上不埒) → 春町(はるまち・恋川、戯作者) 3 6 3 5
 従三位(じゅさんみ・崇光院) → 資子(すけこ・庭田/源、女房/歌人) C 2 3 1 2
 従三位客子(じゅさんみのかくし) → 客子(かくし、女房/歌人) G 1 5 9 8
 従三位吉子(じゅさんみのきつし) → 吉子(きつし・洞院とういん・従三位、歌人) B 1 6 5 2
 従三位法印(じゅさんみのほういん) → 妙椿(みょうちん; 法諱・斎藤、武将/連歌) 4 1 4 2
 従三位房子(じゅさんみのぼうし) → 房子(ぼうし・中院なかのいん、歌人) B 3 9 2 4
 従三位政子(じゅさんみのまさこ; 仮名、菊葉集歌人) → 後崇光院(ごすこういん) 1 9 3 4
 従三位廉子(じゅさんみのれんし) → 廉子(れんし・源みなもと、彰子女房/歌) B 5 1 1 1
 守嗣(しゅし・山野) → 峻峯斎(しゅんぼうさい、山野やまの、絵師) K 2 1 4 7
 守雌(しゅし・亘理) → 往斎(おうさい・亘理わたり、兵学者) C 1 4 4 0
 守雌(しゅし・桑原) → 空洞(くうどう・桑原くわばら、漢学/書家) C 1 7 0 3
 守雌(しゅし・松本) → 樺柯(さいか・松本まつもと、医/本草/俳人) 2 0 6 6
 守氏(しゅし・荒木田) → 守氏(もりうじ・荒木田あらかだ、神職/連歌) F 4 4 1 7
 守之(しゅし・那波) → 木庵(もくあん・那波なば/祐、儒者/藩儒) 4 4 0 3
 守之(しゅし・布施) → 守之(もりゆき・布施ふせ、藩士/兵法家) G 4 4 7 3
 守枝(しゅし・兵頭) → 守枝(もりえだ・兵頭ひょうどう、神職/国学) G 4 4 8 5
 守祀(しゅし・藺田) → 守祀(もりとし・藺田そのだ/荒木田、神職) F 4 4 9 4
 種之(しゅし・高橋) → 種之(たねゆき・高橋たかはし、藩士/教育) S 2 6 1 2
 寿子(じゅし・公仁親王妃) → 公仁親王妃寿子(きんひとしんのうひじゅし、歌) R 1 6 7 0
 寿子(じゅし・進藤) → 寿子(ひさこ・進藤しんどう、国学/歌人) J 3 7 8 5
 寿子(じゅし・朽木) → 寿子(ひさこ・朽木くつき、旗本妻/歌人) L 3 7 5 1
 寿子(じゅし・久山) → 寿子(ひさこ・久山ひさやま、医者妻/歌人) L 3 7 8 6
 寿子(じゅし・森) → 冬子(ふゆこ・野田のだ/森、庄屋妻/歌人) I 3 8 6 0
 寿詞(じゅし・小川) → 眞澄(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶) O 4 0 0 6
 寿祉(じゅし・福原) → 元憫(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8
 守始翁(しゅしおう) → 基邑(もとむら・後藤ごとう、郷土史家) E 4 4 4 1

Y2186 **守雌斎**(しゅしさい・山県やまがた、名; 儀/頼賢、藩士吉田謙斎男) 1793-1830³⁸ 山県家嗣; 羽後秋田藩士、
 儒; 実父(入江南溟門)に学ぶ/秋田藩校明德館入/詰役/準教授/教授、詩文、
 藩内各地を巡講; 経史を主唱; 碑文を残す、「守雌斎詩集」「遊槎詩文」著、
 [守雌斎(;号)の字/通称/別号]字; 子羽、通称; 弁之助、別号; 百齡、法号; 英巖良哉居士

守時女(しゅじよ・北条) → 守時女(もりときのみすめ・北条/平、歌人) F 4 4 9 2
 寿七郎(じゅしちろう・真鍋) → 重楯(しげたて・竹志田たけしだ、神職/尊攘) Z 2 1 3 5
 種実(しゅじつ・樋口) → 種実(たねみ・たねざね・樋口ひぐち、商家/国学) S 2 6 0 7

I2168 **守子内親王**(しゅしないしんのう、源彦仁王[1298没]の女)?-? 鎌倉後期歌人、忠房親王・承鎮親王の姉妹、
 歌人1330北野宝前夏五十首に参加、風雅集1595、藤葉集2首入、
 岩蔵姫と同一説?(藤葉集では別人扱い)、守子女王(輔仁親王女/斎宮)とは別人、
 [かげよわき夕日うつろふ片岡にのこるもすごきむら薄かな](風雅; 雑1595)
 [むすび置く契はあさし我が袖の涙の川は淵となれども](藤葉; 恋433/守子内親王)
 ☆ → 岩蔵姫君(いわくらのひめぎみ、続千載歌人) B 1 1 9 6

Y2187 **姝子内親王**(しゅしないしんのう/よしこ、高松院たかまついん、鳥羽天皇皇女) 1141-76³⁶ 母; 美福門院藤原得子、
 二条天皇妃、1157(保元2)准三宮/59(平治元)中宮、
 平治乱には二条天皇と共に清盛の六波羅邸に遷幸、
 1160(永暦元)後白河院と二条親政派の対立激化、内親王は禁裏に入らず出家(20歳)、
 立后/院号; 高松院/1164二条天皇第一皇子(源光成の女/のち大僧都尊恵)を養子とす、
 1176(安元2)病没、
 歌人; 高松院姝子内親王家歌合催(散佚)/女房に高松院右衛門佐うゑものすけなど、
 ☆澄憲(藤原通憲[信西]男/権大僧正)との密通説あり(玉葉; 建久2/4/24の条);

海恵(1172-1207)・八条院高倉の母か?

- 寿子内親王(じゆしないしんのう) → 徽安門院(きあんもんいん、花園皇女) 1 6 7 1
 寿二坊(じゆじぼう) → 湖中(初世こちゆう・太田、家老/俳人) 5 5 7 1
 寿舎(じゆしゃ/ことぶきのや) → 重匡(しげまさ・小林こばやし、国学/歌) O 2 1 4 1
 種守(じゆしゆ/たねもり・末田) → 道麿(みちまろ・末田すえだ、書肆/国学者) C 4 1 6 2
 守手(じゆしゆ・中村) → 守手(もりて・中村/永井、神職/国学/歌) F 4 4 8 7
 守寿(じゆじゆ、もりとし/もりひろ) → 玄虎(げんこ・藤堂、藩士/俳人) B 1 8 7 1
 守寿(じゆじゆ・辻) → 守壽(もりとし・辻つじ、歌人/連歌) K 4 4 5 9
 守寿(じゆじゆ・宮本) → 守壽(もりかぜ・宮本みやもと、大庄屋/歌人) L 4 4 6 2
 守樹(じゆじゆ・春日) → 守樹(もりき・春日かすが、国学者) J 4 4 6 9
 樹々(じゆじゆ) → 文角(ぶんかく・太田おた、俳人) E 3 8 9 2
 守脩(じゆしゆう・多羅尾) → 守脩(もりおさ・多羅尾、国学/神道) F 4 4 2 1
 守秀(じゆしゆう・荒木田) → 守秀(もりひで・荒木田、神職/守武父) G 4 4 3 0
 守秀(じゆしゆう・藺田) → 守秀(もりひで・藺田/荒木田、神職) G 4 4 3 2
 守秋(じゆしゆう・林田) → 守秋(もりあき・林田はやしだ、藩士/国学/歌) L 4 4 0 4
 種周(じゆしゆう/たねちか・渡辺/大倉) → 嘉十郎(かじゅうろう・大倉、藩士/画) L 1 5 8 6
 株修(じゆしゆう・丸山) → 株修(もとのぶ・丸山まるやま、宿老/書・歌) L 4 4 4 1
 主住(じゆじゆう・山路) → 主住(ぬしずみ・山路、幕臣/天文曆算) 3 4 0 7
 守柔(じゆじゆう・神代) → 鶴洞(かくどう・神代かみしろ、儒者) K 1 5 2 8
 守重(じゆじゆう・近藤) → 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌) B 2 4 5 8
 守重(じゆじゆう・井面) → 守重(もりしげ・井面いのも/荒木田、神職/歌) F 4 4 4 6
 種重(じゆじゆう・佐枝) → 種重(たねしげ・佐枝さえだ、射術家) R 2 6 8 1
 寿秋(じゆしゆう・豊原) → 通秋(みちあき・豊原とよはら、楽人;笙) B 4 1 0 5
 守脩親王(じゆしゆうしんのう) → 守脩親王(もりおさしんのう、天台座主/梨本宮) F 4 4 2 2
 守從靈社(じゆじゆうれいしや;神号) → 近方(ちかかた・西郷、神道家) 2 8 7 1
 寿淑(寿椒じゆしゆく・立花) → 蘭斎(らんさい・立花たちばな、儒者) C 4 8 2 3
 守株軒(じゆしゆけん) → 黙池(もくち・中島/千葉、俳人) B 4 4 0 0
 I2169 守株子(じゆしゆし) ? - ? 随筆、1782「波奈之之種ななしのたね」
 朱樹叟(じゆじゆそう) → 士朗(しろう・井上、医者/俳人) 2 2 1 6
 壽々坊(じゆじゆぼう) → 湖十(初世こじゆう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1
 種樹家(じゆじゆか) → 金太(きんた・種樹家うえきや、植木屋) R 1 6 3 3
 守俊(じゆしゆん・水野) → 守俊(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家) F 4 4 9 3
 守峻(じゆしゆん・山田) → 寄斎(きさい・山田やまだ、儒者/詩文) K 1 6 4 7
 種春(じゆしゆん・青柳) → 種春(たねはる・青柳あおやぎ、藩士/国学/歌) R 2 6 9 8
 守潤(じゆじゆん・辻) → 守潤(もりひろ・辻つじ、州吏、歌・連歌) K 4 4 5 5
 寿春(じゆしゆん;道号) → 妙永(みょうえい;法諱・壽春、臨濟僧/聯句) G 4 1 1 6
 寿春(じゆしゆん・増田) → 雄伝(ゆうでん・増田ますだ、幕臣/奥医) D 4 6 4 8
 寿俊(じゆしゆん・近藤) → 寿俊(ひさとし・近藤こんどう、幕臣/馬術家) B 3 7 5 1
 寿春翁(じゆしゆんおう) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
 寿春亭(じゆしゆんてい) → 寛兆(かんちよう・松橋、俳人) R 1 5 4 2
 守諸(じゆしよ・藺田) → 守諸(もりつら・藺田/荒木田、神職/国学) F 4 4 8 6
 守諸(じゆしよ→もりつら・鷺津) → 竹溪(ちくけい・大沼/鷺津、幕臣/詩) C 2 8 8 5
 主書(じゆしよ・藤田) → 北郭(ほっかく・藤田ふじた、藩士/書) E 3 9 5 6
 主書(じゆしよ・北条) → 時成(ときなり・北条ほうじよう/中臣、神職) W 3 1 3 4
 守如(じゆしよ・目加田) → 守如(もりゆき・目加田めがた、絵師) G 4 4 7 6
 Y2188 主松(じゆしゆう・佐藤さとう) ? - ? 早世24歳没 江後期羽後の桶屋業/儒:江戸の朝川善庵門、
 その塾頭として活躍、「学則」「琉球国志」著
 種昌(じゆしゆう・小沢/高力) → 種昌(たねまさ・高力こうりき、藩士/文筆家) S 2 6 0 4
 守性(じゆしゆう;法諱) → 守覚法親王(しゆかくほつしんのう、仁和寺僧/歌人) 2 1 5 1

- 守昌(しゅしょう・橋本) → 守昌(もりまさ・橋本、俳人) G 4 4 5 0
 守尚(しゅしょう・水野) → 守隆(もりたか・水野みずの/源、武将/連歌) F 4 4 5 6
 守尚(しゅしょう・吉田) → 守尚(もりなお・吉田よしだ、藩士/与力) G 4 4 0 4
 守紹(しゅしょう・藺田) → 守紹(もりつぐ・藺田そのだ/藤波、神職/国学) K 4 4 2 3
 守将(しゅしょう・木俣) → 守将(もりまさ・木俣きまた/橋、藩老/歌人) J 4 4 7 6
 守勝(しゅしょう・木俣) → 守勝(もりかつ・木俣きまた、武将/記録) F 4 4 3 2
 守勝(しゅしょう・戸田) → 守勝(もりかつ・戸田とだ、藩士/記録) F 4 4 3 3
 守象(しゅしょう・森) → 狙仙(せんそせん・森もり、絵師) D 2 5 9 5
- I2170 守常(しゅじょう・長坂ながさか) ? - ? 江前期俳人:1669風虎「150番俳諧発句合」右方参
 守常(しゅじょう/もりつね・永田) → 格庵(かくあん・永田ながた、儒者/詩人) J 1 5 4 2
 守常(しゅじょう/もりつね・井東) → 弦斎(げんさい・井東いとう、儒者) J 1 8 0 7
 守常(しゅじょう・岡田) → 守常(もりつね・岡田/遠山、藩士/詩人) F 4 4 8 1
 守常(しゅじょう・前田) → 守常(もりつね・前田おかだ、手代/歌人) L 4 4 3 1
 守常(しゅじょう・狩野) → 永錫(えいしやく・狩野かのう/三谷、絵師) U 1 3 0 7
 守常(しゅじょう・磯部) → 守常(もりつね・磯部いそべ、国学者) F 4 4 8 3
 守常(守城しゅじょう・井面) → 守雅(もりつね・井面いのも/荒木田、神職/国学) F 4 4 8 2
 守城(しゅじょう・樽井) → 守城(もりき・樽井たるい、兵法家/歌人) F 4 4 3 4
 守城(しゅじょう・井面) → 守城(もりき・井面いのも/荒木田、神職/国学) F 4 4 8 2
 守城(しゅじょう・中村) → 守城(もりき・中村なかむら/神門臣、藩士/歌) K 4 4 8 1
 珠城(しゅじょう・たまき・中村) → 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7
- I2171 寿証(じゅじょう;法諱、俗名伊賀朝氏、伊賀朝行男) ?-? 鎌倉中期廷臣;修理亮、出家/僧;法師、
 歌人、新後撰集669、
 [みよし野のみつわけ山の滝つ瀬も末はひとつの流れなりけり](新後撰;釈教歌669)
- Y2189 需笑(じゅしょう) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」1句入、
 [名月や四五人乗りし艀ひらだぶね](続猿蓑;巻下/艀舟は長さ9mの浅川用の舟)
- 寿章(じゅしょう・城井) → 寿章(ひさあき・城井しろい、神職) 3 7 8 3
 受正院(じゅしょういん) → 日隆(にちりゅう;法諱、日蓮僧) D 3 3 5 8
 寿昌院(じゅしょういん) → 玄琢(げんたく・野間のみ/修姓;野、医者) K 1 8 9 4
 寿昌院(じゅしょういん) → 静軒(せいけん・野間、玄琢男/医/詩文) 2 4 0 8
 寿松園(じゅしょうえん) → 有雅(ゆうが;号・水谷みづたに、華道家) 4 6 9 4
 寿松軒(じゅしょうけん) → 六朵園二葉(ろくだえんふたば、商家/狂歌) 5 2 9 8
- I2172 寿成門院(じゅじょうもんいん/じゅせい、嬪子内親王、後二条天皇第一皇女) 1302-6261
 母;平棟俊女勾当内侍、1320内親王宣下;准三后;院号宣下、後二条院13回忌追善に落飾、
 歌人、勅撰5首;風雅(180/1896)新千載(1320)新拾遺(888/1022)、
 [今朝はなほさきそふ庭の花盛りうつろはぬまをとふ人もがな](風雅;春180)、
 邦良くになが親王(1300-26)・邦省くになが親王(1302-75)の妹
 姉妹 → 瑒子内親王(瑒子ちようし・とうしなしいんのう) I 2 8 6 0
 ☆女房;寿成門院按察(じゅじょうもんいんのあぜち) → 按察(あぜち・寿成門院) I 1 0 8 5
 寿成門院備前(じゅじょうもんいんのびぜん) → 備前(びぜん・寿成門院) M 3 7 5 1
 守辱(しゅじよく・小曾根) → 乾堂(けんどう・小曾根こそね、書/篆刻家) L 1 8 7 5
 守初斎(しゅしよさい) → 白玉(はくぎよく・風水軒、正親町公通、神道/狂歌) 3 6 0 8
- M2190 守愨親王(しゅじよしのう;法諱、京極宮文仁親王男) 1706-29早世²⁴ 1718祖父靈元天皇の養子、
 親王宣下、仁和寺入;得度/仁和寺門跡/1726一品、歌集「今出川花御会和歌」著、
 [守愨親王の幼名/俗名/法名]幼名;稲宮、俗名;周典、法号;後光明寿院
- Y2190 主信(しゅしん・井原いはら、字;道閔/諡号;順英先生) 1649-1720⁷² 筑前の医者;味岡三伯門、
 三伯門四傑の1、京綾小路洞院東入町で医業、「医学三臟辨」著
- Y2191 主真(しゅしん;法諱・昌春;字) ?-1735 江前中期真言僧;長谷寺管明院住、
 1721近江惣持寺転住、24江戸護国寺転住/30護持院住;権僧正、
 「華嚴五教章別解」「大乘起信論註疏詳略」著
- a2174 守真(しゅしん・姓不詳) ? - ? 江前中期;江戸の儒者?/詩人、

1728(享保13)宝山企画「諏訪浄光寺八景詩歌」入(神祠老杉しんしろうさん/歌は諏訪頼蔭)、
[行きゆきて古祠に入れば一径深し 神灯耿耿かうかうとして昼ひる陰陰、

老杉は記しるさず幾星曆 日夜風を帯びて妙音を奏す](八景詩;江戸諏訪明神社境内の景)

I2174 主信(しゅしん) ? - ? 江中期;連歌作者、1743吉宗還暦「御賀千句」入

守心(しゅしん・岡本/丘本)→ 思純(しじゆん・丘おか、医者/儒者) D 2 1 9 6

守眞(しゅしん/もりざね・長谷川)→ 延年(えんねん・長谷川、劍術/篆刻家) B 1 3 3 1

守眞(しゅしん/もりまさ・狩野)→ 探淵(たんえん・狩野かのう、幕府奥絵師) H 2 6 9 6

守眞(しゅしん・上田) → 雍洲(ようしゅう・上田うえだ、医者) B 4 7 1 1

守臣(しゅしん・中村) → 守臣(もりおみ・中村なかむら、国学者/神道) F 4 4 2 3

守親(しゅしん・北畠) → 守親(もりちか・北畠/源、南朝内大臣/歌) F 4 4 7 0

守親(しゅしん・中川) → 経豊(つねとよ・中川/荒木田、神職/記録) C 2 9 7 5

守親(しゅしん・宮本) → 守親(もりちか・宮本みやもと/安宅、国学) L 4 4 6 3

守信(しゅしん・林) → 守信(もりのぶ・林はやし、武将/連歌作者) G 4 4 1 6

守信(しゅしん・斎藤) → 赤城(せきじょう・斎藤さいとう、儒者/教育) K 2 4 2 2

守信(しゅしん・馬場) → 守信(もりのぶ・馬場ばば、藩士/国学) K 4 4 9 4

守晨(しゅしん・菌田) → 守晨(もりとき・もりあさ・菌田/荒木田、神職/連歌) F 4 4 8 8

種信(しゅしん・青柳) → 種信(たねのぶ・青柳、藩士/国学者) R 2 6 9 3

守人(しゅじん・津守) → 守人(もりひと・津守、神職) G 4 4 3 4

酒人(しゅじん・桂井) → 在高(ざいこう・桂井かつらい、医/詩文) E 2 0 9 0

酒人(しゅじん・田中) → 酒人(さかんど・田中たなか、俳人) G 2 0 3 2

I2175 寿信(じゅしん) ? - ? 連歌、宗碩宗長連歌に参加/1518宗長「東山千句」参

Y2192 寿信(じゅしん;法諱・春湖;号、冷泉為孝男)?-? 臨濟宗相国寺長老、1527-32頃宮中連歌会参加、

1529「享禄二年漢和聯句」参加、宗碩連歌参加の寿信と同一か不明、

宗碩連歌参加の寿信 → 寿信(じゅしん、連歌;東山千句参) I 2 1 7 5

受心(じゅしん・伊達) → 輝宗(てるむね・伊達だて、城主/連歌) D 3 0 0 0

寿人(じゅじん・小野寺) → 壽人(ひさと・小野寺おのでら、蘭医/儒者) I 3 7 7 5

守眞院(しゅしんいん) → 日住(にちじゅう;法諱、日蓮僧) C 3 3 2 1

守眞院(しゅしんいん) → 日詳(にっしょう;法諱・孝明、日蓮僧) E 3 3 2 6

守眞院(しゅしんいん) → 日専(にっせん;法諱・志円、日蓮僧) E 3 3 7 8

守眞院(しゅしんいん) → 詮子(あきこ・井伊い/伊達、歌人) G 1 0 9 2

樹眞院(じゅしんいん) → 日堅(にちけん;法諱・覚隆、日蓮僧) B 3 3 5 8

種心齋(しゅしんさい) → 玄川(げんせん・里村、連歌師) C 1 8 5 6

守信亭(しゅしんてい) → 赤城山人(あかぎさんじん、戯作者/狂歌) D 1 0 2 7

主水(しゅすい) すべて → 主水(もんど)

Y2193 樹水(じゅすい・大恵堂) ? - ? 江前期能登の俳人;1689「あら野」入、

[鹿笛しぶえの上手じやうずを尽くすあはれさよ](あら野;六、牝鹿に似せた笛音で牡を呼ぶ、

詞書;所にありて生じやうをたつことは是非なし)

主誰園(しゅすいえん・真野) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7

守数(しゅすう/もりかず・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6

I2176 寿助(しゅすけ・宝田たからだ) 1797-1838 江戸神田の質屋の生/家業破産、1822頃戯作者、
歌舞伎作者:2世松井幸三門、初号;松川宝作;1832立作者/宝田寿来の跡継嗣;寿助を称す、
1824「恋湊客入船」33「願糸縁苧環」35「花櫓劇陣取」、36常磐津:「忍夜恋曲者」(将門)、
1836「八大伝評判楼閣」37「初袷雁五紋」「契比翼額棲」/38「扇同曙曾我」外著作多数、
[宝田寿助(;号)の通称/別号]通称;貞次郎、俳名;琴堂、

別号;松川宝作/向荣楼欣堂/欣堂間人/東蝶山人/本蝶山人/寿仙/栄雅

2世劇神仙を称す? → 劇神仙二世は長島寿阿彌(じゅあみ、浄瑠璃作者)が称した

I2177 寿助(しゅすけ・梅盛うめもり) ? - ? 歌舞伎作者、1851三世如阜「東山桜莊子」番付

寿助(しゅすけ・並木) → 十輔(じゅうすけ・並木、歌舞伎脚本家) 2 1 4 6

寿助(しゅすけ・本間) → 弘武(ひろたけ・本間ほんま、武術家) G 3 7 2 5

寿助(しゅすけ・伊藤) → 正明(まさあき・伊藤いとう、庄屋/歌人) N 4 0 4 1

- 寿助(じゆすけ・黒瀬) → 義路(よしみち・黒瀬くろせ、商家/国学) M 4 7 6 4
 寿介(じゆすけ・高橋) → 西山(せいざん・高橋たかはし、医者/歌人) O 2 4 2 5
 守是(しゆぜ・菌田) → 守是(もりよし・菌田/荒木田、神職/歌) G 4 4 8 1
 I2178 守世(しゆせい) ? - ? 連歌、1558「花千句」参加;宗養・紹巴らと
 a2128 守静(しゆせい;法諱/法師)? - ? 江前期;京の僧/歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
 [くちねただ谷の柴はしかかる身のわすれて又も世をや渡らん](麓の塵;雑603/山家橋)
 I2179 珠成(しゆせい・柳沢やなぎさわ、大和郡山藩主信鴻[米翁]男)?-? 俳人、
 1784父米翁「染井山莊発句集」序(編者は珠来)
 M2187 守正(しゆせい) ? - ? 和文/狂歌:南畝門、1806南畝「ひとつもと草」入
 守正(しゆせい・藤原) → 守正(もりただ・藤原ふじわら、廷臣/歌) F 4 4 6 1
 守正(しゆせい・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2
 守正(しゆせい・増山) → 守正(もりまさ・増山/藤原、医者/詩歌) G 4 4 5 3
 守世(しゆせい・井面) → 守世(もりつぐ・井面いもの/荒木田、神職) J 4 4 1 6
 守清(しゆせい・緑園) → 緑園守清(りよくえんもりきよ、高橋豊八/狂歌) J 4 9 7 3
 守清(しゆせい・薬師神) → 守清(もりきよ・薬師神やくしじん、神職/国学) L 4 4 7 6
 守静(しゆせい・横田) → 柏園(はくえん・横田よこた、儒者/詩人) C 3 6 6 6
 守静(しゆせい・大井) → 雪軒(せつけん・大井おおい、儒者) E 2 4 1 9
 守静(しゆせい・白井) → 磯之進(いそのしん・白井しらい、藩士/紀行) F 1 1 8 9
 守静(しゆせい・三枝/辻/源) → 守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人) F 4 4 3 6
 守静(しゆせい・向井) → 守静(もりきよ・向井むかい、国学者/歌人) L 4 4 6 5
 守静(しゆせい・辻) → 守静(もりきよ・辻、幕臣/文筆家) F 4 4 3 6
 守静(しゆせい・高久) → 守静(もりしず・高久たかく、和算家) F 4 4 4 8
 守成(しゆせい・宮本) → 小一(おかず・宮本、幕臣/外交) C 1 4 8 5
 守政(しゆせい・水野) → 守政(もりまさ・水野みずの/荒尾、旗本幕臣) L 4 4 9 3
 主静(しゆせい・近藤) → 浩斎(こうさい・近藤こんどう、藩士/儒者) I 1 9 9 2
 珠成(しゆせい;俳号) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7
 酒盛(しゆせい・雀) → 酒盛(さかもり・雀すずめ、狂歌作者) B 2 0 3 2
 酒盛(しゆせい・成三楼) → 酒盛(さかもり・成三楼せいさんろう、戯作者) H 2 0 1 3
 種清(しゆせい・寺井) → 種清(たねきよ・寺井てらい、神職/歌人) R 2 6 7 7
 種清(しゆせい・柳水亭) → 種清(たねきよ・柳水亭、僧/合巻作者) G 2 6 3 6
 種成(しゆせい・和気) → 種成(たねなり・たねしげ・和気、廷臣/医者/歌) G 2 6 3 8
 種正(しゆせい・青柳/長野) → 種正(たねまさ・長野/青柳、歌人) S 2 6 0 6
 種正(しゆせい・磯田) → 種正(種昌たねまさ・磯田いそだ/源、官人/歌) V 2 6 6 5
 種世(しゆせい・望月) → 種世(たねよ・望月もちづき、歌人) 2 7 6 8
 主税(しゆぜい) すべて → 主税(ちから)
 受世(じゆせい・津田) → 宗及(そうきゆう/-ぎゆう・津田、政商/茶人) B 2 5 0 2
 寿正(じゆせい・池田) → 寿正(ひさまさ・池田/藤原、武家/連歌) B 3 7 9 0
 寿正(じゆせい・大畑) → 赤水(せきすい・大畑おおはた、藩士/儒者) K 2 4 2 4
 壽世(じゆせい・高橋) → 壽世(ひさつぐ・高橋たかはし、幕臣/国学) K 3 7 1 1
 主静庵(しゆせいあん・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
 守静庵(しゆせいあん・河路) → 光福(みつとみ・河路かわじ、商家/歌人) I 4 1 7 3
 主静翁(しゆせいおう) → 如瓶子(じよへいし・永井/大江、書家/狂歌) C 2 2 9 5
 守静斎(しゆせいさい) → 洞春(とうしゆん・狩野かのう、絵師) F 3 1 0 7
 守正先生(しゆせいせんじょう;諡号) → 晋斎(しんさい・田辺/上毛野、藩儒) E 2 2 1 6
 諄精先生(じゆせいせんじょう;諡号) → 達軒(たっけん・股野またの、儒者) G 2 6 1 9
 Z2176 壽清尼(じゆせいに・彦坂ひこさか、)?- ? 江後期;越前福井の歌人;橋曙覧(1812-68)門、
 福井藩士彦坂又五郎(1853病没)?の妻、師曙覧を支える、河津直入なおり(1824-1903)門
 寿成門院(じゆせいもんいん、嬬子内親王) → 寿成門院(じゆじょうもんいん、歌人) I 2 1 7 2
 寿石(じゆせき) → 奚花坊(けいかぼう・青木、俳人) 1 8 4 1
 2153 朱拙(守拙しゆせつ・坂本さかもと) 1653-1733 81 豊後日田郡城内村の医者/儒学修得;仕官果さず、

詩人、俳人；西国門；談林風/1695来訪の惟然門；蕉門に転ず、諸国行脚；蕉門俳人と交流；
 去来・嵐雪・其角・土芳・丈草・露川らと交流、九州蕉門の先駆者、
 1697「梅桜」/98「おくれ馳ばせ」/99「けふの昔」/1723「芭蕉盃はせむらひ」編(有鱗と)、
 後見書；1700紫白女「菊の道」・01助然「蝶すがた」・01晩柳「放鳥はなしどり集」・02知方「初便」等、
 1702轍士「花見車」1句入、

[初花や覆面したる女子をなごの目](花見車；三113/開花当初は頭巾をした乙女の目だ)
 [朱拙(；号)の通称/別号]通称；半山(；医名)、別号；守節/四方郎/四野人/四野狂夫、

法号；逸翁半山居士

- 主拙(しゆせつ；法諱) → 九峰(きゅうほう；道号・主拙、臨濟僧) M 1 6 9 1
 守拙(しゆせつ・菌田/中川) → 守拙(もりみ・菌田/荒木田/中川、神職/国学) G 4 4 5 4
 守拙(しゆせつ・寺門) → 先行(せんこう・寺門てらかど、藩士/儒者) M 2 4 2 7
 守拙(しゆせつ・二木) → 恭豊(たかとよ・二木ふたき、国学/歌) Z 2 6 3 7
 守節(しゆせつ・永原) → 守節(もりとき・永原ながはら、廷臣/歌人) I 4 4 6 7
 守節(しゆせつ・波多) → 北固(ほっこ・波多/波田/秦、儒者) E 3 9 6 2
 守節(しゆせつ・中神) → 守節(もりとき・中神ながみ、幕臣/編纂) F 4 4 9 0
 守節(しゆせつ・富永) → 沌翁(とんおう・富永とみなが、農家/儒者) S 3 1 0 5
 守節(しゆせつ・村尾/小泉) → 杏陰(きょういん・小泉、医者/詩) N 1 6 2 0
 守節(しゆせつ；号) → 豪忽(ごうじょ；法諱、天台僧) J 1 9 7 1
 守拙園主人(しゆせつえんしゆじん) → 克明(よしあき・大立目おのだつめ、儒者) B 4 7 9 9
 守拙軒(しゆせつけん) → 利満(としみつ・中村なかむら、藩士/彫刻/歌) V 3 1 9 2
 守拙斎(しゆせつさい・速水) → 宗曄(そうよう・速水はやみ、茶人) J 2 5 0 9
 守拙亭(しゆせつてい) → 東堤(とうてい・落合おちあい、儒者/教育) G 3 1 5 8
 守拙道人(しゆせつどうじん) → 龜卜(きぼく、俳人) B 1 6 8 0

I2184 守仙(しゆせん；法諱・彭叔ほうしゆく；道号) 1490-1555 66 戦国期信濃諏訪社の神官家の生、
 幼児上京し臨濟僧；自悦守懌門；嗣法/洛北真如寺住持/1538東福寺207世、1531「骨董藁」、
 1551「増禅林集句韻」54「猶如昨夢集」55「鉄酸餡」、「彭叔和尚語録・法語」外多数、
 [彭叔守仙の号] 瓢庵

I2185 守仙(しゆせん；号) ? - ? 1574存 薩摩の人か？、連歌作者：1564石山千句参加、
 1574紹巴と「初何百韻」「何人百韻」、
 守武・松本晨彦・高向常信と何袋四吟百韻に参加の守仙と同一か、

I2186 主川(しゆせん) ? - ? 雑俳、1723書肆「田植笠」入

Y2194 洙川(しゆせん・山県やまがた/修姓；県、名；子祺) ?-?1751頃没 長門萩藩士/儒；山県周南門、
 周南ほか藩内学者の文を輯録；1750刊「瀾城新著」編、
 [洙川(；号)の字/通称]字；魯彦、通称；季八/秀八

- 守先(しゆせん・中川) → 守先(もりさき・中川ながわ/荒木田、神職/国学) K 4 4 7 7
 守選(しゆせん；法諱・天瑞) → 天瑞(てんずい；道号・守選、臨濟僧) D 3 0 9 4
 守詮(守宣しゆせん・三枝) → 守繁(もりしげ・三枝さいぐさ、幕臣/国学) K 4 4 0 2
 守宣(しゆせん・菌田) → 守宣(もりのぶ・菌田/荒木田、神職/国学) G 4 4 2 1

I2187 守禪(しゆぜん；法諱、藤原[吉田]為経男) ?-? 鎌倉後期仁和寺南勝院の真言僧；経瑜門、法印、
 通称；中納言法印、歌人；勅撰3首；新後撰576・続千載932・続後拾遺1304、
 [霧深き山のした道分けわびて暮れぬにとまる秋の旅人](新後撰；羈旅576)

Y2195 主膳(しゆぜん・石原いしはら) ? - ? 安桃期武将；甲斐山県昌景家臣、1582徳川家康に出仕、
 井伊直政家臣；軍功、「井伊家軍令」「正諫記」「井飯万千代軍法書」「甲州伝井伊軍記」著

Y2196 主善(主膳しゆぜん・宇佐美うさみ) ?-? 江後期文政1818-30頃の江戸の医者、
 1823「営実新効力方」、「医事漫筆」「栄実能毒経験考」「瘟疫類方」「傷寒一家言」著、
 [主善(；名)の字/号]字；子道/士道、号；櫟山/棟山

- 主膳(しゆぜん・吉良/今川) → 範英(のりひで・吉良きら/今川、幕臣) F 3 5 5 5
 主膳(しゆぜん・藤田) → 貞幹(さだもと・藤田ふじた、藩士/歌人) P 2 0 8 6
 主膳(しゆぜん・鳥居) → 忠春(ただはる・鳥居、藩主/乱行) Q 2 6 5 1

主膳(しゅぜん・山澄) → 英竜(ひでたつ・山澄/川方、藩士/戦記) D 3 7 1 5
 主膳(しゅぜん・山澄) → 英重(ひでしげ・山澄、英竜男/藩家老/和学) M 3 7 1 8
 主膳(しゅぜん・狩野) → 良信(よしのぶ・狩野かのう、絵師) F 4 7 5 7
 主膳(守膳しゅぜん) → 義言(よしこと・長野、国学/歌人) 4 7 1 1
 主膳(しゅぜん・中川) → 久通(ひさみち・中川なががわ、藩主) B 3 7 9 6
 主膳(しゅぜん・瀬名) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2
 主膳(しゅぜん・檜垣) → 貞和(さだかず・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 9 2
 主膳(しゅぜん・鶴殿) → 士寧(しねい・鶴殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9
 主膳(しゅぜん・五十嵐) → 竹紗(ちくさ・五十嵐、絵師) D 2 8 0 2
 主膳(しゅぜん・神吉) → 東郭(とうかく・神吉かんき、藩士/儒・医者) C 3 1 1 4
 主膳(しゅぜん・土井) → 利厚(としあつ・土井、藩主/歌) M 3 1 0 3
 主膳(しゅぜん・栗田) → 宣秋(のりあき・栗田くりた、神職/国学) E 3 5 2 3
 主膳(しゅぜん・秀能井) → 市守(いちもり・秀能井ひでのい/藤屋、神職) G 1 1 4 5
 主膳(しゅぜん・竜造寺) → 虚庵(きよあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師) N 1 6 0 8
 主膳(しゅぜん・安陪) → 恭庵(きょうあん・安陪/安部、医/史家) N 1 6 1 5
 主膳(しゅぜん・金原) → 清方(きよかた・金原きんばら、神職/歌人) O 1 6 7 2
 主膳(しゅぜん・五十嵐) → 竹紗(ちくさ・五十嵐/修姓; 呉、絵師) D 2 8 0 2
 主膳(しゅぜん・亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G 4 7 1 9
 主膳(しゅぜん・遠藤) → 胤将(たねのぶ・遠藤えんどう、藩主/歌人) G 2 6 3 9
 主膳(しゅぜん・中) → 清泉(せいせん・中なか/勝村、藩儒) J 2 4 0 7
 主膳(しゅぜん・伊良子) → 光顕(みつあき・伊良子いらこ/源、外科医) D 4 1 0 1
 主膳(しゅぜん・羽太) → 政養(まさやす・羽太はぶと、幕臣/箱館奉行) I 4 0 0 6
 主膳(しゅぜん・橋村) → 正冬(まさふゆ・橋村/度会、神職/歌人) R 4 0 7 3
 主膳(しゅぜん・橋村) → 正因(まさより・橋村はしむら/度会/上部、神職) R 4 0 6 3
 主膳(しゅぜん・橋村) → 正代(まさよ・橋村はしむら/度会、神職/国学) R 4 0 6 4
 主膳(しゅぜん・滝/橋村) → 正立(まさたつ・橋村/度会、正代養子/神職) D 4 0 5 4
 主膳(しゅぜん・有馬) → 重弘(しげひろ・有馬ありま/加地、藩家老/国学) N 2 1 2 4
 主膳(しゅぜん・生駒) → 永言(ながこと・生駒こま、藩士/歌人) L 3 2 0 7
 主膳(しゅぜん・山中) → 盛美(もりよし・山中やまなか、幕臣) G 4 4 9 1
 主膳(しゅぜん・松平) → 正和(まさとも・松平まつだいら、藩主/歌) L 4 0 9 7
 主膳(しゅぜん・岩橋) → 時夏(ときなつ・岩橋いわはし/大江、神職/国学) U 3 1 3 2
 主膳(しゅぜん・岩松) → 益男(ますお・岩松いわまつ、神職/国学) N 4 0 8 5
 主膳(しゅぜん・大給) → 近陳(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8
 主膳(しゅぜん・遠藤) → 胤富(たねとみ・遠藤たえんどう/松平、藩主) V 2 6 9 5
 主膳(しゅぜん・岡部) → 政美(まさよし・岡部おかべ、神職/俳人) O 4 0 5 9
 主膳(しゅぜん・鈴木) → 直道(なおみち・鈴木すずき/藤原、神職/歌) L 3 2 4 3
 主膳(しゅぜん・菅原) → 小楯(おたて・菅原すがわら/平谷/上甲、神職) D 1 4 9 6
 主膳(しゅぜん・藤井) → 高俊(たかとし・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 6 3 2
 主膳(しゅぜん・河野) → 通溥(みちひろ・河野こうの、国学/歌人) J 4 1 1 1
 主膳(しゅぜん・重松) → 安勝(やすかつ・重松しげまつ、神職/国学/歌) F 4 5 9 6
 主善(守善しゅぜん・平井) → 庸慎(ようしん・平井ひらい、医者) B 4 7 2 6
 主善(しゅぜん・香川) → 南洋(なんよう・香川かがわ、医/儒者) 3 2 4 3
 主善(しゅぜん・那波) → 魯堂(ろどう・那波なば、儒者/藩儒) C 5 2 2 3
 主善(しゅぜん・古川/工藤) → 他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者) E 2 6 6 0
 主善(しゅぜん・東条) → 方庵(ほうあん・東条とうじょう、儒者) 3 9 1 0
 主善(しゅぜん・有馬) → 守居(もりい・有馬ありま、藩家老/国学) J 4 4 1 2
 主善(しゅぜん・長野) → 義言(よしこと/-とき/-ゆき・長野、藩士/国学者) 4 7 1 1
 主善(しゅぜん・六人部) → 筋篤(ときあつ・六人部むべ/室谷、神職/歌) W 3 1 6 3
 主善(しゅぜん・土岐) → 頼旨(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉) J 4 7 8 2

- 主善(しゅぜん・松田) → 本生(もとなり・松田まつだ、藩医/歌人) L 4 4 3 9
 守善(しゅぜん・富田) → 大鳳(たいほう・富田、藩士/医者/詩) C 2 6 1 9
 守善(しゅぜん/もりよし・中島) → 竜雄(たつお・雲井、藩士/詩人) G 2 6 1 7
 守善(しゅぜん・橋本) → 守善(もりよし・橋本はしもと、和算家) G 4 4 9 2
 守前(しゅぜん・木俣) → 守前(もりちか・木俣きまた/橋、藩老) J 4 4 8 0
 守全(しゅぜん; 初法諱) → 天真親王(てんしんしんのう、輪王寺門跡) D 3 0 9 1
 守全(しゅぜん・山岡) → 恭安(きょうあん・山岡やまおか、医者) G 1 6 5 3
- M2186 寿戩(じゅせん; 法諱・継天けいてん; 道号) 1494-1549⁵⁶ 臨濟僧; 建仁寺一華院僧; 月舟寿桂門、諸方遊歴、
 月舟の跡一華院に住/1537建仁寺284世(12年間)、五山文学; 「継雪問答」編/「柳西落葉」著、
 「月舟和尚語録」「月舟録」編/「前拵後拵」「正宗継天駢麗」「継天筆語」「継天戩禪師語録」著、
 [継天寿戩の号] 牧雲/皆春軒
- Y2197 寿仙(じゅせん・曾谷そだに/本姓; 藤原、慶祐男) 1546-1614⁶⁹ 医者; 父門/1583法眼/86法印、
 豊臣秀吉の腫瘍を治療/1595徳川秀忠の腫瘍治療、慶長(1600-15)頃幕府の医者、
 1611後陽成上皇の潰瘍治療; 著書「外科伝語」に宸筆の外題を賜る
 [寿仙(; 通称)の別通称/号] 別通称; 洞庵/慶祐2世、号; 慶法院、法号; 天甫
- I2189 寿泉(じゅせん; 法諱・清叔せいしゅく; 道号) ?-1576 臨濟僧; 五山禅僧、相国寺塔頭普広院8世、
 「謡抄」の禅担当、藤原惺窩の叔父
- I2190 寿仙(じゅせん・成田なりた) ? - ? 江戸の講釈師、太閤記が得意、
 伊達騒動・黒田騒動などで好評を博すが幕府の禁令により日蓮など説教物で活路を開く
- Y2198 寿泉(じゅせん・下津しもづ、別通称; 春抱) ?-? 江中期宝永・享保1704-36頃大阪の医者、
 1709「本邦名医類案」「古今幼科摘要」12「和漢纂言要方」28「錦囊医方詳解」著、
 1732「痘疹統」編、「奇病便覧」「医方詳解」「怪妖故事談」「婦療方彙」など編著多数
- 寿仙(じゅせん; 法諱) → 洞叔(とうしゅく; 道号・寿仙、臨濟僧/聯句) F 3 1 0 5
 寿仙(じゅせん) → 寿助(寿輔じゅすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6
 寿仙(じゅせん・武田) → 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2
 寿仙(壽僊じゅせん・小野寺) → 壽人(ひさと・小野寺おのでら、蘭医/儒者) I 3 7 7 5
 寿専(じゅせん・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8
 孀川(じゅせん・松本) → 奎堂(けいどう・松本まつもと、儒者/天誅組) 1 8 8 7
- Y2199 寿全(じゅぜん; 法諱) ? - ? 安桃期天正文禄1573-96頃京浄花院の浄土僧、
 山科言経と親交; 「言経卿記」天正十年1582九月二日の条に寿全が謡本を返却の記事入、
 連歌; 1593紹巴と「何船百韻」
- 寿然(じゅぜん・森) → 友益(ともます・森、医者) Q 3 1 6 0
 修禅庵(しゅぜんあん) → 政方(まさみち・小堀こぼり、藩主) H 4 0 4 4
 寿専院(じゅせんいん) → 信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4
 修禅大師(しゅぜんだいにし) → 義真(ぎしん、初代天台座主) B 1 6 2 8
 主膳太夫(しゅぜんだゆう・大薩摩) → 大薩摩主膳太夫(初世おおさつましゅぜんだゆう、浄瑠璃語) B 1 4 4 1
 諏善堂(しゅぜんどう) → 正典(まさのり・久貝くが、幕臣/歌人) G 4 0 2 3
 主膳正(しゅぜんのしょう・菅沼) → 定虎(さだとら・菅沼すがぬま、幕臣/詩歌) I 2 0 9 4
 主膳正(しゅぜんのしょう・糟谷) → 興乗(おきのり・糟谷かすや、国学/藩士) D 1 4 8 8
 主膳正(しゅぜんのしょう・前島) → 秀政(ひでまさ・前島まえじま、医者/眼科) D 3 7 8 0
 主膳正(しゅぜんのしょう・秀能井) → 市守(いちもり・秀能井ひでのい、神職) G 1 1 4 5
 主膳正(しゅぜんのしょう・佐瀬) → 常安(つねやす・佐瀬させ、神職/国学) F 2 9 7 1
 主膳正(しゅぜんのしょう・大場) → 一眞斎(いっしんさい・大場おおば、藩士/歌) C 1 1 8 6
 主膳正(しゅぜんのしょう・大岡) → 忠固(ただかた・大岡/加納、藩主/歌人) P 2 6 3 3
 寿仙坊(寿仙房じゅせんぼう) → 見宜(けんぎ・古林ふるばやし、医者) B 1 8 3 4
 守宗(しゅそう・藺田) → 守宗(もりむね・藺田/荒木田、神職) G 4 4 6 5
 守相(しゅそう・藺田) → 守相(もりすけ・藺田/荒木田、神職/歌) F 4 4 5 0
 寿蔵(じゅぞう/としぞう?・中沢) → 夫丸(それまる・一了軒、狂歌作者) 2 5 7 5
 寿三(じゅぞう・織田) → 秀雄(秀緒ひでお・織田おだ、藩医/歌人) I 3 7 7 8

- 寿艸亭(じゅそうてい) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1
 手束(しゅそく・武藤) → 手束(たつか・武藤むとう、藩士/国学) W 2 6 6 6
 守則(しゅそく・荒木田) → 守則(もりり・荒木田/藺田、神職) G 4 4 2 3
 寿則(じゅそく) → 噫慶(いきよう、真宗大谷派僧) F 1 1 2 4
 守村(しゅそん・新居) → 守村(もりむら・新居あらい、農業/国学者) G 4 4 6 7
 種存(しゅそん・原田) → 蔵六(ぞうろく・原田はらだ、商家/記録) J 2 5 2 5
 酒樽(しゅそん・革嶋) → 宜昌(よしまさ・革嶋かわしま、絵師) H 4 7 1 3
 寿村(じゅそん・伊達) → 慶邦(よしくに・伊達だて、藩主/歌人) D 4 7 2 5
 守泰(しゅたい・井村) → 守泰((もりたか・井村いむら、国学者/歌) I 4 4 8 0
 M2188 守大(しゅだい;号) ? - ? 江中期大阪の俳人・1776凡董「続明烏」1句入、
 [かへり花散る日は知らずなりにけり](続明烏;乙653/小春日和に時節外れの返り花)、
 (謡曲小塩の詞章;散りもせず咲きも残らぬ花ざかり/都辺はなべて錦となりにけり)
 I2191 寿躰(じゅたい) ? - ? 俳人・吏登門、1746蓼太と上方旅行
 守懌(しゅたく/しゅえき) → 自悦(じえつ・守懌、臨濟僧) P 2 1 6 6
 主諾(しゅだく;法諱) → 陽春(ようしゅん;道号・主諾、臨濟僧) B 4 7 1 7
 U2151 守脱(しゅだつ;法諱・大宝;字、号;清浄金剛、俗姓;中川)1804-8481 伊勢三重郡水沢村の僧、
 父は真宗大谷派常願寺住職、天台僧;16歳で叡山僧;天台三大部を究む/安楽院癡空門、
 碩学で日光山学頭を務む、安楽一派と衝突;天台宗寺門派に転向、前田慧雲の師、
 「光明玄科」「観音玄義記科」「悉曇字記講述」「悉曇連声伝授」「論語集註講述」など著多数
 寿太夫(じゅだゆう/ひさだゆう・五十嵐) → 久貞(ひささだ・五十嵐いがらし/守本/恵川、神学) M 3 7 0 6
 寿太郎(じゅたろう・大石) → 眞虎(まごら・大石おおいし、絵師) J 4 0 9 5
 寿太郎(じゅたろう・秦) → 松洲(しょうしゅう・秦はた、藩士/儒者) J 2 2 5 4
 寿太郎(じゅたろう・奥田) → 頼杖(らいじょう・奥田おくだ、心学者) 4 8 6 5
 寿太郎(じゅたろう・岩井) → 重賢(しげかた・岩井・巖井、和算家) Q 2 1 7 8
 寿太郎(じゅたろう・別府) → 安宣(やすのぶ・別府べつぷ、藩士/国学者) C 4 5 5 8
 寿太郎(じゅたろう・深見) → 有道(ありみち・深見ふかみ/高、歌人) G 1 0 6 7
 寿太郎(樹太郎じゅたろう・小野) → 寿(ひさし・小野おの、庄屋/詩歌人) I 3 7 7 1
 守知(しゅち・近藤/翠中軒) → 知新(ちしん・翠中軒、与力/茶人) E 2 8 4 6
 種知(しゅち・堅田) → 種知(たねとも・堅田かただ、神職/和漢学/歌) W 2 6 4 9
 受知園主人(じゅちえんしゅじん) → 永常(ながつね・大蔵おおくら、農政家) E 3 2 5 4
 I2192 守中(しゅちゅう・葦原あしはら、名;駿)?-? 読本作者;1776「烟花清談」(遊里雑談);隣松鉢画
 守中(しゅちゅう/守中翁・若林) → 強斎(きやうさい・若林わかばやし、儒者/詩歌) C 1 6 5 0
 守中(しゅちゅう・岩佐) → 玄碩(げんせき・岩佐いわさ、歌人) K 1 8 5 0
 守中(しゅちゅう・岩佐) → 守中(もりなか・岩佐いわさ、医者/歌人) J 4 4 3 3
 守中(しゅちゅう・後藤) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0
 守中(しゅちゅう・小山) → 朝三(ともかず・小山こやま、儒者/藩士/歌) X 3 1 0 3
 守中(しゅちゅう・小川) → 守中(もりなか・小川/藤原、蘭医/雅楽) G 4 4 0 6
 守忠(しゅちゅう・横地) → 守忠(もりただ・横地よこち、医者) F 4 4 6 4
 守稠(しゅちゅう・辻) → 守稠(もりしげ・辻つじ、歌人/連歌) K 4 4 5 8
 守中庵(しゅちゅうあん) → 布川(ふせん・早川、俳人) D 3 8 0 6
 守中庵(しゅちゅうあん) → 一兮(いっけい・入間田いるまだ、俳人) H 1 1 0 2
 主柱翁(守柱翁しゅちゅうおう・新松) → 忠義(ただよし・新松にいまつ/源、神道/国学) G 2 6 0 7
 酒中仙(しゅちゅうせん) → 耳鳥斎(にちようさい、絵師) D 3 3 5 3
 守緒(しゅちゅう・富永) → 守緒(もりお・富永とみなが/源、歌人) I 4 4 8 4
 U2137 守朝(しゅちよう;法諱、俗姓;大宅)933-? 985存 平安前期加賀山田郡の法相僧;興福寺空晴僧都門、
 興福寺住;法相を究む、985維摩会講師、「中辺記」「観普賢経記」著
 I2193 珠長(しゅちよう) ? - ? 駿河法宗院僧/連歌師、1564景恵「石山千句」参加
 相玉長伝と同一? → 相玉(しょうぎよく・長伝、歌人) M 2 1 0 3
 守朝(しゅちよう・藺田) → 守朝(もりとも・藺田そのだ/荒木田、神職) G 4 4 0 0

守長(しゅちやう・丹波) → 守長(もりなが・丹波たんば、医者/歌/連歌) G 4 4 0 9
 守長(しゅちやう・木俣) → 守長(もりなが・木俣きまた/橘、藩老/歌人) J 4 4 7 7
 酒長(しゅちやう・岡崎) → 敬喜(たかよし・岡崎おかざき、代官/歌人) W 2 6 2 7
 種長(しゅちやう・菅原) → 種長(たねなが・菅原/東坊城/中御門、廷臣) G 2 6 9 8
 種長(しゅちやう・氷室) → 種長(たねなが・氷室ひむろ/紀、神職) R 2 6 9 0

2172 守澄親王(しゅちやうしんのう、後水尾天皇第6皇子) 1634-8047 母; 壬生園光子/徳川家康の猶子、
 徳川家光の奏請で誕生に祭し天海僧正の法嗣/1644親王宣下; 青蓮院宮尊純親王門; 得度、
 1647寛永寺入; 天海の法嗣/48二品/49一品/54日光山・東叡山両門主兼任; 天台一宗を管領、
 1655天台座主; 父後水尾上皇より門室に輪王寺の号を賜; 輪王寺門跡の祖、
 「輪王寺宮集」「守澄親王御詠歌」著、
 [守澄親王(;法諱)の幼名/俗名/初法諱/通称]幼名; 今宮/俗名; 幸教/初法諱; 尊敬、
 通称; 輪王寺宮

寿長人(じゅちやうじん) → 如毛(じよもう・岡崎おかざき、酒造業/俳人) M 2 2 8 5
 守直(しゅちやく/もりなお・安東) → 侗庵(とうあん・安東あんどう、儒者) 3 1 7 6
 守直(しゅちやく・生田) → 守直(もりなお・生田いくた、国学者/歌) G 4 4 0 5
 守直(しゅちやく・不破) → 守直(もりなお・不破ふわ、藩士/和漢学) L 4 4 1 7
 手枕庵(しゅちんあん) → 寸松(すんしょう・三上みかみ、俳人) D 2 3 6 2
 朮(じゆつ・相沢) → 朮(おけら・相沢あいざわ/石川、医者/歌人) D 1 4 7 7
 術(じゆつ・横田) → 伯慎(はくしん・横田よこた、儒者) D 3 6 3 4
 術(じゆつ・鎌田) → 杜陵(とりよう・鎌田かまた、医者/俳人) R 3 1 9 5
 出阿(しゅつあ;号) → 覚瑜(かくゆ;法諱、天台僧/念仏唱導) K 1 5 5 1
 種通(しゅつう・猪熊/吉雄) → 種通(たねみち・吉雄よしお/猪熊、蘭外科医) S 2 6 0 8
 術解楼(じゅつかいろう) → 元瑞(げんずい・中西/小川、藩士/医者) K 1 8 3 5
 述久(しゅつきゆう・松下) → 述久(のぶひさ・松下/賀茂、神職/鞠/連歌) C 3 5 9 3
 述軒(しゅつけん・加藤) → 仲実(ちゆうじつ・加藤、医者) G 2 8 1 7
 述古先生(しゅつこせんせい;諡号) → 北山(ほくざん・山本、儒者/詩人) 3 9 6 4

12194 述斎(しゅつさい・林はやし、美濃岩村藩主松平乗蒔男) 1768-184174 儒者; 大塩鼈渚べっしよ・服部仲山門、
 のち渋井太室門、1793幕府命で林錦峰の養嗣子、幕府儒官; 諸大夫・大学頭、
 寛政の改革に際し学問所設置の建議; 林家預りの昌平黌を幕府直轄の学問所とし整備、
 林家は小姓組番頭次席格; 3千石(1822に3千5百石)、幕府による官撰書編纂事業を推進;
 「寛政重修諸家譜」「徳川実記」や「佚存叢書」(中国で散佚し本邦に伝存する漢籍)等編纂、
 詩歌人、1808「家園吟」09「林祭酒上書」「谷墅百絶」「谷口雑唱」11「南役雜藁」13「谷墅雜賦」、
 「林衡文集」「述斎偶筆」「述斎詩文稿」「林述斎書簡」「林述斎先生詩集」「蕉窓文草」外著多数、
 [述斎(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名; 熊蔵、名; 乗衡/衡、字; 徳詮/叔統しゅくたん/公鑑、
 通称; 大内記(;致仕後)、別号; 蕉隠/蕉軒/天瀑/楽園逸民/墨水漁翁、諡号; 快烈、
 林櫻宇てい・鳥居耀蔵ようぞう・林復斎の父

述斎(しゅつさい・赤松) → 大庾(だいう・赤松、儒者) C 2 6 2 5

12195 出紫(しゅつし・戸塚とつか、別号; 松蔭堂)?-1712 江戸の俳人・其角門、1707「亦深川」編

述子(しゅつし・藤原) → 弘徽殿女御(こきでんのによろご、村上天皇妃) M 1 9 0 3
 述而(しゅつじ・川勝/高久) → 隆古(りゅうこ・高久たかく/秦/川勝、絵師) D 4 9 7 0
 述情(しゅつじゆう・根本) → 古柳(こりゅう・根本ねもと、藩士/儒者) N 1 9 9 0
 述信(しゅつしん・小野) → 述信(のぶさね・小野おの、藩士/心学) H 3 5 6 0
 出泉(しゅつせん・水足) → 博泉(はくせん・水足みずたり、儒者) D 3 6 5 1
 出堂(しゅつどう;法名) → 重門(しげかど・竹中/源、武将/歌/連歌) C 2 1 0 9

12196 述堂(しゅつどう・片山かたやま、名; 格、朝川善庵2男) 1810-4031 儒者; 父門、父方祖父片山兼山の姓継嗣、
 江戸下谷御徒町住、「善庵存稿」編/「述堂詩文稿」著、1837「理慶尼記」刊、
 [述堂(;号)の字/通称/別号]字; 天寿、通称; 立造、別号; 梅堀ばいけい/養拙斎、法号; 岳心院

出入軒(しゅつにゅうけん) → 普斎(ふさい・杉木すざき/荒木田、茶人) B 3 8 9 9
 述姫(しゅつひめ・徳川/松平) → 頼起夫人(よりおきふじん・松平まつだいら、藩主室/歌) P 4 7 1 9
 述明(しゅつめい・江沢) → 述明(のぶあき・江沢、歌人/和算家) 3 5 7 9

- 守貞(しゅてい;道号/臨濟僧)→鉄崖(てつがい;道号・道空、黄檗僧) C 3 0 1 8
 守貞(しゅてい・木俣) → 守貞(もりさだ・木俣きまた、藩老/資料収集) J 4 4 8 3
 守貞(しゅてい・真野) → 守貞(もりさだ・真野まの、商家/詩歌人) L 4 4 2 8
 守貞(守定しゅてい・木立)→ 守貞(守定もりさだ・木立きだち、藩士/馬術家) F 4 4 4 1
 守貞(しゅてい・石原/北川)→ 守貞(もりさだ・喜田川/喜多川/北川/石原、商家/考証家) F 4 4 4 2
 2173 寿貞(しゅてい、尼僧) ? - ? 松尾芭蕉の内妻、次郎兵衛・まさ・おふうの母
 寿亭(しゅてい) → 豊丸(初世とよまる・叢くさむら、絵師) R 3 1 6 1
 I2198 朱迪(しゅてき・寺島てらじま、別号;甘露台)?-?:1705-6病死(43歳) 近江彦根藩士、俳人・森川許六門、
 1694其角「枯尾花」初見、1704「元禄十七年歳旦帳」入、1706刊「本朝文選」に43歳病死とある
 守徹(しゅてつ) → 白亥(はくがい・石坂、俳人) C 3 6 5 1
 守典(しゅてん/もりのり・中沢)→ 景山(けいざん・中沢なかざわ、絵師) F 1 8 7 6
 守典(しゅてん/もりのり;名) → 深仁親王(しんにんしんのう;法諱、真言仁和寺僧) P 2 2 5 4
 守典(しゅてん・岸) → 達巷(たつこう・岸/修姓;崖、儒者/地誌) R 2 6 5 9
 守典(しゅてん・梶谷) → 守典(もりのり・梶谷かじたに、医者/国学) J 4 4 6 5
 守典(しゅてん・井面) → 守典(もりみち・井面いのも/荒木田、神職) J 4 4 1 7
 守典(しゅてん・上田/榊原)→ 守典(もりのり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5
 守典(しゅてん・梶谷) → 守典(もりのり・梶谷かじたに、医者/国学) J 4 4 6 5
 守典(しゅてん・篠本) → 守典(もりすけ・篠本しのもと、和算家) F 4 4 5 1
 主典(しゅてん) すべて → 主典(さかん)
 主殿(しゅてん) すべて → 主殿(とのも)
 受天(しゅてん・伊達) → 植宗(たねむね・伊達だて、武将/歌/連歌) 2 6 4 6
 酒殿神主(しゅてんかんぬし) → 遠久(とおいさ・賀茂かも、神職/歌人) I 3 1 6 8
 守稻(しゅとう・石黒) → 守稻(もりとし・石黒いしぐろ、国学者) J 4 4 2 3
 守藤(しゅとう;法諱) → 集雲(しゅううん;道号・守藤;法諱、臨濟僧) W 2 1 6 2
 守藤(しゅとう・荒木田) → 守藤(もりふじ・荒木田/菌田、神職/歌/連歌) G 4 4 4 6
 種藤(しゅとう) → 種藤(たねふじ、俳人) G 2 6 4 5
 種董(しゅとう・小金丸) → 金生(かねお・小金丸こがねまる/澄川、国学/歌) U 1 5 6 1
 2174 守道(しゅとう;法諱・泊庵はくあん;号)?-? 1864存 天台叡山僧;安楽律院の癡空門;随従し講義筆録、
 1852「菩薩戒経義疏講義」55「得魚忘筌録」63「大乘起信論義起講義」、
 1864「十不二門指要鈔聴講記」、「四十八輕戒大意」著
 守道(しゅとう・菌田) → 守道(もりみち・菌田そのだ/荒木田、神職) G 4 4 5 6
 守道(しゅとう・目賀田) → 文村(ぶんそん・目賀田めがた、絵師) G 3 8 0 9
 守道(しゅとう・栗田) → 守道(もりみち・栗田あわた、神職) G 4 4 5 9
 守道(しゅとう・三田) → 守道(もりみち・三田さんだ/平、歌人) I 4 4 9 7
 守道(しゅとう/もりみち・長久保)→ 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3
 主道(しゅとう・北島) → 主道(きみみち・北島きたじま、国学者) U 1 6 1 4
 趣堂(しゅとう・坂上) → 玄長(げんちやう・坂上さかがみ、医者) L 1 8 4 2
 2175 樹堂(しゅとう・青木あおき、名;可笑)1825-8157 尾張名古屋の臨濟僧;京天竜寺の観水和尚門、
 尾張大高村の長寿寺住職;門弟を教導、斎藤拙堂梁川星巖の感化受け史学・詩文を志す、
 尾張藩に招聘;藩の密命で長崎・江戸に赴く、1870還俗/漢学一等教授を務める、
 「尺牘便覧」「傍善吟詠有詩集」著、
 [樹堂(;号)の字/別号]字;孟純/陽春、別号;祖方/鷺巢
 樹堂(しゅとう・水本) → 成美(なりよし・水本みずもと、儒者) I 3 2 4 1
 儒童(しゅとう;字) → 敬天(けいてん;法諱・儒童、天台僧) G 1 8 4 2
 壽堂(しゅとう・矢田) → 正景(まさかげ・矢田やだ、真宗僧/歌人) T 4 0 3 0
 I2114 衆道庵穴好(しゅどうあんけっこう)?- ? 1780洒落本「芳深交語」著
 首道磨(しゅどうまる→おびとのみちまる)→ 万(よろづ・生田いくた、国学者/救民活動) 4 7 4 2
 守篤(しゅとく;字) → 本純(ほんじゆん;法諱・守篤、天台学僧) F 3 9 4 3
 守篤(しゅとく・林) → 守篤(もりあつ・林はやし、絵師/号;魯軒) F 4 4 1 0
 守篤(しゅとく・永木) → 守篤(もりあつ・永木ながき、歌人) K 4 4 8 4

- 守徳(しゅとく・本木/加藤)→ 鹿洲(ろくしゅう・加藤/本木、藩士/儒者) 5 2 9 1
 守得(しゅとく・奈良原) → 守得(もりのり・奈良原ならはら、国学者) K 4 4 7 6
 株徳(しゅとく・丸山) → 株徳(もとのり・丸山まるやま、宿老/書・歌) L 4 4 4 2
 種徳(しゅとく・佐伯) → 桜谷(おうこく・佐伯さえき、儒者/詩人) C 1 4 1 2
 種徳(しゅとく・成瀬) → 種徳(たねのり・成瀬なるせ、藩士/記録) R 2 6 9 4
 種徳(しゅとく/たねのり・平野)→ 国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) 1 7 0 6
 種徳(しゅとく・早川) → 種徳(たねのり・早川、藩士/兵学者) R 2 6 9 5
 種徳(しゅとく・原田) → 種徳(たねのり・原田はらだ、藩士/国学/歌) Z 2 6 1 3
- 2176 樹徳(じゅとく・小山こやま) ? - 1760 江中期相模高座郡下溝の農業;名主/酒造業・質商、
 俳人;初世祇徳門、相模俳壇の重鎮、1749「温泉の日記」51「探題集」、「宝樹堂樹徳句集」著、
 [樹徳(;号)の通称/別号]通称;儀右衛門、別号;宝樹堂
- N2107 樹徳(じゅとく・大西おおにし、名;啓行)?-? 讃岐那珂郡榑梨郡榑梨村の医者、歌人、
 1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、
 [千万の軍なりとも忽ちのうちころすべきこれの火のわざ]('巨勢総社千首/大砲)
- 樹徳(じゅとく・梶川) → 東岡(とうこう・梶川、医者) D 3 1 8 1
 寿得(じゅとく・増田) → 雄伝(ゆうでん・増田ますだ、幕臣/奥医) D 4 6 4 8
 主篤庵(守篤庵しゅとくあん)→ 玄順(げんじゅん・加藤かとう、医者) J 1 8 7 8
 寿徳庵(じゅとくあん) → 玄由(げんゆう・寿徳庵、医者/連歌作者)M 1 8 6 1
 寿徳院(じゅとくいん) → 玄由(げんゆう・寿徳庵、医者/連歌作者)M 1 8 6 1
 樹徳院(じゅとくいん) → 洞鑑(どうかん・吉岡よしおか、藩医) C 3 1 4 1
 樹徳斎(じゅとくさい) → 迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆) B 1 2 0 0
 受得斎(じゅとくさい) → 宗利(そうり・久田ひさだ;2世、茶人) F 2 5 8 6
 受徳寺栄玄(じゅとくじえいげん)→ 栄玄(えいげん;法諱・受徳寺、真宗僧)B 1 3 0 0
 従二位朝子(じゅににあさこ)→ 朝子(ちようし/あさこ・藤原、信西妻/歌人) I 2 8 4 9
 従二位親子(じゅににいしんし)→ 親子(しんし・藤原、天皇乳母/歌人) E 2 2 3 4
 従二位為子(じゅにいためこ)→ 為子(ためこ・京極、為教女/歌人) G 2 6 7 9
 酒肉頭陀(しゅにくずだ) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5
 寿二坊(じゅにぼう) → 湖中(初世こちゆう・太田、家老/俳人) 5 5 7 1
 主忍(しゅにん) → 関揆(かんけい;法諱、臨濟僧/詩人) G 1 5 7 5
 守任(主任しゅにん・五井)→ 持軒(じけん・五井ごい、儒者/歌人) D 2 1 5 3
 守任(しゅにん・越野) → 守任(もりとう・越野こしの/吉田、商家/歌) J 4 4 9 9
 種任(しゅにん・辛島) → 春帆(しゅんぱん・辛島からしま、医者/詩人) K 2 1 4 0
 寿仁(じゅにん;字) → 日慈(にちじ;法諱・蓮昌院、日蓮僧) C 3 3 0 4
 守寧(しゅねい・遠藤) → 守寧(もりやす・遠藤えんどう、国学/歌/茶) J 4 4 4 3
 守年(しゅねん・月出/飯田)→ 守年(もりとし・飯田/月出、国学者/歌) F 4 4 9 7
- 2177 寿稔(じゅねん・永田ながた) ? - ? 江中期京の篆刻家、1750「島僊子印譜」著
 [寿稔(;名)の字/通称/号]字;一瓢、通称;仙助/右京、号;嶋仙子/島僊子とうせんし/瓊浦けいほ
 寿之進(じゅのしん・林) → 真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0
 寿之助(じゅのすけ/としのすけ?・南部)→ 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7
 寿之助(じゅのすけ・坂井) → 正和(まさかず・坂井さかい/美濃部、藩士/儒・国学) P 4 0 9 7
 寿之助(じゅのすけ・牛窓屋)→ 資韶(すけつぐ・那須なす、商家/国学/歌) I 2 3 8 7
- M2117 朱葩(しゅば) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(319)、
 [櫟ならかしは我棄つる身の七五三](二葉之松:319/櫟と柏は世捨人の深山の注連縄だ)
 主馬(しゅば) すべて → 主馬(しゅめ)
- I2199 酒粕(しゅぱく・岡田おかだ、祐専男)?-? 摂津伊丹の俳人;重頼門、狂歌作者、
 1675宗信「千宜理記ちぎりき」/76維舟「武蔵野」/「無分別」入、1702轍士「花見車」1句入、
 [風涼し願ひかなへばまた一ツ](花見車;四178)
 壽白(じゅはく・有馬) → 友仙(ゆうせん・有馬ありま、医者/俳人) D 4 6 1 8
 寿八(じゅはち・西野) → 時敏(ときとし・西野にし/中村、藩士/国学) W 3 1 0 1
- J2100 守範(しゅはん/もりのり・山下やました、石仲子)?-? 狩野派絵師:狩野探雪(探幽男)門・俳人、

1729画入俳書「百花鳥(百華鳥図)」編(探幽の原画を写)

守樋(しゅひ・香川)	→	景新(かげちか・香川、歌人)	K 1 5 9 9
取譬(しゅひ・戸板)	→	保佑(やすすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦)	B 4 5 7 2
守美(しゅび・田井)	→	守美(もりよし・田井、俳人)	I 4 4 5 1
種美(しゅび/たねよし?・川原)	→	慶賀(けいが・川原/田口、洋画家)	1 8 3 7
孺皮(しゅひ・大島)	→	芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家)	E 3 8 4 7
守富(しゅふ・荒木田)	→	氏秀(うじひで/うじつら・藤波、神職/連歌)	C 1 2 6 6
守富(しゅふ・藺田)	→	守富(もりとみ・藺田/荒木田、神職/歌)	F 4 4 9 8
守富(しゅふ・庵原)	→	守富(もりとみ・庵原いおはら、藩士/日記)	F 4 4 9 9
守富(しゅふ・辻)	→	守富(もりとみ・辻つじ、歌人/連歌)	K 4 4 6 0
種孚(しゅふ・佐伯)	→	種孚(たねたか・佐伯さえき、藩士/国学者)	X 2 6 1 4
守浮(しゅふ・藺田)	→	守浮(もりちか・藺田そのだ/荒木田、神職)	F 4 4 7 2
種富(しゅふ・高橋、歌号)	→	正作(しょうさく・高橋/千葉、勸農家)	J 2 2 1 3
種武(しゅぶ・佐枝)	→	種茂(たねしげ・佐枝さえた、藩士/城代)	R 2 6 8 2
寿福軒(じゅふくけん・真鏡)	→	真鏡(しんきやう・寿福軒、文筆家)	N 2 2 8 6
酒仏(しゅぶつ・大津)	→	唯雪(ただゆき・大津おおつ/村田、藩士/歌)	W 2 6 1 7
酒仏(しゅぶつ・勝屋)	→	積(せき・勝屋しょうや/静間、国学者)	O 2 4 1 9

J2101 種文(しゅぶん・松氏) ? - ? 江戸前期俳人・史邦ふみに門かその関係者、
1698「猿舞師さるまわし」編(;自序/芭蕉[猿引は猿の小袖をきぬた哉]以下諸家の発句など)

種文(しゅぶん)前記以外	→	種文(たねぶみ)	
珠文(しゅぶん・加藤)	→	香園(こうえん・加藤、書肆/儒)	H 1 9 6 9
守文(しゅぶん・藤原)	→	守文(もりふみ/もりふん/もりふう・藤原、廷臣/歌)	G 4 4 4 7
守平(しゅへい;名)	→	円融天皇(えんゆうてんのう、歌人)	B 1 3 3 7
守平(しゅへい・荒木田)	→	守平(もりひら・荒木田/井面、神職/連歌)	G 4 4 3 6
守瓶(しゅへい・辻)	→	守瓶(もりかめ・辻つじ/三枝/志村、医者)	K 4 4 5 4
壽平(じゅへい・桑島/倉橋)	→	春町(はるまち・恋川、黄表紙/狂歌)	3 6 3 5
壽平(じゅへい・藤森)	→	桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育)	F 1 8 6 0
壽平(じゅへい・中西)	→	耕石(こうせき・中西なかにし、絵師)	K 1 9 1 0
壽平(じゅへい・竹内)	→	豊洲(ほうしゅう・竹内たけうち、儒者)	B 3 9 4 9
壽平(じゅへい・小林)	→	利安(としやす・小林こばやし、歌人)	V 3 1 1 6
壽平次(じゅへいじ・田谷)	→	寿平次(すへい・田谷たや、国学/歌人)	I 2 3 7 1

J2102 守遍(しゅへん;法諱) ? - ? 南北期天台叡山僧;法印/権律師、詩歌人、
宗牧「東国紀行」で碩学・詩歌達者と評される、1356自撰「守遍詩歌合」(尊円親王判?)、
勅撰5首;新拾遺(1504)新後拾遺(1219)新続古今(742/1463/1647)、
[跡もなき室むろのやしまの夕煙なびくとみしや迷ひなるらん](新拾遺;釈教1504)、
(詞書;十住心の中に覚心不生心のこころを)

J2103 守保(しゅほ)	? - ?	連歌、1472紹永催「美濃千句」連衆	
守保(しゅほ/もりやす・松浦)	→	桂川(けいせん・松浦まつうら、藩士/儒者)	E 1 8 7 4
守保(しゅほ・多田)	→	守保(もりやす・多田ただ、藩家老/武芸)	G 4 4 7 0
珠浦(しゅほ・辻)	→	玄通(げんつう・辻、医者/文筆家)	L 1 8 4 9
守輔(しゅほ→もりすけ・西田)	→	秋実(あきざね・西田、国学者)	D 1 0 4 3
守方(しゅほう・荒木田)	→	守方(もりかた・荒木田あらかだ、神職/歌)	M 4 4 0 8
守方(しゅほう・栗阪)	→	守熙(もりひろ・栗阪あわか、藩士/地誌)	G 4 4 4 0
守宝(しゅほう・藺田/中川)	→	守拙(もりみ・藺田/荒木田/中川、神職/国学)	G 4 4 5 4
手峯(しゅほう・石崎)	→	融濟(ゆうせい・石崎いしざき、絵師)	D 4 6 0 0
種芳(しゅほう・高橋)	→	種芳(たねよし・高橋たかはし、藩士/兵学)	S 2 6 1 5
種逢(しゅほう・薬師寺)	→	種逢(たねあい・薬師寺やくしじ、砲術家)	R 2 6 7 6
守房(しゅほう・吉田)	→	守房(もりふさ・吉田/藤原、南朝廷臣/歌)	G 4 4 4 4

2188 壽峰(じゅほう;道号・元福げんぶく;法諱)?-? 江前期黄檗僧;潮音道海門/1692法嗣、
1687「潮音禪師山居詩集」編/95「潮音老和尚末後事实」編

澗法(じゅほう;字・大雲) → 大雲(だいうん;法諱・澗法、真言律僧) J 2 6 1 5
 寿豊(じゅほう・田中) → 壽豊(ひさとよ・田中、商家/歌人) L 3 7 8 0
 寿房(じゅほう・万里小路) → 正房(まさふさ/なおふさ・万里小路、廷臣/日記) H 4 0 1 9
 守朴(しゅぼく・石黒) → 幸弘(ゆきひろ・石黒いしぐろ、藩士/国学) G 4 6 5 3
 守本(しゅほん・小谷) → 守本(もりもと・小谷おだに、藩士/故実家) J 4 4 4 5
 首麻呂(しゅまろ・坂田部) → 首麻呂(おびとまろ・坂田部さかたべ、防人/万葉歌人) B 1 4 1 7
 寿麿(じゅまろ・岡本) → 寿麿(ひさまろ・岡本おかもと、神職/歌人) L 3 7 8 9
 守満(しゅまん・菊池) → 守満(もりみつ・菊池きくち、神職/国学/歌) J 4 4 8 7
 須弥仏(須弥弗しゅみぶつ) → 孟遠(もうえん、俳人) 4 4 4 3
 受妙院(じゅみょういん) → 日覚(にちがく;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 4
 寿命院(じゅみょういん) → 聖碩(せいせき・ト部うらべ、律僧、歌人) C 2 4 4 4
 寿命院(じゅみょういん) → 日宥(にちゆう;法諱・栄存、日蓮僧) D 3 3 3 6
 寿命院(じゅみょういん・秦) → 宗巴(そうは・秦はた、医者/連歌) C 2 5 6 8
 酒民(しゅみん) → 清狂(せいきやう・西村にしむら、絵師) H 2 4 8 9

M2118 寿民(じゅみん) ? - ? 京の俳人;1729隆志「俳諧草結」入(215)

[もみち葉や垢さへもろき世捨人](俳諧草結;215/枯葉ように隠者の垢もはがれ落ちる)

寿民(じゅみん・河地) → 時雍(ときやす・河地かわち、国学者) U 3 1 8 7

2179 主馬(しゅめ;名・荻田おぎた、孫十郎男) ?-? 1615後没 武将;上杉景勝の近習/のち越前松平家に出仕、大坂夏の陣で戦功/のち主家が越後高田に封ぜられるに伴い糸魚川城代に就任、「荻田主馬助覚書」著

主馬(しゅめ・本間) → 丹野(たんや・本間、能太夫/俳) 2 6 9 8
 主馬(しゅめ・檜垣) → 貞次(さだつぐ・檜垣ひがき/度会、神職) I 2 0 5 7
 主馬(しゅめ・梅津) → 政景(まさかげ・梅津/藤原、藩家老/日記) B 4 0 6 9
 主馬(しゅめ・尾形) → 宗謙(そうけん・尾形おがた、商家/書家) H 2 5 0 5
 主馬(しゅめ・梅津) → 利忠(としただ・梅津、政景孫/藩士/兵法家) M 3 1 6 9
 主馬(しゅめ・加藤) → 光尚(みつひさ・加藤かとう、武藝水泳術者) E 4 1 5 8
 主馬(しゅめ・林) → 鳳池(ほうち・林はやし、儒者) C 3 9 2 6
 主馬(しゅめ・松平) → 康詮(やすあきら・松平まつだいら/松井/源、幕臣/歌) H 4 5 1 3
 主馬(しゅめ・長野) → 義言(よしこと・長野、歌人) 4 7 1 1
 主馬(しゅめ・中西) → 深斎(しんさい・中西、医者/傷寒論研究) O 2 2 4 2
 主馬(しゅめ・内藤) → 尚賢(なおかた・内藤、本草家) 3 2 9 7
 主馬(しゅめ・永井) → 正次(まさつぐ・永井ながい、幕臣/和学) R 4 0 2 2
 主馬(しゅめ・久志本) → 常彰(つねあきら・久志本/河崎、神職/歌) B 2 9 5 7
 主馬(しゅめ・山本/大江) → 憲蔭(のりかげ・山本、神道家) E 3 5 3 4
 主馬(しゅめ・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5
 主馬(しゅめ・橋村) → 正甫(まさなみ・橋村はむら/度会/村山、神職) R 4 0 7 1
 主馬(しゅめ・山内) → 規重(のりしげ・山内やまのうち、藩家老/儒) E 3 5 6 7
 主馬(しゅめ・山領) → 梅山(ばいざん・山領やまりよう、藩士/儒者) B 3 6 3 0
 主馬(しゅめ・箕曲) → 在一(ありかず・箕曲みのわ、神職/詩歌) F 1 0 2 6
 主馬(しゅめ・鈴木) → 一鳴(いちめい・鈴木すずき、藩士/儒者) G 1 1 4 4
 主馬(しゅめ・松平) → 玄駁(げんき・松平まつだいら、藩老/俳人) E 1 8 0 4
 主馬(しゅめ・石野/佐々木) → 一陽(かずあき・佐々木、幕臣/歌) M 1 5 0 3
 主馬(しゅめ・細川) → 重賢(しげかた・細川/源、藩主/詩/武芸) C 2 1 0 6
 主馬(しゅめ・小野崎) → 尚甫(しょうほ・小野崎おのざき/田崎、藩士/詩) L 2 2 5 9
 主馬(しゅめ・井坂) → 一清(かずきよ・井坂いさか、書家) M 1 5 1 9
 主馬(しゅめ・野沢) → 鉄教(かねのり・野沢のざわ、神道家) O 1 5 8 5
 主馬(しゅめ・笹) → 丘高(きゅうこう・笹ささ、神風館13世/俳人) M 1 6 5 2
 主馬(しゅめ・岡崎) → 良梁(りょうりょう・岡崎おかさき、兵法家) J 4 9 6 5
 主馬(しゅめ・小寺) → 清之(きよゆき・小寺こでら、神職/国学/歌) H 1 6 5 8
 主馬(しゅめ・岩橋) → 広持(ひろもち・岩橋いわはし/大江、神職/国学) I 3 7 3 8

主馬(しゅめ・長谷川) → 安卿(やすあきら・長谷川、幕臣/歌人) 4 5 8 5
 主馬(しゅめ・梅津) → 忠周(ただかね・梅津うめづ/藤原、国学者) P 2 6 4 2
 主馬(しゅめ・平井) → 樗堂(ちようどう・平井ひらい、藩士/詩人) K 2 8 4 4
 主馬(しゅめ・岡本) → 豊彦(とよひこ・岡本、絵師) R 3 1 4 9
 主馬(しゅめ・奥田) → 常雄(つねかつ・奥田/橋、藩士/国学者) B 2 9 9 7
 主馬(しゅめ・中村) → 水竹(すいちく・中村なかむら、篆刻家) E 2 3 8 5
 主馬(しゅめ・常盤) → 義質(よしなお・常盤ときわ、歌人) O 4 7 0 1
 主馬(しゅめ・伊達) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4
 主馬(しゅめ・佐藤) → 千秋(ちあき・佐藤さとう、国学/歌人) M 2 8 5 8
 主馬(しゅめ・黒瀬) → 田弘(ただひろ・黒瀬くろせ、神職/国学) W 2 6 9 4
 主馬(しゅめ・黒瀬) → 延弘(のぶひろ・黒瀬くろせ、国学者) I 3 5 3 4
 主馬(しゅめ・横関) → 敦(あつし・横関よこせき/源、陪臣/歌) I 1 0 7 7
 主馬(しゅめ・山本) → 晟忠(あきただ・山本やまと/藤原、神職/国学) I 1 0 7 3
 主馬(しゅめ・波多野) → 春郷(はるさと・波多野はたの、神職/国学) K 3 6 5 8
 主馬(しゅめ・五富利) → 言足(延足のぶたり・五富利ごぶり、御師代官/国学) I 3 5 4 6
 主馬(しゅめ・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
 主馬(しゅめ・横山) → 清暉(せいき・横山よこやま、絵師) O 2 4 4 3
 主馬(しゅめ・真木) → 佐忠(すけただ・真木まき、神職/国学) J 2 3 2 5

2180 守明(しゅめい;号) ?- ? 撰津灘大石の俳人;蕪村門、

1782蕪村「花鳥篇」1句/83維駒「五車反古」1句入、

[立ち寄ればことに一樹いちじゅの桜かな](花鳥篇;花桜帖11)

首名(しゅめい・道) → 首名(おびとな・道みち、廷臣/律令撰定) B 1 4 1 6
 首名(しゅめい・安倍/阿倍) → 首名(おびとな・安倍/阿倍朝臣あべのあそみ、廷臣/詩) B 1 4 1 5
 首名(しゅめい・大日奉舎人) → 首名(おびとな・大日奉舎人おほひまつりのとねり、廷臣/詩) D 1 4 3 2
 守明(しゅめい・木俣) → 守明(もりあき・木俣きまた/橋、藩老/執権) J 4 4 8 1
 守盟(しゅめい・木俣) → 守盟(もりあき・木俣きまた/橋、藩老) J 4 4 8 5
 守命(しゅめい・竹内) → 守命(もりのぶ・竹内たけうち/藤岡、神職/国学) K 4 4 4 5
 寿明(じゅめい・亀山) → 寿明(ひさあき・亀山かめやま、国学者) J 3 7 1 0
 主馬蔵(しゅめぞう・宮部) → 義淳(よしあつ・宮部みやべ、藩士/歌人) C 4 7 1 1
 主馬蔵(しゅめぞう・宮部) → 義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学) C 4 7 0 5
 主馬介(しゅめのすけ・市岡) → 殷政(しげまさ・市岡いちおか/源/北原、本陣/勤王) N 2 1 3 9
 主馬亮(しゅめのすけ・木下/円山) → 応震(おうしん・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 5 5
 主馬之介(しゅめのすけ・横山) → 信平(しんぺい・横山/中尾、絵師/養蚕) P 2 2 7 7
 寿免(じゅめん・大谷) → 寿免(すめ・大谷おおたに、歌人/書画) I 2 3 2 0
 種茂(しゅも・佐枝) → 種茂(たねしげ・佐枝さえだ、藩士/城代) R 2 6 8 2
 守繁(しゅも・三枝) → 守繁(もりしげ・三枝さいぐさ、幕臣/国学) K 4 4 0 2
 手毛八巢(しゅもうはつそう) → 容斎(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師) 4 7 9 5
 守黙(しゅもく・司馬) → 遠湖(えんこ・司馬しば、儒者) E 1 3 6 9

J2104 撞木庵主人(しゅもくあんしゅじん)?- ? 1738洒落本「卯地臭意」著

撞木林(しゅもくりん) → 反古(はんこ・小林、商家/俳人) H 3 6 5 4
 寿門院(じゅもんいん;号) → 実祐(じつゆう;法諱、社僧/国学者) O 2 1 7 8
 守約(しゅやく・北条) → 氏如(うじゆき・北条、軍学者) B 1 2 7 6
 守約(しゅやく・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2
 守約(しゅやく・塙) → 守約(もりのぶ・塙はなわ、兵法家) G 4 4 1 9
 守約(しゅやく・菌田) → 守約(もりかね・菌田そのだ/中川、神職) K 4 4 2 0
 守約(しゅやく・真野) → 守約(もりあき・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7
 守約(しゅやく・但馬/田結荘) → 千里(ちさと・田結荘たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) B 2 8 9 6
 守約(しゅやく・木下) → 守約(もりなり・木下きのした、国学者) J 4 4 7 4
 須臾庵(しゅゆあん) → 祇丞(ぎじよう・三上みかみ、札差/俳人) B 1 6 2 7

- 2181 **守遊**(しゅゆう/もりゆき・辻つじ、前田広兵衛真近2男) 1639-1724⁸⁶ 1653(15歳)佐渡相川の辻守潤の養子、1657養父の佐渡奉行所地役人を継嗣、1671留守居役;水道工事・銀山事業に尽力し受賞、神道;橘三喜門/詩歌・連歌・書・馬術に通ず、権大納言小倉実起の謫居に出入;歌の贈答、1703[鳥跡後集新哥さざれ石]11首入集/連歌;里村家入門;1707昌億を訪問;興業参加、1706致仕/潟上村に移住/07京の浄土宗知恩院で出家:露元の法号を受、帰郷後;新穂潟上に隠棲;念仏修行と連歌・歌に専心、「佐渡音頭」「よしなし草」著、[守遊(;名)の幼名/通称/号]幼名;六之助、通称;八郎左衛門、号;露元[斎]/一幽軒
- J2105 **守由**(しゅゆう・一花亭) ? - ? 狂歌作者;芙蓉花門「一本亭追福狂歌集」刊
 守有(しゅゆう・大隅) → 守有(もりあり・大隅おおすみ、料理方) F 4 4 1 1
 守由(しゅゆう・衣笠) → 守由(もりよし・衣笠きぬがさ/東、絵師/歌) J 4 4 9 0
 守由(しゅゆう・渡辺) → 守由(もりよし・渡辺わたなべ、藩士/地誌家) G 4 4 8 4
 守雄(しゅゆう・大堀) → 守雄(もりお・大堀おおほり、藩士/国学者) F 4 4 1 8
 守雄(しゅゆう・関) → 守雄(もりお・関せき、商家/国学者) F 4 4 1 9
 守雄(しゅゆう・村山) → 守雄(もりお・村山/三井、藩士/歌人) F 4 4 2 0
 守雄(しゅゆう・高木) → 守雄(もりお・高木たかぎ、歌人) I 4 4 9 9
 樹雄亭(じゅゆうてい) → 阿徳(あとく、俳人) E 1 0 9 8
- J2106 **守誉**(しゅよ;法諱、藤原実藤男) 1249-1304⁵⁶ 真言宗仁和寺の成菩提院・香隆寺の僧、1294東寺長者/98長者辞任/大僧正/1300長者再任、歌人、勅撰8首;新後撰(226/682/1097)玉葉(869)続千(1898/2020)風雅(1829)新千載(1757)、[のぼりえぬ程も知られて夏川の早瀬にふくる夜半の篝火](新後撰;三夏226)
 取要院(しゅよういん) → 日言(にちごん;法諱・長江、日蓮僧) B 3 3 9 8
 守要院(しゅよういん) → 日眞(にっしん;法諱・完孝、日蓮僧) E 3 3 5 6
 寿天軒(しゅようけん) → 北枝(ほくし・立花、俳人) 3 9 6 5
 樹雄亭(しゅゆうてい) → 長彦(ながひこ・阿刀あと、俳人) F 3 2 4 0
 首陽館(首陽官しゅようかん) → 文鳳(ぶんぼう・河村かわむら、絵師) G 3 8 4 8
- J2107 **珠来**(しゅらい・洪こう/沼しょう) 1718-87^{70歳} 江中期江戸の俳諧宗匠;湖十門、其角座平砂側点者、1752「江戸十余歌仙」/68「稼蔵集」編、73「三朝」著、74「試筆」75「初日哉」78「いほのはる」編、1780「若水」編、84米翁「染井山荘句集」編、1754竹翁「俳諧童の的」点句入、「近江八景点取帖」、[珠来(;号)の別号]角浪(;初号)/一石房/百花主人
- J2108 **寿来**(しゅらい・松下まつした) ? - ? 俳人・1761俳論「御傘難問ごさんなんもん」著
- J2109 **寿来**(しゅらい・宝田たからだ、姓;鈴木) 1740-96⁵⁷ 江戸神田の歌舞伎作者(天明1781-89頃活動)、[神田の隠居]と称され2世中村重助・初世瀬川如皐と同座;同格扱、俳諧も嗜む(;閑雅) 1784「重々人重(じゅうじゅうひとえ)小町桜」「初暦闇會我」「稲妻今年の入船」「執袖二錦紅」、1784常磐津「積恋雪関扉」(浄瑠璃)、85「嬌柳妹背的」「千代始音頭瀬渡」「江戸仕立団七縞」、1785「重々人重歌會我」/86「貢信田豊年」外著作多数、[宝田寿来(;号)の通称/別号]通称;和八郎/金之助、別号;斎せい馬雪?/劇神仙(初世)/閑雅(;俳名)
- J2110 **寿楽**(しゅらく・喜久亭) ? - ? 嘶家、西両国席、1826正蔵「升おとし」巻末入
 受楽院(じゅらくいん) → 妙泰尼(みょうたいに;法諱・出口でぐち、歌) J 4 1 7 9
 寿楽隠居(じゅらくいんきょ) → 鉄石(てっせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
- J2111 **酒楽斎**(しゅらくさい・吉野屋、滝麿)?-1798 狂歌・赤良門、1688京伝「吉野屋酒楽」あり
 寿楽隠居(じゅらくいんきょ) → 鉄石(てっせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
 手欄干(しゅらんかん) → 河東(ますみかとう・十寸見、浄瑠璃太夫) 1 5 2 5
 酒乱斎雷酔(しゅらんさいらいすい) → 曉斎(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師) N 1 6 8 5
- J2112 **修理**(しゅり・桑山くわやま、竜珠館)?-? 1825馬琴「兎園小説」入;兎園社友
 修理(しゅり) → 修理(すり、平安前期女房/歌人) D 2 3 4 7
 修理(しゅり・賀茂) → 友信(ともぶ・賀茂/幸徳井、陰陽家) Q 3 1 1 8
 修理(しゅり・狩野) → 山楽(さんらく・狩野/木村、京狩野家祖) 2 0 5 9
 修理(しゅり・前田) → 知好(ともよし・前田まえだ、藩士/城代) Q 3 1 9 0
 修理(しゅり・前田) → 知頼(ともより・前田、藩士/記録/日記) R 3 1 0 2

修理(しゆり・前田) → 知周(ともちか・前田まえだ、藩家老/記録) P 3 1 7 9
 修理(しゆり・堀) → 直為(なおゆき・堀ほり、藩主/武芸) C 3 2 8 6
 修理(しゆり・諏訪) → 忠林(ただとき・諏訪すわ、藩主/詩文) P 2 6 9 9
 修理(しゆり・池田) → 長溥(ながひろ・池田、幕臣/文筆) F 3 2 5 8
 修理(しゆり・鈴木) → 長頼(ながより・鈴木、幕臣/大工) G 3 2 5 5
 修理(しゆり・荒木田/藤波) → 氏胤(うじたね・藤波ふじなみ、神職) C 1 2 4 3
 修理(しゆり・前田/藤波) → 氏守(うじもり、藤波/荒木田、神職/歌) B 1 2 3 5
 修理(しゆり・松木) → 直彦(なおひこ・松木まつき、神職) O 3 2 8 3
 修理(しゆり・久志本) → 常芬(じょうふん・久志本/度会、幕府医) L 2 2 5 2
 修理(しゆり・佐久間) → 象山(しょうざん・佐久間、儒/蘭学/兵学) S 2 2 5 4
 修理(しゆり・石川) → 村文(むらぶみ・石川いしかわ、邑主/歌人) D 4 2 2 0
 修理(しゆり・岩瀬/設楽) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩/画) Q 2 6 3 7
 修理(しゆり・田村) → 建顕(たけあき・田村、藩主/故実/歌) E 2 6 3 3
 修理(しゆり・小川) → 義局(よしちか・小川おがわ、神職) E 4 7 5 4
 修理(しゆり・津田) → 政本(まさもと・津田つだ、藩家老) H 4 0 9 4
 修理(しゆり・牧) → 義道(よしみち・牧まさき、義制男/幕臣) H 4 7 4 7
 修理(しゆり・本多) → 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) G 2 9 3 4
 修理(しゆり・林) → 直孝(なおたか・林はやし/伊丹、幕臣/国学) O 3 2 4 3
 修理(しゆり・田村) → 誠顕(のぶあき・田村たむら、藩主/歌人) I 3 5 8 9
 修理(しゆり・若林) → 靖亭(せいてい・若林友輔、藩士/詩人) J 2 4 2 6
 修理(しゆり・伊東) → 祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) G 2 3 6 8
 修理(しゆり・笹谷) → 進齋(しんさい・笹谷ささや、神職/国学者) U 2 2 8 7
 修理(しゆり・不破) → 惟益(これます・不破ふわ、神職/神道家) O 1 9 2 9
 修理(しゆり・大村) → 純熙(すみひろ・大村、藩主/兵学) D 2 3 9 6
 修理(しゆり・加藤) → 里路(さとみち・加藤かとう、藩士/神職/歌) O 2 0 2 4
 修理(しゆり・孫福) → 公好(きみよし・孫福ごぶく/足代、神職/国学) V 1 6 2 1
 修理(しゆり・千本松) → 吉周(よしちか・千本松せんぼんまつ/菅原、神職/国学) N 4 7 6 0
 修理(しゆり・武田/跡部) → 正生(まさなり・武田耕雲斎、藩士/天狗党) 4 0 1 6
 修理(しゆり・本多) → 敬義(たかよし・本多/菅沼、家老/国学) Z 2 6 4 4
 修理少進(しゆりしょうしん・水野) → 政礼(まさり・村井/水野、廷臣/勤王家) G 4 0 3 2

2182 守理親王(しゆりしんのう、伏見宮邦輔親王男) 1558-? 正親町天皇の猶子/真言仁和寺僧;任助親王門、仁和寺門跡/のち仁和寺を退去し隠棲、「懷紙御詠草類」、

[守理親王(;法諱)の初法諱/号]初法諱;師秀、号;一露/一老

修理大夫(しゆりだいふ・小笠原) → 貞朝(さだとも・小笠原、武将) I 2 0 8 9
 修理大夫(しゆりだいふ・上杉) → 定正(さだまさ・上杉/扇谷/藤原、武将/守護) F 2 0 5 2
 修理大夫(しゆりだいふ・畠山) → 義総(よしふさ・畠山はたけやま、武将/守護/城主) G 4 7 7 3
 修理大夫(しゆりだいふ・井伊) → 直中(なおなか・井伊い、藩主/歌人) B 3 2 9 1
 修理大夫(しゆりだいふ・徳川) → 治貞(はるさだ・徳川とくがわ、藩主/文筆家) G 3 6 3 4
 修理大夫(しゆりだいふ・本多) → 助賢(すけとし・本多/藤原/戸田、藩主/歌) G 2 3 6 4
 修理大夫(しゆりだいふ・中川) → 久貞(ひささだ・中川なかがわ/松平、藩主) B 3 7 0 5
 修理大夫(しゆりだいふ・千鳥) → 祐益(すけます・千鳥ちどり/中臣、神職/歌) I 2 3 8 0
 修理大夫(しゆりだいふ・伊東) → 祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) G 2 3 6 8
 修理入道(しゆりにゅうどう) → 玄哉(げんさい・辻/墨屋、商家/茶/連歌) B 1 8 8 5
 修理之進(しゆりのしん・上月) → 豊蔭(とよかげ・上月こうづき、神職/国学) V 3 1 1 9
 修理亮(しゆりのすけ・柴田) → 勝家(かついえ・柴田、武将) C 1 5 4 0
 修理亮(しゆりのすけ・伊達) → 景豊(かげとよ・伊達だて、武家/連歌) L 1 5 1 0
 修理亮(しゆりのすけ・稲田) → 示植(しげたね・稲田いなだ、武将/城代) C 2 1 3 5
 修理亮(しゆりのすけ・杉浦) → 国頭(くにあきら・杉浦すぎうら、神職/国学) 1 7 1 7
 修理亮(しゆりのすけ・狩野) → 山楽(さんらく・狩野/木村、京狩野家祖) 2 0 5 9
 修理亮(しゆりのすけ・高橋) → 広精(ひろきよ・高橋たかはし/鈴木、神職/歌) F 3 7 7 8

- 樹里門(じゅりもん・長井) → 伴自(ばんじ・長井ながい、俳人;雑俳点者) 3 6 4 6
 守隆(しゅりゅう・水野) → 守隆(もりたか・水野みずの/源、武将/連歌) F 4 4 5 6
 守隆(しゅりゅう・九鬼) → 守隆(もりたか・九鬼くき/藤原、藩主) F 4 4 5 7
 寿柳軒(じゅりゅうげん) → 南水(なんすい・小中、俳人) J 3 2 2 1
- J2113 朱陵(しゅりょう・片岡^{かたおか}) 1715-1768⁵⁴ 儒者、詩人、1778孤山「楽泮集」入
 種良(しゅりょう・松本) → 種良(たねよし・松本、泉屋、藩の記録) S 2 6 1 6
 主領(しゅりょう・宮地) → 益躬(ますみ・宮地/藤原、神職/国学) J 4 0 2 5
 守良(しゅりょう・山島) → 守良(もりよし・山島やましま、和算家) G 4 4 9 3
 朱陵(しゅりょう・片岡) → 維良(これよし・片岡^{かたおか}/平尾、藩儒) Q 1 9 6 2
 壽靈(じゅりょう;法諱) → 壽靈(じゅれい/じゅりょう;法諱、華嚴僧) 2 1 8 3
 壽良(じゅりょう;不破) → 壽良女(すらじよ・不破ふわ、国学/歌人) J 2 3 0 9
 壽量庵(じゅりょうあん) → 淨恵(じょうえ;法諱、真宗大谷派僧) H 2 2 1 1
 壽量院(じゅりょういん) → 日文(にちぶん;法諱・弁立、日蓮僧) D 3 3 1 7
 壽量院(じゅりょういん) → 日祐(にちゆう;法諱・玄首、日蓮僧) D 3 3 3 1
 壽量院宮(じゅりょういんのみや) → 承覚法親王(しょうかくほうしんのう、天台門跡/歌人) F 2 2 8 8
 酒量酈(しゅりょうてん) → 里竹(りちく・岡部^{おかべ}/岡、俳人) B 4 9 4 7
 朱鱗(しゅりん・張) → 梨春(りしゅん・後藤/多田、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3
 狩林斎(しゅりんさい) → 一蝶(いちてつ・初世いちぢょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
 珠林舎(しゅりんしゃ) → 騏道(きどう・木村きむら、俳人) B 1 6 5 8
 寿林宗久(じゅりんそうきゅう) → 宗久(そうきゅう・今井、堺納屋衆/茶人) B 2 5 0 1
 主令(しゅれい・河本) → 宣易(のぶやす・河本かわもと、神職/国学) I 3 5 0 5
 主鈴(しゅれい・恵美) → 長敏(ながとし・恵美えみ、詩人) E 3 2 8 3
 主鈴(しゅれい・松宮) → 観山(かんだん・松宮/菅、兵学/儒/国学) 1 5 5 2
 主鈴(しゅれい・牧) → 嵩振(たかふる・牧まき、藩士/歌人) N 2 6 1 6
 主鈴(しゅれい・中西) → 弘令(ひろのり・中西なかにし、神職/国学) G 3 7 9 3
 主鈴(しゅれい・池田) → 寛親(ひろちか・池田いけだ、藩家老/歌文) G 3 7 3 6
 主鈴(しゅれい・人見) → 蕉雨(しょうう/蕉雨斎・人見、藩士/詩文) G 2 2 9 3
 主鈴(しゅれい・宮下) → 尚綱(しょうけい・宮下みやした、藩士/儒家) I 2 2 2 4
 主鈴(しゅれい・飯田) → 年平(としひら・飯田、神職/歌人) N 3 1 5 8
 主鈴(しゅれい・藤枝) → 從継(よりつぐ・藤枝ふじえだ、神職/国学) O 4 7 8 7
 主礼(しゅれい・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7
 主礼(しゅれい・小川地) → 喜広(きひろ・小川地おがわち、神職) G 4 7 6 5
 主齡(しゅれい・三浦) → 坦斎(たんさい・三浦みうら、医/儒者) T 2 6 5 1
 主齡(しゅれい・堀内) → 広城(ひろき・堀内ほりうち、地士/国学者) F 3 7 7 4
 守礼(しゅれい・多賀/安東) → 筋庵(せつあん・安東あんどう/多賀、藩儒) E 2 4 0 2
- 2183 壽靈(じゅれい/じゅりょう;法諱)?- ? 奈良・平安前期天平勝宝-大同749-810頃の華嚴僧:
 東大寺良弁門/興福寺慈訓門、「華嚴五教章指事」著
 寿櫟斎(じゅれきさい・岡) → 安定(やすさだ・岡^{おか}、商家/本草/救荒) B 4 5 5 2
 守廉(しゅれん・熊野) → 正紹(まさつぐ・熊野くまの、漢学/地誌家) D 4 0 9 2
 需激漁夫(じゅれんぎょく) → 玉洲(ぎょくしゅう・桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2
 寿廉堂(じゅれんどう) → 永年(ながとし・春田はるた、具足師/故実) 3 2 1 2
 寿六(じゅろく・佐々木) → 眞足(またり・佐々木、能役者/歌人) J 4 0 5 8
 寿禄(じゅろく・大岡) → 清純(きよすみ・大岡おおおか/源、旗本/歌) V 1 6 6 6
 守六斎(しゅろくさい・生駒) → 信億(のぶのり・生駒いこま、歌人) H 3 5 2 5
 澍露軒(じゅろけん) → 直弼(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学) B 3 2 3 9
 十郎三郎(じゅろさぶろう・小笠原) → 信嶺(のぶみね・小笠原、武将/連歌) D 3 5 5 0
 守和(しゅわ・井面) → 守和(もりかず・井面いのも/荒木田、神職) F 4 4 2 9
 壽和利かた餅(じゅわりのかたもち) → 壽和利かた餅(じゅわりのかたもち、狂歌) Z 2 1 8 6
 壽彎(じゅわん・田端) → 年蔭(としかげ・田端たばた、大庄屋/国学) V 3 1 5 6
 俊(しゅん・源) → 俊(すぐる・源、廷臣/歌人) B 2 3 7 4

俊(しゅん・千々和)	→	俊(たかし・千々和ちぢわ、医者/国学/歌)	Y 2 6 2 0
俊(しゅん・野呂)	→	道庵(同庵どうあん・野呂のろ、儒者)	3 1 9 4
俊(しゅん・山田)	→	惟雲(いうん・山田、商人/儒者)	E 1 1 7 6
俊(備しゅん・松田)	→	竹里(ちくり・松田まつだ、藩医/詩文)	D 2 8 9 2
俊(しゅん・向)	→	朝直(ちようちよく・田里たさと、廷臣/組踊)	J 2 8 4 9
俊(しゅん・藤井/諏訪)	→	方亭(芳亭ほうてい・藤井ふじい、蘭方医)	C 3 9 3 4
峻(しゅん・高/王)	→	葛坡(かっぱ・高こう、漢学者)	H 1 5 8 3
峻(しゅん/たかし・安藤/司馬)	→	江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学)	1 9 9 1
峻(しゅん/たかし・真山)	→	雲外(うんがい・真山まやま、和漢学者)	E 1 2 8 8
峻(しゅん・藤沢)	→	拙斎(せつさい・藤沢ふじさわ、医者)	K 2 4 9 6
竣(しゅん・宇津木)	→	静斎(せいさい・宇津木うつぎ、儒者)	I 2 4 3 1
駿(しゅん・櫛田)	→	北渚(ほくしよ・櫛田くしだ、藩儒)	D 3 9 4 6
駿(俊しゅん・竹内/河村)	→	琦鳳(きほう・河村/竹内/中原、絵師)	L 1 6 9 2
駿(しゅん・中村/吉村)	→	斐山(ひざん・吉村よしむら、儒者)	C 3 7 2 4
駿(しゅん・葦原)	→	守中(しゅちゆう・葦原あしむら、読本作者)	I 2 1 9 2
駿(しゅん・山田)	→	寄斎(きさい・山田やまだ、儒者/詩文)	K 1 6 4 7
春(しゅん・原田)	→	君熙(くんき・原田はらだ、和算家)	D 1 7 6 1
春(しゅん・松村)	→	月溪(げつけい・松村、絵師/俳人)	B 1 8 0 4
濬(しゅん・由美)	→	希賢(まれかた・由美ゆみ/稲富、儒者/詩)	K 4 0 2 3
濬(しゅん・乾いぬい)	→	桐谷(とうこく・乾いぬい、本草家)	E 3 1 1 3
隼(しゅん・曾根)	→	寸斎(すんさい・曾根そね、藩士/篆刻)	H 2 3 2 9
雋(しゅん・伊藤)	→	雋吉(としよし・伊藤、航海術/砲術)	O 3 1 2 1
雋(しゅん・高川)	→	築真(がくしん・高川たかがわ、藩士/詩/書)	K 1 5 1 0
雋(しゅん・嶺田)	→	楓江(ふうこう・嶺田/峰田、藩士/詩)	3 8 6 0
雋(しゅん・斎藤)	→	尚善(しょうぜん・斎藤さいとう、和算家)	K 2 2 4 5
雋(しゅん・丹羽)	→	松三郎(しょうざぶろう・丹羽にわ、漢学)	J 2 2 1 6
蕤(しゅん・藤原)	→	惺窩(せいかわ・藤原、儒者)	2 4 0 3
尊(しゅん・池内)	→	尊(ぬなわ・池内いけうち、藩士/歌人/茶)	3 4 1 4

- J2114 潤(じゅん・高田たかた) ? - ? 備前の儒者:清田せいいた僣叟門、
1768僣叟「孔雀楼筆記」序文・校(播磨の堀栄吉・僣叟甥伊藤聖訓・医者窪田恭と共に校正)、
1769僣叟「藝苑談」校(;伊賀の西沢晃と校正)
- 2184 潤(じゅん・横山よこやま) 1749 - 1799 51歳 江戸の本草家/画、1775「瓶花へいか全書」編、
1775「秋萩の譜」、「五嶽真形図集」、「三貨備覧」著、
[潤(;名)の字/号]字;仲徳、号;南郊/吻々斎
- 2185 惇(じゅん・杉原すぎはら) ? - ? 1799存(70余歳) 讃岐高松藩医;2百石、詩文・書画に長ず、
寛政1789-1801頃長崎に遊歴、1802刊「麻疹備要方」、「化竜疑問」著、
[惇(;名)の字/通称/号]字;孟厚、通称;養甫、号;玄々/玄々堂/玄々叟
- 2186 詢(じゅん・林はやし) ? - ? 江後期文政1818-30頃紀州の医者、「内外療法書」著、
[詢(;名)の通称/号]通称:周蔵/周造、号;南溪、謙の兄
- 02135 淳(じゅん・黒瀬くろせ、与三右衛門良言)?-1821 備中倉敷の商家;成羽屋/国学者、智秀(普仙女)の孫、
妻;守屋方子まさこ(字免うめ、1764-1827/歌人)、元礼もといや(1764-1845)の兄、
家伝の謡曲に精通/家督を弟に譲り京に住;観世家で没、
[淳(;名)の字/通称/号]字;徳公、通称;聡一/与三右衛(代々の称)、号;李蹊
- 02173 淳(じゅん・塩谷しおたに、) 1769 - 1846 78 駿河府中の医者塩谷定興さだおきの養子、
駿府御薬園御薬種調、国学者、
[淳(;名)の別名/通称/号]別名;友昌、通称;桃庵(代々の称)、号;桃仙/蕙圃けいほ
- 2187 恂(じゅん・松倉まつくら、仙台藩町奉行松倉三右衛門男) 1827-1904 78 仙台藩士;小姓/公儀使出入司、
藩財政を主務、維新後は仙台区長・伊達家家令、「伊達家譜」編/「獅山公逸事一則其他」著、
[恂(;名)の別名/通称/号]別名;信友/亘、通称;台輔/良輔/良助、

号:晩香/文潭/久鳥村舎主人

純(じゆん・平手/太宰)	→	春台(しゆんだい・太宰ださい/平手、儒者)	2 1 6 2
純(じゆん)	→	三溪(さんけい・菊池)	2 0 5 0
純(じゆん・村上)	→	養純(ようじゆん・村上むらかみ、医者)	B 4 7 1 9
純(じゆん・田宮)	→	橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆)	I 1 6 6 4
純(じゆん・菊池)	→	三溪(さんけい・菊池、幕府儒官/随筆)	2 0 5 0
純(じゆん・渡辺)	→	周斎(しゅうさい・渡辺/丹波谷、商家/俳人)	X 2 1 3 3
純(じゆん・奥野)	→	小山(しょうざん・奥野おくの、藩士/儒者)	S 2 2 5 5
純(じゆん・仁上)	→	如蘭(じょらん・仁上にかみ、儒者)	M 2 2 8 9
純(じゆん・万年)	→	櫟山(れきざん・万年まんねん、医者)	5 1 7 7
醇(じゆん・頼)	→	三樹三郎(みきさぶろう・頼、儒/尊攘家)	4 1 6 9
惇(じゆん・中台)	→	惇(あつし・中台なかだい、藩士/儒者)	E 1 0 6 2
惇(じゆん・梶原)	→	景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学)	B 1 5 8 1
惇(じゆん・家長)	→	韜庵(とうあん・家長いえなが、儒者/詩文)	3 1 8 5
惇(じゆん・島川/中内)	→	樸堂(ぼくどう・中内なかうち/島川、藩儒)	D 3 9 8 3
惇(じゆん・尚)	→	朝教(ちようきやう・大里おおざと/尚、琉球摂政)	M 2 8 2 2
恂(じゆん・三宅)	→	意安(いあん・通称・三宅みやげ、医者)	E 1 1 7 3
恂(じゆん・樹下)	→	宇右衛門(うえもん・樹下じゅげ、心学者)	C 1 2 0 5
恂(じゆん・今井/長岡)	→	懷山(かいざん・長岡ながおか、医者)	I 1 5 6 6
淳(じゆん・宮崎)	→	筠圃(いんぼ・宮崎みやざき、儒者/書画)	E 1 1 7 0
淳(じゆん・中島)	→	黄山(こうざん・中島なかじま、儒者/書)	J 1 9 3 5
淳(じゆん・伊形)	→	大朴(たいぼく・伊形いがた、儒者/詩)	L 2 6 0 2
淳(じゆん・堀内)	→	適斎(てきさい・堀内ほりのうち、医者)	B 3 0 9 5
淳(じゆん・津田)	→	淳三(じゆんぞう・津田つだ、藩医)	L 2 1 3 6
淳(じゆん・平田)	→	淳(あつし・平田ひらた、藩校学頭/歌人)	I 1 0 3 3
淳(じゆん・陸原)	→	之淳(ゆきあつ・陸原くがはら、藩儒/詩人)	E 4 6 2 4
惇(じゆん・青木)	→	周斎(しゅうさい・青木あおき、医者/儒詩)	X 2 1 3 0
淳(順じゆん・斎藤)	→	方策(ほうさく・斎藤さいとう、蘭方医者)	3 9 9 3
準(じゆん・縄/三縄)	→	桂林(けいりん・三縄みなわ/縄じよう、儒/詩)	E 1 8 9 4
準(じゆん・勝田)	→	正履(せいり・勝田かつた、藩儒)	J 2 4 7 8
準(じゆん・野中)	→	蘭腕(らんえん・野中のなか、儒者)	B 4 8 6 2
準(じゆん・西島)	→	柳谷(りゅうこく・西島/西嶋、儒;講説)	D 4 9 9 4
遵(じゆん・小野)	→	春庵(しゆんあん・小野おの、藩医)	2 1 9 4
遵(じゆん・英)	→	平吉(へいきち・英はなぶさ、書肆万笈堂)	2 7 1 9
遵(じゆん・谷)	→	維揚(いよう・谷たに、儒者)	I 1 1 3 4
順(じゆん・源)	→	順(したごう・源みなもと、廷臣/詩歌人)	2 1 2 6
順(じゆん・加藤)	→	玄順(げんじゆん・加藤かとう、医者)	J 1 8 7 8
順(じゆん・黒沢)	→	節齋(せつか・黒沢くろさわ、藩士/儒者)	E 2 4 0 5
順(じゆん・小宅)	→	処斎(しよさい・小宅おやけ、藩士/儒者)	M 2 2 3 3
順(じゆん・高本/李)	→	順(したごう・高本/李/原田、医/儒/国学)	E 2 1 5 0
順(じゆん・岡島)	→	安斎(あんさい・岡島、儒者)	D 1 0 1 1
順(じゆん・満野)	→	荷洲(かじゅう・満野みつ、藩士/儒者)	L 1 5 8 2
順(じゆん・今井)	→	桐軒(とうけん・今井、国学/神道)	D 3 1 2 9
順(じゆん・鈴木)	→	南嶺(なんれい・鈴木、絵師)	J 3 2 7 1
順(じゆん・山内)	→	順子(まさこ・山内やまのうち/藤堂、藩主室/歌)	T 4 0 3 8
順(じゆん・斎藤)	→	幸庵(こうあん・斎藤さいとう、医者)	H 1 9 2 3
順(じゆん・青沼/吉益)	→	北洲(ほくしゅう・吉益よしまつ、医者)	D 3 9 3 9
順(じゆん・渡辺)	→	三休(さんきゅう・渡辺わたなべ、藩儒)	M 2 0 0 0
順(じゆん・植田)	→	桂南(けいなん・植田うえた、儒者/故実)	E 1 8 7 6
順(じゆん・中谷)	→	梧庵(ごあん・中谷、栗本3世/俳人)	H 1 9 0 6

順(じゆん・黒岩)	→ 竜谿(りゅうけい・黒岩くろいわ、儒者)	D 4 9 5 5
順(じゆん・平尾)	→ 他山(たざん・平尾/力丸、藩士/儒者/詩)	O 2 6 9 4
順(じゆん・谷川)	→ 竜山(りゅうざん・谷川たにがわ、医者/易占)	E 4 9 2 0
順(じゆん・野村)	→ 文紹(ぶんしょう・野村のむら、幕臣/絵師)	F 3 8 7 7
順(じゆん・児玉)	→ 順蔵(じゆんぞう・児玉こだま、医者/蘭学)	L 2 1 3 0
順(じゆん・松本)	→ 良順(りょうじゆん・松本/佐藤、蘭医)	I 4 9 0 2
順(じゆん・芝)	→ 順(したごう・芝しば、神職/国学/歌)	U 2 1 7 9
潤(じゆん・小川)	→ 月磨(つきまる・喜多川、絵師)	2 9 6 1
潤(じゆん・佐野)	→ 東洲(とうしゅう・佐野、書家)	E 3 1 9 6
潤(じゆん・飯田)	→ 百川((ひやくせん・飯田いいた、書家)	E 3 7 6 3
潤(じゆん・前田)	→ 雲洞(うんどう・前田まえた、藩士)	E 1 2 0 2
潤(じゆん・月形)	→ 鷗窠(しゅうか・月形つきがた、藩士/儒者)	L 2 1 6 8
潤(じゆん・中井)	→ 厚沢(こうたく・中井なかい、医者/蘭学)	K 1 9 4 9
潤(じゆん・福井)	→ 春水(しゆんすい・福井ふくい、本草家)	L 2 1 2 0
徇(順じゆん・細井)	→ 東陽(とうよう・細井、藩医/本草家)	H 3 1 8 5
循(じゆん・加藤)	→ 弘通(ひろみち・加藤かとう、医者/歌人)	I 3 7 9 7

- J2115 **俊阿**(しゆんあ;法諱、俗名;惟宗これむね高俊、医者惟宗時俊男)?-? 鎌倉南北期廷臣;大膳大夫/出家、法師/歌人、1359成立「新千載集」1271、
[おなじ世に生きて頼みはなけれどもあるを契と思ふばかりぞ](新千;恋1271)
- 02179 **春蛙**(しゆんあ;号) ? - ? 江中期京の俳人;春夜楼連、
1773几董「あけ鳥」6句(夏四月朔臨時会歌仙参加5句入)/76「続明鳥」4句入、
[萩の戸の馬のゆくへやけさの秋](あけ鳥;127)
(清涼殿萩の戸の馬が行方不明;立秋の風に誘われ野に出たか)
- P2111 **順阿**(じゆんあ;法諱/順阿弥)?- ? 京の僧;將軍足利義教の同朋衆、歌/連歌/狂歌、
「狂歌五十人一首」「新撰狂歌集」2首入/「古今夷曲集」1首入(新撰狂歌集137の歌)、
[梶原と今それがしが二度のかけそれは高名是は名号](新撰狂歌集;137)、
(昔 公方様[將軍足利義教]の連歌の時に天神の名号が風に吹き落された時の詠、
梶原景時の二度の駆と掛軸を二度掛け直す)
- J2116 **順阿**(じゆんあ;法諱) ? - ? 真宗僧/18ct末湧蓮「法のえ(道閑刊)」はしがき筆
- 2189 **順阿**(じゆんあ;法諱/号) ? - ? 江後期化政1804-30頃京の僧、
梁岳・大江広海と交流、「三つの浦舟」著
- 02191 **順阿**(じゆんあ;法諱) ? - 1869 近江神崎郡八日市浜野の浄土宗西照寺住職、
国学・歌;長野義言よじこと/よしゆき門、歌人:[鳩のうみ]入
順阿(じゆんあ・託蓮社) → 隆円(りゅうえん;法諱、浄土僧/化政期伝記作者) D 4 9 0 1
- 2190 **春靄**(しゆんあい・日野ひの/本姓;秋良/修姓;秋、初姓;松岡) 1808-60 長門萩藩侍医日野宗宅の養子、
医業を継嗣;萩藩侍医;藩主毛利斉広・敬親2代の侍医/詩人、「春靄詩鈔」著、
[春靄(;号)の名/字/通称]名;韶、字;九成、通称;貞庵
春靄(しゆんあい・岡橋) → 鵬子(かんし・岡橋、俳人/詩文家) G 1 5 3 4
春愛(しゆんあい・平瀬) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
準阿弥(じゅうあみ) → 永機(えいき・穂積ほづみ、俳人) 1 3 2 0
- J2117 **春庵**(しゆんあん;字・曾観そかん;法諱)?-? 真言宗大和長谷寺の僧/連歌作者、
1413伝阿作「伝阿量字百韻」に加点(奈良の順長房・長谷の順見房と3名で加点)
- 2191 **春庵**(しゆんあん・雲川くもかわ、名;弘毅/通称;治平)?-? 江前期京の儒者;山崎闇齋門、
1684「聖謨」/85「心学辨」著
- J2118 **春庵**(しゆんあん・竹田たけだ、名;定直、医者竹田定頼男) 1661-1745 85 京の生/1662筑前に移住、
1675(15歳)福岡藩前藩主黒田光之に出仕、和算;星野廓庭門/漢学;貝原益軒門、
福岡藩儒;禄3百石、朝鮮通信使者に応接、四代の藩主に出仕後1724致仕、私塾笛塾開設、
歌人、1689「九数新書」1717「孝経釈義便蒙」19「拾遺和漢名数」29「筑前国孝子正助伝」、
1740「女訓翁草」/42-3「筑前国孝子良民伝」、「春庵文集」「為政治約言」著;外編著多数、

- [春庵(；号)の字/通称]字;子敬、通称;千之助/七之助/助太夫、 蘿亭の父
- 2192 **俊安**(春庵しゅんあん・本間ほんま、本間久四郎原光男) 1715-58 44 出羽酒田の富豪の生、医;杉山道庵門、1731京の林杏庵門、帰郷後開業医、諸学に通ず、1742庄内藩医伊東見竜「医学蒙求」序と注、[俊安(；名)の通称] 駒之助/春庵/良庵/俊庵/良春
- 2193 **春庵**(しゅんあん・和田わだ、名;礼)?-? 江中期1751-72頃京の本草家:松岡恕庵門、1760師の「用葉須知後編」の誤を訂正;1765「用葉須知後篇正誤」出版/1765「七種若菜考」著、[春庵(；通称)の字/号]字;子叙、号;東岳、 和田東郭の一族か?
- 2194 **春庵**(しゅんあん・小野おの、名;遵) 1741-83 43歳 代々長門萩藩医、医;吉益公言(東洞)門、書:草書、滝鴻(高渠こうきよ)と交流、「医隠余稿」著、[春庵(；通称)の字/別通称]字;子友、別通称;東原
- 2195 **春庵**(しゅんあん・浜田はまだ、名;為章)?-? 江中期伊勢安濃郡洞津の儒者、「春菴詩稿」著、[春庵(；号)の字/通称]字;文卿、通称;主殿
- 2196 **春庵**(しゅんあん・玉川たまがわ、名;有秋、藩士中津川延行男)?-1839 陸中南部の生、医者:朝川善庵門、仕官せず医業、玉川本立女と結婚;玉川家継嗣、詩文を嗜む、水戸に没/息子2人は水戸藩士、「錦丘詩稿」「錦丘随筆」「三省堂医話」「郷医改革」著、[春庵(；通称)の字/号]字;連作、号;錦丘、三省堂
- 2197 **春庵**(しゅんあん・江幡えはた/のち田口、藩医江幡道春長男) 1817-49 自殺 33 秋田大館の生;父と南部に移住、南部藩士/医者;父門/儒;中島予齋門、医学;緒方洪庵門、南部藩の内紛に同僚の妬み;投獄、獄中で自殺、詩人、「源語詩歌」(飯島温郷と共著)、「読伯夷伝」「南部氏系譜」著、那珂な梧楼の兄、川上東巖の師、[春庵(通称)の幼名/名/字/通称/号]幼名;執、名;道運/通誠、字;中行、号;金剛/訥齋/大痴大夫

舜闇(しゅんあん;号)	→ 桂林(けいりん;道号・徳昌、臨濟僧)	G 1 8 8 1
春庵(舜庵しゅんあん・本居、小津)	→ 宣長(のりなが・本居、国学者)	3 5 2 4
春庵(しゅんあん・中村)	→ 史邦(ふみに・中村、医/俳人)	D 3 8 8 5
春庵(しゅんあん・須藤)	→ 如璞(じよぼく・須藤すどう、医者/俳人)	M 2 2 8 4
春庵(しゅんあん・兵藤)	→ 道一(みちかず・兵藤ひょうどう、医者/国学)	K 4 1 2 5
春庵(しゅんあん・栗崎/橘)	→ 道意(どうい・栗崎、医者)	3 1 9 9
春庵(しゅんあん・細川)	→ 昌庵(しょうあん・細川ほそかわ、医者/俳人)	V 2 2 2 1
春庵(しゅんあん・服部)	→ 安休(あんきゅう・服部はつとり、藩士/神道)	G 1 0 0 2
春庵(しゅんあん・難波)	→ 義材(よしき・難波なんば、医者/詩歌人)	D 4 7 0 6
春庵(しゅんあん・萩野)	→ 復堂(ふくどう・萩野/孔平、藩士/医/儒)	B 3 8 5 9
春庵(しゅんあん・橘)	→ 元景(もとかげ・橘たちばな/浦、医者)	C 4 4 2 2
春庵(しゅんあん・奥)	→ 正命(まさのぶ・奥おく、医者/歌人)	O 4 0 6 1
春庵(しゅんあん・小島)	→ 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官)	3 2 9 5
春安(しゅんあん・山村)	→ 月巢(げつそう・山村やまむら、医/俳人)	B 1 8 1 2
春安(しゅんあん・難波)	→ 玄生(はるなり・難波なんば、藩医/歌人)	G 3 6 6 4
春安(しゅんあん・肥田)	→ 春安(はるやす・肥田ひだ、神職/蘭医/歌)	K 3 6 6 9
舜庵(しゅんあん・本間)	→ 三千矛(みちぼこ・本間ほんま、国学/歌人)	K 4 1 4 4
瞬庵(しゅんあん;号・大友)	→ 宗久(そうきゅう;法諱、大友頼資/歌僧)	B 2 5 0 0

- 2154 **順庵**(しゅんあん・木下きのした/本姓;平、名;忠重/貞幹さだまさ、意春[秀里]2男) 1621-98 78 京の儒者:松永尺五門;朱子学修学、加賀藩主前田綱紀に出仕;江戸住/1682將軍綱吉により幕府儒官、侍講/唐詩を鼓吹、教育者;木門の門弟;白石・鳩巢・芳洲・南海など学者・文人多数輩出、「錦里文集」「班荊集」「文選傍訓」「木下順庵詩稿」「木下順庵書翰集」「木下貞幹尺牘之写」、1682「桑韓筆語唱和集」83「神崎八景」94「歴代名医図」著、外著多数、「靖恭先生遺稿」、[順庵(；号)の字/通称/別号]字;直夫、通称;平之允/平之丞/平蔵、別号;錦里/敏慎齋/薔薇洞、諡号;恭靖先生、

[木門ぼくもん/もくもんの五先生];順庵門の5人の優れた儒者

→ 白石(はくせき・新井) 1657-1725	3 6 1 0
→ 鳩巢(きゅうそう・室) 1658-1734	1 6 2 8

- 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり) 1668-1755 3 9 5 6
- 南海(なんかい・祇園) 1677-1751 3 2 3 0
- 箕洲(こうしゅう・榊原) 1656-1706 1 9 1 1

[木門の十哲(ぼくもん/もくもんのじってつ)]; 順庵門の上記を含め 10 人の優れた儒者/[十才子]ともいう

- 南山(なんざん・南部) 1659-1713 J 3 2 0 1
- 霞沼(かしょう・松浦) 1676-1728 F 1 5 1 2
- 観瀾(かんらん・三宅) 1674-1718 1 5 5 6
- 寛斎(かんさい・服部) 1667-1721 H 1 5 5 8
- 橘洲(きつしゅう・向井三省)?-? F 1 6 9 4

- 2198 順庵(じゅんあん;号・加藤かとう、名;正照/字;通故)?-? 江戸中期尾張名古屋の医者、1751「癆瘵發揮」著
- J2119 淳庵(じゅんあん・中川なかがわ、名;玄鱗/鱗、仙安[竜眼]長男)1739-8648 祖父仙安[玄隆]の代より医者、江戸の生、本草学;1757より毎年薬品会に出品/1764平賀源内の火浣布製造を指導、蘭語;安富寄碩門、江戸参府のオランダ商館長と交流;蘭学を修学、1770家督嗣;若狭小浜藩医、1771杉田玄白・前野良沢らと千住小塚原で解体;1774オランダ解剖書「解体新書」;共訳、1778小浜藩奥医師に就任、「和蘭局方」「和薬局方」「和蘭薬譜」「五液精要」著/「籌算」訳、[淳庵(;通称)の字/別通称]字;攀卿/按卿、別通称;純安/純亭、法号;正学院
- 2199 順庵(じゅんあん・与住よずみ) ? - ? 常陸土浦の医者江戸浅草天王寺横町で医開業、薬草を栽培、1817「朝顔譜」、「牽牛花水鏡」著、[順庵(;通称)の号] 秋水/瘦菊/秋水茶寮主人
- M2108 純庵(じゅんあん;通称・坂本さかもと、名;甫道)?-? 1844存 江後期紀伊の町医者;1799和歌山藩出仕、江戸詰医、1829小普請医師/33奥医師、本草にも通ず、1833「百花図纂」著
- M2112 順庵(じゅんあん・衣関きぬどめ、名;貫、甫軒男)?-? 陸中一関の医者、柴田元徳に従い諸国遊歴、眼科に長ず;各地で教授、馬島明眼院にも滞在、1810「眼目明辨」17「諸国古伝秘法」、1817「古伝救民秘方」20「神伝医方秘蔵書目」22「人字訓義考」、「和方類聚鈔」外著多数、[順庵(;号)の通称] 伊都伎いき/玄益/道碩
- M2136 純庵(じゅんあん・壺井つばい) ? - ? 江後期江戸の医者: 1812藤林普山・小森桃塙らの解屍の際の記録係、「解観大意図譜」「解観筆録」著
- J2120 順庵(じゅんあん・塩田しおだ、名;泰、医者宮河白峯男)1805-7167 加賀金沢生/江戸で経史;増島蘭園門、幕医塩田宗温の養子、1842幕医;衆に容れられず致仕、海防研究、1855幕命で箱館赴任、医学校・病院を創設/1862江戸に召還され寄合に昇進;医学教諭を兼任、1849「海防彙議」編、「松園随筆」「痘瘡約言」「蝦夷の枝折」著、「消暑雑誌」評、[順庵(;字)の号]号;松園、法号;昭晃院
- 02133 順庵(じゅんあん・栗原くりはら/本姓;田部井、)1809-8274 上野那波郡の医者;江戸の多紀元堅門、国学・歌;屋代弘賢門、帰郷;伊勢崎藩医/伊勢崎藩侍医頭、小講義、維新後西洋医学修学、地域医療の発展に尽力、「洋漢病名一覧」著
- 順庵(じゅんあん・高野) → 恬斎(てんさい・高野たかの、藩医/詩人) D 3 0 4 8
- 順庵(じゅんあん・福島) → 順棊(じゅんき・福島ふくしま、将棋士) M 2 1 6 6
- 順庵(じゅんあん・喜多) → 公綺(きみあや・喜多きた、医者/歌人) U 1 6 0 6
- 順庵(じゅんあん・三浦) → 利往(としゆき・三浦みうら、藩侍医/歌人) W 3 1 5 2
- 順庵(じゅんあん・三浦) → 利忠(としただ・三浦みうら、利往養子/藩医/歌) W 3 1 5 3
- 循菴(じゅんあん・吉田) → 修房(のぶふさ・吉田よしだ、医者/歌人) K 3 5 3 6
- 遵庵(じゅんあん) → 子温(しおん・西沢、書家/詩人) P 2 1 7 5
- 純庵(じゅんあん・可部) → 安都志(あつし・可部かべ、医者/詩歌) E 1 0 6 3
- 純庵(じゅんあん・沢田) → 徳国(とくに・沢田さわだ/千葉、藩士/神職/歌) G 3 9 2 4
- 淳庵(じゅんあん・永井) → 愿求(いんきゅう・永井ながい、儒者) I 1 1 4 7
- M2137 春意(しゅんい・宮城/宮木みやぎ、名;孚たかし)?-? 江前期寛文(1661-73)頃江戸神道家・儒者:林羅山門、伊予小松藩主一柳直治に招聘;小松で経書を講ず、1667「神道大意演義」著、1668「中臣祓纂言」「六根清浄大祓浅説」著、[春意(;号)の字/別号]字;伯実、別号;子誠

- 春意(しゅんい・三上) → 郷喜(くによし・三上みかみ/源、藩医/歌人) E 1 7 5 3
 春意(しゅんい・五十川) → 春昌(はるまさ・五十川[河]いそかわ、医者) G 3 6 8 3
- J2121 潤為(じゅんい;法諱) ? - ? 南北期僧;権少僧都、歌人、
 1348「難後拾遺」を相潤に譲る、風雅集1544、
 [入日さす浦よりをちの松原に霧ふきかくる秋の潮風](風雅;雑1544)
- M2138 順矣(じゅんい・久世くぜ、光当男)?-1821 美濃大垣の心学者;手島堵庵門、
 1814兄友輔ともすけ没後に深造舎継嗣;道話を行う/門人多数、1819「しづがうた」著、
 [順矣(;名)の通称/法号]通称;次郎兵衛/治右衛門、法号;行誉道源順矣居士
- M2142 春育(しゅんいく・須田すだ) 1763-?/1830-44没 羽後幡野村の医者/ツツガムシ研究に功績、
 「見聞百物語」著、佐藤信淵の一族、
 [春育(;通称)の号] 温故堂
- 春育(しゅんいく・檜林) → 鎮山(ちんざん・檜林ならばやし、通詞/蘭医者) K 2 8 7 2
 春育(しゅんいく・嵐山) → 甫庵(ほあん・嵐山あらしやま、医者) 3 9 0 1
 俊一(しゅんいち・芦原) → 英俊一(えいしゅんいち・芦原、医者;鍼医) C 1 3 9 6
 峻一(しゅんいち・中山) → 篤則(あつのり・中山なかやま、藩士/歌人) I 1 0 1 5
 春一(しゅんいち・片桐) → 春一(はるいち・片桐かたぎり、国学者/軍学) F 3 6 9 8
- M2143 順一(じゅんいち・筒井つひ、号;朴庵) 1733-1820 88 伊勢津藩藤堂家の典医/城西新町八丁住、能書家、
 1804「傷寒例正誤」著
- 淳一(じゅんいち・片桐) → 春一(はるいち・片桐、藩士/軍学/国学) F 3 6 9 8
 純一(じゅんいち・長田) → 比等之(ひとし・長田おさだ、商家/歌人) I 3 7 9 5
 純一(じゅんいち・神谷) → 元邦(もとくに・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 1
 純一庵(じゅんいちあん) → 幽軒(ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/詩歌) B 4 6 4 4
 春一郎(しゅんいちろう・片桐) → 春一(はるいち・片桐かたぎり、国学者/軍学) F 3 6 9 8
 淳一郎(じゅんいちろう・山国) → 共惟(ともこれ・山国やまくに、藩士/天狗党) P 3 1 4 2
 淳一郎(じゅんいちろう・新井) → 広運(ひろゆき・新井あらい、藩士/国学/歌) M 3 7 0 3
 準一郎(じゅんいちろう・木戸/桂) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕) N 2 6 7 9
 純一郎(じゅんいちろう・秋元) → 良(りょう・秋元あきもと、藩士/儒者) F 4 9 9 5
 純一郎(じゅんいちろう・斯波:変名) → 繁実(しげざね・岡谷おかや、藩士/勤王家) S 2 1 7 5
 春逸(しゅんいつ・高橋) → 交孚(かたさね・高橋たかはし、医/儒者) U 1 5 9 3
 俊逸(しゅんいつ・坊城) → 俊逸(としはや・坊城ぼうじょう、廷臣/垂加神道) N 3 1 3 9
 俊逸(しゅんいつ・芳川) → 波山(はざん・芳川よしかわ、儒/詩人) E 3 6 3 2
 純逸(じゅんいつ・松浦) → 琴鶴(きんかく・松浦まつうら、易占家) Q 1 6 7 5
 俊寅(しゅんいん/としとら・三井) → 秋風(しゅうふう・三井みつひ、商人/俳人) I 2 1 2 3
 春院(しゅんいん) → 乗邨(のりむら・駒井、藩士/国学/俳人) F 3 5 9 5
 春蔭(しゅんいん) 訓はすべて → 春蔭(はるかげ)
- 純尹(じゅんいん・浅山) → 純尹(すみただ・浅山/大村、藩士/茶/歌) D 2 3 9 1
 春雨(しゅんう;号) → 桃源(とうげん;道号・瑞仙、臨濟僧/詩) D 3 1 3 8
 春塙(しゅんう・葉室) → 黄華(こうか・葉室はむろ、藩儒) H 1 9 7 9
 春雨庵(しゅんうあん) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
 春雨亭(しゅんうてい) → 似雲(じゆん;法諱、真宗僧/歌人) 2 1 0 1
 春雨亭(しゅんうてい) → 宣風(のりかぜ・高井/常盤井、国学/歌) B 3 5 1 1
 春雨楼(しゅんうろう) → 青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画) I 2 4 1 4
 春雲(しゅんうん・河野) → 通桓(みちたけ・河野/甲田、医者/勤王) B 4 1 7 5
- 2155 俊恵(しゅんえ/すんえ;法諱、源俊頼男) 1113-1191? 79? 1195以前没 母;橘敦隆女、東大寺の僧;大法師、
 歌;中古六歌仙の1、1146頭輔卿家歌合初見/60清輔歌合~79兼実歌合の9種歌合に参加、
 京白河の自坊に和歌結社[歌林苑]を主宰、1164白河歌合以下3種の歌合及び月次歌会催、
 党派・僧俗・男女など参加;地下歌壇に清新な刺激を与う、歌論は門弟長明「無名抄」入、
 1182賀茂重保主催の尚齒会に参加、家集「林葉和歌集」、「歌撰合かせんあわせ」撰(散佚)、
 1177以前「歌苑抄」(歌林苑撰;散佚)、後葉1首・続詞花4首・檜葉(40余首)・雲葉集11首入、
 勅撰84首;詞花(12)千載(22首93/212/217/291以下)新古(12首6/142/274以下)新勅(6首)、

続後撰(415/646)続古(5首)続拾(3首)新後撰(3首)玉(3首)続千(3首)以下、
[み吉野の山かき曇り雪降ればふもとの里はうちしぐれつゝ](新古今;冬588)、
(無名抄に俊恵自身が面おもてうたと語っている)、

[俊恵(;法諱)の通称]大夫公/大進公、源俊重・俊盛・祐盛・新少将(;待賢門院女房)の兄弟

- a2157 **春恵**(しゅんえ; 釈/法諱) ? - ? 鎌倉南北期; 僧、
歌人; 1334(建武元) [度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加、
[秋風も雲をさそひて和歌の浦の月も今夜の名にやはるらん](朝棟亭歌会; 86)、
[数なたぬ身の秋しらば我が袖の涙の露よこぼれずもがな](同; 90)
- M2144 **舜恵**(しゅんえ; 法諱) 1314 - 1382 69歳 鎌倉・南北期天台僧; 1328(15歳)園城寺で出家、
学僧; 俱舎・天台・真言及び円珍の[授決集]を修学/聴聞の法を「法界記」に纏め後学の指針、
勝山房に住、探題を務む
- J2144 **春恵**(しゅんえ) ? - ? 京の連歌師/歌人;
1679菅野谷高政「中庸姿つねのすがた」に独吟歌仙入、歌; 1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、
[四条糺瀬やさきかへて鱸ぬぎ壳](中庸姿; 独吟歌仙発句)、
[はかなしや世を秋萩の露の身は風まつほどをいかでたのまん](麓の塵; 雑659)
- M2145 **舜恵**(しゅんえ; 法諱) ? - ? 江後期武州の天台僧; 品川領桐ヶ谷安楽寺の信入門、
1855「二百題伊呂波字引」著
- 2178 **俊恵**(しゅんえ; 法諱/上人、修験道森本春清の長男) 1834-1907 74 備中笠岡町富岡の生、
学問; 笠岡敬業館小寺葵園門、1846(弘化3)真言宗教藏院入; 得度/経典; 俊榮門、
経学; 福山藩儒江木吉田門/1846(嘉永4)笠岡遍照寺戒壇で瑞明僧正に傳法灌頂禅受、
密賢僧正・重得和尚・榮嚴僧正に随い佛典秘法を究む/1877師俊榮没; 教藏院を継嗣、
書・詩に通ず
純慧(じゅんえ; 字) → 日新(にっしん; 法諱・慈雲院、日蓮僧) E 3 3 4 3
- M2146 **俊睿**(しゅんえい; 法諱) 1364 - ? 1404存 鎌倉八幡宮の社僧; 覚算門/師の口述を筆記、
覚算「指微韻鏡私抄略」筆記
- J2123 **俊榮**(しゅんえい; 法諱) ? - ? 1434存 室町期の僧; 法橋、
永享六1434頃真言宗醍醐三宝院の坊官(満濟准后日記入)、歌人、新続古今1881、
[かりそめの刈田のいほの寝覚めにも我が身世にふる雨を聞くかな](新続古今; 雑1881)
- J2124 **春英**(しゅんえい・勝川かつかわ、磯田次郎兵衛男) 1762-1819 58 江戸新和泉町の絵師; 春章(初世)門、
天明五1781頃より武者絵・大首役者絵・相撲絵・狂画・おし絵形・操芝居看板などを描く、
絵本出版/義太夫節・三味線を習得、1782「大坂土産大和錦」/83「怪談百鬼図会」、
1783「两国名取」84「江戸桜名画誉」「御物好茶白芸」「仮名手本忠臣蔵」「骨髓芝居好」、
1788「一谷嫩軍記」1803「戯場訓蒙図彙」07「絵本大内家軍談」08「三国志」外画多数、
[勝川春英(;号)の通称/別号]通称; 久次郎、別号; 九徳斎、法号; 釈春英
春榮(しゅんえい・初川) → 春榮(はるひで・初川はつかわ、商家/和学) K 3 6 6 3
俊英(しゅんえい・和久) → 半左衛門(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0
俊英(しゅんえい・松宮) → 俊英(としひで・松宮、兵学/儒) N 3 1 4 9
俊英(しゅんえい・天野) → 俊英(としひで・天野あまの、医者) N 3 1 5 1
俊英(しゅんえい; 法号) → 信詮(のぶり・大沢/通称、幕臣) C 3 5 6 9
俊英(しゅんえい・日向) → 元秀(げんしゅう・日向ひゅうが、本草家) J 1 8 6 2
俊永(しゅんえい・鴨/賀茂) → 俊永(としなが・鴨/賀茂かも、神職) N 3 1 2 0
俊榮(しゅんえい・千家) → 俊榮(としひで・千家せんげ、神職/国学者) V 3 1 4 5
俊榮(しゅんえい・安岡) → 花芳(かほう・安岡やすおか、真言僧/国学者) W 1 5 0 6
- L2123 **順永**(じゅんえい; 法諱/順水?・楚璞そはく; 字) 1695-1772 78 佐渡相川の真宗大谷派永宮寺12世住職、
佐渡河原田光福寺8世了運の弟、幼時に相川町の永宮寺に養育され養子; のち住職継嗣、
15歳で上京; 高倉学寮で宗学修学、宗乗修学; 新潟の正福寺不退院の円策門/
1715(21歳); 師命で「聞香記」10巻著、詩文・歌・俳諧/書画を能くす、
書家; 京の寺井養拙・子明・臼井子中門; 楷書行書に長ず、佐渡の[書の三松]の1、
画; 久隅胖幽・鶴沢探鯨門、俳諧; 吾仲・里紅・蘆元坊門; [北陸の宗匠]の称、

「誹諧後素集」「聞香記」「市之日集」「後草獺祭魚」「佐渡相川志」「南林雜録」「三教故事」著、1742「続市の日」48「源信法語要義抄」56「往生十因要話類苑」外著多数、1772(安永元)没、[順永(法諱)の号]永宮寺松堂/離巢窟南林

☆佐渡の三松;永宮寺松堂・堀口松庵・中山松齋(千鶴ちづる)

順英先生(じゆんえいせんせい)→主信(しゆしん・井原いはら、医者) Y 2 1 9 0

- a2173 俊益(しゆんえき・昇齋ていさい)?- ? 江前期;歌人、伝不詳、
歌;1691了然尼(茂睡編)[若むらさき]入、
[うつし絵に岩をたゝめる木深こぶかさも動きなき世にたぐへてぞみる]、
(若むらさき;208寄絵祝/画中の累々とした岩の高山に繁茂した樹木は泰平の世の姿)、
☆昇は[鼎]の異体字

俊益(しゆんえき・倉田/横田)→何求(可及かきゆう・横田、儒者) H 1 5 2 3

春益(しゆんえき・河口)→良庵(りょうあん・河口かわぐち、蘭医) G 4 9 0 6

春益(しゆんえき・林)→葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4

- M2147 恂益(じゆんえき・芳村よしむら)?- ? 京北山の医者:名古屋玄医げんい[丹水]門、
1703「二火辨妄」13「北山医話」、「温泉考」「内経綱紀」「灸科須知」「医学正名」著、
[恂益(名)の字/号]字;慄夫/謙受、号;天仙/天仙子/五雨亭/北山

- X2162 順益(じゆんえき・生熊いくま)?- ? 伊予西条の医者/文政1818-30頃江戸で開業、
外科に精通;処方薬は刀傷に効能あり金瘡膏きんそうこうと称される

順益(じゆんえき・芳賀)→一品(いっしょう・芳賀はが、医/俳人) B 1 1 5 0

順益(2世じゆんえき・平出)→延齡(えんれい・平出、医者) C 1 3 2 4

順益(じゆんえき・照井)→尋風(しんぷう・照井てい、医者/俳人) P 2 2 7 3

順益(じゆんえき・多田)→清興(きよおき・多田、儒/歌人) O 1 6 6 5

俊悦(しゆんえつ・沢さわ/小原)→峯山(とうざん・小原おはら、医/本草) E 3 1 6 0

順右衛門(じゆんえもん・北村)→久備(ひさとも・北村/源、藩士/国学者) B 3 7 6 0

順右衛門(じゆんえもん・柳井/浦野)→光護(みつり・浦野、藩士/農政) E 4 1 4 6

- M2148 俊円(しゆんえん;法諱) ?- ? 鎌倉後期?の僧侶/連歌;1356成立「菟玖波集」1句入、
[風は紅葉の陰にこそ吹け](菟玖;雑連詞1171/前句;侘人のすみかときげは露けくて)

- M2149 駿淵(しゆんえん・松尾まつお、名;常従)1760-1815 56 江戸の暦算家/儒;田鎖・長谷川家門、詩文に長ず、
天文・暦数に長じ甲州流兵学の奥義を究める、1778陸奥八戸藩士;99野馬奉行、
羽前米沢藩からの牧馬取扱方に関する照会に回答、「駿淵詩稿」著、
[駿淵(号)の字/通称/別号]字;仲竜、通称;紋左衛門、別号;漣月

- J2125 俊円(しゆんえん・浄栄寺) ?- ? 狂詩/狂歌;大田南畝門、
1806南畝「ひともと草」狂文2編入

薺園(しゆんえん・茜部)→相嘉(すけよし・茜部あかなべ/藤原/伊藤、藩士/国学者) D 2 3 7 5

薺園(しゆんえん・西村)→景義(かげよし・西村/李、薬種商/本草) L 1 5 4 6

春園(しゆんえん・山本)→梅逸(ばいつ・山本やまと、絵師) 3 6 5 3

春園(しゆんえん・日柳)→燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1

春園(しゆんえん・高野)→高全(こうぜん・高野たかの、医者;小児科) K 1 9 2 6

春園(しゆんえん・山崎)→宗円(そうえん・山崎/源、幕府鍼医) G 2 5 3 2

春園(しゆんえん・兼子)→吉士(よしひと・兼子かねこ、医者/国学) M 4 7 2 6

春園(しゆんえん・亀山)→寿明(ひさあき・亀山かめやま、国学者) J 3 7 1 0

春園(しゆんえん・田島)→春園(はるぞの・田島たじま、神職/詩歌) K 3 6 3 3

春苑(しゆんえん・太田)→持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7

純宴(じゆんえん・小西)→長喬(ながたか・小西にし/井沢、歌人) M 3 2 0 8

純淵(じゆんえん・鈴木)→主税(ちから・鈴木、藩政刷新/歌) C 2 8 3 0

潤園(じゆんえん・成島)→東岳(とうがく・成島、幕臣/儒者/歌) C 3 1 2 0

純円院(じゆんえんいん)→金洞(きんどう・井田いだ、日蓮僧/詩人) R 1 6 5 2

- M2150 俊雄(しゆんおう;法諱) 1455 - 1516 62歳 京の真言僧、地藏院流房玄方の流裔、
東寺宝菩提院に住、談義を盛んに行う;権僧正/醍醐山光台員弘宣より大法を授与、

1511東寺宝輪院で亮恵より伝法灌頂を受、1516「亮恵伝授記」、「礼拝講二宮法則」著、
「理院方四度并雑々秘口決」「中院引方聞書」「護摩私記」著、亮慧・宗承の師

02187 **俊応**(しゅんおう;法諱、俗姓;勝木)?-? 江後期;筑前鞍手郡の僧/筑前箱崎赤幡坊座主職、
国学・歌人;香川景樹(1768-1843)門

J2126 **春鶯**(しゅんおう・為永ためなが、別号;芳訓亭)?-? 江後期尾張名古屋の生/江戸市ヶ谷住、
人情本作者;初世為長春水門/師の作品の校訂・序跋を担当、1840-2「春霄月の梅」著

春翁(しゅんおう) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8

春翁(しゅんおう・上木) → 清成(きよなり・上木うわぎ、酒造業/国学) Q 1 6 0 7

春翁(しゅんおう・村田) → 條右衛門(じょうえもん・村田むらた、名主/歌) V 2 2 3 3

春翁(しゅんおう・吉永) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N 2 8 7 9

春翁(しゅんおう・吉村) → 春樹(はるき・吉村、千秋弟/国学/歌人) K 3 6 9 7

春鶯(しゅんおう・廓玄;号) → 厚誉(こうよ;法諱、僧/霊場・故事) L 1 9 4 5

峻翁(しゅんおう) → 峻翁(しゅんおう;道号・令山;法諱、臨濟僧) L 2 1 7 1

俊翁(しゅんおう・釣玄齋) → 了仲(りょうちゅう・古筆こひつ、鑑定家) I 4 9 9 0

俊翁(しゅんおう・加藤) → 梅崖(ばいがい・加藤、藩士/儒者) 3 6 8 3

俊翁(しゅんおう・麻田) → 立達(りゅうたつ・麻田あさだ/綾部、天文暦学者) F 4 9 1 5

俊翁(しゅんおう・東) → 東萊(とうらい・東あずま、絵師/詩人) H 3 1 9 5

鶉翁(しゅんおう・岩本) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2

醜王(しゅんおう・藤野) → 長春(ながはる・藤野ふじの、書・篆刻家) F 3 2 3 9

春鷗齋(しゅんおうさい) → 能阿弥(のうあみ、書画/連歌) 3 5 0 1

春鷗舎(しゅんおうしゃ) → 来之(らいし・早川はやかわ、俳人) 4 8 5 0

春鶯亭(しゅんおうてい) → 花朗(かりゅう・春鶯亭、久野嘉恵、俳人) P 1 5 8 1

春応房(しゅんおうぼう;号) → 理峯(りほう;法諱・春応房、真言僧/梵曲) C 4 9 5 1

春屋(しゅんおく;道号) → 妙葩(みょうは;法諱・春屋、臨濟僧/五山文学) 4 1 4 3

春屋(しゅんおく;道号) → 宗園(そうえん;法諱・春屋;道号、臨濟僧) G 2 5 3 1

春屋(しゅんおく・森) → 厚給(あつとも・森もり、医者/国学/歌) I 1 0 5 5

春屋軒(しゅんおくけん・近松) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7

俊温(しゅんおん・山内) → 俊温(としあつ・山内やまのうち、藩士/学制改革) M 3 1 0 4

俊音(しゅんおん;字) → 頼瑜(らいゆ;法諱・俊音、真言僧) 4 8 9 7

M2195 **春可**(しゅんか・織筆齋せんごうさい)?-? 江前期京の俳人;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[松に藤かゝるめでたき齡かな](手鑑)

J2127 **春花**(しゅんか・下村しもむら、初号;米松、春坡男)1776-1800**早世25歳** 俳人;父門、母;政子、春峯の兄、
「蟾蜍せんじよ之賦」著(:1799紫暁「常盤香」入)、父の春花追善撰集;「藪かうじ」「白罌粟しろけし」、
父 → 春坡(しゅんぱ・下村、商家/俳人) K 2 1 3 8

J2128 **春華**(しゅんか・高野たかの、名;謙/謙、惣兵衛栄盈男)1761-1839**79** 越前福井藩士/儒者;1794家督継嗣、
養子真齋に家督譲渡/1803江戸の佐藤一斎・山本清溪・林述齋門、朱子学・詩書を修学、
京・越後を歴遊、雅楽を修得、1823福井藩江戸藩邸に出仕;世子松平斉承の常随/致仕/帰郷、
1829福井藩儒として復職、雅楽・兵法・武技・詩歌・俳諧に通ず、「春華詩稿」「春華文集」著、
「越国文集」「三秀園記」「朱子抄」「東遊前後草」「幼学字則」「織田神社備考」著、
[春華(;号)の字/通称/法号]字;君素、通称;市之丞/惣左衛門、法号;毀誉不関無随塔居士

春樺(しゅんか・生島) → 宗竹(そうちく・生島いくしま、武士/記録) I 2 5 4 2

春花(しゅんか) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2

俊夏(しゅんか・岡村) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1

俊嘉(しゅんか・岡本) → 俊嘉(俊義としよし・岡本おかもと、神職/歌人) T 3 1 9 2

敏夏(しゅんか・服部) → 敏夏(としなつ・服部はつとり、歌人) N 3 1 2 3

M2151 **春雅**(しゅんが;法諱・通称;峯僧正)?-? 1316**存** 天台宗叡山西塔西谷南尾の法身坊住僧・僧正、
1316「比叡山日吉山王七社降臨縁起」著

M2152 **俊賀**(しゅんが;法諱・乗円房;通称、初法諱;真宗)?-1397 京の僧;初め浄土宗を修学、のち真言僧、
真言宗醍醐寺の公紹門、公紹より松橋流伝法灌頂を受/醍醐寺慈心院住;大僧都、

「俊賀記」著/1322「松橋重書」伝、俊豪・玄為・義俊の師

- J2129 **春雅**(しゅんが・為永ためなが) ? - ? 江後期講釈師/嘶家/戯作者、初め講釈;伊東燕荘門、嘶家に転ず;土橋亭竜馬門、人情本作者;初世為長春水門、1838「春色雪の梅」/39-40「春色初旭の出」/43「妹背鳥」、「貞操深雪松」著、[為永春雅(;戯作号)の別号]伊東荘流(;講釈師)/土橋亭しん馬(;嘶家)/狂言亭(;戯作)
- 俊賀(しゅんが・財部) → 俊賀(としよ・財部たからべ、武士/連歌) O 3 1 1 9
俊雅(しゅんが・佐々木/湖) → 混浄(こんじょう・佐々木、神職/文筆) G 1 9 2 7
春画(しゅんが・和気、狂歌) → 百亀(ひゃつき・小松、嘶本) E 3 7 9 4
舜雅(しゅんが;法名) → 弘資(ひろすけ・日野ひの、廷臣/歌人) G 3 7 1 0
舜雅(しゅんが・修斎舎) → 業智(なりとも・間宮/通称益十郎、茶人/歌) H 3 2 7 9
春牙(しゅんが・殿村) → 春辰(はるとき・殿村、天文家) G 3 6 5 6
淳家(しゅんが) → 淳家(じゅんけ;法諱、法師/歌人) J 2 1 4 3
- M2153 **純雅**(しゅんが;法諱・以恩いおん;字、俗姓:名村) ?-1796 越前三国の真言僧:幼少時京六波羅蜜寺入、出家/智積院で修学/1761竜天門;伝法流奥旨を受/1768等空の命で佐渡蓮華峰寺住、1781幕命で江戸真福寺に移住;在職10年で三田仏乗院退隠、「純雅雜記」「実勝方相承伝」著
- X2127 **純河**(しゅんが・津田つた) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[暮れて行く秋の日数をあさなあさな有明の月の影に見るかな](大江戸倭歌;秋1029)
- 順我(しゅんが;字) → 日貞(にっせい;法諱・本是院、日蓮僧) F 3 3 3 3
- J2130 **俊海**(しゅんかい・藤原ふじわら、俊成の兄弟) ?-? 鎌倉期の僧;醍醐寺僧阿闍梨、寂蓮の父
- J2131 **俊快**(しゅんかい;法諱、藤原季宗男?) ?-? 鎌倉期天台寺門派僧/法眼、歌人、続後撰1269、続拾遺1390、[けふごとにとふはならひと思ふにもはかなきあとぞいとど悲しき](続後撰;雑1269)、(母の墓所を改めて高野の山におくるとて詠む)
- M2154 **俊海**(しゅんかい;法諱) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮の社僧、連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、[山風の里にはふらぬ雪待ちて](熱田法楽;賦山何名残表9/雪を待つ山風を擬人化、前句;直仲;そのおとづれの聞かまほしさよ)
- M2155 **春海**(しゅんかい;法諱) 1403 - ? 1487存 天台叡山僧:慶舜門、西塔南尾上乘院の右筆、近江柏原の円乗寺(成菩提院)3世住持、法印/僧都、1467「天台宗古記録」71「教相義」著、「円錢抄」「元品能治柏原三代集」「名別義通要文」「問要抄」著、「一仏始終」編、外著多数
- M2156 **舜海**(しゅんかい;法諱) ? - ? 1530存 常陸天台僧;月山寺住:尊舜の遺跡継承、常陸の下妻普門寺・行方西蓮寺に住、「一流相承法門私」「延命地藏経聞書」「問要抄」、「帰命壇図」「三大部序見聞」「霊山移不移」「名別義通」外著多数、珍海・舜貞の師
- M2157 **俊海**(しゅんかい;法諱) ? - ? 江前期天台宗叡山北谷宝蔵院の住僧、1670「日吉社大宮十禅師礼拝講聞書」著
- J2132 **春海**(しゅんかい/はるみ・渋川しぶかわ/保井/安井、安井算哲の長男) 1639-171577 幕府碁所の家、京の生、1652父没により算哲二世を継嗣;幕府碁所、神道;山崎闇齋門;神道の奥義を受、曆学;岡野井貞貞・松田順承門/宣明曆の不備を指摘し改曆を上表;1684新曆[貞享曆]採用、この功績により碁所を免じ幕府天文方に就任;1702幕命で渋川を称す;03駿河台に邸を賜、天球儀・地球儀・百刻環を作成、「請改曆表」「貞享曆議」「貞享曆秘説」/1683「大和七曜曆」著、「日本書紀曆考」「天文図鑑」「保井助左衛門筆記」「分野星図」「天文成象全図」著、外編著多、[春海(;字)の幼名/名/別字/通称/号]幼名;六蔵、名;都翁つづじ、別字;順正、通称;算哲(二世)/助左衛門、号;新蘆、法号;太虚院/神号;土守霊社
- M2158 **春海**(しゅんかい;号) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」1句入、[青んめを見付け出したる旭哉](其雪影;274/朝日に葉隠れの青梅が照らされている)
- O2188 **舜海**(しゅんかい;法諱、号;蓮空) 1803-6563 紀伊日高郡箕島の浄土宗常楽寺19世、国学者
- M2159 **春回**(しゅんかい・田中たなか、名;正誠、修道しゅうどう男) 1833-191179 越後長岡藩儒/藩校崇徳館で修学、1853江戸で医学;木村松溪・浅田宗伯門、儒学;大槻磐溪・昌谷精溪門、1863崇徳館助教、戊申戦争に従軍医で活躍、藩主牧野忠毅の侍講、1876私立長岡学校創立;漢学教授、

「千樹園詩集」「論語口授」著、

[春回(；通称)の字/号]字；子至、号；養拙/千樹[園]

- 春海(しゅんかい・藤原) → 春海(はるみ・藤原ふじわら、廷臣/漢学/詩) 3 6 5 2
春海(しゅんかい・村田) → 春海(はるみ・村田むらた、国学/歌人) 3 6 3 6
春海(しゅんかい・静波軒) → 静波軒春海(せいはけんしゅんかい、俄の芸) C 2 4 8 3
春海(しゅんかい・岡山) → 正興(まさおき・岡山おかやま、国学者) B 4 0 5 3
春海(しゅんかい) → 金石(きんせき・荻原おぎわら/直江、俳人) R 1 6 2 9
春海(しゅんかい・井上) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
春海(しゅんかい・長倉/佐竹) → 義根(よしね・佐竹さたけ/源/長倉、天文家) F 4 7 4 8
春海(しゅんかい・植田) → 春海(はるみ・植田うえだ、国学/歌人) J 3 6 7 7
春海(しゅんかい・馬島) → 春海(はるみ・馬島まじま、藩士/漢学/歌) K 3 6 7 9
舜海(しゅんかい・山口/佐藤) → 尚中(たかなか・佐藤/山口、藩士/蘭医) M 2 6 5 9

M2160 **峻厓**(しゅんがい；道号・東佗とうせん；法諱)?-? 江後期1854-64頃臨濟僧；黄竜派；荊叟東玫とうぶん門、

荊叟の法嗣/建仁寺358世、「一閑編」「建仁寺参暇当番雑記」著

俊峯(しゅんがい→としき・坂本) → 天山(てんざん・坂本、砲術/詩) D 3 0 5 7

春涯(しゅんがい・熊谷) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0

M2161 **準海**(じゅんかい；法諱・卓巖たくがん；字、号；竜照院) 1661-1741 81 河内春日の融通念仏大聖寺住職、撰津大念仏寺の融観門/宗義を修学、大聖寺に住し宗風の興隆に尽力、本堂の建設、本堂に地藏菩薩3千体を安置、「融通如法念仏図解」「融通円門章集註」、「融通本縁起黄檗鈔」/1738「浄土法門源流章講録」著

春海堂(しゅんかいどう) → 春水(しゅんすい・馬場、書家) K 2 1 0 2

春海堂(しゅんかいどう) → 董水(とうすい・馬場、春水2世、書家) F 3 1 7 3

梅花園(しゅんかえん) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2

春花園凡兆(しゅんかえんぼんちよう) → 忠徳(ただのり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2

M2162 **春郭**(しゅんかく・富田とだ、名；好礼、良鄰2男) 1747-1823 77 加賀金沢藩士、景周かげちか(宗家を嗣)の弟、1775父の遺知を継嗣；御馬廻組/改作奉行/御勝手方御用/加増され2千石；物頭並、故あって投獄；1786-1821(35年間)越中呉廻山に配流、配所で著作、儒詩；乾いぬい莊岳門、「春郭詩稿」「論語余訓」「政則」著、[春郭(；号)の字/通称]字；苟美、通称；彦左衛門

M2163 **舜嶽**(しゅんがく；道号・玄光げんこう；法諱)?-? 1622存 臨濟宗松岩寺延慶寺住僧；揚清周伊門/嗣法、天竜寺西堂に住/1618頃呂より宮中への取次担当；勅使とし僧を訪ねる；宮中聯句会参加、1622「元和八年八月十日玄召玄光等聯句」参加

Y2159 **春嶽**(しゅんがく・鼎かねえ、名；元、字；世宝) 1747-1823 77 大阪の絵師；福原五岳門、篆刻、鼎金城の父、六曲一双屏風「四季耕作図」画

J2133 **春嶽**(しゅんがく・松平まつだいら、名；慶永よしなが、田安斉匡8男) 1828-90 63 母；木村政辰女の礼以、越前福井藩主松平斉善の養嗣子；1838藩主襲封、正四位下/左近衛権少将のち中将/越前守中根雪江ら有能家臣重用；横井小楠登用、学問教育振興/兵制刷新/種痘館設立、1857幕府内紛争に敗れ大獄で幽閉、詩歌・著作に耽る、国学；鈴木重胤門、1862政界復帰；1864京都守護職/大蔵大輔/正四上参議、67維新政府議定/68内国事務局輔、権中納言/1869民部知事/民部卿・大蔵卿兼任/大学別当/侍読/正二位、70麿香間祇候、1888従一位、側用人中根雪江ゆきえを通じ橋曙覧と親交、1842「致知雑集」45「東行日録」、1847「千里の友」「丁未東行記」/52「羽江泛舟の記」53「霞の衣」54「合同舶入相秘記」、1854「霽月亭窓白集」「東山紀行」/58「睦月集」/61「古今百人一種」編/63「南海航行掌記」著 1865「問安行記」「観海日志」、「落葉の草子」「錦織集」「衣更着集」「鏡水舎吟集」「言志集」、「五月雨集」「常磐集」外著多数、「春嶽遺稿」、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[色も香も久しく匂へうつろはで八重かさなれる白菊の花](大江戸倭歌；秋945/菊)、

[春嶽(；号)の幼名/字/別号]幼名；錦之丞、字；公寧、

別号；羊堂/礪川/栄井/渚鷗/慎独斎/吹蘭閣主人/潜思閣主人/東郭/鴨東

- 春学(しゅんがく) → 幸和(こうわ・江崎えざき、医者/俳人) F 1 9 4 5
 春学(しゅんがく・吉見) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6
 春覚(しゅんがく;字) → 日解(にちげ;法諱・唯妙院、日蓮僧) B 3 3 4 7
 春岳(しゅんがく・穴沢) → 杵斎(よきさい・穴沢あなざわ、藩士/暦学) 4 7 9 1
 春岳(しゅんがく・野田) → 春岳(はるおか・野田のだ/山部、郷士/国学) K 3 6 5 5
 駿岳(しゅんがく・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おつか蒼梧、故実家) D 4 7 0 3
- J2134 順覚(じゆんかく;号) 1268 - ? 1355存? 鎌倉南北期の僧/1345頃地下連歌師;善阿門、
 1341伊勢物語を書写、今川了俊の連歌の師(;了俊日記)、菟玖波集;19句入、
 [木がくれに秋風みする一葉かな](菟玖波集;二十発句/七月一日、桐一葉落知天下秋)
 武蔵金沢称名寺の順覚房玄蒼と同一説あり;66歳以前は鎌倉住となる
- 純格(じゆんかく;字) → 超然(ちょうねん;法諱、浄土宗西山派僧) J 2 8 6 2
 順格(じゆんかく・榎田) → 北岸(ほくがん・榎田/平、儒医/詩人/花) C 3 9 9 8
 舜廓院(しゆんかくいん) → 日荘(にっそう;法諱・三千院、日蓮僧) E 3 3 8 9
 春岳斎(しゅんがくさい) → 玄台(げんたい・里村;北家、連歌師) C 1 8 5 9
- J2135 馴角山人(じゆんかくさんじん) ? - ? 江戸狂詩、胴脈・南畝「二大家風雅」入
- 春可軒(しゅんかけん) → 光起(みつおき・土佐、常昭、土佐派絵師) 4 1 2 4
 俊葛(しゅんかつ・狛) → 俊葛(としかず・狛こま、南北期楽人) M 3 1 1 2
 梅花亭(しゅんかてい) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2
 春河亭(しゅんがてい) → 亀友(きゆう・春河亭、井上いのうえ、俳人) M 1 6 2 1
- M2164 春夏亭秋冬(しゅんかていしゅうとう、姓;星?)?-? 江後期会津檜枝岐の養蚕家;豪農、
 1860「養蚕手引草」著
- 春花堂(しゅんかどう) → 松笛(しょうてき、春花堂、俳人) G 2 2 9 6
 春芽堂(しゅんがどう) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7
 純瑕堂(じゆんかどう) → 利義(としとも・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6
 春化坊(しゅんかぼう・静斎) → 沾山(4世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 4
 春峨房(しゅんがぼう) → 双鳥(そうふ・瀬上せがみ、俳人) I 2 5 7 9
- J2136 春華[花]門院(しゅんかもんいん、昇子内親王)1195-1211夭逝17 鳥羽天皇皇女、母;兼実女任子、
 健御前が養育掛
- 春華門院弁(しゅんかもんいんのべん) → 弁(べん・春華門院、歌人) B 2 7 0 8
 春霞楼(しゅんかろう) → 秀賀(しゅうが・鶴亭かくてい、戯作者) G 2 1 9 6
- J2137 俊寛(しゅんかん、仁和寺法印寛雅男)1143-7937 法勝寺執行・少僧都、1177鹿ヶ谷山荘の謀議発覚、
 源行綱の密告、平清盛により鬼界島に配流;没、平家物語入;能楽・歌舞伎・読本等に脚色
- 俊幹(しゅんかん/としもと・藤原) → 俊顕(としあき・藤原、頼朝、廷臣/歌) L 3 1 8 9
 舜寛(しゅんかん・吉野) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1
- P2143 春丸(しゅんがん・臼井うすい) ? - ? 京の俳人、1667北村季吟「新続犬筑波集」入、
 1667北村湖春「続山の井」入
- M2165 淳岩(じゆんがん;法諱) ? - ? 1496存 美濃栗野の曹洞宗大竜寺の僧、
 1496「船田乱記」、「美濃国風土記」著
- 筍羹菜(しゅんかんさい) → 田楽(でんがく・椒芽きめ、医者/戯作者) D 3 0 2 5
- P2115 春幾(しゅんき) ? - ? 江前期俳人、1691北枝「卯辰集」9句入、
 [磯いその家の菊植ゑ分けむ帰る鴈か](卯辰集;北帰行の雁をながめて植え分ける)
- M2119 春希(しゅんき) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」2句入(280/314)
- 春暉(しゅんき/はるあきら・宮川) → 南谿(なんけい・橘、詩人) 3 2 3 2
 春熙(しゅんき/はるひろ・近藤) → 南海(なんかい・近藤こんどう、儒者) I 3 2 6 2
 俊季(しゅんき・秋田) → 俊季(としすえ・秋田あきた、藩主/歌) T 3 1 9 6
 俊基(しゅんき・日野) → 俊基(としもと・日野ひの、廷臣/元弘の乱) N 3 1 9 2
 舜基(しゅんき;法名) → 基頼(もとより・後藤・藤原、幕臣/歌人) E 4 4 8 3
 春蟻(しゅんぎ・井上) → 酒船(さけふね・問屋、狂詩/狂歌) B 2 0 5 6
 俊義(しゅんぎ) → 基舜(きしゅん;法諱、真言僧) K 1 6 8 4
- M2166 順基(じゆんき・福島ふくしま、名;順喜)?-? 江後期信濃の将棋士;定跡通で七段まで昇格、

1804「将棊絹篩初編」33「将棊独稽古」著、
[順棊(；通称)の別通称/号]別通称；竜治、号；順庵

純熙(じゆんき・大村) → 純熙(すみひろ・大村、藩主/兵学) D 2 3 9 6
順義(じゆんぎ・沼田) → 順義(ゆきよし・沼田ぬまた、医/国学者) 4 6 2 7
惇義(じゆんぎ・井狩) → 惇義(あつよし・井狩いかり、商家/国学、歌) G 1 0 9 3
春亀齋(しゆんきさい) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/陶宮術) K 4 0 2 2

M2167 春吉(しゆんきち・新井村あらいむら) ?- ? 江中期天明1781-89頃武蔵足立郡新井村の農業、
1788「耕作集」著

俊吉(しゆんきち・下坂/江馬) → 天江(てんこう・江馬えま、医者/詩人) D 3 0 4 6
雋吉(しゆんきち→としよし・伊藤) → 雋吉(としよし・伊藤、和算家/砲術) O 3 1 2 1
舜吉(しゆんきち・社) → 信順(のぶより・社やしろ、神職/国学者) K 3 5 2 1
順吉(じゆんきち・田山) → 敬儀(たかのり・田山たやま、歌人) D 2 6 4 7
順吉(じゆんきち・芝) → 順(したごう・芝しば、神職/国学/歌) U 2 1 7 9
順吉(じゆんきち・鈴木) → 重良(しばよし・鈴木すずき、神職/算学) Z 2 1 2 0
淳吉(じゆんきち・柳原/岩倉) → 具選(ともぶ・岩倉/源/柳原、廷臣/詩歌) Q 3 1 2 1
潤吉(じゆんきち・村沢) → 徳成(のりなり・村澤むらさわ、藩士/歌人) K 3 5 1 4
潤吉郎(じゆんきちろう・荒川) → 栗園(りつえん・荒川/荒河あらかわ、勤王家) B 4 9 6 0
春祺堂(しゆんきどう) → 玄章(げんしょう・伊藤いとう、藩士/医者) J 1 8 9 9

M2168 春及(しゆんきゆう/はるちか・片岡かたおか) 1761-1843 83歳 備前邑久郡辛島村の豪農、歌；賀茂季鷹門、
国学；富樫広蔭門/音曲；豊原時全門、刀剣鑑定；木屋松三郎門、書画・武芸にも長ず、
1800(40歳)頃家督譲渡、諸国行脚；司馬江漢・篠崎小竹と交流、
「雪根志」「東西游記」「聞覧記」「考古雑載」「櫛杖拔要びじょうばつよう」著、
[春及(；名)の字/通称/号]字；農甫、通称；彦輔、号；林軒/松塘/積翠軒、法号；松塘竜瑞居士
[則義(；名)の通称/号]通称；一介、号；

春及(しゆんきゆう・田中) → 則義(のりよし・田中たなか、藩士/歌人) I 3 5 8 8
春久(しゆんきゆう・金築) → 春久(春比左はるひさ・金築かねつき、神道) G 3 6 7 3
春躬(しゆんきゆう・初川) → 春躬(はるみ・初川はつかわ、商家/和学) K 3 6 6 1
俊休(しゆんきゆう・万波) → 俊休(としやす・万波まんなみ、藩儒臣) O 3 1 0 0
順久(じゆんきゆう・松下) → 順久(まさひさ・松下/賀茂、神職/日記) G 4 0 5 7
純鳩庵(じゆんきゆうあん) → 秋圃(あきう・穉圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7

M2170 舜挙(春挙しゆんきよ・松浦まつうら、名；依景/重吉) 1772-1847 76 絵師；森狙山・円山応挙門/円山派、
孔雀の画をよくした、三井高福たかよしの師、
[舜挙(；号)の幼名/通称/別号]幼名；亀八/宇吉、通称；猪三郎/要人、別号；三桃

春漁(春魚しゆんぎよ・井上) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
鶉居(じゆんきよ・橋村/檜垣) → 正允(まさとき・橋村/度会、神職/国学) E 4 0 3 8
鶉居(じゆんきよ・佐々木) → 弘綱(ひろつな・佐々木、国学者/歌人) G 3 7 4 2

M2171 俊鏡(しゆんきよう；法号) ?- ? 鎌倉末期天王寺の僧、右方の楽人？、
1327「糸竹口伝」著

J2138 春喬(春橋しゆんきよう・勝川かつかわ) 1762-1819 58 絵師；初世勝川春章門、1801-18頃読本合巻挿絵、
1802「金龜山宝案内子」「茶尽混雑講釈」/1806三馬「船頭深話」/09「雙子山仇討話」画、
[勝川春喬の別号]一説；1804頃に菱川柳谷に改号(別号；春暁斎・月青斎/桜姓をも名乗)

春薑(しゆんきよう) → 春薑(しゆんきん、俳人) Z 2 1 6 8
春杏(しゆんきよう・山崎) → 直方(なおかた・山崎やまさき、医者/詩文) 3 2 9 3
春杏(しゆんきよう・佐藤) → 正昭(まさあき・佐藤さとう、医者) B 4 0 0 2
春狂(しゆんきよう・品川) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
春教(しゆんきよう・伊藤) → 若冲(じゃくちゆう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3
春峽(しゆんきよう；初道号) → 竜門(りゅうもん；道号・承猷；法諱、臨濟僧) F 4 9 7 6
春郷(しゆんきよう・波多野) → 春郷(はるさと・波多野はたの、神職/国学) K 3 6 5 8
春郷(しゆんきよう・村田) → 春郷(はるさと・村田むらた/平、商家/歌人) G 3 6 3 7
春郷(しゆんきよう・林) → 春郷(はるさと・林はやし/児玉、藩士/歌) K 3 6 6 6

- 春郷(しゅんきょう・森田) → 春郷(はるさと・森田もりた、寺侍/国学者) K 3 6 9 1
 春興(しゅんきょう) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) B 1 1 3 7
 春興(しゅんきょう・太田) → 春興(はるおき・太田おた、歌人) J 3 6 4 7
 春郷(しゅんきょう・村田) → 春郷(はるさと・村田むらた/平、商家/歌人) G 3 6 3 7
 舜興(しゅんきょう・山本) → 桃谷(とうこく・山本やまと、絵師) S 3 1 8 9
 濬橋(しゅんきょう・鄭) → 秉哲(へいてつ・鄭てい/伊差川、史学者) 2 7 7 3
- J2139 春暁(しゅんぎょう・為永ためなが・狂詠舎、通称;由喜恵)?-? 江戸青山久保町の人情本作者:為永春水門、狂歌を嗜む、1839「いろは文庫」三編および「園の花」五・六編の校正/「其小唄恋情紫」補訂、天保1830-44頃「歌舞伎模様娘雛形」著
- M2172 春暁(しゅんぎょう・勝川かつかわ、姓;斎藤)?-? 江戸浅草言助町の絵師;初世勝川春章門、寛政-天保二1789-1831頃活動;美人画・狂歌本挿絵を描く、1831「時鳥36歌仙」画 [勝川春暁(;号)の通称/別号]通称;新蔵、別号;鶴僊斎
 春暁(しゅんぎょう・日野屋/速水) → 春暁斎(初世しゅんぎょうさい・速水はやみ、商家/読本) J 2 1 4 0
- M2173 順教(しゅんきょう;法諱) ? - ? 江中期天明1781-89頃美濃の真宗福存寺住職、1787刊「如実修行篇」著
 順教(順教坊、しゅんきょうぼう) → 寂恵(じやくえ・安倍、歌人) G 2 1 0 7
 順恭(しゅんきょう・西山) → 西山(せいざん・西山/西/阿比留、儒者) B 2 4 7 4
 恂郷(しゅんきょう・大藤) → 恂郷(のぶさと・大藤おおふじ、藩士/歌人) H 3 5 7 4
 遵教(しゅんきょう;字) → 是真(ぜじん;法諱・遵教、日蓮僧/歌) K 2 4 6 1
 春暁庵(しゅんぎょうあん) → 南枝(なんし・春暁亭、俳人) J 3 2 1 4
 春暁庵(しゅんぎょうあん) → 柴居(さいきよ・三浦みうら、俳人) G 2 0 6 3
- J2140 春暁斎(初世しゅんぎょうさい・速水はやみ、名;恒信/恒章、清兵衛男) 1767-1823/57 京呉服商;13歳で相続、母;呉服日野屋2代速水恒幸女この、1793(27歳)隠居/1818家督再相続、画/絵本読本作者、1800-08「絵本忠臣蔵」/01-09「絵本楠公記」/06「絵本合邦辻がっぽうがつじ」「絵本義勇伝」、1809-25「絵本甲越軍記」09「絵本金花談」12「絵本一休譚」21「絵本平泉実記」外多数、[初世春暁斎の通称/別号]通称;鉄之助/彦三郎、別号;春暁、屋号;日野屋
- M2174 春暁斎(2世しゅんぎょうさい・速水はやみ、名;恒茂、初世春暁斎男)?-1866/67 京の絵師;父門/読本挿絵、1818「絵本忠孝美善録」31「春雨譚」画、「絵本忠孝蔵」著、[2世春暁斎の通称/別号]通称;民之助/民之介、別号;春眠/暁雲斎
 春暁斎(しゅんぎょうさい) → 国盛(2世くにもり・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 7
 春暁斎(しゅんぎょうさい) → 紫石(しせき・春暁斎、俳人) U 2 1 1 3
 春暁斎(しゅんぎょうさい・菱川) → 春喬(春橋しゅんきょう・勝川かつかわ、絵師) J 2 1 3 8
 春暁亭(しゅんぎょうてい) → 南枝(なんし・春暁亭、俳人) J 3 2 1 4
 順教房(しゅんぎょうぼう) → 寂恵(じやくえ;法諱、陰陽師/歌人) G 2 1 0 7
- M2175 春旭(しゅんぎょく・勝川かつかわ)? - ? 江中後期絵師;初世勝川春章門、安永五-天明五1776-85頃活動、黄表紙挿絵・役者絵・美人画を描く、1776「天狗初庚申」80「通人三極志」83「笑種花濃台」85「為朝飛鳥回」「庚申待例長話」画
 鶉旭亭(しゅんきょくてい) → 李井(りせい・吉田よしだ、藩士/俳人) B 4 9 3 2
- M2176 春菴(しゅんきん/-きょう) ? - ? 大阪桜本の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」入、[色々に草の葉を折る蛍哉](都曲;下326)
- J2141 春琴(春栞しゅんきん・浦上うらがみ/本姓;紀、名;選、玉堂の長男) 1779-1846/68 備前の絵師・漢学;父門、京住、元・明の古画慕い一家を成す;文人画、詩文・書に長ず/茶を嗜む、頼山陽・柏木如亭と交流、1830「睡菴清秘録」42-3「論画詩」、「春琴詩集」「画事小譚」著、「黄葉亭図并記」/1847「清華帖」画、[春琴(;号)の字/別号]字;伯挙/十千、別号;睡庵/分鏡亭/二郷
 春琴(しゅんきん・金子) → 厚載(あつり・金子、測量技師、歌) E 1 0 7 9
 春近(しゅんきん・初川) → 春近(はるちか・初川はつかわ、商家/国学者) K 3 6 6 2
 舜琴(しゅんきん・原田) → 蘇堂(そどう・原田はらだ、藩儒者) K 2 5 2 2
- M2177 春吟(しゅんきん・随泉舎ずいせんしゃ、姓;石橋)?-? 江後期摂津平野の狂歌作者:随古斎雪亭の社中、

1794「大源山八幡宮奉納夷曲集」95「狂歌三撰集」98「狂歌浪華の辺」編、
[随泉舎春吟(；号)の通称] 清水屋平八

- 春吟(しゅんげん・奈良) → 孝斎(こうさい・奈良なら、儒者/詩人) I 1 9 9 7
春錦舎(しゅんきんしゃ) → 近登之(ちかとし・西郷さいごう、藩士/国学) M 2 8 6 3
俊矩(しゅんく・秦はた/北小路) → 俊矩(としり・北小路きたのこうじ/大江、廷臣/記録) N 3 1 3 7
舜空(しゅんくう;字) → 良恵(りょうえ;法諱・舜空、融通念仏僧) G 4 9 4 4
順空(しゅんくう;法諱) → 蔵山(ぞうざん;道号・順空;法諱、臨濟僧) K 2 5 8 3
順空(しゅんくう;字) → 謙芳(けんぼう;法諱・順空、真宗僧) M 1 8 3 0
順空(しゅんくう法名) → 定章(さだあき・蜂屋はちや、幕臣/和算家) H 2 0 6 3
順空(しゅんくう) → 雅仲(まさなか・高階たかしな、廷臣/記録) F 4 0 0 7
準愚公谷人(しゅんぐこうくじん) → 秀久(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌) J 3 7 9 1
淳君(しゅんくん・伊達) → 年子(のぶこ・伊達、重村妻、藩政/歌) B 3 5 3 8

- J2143 淳家(しゅんけ;法諱) ? - ? 僧侶;法師/歌人、新後拾遺632、
[尋ねきて雲はまがはぬ木の本にいかで桜の雪と散るらん](新後拾;雑春632)
- M2178 春卿(しゅんけい・小野おの) ? - ? 平安前期の詩人、経国集1首入
- I2173 舜慶(しゅんけい;法諱) ? - ? 1590存 天台僧;叡山帝釈寺の実全門;恵心流血脈を相承、
内供奉/法印/権大僧都、武州川越中院(仏地院)20世、常陸の月山寺住持、
1562「天台灌頂玄旨」「恵心流教重相承私鈔」/80「徹源抄」、「三観義三惑同断」外著多数
- I2181 春溪(しゅんけい・宇野うの、名;実俊) 1839-89 51歳 伊勢の煙草商、儒;田中王溪・竜三瓦門、詩に長ず、
維新後私塾を開く、「乾野牧唱」著、
[春溪(；号)の字/通称]字;徳民、通称;敬蔵
- I2188 春溪(しゅんけい;号・森もり、名;有煌/字;仲光) ?-? 江後期大阪絵師;森祖仙門/篆刻も能くす、
寛政1789-1801頃より浮世小路住、1820「春溪画譜」21「肘下選蟻」41「女諸礼綾錦」画
- 春景(しゅんけい・島崎) → 春景(はるかぜ・島崎しまざき、国学/歌人) K 3 6 2 5
春恵(しゅんけい) → 春恵(しゅんえ、連歌師) J 2 1 4 4
春経(春溪しゅんけい・小川) → 春経(はるつね・小川おがわ、国学/歌) J 3 6 8 0
春卿(しゅんけい・生島) → 南濤(なんとう・陶山すやま、医/漢学) J 3 2 3 4
春卿(しゅんけい・善/三宅) → 蘭溪(らんけい・三宅みやげ/善ぜん、儒;講説) B 4 8 8 6
春卿(しゅんけい・松枝) → 篁山(こうざん・松枝まつえだ、儒者/詩人) J 1 9 2 9
春慶(しゅんけい・佐藤) → 宇林(うりん・佐藤、俳人) D 1 2 5 1
春慶(しゅんけい・加藤) → 景正(かげふみ・加藤かとう、陶工) B 1 5 9 5
春畦(しゅんけい・森) → 信処(のぶさだ・森、儒/国学/記録) B 3 5 4 8
春継(しゅんけい・香川) → 宗尤(そうゆう、香川かがわ、武将/連歌) J 2 5 0 2
俊経(しゅんけい・小森) → 俊経(としつね・小森こもり、歌人) M 3 1 9 6
俊卿(しゅんけい・福田) → 太室(たいしつ・福田/田、儒者) K 2 6 1 3
俊卿(しゅんけい・市野) → 迷庵(めいあん・市野いちの、質商/儒者) 4 3 0 0
俊卿(しゅんけい・桑原) → 女媒(じよばい・桑原くわばら、医/俳人) C 2 2 8 9
俊卿(しゅんけい・桂/樋口) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9
俊卿(しゅんけい・中沢/沢) → 雪城(せつじょう・中沢なかざわ/沢、書家) L 2 4 1 0
峻卿(しゅんけい・武田) → 梅竜(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0
駿卿(しゅんけい・木村) → 定良(さだよし・木村/藤原、幕臣/歌人) C 2 0 6 5
- I2197 順継(しゅんけい;法諱・勝円房;字) 1260-? 1308存 真言僧;1298頼瑜門、1303三宝院流の印可を受、
迎接院住/のち大伝法院学頭、頼豪の師、「真言宗義鈔」「十住心論問答抄」外著多数
- J2145 淳慶(しゅんけい) ? - ? 連歌師;1557公条「弘治三年千句」入
- J2156 順慶(しゅんけい・筒井つひ、順昭男) 1549-84 36 戦国武将;大和生駒郡の筒井城主、
父が病没後嗣子順慶幼少のため遺言で順慶が長ずるまで死を公表せずを影武者を用いる、
父の声に似た南都の盲人木阿彌を暗い寝所に置き病臥にみせ公表後は元の市人に戻す、
1571信長に叛した松永久秀を明智光秀と共に征討;郡山城に抛り大和を管す、
本能寺変後一時光秀に与す/1582山崎合戦では洞ヶ峠で形勢を觀戦し豊臣秀吉に通ず、
のち二股者の俗称となる、歌人、

[筒井づつ筒井の底の清水かげむすぶ手多き今日のしのめ]、
筒井順慶に関わり生まれた成語;[元の木阿弥][洞ヶ峠][順慶流]など

順卿(じゅんけい・信夫)	→	槐軒(かいけん・信夫しのぶ、儒者/国学者)	I 1 5 5 8
順卿(じゅんけい・伊藤)	→	荻野(しんや・伊藤いとう、儒者)	2 2 8 2
順卿(じゅんけい・荻生)	→	鳳鳴(ほうめい・荻生/物部/物、藩儒)	C 3 9 5 4
惇卿(じゅんけい・塩沢)	→	亮雄(すけお・塩沢しおざわ/竹村、庄屋/歌)	I 2 3 5 8
純兮(じゅんけい・土肥)	→	延平(のぶひら・土肥どひ、藩士/歌/武術)	J 3 5 2 6
純卿(じゅんけい・井/井上)	→	金峨(きんが・井上、儒;折衷学者)	1 6 5 8
純卿(じゅんけい・海保)	→	漁村(ぎよそん・海保かいぼ、儒者)	D 1 6 2 8
準卿(じゅんけい・藤井)	→	行権(ゆきのり・藤井ふじい、国学・歌人)	H 4 6 2 0

J2146 **順藝**(じゅんげい;法諱・志道しどう;字、俗姓;上野、順慧長男)1775-1847⁷³ 越前丹生郡糸生村の真宗僧、
同村大谷派浄勝寺住職;父の継嗣、深励門;1806高倉学寮の擬寮司、
建仁寺蔵の高麗版大蔵経により黄檗版一切経を校訂、儒;村瀬栲亭門/歌;香川景樹門、
書;上田咸之門、頼山陽とも交流、没後;1856嗣講を追贈、「浄勝寺丹山歌集」「御文研鏡」著、
「言南無者釈講義」「二願行信問答」「具舎論考決」「三経文類科」「真宗行儀弁」外著多数、
[順藝の号]号;丹山/烏山/希芳/兼道/来々/水月、諡号;真珠院

順芸(じゅんげい;法諱)	→	宝景(ほうけい;法諱、真宗僧)	F 3 9 0 2
純慶坊(じゅんけいぼう;号)	→	増空(ぞうくう;法諱、天台僧)	G 2 5 8 4
春月(しゅんげつ)	→	素月(そげつ、早歌作者)	K 2 5 6 2
馴月庵(じゅんげつあん)	→	村資(むらすけ・田村/坂上、藩主/茶道)	4 2 1 7
春月堂(しゅんげつどう)	→	雛丸(ひなまる・初世弥生庵、狂歌)	E 3 7 3 0

a2142 **春賢**(しゅんけん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法眼、
1237刊[檜葉集]入、吉野歌合に参加、
[吉野の歌合に関路鹿をよめる、
きよみがた鹿のねおくる秋風にゆふべはゆるせなみのせきもり](檜葉;羈旅639)

J2147 **俊憲**(しゅんけん;法諱) 1309 - ? 1341存 天台叡山僧;西塔東谷大定房の義憲門、
「毘沙門堂」著

J2157 **俊憲**(しゅんけん;法諱) ? - ? 僧侶;法印、歌人;1384成立「新後拾遺集」1273、
[八十やそぢまでながらの山にながらへて人こそしらね世をいのるとは](新後拾;雑1273)

春見(しゅんけん・千家)	→	春見(はるみ・千家せんげ、神職/国学/歌)	K 3 6 3 2
春軒(しゅんけん・江村)	→	宗晋(そうしん・江村えむら、藩士/地誌)	I 2 5 0 6
春軒(しゅんけん・半井)	→	成質(なりかた・半井なからい、藩医/歌人)	O 3 2 1 5
春謙(しゅんけん・大脇)	→	春嶺(はるみね・大脇おおわき、国学者)	G 3 6 9 8
春堅(しゅんけん・梅木)	→	春堅(はるかた・梅木うめき、神職)	J 3 6 7 8
俊顕(しゅんけん・藤原)	→	俊顕(としあき・藤原、頓乗、廷臣/歌)	L 3 1 8 9
俊憲(しゅんけん・藤原)	→	俊憲(としのり・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	N 3 1 3 0
俊堅(しゅんけん・北小路)	→	俊堅(としかた・北小路きたのこうじ、廷臣)	M 3 1 2 1
俊玄(しゅんげん;法諱)	→	善如(ぜんによ;号、真宗本願寺4世)	G 2 4 4 8
俊現(しゅんげん・坂本)	→	孫之進(まごのしん・坂本、幕臣/砲術家)	4 0 8 2
俊彦(しゅんげん;字)	→	亮汰(りょうたい;法諱、真言学僧/著述)	I 4 9 7 8
俊厳(しゅんげん)	→	俊厳(しゅんごん;法諱、僧)	M 2 1 8 4

J2148 **順軒**(じゅんけん・股野またの、股野玉川[才介]長男)1759-1821⁶³ 播磨竜野藩士/代々藩の儒家、
玉田黙翁の虎溪精舎入門/大阪の中井竹山門、帰藩後藩儒として藩主脇坂安董を補佐、
1801(享和元)家督嗣;3代/禄百石/1811(文化8)対州の役に従い使番取次助、
1821(文政3)奥御礼;病死、鷹揚が嗣、
1854「順軒詩集」、「四書蠡海」「辨正統疑孟」著、
[順軒(;号)の名/字/通称]名;嘉膳/資原すけもと、字;伯深、通称;千太郎

J2149 **順軒**(じゅんけん・大沢おおさわ、名;定永)?-? 江後期天保1830-44頃江戸根岸庚申塚の儒者、
1840刊「台桜雑詠」著、詩人;大沼枕山と交流;「枕山詩鈔」入、
1843大沼枕山・武居たけい節庵と隅田川で遊び七律「墨水舟中戯れに大沢子世に贈る」著、

[順軒(；号)の字/通称]字；子世、通称；秀之助

純賢(じゆんけん・高頭/船岡)→ 芳勝(ほうしょう；法諱・船岡、真言僧) C 3 9 0 5

純儉(じゆんけん・松崎) → 柳浪(りゅうろう・松崎まつさき、儒者/外交) F 4 9 8 9

J2150 准玄(じゆんげん；字・円雅；法諱、成就院准勝男/俗姓；藤原)1589-1648⁶⁰ 河内真宗本願寺派僧、1601得度/17巡読/40本山学鬘の講主(初代能化)/47帰郷；河内光善寺8世；父を継嗣、孫の寂玄が本山に異義を唱え大谷派に転向；准玄を能化職から除外(；西吟を初代とす)、
[三経合註大綱]著、諡号；願成院

順元(じゆんげん・坂井/小瀬)→ 復庵(ふくあん・小瀬/坂井、医者・詩) B 3 8 4 7

J2158 順見坊(じゆんけんぼう) ? - ? 真言宗長谷寺の僧、連歌、
1413伝阿作「伝阿叢字百韻」に加点(奈良の順長房・長谷の曾観春庵と3名で加点)

J2151 春湖(しゆんこ；号・中島なかじま、名；道充/道因)?-? 江前期備後福山藩儒；山崎闇斎門、藩内の崎門派の中心、藩主水野勝俊・勝貞・勝種3代に出仕、「阿伏兔あぶと観音縁起」著

J2152 春湖(しゆんこ・狩野かのう/初姓；黒沢)?-1726 信濃埴科郡屋代の絵師；江戸の狩野信之(春雪)門、亮信(春笑)の後見となる；狩野姓を許可、將軍家画工に入る、「詩経図」「長崎の図」画、
[春湖(；号)の名/通称/別号]名；岡次(；初名)/元珍(玄珍)、通称；六郎左衛門/宇兵衛、別号；元橋

J2159 春湖(しゆんこ・橋田きつた、名；茂美)1815-86^{72歳} 甲州の俳人；嵐外門/1835江戸の禾木門、江戸住、のち永代橋畔に小築庵を結び門弟指導、明治以後は教部省俳諧教導職、1855「雲取日記」著、「はしり雲」「春湖発句集」「八町堀朝日亭掛額雪月花句合」編、
[菜の花に入らんとするや走り波]、
[春湖(；号)の通称/別号]通称；/幸蔵、別号；一笑/岳陰/小築庵/無事庵/払庵/五株

春湖(しゆんこ；号) → 寿信(じゆしん；法諱・春湖、臨濟僧/連歌) Y 2 1 9 2

春湖(しゆんこ・堀) → 友明(ともあき・堀ほり、藩士/神道) P 3 1 1 3

俊吾(しゆんご・星) → 研堂(けんどう・星ほし、藩士/書家) L 1 8 7 2

春吾(しゆんご・勃海) → 保(たもつ・渤海ふかみ、商家/能楽) S 2 6 9 2

春午(しゆんご・星野) → 六石(りっくく・星野ほしの/土岐、藩医) B 4 9 7 9

J2153 純固(じゆんこ；法諱・幻飲；字、号；鉄空、俗姓；小栗)1626-74⁴⁹ 京の浄土宗西山派僧；休円門/出家、慶善門；三河法蔵寺で修行のち住職、円頓戒廃頽を歎き仏前で自誓受戒/晩年京西山隠棲、「西山上人年譜」「観経疏頭掲抄」「玄義分別行抄」「三站寺縁起」「鎮勧要心講録」外著多数

J2154 順故(じゆんこ；法諱・順諦男)1731-91⁶¹ 摂津三嶋の真宗大谷派光得寺の生；1773父を継嗣；住職、悉曇音韻学に秀づ、「音蔵宝匙」「音韻相通門記」「韻鏡私記」「鑑古義標註」著

P2156 順故(じゆんこ/よりひさ?・日下部くさかべ/本姓；藤原、順清男?)?-? 幕臣/御家人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[暮れぬまにとく漕ぎ出でて渡さなん夕霧深し天のかはをさ]、
(大江戸倭歌；秋719/七夕霧)

Z2137 順子(じゆんこ・武井たけい、旧姓；浅田)1805-82⁷⁸ 下総関宿の生/歌人；海野遊翁門、江戸/富山住、歌；越中富山藩主前田利保門

02127 順子(じゆんこ・吉川きつかわ、初名；延、足守藩主木下利愛女)1835-91⁵⁷ 周防岩国領主吉川経幹夫人、夫経幹つねまさ(1829-67)は岩国12代領主/没後に岩国初代藩主、歌；近藤芳樹門、のち東京住、
[順子(；名)の号] 松廼舎

順子(じゆんこ・山内) → 順子(まさこ・山内やまのうち/藤堂、藩主室/歌) T 4 0 3 8

純固(じゆんこ・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8

純吾(じゆんご・阪本) → 弦山(げんざん・阪本、医者/経史/文学) J 1 8 2 8

M2120 春耕(しゆんこう) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」2句入(136/146)、
[神代より今生まるゝは年の損](二葉之松；136/神代には長寿が多かった)

J2160 春紅(しゆんこう) ? - ? 金沢俳人、1692句空「柞原ははそばら集」入

J2164 春耕(しゆんこう・千葉ちば) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃大阪俳人；初め三惟門/のち椎本矩州門、1751折句撰集「あふ夜」編/56「初瀬さくら」評、57律中「耳勝手」句入、59「手爾葉奥儀抄」編、1762俳論「誹諧そ切齒」著(；千梅「箕纏輪わかむ」へ論難書/のち千梅派反駁「やきおほ根」)、

「発句集」編/「俳諧無尽蔵」著

[春耕(;)号)の別号]石橋せつきょう/石橋隣/浪華市隠/八雲山人

- 2157 **春鴻**(春江しゅんこう・美濃口みのぐち) 1733-1803 71 相模下飯田の俳人:1764松露庵社中/鳥酔・百明門、江戸の春秋庵の白雄門/白雄没後に相模戸塚に住し相模俳壇と春秋庵の重鎮、葛三を援助、「露柱庵春鴻句集」「俳諧冬瓜汁」編、追善集「寝覚の雉子」「鳴の井」、[春鴻(;)号)の通称/別号]通称;源吾次、別号;春江(;)初号)/弥天びてん/便々居/露柱庵、法号;春了院
- J2161 **春好**(初世しゅんこう・勝川かつかわ、姓;清川) 1743-1812 70 江戸長谷川町の絵師;初世勝川春章門、師の[壺屋]に対し[小壺]と称される、大首役者絵を描く、「鰻蔵の暫」「枕文庫」画、1766「顔見世芝居ばなし」75「豆だらけ」78「出世米饅頭」80「娼註銚子戯語」「青楼三蒲団」、1789「会本腎強喜」99「品川楊枝」/1812「大師めぐり」「はなし句応」外画多数、[初世勝川春好(;)号)の通称/法号]通称;伝次郎、小壺、法号;釈春好信士
- J2162 **春江**(しゅんこう・御無事庵)? - ? 洒落本作者:1776「当世ここかしこ」:鱗形屋刊
- J2155 **春香**(しゅんこう;号) ? - ? 江中期京の俳人;1783頃几董門、1783維駒「五車反古」1句入、[水の面もに入日残りて鴛鴦をしの声](五車反古;巻尾468/鴛鴦の呼合う声の冬の夕暮)
- K2168 **峻江**(しゅんこう・橋たちばな、名;正盈)?-1824 備州の書家;京で修学、上州藤岡・高崎で教授、和漢仏典に精通、1807「御家青陽帖」(往来物)著/22「御家季寄文章」著、[峻江(;)通称)の字/号]字;良朔、号;臥竜斎
- P2126 **春耕**(しゅんこう・増田ますだ/堀田、字;秋宣?)?-? 江後期京の文筆家、1809「町人書状鏡」著、1811「手紙文章近道便」「古文後集余師」/12「女用文独稽古」13「番用文章万両箱」著、1813「雛鶴用文姫鏡」「両読実語教」14「大全書状鏡」、「文化新板百人一首万両箱」著
- J2165 **春耕**(しゅんこう・初姓;滝沢/久保田家の養子、別号;水石亭) 1772-1850 79 信濃水内郡毛野の生、農業/酒造業、俳人;一茶門
- M2179 **春江**(しゅんこう・河原田かわらだ、名;寛、貞信[南山]男) 1783-1868 86 伊勢久居藩士/儒;佐野西山門、1802藩校助教/傍ら家塾で子弟教育、1823上京遊学/27朝川善庵門/33小幡流兵学皆伝を受、藩の兵学師範兼任/1843公子の侍読/45致仕、「観御蔭参詩」著、[春江(;)号)の字/通称/別号]字;栗卿、通称;三太夫、別号;幸哉こうさい
- J2163 **春江**(しゅんこう・小田切おだぎり、名;忠近、松三郎長男) 1810-88 79 尾張藩士;1838家督嗣/馬廻/大番組、書院番歴任、絵師/のちに尾張・美濃志の絵図制作を命ぜらる、1807「絵本江崎之春」著、1822「阿弥陀滝遊覧紀行」32「絵本津島詣」「琉球画誌」/33「海獺談話」「饑饉道中図会」著、1836「濃州釜谷之真図稿本」「名陽見聞図」/37「絵本暴風夢」44「尾張名所図会」著、1852「尾張英傑画伝」53「小治田海之真清水」57「知多土産」、「村落管窺」外著多数、春陵の父、[春江(;)号)の通称/別号]通称;伝之丞、別号;歌月庵/喜笑、法号;雅称院
- 2156 **春江**(しゅんこう・為永ためなが) 1813-1889 77 江戸飯田町の人情本作者;・初世為永春水門、1877頃から新聞小説を執筆/[芳譚雑誌]の記者、1840「六玉川」40-41「春色初若菜」著、「花美止里」著、[為永春江(;)号)の通称/別号]通称;知久況堂ちききょうどう、別号;狂文亭
- J2166 **春江**(しゅんこう・平塚ひらつか) 1824-1894 71 出羽の儒者;林方斎門/詩文、久保田(秋田)藩校出仕、国学/大館藩国学教授、「春江詩文集」3巻/「書経考」「精神發揮」著、[春江(;)号)の名/字/通称/別号]名;盛歆もりまれ/せいきん、字;香卿、通称;千歳、別号;上代野人
- M2180 **駿公**(しゅんこう・久米くめ、名;政声、靱山もみやま資敬男) 1828-55 早世 28 久米政寛の養子/伊予松山藩士、1851江戸藩邸の藩主世子松平(久松)勝成の侍講、ペリ来航時に平和外交を主張、「隣交論」著、[駿公(;)字)の通称/号]通称;孝三郎/三郎右衛門、号;知彼斎ちひさい、法号;知彼斎廉侯居士
- Y2103 **俊功**(しゅんこう・新井あらい) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[更け行けど人はとひこぬ床の上に起き伏し待ちの月を見るかな](大江戸倭歌;恋639)
- 春江(しゅんこう) → 北英(ほくえい・春梅斎しゅんばいさい、絵師) C 3 9 9 1
- 春江(しゅんこう・朝見) → 安臣(やすおみ・朝見あさみ、神職/国学) F 4 5 1 6

- 春江(しゅんこう・長沢) → 春江(はるえ・長沢ながさわ/外村、歌人) K 3 6 5 0
 春耕(しゅんこう) → 清播(せいば・心田、臨濟僧/詩人) C 2 4 8 5
 春耕(しゅんこう;号) → 清播(せいば;法諱・心田;道号、臨濟僧/詩文) C 2 4 8 5
 春好(2世しゅんこう・勝川) → 春扇(しゅんせん・勝川かつかわ、絵師) K 2 1 1 3
 春好(しゅんこう・三遊亭) → 円馬(えんば・花枝房はなしばう・立川、噺家) C 1 3 2 0
 春好(しゅんこう・片桐) → 春好(はるよし・片桐かたぎり、製織業/歌人) J 3 6 9 3
 春幸(しゅんこう・松井) → 春章(2世しゅんしょう・勝川/勝宮川、絵師) J 2 1 9 5
 春幸(しゅんこう・岨山) → 春幸(はるゆき・岨山そばやま、国学者) H 3 6 0 5
 春光(春広・古市) → 南軒(なんげん・古市、藩士/儒/医者) J 3 2 9 1
 春広(春広・磯田) → 湖龍斎(こりゅうさい・磯田いそだ、絵師) E 1 9 0 7
 春岡(しゅんこう・鎌垣) → 春岡(はるおか・鎌垣かまがき/大伴/児玉、国学/歌) J 3 6 9 5
 春香(しゅんこう・六々園) → 春足(はるたり・遠藤、商家/狂歌/戯作) G 3 6 5 1
 春美(しゅんこう・阪部) → 好礼(よしのり・阪部さかべ、書家/絵師) G 4 7 0 0
 春衡(しゅんこう・三善) → 春衡(はるひら・三善、歌人) G 3 6 7 5
 俊綱(しゅんこう・藤原/橘) → 俊綱(としつな・橘、藤原頼通男、歌人) M 3 1 8 7
 俊光(しゅんこう)すべて → 俊光(としみつ)
 俊広(しゅんこう・坊城) → 俊広(としひろ・坊城ぼうじょう、廷臣/記録) N 3 1 6 0
 俊行(しゅんこう・山内) → 俊行(としゆき・山内やまうち、歌人) T 3 1 5 5
 浚郊(しゅんこう・秋元) → 良(りょう・秋元あきもと、藩士/儒者) F 4 9 9 5
 M2181 舜豪(しゅんごう;法諱) ? - ? 1583存 常陸の天台宗月山寺6世、
 1583「十妙義案立本時四教」著
 春郷(しゅんごう・杉山) → 竹外(ちくがい・杉山/杉、儒者) C 2 8 7 9
 a2144 順高(じゅんこう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都(東大寺?)の僧/権大僧都、
 歌人;1237刊[檜葉集]入、
 [行路叢といふ事をよめる、
 衣でのさえつるな□□□旅人のすげのをがさにあられたばしる](檜葉;羈旅663)
 M2182 順高(じゅんこう;法諱、号;十恵房) 1218-? 1275存 華嚴僧;喜海門/のち丹波神尾山の高信門、
 文永1264-75頃;梅尾高山寺住;華嚴を弘める、「華嚴五教章類聚記」著、
 1254-61「起信論本疏聴集記」「起信論別記聴集記」著
 M2183 諄香(じゅんこう;法諱) 1701 - ? 1770存 天台宗;修験僧、1770「法華畿法毫談もうだん鈔」著
 P2116 潤口(じゅんこう) ? - ? 京の俳人、
 1690「破暁集」/90言水「新撰都曲みやこぶり」4句入/92助叟「新始ちようなははじめ」入、
 [身を分かば山にひとつよけふの花](都曲;上233/今日見た山の桜に身を寄せたい)
 淳行(じゅんこう・伊香子) → 淳行(厚行あつゆき・伊香子[伊香いかご]、神職/歌人) B 1 0 4 5
 順広(じゅんこう・井上/桜井) → 敬徳(きょうとく;法諱・桜井、天台僧) O 1 6 3 8
 順行(じゅんこう・向) → 朝睦(ちようぼく・豊見城とみぐすく/向、廷臣) N 2 8 0 4
 順孝(じゅんこう・北島) → 全孝(たけのり・北島きたじま、国造/神職) W 2 6 8 0
 順剛(じゅんごう・柳川) → 震沢(しんたく・柳川やながわ、儒者) 2 2 5 7
 順衡(じゅんこう・近藤) → 順衡(のぶひら・近藤こんどう、藩士/歌人) I 3 5 4 9
 純孝(じゅんこう・前田) → 純孝(すみたか・前田まえだ、藩家老/記録) D 2 3 9 0
 純香(じゅんこう・谷山) → 純香(すみか・谷山たにやま、藩士/歌人) I 2 3 7 6
 純孝院(じゅんこういん) → 日誠(にちじょう;法諱、日蓮僧) C 3 3 4 8
 純光院(じゅんこういん) → 鋼姫(かたひめ・松平まつだいら/戸田/酒井、藩主妻/歌) V 1 5 7 8
 順孝院(じゅんこういん) → 灌子(ひろこ・伊達だて、藩士室/歌) K 3 7 0 9
 春光園(しゅんこうえん) → 花丸(はなまる、洒落本/狂歌) F 3 6 4 9
 春好斎(しゅんこうさい) → 北洲(ほくしゅう・春好斎、絵師) D 3 9 4 0
 春江斎(しゅんこうさい) → 北英(ほくえい・春梅斎しゅんばいさい、北洲門絵師) C 3 9 9 1
 春耕斎(しゅんこうさい) → 光政(みつまさ・畠山はたけやま、藩医) K 4 1 0 7
 淳厚神霊(じゅんこうしんれい) → 昭矩(あきのり・塩田しおだ、藩士/儒/柔術) D 1 0 7 5

- 春江亭(しゅんこうてい) → 梅麿(うめまる・臥竜園がりょうえん、狂歌) D 1 2 4 4
春光堂(しゅんこうどう) → 南軒(なんけん・古市、藩士/儒/医者) J 3 2 9 1
俊克(しゅんこく・坊城) → 俊克(としかつ・坊城ぼうじょう/藤原、廷臣) M 3 1 2 7
俊国(しゅんこく・源) → 俊国(としくに・源みなもと、国信くにざね男、廷臣/歌) X 3 1 3 5
俊国(しゅんこく・藤原) → 俊国(としくに・藤原ふじわら、廷臣/漢学/詩) X 3 1 3 6
春告(しゅんこく/はるつぐ・千種庵) → 千種庵(4世ちぢさあん、商家/狂歌師) D 2 8 0 4
淳国(しゅんこく・源) → 淳国(あつくに・源、廷臣/歌人) E 1 0 5 5
遵古先生(じゅんこせんせい) → 以貫(いかん・穂積、儒者/芸談) 1 1 7 1
遵古堂(じゅんこどう) → 南涯(なんがい・岡田、儒者/講説) I 3 2 6 7
- M2184 俊巖(しゅんごん;法諱) 1229 - ? 1271存 法隆寺住僧、
1239叔父顕真の日記より聖徳太子の伝記関係を抄出;「顕真得業口決抄」著
- J2167 俊佐(しゅんさ/としすけ・武野たけの)?-? 江前期大阪の俳人、
1666可玖(吉竹)「遠近をちこち集」入、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[敷く歯朶じだはおもひ葉なれや鏡餅](難波色紙;92、
鏡餅の下に敷く歯朶を鴛鴦おしどり雌雄の思い羽に見立てる)
俊佐(しゅんさ・大関) → 劍峰(けんぼう・大関おおせき、国学/儒者) M 1 8 3 1
- K2169 順佐(しゅんさ・安藤あんど)?-? 江中期武州北足立郡上平村の文筆家、
「密蔵院薬師如来縁起」著
順佐(しゅんさ/よりすけ・朝倉) → 景衡(かげひら・朝倉あさくら、医者/和漢学) E 1 5 9 8
- J2168 順座(しゅんざ・桑門くわかど)?-? 大阪の俳人、
延宝五1677大坂生玉本覚寺で興行の[西鶴大句数おおくず]独吟千六百句の指合見さしあみ、
(指合見は児玉菊砌と2人/執筆しゅひつ;青木友浄・水田西吟)
- K2170 俊才(しゅんさい;法諱・十達;字) 1259-1353長寿95 華巖僧;東大寺戒壇院の学僧/具足戒;凝然門、
律・華巖二宗を究める、真言密教;東大寺新禅院の聖然門、京の大通寺住;西国巡礼、
1329戒壇院長老;後醍醐天皇の戒師、1336造東大寺大勧進/周防の国司上人、
二月堂登廊を改築等戒壇院の法灯護持の尽力、晩年は鎌倉称名寺住、「五教章要文集」著
- J2169 春齋(しゅんさい・横池/横地よち、名;威明、藩中老横池信之男) 1796-187580 筑後柳川藩士、
儒学;久留米の樺島石梁門/江戸の佐藤一斎門、兵学;大原彦太郎・清水赤城・平山兵原門、
1824柳川藩校伝習館の学監、大橋訥庵・藤森弘庵らと交流;1846尊攘過激派とされ失脚、
1849三池郡倉永村に塾居、50私塾竜山書院を開き子弟教育、「自省漫録」著、
[春齋(;号)の通称/別号]通称;玄蕃助、別号;独醒/竜山
- K2171 俊齋(しゅんさい・大槻おおつき、名;肇ただし、信当男) 1806-6257 陸前桃生郡赤井村医者;1821江戸に出る、
川越藩医高橋尚齋・長沼藩医手塚良仙門、蘭方医;足立長雋門、高野長英・渡辺崋山と交流、
1837長崎に遊学、1840江戸で開業/再び長崎に赴き牛痘摂取法を習得、
1858伊東玄朴らと神田お玉ヶ池に種痘館開設、60幕府の医官/御番医並に種痘所頭取就任、
「牛痘之辨」、「銃創瑣言」など訳書多数、
[俊齋(;通称)の字/号]字;仲敏、号;蘭齋/弘淵、法号;弘淵院
- K2172 俊齋(しゅんさい・湯本ゆもと、名;恵方)?-? 江後期上州利根郡六合村赤岩の医者/儒学に通ず、
1837「示蒙捷啓」、「東遊漫筆」、「医家省身録」、「経験雑録」、「正骨纂要」、「介庵印譜」外著多数、
[俊齋(;通称)の号] 介庵
- K2173 春齋(しゅんさい・清水しみず、別号;自謙齋)?-1856 上州下室田の心学者;大島有隣門、
文政1818-30頃[自謙舎]創設;30学舎を江戸に移設;江戸で活動、菊池冬斎の師、
1841「善悪報鏡」、「三道一致心学辨」/49「松影恩鏡」、「心の鏡」著
- 春齋(しゅんさい・林) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、儒者/和学) 3 6 3 0
春齋(しゅんさい・服部) → 安休(あんきゅう・服部はつとり、藩士/神道) G 1 0 0 2
春齋(しゅんさい・春川) → 英笑(えいしょう・春川はるかた、絵師) C 1 3 0 2
春齋(しゅんさい・大国) → 士豊(しほう・大国おおぐに、絵師) F 2 1 7 1
春齋(しゅんさい・木下) → 菊潭(きくたん・木下きのした、藩士/儒者) F 1 6 2 1
春齋(しゅんさい・片桐) → 源栄(げんえい/もとひで・片桐かたざり、歌人) B 1 8 2 9
春齋(しゅんさい・片桐) → 源一(げんいち/もとかず・片桐かたざり、源栄男/歌人) H 1 8 7 0

春齋(しゅんさい・楠瀬) → 小枝(さえ・楠瀬くすのせ、医者/歌人) O 2 0 3 4
 春齋(しゅんさい・高橋) → 正純(まさずみ・高橋たかはし、商家/歌人) D 4 0 0 7
 春齋(しゅんさい・松平) → 茂昭(もちあき・松平、藩主/歌人) B 4 4 2 8
 春齋(しゅんさい・谷口) → 遷(うつる・谷口たにぐち、医者/歌人) E 1 2 7 8
 春齋(しゅんさい・阪部) → 好礼(よしのり・阪部さかべ、書家/絵師) G 4 7 0 0
 春齋(しゅんさい・村林) → 柳庵(りゅうあん・村林むらばやし、医者/国学) M 4 9 2 9
 春齋(しゅんさい・社) → 信順(のぶより・社やしろ、神職/国学者) K 3 5 2 1
 春栽(しゅんさい・古山) → 尹猷(ただのり・古山ふるやま、藩士/和漢学) Z 2 6 3 8
 春載(しゅんさい) → 百池(ひやくち・寺村、商家/俳人) E 3 7 6 6
 俊齋(しゅんさい・加藤) → 梅崖(ばいがい・加藤、藩士/儒者) 3 6 8 3
 俊齋(しゅんさい・森;変名) → 忠光(ただみつ・中山、国学:勤王派) F 2 6 8 9
 俊在(しゅんさい・北小路) → 俊在(としあり・北小路きたのこうじ/大江、廷臣) M 3 1 0 5

- J2170 順西(しゅんさい・法師、輪田入道) ?-? 鎌倉期河内住僧、歌人;続千載1688(読人不知)、
 [身のよその春とや風も思ふらん宿にとめじと花さそふなり](続千載:雑1688)
- K2174 順齋(しゅんさい・木下きのした、栄以男/本姓;藤原) 1599-1647/49 大阪医者;代々道円を称す/早く父没、
 医;曲直瀬まなせ玄朔門、1639幕府医師に招聘/40番医、「杏林筆談」「順齋方攷」「鸞嘯余音」著、
 [順齋(;)通称)の名/字/別通称/号]名;元昌/守清、字;元昌、別通称;玄陶/道円、
 号;杏林/鸞嘯閣主人、法号;誠正
- J2171 順齋(しゅんさい・今井いまい、名;健/字;元昌、松浦清軒男) 1658-1718/61 長崎代々の医業継嗣;松浦姓、
 諸医家に入門し研鑽、書道;篁洲門、篆刻に精通(明から亡命の石周麟門か?)、今井に改姓、
 1689江戸の池永一峰家に寓居;一峰著「一刀万象」序文執筆、古印を重視;法帖復刻を企画、
 1688水戸藩に医師として出仕、1715幕府の侍医
- J2172 筍齋(しゅんさい・原田はらだ、小森作右衛門2男) 1808-75/68 近江彦根藩士の家、儒;中川漁村門、
 音韻;長崎の清人門/古学;亀井南冥門、原田家を継嗣;彦根藩士;1854藩儒員、
 1869文武館教頭、群書に通じ皇典の研究、「音紐詩韻府」「紀記歌函」「皇朝譜略」、
 「窓寒漫録」「漢魏五言詩畛かんぎごんしん」著
 [筍齋(;)号)の幼名/名/字]幼名;正太郎、名;健/謙/保/勇、字;子義/子益
- J2173 順齋(しゅんさい) ? - ? 詩人;狂詩作者、
 1822鈍狗齋愚仏「鈍狗齋新編」入(順齋は序文および16編の狂詩作品入)
- K2175 惇齋(しゅんさい・藤田ふじた、名;金良) ?-? 江末期江戸目白台の書家、
 弘化1844-48頃「惇齋書帖」書、1854「蝦夷闔境輿地えぞこうきょうより全図」刊(木版多色刷)、
 [惇齋(;)号)の字/通称/別号]字;温卿、通称;啓次郎、別号;顛々道人
- 順齋(しゅんさい・伊丹) → 康勝(やすかつ・伊丹、幕臣/文筆) B 4 5 1 5
 順齋(しゅんさい・久世/筒井) → 政憲(まさのり・筒井/久世、幕臣/海防) G 4 0 1 0
 遵西(しゅんさい;法諱) → 安楽(あんらく;房号/浄土僧;専修念仏) I 1 0 9 9
 潤齋(しゅんさい・林) → 錦峰(きんぼう・林やはし、幕府儒官) I 1 6 2 4
 潤齋(しゅんさい・鈴木) → 尋思齋(じんしさい・鈴木すずき、儒者) O 2 2 6 9
 淳齋(しゅんさい・桂川) → 国幹(くにもと・桂川/8世、蘭学;化学) D 1 7 2 7
 淳齋(しゅんさい・松尾) → 元珍(もとよし・松尾まつお、酒造業/歌人) L 4 4 3 6
 楯齋(しゅんさい・富永) → 芳久(よしひさ・富永とみなが、神職/国学者) G 4 7 3 2
 春哉庵春哉(しゅんさいあんしゅんさい) → 風五(楓呉ふうご・小林、商家/俳人) 3 8 5 7
- J2174 蓴菜子(しゅんさいし:姓名不祥) ?- ? 絵師・1774畠中観齋「針の供養」画
 順左衛門(しゅんざえもん・大地) → 文室(あやよし・大地おち、藩士/詩/書) F 1 0 1 7
 順左衛門(しゅんざえもん・小出) → 英風(ひでかぜ・小出こいで、藩士/歌人) J 3 7 5 1
 潤左衛門(しゅんざえもん・江沢) → 講修(ときなが・江沢えざわ/源、国学/歌) J 3 1 6 0
- K2176 春作(しゅんさく;道号・禅興ぜんこう;法諱) ?-? 南北期応永1394-1428頃臨濟僧;大模宗範門;嗣法、
 将軍足利義持の帰依/大徳寺塔頭徳禅寺住/正統争いに敗北;山城守禅庵を開き退隠、
 1425「徹翁てつとう和尚語録」編/「天応大現国師(徹翁)行状」26「大燈国師(宗峰妙超)行状」著
- J2175 春朔(しゅんさく・茨木/伊丹木/伊原城いばらき) ?-1671 茨木家は最上家浪人、江戸大塚の儒;林羅山門、
 医者;吉田策庵門/酒井雅楽頭忠清の侍医、仮名草子作者/戯作号;地黄坊樽次じおうぼうたるつぐ、

大酒豪;1648武州大師河原の池上太郎右衛門宅に押しかけ双方仲間と共に酒戦を催す;
この酒戦顛末を仮名草子「水鳥記」に著し版を重ねた(本人は地黄坊樽次名で登場)、
1698続猿蓑の沾圃の句の詞書に樽次の孫と逢った話入、1764「楽機嫌上戸」著、
法号;信善院日宗

- K2177 **春朔**(しゅんさく・緒方おがた、名;惟章、藩士瓦林かわらばやし清右衛門2男)1748-181063 筑後久留米の医者、
医者緒方元斎の養嗣子/蘭医術;長崎の吉雄耕牛門/中国医書[医宗金鑑]により種痘研究、
1789筑後秋月に痘瘡流行;ジェンナーに先立ち人痘による種痘成功、秋月藩医に抜擢、
全国から種痘研究者が集まる、天文・窮理を研究;天球・地球両儀を改良し藩公に献上、
「種痘法」「種痘緊轄」「種痘証治録」、1795「種痘必須辨」、「改製渾儀二球記」「地球図略」著、
[春朔(;号)の通称/別号]通称;濟庵、別号;洞雲軒、法号;洞雲軒八束禪医
春朔(しゅんさく・大沢) → 清規(きよのり・大沢おおさわ、文筆家) H 1 6 5 0
春策(しゅんさく・平野) → 広臣(ひろおみ・平野ひらの、医者/国学) I 3 7 3 3
春策(しゅんさく・成川) → 国男(くにお・成川なるかわ、医者/国学) E 1 7 4 0
順佐久(じゅんさく・遠藤) → 慶正(よしまさ・遠藤えんどう、歌人/勤王家) L 4 7 7 8
- K2178 **春察**(しゅんさつ・河野こうの、名;通英)1612-7564歳 長州萩の人/初め医術;1626京の竹田定宣門、
儒者;江戸に出る/1633幕臣太田資宗に仕官/34儒;林道春門;高弟、43朝鮮使と詩文贈答、
1659致仕、1664加賀大聖寺藩士;藩主・家臣に講説、「本朝国名註説」著、
[春察(;号)の幼名/通称/別号]幼名;自然、通称;喜平次、別号;忘巷子/晚翠軒/益庵
春察(しゅんさつ・林) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8
- X2106 **順察**(じゅんさつ;法諱) ? - ? 江戸後期;僧、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[漁り火の光も消えて竹しばの浦波遠く照らす月影](大江戸倭歌;秋893)
順三郎(じゅんざぶろう・近藤) → 潜庵(せんあん・近藤/太田、儒者/医者) L 2 4 5 6
淳三郎(じゅんざぶろう・恩田) → 柳圃(りゅうかん・恩田おんだ、儒者/詩人) D 4 9 2 8
鎔三郎(じゅんざぶろう・横山) → 知哲(ちかあき・横山よこやま、幕臣旗本) 2 8 5 6
潤三郎(じゅんざぶろう・黒田) → 千箭(ちや・黒田くろだ、藩士/国学/歌) M 2 8 4 7
純三郎(じゅんざぶろう・成宮) → 元準(もとりのり・成宮なるみや、歌人) K 4 4 8 9
- J2176 **春三**(しゅんさん・稲川いながわ)? - ? 上方俳人、1751春耕「あふ夜」折句入/57律中「耳勝手」入
- K2121 **春三**(しゅんさん・柳河/柳川やながわ/西村、栗本武兵衛男)1832-7039 尾張名古屋大和町の生;
幼時より能書:筆法;丹羽盤桓門、蘭学者;1856江戸の伊藤圭介門/砲術;上田仲敏門、
英仏語を修得、西村家に養子、1857紀伊和歌山藩蘭学所に出仕/紀州藩「丹鶴叢書」編参、
幕府蕃書調所出仕、1864開成所教授/68同頭取、洋書翻訳;医学・洋算用法・兵学を紹介、
1857「洋学指針」「洋算用法初編」63「西洋年表」66「洋学便覧」著、67「写真鏡図説」訳、
1867日本初月刊誌「西洋雑誌」発刊、68日本人最初の新聞「中外新聞」発刊、
[春三(;通称)の名/字/別通称/号]名;暎/春蔭/朝陽、字;旭、別通称;辰助/良三(西村姓)、
号;楊江/柳園/柳屋/梶園しえん/臥孟/楊大昕ようだいしん/喫霞楼/細柳書屋/白雲/杯月/良庵、
幕天/擊壤/太平逸史/錦溪/四溪/仁山/好文/弄玉/衾天楼/又玄斎/宝雪庵/概痴道人
醉雅/采英書屋/醉奴/葛城小仙/紀淑曆など、法号;光撰院
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[柳川朝陽]と同一
[枯れ残る萩の枯れ葉に降る雨は秋よりもげに身にぞしみける](大江戸倭歌;冬1341)
- K2179 **俊山**(しゅんざん;法諱・沢道たくどう;号)?-1625 浄土宗西山派西谷流の僧/紀伊梶取の総持寺21世、
「曼陀羅沢道抄」著
- K2180 **峻山**(しゅんざん;道号・元広げんこう;法諱)1674-173461 大阪黄檗僧;叔父自悦道雲門/木庵性瑠門;
出家、のち法林院の喝禅道和門/1702嗣法、法林院4世、
1726「自悦和尚行略」、「喝禅和尚行実」著
- K2181 **春山**(しゅんざん;道号・士蘭;法諱、号;百花庵、俗姓;永石)1695-175662 肥前佐賀の臨濟僧;達潭門、
京東福寺の竜潭心桓門/和泉堺大安寺9世、歌人;山口昌椿・中院通躬みちみ・武者小路実陰門、
「春山集」「松浦の紀行」「初心和歌道しるべ」/1756「藤川百首註」著、栗山満光・藤本茂啓の師
- K2182 **春山**(しゅんざん・富田とみた、名;守高、永野宗育2男)1737-9155 官医富田竜門の養子/肥後熊本藩士、
中小姓官医/藩校時習館句読師/養父没後再び中小姓官医に復す、詩人、「春山詩集」、

1767「煙霞洞集」、「浴蘭堂集」「檜岡詩集」「栖霞詩集」「名山遊囊録」「春山先生文集」著、
[春山(;)号)の字/通称/別号]字;元朗、通称;善右衛門、別号;煙霞洞/浴蘭堂

- K2183 **春山**(しゅんざん・勝川かつかわ/画姓;勝)?-? 江後期江戸の絵師;初世勝川春章門、
1786頃に泉守一門;まもなく勝川に復す、役者絵・美人画・黄表紙読本挿絵・嘶本を制作、
1783「前九年奥州軍記」87「徳治伝」97「邂逅物語」98「菊水之巻」1803「雪炭奇遇」、
「楠三代記」「由井浜昼夜物語」など画多数、
[勝川春山(;)号)の別号] 泉昌有(;)泉守一門の時の号)
- K2184 **俊山**(春山しゅんざん・吉田よしだ、名;順祥)1789-1873⁸⁵ 京の絵師:1804河村文鳳門/のち岡本豊彦門、
四條東洞院西の住、古画鑑定、漢学にも通ず、1847「書画人名録」「皇都書画人名録」編、
[俊山(;)号)の字/通称/別号]字;愛公、通称;鉄蔵、別号;宜焉斎ぎんさい/如笑/春山
- K2185 **春山**(しゅんざん・浜地はまじ、名;惇明)1795-1835⁴¹ 伊勢神前浦の漢学;寺僧より修学、
江戸で儒:朝川善庵門/詩:斎藤拙堂門、本草・方筮にも精通、蔵書家、
「熊野紀行」「春山尺牘」「対灯独言」「詩文集」「錦類」著、
[春山(;)号)の字/通称]字;徳郷、通称;重次郎
- J2177 **春山**(しゅんざん・鈴木すずき、名;強、玄通男)1801-46⁴⁶ 三河田原藩医;父を継承、医;浅井朝山門、
儒;江戸の朝川善庵門、1820長崎で西洋医学修得/23帰郷し医を開業;藩校成章館教授、
藩主侍医/儒・兵学を講義、同藩の渡辺華山や高野長英らと親交;
蛮社の獄後蟄居中の華山の治療に当る、晩年は江戸で兵書翻訳、
1840「論西洋兵制」、43「三兵活法」「兵学小識」訳、「開場攻守略説」訳、
[春山(;)通称)の字/別通称/号]字;自強、別通称;俊二郎、号;童浦、養子嗣;愨
- K2186 **春山**(しゅんざん・高木たかぎ、名;以孝)?-1852 江戸下目黒郷長峰町の本草家、諸侯の用達業、
本草;曾槃門、画;小田切真助門、動植物の彩色画譜制作、1782「夷地探見記」画、「山魚譜」
「本草図説」「魚名類標」「本草綱目正誤」「藐姑峯採薬記」「年々散筆」著、「東瀛魚譜」編
- K2187 **春山**(しゅんざん・飛田とびた、名;知白、通称扇之助、英濟男)1805-62⁵⁸ 上州館林藩士/浜田転封随員、
1850家督;55小姓/59作事奉行/近習、儒;奥平棲遅庵門、読書講書指南、「春山文集」
- J2178 **春山**(しゅんざん・小山おやま、名;朝弘、塚田弥惣治3男)1827-91⁶⁵ 下野真岡素封家、家業木綿問屋廃業、
家督を弟に譲渡し分家;小山おやま姓、儒者;水戸の会沢正志斎門/江戸で医学修得、
漢学;藤森天山門・大橋訥庵門、1862坂下門外の事件に連座;入獄/天狗党事件で再入獄、
維新後浦和県代参事、のち東京で家塾、「春山楼文選」「春山楼文選」、馨三郎猷風ゆうふうの父、
[春山(;)号)の字/通称/別号]字;毅卿/士遠、通称;鼎吉/直三郎/弥惣治/重遠、別号;楊園
俊山(しゅんざん・萩原) → 桐園(とうえん・萩原はぎわら、俳人) B 3 1 4 7
峻山(しゅんざん;字・天如:法諱) → 天如(てんにょ・峻山、真言/神道) E 3 0 1 3
春山(しゅんざん、春山霊社) → 成理(なりまさ・木本きもと、神道/軍学) I 3 2 1 4
春山(しゅんざん・浄喜) → 義篤(よしあつ・佐竹/源、武将/連歌) C 4 7 0 7
春山(しゅんざん;字) → 日筮(ひぢにちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 7
春山(しゅんざん・牧野) → 貞喜(さだはる・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7
春山(しゅんざん・佐竹) → 義根(よしね・佐竹/源/長倉、天文家) F 4 7 4 8
春山(しゅんざん・法諱) → 廓英(かくえい/法諱;春山、僧/歌人) U 1 5 2 1
春山(しゅんざん・戸塚) → 静海(せいかい・戸塚、蘭医/幕府奥医) H 2 4 7 0
春山(しゅんざん・村田) → 了阿(りょうあ・村田むらた、和漢学/書) G 4 9 0 1
春山(しゅんざん・伊達) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4
春山(しゅんざん・川上) → 広樹(ひろき・川上かわかみ/中村、家老/儒/国学/歌) J 3 7 1 3
春山(しゅんざん・宮田) → 有隣(ゆうりん・宮田みやた/服部、和学者) H 4 6 3 2
舜山(しゅんざん・徳川) → 治保(はるもり・徳川、藩主/修史事業) H 3 6 0 2
- J2179 **盾山**(じゆんざん) ? - ? 姫路住俳人・惟然系、1703「四山集」共編:菰洲と
准三宮(じゆんざんぐう、近衛) → 義俊(よしとしゅん、真言僧/門跡、連歌) B 1 6 2 3
春山浄喜(しゅんざんじょうき) → 義篤(よしあつ・佐竹/源、武将/連歌) C 4 7 0 7
春山楼(しゅんざんろう) → 経幹(つねまさ・吉川きつかわ、領主/日記) D 2 9 7 8
- K2188 **春之**(しゅんし) ? - ? 加賀松任の俳人;1691北枝「卯辰集」入;少年時、
[これは扱きてゆけどもゆけども花の山](卯辰集;一122/10歳の時の作)

- J2184 **春思**(しゅんし・山多/山田やまだ)?-? 撰津武庫郡琴浦の俳人/大阪住、
1808刊「百ちやの湯」編/1811「はまちどり」著、
[春思(；号)の通称/別号]通称;蜂二郎、別号;梅斎/黄袍園
俊子(しゅんし・平安歌人)→ 俊子(としこ・承香殿) M 3 1 3 6
俊子(しゅんし・畠山) → 俊子(としこ・畠山はたけやま、歌人) M 3 1 3 8
俊之(しゅんし・山内) → 俊之(としゆき・山内やまのうち、村役/鉱床経営) O 3 1 1 1
俊資(しゅんし・綾小路) → 俊資(としすけ・綾小路/源、廷臣/国学/歌) M 3 1 6 3
春子(しゅんし・室町期歌人)→ 春子(はるこ・四辻/藤原) G 3 6 3 3
春之(しゅんし・渡辺) → 友益(ゆうえき・渡辺わたなべ、歌人) 4 6 7 1
春史(しゅんし・藤田) → 広見(ひろみ・藤田ふじた、藩士/国学/歌) K 3 7 8 7
春枝(しゅんし・玉井) → 春枝(はるすえ・はるしげ・玉井たまい、神道/国学) K 3 6 4 3
春枝(しゅんし・村松) → 春枝(はるえ・村松むらまつ、茶商/国学/歌) K 3 6 8 9
俊資(しゅんし/としすけ・葛巻/大野木)→ 克明(かつあきら・大野木おのぎ、藩士/記録) N 1 5 2 3
- K2189 **俊似**(しゅんじ・伊藤いとう) ?-? 尾張津島の俳人;1689「あら野」14句入、
[見あげしがふもとになりぬ花の滝](曠野;巻一/峰の桜がやがて麓に滝となって散る)
- K2190 **春爾**(しゅんじ・大坂屋吉左衛門)?-? 江中期大阪の格子女郎屋経営、俳人;
1772几董「其雪影」(1句)/77蕪村「夜半楽」(1句)/83維駒「五車反古」(1句)入、
[蔓つるものゝ花咲にけりけさの秋](其雪影;巻尾358/立秋に蔓草の花が咲いた)
俊治(としはる・竹内たけのうち/源)→ 俊治(としはる・竹内たけのうち/源、廷臣/歌) S 3 1 7 6
俊治(しゅんじ/としはる・高宮/最上)→ 徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行) L 3 1 2 5
俊次(しゅんじ・阿座見) → 俊次(としつぐ・阿座見あざみ、和算家) M 3 1 8 5
春治(しゅんじ・喜多川) → 秀麿(ひでまろ・喜多川きたがわ、絵師) D 3 7 8 5
春治(しゅんじ・志田) → 正徳(まさのり・志田じだ、藩士/郷土史家) G 4 0 1 5
春二(しゅんじ・林) → 東庵(とうあん・林はやし、医者) 3 1 9 1
隼治(しゅんじ・鈴木) → 亮(あきら・鈴木すずき/土濃塚、国学者) H 1 0 7 5
- J2180 **遵子**(じゆんし/のぶこ・藤原ふじわら、円融天皇皇后、頼忠女)957-1017⁶¹ 母;代明親王女の厳子女王によろ、
978円融天皇女御/982中宮/990皇后/997出家/1000皇太后/1012太皇太后;素腹の后と称さる、
歌人;玄々集2首入、拾遺326、後拾遺以下の[四条中宮]は異母妹の謁子し、同母の弟に公任、
[旅人の露払ふべき唐衣まだきも袖の濡れにける哉](拾遺;326)
[まゐらんと申しける人なくなりにはけると聞かせ給ひて、
くやくしきぎきなしてけるなべて世のあはれとばかりいはましものを](玄々集78)、
[遵子(；名)の通称] 四条宮/四条中宮/弘徽殿女御/三条太皇太后
妹 → 四条中宮(しじょうちゆうぐう、藤原謁子し、母;恵子女王) E 2 1 1 4
- P2117 **順之**(じゆんし) ?-? 俳人、1691北枝「卯辰集」2句入、
[稲舟いなぶねも月も我が屋も明けにけり](卯辰集;三361/月光に稲を刈り帰れば夜明)
- K2191 **閏之**(じゆんし) ?-? 加賀宮腰の俳人、1691北枝「卯辰集」1句入、
[家こぼし詠なむる庭の芭蕉かな](卯辰集;三327/家を壊し初めて芭蕉の大きさを発見)
順之(じゆんし・熊谷) → 玄随(げんずい・熊谷くまがい、本草家) K 1 8 3 2
順之(じゆんし・油井) → 大壑(たいがく・油井ゆい、儒者) J 2 6 4 6
順之(じゆんし・松田) → 菘廬(すうろ・松田まつだ、藩士/儒者/詩) B 2 3 0 6
樽子(じゆんし・そんし) → 藻壁門院(そうへきもんいん、後堀河中宮) C 2 5 8 9
淳子(じゆんし・伊達)→ 淳子(じゆんし・伊達/鍋島、歌人) E 1 0 5 6
淳子(じゆんし・飯島) → 淳子(よしざね・飯島いじま、里正/歌人) L 4 7 4 7
淳子(じゆんし・山田) → 淳子(あつこ・山田やまだ/近藤、袖香/歌) L 1 0 5 5
淳之(じゆんし・岡田) → 栗園(りつえん・岡田おかだ、藩儒) B 4 9 5 7
準子(じゆんし・徳川) → 準子(のりこ・徳川とくがわ、矩姫、丹波/歌) J 3 5 3 0
純之(じゆんし/すみゆき?・熊田)→ 休庵(きゅうあん・熊田くまだ、商家/儒詩) M 1 6 2 4
潤芝(じゆんし・福沢) → 直周(なおちか・福沢ふくざわ、国学者) O 3 2 5 8
- K2192 **淳児**(じゆんじ・伊藤いとう) ?-? 江前期近江大津の俳人;1689「あら野」1句入、
[先ぶねの親もかまはぬ鶉舟哉](あら野;巻三/鶉飼は時間が勝負;親も無視する)

順時(じゆんじ・藤原)	→	順時(まさとき・藤原、弁乳母の父)	E 4 0 3 1
順二(じゆんじ・辻村)	→	篤(あつし・辻村つむら、医者/歌人)	E 1 0 6 0
順二(じゆんじ・木内)	→	竜山(りゅうざん・木内/小橋、儒者/尊王)	E 4 9 2 5
順次(順治じゆんじ・中神)	→	守節(もりとき・中神ながみ、幕臣/書編纂)	F 4 4 9 0
順次(じゆんじ・村田)	→	清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人)	C 2 4 9 5
順次(じゆんじ・石川)	→	魯庵(ろあん・石川いしかわ/水野、藩儒)	5 2 1 3
順次(じゆんじ・須賀)	→	亮斎(りょうさい・須賀すが、藩儒)	H 4 9 6 0
順次(順治じゆんじ・木間)	→	保之(やすゆき・木間このま/藤原/源、歌人)	D 4 5 4 2
順次(じゆんじ・大滝)	→	光賢(みつたか・大滝おおたき、商家/国学)	I 4 1 3 7
順治(じゆんじ・斎藤)	→	竹堂(ちくどう・斎藤さいとう、儒者)	2 8 1 0
順治(じゆんじ・坂部)	→	政幹(まさもと・坂部さかべ/渡辺、商家/国学)	P 4 0 9 8
淳時(じゆんじ→なるとき・内山)	→	椿軒(ちんけん・内山、歌/狂歌)	K 2 8 6 8
淳治(じゆんじ・平沢)	→	適斎(てきさい・平沢/源、儒者/医者)	B 3 0 9 1
純治(じゆんじ・野々村)	→	喬(たかし・野々村のむら、医者)	L 2 6 9 5
純次(じゆんじ・有馬)	→	守居(もりい・有馬ありま、藩家老/国学)	J 4 4 1 2
潤時園(じゆんじえん)	→	慶里(けいり・潤時園、俳人)	G 1 8 7 9
俊式(しゆんしき)	→	果空(かくう; 法諱、浄土宗西山派僧)	J 1 5 4 7
準識(じゆんしき; 号)	→	道空(どうくう; 法諱・浄土僧/歌人)	V 3 1 8 4

J2181 **順四軒**(じゆんしけん; 号) 1719 - 1785 67 大阪順慶町四丁目住の素人浄瑠璃太夫:
 1738竹本播磨少掾門、芸風修得と共に師の逸話・口伝を筆録、1771「音曲口伝書」著、
 師没後は2世竹本政太夫門、号は住所名による、
 [順四軒(; 号)の通称/法号]通称; 平助、法号; 順岳寛忠

純七(じゆんしち・小宮山)	→	茂穂(しげほ・蔵田くらた/藤原/小宮山、役人/歌人)	O 2 1 3 0
俊実(しゆんじつ/としざね・後藤)	→	九臯(きゅうこう・後藤ごとう、儒者/詩文)	M 1 6 5 3
俊実(しゆんじつ)	すべて	俊実(としざね)	
惇実(じゆんじつ・早尾)	→	海雄(ひろお・早尾はやお/藤原、国学/神職)	K 3 7 6 6
純実(じゆんじつ/すみざね?・山口)	→	剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者)	B 1 9 1 5
順実(じゆんじつ・四宮)	→	順実(よりざね・四宮しのみや、和算家)	I 4 7 6 7
春日庵(しゆんじつあん)	→	柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人)	D 4 9 3 3
春日庵(しゆんじつあん)	→	秀億(しゅうおく・明田、俳人)	G 2 1 8 7
春枝堂(しゆんしどう)	→	了阿(りょうあ・村田、和漢学/書)	G 4 9 0 1

J2182 **嬉子内親王**(しゆんしなしいんのう、通称; 北白河、邦良親王(後二条天皇皇子)女) ?-? 母; 尾張局、
 南北期歌人、1339北朝により内親王宣下、叔母寿成院嬪子内親王と同居、
 1364頃成立「一万首作者」入、康仁親王・邦世親王・深守親王の姉妹、
 勅撰3首; 風雅(588)新千(1457)新後拾(1310)、
 [山の端を出でぬと見ゆる後までも麓の里は月ぞ待たるる](風雅集; 秋588)

J2183 **諄子内親王**(じゆんしなしいんのう/あつこ-、土御門天皇皇女) ?-1260 母: 証遍僧都女の左京大夫局、
 1251内親王宣下/准三后、後嵯峨天皇・正親町院覚子・仙華門院曦子の姉妹、
 勅撰歌人; 玉葉集1904、
 [すむ人も宿もかはれる庭の面に見し世を残す花の色かな](玉葉; 雑1904)

俊子内親王(しゆんしなしいんのう、後三条帝皇女)	→	俊子内親王(としこないしのう)	M 3 1 3 9
俊子内親王家河内(しゆんしなしいんのうけのこうち)	→	河内(こうち、歌人)	B 1 9 6 8
俊子内親王家大進(しゆんしなしいんのうけのだいじん)	→	大進(だいじん、歌人)	B 2 6 6 8

I2134 **春車**(しゆんしや) ? - ? 俳人; 一昌門、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [一年の物言ふ数を落ち葉哉](丁卯集/三業; 口)

春樹(しゆんじゆ)	訓読すべて	春樹(はるき)	
俊壽(しゆんじゆ・高橋)	→	俊壽(としひさ・高橋たかはし、廷臣/記録)	N 3 1 4 5
舜壽(しゆんじゆ・頼)	→	采真(さいしん・頼らい、藩士/儒者)	G 2 0 2 2
旬樹庵(じゆんじゆあん)	→	冬映(初世とうえい・牧、俳人)	B 3 1 2 9

J2185 **俊秀**(しゆんしゅう; 法諱、源俊重男、源俊頼孫) ?-? 平安後期天台叡山僧; 法師、歌人; 千載1250、

[清く澄む心の底を鏡にてやがてぞ映る色も姿も](千載; 釈教1250)、
(詞書; 涅槃經の如於鏡中見諸色像の心を詠める)

- K2193 **俊秀**(しゅんしゅう) ? - ? 連歌; 1449時述催「広柏ひろがしわ千句」参
- J2187 **俊秀**(しゅんしゅう、村瀬むらせ、庄左衛門正孝) ?-? 京の餅屋; 大仏餅販売、俳人; 季吟・荻野安静門、
1656元隣と季吟に起請文提出、江島其積[1667-1763]の父、
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[撫子や草のはらから兄弟あにおと](手鑑/原からと同胞を掛る)
- K2194 **春洲**(しゅんしゅう; 号) ? - ? 摂津尼崎の俳人; 1782蕪村「花鳥篇」1句入、
[花もどり隣に風呂のある夜哉](花鳥篇; 55/花見戻りに隣家の風呂を貰おう)
- 俊宗(しゅんしゅう; 法諱) → 俊宗(しゅんそう、僧/歌人) J 2 1 8 6
俊秀(しゅんしゅう・坊城) → 俊秀(としひで・坊城/藤原、廷臣/詩人) N 3 1 4 8
俊秀(しゅんしゅう・千家) → 俊秀(としひで・千家/出雲臣、国学) N 3 1 5 0
俊秀(しゅんしゅう・三沢) → 俊秀(としひで・三沢みさわ/源/小沢/布川、医薬/国学) N 3 1 5 2
春秀(しゅんしゅう・生駒) → 春秀(はるひで・生駒いこま/山本、神職/医者) J 3 6 6 3
春洲(しゅんしゅう・北条) → 時成(ときなり・北条ほうじょう/中臣、神職) W 3 1 3 4
俊璿(しゅんしゅう・高橋) → 俊璿(としひさ・高橋たかはし、廷臣) N 3 1 4 7
- K2195 **俊重**(しゅんじゅう) ? - ? 連歌; 1476「表佐ひょうさ/おさ千句」参
俊重(しゅんじゅう) 上記以外はすべて → 俊重(とししげ)
春重(しゅんじゅう) すべて → 春重(はるしげ)
- K2196 **潤宗**(じゅんしゅう; 道号・寂雲じやくうん; 法諱) 1667-1746⁸⁰ 筑前久留米の曹洞宗千光寺16世、
古老の口碑見聞をもとに千光寺の歴代住持記録編集; 1735「竜護聯芳録」著
- K2197 **順崇**(じゅんしゅう; 法諱・自適; 字、号; 法雨庵) ?-1802 越後新潟の真宗大谷派僧; 即徳寺住職の次男、
越後水原無為信寺の住職; 易行品の研究、1754「真宗帖外聖教」編/80「釈教考鑑」著、
「仮名本字考」著、妻; 佐藤伊左衛門女、徳栄・香樹院徳竜とくりゅう・徳猊とくげい・定栄の父
- 順周(じゅんしゅう・大橋) → 訥庵(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩) O 3 1 4 1
順秋(じゅんしゅう・豊原) → 順秋(よりあき・豊原とよはら、楽人; 笙) I 4 7 3 4
謹秀(じんしゅう; 法諱) → 心山(しんざん; 号・謹秀、天台僧) O 2 2 6 3
春秋庵(しゅんじゅうあん) → 几董(きとう・高井、俳人) 1 6 2 3
春秋庵(初世・しゅんじゅうあん) → 白雄(しらお・加舎、俳人) 2 2 1 4
春秋庵(二世・しゅんじゅうあん) → 長翠(ちようすい・常世田とこよだ、俳人) J 2 8 0 9
春秋庵(三世・しゅんじゅうあん) → 葛三(かつさん・倉田、俳人) C 1 5 4 4
春秋庵(四世・しゅんじゅうあん) → 碩布(せきふ・川村、俳人) 2 4 1 1
春秋庵(五世・しゅんじゅうあん) → 逸淵(いつえん・児玉、俳人; 碩布門) B 1 1 3 4
春秋庵(九世・しゅんじゅうあん) → 梅笠(ばいりゅう・浜中、俳人) C 3 6 2 2
春秋庵(十一世・しゅんじゅうあん) → 幹雄(みきお・三森、俳人) 4 1 6 8
春秋庵(十三世・しゅんじゅうあん) → 巒化(らんか・高木たかぎ、俳人) B 4 8 6 3
春秋庵(しゅんじゅうあん) → 満光(みつてる・栗山くりやま、歌人) D 4 1 9 3
春秋庵(しゅんじゅうあん) → 雲林(うんりん・毛内もうない、藩士/絵師) E 1 2 9 3
春秋庵(しゅんじゅうあん) → 月花永女(げつかえいじよ、竹内えい/狂歌) G 1 8 9 2
春秋園(しゅんじゅうえん) → 大年(たいねん・春秋園、俳人) K 2 6 9 3
春秋花庵(しゅんじゅうかあん) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9
春秋花園(しゅんじゅうかえん) → 穀生(としなり・馬島まじま/水野、医・国学) W 3 1 3 9
春秋館(しゅんじゅうかん) → 昌三(しょうぞう・松永尺五、貞徳男/儒者) 2 2 5 8
春秋館(しゅんじゅうかん) → 昌易(しょうえき・松永、尺五男/儒者) F 2 2 4 5
春秋館(しゅんじゅうかん) → 苜野(しんや・伊藤いとう、儒者) 2 2 8 2
春秋軒(しゅんじゅうけん) → 一葉(いちよう・春秋軒、華道) G 1 1 5 4
春秋草庵(しゅんじゅうそうあん) → 義章(よしあきら・松沢、国学) C 4 7 0 6
春秋館(しゅんじゅうかん) → 昌三(しょうぞう・松永尺五、儒者) 2 2 5 8
春秋館(しゅんじゅうかん) → 万年(まんねん・伊藤/藤原、尺五門儒者) K 4 0 7 8
春秋草庵(しゅんじゅうそうあん) → 義章(よしあきら・松沢まつざわ、商家/国学) C 4 7 0 6

- 春秋亭(しゅんじゅうてい) → 倉子(くらこ・石塚いしづか、歌人) D 1 7 4 9
 春秋亭可蘭(しゅんじゅうていからん) → 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌) 2 6 3 9
 春秋廼屋(しゅんじゅうのや) → 義章(よしあきら・松沢まつざわ、商家/国学) C 4 7 0 6
 春秋満(しゅんじゅうまん・木村) → 春秋満(鈴満すずまる・木村きむら/平、藩士/国学) I 2 3 3 5
 春秋楼(しゅんじゅうろう) → 千兮(せんけい・岡崎/竹内、如毛門俳人) M 2 4 1 4
 舜叔(しゅんじゅく;字) → 宏善(こうぜん;法諱、浄土宗西山派僧) K 1 9 2 5
 惇叔(じゅんじゅく・板倉) → 復軒(ふっけん・板倉いたくら、幕臣/儒者) D 3 8 3 1
 順叔(じゅんじゅく・松元) → 正名(まさな・松元まつもと/橘、書家) E 4 0 9 1
 潤樹亭(しゅんじゅてい) → 庭雨(ていう、松屋伊兵衛、狂歌) 3 0 3 2
 俊春(しゅんじゅん・鴨/泉亭) → 俊春(としはる・鴨/泉亭、神職) N 3 1 4 2
- K2198 **春淳**(しゅんじゅん・藤野ふじの、春昌[道休]男)?-? 江後期香道家;藤野流香道の祖、藤野専斎の孫、祖父専斎が後見した志野流峰谷家宗家が早世;その衰退期に藤野流を興し勢力拡大、1775「六国弁解秘伝書」、「卓飾」「藤野ト翁香道打聞」著、[春淳(;名)の幼名/通称/号]幼名;主税、通称;左馬助、号;専斎/朴翁/ト翁/得意庵
 俊潤(しゅんじゅん・秋葉) → 東叢(とうそう・秋葉、郷士/文筆) G 3 1 2 8
 盾峻(じゅんじゅん・村沢) → 布高(のぶたか・村沢むらさわ、天文曆算) B 3 5 7 3
 春々観(しゅんしゅんかん) → 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0
 駿々斎(しゅんしゅんさい、駿々亭) → 北馬(ほくば・葛飾、有坂、御家人/絵師) D 3 9 8 6
- J2188 **春初**(しゅんじよ・答本とうほん)? - ? 7ct百濟より亡命渡来の達率(百濟貴族の官位)、兵法家、665唐新羅に備え長門の派遣され城きを築く、671大山下だいせんげ叙位、大友皇子の師
- L2104 **春曙**(しゅんじよ、通称;阿波屋九左衛門)?-? 江中期備後鞆の商家/俳人;談林/蕉門系、1701舎羅「荒小田」入、1705魯九「春鹿集」入
- J2189 **春渚**(しゅんじよ・文藻舎、星見庵、姓;竹田?) 1711-7666 伊勢山田の御師職/俳人;獅子門・麦林門、兄雲蝶[幾暁]の俳門を継承、1758豊前小倉に星見庵を結庵、諸国行脚、1775「笠の風」、「続笈のちり」、3回忌追善集「散花集」、文暁ぶんぎょうの師
 春処(しゅんじよ・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8
 春曙(しゅんじよ・井上) → 春曙斎(しゅんじよさい・井上いづえ、絵師) L 2 1 1 1
 隼所(しゅんじよ・重野) → 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) B 2 4 6 5
- I2180 **春鋤**(しゅんじよ) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、[牛追ひも牛もなぐさむ堇すみれ哉](丁卯集/三塘;高縄塘)
 惇叙(じゅんじよ・奥村) → 惇叙(あつのお・奥村おくむら、藩士/記録) E 1 0 7 4
 惇叙(じゅんじよ・板倉) → 復軒(ふっけん・板倉いたくら、幕臣/儒者) D 3 8 3 1
 順女(じゅんじよ・志立) → 順女(よりじよ・まさじよ?・志立たち、歌人) K 4 7 9 4
 春曙庵(しゅんじよあん) → 千山(せんざん・井上、商家/俳人) F 2 4 4 7
 春曙庵(しゅんじよあん) → 寒鳥(かんう・井上、俳人) G 1 5 0 9
 春曙庵(しゅんじよあん) → 守三(もりみつ・葛垣/葛巻、俳人) G 4 4 6 4
- J2190 **俊盛**(しゅんじょう/しゅんせい;法諱、源俊頼男;宇多源氏)?-? 平安後期興福寺僧;法師、歌人、千載342、檜葉集入、俊重/俊恵・待賢門院女房新少将の兄弟、恵慶(東大寺僧/檜葉集入)の父、[衣うつ音を聞くにぞ知られぬる里遠からぬ草枕とは](千載;五秋342/晩秋;旅宿擣衣)[ひとめのみしげき夏ののわすれ水たえまたえまをまつぞくるしき](檜葉;恋402)
- K2199 **俊承**(しゅんじょう;法諱) ? - ? 1270存 鎌倉期叡山横川華林房の天台僧;俊範門/法嗣、門下の四神足の一人、1270法印、「智法蔵重門略訣」著
- L2102 **舜倡**(しゅんじょう;法諱) ? - ? 1606存 常陸月山寺の天台学僧、1593「無量義経権乘案立私記」、「三身義案立新成頭本」著
- J2193 **春正**(春宵/春昌しゅんじょう・山本やまもと、山本俊正了悦男/本姓;源) 1610-8273 京蒔絵師;春正派の祖、歌人;松永貞徳門のち木下長嘯子門;高弟、1650長嘯子「挙白集」編撰に参加;貞門から攻撃、京の歌壇で孤立/1665水戸藩江戸屋敷で古書校勘事業に従事、66和歌索引「古今類句」編、以後は江戸歌壇で活躍;門人多数/1682(天和2)帰京し没、「舟木しゅうぼく集」「万葉集特解」、「語句類葉集」「ひた紀行」著、1674「正木のかつら」共編(岡本宗好・清水宗川と)、1677「於鴨河夕菴当座」「深草於墨染寺興行当座」、81光圀催「延宝九年九月十三夜会」参、

1682(天和2)没/没後1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[吉野川岩なみたかく音はしていはぬ色なる花ぞのどけき]、
(倭譚五十人一首;6河款冬やまぎ、山吹は静かに咲いている/いはぬ色;くちなし色)
[春正(;名)の通称/号]通称;二郎三郎/次郎三郎/二郎兵衛/次郎兵衛/治三郎、
号;舟木/舟木軒、法号;玉鳴院、景正(2世春正)・通春の父

- M2197 **春霄**(しゅんしょう・清水しみず)? - ? 江前期河内の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[心なきや待つよはらすことゝぎす](手鑑)
- L2103 **春笑**(しゅんしょう・狩野かのう、名;亮信/相信、信之[春雪]2男)1646-171570 絵師;代々將軍家の画工、
兄知信(梅栄)は多病のため別家、春笑が家督継嗣/將軍家画工;1673御目見得、
信之門の黒沢(狩野)春湖が後見、「御室の錦」画、通称;求馬
- J2194 **春章**(初世しゅんしょう・勝川かつかわ/本姓;藤原/画姓;勝宮川)1726-9267 江戸の絵師;勝川春水門、
江戸人形町の林屋七右衛門加田に寄寓/のち田所町住、草画;高嵩谷門;英一蝶風画法、
写实的役者絵・戯作の挿絵・絵本制作、勝川春好(初)・春暁・春英・春旭・春山・春潮らの師、
1770「絵本舞台扇」文調と共編、1772几董「其雪影」1句入、1773「絵本伊勢物語」画、
1775「当世女風俗通」76「青楼美人合姿鏡」78「絵本威武貴山」80「役者夏の富士」、
1783「両節吟」85「会本色好乃人式」90「絵本接穂農花」92「浮世糸具佐」、「笑双紙」外画多数、
[実(に)其(の)頃(の)春(の)草(々)](其雪影;几圭遺句による追善百韻の挙句、
前句99句;子曳;なつかしや在(いま)すがごとき花(の)雪)、
[勝川春章(;号)の名/字/通称/別号]名;正輝、字;千尋、通称;要助/祐助/勇次郎、壺屋、
別号;旭朗井/酉爾/六々庵/縦画生、俳号;宜富/李林
- J2195 **春章**(2世しゅんしょう・勝川かつかわ/画姓;勝宮川)?-? 江後期絵師;勝川春英門、武者絵・役者絵制作、
1832勝川春章2世襲名、1832「衣食住狂歌集」著、
[勝川春章(;号)の別号] 松井春幸/旭松井
- J2196 **春樵**(しゅんしょう・梅辻うめつじ/琴/本姓;祝部、名;希声)1776-185782 代々近江坂本日吉神社の神官、
家督嗣;小比叡社の禰宜/従四下、1807神職を弟希烈に譲渡、琴家を名乗り京に閑居、
漢学;皆川淇園・村瀬栲亭門、詩人/歌、妙法院門跡真仁法親王などの寵遇を受、
1810「春樵詩草初篇」31「山水属心集」32「桂冠出獄集」36「無絃秘響集」40「万古清兮集」、
1845「帆載斜陽集」51「煙巖鎖夏集」53「葵猶衛足集」外著多数、希列れつらの兄、
[春樵(;号)の字/通称/別号]字;廷調/子琴、通称;勘解由、
別号;無絃/愷軒がいけん、諡号;文煥先生
- L2105 **春松**(しゅんしょう;号・高島たかしま、名;千古ちふる/通称;新蔵)?-? 江後期大阪淀屋橋の大和絵師、
土佐派絵師高島千春の一族、
「大川便覧」「淀川両岸一覽」画/1837「海川諸魚掌中市鑿」49「魚貝能毒物品図考」著
俊将(しゅんしょう・坊城/勸修寺)→ 俊将(としただ・坊城、廷臣/茶道) M 3 1 7 1
俊章(しゅんしょう・北小路)→ 俊章(としあき・北小路きたのこうじ/大江、廷臣/日記) L 3 1 9 1
俊章(しゅんしょう/としあき・晁)→ 貞煥(ていかん・晁ちよう、医者/解剖) 3 0 4 8
俊章(しゅんしょう・滝川) → 俊章(としあき・滝川、藩士/砲術/詩歌) L 3 1 9 4
俊章(しゅんしょう・首藤) → 俊章(としあき・首藤じすどう、幕臣;右筆/国学) V 3 1 4 2
俊章(しゅんしょう・松木) → 俊章(としあき・松木まつき/大神、神職/国学) W 3 1 0 7
俊尚(しゅんしょう・北小路)→ 俊在(としあり・北小路きたのこうじ/大江、廷臣) M 3 1 0 5
俊尚(しゅんしょう・紀) → 俊尚(としひさ・紀きの、神職/国学) U 3 1 9 5
俊昌(しゅんしょう;法諱) → 俊昌(しゅんじよう;法諱、浄土僧/法然画伝) J 2 1 9 1
俊昌(しゅんしょう・北小路)→ 俊昌(としまさ・北小路きたのこうじ/大江、廷臣) N 3 1 7 5
俊将(しゅんしょう・勸修寺/坊城)→ 俊将(としただ・坊城/藤原/旦、廷臣/茶) M 3 1 7 1
俊承(しゅんしょう;法諱) → 西胤(せいいん;道号・俊承;法諱、臨濟僧) L 2 4 5 2
俊勝(しゅんしょう・高水) → 俊勝(としかつ・高水たかみず/忌部、神職/歌) V 3 1 6 7
春尚(しゅんしょう・池田) → 春尚(はるひさ・池田いけだ、国学) J 3 6 6 9
春笑(しゅんしょう・仙東舎/狂仙亭/為永)→ 春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作) 2 1 5 8
春宵(しゅんしょう・多賀) → 直方(なおかた・多賀、藩士) 3 2 8 7
春宵(しゅんしょう・松井) → 之翰(これふみ・松井まつい、藩医/歌人) R 1 9 3 2

春昌(しゅんしょう・五十川)→ 春昌(はるまさ・五十川[河]いそかわ、医者) G 3 6 8 3
 春昌(しゅんしょう・紀/山口)→ 春昌(はるまさ・紀/山口[安倍]、神職) G 3 6 8 5
 春昌(しゅんしょう・斎藤) → 春昌(はるまさ・斎藤・蘭学者) G 3 6 8 9
 春祥(しゅんしょう・二宮) → 正禎(まさただ・二宮にのみや、医者/国学) L 4 0 8 0
 春松(しゅんしょう・藤田) → 春松(はるまつ・藤田ふじた、国学者) K 3 6 7 5
 春樵(しゅんしょう・河路) → 光広(みつあき・河路かわじ、商家/歌人) I 4 1 7 4
 春嶂(しゅんしょう・頼) → 聿庵(いつあん・頼らい、儒者/書家) E 1 1 2 8
 舜象(しゅんしょう・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8
 舜裳(しゅんしょう・喜多) → 公綺(きみあや・喜多きた、医者/歌人) U 1 6 0 6

J2197 俊苒(しゅんじょう;法諱) 1166 - 1227 62歳 母;藤原氏、鎌倉期肥後飽田郡味木の僧、
 天台;1169(14歳)肥後飯田山常楽寺真俊門/73出家、74筑紫観世音寺で受戒;真言中院流伝受、
 南北二京に戒律を修学/1194帰郷;正法寺建立、1199(34歳)入宋;禅・律・天台を修学、
 その間に北峰宗印より天台学を修学、多くの典籍を持帰る;儒の朱子学を将来す;1211帰国、
 洛東仙遊寺再建;泉涌寺と改称;天台・律・密教・禅・浄の教学と行儀修法の道場とす、
 戒律復興に尽力;北京律と称される、「仏法宗旨論」「念仏三昧方法」「仏道宗論」「坐禅事儀」、
 「勸十六観堂縁起」「三千義備檢」「北峰三千備檢」「泉涌寺縁起疏」「泉涌寺清衆規式」著、
 [俊苒(;法諱)の字/号/諡号]字;不可棄法師、号;我禅房、
 諡号;大興正法国師/大円覚心照国師/月輪大師

J2191 俊昌(しゅんじょう;法諱、俗姓;弓削) 1255-1335 81 近江志賀の浄土僧;初め叡山で出家/功德院住、
 天台法印、のち浄土宗;知恩院如一門、後伏見院の勅命で1307より法然の伝記を集大成;
 10年後に「勅修御伝(法然上人行状画図)」編纂完成(;忍徴「勅修吉水円光大師御伝縁起」入)
 その功績で知恩院9世の別当に補せられる、「円光大師伝」「述懐抄」著

L2106 俊丈(俊常しゅんじょう・加藤かつ、名;章)?-? 江中期信濃の医者、
 1779「韞匱うんとく録」、「経穴攷」「十四経攷文」「素霊合珠」「内経解」著、
 [俊丈(;号)の字/別号]字;曼卿/万卿、別号;筑水

L2107 春常(しゅんじょう・勝川かつかわ、姓;安田)?-1787 絵師;初世勝川春章門、細判の役者絵、戯作の挿絵、
 1778「芸者曾我」/82「伊勢平氏栄花暦」「御夢想鯉包丁」「花珍奴茶屋」「蜀魂三津啼」画、
 1783「寿万歳曾我」「むかし男雪雛形」/85「嘘八百意気講釈」、「石川五右衛門」外面多数、
 [勝川春常(;号)の通称/法号]通称;岩蔵、法号;宗因

L2108 俊城(しゅんじょう;通称・早川はやかわ、名;光賢)?-? 江中期三河の医者:産科に精通、1773「女科摘要」著
 春城(しゅんじょう・千賀) → 春城(はるき・千賀ちが、故実家) G 3 6 2 7
 春城(しゅんじょう・鍋島) → 春城(はるき・鍋島なべしま/藤原、詩歌) K 3 6 5 1
 春上(しゅんじょう・三原) → 春上(はるかみ・三原みはら、廷臣/詩人) G 3 6 2 1
 春常(しゅんじょう・池部) → 如水(じすい・池部いけべ、藩士/砲術家) M 2 2 6 0
 俊常(しゅんじょう・北小路) → 俊常(としつね・北小路きたのこうじ/大江、廷臣) M 3 1 9 4

L2109 順正(しゅんじょう;法諱) ? - 1787?(80余歳) 越後西松野木の真宗本願寺派勝念寺の住職、
 異説を唱えたため興隆・義天に訴訟され1786高田藩主榊原氏より闕所、
 「廣大勝解鈔」「真宗掟私述鈔」著

L2110 順性(しゅんじょう;法諱、号;白賁はくひ) 1737-1802 66 天台僧;叡山総持坊兼覚王院探題/大僧正、
 「勸学会雑記」/1780「御即位御祈記」著

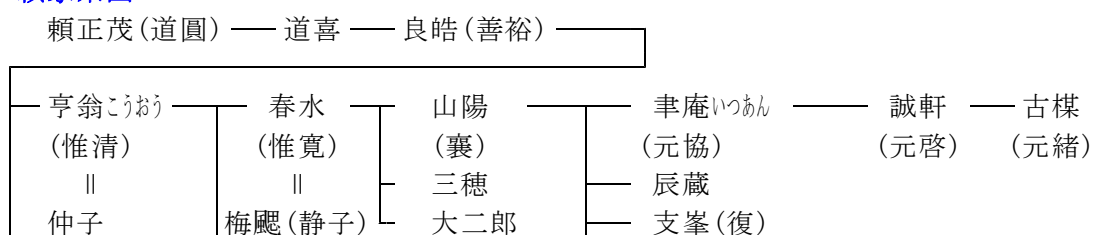
純性(しゅんじょう;字) → 日賢(にちけん;法諱・妙雲院、日蓮僧) B 3 3 5 4
 純昌(しゅんじょう・大村) → 純昌(すみまさ・すみよし・大村、藩主/藩政改革) D 2 3 9 7
 純章(しゅんじょう・石原) → 純章(すみあや・石原いしはら、藩医/歌人) L 2 3 4 1
 純彰(しゅんじょう・小林/大鳥) → 圭介(けいすけ・大鳥おおとり、幕臣/洋学) G 1 8 1 9
 純昭(しゅんじょう・鳥山) → 純昭(すみあき・鳥山とりやま、藩士/国学) I 2 3 8 6
 順昭(しゅんじょう;法名) → 宗宣(むねのぶ・大佛おさらぎ/北条/平、幕府執権/歌) C 4 2 0 8
 順性(しゅんじょう;字) → 日護(にちご;法諱・中正院、日蓮僧) B 3 3 7 3
 順松(しゅんじょう;初法諱) → 丹續(たんれい;道号・祖衷;法諱、曹洞僧) T 2 6 6 2
 順承(しゅんじょう・松田) → 順承(よりつぐ・松田まつだ、暦算家) J 4 7 0 2
 順承(しゅんじょう・津軽) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1

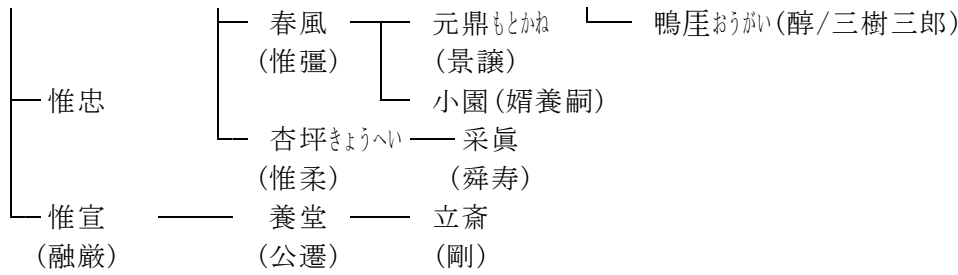
- 順祥(じゅんしょう・吉田) → 俊山(春山しゅんざん・吉田、絵師/鑑定) K 2 1 8 4
准秀(じゅんしょう;字) → 昭超(しょうちゆう;法諱、真宗僧) K 2 2 8 8
淳咲(じゅんしょう・遠藤) → 慶正(よしまさ・遠藤えんどう、歌人/勤王家) L 4 7 7 8
純常(じゅんじょう/すみつね・畠山) → 義成(よしなり・畠山、藩士/渡航日記) F 4 7 4 5
春稍庵(しゅんしょうあん) → 梅丸(うめまる・石橋、俳人) 1 2 9 4
春宵菴(しゅんしょうあん) → 徐々坊(じょじょぼう・宮みや、俳人) M 2 2 4 6
春勝園(しゅんしょうえん) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1
春松軒(しゅんしょうけん) → 新六(しんろく・西宮、書肆/三馬作品刊) 2 2 9 7
春頌斎(しゅんしょうさい) → 応賀(おうが・万亭、合巻/滑稽本) B 1 4 6 2
詢蕘斎(じゅんじょうさい) → 高猷(たかゆき・藤堂、藩主/歌) N 2 6 6 6
春松亭(しゅんしょうてい) → 胤充(たねみつ・千葉原ちばはら/荻原、本陣/歌) Y 2 6 2 1
鶉床亭(じゅんしょうてい) → 充長(みつなが・仁木につき、歌学者) E 4 1 1 7
順承室(じゅんしょうのしつ・津軽) → 順承室(ゆきつぐのしつ・津軽つがる、藩主正室/歌人) G 4 6 7 2
俊乗坊(しゅんじょうぼう) → 重源(ちゅうげん;法諱、浄土僧/大仏再建勸進) I 2 8 1 1
順性房(じゅんしょうぼう) → 高信(こうしん;法諱、順性房、華厳教学) B 1 9 4 3
春宵楼(しゅんしょうろう) → 紫暁(しぎょう、宮みや、俳人) B 2 1 6 3
- J2198 **春色**(しゅんしよく;号・隆暁;法諱、別号;双吟堂) 1646-1702⁵⁷ 播磨竜野御風山法雲寺の僧、
俳人:宗因・其角門、惟中の知友、1692俳論「移徒むたまし抄」著(自序・惟中序/西鶴の跋文)、
一周忌追善「花皿はなざら」;実弟桃源川とうげんせん編(其角の長文の追悼詞入)
- L2111 **春曙斎**(しゅんしよさい・井上いのうえ) ?-? 大阪の絵師;春好斎北洲門、1839「京都名所記」、
1839「袖中都名所記」40「絵本音羽山花の賑」、「三字経童子訓」、「洛中神社仏閣名所順路」画、
[春曙斎(;号)の別号] 北頂/春曙
- 春曙亭(しゅんしよてい) → 橋夢(きょうむ・牧田、俳人) O 1 6 5 8
春曙亭(しゅんしよてい) → 柳郊(りゅうこう・青木あおき、医者/俳人) D 4 9 8 2
春曙亭(しゅんしよてい) → 千秋(ちあき・山原やまはら、俳人/国学) N 2 8 7 2
春曙堂(しゅんしよどう) → 千山(せんざん、井上、商家/俳人) F 2 4 4 7
春曙堂(しゅんしよどう) → 寒瓜(かんか・井上、千山男/俳人) D 1 5 4 9
- J2199 **順助法親王**(じゅんじよほっしんのう;法諱、龜山天皇皇子) 1277-1320⁴⁴ 母;平時仲女の帥典侍、
聖護院門跡、1299天台宗園城寺長吏、無品親王、歌人:続千載(127・2029)、
[ぬれつつもあかすぞ見つる山桜かをる軒端の花のしづくに](続千載;春127/花帯露)
- 単次郎(しゅんじろう・下野) → 遠明(とあき・下野しも、藩士/攘夷論) I 3 1 5 7
駿次郎(しゅんじろう・益頭) → 尚俊(ひさとし・益頭まじず、渡米渡欧日記) B 3 7 5 4
順四郎(じゅんしろう・福沢) → 直周(なおちか・福沢ふくざわ、国学者) O 3 2 5 8
- T2162 **純次郎**(じゅんじろう・諏訪すわ、名;亮采) ?-? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[忍びねの声ならねども遠をちかたの山ほととぎすはるかにぞ聞く]、
(大江戸倭歌;夏442/遠聞郭公)
- L2112 **順二郎**(じゅんじろう・長田ながた) 1821-1904⁸⁴歳 加賀石川郡の測量家;1833(13歳)田地割算を修得、
算法・実測術;滝川秀蔵・河野通義・石黒信由門、加賀藩の土木測量に従事、
1862「測量雑集」著、[順二郎(;名)の別名]長四郎(;初名)/長兵衛
- N2106 **順二郎**(じゅんじろう・阿部あべ) 1823-86⁶⁴ 陸奥盛岡南部藩士、国学・歌に通ず、
[順二郎(;名)の/通称/号]幼名;文平、通称;武右衛門、号;月翁
- L2113 **潤次郎**(じゅんじろう・細川ほそかわ、名;元はじめ/習、清斎2男) 1834-1923⁹⁰ 土佐藩士;高知南新町住、
儒;家学、1854肥前長崎で洋学;石川良信・西慶太郎門/江戸で砲術;高島秋帆門、帰藩、
1858藩命で幕府海軍操練所入;航海術修学/英語;中浜万次郎門、1862藩校致道館蕃書教授、
藩政改革に参画、松岡毅軒に協力「海南政典」編纂、維新後;学校権判事/民部・工部省勤務、
米国留学後;印刷局長/枢密顧問官/貴族院副議長、古事類苑編纂総裁、1861「日光紀游」著、
「十洲全集」など著訳書多数、
[潤次郎(;通称)の幼名/号]幼名;熊太郎、号;十洲
- 順次郎(じゅんじろう・中神) → 守筋(もりとき・中神ながみ、幕臣/書編纂) F 4 4 9 0

- 順次郎(じゅんじろう・浅井)→ 奉政(とまさ・浅井/下田、幕臣/故実) Q 3 1 5 4
 順次郎(じゅんじろう・須賀)→ 亮斎(りょうさい・須賀すが、藩儒) H 4 9 6 0
 淳二郎(じゅんじろう・菅)→ 良弼(よしすけ・菅すが/菅原、藩士/歌人) N 4 7 4 3
 淳次郎(じゅんじろう・立花)→ 鑑寛(あきとも・立花、藩主/文筆) D 1 0 1 0
- Z2199 **春深**(しゅんしん;房号・道朝;法諱)?-1676 奈良の表野家出身/初め東寺入、
 高野山に入;西方院(聖方)17世、書家;大師流/絵師狩野探幽・松江藩山中通途ゆきみちの師、
 「使筆法秘伝」「書法極秘」著、扁額を多数制作、1676(延宝4)没
- K2100 **浚新[斎]**(しゅんしん[さい]・青地あおち・あおち、名;庸徳/礼幹のりもと、定政男)1675-174470 加賀藩士/儒臣、
 儒;羽黒養潜・室鳩巢門(兄兼山と同門)、歩頭/新番頭/小将組頭を歴任、忠愛ただよしの父、
 「可観小説」(;鳩巢の談話を筆録)、1711-25「以集堂秘書」/24「本藩譜略」28「百謡摘解」、
 「青地紀行」「浚新文集」「浚新秘策」「浚新斎手記」「浚新斎随筆」「浚新斎手記」、忠愛ただよしの父、
 [浚新斎の字/通称/別号]字;貞淑、通称;山十郎/源次郎/藤太夫、別号;仁智楼/麗沢
- 舜臣(しゅんしん・浅井)→ 舜臣(みつおみ・浅井、詩人) D 4 1 1 7
 舜臣(しゅんしん・高島)→ 秋帆(しゅうはん・高島たかしま、砲術家) I 2 1 2 2
 俊臣(しゅんしん・中川)→ 俊臣(としおみ・中川ながわ、陪臣/歌人) X 3 1 4 1
 俊臣(しゅんしん・野呂)→ 道庵(どうあん・野呂のろ、儒者) 3 1 9 4
 俊親(しゅんしん・坊城)→ 俊親(としちか・坊城ぼうじょう/藤原、廷臣) M 3 1 8 3
 俊親(しゅんしん・藤原)→ 宗親(むねちか・藤原ふじわら、廷臣/詩人) B 4 2 5 8
 俊信(しゅんしん・千家)→ 俊信(としざね・千家せんげ、国学者) M 3 1 5 6
 春辰(しゅんしん・殿村)→ 春辰(はるとき・殿村、天文家) G 3 6 5 6
 春臣(しゅんしん・能勢)→ 春臣(はるおみ・能勢のせ/源、磋工/歌人) K 3 6 5 4
 春信(しゅんしん)すべて→ 春信(はるのぶ)
 俊信(しゅんしん・菊川)→ 英山(えいざん・菊川さくかわ、絵師) 1 3 2 7
- M2135 **春人**(しゅんじん) ? - ? 江後期安藝広島本川の俳人、
 [花にさえさはらぬ風や燕子花](短冊)
- L2114 **順信**(じゅんしん;号、信海;法諱、俗名;大中臣信広、大中臣信親男)?-1250 父;鹿島神宮宮司、
 父が親鸞に帰依、その縁で親鸞門、真宗の常陸鹿島門徒の中心;教団の維持に尽力、
 「下野縁起」著
- a2121 **順眞**(じゅんしん;法諱、法師)?- ? 江前期;河内茨田郡の真宗大谷派光善寺僧、
 歌人;1688浅井忠能[難波捨草]5首入、葛岡宣慶家歌会に参加、
 [後の世をしらでやつみのふかきせに波のよるよる鶴舟さすらん](難波捨草;夏190)
- 02189 **純信**(じゅんしん;法諱、俗名;要、江淵要作男)1819-8869 土佐高岡郡戸波郷市野々村の生、
 9歳で上京;出家/帰国;五台山竹林寺脇坊住職、
 37歳の時;鍔掛屋の娘大野馬(17歳)と禁断の恋、1855(安政2)駆落;讃岐琴平の旅籠で捕縛、
 高知城下で面晒しの刑;国外追放/伊予宇摩郡川之江の川村亀吉の庇護下で寺子屋師匠、
 晩年;浮穴郡東川で慶翁徳念和尚(俗名;中田与吉)を名乗り結婚;1男1女を儲け69歳で没、
 一方でお馬は安田村の旅館に奉公;須崎へ追われ庄屋預り/大工寺崎米之助と結婚;
 子を出産;長男徳太郎が陸軍御用大工に就任;一家で東京へ;滝野川に移住;1903(66歳)没、
 のち浄瑠璃に脚色され[よさこい節]の歌詞となり喧伝
- 02190 **純信**(じゅんしん;法諱、号;霊峰)1821-9676 紀伊牟婁郡真宗本願寺派の金徳寺6世、国学者
- 盾臣(しゅんしん・木原)→ 藤園(とうえん・木原、国学者) B 3 1 5 3
 楯津(しゅんしん・富永)→ 芳久(よしひさ・富永とみなが、神職/国学者) G 4 7 3 2
 順眞(じゅんしん;字)→ 仁然(にんぜん;法諱・順眞、真言僧) G 3 3 6 2
 順信(じゅんしん→のぶあき・木下)→ 浄庵(じょうあん・木下きのした、儒者/詩人) Q 2 2 8 2
 順臣(じゅんしん・幸田)→ 草臣(くさおみ・幸田こうだ、国学/歌人) E 1 7 1 8
 純眞(じゅんしん・松橋)→ 江城(こうじょう・松橋/服部、藩士/詩) J 1 9 8 2
 純臣(じゅんしん・松平)→ 霍山(かくざん・松平まつだいら、藩士/儒詩) E 1 5 8 7
 淳信(じゅんしん・佐伯)→ 淳信(あつのぶ・佐伯さえき、神職/国学/歌) H 1 0 6 2
 浚新斎(しゅんしんさい)→ 浚新(しゅんしん・青地あおち、藩士/儒者) K 2 1 0 0
 潤身堂(じゅんしんどう)→ 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8

- 2159 **舜水**(しゅんすい・朱しゆ、名;之瑜、朱正[字;存之]男)1600-8283 浙江紹興余姚県儒者、代々明の廷臣、儒;朱永佑・張肯堂・吳鍾巒門、明朝再興に奔走;1659長崎に亡命;柳川藩儒安東省庵に仮寓、1665徳川光圀の招聘で江戸出府/水戸藩の賓師として厚遇、実学重視;水戸学の礎、独立性易・道亮澄市と親交、「通鑑提綱」「学宮凶艸」「性理提要」「貫珠拾遺」「扶桑史略」、「松雲公字振肅説」「水戸唐儒和説」「明朱徵君集」外著多数、光圀著「舜水先生文集」(遺文)、門弟;安東省庵・安積澹泊・今井魯齋・木下順庵・栗山潜鋒・山鹿素行など、
[舜水(;)の字/別号]字;魯璵ろよ/楚嶼そよ、諡号;文恭先生
- L2115 **春水**(しゅんすい・小山田おやまだ、名;吉明)1648-173285 陸中盛岡藩士;江戸藩邸詰の家老、儒者/俳人、相剣法;本阿弥光常門、病のため盛岡に帰る、「相剣録」「麻の杖」「詩話見聞録」、「宕山とうざん集」「応聯字類」著、
[春水(;)の通称/別号]通称;新助/新蔵、別号;宕山
- K2102 **春水**(初世しゅんすい・馬場ばば、名;政房)1663-174886 江戸の書家、董水(東水;2世春水)の父、馬場文耕の養父?、「詩歌消息集」書、「愚痴拾遺物語」「青池堂消息」「青池漫言」著、「往答要文」「馬場消息詞」著/「新古今集并徒然草一篇」書、
[春水(初世;)の通称/別号]通称;条助/官太夫、別号;青池堂/春海堂、法号;高隣院
- L2124 **春水**(しゅんすい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入
[鐘りを出す気を長刀ながなたに会積あひらひ](若みどり/会積は適当にあしらうこと)
- L2116 **春水**(しゅんすい・渋川しぶかわ、名;重恒じげつね/敬成ひろなり、入間川友之2男)1699-172729 陸前仙台藩士、天文学;遠藤衛久門・渋川敬尹門;1721渋川家の養子;26仙台藩天文方渋川家四代、1720「元資要辨」21「大和書訓」、「春海先生実記」「天文正教論」「日刻或問」著、則休(敬尹の長男)を養子とす、
[春水(;)の通称/別号]通称;市十郎/図書ぢよ、別号;黄白子、法号;紹白
- K2103 **春水**(しゅんすい・北村きたむら、名;季標、湖元の長男)1714-6855 国学者/歌人;1749家督を継嗣、家職の幕府歌学方を嗣;法印、「御狩記」、家集「森の下草」著、季春の養父
[春水(;)の通称/法号]通称;又五郎、法号;日解
- K2104 **春水**(しゅんすい・池川いけがわ)1739-177335 父は土佐藩士、国学;谷真潮門/1765江戸で医学を修学、安房和田村の駐在医に赴任/1766鹿島参詣/68富士登山、紀行作家:
1768「富士日記」/71「奥遊日記」著
- K2105 **春水**(しゅんすい・勝川かつかわ/画姓;勝宮川かつみやがわ)?-? 江中期江戸の絵師;宮川長春晩年の門、深川住/のち芳町住、宝暦明和1751-72頃活動の浮世絵師;肉筆美人画・絵本制作、初世勝川春章の師、1760「絵本武者軍鑑」61「絵本友千鳥」63「絵本武者通鑑」、1764「絵本万葉集」67「絵本金平武者」、「絵本妹背山」「元禄時代風俗画」外画多数、
[勝川春水(;)の通称] 藤四郎
- 2160 **春水**(しゅんすい・頼らい、惟清[亨翁こうおう]長男)1746-181671 母;道工仲子、安藝加茂郡竹原の儒者、塩谷鳳洲・平賀中南門、1764大阪に遊学/書;趙陶齋門/66詩;片山北海の混沌社入、家塾;尾藤二洲・古賀精里と程朱学を考究、1781広島藩儒に登用;藩の学制を改革、江戸で世子浅野斉賢の侍講/在府藩士の教育/昌平黌の講席、山陽の父、春風・杏坪の兄、3百石に累進、1770「負剣録」/1781-1815「春水日記」/1785「白鷗亭記」/1793「やしなひ草」、1797-「藝備孝義伝」(杏坪と共著;1844刊)/1810「在津紀事」、「霞崖野樵集」「竹原文集」、「春水掌録」「春水詩草」外著多数、「春水遺響」(;玄孫古樸編)、中井竹山・菅茶山と交流、
[春水(;)の名/字/通称/別号]名;青圭(;)初名)/惟寛/惟完ただひろ、字;伯栗/千秋、
通称;弥太郎、別号;霞崖/拙巢/和亭/青山荘
妻は飯岡義齋女の静子しずこ(号;梅颯ばい)

頼家系図





- L2117 **春水**(しゅんすい・玉川たまがわ)? - ? 江中期絵師;勝川春章風の美人画・役者絵・武者絵、小咄本挿画も描く、1780刊「大きに御世話」81「無陀物語」画
- 2161 **春水**(初世しゅんすい・為永、本姓;佐々木[鷓鴣]ささき、名;貞高、)1790-1843⁵⁴ 江戸町人;呉服商など、1818頃小資本で書肆青林堂経営、他方で戯作者;柳亭種彦・振鷺亭・式亭三馬に入門、また1818頃から講釈師として寄席に出座;為永正輔・金竜の名、滝亭鯉丈(楚満人)と姻戚、1829為永春水に改号;同年青林堂焼失;戯作者として独立;1832「春色梅児誉美」著;好評、自称[江戸人情本の元祖];第一人者となる、書肆の注文に応じ門人[為永連]による合作著、1832「吾妻の春雨」36「春告鳥」著、その外は為永連による合作;1826「藤枝恋情柵」、1836-41「いろは文庫」/41「春色湊の花」「春色袖之梅」、「処女七種むすめななくさ」外人情本多数、読本;1810・26「阿古義物語」、合巻;22「総角結紫総糸あげまきむすびゆかりのふさいと」、滑稽本;「玉櫛笥」著、1842天保改革;風俗素乱の咎で北町奉行所より手鎖50日の刑;翌年没、
[初世為永春水(;)の通称/別号]通称;越前屋長次郎、別号;三鷺(;)三馬門) 振鷺亭しんろてい2世、南仙笑楚満人そまひと2世、狂訓亭/教訓亭/嬌訓亭/嬌勲亭/人情翁、金竜亭主人/寿艸亭/鷓鴣しやうりやう齋/楽山樵夫/蓮池庵/恋痴庵/丸屋かく子(円屋賀久子)、講釈師号;為永正輔/為永金竜など、法号;釈竜音信士
- 2158 **春水**(2世しゅんすい・為永ためなが、本姓;染崎/名;延房、染崎広右衛門長男)1818-86⁶⁹ 対馬府中藩士、武蔵北豊島郡府中藩下屋敷に生/1828藩小姓役、人情本作者;1837頃初世為永春水門、仙東舎春笑を初号とし師の代作をする、1843師没遺族に勧められ春水2世を襲名、「春色初嘉須美」二編以後・「いろは文庫」五編以後など初世作品を継嗣し著作、1840-42「春宵月の梅」/1853-57「八犬伝後日譚」1855-83合巻「北雪美談時代加賀見」、1857-61「花曇朧夜草子」57-67「椿説鬼魅談語」66-「新局九尾伝」外著多数、
[春水(2世;号)の通称/別号]通称;八郎/久兵衛/又兵衛、別号;仙東舎春笑/狂仙亭春笑/為永春笑/戯墨堂/柳北釣人、法号;慈門院
- L2119 **春翠**(しゅんすい・河島かわしま、名;氏栄/氏章)1815-75⁶¹ 紀伊の漢学者、1850-52「壺簪吟社集」編、
[春翠(;)号)の字/通称/別号]字;士章、通称;覚輔/謙蔵、別号;五晴
- L2120 **春水**(しゅんすい・福井ふくい、名;潤)?-? 江後期江戸下谷三味線堀の本草家;薬品会主催、1830「佐岐久佐」33「掌中名物筈」、「春水採葉記」「春水漫筆」「異名攷」「救荒本草解」、「万葉集名物図説」「本朝産物志」「和漢本草名鑑」「和方上池秘録」「多識堂花圃記」外著多数、
[春水(;)号)の字/通称/別号]字;子広、通称;主水もんど/采女うねめ、別号;多識堂
- L2121 **春翠**(しゅんすい・四方よも/本姓;源、名;在延、四方鸞山男)1834-96⁶³ 京六角通柳馬場西入の書肆、廃業し銅版絵師となる、能書家、1858「西国卅三所霊場図会」59「文宝古状揃大成」著、1860「功德大宝海」画、「親鸞聖人御一生記絵抄」画、
[春翠(;)号)の字/通称/別号]字;義林/子善、通称;茂兵衛/茂平/茂萃、別号;翠松/黙山、屋号;平野屋/翠松園

春睡(しゅんすい)	→ 宗璠(そうはん;法諱・玉舟、臨濟僧)	I 2 5 7 4
春水(2世しゅんすい・馬場)	→ 董水(とうすい・馬場、書家)	F 3 1 7 3
春水(2世しゅんすい・為永)	→ 春笑(しゅんしょう・為永)	2 1 5 8
春水(しゅんすい・尾池)	→ 春水(はるみ・尾池おひけ、藩士/歌人)	G 3 6 9 0
春水(しゅんすい、俳名)	→ あやめ(芳沢、歌舞伎役者)	1 0 2 9
春水(しゅんすい・高井)	→ 立志(3世りゆうし・高井たかい、俳人)	E 4 9 3 5
春水(しゅんすい・山口)	→ 安固(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人)	G 4 5 9 5
春水(しゅんすい・谷)	→ 寛得(ひろのり・谷たに、儒者)	G 3 7 9 1
春水(しゅんすい・恩田)	→ 柳礪(りゅうかん・恩田おんだ、儒者/詩人)	D 4 9 2 8

- 春水(しゅんすい・幸庵) → 孝庵(3世こうあん・栗山くりやま、景範/藩医) Q 1 9 0 1
 春水(しゅんすい・加田) → 利春(としはる・加田かた、藩士/歌人) U 3 1 6 5
 春翠(しゅんすい・近松門三郎) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7
 俊粹(しゅんすい;号) → 淘空(とうくう;法諱・道嵩;字、浄土僧) C 3 1 9 3
 L2122 俊瑞(しゅんずい;法諱・実空;号)?-1841 浄土宗西山派僧;尾張正覚寺僧、
 1828西山派本山の禅林寺64世;在住10年、専求寺に没、「元矩大師和讃」「西山国師和讃」著
 K2106 順水(しゅんすい・奥林おくばやし)?- ? 江前期佐渡相川の俳人、1690言水「新撰都曲」2句入、
 [碑を誦ずして苔にしばしの涼み哉](新撰都曲;62)
 K2107 順水(しゅんすい・嶋しま、名;重幸/通称;孫右衛門)?-? 紀伊和歌山の富豪/俳人、言水・西吟に親炙、
 1690「誹諧破曉集」91「誹諧渡し船」94「誹諧童子教」編、
 西吟を紀州に招き雅友に因み;1695「誹諧茶辨当」編、1690言水「都曲」4句/1702「花見車」入、
 [今ひとつ咄はなし忘れて火鉢かな](新撰都曲;84)
 L2123 順永(しゅんえい;法諱/順水?・楚璞そはく;字) 1695-1772 78 佐渡相川の真宗大谷派永宮寺12世住職、
 佐渡河原田光福寺8世了運の弟、幼時に相川町の永宮寺に養育され養子;のち住職継嗣、
 15歳で上京;高倉学寮で宗学修学、宗乗修学;新潟の正福寺不退院の円策門/
 1715(21歳);師命で「聞香記」10巻著、詩文・歌・俳諧/書画を能くす、
 書家;京の寺井養拙・子明・臼井子中門;楷書行書に長ず、佐渡の[書の三松]の1、
 画;久隅胖幽・鶴沢探鯨門、俳諧;吾仲・里紅・蘆元坊門;[北陸の宗匠]の称、
 「誹諧後素集」「聞香記」「市之日集」「後草獺祭魚」「佐渡相川志」「南林雜録」「三教故事」著、
 1742「続市の日」48「源信法語要義抄」56「往生十因要話類苑」外著多数、1772(安永元)没、
 [順永(法諱)の号] 永宮寺松堂/離巢窟南林
 ☆佐渡の三松;永宮寺松堂・堀口松庵・中山松斎(千鶴ちづる)
 純水(しゅんすい・乾いぬい) → 桐谷(とうこく・乾いぬい、本草家) E 3 1 1 3
 順瑞(しゅんずい・谷川) → 士逸(こはや・谷川たにがわ、医/国学/歌) N 1 9 3 3
 春翠軒(しゅんすいけん・近松) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7
 K2108 春翠子(しゅんすいし・近松ちかまつ、平安狂言堂)?-? 江後期浄瑠璃作者;
 1842「浄瑠璃大系図」共編(竹本筆太夫と)/序
 春翠台(しゅんすいだい) → 芦涯(ろがい・大杏屋、俳人) 5 2 5 3
 春水妻(しゅんすいのつま・頼) → 静子(しずこ・頼らい、梅颯はいし、詩人) E 2 1 2 5
 春崧(しゅんすう→はるたか) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7
 順崇(しゅんすう→じゅんしゅう) → 順崇(じゅんしゅう;法諱、真宗大谷派僧) K 2 1 9 7
 俊助(しゅんすけ・堀口/尾高) → 高雅(たかまさ・尾高/堀口/小山、歌人) D 2 6 7 5
 俊助(しゅんすけ・石井) → 繩斎(じょうさい・石井/土屋、儒者/詩文) S 2 2 3 7
 俊助(しゅんすけ・花屋) → 木天(ぼくてん/もくてん・造化庵、俳人) D 3 9 7 7
 俊助(しゅんすけ・小野) → 剛(ごう・小野おの/鶴見、国学者) Q 1 9 4 4
 俊介(しゅんすけ・大道寺) → 忠(ただし・大道寺だどうじ、庄屋/歌人) P 2 6 5 4
 俊輔(しゅんすけ・横溝) → 藿里(かくり・横溝よこみぞ、儒者) K 1 5 5 7
 俊輔(しゅんすけ・塩谷) → 定得(さだのり・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 0 6 4
 舜弼(春助しゅんすけ・宮崎) → 古崖(こがい・宮崎みやざき/修姓;宮、儒者) F 1 9 4 8
 春輔(しゅんすけ・桜田) → 澹斎(たんさい・桜田さくらだ、儒/詩人) I 2 6 7 0
 春輔(しゅんすけ・戸塚) → 静海(せいかい・戸塚、蘭医/幕府奥医) H 2 4 7 0
 閏助(じゅんすけ・中村) → 阿契(あけい・中邑、浄瑠璃・歌舞伎作) 1 0 9 0
 潤輔(順助しゅんすけ・桜井) → 信影(のぶかげ・桜井さくらい、神職/国学者) I 3 5 6 5
 順助(しゅんすけ/よりすけ?・佐久間) → 東川(とうせん・佐久間、幕臣/儒/書家) G 3 1 1 4
 順助(しゅんすけ・百川) → 玉川(ぎよくせん・百川ももかわ、藩士/儒者) I 1 6 8 8
 順助(しゅんすけ・端) → 春荘(しゅんそう・端たん/はし、儒者/詩人) K 2 1 1 8
 順助(順輔しゅんすけ・岸) → 熊野(ゆうや・岸さし/崖、藩士/儒者) D 4 6 8 9
 順助(しゅんすけ・菊地) → 幽軒(ゆうけん・菊地きくち、儒者) B 4 6 4 5
 順助(順祐しゅんすけ・谷川) → 竜山(りゅうざん・谷川たにがわ、医者/易占) E 4 9 2 0

- 順助(じゅんすけ・砂川) → 由信(よしのぶ・砂川/物部、儒者) F 4 7 7 0
 順介(じゅんすけ・真田) → 幸専(ゆきたか・真田/井伊、藩主/歌人) 4 6 1 9
 順介(じゅんすけ・唐川) → 信存(のぶあり・唐川からかわ/安田、国学/歌) H 3 5 9 5
 順介(じゅんすけ・渡辺) → 定斎(じょうさい・渡辺/赤坂、藩士/儒者) J 2 2 1 0
 順介(じゅんすけ・河合) → 重教(しげのり・河合かわい、藩士/歌人) O 2 1 1 4
 準介(準助じゅんすけ・久世) → 安庭(やすわ・久世くぜ/深田/水原、歌) C 4 5 5 2
 準助(じゅんすけ・永井) → 怡広(つねひろ・永井ながい、商家/国学) G 2 9 0 9
 純輔(じゅんすけ・野村) → 素介(もとすけ・野村のむら/有地、藩士/政治/書) K 4 4 9 2
 恂介(じゅんすけ・結城) → 香崖(香厓こうがい・結城ゆうき、藩儒/詩) G 1 9 2 1
- K2109 **春誓**(しゅんせい;法諱、軒端肥前男)?-? 鎌倉期天台宗叡山の僧・法橋、歌人、
 1218-37寂蓮を継承し「新撰深窓集」撰(散佚/檜葉集詞書入/夫木抄に12首入)、
 「類聚題苑抄」著(散佚)、勅撰3首;続後撰(592)続拾遺(555)玉葉(2787)、
 [月影や法のりのとぼそをさしつらんしづかにたたく峰の松風](続後撰;釈教592)、
 (詞書;寂寞無人声 読誦此經典)
 [寂蓮法師のしはてずなりにける新撰深窓集えらびつぐよしきこえければ、
 素俊法師家集にそへて先祖二代の歌少々送りけるに書き添へてかへしける、
 たま《朽》れの深き窓にし書きとめつよよにいろそふ人のこよのは](檜葉;916)
- L2125 **春盛**(しゅんせい;法諱) ? - ? 1604存 周防山口の真言宗満願寺の僧、連歌作者、
 慶長六-九1601-4毛利輝元・秀就の連歌会参加(慶長九年八月十八日秀就春盛;山何百韻)
- K2110 **俊正**(しゅんせい) ? - ? 伊勢神宮の神官、
 連歌;1679「延宝千句」連衆;宗因らと
- L2126 **春青**(しゅんせい・勝川かつかわ)? - ? 江後期文化1804-18頃活動の絵師;勝川春英門?、
 滑稽本挿画制作、1811「己が声色」12「身振三十二相」画
 春清と同一説あり → 春清(しゅんせい・勝川、絵師) F 2 2 5 5
- L2127 **春清**(しゅんせい・勝川かつかわ) ? - ? 江後期文政1818-30頃活動の絵師:勝川春英門?、
 挿画「袖のうつり香」画
 春青と同一説あり → 春青(しゅんせい・勝川、絵師) F 2 2 5 4
- L2128 **春星**(しゅんせい・荒巻あらまき、通称;彦四郎)?-? 江後期天保1830-44頃豊後杵築の俳人、
 1843「ゆきあひしほ」編
- Z2147 **舜清**(しゅんせい;法諱・東条とうじょう、号;柳哉/柳翁) 1796-1876⁸¹ 武蔵大里郡の修験;円通寺12世、
 東条直記なおりの父
- 俊盛(しゅんせい、法師) → 俊盛(しゅんしょう、僧、歌人) J 2 1 9 0
 俊清(しゅんせい) すべて → 俊清(としきよ)
 俊声(駿声しゅんせい・河村) → 文鳳(ぶんぼう・河村かわむら、絵師) G 3 8 4 8
 俊正(しゅんせい/としまさ・県) → 宗知(そうち・県あがた、茶人) I 2 5 4 1
 俊正(しゅんせい・としまさ・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9
 俊性(しゅんせい・伊集院) → 俊性(としなり・伊集院いじゅういん、藩士/歌人) U 3 1 0 8
 俊誠(俊成しゅんせい・万波) → 醒廬(せいろう・万波まんなみ、藩士/儒/詩歌) D 2 4 2 2
 俊世(しゅんせい・万波) → 俊世(としよ・万波まんなみ、国学/歌人) W 3 1 5 1
 俊成(しゅんせい・藤原) → 俊成(としなり・藤原、歌学) 3 1 4 7
 舜政(しゅんせい・近藤) → 蘆陰(ろいん・近藤こんどう/藤、幕臣/漢学) 5 2 1 6
 春生(しゅんせい・荒木田) → 斎震(さいしん・荒木田/福島、神職/詩) G 2 0 7 8
 春正(しゅんせい・山本) → 春正(しゅんしょう・山本、蒔絵師/歌人) J 2 1 9 3
 春正(しゅんせい・徳江) → 春正(はるまさ・徳江とくえ/藤原、藩士/詩歌) K 3 6 4 7
 春星(しゅんせい・谷口/謝) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 春星(しゅんせい) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8
 春清(しゅんせい・井上) → 春清(はるきよ・井上、医/俳人) G 3 6 2 9
 春清(しゅんせい・福島) → 春清(はるきよ・福島、狂歌) I 3 6 9 3
 春清(しゅんせい・田端) → 春清(はるきよ・田端たばた、大庄屋/国学) K 3 6 3 4
 春成(しゅんせい・北川) → 春成(はるなり・北川、絵師) 3 6 6 5

- 春成(しゅんせい・森) → 春成(はるなり・森もり、藩士/日記) G 3 6 6 6
 春成(しゅんせい・太田喜) → 春成(はるなり・太田喜おおたき、歌人) J 3 6 4 8
 俊成(しゅんせい・藤原) → 俊成(としなり・藤原、歌学) 3 1 4 7
- C2147 順正(じゅんせい;通称・竹下たけした、号;晨省館)?-1829 甲州加茂の医者;辻守瓶門、江戸で晨省館を開く、「晨省丸如聖円効能書」
- P2153 順清(じゅんせい/よりきよ?・日下部くさかべ/本姓;藤原)?-1864 幕臣;御家人、小普請/奥右筆、詩歌人/書家、下谷広徳寺前に住、1798(寛政10)書道手本「御家おいえ詩歌帖」(往来物)書、填詞「夢香詞」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [須磨の浦のたく藻の煙それならで夜半にもゆるや螢なるらん]、
 (大江戸倭歌;夏582/浦螢)、
 [玉の緒のもろき例ためしにくらぶれば常なりけりな秋の夕露](同;雑2002/無常)、
 [順清(;名)の初名/通称/号]初名;定之、通称;権左衛門/鉄之助、
 号;夢香/梅龕/梅巖/梅堂/查軒
- ☆順故(じゅんこ/よりひさ?・歌人;大江戸倭歌集入)は息子?→順故(じゅんこ・日下部) P 2 1 5 6
- 順正(じゅんせい) → 順正(じゅんしょう;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 1 0 9
 順正(じゅんせい;剃髮号) → 経武(つねたけ・吉見よしみ、藩士/弓術家) C 2 9 3 9
 順正(じゅんせい・杉田) → 順正(よしまさ・杉田すぎた、故実・文筆家) J 4 7 7 5
 順正(じゅんせい・渋川) → 春海(しゅんかい・渋川/保井/安井、天文家) J 2 1 3 2
 順正(じゅんせい・大橋) → 得山(とくざん・大橋、藩士/記録) K 3 1 7 8
 順政(じゅんせい・市橋) → 順政(よしまさ・市橋いちばし、神職/歌人) L 4 7 5 8
 順誓(じゅんせい;法諱) → 暢道(ちやうどう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 8 5 4
 純正(順正じゅんせい・今井/長岡) → 懐山(かいざん・長岡ながおか、医者) I 1 5 6 6
 純正(じゅんせい・堀尾) → 純正(すみまさ・堀尾ほりお、歌人) X 2 1 9 3
 惇成(じゅんせい/あつなり・森脇/玉乃) → 九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者) I 1 6 7 0
 徇精(じゅんせい・帆足) → 長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学) D 3 2 1 0
 俊成卿女(しゅんせいきょうのむすめ) → 俊成卿女(としなりきょうのむすめ、俊成養女、歌) 3 1 4 5
 遵生軒(じゅんせいけん) → 帯刀(たてわき・三宅みやけ、国学者) G 2 6 2 9
 順正主人(じゅんせいしゅじん) → 涼庭(りやうてい・新宮しんぐう、蘭医) I 4 9 9 9
 諄精先生(じゅんせいせんせい;諡) → 達軒(たっけん・股野またの、儒儒/詩人) G 2 6 1 9
 春星台(しゅんせいたい) → 東臯(とうこう・高橋、商家/書家/俳人) D 3 1 8 3
 春星亭(しゅんせいてい) → 東臯(とうこう・高橋、俳人、書家) D 3 1 8 3
 春星堂(しゅんせいどう) → 鶯宿(おうしゆく・八木、俳人) 1 4 4 9
 俊成女(しゅんせいむすめ) → 俊成女(としなりのむすめ、建春門院中納言) 3 1 4 8
 順性房(じゅんせいぼう) → 高信(こうしん;法諱、順性房、華厳教学) B 1 9 4 3
 春積(しゅんせき;法諱) → 雪庭(せつてい・春積、曹洞僧) E 2 4 5 6
 春碩(しゅんせき・今) → 幹斎(かんだい・今こん、藩侍医/詩文) V 1 5 5 2
 順石(じゅんせき・服部) → 中英(なかひで・服部はつとり/宍戸、歌人) O 3 2 3 7
- K2111 春汐斎(しゅんせきさい・坂本さかもと)?-? 江中期絵師;大岡春卜門、春朝斎の師
 春夕子(しゅんせきし・井狩) → 友静(ゆうせい・井狩いかり、俳人) C 4 6 9 6
- K2112 春雪(しゅんせつ・謎解坊なぞときぼう、名;順三)?-? 江戸後期陸奥二本松の生/盲目の僧、江戸浅草奥山住、1814(文化11年)江戸の高座で即席の謎解き興行;大当たりし有名、1813-14石塚「豊芥子日記」・1814小川顛道「塵塚談」・三馬「落話中興来由」などに入
 春節(しゅんせつ・立野) → 春節(はるとき・立野、儒者) G 3 6 5 5
- L2128 順節(じゅんせつ) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
 [川狩かはがりや樗あふちの雲を踏みながら](都曲;上222/大樹の樗の花の影を踏み漁をす)
 順節(じゅんせつ・緒方) → 惟勝(いせい・緒方おがた、医者) O 1 9 2 3
 旬節(徇節/順節じゅんせつ・三宅) → 沃地(よくち・三宅みやけ/清原、儒者) B 4 7 7 4
- L2130 春船(しゅんせん) ? - ? 美濃の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- P2120 春川(しゅんせん・大岡おおおか/本姓;藤原、初姓;有元) 1719-7355 播磨小川の生/少年時大阪に出る、絵師;大岡春卜門;師の養嗣子、1764法橋、仙洞御所造営のとき障壁画制作、「草花式」画、

1737「絵本福寿草」画/59「蒔絵大全」著、

[春川(;)号)の名/通称/別号]名;甫政(すけまさ?)、通称;丹次、別号;芙蓉斎

K2113 春扇(しゅんせん・勝川かつかわ)? - ? 江後期(化政期)江戸の絵師;堤等琳3世門/勝川春英門、
麴町貝坂住/芝中門前町へ移住、文政3(1820)頃勝川春好を襲名、浮世絵風景画/合巻挿絵、
1820「女自来也」挿画/21合巻「哀也女刈萱」、錦絵;「江の島」「築地門跡」、「心学俗語」外多数、
[勝川春扇(;)号)の通称/別号]通称;清次郎、

号;勝川春琳/秋琳、勝川春好しゅんこう二世、登竜斎/可笑斎

妻;月光亭笑寿 → 笑寿(しょうじゅ・月光亭、戯作者) N 2 1 3 4

K2114 春川(しゅんせん・川合かわい/本姓;源/修姓;川、初姓;佐竹、医者川合龐眉ほうびの養嗣子)1750-182475、
美濃高須の生/1764川合龐眉の養子嗣、儒詩;竜草廬門、1780和歌山藩儒;藩の文学興隆、
文章家;三礼研究、1782「春川詩草」/86「梅花百絶」/1806「勢遊草」/15「儀礼釈宮図解」外多数、
[春川(;)号)の名/字/通称]名;孝衡/衡、字;襄平、通称;丈平/文、養子;大壑(だいがく)・梅所

養子 → 大壑(だいがく)・川合/喜多村、儒者) J 2 6 4 5

→ 梅所(ばいしょ)・川合/梅本、藩士/儒者) B 3 6 5 5

P2146 春川(しゅんせん・勝川かつかわ)? - ? 江中期安永1772-81頃絵師;初世勝川春文章門?、
黄表紙挿絵制作、1780「梅檀艸二葉の薫」画

L2131 春泉(しゅんせん・勝川かつかわ)? - ? 江中後期天明寛政1781-1801頃絵師;初世勝川春文章門、
細判役者絵・黄表紙嘶本の挿画制作、1780「いろは歌」88「うきよ草紙」89「高松政道譚」画、
1789「大千世界変人蔵」「唐のせいしうふ」/90「新作徳盛嘶」画、「はなしのいち」画

K2115 春泉(しゅんせん・為永ためなが、庭訓舎)?-? 人情本作者:為永春水門、

1842「春霄しゅんしやう月の梅」第三編著(初編;為永春鶯/二編;狂仙亭春笑/四/五編;春水)、

K2116 春泉(しゅんせん・春川はるか、号)?-? 江後期京の絵師;神屋蓬洲門、

「愛多図久誌」「絵本千丈嶽」/1848「風俗名婦伝」画

春撰(しゅんせん) → 春誓(しゅんせい、法橋、歌人) K 2 1 0 9

春川(しゅんせん) → 健庵(けんあん・高須たかす、医者) H 1 8 6 1

春川(しゅんせん・河上) → 忠晶(ただあき、河上、儒、黒住教布教) P 2 6 1 1

春川(しゅんせん・沢) → 宣嘉(のぶよし・沢さわ/姉小路、攘夷派) E 3 5 0 5

春宣(しゅんせん・小谷部) → 春宣(はるのぶ・小谷部おやべ/沢藤、国学) J 3 6 8 2

春仙(しゅんせん・岡村) → 丈白(じょうはく・岡村おかむら丈山、儒/詩) B 2 2 2 4

春泉(しゅんせん・荻野) → 朝匡(ともまさ・荻野おぎの/鈴木、藩士/歌) U 3 1 6 1

春泉(しゅんせん・篠野) → 一方(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩) H 1 1 9 2

濬川(しゅんせん・柿岡) → 林宗(りんそう・柿岡かきおか、儒者/教育) K 4 9 6 1

俊泉(しゅんせん;法諱) → 泉尊(せんそん;法諱、天台僧) M 2 4 8 6

俊宣(しゅんせん;初字) → 隆光(りゅうこう;法諱・栄春、真言大僧正) D 4 9 7 5

俊然(しゅんぜん) → 俊然(しゅんねん;法諱、真言僧) L 2 1 7 0

順宣(じゅんせん・横田) → 順宣(よりのぶ・横田よこた、書肆・尊攘) P 4 7 9 7

順善院(じゅんぜんいん) → 政子(まさこ・松平まつだいら/源、藩主室/歌) S 4 0 7 1

K2117 春泉斎(しゅんせんさい・竹原たけはら、春朝斎男)?-? 江後期寛政文化1789-1818頃の浮世絵師;父門、
風俗人物画・刻板の密画に長ず、1797「東海道名所図会」1801「百人一笑」画、
1803-09「二十四輩順拜図会」07「絵本浪華男」「遊女大学」/41「絵本百物語」47「嘶の種」画、
[竹原春泉斎(;)号)の本姓/別号]本姓;松本、別号;清秀

春扇窓静風(しゅんせんそうせいふう) → 信人(のぶひと・板垣いたがき、菱花園/商家・狂歌) H 3 5 3 8

春漸亭(しゅんぜんてい) → 梅富(ばいふ・春漸亭、俳人) B 3 6 9 8

春浜(しゅんそ・小島) → 尚真(なおざね・小島、医/儒) B 3 2 2 5

純素(じゅんそ・宇加井) → 純素(すみもと・宇加井うかい、国学/歌人) I 2 3 1 0

淳素(じゅんそ・桑名) → 淳素(あつもと・桑名くわな、国学者) H 1 0 4 7

J2186 俊宗(しゅんそう;法諱、藤原親信男)?-? 平安後期1120-26頃の僧;律師、法華八講等の講師、
歌人;1124無動寺歌合参加、今撰和歌集・続詞花集2首入集、千載集474、
[ひとゝせははかなき夢の心地して暮れぬるけふぞおどろかれぬる]、
(千載;冬474/歳暮、続詞花集;冬324)

- L2132 **春莊**(しゅんそう;道号・宗椿そうちん;法諱、号;蒙庵)1458-1512⁵⁵ 臨濟僧;建仁寺の東明宗晰門;法嗣、天隱竜沢門;外学を修学、1508赤松氏の招請で播磨宝林寺住持、1512建仁寺大竜庵同雲軒住;没、月舟寿桂と親交、「蒙菴百首」著
- K2118 **春莊**(しゅんそう・端たん/はし、名;隆)1732-1790⁵⁹ 近江神崎郡相谷の儒者;京の清田儋叟門、京で講学/詩人、六如りくによの友、1788火災により零落困窮;没、1784「春莊賞韻」著、1787六如「葛原詩話前篇」編、「春莊遺稿」(1801刊)、[春莊(;号)の字/通称/法号]字;文仲、通称;順助、法号;善了院
- L2133 **春莊**(しゅんそう・上田うえだ、名;実道、金作男)1784-1873⁹⁰ 代々豊前宇佐の里正、新田開発に功績、苗字を許可、櫛の栽培研究・改良に尽力、「櫛育口伝試百ヶ条」
[春莊(;号)の通称] 俊蔵
- | | | | |
|----------------|---|-----------------------|-----------|
| 俊宗(しゅんそう) | → | 俊宗(しゅんしゅう、律師、歌人) | J 2 1 8 6 |
| 俊宗(しゅんそう・綾小路) | → | 俊宗(としむね・綾小路あやのこうじ、廷臣) | N 3 1 8 6 |
| 俊叟(しゅんそう・寺島) | → | 天祐(てんゆう・寺島たらしま、儒者) | E 3 0 4 4 |
| 春宗(しゅんそう・矢田) | → | 秋世(あきつぐ・矢田やだ/源、神職/国学) | I 1 0 5 8 |
| 春湊(しゅんそう) | → | 良基(よしもと・二条、摂政関白/連歌) | 4 7 2 9 |
| 春草(しゅんそう・頼) | → | 杏平(きょうへい・頼、儒/郷土史) | 1 6 3 8 |
| 春草(しゅんそう・後藤) | → | 松陰(しょういん・後藤、詩人) | L 2 1 2 0 |
| 春草(しゅんそう・後藤) | → | 松陰(しょういん・後藤ごとう、儒者/詩人) | F 2 2 2 0 |
| 春草(しゅんそう・日野) | → | 成範(しげのり・寺村、藩士/国学) | S 2 1 1 9 |
| 春草(しゅんそう・興野) | → | 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) | L 3 2 5 1 |
| 春叟(しゅんそう・田/田中) | → | 桐江(とうこう・田中/田、儒者/詩人) | D 3 1 7 2 |
| 春叟(しゅんそう・松川) | → | 東山(とうざん・松川、儒者/詩人) | E 3 1 5 5 |
| 春莊(しゅんそう・向井) | → | 安長(やすなが・向井むかい、大庄屋/国学) | G 4 5 8 6 |
| 春窓(しゅんそう) | → | 清春(きよはる・菱川、絵師) | Q 1 6 1 7 |
| 春牕(しゅんそう・牧) | → | 義道(よしみち・牧まき、幕臣) | H 4 7 4 7 |
| 春叢(しゅんそう・島津) | → | 斉彬(なりあきら・島津しまう、藩主) | H 3 2 0 5 |
| 春叢(しゅんそう・服部) | → | 保常(やすつね・服部はっとり、国学者/歌) | G 4 5 4 1 |
- L2134 **俊蔵**(しゅんぞう;通称・青島あおしま、名;軌起/政教)1751-90^{獄死40} 幕臣;勘定奉行松本秀持家臣、経済;平賀源内門、1785主命で最上徳内らと蝦夷地調査、1789国後騒乱究明のため再派遣、騒乱後の処分について松前家に助言したことが発覚;投獄中に没、1783「光被録」86「蝦夷拾遺」88「蝦夷国処置之記」、「蝦夷地風説書上」著
- L2135 **春造**(2世しゅんぞう・小原おはら、峯山とうざん男)1801-77⁷⁷ 阿波徳島藩医;家学を受け医師学問所教授、父の未完著「阿淡産志」編纂を継承するが完成に至らず息子栄造に託す、[2世春造(;通称)の初通称]右次郎
- | | | | |
|----------------|---|--------------------------|-----------|
| 春三(しゅんぞう・千手) | → | 旭山(ぎょくざん・千手せんじゅ、藩士/儒者) | O 1 6 9 7 |
| 春三(しゅんぞう・柳河) | → | 春三(しゅんざん・柳河/西村/栗本、洋学者) | K 2 1 2 1 |
| 春蔵(俊蔵しゅんぞう・後藤) | → | 松陰(しょういん・後藤ごとう、儒者/詩人) | F 2 2 2 0 |
| 春蔵(しゅんぞう・並木) | → | 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) | 4 1 3 0 |
| 春蔵(しゅんぞう・大崎) | → | 重樹(しげき・大崎おおさき、藩士/国学/歌) | N 2 1 7 5 |
| 春造(しゅんぞう・沢/小原) | → | 峯山(とうざん・小原おはら、医/本草家) | E 3 1 6 0 |
| 俊三(しゅんぞう・市島) | → | 巖(いわお・泉いずみ/市島、歌人) | J 1 1 9 3 |
| 俊三(しゅんぞう・坂上) | → | 義逸(よしはや・坂上さかがみ、医者/歌人) | N 4 7 1 8 |
| 俊蔵(しゅんぞう・吉雄) | → | 南阜(なんこう・吉雄よしお、蘭学、蘭方医) | I 3 2 9 6 |
| 峻蔵(しゅんぞう・森) | → | 退堂(たいどう・森もり、藩儒/詩文) | K 2 6 7 7 |
| 峻蔵(しゅんぞう・山県) | → | 信任(のぶとう・山県やまがた、藩士/国学者) | K 3 5 2 5 |
| 駿蔵(しゅんぞう・木村) | → | 定良(さだよし・木村/藤原、幕臣/歌人) | C 2 0 6 5 |
| 駿蔵(しゅんぞう・石野) | → | 樵水(しょうすい・石野いしの、藩儒者) | T 2 2 6 7 |
- K2119 **馴窓**(じゅんそう;法名、俗名;源貞範、号;衲叟)?-? 1514^存 戦国期関東の武将、木戸孝範と交流/歌人、晩年は下総佐倉に出家隠棲、1514撰集「雲玉和歌抄」編(関東歌壇の様相/正徹・常縁・心敬・道灌・孝範などの逸話入)

- L2137 **筭莊**(じゆんそう・江馬えま、名;元義、藤渠[春齡4世]男)1826-7449 美濃大垣の医者;父藤渠(;藩医)門、蘭学;坪井信道・広瀬元恭門/1849緒方洪庵の適塾入門、1861家督継嗣;大垣藩医、1842「療治口訣附録薬方」編、「筭莊所集方彙」著、
[筭莊(;号)の字/通称]字;信成、通称;千次郎/春齡5世
潤宗(じゆんそう→じゆんしゅう)→ 潤宗(じゆんしゅう;道号・寂雲、曹洞宗) K 2 1 9 6
順崇(じゆんそう・自適) → 順崇(じゆんしゅう・自適、真宗大谷派僧) F 2 2 2 8
純叟(じゆんそう;字) → 道粹(どうすい;法諱、真宗本願寺派僧) F 3 1 8 3
筭莊(じゆんそう・向井) → 安長(やすなが・向井むかい、大庄屋/国学) G 4 5 8 6
- L2138 **順蔵**(じゆんぞう;名・清水しみず、号;東泉)?-? 江後期武州品川の本草家、歌人、1804「同契纂異」編、「東泉本草」校
- L2139 **順三**(順蔵じゆんぞう・美馬みま、名;茂親、与左衛門茂則2男)1795-182531 阿波那賀郡岩脇村の生、1818頃上京/医学を修学/肥前長崎の阿蘭陀通詞中山武徳宅に寄寓、中国語;通事周壯三郎門/蘭語:吉雄如淵門/天文学;末次忠助門/出島の蘭館に出入し研鑽、1823シーボルト門、鳴滝塾の教師/塾頭、漢学・植物学にも通ず、コレラに罹り長崎に没、賀川玄悦「賀川産論」・石坂宗哲「鍼灸知要一言」を蘭訳し海外に紹介、「シーボルト書簡翻訳」「牛痘接法」「灸法略説」訳、「種痘辨議」・1824-25「日本古代史」著、
[順三(;通称)の号] 如柳、法号;密山即順居士
- 2168 **順蔵**(じゆんぞう・児玉こだま、名;順/千春ちほる、泰順3男)1806-6156 母;佐久間良明女、備前岡山医者;父門、父は岡山藩家老伊木家の侍医/1811家督嗣、医;赤穂藩儒神吉東郭門、1822脱藩;長崎へ;シーボルト門/1829頃帰郷;備中矢田村で開業/34旧主伊木長門に招聘;侍医、1858致仕、大阪で医開業/緒方洪庵と交流、歌;1538香川景樹門、茶事も嗜む、1839「外科原式」訳/59「玉海摺要」60「公氏医宗玉海」訳、「三角函数表」「直線三角算法」「曆象新書図巻」著、
[順蔵(;通称)の字/号]字;峰夫、号;在中/居中庵/水竹居/慥慥齋、
法号;居中庵庸心寿徳居士
- L2136 **淳三**(じゆんぞう、津田つた、初名;淳、字;正秋、長屋権作男)1824-7956 加賀金沢医者;津田昌溪の養嗣、大阪の緒方洪庵適塾で修学;塾頭、帰郷し金沢藩医;壮猶館翻訳方を兼務、1855私設の種痘所開設/卯辰山養生所棟取/藩医学館教師、廃藩後私費で医学館を維持、1858「脈論」訳
- 02148 **純造**(じゆんぞう・郷ごう、清三郎政方3男)1825-191086 美濃方県郡黒野村の農家、幼少より学問優れ農業は免除される/漢学;郷実善さねよし(余斎)門、剣術;大垣藩直轄道場の下鶴飼の大野理忠門;1844免許皆伝、1845(弘化元)江戸へ;純造名、大垣藩主戸田采女正の用人正木喜左衛門若党の草履取、江戸町奉行牧義制の長崎奉行赴任に給人格で随行/1851長崎奉行所でジョン万次郎取調、寛大な処置で故郷土佐へ帰す、1852「オランダ別段風説書」でペリー来航予知;老中に報告、1861-65大阪町奉行鳥居越前守と松平勘太郎の家老を務める/1866家老を致仕、江戸で御家人園弥平の株を譲り受る;幕臣となり江戸城無血開城に寄与
錦鶏間祇候きんけいのましこう(華族・官吏の特別功労者/錦鶏の間で天皇に奉答)、
[純造(;名)の通称/号]通称;嘉助/策一さくいち、号;五三居士/松石山房
順蔵(じゆんぞう・高浜) → 亀山(きざん・高浜たかはま、儒者/詩) K 1 6 5 8
順蔵(じゆんぞう・小田) → 南畷(なんがい・小田おだ、藩士/儒者) I 3 2 7 1
順蔵(じゆんぞう・内藤) → 景文(かげふみ・内藤ないとう、藩士/儒者) L 1 5 3 0
順蔵(じゆんぞう・田沼) → 乾山(けんざん・横田/本姓高津、儒者) E 1 8 8 6
順蔵(じゆんぞう・酒井) → 貞輝(さだてる・酒井さかい、藩士/地誌家) I 2 0 7 2
順蔵(じゆんぞう・神野) → 世猷(せいゆう・神野じんの/服部、藩士/儒) J 2 4 6 6
順蔵(じゆんぞう・片山) → 鳳翩(ほうへん・片山かたやま、藩儒者) C 3 9 5 0
順蔵(じゆんぞう・上田) → 公長(こうちやう・上田、紀伊国屋/絵師) K 1 9 6 5
順蔵(じゆんぞう・清水/大橋) → 訥庵(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩) O 3 1 4 1
順蔵(じゆんぞう・真野) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7
順蔵(じゆんぞう・奥) → 文鳴(ぶんめい・奥おく、絵師) G 3 8 5 1

順蔵(じゅんぞう・柴田) → 是真(ぜじん・柴田しばた、絵師/漆芸家) D 2 4 9 9
 順造(じゅんぞう・加藤) → 達(すずむ・加藤かとう、藩士; 医者/歌) I 2 3 2 5
 順造(じゅんぞう・塩田) → 貞嗣(さだつぐ・塩田しおだ、医者/国学) O 2 0 6 2
 淳蔵(じゅんぞう・森) → 高樹(たかしげ・森もり/橘/露木、国学者) Z 2 6 9 9
 純蔵(じゅんぞう・芳野) → 復堂(ふくどう・芳野よしの、儒者) B 3 8 6 2
 純蔵(じゅんぞう・亀田) → 鶴山(かくざん・亀田かめだ、商人/詩人) J 1 5 9 2
 純蔵(初世じゅんぞう・市川) → 幸四郎(五世こうしろう・松本、歌舞伎役者/合巻) B 1 9 4 1
 純蔵(じゅんぞう・大石) → 鳳蕉(ほうしょう・大石、儒者/和算家) B 3 9 7 3
 循蔵(2世じゅんぞう・泉川) → 一斎(いっさい・井筒いつづ、歌舞伎役/作者) C 1 1 7 9
 準蔵(じゅんぞう・縄/三縄) → 桂林(けいりん・三縄みなわ/縄じょう、儒/詩) E 1 8 9 4
 準造(じゅんぞう・西島) → 柳谷(りゅうこく・西島/西嶋、儒; 講説) D 4 9 9 4
 潤蔵(じゅんぞう・林/新井) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2
 潤蔵(じゅんぞう・村沢) → 徳成(のりなり・村澤むらさわ、藩士/歌人) K 3 5 1 4
 春草庵(しゅんそうあん) → 一枝(いっし・春草庵、華道) H 1 1 2 6
 春窓翁(しゅんそうおう) → 一蜂(初世いっぽう・英はなぶさ、絵師) H 1 1 8 7
 春草舎(しゅんそうしゃ) → 青雨(せいう・若狭屋、俳人) 2 4 6 2
 春草堂(しゅんそうどう) → 杏坪(きょうへい・頼、儒者) 1 6 3 8
 春草堂(しゅんそうどう) → 錦城(きんじょう・大田、儒者/詩文) 1 6 6 2
 春草堂(しゅんそうどう) → 三蔵(さんぞう・難波、浄・歌舞伎作者) G 2 0 0 0
 春草堂(しゅんそうどう) → 矩州(くしゅう・那須/伊東/椎本、俳人) 1 7 4 8
 春足(しゅんそく・遠藤) → 春足(はるたり・遠藤、商家/狂歌作者) G 3 6 5 1
 俊則(しゅんそく・栗屋) → 俊則(としのり・栗屋あわや、藩士/歌人) U 3 1 0 3

P2154 順則(しゅんそく・程てい、名護親方なごうえかた寵文ちようぶん、泰祚たいそ男) 1663-1734? 琉球三司官、
 1697以後入清5回、詩、「中山詩文集」編(「雪堂燕遊草」「雪堂紀栄詩」など)、「雪堂雑俎」、
 1706「指南広義」「六論衍義りくゆえんぎ」; 私費板刻
 参考; 「中山詩文集」所収の主な詩人;

曾益そうえき/蔡鐸さいたく/徐葆光じよほこう/陳元輔ちんげんぼ/程搏万ていせんばん/周新命しゅうしんめい

順則(しゅんそく・赤星) → 順則(よりのり・赤星あかばし、医者/歌人) L 4 7 1 2

K2124 俊孫(しゅんそん; 法諱) ? - ? 鎌倉期僧: 歌人・

1218道助法親王家五十首和歌参加、

[春たつとたれみよしのかぎりけんその山となきけさの霞を](親王家歌; 22)

春村(しゅんそん・小西) → 春村(はるむら・小西こにし/本居、国学者) K 3 6 1 7

春村(しゅんそん) → 春村(はるむら・黒川、国学・狂歌) 3 6 3 8

春村(しゅんそん・津田) → 東巖(とうがん・津田、藩士/儒者) C 3 1 3 4

春村(しゅんそん・香川) → 景嗣(かげつぐ・香川、歌人) E 1 5 9 7

春邨(しゅんそん・宇陀) → 春邨(はるむら・宇陀うだ、国学/勤王) J 3 6 7 5

准尊(じゅんそん; 号) → 照玄(しょうげん; 法諱、准尊、真宗僧) I 2 2 5 4

春村桑者(しゅんそんそうしゃ) → 豊信(とよしげ・山内、容堂藩主/詩歌) R 3 1 1 8

L2141 隼太(しゅんた・臼井うすい) ? - 1828 武芸者: 宝蔵院鎌術師範、歌人; 三輪表秀あきひで門、
 「臼井集」著、

[隼太(通称)の号]号; 貞州ていしゅう、法号; 教善院義勇

春太(しゅんた・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学者/歌) 4 4 3 5

駿太(しゅんた・平川) → 清古(きよひさ・平川/田中、藩儒/歌) V 1 6 0 7

順太(じゅんた・内藤) → 昌盈(まさみつ・内藤ないとう、藩士/随筆) H 4 0 6 6

L2142 峻諦(しゅんたい; 法諱・別法諱; 寂清、僧; 良秀男) 1664-1721? 越前福井真宗本願寺派本覚寺の生、
 1673越前三国勝授寺入/上京; 知空門/宗学を修学; 師知空もその学徳を讃える、
 勝授寺住職、1688光常の命で「紫柏語録」に訓点、1688「祖徳頌」「阿弥陀経疏記引文」著、
 1691「浄土真宗名目図」1702「無量寿経会疏」1713「北窓偶談」、「峻諦詩稿」外著多数

春岱(しゅんたい・成川) → 眞棹(まさお・成川なるかわ、医者/歌人) R 4 0 3 0

L2143 春台(しゅんたい・久城くじょう/修姓; 城、法橋久城宗立男) 1640-1715? 尾張愛智郡の医者、

肥後熊本の加藤清正に出仕/妻;清正臣森本儀太夫女、加藤忠広の封失により江戸へ、出雲松江藩主松平直政に登用され出仕;侍医、1714禄3百石、名医として松平家4代に出仕、詩人/能書、晩年致仕;出雲法吉村雪吹山麓に隠棲、門弟田代泰安を養嗣子、「木平詩巻」「甫里十勝詩」「木平詩巻」著、「春台遺稿」、
[春台(;)号]の別号 木平/榎山ばいざん、法号;靈洞春台庵主

- 2162 **春台**(しゅんだい・太宰ださい/本姓;平手、名;純、太宰言辰男) 1680-1747 68 信州飯田の生;
飯田藩士の父が浪人したため江戸住;1694但馬出石藩に出仕;小姓頭/1700無断外出;
十年間他家への出仕禁止処分、京大阪を放浪/儒・1711荻生徂徠門/1711下総生実藩出仕、
1715致仕/子弟教育;諸侯の扶持を受/徂徠門経世派筆頭と称さる、博学広識、琴曲に長ず、
門人;稲垣白崑はくがん・松崎観海・渡辺蒙庵・大幸清方ら、1739「論語古訓」41「論語古訓外伝」、
「標箋孔子家語」(註釈)、「近代詩韻」「乱婚伝」「紫芝園漫筆」「紫芝園稿」「律呂通考」「易説」、
「倭楷正訛」「老子特解」「春台詩鈔」「春台文抄」「春台漫筆」「春台尺牘」/1744「斥非」外著多、
[春台(;)号]の字/通称/別号]字;徳夫、通称;千之助/弥右衛門、別号;紫芝園、定保の養父
- L2144 **春台**(しゅんだい・松田まつだ、名;知足) 1754-1822 69 伯耆米子の代々医者;鳥取藩医吉岡恕翁・仁庵門、
1797因幡鳥取新田藩主池田仲雅の侍医、晩年湖山池畔に知足院を建築、箏曲に遊ぶ、
「松田知足備忘録」、1821「箏曲復古抄」、
[春台(;)字]の号] 号;青雲堂、法号;知足院
- 舜台(しゅんだい・清水) → 謙山(けんざん・清水しみず、医者/心学) J 1 8 2 2
駿台(しゅんだい/すんだい) → 鳩巢(きゅうそう・室むろ、幕臣/儒者) 1 6 2 8
駿台(しゅんだい・中川) → 忠英(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆) F 2 6 3 4
駿台(しゅんだい・端山) → 凶南(となん・端山はやま、書家) O 3 1 6 0
- L2145 **順泰**(じゅんたい・東海林しょうじ、名;正明) 1755-1816 62 羽後秋田の医者;1800医学頭、
1795「傷寒論集覽」著、
[順泰(;)通称]の字/号]字;大明、号;泰明
- 順泰(じゅんたい・西山) → 西山(せいざん・西山/西/阿比留、儒者) B 2 4 7 4
- L2146 **順台**(しゅんだい・中野なかの、名;淳泰、杏順男) 1739-95 57 岩代二本松の医者;藩医父杏順門(家学)、
後藤良山・山脇東洋の説を折衷し古医方を研究、詩;服部南郭門、
「証治拔華」「経方薬考」著、元興の父、
[順台(;)通称]の字/号]字;公和、号;愚洲、法号;竜雲院
- 諄大(じゅんだい・山本) → 簡斎(かんさい・山本/館たち、医者/本草) Q 1 5 7 0
順台(しゅんだい・岡本) → 況斎(きょうさい・岡本、儒/国学者) I 1 6 7 9
春台院(しゅんだいいん) → 冬嶺(とうりょう・村上むらかみ、医者/詩人) I 3 1 4 4
春岱子(しゅんたいし) → 天老(てんろう・小見山こみやま、医者/俳人) E 3 0 6 2
- L2147 **春澤**(しゅんたく;道号・宗晃そうこう;法諱、号;竜門老人) 1613-94 82 近江の臨濟僧;玉舟宗璠門/法嗣、
1662大徳寺201世、67江戸品川東海寺輪番、「沢庵和尚詩歌集」編
- 春沢(しゅんたく・永恩) → 永恩(えいおん;法諱・春澤;道号、臨濟僧) 1 3 1 6
春沢(しゅんたく・鳥居) → 興治(おきはる・鳥居/鳥井、藩士/神道) C 1 4 9 5
春琢(しゅんたく・江馬) → 蘭斎(らんさい・江馬えま/鷺見、蘭医者) C 4 8 1 8
俊宅(しゅんたく・喜多村) → 鼎(かなえ・喜多村きたむら、藩士/医者) O 1 5 2 5
峻沢(しゅんたく・奈良) → 一徳斎(いっとくさい・奈良なら、医者/書) H 1 1 7 3
順琢(しゅんたく・佐治) → 洞木(どうぼく・佐治、医/俳人) H 3 1 2 2
純沢(じゅんたく・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
俊達(しゅんたく;字) → 日巖(にちがん;法諱、立行院、日蓮僧) C 3 3 0 0
俊達(しゅんたく・清水) → 謙山(けんざん・清水しみず、医者/心学) J 1 8 2 2
春達(しゅんたく・肥田) → 為秋(ためあき・肥田ひだ、医者/神職) Z 2 6 1 8
- 02192 **順達**(しゅんたく;法諱、) 1742-1801 60 遠江目付宿の時宗西光寺住職、
国学;内山真竜(遠江国学の祖)門
- 純達(しゅんたく・小西) → 澹斎(たんさい・小西、藩士/儒者/地誌) I 2 6 1 8
順太夫(しゅんだゆう・松原) → 正名(まさな・松原/源、藩士/詩/随筆) E 4 0 9 2
俊太郎(駿太郎しゅんたろう・野呂) → 道庵(どうあん・野呂のろ、儒者) 3 1 9 4

- 俊太郎(しゅんたろう・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1
俊太郎(しゅんたろう・古山) → 千丈(ちたけ・古山こやま、藩士/国学/歌) M 2 8 4 9
俊太郎(しゅんたろう・高橋) → 篤敬(あつたか・高橋たかはし、代官/国学者) H 1 0 9 4
俊太郎(しゅんたろう・古高) → 正順(まさのぶ/まさより・古高/枅屋、商家/尊攘) S 4 0 3 7
純太郎(じゅんたろう・菊池) → 三溪(さんけい・菊池、幕府儒官/随筆) 2 0 5 0
順太郎(じゅんたろう・天野) → 重国(しげくに・天野あまの、歌人) N 2 1 2 0
春潭(しゅんたん・荒木) → 千洲(せんしゅう・荒木あらし、鑑定家) M 2 4 4 6
春潭(しゅんたん・桜部) → 大梁(だいらょう・桜部さくらべ、真宗僧/国学) X 2 6 3 9
春潭(しゅんたん・米内) → 眞豊(まさとよ・米内よねうち/高橋、陪臣/国学) T 4 0 7 5
春池(しゅんち・穎川) → 雅之(まさゆき・穎川えがわ/葉、通事) I 4 0 3 3
春竹(しゅんちく・佐藤) → 竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者) C 2 8 6 2
- L2148 **春仲**(しゅんちゅう・名取なとり)? - ? 江後期陸奥岩手山天文家;名取春山門、
1801「天文活道或問」09「竜雷伝」34「半昼夜分草」、「西洋曆術朔望食」、「五十音説」
循仲(じゅんちゅう・草加くさか) → 白根(しらね・一文字、武士/狂歌作者) D 2 2 1 8
順仲(じゅんちゅう・五辻) → 順仲(よりなか・五辻いつつじ/源、廷臣) J 4 7 2 8
惇忠(じゅんちゅう・尾高) → 藍香(らんこう・尾高おだか、里正/勤王家) C 4 8 0 7
- M2121 **春澄**(しゅんちよう) ? - ? 京の俳人、1729隆志「俳諧草結」入(210)
1685風瀑「一樓賦」入、青木春澄はるずみの息子か?、
[上方の時雨ごゝろや富士見牖まど](草結;210/富士見牖は茶室の窓;悲しい気持になる)
- K2129 **春帳**(しゅんちよう・西向庵さいこうあん、愚洞)?-? 江中期読本作者:含蓮社、
1749「菴萱道心行状記」51「隅田河鏡池伝」66「復讐奇談」81「梅若丸一生記」
- K2125 **春潮**(しゅんちよう・勝川かつかわ)?- ? 1821存 江戸の絵師;初世勝川春章門、錦絵師;美人画多数、
黄表紙・絵入狂歌本・斬本挿絵制作、文化1804-18頃吉左堂俊朝と改姓;狂歌・狂文を残す、
馬喰町日本橋大工町住/瀬戸物町に転住、1783「拳角力」/84「頭てん天口有」「能魂胆気」画、
1789「御覧男女姿」90「初霞」「絵本栄家種」/98「落嘶無事志有意」1800「会本阿満男婦寐」画、
「男女校合之糸」「絵本東わらい」「絵本連理枝」「子宝艸」「こんたんき」「ひめはじめ」外面多、
[勝川春潮(;号)の通称/別号]通称;吉左衛門、
別号;紫園/雄芝堂/東紫園/中林舎/三江/吉左堂俊朝
- K2126 **春朝**(春潮しゅんちよう・吉川きつかわ、名;祐敏)?-1807 俳人五明の嗣子、秋田の茶紙業;1778継嗣、
俳人;1804養父遺句集「佳気悲南多かげひなか」編、
[春朝(;号)の通称/別号]通称;伊右衛門、別号;夜々庵よよあん
- K2127 **春蝶**(しゅんちよう・為永ためなが、別号;狂華亭)?-? 江後期尾張一宮の人情本作者:初世為永春水門、
師作品の校正・校合、1830?「婦女八景」著、38「黄金菊」第3編補、春水「春色初嘉須美」代作?
春朝(しゅんちよう、左金吾) → 春朝(はるとも・北条、早歌)
春長(しゅんちよう・和田) → 春長(はるなが・和田わだ、医者/国学/歌) K 3 6 9 8
春澄(しゅんちよう) → 春澄(はるずみ・青木、俳人) G 3 6 4 7
春潮(しゅんちよう:字) → 懐英(かいえい;法諱・春潮、真言僧) E 1 5 5 3
春潮(しゅんちよう・秋山) → 弘通(ひろみち・秋山あきやま、藩儒) H 3 7 3 0
春潮(しゅんちよう・高野) → 立斎(りつさい・高野たかの、藩士/天文家) B 4 9 8 5
春潮(しゅんちよう) → 荻人(てきじん・藤下斎、俳人) C 3 0 0 0
春潮(しゅんちよう) → 弘道(ひろみち・秋山、儒者) H 3 7 3 0
春潮(しゅんちよう・森) → 信好(のぶよし・森もり、藍玉商/国学者) K 3 5 1 7
俊長(しゅんちよう・紀) → 俊長(としなが・紀き、神職/歌人) N 3 1 1 5
俊朝(しゅんちよう・吉左堂) → 春潮(しゅんちよう・勝川かつかわ、絵師/狂歌) K 2 1 2 5
俊昶(しゅんちよう;法諱) → 甫天(ほとん;道号・俊昶、曹洞僧) E 3 9 7 3
- Y2176 **順徴**(じゅんちよう;法諱) ? - ? 江後期;僧/歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[柴の戸にをりをり来鳴く鳥の音も同じうき世やそむきはてけん]、
(大江戸倭歌;雑1710/閑居鳥)
純長(じゅんちよう・大村) → 純長(すみなが・大村おむら/伊丹、藩主) D 2 3 9 4

- 順長(じゅんちやう・菅) → 順長(よりなが・菅すが、藩士/国学者) N 4 7 4 4
 春長軒(しゅんちやうげん) → 貞勝(さだかつ・村井/源、武将/連歌) I 2 0 0 4
 春澄軒(しゅんちやうげん) → 春澄(はるすみ・青木あおき、俳人) G 3 6 4 7
- L2149 吮潮齋(しゅんちやうさい、諸星もろほし/初姓;福田ふくだ、福田頼堅男)?-? 江中期江戸の料理人:父門、幕府表御台所料理人の父の業を継嗣、諸星に改姓、のち御台所の組頭、1745料理書「伝演味玄集」編纂、国周(くにちか、幕府料理人/1709没)の弟、[吮潮齋(;号)の名/通称]名;応承、通称;半六郎
- K2128 春朝齋(春潮齋しゅんちやうさい・竹原たけはら、本姓;松本)?-1800? 江後期大阪の絵師:坂本春汐齋門、風俗人物画に長ず;名所図会の絵師として有名、秋里籬島と交流、竹原春泉齋しゅんせんさいの父、1767「絵本鎌倉山」70「世間化物気質」77「狂歌寝さめの花」/78「浪花のなかめ」画、1780・87「都名所図会」91「大和名所図会」94「撰津名所図会」96「和泉名所図会」画;外画多数、[竹原春朝齋(;号)の名/通称]名;信繁、通称;門次
 春帳子(しゅんちやうし・西向庵)→ 春帳(しゅんちやう・西向庵、読本作者) K 2 1 2 9
 舜澄房(しゅんちやうぼう) → 清如(せいによ・舜澄房、真言僧) J 2 4 3 5
- H2150 順長房(じゅんちやうぼう) ? - ? 大和奈良の僧/連歌、1413伝阿作「伝阿曇字百韻」に加点(長谷の順見坊・曾観春庵と3名で加点)
 俊直(しゅんちやく・北小路)→ 俊直(としなお・北小路きたのこうじ/大江、廷臣/連歌) N 3 1 1 0
 俊直(しゅんちやく・大沼) → 俊直(としなお・大沼おおぬま/城取、藩士/礼法) U 3 1 5 3
 純鎮(じゅんちん・大村) → 純鎮(すみやす・すみしげ・大村、藩主/和漢学) D 2 3 9 9
 純珍(じゅんちん・有馬) → 純珍(すみよし・有馬、幕臣/巡検記録) H 2 3 2 7
 俊通(しゅんつう) すべて → 俊通(としみち)
- L2150 春貞(しゅんてい;法諱・特留庵;号)1740-180667 京の真宗本願寺派僧;泰巖門、西六条善休寺住職、1800新古安心騒動に究竟院・恵光院両連技の命で友人智洞と安心問答を行う;大瀛・道隠と友に正意の安心を主張、1803寺務を長男春潮に譲渡;隠居、1795「諭客護法篇」1805「春貞記録」、「三業記録」、「金剛槌」著
- K2130 春亭(初世しゅんてい・勝川かつかわ、姓;山口/中川)1770-182051 江戸神田和泉町の絵師;勝川春英門、役者絵・武者絵/読本・合巻・劇書の挿絵を制作/洋風明暗法の風景画制作、1799「太閤記筆の連」/1801「人武忠儀功」09「明石物語」/江之島土産/12「笑門諭福仁」、1815「通俗巫山夢」17「鉢植物見松」18「染替団七編」20「太田道灌雄飛録」外画多数、[勝川春亭(;号)の通称/別号]通称;長十郎、別号;松高齋/柳々齋/戯墨庵/汲壺/醉放逸人
- L2151 駿亭(しゅんてい・小山こやま、名;政紀)1784-183552 尾張藩士;禄百五十石/大番組与頭、書家/画/俳人、篆刻に秀づ、1824「いろは字訓抄」/「絵本以呂波戒」/25「心学いろは戒」著、1825「絵本女今川」編、「いろは譬解」/「印篆貫珠」著、[駿亭(;号)の字/通称/別号]字;士綱、通称;甚兵衛、別号;器慶
 薺亭(しゅんてい/あさがおい) → 谷峨(こくが・初世梅暮里、洒落本) 1 9 2 6
 薺亭(しゅんてい) → 北嵩(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師) D 3 9 5 1
 薺亭(しゅんてい) → 秋叢園(しゅうそうえん、本草家) X 2 1 9 4
 舜貞(しゅんてい;法諱) → 別伝(べつでん;道号・宗分、曹洞のち臨済僧) B 2 7 0 1
 峻諦(しゅんてい・寂清) → 峻諦(しゅんたい;法諱・寂清、真宗僧) F 2 2 7 2
 俊貞(しゅんてい) → 俊貞(としさだ・姓不詳、歌人;玉花集撰) M 3 1 4 1
 俊貞(しゅんてい・坂本) → 俊貞(としさだ・坂本/阪本、砲術家/漢学) M 3 1 4 8
 俊定(しゅんてい) すべて → 俊定(としさだ)
 春亭(しゅんてい・村上) → 竜眠(りゅうみん・村上/中江、医者/蘭方) F 4 9 7 5
 春亭(しゅんてい・中田) → 正朔(まさもと・中田なかつ/沢潟、神職) R 4 0 1 3
 春貞(しゅんてい;字) → 慧海(えかい;法諱・寛春、真言僧) D 1 3 5 0
 春貞(しゅんてい・安部) → 春貞(はるさだ・安部あべ、藩士/連歌) J 3 6 5 6
 春貞(しゅんてい・小池) → 春貞(はるさだ・小池こいけ/佐久間、国学) K 3 6 1 4
 春堤(しゅんてい・近藤) → 弘記(ひろぶみ・近藤こんどう、神職/国学) J 3 7 6 2
 房氏(しゅんてい/ふさもと?・芝原)→ 春房(はるふさ・芝原しばはら、国学者) G 3 6 7 8
- L2152 潤亭(じゅんてい・神谷かみや)1783?-1830-44?48?-62? 医者、衰微していた一節切ひとよぎりを再興、

江戸で一節切の指田流宗家を名乗る;作曲家/楽譜・解説書刊行、
1805「糸竹古今集」20「竹の根分」22「竹の匂ひ」、「一思庵之初書」「一節切温故大全」、
「指田流一節切之伝」「指田流一節切手事伝書」「小竹笛音調学初伝」外著多数、
[神谷潤亭(;通称)の別通称/号]別通称;神谷泰助/神谷弘之/大凹[大窪]一風、
号;一思庵不学

- K2131 **順亭**(じゅんてい・鈴木すずき、名;嘉、桐軒男)1825-48**早世**24 越後粟生津の儒者;家学修学、
医;1843多紀安叔門/医;高崎の山田椿庭(昌栄)門/国学を修得、
「孝経疏証並解題考異」「松溪詩集」「松溪文集」「松溪随筆」「南窓筆記」「採竹翁説」著、
「経方類聚」「碎玉群載」「小道編」「墨子附説」著、
[順亭(;号)の字/別号]字;君則、別号;松溪

順亭(じゅんてい・松本) → 樺柯(さいか・松本、医者/本草/俳人) 2 0 6 6
 順亭(じゅんてい・松本) → 顧言(こげん・松本、樺柯男/医者/俳人) C 1 9 4 6
 順亭(じゅんてい・穂積) → 豊平(とよひら・穂積ほづみ、国学者) W 3 1 3 3
 純亭(じゅんてい・中川) → 淳庵(じゅんあん・中川、医者/蘭学者) J 2 1 1 9
 純禎(じゅんてい→としさだ・五井) → 蘭洲(らんしゅう・五井ごい、儒者) 4 8 0 5
 春亭三暎(しゅんていさんぎょう) → 三暎(さんぎょう・春亭、合巻作者) F 2 0 7 4
 春泥舎(しゅんていしや/春泥亭) → 召波(しょうは・黒柳/柳、詩人/俳人) B 2 2 1 8
 俊哲(しゅんてつ;法諱) → 明遠(みんげん:道号・俊哲、臨濟僧) G 4 1 8 4
 俊哲(しゅんてつ・中野/安井) → 算知(さんち・安井やすい、囲碁棋士) M 2 0 5 7
 順哲(じゅんてつ・榎本) → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人) 1 6 0 5
 順天(じゅんてん・富田) → 徳風(とくふう・富田/陸、儒/国学者) L 3 1 3 3
 惇典(じゅんてん・松平) → 惇典(あつり・松平、家老/佐幕/詩歌) E 1 0 7 8

- L2153 **俊伝**(しゅんでん;法諱、俗姓:吉田)?-? 江中期享保1716-36頃武蔵足立郡大間村の真言僧、
延寿院の住僧、「大間村古今有増書記」著

順天堂(じゅんてんどう) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4

- L2154 **春東**(しゅんとう;法諱) ? - 1725 若狭鳥羽谷の真宗本願寺派宝専寺住職、
信前・信後・信機・信法の差別につき独自の教義を主唱;没後に1753若狭の宗徒が訴訟、
法主光闡(法如)は僧牒に命じその誤を弁破させた、「北戸集」「雑行雑修心得集」著

- L2155 **春登**(しゅんとう;法諱・寛巖:道号)1656-1747**長寿**92 上総曹洞僧;密州永巖門/上総大林寺住持、
1708真如寺25世、1729「寛巖禅師語録」著

- 2163 **春登**(しゅんとう;法諱、山本直郷男)1773-1836**64** 甲斐城代の家/甲斐吉田の時宗西念寺春丈門;
出家、国学;小佐野和泉(;宣長門)門、1785時宗本山の誦如上入門、
春丈没後;吉田西念寺27世住職、1804江戸遊学;

加藤千蔭・村田春海・清水浜臣・小山田与清・狩谷掖斎・山崎美成らと交流、
1807京七条道場の寮主、武州関戸の延命寺4世/京の聞名寺42世、万葉集研究/音韻に精通、
1817「万葉用字格」「仮字音便撮要」/23「万葉集名物考」29「五十音摘要」、「花水吟草」著、
「古葉類林」「百人一首童論」「和歌会略式」「和歌革運略図」「柿本人麿朝臣画像考」外著多数、
[春登(;法諱)の別法諱/号]別法諱;輪丈/倫丈、号;華水庵/大麓斎/興徳院、
諡号;桂光院其阿ご上人

- K2132 **春濤**(しゅんとう・森もり、名;魯直、森儀兵衛一鳥の長男)1819-89**71** 尾張一宮の医家の生、医を好まず、
儒学;1835(17歳)鷲津益斎門、大沼沈山と交流、1850上京/詩法;梁川星巖門、
1858斎藤拙堂の奨めで詩人として立つ/1863名古屋で桑三軒吟社を開設、
1868名古屋藩校明倫堂で講義/助教、74東京下谷住;茉莉吟社を興す;雑誌「新文詩」発刊、
「春濤詩鈔」「新潟竹枝」「錦施次韻八律」/1866「高山竹枝」著、槐南の父
[春濤(;号)の字/通称/別号]字;方大/古愚/希黄、通称;春道/浩甫/森髯、
別号;真斎/吞魚水齋廬どんぎすいゑろ/九十九峰軒/三十六湾書楼、
法号;法華老春院森髯居士

- L2156 **春塘**(しゅんとう・大江おおえ、名;軍司/博文、中津藩医大江博久[梅英]2男)1787-1844**58** 豊前中津藩士、
医;父門/蘭学;前野良沢門、1804頃藩主奥平昌高の命で肥前長崎の訳官に蘭書を学ぶ、
1815江戸詰近習医師として藩主側近で辞書編纂に従事/のち中津で藩の医学界を支える、

1822辞書「パスタール字引」編、法号;英長院

- N2151 **春濤**(しゅんとう・梅田うめだ、名;誘勸) 1833-1903⁷¹ 伊勢員弁郡白瀬村の生/1848(弘化5)円琳寺住職、儒学仏学を修学/真宗大谷派本山高倉寮で宗餘二乗修学/神史;六人部是香門;国典に精通、1854(安政元)京で喘息罹病;帰郷し弟の暁雲に家督を譲り退去、赤心学校を開設:教育、「所護法階梯」「駁平田篤胤」「神敵二宗論」「猪名部神社考」著
- 春塘(しゅんとう・多田) → 義俊(よしとし・多田/桂/源、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
春塘(しゅんとう・杉原/御巫) → 清生(きよなり・御巫みかなぎ、神職/詩歌) P 1 6 6 2
春塘(しゅんとう・松村) → 宗悦(そうえつ・松村まつむら、茶人/歌人) G 2 5 2 8
春塘(しゅんとう) → 脩造(しゅうぞう・阿波加あわか/佐渡、医者) X 2 1 8 8
春塘(しゅんとう・小幡) → 実忠(さねただ・小幡おばた/平、藩士、歌人) O 2 0 0 5
春島(しゅんとう・足立) → 春島(はるしま・足立あだち、商家/国学者) G 3 6 4 2
春東(しゅんとう・林) → 晋軒(しんけん・林、読耕斎男/幕府儒官) D 2 2 9 3
春東(しゅんとう・田中) → 修道(しゅうどう・田中、藩医/儒者/詩) Y 2 1 1 2
春陶(しゅんとう・熊谷) → 千邦(ちくに・熊谷くまがい、藩医/国学) M 2 8 2 3
俊冬(しゅんとう・坊城) → 俊冬(としふゆ・坊城/藤原、廷臣/詩歌) N 3 1 6 9
俊濤(しゅんとう・高橋) → 俊濤(としひさ・高橋たかはし、廷臣) N 3 1 4 7
- K2133 **春洞**(しゅんどう・皆川みながわ、名;成慶)?-? 骨董商(東福門院御殿医説あり)、皆川淇園きえん・富士谷成章の父
- P2119 **春堂**(しゅんどう・山田やまだ、別号;百齡)?-? 江前期撰津伊丹の俳人;宗旦門、人角の弟、出家;僧、1691江水「元禄百人一句」目録入、1702轍士「花見車」1句入、1714月尋「伊丹発句合」発句入、[旅慣れは昼寝して行く暑さ哉](花見車173/旅慣れた人は暑い日中は動かず)
- L2158 **春堂**(しゅんどう・萩原はぎわら、和泉入道)?-? 江戸の俳人、3世湖十門?、1773馬卵編「双猿路談そうえんろだん」入(;風窓3世湖十を中心に17人の肖像と句入)、[木枯らしや来てぞ葉のたつ砂の上](双猿路談)
- L2159 **俊道**(しゅんどう・百々どど、俊亮男/本姓;越智、俊徳の兄) 1771-1818⁴⁸ 京の代々医者;父門、朝廷御医、法眼、本草;小野蘭山・山本亡羊門、油小路出水住/のち多病のため小川隠棲、1781「疫論」、「本草類抄備要方」著、[俊道(名)の字/通称/号]字;仁傑、通称;見寿院、号;識名園/富春/三仏斎、法号;識名院
- L2161 **春道**(しゅんどう・清水しみず、名;祐長/別通称;玄策) 1809-75⁶⁷ 武州忍藩に出仕の医者/奥医師に昇進、「経見録」「処方秘考」「医術新説」「随筆」著
- L2162 **春堂**(しゅんどう・牧まき、別号;半橋) 1821-63⁴³ 佐賀藩主鍋島家侍医/西洋医学;伊藤玄朴門、文学者、「半橋雑記」「引痘日記」著
- L2163 **舜堂**(春堂しゅんどう;道号・僊玉/仙玉せんぎょく;法諱)?-1859 豊後曹洞僧:月堂筌芳門/法嗣、豊後長松寺13世/豊後観音寺16世/同英雄寺14世、「豊陽古事談」「諸家分脈」編、「八宗宗派図」「月谷禅師宗派図」「長松寺箴規」/1841「無着融禅師伝」外著多数
- 春童(初世しゅんどう・勝川春道) → 蘭徳斎(らんとくさい、絵師) D 4 8 1 2
春堂(春道しゅんどう・玉江) → 正紀(まさのり・玉江たまえ、医者) G 4 0 0 7
春堂(しゅんどう・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うつぎ、儒者) I 2 4 3 1
春堂(しゅんどう;号) → 祐成(ゆうせい;法諱、僧/氏神信仰) C 4 6 9 2
春堂(しゅんどう・平) → 源澄(もとずみ・平たいら/桜田/丹下、藩士) K 4 4 3 6
春道(しゅんどう;字) → 日晴(にっせい;法諱・智運院、日蓮僧) E 3 3 6 7
春道(しゅんどう・尾池) → 春道(はるみち・尾池おいけ、藩士/武術/歌) J 3 6 8 3
春道(しゅんどう・芝原) → 春道(はるみち・芝原しばはら、商家/国学) K 3 6 2 7
俊道(しゅんどう;字) → 恵岳(えがく・俊道、真言僧/万葉研究) 1 3 5 3
俊道(しゅんどう・杉村) → 宗友(むねとも・杉村すぎむら、神職/俳人) B 4 2 9 2
駿堂(しゅんどう・安倍) → 季騮(すえとし・安倍あべ、楽人) F 2 3 5 1
- 02193 **順道**(じゅんどう;法諱) ? - 1818 伊勢松坂の真宗高田派願証寺10世、国学者、国学;本居宣長・大平門
- L2160 **順堂**(じゅんどう・小林こばやし/初姓;田淵) 1755-1826⁷² 播磨赤穂郡新浜村の医者:京の小林方秀門、小林方秀の養子、儒;皆川淇園門、諸侯の診察治療;名医の称;法橋、1806朝廷の医員;法眼、

蒲溪の養父、「医家類聚」編、1813「小林方函」、「淵々齋治療秘訣」著、「小林龜溪先生拔萃」
[順堂(；通称)の名/字/別号]名；淑/一、字；子慎、別号；龜溪/淵々齋

L2164 詢道(じゆんどう；法諱・伝灯；字) 1790-1868 79 筑前の真宗本願寺派僧；1807大乘門、
1819豊後玖珠郡戸畑の満福寺住職；自坊に学寮を設置し子弟教育/1851司教/56勸学、
破邪顕正をもって自任；儒者・国学者の仏教批判に反駁、1864円成院の号を賜う、
1830「暁論扶膜篇」41「一鞭千里」44「角毛偶語」50「一念贅語」/51「再問答記」「避暑閑談」、
「淮水行蔵志」「淮水行実」「淮水贅語」「南溪献書」「南溪建白書」「破邪顕正記」外著多数、
[詢道(；法諱)の号]号；淮水わいすい/南溪/覚音房/円成院

K2134 醇堂(じゆんどう・大谷木おおよぎ、名；季純/季良、幕臣勝之助男) 1838-97 60 儒者；1846(9歳)昌平黌入学、
松崎柳浪門/のち昌平黌勤務；准博士、譜牒学；竹尾善筑門、維新後私塾を開設；晩年は貧窮、
隨筆作者、「大谷木醇堂筆乘」「醇堂漫筆」「醇堂叢稿」「醇堂見聞手記」「灯前一睡夢」外著多、
[醇堂(；号)の字/通称/法号]字；忠醇、通称；源太郎、法号；真応道光信士

淳道(じゆんどう；字) → 日荘(にっそう；法諱・眞就院、日蓮僧) E 3 3 9 2

淳道(じゆんどう・藤林) → 普山(ふざん・藤林、医者/蘭学) C 3 8 3 3

順道(じゆんどう・井上/桜井) → 敬徳(きやうとく；法諱・桜井、天台僧) O 1 6 3 8

順道(じゆんどう・村田) → 誠斎(せいさい・村田むらた、医者) I 2 4 2 8

順道(じゆんどう・青木) → 老樗(らうちよ・青木あおき、医/儒者/詩) 5 2 3 8

純道(じゆんどう・杉) → 亨二(こうじ・杉すぎ、蘭学者) J 1 9 4 3

純道(じゆんどう・大村) → 寛(ひろし・大村、医者) F 3 7 9 3

純道(じゆんどう・伊古田) → 檜陵(ゆりりやう・伊古田いこた、産科医) E 4 6 0 2

準道(じゆんどう・鈴木) → 準道(のりみち・鈴木すずき、藩士/記録) C 3 5 4 2

舜統院(じゆんとういん) → 眞迢(しんちやう；法諱、日蓮・天台・念仏僧) 2 2 6 3

春洞淇竹(じゆんどうきちく) → 淇竹(きちく・春洞、俳人) F 1 6 8 0

L2165 春燈齋(しゆんとうさい・岡田おかだ、名；義房) ?-? 江後期弘化-万延1844-61頃京の絵師/画商、
銅板画；初世玄々堂門、当代一流の銅板画家；画題は多方面、画店水月堂を開き自製販売、
1839「大日本海陸勝景一覽」53「銅板細画帖」、「貼込横帖」「微塵銅板輯」画、
[春燈齋(；号)の通称/別号]通称；儀七郎、別号；東園、屋号；水月堂

春灯房(しゆんとうぼう) → 風斎(ふうさい・春灯房、俳人) 3 8 6 6

L2166 春徳(しゆんとく・勝川かつかわ、姓；鎗形) ?-? 江後期江戸の絵師；勝川春英門、本石町十七軒店住、
寛政文化1789-1818頃役者絵・武者絵を制作、「常陸国鹿島神宮之図」「团十郎七世嫡孫」画、
[勝川春徳(；号)の通称] 重五郎

L2167 俊徳(しゆんとく・百々どど、俊亮男/本姓；越智、俊道の弟) 1774-1839 66 京の代々医者；父門/1902別家、
開業医、儒；皆川淇園門、太田錦城・頼山陽らと交流、「古今医粹類纂」「医粹約範」、
「温疫論翼訣」「瘧疫論衍義」「薬物和各考」「集驗方雋(しゅうけんほうしゆん)」、「漢陰詩文艸」(俊範編)
[俊徳(；名)の字/通称/号]字；克明、通称；内蔵太、号；漢陰/確斎/冬青老人、
法号；冬青院、俊範(しゆんぱん・菘しょう)の父

L2168 峻徳(しゆんとく・三枝さいぐさ、名；博/博学) 1823-99 77 代々上総佐貫藩医、医；江戸の里見騰雲門、
漢学；平田春里門/書；中西研齋門、1843家督継嗣；藩医、井上宗瑞と種痘普及に尽力、
1861藩主阿部正恒の大坂城加番に随員；生理・解剖を緒方洪庵に学ぶ、歌・書画に長ず、
維新後は故郷で医療・教育活動、「甲寅歳陣中日記」著、
[峻徳(；通称)の字/別通称/号]字；濟民、別通称；元亮、号；染溪/松軒/松廼家

春徳(しゆんとく；剃髮後の号) → 読耕斎(よみかつかい・林、儒者) O 3 1 4 8

春篤(しゆんとく・柴田) → 春篤(はるあつ・柴田しばた、兵学者) F 3 6 9 7

俊徳(しゆんとく・滝川) → 伯明(はくめい・滝川たきがわ、兵学者) D 3 6 9 7

俊徳(しゆんとく・服部) → 壺仙(こせん・服部はつとり、商家/詩人) M 1 9 9 8

俊徳(しゆんとく・千家) → 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2

俊徳(しゆんとく・内藤) → 俊徳(としのり・内藤ないとう、歌人) T 3 1 5 3

俊徳(しゆんとく・木原) → 俊徳(としのり・木原きはら、歌人) U 3 1 9 2

俊徳(しゆんとく・北小路) → 俊徳(としのり・北小路きたのこうじ/大江、諸大夫/歌) U 3 1 9 8

俊篤(しゆんとく/としあつ・木村) → 桂庵(けいあん・木村きむら、儒者/詩) E 1 8 0 0

俊篤(しゅうとく/としあつ・本庄)→ 普一(ふいち・本庄/本莊ほんじょう、医者) 3 8 3 2
 純徳(じゅんとく・荒井/奥村)→ 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2
 淳徳(じゅんとく・丹羽)→ 太華(たいか・丹羽にわ、儒者/詩/篆刻) J 2 6 3 7
 淳徳(じゅんとく・平野) → 東岳(とうがく・平野、書家) C 3 1 1 9
 淳徳(じゅんとく・本多/賀川)→ 南童(なんりゅう・賀川かがわ、医者) J 3 2 6 4
 醇徳(じゅんとく・片岡) → 醇徳(あつり・片岡かたおか、庄屋/郷土史) E 1 0 7 6
 順徳(じゅんとく・榊原) → 霞洲(かしょう・榊原さかきばら、藩士/儒者) L 1 5 8 0
 順徳(じゅんとく・高橋) → 済庵(せいあん・高橋/並河、藩医/詩) H 2 4 2 4
 順徳(じゅんとく→ゆきり・津軽)→ 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1
 準篤(じゅんとく・民上) → 永隣(ながちか・民上たみのえ、医者/神職) N 3 2 8 3
 俊徳院(しゅんとくいん) → 定賢(さだよし・松平、藩主/国学/詩) K 2 0 2 4
 俊徳院(しゅんとくいん) → 直恒(なおつね・松平まつだいら、藩主/国学) O 3 2 8 9
 峻徳院(しゅんとくいん) → 保泰(やすひろ・柳沢やなぎさわ/源、藩主) C 4 5 8 9
 潤徳院(じゅんとくいん) → 政成(まさしげ・内藤ないとう/井伊、藩主) L 4 0 9 0
 順徳院兵衛内侍(じゅんとくいんのひょうえのないし)→ 兵衛内侍(ひょうえのないし・順徳院) F 3 7 1 3
 潤徳斎(じゅんとくさい) → 月湖(げつこ・がっこ・潤徳斎、医僧/入明僧) H 1 8 0 0
 俊得正軒(しゅんとくせいけん)→ 米山(べいざん・三輪田みわた、神職/書家) 2 7 4 5

2164 順徳天皇(じゅんとくてんのう、後鳥羽天皇皇子)1197-1242⁴⁶ 母;修明院重子(藤原範季女)、
 兄;土御門天皇の跡;在位1210-21/在位中は父上皇の院政下にある、
 1221承久変に倒幕計画参加;敗北し佐渡左遷;佐渡幽囚22年;当地没、
 有職故実の研究・詩歌管弦の奥義修得、歌;1213内裏歌合歌会・15建保名所百首催、
 外多数の歌行事主催、雲葉集28首入、
 歌学「八雲御抄」、1213故実「禁秘抄」、「順徳院御集」、「順徳院御記」「順徳院宸筆御抄」著、
 勅撰160首;続後撰(17首27/144/187/196/213以下)続古(35首16/43/53/54/91/以下)、
 続拾(15首8/59/116以下)新後撰(13首)玉(12首)続千(8首)続後拾(8首)風(14首)以下、
 [ももしきや古き軒端のしのぶにもなほあまりある昔なりけり](続後撰;十八1205)
 [順徳天皇の名/通称/追号]名;守成もりなり、通称;佐渡院、追号;順徳院

春和(しゅんな;道号・啓閻)→ 啓閻(けいげん;法諱・春和、臨濟僧/詩) 1 8 4 5

K2136 淳和天皇(じゅんなてんのう、桓武天皇第三皇子)786-840⁵⁵ 母;藤原百川女の藤原旅子、兵部卿/中務卿、
 810葉子の変により皇太弟/823即位、827勅撰詩集「経国集」撰進・833「令義解」撰進を下命、
 「日本後記」編纂を継続、833讓位、兄の嵯峨天皇と同様中国文化摂取に尽力;詩宴を主催、
 凌雲5首/文華秀麗8首/経国集4首入、
 [淳和天皇の名/通称]名;大伴、通称;西院帝

春南(しゅんなん) → 仲和(なかかず・岩神いわがみ、俳人) D 3 2 3 7

春南(しゅんなん・永田) → 忠宜(ただよし・永田、藩士/音律研究) R 2 6 3 1

准如(じゅんにょ・本願寺12世)→ 光昭(こうしょう;法諱、顕如男) J 1 9 7 4

俊任(しゅんにん・坊城) → 俊任(としとう・坊城/藤原、廷臣/歌人) M 3 1 9 9

L2169 順忍(じゅんにん;法諱) 1784 - ? 1852存 天台宗叡山遺教院僧;義弁律師門/恵心院転住、
 1845大僧正/1852尊融親王に三昧流灌頂を授、癡空と親交、1797「悲願金剛法」著、
 1846「仁孝天皇御三七御経供養法則」、「光格天皇御中陰延曆寺献経焼香記」外著多数

純仁(じゅんにん・山内) → 由己(ゆうこ・山内やまうち、詩人) B 4 6 5 3

K2137 淳仁天皇(じゅんにんてんのう、名;大炊王おおいのおおきみ、舍人親王男)733-765³³ 天武天皇の孫、
 皇太子道祖王が不品行で廃されたのち孝謙天皇と藤原仲麻呂の推薦で皇太子となる、
 仲麻呂の田村第に住;758即位;在位758-764、道鏡の昇進により孝謙上皇と不和、
 764仲麿の乱で天皇を廃され淡路に配流;幽憤のうちに没(33歳)、
 万葉集四期歌人;4486(天平宝字元757[皇太子の時]内裏肆宴の歌)、
 [天地あめつちを照らす日月ひつきの極みなくあるべきものを何をか思はむ](万葉;廿4486)

順寧(じゅんねい;隠居後名・横井)→ 也有(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7

L2170 俊然(しゅんねん/しゅんぜん;法諱、大納言源能賢男)1323-68⁴⁶ 真言僧;慈尊院栄海門;伝法灌頂を受、
 1344-47頃慈尊院相伝の勸修寺流諸印信・勸修寺相伝の安祥寺流印信・醍醐印信など受、

勸修寺慈尊院7世/権大僧都、「印璽口伝」編/「具支灌頂作法私記」「唯一鈔」「後七日記」著
舜年(しゅんねん・亀田) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0

L2171 峻翁(しゅんおう;道号・令山れいざん/りょうざん;法諱)?-1408 武州秩父郡の臨濟僧;拔隊得勝門;法嗣、
1389甲斐向岳寺の住持、武州八王子横山の広園寺を開山、
上杉憲英の招聘で武州深谷の国濟寺開山、「広園開山行録」著
[峻翁令山の諡号] 法光円融禅師

春農(しゅんのう・海保) → 漁村(ぎよそん・海保かいぼ、儒者) D 1 6 2 8

隼之丞(じゅんのじょう・大岩) → 昌蔵(まさなり・大岩おおいわ、藩士/文芸活動) O 4 0 2 7

L2172 純之進(じゅんのしん・安間あんま)?- ? 江末期幕臣;1854箱館奉行支配調役/57組頭、
1862西丸切手門番之頭、1854「彼理応接頼末」著

順之進(じゅんのしん・黒岩) → 竜谿(りゅうけい・黒岩くろいわ、儒者) D 4 9 5 5

L2173 隼之助(じゅんのすけ/はやのすけ・池上いけがみ、名;陳敬) 1829-6436 日向佐土原藩士、
儒;藩主命で上原立斎門、立斎の女婿梅田雲浜と交流、
安政大獄時に徳川斉昭に面会を求め捕縛;幽閉/1862脱藩、
同年寺田屋騒動に参加し捕縛/再度佐土原に幽閉/1863赦免され薩英戦争に参加、
1862(文久二年)「池上隼之助日記章」著、
[隼之助(;通称)の別通称/号/変名]別通称;隼之進/権九郎、
号;雲窟/靈窟/雲窟孤峯/竹泉、変名;串木録蔵

順之助(じゅんのすけ・大地) → 文室(あやよし・大地おち、藩士/詩/書) F 1 0 1 7

順之助(じゅんのすけ・油井) → 大壑(たいがく・油井ゆい、儒者) J 2 6 4 6

順之助(じゅんのすけ・千秋) → 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) C 3 8 6 0

順之助(じゅんのすけ・佐藤/松本) → 良順(りょうじゅん・松本/佐藤、蘭医) I 4 9 0 2

順之助(じゅんのすけ・丸岡) → 正孝(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書家) S 4 0 7 8

順之介(じゅんのすけ・佐藤) → 直翁(ちよくおう・佐藤さとう、藩校教授/儒・歌) M 2 8 5 9

隼之助(じゅんのすけ・笠因) → 諸親(これちか・笠因かさより、歌人) O 1 9 5 2

隼之助(隼之介じゅんのすけ・河合) → 道臣(ひろおみ・河合、家老/改革) F 3 7 6 1

隼之助(じゅんのすけ・久須美) → 祐光(すけてる・久須美/藤原、幕臣/文筆) G 2 3 5 4

隼之助(じゅんのすけ・久須美) → 祐明(すけあきら・久須美/藤原、祐光男/幕臣/文筆) F 2 3 9 9

隼之助(じゅんのすけ・尾崎) → 貞幹(さだみき・尾崎おさき、藩士/国学/画) O 2 0 0 8

隼之助(じゅんのすけ・加須屋) → 武成(たけなり・加須屋かすや、藩士/国学) W 2 6 3 8

隼之助(じゅんのすけ・河合) → 良翰(さとたか/よしさと・河合かわい/松下、藩老/勤王) O 2 0 3 5

準之助(じゅんのすけ・中井) → 乾斎(けんさい・中井、漢学者/詩人) E 1 8 1 2

準之助(じゅんのすけ・西島) → 城山(じょうざん・西島/牧野/牧、漢学者) J 2 2 3 7

醇之助(じゅんのすけ・坂井) → 居平(やすひら・坂井さかい、庄屋/国学/歌) F 4 5 9 3

K2138 春坡(しゅんぱ・下村しもむら/一時;坂崎、名;兼邦、下村兼般3男) 1750-181061 京商家、1764坂崎家に入、
1764復籍、一家を創立し糸問屋を経営;祖父兼雄の創始した大丸呉服店の共同店となる、
四条大丸下村家中柳馬場家の家祖、俳人;蕪村・几董門、紫暁と交流、妻子ともに俳人、
1782蕪村「花鳥篇」3句・83維駒「五車反古」4句入、1786「壬生ねふつ」93「小鳥・小艸」編、
息春花への追善撰集;1800「藪かろうじ」1806「白罌粟しろけし」編、句風は繊細華麗、
[過ぎて句ふ酔屋の門辺や朧月](五車反古;93)、[暖きつちの曇や花すみれ](小鳥)、
[春坡(;号)幼名/通称/別号]幼名;熊蔵、通称;孫八郎、別号;遅春亭/遅日亭/遅日庵、
屋号;美濃屋、法名;正円

妻;政女 → まさ(下村、俳人) 4 0 8 6

息子 → 春花(しゅんか・下村、俳人) J 2 1 2 7

→ 春峯(しゅんぼう・下村、俳人) K 2 1 4 6

L2174 春坡(しゅんぱ・金谷かなや、高橋了味男) 1766-182762 豊前の生/金谷家の養子/豊後高田の商人、
俳人;月化門、1796「秋風庵月化発句集」編/師月化の3回忌追善集「春の雪」編、
1809「筑紫題林抄」編、追善「続春雪集」、
[春坡の通称/別号]通称;源之允、別号;魯雪/鷺雪/東月斎/弗水/仏水/無味庵/静斎2世、
屋号;糍屋

- 春坡(しゅんぱ) → 幾疋(きぎょう、雲蝶、僧/俳人) 1 6 9 2
 春坡(しゅんぱ・小森) → 愚堂(ぐどう・小森こもり、医者/歌) C 1 7 5 4
 春葩(しゅんぱ・守村[邨]) → 鶯卿女(おうけいじょ・守村[邨]もりむら、俳人) 1 4 4 7
- 2165 **春馬**(初世しゅんぱ・三亭さんてい、姓;磯部/三浦/村田)?-1851 江戸吉原の妓楼三浦屋の生、
 京町の大字屋村田市兵衛の養子;離縁、山谷で質屋経営、狂歌;浅草庵黒川春村門、
 画;酒井抱一門、江戸節;江戸半太夫門、戯作;十返舎一九・式亭三馬門、戯作者として活動、
 合巻・人情本・狂歌作者、1833合巻「尾形鱗生伝」著/34狂歌「柳巷名物誌」36「柳花集」編、
 人情本「春秋二季種しゅんじゅうふたきぐさ」初-2編/1839-人情本「多気競たけくらべ」初-7編、
 1845-50合巻「紫菜むらさきり浅草土産」著、「十返舎随筆」「掃墓余筆」「忠臣蔵皮肉論」外編著多、
 [初世三亭春馬(;号)の名/通称/別号]名;金次郎/春馬、
 通称;勘助/磯部源兵衛/大字屋村田市兵衛(養子の時)、
 別号;柿園/花街楼/文字楼、3世加保茶元成、九返舎一八、2世十返舎一九[実は3世]、
 八文字主人、4世八文字自笑、吾妻男一丁、南瓜本成なんかのもとなり、村田柳園本成、文尚堂虎園、
 2世落栗庵木網、富士屋、法号;大用玄機居士
- L2175 **春馬**(2世しゅんぱ・三亭さんてい、通称;4世蔦屋重三郎)?-1861 江戸の書肆;
 1834蔦屋重三郎3世没;4世を襲名/戯作:初世三亭春馬(自称2世十返舎一九)門;2世襲名、
 1856より合巻執筆;刊行、「義仲勇戦録」「義経功軍記」「頼朝青雲録」「伊達競阿国歌舞妓」著、
 「仇桜恋白濤」「花封苔玉章」、歌舞伎劇書「御狂言楽屋本説」著(;国貞・芳艶・国綱画)外著多、
 [2世三亭春馬(;号)の別号]蔦唐丸/耕書堂、法号;貞心院
- 春梅斎(しゅんばいさい) → 北英(ほくえい・春梅斎、絵師) C 3 9 9 1
 俊伯(しゅんぱく・芝) → 和麿(かざる・芝/菊池、国学者) U 1 5 7 4
 淳伯(しゅんぱく・越村) → 德基(とくき・越村こしむら、蘭医) K 3 1 5 6
 順伯(しゅんぱく・片岡) → 竹亭(ちくてい、片岡、儒/医者) D 2 8 5 1
 鶉巴軒(しゅんぱけん) → 心友(しんゆう;号・中田、神風館系俳人) 2 2 8 6
 淳八郎(しゅんぱちろう・伊藤) → 石台(せきだい・伊藤いとう、藩儒) K 2 4 3 6
 春発(しゅんぱつ・小野) → 春発(はるおき・小野おの、神職/歌人) J 3 6 8 1
 春波楼(しゅんぱろう) → 江漢(こうかん・司馬/安藤、絵師/蘭学) 1 9 9 1
- L2176 **俊範**(しゅんぱん;法諱) ? - ? 1221存 鎌倉期の僧;初め南都の法相僧、
 のち叡山で天台学僧;範源門/相生流天台学を究める、無動寺住/1221僧都/探題、
 後嵯峨上皇に止観を教授/勅により東麓大和庄に講筵を張る、「肝心抄」「大和庄手裏鈔」、
 「恵心流内証相承法門集」「智智宝蔵重門略決」著、門弟;静明・経海・承瑜・俊承・日蓮ら、
 [俊範(;法諱)の通称]坂本法印/大和庄法印
- K2139 **春帆**(しゅんぱん・富森とみのもり、助右衛門正因まさより) 1670-1703切腹34歳 赤穂藩士;1703義士討入、
 俳人;1701治徳「文蓬莱」入、1702子葉「二ツ乃竹」入、
 辞世[仕合せよさんづの河原はつく土筆]
- K2140 **春帆**(しゅんぱん・辛島からしま) 1818-185942 代々豊前中津の医者;辛島家7代目;6代目長齡の養子、
 日田の相良文敬の弟、詩人;日田の広瀬淡窓門、1848御朱印を受、
 1849養父長齡の命で子供を連れ長崎で種痘実施;成功、日田の咸宜園の都講、
 1850淡窓「懐旧楼筆記」入、
 [春帆(;号)の名/通称]名;種任、通称;丈庵/正庵
- L2177 **俊範**(しゅんぱん・百々どど、別名;綯、俊徳男/本姓;越智、菘しゅうの兄)?-1878 代々京の医者;父門、
 東洞院御池北住、1828「鳩窓夏課」、「医類函」「医粹方函仮名文類」編、「医類函」、「経穴類彙」、
 「漢陰詩文艸」(漢陰は父の号)、「医類函類纂稿本」「温疫論翼訣」「説疫輯評」「射方課業」
 「竹窓字解」「鳩窓雑抄」「鳩窓雑稿」「網兔小録」「南宋六臣伝稿本」「文選抄」外著多数、
 [俊範(;名)の字/通称/号]字;茅、通称;一郎、号;鳩窓/鳩巢、法号;棕湖院
- K2141 **春帆**(しゅんぱん・高階たかしな、名;秀民) 1825-190682 摂津高槻藩士、漢学者;藩校総督、詩;藤井竹外門、
 維新後私塾開;古創堂、同門を集め竹外吟社を結社、「春帆楼百絶」著、
 [春帆(;号)の字/通称/別号]字;公頼、通称;民太郎、別号;天衣道人
- 春帆(しゅんぱん・中村) → 篁溪(こうけい・中村、儒者) G 1 9 2 3
- L2178 **春帆堂主人**(しゅんぱんどうしゅじん、本名不詳)?-? 江中期大阪博物学者、

当時飼育流行の白鼠の研究;1774「養鼠玉のかけはし」

俊斐(じゆんぴ・鳥山) → 俊斐(としあきら・鳥山とりやま/源、歌人) T 3 1 4 8

俊美(じゆんぴ・高橋) → 俊美(としよし・高橋たかはし、廷臣) T 3 1 0 0

L2179 淳美(じゆんぴ・樋口ひぐち) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃陸奥津軽藩医;江戸住、
産科医:賀川玄迪門/玄迪著「産論翼」に「懷孕図」を作製、
「酔山集」「島物語」「書易貞翁書後」/1798「無人島漂流記」1812「婦科論説因談」著、
[淳美(;)名)の通称/号]通称;道泉/淡如斎、号;酔山

淳美(じゆんぴ/あつみ・立川) → 雅生(がせい;字・立川たちかわ、儒者/地誌) M 1 5 6 3

洵美(じゆんぴ→よしとし・永井) → 文安(ぶんあん;字・永井、香道家/歌) E 3 8 7 5

順弼(じゆんひつ・磯村) → 道彦(みちひこ・磯村いそむら、国学/歌) C 4 1 3 0

瞬七亭(じゆんひてい) → 角上(かくじょう、僧/俳人) B 1 5 5 9

俊賓(じゆんびん・小津) → 俊賓(としたか・小津おづ/松本、国学/歌) U 3 1 4 2

春布(じゆんぷ・浜田) → 千束(ちづか・浜田はまだ、大庄屋/国学) N 2 8 3 1

舜夫(じゆんぶ・小川) → 柳谿(柳溪りゅうけい・小川、儒者/詩人) D 4 9 5 0

俊孚(じゆんぷ・横田) → 俊孚(としざね・横田よこた、藩士/医者) M 3 1 5 5

俊普(じゆんぷ・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8

峻阜(じゆんぶ・長谷川) → 宗右衛門(そうえもん・長谷川/松崎、藩士/勤王) G 2 5 3 0

峻夫(じゆんぶ・森) → 退堂(たいどう・森もり、藩儒/詩文) K 2 6 7 7

L2180 春武(じゆんぶ;号) ? - ? 江中期江戸の俳人;

1772几董「其雪影」1句/83維駒「五車反古」1句入、

[旅に寐て古郷の春を惜しみけり](其雪影;巻尾263/惜春の旅情)

L2181 淳夫(じゆんぶ・山崎まさき、名;徽淳) ?-1825 江後期土佐の儒者;耒耜門、古医方;中山子琢門、
「経済類編」「易解」「傷寒論解」「筆乘」「文集」著

淳夫(じゆんぶ・あつお・陰山) → 東門(とうもん・陰山/蔭山、儒者/和算) H 3 1 4 2

淳夫(じゆんぶ・あつお・三浦) → 瓶山(へいざん・三浦みうら、藩儒) 2 7 3 9

淳夫(じゆんぶ・あつお・上田) → 威之(しげゆき・上田/藤原、書家/茶人) T 2 1 0 6

淳夫(じゆんぶ・あつお・小田) → 眞卿(しんけい・小田おだ/田、儒者) O 2 2 0 0

順夫(じゆんぶ・石川) → 香山(こうざん・石川いしかわ、儒者/詩人) G 1 9 3 5

純夫(じゆんぶ・池田) → 貞一(さだかず・池田/紀、幕臣/和算家) H 2 0 9 4

純夫(じゆんぶ・伊藤) → 石台(せきだい・伊藤いとう、藩儒) K 2 4 3 6

純富(じゆんぶ・田山) → 純富(すみとみ・田山たやま、家臣/歌人) I 2 3 7 2

詢夫(じゆんぶ・森) → 宜周(よしちか・森もり甚左衛門、商家/歌) P 4 7 6 3

準夫(じゆんぶ・土屋) → 繩直(ただなお・土屋つちや/源、幕臣/歌) U 2 6 0 6

醇夫(じゆんぶ・あつお・正墻) → 適処(てきしよ・正墻しょうがき、藩儒/詩) B 3 0 9 8

K2142 春風(じゆんぷう・頼らい、名;惟疆ただたけ、惟清ただすが[亨翁こうおう]3男) 1753-1825 73 安藝竹原儒医、春水弟、
竹原に春風館を興す/1773宗家相続;医業、広島藩儒、詩/書に長ず、妻;田中儀助女の順子、
兄春水の懇願により長男元鼎(景讓)を兄春水の養子とする;

跡継を欠き長女唯子の婿の花山尚平(小園、医者花山文臺男)を養嗣子とす、

1776「引翼編」78「芳山小記」1803「春風館詩鈔」、「東遊詩巻」「西溟瓊奇」「庚辰漫采」著、

[春風(;)号)の幼名/字/通称]幼名;阿松、字;叔義/千齡、通称;松三郎

頼家系図 → 春水(じゆんすい・頼らい) 2 1 6 0

L2182 春風(じゆんぷう・鶴殿うどの、名;長養、長義男) 1831-68 38 越後長岡藩士/蘭学;東条英庵・手塚律蔵門、
英語・数学・天文・航海・測量に通ず、1859越前大野藩主土井利忠に招聘され樺太へ往来、
1862勝海舟に推され蕃書調所教授、帰郷するも再招聘;軍艦役・目付/鳥羽伏見戦後致仕、
「度学造則」「万測精要」「閑窓漫筆」「万国紀略」/1866「万国奇観」著、

[春風(;)号)の通称/法号]通称;団次郎、法号;文海院

春風(じゆんぷう・小野) → 春風(はるかぜ・小野、廷臣/歌人) G 3 6 1 2

春風(じゆんぷう・富川) → 大塊(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文) J 2 6 4 3

春風(じゆんぷう;組連) → 春風(はるかぜ;組連/雑俳) J 3 6 2 0

春風(じゆんぷう→はるかぜ・高杉) → 晋作(しんさく・高杉、儒者/奇兵隊) E 2 2 3 1

- 春風(しゅんぷう・菅) → 秀久(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌) J 3 7 9 1
 順風(じゅんぷう・原田) → 保孝(やすたか・原田はらだ、和算家) B 4 5 8 8
 淳風(じゅんぷう・橋村) → 淳風(きよかぜ・橋村・神職/国学) O 1 6 6 9
 淳風(じゅんぷう・古賀) → 精里(せいら・古賀こが/劉、幕府儒官) 2 4 1 5
 淳風庵(じゅんぷうあん) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 春風堂(しゅんぷうどう) → 柳原向(やなぎはらのむこう、狂歌/戯作者) D 4 5 9 0
 春風洞(しゅんぷうどう) → 九阜(きゅうこう・加藤かとう、医者) M 1 6 4 8
 春風浴西村舎(しゅんぷうよくせいそんしゃ) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/詩歌) L 4 4 2 7
 春風楼(しゅんぷうろう) → 温山(おんざん・川北かわきた、儒者/詩文) B 1 4 6 1
 春風楼(しゅんぷうろう) → 松塘(しょうとう・疋田/藤原、藩家老/詩) R 2 2 5 5
 春風楼(しゅんぷうろう) → 奎斎(けいさい・西宮、藩の儒者) F 1 8 6 6
 X2148 春福(しゅんぷく・桜井さくらい、名;はるとみ?/はるとし?/はるとも?/はるとよし?)?-? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [朝まだき北風寒く吹きぬめり霜に枯れゆく小野のしの原]()
 舜福(しゅんぷく・池田) → 籬島(りとう・秋里/穂里あきさと、読本/図会作者) C 4 9 2 8
 順福(じゅんぷく・橋本) → 順福(のぶよし・橋本はしもと/橘、和学) J 3 5 6 1
 敏文(しゅんぶん)すべて → 敏文(としふみ)
 俊文(しゅんぶん)すべて → 俊文(としふみ)
 春分斎(しゅんぶんさい) → 来章(らいしょう・中島/源/並河、絵師) 4 8 6 4
 L2183 俊平(しゅんぺい;通称・三好みよし、名;清、号;鹿城)??-? 江後期江戸の文人、
 渡辺華山・松崎慊堂こうとうと交流、1824「徳川家斉左大臣宣下記」著
 L2184 浚平(俊平しゅんぺい・石沢いざわ/初姓;清野、名;成遠)1805-9288 陸前の儒者/仙台藩儒員の抜擢、
 養賢堂学頭副役まで累進、斎藤竹堂・針生欽甫と交流、幕末の国事に奔走、
 「平泉著書序目」編、
 [浚平(;通称)の字/号]字;子明、号;二水
 L2185 俊平(しゅんぺい・平野ひらの、東庵男)1829-8557 備前御野郡北方村の医者;父門/江戸の伊東玄朴門、
 蘭学・西洋医学修学、1857岡山藩蘭学御用/61士鉄砲格医者;江戸在勤/66長崎で洋学修学、
 維新後;岡山藩兵学館教授/文学教授/英語学教授歴任、1857「観銃式しよじゅうしき」訳
 俊平(しゅんぺい・賀茂) → 俊平(としひら・賀茂かも、神職/歌人) T 3 1 0 2
 俊平(しゅんぺい・源) → 俊平(としひら・源、廷臣/侍従/歌人) N 3 1 5 6
 俊平(しゅんぺい・高階) → 信寂(しんじやく;法諱、高階信平、廷臣/歌) E 2 2 4 2
 俊平(しゅんぺい・山県) → 鶴江(かくこう・山県やまがた、藩士/書家) J 1 5 8 0
 俊平(しゅんぺい・永田/永) → 観鷺(かんが・永田ながた、儒者/書家) D 1 5 5 0
 俊平(しゅんぺい・鈴木) → 星海(せいかい・鈴木、天文/易学家) H 2 4 6 9
 俊平(しゅんぺい・寺島) → 天祐(てんゆう・寺島たらしま、儒者) E 3 0 4 4
 俊平(しゅんぺい・丘崎おかざき) → 俊平(としひら・丘崎/丘岬/岡崎、国学者) N 3 1 5 7
 俊平(しゅんぺい・清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7
 俊平(しゅんぺい・村上) → 清筋(せいせつ・村上むらかみ、儒者/勤王) J 2 4 0 2
 俊平(春平しゅんぺい・細川) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7
 俊平(しゅんぺい・細川) → 林斎(りんさい・細川、林谷男/篆刻家) K 4 9 3 2
 俊昞(しゅんぺい→としあき・東儀) → 俊昞(としあき・東儀とうぎ、楽人) L 3 1 9 3
 春平(しゅんぺい・森川) → 百親(ももちか・森川もりかわ、医者/歌人) L 4 4 7 2
 春平(しゅんぺい・岡部) → 春平(はるひら/とうへい・岡部/松田、歌人) G 3 6 7 6
 春平(しゅんぺい・小原) → 君雄(きみお・小原おほら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1
 春平(俊平しゅんぺい・細川) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7
 舜平(しゅんぺい・弾) → 琴緒(ことお・弾だん/団、漢学/歌人) R 1 9 0 2
 駿平(しゅんぺい・白杵) → 横波(おうは・白杵うすき、儒者) C 1 4 1 6
 駿平(しゅんぺい・櫛田) → 北渚(ほくしよ・櫛田くしだ、藩儒) D 3 9 4 6
 Z2150 順平(じゅんぺい・桂井かつらい、久成の孫)1821-? 越中砺波郡の歌人;祖父久成門、
 のち養字かいや徳称とくしょう門、華道;伯父桂井久道門、点茶にも通ず、5男健之助(未翁)は俳人

- 順平(じゅんぺい・岡見) → 知康(ともやす・岡見、藩士/国学/農政) Q 3 1 7 3
 順平(じゅんぺい・松原) → 正名(まさな・松原/源、藩士/詩/隨筆) E 4 0 9 2
 順平(じゅんぺい・紅林) → 梅処(ばいしょ・紅林くればやし/吳/境田、藩儒) B 3 6 5 4
 順平(じゅんぺい・大石) → 眞虎(まことら・大石おおいし、絵師) J 4 0 9 5
 順平(じゅんぺい・吉田) → 千鶴(ちづる・吉田よしだ、絵師) N 2 8 7 7
 順平(じゅんぺい・長沢) → 築浪(らくろう・長沢ながさわ、藩儒/詩) B 4 8 2 9
 順平(じゅんぺい・岡田) → 秀厚(ひであつ・岡田おかだ/田熊、国学/神職) I 3 7 9 3
 準平(じゅんぺい・華岡) → 南洋(なんよう・華岡/奥おく、医者) 3 2 4 9
 準平(じゅんぺい・多田) → 菊屏(きくへい・多田ただ、儒者) K 1 6 2 4
 淳平(じゅんぺい・安木田) → 頼方(よりかた・安木田やすきだ/安田、和漢学/歌) P 4 7 7 7
 純平(じゅんぺい・長沢) → 粹庵(すいあん・長沢ながさわ、藩儒) 2 3 0 0
 純平(じゅんぺい・豊田) → 潔常(きよつね・豊田とよた、国学者) U 1 6 8 8
 順兵衛(じゅんべえ・堀田) → 光長(みつなが・堀田ほった、藩士/和算家) E 4 1 1 8
 純遍(じゅんべん;字) → 日視(にっし;法諱・深広院、日蓮僧) D 3 3 9 2
- L2186 **春浦**(しゅんぼ;道号・宗熙そうき;法諱、俗姓:赤松) 1409-9688 播州赤松の臨濟僧;建仁寺の乾心門、のち大徳寺の養叟宗頤門;法嗣、1461大徳寺40世;応仁乱後焼失した伽藍の復興に尽力、山内に松源院開創/1490後土御門天皇より禅師号を受、「春浦和尚法語」「春浦和尚金口説」「竜菊剣」「人天眼目抄」著、[春浦宗熙の号] 巢庵/正統大宗禅師
- L2187 **春圃**(初世しゅんぼ・北尾/喜多尾きたお、号;松隠、医者北尾春竹男)?-1779 美濃大垣の医者;父門、大垣藩主お抱え医;歴代春圃を称す、「提耳談」(1807刊)、なお春圃著の「察病精義論」「上池釣魚」「精気神論」「当壮菴家訣」などは何代目著か不明
- K2144 **春甫**(しゅんぼ・村松むらまつ、名;熙) 1772-185887 信州長沼の俳人;戸谷猿左門/のち一茶門、江戸で茶道・礼法修得;牧野大和守清斎門、画;狩野了承門/一茶像を描く、1810「葦艸」編、[春甫(;)号)の字/別号]字;処信、別号;葦庵さんあん/胡庵/鷗巢/葦能屋/漱左
- 駿甫(しゅんぼ・高橋/近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7
 春甫(しゅんぼ;字) → 日賢(にちけん;法諱・寂静院、日蓮僧) B 3 3 5 6
 春浦(しゅんぼ・山口) → 起業(おきのり・山口やまぐち、国学/神職) C 1 4 9 4
 春圃(しゅんぼ・橋村) → 正克(まさかつ・橋村/度会、神職/歌/書) C 4 0 1 2
 俊甫(しゅんぼ;道号・光勝) → 周南(しゅうなん;道号・円旦;法諱、臨濟僧) Y 2 1 1 5
 俊甫(しゅんぼ・大場) → 南湖(なんこ・大場おおば、藩士/暦算) I 3 2 9 2
 俊輔(しゅんぼ・久藤) → 俊輔(としすけ・久藤くどう、歌人) V 3 1 0 1
- K2145 **潤甫**(じゅんぼ;道号・周玉しゅうぎよく;法諱、若狭守護武田元信男) 1504-4946 臨濟僧;京の南禅寺住、在中中滝門;法嗣、1532若狭小浜の栖雲寺住持/1543京の建仁寺282世、歌人/狂歌作者:三条西実隆邸の歌会に参加;実隆より詠歌大概の講義を受、「玉吟抄(堀川院百首題狂歌合)」(三条西公条との両吟)、「潤甫玉禅師語録」著、[潤甫周玉の号] 三臣/玉長老
- 純甫(じゅんぼ・岩瀬) → 尚庵(しょうあん・岩瀬いわせ、藩士/儒者) F 2 2 0 0
 純甫(じゅんぼ・武藤) → 豊洲(ほうしゅう・武藤むとう、医者) B 3 9 5 0
 純甫(じゅんぼ・池松) → 重威(しげたけ・池松いけまつ、医者/歌人) N 2 1 3 2
 潤甫(じゅんぼ・吉松) → 文山(ぶんざん・吉松よしまつ、藩儒) F 3 8 4 1
 潤甫(じゅんぼ・山科) → 宗安(そうあん・山科やましの、侍医/墨竹) 2 5 4 6
 順甫(じゅんぼ・片山) → 鳳翽(ほうへん・片山かたやま、藩儒者) C 3 9 5 0
 順輔(じゅんぼ・渡辺) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4
 淳甫(じゅんぼ・田辺) → 整斎(せいさい・田辺/上毛野、藩儒/記録) B 2 4 5 2
 淳甫(じゅんぼ・姫井) → 栗谷(りっこく・姫井ひめい/成田、藩儒) B 4 9 8 0
 準甫(じゅんぼ/のりすけ?・平野) → 貞則(定則さだのり・平野ひらの、藩士) J 2 0 2 9
- K2146 **春峯**(しゅんぼう・下村しもむら、春坡男)?-? 母;政子(まさ)、俳人、春花の弟
- L2188 **春方**(春芳しゅんぼう・横山よこやま、与助男) 1654-173380 大和宇陀郡沢村の農業、和算家、1686領主大和松山藩主織田長頼の計吏として出仕/1695藩主の丹波柏原藩移封に随従、

1696地方副役/1702独礼席就任/封内格村の豊凶10年の調査から収穫の定免法を立案、
1719致仕;沢村に帰郷し子弟教育、1705「算法大全」著、
[春方(;名)の通称/法号]通称;半太夫/半弥/半助、法号;緑誉了元信士

L2189 **俊鳳**(しゅんぼう;字・妙瑞みょうずい;法諱、村上武朋男)1714-8774 丹波保津郷土の家/京の浄土僧、
1724京の知恵光院元実門/出家/常楽寺景空・禅林寺演定門、西山派祥光寺の住職、
1736長崎に遊学;音首座に学ぶ、歌;1773澄月六十賀に参加;詠歌、1753「西方径路」著、
1784「西山復古篇」、「安心辨惑」、「願行具足義」、「閑言語」、「蔡華隨筆」外著多数、
没後「俊鳳和尚行業事實」(;門弟宝幢ら編)
[俊鳳(;字)の号] 翻空ほんくう/蔡華道人

Z2187 **春芳**(しゅんぼう・牧野まきの、)1800-188182 上野勢多郡西大室の曹洞宗湯清寺住職、和学者

L2190 **春峰**(しゅんぼう・吉村よむら、喜平男)1836-8146 母;佐知、土佐長岡郡十市村の庄屋;1859家督嗣、
国学:鹿持雅澄の学統に属す/歌人、1866十市村里長/のち長浜村里長に転ず、
維新後は高知県庁に出仕、1864「土佐国石上神社考」67「土佐国大港考証」68「松山開城記」、
「御花押記」著、歌集「鼎足ていそく集」共編/序(春峰・坂本春樹・堀内清孝の3人の歌集)、
「土佐国群書類従」編纂、
[春峰(;号)の名/通称]幼名;篤太郎/名;春峰はるみね、通称;嘉之助

舜方(しゅんぼう・佐竹) → 宗三(そうさん・佐竹、武家故実/弓術家) H 2 5 4 3

俊峯(しゅんぼう・松平) → 定綱(さだつな・松平、藩主/儒/詩文) F 2 0 3 4

俊豊(しゅんぼう・紀) → 俊豊(としとよ・紀、廷臣/歌人) N 3 1 0 7

俊包(しゅんぼう・北小路) → 俊包(としかね・北小路きたのこうじ、廷臣/日記) M 3 1 2 9

春芳(しゅんぼう・平野) → 広臣(ひろおみ・平野ひらの、医者/国学) I 3 7 3 3

春抱(しゅんぼう・下津) → 寿泉(じゅせん・下津しもつ、医者) Y 2 1 9 8

春峰(しゅんぼう・堀) → 春峰(春峯はるみね・堀ほり、藩士/歌人) K 3 6 7 8

春峰(しゅんぼう・飯淵) → 櫟堂(れきどう・飯淵いひぶち、藩士/詩人) 5 1 8 2

峻峰(しゅんぼう・山野) → 峻峯斎(しゅんぼうさい、山野やまの、絵師) K 2 1 4 7

春房(しゅんぼう・高屋) → 春房(はるふさ・高屋たかや、狂歌) I 3 6 9 2

春房(しゅんぼう・小林) → 春房(はるふさ・小林こばやし、鉦山吏/歌人) K 3 6 1 8

惟影、字;子清、通称;謙次、号;翠庵/翠屋/克堂/詠史先生

春望(しゅんぼう・羽栗) → 春望(はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学) K 3 6 5 7

春傍(しゅんぼう・林/名城) → 世功(せいこう・林りん、琉球政治家/詩人) H 2 4 0 6

俊房(しゅんぼう・源/藤原) → 俊房(としふさ・源/藤原、左大臣/詩歌) 3 1 4 9

淳房(しゅんぼう・万里小路) → 淳房(あつふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/記録) 1 0 8 1

順房(しゅんぼう・よりふさ?・深江) → 簡斎(かんさい・深江ふかえ、儒者) H 1 5 6 0

K2148 **春芳院**(しゅんぼういん、藤大納言局、冷泉[下冷泉]持為[1401-54]女)?-1507 室町期歌人、歌会催、
足利義政家女房、義政家歌会参加、御伽草子「乳母の草紙めものとうし」作?(松原一義説)

K2147 **峻峯斎**(しゅんぼうさい、山野やまの、名;守嗣もつぐ/通称;啓次)1784-185269 安藝広島藩の絵師:
狩野探信斎門、1842「巖島図会」画

K2149 **春卜**(しゅんぼく・大岡おおおか/本姓;藤原・狩野、名;愛董)1680-176384 大阪の講釈師;太平記読、
絵師;狩野派を修得;特定の師はなし、1735法眼、1739嵯峨大覚寺寛深法親王の抱絵師、
晩年神護寺障壁画制作、歌・音律・舞曲・香道・茶道に通ず、1720「画本手鑑」35「似錦集」編、
1737「絵本福寿草」40「画巧潜覧」44「詠物史画」画、46「明朝紫硯」51「画史会要」編、
1753「丹青錦囊」「卜翁新画」/65「匱画便覧」画、「詠画史志」「画道実録」「名花十二種」外面多、
養嗣子;大岡春川(旧姓有元)、養子如清は狩野如川の養嗣子、
[春卜(;号)の字/通称/別号]字;子旭、通称;半七、別号;雀叱/一翁/朴翁/雪静斎

春木堂(しゅんぼくどう) → 紫溟(しめい・相木あいき、藩士/儒・詩人) V 2 1 8 2

俊満(しゅんまん・窪くぼ/尚左堂、絵師) → 紫蘆(しらぶ・南陀伽、絵師/狂歌/戯作) 2 2 1 5

春満(しゅんまん・荷田) → 春満(あづままる・荷田かだ/羽倉、国学) 1 0 1 8

春満(しゅんまん・川島) → 春満(はるみつ・川島かわしま、商家/国学) J 3 6 9 9

春満(しゅんまん・平林) → 春満(はるまる・平林ひらばやし、商家/国学) K 3 6 7 2

春妙(しゅんみょう・橋口) → 春妙(はるとえ・橋口吉左衛門、藩士) K 3 6 6 0

俊民(しゅんみん・森田) → 義章(よしあき・森田もりた、医者) B 4 7 9 6
 俊民(しゅんみん・藤原) → 俊民(としたみ・藤原ふじわら、歌人) T 3 1 2 5
 俊民(しゅんみん・田中) → 俊民(としたみ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 2
 舜民(しゅんみん・柚木) → 太輔(たいゆう・柚木ゆのき、医者) L 2 6 1 1
 舜民(しゅんみん・山下) → 直温(なおほる・山下、藩士/儒) C 3 2 1 5
 舜民(しゅんみん・大森) → 快庵(かいあん・大森おおもり、儒者/詩人) H 1 5 1 2
 舜民(しゅんみん・松平) → 頼胤(よりたね・松平まつだいら、藩主/幕政) P 4 7 2 4
 舜民(しゅんみん・新宮) → 凉民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) J 4 9 5 1
 舜民(しゅんみん・伊藤) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9
 春民(しゅんみん・高安) → 蘆屋(ろおく・高安/高、商家/儒・書家) 5 2 4 8
 春民(しゅんみん・鹿之木) → 春民(はるとみ・鹿之木かのこぎ、医者/神職) J 3 6 8 9
 春眠(しゅんみん・速水) → 春曉斎(2世しゅんぎょうさい・速水、絵師) M 2 1 7 4

K2150 順民(しゅんみん・黒田くろだ/初姓;増田、名;永昌) 1777-1825 49 母方の祖父黒田宗信の養嗣子、
 大阪の生/道学・仏教学を修学/大阪で易卜家;相法を能くす、「金命伝」1816「方則指要」著、
 [順民(;字)の通称]彦兵衛

醇民(じゅんみん・村井) → 見樸(見朴けんぼく・村井、藩士/医者) E 1 8 4 1
 淳民(じゅんみん・近藤) → 蘆陰(ろいん・近藤こんどう/藤、幕臣/漢学) 5 2 1 6
 春夢庵(しゅんむあん;号) → 無著(むぢやく;法諱、真宗本願寺派僧) 4 2 6 4
 春夢庵主人(しゅんむあんしゅじん) → 豊嶼(ほうしよ・片山かたやま、藩儒/詩人) B 3 9 6 7
 春夢居士(しゅんむこじ・青山) → 延光(のぶみつ・青山、儒者) D 3 5 4 9
 俊名(しゅんめい・北小路) → 俊名(としな・北小路きたのこうじ/大江、廷臣) N 3 1 0 9
 浚明(しゅんめい・山岡) → 浚明(まつあけ・山岡、幕臣/国学者) J 4 0 6 6
 浚明(しゅんめい・不破) → 浚明(ふかあきら・不破ふわ、藩士/儒者) H 3 8 5 1
 浚明(しゅんめい・山崎) → 北華(ほつか・山崎/平、医/俳人/戯作) E 3 9 4 8
 俊明(しゅんめい・源) → 俊明(としあき/としあきら・源、廷臣/歌人) 3 1 4 4
 俊明(しゅんめい・勸修寺/坊城) → 俊明(としあきら・坊城ほうじょう/藤原、廷臣) L 3 1 9 7
 俊明(しゅんめい/としあき・小谷/久野) → 鳳湫(ほうしゅう・久野/;藤原/藤、儒者) B 3 9 3 8
 俊明(しゅんめい・富処/志倉) → 西馬(さいば・富処ふどころ/志倉、俳人) B 2 0 0 5
 春明(しゅんめい、俳人) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商家/国学) 3 6 2 9
 春明(しゅんめい・生川) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9
 順明(しゅんめい・橘) → 壽庵(じゅあん・橘たちばな、儒者/詩人) W 2 1 4 9
 春茗庵(しゅんめいあん、春茗園) → 黙平(もくへい・前田/小西、俳人) B 4 4 0 9
 春面(しゅんめん・江森) → 月居(げつきよ・江森、桂川) 1 8 0 7
 春門(しゅんもん・村田/一柳) → 春門(はるかど・村田、国学/歌) 3 6 3 1
 春門(しゅんもん・三村) → 春門(はるかど・三村、名主/画/狂歌) G 3 6 2 0
 純門(じゅんもん・多羅尾) → 純門(ひろかど・多羅尾たらお、代官/国学) K 3 7 0 8
 春野(しゅんや・中村) → 春野(はるの・中村なかむら、藩士/国/史学) G 3 6 6 7
 春野(しゅんや・村田) → 春野(はるの・村田むらた、国学者) G 3 6 6 8
 春野(しゅんや・大久保) → 春野(はるの・大久保おおくぼ、勤王/陸軍) J 3 6 8 4

K2153 順也(しゅんや;号・内田うちだ、通称;平吉) ?-1713 京の貞門俳人;梅盛門、1656梅盛「口真似草」入、
 1658季吟と両吟百韻(:64「誹諧両吟集」上巻入)、68順也に改号/延宝1673-81頃活発に活動、
 1676西鶴「古今誹諧師手鑑」/80自悦「洛陽集」/85風瀑「一楼賦」入、88「五節句」著、
 1688木辻の里に隠棲;91誹諧京羽二重には[誹諧隠者]とある、
 [七夕の宿を見て来ん風幟](一楼賦)

春昶(しゅんやく→はるとき・佐野/松岡) → 御調(みつき・松岡/佐野、神職/国学) D 4 1 2 7
 春野亭(しゅんやてい) → 斑象(2世はんぞう/はんしょう、俳人) I 3 6 3 3
 春夜楼(初世しゅんやろう) → 几董(きとう・高井、俳人) 1 6 2 3
 春夜楼(二世しゅんやろう) → 紫暁(しぎょう・宮、俳人) B 2 1 6 3
 春夜楼(三世しゅんやろう) → 呂蛤(ろこう・西村、俳人) B 5 2 4 6

K2154 春瑜(しゅんゆ;法名) ? - ? 伊勢神宮神官、

応永33(1426)「古事記上巻」伊勢本系統道果本系の道祥本を写す(；春瑜本/御巫本)

舜愈(しゅんゆ・山田) → 復軒(ふっけん・山田やまだ、藩士/儒者) D 3 8 3 2

- K2152 純瑜(じゅんゆ；法諱・朝純ちようじゅん；字、通称；鏡算) 1521-8262 磐城馬目郷の真言僧；薬王寺宥慧門；出家、根来山の快伝門；慈猛流を受、高野山で三宝流を修学、醍醐寺の源雅門、磐城薬王寺8世；法兄宥堅の跡継嗣、1580堅僧正、白水の遍照光院に退隠/吉祥院に没、1570「理趣経直談鈔」74「松橋純瑜集」77「印訣鈔」、「大疏草子抄」「釈論草子鈔」外著多数
- L2191 淳祐(しゅんゆう；法諱、俗姓；源or菅原、源みなもと激or菅原淳茂男) 890-95364 平安中期真言僧；観賢門、東大寺で具足戒を受/925般若寺観賢より伝法灌頂を受、石山寺普賢院に隠退；著作に専念、「石山字輪観集」編/「石山七集」「金剛七集」「胎蔵界七集」「石山集記」「悉曇集記」「同加文」、「石山内供口伝」「大日経指記」「本命星供法」「略道場観集」「心念誦次第」外著多数、[淳祐(；法諱)の通称]石山内供/普賢院内供
- L2192 舜宥(しゅんゆう；法諱) ? - ? 1592存 武蔵川越の喜多院中院の天台学僧、1582「三観義案立十行出仮」、「被接義要文別接通実海案立之外也」著
- L2193 舜雄(しゅんゆう；法諱) 1514 - ? 1593存 天台学僧；常陸行方光照寺及び下野長沼宗光寺住、「六即義元品能治案粒集」「草木成仏」著
- L2194 舜雄(しゅんゆう；法諱、後の法諱；賀順、俗姓；伊藤)?-1701 美濃岐阜の天台僧、北嶺已満行者大先達、1660比叡山北谷正教院5世/74無量院に住、82近江葛川明王院目代、のち和泉海岸寺に転住、1668「北嶺廻峯次第正教房流手文」著
- K2155 春友(しゅんゆう・為永ためなが、小高/鈴木、北野操六[翠樹園好友]3男) 1826-9873 武蔵川越の名主の家、1837江戸の商家に奉公、人情本作者；初世春水門、師没後帰郷/比企郡松山の小高家の養子、のち鴻巣の鈴木家の旅館業を継嗣；廃業/維新後郵便局長・町助役；致仕、俳人；橘田春湖門、笠島庵春友の俳号、1840「春色鶯日記」1-3編著、43「みよしの柳樽」著、師「美芳野物語」補校、[為永春友(；号)の通称/別号]通称；垣三郎/治平、別号；笑訓亭/笑島庵春友
- 舜融(しゅんゆう；法諱) → 懶禪(らんぜん；道号・舜融、曹洞宗僧) C 4 8 8 5
- 俊雄(しゅんゆう) → 俊雄(しゅんおう、真言僧) Z 2 1 4 4
- 俊右(しゅんゆう・冷泉) → 為純(ためずみ・冷泉、歌人) 2 6 6 2
- 俊祐(しゅんゆう/としすけ・曾我そが) → 塘里(とうり・曾我、俳人) I 3 1 1 2
- 俊祐(しゅんゆう・山田) → 指月(しげつ・山田やまだ、藩士/文筆家) R 2 1 4 6
- 春友(しゅんゆう・河本) → 春友(はるとも・河本かわもと、国学者) K 3 6 0 2
- 春雄(しゅんゆう；字) → 澄栄(ちようえい；法諱、真言僧) H 2 8 3 5
- 春雄(しゅんゆう・隈川) → 春雄(はるお・隈川くまかわ/山口、歌人) K 3 6 0 1
- 春雄(しゅんゆう・唐木) → 春雄(はるお・唐木からき、商家/国学/歌) J 3 6 9 7
- 淳祐(じゅんゆう) → 淳祐(しゅんゆう；法諱、真言僧) L 2 1 9 1
- 純友(じゅんゆう・藤原) → 純友(すみとも・藤原ふじら、武将/反乱) 2 3 0 2
- 順祐(じゅんゆう・谷川) → 竜山(りゅうざん・谷川たにがわ、医者/易占) E 4 9 2 0
- 春融舎(しゅんゆうしゃ) → 紀重(のりしげ・春日かすが、神職/国学者) H 3 5 9 1
- 春融舎(しゅんゆうしゃ) → 易重(やすしげ・春日、紀重男/神職/国学) F 4 5 7 6
- 春友亭(しゅんゆうてい) → 梅秀(ばいしゅう・春友亭/田中、狂歌) B 3 6 4 8
- 春雄房(しゅんゆうぼう) → 鳳原(ほうげん・杉本、俳人) F 3 9 0 9
- K2156 俊誉(しゅんよ；法諱、三条公俊男or叡山俊乗男?)?-1301 俊乗男なら名は俊寛、鎌期真言僧/歌人、醍醐寺無量寿院の僧/1265少僧都・法印、権大僧都、歌；続門葉集・藤葉集入集、勅撰5首；新後撰(658)玉葉(1856)続千載(1011/1867/1899)、[あたら夜のなごりしれとや梅の花かたぶく月になほ匂ふらむ](玉葉；雑1856)、[もらさじとわきて忍ぶの衣手にいかがはすべき露のみだれを](藤葉；恋393)、[俊誉(；法諱)の通称] 竹内法印
- 淳誉(じゅんよ；字) → 日堯(にちぎょう；法諱・玄孝院、日蓮僧) B 3 3 3 4
- 順誉(じゅんよ・瑞蓮社；法名) → 徹定(てつじょう；法諱、浄土僧) C 3 0 4 4
- 順誉(じゅんよ・円蓮社) → 祐水(ゆうすい；法諱、浄土僧) C 4 6 8 0
- L2195 春庸(しゅんよう；道号・宗恕そうじよ；法諱)?-1540 臨濟僧；春夫宗宿門/法嗣、南禅寺265世、「春庸和尚語録」著

- 春洋(しゅんよう・井上) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
 春陽(しゅんよう) → 北敬(ほくけい・春陽齋、絵師) D 3 9 0 2
 春陽(しゅんよう;字) → 日生(にっしょう;法諱・教蔵院、日蓮僧) E 3 3 1 8
 春養(しゅんよう・若園) → 重興(しげおき・若園だわかぞの、国学者) a 2 1 1 1
 春雍(しゅんよう・松本) → 魯堂(ろどう・松本まつもと/源、藩儒/城代) C 5 2 2 7
 春鷹(しゅんよう・梅田) → 春鷹(はるたか・梅田うめだ、神職/歌人) J 3 6 7 9
 俊庸(しゅんよう・飛鳥井/紀) → 三冬(みふゆ・紀き、国学者/神職) F 4 1 7 7
 L2196 順耀(しゅんよう;法諱) ? - ? 平安後期近江天台園城寺学僧;忠尋[1065-1138]門、
 法義論説に秀で叡山衆徒より義虎と称される、「法命集」「玄義抄」「常伝抄」「大論義鈔」著
 a2124 淳庸(しゅんよう・あつね?・小倉おぐら、)?-? 江前期;京の歌人/廷臣?、
 1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、
 [世の業をわが身の外になしはててひとり目かれぬ花の下庵](麓の塵;春75)
 L2197 純陽(しゅんよう・前田まえだ/本姓;菅原/修姓;菅、前田良伯男) 1713-59 47 代々肥後宇土藩医の家、
 家職(藩医)を継嗣、詩人:秋山玉山・服部南郭門、「医談」/1748「対麗筆語」著、「純陽遺稿」、
 [純陽(;号)の幼名/名/字]幼名;銅丸、名;道伯、字;夷長
 純庸(しゅんよう→すみつね・大村)→ 蘭台(らんだい・大村おおむら、藩主/俳人) C 4 8 9 0
 純庸(しゅんよう・松崎) → 商山(しょうざん・松崎まつさき、幕府儒官) J 2 2 2 9
 春陽軒(しゅんようけん) → 加友(かゆう、僧/俳人) D 1 5 2 9
 春陽軒(しゅんようけん) → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4
 春要齋(しゅんようさい) → 五始(ごし・中島なかじま、俳人) C 1 9 7 5
 春陽齋(しゅんようさい) → 北敬(ほくけい・春陽齋、絵師) D 3 9 0 2
 潤葉井(しゅんようせい) → 酔車(すいしゃ・鳥海とりうみ、里正/郷土史家) E 2 3 6 2
 潤葉井(しゅんようせい2世) → 由儀(ゆうぎ・鈴木すずき、俳人) B 4 6 1 2
 春鷹亭(しゅんようてい) → 美春(よしはる・前原/横瀬/小野、神職) G 4 7 1 3
 春楊坊(しゅんようぼう) → 専順(せんじゅん・柳本坊、僧/華道/連歌) 2 4 3 3
 P2123 春来(しゅんらい・2世?) ? - ? 江中期江戸の俳人;其角座点者、
 1754竹翁「誹諧童の的」点句入
 春来(しゅんらい) → 青峨(2世せいが・前田、俳人) 2 4 8 3
 俊頼(しゅんらい・源) → 俊頼(としより・源、廷臣/歌学/筆策) 3 1 5 2
 春来軒(しゅんらいけん) → 青峨(初世せいが・鶴田、俳人) 2 4 8 2
 春来軒(しゅんらいけん) → 再賀(さいが・守、俳人) 2 0 6 7
 春来軒(しゅんらいけん) → 再賀(2世さいが・芝/小倉、俳人) G 2 0 5 7
 P2144 春楽(しゅんらく) ? - ? 京の俳人、淡々門、1728柳岡「万国燕」30句入、
 [樹きも雲を脱ぐや六田むつだの初袷はつあはせ](万国燕;4/更衣/六田は吉野川の吉野の渡し)
 Z2192 春蘭(しゅんらん・矢西やし、) ? - 1893 京の島原の妓女、歌人、近江大津住、
 歌;[鴉のうみ]入
 K2158 春鯉(しゅんり) ? - ? 雑俳、1782撰集「種ふくべ」編
 春里(しゅんり・禅定院) → 春里(はるさと・禅定院、童/歌人) L 3 6 1 0
 春里(しゅんり・平田) → 宗愷(そうがい・平田、儒者) G 2 5 5 0
 春里(しゅんり・山蔭) → 春里(はるさと・山蔭やまかげ、国学者) J 3 6 3 2
 春里(しゅんり・平田) → 宗愷(そうがい・平田ひらた、儒者/教育) G 2 5 5 0
 春里(しゅんり・掛川) → 春里(はるさと・掛川かけがわ、商家/国学) J 3 6 9 1
 春利(しゅんり・白禱山) → 春利(はるとし・白禱山かしやま、国学者) G 3 6 5 9
 俊利(しゅんり・植村) → 蘆洲(ろしゅう・植村うえむら、幕臣/詩人) B 5 2 7 4
 順利(しゅんり/よりとし?・久米) → 訂斎(ていさい・久米、儒者) 3 0 8 3
 春里庵(しゅんりあん) → 柳坡(りゅうは・堀木ほりき、俳人) F 4 9 3 9
 春里館(しゅんりかん) → 晋和(しんわ・赤木、染織上絵業/俳人) Q 2 2 2 5
 春理齋(しゅんりさい) → 才麿(さいまろ・椎本/谷、旧徳、俳人) 2 0 0 6
 L2198 春律(しゅんりつ・石田いしだ) ? - ? 江後期石見那賀郡太田沼西沼の郷土史家、
 1816「石見八重葎」/19「百姓稼穡元」、「金谷子縁起抄」「客来袖草紙」著

- K2160 **春竜**(しゅんりゅう・勝川かつかわ)?- ? 江後期絵師;初世勝川春章門?、寛政後期文化前期1790-18010頃活動;洒落本の挿画制作、1807三馬「船頭部屋」挿画
- K2161 **春流**(しゅんりゅう・清水しみず;名;仁)1626-9469 尾張名古屋の儒者;15歳頃より修学、俳人;貞徳門、令徳門?、20代半ば上京/易学;山中倡庵・清水寺の宗親門、出家/禅理;加藤盤斎門、詩作、黄檗;万福寺木庵門、歌;下河辺長流門、各地を遍歴;三教一致思想の儒学・古典を講釈、尾陽三哲の1、晩年桑名に隠棲、1652「尾陽発句帳」67「徒然草新註」69「儒道法語」著、1671「釣虚詩集」「睡余操筆」/1673「儒家十馬図」1683「一韻三字百詠詩草」著、1690「桑名百詠詩草」95「釣虚弄筆」著、「釣虚偶筆」「釣虚文草」外著多数、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」/82風黒「高名集」入、[灌仏は衆生を救ふ杓子やくし哉](難波色紙;95/四月八日灌仏会;小柄杓で甘茶を灌ぐ、杓子に釈氏を掛る)、[春流(;剃髮号)の通称/号]通称;孫三郎、号;不存ふそん/釣虚ちようこ/釣虚子/釣虚散人/吸月堂/吸月居士/壳文翁
- L2199 **春竜**(しゅんりゅう・長柄ながら;名;為質)?-? 江後期美濃の医者;京の華岡青洲門、京三条西洞院西に開業/光照院宮の医官、書家/狂歌作者;2世柳条亭満丸社中、「公斯貌律屈病理書」(トイヰ医師コンスブルック著書の翻訳)、[春竜(;通称)の字/号]字;義卿、号;梅歩/菘彦こうげん
春竜(しゅんりゅう・荘/大河内)→恬逸(てんいつ・荘しょう/大河内/藤原、幕臣儒官)D 3 0 1 3
春流(しゅんりゅう・細川) → 長世(ながよ・細川ほそかわ、藩士/歌人) O 3 2 6 5
俊竜(しゅんりゅう;法諱・寂潭)→ 寂潭(じやくたん;道号・俊竜、曹洞僧)W 2 1 0 7
俊隆(しゅんりゅう)すべて → 俊隆(としたか)
- M2100 **準竜**(じゅんりゅう・宮本みやもと)?- ? 江後期常陸茨城郡袴塚村の人;7歳で失明、鍼術/算理に通ず、国学;音韻開合を研究、1808「六声発揮」、「五十音考」著、[準竜(;名)の通称]左一
- M2101 **春柳庵一州**(しゅんりゅうあんいっしゅう)?-? 江後期江戸柳橋の華道家;下町遠州流を修得、1825「插花柳の緑」、「生花正伝記」著、門弟;交柳庵一雄・交葉庵一芦など
舜竜院(しゅんりゅういん) → 日蒼(にっそう、後藤竜斎、日蓮僧/還俗仏教)E 3 3 9 3
- K2162 **春良**(しゅんりょう・濱田はまだ)?- ? 大阪の俳人、1666可玖(吉竹)「遠近をちこち集」入、1669百五十番発句合;右方参加/1673西鶴「生玉万句」第十歳暮脇句入/78西鶴「物種集」入、[興ある雪に一盃の酒](生玉万句;歳暮脇句、発句天野 | 退こんたい: 万叟(事)ばんじは夢今日と暮して明日の春)
- M2109 **俊亮**(しゅんりょう・百々どど/本姓;越智)?-? 江中期京の朝廷御医/法印、油小路出水住、1781「疫論」、「医方広覧」著、[俊亮(;名)の字/号] 字:寅卿いんけい、号;南岳/見寿院、俊道しゅんどう・俊徳しゅんとくの父
春亮(しゅんりょう・今井) → 政明(まさあき・今井いまい/本姓;源、国学)N 4 0 7 8
俊諒(しゅんりょう・万波まんなみ) → 俊諒(としあき・万波まんなみ、藩士/儒者) M 3 1 0 0
俊量(しゅんりょう・綾小路) → 俊量(としかず・綾小路、廷臣/郢曲/歌) M 3 1 1 3
俊了(しゅんりょう) → 慧巖(えいげん;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 7 9
俊良(しゅんりょう・北小路) → 俊良(としよし・北小路きたのこうじ/大江、廷臣/詩)O 3 1 2 0
俊良(しゅんりょう・和田/平部) → 嶠南(きょうなん・平部ひらべ、藩士/儒者)O 1 6 4 0
俊良(しゅんりょう・雨森) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6
俊良(しゅんりょう) → 俊良(としよし、歌人) T 3 1 8 4
鶉了(しゅんりょう) → 秋成(あきなり・上田、医/国学/歌/戯作) 1 0 0 9
順了(しゅんりょう;法諱) → 宝景(ほうけい;法諱、真宗僧) F 3 9 0 2
順良(しゅんりょう;字) → 応其(おうご;法諱・木食、真言僧/連歌) 1 4 0 1
順良(しゅんりょう・平出) → 延基(ながもと・平出ひらで、医者/国学) G 3 2 0 4
順良(しゅんりょう・高島/浅見) → 綱斎(つなさい・浅見、医/儒者) 1 8 0 3
順亮(しゅんりょう・小林) → 玄章(げんしょう;号・小林、藩医/地誌) J 1 8 9 6
淳亮(しゅんりょう;字) → 卓玄(たくげん;法諱・淳亮;字、真言僧) N 2 6 9 5

- 濬良院(しゅんりょういん) → 泰幹(やすもと・加藤かとう、藩主/詩文) D 4 5 2 8
 K2163 順良坊(じゅんりょうぼう) ? - ? 室町期大和奈良の僧/連歌、
 1413(応永20)伝阿著「伝阿暈字百韻」に加点
 順良房(じゅんりょうぼう) → 朝意(ちようい;法諱、木食上人、真言僧) H 2 8 1 7
 M2110 春林(しゅんりん;道号・宗俶(そうしゅく);法諱) 1488-1564⁷⁷ 丹後の臨濟僧:徹岫宗九門/法嗣、
 1544大徳寺98世/但馬の円通寺開山、和泉堺の禅通寺を再興、1553後奈良天皇より禅師号、
 「春林宗俶和尚語録」/「春林宗俶和尚等法語」著、
 [春林宗俶の号] 咄々齋とつとつさい/仏通大心禅師
 M2102 春琳(しゅんりん・伊藤いとう、元固男) 1641-? 肥前長崎の医者;父門、儒;筑後柳川の安東省庵門、
 1654帰郷;医業、1662三河吉田藩主水野忠善の儒臣、致仕し京住/のち若狭小浜藩主儒医、
 「外科療治集」著
 K2165 春倫(しゅんりん) ? - ? 大阪の俳人、1663四吟百韻入(:宗因らと)、
 1666可玖(吉竹)「遠近をちこち集」入
 M2103 春林(しゅんりん・土橋どばし、名;以慶/以計)?-? 大阪の談林俳人:西鶴門、能書家、
 1682「俳諧百人一句難波色紙」編/83西鶴「宗因一周忌追善百韻」参加、
 1691賀子「蓮実」2句入/94瓠界「難波順礼」入、
 [時付ときげや心ひとつを五月河](難波色紙;90/到着時刻指定飛脚/川止が唯一の心配)
 [此ののちは露置き添へん別れ星](蓮実;291/別れ行く牽牛織女は露の涙を流す)、
 [春林(;号)の別号] 大字軒?
 宗静と同一説あり? → 宗静(そうじょう・土橋、1636-98/商家/連歌/俳人) C 2 5 0 9
 P2121 春林(しゅんりん・勝川かつかわ)? - ? 江中後期1781-1800頃江戸の絵師:初世勝川春章門、
 美人画・黄表紙挿画を制作、1783「桜草野辺錦」挿画
 春林(しゅんりん;道号) → 周藤(しゅうとう;法諱・春林、臨濟僧/詩) a 2 1 6 3
 春林(しゅんりん・那波) → 山斎(さんさい・那波なば、医者/儒) M 2 0 2 3
 春林(しゅんりん・南条) → 白亀(はつき・南条なんじょう、俳人) F 3 6 1 2
 春林(しゅんりん・菊池) → 春林(はるしげ・菊池、漢学/国学者) G 3 6 4 0
 春林(しゅんりん・阿保) → 邦彪(くにたけ・阿保あほ/中川、国学/画) D 1 7 9 3
 春林(しゅんりん・山本) → 比呂伎(ひろき・山本やまもと、和漢学/神職) M 3 7 2 4
 春琳(しゅんりん・勝川) → 春扇(しゅんせん・勝川かつかわ、絵師) K 2 1 1 3
 春隣(しゅんりん・野矢) → 春隣(はるちか・野矢のや、歌人) K 3 6 5 6
 春隣(しゅんりん・高野) → 立斎(りつさい・高野たかの、藩士/天文家) B 4 9 8 5
 春林院(しゅんりんいん;法号) → 豊氏(とよじ・有馬ありま、武将/藩主) R 3 1 0 6
 P2122 春嶺(しゅんれい・富田とみた、通称;高井山人)?-1791 信州の医者;須坂藩医、歌人;冷泉家入門、
 国学:荷田春満・賀茂真淵門、県居派楫取魚彦・鶴峯戊申と交流、「一癖集」著
 P2131 春嶺(しゅんれい・葛飾かつしか、別号;東春嶺)?-? 江後期文化1804-18頃の絵師:葛飾北斎門、
 草双紙の挿画;1807「有の儘」08「異本楮生譚」画
 P2147 俊嶺(しゅんれい;法諱、俗姓;中臣なかとみ、立成男) 1810-86⁷⁷ 父:越前丹生郡大樟浦の真宗本願寺派僧、
 父は福正寺住職、1824坂井郡春江の順教寺入;出家/伯父観霊の養子、28高倉学寮で修学;
 高野山など諸宗を遊学;慶恩門、帰郷;順教寺住職/自坊順教寺に私塾[護法学寮]開設、
 ;後進の指導、1862(文久2)司教/維新後;1884勸学、詩/書を嗜む、歌人;佐々木景欽門、
 家集「椎の舎いのや集」/「華嚴経孔目章記」「玄義分聴記」1849「因明三十三過作法筆記」著、
 [俊嶺(;法諱)の通称/号]通称;中臣俊嶺としね、号寒松院/余輝道人、
 春嶺(しゅんれい・小林) → 春嶺(はるみね・小林こばやし、歌人) K 3 6 1 9
 春嶺(しゅんれい・近藤) → 梅外(ばいがい・近藤こんどう、国学/歌人) K 3 6 2 1
 春嶺(しゅんれい・中尾) → 金雄(かなお・中尾なかお/豊島、神職/国学) V 1 5 1 6
 春齡(初世しゅんれい・江馬) → 元澄(げんちよう・江馬えま、医者) B 1 8 6 5
 春齡(2世しゅんれい・江馬) → 蘭斎(らんさい・江馬、元澄養子/医者) C 4 8 1 8
 春齡(3世しゅんれい・江馬) → 松斎(しょうさい・江馬、蘭斎養子/医者) J 2 2 0 3
 春齡(4世しゅんれい・江馬) → 藤渠(とうきよ・江馬、松斎男/医/本草) C 3 1 7 4
 春齡(5世しゅんれい・江馬) → 笋荘(しゅんそう・江馬、藤渠男/医者) L 2 1 3 7

- 春齡(しゅんれい・三宅) → 董庵(とうあん・三宅、医者/詩) 3 1 8 7
 春麗園(しゅんれいえん) → 蝶羅(ちようら・下郷しもさと、醸酒業/俳人) K 2 8 0 7
 春連(しゅんれん・齋藤) → 春連(はるつら・齋藤さいとう、商家/国学/歌) K 3 6 2 3
 順蓮(じゅんれん;法号) → 泰綱(やすつな・宇都宮/藤原、武将/歌) C 4 5 0 8
 P2148 春路(しゅんろ・虚実庵) ? - ? 江中期上州沼田藩士/俳人;江戸在勤中に鳥酔門、
 さらにその師柳居門、利根・沼田俳人の句集撰;1770「はるの遊び」編
 P2149 春路(しゅんろ・千在館) ? - ? 江中期加賀の俳人;1776樗良「誹諧 月の夜」2句入、
 [朝顔のあはれに水を吹きかけむ](月の夜;57/萎みかけ哀れな花に生気を;無駄か)
 K2122 春路(しゅんろ・柳糸園) ? - ? 江後期長門萩の俳人;聴松庵古竹門、
 「今年の千鳥」著
 遵路(じゅんろ・小寺) → 遵路(ゆきみち・小寺こでら、藩士/儒者) F 4 6 6 7
 P2155 春楼(しゅんろう・三宅みやげ、名;正誼、石庵男) 1712-82 大阪の儒者(家学):父門、
 生来虚弱のため父の配慮で薬舗を開;生計/1757中井菴庵しゅうあんより懐徳堂学主を譲れる、
 25年間学主の職にある、能書家、1775「四書国読刪正」著、
 [春楼(;号)の字/通称]字;子和、通称;才治/才治郎/才二郎
 K2167 春楼(しゅんろう・前川まえかわ) ? - ? 江後期伊勢津の俳人、生川春明(なるかわはるあきら1804-90)の師
 春朗(しゅんろう・勝川) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師) 3 9 6 2
 春朗(2世しゅんろう・勝川) → 豊丸(初世とよまる・叢くさむら、絵師) R 3 1 6 1
 春和(しゅんわ・岩井) → 玉洲(ぎよくしゅう・岩井/祝しゆく、商家/儒者) P 1 6 0 6
 俊和((しゅんわ・紀) → 俊和(としかず・紀きの、神道/国学) U 3 1 9 4
 順和(じゅんわ・大石) → 千秋((ちあき・大石おおいし、国学者/歌) B 2 8 0 1
 筍和(じゅんわ・木村) → 正則(まさのり・木村きむら、藩士/歌人) P 4 0 1 8
 春和亭(しゅんわてい) → 宣風(のりかぜ・高井/常盤井、国学/歌) B 3 5 1 1

